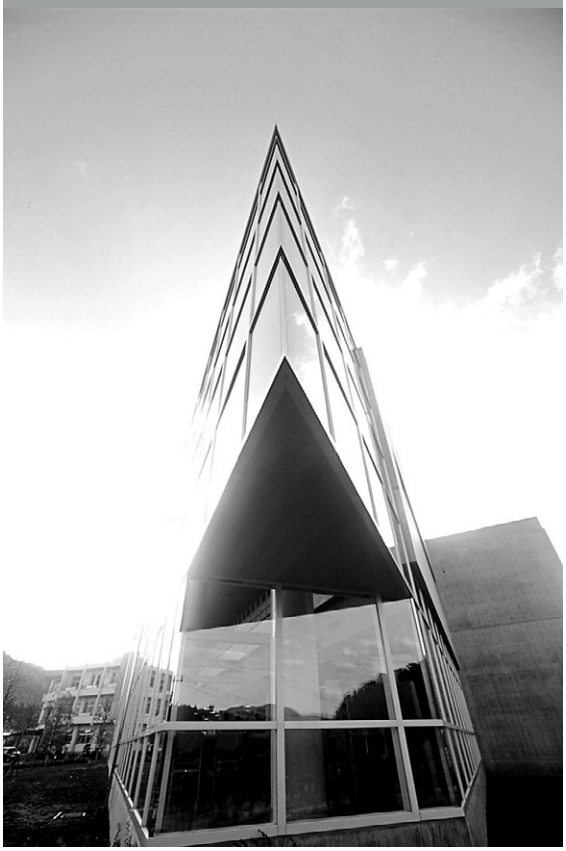
JIN-AI UNIVERSITY
2025 SYLLABUS

令和７年度
人間生活学部
シラバス



仁愛大学
JIN-AI UNIVERSITY

目　　次

Ⅰ．１年生

＜学部共通科目＞

仏教の人間観……田代　俊孝……1
人間と宗教……寺田　憲弘……4
生命の倫理……橋本　武志……6
日本国憲法……根田　恵多……9
生活と環境Ａ……南保　　勝……11
スポーツと健康……出村　友寛……14
スポーツA(健康栄養学科)……乾　　典子……16
スポーツA(子ども教育学科)……野田　政弘……19
英語Ⅰａ……加藤優子・矢橋知枝・Mクズィフ・野本尚美……21
英語Ⅰｂ……矢橋知枝・Mハウカ・Mクズィフ……24
フランス語ａ……大竹口麻里……27
フランス語ｂ……大竹口麻里……29
ドイツ語ａ……橋本　武志……31
ドイツ語ｂ……橋本　武志……34
中国語ａ……ショウ　ロ……36
中国語ｂ……ショウ　ロ……38
ポルトガル語ａ……坂東　照啓……40
ポルトガル語ｂ……坂東　照啓……42
情報基礎……篭谷　隆弘・佐藤　宏隆……44
データサイエンス基礎……篭谷　隆弘・佐藤　宏隆……47
基礎演習（健康栄養学科）……尼子・野村・髙木・長岡・新井田・森……50
基礎演習（子ども教育学科）……中野　研也・高野　秀晴……52

＜健康栄養学科教職科目＞

基礎化学……尼子　克己……54
基礎生物学……西出　和彦……57
分析化学……尼子　克己……60
生命科学……髙木　康之……63
解剖生理学……齋藤　正一……65
解剖生理学実験……鳴瀬　　碧……68
病理学……齋藤　正一……70
微生物学……野村　卓正……73
微生物学実験……野村　卓正……78

食品学総論……浦本　裕美……81
食品学各論……浦本　裕美……84
食品分析実験……浦本　裕美……87
調理学……佐藤　真実……89
調理学実習……佐藤　真実……92
応用調理学実習……佐藤　真実・森　恵見……94
基礎栄養学……池田　涼子……96
応用栄養学Ⅰ（成長･発達･加齢､食事摂取基準）……新井田裕樹……99
給食経営管理論Ⅰ（給食計画）……長岡　純子……102
フィールドワーク演習……佐藤・池田・山本・新井田裕樹……105

＜健康栄養学科教職科目＞

教育原理……高野　秀晴……107

＜子ども教育学科専門科目＞

教職論……鈴木　智子・草桶　勇人……110
教育原理……高野　秀晴……113
保育・教育課程論……鈴木　智子……116
子ども家庭福祉……青井　夕貴……119
保育者論……渡辺　直人……122
保育原理Ⅰ……渡辺　直人……125
発達心理学Ⅰ……乙部　貴幸……128
保育基礎演習……伊東　知之・辻　由記子・森尾　恵里……130
国語……平岡　正実……133
子どもと健康……出村　友寛……136
子どもと音楽表現……中野　研也……138
子どもと造形表現……伊東　知之……140
基礎ピアノⅠ……中野・飯田・太田・野村・岡……142
基礎ピアノⅡ……中野・飯田・太田・野村・岡……145
保育内容指導法（健康）……出村　友寛……148
保育内容指導法（表現Ａ）……坂本　流美……150
保育内容指導法（表現Ｂ）……伊東　知之……152
保育内容指導法（表現Ｃ）……乾　典子……154
保育内容指導法（子どもの文化）……髙原　佳江……157
事前・事後指導（幼稚園）……伊東　知之・中野　研也……159
教育実習Ⅰ（幼稚園）……伊東　知之・中野　研也……161
学校体験活動……草桶　勇人・篭谷　隆弘……163

Ⅱ．２年生

＜学部共通科目＞

仏教の思想……市野　智行……165
哲学の世界観……橋本　武志……167
文学の世界……平岡　正実……170
美術の世界……伊東　知之……173
生活と環境Ｂ……髙木　康之……175
生活と環境Ｄ……藤原　英一……177
ふくい総合学……杉島一郎・禿寿・尼子克己・西出和彦……180
英語Ⅱａ……加藤　優子・Mクズィフ・野本　尚美……182
英語Ⅱｂ……加藤　優子・Mクズィフ・野本　尚美……185
キャリア・デザインⅡ……升田　法継……188

＜健康栄養学科専門科目＞

有機化学……髙木　康之……191
公衆衛生学……鳴瀬　　碧……193
健康管理概論……鳴瀬　　碧……196
基礎生化学……尼子　克己……199
栄養生化学……池田　涼子……202
基礎生化学実験……尼子　克己……205
臨床医学概論……齋藤　正一……207
運動生理学……鳴瀬　　碧……210
食品加工学……小林　恭一……213
食品衛生学……野村　卓正……216
食品衛生学実験……野村　卓正……220
基礎栄養学実験……池田　涼子……224
応用栄養学Ⅱ（栄養・体力アセスメント）……新井田裕樹……226
応用栄養学Ⅲ（ライフステージ栄養学）……新井田裕樹……228
応用栄養学実習……三浦　　努……231
栄養教育論Ⅰ（栄養教育論）……牧野みゆき……233
臨床栄養学Ⅰ（栄養療法）……佐藤　裕保……236
臨床栄養学実習Ⅰ（食事療法）……佐藤　裕保……238
公衆栄養学Ⅰ（地域栄養活動）……三浦　　努……240
給食経営管理論Ⅱ（マネジメント）……長岡　純子・森　　恵見……243
給食経営管理論実習……長岡　純子・森　　恵見……246
栄養総合演習Ⅰ……佐藤・山本・長岡・森・三浦……248
栄養総合演習Ⅱ……佐藤・山本・長岡・森・三浦……251

給食運営実習……長岡　純子・森　　恵見……253
フィールドワーク演習……佐藤・池田・山本・新井田……255
分子栄養学……尼子　克己……257
国際食糧・栄養情報論……三浦　　努……261

＜健康栄養学科教職科目＞

教職論……高野　秀晴……263
教育心理学……乙部　貴幸……266
教育課程論……高野　秀晴……269
教育の方法と技術（ICT活用を含む）……篭谷　隆弘……272

＜子ども教育学科専門科目＞

教育心理学……乙部　貴幸……275
教育の方法と技術（ICT活用を含む）……篭谷　隆弘……278
教育課程論Ⅱ……草桶　勇人……281
社会福祉……青井　夕貴……284
社会的養護Ⅰ……橋本　達昌……287
社会……西村美貴穂……290
算数……草桶　勇人……293
理科……西出　和彦……296
生活……小林　悦子……299
音楽Ⅰ……中野　研也……302
図画工作Ⅰ……伊東　知之……305
体育Ⅰ……出村　友寛……307
子どもと人間関係……鈴木　智子……309
子どもと環境……西出　和彦……311
子どもと言葉……平岡　正実……313
算数科教育法……草桶　勇人……315
理科教育法……西出　和彦……318
音楽表現Ⅰ……飯田由美・太田佳代・福田安希子・野村加奈子……321
音楽表現Ⅱ……飯田由美・太田佳代・福田安希子・野村加奈子……324
発達心理学Ⅱ……乙部　貴幸……327
子どもの保健……齋藤　正一……329
子どもの健康と安全……吉田　直子・山根　　恵……332
保育内容指導法（人間関係）……鈴木　智子……335
保育内容指導法（環境）……西出　和彦……337
保育内容指導法（言葉）……平岡　正実……339

乳児保育Ⅰ……森尾　恵里……342
乳児保育Ⅱ……森尾　恵里……345
障がい児保育……馬田　知武……348
保育実習指導Ⅰ……青井　夕貴・渡辺　直人……351
保育実習Ⅰａ……渡辺　直人……354
保育実習Ⅰｂ……青井　夕貴……356
フィールドワーク演習……伊東　知之・中野　研也……358

Ⅲ．３年生

＜学部共通科目＞

音楽の世界……中野　研也……360
生活と環境Ｃ……尼子　克己……363
英語Ⅲａ……Ｍクズィフ……366
英語Ⅲｂ……Ｍクズィフ……369

＜健康栄養学科専門科目＞

公衆衛生学実習……鳴瀬　　碧……372
社会福祉論……坂口　昌宏……374
栄養生化学実験……池田　涼子……376
食品機能学……浦本　裕美……378
食品加工実習……浦本　裕美……381
調理科学実験……佐藤　真実……383
栄養教育論Ⅱ（子ども・高齢期栄養教育論）……牧野みゆき……385
栄養教育論Ⅳ（健康栄養情報処理演習）……牧野みゆき……388
栄養教育論実習……牧野みゆき……390
臨床栄養学Ⅱ（栄養アセスメント）……山本　浩範……392
臨床栄養学Ⅲ（チーム医療）……佐藤　裕保……395
臨床栄養学Ⅳ（臨床栄養管理）……山本　浩範……397
臨床栄養学実習Ⅱ（栄養アセスメント）……山本　浩範……400
臨床栄養学実習Ⅲ（臨床栄養管理）……山本　浩範・新井田裕樹……402
公衆栄養学Ⅱ（栄養疫学）……三浦　　努……404
公衆栄養学実習……三浦　　努……407
給食経営管理論Ⅱ（マネジメント）……長岡　純子……409
給食経営管理論Ⅲ（食料商品学）……長岡　純子……412
栄養総合演習Ⅰ佐藤　裕保・山本　浩範・長岡　純子・森　　恵見・三浦　　努……414
栄養総合演習Ⅱ佐藤　裕保・山本　浩範・長岡　純子・森　　恵見・三浦　　努……417
給食経営管理臨地実習……長岡　純子……419

臨床栄養臨地実習 …… 佐藤　裕保・山本　浩範 …… 421
公衆栄養臨地実習 …… 三浦　　努 …… 423
フィールドワーク演習 …… 佐藤裕保・池田涼子・山本浩範・新井田裕樹 …… 425
健康・栄養特別演習Ⅰ …… 尼子　克己 …… 427
健康・栄養特別演習Ⅰ …… 池田　涼子 …… 429
健康・栄養特別演習Ⅰ …… 浦本　裕美 …… 432
健康・栄養特別演習Ⅰ …… 佐藤　真実 …… 434
健康・栄養特別演習Ⅰ …… 鳴瀬　　碧 …… 436
健康・栄養特別演習Ⅰ …… 野村　卓正 …… 438
健康・栄養特別演習Ⅰ …… 三浦　　努 …… 440
健康・栄養特別演習Ⅰ …… 山本　浩範 …… 442
健康・栄養特別演習Ⅰ …… 髙木　康之 …… 444
健康・栄養特別演習Ⅰ …… 長岡　純子 …… 446
健康・栄養特別演習Ⅰ …… 新井田裕樹 …… 448
健康・栄養特別演習Ⅰ …… 森　　恵見 …… 450
生涯発達心理学 …… 乙部　貴幸 …… 452
学校栄養教育の理論と方法 …… 牧野みゆき・清川ひろみ …… 454
食育指導の理論と方法 …… 牧野みゆき・清川ひろみ …… 457

＜健康栄養学科教職科目＞

教育経営論 …… 小林　利幸 …… 460
特別支援教育論 …… 水田　敏郎 …… 463
道徳教育の理論と方法 …… 高野　秀晴 …… 466

＜子ども教育学科専門科目＞

特別支援教育論 …… 水田　敏郎 …… 469
教育経営論 …… 小林　利幸 …… 472
道徳教育の理論と方法 …… 高野　秀晴 …… 475
生徒・進路指導論 …… 黒田　祐二 …… 478
教育相談 …… 佐々木雅代 …… 481
家庭 …… 横山美弥子 …… 484
英語 …… 紺渡　弘幸・加藤　優子・原口　　治 …… 486
国語科教育法 …… 平岡　正実 …… 489
社会科教育法 …… 西村美貴穂 …… 492
生活科教育法 …… 小林　悦子 …… 495
音楽科教育法 …… 佐々木啓子 …… 498
図画工作科教育法 …… 伊東　知之 …… 501

家庭科教育法……横山美弥子……504
体育科教育法……近藤雄一郎……507
英語科教育法……紺渡　弘幸……509
子ども家庭支援の心理学……青井　夕貴・乙部　貴幸……512
子どもの食と栄養……阿部喜代子……515
精神保健……臼田　成之・小野　　悟……517
保育内容総論……渡辺　直人……520
社会的養護Ⅱ……竹澤　賢樹……523
子育て支援……青井　夕貴……526
保育実践演習……鈴木　智子・渡辺　直人……529
保育実習指導Ⅱ……出村　友寛……532
保育実習Ⅱ……出村　友寛……534
保育実習指導Ⅲ……乙部　貴幸……536
保育実習Ⅲ……乙部　貴幸……538
事前・事後指導（幼稚園）……鈴木　智子・中野　研也……540
教育実習Ⅱ（幼稚園）……鈴木　智子・中野　研也……542
事前・事後指導（小学校）……草桶　勇人・平岡　正実……544
子ども教育特別演習Ⅰ……伊東　知之……546
子ども教育特別演習Ⅰ……鈴木　智子……548
子ども教育特別演習Ⅰ……高野　秀晴……551
子ども教育特別演習Ⅰ……中野　研也……553
子ども教育特別演習Ⅰ……青井　夕貴……555
子ども教育特別演習Ⅰ……乙部　貴幸……558
子ども教育特別演習Ⅰ……草桶　勇人……560
子ども教育特別演習Ⅰ……出村　友寛……563
子ども教育特別演習Ⅰ……渡辺　直人……565
子どもの発達臨床……水田　敏郎……567
子どもと英語教育……野本　尚美……570
絵本・児童文学論……生駒　幸子……573
児童館論……中村かおり……575
児童館活動内容ａ……三浦　啓子……578

Ⅳ．４年生

＜健康栄養学科専門科目＞

応用栄養学Ⅳ（ライフスタイル・スポーツ栄養学）…鳴瀬　　碧・新井田裕樹……581
栄養教育論Ⅲ（行動療法・カウンセリング）……森　　俊之……584
臨床栄養病理学……齋藤　正一……586

栄養総合演習Ⅰ …… 佐藤・山本・長岡・森・三浦 …… 588
臨床栄養臨地実習 …… 佐藤　裕保・山本　浩範 …… 591
健康・栄養特別演習Ⅱ …… 尼子　克己 …… 593
健康・栄養特別演習Ⅱ …… 池田　涼子 …… 595
健康・栄養特別演習Ⅱ …… 浦本　裕美 …… 597
健康・栄養特別演習Ⅱ …… 佐藤　真実 …… 599
健康・栄養特別演習Ⅱ …… 鳴瀬　　碧 …… 601
健康・栄養特別演習Ⅱ …… 野村　卓正 …… 603
健康・栄養特別演習Ⅱ …… 山本　浩範 …… 606
健康・栄養特別演習Ⅱ …… 長岡　純子 …… 608
健康・栄養特別演習Ⅲ …… 佐藤真実 他 …… 610
卒業研究 …… 尼子　克己 …… 613
卒業研究 …… 池田　涼子 …… 615
卒業研究 …… 浦本　裕美 …… 617
卒業研究 …… 佐藤　真実 …… 619
卒業研究 …… 鳴瀬　　碧 …… 621
卒業研究 …… 野村　卓正 …… 623
卒業研究 …… 山本　浩範 …… 625
卒業研究 …… 長岡　純子 …… 627
食品品質評価演習 …… 浦本　裕美・佐藤　真実 …… 629
心と健康 …… 山本　雅代 …… 632

＜健康栄養学科教職科目＞

特別活動及び総合的な学習の時間の指導法 …… 山﨑　智幸 …… 635
教育相談 …… 佐々木雅代 …… 638
事前・事後指導（栄養教諭） …… 清川ひろみ・牧野みゆき …… 641
教育実習（栄養教諭） …… 清川ひろみ・牧野みゆき …… 643
教職実践演習（栄養教諭） …… 牧野みゆき・小林　利幸・清川ひろみ …… 645

＜子ども教育学科専門科目＞

特別活動及び総合的な学習の時間の指導法 …… 山﨑　智幸 …… 648
理科総合 …… 西出　和彦 …… 651
音楽Ⅱ …… 坂本　流美 …… 653
図画工作Ⅱ …… 伊東　知之 …… 656
体育Ⅱ …… 出村　友寛・乾　　典子 …… 659
音楽演習 …… 辻　由記子 …… 661
児童福祉援助技術 …… 天谷　泰公 …… 663

保育原理Ⅱ……渡辺　直人……666
子ども家庭支援論……青井　夕貴……669
教職実践演習（幼・小）……高野　秀晴・草桶　勇人・鈴木　智子……671
保育実習指導Ⅱ……出村　友寛……674
保育実習指導Ⅲ……乙部　貴幸……676
事前・事後指導（小学校）……草桶　勇人・平岡　正実……678
教育実習（小学校）……草桶　勇人・平岡　正実……680
子ども教育特別演習Ⅱ……伊東　知之……682
子ども教育特別演習Ⅱ……篭谷　隆弘……684
子ども教育特別演習Ⅱ……鈴木　智子……686
子ども教育特別演習Ⅱ……高野　秀晴……689
子ども教育特別演習Ⅱ……中野　研也……691
子ども教育特別演習Ⅱ……西出　和彦……693
子ども教育特別演習Ⅱ……青井　夕貴……695
子ども教育特別演習Ⅱ……乙部　貴幸……697
子ども教育特別演習Ⅱ……草桶　勇人……699
子ども教育特別演習Ⅱ……出村　友寛……702
子ども教育特別演習Ⅲ……伊東　知之……704
子ども教育特別演習Ⅲ……篭谷　隆弘……706
子ども教育特別演習Ⅲ……鈴木　智子……708
子ども教育特別演習Ⅲ……高野　秀晴……710
子ども教育特別演習Ⅲ……中野　研也……712
子ども教育特別演習Ⅲ……西出　和彦……714
子ども教育特別演習Ⅲ……青井　夕貴……716
子ども教育特別演習Ⅲ……乙部　貴幸……718
子ども教育特別演習Ⅲ……草桶　勇人……720
子ども教育特別演習Ⅲ……出村　友寛……723
卒業研究……伊東　知之……725
卒業研究……篭谷　隆弘……727
卒業研究……鈴木　智子……729
卒業研究……高野　秀晴……731
卒業研究……中野　研也……733
卒業研究……西出　和彦……735
卒業研究……青井　夕貴……737
卒業研究……乙部　貴幸……739
卒業研究……草桶　勇人……741
卒業研究……出村　友寛……743

保育とソーシャルワーク……青井　夕貴……745
地域福祉学演習……杉本　吉弘……748
子どもと食育……阿部喜代子……750
児童館活動内容ｂ……髙阪　麻子・村田　弘孝……753
児童館実習……乙部　貴幸……756

仏教の人間観 (Views on the Humanity of Buddhism)			担当教員	田代　俊孝
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HL−1110	2単位	1年前期	講義	必修

<科目区分>　人間生活学部学部共通科目　全学共通科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

人生に対する思索を深め、考える能力と豊かな人間性を身に着け、幅広い視野から物事をとらえ、的確な判断を下すことができる力を養います。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□体系的な知識･技能　■論理的思考力と創造力　■人間関係形成･社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
■自己理解･自己管理能力　□諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

保育士資格(必修)

授業の内容

本授業の目的は、建学の精神「仁愛兼済」のこころを育て、自分の人生をいきいきと生きていく力を身に付けることである。そのため、釈尊・親鸞の生涯やその教えにおける人間観、さらに『歎異抄』を学ぶことを通して「本当の自分とは何か」を尋ねていく。

授業の到達目標

・釈尊・親鸞の生涯とその教えについて述べることができる。
・『歎異抄』によって、仏教における人間観を学び、「本当の自分とは何か」を考察し、表現することができる。
・「仁愛兼済」を生きる人間像について、具体的に自分の考えを述べることができる。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習(PBL)　■討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等)　□グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等)　□発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等)　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　■その他(コメントペーパーの提出・ノートの提出)

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：建学の精神にを学ぶ①　仁愛兼済とは
　事前学習：建学の精神について、テキストや大学ガイドブックで調べておく。(2時間)
　事後学習：テキスト『和』の当該箇所を読んでノートに整理する。(2時間)
第2回：建学の精神にを学ぶ②　学業とキャンパスモニュメント　理解を深めるために討議を入れる。
　事前学習：キャンパスの中のモニュメントを実際に現場へ行って見てくる。(2時間)
　事後学習：テキスト『和』の当該箇所を読んでノートに整理する。(2時間)
第3回：仏陀について①　釈尊という人－ただ独り尊し・人間の尊厳－
　事前学習：釈尊(仏陀)の伝記を調べる。(2時間)
　事後学習：配布資料を読んでノートに整理する。(2時間)
第4回：仏陀について②　いのちを問う・四門出遊・無常・無我
　事前学習：仏教に関する本で「仏教はどのようにして苦悩を超えるか」を調べてくる。(2時間)
　事後学習：配布の資料を読んでノートに整理する。(2時間)
第5回：現代社会と仏教　ビハーラ活動について　ビデオ利用　理解を深めるため討議を入れる。
　事前学習：身近にある仏教の本やインターネットでビハーラ活動について調べる。(2時間)
　事後学習：配布の資料を読んでノートに整理する。(2時間)
第6回：親鸞について　生涯とその教え　ビデオ利用　理解を深めるため討議を入れるいれる。
　事前学習：親鸞の伝記と思想の概要について調べる。(2時間)
　事後学習：配布の資料を読んでノートに整理する。(2時間)
第7回：『歎異抄』に学ぶ①　歎異抄とは
　事前学習：『歎異抄』について調べてくる。(2時間)
　事後学習：テキスト『歎異抄−心に刺さるメッセージ−』の当該部分を読んでノートに整理する。(2時間)

第８回：『歎異抄』に学ぶ②　歎異精神－真理に異なる自己－
　　事前学習：有名な「歎異精神」とはどんな考え方か、参考書で調べてくる。（２時間）
　　事後学習：テキスト『歎異抄－心に刺さるメッセージ－』の当該部分を読んでノートに整理する。（２時間）
第９回：『歎異抄』に学ぶ③　弥陀の誓願不思議－大いなる願いの中に－
　　事前学習：有名な「本願に救われる」とはどんな考え方か、参考書で調べてくる。（２時間）
　　事後学習：テキスト『歎異抄－心に刺さるメッセージ－』の当該部分を読んでノートに整理する。（２時間）
第10回：『歎異抄』に学ぶ④　おのおの十余か国の境を越えてこえて－道を求める心－
　　事前学習：「道を求める」とはどういうことか、仏教書やインターネットを参考に考える。（２時間）
　　事後学習：テキスト『歎異抄－心に刺さるメッセージ－』の当該部分を読んでノートにまとめる。（２時間）
第11回：『歎異抄』に学ぶ⑤　いわんや悪人をや－自己との出遇い－理解を深めるために討議を入れる
　　事前学習：『歎異抄』の中の「悪人正機」についてインターネット等で調べる。（２時間）
　　事後学習：テキスト『歎異抄－心に刺さるメッセージ－』の当該部分を読んでノートにまとめる。（２時間）
第12回：『歎異抄』に学ぶ⑥　有縁を渡すべきなり－道徳を超える－
　　事前学習：道徳と宗教の違いを考える。（２時間）
　　事後学習：テキスト『歎異抄－心に刺さるメッセージ－』の当該部分を読んでノートにまとめる。（２時間）
第13回：『歎異抄』に学ぶ⑦　親鸞は弟子一人も持たず――諸仏と仏弟子
　　事前学習：諸仏・仏弟子とは何かをテキスト等の資料を見て考える。（２時間）
　　事後学習：テキスト『歎異抄－心に刺さるメッセージ－』の当該部分とを読んでノートにまとめる。（２時間）
第14回：『歎異抄』に学ぶ⑧　唯円房同じ心にてありけり－共感・共鳴・共学－
　　事前学習：共感・共鳴・共学するとはどういうことか、自身の経験をもとに考える。（２時間）
　　事後学習：テキスト『歎異抄－心に刺さるメッセージ－』の当該部分を読んでノートにまとめる。（２時間）
第15回：『歎異抄』に学ぶ⑨　そらごとたわごと－火宅の危機－ 理解を深めるために討議を入れる
　　事前学習：宗教とは何かをインターネット等の資料を見て考える。（２時間）
　　事後学習：テキスト『歎異抄－心に刺さるメッセージ－』の当該部分を読んでノートにまとめる。（２時間）

授業実施方法（面接授業・遠隔授業）

原則として「面接授業」を行います。
ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。
遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成　績　評　価　方　法

途中のコメントペーパー及び提出されたノートの提出による評価（80%）、平常点（20%）
（平常点は、授業への参加（出席）状況、eラーニングによる質問などの状況を見て総合的に評価する）。

成　績　評　価　基　準

釈尊・親鸞の生涯と思想、『歎異抄』について理解しているか。
仏教における人間観を学び、「本当の自分とは何か」を考察し、表現することができるか。
「仁愛兼済」を生きる人間像について、具体的に自分の考えを述べることができるか。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック

１）授業時の課題に対するフィードバックについて
　■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
２）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
　■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
３）コメントペーパーに対するフィードバックについて
　■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
４）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
　□定期試験時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
５）その他（提出されたノートに対するフィードバックについて）
　■授業時　□仁大eラーニング　□メール　■その他（ノートにコメントを記載して返却する）

実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）

該当しない

テキスト、参考図書

テキスト：田代俊孝著『歎異抄－心に刺さるメッセージ－』（京都・法藏館　2023）
　　福井仁愛学園編『和』（福井仁愛学園発行：2022）
参考書：田代俊孝著『ビハーラ往生のすすめ－悲しみからのメッセージ』（京都・法藏館 2005）

その他（受講上の注意）
・毎回、事前、事後の課題をすること。 ・随時、授業の内容理解のためのコメントペーパーを提出してもらいます。また、第14回の授業時にノートを提出してもらいます。 ・出欠確認は出席カード、コメントペーパーで確認します。
オ フ ィ ス ア ワ ー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

人間と宗教 (Human Beings and Religion)			担当教員	寺田　憲弘
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HL−1111	2単位	1年後期	講義	選択

<科目区分>　人間生活学部学部共通科目　全学共通科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

豊かな人間性と倫理観を身につけ、幅広い視野から物事をとらえ、的確な判断を下すことができる力を養います。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識･技能　■論理的思考力と創造力　■人間関係形成･社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
■自己理解･自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

資格・免許の要件については学生便覧参照のこと。

授業の内容

キリスト教、イスラム教、仏教など現代の世界において大きな影響力をもつ様々な宗教についてその概要を紹介し、基礎的な知識を身につける。また、それらの理解に必要な宗教学、宗教社会学、宗教人類学などの基礎的な概念、理論を学び、宗教について考え、現代社会の様々な問題に宗教が関連していることを理解する。

授業の到達目標

・様々な宗教について、宗教学などの理論・概念を使い、簡単に説明できるようになる。
・宗教の歴史、世界観、教義をふまえた上で、宗教について考えられるようになる。
・背後にある宗教の影響を理解した上で、現代のさまざまな社会問題を考えられるようになる。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　□グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　□発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等）　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：イントロダクション――宗教とはなんだろうか
　事前学習：授業前にシラバスを読み、質問項目をまとめておくこと（2時間）
　事後学習：e-learningを通しての小レポートの提出（2時間）
第2回：文化としての宗教（1）――八大宗教とその特徴
　事前学習：授業前にe-learningの資料を読み、質問項目をまとめておくこと（2時間）
　事後学習：e-learningを通しての小レポートの提出（2時間）
第3回：文化としての宗教（2）――一神教と多神教
　事前学習：授業前にe-learningの資料を読み、質問項目をまとめておくこと（2時間）
　事後学習：e-learningを通しての小レポートの提出（2時間）
第4回：信仰としての宗教（1）――回心と宗教的経験
　事前学習：授業前にe-learningの資料を読み、質問項目をまとめておくこと（2時間）
　事後学習：e-learningを通しての小レポートの提出（2時間）
第5回：信仰としての宗教（2）――奇跡と呪術
　事前学習：授業前にe-learningの資料を読み、質問項目をまとめておくこと（2時間）
　事後学習：e-learningを通しての小レポートの提出（2時間）
第6回：宗教の仕掛け（1）――戒律
　事前学習：授業前にe-learningの資料を読み、質問項目をまとめておくこと（2時間）
　事後学習：e-learningを通しての小レポートの提出（2時間）
第7回：宗教の仕掛け（2）――戒律
　事前学習：授業前にe-learningの資料を読み、質問項目をまとめておくこと（2時間）
　事後学習：e-learningを通しての小レポートの提出（2時間）

第８回：宗教と現代社会 ── 近代化と世俗化
　　事前学習：授業前にe-learningの資料を読み、質問項目をまとめておくこと（２時間）
　　事後学習：e-learningを通しての小レポートの提出（２時間）
第９回：世界の宗教（１）── ユダヤ教
　　事前学習：授業前にe-learningの資料を読み、質問項目をまとめておくこと（２時間）
　　事後学習：e-learningを通しての小レポートの提出（２時間）
第10回：世界の宗教（２）── キリスト教（１）成立と歴史
　　事前学習：授業前にe-learningの資料を読み、調査項目をまとめておくこと（２時間）
　　事後学習：e-learningを通しての小レポートの提出（２時間）
第11回：世界の宗教（２）── キリスト教（１）成立と歴史
　　事前学習：授業前にe-learningの資料を読み、質問項目をまとめておくこと（２時間）
　　事後学習：e-learningを通しての小レポートの提出（２時間）
第12回：世界の宗教（３）── イスラム教
　　事前学習：授業前にe-learningの資料を読み、質問項目をまとめておくこと（２時間）
　　事後学習：e-learningを通しての小レポートの提出（２時間）
第13回：世界の宗教（４）── 仏教（１）原始仏教と上座部仏教
　　事前学習：授業前にe-learningの資料を読み、質問項目をまとめておくこと（２時間）
　　事後学習：e-learningを通しての小レポートの提出（２時間）
第14回：世界の宗教（５）── 仏教（２）大乗仏教と日本での受容
　　事前学習：授業前にe-learningの資料を読み、質問項目をまとめておくこと（２時間）
　　事後学習：e-learningを通しての小レポートの提出（２時間）
第15回：世界の宗教（６）── 神道・儒教・道教
　　事前学習：授業前にe-learningの資料を読み、質問項目をまとめておくこと（２時間）
　　事後学習：e-learningを通しての小レポートの提出（２時間）

授業実施方法（面接授業・遠隔授業）

原則として「面接授業」を行います。
ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。
遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成　績　評　価　方　法

e-learningを使用し、課題を出します。
レポート試験（50%）　小レポート（40%）　平常点（10%）
（平常点は、授業への参加状況・受講態度、質問等を総合して判断します。）

成　績　評　価　基　準

・代表的な宗教の歴史、世界観、教義などを理解できたか。
・宗教研究の理論、概念を理解できたか。
・さまざまなデータをもとに宗教現象を論じることができたか。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック

１）授業時の課題に対するフィードバックについて
　■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
２）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
　■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
３）小レポートに対するフィードバックについて
　■授業時　□仁大eラーニング　■メール　□その他
４）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
　□定期試験時　□仁大eラーニング　■メール　□その他
５）その他（ディスカッションなどに対するフィードバックについて）
　□授業時　□仁大eラーニング　□メール　■その他（担当教員の研究室（E104B）を訪れるか、オンラインコミュニケーションツール（Teams）を用いて）

実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）

テキスト、参考図書

教科書：『教養としての宗教入門』中村圭志 中公新書

その他（受講上の注意）

・受講者の理解度により講義内容を変更することがあります。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

生命の倫理 (Bioethics)			担当教員	橋本　武志
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HL−1121	2単位	1年後期	講義	選択

<科目区分>　人間生活学部学部共通科目　人間学関連科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

豊かな人間性と倫理観を身につけ、幅広い視野から物事をとらえ、的確な判断を下すことができる力を養います。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識･技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成･社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
□自己理解･自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

資格・免許の要件については学生便覧参照のこと。

授業の内容

技術の進歩によって、従来不可能であった治療ができるようになっている。だが、それにともなって、われわれの従来の死生観・人間観を揺さぶるようなさまざまな倫理問題が発生している。本講義では、先端医療の現状を知ったうえで、こうした倫理問題に対する、日本を含む諸外国の考え方の違い、ガイドラインや政策の相違について知り、こうした問題についての現在までのさまざまな議論を紹介する。

授業の到達目標

・生命をめぐるさまざまな倫理問題について認識する。
・QOLやインフォームド・コンセント、滑りやすい坂など、生命倫理学の基礎的な用語を習得する。
・生命倫理問題について、国内外のさまざまな議論を知る。そして、それに対する自身の考え方を確立する。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　□グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　□発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等）　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　■その他（ペアワーク）

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：オリエンテーション～生命倫理学という学問について
　事前学習：「倫理」「規範」の語義について調べノートしておくこと（2時間）
　事後学習：当日の講義内容について、自分なりに纏めておくこと（2時間）
第2回：生命倫理学（バイオエシックス）の成立
　事前学習：「バイオエシックス」の語義について調べノートしておくこと（2時間）
　事後学習：当日の講義内容について、自分なりに纏めておくこと（2時間）
第3回：患者の自己決定権とインフォームド・コンセント
　事前学習：「優生思想」について調べノートしておくこと（2時間）
　事後学習：当日の講義内容について、自分なりに纏めておくこと（2時間）
第4回：現在の各種倫理問題～映像資料で生命倫理問題について知る
　事前学習：「ES細胞」について調べノートしておくこと（2時間）
　事後学習：当日の講義内容について、自分なりに纏めておくこと（2時間）
第5回：生命の始まりに関する倫理問題（パーソン論）（ペアワーク10分）
　事前学習：「パーソン論」について調べノートしておくこと（2時間）
　事後学習：当日の講義内容について、自分なりに纏めておくこと（2時間）
第6回：生命の始まりに関する倫理問題2（パーソン論以外）
　事前学習：「アメリカの中絶論争」について調べノートしておくこと（2時間）
　事後学習：当日の講義内容について、自分なりに纏めておくこと（2時間）
第7回：移植医療の問題1～映像資料で世界の現状を知る
　事前学習：日本の現行の「臓器移植法案」について調べノートしておくこと（2時間）
　事後学習：当日の講義内容について、自分なりに纏めておくこと（2時間）

第８回：移植医療の問題２～移植医療の歴史
事前学習：「脳死」と「心臓死」の違いについて調べノートしておくこと（２時間）
事後学習：当日の講義内容について、自分なりに纏めておくこと（２時間）
第９回：移植医療の問題３～日本の移植停滞のさまざまな要因
事前学習：「生体肝移植」について調べノートしておくこと（２時間）
事後学習：当日の講義内容について、自分なりに纏めておくこと（２時間）
第10回：移植医療の問題４～映像資料でUNOSについて知る
事前学習：UNOSについて調べノートしておくこと（２時間）
事後学習：当日の講義内容について、自分なりに纏めておくこと（２時間）
第11回：生命の終わりに関する倫理問題１～治療停止・安楽死の世界事情
事前学習：オランダの安楽死事情について調べノートしておくこと（２時間）
事後学習：当日の講義内容について、自分なりに纏めておくこと（２時間）
第12回：生命の終わりに関する倫理問題２（治療停止）～日本での治療停止の法制化
事前学習：札幌医科大学「和田事件」について調べノートしておくこと（２時間）
事後学習：当日の講義内容について、自分なりに纏めておくこと（２時間）
第13回：生命の終わりに関する倫理問題３～安楽死についての諸議論～
事前学習：「安楽死」と「尊厳死」の違いについて調べノートしておくこと（２時間）
事後学習：当日の講義内容について、自分なりに纏めておくこと（２時間）
第14回：生命倫理と社会
事前学習：デュルケーム（人名）について調べておくこと（２時間）
事後学習：当日の講義内容について、自分なりに纏めておくこと（２時間）
第15回：種差別と動物解放論
事前学習：「種差別」について調べ、またこれまでのプリント・ノートを見直して、わからない箇所の質問を考えておくこと（２時間）
事後学習：当日の講義の内容について、プリント・ノートをもとに自分なりに纏めておくこと（２時間）
第16回：定期試験

授業実施方法（面接授業・遠隔授業）

原則として「面接授業」を行います。
ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。
遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成績評価方法

定期試験（80%）、平常点（20%）
（平常点は、授業への参加状況、毎回の授業内小レポートの提出状況を総合して判断する）

成績評価基準

・生命をめぐるさまざまな倫理問題、およびその歴史的経緯について認識しているか。
・QOLやインフォームド・コンセント、滑りやすい坂など、生命倫理学の基礎的な用語を習得しているか。
・生命倫理問題について、国内外のさまざまな議論を習得しているか。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック

１）授業時の課題に対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
２）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
３）小レポートに対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
４）コメントペーパーに対するフィードバックについて
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
５）その他
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他

実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）

テキスト、参考図書

テキストはとくに使用しない。毎回資料を配布する。
参考図書・参考映像については２回目の授業で参考文献を示すほか、授業内でも適宜紹介する。

その他（受講上の注意）
・毎回の講義を受けた後でその部分の配布資料とノートを見直して復習をし、次の授業に臨んでください。そのうえで第２回の授業で配布する参考文献一覧から該当部分を読むなどして、より理解を深めてください。 ・毎回授業内で小レポートを書いてもらいます。私語は他の受講者の迷惑となるので厳禁。私語の目立つものはその場で注意するが、注意によっても改まらない場合、当日欠席扱いとするので注意されたい。
オ フ ィ ス ア ワ ー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

日本国憲法 (The Japanese Constitution)			担当教員	根田　恵多
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HL−1120	2単位	1年後期	講義	選択

<科目区分>　人間生活学部学部共通科目　人間学関連科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>　教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目（日本国憲法）

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果（教育目標）

日本国憲法の基本的な考え方についての正確な知識を身につけ、現実の憲法問題について、自分の意見を論理的・説得的に展開できるようになること。

身につけることを目指す社会的・職業的能力（汎用的能力）

■体系的な知識･技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成･社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
■自己理解･自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

栄養教諭一種免許状（必修）、小学校教諭一種免許状（必修）、幼稚園教諭一種免許状（必修）

授業の内容

憲法の歴史や判例・学説について、レジュメ・スライドを使って解説します。
受講生の人数によってはディスカッションを取り入れるなどしながら、みなさんが自分の言葉で意見を述べることを重視した授業を行います。

授業の到達目標

立憲主義の意味を理解し、憲法に関する基本的知識を修得する。
実生活において、権利意識を持って問題解決を図ることができる能力を身につける。
現実の憲法問題について、自分の意見を自分の言葉で表現できるようになる。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習（PBL）　■討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　□グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　□発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等）　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：憲法って何だろう
　事前学習：授業前に法と自身との関わりについて考えておくこと。（2時間）
　事後学習：授業内容を振り返り、分からないことがあれば確認しておくこと。（2時間）
第2回：憲法の歴史と現在
　事前学習：テキストの14章を読み、疑問点を整理しておこう。（2時間）
　事後学習：授業内容を振り返り、立憲主義について理解を深める。（2時間）
第3回：「憲法の番人」としての裁判所
　事前学習：テキストの1章・12章で全体像を確認しておこう。（2時間）
　事後学習：授業内容を振り返り、テキストの該当箇所を見直しておくこと。（2時間）
第4回：こころの自由
　事前学習：テキストの4章1節を読み、疑問点を整理しておこう。（2時間）
　事後学習：授業内容を振り返り、テキストの該当箇所を見直しておくこと。（2時間）
第5回：信教の自由vs政教分離
　事前学習：テキストの4章2節を読み、疑問点を整理しておこう。（2時間）
　事後学習：身近な政教分離問題について調べてみよう。（2時間）
第6回：悪口も表現の自由？
　事前学習：テキストの5章を読み、疑問点を整理しておこう。（2時間）
　事後学習：名誉毀損や侮辱をめぐる最近の事件・議論について調べてみよう（2時間）
第7回：教える自由？学ぶ自由？
　事前学習：教師の人権と生徒の人権にどのような違いがあるのか、考えてみよう（2時間）
　事後学習：学校でどのような人権問題が起こっているのか、調べてみよう。（2時間）

第８回：働く権利、生きる権利
　　事前学習：テキストの８章を読み、疑問点を整理しておこう。（２時間）
　　事後学習：健康で文化的な最低限度の生活とは何か、考えてみよう（２時間）
第９回：平等・差別・排除
　　事前学習：テキストの３章を読み、疑問点を整理しておこう。（２時間）
　　事後学習：社会的排除の事例としてどのようなものが挙げられるか、調べてみよう。（２時間）
第10回：「新しい人権」・・・？
　　事前学習：憲法に明文化されていない人権にはどのようなものがあるか、考えてみよう（２時間）
　　事後学習：授業時に取り上げたもの以外でどのような人権があり得るか、調べてみよう（２時間）
第11回：人権の主体 ── 子どもの権利、外国人の権利
　　事前学習：外国人の権利と日本人の権利にどのような違いがあるのか、考えてみよう。（２時間）
　　事後学習：入管行政をめぐる問題について、調べてみよう。（２時間）
第12回：捕まったらどうなる？
　　事前学習：テキストの９章を読み、疑問点を整理しておこう。（２時間）
　　事後学習：授業内容を踏まえて、TVや新聞の事件報道についてチェックしてみよう。（２時間）
第13回：統治の仕組みと民主主義
　　事前学習：民主主義とは何か、高校までの学習内容を復習しておこう。（２時間）
　　事後学習：自分の居住地・出身地の政治家について調べてみよう。（２時間）
第14回：全世界の国民が平和に生きる
　　事前学習：テキストの11章を読み、疑問点を整理しておこう。（２時間）
　　事後学習：授業内容を踏まえて、憲法９条の意義や改正の是非について考えてみよう。（２時間）
第15回：憲法の「改正」って何？
　　事前学習：政党などが作成している憲法改正案を調べてみよう。（２時間）
　　事後学習：これまでの授業内容を踏まえて、現行の日本国憲法の条文を見直してみよう。（２時間）

授業実施方法（面接授業・遠隔授業）

原則として「面接授業」を行います。
ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。
遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成　績　評　価　方　法

毎回の授業時に課す小課題40% 期末レポート60%

成　績　評　価　基　準

憲法問題の論点を正確に把握し、自分の意見を論理的・説得的に把握できているかを基準に採点します。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック

１）授業時の課題に対するフィードバックについて
　■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
２）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
　■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
３）小レポートに対するフィードバックについて
　□授業時　■仁大eラーニング　□メール　□その他
４）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
　□定期試験時　■仁大eラーニング　□メール　□その他
５）その他
　□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他

実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）

テ　キ　ス　ト、参　考　図　書

西原博史・斎藤一久編著『教職課程のための憲法入門〔第３版〕』（弘文堂、2024年）

その他（受講上の注意）

積極的に参加する意識をもって受講して下さい。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

生活と環境A (Life Science and the Environment A)			担当教員	南保　勝
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HL−2131	2単位	1年後期	講義	選択

<科目区分>　人間生活学部学部共通科目　環境・健康生活科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

大学生としての基礎的能力ならびに専門的・実際的な知識を習得し、探求的な意欲と協同的な態度を身につけます。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識･技能　□論理的思考力と創造力　■人間関係形成･社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
■自己理解･自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

授業の内容

本講義は、“経済学”という言葉にこだわらず、若者や超ビギナーのために開講する現代経済入門講座です。
講義概要
・様々な経済活動に対し客観的な理解力を深めるために各種の統計、経済データを紹介、見方、活かし方を習得する。
・日本経済を取り巻く環境や現状での問題点を取り上げる。

授業の到達目標

日本経済の現状を把握、理解するための経済指標とは何か、把握する。
経済用語の理解力を高め、経済・社会環境の変化について、対応できる能力を養うことができる。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　□グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　□発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等）　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

進捗度合いによって、講義内容の変更もあり得る。
第1回：本講義の概要、平成時代は何を残したか
　事前学習：失われた30年に繋がった平成時代の社会・経済変化を調べておくこと（2時間）
　事後学習：平成時代がもたらした経済環境をまとめておくこと（2時間）
第2回：戦後日本の経済成長と将来展望
　事前学習：失われた30年に繋がった平成時代の社会・経済変化を調べておくこと（2時間）
　事後学習：平成時代がもたらした経済環境をまとめておくこと（2時間）
第3回：日本経済・社会の構造変化と産業・企業の対応
　事前学習：戦後日本で起きた構造変化とは何かを調べておくこと（2時間）
　事後学習：戦後日本で起きた構造変化をまとめておくこと（2時間）
第4回：経済・社会システムの変容と企業経営
　事前学習：構造変化により起きた経済・社会システムの変容とは何か調べておくこと（2時間）
　事後学習：経済・社会システムの変容により、日本の産業・企業はどのような対応が必要となったか、まとめておくこと（2時間）
第5回：GDP（Gross domestic product）と景気循環
　事前学習：GDPとは何か、何か調べておくこと（2時間）
　事後学習：GDPと景気循環の関係をまとめておくこと（2時間）
第6回：景気判断のメカニズム
　事前学習：景気判断は、どのようになされるか、調べておくこと（2時間）
　事後学習：景気判断のメカニズムをまとめておくこと（2時間）

第７回：需要面の動向（消費活動と経済指標①）
　　事前学習：ケインズと古典派の学説を調べておくこと（２時間）
　　事後学習：ケインズと古典派の学説の違いをまとめておくこと（２時間）
第８回：需要面の動向（消費活動と経済指標②）
　　事前学習：需要にまつわる経済指標を調べておくこと（２時間）
　　事後学習：需要にまつわる経済指標を整理、まとめておくこと（２時間）
第９回：供給面の動向（企業活動と経済指標①）
　　事前学習：供給にまつわる経済指標を調べておくこと（２時間）
　　事後学習：供給にまつわる経済指標を整理、まとめておくこと（２時間）
第10回：供給面の動向（企業活動と経済指標②）
　　事前学習：供給にまつわる経済指標を調べておくこと（２時間）
　　事後学習：供給にまつわる経済指標を整理、まとめておくこと（２時間）
第11回：コロナ禍における産業・企業の取り組み
　　事前学習：昨今のコロナ禍での産業・企業の影響を調べておくこと（２時間）
　　事後学習：withコロナ、afterコロナにおける企業行動の姿をまとめておくこと（２時間）
第12回：近年におけるグローバル化の実態
　　事前学習：経済界における最近のグローバル化の実態をまとめておくこと（２時間）
　　事後学習：グローバル化の変容について、まとめておくこと（２時間）
第13回：国内労働市場の現実
　　事前学習：国内労働市場の現状について、調べておくこと（２時間）
　　事後学習：国内労働市場はどのように変質すべきか、まとめておくこと（２時間）
第14回：日本経済の今後を理解する
　　事前学習：日本経済の現状を調べておくこと（２時間）
　　事後学習：日本経済は今後どのうな状況となるか、まとめておくこと（２時間）
第15回：経済学を理解するために
　　事前学習：実体経済を理解するために必要となるスキルは何か、調べておくこと（２時間）
　　事後学習：実体経済を理解するために必要となるスキルについて、まとめておくこと（２時間）
第16回：定期試験

授業実施方法（面接授業・遠隔授業）

原則として「面接授業」を行います。
ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。
遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成　績　評　価　方　法

定期試験（40%）、各回の課題と小テストおよび平常点（60%）
（平常点は、授業への参加状況・受講態度、質問用紙の提出状況等を総合して判断します。）

成　績　評　価　基　準

日本経済の現状を把握しているか。
日本経済を理解するための経済指標とは何か、把握しているか。
経済・社会環境の変化について、実体経済を説明しながら議論できるか。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック

１）授業時の課題に対するフィードバックについて
　■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
２）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
　■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
３）小レポートに対するフィードバックについて
　□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
４）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
　□定期試験時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
５）その他
　□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他

実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）

テ　キ　ス　ト　、　参　考　図　書

必要に応じて、講義用資料を配付したり、参考図書等を指示します。

その他（受講上の注意）
講義後、感想、課題、質問を書いて提出されたものは返却します。遅刻の時間や回数に応じて欠席と見なすことがあります。
オ フ ィ ス ア ワ ー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

スポーツと健康 (Sports and Health)			担当教員	出村　友寛
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HL−2132	2単位	1年後期	講義	選択

<科目区分>　人間生活学部学部共通科目　環境・健康生活科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>　教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目（体育）

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果（教育目標）

大学生としての基礎的能力ならびに現代の人間生活の諸課題の解決や支援に当たりうる豊かな教養と確かな知識、技術を学びます

身につけることを目指す社会的・職業的能力（汎用的能力）

■体系的な知識･技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成･社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解･自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

栄養教諭一種免許状（必修）、小学校教諭一種免許状（必修）、幼稚園教諭一種免許状（必修）、保育士資格（必修）

授業の内容

健康や体力を管理する上で必要な基本的な知識や方法について学習する。

授業の到達目標

健康を維持、増進するための手段・方法を説明することができる。
生涯にわたって自主的に健康・体力づくりを実践できる能力や態度を獲得する。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　□グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　□発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等）　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：健康の捉え方と獲得するためのポイント
　事前学習：テキストの第1章を読み、質問項目をまとめておくこと。（2時間）
　事後学習：テキスト等の見直しや、関連項目を図書館等で調べる。（2時間）
第2回：生活習慣病と関連する要因
　事前学習：テキストの第2章を読み、質問項目をまとめておくこと。（2時間）
　事後学習：テキスト等の見直しや、関連項目を図書館等で調べる。（2時間）
第3回：体力とは何か
　事前学習：テキストの第3章を読み、質問項目をまとめておくこと。（2時間）
　事後学習：テキスト等の見直しや、関連項目を図書館等で調べる。（2時間）
第4回：運動のしくみ
　事前学習：テキストの第4章を読み、質問項目をまとめておくこと。（2時間）
　事後学習：テキスト等の見直しや、関連項目を図書館等で調べる。（2時間）
第5回：トレーニング理論とトレーニング方法
　事前学習：テキストの第5,6章を読み、質問項目をまとめておくこと。（2時間）
　事後学習：テキスト等の見直しや、関連項目を図書館等で調べる。（2時間）
第6回：健康を維持・増進するための運動、ダイエット計画
　事前学習：テキストの第7章を読み、質問項目をまとめておくこと。（2時間）
　事後学習：テキスト等の見直しや、関連項目を図書館等で調べる。（2時間）
第7回：ダイエット計画
　事前学習：テキストの第8章を読み、質問項目をまとめておくこと。（2時間）
　事後学習：テキスト等の見直しや、関連項目を図書館等で調べる。（2時間）
第8回：運動と水分補給、熱中症
　事前学習：テキストの第9章を読み、質問項目をまとめておくこと。（2時間）
　事後学習：テキスト等の見直しや、関連項目を図書館等で調べる。（2時間）

第９回：ウォーミングアップとクーリングダウン
　　事前学習：テキストの第10章を読み、質問項目をまとめておくこと。（２時間）
　　事後学習：テキスト等の見直しや、関連項目を図書館等で調べる。（２時間）
第10回：応急手当
　　事前学習：テキストの第11章を読み、質問項目をまとめておくこと。（２時間）
　　事後学習：テキスト等の見直しや、関連項目を図書館等で調べる。（２時間）
第11回：スポーツと心理のかかわり
　　事前学習：テキストの第12章を読み、質問項目をまとめておくこと。（２時間）
　　事後学習：テキスト等の見直しや、関連項目を図書館等で調べる。（２時間）
第12回：今日の学校保健の問題
　　事前学習：テキストの第13章を読み、質問項目をまとめておくこと。（２時間）
　　事後学習：テキスト等の見直しや、関連項目を図書館等で調べる。（２時間）
第13回：欲求、ストレスと疲労への対処法
　　事前学習：テキストの第14章を読み、質問項目をまとめておくこと。（２時間）
　　事後学習：テキスト等の見直しや、関連項目を図書館等で調べる。（２時間）
第14回：地域とスポーツのかかわり
　　事前学習：テキストの第15,16章を読み、質問項目をまとめておくこと。（２時間）
　　事後学習：テキスト等の見直しや、関連項目を図書館等で調べる。（２時間）
第15回：社会におけるスポーツの役割
　　事後学習：定期試験に向け、テキスト等の見直しや、関連項目を図書館等で調べる。（４時間）
第16回：定期試験

授業前にテキストを読んで概要を把握し、疑問点を整理しておく。
授業後は、ノートや配布資料を見直して復習しておく。

授業実施方法（面接授業・遠隔授業）

原則として「面接授業」を行います。
ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。
遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成　績　評　価　方　法

定期試験（70%）、レポート（30%）

成　績　評　価　基　準

健康を維持、増進するための手段・方法を理解できているか。
生涯にわたって自主的に健康・体力づくりを実践できる能力や態度が獲得できているか。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック

１）授業時の課題に対するフィードバックについて
　■授業時　　■仁大eラーニング　　□メール　　□その他
２）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
　■授業時　　■仁大eラーニング　　□メール　　□その他
３）小レポートに対するフィードバックについて
　□授業時　　■仁大eラーニング　　□メール　　□その他
４）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
　□定期試験時　　□仁大eラーニング　　□メール　　□その他
５）その他
　□授業時　　□仁大eラーニング　　□メール　　□その他

実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）

テキスト、参考図書

テキスト：出村慎一監修、「健康・スポーツ科学講義 第２版」、杏林書院 2012

その他（受講上の注意）

遅刻、欠席、および早退は減点の対象とします。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

スポーツA(健康栄養学科) (Sports A)			担当教員	乾　典子
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HL−2130	1単位	1年前期	実技	選択

<科目区分>　人間生活学部学部共通科目 環境・健康生活科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

大学生としての基礎的能力ならびに現代の人間生活の諸課題の解決や支援に当たりうる豊かな教養と確かな知識、技術を学びます。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識･技能　■論理的思考力と創造力　■人間関係形成･社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
■自己理解･自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

資格との関連は特に無し。健康栄養学科として、体の成り立ちを理解する上でダンスというスポーツが役立つと考える。

授業の内容

体力の向上、仲間づくりを通した生涯スポーツへの展開。ダンス実技と主体とし、正しいストレッチ方法やリズム感の育成を体験しながら、柔軟な体と頭を作る。

授業の到達目標

青年期におけるスポーツ体験は、彼らの体力づくりや健康の指示増進に関する知識と実践方法の理解を促進し、生涯にわたってスポーツやレクリエーションを楽しむことのできる基礎を養う。将来人への健康維持のための食・またはスポーツ力向上のための食を担当する立場となる学生はスポーツを体験する必要がある。
スポーツAでは個人スポーツ及び集団スポーツの実践を通して初歩的な技術から段階的に習得するとともに、健康とダンスの関係の知識を深めながら、踊る楽しみを感じられる体験を学習する。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等）　□実習、フィールドワーク　■実験、実技　■その他（ダンスを教えあう）

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：頭と体ほぐしのための準備運動（アップ）体験（実技）
　事前学習：授業前日に柔軟体操などをして体を動かしておく（0.5時間）
　事後学習：動かした体のクールダウンのため、習った柔軟体操をしておく（0.5時間）
第2回：【1】ダンスのためのストレッチ方の体験・習得 リラックスタイム（実技）
　事前学習：授業前日に柔軟体操などをして体を動かしておく（0.5時間）
　事後学習：学習したストレッチを復習しておく（0.5時間）
第3回：【1】を実施後ステップレッスン　簡単なダンスを体験［1］（実技）
　事前学習：学習したストレッチを実施しておく（0.5時間）
　事後学習：習ったダンスを復習しておく（0.5時間）
第4回：【1】とステップレッスン 簡単なダンスを体験［2］（実技　その他）
　事前学習：習ったダンスを復習しておく（0.5時間）
　事後学習：学習したストレッチを実施しておく（0.5時間）習ったダンスを復習しておく（0.5時間）
第5回：【1】とダンスの振り覚え　1　その練習（実技　その他）
　事前学習：習ったダンスを復習しておく（0.5時間）
　事後学習：学習したストレッチを実施し、習ったダンスを復習しておく（0.5時間）
第6回：【1】とダンスの振り覚え　2　その練習（実技　その他）
　事前学習：習ったダンスを復習しておく（0.5時間）
　事後学習：学習したストレッチを実施し、習ったダンスを復習しておく（0.5時間）

第７回：【1】とダンスの振り覚え　3　その練習（実技　その他）
　　事前学習：習ったダンスを復習しておく（0.5時間）
　　事後学習：ストレッチを実施し、習ったダンスを復習しておく（0.5時間）
第８回：【1】とダンスの振り覚え　4　その練習（実技　その他）
　　事前学習：習ったダンスを復習しておく（0.5時間）
　　事後学習：ストレッチを実施し、ダンスを復習しておく（0.5時間）
第９回：【1】とダンスの振り覚え　5　その練習（実技　その他）
　　事前学習：習ったダンスを復習しておく（0.5時間）
　　事後学習：ストレッチを実施し、ダンスを復習しておく（0.5時間）
第10回：【1】とダンスの振り覚え　6　その練習（実技　その他）
　　事前学習：習ったダンスを復習しておく（0.5時間）
　　事後学習：ストレッチを実施し、ダンスを復習しておく（0.5時間）
第11回：【1】とダンスの振り覚え（実技　その他）
　　事前学習：習ったダンスを復習しておく（0.5時間）
　　事後学習：ストレッチを実施し、ダンスを復習しておく（0.5時間）
第12回：【1】とダンス個人発表　自分のダンス動画の撮影
　　事前学習：発表を前にダンスの練習をしておく（0.5時間）
　　事後学習：自分の発表動画を見て自己評価をする（0.5時間）
第13回：自分のダンス動画を見て、曲を流しながらダンスの練習をする
　　事前学習：ダンスの動画を見て復習する（0.5時間）
　　事後学習：フォーメーションの内容を調べておく（0.5時間）
第14回：【1】とグループ発表のためのフォーメーション創作方法の説明
　　フォーメーションのグループ別練習（実技　グループワーク）
　　事前学習：ダンスの動画を見て、フォーメーションの例題を決める（0.5時間）
　　事後学習：創作作品を動画に撮影し、手直し部分など確認する（0.5時間）
第15回：グループ別練習　発表・鑑賞・振り返り（発表）
　　事前学習：グループの創作動画を見てダンスの復習をしておく（0.5時間）
　　事後学習：ダンスのグループ発表動画を見て自己評価する（0.5時間）

授業実施方法（面接授業・遠隔授業）

原則として「面接授業」を行います。
ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。
遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成　績　評　価　方　法

実技試験（40%）　平常点（60%）　平常点は授業への参加状況、取り組み、態度等を総合して判断する。

成　績　評　価　基　準

青年期におけるスポーツ体力づくりや健康の指示増進に関する知識と実践方法の理解を促進し、生涯にわたってスポーツやレクリエーションを楽しむことのできる基礎を養うことの重要性を理解できたか。
個人スポーツ及び集団スポーツの実践を通して初歩的な技術から段階的に習得するとともに、健康とダンスの関係の知識を深めながら、踊る楽しみを理解することができたか。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック

1）授業時の課題に対するフィードバックについて
　■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
2）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
　■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
3）小レポートに対するフィードバックについて
　□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
4）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
　□定期試験時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
5）その他
　□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他

実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）

テ　キ　ス　ト　、　参　考　図　書

特に使用しない。必要に応じて資料を配布する。

その他（受講上の注意）
必ず体操服で受講すること。シューズも準備すること。
オ フ ィ ス ア ワ ー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

スポーツA(子ども教育学科) (Sports A)			担当教員	野田　政弘
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HL−2130	1単位	1年前期	実技	選択

<科目区分>　人間生活学部学部共通科目　環境・健康生活科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

大学生としての基礎的能力ならびに現代の人間生活の諸課題の解決や支援に当たりうる豊かな教養と確かな知識、技術を学びます。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識･技能　□論理的思考力と創造力　■人間関係形成･社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
■自己理解･自己管理能力　□諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

保育士資格(必修)

授業の内容

青年期におけるスポーツ体験は、体力づくりや健康の維持増進に関する知識と実践方法の理解を促進し、生涯にわたってスポーツやレクリエーションを楽しむことのできる基礎を培う。健康の維持、体力の向上を図るとともに仲間づくりをとおした生涯スポーツへの展開を、バスケットボールとバドミントンをとおして行なう。

授業の到達目標

バスケットボールの技術、ルールを理解する。ボールの扱い、ボディコントロール、シュート、ドリブル、パスなどの個人技能を習得し、フォーメーションプレイがスムーズにできる。チームメイトとコミュニケーションがとれる。コート整備を行い適切に用具管理ができる。バドミントンの技術、ルールを理解する。ラケット、シャトルの扱い、サーブ、スマッシュ、ドライブ、ヘアピンなどの個人技能を習得し、ダブルスのゲームができる。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習(PBL)　□討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等)　□グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等)　□発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等)　□実習、フィールドワーク　■実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：バスケットボール　基礎体力づくり、身体の使い方の理解
　事前学習：大学までに受講したバスケットボールの授業を振り返っておくこと。(0.5時間)
　事後学習：授業の内容を整理して体の動きをイメージして確認しておくこと。(0.5時間)
第2回：バスケットボール　個人技術①(ボールコントロール、ドリブル)
　事前学習：個人技術について調べておくこと。(0.5時間)
　事後学習：授業の内容を整理して体の動きをイメージして確認しておくこと。(0.5時間)
第3回：バスケットボール　個人技術②(シュート、パス)、ミニゲーム
　事前学習：個人技術について調べておくこと。(0.5時間)
　事後学習：授業の内容を整理して体の動きをイメージして確認しておくこと。(0.5時間)
第4回：バスケットボール　グループ技術①(コンビネーションプレー)、ミニゲーム
　事前学習：コンビネーションプレーについて調べておくこと。(0.5時間)
　事後学習：授業の内容を整理して体の動きをイメージして確認しておくこと。(0.5時間)
第5回：バスケットボール　グループ技術②(コンビネーションプレー)、ミニゲーム
　事前学習：コンビネーションプレーについて調べておくこと。(0.5時間)
　事後学習：授業の内容を整理して体の動きをイメージして確認しておくこと。(0.5時間)
第6回：バスケットボール　ゲーム①、個人技能評価(フリースロー)①
　事前学習：ルールについて調べておくこと。(0.5時間)
　事後学習：ゲームの内容を整理して振り返っておくこと。(0.5時間)
第7回：バスケットボール　ゲーム②、個人技能評価(フリースロー)②
　事前学習：ゲームの戦術について調べておくこと。(0.5時間)
　事後学習：ゲームの内容を整理して振り返っておくこと。(0.5時間)

第８回：バスケットボール　ゲーム③、個人技能評価（フリースロー）③
　　事前学習：ゲームの戦術について調べておくこと。（0.5時間）
　　事後学習：授業全体を振り返り課題を整理してレポートにまとめておくこと。（0.5時間）
第９回：バドミントン　基本技術の習得（ラケットワーク、スウイング、サーブ）
　　事前学習：バドミントンの歴史について調べておくこと。（0.5時間）
　　事後学習：授業の内容を整理して体の動きをイメージして確認しておくこと。（0.5時間）
第10回：バドミントン　基本技術の習得（ドライブ、クリア）
　　事前学習：基本技術について調べておくこと。（0.5時間）
　　事後学習：授業の内容を整理して体の動きをイメージして確認しておくこと。（0.5時間）
第11回：バドミントン　基本技術の習得（ドロップ、スマッシュ）
　　事前学習：基本技術について調べておくこと。（0.5時間）
　　事後学習：授業の内容を整理して体の動きをイメージして確認しておくこと。（0.5時間）
第12回：バドミントン　基本技術の習得（コンビネーション）
　　事前学習：基本技術について調べておくこと。（0.5時間）
　　事後学習：授業の内容を整理して体の動きをイメージして確認しておくこと。（0.5時間）
第13回：バドミントン　ルールとゲームの理解（ダブルス）
　　事前学習：ダブルスのルール、ゲームの進め方、審判法について調べておくこと。（0.5時間）
　　事後学習：授業の内容を振り返り課題を整理しておくこと。（0.5時間）
第14回：バドミントン　ダブルスゲーム①
　　事前学習：基本的な攻防の戦略について調べておくこと。（0.5時間）
　　事後学習：ゲームの内容を振り返り課題を整理しておくこと。（0.5時間）
第15回：バドミントン　ダブルスゲーム②、個人技能評価
　　事前学習：基本的な攻防の戦略について調べておくこと。（0.5時間）
　　事後学習：授業全体を振り返り課題を整理してレポートにまとめておくこと。（0.5時間）

新聞やテレビ等のメディアでバスケットボールやバドミントンが取り上げられることも多いので、常に関心をもって積極的に情報を得るようにする。

授業実施方法（面接授業・遠隔授業）

原則として「面接授業」を行います。
ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。
遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成　績　評　価　方　法

技術の習得（70%）、平常点（30%）。平常点は、授業への参加状況、受講態度等を総合して判断します。

成　績　評　価　基　準

基本的な技術を習得できている。ルールを正しく理解できている。授業に欠席・遅刻・早退することがなく、積極的な態度で取り組んでいる。他者とコミュニケーションがとれている。用具、コートの管理が適切にできている。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック

１）授業時の課題に対するフィードバックについて
　■授業時　　□仁大eラーニング　　□メール　　□その他
２）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
　□授業時　　□仁大eラーニング　　□メール　　□その他
３）小レポートに対するフィードバックについて
　□授業時　　□仁大eラーニング　　□メール　　□その他
４）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
　□定期試験時　　□仁大eラーニング　　□メール　　□その他
５）その他
　□授業時　　□仁大eラーニング　　□メール　　□その他

実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）

テキスト、参考図書

必要に応じて資料を配布、参考図書を紹介する。

その他（受講上の注意）

原則として全出席を求め、早退・遅刻は認めない。スポーツウエア、屋内用の運動シューズを着用すること。熱中症予防のため水分補給に注意すること。原則として見学の場合もスポーツウエアを着用のこと。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

英語Ⅰa (English Ⅰa)			担当教員	加藤　優子、矢橋　知枝、Mクズィフ、 野本　尚美
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HL−2140	1単位	1年前期	演習	必修

<科目区分>　人間生活学部学部共通科目　外国語科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>　教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目（外国語コミュニケーション）

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果（教育目標）

大学生としての基礎的能力ならびに現代の人間生活の諸課題の解決や支援に当たりうる豊かな教養と確かな知識、技術を学びます。

身につけることを目指す社会的・職業的能力（汎用的能力）

□体系的な知識･技能　□論理的思考力と創造力　■人間関係形成･社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
■自己理解･自己管理能力　□諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

栄養教諭一種免許状（必修）、小学校教諭一種免許状（必修）、幼稚園教諭一種免許状（必修）、保育士資格（必修）

授業の内容

Following a warm-up activity to introduce the theme of the unit, students will be introduced to the relevant grammar and vocabulary through a series of listening and speaking exercises.
Reading, writing, and presentation exercises will follow to reinforce their knowledge of the material.

授業の到達目標

Upon finishing the course, students will be able to express themselves freely in general conversation by exchanging personal information and talking about their daily lives. Additionally, students will be able to listen for keywords and specific information in a variety of situations. The ability to scan for general information and read for specific information will be enhanced as well as the ability to write short messages, descriptions, and articles on a variety of subjects.

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習（PBL）　■討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等）　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：Class Introduction（ディスカッション）
　事前学習：事前にテキストを読み、質問項目をまとめておくこと（30分）
　事後学習：授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること（30分）
第2回：Unit 1 - Daily Activities ①（ディスカッション）
　事前学習：前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと（30分）
　事後学習：授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること（30分）
第3回：Unit 1 - Daily Activities ②（ディスカッション）
　事前学習：前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと（30分）
　事後学習：授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること（30分）
第4回：Unit 2 - Work and study ①（ディスカッション）
　事前学習：前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと（30分）
　事後学習：授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること（30分）
第5回：Unit 2 - Work and study ②（ディスカッション）
　事前学習：前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと（30分）
　事後学習：授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること（30分）
第6回：Unit 3 - At the moment ①（ディスカッション）
　事前学習：前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと（30分）
　事後学習：授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること（30分）

第７回：Unit ３ - At the moment ②（ディスカッション）
事前学習：前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと（30分）
事後学習：授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること（30分）
第８回：Review（ディスカッション）
事前学習：前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと（30分）
事後学習：授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること（30分）
第９回：Unit ４ - Feelings ①（ディスカッション）
事前学習：前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと（30分）
事後学習：授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること（30分）
第10回：Unit ４ - Feelings ②（ディスカッション）
事前学習：前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと（30分）
事後学習：授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること（30分）
第11回：Unit ５ - On the weekend ①（ディスカッション）
事前学習：前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと（30分）
事後学習：授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること（30分）
第12回：Unit ５ - On the weekend ②（ディスカッション）
事前学習：前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと（30分）
事後学習：授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること（30分）
第13回：Unit ６ - Places around town ①（ディスカッション）
事前学習：前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと（30分）
事後学習：授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること（30分）
第14回：Unit ６ - Places around town ②（ディスカッション）
事前学習：前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと（30分）
事後学習：授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること（30分）
第15回：Cumulative Review（ディスカッション）
事前学習：前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと（30分）
事後学習：授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること（30分）
第16回：Examination

Before starting each unit, students are to familiarize themselves with the class material by reviewing the 'Grammar Reference' pages for each unit and completing the exercises on those pages. Students must also complete homework assignments as instructed by their teacher, such as the writing assignments suggested in the textbook and other relevant assignments.

授業実施方法（面接授業・遠隔授業）

原則として「面接授業」を行います。
ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。
遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成　績　評　価　方　法

Outside-class Activities (e.g., 'Grammar Reference' pages & other homework assignments, online study, etc.) - 20% 【授業外課題 20%（[例] 文法参照ページ & 宿題・オンライン学習・他】
Proactive In-class Participation - 20% 【積極的な授業参加度 20%】
Examinations - 60% 【試験 60%】

成　績　評　価　基　準

Students' ability to understand and participate in general conversation on everyday topics will be evaluated, as well as the ability to read and comprehend short, written passages.

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック

１）授業時の課題に対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
２）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
３）小レポートに対するフィードバックについて
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
４）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
□定期試験時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
５）その他
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他

実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）
テキスト、参考図書
Stempleski, Susan. Stretch 1 (Second Edition). 2024. Oxford University Press. ISBN 978-0-19-413593-1 TEX加藤 『TOEIC L&R TEST 出る単特急 金のフレーズ』 朝日新聞出版 2017年
その他（受講上の注意）
Prior to the beginning of the semester, a mandatory general English pre－evaluation test will be administered. 【入学時にプレースメントテストを実施する】Also, during the semester, a number of classes will be held in the Computer Assisted Language Learning laboratory (E－303) to familiarize students with the use of online study activities.
オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

英語Ⅰb (English Ⅰb)			担当教員	矢橋　知枝、M　ハウカ、M　クズィフ
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HL−2141	1単位	1年後期	演習	必修

<科目区分>　人間生活学部学部共通科目　外国語科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>　教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目（外国語コミュニケーション）

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果（教育目標）

大学生としての基礎的能力ならびに現代の人間生活の諸課題の解決や支援に当たりうる豊かな教養と確かな知識、技術を学びます

身につけることを目指す社会的・職業的能力（汎用的能力）

□体系的な知識･技能　□論理的思考力と創造力　■人間関係形成･社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
■自己理解･自己管理能力　□諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

栄養教諭一種免許状（必修）、小学校教諭一種免許状（必修）、幼稚園教諭一種免許状（必修）、保育士資格（必修）

授業の内容

Following a warm-up activity to introduce the theme of the unit, students will be introduced to the relevant grammar and vocabulary through a series of listening and speaking exercises. Reading, writing, and presentation exercises will follow to reinforce their knowledge of the material.

授業の到達目標

Upon finishing the course, students will be able to express themselves freely in general conversation by exchanging personal information and talking about their daily lives. Additionally, students will be able to listen for keywords and specific information in a variety of situations. The ability to scan for general information and read for specific information will be enhanced as well as the ability to write short messages, descriptions, and articles on a variety of subjects.

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習（PBL）　■討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　□グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　□発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等）　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：Class Introduction（ディスカッション）
　事前学習：前期の学習を振り返っておくこと（30分）
　事後学習：授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること（30分）
第2回：Unit 7 - People we admire ①（ディスカッション）
　事前学習：前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと（30分）
　事後学習：授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること（30分）
第3回：Unit 7 - People we admire ②（ディスカッション）
　事前学習：前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと（30分）
　事後学習：授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること（30分）
第4回：Unit 8 - At the supermarket ①（ディスカッション）
　事前学習：前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと（30分）
　事後学習：授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること（30分）
第5回：Unit 8 - At the supermarket ②（ディスカッション）
　事前学習：前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと（30分）
　事後学習：授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること（30分）
第6回：Unit 9 - Health problems ①（ディスカッション）
　事前学習：前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと（30分）
　事後学習：授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること（30分）

第７回：Unit 9 - Health problems ②（ディスカッション）
事前学習：前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと（30分）
事後学習：授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること（30分）
第８回：Review（ディスカッション）
事前学習：前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと（30分）
事後学習：授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること（30分）
第９回：Unit 10 - Clothes and colors ①（ディスカッション）
事前学習：前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと（30分）
事後学習：授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること（30分）
第10回：Unit 10 - Clothes and colors ②（ディスカッション）
事前学習：前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと（30分）
事後学習：授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること（30分）
第11回：Unit 11 - Music ①（ディスカッション）
事前学習：前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと（30分）
事後学習：授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること（30分）
第12回：Unit 11 - Music ②（ディスカッション）
事前学習：前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと（30分）
事後学習：授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること（30分）
第13回：Unit 12 - Travel plans ①（ディスカッション）
事前学習：前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと（30分）
事後学習：授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること（30分）
第14回：Unit 12 - Travel plans ②（ディスカッション）
事前学習：前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと（30分）
事後学習：授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること（30分）
第15回：Cumulative Review（ディスカッション）
事前学習：前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと（30分）
事後学習：授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること（30分）
第16回：Examination

Before each unit, students are to familiarize themselves with the class material by reviewing the 'Grammar Reference' pages for each unit and completing the exercises on those pages. Students must also complete homework assignments as instructed by their teacher, such as the writing assignments suggested in the textbook as well as other relevant assignments.

授業実施方法（面接授業・遠隔授業）

原則として「面接授業」を行います。
ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。
遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成　績　評　価　方　法

Outside-class Activities (e.g., 'Grammar Reference' pages & other homework assignments, online study, etc.) - 20% 【授業外課題 20%（[例] 文法参照ページ & 宿題・オンライン学習・他】
Proactive In-class Participation - 20% 【積極的な授業参加度 20%】
Examinations - 60% 【試験 60%】

成　績　評　価　基　準

Students' ability to understand and participate in general conversation on everyday topics will be evaluated, as well as the ability to read and comprehend short, written passages.

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック

１）授業時の課題に対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
２）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
３）小レポートに対するフィードバックについて
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
４）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
□定期試験時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
５）その他
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他

実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）
テキスト、参考図書
Stempleski, Susan. Stretch 1 (Second Edition). 2024. Oxford University Press. ISBN 978-0-19-413593-1 TEX加藤 『TOEIC L&R TEST 出る単特急 金のフレーズ』 朝日新聞出版 2017年
その他（受講上の注意）
During the semester, a number of classes will be held in the Computer Assisted Language Learning laboratory（E－303）to familiarize students with the use of online study activities. An additional mandatory general English post－evaluation test to monitor achievement will be given at the end of the semester.【TOEIC IPテスト（アチーブメントテスト）受験が単位取得条件である】
オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

フランス語 a (French a)			担当教員	大竹口　麻里
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HL−2142	1 単位	1 年前期	演習	選択

<科目区分>　人間生活学部学部共通科目　外国語科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

大学生としての基礎的能力ならびに現代の人間生活の諸課題の解決や支援に当たりうる豊かな教養と確かな知識、技術を学びます

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□体系的な知識･技能　■論理的思考力と創造力　■人間関係形成･社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
■自己理解･自己管理能力　□諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

資格・免許の要件については学生便覧参照のこと。

授業の内容

テキストは、パリにやってきた女子学生美香が、やがてボルドーを訪れ、料理やワインに関心を持っていくというストーリーが中心である。文法のみならず、読み・書き・話す・聞くという 4 技能をバランスよく学ぶ。「フランス語技能検定（仏検）4 級程度のフランス語の発音と単語及び文の構造を学ぶ。

授業の到達目標

1）できるだけ早い段階で、まず臆することなくフランス語を発音することができる。
2）初級文法を学び簡単な会話文を読むことができる。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　□グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　□発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等）　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　■その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第 1 回：フランス語について、ABCの発音、あいさつ
　　事前学習：テキストの前書を読む。(0.5時間)
　　事後学習：アルファベの発音練習をしておくこと。(0.5時間)
第 2 回：1 課 綴字の読み方・自己紹介
　　事前学習：テキスト 1 課の単語調べをしておくこと。(0.5時間)
　　事後学習：テキストp 2 短母音字についてまとめておくこと。(0.5時間)
第 3 回：1 課 元気かどうか聞く
　　事前学習：Dialogue 1 を参考にして自分の名前と国籍を言えるようにする。(0.5時間)
　　事後学習：p 7 の練習問題を解く(0.5時間)
第 4 回：2 課 職業を言う
　　事前学習：Dialogue 1 の単語調べをする。(0.5時間)
　　事後学習：Dialogue 1 を音読する。(0.5時間)
第 5 回：2 課 住んでいる所を言う
　　事前学習：Dialogue 2 の単語調べをする。(0.5時間)
　　事後学習：p11の練習問題を解く。(0.5時間)
第 6 回：3 課：国籍・話せる言語を言う
　　事前学習：テキスト 3 課の単語調べをしておくこと。(0.5時間)
　　事後学習：être動詞の否定形と－er動詞の活用についてまとめておき発音して覚えておくこと。
　　p15練習問題を解いておくこと。(0.5時間)
第 7 回：3 課 国籍・話せる言語を言う
　　事前学習：Dialogueを訳す。(0.5時間)
　　事後学習：名前・国籍・話せる言語のフレーズを使い自己紹介文を書いておくこと。(0.5時間)

第８回：４課：身の回りのもの・～を持っていますか？
事前学習：テキスト４課の単語調べをしておくこと。（0.5時間）
事後学習：avoir動詞の活用をまとめておき、発音して覚えておくこと。テキストｐ19の練習問題を解いておくこと。（0.5時間）
第９回：４課 兄弟はいますか？何才ですか？
事前学習：Dialogueを訳す。（0.5時間）
事後学習：自分自身について何才か、兄弟姉妹はいるかについて作文しておくこと。（0.5時間）
第10回：５課 この人は誰ですか？
事前学習：テキスト５課の単語調べをしておくこと。（0.5時間）
事後学習：テキスト（0.5時間）
第11回：５課 この人は誰ですか？
事前学習：Dialougueを訳しておく。（0.5時間）
事後学習：p23の練習問題を解く（0.5時間）
第12回：６課 これはなんですか？
事前学習：Dialogue１の単語調べをしておくこと。（0.5時間）
事後学習：今日ノートを取ったところを見返し文法事項を確認する。（0.5時間）
第13回：６課 これは何ですか？
事前学習：Dialogue２の単語調べをしておく。（0.5時間）
事後学習：p27の練習問題をする。（0.5時間）
第14回：７課 私は～が好きです
事前学習：テキスト７課の単語調べをしておくこと（0.5時間）
事後学習：テキストｐ31の練習問題を解いておくこと。（0.5時間）
第15回：総復習
事前学習：テキスト１課～７課の内容を整理し、質問事項をまとめておくこと。（0.5時間）
事後学習：授業の中で取り上げた最重要項目についてよく復習しておくこと。（0.5時間）
第16回：定期試験

授業実施方法（面接授業・遠隔授業）

原則として「面接授業」を行います。
ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。
遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成　績　評　価　方　法

定期試験（70％）平常点（30％）（平常点は、授業への参加状況・受講態度・課題があった場合の提出状況等総合して判断します。

成　績　評　価　基　準

前期の段階では、１）テキストを見て簡単なフランス文が音読できるか。
２）フランス語の動詞の活用と初歩の文法を理解しフランス語に慣れているか。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック

１）授業時の課題に対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
２）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
３）小レポートに対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
４）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
□定期試験時　□仁大eラーニング　□メール　■その他（具体的に記述後期第１回目の授業時）
５）その他
■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他

実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）

テ　キ　ス　ト　、　参　考　図　書

藤田裕二著『パリ－ボルドー』 朝日出版社

その他（受講上の注意）

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

フランス語b (French b)			担当教員	大竹口　麻里
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HL−2143	1単位	1年後期	演習	選択

<科目区分>　人間生活学部学部共通科目　外国語科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

大学生としての基礎的能力ならびに現代の人間生活の諸課題の解決や支援に当たりうる豊かな教養と確かな知識、技術を学びます

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□体系的な知識･技能　■論理的思考力と創造力　■人間関係形成･社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
■自己理解･自己管理能力　□諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

資格・免許の要件については学生便覧参照のこと。

授業の内容

前期に引き続きフランス語の初級文法・日常表現・生活と文化について多様なメディアを使って総合的に学習します。

授業の到達目標

前期に引き続き発音と文法の基礎を学習しつつ、簡単な文を読み、書き、聞き、話す総合的運用能力を身につけること。「入門b」終了時点で「フランス語技能検定試験(仏検)の5級に合格できるようになること。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習(PBL)　□討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等)　■グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等)　□発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等)　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：8課 AはBより～です。
　事前学習：テキスト8課の単語調べをしておくこと。(0.5時間)
　事後学習：今日ノートに取った文法事項を確認しておく。(0.5時間)
第2回：8課 何を着ていますか？良い天気です。
　事前学習：Dialogueを訳す。(0.5時間)
　事後学習：テキストp39の練習問題を解く。天気について言えるようにしておくこと。(0.5時間)
第3回：9課 私はサッカーをします。
　事前学習：Dialogue 1の単語調べをしておくこと。(0.5時間)
　事後学習：今日ノートに取った文法事項を確認しておく。(0.5時間)
第4回：9課 朝食には～を食べます。
　事前学習：Dialogue 2の単語調べをしておくこと。(0.5時間)
　事後学習：テキストp43の練習問題を解く。(0.5時間)
第5回：10課 ～へ行きましょう。
　事前学習：Dialogue 1の単語調べをしておくこと。(0.5時間)
　事後学習：動詞aller venir vouloir pouvoirの活用をまとめておくこと。(0.5時間)
第6回：10課 どのくらい時間がかかりますか？
　事前学習：Dialogue 2の単語調べをしておく(0.5時間)
　事後学習：テキストp47の練習問題を解く(0.5時間)
第7回：11課 私は～時におきます
　事前学習：テキスト11課の単語調べをしておくこと。(0.5時間)
　事後学習：今日ノートに取った文法事項を確認しておく。(0.5時間)
第8回：11課 ～時から～時まで授業があります。
　事前学習：Dialogueを訳す。(0.5時間)
　事後学習：テキストp51の練習問題を解く(0.5時間)

第９回：12課 彼女を知っていますか？
事前学習：Dialogue 1 の単語調べをしておくこと。（0.5時間）
事後学習：今日ノートに取った文法事項を確認しておく。（0.5時間）
第10回：12課 アルバイトはしていますか？
事前学習：Dialogue 1 を訳す。Dialogue 2 の単語調べをしておく（0.5時間）
事後学習：テキストp55の練習問題を解く（0.5時間）
第11回：13課 食事を注文する
事前学習：テキスト13課の単語調べをしておくこと。（0.5時間）
事後学習：動詞avoirの複合過去の活用をまとめておくこと。（0.5時間）
第12回：13課 おいしかったです
事前学習：Dialogueを訳し、CDを聞いて発音練習をしておくこと。（0.5時間）
事後学習：半過去についてまとめておくこと。テキストp59の練習問題を解く（0.5時間）
第13回：14課 昨日何をしましたか？
事前学習：テキスト14課の単語調べをしておくこと。（0.5時間）
事後学習：動詞aller venirの複合過去の活用をまとめておくこと。今日ノートに取った文法事項を確認しておく。（0.5時間）
第14回：14課 ～へ行きました
事前学習：Dialogueを訳す。（0.5時間）
事後学習：テキストp63の練習問題を解く（0.5時間）
第15回：メールを送って下さい
事前学習：テキスト15課の単語調べをしておくこと。（0.5時間）
事後学習：命令形と近接未来についてまとめておくこと。（0.5時間）
第16回：定期試験

授業実施方法（面接授業・遠隔授業）

原則として「面接授業」を行います。
ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。
遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成　績　評　価　方　法

定期試験（70％）平常点（30％）（平常点は、授業への出席状況・受講態度・課題があった場合の提出状況など総合して判断します。

成　績　評　価　基　準

1）テキストを見て簡単なフランス文が音読できるか。
2）フランス語の動詞の活用と初歩の文法を理解しフランス語に慣れているか。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック

1）授業時の課題に対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
2）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
3）小レポートに対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
4）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
■定期試験時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
5）その他
■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他

実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）

テ　キ　ス　ト　、　参　考　図　書

藤田裕二著『パリ－ボルドー』 朝日出版社

その他（受講上の注意）

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

ドイツ語 a (German a)			担当教員	橋本　武志
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HL−2144	1 単位	1 年前期	演習	選択

<科目区分>　人間生活学部学部共通科目　外国語科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

大学生としての基礎的能力ならびに現代の人間生活の諸課題の解決や支援に当たりうる豊かな教養と確かな知識、技術を学びます

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識･技能　■論理的思考力と創造力　■人間関係形成･社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解･自己管理能力　□諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

資格・免許の要件については学生便覧参照のこと。

授業の内容

ドイツ語の発音と単語、文の構造を学ぶ。

授業の到達目標

ドイツ語のアルファベートの発音、単語の読み方、規則的な動詞変化（現在形）、定冠詞・不定冠詞の格変化を習得し、簡単なドイツ語のあいさつや、ドイツ語の単文をある程度読み、書き、発音することができるようになることを目的とする。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　□グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　□発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等）　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　■その他（ペアワーク）

授業の計画及び授業外の学習方法

第 1 回：Lektion 1　ドイツ語という言語の説明・アルファベート
　　事前学習：テキストのアルファベートのページを読み、CDを聞いて音読しておくこと（0.5時間）
　　事後学習：宿題を完成させておくこと（0.5時間）
第 2 回：Lektion 1　いろいろな単語を発音してみよう 1
　　事前学習：テキストの単語の発音のページを読み、CDを聞いて音読しておくこと（0.5時間）
　　事後学習：宿題を完成させておくこと（0.5時間）
第 3 回：Lektion 1　いろいろな単語を発音してみよう 2（ペアワーク10分）
　　事前学習：テキストのあいさつのページを読み、CDを聞いて音読しておくこと（0.5時間）
　　事後学習：宿題を完成させておくこと（0.5時間）
第 4 回：Lektion 2　動詞の人称変化 1
　　事前学習：テキストの人称変化のページを読み、CDを聞いて音読しておくこと（0.5時間）
　　事後学習：宿題を完成させておくこと（0.5時間）
第 5 回：Lektion 2　動詞の人称変化 2 ・文の作り方
　　事前学習：動詞の不規則な人称変化のページを読み、CDを聞いて音読しておくこと（0.5時間）
　　事後学習：宿題を完成させておくこと（0.5時間）
第 6 回：復習テスト 1
　　事前学習：テキスト・プリントのこれまでのページを読み、復習しておくこと（0.5時間）
　　事後学習：復習テストの間違った箇所を復習し、宿題を完成させておくこと（0.5時間）
第 7 回：Lektion 3　名詞の性
　　事前学習：名詞の性のページを読み、CDを聞いて音読しておくこと（0.5時間）
　　事後学習：宿題を完成させておくこと（0.5時間）
第 8 回：Lektion 3　定冠詞の格変化 1
　　事前学習：定冠詞のページを読み、CDを聞いて音読しておくこと（0.5時間）
　　事後学習：宿題を完成させておくこと（0.5時間）

第９回：Lektion３　定冠詞の格変化２
　　事前学習：定冠詞のページを読み、CDを聞いて音読しておくこと（0.5時間）
　　事後学習：宿題を完成させておくこと（0.5時間）
第10回：Lektion３　不定冠詞の格変化１
　　事前学習：不定冠詞のページを読み、CDを聞いて音読しておくこと（0.5時間）
　　事後学習：宿題を完成させておくこと（0.5時間）
第11回：Lektion３　不定冠詞の格変化２
　　事前学習：不定冠詞のページを読み、CDを聞いて音読しておくこと（0.5時間）
　　事後学習：宿題を完成させておくこと（0.5時間）
第12回：復習テスト２
　　事前学習：テキスト・プリントのこれまでのページを読み、復習しておくこと（0.5時間）
　　事後学習：復習テストの間違った箇所を復習し、宿題を完成させておくこと（0.5時間）
第13回：定冠詞・不定冠詞の復習（混合問題）
　　事前学習：テキスト・プリントの定冠詞・不定冠詞の箇所を復習しておくこと（0.5時間）
　　事後学習：宿題を完成させておくこと（0.5時間）
第14回：Lektion８　形容詞の用法
　　事前学習：形容詞のページを読み、CDを聞いて音読しておくこと（0.5時間）（0.5時間）
　　事後学習：宿題を完成させておくこと（0.5時間）
第15回：これまでのまとめ
　　事前学習：前期授業の復習を行い、わからないところは質問を考えておくこと（0.5時間）
　　事後学習：質問への回答を用いて、定期試験に備え前期の総復習をしておくこと（0.5時間）
第16回：定期試験

授業実施方法（面接授業・遠隔授業）

原則として「面接授業」を行います。
ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。
遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成　績　評　価　方　法

定期試験（70%）、平常点（30%）
（平常点は、授業への参加状況、毎回の小テストへの取り組みなどを総合して判断します）

成　績　評　価　基　準

・ドイツ語の発音の規則を理解し、知らない単語にも応用することができるか。
・動詞変化の基本的規則を理解し、自分で動詞を変化させることができるか。
・英語にはない動詞の「性および格」について理解し、冠詞変化規則を自分で応用することができるか。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック

１）授業時の課題に対するフィードバックについて
　■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
２）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
　■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
３）小レポートに対するフィードバックについて
　□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
４）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
　□定期試験時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
５）その他
　□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他

実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）

テ キ ス ト 、 参 考 図 書

（１）西村祐子　ルドルフ・ペトリック　『新・行ってみたいなドイツ』　郁文堂　2013年
（２）在間進　『新キャンパス独和辞典』　郁文堂 2011年
初学者には電子辞書は不向きなので、書籍版を購入すること。すでに書籍版の辞書を持っている人は、自分の持っている辞書でもよい。辞書の種類や使い方については初回の授業で説明する。

その他（受講上の注意）

・語学の授業は、出席しないことには身につかない。できるかぎり出席すること。
・毎回練習問題を宿題として出すので、必ずやってきてから授業に臨むこと。毎回の授業は宿題の答え合わせから始める。間違った問題は必ず復習しておくこと。

オ フ ィ ス ア ワ ー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

ドイツ語b (German b)			担当教員	橋本　武志
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HL−2145	1単位	1年後期	演習	選択

<科目区分>　人間生活学部学部共通科目　外国語科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

大学生としての基礎的能力ならびに現代の人間生活の諸課題の解決や支援に当たりうる豊かな教養と確かな知識、技術を学びます

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識･技能　■論理的思考力と創造力　■人間関係形成･社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解･自己管理能力　□諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

資格・免許の要件については学生便覧参照のこと。

授業の内容

ドイツ語aにつづいて、ドイツ語のやや高次な初級文法について学ぶ。

授業の到達目標

ドイツ語の定冠詞・不定冠詞類の格変化、前置詞、助動詞を習得し、英語とは異なるドイツ語独自の「ワク構造」について理解する。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　□グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　□発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等）　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　■その他（ペアワーク）

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：ドイツ語aの復習
　事前学習：ドイツ語aで学んだ総復習をしておくこと（0.5時間）
　事後学習：授業で用いた資料の間違い直しをしておくこと（0.5時間）
第2回：Lektion 5　定冠詞類・不定冠詞類1（ペアワーク）
　事前学習：テキストの定冠詞類のページを読み、CDを聞いておくこと（0.5時間）
　事後学習：宿題を完成させておくこと（0.5時間）
第3回：Lektion 5　定冠詞類・不定冠詞類2（ペアワーク）
　事前学習：テキストの不定冠詞類のページを読み、CDを聞いておくこと（0.5時間）
　事後学習：宿題を完成させておくこと（0.5時間）
第4回：Lektion 4　名詞の複数形
　事前学習：テキストの複数名詞のページを読み、CDを聞いておくこと（0.5時間）
　事後学習：宿題を完成させておくこと（0.5時間）
第5回：Lektion 3　人称代名詞
　事前学習：テキストの人称代名詞のページを読み、CDを聞いておくこと（0.5時間）
　事後学習：宿題を完成させておくこと（0.5時間）
第6回：小テスト1
　事前学習：小テストにむけてこれまでの復習をしておくこと（0.5時間）
　事後学習：小テスト1の間違い直しをし、宿題を完成させておくこと（0.5時間）
第7回：Lektion 4　不規則動詞
　事前学習：テキストの不規則動詞のページを読み、CDを聞いておくこと（0.5時間）
　事後学習：宿題を完成させておくこと（0.5時間）
第8回：Lektion 6　前置詞1
　事前学習：テキストの3格、4格支配の前置詞のページを読み、CDを聞いておくこと（0.5時間）
　事後学習：宿題を完成させておくこと（0.5時間）

第９回：Lektion６　前置詞２
　　事前学習：テキストの３・４格支配の前置詞のページを読み、CDを聞いておくこと（0.5時間）
　　事後学習：宿題を完成させておくこと（0.5時間）
第10回：Lektion６　前置詞３
　　事前学習：テキストの前置詞の縮約形のページを読み、CDを聞いておくこと（0.5時間）
　　事後学習：宿題を完成させておくこと（0.5時間）
第11回：Lektion７　話法の助動詞とワク構造
　　事前学習：テキストの話法の助動詞のページを読み、CDを聞いておくこと（0.5時間）
　　事後学習：宿題プリントを完成させておくこと（0.5時間）
第12回：小テスト２
　　事前学習：小テストにむけてこれまでの復習をしておくこと（0.5時間）
　　事後学習：小テスト１の間違い直しをし、宿題を完成させておくこと（0.5時間）
第13回：Lektion10　動詞の３基本形と過去形
　　事前学習：テキストの動詞の過去形のページを読み、CDを聞いておくこと（0.5時間）
　　事後学習：返却された小テスト２の間違い直しをし、宿題を完成させておくこと（0.5時間）
第14回：Lektion11　現在完了形とワク構造１
　　事前学習：テキストの現在完了形のページを読み、CDを聞いておくこと（0.5時間）
　　事後学習：宿題を完成させておくこと（0.5時間）
第15回：Lektion11　現在完了形とワク構造２
　　事前学習：テキストの現在完了形のページを読み、CDを聞いておくこと（0.5時間）
　　事後学習：宿題を完成させておくこと（0.5時間）
第16回：定期試験

授業実施方法（面接授業・遠隔授業）

原則として「面接授業」を行います。
ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。
遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成　績　評　価　方　法

定期試験（70%）、平常点（30%）
（平常点は、授業への参加状況、受講態度、小テストへの取り組みを総合して判断します）

成　績　評　価　基　準

・冠詞類、動詞の不規則変化、前置詞、話法の助動詞について理解し、ある程度応用できるか。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック

１）授業時の課題に対するフィードバックについて
　■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
２）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
　■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
３）小レポートに対するフィードバックについて
　□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
４）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
　□定期試験時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
５）その他
　□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他

実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）

テキスト、参考図書

（１）西村祐子　ルドルフ・ペトリック　『新・行ってみたいなドイツ』　郁文堂　2013年
（２）在間　進　『新キャンパス独和辞典』　郁文堂 2011年
初学者には電子辞書は不向きなので、書籍版を購入すること。すでに書籍版の辞書を持っている人は、自分の持っている辞書でもよい。辞書の種類や使い方については初回の授業で説明する。

その他（受講上の注意）

・語学の授業は、出席しないことには身につかない。できるかぎり出席すること。また、私語が多い場合には、その回は欠席扱いにすることがある。
・毎回テキストやプリントの練習問題を宿題として出すので、必ずやってきてから授業に臨むこと。毎回の授業は宿題の答え合わせから始める。間違った問題は必ず復習しておくこと。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

中国語 a (Chinese a)			担当教員	ショウ　ロ
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HL−2146	1 単位	1 年前期	演習	選択

<科目区分>　人間生活学部学部共通科目　外国語科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

大学生としての基礎的能力ならびに現代の人間生活の諸課題の解決や支援に当たりうる豊かな教養と確かな知識、技術を学びます

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□体系的な知識･技能　□論理的思考力と創造力　■人間関係形成･社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解･自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　■キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

資格・免許の要件については学生便覧参照のこと。

授業の内容

10分・発音練習、60分・演習と解説、20分・まとめと質疑応答。中国語の学習を進めていく上で基礎知識を学習し、中国語の検定試験準 4 級のレベルをめざす。

授業の到達目標

1、中国語の発音に関して、表音ローマ字の読み方と綴り方を取得する。
2、中国語の簡略字を正しく読み取れる。
3、基礎単語300語程度を覚える。
4、簡単な日常あいさつ用語30語程度を聞き取れる、応答ができる。
5、簡単な基本文型20語程度を取得し、基本的な事項の確認や、自分の意思を伝えられる。
6、演習会話を通してコミュニケーション能力を高めることを目標とする。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習（PBL）　■討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　□グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　□発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等）　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第 1 回：発音とピンイン 1。一字一音、ピンイン、声調、母音。
　事後学習：録音を聞きながら、発音を練習すること。課題 1（1 時間）
第 2 回：発音とピンイン 2。子音、中国語の数字を言う、よく使う日常挨拶用語Ⅰ。
　事後学習：録音を聞きながら、発音を練習すること。課題 2（1 時間）
第 3 回：発音とピンイン 3。声調の変化、軽声、声調の組合せ。スマートフォン、パソコンに簡体中文の入力を設定する。簡体中文で入力する。
　事後学習：録音を聞きながら、発音を練習すること。練習問題を簡体中文で打って友達に送ってみましょう。課題 3（1 時間）
第 4 回：人称代名詞。判断動詞“是”。
　事後学習：録音を聞きながら、繰り返し発音を練習すること。課題 4（1 時間）
第 5 回：疑問を表わす“吗”。中国語の基本的な語順。
　事前学習：録音を聞きながら、繰り返し発音を練習すること。課題 5。（1 時間）
第 6 回：疑問詞疑問文。名前の尋ね方と答え方。
　事前学習：録音を聞きながら、繰り返し発音を練習すること。課題 6。（1 時間）
第 7 回：動詞“有”。語気助詞“了”。
　事前学習：練習問題を簡体中文で打つ練習。課題 7。（1 時間）
第 8 回：名詞述語文。数量詞の位置。
　事後学習：練習問題を簡体中文で打つ練習。課題 8。（1 時間）
第 9 回：介詞“在〜”。場所を表わす代名詞。
　事後学習：練習問題を簡体中文で打つ練習。課題 9。（1 時間）

第10回：連動文。助動詞“想”。
　　事後学習：練習問題を簡体中文で打つ練習。課題10。（１時間）
第11回：語気助詞“吧”。時刻の言い方。時を表わす言葉。
　　事前学習：練習問題を簡体中文で打つ練習。課題11。（１時間）
第12回：助詞“的”。形容詞述語文。
　　事前学習：練習問題を簡体中文で打つ練習。課題12。（１時間）
第13回：動態助詞“过”。動詞の重ね型。
　　事後学習：練習問題を簡体中文で打つ練習。課題13。（１時間）
第14回：二重目的語。禁止を表わす”别”と”不要”。
　　事前学習：練習問題を簡体中文で打つ練習。課題14。（１時間）
第15回：“的”構文。助動詞“能”。曜日の言い方。
　　事後学習：練習問題を簡体中文で打つ練習。課題15。（１時間）
第16回：定期試験

授業実施方法（面接授業・遠隔授業）

原則として「面接授業」を行います。
ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。
遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成　績　評　価　方　法

定期試験（50%）課題練習の成績（30%）平常点（20%）
（平常点は、授業への参加状況・受講態度、質問用紙の提出状況等を総合して判断します）

成　績　評　価　基　準

１、表音のローマ字の読みと綴りをすることができるか。
２、常用簡略字が読み取れるか。
３、基礎単語300語程度が話せるか。
４、簡単日常あいさつ語を聞き、応答できるか。
５、簡単な言葉で事項の確認や自分の意思を伝えられるか。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック

１）授業時の課題に対するフィードバックについて
　■授業時　□仁大eラーニング　□メール　■その他（遠隔授業実施の場合は仁大eラーニング）
２）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
　■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
３）小レポートに対するフィードバックについて
　■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
４）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
　■定期試験時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
５）その他
　■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他

実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）

テ　キ　ス　ト　、　参　考　図　書

徐　送迎　著　『活躍しよう！　中国語（初級）』　朝日出版社

その他（受講上の注意）

積極的に授業に参加すること。授業中に大声で発声すること。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

中国語b (Chinese b)			担当教員	ショウ　ロ
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HL−2147	1単位	1年後期	演習	選択

<科目区分>　人間生活学部学部共通科目　外国語科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

大学生としての基礎的能力ならびに現代の人間生活の諸課題の解決や支援に当たりうる豊かな教養と確かな知識、技術を学びます

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□体系的な知識･技能　□論理的思考力と創造力　■人間関係形成･社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解･自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　■キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

資格・免許の要件については学生便覧参照のこと。

授業の内容

10分・発音練習、60分・演習と解説、20分・まとめと質疑応答。中国語を読むこと、話すことを重点において学習し、中国語の検定試験準4級合格をめざす。

授業の到達目標

1、中国語表音ローマ字による発音ができる。
2、基礎単語500語程度を使って、簡単な中国語の日本語訳と日本語の中国語訳ができる。
3、日常あいさつ用語50語程度を聞き取れる、応答ができる。
4、簡単な基本文型50語程度を利用し、基本的な事項の確認や、自分の意思を自然に伝えられる。
5、演習会話を通してコミュニケーション能力を高めることを目標とする。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　□グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等）　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　■その他（ペアワーク）

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：中国語aの復習Ⅰ。年月日の言い方、中国の祭日の映像を見る。
　事後学習：中国語aの復習プリントを配る、次週に提出すること。（1時間）
第2回：中国語aの復習Ⅱ。基本文型の復習。
　事前学習：日本の四季の紹介文の翻訳。（1時間）
第3回：動量補語。指示代名詞。会話作り及び発表《日本的四季》。（ペアワーク）
　事後学習：友達を紹介する文の作り、次週に提出すること。（1時間）
第4回：挿入語“听说～”。動態助詞“了”。会話作り及び発表《介绍朋友》。（ペアワーク）
　事前学習：中国の有名な都市を調べること。（1時間）
第5回：動詞“喜欢”。助動詞“会”。会話作り及び発表《介绍中国的城市》。（ペアワーク）
　事後学習：自分の趣味に関する文作り、次週に提出すること。（1時間）
第6回：反複疑問文。助動詞“可以”。年月日の言い方。会話作り及び発表《谈爱好》。（ペアワーク）
　事前学習：挨拶用語のプリントを配る、次週に提出すること。（1時間）
第7回：道の尋ね方。時量補語。会話作り及び発表《寒暄交谈》。（ペアワーク）
　事後学習：道を尋ねる文作り、次週に提出すること。（1時間）
第8回：動態助詞“着”。動詞“在”。方位詞。会話作り及び発表《向行人问路》。（ペアワーク）
　事前学習：中国料理の単語を調べること。（1時間）
第9回：結果補語。介詞“离～”。会話作り及び発表《喜欢的菜》。（ペアワーク）
　事前学習：料理を注文する文作り、次週に提出すること。（1時間）
第10回：選択疑問文“（是）A，还是B”。料理を注文する動詞“要”と“来”。会話作り及び発表《在餐厅》。（ペアワーク）
　事後学習：乗り物の乗り方を宿題し、次週に提出すること。（1時間）

第11回：単純方向補語。主述述語文。会話作り及び発表《公共交通》。（ペアワーク）
事前学習：病院での会話文作り、次週に提出すること。（１時間）
第12回：“是～的”構文。介詞“给～”。よく用いる単純方向補語。会話作り及び発表《去医院》。（ペアワーク）
事後学習：日本の生活習慣を調べること。（１時間）
第13回：人民元と日本円。副詞“在”。会話作り及び発表《生活习惯》。（ペアワーク）
事前学習：お土産を買う文作り、次週に提出すること。（１時間）
第14回：比較文“A比B～”。様態補語。会話作り及び発表《买土特产》。（ペアワーク）
事後学習：作文《私がしたい仕事》を題し50字をまとめ、次週に提出すること。（１時間）
第15回：総まとめ。①単語のリレー。②テーマ別の中国語表現のリレー。③中国語を聞いて、動作で答える。（発表）
事後学習：定期試験の準備。（１時間）
第16回：定期試験

授業実施方法（面接授業・遠隔授業）

原則として「面接授業」を行います。
ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。
遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成　績　評　価　方　法

定期試験（50%）　課題練習の成績（30%）　平常点（20%）
（平常点は、授業への参加状況・受講態度、質問用紙の提出状況等を総合して判断します）

成　績　評　価　基　準

１、表音のローマ字による発音ができるか。
２、簡単な中国語と日本語の訳ができるか。
３、簡単日常あいさつ語を聞き、応答できるか。
４、簡単な言葉で事項の確認や自分の意思を伝えられるか。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック

１）授業時の課題に対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
２）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
３）小レポートに対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
４）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
■定期試験時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
５）その他
■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他

実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）

テ　キ　ス　ト　、　参　考　図　書

徐　送迎　著　『活躍しよう！　中国語（初級）』　朝日出版社

その他（受講上の注意）

積極的に授業に参加すること。授業中に大声で発声すること。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

ポルトガル語 a (Portuguese a)			担当教員	坂東　照啓
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HL−2148	1 単位	1 年前期	演習	選択

<科目区分>　人間生活学部学部共通科目　外国語科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

大学生としての基礎的能力ならびに現代の人間生活の諸課題の解決や支援に当たりうる豊かな教養と確かな知識、技術を学びます

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識･技能　■論理的思考力と創造力　■人間関係形成･社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解･自己管理能力　□諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

特記事項なし

授業の内容

ポルトガル語の基礎を習得していく。受講生が初めてポルトガル語に接することを前提に、文字、発音に慣れ親しみ、日常の事柄を表すポルトガル語を習得しつつ、ポルトガル語の基本的な文の仕組みが理解ができるように学習を進める。

授業の到達目標

1．ポルトガル語の聞き取り、発音（・音読）がおおよそでき、基礎語彙を習得し、簡単な日常表現や文章が理解できること。
2．ポルトガル語で自分自身のことや身の回りの（身近な）基本的なことをおおまかに表現できるようになること。
3．ポルトガル語の学習を通して、ブラジル文化の一端に触れ、異文化を客観的・相対的にとらえるきっかけをつかむこと。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　□グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　□発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等）　■実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第 1 回：ポルトガル語の概要とポルトガル語が使用されている国・地域に関する基礎知識
　　事後学習：テキスト該当箇所を読み、復習をすること（1 時間）
第 2 回：文字と発音、あいさつ表現
　　事後学習：テキスト該当箇所を読み、復習をすること（1 時間）
第 3 回：語の音節とアクセント（強勢）。日常基本表現と数詞（1 −10）
　　事後学習：テキスト該当箇所を読み、単語の音読をする（1 時間）
第 4 回：名詞、冠詞、数詞（11 −30）
　　事後学習：テキスト該当箇所を読み、復習をすること（1 時間）
第 5 回：「私」、「あなた」などの代名詞を学び、「〜は〜です」といった文を動詞serを使って表現する
　　事後学習：テキスト該当箇所を読み、復習をすること（1 時間）
第 6 回：動詞ser を使った文章。疑問文、否定文
　　事後学習：テキスト該当箇所を読み、復習をすること（1 時間）
第 7 回：動詞ser を使ったさまざまな表現
　　事後学習：テキスト該当箇所を読み、復習をすること（1 時間）
第 8 回：形容詞と指示詞（1）
　　事後学習：テキスト該当箇所を読み、復習をすること（1 時間）
第 9 回：形容詞と指示詞（2）、所有表現
　　事後学習：テキスト該当箇所を読み、復習をすること（1 時間）
第10回：今学期前半のまとめと、動詞の現在時制・活用
　　事後学習：テキスト該当箇所を読み、復習をすること（1 時間）

第11回：一般動詞の使い方と規則動詞の活用
　　事後学習：テキスト該当箇所を読み、復習をすること（１時間）
第12回：前置詞
　　事後学習：テキスト該当箇所を読み、復習をすること（１時間）
第13回：動詞ir・ter・fazer（１）
　　事後学習：テキスト該当箇所を読み、復習をすること（１時間）
第14回：動詞ir・ter・fazer（２）、疑問詞
　　事後学習：テキスト該当箇所を読み、復習をすること（１時間）
第15回：今学期に学習した事柄のまとめを行い、今後の学習を展望する
　　事後学習：テキスト該当箇所を読み、定期試験に備えた復習をすること（１時間）
第16回：定期試験

授業実施方法（面接授業・遠隔授業）

原則として「面接授業」を行います。
ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。
遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成　績　評　価　方　法

・定期試験（60%）
・平常点（40%）
平常点については、受講態度（授業に積極的に参加していること）、質問用紙への回答状況等を総合して判定します。

成　績　評　価　基　準

１．明瞭に発音されたポルトガル語の聞き取りとおおよその発音（・音読）ができ、基礎語彙を習得して、簡単な日常表現や文章が理解できていること。
２．ポルトガル語で自分自身のことや身の回りの（身近な）ことについて簡単な文を作り、表現できること。
３．自主的、自律的に学習をして授業内容の理解に努め、自分の意見をクラスで共有すること。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック

１）授業時の課題に対するフィードバックについて
　■授業時　　□仁大eラーニング　　□メール　　□その他
２）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
　■授業時　　□仁大eラーニング　　□メール　　□その他
３）小レポートに対するフィードバックについて
　□授業時　　□仁大eラーニング　　□メール　　□その他
４）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
　□定期試験時　　□仁大eラーニング　　□メール　　□その他
５）その他
　□授業時　　□仁大eラーニング　　□メール　　□その他

実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）

テ　キ　ス　ト　、　参　考　図　書

別途提示される教材テキストを入手してください。

辞書は授業で無料で使用できるオンライン辞書を紹介します。当面購入する必要はありません。

その他（受講上の注意）

ブラジルで使用されているポルトガル語を学びます。

本科目の連絡は授業時に加え、e-ラーニングからも行われますので必ずチェックしてください。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

予約をしてください

ポルトガル語b (Portuguese b)			担当教員	坂東　照啓
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HL−2149	1単位	1年後期	演習	選択

<科目区分>　人間生活学部学部共通科目　外国語科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

大学生としての基礎的能力ならびに現代の人間生活の諸課題の解決や支援に当たりうる豊かな教養と確かな知識、技術を学びます

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識･技能　■論理的思考力と創造力　■人間関係形成･社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解･自己管理能力　□諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

特記事項なし

授業の内容

前学期に引き続きポルトガル語の基礎を学び、基本語彙と基本文法に習熟しながら、ポルトガル語の輪郭をつかんでいく。
日本語を母語とする受講生にとってのポルトガル語習得におけるポイントを意識しつつ、ポルトガル語の文章の理解に努め、母語との違いを認識してポルトガル語で自分の伝えたいと思うことを表現できるように学習を進める。

授業の到達目標

1．ポルトガル語の基礎語彙、基本表現を習得し、文章についても複雑な構文でなければ理解できること。
2．明瞭に発音されたポルトガル語を聞き取ることができ、日常の身近なことであれば、多少の間違い、ぎこちなさがあっても表現し、伝えられること。
3．ポルトガル語の学習を通して、ブラジル文化についての理解を深め、さらに日本におけるブラジル人との対話を一例とする異文化コミュニケーションについて考察できるようになること。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　□グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　□発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等）　■実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：前学期において既習の事項を確認し、今学期学習する事柄の概略を提示する
　　事後学習：テキスト該当箇所を読み、復習をすること（1時間）
第2回：動詞poder、querer、日付と曜日の表現、数詞（31−100）（1）
　　事後学習：テキスト該当箇所を読み、復習をすること（1時間）
第3回：動詞poder、querer、日付と曜日の表現、数詞（31−100）（2）
　　事後学習：テキスト該当箇所を読み、復習をすること（1時間）
第4回：動詞estar と現在進行形
　　事後学習：テキスト該当箇所を読み、復習をすること（1時間）
第5回：直説法完全過去（1）、時間表現と数詞の復習
　　事後学習：テキスト該当箇所を読み、復習をすること（1時間）
第6回：直説法完全過去（2）、人称代名詞
　　事後学習：テキスト該当箇所を読み、復習をすること（1時間）
第7回：不定代名詞、不定形容詞。感嘆文
　　事後学習：テキスト該当箇所を読み、復習をすること（1時間）
第8回：直説法不完全過去（1）
　　事後学習：テキスト該当箇所を読み、復習をすること（1時間）
第9回：直説法不完全過去（2）、縮小辞と増大辞
　　事後学習：テキスト該当箇所を読み、復習をすること（1時間）

第10回：今学期前半のまとめ。再帰動詞（1）
　　事後学習：テキスト該当箇所を読み、復習をすること（1時間）
第11回：再帰動詞（2）。直説法現在完了。不規則動詞活用形
　　事後学習：テキスト該当箇所を読み、復習をすること（1時間）
第12回：再帰動詞（3）。比較級と最上級（1）
　　事後学習：テキスト該当箇所を読み、復習をすること（1時間）
第13回：比較級と最上級（2）。数字（101－1000000）
　　事後学習：テキスト該当箇所を読み、復習をすること（1時間）
第14回：既習項目の復習と文法事項の補足
　　事後学習：テキスト該当箇所を読み、復習をすること（1時間）
第15回：これまでのポルトガル語学習の総括と今後のポルトガル語学習について大枠を提示する
　　事後学習：テキスト該当箇所を読み、定期試験に備えた復習をすること（1時間）
第16回：定期試験

授業実施方法（面接授業・遠隔授業）

原則として「面接授業」を行います。
ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。
遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成　績　評　価　方　法

・定期試験（60%）
・平常点（40%）：平常点は、授業に積極的に参加する受講態度、質問用紙への回答状況等を総合して判断します。

成　績　評　価　基　準

1．ポルトガル語の基礎語彙、文の仕組み、基本表現を習得しており、文章についても複雑な構文でなければ理解し、使用できること。
2．ポルトガル語で日常の身近なことであれば、多少の間違い、ぎこちなさがあっても表現し、伝えられること。
3．自主的、自律的に学習をして授業内容の理解に努め、自分の意見をクラスで共有すること。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック

1）授業時の課題に対するフィードバックについて
　■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
2）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
　■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
3）小レポートに対するフィードバックについて
　□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
4）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
　□定期試験時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
5）その他
　□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他

実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）

テ　キ　ス　ト　、　参　考　図　書

・前期と同じ教材テキストを継続使用します。
・辞書に関しては、前期に授業で紹介したオンライン辞書を今期も利用してください。授業時に再度紹介します。

その他（受講上の注意）

・ブラジルで使用されているポルトガル語を学びます。
・来年度のブラジル教育省「外国人のためのポルトガル語検定試験」（CELPE－Bras）の合格認定を目標とし学習を進めます。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

予約をしてください。

情報基礎 (Basic Information Systems)			担当教員	篭谷　隆弘、佐藤　宏隆
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HL−2150	2単位	1年前期	演習	必修

<科目区分>　人間生活学部学部共通科目　情報科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>　教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目（情報機器の操作）

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果（教育目標）

大学生としての基礎的能力ならびに現代の人間生活の諸課題の解決や支援に当たりうる豊かな教養と確かな知識、技術を学びます。

身につけることを目指す社会的・職業的能力（汎用的能力）

■体系的な知識･技能　□論理的思考力と創造力　□人間関係形成･社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解･自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

栄養教諭一種免許状（必修）、小学校教諭一種免許状（必修）、幼稚園教諭一種免許状（必修）、保育士資格（必修）

授業の内容

大学における学習や研究、一般社会における業務を進めるうえで必要となるパーソナルコンピュータの基本的知識及び操作法を身につける。

授業の到達目標

パーソナルコンピュータに関する基礎的な知識と学内情報環境の利用、インターネットやWWW・電子メールの利用について理解できる。
ワープロソフト・表計算ソフト・プレゼンテーションソフトの基本操作およびそれらを用いた文書作成ができる。
タッチタイピングにより別途定める速度での文字入力ができる。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　□グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　□発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等）　□実習、フィールドワーク　■実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：授業の目的・進め方についての説明、学内情報環境の説明、パソコンの基本操作、タッチタイピング（実技）
　事前学習：情報ガイダンスで配布された資料等を確認しておく。（1時間）
　事後学習：授業で行なった内容を再確認し、質問等があれば担当教員もしくは情報サポート室スタッフに問い合わせる。タイピング練習（1時間）
第2回：WWWの利用、e-learningシステム、電子メールの利用、情報倫理（実技）
　事前学習：テキストおよび資料を参考に例題の確認を行う。（1時間）
　事後学習：様々な検索を試す。メールの送受信を試す。タイピング練習（2時間）
第3回：ワープロ（1）文書の作成、編集、印刷（実技）
　事前学習：テキストおよび資料を参考に例題の確認を行う。（1時間）
　事後学習：学習管理システム（LMS）上の課題を行う。タイピング練習（3時間）
第4回：ワープロ（2）表の利用、段落の設定（実技）
　事前学習：テキストおよび資料を参考に例題の確認を行う。（1時間）
　事後学習：学習管理システム（LMS）上の課題を行う。タイピング練習（3時間）
第5回：ワープロ（3）画像や図形の利用（実技）
　事前学習：テキストおよび資料を参考に例題の確認を行う。（1時間）
　事後学習：指定する練習用文書を作成しLMSに提出する。タイピング練習（3時間）
第6回：ワープロ（4）見出しスタイル、ヘッダー・フッター、目次、Excel表の貼り付け（実技）
　事前学習：テキストおよび資料を参考に例題の確認を行う。（1時間）
　事後学習：指定する練習用文書を作成しLMSに提出する。タイピング練習（3時間）
第7回：表計算（1）データ入力と基本的な計算（実技）
　事前学習：テキストおよび資料を参考に例題の確認を行う。（1時間）
　事後学習：指定する練習用文書を作成しLMSに提出する。タイピング練習（3時間）

第８回：表計算（２）関数を使った計算、書式設定（実技）
　　事前学習：テキストおよび資料を参考に例題の確認を行う。（１時間）
　　事後学習：指定する練習用文書を作成しLMSに提出する。タイピング練習（３時間）
第９回：表計算（３）グラフの作成、データの可視化（実技）
　　事前学習：テキストおよび資料を参考に例題の確認を行う。（１時間）
　　事後学習：指定する練習用文書を作成しLMSに提出する。タイピング練習（３時間）
第10回：表計算（４）データベース機能の利用（実技）
　　事前学習：テキストおよび資料を参考に例題の確認を行う。（１時間）
　　事後学習：指定する練習用文書を作成しLMSに提出する。タイピング練習（３時間）
第11回：プレゼンテーション（１）スライド資料の作成と編集（実技）
　　事前学習：テキストおよび資料を参考に例題の確認を行う。（１時間）
　　事後学習：指定する練習用文書を作成しLMSに提出する。タイピング練習（３時間）
第12回：プレゼンテーション（２）効果的な表現（実技）
　　事前学習：テキストおよび資料を参考に例題の確認を行う。（１時間）
　　事後学習：指定する練習用文書を作成しLMSに提出する。タイピング練習（３時間）
第13回：プレゼンテーション（３）スライドショーと配布資料の作成（実技）
　　事前学習：テキストおよび資料を参考に例題の確認を行う。（１時間）
　　事後学習：指定する練習用文書を作成しLMSに提出する。タイピング練習（３時間）
第14回：プレゼンテーション（４）専門分野に関するプレゼンテーション資料の作成（実技）
　　事前学習：発表テーマおよび関連する資料を用意する。（２時間）
　　事後学習：プレゼン資料を作成しLMSに提出する。タイピング練習（５時間）
第15回：模擬試験とまとめ（実技）
　　事前学習：期末試験に向け、これまでの学習内容を振り返る。（２時間）
　　事後学習：模擬試験の自己採点と理解が不十分な部分の再復習（２時間）
第16回：定期試験

授業実施方法（面接授業・遠隔授業）

原則として「面接授業」を行います。
ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。
遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成　績　評　価　方　法

定期試験（約50%）　提出課題（約50%）
なお、タイピング練習においては、別途指定する練習時間以上行い、指定する速度を達成する必要がある。未達成の場合はその程度に応じて減点する。

成　績　評　価　基　準

ワープロ・表計算・プレゼンテーションソフトによる、各種練習課題を提出しているか。
タイピング練習を指定する時間以上行い、指定する速度以上を達成したか。
定期試験にて、指定された様式に従って文書作成が行えるか。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック

１）授業時の課題に対するフィードバックについて
　■授業時　■仁大eラーニング　□メール　□その他
２）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
　■授業時　■仁大eラーニング　□メール　□その他
３）小レポートに対するフィードバックについて
　□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
４）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
　□定期試験時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
５）その他（タッチタイピングに対するフィードバックについて）
　■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他

実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）

テ　キ　ス　ト　、　参　考　図　書

『30時間アカデミック Office2021 Windows 11対応』 実教出版　2022年
教材として、オンラインタイピング練習ソフトを使用する。（詳細は授業時に説明する）
市販のWord、Excel、PowerPoint、Windowsに関連する書籍も参考にすること。

その他（受講上の注意）
この授業ではパソコンの操作が中心となるため、極力授業を欠席しないこと。もし欠席した場合には、授業の進度を確認し次週に備えること。また、課題提出を重視するので、課された課題は必ず提出すること。 また、学習内容に関連する検定・資格の取得をめざすことで、より一層の知識・技術を習得することが望ましい。
オ フ ィ ス ア ワ ー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

データサイエンス基礎 (basics of data science)			担当教員	篭谷　隆弘、佐藤　宏隆
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HL−2151	2単位	1年後期	演習	選択

<科目区分>　人間生活学部学部共通科目　情報科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

大学生としての基礎的能力ならびに現代の人間生活の諸課題の解決や支援に当たりうる豊かな教養と確かな知識、技術を学びます。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識･技能　□論理的思考力と創造力　□人間関係形成･社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解･自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

授業の内容

ICT（情報通信技術）の急速な進化により多種多様で膨大なデータが得られるようになってきている。これらを適切に処理・分析することで新たな知見を導き出すことが可能である。社会のAI（人工知能）やビッグデータの活用に関して理解するとともにデータサイエンスの基礎的な手法を身に付ける。

授業の到達目標

情報通信技術の進歩により社会で起きている変化について理解できる。
データサイエンスの必要性や社会での活用について理解できる。
基本的な統計手法を用いてデータを分析・活用できる。
データを適切に表現できる。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　□グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　□発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等）　□実習、フィールドワーク　■実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：授業の目的・進め方についての説明
　事後学習：授業内容にもとづいて、語句やその意味、自身の考えについてまとめる（2時間）
第2回：社会の移り変わり、情報通信技術の進歩、人工知能（AI）・ビッグデータ
　事前学習：テキストや資料を参考に学習内容を予習する（1時間）
　事後学習：授業内容にもとづいて、語句やその意味、自身の考えについてまとめる（2時間）
第3回：データ活用（データサイエンスの必要性、データ収集、オープンデータ、情報の安全性）
　事前学習：テキストや資料を参考に学習内容を予習する（1時間）
　事後学習：授業内容にもとづいて、語句やその意味、自身の考えについてまとめる（2時間）
第4回：データ分析の活用事例1
　事前学習：テキストや資料を参考に学習内容を予習する（1時間）
　事後学習：授業内容にもとづいて、語句やその意味、自身の考えについてまとめる（2時間）
第5回：データ分析の活用事例2
　事前学習：テキストや資料を参考に学習内容を予習する（1時間）
　事後学習：授業内容にもとづいて、語句やその意味、自身の考えについてまとめる（2時間）
第6回：データ分析の活用事例3
　事前学習：テキストや資料を参考に学習内容を予習する（1時間）
　事後学習：授業内容にもとづいて、語句やその意味、自身の考えについてまとめる（2時間）
第7回：データ分析の活用事例4
　事前学習：テキストや資料を参考に学習内容を予習する（1時間）
　事後学習：演習課題を行い学習管理システム（LMS）に提出する（4時間）

第８回：Excelの基本（相対参照と絶対参照、様々な関数）（実技）
事前学習：テキストや資料を参考に学習内容を予習する（１時間）
事後学習：演習課題を行い学習管理システム（LMS）に提出する（４時間）
第９回：データベース活用の基本（並べ替え、オートフィルター、ピボットテーブル）（実技）
事前学習：テキストや資料を参考に学習内容を予習する（１時間）
事後学習：演習課題を行い学習管理システム（LMS）に提出する（４時間）
第10回：グラフ作成、標本調査（実技）
事前学習：テキストや資料を参考に学習内容を予習する（１時間）
事後学習：演習課題を行い学習管理システム（LMS）に提出する（４時間）
第11回：代表値（平均値, 中央値, 最頻値）、度数分布表、ヒストグラム、ばらつき（実技）
事前学習：テキストや資料を参考に学習内容を予習する（１時間）
事後学習：演習課題を行い学習管理システム（LMS）に提出する（４時間）
第12回：確率、公的統計の使い方（実技）
事前学習：テキストや資料を参考に学習内容を予習する（１時間）
事後学習：演習課題を行い学習管理システム（LMS）に提出する（４時間）
第13回：公的統計を使って実践１（実技）
事前学習：テキストや資料を参考に学習内容を予習する（１時間）
事後学習：演習課題を行い学習管理システム（LMS）に提出する（４時間）
第14回：公的統計を使って実践２（実技）
事前学習：テキストや資料を参考に学習内容を予習する（１時間）
事後学習：演習課題を行い学習管理システム（LMS）に提出する（３時間）
第15回：まとめ、復習課題（実技）
事前学習：これまでの学習内容について振り返り自身の理解度を確認する（１時間）
事後学習：演習課題を行い学習管理システム（LMS）に提出する（３時間）
第16回：定期試験

授業実施方法（面接授業・遠隔授業）

原則として「面接授業」を行います。
ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。
遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成　績　評　価　方　法

定期試験（約50%）　提出課題（約50%）

成　績　評　価　基　準

データサイエンス・AI・ビッグデータについて理解しているか。
表計算ソフトを用いてデータ分析の演習課題を行い、正しい内容となっているか。
定期試験にて、与えられたデータにもとづいて適切に分析・評価・表現ができるか。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック

１）授業時の課題に対するフィードバックについて
■授業時　■仁大eラーニング　□メール　□その他
２）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
■授業時　■仁大eラーニング　□メール　■その他（Teams）
３）小レポートに対するフィードバックについて
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
４）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
□定期試験時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
５）その他
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他

実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）

テ　キ　ス　ト　、　参　考　図　書

『はじめの第一歩 基礎からはじめる データサイエンス』 noa出版　2022年
その他教材として、学習管理システム上で資料提示を行う。
市販のExcel、統計学に関連する書籍も参考にすること。

その他（受講上の注意）
この授業ではパソコンの操作が中心となるため、極力授業を欠席しないこと。もし欠席した場合には、授業の進度を確認し次週に備えること。また、課題提出を重視するので、課された課題は必ず提出すること。また学習した内容に関連する幅広い知識を獲得したり、理解が不十分な点は質問して解決するよう心掛けるなど、授業に対して主体的に取り組むこと。
オ フ ィ ス ア ワ ー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

基礎演習(健康栄養学科) (First－year Seminar)			担当教員	尼子　克己、野村　卓正、髙木　康之、 長岡　純子、新井田裕樹、森　　恵見
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HL−2160	2単位	1年前期	演習	必修

<科目区分>　人間生活学部学部共通科目　修学基礎・キャリア形成科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

大学生としての基礎的能力ならびに現代の人間生活の諸課題の解決や支援に当たりうる豊かな教養と確かな知識、技術を学ぶ

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□体系的な知識･技能　□論理的思考力と創造力　■人間関係形成･社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
■自己理解･自己管理能力　□諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　■キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

授業の内容

大学生としての最初の1年は、4年間にわたる学修をスムーズに開始できるための重要な期間として位置づけられる。このため、まず学科の教育目標および教育課程を理解するとともに、主体的な学びを軸とする大学での修学や将来のための基盤づくりに重点を置き、授業を展開する。

授業の到達目標

・履修に関する担当教員の助言・指導を受け、自己の学習計画・履修計画を作成できるようにする。
・附属図書館において図書館利用に関するセミナーを受講し、文献の検索方法等を理解し、学習や研究に必要な図書館利用法を身につける。
・管理栄養士の教育目標や専門分野の基礎的な事柄について学び、学習に対する積極的な態度を身につける。さらに職業観・倫理観・人間力を培う。
・本演習を通して学生と教員、学生相互間のコミュニケーションを活性化する。

アクティブ・ラーニング

■課題解決型学習（PBL）　■討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等）　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：Teamsの活用、自己紹介等、地域学習に向けて
　事前学習：（2時間）　事前配布資料をもとに、Teamsへの接続確認を行う。
　事後学習：（2時間）　自己紹介用プロフィールや面談シートの作成、地域学習に向けて調査する。
第2回：越前市　地域学習
　事前学習：（2時間）　決められたグループで見学先を調査し検討する。
　事後学習：（2時間）　立ち寄った見学先について紹介コメントを作成し提出する。
第3回：越前市　地域学習
　事前学習：（2時間）　今後半年間の目標を考える。
　事後学習：（2時間）　授業内で作成した計画をもとに自らの生活を見直す。
第4回：学内交流会
　事前学習：（2時間）　決められたグループでの交流会に向けた準備を行う。
　事後学習：（2時間）　交流会における先輩からの聞き取りやアドバイスについてまとめる。
第5回：個別面談
　事前学習：（2時間）　授業や学生生活について個人的に質問・相談したいことをまとめておく。
　事後学習：（2時間）　受けたアドバイスを大学生活にどのように役立てるか考える。
第6回：図書館ガイダンス
　事前学習：（2時間）　任意の授業の参考図書の検索テーマを検討する。
　事後学習：（2時間）　図書館ガイダンスで学習した内容を思い出し、理解度チェックで理解度を確認する。
第7回：ポートフォリオの書き方、国試対策教育ツールESSの使い方
　事後学習：（2時間）　ポートフォリオを仕上げる事、ESSで問題を解くなどで使い方を修得する。

第８回：レポートの書き方①
　　事前学習：（２時間）　与えられた課題について、自らレポートを書いてみる。
　　事後学習：（２時間）　授業で学修したポイントにそってレポートを修正してみる。
第９回：レポートの書き方②
　　事前学習：（２時間）　第８回で学んだレポート作成について復習する。
　　事後学習：（４時間）　学修をとおして学んだことの振り返り、授業前後でのレポートの改善の確認を行う。
第10回：管理栄養士の役割と福井県・越前市の健康政策
　　事前学習：（２時間）　日本栄養士会のHPなどを参考に、管理栄養士の役割について調べる。
　　事後学習：（２時間）　福井県の健康政策について、福井県のHPなどを参考に授業内容を振り返る。
第11回：越前市の取り組みについて、PBL①
　　事前学習：（２時間）　越前市の健康課題について調べる。
　　事後学習：（４時間）　配布資料や講義内容から、越前市の取り組みについて把握し、まとめる。
第12回：PBL②　まとめ
　　事前学習：（２時間）　授業10～11回目で学修した内容について調べる。
　　事後学習：（４時間）　グループワークの内容の振り返り確認を行い、班員と共有しまとめる。
第13回：講演会　OB・OGによる管理栄養士の仕事・やりがいについての講演
　　事後学習：（２時間）　聞いた話の内容を整理し提出する。
第14回：講演会　近隣で働く管理栄養士による講演
　　事前学習：（２時間）　授業13回目の講演内容を振り返り学修する。
　　事後学習：（２時間）　聞いた話の内容を整理し提出する。
第15回：まとめ（担当教員による総括及び自己の学習計画の振返り、ポートフォリオ記入）
　　事後学習：（２時間）　本科目から学んだことや前期の学生生活の振り返りも含めて、今後の目標に向けた改善点ついて考える。

授業実施方法（面接授業・遠隔授業）

原則として「面接授業」を行います。
ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。
遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成　績　評　価　方　法

レポート（70%）　平常点（30%）
平常点は、授業への参加状況・受講態度、質問用紙の提出状況等を総合して判断する。

成　績　評　価　基　準

基本的なアカデミックスキル（学習に対する積極的な態度・技術、レジュメの作成・報告、討論方法）が修得できているか。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック

１）授業時の課題に対するフィードバックについて
　□授業時　□仁大eラーニング　□メール　■その他（第15回に各担当教員による総括を実施）
２）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
　□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
３）小レポートに対するフィードバックについて
　□授業時　□仁大eラーニング　□メール　■その他（提出されたレポートなどを踏まえ、必要に応じて面談を行う）
４）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
　□定期試験時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
５）その他
　□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他

実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）

テ　キ　ス　ト、参　考　図　書

必要に応じて資料を配布する。

その他（受講上の注意）

少人数に分け、担当教員を置く。
この担当教員は、１年間の指導教員として、本授業終了後も引き続き指導や助言を行う。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

基礎演習(子ども教育学科) (First−year Seminar)			担当教員	中野　研也、高野　秀晴
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HL−2160	2単位	1年前期	演習	必修

<科目区分>　人間生活学部学部共通科目　修学基礎・キャリア形成科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

大学生としての基礎的能力ならびに現代の人間生活の諸課題の解決や支援に当たりうる豊かな教養と確かな知識、技術を学びます。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□体系的な知識･技能　□論理的思考力と創造力　■人間関係形成･社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
■自己理解･自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　■キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

保育士資格(必修)

授業の内容

大学4年間の学生生活、さらにはその後の人生をどう生きるかについて、学生一人ひとりが責任をもって方向を確立していくための助言・指導を行う。担当教員による専門分野の基礎的なことがらについて演習形式で授業を行い、大学生活の方向付けを模索する。また、本演習を通して学生と教員、学生相互間のコミュニケーションを活性化することをねらいとする。

授業の到達目標

・レポート作成方法や授業ノートの取り方を知ることができる。
・図書館の利用方法や文献検索方法を知り、学習や研究に必要な図書を利用できる。
・大学、学科の教育課程、教育制度、授業形態について理解している。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習(PBL)　□討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等)　■グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等)　■発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等)　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

(各授業の詳細については、全体ガイダンスにおいて説明する。)
第1回：全体ガイダンス(オリエンテーション)を通して、本授業の内容や達成すべき目標について理解する。
　事前学習：学生便覧を読み、学科の教育課程、教育制度、履修方法について理解し、質問項目をまとめておく。(2時間)
　事後学習：授業内容、学生便覧を踏まえて、自己の学習計画・理由計画を見直す。(2時間)
第2回：大学での学び方(ノートのとり方を中心に)
　事前学習：これまで受講した他の授業を踏まえて、受講の仕方、ノートの取り方、学習の仕方について質問項目をまとめておく。(2時間)
　事後学習：授業内容を踏まえて、自分の受講についての反省点、改善点をまとめる。(2時間)
第3回：個人面談①、または、図書館ガイダンス①
　事前学習：自己認識シートの必要事項を記入し、今後の学習における抱負をまとめておく。(2時間)
　事後学習：指導教員との面談で指摘されたことを踏まえて、今後の学修課題をまとめる。(2時間)
第4回：個人面談②、または、図書館ガイダンス②
　事前学習：大学の図書館のHPを閲覧し、利用方法を理解した上で質問項目をまとめておく。(2時間)
　事後学習：ガイダンスを踏まえて、関心のある分野の書籍等を検索して借りる等、図書館を利用する方法を復習する。(2時間)
第5回：大学での学び方(ICTの活用を中心に)
　事前学習：ICTについて調べておく。(2時間)
　事後学習：授業内容を整理し、関連項目をインターネット等で調べる。(2時間)
第6回：大学での学び方(文章の書き方を中心に)
　事前学習：大学で求められる文章表現のあり方について調べておく。(2時間)
　事後学習：授業内容を整理し、関連項目をインターネット等で調べる。(2時間)

第７回：専門分野の基礎学習（グループワーク）
　　事前学習：インターネット等の情報を参照し、グループで検討するテーマを考えておく。（２時間）
　　事後学習：授業内容を整理し、関連項目をインターネット等で調べる。（２時間）
第８回：大学での学び方（理数系分野の学び方を中心に）
　　事前学習：事前に配布された演習問題を解き、質問項目をまとめておく。（２時間）
　　事後学習：授業内容を整理し、演習問題の見直しをする。（２時間）
第９回：大学での学び方（レポートの書き方を中心に）
　　事前学習：出典の書き方や著作権について調べておく。（２時間）
　　事後学習：授業内容を整理し、関連項目についてインターネット等で調べる。（２時間）
第10回：専門分野の基礎学習（グループワーク）
　　事前学習：グループテーマの関連項目について調べておく。（２時間）
　　事後学習：授業内容を整理し、関連項目についてインターネット等で調べる。（２時間）
第11回：先輩の話を聞き、学びのイメージを持つ
　　事前学習：先輩に質問したいことを考えておく。（２時間）
　　事後学習：授業内容を整理し、関連項目についてインターネット等で調べる。（２時間）
第12回：大学での学び方（常識を疑う）
　　事前学習：これまで受講した他の授業を振り返り、質問項目をまとめておく。（２時間）
　　事後学習：授業内容を整理し、関連項目についてインターネット等で調べる。（２時間）
第13回：地域学習
　　事前学習：地域に関連する事項について調べておく。（２時間）
　　事後学習：授業内容を整理し、関連項目についてインターネット等で調べる。（２時間）
第14回：専門分野の基礎学習（発表・プレゼンテーション）
　　事前学習：それぞれのテーマについて調べておく。（２時間）
　　事後学習：授業内容を整理し、関連項目についてインターネット等で調べる。（２時間）
第15回：専門分野の基礎学習（発表・プレゼンテーション）
　　事前学習：それぞれのテーマについて調べておく。（２時間）
　　事後学習：授業内容を整理し、前期の自己の学習態度を振り返り、反省点や改善点をまとめる。（２時間）

授業実施方法（面接授業・遠隔授業）

原則として「面接授業」を行います。
ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。
遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成　績　評　価　方　法

レポート、課題等（80%）、平常点（20%）
（平常点は、授業への参加状況・受講態度、質問用紙の提出状況等を総合して判断します。）

成　績　評　価　基　準

・レポート作成方法や授業ノートの取り方を知ることができたか。
・図書館の利用方法や文献検索方法を知り、学習や研究に必要な図書利用方法を身につけることができたか。
・大学、学科の教育課程、教育制度、授業形態について理解できたか。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック

１）授業時の課題に対するフィードバックについて
　■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
２）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
　■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
３）小レポートに対するフィードバックについて
　■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
４）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
　□定期試験時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
５）その他
　□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他

実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）

テ　キ　ス　ト、参　考　図　書

各回の授業で資料を配布するので、特定のテキストは設定しない。

その他（受講上の注意）

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

基礎化学 (Basic Chemistry)			担当教員	尼子　克己
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−D−2101	2単位	1年前期	講義	選択

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科専門科目　基礎分野

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

基礎研究および食品開発ができる能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識･技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成･社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解･自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

食品衛生管理者・食品衛生監視員任用資格（選択）

授業の内容

管理栄養士養成課程で学ぶ内容には、ヒトのからだの中で起こっている現象や、調理における食品の変化など、化学的思考を理解の前提としたものが少なくない。本講義では高校で化学（化学基礎）を学ばなかった、あるいは十分に理解できなかった者に配慮し、栄養学・生理学・生化学にかかわる化学の根本事項について取り扱う。また、化学が人間生活でどのように役立ち、化学の考え方がどこで使われているかについて適宜触れ、専門基礎科目への導入として、以降の学修とのつながりをイメージさせる。

授業の到達目標

① 原子・分子の構造を理解し、それに基づいて元素の持つおおよその性質、化学結合を説明できる。
② モルの概念を理解し、モル濃度を基礎とした計算ができる。
③ 化学反応式をベースとした化学反応の量的関係について、自身で取り扱うことができる。
④ 酸塩基反応、酸化還元反応の成り立ちを理解し、そこにある基本的な数量関係を取り扱うことができる。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習（PBL）　■討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　□グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　□発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等）　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：イントロダクション、物質の状態と分離
　事前学習：事前に実施したプレイスメントテストの内容を復習しておくこと。テキストの1章1～4節を読み、指定したビデオ教材を事前に閲覧し、疑問点を明らかにしておく。（2時間）
　事後学習：課題提出に必要となるMicrosoft365等、学習に必要な動画受信、電子的な課題提出に必要な操作について、指定されたテスト用送受信を行い、トラブルが生じた場合は情報サポート室や担当教員に問い合わせ、解決する。講義時に配布する演習問題に取り組むこと。（2時間）
第2回：元素と元素記号
　事前学習：テキストの1章5～7節を読み、指定したビデオ教材を事前に閲覧し、疑問点を明らかにしておく。（2時間）
　事後学習：講義時に配布する演習問題に取り組むこと。（2時間）
第3回：原子の構造
　事前学習：テキストの2章1～3節を読み、指定したビデオ教材を事前に閲覧し、疑問点を明らかにしておく。（2時間）
　事後学習：講義時に配布する演習問題に取り組むこと。（2時間）
第4回：周期表と電子配置
　事前学習：テキストの2章4節を読み、指定したビデオ教材を事前に閲覧し、疑問点を明らかにしておく。（2時間）
　事後学習：講義時に配布する演習問題に取り組むこと。（2時間）

第５回：原子と原子のつながり（１）
事前学習：テキストの２章５～６節を読み、指定したビデオ教材を事前に閲覧し、疑問点を明らかにしておく。（２時間）
事後学習：講義時に配布する演習問題に取り組むこと。（２時間）
第６回：原子と原子のつながり（２）
事前学習：テキストの３章１～２節を読み、指定したビデオ教材を事前に閲覧し、疑問点を明らかにしておく。（２時間）
事後学習：講義時に配布する演習問題に取り組むこと。（２時間）
第７回：分子の形と原子のまわりの電子の状態
事前学習：テキストの３章３～４節を読み、指定したビデオ教材を事前に閲覧し、疑問点を明らかにしておく。（２時間）
事後学習：講義時に配布する演習問題に取り組むこと。（２時間）
第８回：化学式と化学物質の読み方
事前学習：テキストの３章５節を読み、指定したビデオ教材を事前に閲覧し、疑問点を明らかにしておく。（２時間）
事後学習：講義時に配布する演習問題に取り組むこと。（２時間）
第９回：モルと化学反応式
事前学習：テキストの３章６～７節を読み、指定したビデオ教材を事前に閲覧し、疑問点を明らかにしておく。（２時間）
事後学習：講義時に配布する演習問題に取り組むこと。（２時間）
第10回：濃度の表しかた
事前学習：事前に配布する例題とその解説を読み、指定したビデオ教材を事前に閲覧し、疑問点を明らかにしておく。（２時間）
事後学習：講義時に配布する演習問題に取り組むこと。（２時間）
第11回：酸と塩基
事前学習：テキストの４章１～３節を読み、指定したビデオ教材を事前に閲覧し、疑問点を明らかにしておく。（２時間）
事後学習：講義時に配布する演習問題に取り組むこと。（２時間）
第12回：中和とｐＨ
事前学習：テキストの４章４～５節を読み、指定したビデオ教材を事前に閲覧し、疑問点を明らかにしておく。（２時間）
事後学習：講義時に配布する演習問題に取り組むこと。（２時間）
第13回：中和の量的関係、中和滴定
事前学習：テキストの４章６～７節を読み、指定したビデオ教材を事前に閲覧し、疑問点を明らかにしておく。（２時間）
事後学習：講義時に配布する演習問題に取り組むこと。（２時間）
第14回：参加と還元の定義、酸化数
事前学習：テキストの５章１～２節を読み、指定したビデオ教材を事前に閲覧し、疑問点を明らかにしておく。（２時間）
事後学習：講義時に配布する演習問題に取り組むこと。（２時間）
第15回：酸化剤・還元剤、酸化還元滴定
事前学習：テキストの５章３～４節を読み、指定したビデオ教材を事前に閲覧し、疑問点を明らかにしておく。（２時間）
事後学習：講義時に配布する演習問題に取り組むこと。（２時間）

授業実施方法（面接授業・遠隔授業）

原則として「面接授業」を行います。
ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。
遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成　績　評　価　方　法

授業後に課した課題20％、および小テストの成績（期間中５回程度実施する）80％で評価する。定期試験は実施しない。

成　績　評　価　基　準

① 原子・分子の構造を理解し、それに基づいて元素の持つおおよその性質、化学結合を説明できるか。
② モルの概念を理解し、モル濃度を基礎とした計算ができるか。
③ 化学反応式をベースとした化学反応の量的関係について、自身で取り扱うことができるか。
④ 酸化還元反応の成り立ちを理解し、そこにある基本的な数量関係を取り扱うことができるか。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

1）授業時の課題に対するフィードバックについて
■授業時　■仁大eラーニング　□メール　□その他
2）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　■その他（講義や補足事項を記録したビデオをMicrosoft Streamで閲覧可能とする）
3）小レポートに対するフィードバックについて
■授業時　■仁大eラーニング　□メール　□その他（課題のヒントになる練習問題の解説動画を作成配信する。）
4）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
□定期試験時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
5）その他
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他

実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)

テキスト、参考図書

テキスト：『高校 とってもやさしい化学基礎 改訂版』 柿澤壽著、旺文社　2022年
参考書：
高校教科傍用の図説。例えば『ダイナミックワイド図説化学』東京書籍　等。
野島高彦著 『はじめて学ぶ化学』 化学同人　2012年
中川徹夫著 『化学の基礎～元素記号からおさらいする化学の基本』 化学同人　2010年
辻・中村編著　栄養科学シリーズNEXT『基礎化学』 講談社サイエンティフィック　2010年
田島編著 『基礎からのやさしい化学～ヒトの健康と栄養を学ぶために』 建帛社　2011年

その他(受講上の注意)

・管理栄養士養成課程で必要と考えられる基本的な計算能力は、本科目における演習と多くの部分で重複する。このため、それが身についていない場合は授業外に時間を設定し、別途指導することがあるので留意すること。
・別途開講する「分析化学」とのセットで、「有機化学」分野を除く化学の全体像を網羅することになるので、できる限り両方を受講することを強く勧める。
・遅刻・欠席は、理解の妨げになるので慎むこと。
・質問や相談はオフィスアワーに限らず随時受け付ける。

オフィスアワー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

基礎生物学 (Basic Biology)			担当教員	西出　和彦
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−D−2102	2単位	1年前期	講義	選択

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科専門科目　基礎分野

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

基礎研究および食品開発ができる能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識･技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成･社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解･自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

食品衛生管理者・食品衛生監視員任用資格（選択）

授業の内容

管理栄養士課程で必要となる生物学全般にわたる知識について概説する。本講義は大学で学ぶ他の科目の礎となるよう、概ね高校生物の内容を（高校で生物を履修していない学生にも配慮して）網羅しつつ、履修者の習熟状況に応じて講義内容を調整しながら進めていく。

授業の到達目標

生物学における基本的な用語の意味を説明できる。「生物とは何か」という問いに対して，生物の特徴を体系的に整理して答えることができる。また単なる知識の羅列ではなく、背景にある実験・観察結果に基づいて生物学的現象を説明できる。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　□グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　□発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等）　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　■その他（Google Formsを用いて，理解度のチェック）

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：生物とは何か？
　事前学習：生物とは何か関する予習課題に取り組む（2時間）。
　事後学習：生物の特徴に関する演習問題を解く（2時間）。
第2回：生物の多様性と共通性
　事前学習：細胞に関する予習課題に取り組む（2時間）。
　事後学習：細胞に関する演習問題を解く（2時間）。
第3回：生命活動とエネルギー
　事前学習：代謝に関する予習課題に取り組む（2時間）。
　事後学習：代謝に関する演習問題を解く（2時間）。
第4回：呼吸と光合成
　事前学習：呼吸と光合成に関する予習課題に取り組む（2時間）。
　事後学習：呼吸と光合成に関する演習問題を解く（2時間）。
第5回：生物と遺伝子
　事前学習：遺伝子とそのはたらきに関する予習課題に取り組む（2時間）。
　事後学習：遺伝子とそのはたらきに関する演習問題を解く（2時間）。
第6回：遺伝情報の分配
　事前学習：DNAの複製に関する予習課題に取り組む（2時間）。
　事後学習：DNAの複製に関する演習問題を解く（2時間）。
第7回：遺伝情報とタンパク質の合成（転写・翻訳）
　事前学習：遺伝子の発現に関する予習課題に取り組む（2時間）。
　事後学習：遺伝子の発現に関する演習問題を解く（2時間）。

第８回：前半のまとめ
　　事前学習：前半の授業に関する課題に取り組む（２時間）。
　　事後学習：前半の授業に関する演習問題を解く（２時間）。
第９回：体内環境と情報伝達
　　事前学習：体内環境と情報伝達に関する予習課題に取り組む（２時間）。
　　事後学習：体内環境と情報伝達に関する演習問題を解く２時間）。
第10回：自律神経系・内分泌系による調節
　　事前学習：自律神経系・内分泌系による調節に関する予習課題に取り組む（２時間）。
　　事後学習：自律神経系・内分泌系による調節に関する演習問題を解く（２時間）。
第11回：血糖量の調節
　　事前学習：血糖量の調節に関する予習課題に取り組む（２時間）。
　　事後学習：血糖量の調節に関する演習問題を解く（２時間）。
第12回：自然免疫
　　事前学習：自然免疫に関する予習課題に取り組む（２時間）。
　　事後学習：自然免疫に関する演習問題を解く（２時間）。
第13回：適応免疫
　　事前学習：適応免疫に関する予習課題に取り組む（２時間）。
　　事後学習：適応免疫に関する演習問題を解く（２時間）。
第14回：病気と免疫
　　事前学習：病気と免疫に関する予習課題に取り組む（２時間）。
　　事後学習：病気と免疫に関する演習問題を解く（２時間）。
第15回：全体のまとめ
　　事前学習：全体を通してのまとめ（２時間）。
　　事後学習：総復習・振り返り（２時間）。
第16回：定期試験

授業実施方法（面接授業・遠隔授業）

原則として「面接授業」を行います。
ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。
遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成　績　評　価　方　法

授業で課すレポート（20%）、定期試験（80%）

成　績　評　価　基　準

（１）生物学に関する語句を適切に使用して，生物における現象を説明できるか。
（２）学習内容を体系的に理解して，生物の特徴を説明し，論理的にまとめることができるか。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック

１）授業時の課題に対するフィードバックについて
　■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
２）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
　■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
３）小レポートに対するフィードバックについて
　■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
４）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
　□定期試験時　□仁大eラーニング　□メール　■その他（Teamsを利用してフィードバックする）
５）その他（個々の質問に対するフィードバックについて）
　□授業時　□仁大eラーニング　□メール　■その他（Teamsを利用して個々にフィードバックする）

実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）

テ　キ　ス　ト　、　参　考　図　書

『生物学　第２版』OpenStax（https://openstax.org/details/books/biology-2e）
『改訂　新編　生物基礎』東京書籍
『マンガ　生物学に強くなる（ブルーバックス）』講談社
『改訂レッツトライノート　生物基礎』　東京書籍

その他（受講上の注意）
・eラーニングシステムによってテキストに相当する資料を配布する。 ・高校で生物（生物基礎・生物）を学ばなかった、あるいは十分に理解できなかった者は、可能な限り受講することが望ましい。
オ フ ィ ス ア ワ ー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

分析化学 (Analytical Chemistry)			担当教員	尼子　克己
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−D−2103	2単位	1年後期	講義	選択

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科専門科目　基礎分野

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

基礎研究および食品開発ができる能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識･技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成･社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
□自己理解･自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

食品衛生管理者・食品衛生監視員任用資格（選択）

授業の内容

高校化学（未修者、理解が十分でない者を含む）と大学との橋渡しを意識しながら、「基礎化学」に引き続いて化学変化の数量的解釈について講義する。さらに、生体に関わる成分を科学的に「計測する」方法について講義する。生化学・食品化学・栄養化学などで用いられる実験手法について、それらの原理、得られる情報、正確な測定を行うために注意すべき点などを重点的に採り上げる。

授業の到達目標

基礎研究や食品開発における機器分析を、適切に行い解釈できるようになるための素養を身につける。具体的には、①化学反応における定量関係を理解している。②化学反応速度、および化学平衡の基礎理論について理解している。③各種滴定の原理を理解し、その利用に必要な計算ができる。④光の性質と、その分析化学における利用について理解している。⑤栄養科学・バイオサイエンス分野で頻用される分析化学の手法について、その概要と意義について説明できる。がその目標となる。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　□グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　□発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等）　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：有効数字とその取扱い
　事前学習：指定したビデオ教材を事前に閲覧し、疑問点を明らかにしておく。（2時間）
　事後学習：講義時に配布する演習問題に取り組むこと。（2時間）
第2回：熱化学方程式と反応熱
　事前学習：事前に配布した講義資料、および指定したビデオ教材を事前に閲覧し、疑問点を明らかにしておく。（2時間）
　事後学習：講義時に配布する演習問題に取り組むこと。（2時間）
第3回：ヘスの法則、結合エネルギー
　事前学習：事前に配布した講義資料、および指定したビデオ教材を事前に閲覧し、疑問点を明らかにしておく。（2時間）
　事後学習：講義時に配布する演習問題に取り組むこと。（2時間）
第4回：反応速度
　事前学習：事前に配布した講義資料、および指定したビデオ教材を事前に閲覧し、疑問点を明らかにしておく。（2時間）
　事後学習：講義時に配布する演習問題に取り組むこと。（2時間）
第5回：アレニウスの式
　事前学習：事前に配布した講義資料、および指定したビデオ教材を事前に閲覧し、疑問点を明らかにしておく。（2時間）
　事後学習：サブテキスト、および講義時に配布する演習問題に取り組むこと。（2時間）

第６回：化学平衡と平衡定数
事前学習：事前に配布した講義資料、および指定したビデオ教材を事前に閲覧し、疑問点を明らかにしておく。（２時間）
事後学習：講義時に配布する演習問題に取り組むこと。（２時間）
第７回：平衡の計算、ル・シャトリエの原理
事前学習：事前に配布した講義資料、および指定したビデオ教材を事前に閲覧し、疑問点を明らかにしておく。（２時間）
事後学習：講義時に配布する演習問題に取り組むこと。（２時間）
第８回：電離平衡とpH
事前学習：事前に配布した講義資料、および指定したビデオ教材を事前に閲覧し、疑問点を明らかにしておく。（２時間）
事後学習：講義時に配布する演習問題に取り組むこと。（２時間）
第９回：緩衝液、ヘンダーソン・ハッセルバルヒの式
事前学習：事前に配布した講義資料、および指定したビデオ教材を事前に閲覧し、疑問点を明らかにしておく。（２時間）
事後学習：講義時に配布する演習問題に取り組むこと。（２時間）
第10回：ギブスの自由エネルギー変化と反応が進む方向
事前学習：事前に配布した講義資料、および指定したビデオ教材を事前に閲覧し、疑問点を明らかにしておく。（２時間）
事後学習：講義時に配布する演習問題に取り組むこと。（２時間）
第11回：酵素
事前学習：事前に配布した講義資料、および指定したビデオ教材を事前に閲覧し、疑問点を明らかにしておく。（２時間）
事後学習：講義時に配布する演習問題に取り組むこと。（２時間）
第12回：コロイド溶液の性質、分離と濃縮・精製、クロマトグラフィー
事前学習：事前に配布した講義資料、および指定したビデオ教材を事前に閲覧し、疑問点を明らかにしておく。（２時間）
事後学習：講義時に配布する演習問題に取り組むこと。（２時間）
第13回：種々の滴定：酸塩基・酸化還元・キレート・沈殿
事前学習：事前に配布した講義資料、および指定したビデオ教材を事前に閲覧し、疑問点を明らかにしておく。（２時間）
事後学習：講義時に配布する演習問題に取り組むこと。（２時間）
第14回：光を使う分析法：光の性質・吸光度・ランベルト・ベールの法則
事前学習：事前に配布した講義資料、および指定したビデオ教材を事前に閲覧し、疑問点を明らかにしておく。（２時間）
事後学習：講義時に配布する演習問題に取り組むこと。（２時間）
第15回：最新の生命科学分析法：質量分析・DNAシークエンサー
事前学習：事前に配布した講義資料、および指定したビデオ教材を事前に閲覧し、疑問点を明らかにしておく。（２時間）
事後学習：サブテキスト、および講義時に配布する演習問題に取り組むこと。（２時間）
第16回：定期試験

授業実施方法（面接授業・遠隔授業）

原則として「面接授業」を行います。
ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。
遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成　績　評　価　方　法

授業後に課す課題および小テスト（５回程度実施する）50％と、定期試験50％により評価する。

成　績　評　価　基　準

①化学反応における定量関係を理解しているか。②化学反応速度、および化学平衡の基礎理論について理解しているか。③各種滴定の原理を理解し、その利用に必要な計算ができるか。④光の性質と、その分析化学における利用について理解しているか。⑤栄養科学・バイオサイエンス分野で頻用される分析化学の手法について、その概要と意義について説明できるか。⑥関数電卓やそれと同等の機能を持つソフトウェアを用いた、栄養科学・バイオサイエンス分野で用いられる計算を実行できるか。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

1）授業時の課題に対するフィードバックについて
■授業時　■仁大eラーニング　□メール　□その他
2）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
■授業時　■仁大eラーニング　□メール　■その他（講義や補足事項を記録したビデオをOffice365内で閲覧可能とする）
3）小レポートに対するフィードバックについて
■授業時　■仁大eラーニング　□メール　■その他（課題のヒントとなる練習問題の解説動画を作成し配信する。）
4）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
□定期試験時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
5）その他
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他

実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)

テキスト、参考図書

授業資料となるプリントを配布する。
参考図書：『バイオ分析化学実験法』Kent他著、伊藤監訳、丸善株式会社、2006年
『絶対わかる分析化学』（絶対わかる化学シリーズ）　斎藤・坂本著、講談社サイエンティフィック、2007年
『分析化学』（化学はじめの一歩シリーズ５）　角田・渡辺著、化学同人、2014年
『コンパクト分析化学』　脇田久伸・横山拓史　三共出版　2013年
『すべて分析科学者がお見通しです！』　津村ゆかり他　技術評論社　2011年。
高校「化学」の教科書・参考書・問題集も理解の助けとなる。

その他(受講上の注意)

オフィスアワー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

生命科学 (Life Science)			担当教員	髙木　康之
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−D−2105	2単位	1年後期	講義	選択

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科専門科目　基礎分野

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

基礎研究および食品開発ができる能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識･技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成･社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
□自己理解･自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

授業の内容

生命現象の基本的な仕組みや知識を習得し、科学的な事実や考察からその現象を理解し探求できる能力を養う。

授業の到達目標

・細胞の基本的な構造と機能を説明することができる。
・生体分子について説明することができる。
・生命現象の基本的なしくみを分子レベルで理解することができる。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　□グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　□発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等）　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：生命のはじまり
　事前学習：教科書（p.1－p.9）を読み、質問事項をまとめておくこと（2時間）
　事後学習：講義内容をノートにまとめておくこと（2時間）
第2回：細胞の基本的な構造と機能
　事前学習：教科書（p.10－p.18）を読み、質問事項をまとめておくこと（2時間）
　事後学習：講義内容をノートにまとめておくこと（2時間）
第3回：生体分子Ⅰ①（アミノ酸とタンパク質）
　事前学習：教科書（p.19－p.32）を読み、質問事項をまとめておくこと（2時間）
　事後学習：講義内容をノートにまとめておくこと（2時間）
第4回：生体分子Ⅰ②（核酸）
　事前学習：教科書（p.33－p.38）を読み、質問事項をまとめておくこと（2時間）
　事後学習：講義内容をノートにまとめておくこと（2時間）
第5回：生体分子Ⅱ①（糖質）
　事前学習：教科書（p.39－p.55）を読み、質問事項をまとめておくこと（2時間）
　事後学習：講義内容をノートにまとめておくこと（2時間）
第6回：生体分子Ⅱ②（脂質）
　事前学習：教科書（p.56－p.66）を読み、質問事項をまとめておくこと（2時間）
　事後学習：講義内容をノートにまとめておくこと（2時間）
第7回：タンパク質の構造と機能／小試験①
　事前学習：教科書（p.67－p.81）を読み、質問事項をまとめておくこと（2時間）
　事後学習：講義内容をノートにまとめておくこと（2時間）
第8回：細胞内のエネルギー代謝①（ATPと酸化還元補酵素）
　事前学習：教科書（p.89－p.94）を読み、質問事項をまとめておくこと（2時間）
　事後学習：講義内容をノートにまとめておくこと（2時間）

第９回：細胞内のエネルギー代謝②（糖の酸化的分解とATP生産）
　　事前学習：教科書（p.95－p.100）を読み、質問事項をまとめておくこと（２時間）
　　事後学習：講義内容をノートにまとめておくこと（２時間）
第10回：細胞内のエネルギー代謝③（β酸化）
　　事前学習：教科書（p.104－p.106）を読み、質問事項をまとめておくこと（２時間）
　　事後学習：講義内容をノートにまとめておくこと（２時間）
第11回：細胞の増殖①（細胞死、がん）／小試験②
　　事前学習：教科書（p.145－p.153）を読み、質問事項をまとめておくこと（２時間）
　　事後学習：授業内容を復習し、ノートにまとめておくこと（２時間）
第12回：細胞の増殖②（クローン動物）
　　事前学習：教科書（p.154－p.156）を読み、質問事項をまとめておくこと（２時間）
　　事後学習：授業内容を復習し、ノートにまとめておくこと（２時間）
第13回：細胞のさまざまな機能①（生体防御と免疫①：免疫）
　　事前学習：教科書（p.167－p.172）を読み、質問事項をまとめておくこと（２時間）
　　事後学習：授業内容を復習し、ノートにまとめておくこと（２時間）
第14回：細胞のさまざまな機能②（生体防御と免疫②：免疫反応が引き起こす病気）
　　事前学習：教科書（p.173－p.178）を読み、質問事項をまとめておくこと（２時間）
　　事後学習：授業内容を復習し、ノートにまとめておくこと（２時間）
第15回：生物の進化と多様性
　　事前学習：教科書（p.179－p.187）を読み、質問事項をまとめておくこと（２時間）
　　事後学習：授業内容を復習し、ノートにまとめておくこと（２時間）
第16回：定期試験

授業実施方法（面接授業・遠隔授業）

原則として「面接授業」を行います。
ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。
遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成　績　評　価　方　法

定期試験（70%）、課題レポート（20%）、平常点（10%）
（平常点は、授業への参加状況、受講態度を総合して判断する）

成　績　評　価　基　準

・細胞の基本的な構造と機能を説明することができるか。
・生体分子について説明することができるか。
・生命現象の基本的なしくみを分子レベルで理解できているか。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック

１）授業時の課題に対するフィードバックについて
　■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
２）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
　■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
３）小レポートに対するフィードバックについて
　■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
４）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
　□定期試験時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
５）その他
　□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他

実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）

テキスト、参考図書

畠山智光、小田達也・『はじめて学ぶ生命科学の基礎』・化学同人・2024年

その他（受講上の注意）

・課題レポートは、提出期限を守ること。期限後の提出は減点の対象となる（提出期限後は受領しない場合がある）。

オフィスアワー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

解剖生理学 (Anatomical Physiology)			担当教員	齋藤　正一
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−A−2110	2単位	1年前期	講義	必修

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科専門科目　専門基礎分野

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

栄養管理を行い、チーム医療の一員として貢献できる能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識･技能　□論理的思考力と創造力　□人間関係形成･社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解･自己管理能力　□諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

管理栄養士国家試験受験資格（必修）、栄養士免許（必修）、食品衛生管理者・食品衛生監視員任用資格（選択）

授業の内容

正常な人体のしくみを、その構成単位である細胞レベルから組織、器官、器官系レベルまで、構造と機能との密接な関連のもとに、体系的に理解できるよう教授する。個体として人体が行う食事、運動、休養などの基本的生活活動の機構、並びに環境変化に対する対応機構も講義する。

授業の到達目標

ヒトが食物を摂り、それを体内に取り込み、身体の形成、生命の維持に利用してゆく過程を中心にして、関連する人体の構造と機能を理解し、説明することができる。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　□グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　□発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等）　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：細胞
　事前学習：授業前にテキスト（解剖生理学 第1章1－5）を読み質問事項をまとめておく事（2時間）
　事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事（2時間）
第2回：組織と器官
　事前学習：授業前にテキスト（解剖生理学第1章6,7）を読み質問事項をまとめておく事（2時間）
　事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。解剖生理学のテキストも参照する事。（2時間）
第3回：内部環境の恒常性（ディスカッション）
　事前学習：授業前に配布された資料の空所を確認し、質問事項をまとめておく事（2時間）
　事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。テキストも参照する事。（2時間）
第4回：消化器系の構造と機能
　事前学習：授業前にテキストの該当箇所を読み質問事項をまとめておく事（2時間）
　事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。解剖生理学のテキストも参照する事。（2時間）
第5回：循環器系の構造と機能
　事前学習：授業前にテキストの該当箇所を読み質問事項をまとめておく事（2時間）
　事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。解剖生理学のテキストも参照する事。（2時間）
第6回：腎・尿路系の構造と機能
　事前学習：授業前にテキストの該当箇所を読み質問事項をまとめておく事（2時間）
　事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。解剖生理学のテキストも参照する事。（2時間）

第７回：内分泌器官と分泌ホルモン
事前学習：授業前にテキストの該当箇所を読み質問事項をまとめておく事（２時間）
事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。解剖生理学のテキストも参照する事。（２時間）
第８回：神経系の構造と機能
事前学習：授業前にテキストの該当箇所を読み質問事項をまとめておく事（２時間）
事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。解剖生理学のテキストも参照する事。（２時間）
第９回：感覚器系（聴覚、味覚、嗅覚、触覚）
事前学習：授業前にテキストの該当箇所を読み質問事項をまとめておく事（２時間）
事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。（２時間）
第10回：呼吸器系の構造と機能
事前学習：授業前にテキストの該当箇所を読み質問事項をまとめておく事（２時間）
事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。解剖生理学のテキストも参照する事。（２時間）
第11回：運動器系の構造と機能
事前学習：授業前にテキストトの該当箇所を読み質問事項をまとめておく事（２時間）
事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。解剖生理学のテキストも参照する事。（２時間）
第12回：生殖器系の構造と機能
事前学習：授業前にテキストの該当箇所を読み質問事項をまとめておく事（２時間）
事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。解剖生理学のテキストも参照する事。（２時間）
第13回：血液・造血器・リンパ系の構造と機能
事前学習：授業前にテキストの該当箇所を読み質問事項をまとめておく事（２時間）
事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。解剖生理学のテキストも参照する事。（２時間）
第14回：免疫と生体防御
事前学習：授業前にテキストの該当箇所を読み質問事項をまとめておく事（２時間）
事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。解剖生理学のテキストも参照する事。（２時間）
第15回：まとめ
事前学習：授業前に第１回から第14回までに配布された資料、問題を見直し、不明な点をまとめておく事（２時間）
事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。（２時間）
第16回：定期試験

授業実施方法（面接授業・遠隔授業）

原則として「面接授業」を行います。
ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。
遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成　績　評　価　方　法

定期試験（80%）、平常点（20%）　割合は授業形態、試験形態により変わる事があります。
（平常点は、授業への参加状況・受講態度・小テストの成績等を総合して判断します）

成　績　評　価　基　準

ヒトが食物を摂り、それを体内に取り込み、身体の形成、生命の維持に利用してゆく過程を中心にして、関連する人体の構造と機能を理解し、説明することができる。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック

１）授業時の課題に対するフィードバックについて
□授業時　■仁大eラーニング　□メール　□その他
２）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
３）小レポートに対するフィードバックについて
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
４）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
■定期試験時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
５）その他
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他

実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）
経歴：（医師） 実務経験と授業内容との関連性：（病院での実務経験を活かし、人体の構造と機能がどのように密接に関連しているのかを理解できるように教授する。また正常な個体として人体が行う食事、運動、休養などの基本的生活活動の機構、並びに環境変化に対する対応機構も実際の傷病者での回復経験等もふまえて解説する。）
テキスト、参考図書
サクセス管理栄養士・栄養士養成講座 解剖生理学・病理学　第一出版 栄養科学イラストレイテッド 解剖生理学 人体の構造と機能 改訂第３版　羊土社 講義時にプリントを配布する。
その他（受講上の注意）
講義中の私語は厳重に禁止し、減点対象とする。疑問点や不明点があればすぐに質問すること。
オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

解剖生理学実験 (Experiments in Anatomical Physiology)			担当教員	鳴瀬　碧
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−E−2111	1単位	1年後期	実験	必修

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科専門科目　専門基礎分野

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

コミュニケーション能力、論理的思考力、判断力ならびに表現力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識･技能　■論理的思考力と創造力　■人間関係形成･社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
□自己理解･自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

管理栄養士国家試験受験資格（必修）、栄養士免許（必修）、食品衛生管理者・食品衛生監視員任用資格（選択）

授業の内容

生体組織の形態と生体機能についての学習と理解。
人体の構造と機能について組織観察、血液、呼吸および循環に関する実験、消化実験、感覚器に関する実験を通して理解する。
動物の生命維持および代謝産物の生産活動に対する制御機構や栄養素の生体における生理作用について理解する。

授業の到達目標

・人体の構造について細胞単位から系統的に説明ができる。
・各器官系の構造と機能について説明ができる。
・消化吸収のしくみについて説明ができる。
・成長と栄養素の関わりについて説明ができる。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習（PBL）　■討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　□発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等）　□実習、フィールドワーク　■実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：ガイダンスおよび人体構造の系統的理解･人体構造に関する（講義とDVD視聴による系統的理解）
第2回：組織の観察①（胃・十二指腸）（グループワーク、実験、実技）
第3回：組織の観察②（顎下腺･膵臓）（グループワーク、実験、実技）
第4回：消化に関する実験①（唾液腺の種類によるアミラーゼ活性の差）（グループワーク、実験、実技）
第5回：消化に関する実験②（胃液と膵液によるたんぱく質と脂質の消化）（グループワーク、実験、実技）
第6回：呼吸と循環に関する実験（体力テスト・運動負荷試験）
第7回：ラットの成長試験①（ガイダンス・飼料作成・解剖・臓器の観察）（グループワーク、実験、実技）
第8回：ラットの成長試験②（まとめ）、前半の総合理解とディスカッション（グループワーク、討議）
第9回：組織の観察③（横紋筋・血球）（グループワーク、実験、実技）
第10回：血液に関する実験①（血球数・ヘモグロビン濃度・ヘマトクリット値）（グループワーク、実験、実技）
第11回：血液に関する実験②（血液凝固と線溶現象）（グループワーク、実験、実技）
第12回：組織の観察④（肝臓･腎臓）（グループワーク、実験、実技）
第13回：尿に関する実験（グループワーク、実験、実技）
第14回：組織の観察⑤（生殖器）（グループワーク、実験、実技）
第15回：福井大学医学部との連携授業（人体の機能と構造の総合理解）（見学実習、グループワーク、討議）
第16回：定期試験
予習として、教科書の各回に関連する頁を読み、あらかじめ実験手順を確認し、疑問点を考えておくこと。復習については、授業中に指示する。

授業実施方法(面接授業・遠隔授業)

原則として「面接授業」を行います。
ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。
遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成　績　評　価　方　法

定期試験および授業中の復習テスト(30%)、レポート(50%)、平常点(20%)
(平常点は、授業への参加状況、授業中の態度、動物飼育時の当番活動も含めて総合評価する。)

成　績　評　価　基　準

・人体の構造と機能について細胞単位から系統的に理解できているか。
・筋・骨格系、神経系、消化器系、血液・血管系、循環器系、呼吸器系、泌尿器系、生殖器系、内分泌系、感覚器系について、各々の器官系を形成する器官の構造と機能について理解できているか。
・運動時の身体機能の変化、恒常性の維持について理解できているか。
・栄養素の消化吸収のしくみについて理解できているか。
・成長と栄養素の関わりについて理解できているか。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

1)授業時の課題に対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
2)事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
3)小レポートに対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
4)定期試験(レポート試験を含む)に対するフィードバックについて
□定期試験時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
5)その他
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他

実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)

テ　キ　ス　ト　、　参　考　図　書

青峰正裕他編　『イラスト解剖生理学実験　第3版』　東京数学社　2018年
志村二三夫他編　『栄養科学イラストレイテッド演習版：解剖生理学ノート－人体の構造と機能－(改訂第2版)』　羊土社　2014年(ワークブック)
その他、必要に応じて資料等をプリントして配布する。

その他(受講上の注意)

・実験室内では白衣および上履き着用など注意事項を必ず守ること。
・実験は2～3名のグループで行なう。
・組織の観察では、指定のスケッチブック(500円程度)を使用すること。(事前に購入の指示有り)
・色鉛筆、関数電卓を用意すること。
・毎回、1年生前期開講の「解剖生理学」のテキストを持参すること。
・4月または5月に体力測定を実施し，第3回の運動生理に関する実験の基礎データとする。実施日は新入生ガイダンス時または基礎演習の時間に連絡する。
・その他、各回の実験で準備が必要な事項に関しては、第1回のガイダンスで指示する。
・課題レポートなどは、提出期限を守ること。提出遅延は減点の対象となる。また、提出期限後は受領しない場合があるので注意すること。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

病理学 (Pathology)			担当教員	齋藤　正一
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−A−2116	2単位	1年後期	講義	必修

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科専門科目　専門基礎分野

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

栄養管理を行い、チーム医療の一員として貢献できる能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識･技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成･社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解･自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

管理栄養士国家試験受験資格（必修）、食品衛生管理者・食品衛生監視員任用資格（選択）

授業の内容

総論的事項として炎症、腫瘍などの発病機構および疾患診断・治療の概要を理解し、各論的事項では、各臓器、各器官別の疾病の成因、病態、診断、治療、予防等を体系的に理解できるように教授する。あわせて、各種疾病に対する食事療法の意義および応用についての知識を深めるよう講義する。

授業の到達目標

各臓器、各器官別の疾病の発症機構、病態、診断を理解し、臨床栄養学を学ぶための基礎を身に着け、管理栄養士国家試験に対応できる知識と考え方を習得する。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　□グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　□発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等）　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：加齢・疾患に伴う変化（加齢、疾患に伴う変化、個体の死）
　事前学習：授業前にテキストの該当箇所を読み質問事項をまとめておく事（2時間）
　事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。（2時間）
第2回：疾患診断の概要（問診・診察、主な症候、臨床検査）
　事前学習：授業前にテキストの該当箇所を読み質問事項をまとめておく事（2時間）
　事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。（2時間）
第3回：疾患治療の概要（治療計画、治療の方法、末期患者の治療）
　事前学習：授業前にテキストの該当箇所を読み質問事項をまとめておく事（2時間）
　事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。（2時間）
第4回：糖尿病
　事前学習：授業前にテキストの該当箇所を読み質問事項をまとめておく事（2時間）
　事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。（2時間）
第5回：脂質異常症、高尿酸血症・痛風
　事前学習：授業前にテキストの該当箇所を読み質問事項をまとめておく事（2時間）
　事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。（2時間）
第6回：消化器系疾患
　事前学習：授業前にテキストの該当箇所を読み質問事項をまとめておく事（2時間）
　事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。（2時間）

第７回：循環器系疾患
事前学習：授業前にテキストの該当箇所を読み質問事項をまとめておく事（２時間）
事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。（２時間）
第８回：腎・尿路系疾患
事前学習：授業前にテキストの該当箇所を読み質問事項をまとめておく事（２時間）
事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。（２時間）
第９回：内分泌系疾患
事前学習：授業前にテキストの該当箇所を読み質問事項をまとめておく事（２時間）
事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。（２時間）
第10回：神経系疾患
事前学習：授業前にテキストの該当箇所を読み質問事項をまとめておく事（２時間）
事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。（２時間）
第11回：呼吸器系疾患
事前学習：授業前にテキストの該当箇所を読み質問事項をまとめておく事（２時間）
事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。（２時間）
第12回：運動器系疾患
事前学習：授業前にテキストの該当箇所を読み質問事項をまとめておく事（２時間）
事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。（２時間）
第13回：生殖器系・血液系疾患
事前学習：授業前にテキストの該当箇所を読み質問事項をまとめておく事（２時間）
事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。（２時間）
第14回：免疫・アレルギー系疾患
事前学習：授業前にテキストの該当箇所を読み質問事項をまとめておく事（２時間）
事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。（２時間）
第15回：感染症
事前学習：授業前にテキストの該当箇所を読み質問事項をまとめておく事（２時間）
事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。（２時間）
第16回：定期試験

授業実施方法（面接授業・遠隔授業）

原則として「面接授業」を行います。
ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。
遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成　績　評　価　方　法

定期試験（80％）、平常点（20％）
（平常点は、授業への参加状況・受講態度・小テストの成績等を総合して判断します）

成　績　評　価　基　準

疾患に伴う変化、各臓器、各器官別の疾病の発症機構、病態、診断、および各種疾病を理解し、説明できる。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック

１）授業時の課題に対するフィードバックについて
□授業時　■仁大eラーニング　□メール　□その他
２）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
３）小レポートに対するフィードバックについて
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
４）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
■定期試験時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
５）その他
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他

実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）
テキスト、参考図書
サクセス管理栄養士・栄養士養成講座　解剖生理学・病理学
その他（受講上の注意）
講義中の私語は厳重に禁止し、減点対象とする。疑問点や不明点があればすぐに質問すること。
オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

微生物学 (Microbiology and Immunology)			担当教員	野村　卓正
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−D−2119	2単位	1年前期	講義	必修

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科専門科目　専門基礎分野

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

基礎研究および食品開発ができる能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識･技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成･社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
□自己理解･自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

管理栄養士国家試験受験資格（必修）、食品衛生監視員･食品衛生管理者任用資格（選択）

授業の内容

環境中に無数に存在する微生物（細菌･ウイルス･真菌･原虫など）という生命の形態や性状を理解する。
微生物がヒトの健康や生活に及ぼす有害性と有益性について理解する。
微生物感染宿主における生体防御（免疫）応答について理解する。
食品の変質における微生物の作用を理解する。

授業の到達目標

管理栄養士養成課程において「微生物」について学ぶ【意義】を理解する。

【総論Ⅰ】
①－１生物の進化と多様性を理解し、比較生物学的な見地から生物の体のつくりとはたらきを概説できる。
①－２原核細胞と真核細胞の特徴を説明できる。
②細菌の微生物学的特徴（構造と増殖条件）を説明できる。
③真菌（カビ類･酵母類･キノコ類）の微生物学的特徴（構造と増殖条件）を概説できる。
④ウイルスの微生物学的性状（構造と増殖条件）を説明できる。
⑤寄生虫の微生物学的性状（分類と生活環）を説明できる。

【総論Ⅱ】
⑥微生物の増殖条件を説明できる。
⑦微生物の代謝（解糖系）を説明できる。
⑧微生物の代謝（TCA回路）を説明できる。
⑨微生物の代謝（発酵系）を説明できる。

【食品微生物学】
⑩主な食品群について主要な一次汚染微生物を列挙し、取扱い上留意すべき点を説明できる。
⑪食品の変質（腐敗）における微生物の作用を説明できる。
⑫食品の変質（発酵）における微生物の作用を説明できる。
⑬主な発酵食品について、原料と発酵微生物の組合せを説明できる。

【臨床微生物学】
主な感染症の要因となる病原体およびその感染経路を分類できる。
感染経路ごとの感染予防法を説明できる。
各種微生物（真菌･細菌･ウイルス･寄生虫）の病原性とそれによって生じる病態を概説できる。
細菌の外毒素と内毒素について説明できる。
原虫類･蠕虫類の分類および生活史（ライフサイクル）、感染経路と感染疫学的意義を概説できる。

生体防御機構における免疫系の特徴（特異性、多様性、寛容、記憶）を概説できる。
免疫反応に関わる組織と細胞および分子群を説明できる。
自然免疫と獲得免疫の違いを説明できる。

微生物感染症における免疫応答の特徴を概説できる。
免疫寛容の維持機構とその破綻によるアレルギー発症の機序を概説できる。
アナフィラキシーの症候と診断･治療法を概説できる。
炎症の分類、組織形態学的変化と経時的変化を概説できる。
エンドトキシンショックと全身性炎症性反応症候群（SIRS）について概説できる。
下痢症、食中毒を起こす病原体を列挙し、診断と治療の基本を説明できる。
院内感染の病因となる病原体、薬剤耐性菌を列挙し、対策を説明できる。
日和見感染症を概説できる。
新興感染症･再興感染症および輸入感染症を列挙できる。

アクティブ・ラーニング

■課題解決型学習（PBL）　■討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　□発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等）　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第１回：微生物学序論：微生物と食品・感染症との関わり
事前学習：第１章Ａ（ｐ１～ｐ４）を読み、「微生物学の歴史」の概要を把握する。（１時間）
事後学習：微生物と人間生活との関わりについてまとめる。（２時間）
学習セルフマネジメント・シートに基づき、当該科目を履修する「目的」と「目標」を明確に把握する。（１時間）

第２回：微生物学総論①：／【小試験①】
事前学習：第１章Ａ（ｐ１～ｐ４）を読み、「微生物の種類と分類」の概要を把握する。（１時間）
事後学習：【小試験①】で不正解だった問題を中心にノートを加筆し、満点になるまで繰り返し受験する。（１時間）
「生物の進化と微生物の分類」について整理し、ノートにまとめる。（２時間）
第３回：微生物学総論②：真正細菌（分類と構造）／【小試験②】
事前学習：第２章Ｂ（p12～p13）／Ｃ（p21～22）を読み、「真正細菌の構造」の概要を把握する。（１時間）
事後学習：【小試験②】で不正解だった問題を中心にノートを加筆し、満点になるまで繰り返し受験する。（１時間）
「真正細菌の分類と構造」について整理し、ノートにまとめる。（２時間）
第４回：微生物学総論③：真菌（カビ･酵母）／【小試験③】
事前学習：第２章Ｂ（p13～p15）／Ｃ（p22）を読み、「真菌の構造」の概要を把握する。（１時間）
事後学習：【小試験③】で不正解だった問題を中心にノートを加筆し、満点になるまで繰り返し受験する。（１時間）
「真菌（カビ･酵母）の構造と生活環」を類型化し、ノートにまとめる。（２時間）
第５回：微生物学総論④：ウイルス／【小試験④】
事前学習：第２章Ｂ（p16～p17）／Ｃ（p23）を読み、「ウイルスの増殖」の概要を把握する。（１時間）
事後学習：【小試験④】で不正解だった問題を中心にノートを加筆し、満点になるまで繰り返し受験する。（１時間）
「ウイルスの増殖方式」を類型化し、ノートにまとめる。（２時間）

第６回：微生物学総論⑤：微生物の代謝①（基礎知識）／【小試験⑤】
事前学習：第２章Ｄ（p27～p28）を読み、「代謝系」の概要を把握する。（１時間）
事後学習：【小試験⑤】で不正解だった問題を中心にノートを加筆し、満点になるまで繰り返し受験する。（１時間）
「代謝系」について整理し、ノートにまとめる。（２時間）
第７回：微生物学総論⑥：微生物の代謝②（解糖系）／【小試験⑥】
事前学習：第２章Ｄ（p27～p28）を読み、「解糖系」の概要を把握する。（１時間）
事後学習：【小試験⑥】で不正解だった問題を中心にノートを加筆し、満点になるまで繰り返し受験する。（１時間）
「解糖系」について整理し、ノートにまとめる。（２時間）
第８回：微生物学総論⑦：微生物の代謝③（TCA回路・電子伝達系）／【小試験⑦】
事前学習：第２章Ｄ（p28～p30）を読み、「TCA回路・電子伝達系」の概要を把握する。（１時間）
事後学習：【小試験⑦】で不正解だった問題を中心にノートを加筆し、満点になるまで繰り返し受験する。（１時間）
「TCA回路・電子伝達系」について整理し、ノートにまとめる。（２時間）
第９回：微生物学総論⑧：微生物の代謝④（発酵系）／【小試験⑧】事前学習：第２章Ｄ（p27～p28）を読み、「発酵系」の概要を把握する。（１時間）
事後学習：【小試験⑧】で不正解だった問題を中心にノートを加筆し、満点になるまで繰り返し受験する。（１時間）
「発酵系」について整理し、ノートにまとめる。（２時間）

第10回：食品微生物学①：食品の変質（腐敗）／【小試験⑨】
事前学習：第６章Ａ（p125～p130）を読み、「食品の腐敗・変敗」の概要を把握する。（１時間）
事後学習：【小試験⑨】で不正解だった問題を中心にノートを加筆し、満点になるまで繰り返し受験する。（１時間）
「腐敗における食品成分の変化」を類型化し、ノートにまとめる。（２時間）
第11回：食品微生物学②：食品の変質（発酵）／【小試験⑩】
事前学習：第６章Ｃ（p133～p145）を読み、「微生物利用食品」の概要を把握する。（１時間）
事後学習：【小試験⑩】で不正解だった問題を中心にノートを加筆し、満点になるまで繰り返し受験する。（１時間）
「発酵における食品成分の変化」を類型化し、ノートにまとめる。（２時間）
第12回：食品微生物学③：発酵食品／【小試験⑪】
事前学習：第６章Ｃ（p133～p145）を読み、「微生物利用食品」の概要を把握する。（１時間）
事後学習：【小試験⑪】で不正解だった問題を中心にノートを加筆し、満点になるまで繰り返し受験する。（１時間）
「発酵の種類と分類」を類型化し、ノートにまとめる。（２時間）

第13回：食品微生物学④：食品中の微生物の生育因子／【小試験⑫】
事前学習：第２章Ｃ（p18～p20）を読み、「微生物の生育因子」の概要を把握する。（１時間）
事後学習：【小試験⑫】で不正解だった問題を中心にノートを加筆し、満点になるまで繰り返し受験する。（１時間）
「微生物の生育因子」を整理し、ノートにまとめる。（２時間）

第14回：グループ課題①：発酵食品
事前学習：【グループ課題】で調査対象とする発酵食品についてテーマ検討する。（１時間）
事後学習：【グループ課題】をグループで検討する。（３時間）
第15回：グループ課題②：相互評価（グループ間）【討議】
事前学習：【グループ課題】をグループでまとめる。（１時間）
事後学習：【グループ課題】の改善点を検討し、再提出する。（３時間）

第16回：【定期試験】

※授業計画は、学年暦（休日）、進捗状況等により変更する可能性があります。
①小試験は、「自筆ノート」の持込みを認めますので、毎週、授業およびテキストの内容をまとめるよう努めてください。
②グループ課題：「発酵食品」
グループ課題は【課題解決型学習（PBL）】とし、最終的にグループ単位で【成果物】を作成します。
課題：「発酵食品（製品紹介）」
授業と並行して、主に授業外の自主学習として【グループワーク】形式で取り組んでください。

授業実施方法（面接授業・遠隔授業）

原則として「面接授業」を行います。
ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。
遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成績評価方法

①平常点　　：60%（【小試験】（各５%）×12回の合算で評価）
②グループ課題：10%（【課題成果物】「ルーブリック評価表」で相互評価）
③定期試験　　：30%（【筆記試験】 自筆ノートのみ【持込可】）
※授業の進捗状況により配分比率が修正される場合があります。

成　績　評　価　基　準

管理栄養士養成課程において「微生物」について学ぶ【意義】を理解しているか。

【総論Ⅰ】
①－１生物の進化と多様性を理解し、比較生物学的な見地から生物の体のつくりとはたらきを概説できるか。
①－２原核細胞と真核細胞の特徴を説明できるか。
②細菌の微生物学的特徴（構造と増殖条件）を説明できるか。
③真菌（カビ類･酵母類･キノコ類）の微生物学的特徴（構造と増殖条件）を概説できるか。
④ウイルスの微生物学的性状（構造と増殖条件）を説明できるか。
⑤寄生虫の微生物学的性状（分類と生活環）を説明できるか。

【総論Ⅱ】
⑥微生物の増殖条件を説明できるか。
⑦微生物の代謝（解糖系）を説明できるか。
⑧微生物の代謝（TCA回路）を説明できるか。
⑨微生物の代謝（発酵系）を説明できるか。

【食品微生物学】
⑩主な食品群について主要な一次汚染微生物を列挙し、取扱い上留意すべき点を説明できるか。
⑪食品の変質（腐敗）における微生物の作用を説明できるか。
⑫食品の変質（発酵）における微生物の作用を説明できるか。
⑬主な発酵食品について、原料と発酵微生物の組合せを説明できるか。

【臨床微生物学】
主な感染症の要因となる病原体およびその感染経路を分類できるか。
感染経路ごとの感染予防法を説明できるか。
各種微生物（真菌･細菌･ウイルス･寄生虫）の病原性とそれによって生じる病態を概説できるか。
細菌の外毒素と内毒素について説明できるか。
原虫類･蠕虫類の分類および生活史（ライフサイクル）、感染経路と感染疫学的意義を概説できるか。

生体防御機構における免疫系の特徴（特異性、多様性、寛容、記憶）を概説できるか。
免疫反応に関わる組織と細胞および分子群を説明できるか。
自然免疫と獲得免疫の違いを説明できるか。
微生物感染症における免疫応答の特徴を概説できるか。
免疫寛容の維持機構とその破綻によるアレルギー発症の機序を概説できるか。
アナフィラキシーの症候と診断･治療法を概説できるか。
炎症の分類、組織形態学的変化と経時的変化を概説できるか。
エンドトキシンショックと全身性炎症性反応症候群（SIRS）について概説できるか。
下痢症、食中毒を起こす病原体を列挙し、診断と治療の基本を説明できるか。
院内感染の病因となる病原体、薬剤耐性菌を列挙し、対策を説明できるか。
日和見感染症を概説できるか。
新興感染症･再興感染症および輸入感染症を列挙できるか。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック

１）授業時の課題に対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　□メール　■その他（次回授業時の小試験返却時に解答・解説を実施）
２）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他（事前学習で作成したノート持込可能な小試験を実施）
３）小レポートに対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　□メール　■その他（提出したグループ課題レポートを授業時に相互評価）
４）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
□定期試験時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
５）その他
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他

実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）

テキスト、参考図書

テキスト：
①『食品微生物学の基礎（第２版）』 講談社　2024年　定価￥3,080-（税込）

参考図書：
①『病気が見える⑥：免疫･膠原病･感染症（第２版）』 メディックメディア社　2018年　定価￥3,850-（税込）
②『ゼロからわかる栄養系微生物学』 南江堂　2021年　定価￥3,080-（税込）
③『イラストでわかる微生物学超入門（改訂３版）』 南山堂　2023年　定価￥2,970-（税込）
④『生命科学（改訂第３版）』 羊土社　2009年
⑤『医科プロバイオティクス学』 シナジー　2009年
⑥『イラスト感染症･微生物学』 羊土社　2011年
⑦『ブラック微生物学（第６版）』 丸善

その他（受講上の注意）

授業開始時に出欠状況を確認する。
遅刻は、授業の１/３（30分）以内に申し出れば認め、それ以上の大幅な遅刻は欠席として扱う。

オフィスアワー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

微生物学実験 (Experiments in Microbiology)			担当教員	野村　卓正
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−E−2120	1単位	1年後期	実験	選択

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科専門科目　専門基礎分野

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

コミュニケーション能力、論理的思考力、判断力ならびに表現力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識･技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成･社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
□自己理解･自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

管理栄養士国家試験受験資格（必修）、食品衛生監視員･食品衛生管理者任用資格（選択）

授業の内容

微生物の生態や微生物によって引き起こされる種々の現象を観察するための基本的な技法の原理を理解する。
食品衛生検査および食品微生物操作に必要な微生物学的技術を習得する。

授業の到達目標

管理栄養士養成課程において、微生物について学ぶ【意義】を理解する。
様々な環境（土壌･水中等）あるいは生物（食物）の体表面に微生物群が常在していることを理解する。
微生物を殺滅する各種の滅菌法および消毒法の原理と効果を理解する。
微生物による汚染防止法の原理と効果を理解し、検体の無菌的操作法を修得する。
食品に付着あるいは内在している微生物を分離･培養し、検出する方法の原理を理解する。
各種微生物（真菌･細菌･ウイルス･寄生虫等）の生育要件を把握し、培養できる。
各種微生物（真菌･細菌･寄生虫卵等）を適切な染色法を用いて顕微鏡下で観察できる。
主な衛生指標微生物の公衆衛生上の意義とその検査法（公定法および迅速簡易法）を理解する。
本邦における「飲用的の水」の法律上の定義と各検査項目の意味を理解する。
発酵における微生物の働きを理解する。
腸内微生物が摂取した食品の影響により変化することを理解する。
抗菌活性のある薬剤や化合物の微生物への作用機序および薬剤耐性の機序を理解する。

アクティブ・ラーニング

■課題解決型学習（PBL）　■討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　□発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等）　□実習、フィールドワーク　■実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：実験1：環境･体表面からの菌の分離①（培地の作成）
第2回：実験1：環境･体表面からの菌の分離②（検体採取と分離培養）
第3回：実験1：環境･体表面からの菌の分離③（分離した細菌のグラム染色）
第4回：実験1：環境･体表面からの菌の分離④（顕微鏡観察）
第5回：実験1：【小試験①】／【実験1レポート試験】の説明
　事後学習：実験1の内容についてノートにまとめる。
　　細菌および真菌の分類や特徴についてまとめる。
　　【小試験①】の誤答問題について確認し、ノートを修正する。
　　【実験1レポート試験】をまとめて提出する。
第6回：実験2：河川水・飲用水の微生物検査①（検水処理･培養）
第7回：実験2：河川水・飲用水の微生物検査②（集落計測･結果判定）
　　【小試験②】／【実験2レポート試験】の説明
　事後学習：実験2の内容についてノートにまとめる。
　　水質基準（安全基準）について調査する。
　　【小試験②】の誤答問題について確認し、ノートを修正する。
　　【実験2レポート試験】をまとめて提出する。

第８回：実験３：食材／加工食品の微生物検査①（検体処理･培養）
第９回：実験３：食材／加工食品の微生物検査②（集落計測･結果判定）
【小試験③】／【実験３レポート試験】の説明
事後学習：実験３の内容についてノートにまとめる。
食品の成分規格（安全基準）について調査する。
【小試験③】の誤答問題について確認し､ノートを修正する。
【実験３レポート試験】をまとめて提出する。
第10回：実験４：食品の変質と品質評価①（講義）
第11回：実験４：食品の変質と品質評価②（ヒスタミン検出試験）
【小試験④】／【実験４レポート試験】の説明
事後学習：実験４の内容についてノートにまとめる。
【小試験④】の誤答問題について確認し､ノートを修正する。
【実験４レポート試験】をまとめて提出する。
第12回：グループ課題：
事後学習：グループ学習で【課題成果物】を作成する。【討議】

第13回：実験５：食餌による腸内微生物叢の変化①（説明・データ提示）
第14回：実験５：食餌による腸内微生物叢の変化②（レポート作成）
第15回：実験５：【小試験⑤】／【実験５レポート試験】の説明
事後学習：実験５の内容についてノートにまとめる。
代表的な腸内細菌や代謝物について調査する。
【小試験⑤】の誤答問題について確認し､ノートを修正する。
【実験5レポート試験】をまとめて提出する。

実験１～５はすべて、【課題解決型学習】を【実験・実技】形式で実施します。
【課題成果物】は、事後学習として【グループワーク】形式でグループ毎に作成してください。

※授業計画は、学年暦（休日等）、気候や進捗状況等により変更する可能性があります。
実験報告書（レポート）の作成にあたっては、第一に「精確な観察」、第二に「論理的な考察」に留意して記述してください。
①なぜそのような観察結果が得られたのか？
②観察された事実･現象から何が示唆されるか？
③どのような仮説を構築すれば、それらの観察結果を矛盾なく説明できるのか？
④そして、どのような検証実験を行えば、その仮説の真偽を検証できるのか？
について固定観念を排してすなおに「考察」しながら「結論」を導いてください。
参考図書は、授業の際にも紹介します。

授業実施方法（面接授業・遠隔授業）

原則として「面接授業」を行います。
ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。
遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成　績　評　価　方　法

①平常点　　：25%（【小試験】（各５%）×５回）
②実験レポート：50%（【レポート試験】（各10%）×５回）
③グループ課題：25%（【課題成果物】の教員評価15%／相互評価10%）
※受験・提出は授業への出席が前提

欠席回数が５回を上回った場合（６回以上欠席）、単位認定の資格を失う。
欠席した場合、個別の【実験レポート】提出をもって補講とし、【小試験】の受験を認める。
【課題成果物】の教員／相互評価には、「ルーブリック評価表」を用いる。

成 績 評 価 基 準

管理栄養士養成課程において、微生物について学ぶ意義を説明できるか。
様々な環境（土壌･水中等）あるいは生物（食物）の体表面に微生物群が常在していることを説明できるか。
微生物を殺滅する各種の滅菌法および消毒法の原理と効果を説明できるか。
微生物による汚染防止法の原理と効果を理解し、検体の無菌的操作法を修得しているか。
食品に付着あるいは内在している微生物を分離･培養し、検出する方法の原理を説明できるか。
各種微生物（真菌･細菌･ウイルス･寄生虫等）の生育要件を把握し、培養できるか。
各種微生物（真菌･細菌･寄生虫卵等）を適切な染色法を用いて顕微鏡下で観察できるか。
主な衛生指標微生物の公衆衛生上の意義とその検査法（公定法および迅速簡易法）を説明できるか。
本邦における「飲用的の水」の法律上の定義と各検査項目の意味を説明できるか。
発酵における微生物の働きを説明できるか。
腸内微生物が摂取した食品の影響により変化することを説明できるか。
抗菌活性のある薬剤や化合物の微生物への作用機序および薬剤耐性の機序を説明できるか。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

1）授業時の課題に対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　□メール　■その他（理解度確認小試験実施後に解答・解説を実施）
2）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
3）小レポートに対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　□メール　■その他（提出したグループ課題レポートを授業時に相互評価）
4）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
□定期試験時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
5）その他
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他

実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)

テ キ ス ト 、 参 考 図 書

テキスト：
①『食品微生物学の基礎（第２版）』 講談社　2024年　定価￥3,080-（税込）
②配布資料（実験ノート形式）

参考図書：
①『病気が見える⑥：免疫･膠原病･感染症（第２版）』 メディックメディア社　2018年　定価￥3,850-（税込）
② 熊谷進・山本茂貴編『食の安全とリスクアセスメント』 中央法規　2004年
③『大量調理施設　衛生管理のポイント（７訂）』 中央法規　2021年　定価￥2,750-（税込）
④『ゼロからわかる栄養系微生物学』 南江堂　2021年　定価￥3,080-（税込）
⑤『イラストでわかる微生物学超入門（改訂３版）』 南山堂　2023年　定価￥2,970-（税込）

その他(受講上の注意)

毎回の実験への出席（実験作業への参加）を重視し、授業開始時に出欠状況を確認します。
遅刻は、授業の１/３（45分）以内に申し出れば認め、それ以上の大幅な遅刻は欠席として扱います。
実験用白衣および靴を持参しなかった場合、各１点減点します。
授業中の私語･携帯電話（スマートフォン）の使用等で説明を聞かず実験に失敗した場合、１点減点します。
実験終了後、火元点検に不備があれば、グループ全員から１点減点します。

安全を期するために白衣を着用し、正確な実験操作を妨げるおそれのある華美な服装は慎むこと。実験は、ガス･火･薬品を使用し危険が伴うため、安全確保の決まりごとをよく理解するよう努め、これを遵守してください。故意に安全衛生上の危険行為をとる者には、実験停止･室外退去の措置を取り、さらに単位を認定しないこともあります。

オ フ ィ ス ア ワ ー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

食品学総論 (Food Science and Food Chemistry)			担当教員	浦本　裕美
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−A−2121	2単位	1年前期	講義	必修

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科専門科目　専門基礎分野

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

栄養管理を行い、チーム医療の一員として貢献できる能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識･技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成･社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解･自己管理能力　□諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

管理栄養士国家試験受験資格（必修）、栄養士免許（必修）、食品衛生管理者・食品衛生監視員　任用資格（選択）

授業の内容

食品の基本的知識や特性を食品の一次機能成分である栄養成分を中心に網羅的に解説する。食品中の主要栄養成分の化学構造と成分の化学的特性とそれに基づく化学変化がさまざまな食品の特徴になっていることを理解してもらうこと、また、今後履修する専門科目にその知識がつなげられるようにすることがねらいである。

授業の到達目標

管理栄養士国家試験の「食べものと健康」領域の主要科目の一つであるとともに栄養管理を行える能力を身につける上でもっとも基本となる科目の一つである。食品の分類、各食品群の栄養的特徴など食品の基本的知識を理解するとともに、食品中の主要な栄養成分（食品の一次機能成分）の化学構造と化学的特性を体系的に理解し、食品の加工・貯蔵・調理過程などで生じるそれら成分の化学変化を理解して、栄養管理を行える基本能力を養成する。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　□グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　□発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等）　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：食品とは、食品の分類
　事前学習：テキストp13～15を読み、質問項目についてまとめておくこと。（2時間）
　事後学習：食品の分類についての課題プリントを完成させておくこと。（2時間）
第2回：食品成分表：構成と内容
　事前学習：テキストp16～36を読み、質問項目についてまとめておくこと。（2時間）
　事後学習：授業内容を見直しノートを整理する。わからないところは、調べたり、担当教員に質問すること。課題の解答を次回までにまとめておくこと。（2時間）
第3回：水の構造と性質
　事前学習：テキストp37～43を読み、質問項目についてまとめておくこと。（2時間）
　事後学習：授業内容を見直しノートを整理する。わからないところは、調べたり、担当教員に質問すること。課題の解答を次回までにまとめておくこと。（2時間）
第4回：タンパク質（1）　アミノ酸の構造と分類
　事前学習：テキストp63～70を読み、質問項目をまとめておくこと。（2時間）
　事後学習：授業内容を見直しノートを整理する。わからないところは、調べたり、担当教員に質問すること。課題の解答を次回までにまとめておくこと。（2時間）
第5回：タンパク質（2）　アミノ酸の性質、ペプチド
　事前学習：テキストp70～72を読み、質問項目をまとめておくこと。（2時間）
　事後学習：授業内容を見直しノートを整理する。わからないところは、調べたり、担当教員に質問すること。課題の解答を次回までにまとめておくこと。（2時間）

第６回：タンパク質（３）　タンパク質の構造・種類・栄養価
　　事前学習：テキストp72～80を読み、質問項目をまとめておくこと。（２時間）
　　事後学習：授業内容を見直しノートを整理する。わからないところは、調べたり、担当教員に質問すること。課題の解答をまとめておくこと。（２時間）
第７回：炭水化物（１）　単糖類の構造と性質
　　事前学習：テキストp44～53を読み、質問項目をまとめておくこと。（２時間）
　　事後学習：授業内容を見直しノートを整理する。わからないところは、調べたり、担当教員に質問すること。課題の解答をまとめておくこと。（２時間）
第８回：炭水化物（２）　少糖類、甘味料
　　事前学習：テキストp53～55を読み、質問項目をまとめておくこと。（２時間）
　　事後学習：授業内容を見直しノートを整理する。わからないところは、調べたり、担当教員に質問すること。課題の解答をまとめておくこと。（２時間）
第９回：炭水化物（３）　多糖類
　　事前学習：テキストp55～63を読み、質問項目をまとめておくこと。（２時間）
　　事後学習：授業内容を見直しノートを整理する。わからないところは、調べたり、担当教員に質問すること。課題の解答をまとめておくこと。（２時間）
第10回：脂質（１）　脂質の分類（中間テストを含む）
　　事前学習：テキストp80、85～88を読み、質問項目をまとめておくこと。（２時間）
　　事後学習：授業内容を見直しノートを整理する。わからないところは、調べたり、担当教員に質問すること。課題の解答をまとめておくこと。（２時間）
第11回：脂質（２）　脂肪酸の構造と性質
　　事前学習：テキストp80～85を読み、質問項目をまとめておくこと。（２時間）
　　事後学習：授業内容を見直しノートを整理する。わからないところは、調べたり、担当教員に質問すること。課題の解答をまとめておくこと。（２時間）
第12回：脂質（３）　油脂の性質、油脂の加工技術、脂質の栄養
　　事前学習：テキストp88～94を読み、質問項目をまとめておくこと。（２時間）
　　事後学習：授業内容を見直しノートを整理する。わからないところは、調べたり、担当教員に質問すること。課題の解答をまとめておくこと。（２時間）
第13回：ビタミン（１）脂溶性ビタミン
　　事前学習：テキストp101～106を読み、質問項目をまとめておくこと。（２時間）
　　事後学習：授業内容を見直しノートを整理する。わからないところは、調べたり、担当教員に質問すること。課題の解答をまとめておくこと。（２時間）
第14回：ビタミン（２）水溶性ビタミン
　　事前学習：テキストp106～115を読み、質問項目をまとめておくこと。（２時間）
　　事後学習：授業内容を見直しノートを整理する。わからないところは、調べたり、担当教員に質問すること。課題の解答をまとめておくこと。（２時間）
第15回：無機質
　　事前学習：テキストp94～99を読み、質問項目をまとめておくこと。（２時間）
　　事後学習：授業内容を見直しノートを整理する。わからないところは、調べたり、担当教員に質問すること。課題の解答をまとめておくこと。（２時間）
第16回：定期試験

授業実施方法（面接授業・遠隔授業）

原則として「面接授業」を行います。
ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。
遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成　績　評　価　方　法

定期試験50%、中間テスト40%、課題10%

成　績　評　価　基　準

・食品を分類できる。
・食品中の主な栄養成分の化学構造を理解し、化学的特性を説明できる。
・食品中の主な栄養成分の化学的特性を加工・貯蔵・調理過程で生じる化学変化と関連づけて説明できる。
・成分名などの基礎専門用語が身についている。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

1）授業時の課題に対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
2）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　■その他（返却）
3）小レポートに対するフィードバックについて
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
4）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
□定期試験時　□仁大eラーニング　□メール　■その他（返却）
5）その他（授業内容等への質問に対するフィードバックについて）
□授業時　□仁大eラーニング　■メール　■その他（上記の他にTeamsのチャットで対応）

実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)

テキスト、参考図書

テキスト
小関正道編　食べものと健康　三訂　マスター食品学Ⅰ　建帛社　2023年
日本食品成分表2025　八訂　栄養計算ソフト・電子版付　医歯薬出版（食品成分表説明の際に使用、他の授業でも使用する。）

参考図書
荒井綜一・倉田忠男・田島眞編　新　櫻井　総合食品事典　同文書院　2012年
久保田紀久枝・森光康二郎編　新スタンダード栄養・食物シリーズ５　食品学－食品成分と機能性－　東京化学同人　2022年

その他(受講上の注意)

講義内容は連続性があるため、欠席や遅刻をすると内容理解の進展に支障をきたすので、欠席・遅刻をしないように心掛けること。欠席した場合は、欠席した授業内容により、補講あるいは課題に対するレポート提出を課す。授業計画の予定は、変更されることがある。また、授業の計画・内容や注意事項の詳細については、授業１回目に説明する。

オフィスアワー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

食品学各論 (Food Materials)			担当教員	浦本　裕美
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−D−2122	2単位	1年後期	講義	選択

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科専門科目　専門基礎分野

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

基礎研究および食品開発ができる能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識･技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成･社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解･自己管理能力　□諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

授業の内容

植物性食品、動物性食品、食用油脂などを素材別にその特徴、成分、機能性などについて理解を深める。また、今後履修する専門科目にその知識がつなげられるようにすることがねらいである。

授業の到達目標

管理栄養士国家試験の「食べものと健康」領域の主要科目の一つであるとともに栄養管理を行える能力を身につける上でもっとも基本となる科目の一つである。様々な食品素材の特徴、成分、機能性等を理解して、各食品素材の基本知識を身に着け、また、健康増進をはかるのに必要な能力の１つとしてその活用に繋げられるようにする。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　□グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　□発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等）　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第１回：植物性食品の分類、穀類
　事前学習：テキストp32～41を読み、質問項目についてまとめておくこと。（２時間）
　事後学習：食品の分類についての課題プリントを完成させておくこと。（２時間）
第２回：いもおよびでんぷん類
　事前学習：テキストp41～48を読み、質問項目についてまとめておくこと。（２時間）
　事後学習：授業内容を見直しノートを整理する。わからないところは、調べたり、担当教員に質問すること。課題の解答を次回までにまとめておくこと。（２時間）
第３回：甘味料
　事前学習：テキストp48～56を読み、質問項目についてまとめておくこと。（２時間）
　事後学習：授業内容を見直しノートを整理する。わからないところは、調べたり、担当教員に質問すること。課題の解答を次回までにまとめておくこと。（２時間）
第４回：豆類、種実類
　事前学習：テキストp56～68を読み、質問項目をまとめておくこと。（２時間）
　事後学習：授業内容を見直しノートを整理する。わからないところは、調べたり、担当教員に質問すること。課題の解答を次回までにまとめておくこと。（２時間）
第５回：野菜類
　事前学習：テキストp68～76を読み、質問項目をまとめておくこと。（２時間）
　事後学習：授業内容を見直しノートを整理する。わからないところは、調べたり、担当教員に質問すること。課題の解答を次回までにまとめておくこと。（２時間）
第６回：果実類、きのこ類、藻類
　事前学習：テキストp76～89を読み、質問項目をまとめておくこと。（２時間）
　事後学習：授業内容を見直しノートを整理する。わからないところは、調べたり、担当教員に質問すること。課題の解答をまとめておくこと。（２時間）

第７回：動物性食品の分類、肉類
事前学習：テキストp96～105を読み、質問項目をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：授業内容を見直しノートを整理する。わからないところは、調べたり、担当教員に質問すること。課題の解答をまとめておくこと。（２時間）
第８回：魚介類
事前学習：テキストp106～118を読み、質問項目をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：授業内容を見直しノートを整理する。わからないところは、調べたり、担当教員に質問すること。課題の解答をまとめておくこと。（２時間）
第９回：乳類
事前学習：テキストp118～125を読み、質問項目をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：授業内容を見直しノートを整理する。わからないところは、調べたり、担当教員に質問すること。課題の解答をまとめておくこと。（２時間）
第10回：卵類（中間テストを含む）
事前学習：テキストp125～130を読み、質問項目をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：授業内容を見直しノートを整理する。わからないところは、調べたり、担当教員に質問すること。課題の解答をまとめておくこと。（２時間）
第11回：油脂類
事前学習：テキストp134～149を読み、質問項目をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：授業内容を見直しノートを整理する。わからないところは、調べたり、担当教員に質問すること。課題の解答をまとめておくこと。（２時間）
第12回：調味料、香辛料、嗜好飲料
事前学習：テキストp152～168を読み、質問項目をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：授業内容を見直しノートを整理する。わからないところは、調べたり、担当教員に質問すること。課題の解答をまとめておくこと。（２時間）
第13回：微生物利用食品
事前学習：テキストp191～201を読み、質問項目をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：授業内容を見直しノートを整理する。わからないところは、調べたり、担当教員に質問すること。課題の解答をまとめておくこと。（２時間）
第14回：成分表①構成と内容
事前学習：テキストp12～28を読み、質問項目をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：授業内容を見直しノートを整理する。わからないところは、調べたり、担当教員に質問すること。課題の解答をまとめておくこと。（２時間）
第15回：成分表②利用上の注意点
事前学習：テキストp29を読み、質問項目をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：授業内容を見直しノートを整理する。わからないところは、調べたり、担当教員に質問すること。課題の解答をまとめておくこと。（２時間）
第16回：定期試験

授業実施方法（面接授業・遠隔授業）

原則として「面接授業」を行います。
ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。
遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成　績　評　価　方　法

定期試験50%、中間テスト40%、平常点（課題の提出など）10%

成　績　評　価　基　準

・身近な食品、素材に関する化学的な根拠に基づく知識が身についている。
・各食品素材の知識を健康増進をはかるために活用できる。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック

１）授業時の課題に対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
２）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　■その他（返却）
３）小レポートに対するフィードバックについて
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
４）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
□定期試験時　□仁大eラーニング　□メール　■その他（返却）
５）その他（授業内容等への質問に対するフィードバックについて）
□授業時　□仁大eラーニング　■メール　■その他（上記の他にTeamsのチャットで対応）

実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）

テキスト、参考図書

テキスト
栢野新市・水品善之・小西洋太郎編　栄養科学イラストレイテッド　食品学Ⅱ　改定第２版　羊土社　2023年
日本食品成分表2025　八訂　医歯薬出版（食品成分表説明の際に使用、他の授業でも使用する。）

参考図書
平宏和、田島眞、安い明美、安井健編　新版日本食品大事典第二版　医歯薬出版　2022年

その他（受講上の注意）

講義内容は連続性があるため、欠席や遅刻をすると内容理解の進展に支障をきたすので、欠席・遅刻をしないように心掛けること。欠席した場合は、欠席した授業内容により、補講あるいは課題に対するレポート提出を課す。授業計画の予定は、変更されることがある。また、授業の計画・内容や注意事項の詳細については、授業１回目に説明する。

オフィスアワー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

食品分析実験 (Experiments in Food Analysis)			担当教員	浦本　裕美
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−E−2126	1単位	1年前期	実験	必修

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科専門科目　専門基礎分野

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

コミュニケーション能力、論理的思考力、判断力ならびに表現力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識･技能　■論理的思考力と創造力　■人間関係形成･社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解･自己管理能力　□諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

管理栄養士国家試験受験資格（必修）、栄養士免許（必修）、食品衛生管理者・食品衛生監視員　任用資格（選択）

授業の内容

食品成分分析に必要な分析技術の理論と原理を理解するため、基礎的な滴定法をはじめ、比色法、原子吸光法などを用いた分析を行う。また、これら分析技術をとおして、食品成分表に掲載されている成分についてや食品成分の化学的特性など座学で学んだ知識をより深く理解することをねらいとする。

授業の到達目標

・化学実験の基礎技術である中和滴定、沈殿滴定をとおして、基本的実験器具の取扱い、試薬溶液の濃度の概念（モル濃度と規定濃度）を理解できる。
・食品成分の化学的特性を利用してさまざまな分析法で食品成分が分析できることをその原理・理論をとおして理解できる。
・食品成分表に掲載されている一般成分について、その分析法と食品毎の各成分含有量の違いや特徴について理解できる。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　□グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　□発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等）　□実習、フィールドワーク　■実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：オリエンテーション、実験の進め方、実験にあたっての基礎知識
第2回：レポートの書き方、試薬溶液の濃度と調製について説明
第3回：実験：中和滴定　水酸化ナトリウムの力価の標定
第4回：実験：中和滴定　食酢中の酢酸濃度の定量
第5回：実験：沈殿滴定（1）　硝酸銀溶液の力価の標定
第6回：実験：沈殿滴定（2）　食品中の食塩の定量（モール法と原子吸光光度法による食塩の定量）
第7回：比色法について説明、実験：比色分析（1）　酒石酸鉄吸光光度法による検量線の作成
第8回：実験：比色分析（2）　酒石酸鉄吸光光度法による緑茶及び茶葉中のタンニンの定量
第9回：一般成分分析実験計画の説明、実験：一般成分の分析（1）　試料調製
第10回：実験：一般成分の分析（2）　水分の定量・脂質の定量－1　秤量・抽出
第11回：実験：一般成分の分析（3）　脂質の定量－2　秤量、たんぱく質の定量－1　試料の分解
第12回：実験：一般成分の分析（4）　タンパク質の定量－2　蒸留・滴定
第13回：実験：一般成分の分析（5）　タンパク質の定量－3　蒸留・滴定
第14回：実験：一般成分の分析（6）　タンパク質の定量－4　蒸留・滴定及び一般成分全体のまとめ
第15回：実験：天然色素　アントシアニン色素の性質
　実験ノートは毎回整理する。食品学総論で学んだ知識と関連づけて学び、専門用語をよく理解するように努力する。

授業実施方法(面接授業・遠隔授業)

原則として「面接授業」を行います。
ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。
遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成　績　評　価　方　法

授業レポート（90%）、平常点（10%）、平常点は授業への参加状況・受講態度等を総合して採点する。

成　績　評　価　基　準

・食品分析技術が身につき、また、分析原理・理論を理解した操作ができる。
・化学実験で用いる濃度の概念が理解でき、測定値から正確な計算結果（食品中の成分含有量）を導き出せる。
・自ら行った実験で求めた結果から、食品中のある成分含有量を食品学総論で学んだ知識を生かし客観的に評価・考察できる。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

1）授業時の課題に対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
2）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
3）小レポートに対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　□メール　■その他（レポートの返却）
4）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
□定期試験時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
5）その他（授業内容等への質問に対するフィードバックについて）
□授業時　□仁大eラーニング　■メール　■その他（上記の他にTeamsのチャットで回答）

実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)

テ　キ　ス　ト　、　参　考　図　書

テキスト　『基礎から学ぶ　食品化学実験テキスト』　谷口　亜樹子　他編者　建帛社

その他(受講上の注意)

実験に臨む態度として、安全を期するために白衣、室内用靴、タオルを持参すること。実験は、ガス、火、薬品を使用するので、危険が伴うため、決まりごとについては守ってもらう。指示に従わない者、危険行為や危険を予測できる態度をとる者に対しては、実験停止措置をとり、さらには単位を認定しないこともある。なお授業には連続性があるため、欠席や遅刻をすると内容理解の進展に支障をきたすことがある。欠席者は補講あるいは課題を課す。授業の計画の予定は変更されることがある。授業内容や注意事項の詳細については、授業１回目に説明する。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

調理学 (Cookery Science)			担当教員	佐藤　真実
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−A−2129	2単位	1年前期	講義	必修

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科専門科目　専門基礎分野

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

栄養管理を行い、チーム医療の一員として貢献できる能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識･技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成･社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
□自己理解･自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　■キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

管理栄養士国家試験受験資格（必修）　栄養士免許（必修）　食品衛生管理者・食品衛生監視員任用資格（選択）

授業の内容

調理中の変化を科学的に解明し、健康を維持・増進できる「おいしい食事」を作るための調理の理論を学ぶ。

授業の到達目標

歴史や文化によって培われた食文化、食生活、健康、食料、環境問題といった人間と食べ物の関わりについて理解する。
調理操作における食品の変化や諸現象を科学的に理解し、食事設計、食品の選択、調理操作、食卓構成、供食の計画について理解する。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　□グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　□発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等）　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：人間と食品（食文化）
　事前学習：授業前にテキストの第1章を読み、質問項目をまとめておくこと（2時間）
　事後学習：テキスト等の見直しや、ノートのまとめを行う（2時間）
第2回：人間と食品（環境）、食事設計の基礎
　事前学習：授業前にテキストの第1章を読み、質問項目をまとめておくこと（2時間）
　事後学習：テキスト等の見直しや、ノートのまとめを行う（2時間）
第3回：食事設計の基礎
　事前学習：授業前にテキストの第2章を読み、穴埋めプリントの穴埋めをしておくこと。（2時間）
　事後学習：テキスト等の見直しや、ノートのまとめを行う（2時間）
第4回：調理操作（加熱調理操作、非加熱調理操作、調味操作）、設備・器具・エネルギー源
　事前学習：授業前にテキストの第3章を読み、穴埋めプリントの穴埋めをしておくこと。（2時間）
　事後学習：テキスト等の見直しや、ノートのまとめを行う（2時間）
第5回：食品の特徴に応じた調理の特性（食品成分）
　事前学習：授業前にテキストの第3章6.1を読み、穴埋めプリントの穴埋めをしておくこと。（2時間）
　事後学習：テキスト等の見直しや、ノートのまとめを行う（2時間）
第6回：食品の特徴に応じた調理の特性（植物性食品1）
　事前学習：授業前にテキストの第3章6.2を読み、穴埋めプリントの穴埋めをしておくこと。（2時間）
　事後学習：テキスト等の見直しや、ノートのまとめを行う（2時間）
第7回：食品の特徴に応じた調理の特性（植物性食品2）
　事前学習：授業前にテキストの第3章6.2を読み、穴埋めプリントの穴埋めをしておくこと。（2時間）
　事後学習：テキスト等の見直しや、ノートのまとめを行う（2時間）
第8回：食品の特徴に応じた調理の特性（植物性食品3）
　事前学習：授業前にテキストの第3章6.2を読み、穴埋めプリントの穴埋めをしておくこと。（2時間）
　事後学習：テキスト等の見直しや、ノートのまとめを行う（2時間）

第９回：食品の特徴に応じた調理の特性（動物性食品１）
　　事前学習：授業前にテキストの第３章6.3を読み、穴埋めプリントの穴埋めをしておくこと。（２時間）
　　事後学習：テキスト等の見直しや、ノートのまとめを行う（２時間）
第10回：食品の特徴に応じた調理の特性（動物性食品２）
　　事前学習：授業前にテキストの第３章6.3を読み、穴埋めプリントの穴埋めをしておくこと。（２時間）
　　事後学習：テキスト等の見直しや、ノートのまとめを行う（２時間）
第11回：食品の特徴に応じた調理の特性（動物性食品３）
　　事前学習：授業前にテキストの第３章6.3を読み、穴埋めプリントの穴埋めをしておくこと。（２時間）
　　事後学習：テキスト等の見直しや、ノートのまとめを行う（２時間）
第12回：食品の特徴に応じた調理の特性（抽出食品素材・その他）
　　事前学習：授業前にテキストの第３章6.4を読み、穴埋めプリントの穴埋めをしておくこと。（２時間）
　　事後学習：テキスト等の見直しや、ノートのまとめを行う（２時間）
第13回：調理操作による食品組織・物性と栄養成分の変化
　　事前学習：授業前にテキストの第４章を読み、穴埋めプリントの穴埋めをしておくこと。（２時間）
　　事後学習：テキスト等の見直しや、ノートのまとめを行う（２時間）
第14回：献立作成１（献立作成条件と手順）
　　事前学習：授業前にテキストの第５章を読み、質問項目をまとめておくこと（２時間）
　　事後学習：授業で課された課題について、図書館等で調べておくこと（２時間）
第15回：献立作成２（供食、食卓構成、食事環境）
　　事前学習：前回の授業で課された課題について、資料を収集しておくこと（２時間）
　　事後学習：授業で課された課題について、完成させて提出をする（２時間）
第16回：定期試験

予習として、教科書の各回に関連する頁を読み、予習ノートを作成すること。
復習として、講義の当該部分の配布資料などを見直して、ノート整理を行うこと。

授業実施方法（面接授業・遠隔授業）

原則として「面接授業」を行います。
ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。
遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成　績　評　価　方　法

定期試験（70%）　予習ノートの状況・小テスト・課題（20%）　平常点（10%）
（予習ノートの状況・小テスト・課題は提出の有無と内容について、平常点は授業への参加状況（出欠）で判断します。）

成　績　評　価　基　準

調理操作における食品の変化や諸現象を科学的に理解し、食事設計、食品の選択、調理操作、食卓構成、供食の計画について説明することができる。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック

１）授業時の課題に対するフィードバックについて
　■授業時　□仁大eラーニング　■メール　□その他（小テストを実施し、その場で解答説明、返却します）
２）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
　■授業時　□仁大eラーニング　■メール　■その他（レポート類は採点し、返却します）
３）小レポートに対するフィードバックについて
　□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
４）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
　□定期試験時　■仁大eラーニング　□メール　□その他
５）その他
　□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他

実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）

経歴：（管理栄養士）
実務経験と授業内容との関連性：（病院、福祉施設等での勤務経験を活かし、食事設計に必要な条件や具体的な調理科学理論について講義する。）

テキスト、参考図書
テキスト：西堀すき江編著 「マスター調理学」(第４版)　建帛社 参考図書：藤沢和恵　他 「現代調理学」 医歯薬出版 渕上倫子編著 「調理学」 朝倉書店 山崎清子　他 「調理と理論」 同文書院
その他(受講上の注意)
出席状況、授業への取り組み態度(小テスト含む)を重視する。必ず予習・復習を含む配布プリントの整理を行う。授業の計画予定は変更されることがある。
オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

調理学実習 (Cookery Science Practicum)			担当教員	佐藤　真実
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−E−2130	1単位	1年前期	実習	必修

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科専門科目　専門基礎分野

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

コミュニケーション能力、論理的思考力、判断力ならびに表現力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識･技能　□論理的思考力と創造力　■人間関係形成･社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
■自己理解･自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　■キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

管理栄養士国家試験受験資格（必修）　栄養士免許（必修）

授業の内容

健康を維持・増進できる「おいしい食事」を作る基礎技術を習得する。

授業の到達目標

調理学の理論に基づいて、食品の性質と調理操作との関係を理解する。
安全、栄養かつ嗜好を満たしたおいしい食事を作る基礎的な調理技術を身につける。
適切な食品の選択と組み合わせによる献立作成ができる。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　□グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　□発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等）　■実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：調理の意義と目的　および　計量方法や器具の使い方
第2回：日本料理（炊飯、だし、間接焼き、和える、卵の調理）（実習）
第3回：日本料理（変り飯、煮る、寒天の調理）（実習）
第4回：日本料理（もち米、蒸す、でんぷんの調理）（実習）
第5回：日本料理（すし、小麦粉の調理）（実習）
第6回：日本料理（麺の扱い方、揚げ物）（実習）
第7回：中国料理（湯菜・拌菜・蒸菜）（実習）
第8回：中国料理（点心・揚菜）（実習）
第9回：中国料理（点心・炸菜）（実習）
第10回：中国料理（点心・炒菜）（実習）
第11回：中国料理（点心）（実習）
第12回：西洋料理（肉の調理、いもの調理、ゼラチンの調理）（実習）
第13回：西洋料理（ルー、揚げる、砂糖の調理）（実習）
第14回：西洋料理（魚の調理、オーブン加熱）（実習）
第15回：西洋料理（パンの調理、果物の調理、嗜好飲料）（実習）
第16回：定期試験

予習として、各回に関連する教科書、プリントの頁をよく読み、あらかじめ疑問点等を考えておくこと。
復習として、資料などを見直して、各料理の栄養計算、作り方などを詳細にノートにまとめておくこと。

授業実施方法(面接授業・遠隔授業)

原則として「面接授業」を行います。
ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。
遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成　績　評　価　方　法

定期試験（50%）　実習ノート（40%）　平常点（10%）
（平常点は、授業への参加状況・受講態度、基礎的な調理技術の習得、質問用紙の提出状況等を総合して判断します）

成　績　評　価　基　準

安全、栄養かつ嗜好を満たしたおいしい食事を作るための基礎的な調理技術を習得できている。
調理学の理論に基づいて、適切な食品の選択、組み合わせによる献立作成および調理、演出（盛り付け）ができる。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック

1）授業時の課題に対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　■メール　□その他
2）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　■メール　■その他（ノート等は採点し、返却する）
3）小レポートに対するフィードバックについて
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
4）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
□定期試験時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
5）その他
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他

実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）

経歴：（管理栄養士）
実務経験と授業内容との関連性：（病院、福祉施設等での勤務経験を活かし、実際の食事設計に必要な条件を設定しながら、調理技術の基本について実習する。）

テ　キ　ス　ト　、　参　考　図　書

テキスト：西堀すき江編著『食育に役立つ調理学実習』
医歯薬出版　『日本食品成分表 八訂』
その他、プリントを配布する。
参考図書：谷洋子他　『わかりやすい調理』　みらい

その他（受講上の注意）

衛生・安全・嗜好性に配慮する。実習する際には、必ず白衣と帽子を着用し、アクセサリーやマニキュアは厳禁とする。実習に使用する食材費用は別途集金する。欠席した場合は必ず補講（実習）を受講する。実習ノートの提出がない場合、単位を修得できない。実習は手技等を身につけることも目的とするため、4回を超えて欠席をしない。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

応用調理学実習 (Applied Cookery Science Practicum)			担当教員	佐藤　真実、森　　恵見
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−E−2131	1単位	1年後期	実習	必修

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科専門科目　専門基礎分野

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

コミュニケーション能力、論理的思考力、判断力ならびに表現力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識･技能　■論理的思考力と創造力　■人間関係形成･社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
■自己理解･自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　■キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

管理栄養士国家試験受験資格(必修)　栄養士免許(必修)

授業の内容

健康を維持・増進できる「おいしい食事」を作る応用技術を習得する。

授業の到達目標

より高度かつ最新の調理器具の使い方や調理技術を身につける。
郷土料理、行事食、対象者別の供応食について自ら計画し、適応調理を実施できる。
フルコースのテーブルセッティングからサービスの方法について学ぶ。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習(PBL)　□討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等)　■グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等)　■発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等)　■実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：Ⅱ　日本料理(季節の献立・秋)(実習)	森　恵見
第2回：Ⅴ　諸外国の料理(インド・ロシア・ベトナム他)(実習)	佐藤真実
第3回：Ⅴ　諸外国の料理(スペイン・イタリア・韓国他)(実習)	佐藤真実
第4回：年中行事と食卓の演出(実習、グループワーク、発表)	森　恵見
第5回：郷土料理(福井県)(実習)	佐藤真実
第6回：郷土料理(全国各地)(実習、グループワーク、発表)	佐藤真実
第7回：Ⅳ　西洋料理(フルコース・食事作法)(講義・演習)	森　恵見
第8回：Ⅳ　西洋料理(フルコース・食事作法)(実習)	佐藤真実・森　恵見
第9回：特別食(対象者別の調理)(実習、グループワーク、発表)	佐藤真実
第10回：新しい調理法(エコ・クッキング)(実習)	佐藤真実
第11回：新しい調理法(スピード調理・真空調理)(実習)	佐藤真実
第12回：年中行事(クリスマス料理)(実習)	森　恵見
第13回：年中行事(正月料理)(実習)	森　恵見
第14回：Ⅱ　日本料理(季節の献立・冬)(実習)	森　恵見
第15回：包丁の使い方(実習)／実技試験	森　恵見
第16回：定期試験	

予習として、各回に関連する教科書、プリントの頁をよく読み、あらかじめ疑問点等を考えておくこと。
復習として、資料などを見直して、各料理の栄養計算、作り方などを詳細にノートにまとめておくこと。
自主献立のときは、グループのメンバーとともに料理の由来や調理法などを調べ、献立を作成すること。

授業実施方法(面接授業・遠隔授業)

原則として「面接授業」を行います。
ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。
遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成　績　評　価　方　法

定期試験(40%)　実技試験(20%)　平常点(10%)　実習ノート(30%)
(平常点は、授業への参加状況・受講態度、自主献立レポートの内容、提出状況等を総合して判断します。)

成　績　評　価　基　準

高度かつ最新の調理器具や調理技術、テーブルセッテイングやマナーなどの知識が修得できている。
郷土料理を味わい、由来や調理法などについて説明することができる。
行事食、供応食などについて自ら献立を作成し、適応調理を実施することができる。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

1)授業時の課題に対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　■メール　□その他
2)事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　■メール　■その他(ノートは採点し、返却します)
3)小レポートに対するフィードバックについて
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
4)定期試験(レポート試験を含む)に対するフィードバックについて
□定期試験時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
5)その他
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他

実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)

経歴:(管理栄養士)
実務経験と授業内容との関連性:(病院、福祉施設等での勤務経験を活かし、実際の食事設計に必要な条件を設定しながら、献立作成や環境設定を学ぶともに高度な調理技術について実習する。)

テキスト、参考図書

テキスト:西堀すき江編著　『食育に役立つ調理学実習』　建帛社
『日本食品標準成分表　八訂』　その他、プリントを配布する。
参考図書:谷洋子他　『わかりやすい調理』　みらい

その他(受講上の注意)

衛生・安全・嗜好性に配慮する。実習室では、必ず白衣と帽子を着用し、アクセサリーやマニキュアは厳禁とする。
実習費は別途に集金する。
授業への出席状況、実習態度、ノートの提出を重視する(ノートが未提出の場合、単位を修得できない)。
欠席した場合は必ず補講(実習)を受講する。実習は手技等の習得も目標とすることから4回を超えて欠席しない。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

基礎栄養学 (Nutrition)			担当教員	池田　涼子
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−A−2133	2単位	1年前期	講義	必修

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科専門科目　専門分野

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

栄養管理を行い、チーム医療の一員として貢献できる能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識･技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成･社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
■自己理解･自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

管理栄養士国家試験受験資格（必修）
栄養士免許（必修）
食品衛生管理者・食品衛生監視員任用資格（選択）

授業の内容

人体が必要とする糖質、脂質、たんぱく質、ビタミン、ミネラルや食物繊維など各栄養素・一部の食品成分の消化・吸収、体内での分布や輸送、利用・排泄について学び、「栄養」という生命現象の機序について基本的な事項に、栄養の実践における視点や最新の知見も交えて解説する。

授業の到達目標

・栄養の基本的概念及びその意義について説明できる。
・健康の保持・増進、疾病の予防・治療における栄養の役割を理解し、説明できる。
・栄養素の消化・吸収の過程について説明できる。
・糖質の種類と栄養的意義について説明できる。
・アミノ酸の種類とタンパク質の栄養的意義について説明できる。
・脂肪酸の種類や性質、脂質の栄養的意義について説明できる。
・ビタミンの種類と生理作用について説明できる。
・ミネラルの種類と生理作用について説明できる。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　□グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　□発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等）　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：栄養学の概念・摂食行動
　事前学習：教科書第1章を読み、質問項目をまとめておく。（2時間）
　事後学習：授業で指定されたキーワードについて、ノートにまとめる。（2時間）
第2回：栄養素の消化と吸収（口腔・胃）
　事前学習：ノートに消化器系の構造を図示し、各部の名称を、記入する。（2時間）
　事後学習：ノート・プリント類の整理、教員が指定した練習問題を解く。（2時間）
第3回：栄養素の消化と吸収（栄養素の吸収）
　事前学習：受動輸送・能動輸送について語句・分類を調べておく。（2時間）
　事後学習：ノート・プリント類の整理、教員が指定した練習問題を解く。（2時間）
第4回：栄養素の機能と代謝　糖質の栄養
　事前学習：教科書・糖質の機能の項を読み、質問項目をまとめておく。（2時間）
　事後学習：ノート・プリント類の整理、教員が指定した練習問題を解く。（2時間）
第5回：栄養素の機能と代謝　糖質の代謝
　事前学習：授業前に教科書・糖質の体内代謝の項を読み、質問項目をまとめておく。（2時間）
　事後学習：授業で指定されたキーワードについて、ノートにまとめる。（2時間）

第６回：栄養素の機能と代謝　脂質の栄養
　　事前学習：授業前に教科書・脂質代謝の項を読み、質問項目をまとめておくこと。（２時間）
　　事後学習：ノート・プリント類の整理、教員が指定した練習問題を解く。（２時間）
第７回：栄養素の機能と代謝　脂質の代謝
　　事前学習：授業前に教科書・脂質の栄養機能の項を読み、質問項目をまとめておく。（２時間）
　　事後学習：授業で指定されたキーワードについて、ノートにまとめる。（２時間）
第８回：中間試験およびその解説
　　事前学習：糖質・脂質の栄養について再度、ノートを整理し理解を深める。（２時間）
　　事後学習：誤答箇所について再度確認し、知識の定着を図る。（２時間）
第９回：栄養素の機能と代謝　たんぱく質の代謝
　　事前学習：授業前に教科書・たんぱく質の代謝の項を読み、質問項目をまとめておく。（２時間）
　　事後学習：授業で指定されたキーワードについて、ノートにまとめる。（２時間）
第10回：栄養素の機能と代謝　　たんぱく質の栄養
　　事前学習：授業前に教科書・たんぱく質の栄養価の項を読み、質問項目をまとめておく。（２時間）
　　事後学習：ノート・プリント類の整理、教員が指定した練習問題を解く。（２時間）
第11回：栄養素の機能と代謝　　ビタミンの栄養
　　事前学習：授業前に教科書・脂溶性ビタミンの項を読み、質問項目をまとめておく。（２時間）
　　事後学習：ノート・プリント類の整理、教員が指定した練習問題を解く。（２時間）
第12回：栄養素の機能と代謝　　ビタミンの栄養
　　事前学習：授業前に教科書・水溶性ビタミンの項を読み、質問項目をまとめておく。（２時間）
　　事後学習：ノート・プリント類の整理、教員が指定した練習問題を解く。（２時間）
第13回：栄養素の機能と代謝　　ミネラルの栄養
　　事前学習：授業前に教科書・多量元素の項を読み、質問項目をまとめておく。（２時間）
　　事後学習：授業で指定されたキーワードについて、ノートにまとめる。（２時間）
第14回：栄養素の機能と代謝　　ミネラルの栄養
　　事前学習：授業前に教科書・微量元素の項を読み、質問項目をまとめておく。（２時間）
　　事後学習：ノート・プリント類の整理、教員が指定した練習問題を解く。（２時間）
第15回：水・電解質の栄養的意義
　　事前学習：授業前に教科書・水分代謝の項を読み、自分なりの質問項目をまとめておく。（２時間）
　　事後学習：ノート・プリント類の整理、教員が指定した練習問題を解く。（２時間）
第16回：定期試験

小テストは全４回を予定している。小テストや課題の詳細については、授業内で指示する。

授業実施方法（面接授業・遠隔授業）

原則として「面接授業」を行います。
ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。
遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成　績　評　価　方　法

定期試験60％、小テスト40%に、授業への取り組み（授業態度、課題の提出状況など）を加味して総合的に評価する。

成　績　評　価　基　準

・栄養の基本的概念およびその意義を理解できているか。
・健康の保持・増進、疾病の予防・治療における栄養の役割が理解できているか。
　エネルギー及び栄養素の代謝とその生理的意義を理解できているか。
・栄養素の消化・吸収および生理的意義が理解できているか。
・栄養素の摂取に対する生体応答の個人差について説明できるか。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック

１）授業時の課題に対するフィードバックについて
　■授業時　　■仁大eラーニング　　□メール　　□その他
２）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
　■授業時　　■仁大eラーニング　　□メール　　□その他
３）小レポートに対するフィードバックについて
　■授業時　　□仁大eラーニング　　□メール　　□その他
４）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
　■定期試験時　　□仁大eラーニング　　□メール　　□その他
５）その他
　□授業時　　□仁大eラーニング　　□メール　　□その他

実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）

テキスト、参考図書

テキスト：「基礎栄養学」 小林謙一・福渡努　編　（化学同人）
参考図書：「ヒューマンニュートリション」　（第一出版）
「基礎栄養学 - 栄養科学イラストレイテッド」 田地陽一 著　（羊土社）
「基礎栄養学ノート改訂２版 - 栄養科学イラストレイテッド」 田地陽一 著　（羊土社）

その他（受講上の注意）

・栄養学を修める上での基盤となる重要な科目である。
　授業の際にはノートはきちんと取り、必ず課題を提出すること。
・講義内容は連続性がある。内容の理解に支障をきたすので、欠席・遅刻をしないように心がけること。
・授業の計画の予定は、変更されることがある。
・授業の計画・内容や注意事項の詳細については、授業１回目のガイダンスにて説明する。

オフィスアワー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

応用栄養学Ⅰ（成長・発達・加齢、食事摂取基準） (Applied Nutrition Ⅰ (Development,Dietary Reference Intakes))			担当教員	新井田　裕樹
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−B−2135	2単位	1年後期	講義	必修

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科専門科目　専門分野

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>　日本人の食事摂取基準の理論を理解し、活用に利用できるよう理解する。

求める学習成果（教育目標）

栄養状態を把握し、個別栄養評価プログラムを提案し、行動変容を支援できる能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力（汎用的能力）

■体系的な知識･技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成･社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
■自己理解･自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

管理栄養士国家試験受験資格（必修）　栄養士免許（必修）

授業の内容

エネルギー及び栄養素に関する食事摂取基準（推定エネルギー必要量及び各策定項目）がどのような科学的根拠、すなわち、栄養学研究の成果に基づいて策定されているかのかの基礎理論i 及び、栄養マネジメントにおける食事摂取基準の活用について解説する。
　また、人体の成長・発達・加齢にともなう主要な生理現象と生化学的変化、ライフステージにおける食事摂取基準の策定と活用について解説する。

授業の到達目標

栄養環境への身体適応及び、エネルギー・栄養素に関する食事摂取基準の科学的根拠について、理解する。人体の成長・発達・加齢にともなう生理現象と生化学的変化、各ライフステージにおける食事摂取基準の特徴について知識を取得する。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　□グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　□発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等）　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：食事摂取基準策定の基本的事項と留意事項
　事前学習：日本人の食事摂取基準2025年版の策定方針についての部分を読み、質問項目をまとめておくこと。（2時間）
　事後学習：策定方針で出てきた語句の意味をノートにまとめておくこと。（2時間）
第2回：食事摂取基準の活用1
　事前学習：テキストを読み、質問項目をまとめておくこと。（2時間）
　事後学習：指標の種類とその意味をノートにまとめておくこと。（2時間）
第3回：食事摂取基準の活用2
　事前学習：テキストを読み、質問項目をまとめておくこと。（2時間）
　事後学習：この項目で出てきた語句の意味をノートにまとめておくこと。（2時間）
第4回：エネルギーの摂取基準
　事前学習：日本人の食事摂取基準2025年版のエネルギーの食事摂取基準についての部分を読み、質問項目をまとめておくこと。（2時間）
　事後学習：基本的項目を復習し、ノートにまとめておくこと。（2時間）
第5回：たんぱく質の摂取基準
　事前学習：日本人の食事摂取基準2025年版の脂質の食事摂取基準についての部分を読み、質問項目をまとめておくこと。（2時間）
　事後学習：基本的項目を復習し、ノートにまとめておくこと。（2時間）
第6回：脂質の摂取基準
　事前学習：日本人の食事摂取基準2025年版の脂質の食事摂取基準についての部分を読み、質問項目をまとめておくこと。（2時間）
　事後学習：基本的項目を復習し、ノートにまとめておくこと。（2時間）

第７回：炭水化物・食物繊維の摂取基準
事前学習：日本人の食事摂取基準2025年版の炭水化物の食事摂取基準についての部分を読み、質問項目をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：基本的項目を復習し、ノートにまとめておくこと。（２時間）
第８回：エネルギー産生栄養素バランス
事前学習：日本人の食事摂取基準2025年版のエネルギー産生栄養素バランス についての部分を読み、質問項目をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：基本的項目を復習し、ノートにまとめておくこと。（２時間）
第９回：脂溶性ビタミンの摂取基準
事前学習：日本人の食事摂取基準2025年版の脂溶性ビタミンの摂取基準の部分を読み、質問項目をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：基本的項目を復習し、ノートにまとめておくこと。（２時間）
第10回：水溶性ビタミンの摂取基準
事前学習：日本人の食事摂取基準2025年版の水溶性ビタミンの摂取基準についての部分を読み、質問項目をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：基本的項目を復習し、ノートにまとめておくこと。（２時間）
第11回：ミネラルの摂取基準
事前学習：日本人の食事摂取基準2025年版の多量ミネラルの食摂取基準についての部分を読み、質問項目をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：基本的項目を復習し、ノートにまとめておくこと。（２時間）
第12回：対象者の特性
事前学習：日本人の食事摂取基準2025年版の対象特性についての部分を読み、質問項目をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：基本的項目を復習し、ノートにまとめておくこと。（２時間）
第13回：生活習慣病と摂取基準の関連１
事前学習：生活習慣病（高血圧、脂質異常症）について調べ、質問項目をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：基本的項目を復習し、ノートにまとめておくこと。（２時間）
第14回：生活習慣病と摂取基準の関連２
事前学習：生活習慣病（糖尿病、慢性腎臓病）について調べ、質問項目をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：基本的項目を復習し、ノートにまとめておくこと。（２時間）
第15回：成長・発達に伴う身体的・精神的変化と栄養について
事前学習：成長、発達、加齢の概念について自己学習し、質問項目をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：言葉の定義をノートにまとめておくこと。（２時間）
第16回：定期試験
各回の講義を受けた後で当該部分のノートや配布資料を見直して復習をし、不明な点は、参考となる資料の収集を行い次の授業に挑んで下さい。

授業実施方法（面接授業・遠隔授業）

原則として「面接授業」を行います。
ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。
遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成　績　評　価　方　法

定期試験（80％）、平常点（20％）（平常点は、授業への参加状況・授業態度等を総合して判断します。）

成　績　評　価　基　準

エネルギー及び栄養素に関する食事摂取基準の科学的根拠について、説明できるか。人体の成長・発達・加齢にともなってみられる主要な生理現象と生化学的変化について説明できるか。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック

１）授業時の課題に対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
２）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
■授業時　■仁大eラーニング　□メール　□その他
３）小レポートに対するフィードバックについて
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
４）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
□定期試験時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
５）その他
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他

実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）

経歴：（管理栄養士）
実務経験と授業内容との関連性：（管理栄養士として医療提供施設での実務経験を活かし、エネルギー及び栄養素に関する食事摂取基準がどのような科学的根拠に基づいて策定されているかのかの基礎理論i 及び、人体の成長・発達・加齢にともなう主要な生理現象と生化学的変化、ライフステージにおける食事摂取基準の策定と活用ならびに栄養マネジメントにおける食事摂取基準の活用について解説する）

テキスト、参考図書

応用栄養学　第３版（栄養科学イラストレイテッド）（羊土社）
日本人の食事摂取基準2025年版（第一出版）
※必要に応じてプリントを配布

その他（受講上の注意）

授業計画は進捗状況により変更することがあります。
授業内容の理解促進のため、質問やディスカッション等を研究室にて受け付ける。授業の計画・内容や注意事項の詳細については、授業１回目に説明する。

オフィスアワー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

給食経営管理論Ⅰ(給食計画) (Food Service Management Ⅰ(Planning))			担当教員	長岡　純子
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−A−2156	2単位	1年後期	講義	必修

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科専門科目　専門分野

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

栄養管理を行い、チーム医療の一員として貢献できる能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識･技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成･社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
□自己理解･自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

管理栄養士国家試験受験資格（必修）、栄養士免許（必修）
食品衛生管理者・食品衛生監視員任用資格（選択）

授業の内容

給食運営や食品流通、品質管理等について関連の資源との関係を総合的に述べ、栄養面、安全面のマネジメントが行えるようにする。給食が生活習慣病予防の観点から果たす役割、栄養・食事管理を効率的かつ安全に運営するためのシステム構築、マネジメントの手法について理解し、関係法規及び指導事項に精通し、栄養・食事、衛生・安全、食材・品質、生産（調理）の管理について修得する。

授業の到達目標

・給食運営に関する栄養面、安全面のマネジメントについて理解出来ている。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　□グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　□発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等）　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：給食の概念
　事前学習：授業前にテキスト（給食経営管理論）の給食の概念を読み、質問項目をまとめておくこと。（2時間）
　事後学習：授業で実施した小テストの内容について理解すること。（2時間）
第2回：給食経営管理の概念
　事前学習：授業前にテキスト（給食経営管理論）の給食経営管理の概念を読み、質問項目をまとめておくこと。（2時間）
　事後学習：授業で実施した小テストの内容について理解すること。（2時間）
第3回：栄養・食事管理
　事前学習：授業前にテキスト（給食経営管理論）の栄養・食事管理を読み、質問項目をまとめておくこと。（2時間）
　事後学習：授業で実施した小テストの内容について理解すること。（2時間）
第4回：給食の品質
　事前学習：授業前にテキスト（給食経営管理論）の給食の品質を読み、質問項目をまとめておくこと。（2時間）
　事後学習：授業で実施した小テストの内容について理解すること。（2時間）
第5回：給食の生産Ⅰ（原価）
　事前学習：授業前にテキスト（給食経営管理論）の給食の生産Ⅰ（原価）を読み、質問項目をまとめておくこと。（2時間）
　事後学習：授業で実施した小テストの内容について理解すること。（2時間）
第6回：給食の生産Ⅱ（食材）
　事前学習：授業前にテキスト（給食経営管理論）の給食の生産Ⅱ（食材）を読み、質問項目をまとめておくこと。（2時間）
　事後学習：授業で実施した小テストの内容について理解すること。（2時間）

第７回：給食の生産Ⅲ（生産（調理）と提供）
　事前学習：授業前にテキスト（給食経営管理論）の給食の生産Ⅲ（生産（調理）と提供）を読み、質問項目をまとめておくこと。（２時間）
　事後学習：授業で実施した小テストの内容について理解すること。（２時間）
第８回：給食の安全・衛生Ⅰ（安全・衛生管理の概要、給食の安全・衛生の実際）
　事前学習：授業前にテキスト（給食経営管理論）の給食の安全・衛生Ⅰ（安全・衛生管理の概要、給食の安全・衛生の実際）を読み、質問項目をまとめておくこと。（２時間）
　事後学習：授業で実施した小テストの内容について理解すること。（２時間）
第９回：給食の安全・衛生Ⅱ（事故・災害時対策）
　事前学習：授業前にテキスト（給食経営管理論）の給食の安全・衛生Ⅱ（事故・災害時対策）を読み、質問項目をまとめておくこと。（２時間）
　事後学習：授業で実施した小テストの内容について理解すること。（２時間）
第10回：施設・設備管理
　事前学習：授業前にテキスト（給食経営管理論）の施設・設備管理を読み、質問項目をまとめておくこと。（２時間）
　事後学習：授業で実施した小テストの内容について理解すること。（２時間）
第11回：給食の人事・事務
　事前学習：授業前にテキスト（給食経営管理論）の給食の人事・事務を読み、質問項目をまとめておくこと。（２時間）
　事後学習：授業で実施した小テストの内容について理解すること。（２時間）
第12回：施設別給食経営管理Ⅰ（病院）
　事前学習：授業前にテキスト（給食経営管理論）の施設別給食経営管理Ⅰ（病院）を読み、質問項目をまとめておくこと。（２時間）
　事後学習：授業で実施した小テストの内容について理解すること。（２時間）
第13回：施設別給食経営管理Ⅱ（高齢者・介護保険施設、児童福祉施設、障害者福祉施設）
　事前学習：授業前にテキスト（給食経営管理論）の施設別給食経営管理Ⅱ（高齢者・介護保険施設、児童福祉施設、障害者福祉施設）を読み、質問項目をまとめておくこと。（２時間）
　事後学習：授業で実施した小テストの内容について理解すること。（２時間）
第14回：施設別給食経営管理Ⅲ（学校給食、事業所給食、外食・中食・配食）
　事前学習：授業前にテキスト（給食経営管理論）の施設別給食経営管理Ⅲ（学校給食、事業所給食、外食・中食・配食）を読み、質問項目をまとめておくこと。（２時間）
　事後学習：授業で実施した小テストの内容について理解すること。（２時間）
第15回：今期授業の確認・質疑応答
　事前学習：授業前にテキスト（給食経営管理論）の総まとめとして、質問項目をまとめておくこと。（２時間）
　事後学習：授業で実施した総まとめ小テストの内容について理解すること。（２時間）
第16回：定期試験

授業実施方法（面接授業・遠隔授業）

原則として「面接授業」を行います。
ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。
遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成　績　評　価　方　法

定期試験（50%）、小テスト（30%）、授業への取り組み（20%）
授業への取り組みについては、授業への参加状況・受講態度及び課題の提出状況・内容を総合的に判断する。

成　績　評　価　基　準

・給食運営に関する栄養面、安全面のマネジメントについて説明することができるか。
・関係法規の内容について理解しているか。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック

１）授業時の課題に対するフィードバックについて
　■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
２）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
　■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
３）小レポートに対するフィードバックについて
　■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
４）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
　■定期試験時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
５）その他（給食業務に対するフィードバックについて）
　□授業時　□仁大eラーニング　□メール　■その他（就職後の業務スキル向上について）

実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）
テキスト、参考図書
栄養管理と生命科学シリーズ　給食経営管理論　理工図書　2025年（仮） 『調理のためのベーシックデータ　第6版』　女子栄養大学出版部　2022年
その他（受講上の注意）
学籍番号順の座席配置になるので、視力等で前方を希望する者は予め申し出ること。
オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

フィールドワーク演習 (Fieldwork)			担当教員	佐藤　裕保、池田　涼子、山本　浩範、 新井田裕樹
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−E−2166	2単位	1～3年	演習	選択

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科専門科目　特別演習・卒業研究

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

コミュニケーション能力、論理的思考力、判断力ならびに表現力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識･技能　■論理的思考力と創造力　■人間関係形成･社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
■自己理解･自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　■キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

授業の内容

本プログラムには、学内外でのボランティア活動体験、社会的イベント・コンペティションなどへの参画体験が含まれる。教室や研究室で学習や研究をするのではなく、実際に社会での直接的体験を通して、優れた社会人となるための自己認識、自己啓発の機会とすることを目的とする。

授業の到達目標

1・2・3年次を対象に自己の進路を見据えた体験学習を課題にして設ける。例えば、福祉施設、病院などでの奉仕活動、事業所などでのインターンシップ参加、施設・事業所見学などの事前、事後計画の企画運営発表などを実施したり、得られた成果について報告書を提出する。

アクティブ・ラーニング

■課題解決型学習（PBL）　■討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等）　■実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

1年次～3年次に活動の実施（30時間）事前学習（30時間）及び事後学習（30時間）を行う。
①受講希望者は、各フィールドワーク演習の企画教員から内容を確認したうえで実施する。
　参画する奉仕活動やインターンシップについて事前に十分な下調べ（概要等）を行なうこと。
②実際に体験したボランティア活動について報告書（内容・到達目標・経過時間・得られた成果）を作成すること。また作成した報告書は企画教員から押印後、フィールドワーク演習担当教員に提出し承認を得ること。承認後の報告書は各自で保管すること。
③各種ボランティア活動について（フィールドワーク）
　参加した全てのボランティア活動の詳細（参加時間数の合計等）についてまとめておくこと。
④3年次終了時に報告書一覧表（ボランティア活動毎報告書添付）を作成しフィールドワーク演習担当教員に提出すること。

授業実施方法(面接授業・遠隔授業)

原則として「面接授業」を行います。
ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。
遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成績評価方法

プログラム取り組み（50%）、報告書またはプレゼンテーション（50%）

成績評価基準

参加した福祉施設、病院などでの奉仕活動で自身が得た成果について報告書を参考に評価する。事業所などでのインターンシップ参加、施設・事業所見学などの事前、事後計画の企画運営発表などを実施する。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

1）授業時の課題に対するフィードバックについて
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
2）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
3）小レポートに対するフィードバックについて
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
4）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
□定期試験時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
5）その他（活動遂行上の課題に対するフィードバックについて）
□授業時　□仁大eラーニング　■メール　■その他（活動中に直接指導）

実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)

テキスト、参考図書

使用しない。

その他(受講上の注意)

本科目の履修登録については、それぞれの担当教員がガイダンスを実施し、各プログラムの参加者をもって受講者とするため、通常の受講登録手続きを要しない。

オフィスアワー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

教育原理 (Principles of Education)			担当教員	高野　秀晴
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−C−2182	2単位	1年後期	講義	選択

<科目区分>　人間生活学部特設科目　教職に関する専門科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>　教育の基礎的理解に関する科目

<科目に含めることが必要な事項>　教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想

求める学習成果(教育目標)

学校および地域社会の健康づくりを担うことができる能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識･技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成･社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
□自己理解･自己管理能力　□諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

栄養教諭一種免許状（必修）

授業の内容

私たちは、誰もが教育を受けた経験があるがゆえに、教育について考える際に、自らの経験のみに依拠してしまうことになりがちである。本授業では、教育に関する基本的概念を修得し、それをもとに、多様な教育の理念や教育の歴史、思想を概観することにより、自らの経験のみに依拠することなく教育について考察する力量の形成を目指す。

授業の到達目標

・教育の基本的概念を用いて、教育を成り立たせる諸要因とそれら相互の関係を説明することができる。
・教育の歴史に関する基礎的知識を踏まえて、過去から現代に至るまでの教育および学校の変遷を概説し、その変遷のなかで生まれた多様な教育の理念を説明することができる。
・教育に関する様々な思想が、いかなる理念や歴史的背景をもとに生まれてきたかについて説明することができる。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　□グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　□発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等）　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：オリエンテーション
　事前学習：シラバスをよく読み、学修計画を立てる。（2時間）
　事後学習：授業内容に関連する図書を検索し、読書計画を立てる。（2時間）
第2回：教育の基本的概念（1）── 子どもの権利について
　事前学習：授業内容に関連する資料を集めて読む。（2時間）
　事後学習：ノートをまとめ直すとともに、関連図書を読み理解を深める。（2時間）
第3回：教育の基本的概念（2）── 教育における愛と暴力
　事前学習：授業内容に関連する資料を集めて読む。（2時間）
　事後学習：ノートをまとめ直すとともに、関連図書を読み理解を深める。（2時間）
第4回：教育の基本的概念（3）── 乳幼児期から老年期までの発達について
　事前学習：授業内容に関連する資料を集めて読む。（2時間）
　事後学習：ノートをまとめ直すとともに、関連図書を読み理解を深める。（2時間）
第5回：日本教育史（1）── 家族や社会のなかの教育
　事前学習：授業内容に関連する資料を集めて読む。（2時間）
　事後学習：ノートをまとめ直すとともに、関連図書を読み理解を深める。（2時間）
第6回：日本教育史（2）── 塾と学校の登場
　事前学習：授業内容に関連する資料を集めて読む。（2時間）
　事後学習：ノートをまとめ直すとともに、関連図書を読み理解を深める。（2時間）
第7回：日本教育史（3）── 義務教育制度成立史
　事前学習：授業内容に関連する資料を集めて読む。（2時間）
　事後学習：ノートをまとめ直すとともに、関連図書を読み理解を深める。（2時間）

第８回：西洋における教育の思想と歴史（１）── 古代ギリシア、ローマの教育
　　事前学習：授業内容に関連する資料を集めて読む。（２時間）
　　事後学習：ノートをまとめ直すとともに、関連図書を読み理解を深める。（２時間）
第９回：西洋における教育の思想と歴史（２）── コメニウスと一斉教授について
　　事前学習：授業内容に関連する資料を集めて読む。（２時間）
　　事後学習：ノートをまとめ直すとともに、関連図書を読み理解を深める。（２時間）
第10回：西洋における教育の思想と歴史（３）── ルソーにおける子どもの発見について
　　事前学習：授業内容に関連する資料を集めて読む。（２時間）
　　事後学習：ノートをまとめ直すとともに、関連図書を読み理解を深める。（２時間）
第11回：西洋における教育の思想と歴史（４）── 自律を目指した思想家たち
　　事前学習：授業内容に関連する資料を集めて読む。（２時間）
　　事後学習：ノートをまとめ直すとともに、関連図書を読み理解を深める。（２時間）
第12回：西洋における教育の思想と歴史（５）── 教育制度の思想的基礎
　　事前学習：授業内容に関連する資料を集めて読む。（２時間）
　　事後学習：ノートをまとめ直すとともに、関連図書を読み理解を深める。（２時間）
第13回：教育と福祉の関係 ── 家庭、地域、学校の役割について
　　事前学習：授業内容に関連する資料を集めて読む。（２時間）
　　事後学習：ノートをまとめ直すとともに、関連図書を読み理解を深める。（２時間）
第14回：現代における教育の課題 ── 生涯学習の観点から
　　事前学習：授業内容に関連する資料を集めて読む。（２時間）
　　事後学習：ノートをまとめ直すとともに、関連図書を読み理解を深める。（２時間）
第15回：まとめ
　　事前学習：授業内容に関連する資料を集めて読む。（２時間）
　　事後学習：ノートをまとめ直すとともに、関連図書を読み理解を深める。（２時間）
第16回：定期試験

授業実施方法（面接授業・遠隔授業）

原則として「面接授業」を行います。
ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。
遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成　績　評　価　方　法

定期試験（70％）
平常点（30％）
（平常点は、授業への参加状況、および授業時の課題の内容をもとに評価する。）

成　績　評　価　基　準

・教育の基本的概念を用いて、教育を成り立たせる諸要因とそれら相互の関係を説明することができるか。
・教育の歴史に関する基礎的知識を踏まえて、過去から現代に至るまでの教育および学校の変遷を概説し、その変遷のなかで生まれた多様な教育の理念を説明することができるか。
・教育に関する様々な思想が、いかなる理念や歴史的背景をもとに生まれてきたかについて説明することができるか。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック

１）授業時の課題に対するフィードバックについて
　■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
２）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
　□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
３）小レポートに対するフィードバックについて
　□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
４）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
　□定期試験時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
５）その他
　□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他

実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）

テ キ ス ト 、 参 考 図 書

テキスト：プリントを配布する。
参考図書：高橋陽一『新しい教育通義』武蔵野美術大学出版局　2018年

その他（受講上の注意）
オ フ ィ ス ア ワ ー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

教職論 (Theory of Teacher Education)			担当教員	鈴木　智子、草桶　勇人
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−A−2100	2単位	1年前期	講義	必修

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　基幹科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>　教育の基礎的理解に関する科目

<科目に含めることが必要な事項>　教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）

求める学習成果（教育目標）

教育・保育の基礎理論の理解

身につけることを目指す社会的・職業的能力（汎用的能力）

■体系的な知識･技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成･社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
□自己理解･自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　■キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

小学校教諭一種免許状（必修）、幼稚園教諭一種免許状（必修）

授業の内容

大学における学び方を含め、教師教育の観点から自己を位置づけ、専門職としての教師に向けての基礎を培うことを目的とする。教職の意義及び教員の役割や職務内容等について、制度的、実態的側面から解説する講義を中心とする。

授業の到達目標

（鈴木智子）
1．幼稚園における教職の意義、役割、職務内容などについて説明できる。
2．現場における様々な問題を考察し、求められている幼児教育像についての考えを明確化する。
3．自己の幼児教育観や教師像について考察するとともに、今後の学習目標や計画を明確化する。
（草桶勇人）
1．小学校における教職の意義、役割、職務内容などについて理解する。
2．社会の変化の中で、教育公務員として求められる教師のあり方・生き方について考える。
3．小学校の教師として実践的な指導力を身に付けるため、自ら課題を持ち、継続して追求することができる。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習（PBL）　■討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等）　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：ガイダンス　各自の幼児教育観と幼児教育者像を確認する（グループワーク）（鈴木智子）
　事前学習：授業前に各自の幼児教育観、幼児教育者像についての意見をまとめておくこと。（2時間）
　事後学習：授業のグループワークでの他の学生の意見、授業内容を踏まえて、各自の幼児教育観、幼児教育者像についてレポートにまとめておくこと。（2時間）
第2回：幼児教育者の専門性（鈴木智子）
　事前学習：幼稚園教諭と小学校教諭の違いについて自分なりの意見をまとめておくこと。（2時間）
　事後学習：授業内容を踏まえて、幼稚園教諭の専門性について、レポートにまとめておくこと。（2時間）
第3回：幼稚園教員の役割と職務（鈴木智子）
　事前学習：授業前に幼稚園教育要領解説序章第2節を読み、質問項目をまとめておくこと。（2時間）
　事後学習：テキスト等の見直しや、わからないところがあったら、図書館で調べ、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（2時間）
第4回：幼稚園教諭免許取得と専門性の向上（鈴木智子）
　事前学習：幼稚園教諭免許状について事前に調べ、質問項目をまとめておくこと。（2時間）
　事後学習：授業内容を踏まえて、専門性の向上の方法について、レポートにまとめておくこと。（2時間）
第5回：子育て支援と幼児教育センターとしての役割（鈴木智子）
　事前学習：授業前に幼稚園教育要領解説第1章総説第7節2を読み、質問項目をまとめておくこと。（2時間）
　事後学習：子育て支援を行うために必要な資質・能力について、レポートにまとめておくこと。（2時間）

第６回：幼稚園教諭の協働性（鈴木智子）
事前学習：授業前に幼稚園教育要領解説第１章総説第４節３を読み、質問項目をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：幼稚園教諭の協働性を高めるために必要な資質・能力について、レポートにまとめておくこと。（２時間）
第７回：まとめ　幼児教育者としての自覚と成長（鈴木智子）
事前学習：これまでの授業内容を振り返り、幼稚園教諭の専門性、役割等についての質問項目をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：幼稚園教諭に求められる資質・能力について、レポートにまとめておくこと。（２時間）
第８回：教師とは何か（小学校の教師を中心に）　①教師の専門性、②教職という仕事の特質、③教師のリーダーシップ（グループワーク）（草桶勇人）
事前学習：教職についてのメタファー（隠喩）を考えて、それをもとに自分の教育観についてまとめておくこと。（２時間）
事後学習：教師の専門性やその仕事の特質について、班ごとのディスカッションや講義資料をもとに、リフレクションシートにまとめておくこと。（２時間）
第９回：小学校における教師の役割　①授業をつくる、②授業から学ぶ、③子どもを育む（草桶勇人）
事前学習：アクティブ・ラーニングについて調べてまとめておくこと。（２時間）
事後学習：事前学習と算数科におけるアクティブ・ラーニングの事例体験をもとに、その意義等について、リフレクションシートにまとめておくこと。（２時間）
第10回：教職の制度と教師の身分　①「全体の奉仕者」としての教師、②教師の職務と権限、③基本的な教育法規（草桶勇人）
事前学習：制度の上の教師について、まとめておくこと。（２時間）
事後学習：教師の制度上の位置づけ等について、講義資料をもとに、リフレクションシートにまとめておくこと。（２時間）
第11回：子どもを理解するとは（１）（草桶勇人）
事前学習：これまで出会った教師の中で思い出に残っている教師についてまとめておくこと。（２時間）
事後学習：講義をもとに教師の子ども理解について、リフレクションシートにまとめておくこと。（２時間）
第12回：子どもを理解するとは（２）（草桶勇人）
事前学習：子どもを理解するために何が必要であるかについてまとめておくこと。（２時間）
事後学習：講義で扱った事例をもとに教師の子ども理解について、リフレクションシートにまとめておくこと。（２時間）
第13回：学び合うコミュニティとしての学校・チーム学校と開かれた学校づくり（草桶勇人）
事前学習：社会に開かれた教育課程について、学習指導要領解説を読んでまとめておくこと。（２時間）
事後学習：講義資料等をもとに開かれた学校づくりの意義について、リフレクションシートにまとめておくこと。（２時間）
第14回：主体的・対話的で深い学びと教師の資質・能力（グループワーク）（草桶勇人）
事前学習：小学校教諭に求められる資質・能力について、自分の考えをまとめておくこと。（２時間）
事後学習：講義の資料等とグループでのディスカッションをもとに新しい時代に求められる小学校教師の資質・能力について、リフレクションシートにまとめておくこと。（２時間）
第15回：教師の未来と教育とはなにかを改めて問い直す－「学び続ける教師像」と教育実践理論の構築（草桶勇人）
事前学習：これまでの授業内容を振り返り、小学校教諭の専門性、役割等についてまとめておくこと。（２時間）
事後学習：小学校教諭に求められる資質・能力と関連付けて講義で学んだことについて、レポートにまとめておくこと。（２時間）

授業実施方法（面接授業・遠隔授業）

原則として「面接授業」を行います。
ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。
遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成　績　評　価　方　法

レポート（70%）、平常点（30%）
平常点は、授業への参加状況、受講態度等を総合して判断します。

成　績　評　価　基　準

（鈴木智子）
１．幼稚園における教職の意義、役割、職務内容などについて説明できるか。
２．現場における様々な問題を考察し、求められている幼児教育像について考えを明確化できているか。
３．自己の幼児教育観や教師像について考察するとともに、今後の学習目標や計画を明確化できているか。
（草桶勇人）
１．小学校における教職の意義、役割、職務内容などについて理解できているか。
２．社会の変化の中で、教育公務員として求められる教師のあり方・生き方について考えることができているか。
３．小学校の教師として実践的な指導力を身に付けるため、自ら課題を持ち、継続して追求することができているか。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

1）授業時の課題に対するフィードバックについて
□授業時　■仁大eラーニング　□メール　□その他
2）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
3）小レポートに対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
4）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
□定期試験時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
5）その他
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他

実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)

経歴：（元中学校・義務教育学校教諭、高等学校講師）
実務経験と授業内容との関連性：（中学校・義務教育学校教諭、高等学校講師として、算数・数学を中心とする授業実践や特別活動等の実践を行ってきた経験を有する教員が、教職の意義や教員に求められる資質や能力について講義する。）

テキスト、参考図書

テキスト
（1）「幼稚園教育要領解説」フレーベル館　2019年
（2）小学校学習指導要領（平成29年３月告示　文部科学省）　2018年

参考書
（1）岡本夏木著「幼児期――子どもは世界をどうつかむか――」岩波書店　2005年
（2）「平成29年告示　幼稚園教育要領　保育所保育指針　幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜原本＞」チャイルド本社　2017年
（3）幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年３月告示　内閣府・文部科学省・厚生労働省）
（4）丹野清彦著「子どもの願い　いじめVS12の哲学」高文研　2018年

その他(受講上の注意)

オフィスアワー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

教育原理 (Principles of Education)			担当教員	高野　秀晴
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−A−2101	2単位	1年前期	講義	必修

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　基幹科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>　教育の基礎的理解に関する科目

<科目に含めることが必要な事項>　教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想

求める学習成果(教育目標)

教育・保育の基礎理論の理解

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識･技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成･社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
□自己理解･自己管理能力　□諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

小学校教諭一種免許状（必修）、幼稚園教諭一種免許状（必修）、保育士資格（必修）

授業の内容

私たちは、誰もが教育を受けた経験があるがゆえに、教育について考える際に、自らの経験のみに依拠してしまうことになりがちである。本授業では、教育に関する基本的概念を修得し、それをもとに、多様な教育の理念や教育の歴史、思想を概観することにより、自らの経験のみに依拠することなく教育について考察する力量の形成を目指す。

授業の到達目標

・教育の基本的概念を用いて、教育を成り立たせる諸要因とそれら相互の関係を説明することができる。
・教育の歴史に関する基礎的知識を踏まえて、過去から現代に至るまでの教育および学校の変遷を概説し、その変遷のなかで生まれた多様な教育の理念を説明することができる。
・教育に関する様々な思想が、いかなる理念や歴史的背景をもとに生まれてきたかについて説明することができる。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　□グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　□発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等）　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：オリエンテーション
　事前学習：シラバスをよく読み、学修計画を立てる。（2時間）
　事後学習：授業内容に関連する情報を検索し、学修計画をさらに固める。（2時間）
第2回：教育の基本的概念（1）── 子どもの権利について
　事前学習：授業内容に関連する情報を集めて整理する。（2時間）
　事後学習：授業内容をノートにまとめる。（2時間）
第3回：教育の基本的概念（2）── 教育における愛と暴力
　事前学習：授業内容に関連する情報を集めて整理する。（2時間）
　事後学習：授業内容をノートにまとめる。（2時間）
第4回：教育の基本的概念（3）── 乳幼児期から老年期までの発達について
　事前学習：授業内容に関連する情報を集めて整理する。（2時間）
　事後学習：授業内容をノートにまとめる。（2時間）
第5回：日本教育史（1）── 家族や社会のなかの教育
　事前学習：授業内容に関連する情報を集めて整理する。（2時間）
　事後学習：授業内容をノートにまとめる。（2時間）
第6回：日本教育史（2）── 塾と学校の登場
　事前学習：授業内容に関連する情報を集めて整理する。（2時間）
　事後学習：授業内容をノートにまとめる。（2時間）
第7回：日本教育史（3）── 義務教育制度成立史
　事前学習：授業内容に関連する情報を集めて整理する。（2時間）
　事後学習：授業内容をノートにまとめる。（2時間）

第８回：西洋における教育の思想と歴史（１）── 古代ギリシア、ローマの教育
　　事前学習：授業内容に関連する情報を集めて整理する。（２時間）
　　事後学習：授業内容をノートにまとめる。（２時間）
第９回：西洋における教育の思想と歴史（２）── コメニウスと一斉教授について
　　事前学習：授業内容に関連する情報を集めて整理する。（２時間）
　　事後学習：授業内容をノートにまとめる。（２時間）
第10回：西洋における教育の思想と歴史（３）── ルソーにおける子どもの発見について
　　事前学習：授業内容に関連する情報を集めて整理する。（２時間）
　　事後学習：授業内容をノートにまとめる。（２時間）
第11回：西洋における教育の思想と歴史（４）── 自律を目指した思想家たち
　　事前学習：授業内容に関連する情報を集めて整理する。（２時間）
　　事後学習：授業内容をノートにまとめる。（２時間）
第12回：西洋における教育の思想と歴史（５）── 教育制度の思想的基礎
　　事前学習：授業内容に関連する情報を集めて整理する。（２時間）
　　事後学習：授業内容をノートにまとめる。（２時間）
第13回：教育と福祉の関係 ── 家庭、地域、学校の役割について
　　事前学習：授業内容に関連する情報を集めて整理する。（２時間）
　　事後学習：授業内容をノートにまとめる。（２時間）
第14回：現代における教育の課題 ── 生涯学習の観点から
　　事前学習：授業内容に関連する情報を集めて整理する。（２時間）
　　事後学習：授業内容をノートにまとめる。（２時間）
第15回：まとめ
　　事前学習：授業内容に関連する情報を集めて整理する。（２時間）
　　事後学習：授業内容をノートにまとめる。（２時間）
第16回：定期試験

授業実施方法（面接授業・遠隔授業）

原則として「面接授業」を行います。
ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。
遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成　績　評　価　方　法

定期試験（70%）平常点（30%）
（平常点は、授業への参加状況、および授業時の課題の内容をもとに評価する。）

成　績　評　価　基　準

・教育の基本的概念を用いて、教育を成り立たせる諸要因とそれら相互の関係を説明することができるか。
・教育の歴史に関する基礎的知識を踏まえて、過去から現代に至るまでの教育および学校の変遷を概説し、その変遷のなかで生まれた多様な教育の理念を説明することができるか。
・教育に関する様々な思想が、いかなる理念や歴史的背景をもとに生まれてきたかについて説明することができるか。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック

１）授業時の課題に対するフィードバックについて
　■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
２）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
　□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
３）小レポートに対するフィードバックについて
　□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
４）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
　□定期試験時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
５）その他
　□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他

実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）

テ　キ　ス　ト　、　参　考　図　書

テキスト：プリントを配布する。
参考図書：高橋陽一『新しい教育通義』武蔵野美術大学出版局　2018年

その他（受講上の注意）
オ フ ィ ス ア ワ ー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

保育・教育課程論 (Theory of Curriculum for Early Childhood Care and Education)			担当教員	鈴木　智子
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−B−2151	2単位	1年後期	講義	必修

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　基幹科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>　教育の基礎的理解に関する科目

<科目に含めることが必要な事項>　教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）

求める学習成果（教育目標）

教育・保育の内容の理解及び指導方法

身につけることを目指す社会的・職業的能力（汎用的能力）

■体系的な知識･技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成･社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解･自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

幼稚園教諭一種免許状（必修）、保育士資格（必修）

授業の内容

本授業では、子どもの主体的な遊びを内容とする保育・幼児教育において、子どもの発達に必要な指導計画の意義・編成を理解し、実際に計画を立案する力を養うこと、また計画を実践に移した後も指導目標と照らし合わせた上で保育・教育に対する反省･評価を行い、再び指導の目標設定に移るまでの循環的な流れを身につけることを目的としている。

テキストや参考図書を基に講義を中心とするが、グループで討論し、指導計画を立てることで、他の受講生と意見交換をし、考えを深める機会を設ける。

授業の到達目標

教育課程・全体的な計画・指導計画の意義について説明することができる。
子ども理解から指導計画の作成、評価までの流れを説明することができる。
短期の指導計画と長期の指導計画の関連について説明することができる。
短期、長期の指導計画案を立てることができる。
小学校、保護者、地域との連携を踏まえた指導計画案を立てることができる。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　□発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等）　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：幼児教育・保育における目標と計画の基本的考え方
　事前学習：幼稚園教育要領・保育所保育指針の指導計画に関する部分を読み、質問項目をまとめておく（2時間）
　事後学習：授業内容を踏まえて、幼稚園教育要領・保育所保育指針の指導計画に関する部分を再読し、要点をまとめる（2時間）
第2回：教育課程・全体的な計画と指導計画との関連性
　事前学習：テキストの授業内容に該当する部分を読み、質問項目をまとめておく（2時間）
　事後学習：授業内容を踏まえて、テキストに記載されている指導計画を見直し、ねらい・保育内容・援助と環境構成のつながりをまとめる（2時間）
第3回：幼児教育・保育におけるカリキュラム・マネジメントとPDCAサイクル
　事前学習：テキストの授業内容に該当する部分を読み、質問項目をまとめておく（2時間）
　事後学習：授業内容を踏まえて、テキストに記載されている指導計画を見直し、ねらい・保育内容・援助と環境構成のつながりをまとめる（2時間）
第4回：環境構成と子どもの発達
　事前学習：テキストの授業内容に該当する部分を読み、質問項目をまとめておく（2時間）
　事後学習：授業内容を踏まえて、テキストに記載されている指導計画を見直し、ねらい・保育内容・援助と環境構成のつながりをまとめる（2時間）

第５回：教育課程・全体的な計画の編成１（指導案作成の実際）
事前学習：テキストの授業内容に該当する部分を読み、質問項目をまとめておく（２時間）
事後学習：授業内容を踏まえて、テキストに記載されている指導計画を見直し、ねらい・保育内容・援助と環境構成のつながりをまとめる（２時間）
第６回：教育課程・全体的な計画の編成２（３歳未満児の指導計画の考え方）
事前学習：テキストの授業内容に該当する部分を読み、質問項目をまとめておく（２時間）
事後学習：授業内容を踏まえて、テキストに記載されている指導計画を見直し、ねらい・保育内容・援助と環境構成のつながりをまとめる（２時間）
第７回：教育課程・全体的な計画の編成３（３歳未満児の指導計画の実際）
事前学習：テキストの授業内容に該当する部分を読み、質問項目をまとめておく（２時間）
事後学習：授業内容を踏まえて、テキストに記載されている指導計画を見直し、ねらい・保育内容・援助と環境構成のつながりをまとめる（２時間）
第８回：教育課程・全体的な計画の編成４（３歳以上児の指導計画の考え方）
事前学習：テキストの授業内容に該当する部分を読み、質問項目をまとめておく（２時間）
事後学習：授業内容を踏まえて、テキストに記載されている指導計画を見直し、ねらい・保育内容・援助と環境構成のつながりをまとめる（２時間）
第９回：教育課程・全体的な計画の編成５（３歳以上児の指導計画の実際）
事前学習：テキストの授業内容に該当する部分を読み、質問項目をまとめておく（２時間）
事後学習：授業内容を踏まえて、テキストに記載されている指導計画を見直し、ねらい・保育内容・援助と環境構成のつながりをまとめる（２時間）
第10回：指導計画の評価と反省１（保育の柔軟な展開）
事前学習：テキストの授業内容に該当する部分を読み、質問項目をまとめておく（２時間）
事後学習：テキストの日案の反省を読み、次週の週案を作成する（２時間）
第11回：指導計画の評価と反省２（保育記録の取り方）
事前学習：テキストの授業内容に該当する部分を読み、演習課題を実施しておく（２時間）
事後学習：テキスト等の見直しや、わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問する（２時間）
第12回：指導計画の評価と反省３（保育記録の省察・活用）
事前学習：テキストの授業内容に該当する部分を読み、演習課題を実施しておく（２時間）
事後学習：テキスト等の見直しや、わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問する（２時間）
第13回：評価・改善と教育・保育の質向上
事前学習：テキストの授業内容に該当する部分を読み、演習課題を実施しておく（２時間）
事後学習：テキスト等の見直しや、わからないところがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問する（２時間）
第14回：教育課程・全体的な計画における保・幼・小の連携
事前学習：幼稚園教育要領・保育所保育指針の指導計画に関する部分を読み、質問項目をまとめておく（２時間）
事後学習：授業内容を踏まえて、幼稚園教育要領・保育所保育指針の該当する部分を再読し、授業内容と合わせて要点をまとめる（２時間）
第15回：保護者や地域との連携
事前学習：幼稚園教育要領・保育所保育指針の指導計画に関する部分を読み、質問項目をまとめておく（２時間）
事後学習：授業内容を踏まえて、幼稚園教育要領・保育所保育指針の該当する部分を再読し、授業内容と合わせて要点をまとめる（２時間）

授業実施方法（面接授業・遠隔授業）

原則として「面接授業」を行います。
ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。
遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成　績　評　価　方　法

レポート・課題（70%）、グループ討論の参加態度（20%）、平常点（10%）
（平常点は、授業への参加状況、受講態度等を総合して判断する）

成　績　評　価　基　準

教育・保育課程の意義について説明することができるか。
子ども理解から指導計画の作成、評価までの流れを説明することができるか。
短期の指導計画と長期の指導計画の関連について説明することができるか。
短期、長期の指導計画案を立てることができるか。
小学校、保護者、地域との連携を踏まえた指導計画案を立てることができるか。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

1）授業時の課題に対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
2）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
3）小レポートに対するフィードバックについて
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
4）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
□定期試験時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
5）その他
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他

実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)

テキスト、参考図書

テキスト
（1）河邉貴子編著「新3法令対応　幼児教育・保育カリキュラム論」東京書籍　2019年
（2）幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説　内閣府・文部科学省・厚生労働省　フレーベル館

参考図書
（1）「平成29年告示　幼稚園教育要領　保育所保育指針　幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜原本＞」
　　チャイルド本社　2017年
（1）柴崎正行・増田まゆみ・戸田雅美編『保育課程・教育課程総論』　ミネルヴァ書房　2010年
（2）保育所保育指針解説　厚生労働省　フレーベル館
（3）幼稚園教育要領解説　文部科学省　フレーベル館

その他(受講上の注意)

オフィスアワー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

子ども家庭福祉 (Welfare for Child and Family)			担当教員	青井　夕貴
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−F−2160	2単位	1年後期	講義	必修

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　基幹科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

教育・保育の基礎理論の理解

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識･技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成･社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
■自己理解･自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

保育士資格(必修)

授業の内容

保育所などの児童福祉施設に従事する保育士には、子どものwell−beingの実現を目指した保育活動の実践だけではなく、子どもの家庭を含めた支援が求められる。そのため、専門職として子ども家庭福祉に関する基礎的な知識が必要とされる。本授業では、児童福祉法を中心とした関連法をもとに、子ども家庭福祉における保育士の役割と職務について学んでほしい。

授業の到達目標

現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史的変遷について理解する。
子どもの人権擁護について理解する。
子ども家庭福祉の制度や実施体系等について理解する。
子ども家庭福祉の現状と課題について理解する。
子ども家庭福祉の動向と展望について理解する。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習(PBL)　□討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等)　□グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等)　□発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等)　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：オリエンテーション、子ども家庭福祉の理念と概念
　事前学習：テキストのまえがきを読み、疑問点や自分の考えを整理しておく。(2時間)
　事後学習：授業中に抱いた疑問点について、関連する文献等を自ら調べ、さらに理解を深める。(2時間)
第2回：子ども・児童の定義
　事前学習：テキストの第1章を読み、疑問点や自分の考えを整理しておく。(2時間)
　事後学習：授業中に抱いた疑問点について、関連する文献等を自ら調べ、さらに理解を深める。(2時間)
第3回：子どもの権利、人権擁護
　事前学習：テキストの第2章を読み、疑問点や自分の考えを整理しておく。(2時間)
　事後学習：授業中に抱いた疑問点について、関連する文献等を自ら調べ、さらに理解を深める。(2時間)
第4回：子ども家庭福祉の歴史的変遷
　事前学習：テキストの第3章を読み、疑問点や自分の考えを整理しておく。(2時間)
　事後学習：授業中に抱いた疑問点について、関連する文献等を自ら調べ、さらに理解を深める。(2時間)
第5回：子ども家庭福祉を支える法律①～児童福祉六法
　事前学習：テキストの第4章を読み、疑問点や自分の考えを整理しておく。(2時間)
　事後学習：授業中に抱いた疑問点について、関連する文献等を自ら調べ、さらに理解を深める。(2時間)
第6回：子ども家庭福祉を支える法律②～その他
　事前学習：テキストの第4章を読み、疑問点や自分の考えを整理しておく。(2時間)
　事後学習：授業中に抱いた疑問点について、関連する文献等を自ら調べ、さらに理解を深める。(2時間)
第7回：子ども家庭福祉の実施機関①～行政機関
　事前学習：テキストの第5章を読み、疑問点や自分の考えを整理しておく。(2時間)
　事後学習：授業中に抱いた疑問点について、関連する文献等を自ら調べ、さらに理解を深める。(2時間)

第８回：子ども家庭福祉の実施機関②～児童福祉施設
　　事前学習：テキストの第５章を読み、疑問点や自分の考えを整理しておく。（２時間）
　　事後学習：授業中に抱いた疑問点について、関連する文献等を自ら調べ、さらに理解を深める。（２時間）
第９回：子ども家庭福祉の専門職
　　事前学習：テキストの第６章を読み、疑問点や自分の考えを整理しておく。（２時間）
　　事後学習：授業中に抱いた疑問点について、関連する文献等を自ら調べ、さらに理解を深める。（２時間）
第10回：少子化と地域子育て支援、母子保健
　　事前学習：テキストの第７章を読み、疑問点や自分の考えを整理しておく。（２時間）
　　事後学習：授業中に抱いた疑問点について、関連する文献等を自ら調べ、さらに理解を深める。（２時間）
第11回：多様な保育サービス
　　事前学習：テキストの第８章を読み、疑問点や自分の考えを整理しておく。（２時間）
　　事後学習：授業中に抱いた疑問点について、関連する文献等を自ら調べ、さらに理解を深める。（２時間）
第12回：子ども家庭福祉の現状と課題①～社会的養護、障害のある子どもの福祉
　　事前学習：テキストの第９・10章を読み、疑問点や自分の考えを整理しておく。（２時間）
　　事後学習：授業中に抱いた疑問点について、関連する文献等を自ら調べ、さらに理解を深める。（２時間）
第13回：子ども家庭福祉の現状と課題②～ひとり親家庭、子どもの貧困
　　事前学習：テキストの第11・12章を読み、疑問点や自分の考えを整理しておく。（２時間）
　　事後学習：授業中に抱いた疑問点について、関連する文献等を自ら調べ、さらに理解を深める。（２時間）
第14回：子ども家庭福祉の現状と課題③～非行、子ども虐待・DV、外国籍の子どもの福祉
　　事前学習：テキストの第13・14章を読み、疑問点や自分の考えを整理しておく。（２時間）
　　事後学習：授業中に抱いた疑問点について、関連する文献等を自ら調べ、さらに理解を深める。（２時間）
第15回：子ども家庭福祉の動向と展望、まとめ
　　事前学習：テキストの第15章を読み、疑問点や自分の考えを整理しておく。（２時間）
　　事後学習：授業中に抱いた疑問点について、関連する文献等を自ら調べ、さらに理解を深める。（２時間）
第16回：定期試験

授業実施方法（面接授業・遠隔授業）

原則として「面接授業」を行います。
ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。
遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成績評価方法

定期試験（70%）、提出課題（30%）

成績評価基準

現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史的変遷について説明することができるか。
子どもの人権擁護について説明することができるか。
子ども家庭福祉の制度や実施体系等について説明することができるか。
子ども家庭福祉の現状と課題について説明することができるか。
子ども家庭福祉の動向と展望について説明することができるか。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック

１）授業時の課題に対するフィードバックについて
　■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
２）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
　■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
３）小レポートに対するフィードバックについて
　■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
４）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
　□定期試験時　□仁大eラーニング　□メール　■その他（個別あるいはTeams）
５）その他
　□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他

実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）

テキスト、参考図書

田邉哲雄・中 典子 編著「第５版　子ども家庭福祉論」晃洋書房・2025年
ミネルヴァ書房編集部「社会福祉小六法2025」ミネルヴァ書房・2025年

その他（受講上の注意）

オ フ ィ ス ア ワ ー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

保育者論 (Role of Nursery Teachers in Society)			担当教員	渡辺　直人
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−A−2150	2単位	1年後期	講義	必修

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　基幹科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

教育・保育の基礎理論の理解

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識･技能　□論理的思考力と創造力　□人間関係形成･社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
■自己理解･自己管理能力　□諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　■キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

保育士資格(必修)

授業の内容

今日の社会状況をふまえ，保育者(保育士・幼稚園教諭・保育教諭)の役割と倫理，保育士の制度的な位置づけと職務内容について学ぶ。

授業の到達目標

保育者(保育士・幼稚園教諭・保育教諭)の役割について説明することができる。
保育者の制度的な位置づけと職務内容について説明することができる。
保育者の職務上の倫理について説明することができる。

アクティブ・ラーニング

■課題解決型学習(PBL)　■討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等)　□グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等)　■発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等)　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：オリエンテーション「授業の概要説明、留意事項の説明」
　事前学習：1年前期で学んだ保育所保育指針第1章(総則)を読み、保育士の役割について復習しておく。(2時間)
　事後学習：わからないところを図書館等で調べたり、担当教員に質問する。(2時間)
第2回：保育者になるということ「保育者の存在意義・使命」
　事前学習：法令集を読み、保育士の法的位置づけを確認しておく。(2時間)
　事後学習：第1回課題レポートの作成。(2時間)
第3回：保育者の制度的位置づけ「児童福祉法」(討議)
　事前学習：法令集を読み、保育士をとりまく法律を確認しておく。(2時間)
　事後学習：授業内容をノートにまとめ、わからないところを図書館等で調べたり、担当教員に質問する。(2時間)
第4回：保育者の制度的位置づけ2「学校教育法、教育基本法」(討議)
　事前学習：法令集を読み、幼稚園教諭・保育教諭に関連する規定をまとめておく。(2時間)
　事後学習：授業内容をノートにまとめ、わからないところを図書館等で調べたり、担当教員に質問する。(2時間)
第5回：保育者の一日「具体的な仕事の流れに見る保育者のまなざし」(課題解決学習)
　事前学習：動画を視聴し、一日の生活を確認しておく。(2時間)
　事後学習：第2回課題レポートの作成。(2時間)
第6回：保育者の一日2「仕事の中に現れる危険性」(討議)
　事前学習：子どもの遊びの種類をまとめ、その中で起こり得るアクシデントをまとめておく。(2時間)
　事後学習：授業内容をノートにまとめ、わからないところを図書館等で調べたり、担当教員に質問する。(2時間)

第７回：子どもの実際「子どもを理解するということ」(討議)
事前学習：自身が持つ「保育士観」及び「子ども観」を明瞭にしておく。（２時間）
事後学習：授業内容をノートにまとめ、わからないところを図書館等で調べたり、担当教員に質問する。（２時間）
第８回：保育士の役割と専門性１「職務内容・臨床現場の観点から」(課題解決学習)
事前学習：保育所保育指針を読み、保育者の専門性について質問項目をまとめておく。（２時間）
事後学習：第３回課題レポートの作成。（２時間）
第９回：保育士の役割と専門性「規定の観点から」(討議)
事前学習：指針第４章を読み、子育て支援について質問項目をまとめておく。（２時間）
事後学習：授業内容をノートにまとめ、わからないところを図書館等で調べたり、担当教員に質問する。（２時間）
第10回：保育士の専門性「知識、技術、判断、全国保育士会倫理綱領」(課題解決学習)
事前学習：全国保育士会倫理綱領を読み、保育士の倫理について質問項目をまとめておく。
事後学習：授業内容をノートにまとめ、わからないところを図書館等で調べたり、担当教員に質問する。（２時間）
第11回：保育者の連携・協働１「保育における職員間・専門職間との連携・協働」(討議)
事前学習：保育士の仕事上での職員間・専門職機関との連携について調べ、実態をまとめておく（２時間）
事後学習：第４回課題レポートの作成。（２時間）
第12回：保育者の連携・協働２「地域における自治体や関係機関等との連携・協働」(討議)
事前学習：保育士の仕事上における地域・自治体等との関わりについて調べ、実態をまとめておく。（２時間）
事後学習：授業内容をノートにまとめ、わからないところを図書館等で調べたり、担当教員に質問する。（２時間）
第13回：保育の計画と評価１「計画」
事前学習：計画の必要性について考え、質問項目をまとめておく。（２時間）
事後学習：授業内容をノートにまとめ、わからないところを図書館等で調べたり、担当教員に質問する。（２時間）
第14回：保育の計画と評価２「評価」
事前学習：評価の必要性について考え、質問項目をまとめておく。（２時間）
事後学習：授業内容をノートにまとめ、わからないところを図書館等で調べたり、担当教員に質問する。（２時間）
第15回：まとめ（近年の保育をめぐる政策と課題）
事前学習：保育者のキャリア形成の視座から、改めて「保育士とは何か」自身の考えをまとめておく。（２時間）
事後学習：これまでの授業内容を振り返り、定期試験の準備をする。（２時間）
第16回：定期試験

授業実施方法(面接授業・遠隔授業)

原則として「面接授業」を行います。
ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。
遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成　績　評　価　方　法

筆記試験（40％）　中間の課題レポート（40％）　平常点（20％）
（平常点は、授業への参加状況、受講態度を総合して判断します。）

成　績　評　価　基　準

保育者（保育士・幼稚園教諭・保育教諭）の役割について現代社会の状況を踏まえて説明することができるか。
保育者の制度的な位置づけと職務内容について説明することができるか。
＜レポートの評価の観点＞
①ページ設定、枚数、テーマが指示に合っている
②論述の構成がよく、内容がわかりやすい
③自分の見解や主張が表明されている
④著書からの引用や具体例、または授業内容からの学修が論述に効果的に生かされている

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

1）授業時の課題に対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
2）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
3）小レポートに対するフィードバックについて
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
4）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
□定期試験時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
5）その他
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他

実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)

テキスト、参考図書

参考図書
「保育所保育指針解説」厚生労働省（編）　フレーベル館
「幼稚園教育要領解説」文部科学省（編）　フレーベル館

その他(受講上の注意)

必要に応じてプリントを配布します。1年前期で使用した『保育所保育指針解説』を引き続き使用します。

オフィスアワー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

保育原理Ⅰ (Principles of Early Childhood Ⅰ)			担当教員	渡辺　直人
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−A−2102	2単位	1年前期	講義	必修

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　基幹科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

教育・保育の基礎理論の理解

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識･技能　□論理的思考力と創造力　□人間関係形成･社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
□自己理解･自己管理能力　□諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　■キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

保育士資格(必修)

授業の内容

今日の子どもを取り巻く環境を概観しつつ、保育に係る制度(子ども・子育て支援新制度含む)、歴史、思想の概要と保育の意義を学ぶ。

授業の到達目標

特に幼稚園と保育所に係る制度(法律を含む)を理解し説明することができる。
西洋及び日本の保育の歴史(思想を含む)について、その概要を理解し、説明することができる。
幼稚園教育要領及び保育所保育指針の内容について、その概要を理解し、説明することができる。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習(PBL)　□討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等)　□グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等)　□発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等)　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：オリエンテーション(授業の概要説明、留意事項の説明)
　事前学習：新聞等で子どもに関わる記事を読み、ノートにまとめておく。(2時間)
　事後学習：授業の内容をノートに整理する。(2時間)
第2回：保育の歴史(古代から中世の保育思想)
　事前学習：古代や中世の教育思想について調べ、保育と関連する部分をノートにまとめる。(2時間)
　事後学習：授業で学んだ古代・中世の保育思想を整理し、現代保育との関係性を考える。(2時間)
第3回：近代ヨーロッパの保育思想(ルソー、ペスタロッチなど)
　事前学習：ルソーやペスタロッチの思想について事前に調べ、保育との関連を考える。(2時間)
　事後学習：授業で得た知識を図や表にまとめ、現代保育における影響を明確化する。(2時間)
第4回：フレーベルと幼稚園教育の誕生
　事前学習：フレーベルの生涯とその教育理論について調べ、簡単にまとめる。(2時間)
　事後学習：授業内容を踏まえて、フレーベルの思想が現代保育にどう活かされているかを考察する。(2時間)
第5回：日本の近代保育思想(明治期の保育と幼稚園の発展)
　事前学習：明治時代における幼稚園の創設について調べ、概要をノートにまとめる。(2時間)
　事後学習：授業で学んだ内容を振り返り、明治期の保育発展の意義を文章にまとめる。(2時間)
第6回：大正期の保育思想(自由教育運動と保育)
　事前学習：大正デモクラシー期における自由教育運動の概要を調べておく。(2時間)
　事後学習：授業内容を基に、大正期の自由教育運動が保育に与えた影響をレポートにまとめる。(2時間)
第7回：戦時下の保育と戦後の復興期の保育政策
　事前学習：戦時下における保育政策や保育所の変遷について調べておく。(2時間)
　事後学習：授業で取り上げた内容を振り返り、戦後の保育政策の特徴を考え直す。(2時間)

第８回：戦後日本の保育思想と児童福祉法の制定
事前学習：児童福祉法の制定過程とその背景について調べておく。（２時間）
事後学習：授業内容を参考に、児童福祉法が保育思想に及ぼした影響を文章化する。（２時間）
第９回：保育所保育指針の歴史とその位置づけ
事前学習：過去の保育所保育指針の改定履歴について調べておく。（２時間）
事後学習：授業の内容を要点ごとに整理し、指針の変遷における重要ポイントをまとめる。（２時間）
第10回：保育内容の変遷とその背景
事前学習：戦後から現代までの保育内容の変遷について調べ、主な変化をノートにまとめておく。（２時間）
事後学習：授業で学んだ保育内容の変化の背景やその影響を図式化して考える。（２時間）
第11回：現代の保育と子育て支援政策の展開
事前学習：戦後の日本社会の変化と、それに対応した保育政策について調べておく。（２時間）
事後学習：授業で取り上げた事例を基に、平成期の保育政策の特徴を箇条書きで整理する。（２時間）
第12回：現代の保育と保育思想の新たな潮流
事前学習：現在の保育を取り巻く課題や新たな取り組みについて調べておく。（２時間）
事後学習：授業内容を活用して、現代の保育思想の課題と可能性を文章でまとめる。（２時間）
第13回：諸外国の保育思想と制度（ヨーロッパ・アメリカ・アジア）
事前学習：諸外国の保育制度や思想について調べ、ノートにまとめておく。（２時間）
事後学習：授業を通じて得た知識を整理し、日本との相違点を比較する。（２時間）
第14回：保育の歴史を踏まえた現代保育の課題と展望
事前学習：これまでの授業内容を振り返り、自分なりに重要と思う点をノートにまとめる。（２時間）
事後学習：授業で学んだことをもとに、現代保育の課題と展望についてレポートを仕上げる。（２時間）
第15回：前期のまとめ
事前学習：配布資料を読み、関連する事項をノートにまとめておく。（２時間）
事後学習：授業の内容をノートに整理する。前期の授業内容について資料等を通して振り返り、定期試験の準備をする。（２時間）
第16回：定期試験

授業実施方法（面接授業・遠隔授業）

原則として「面接授業」を行います。
ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。
遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成　績　評　価　方　法

平常点（20％）　課題レポート（30％）　筆記試験（50％）
（平常点は、授業への参加状況、課題レポートの提出状況を総合して判断します。）

成　績　評　価　基　準

保育の制度（各種法令・学習指導要領・保育内容）に係る基本的な理解ができているか。
保育の歴史と思想に係る基本的な知識が身についているか。
現代社会における保育の意義について、自分の見解を組み立てて論述できているか。
＜レポートの評価の観点＞
①ページ設定、枚数、テーマが指示に合っている
②論述の構成がよく、内容がわかりやすい
③自分の見解や主張が表明されている
④著書からの引用や具体例、または授業内容からの学修が論述に効果的に生かされている

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック

１）授業時の課題に対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
２）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
３）小レポートに対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
４）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
□定期試験時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
５）その他
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他

実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）

テキスト、参考図書
【テキスト】 厚生労働省編『保育所保育指針解説』（フレーベル館、2018年） 【参考書】 幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領
その他（受講上の注意）
オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

発達心理学Ⅰ (Developmental Psychology Ⅰ)			担当教員	乙部　貴幸
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−D−2158	2単位	1年後期	講義	必修

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　基幹科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

教育・保育の対象の理解及び子どもの発達の理解

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識･技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成･社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解･自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプラニング能力

資格・免許の要件

保育士資格(必修)

授業の内容

・保育士資格関連科目「保育の心理学」の対応科目。
・内容は非常に多岐に及ぶので、詳細は「授業の計画」を参照のこと。

授業の到達目標

1．保育実践に関わる発達理論等の心理学的知識を踏まえ、発達を捉える視点について理解する。
2．子どもの発達に関わる心理学の基礎を習得し、養護及び教育の一体性や発達に即した援助の基本となる子どもへの理解を深める。
3．乳幼児期の子どもの学びの過程や特性について基礎的な知識を習得し、保育における人との相互的関わりや体験、環境の意義を理解する。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習(PBL)　■討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等)　■グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等)　□発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等)　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：心理学とは：心と行動の客観的・論理的な説明を試みる学問としての心理学
　事後学習：講義内容と授業計画をもとに、自らがより深く学びたいことをリストアップする。(4時間)
第2回：発達を捉える視点①：子どもの発達を理解することの意義
　事後学習：講義内容の復習と疑問点の整理、より深く学びたいことの情報収集。(4時間)
第3回：発達を捉える視点②：子どもの発達と環境
　事後学習：講義内容の復習と疑問点の整理、より深く学びたいことの情報収集。(4時間)
第4回：発達を捉える視点③：発達理論と子ども観・保育観
　事後学習：講義内容の復習と疑問点の整理、より深く学びたいことの情報収集。(4時間)
第5回：子どもの発達過程①：身体的機能と運動機能の発達
　事後学習：講義内容の復習と疑問点の整理、より深く学びたいことの情報収集。(4時間)
第6回：子どもの発達過程②：感情の発達と自我
　事後学習：講義内容の復習と疑問点の整理、より深く学びたいことの情報収集。(4時間)
第7回：子どもの発達過程③：感覚・知覚と認知の発達
　事後学習：講義内容の復習と疑問点の整理、より深く学びたいことの情報収集。(4時間)
第8回：子どもの発達過程④：ことばの発達
　事後学習：講義内容の復習と疑問点の整理、より深く学びたいことの情報収集。(4時間)
第9回：子どもの発達過程⑤：基本的信頼感と愛着の発達
　事後学習：講義内容の復習と疑問点の整理、より深く学びたいことの情報収集。(4時間)
第10回：子どもの発達過程⑥：社会性の発達
　事後学習：講義内容の復習と疑問点の整理、より深く学びたいことの情報収集。(4時間)

第11回：脳の仕組み・働きと発達
　　事後学習：講義内容の復習と疑問点の整理、より深く学びたいことの情報収集。（４時間）
第12回：子どもの学びと保育①：乳幼児期の学びに関わる理論
　　事後学習：講義内容の復習と疑問点の整理、より深く学びたいことの情報収集。（４時間）
第13回：子どもの学びと保育②：乳幼児期の学びの過程と特性
　　事後学習：講義内容の復習と疑問点の整理、より深く学びたいことの情報収集。（４時間）
第14回：子どもの学びと保育③：乳幼児期の学びを支える保育（グループワークと討議）
　　事前学習：グループワークのための資料準備。（４時間）
第15回：発達の諸相：発達の様々な側面を考える（グループワークと討議）
　　事前学習：グループワークのための資料準備。（４時間）
第16回：定期試験

授業実施方法（面接授業・遠隔授業）

原則として「面接授業」を行います。
ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。
遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成　績　評　価　方　法

課題レポート：40%
グループワークの報告（10%× 2 = 20%）
定期試験（40%）

成　績　評　価　基　準

・子どもの発達と学習の過程について、基礎的なことを理解し、説明できること。
・発達と保育に関する「発達心理学」「保育の心理学」的な見方・考え方について、一定の総合的な見識を持つこと。
・自分なりの踏み込んだ疑問や理解を持とうとし、それについて他者と意見・考えを交換できること。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック

１）授業時の課題に対するフィードバックについて
　■授業時　■仁大eラーニング　□メール　□その他
２）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
　■授業時　■仁大eラーニング　□メール　□その他
３）小レポートに対するフィードバックについて
　■授業時　■仁大eラーニング　□メール　□その他
４）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
　□定期試験時　■仁大eラーニング　□メール　□その他
５）その他
　□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他

実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）

テ　キ　ス　ト　、　参　考　図　書

＜テキスト＞
杉村伸一郎・山名裕子（編）『保育の心理学』（中央法規、2019年）
＜参考＞
幼稚園教育要領（平成29年３月31日告示　文部科学省）
保育所保育指針（平成29年３月31日告示　厚生労働省）
幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年３月31日告示　内閣府・文部科学省・厚生労働省）

その他（受講上の注意）

この授業では授業資料の配布、課題の提出、試験などを全て仁大e-ラーニングで行います。質問・連絡は、授業の前後、メール/teams、またはオフィスアワーに研究室に来て下さい。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

保育基礎演習 (Basic Seminar for Early Childhood Careand Education)			担当教員	伊東　知之、辻　由記子、森尾　恵里
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−C−2108	2単位	1年前期	演習	必修

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　基幹科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

教育・保育の実践に求められる表現技術

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識･技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成･社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解･自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

保育士資格（選択）、卒業（必修）

授業の内容

授業は、3人の教員がそれぞれの専門分野に応じた実技を中心にオムニバス方式で進めていく。
（伊東知之／5回）
主にクレヨンを用いた基本的な絵画活動や折り紙等の身近な素材を用いた工作、造形遊び等、実際の保育の現場で子どもたちと関わることができる活動を体験していく。また、実際の子どもたちとの関わりの中で、学んだ造形活動がどのように展開されていくのかや造形活動を通した子どもたちとの触れ合い方を学ぶ。
（辻由記子／5回）
実際の教育機関の現場で、子どもたちの音楽を通した活動を効果的に推進するために必要な「器楽」の基本的概念や奏法を学ぶ。楽器の歴史と併せ、子どもたちに身近な“リズム”や“ことば”が、器楽への興味へとつながっていくことを理解し、また、グループ等での小編成合奏や創作遊びを通して、楽器の基本的な扱い方、奏法を身につけさせる。
（森尾恵里／5回）
乳幼児との心の通う関わり方の一方法として、遊びを通したコミュニケーションづくりの基礎を身に付けさる。“楽しい”を伝えられる支援者としての第一歩となるように、乳幼児との関わりに有効な手遊び・言葉遊びの基礎を体験し、遊びの展開方法を身に付けさせる。さらに、遊びの展開方法に重要な“ことばと表情”による表現の仕方の基礎的な方法を修得させる。

授業の到達目標

造形、音楽、身体表現の基礎的な理論を理解し、実践できる。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等）　□実習、フィールドワーク　■実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：遊びの体験／出会い（総合演習室）（森尾）
　事前学習：子どもの遊びについて調べておくこと。（2時間）
　事後学習：授業の遊びの体験をまとめておくこと。（2時間）
第2回：手遊び、言葉遊びに素材の体験（総合演習室）（森尾）
　事前学習：乳幼児に適した手遊び、ことば遊びを調べておくこと。（2時間）
　事後学習：授業で体験した遊びの展開の仕方を復習しておくこと。（2時間）
第3回：手遊び、言葉遊びの素材の展開法（総合演習室）（森尾）
　事前学習：いろいろな遊びの展開の仕方を調べておくこと。（2時間）
　事後学習：授業で体験したいろいろな遊びの展開の仕方を復習し、身につけておくこと。（2時間）
第4回：ホスピタリティの示し方　表現・話し方トレーニング（総合演習室）（森尾）
　事前学習：対象児に伝わりやすい表情、話し方を調べておくこと。（2時間）
　事後学習：授業で体験したホスピタリティ溢れる話し方を復習しておくこと。（2時間）

第５回：コミュニケーションづくりの基礎技術（総合演習室）（森尾）
事前学習：対象児に合わせた遊びの説明の仕方を練習しておくこと。（２時間）
事後学習：対象児とより良い関わりを持つために、授業で体験したことを実践に努めること。（２時間）
第６回：子どもと造形遊び（図工室）（伊東）
事前学習：幼児教育・保育の５領域について調べておくこと。（２時間）
事後学習：授業の内容についてまとめ、課題作品を完成させる。（２時間）
第７回：幼稚園・保育園見学（学外）（伊東）
事前学習：見学する附属幼稚園、仁愛保育園の概要をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：見学の内容をレポートにまとめる。（２時間）
第８回：遊びの中の造形（伊東）
事前学習：子どもと造形活動についての考えをまとめておくこと。（２時間）
事後学習：授業の内容についてまとめ、課題作品を完成させる。（２時間）
第９回：造形遊びから造形表現（図工室）（伊東）
事前学習：子どもの造形に関する発達について調べておくこと。（２時間）
事後学習：授業の内容についてまとめ、課題作品を完成させる。（２時間）
第10回：造形表現の実践とまとめ（図工室）（伊東）
事前学習：造形表現の具体的な内容をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：授業の内容についてまとめ、課題作品を完成させる。（２時間）
第11回：言葉とリズムの表現（言葉をリズムで表現させ、またそのリズムを叩いてみる）（音楽室）（辻）
事前学習：日常使用される言葉を”リズム”の面から探り、分析しておく。（２時間）
事後学習：授業の内容についてまとめ、形成されたリズムを確認してみる。（２時間）
第12回：手拍子での表現（ボディパーカッションの応用）（言葉のリズムを手拍子や、体の部分でとらせる）（音楽室）（辻）
事前学習：日常使用される言葉のリズムを手拍子で叩けるように体験しておく。（２時間）
事後学習：授業の内容についてまとめ、リズムと手拍子との関連性を確認してみる。（２時間）
第13回：楽器を用いたリズム表現（単純な楽器を使ったリズム表現や楽器製作）（音楽室）（辻）
事前学習：自分の名前や相手の名前をリズムで表現出来るようにしておく。（２時間）
事後学習：授業の内容に応じたリズム体系を身近な楽器で叩いてみる。（２時間）
第14回：メロディに合わせたリズム表現（簡単なメロディに合わせ楽器や手拍子等でリズム表現）（音楽室）（辻）
事前学習：簡単な楽譜を読んだり、リズムを叩いたり出来るよう練習しておく。（２時間）
事後学習：２人以上でのリズム表現を楽譜に応じて演奏してみる。（２時間）
第15回：まとめ、アンサンブル（全体で言葉のリズムを歌等を交え表現させる）（音楽室）（辻）
事前学習：２人以上のアンサンブルで、それぞれのパートを演奏出来るようにしておく。（２時間）
事後学習：それぞれ演奏するリズムが各自聞き取れるよう、復習してみる。（２時間）

授業実施方法（面接授業・遠隔授業）

原則として「面接授業」を行います。
ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。
遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成　績　評　価　方　法

レポート（80％）、平常点（20％）
（平常点は、授業への参加状況、受講態度、提出物の提出状況等を総合して判断します。）

成　績　評　価　基　準

造形の基礎的な理論を理解し、実践できるか。
音楽の基礎的な理論を理解し、実践できるか。
身体表現の基礎的な理論を理解し、実践できるか。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック

１）授業時の課題に対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
２）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
３）小レポートに対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
４）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
□定期試験時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
５）その他
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他

実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）
テキスト、参考図書
必要に応じて資料を配布する。 伊東知之著『造形表現・図画工作・美術』福村出版　2023年
その他（受講上の注意）
日程によって教室が異なるため注意すること。また、総合演習室での授業では、動きやすい服装、履物で受講し、図工室での授業では図工用具一式を持参すること。
オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

国語 (Japanese Language)			担当教員	平岡　正実
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−B−2152	2単位	1年後期	講義	選択

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　展開科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>　教科及び教科の指導法に関する科目（教科に関する専門的事項）

<科目に含めることが必要な事項>　国語（書写を含む。）

求める学習成果（教育目標）

教育・保育の内容の理解及び指導方法

身につけることを目指す社会的・職業的能力（汎用的能力）

■体系的な知識･技能　□論理的思考力と創造力　□人間関係形成･社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
□自己理解･自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

小学校教諭一種免許状（必修）

授業の内容

小学校学習指導要領「国語」の内容を踏まえながら、小学校教諭として国語の力を身につける。

授業の到達目標

自らの言語感覚を磨き、国語に対する関心を深めて、自信をもって小学校国語科の指導ができる。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習（PBL）　■討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　□発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等）　□実習、フィールドワーク　■実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：全体の授業概要の説明及び受講における心構え
　事前学習：「小学校学習指導要領解説国語編」第1章を読んで質問事項をまとめておくこと。（2時間）
　事後学習：授業での学修を参考にして「小学校学習指導要領解説国語編　第1章」「幼稚園教育要領言葉」を読んで関連性をノートにまとめ第2回授業で提出すること。（2時間）
第2回：学習指導要領における「国語」について
　事前学習：①「小学校学習指導要領解説国語編　第2章国語科の目標および内容」を読んで質問事項をまとめておくこと。②各自が持っている国語便覧の「文学史」を読み、日本文学についてまとめておくこと。（2時間）
　事後学習：①「小学校学習指導要領解説国語編」を読んで各領域における学年ごとの目標②時代を代表する文学の作品名や作者名、及び内容の概略の2 点について調べ、それぞれノートにまとめ第3回授業で提出すること。（2時間）
第3回：国語の基礎①声の表現（ワークショップ）
　事前学習：「小学校学習指導要領解説国語編国語科の内容　A話すこと・聞くこと　P28～31」を読んで質問事項をまとめておくこと。（2時間）
　事後学習：「話すこと・聞くこと」の活動を形態によって分類し、実際に行う場合の留意点についてノートに整理し第4回授業で提出すること。（2時間）
第4回：国語の基礎②漢字（送り仮名・仮名遣い）（実技）
　事前学習：「小学校学習指導要領解説国語編国語科」の付録3（学年別漢字配当表）を参考に漢字の復習をしておくこと。（2時間）
　事後学習：①現代仮名遣い及び送り仮名の付け方について例解辞典等で確認しておくこと。
　②都道府県名及び県庁所在地名をノートに漢字で正しく書き第5回授業で提出すること。（2時間）
第5回：国語の基礎③カタカナ・ローマ字（実技）
　事前学習：図書館や参考文献等でカタカナの由来やもととなった漢字、ローマ字表記について調べ、質問事項をまとめておくこと。（2時間）
　事後学習：小学校3 年生の国語の教科書からローマ字に関する教材文を参考にして、ローマ字で50単語程度の日記を書いて第6回授業で提出すること。（2時間）

第６回：国語の基礎④ひらがな（実技）
事前学習：図書館や参考文献等でひらがなの由来やもととなった漢字、鉛筆の持ち方について調べ、質問事項をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：ひらがなの字源を調べたり、文字の概形や組み立て方を確認したりして、字形指導の効果的な指導計画を立て第７回授業で提出すること。（２時間）
第７回：国語の基礎⑤板書・原稿用紙の使い方（実技）
事前学習：小テストに備えて既習事項の復習をしておくこと。（２時間）
事後学習：小テストの解答をもとに誤答を中心に復習すること。（２時間）
第８回：国語の基礎⑥文法・敬語（実技）
事前学習：各自が持っている国語便覧の「口語文法」の項目を読み、質問事項をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：口語文法と敬語に関する復習課題をやり第９回授業で提出すること。（２時間）
第９回：国語の基礎⑦古典（１）古文＜百人一首＞（グループワーク）
事前学習：各自が持っている国語便覧の「百人一首」の項目を読み、何首かは暗唱できるようにしておくこと。（２時間）
事後学習：百人一首に関する復習課題をやり第10回授業で提出すること。競技カルタのルールを習得しておくこと。（２時間）
第10回：国語の基礎⑧手紙文はがき文の書き方、ＮＩＥ（実技）
事前学習：手紙文はがき文の書き方、時候の挨拶について調べておくこと。（２時間）
事後学習：新聞記事やコラムを活用したＮＩＥの学習指導計画を立て第11回授業で提出すること。（２時間）
第11回：国語の基礎⑨文章（小論文・随筆等）の書き方（ワークショップ）
事前学習：「ふくい風花文学賞　入賞作品集」を読んで感想をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：著名人の随筆やエッセイを読み、書きぶりの特徴やよさについてまとめ第12回授業で提出すること。（２時間）
第12回：国語の基礎⑩熟語・慣用句他（グループワーク）
事前学習：自分が知っている「四字熟語」について読み方や由来、今日的な使われ方等についてまとめておくこと。（２時間）
事後学習：授業中に紹介された「四字熟語」の中で、意味がわからないものについて調べ、ノートにまとめたり、短文づくりをして第13回授業で提出すること。（２時間）
第13回：書写（実技）
事前学習：「小学校学習指導要領解説国語編国語科の内容（３　我が国の言語文化に関する事項○書写）」を読んで質問事項をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：小学校の書写教科書を読んで、書写教育の今日的意義についてノートにまとめ第14回授業で提出すること。（２時間）
第14回：指導者としての国語力（ディスカッション）
事前学習：「小学校学習指導要領解説国語編の付録３（小学校教育要領　第２章第１　節国語）付録10（幼稚園教育要領）を読んでまとめておくこと。（２時間）
事後学習：幼小の教育者として今日求められている国語力について自分なりの意見をまとめ第15回授業で提出すること。（２時間）
第15回：話す、聞くなどを含めた国語の力全体の総括及び小テストの解説
事前学習：小テストに備えて、既習事項の復習をしておくこと。（２時間）
事後学習：教育要領「言葉」や指導要領「国語」の記述を参照しながら、この講義を受講して具体的にどのようなことを学んだかノートにまとめ提出すること。（２時間）

授業実施方法（面接授業・遠隔授業）

原則として「面接授業」を行います。
ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。
遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成　績　評　価　方　法

学期末レポート（50％）、授業内の小テスト（30％）、平常点（20％）
（平常点は、授業への参加状況、受講態度等を総合して判断する）

成　績　評　価　基　準

国語を学ぶ意義を理解し、提出物や実技を通して自らの国語の力を高められたか。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

1）授業時の課題に対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
2）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
3）小レポートに対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
4）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
□定期試験時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
5）その他
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他

実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)

経歴：（元小・中学校教諭）
実務経験と授業内容との関連性：（小学校教諭・中学校教諭として、授業実践、生徒指導実践を行ってきた経験を有する教員が、学習指導要領に示されている教科「国語」の学習指導内容について講義する。）

テキスト、参考図書

テキスト
『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 国語編』 文部科学省、東洋館出版社、平成29年７ 月
『国語（文部科学省検定済教科書）』光村図書出版株式会社、小学校国語科用、令和７年２月（１年～４年　上・下巻、５・６年　通年１冊）

その他(受講上の注意)

書写や実技の回では、その都度持ち物を指示します。各自で持参してください。

オフィスアワー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

子どもと健康 (Child and Health)			担当教員	出村　友寛
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−B−2103	1単位	1年前期	演習	選択

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　展開科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>　領域及び保育内容の指導法に関する科目

<科目に含めることが必要な事項>　領域に関する専門的事項・健康

求める学習成果(教育目標)

教育・保育の内容の理解及び指導方法

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識･技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成･社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解･自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

幼稚園教諭一種免許状（必修）、保育士資格（必修）

授業の内容

乳幼児期における身体の発育・発達に関する基本的な情報および乳幼児のけがや疾病への対応策、安全を確保するために留意すべき保育環境のあり方などについて学習する。

授業の到達目標

領域「健康」のねらいや内容について理解する。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　□発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等）　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：領域「健康」のとらえ方と目指すもの
　事前指導：テキストの第1章を読み、質問項目をまとめておくこと。（2時間）
　事後学習：テキスト等の見直しや、関連項目を図書館等で調べること。（2時間）
第2回：乳幼児の発育・発達
　事前指導：テキストの第2章を読み、質問項目をまとめておくこと。（2時間）
　事後学習：テキスト等の見直しや、関連項目を図書館等で調べること。（2時間）
第3回：乳幼児の生活習慣の現状と課題
　事前学習：テキストの第3章を読み、質問項目をまとめておくこと。（2時間）
　事後学習：テキスト等の見直しや、関連項目を図書館等で調べること。（2時間）
第4回：乳幼児の身体活動の現状と課題
　事前学習：テキストの第4章を読み、質問項目をまとめておくこと。（2時間）
　事後学習：テキスト等の見直しや、関連項目を図書館等で調べること。（2時間）
第5回：幼児期運動指針について
　事前学習：幼児期運動指針（文部科学省、2012）を読み、質問項目をまとめておくこと。（2時間）
　事後学習：幼児期運動指針の見直しや、関連項目を図書館等で調べること。（2時間）
第6回：健全な発育・発達の測定と評価方法
　事前学習：テキストの第6章（p.113−137）を読み、質問項目をまとめておくこと。（2時間）
　事後学習：テキスト等の見直しや、関連項目を図書館等で調べること。（2時間）
第7回：安全管理と安全教育の必要性
　事前学習：テキストの第7章（p.138−146）を読み、質問項目をまとめておくこと。（2時間）
　事後学習：テキスト等の見直しや、関連項目を図書館等で調べること。（2時間）
第8回：応急処置法（確認試験）
　事前学習：テキストの第7章（p.146−161）を読み、質問項目をまとめておくこと。（2時間）
　事後学習：テキスト等の見直しや、関連項目を図書館等で調べること。（2時間）

定期試験は実施しない

授業実施方法(面接授業・遠隔授業)

原則として「面接授業」を行います。
ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。
遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成　績　評　価　方　法

確認試験（60%）、レポート（40%）

成　績　評　価　基　準

領域「健康」のねらいや内容を理解できているか。幼児期における身体の発育・発達に関して理解できているか。
幼児のけがや疾病への対応策、安全を確保するために留意すべき保育環境のあり方について理解できているか。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

1）授業時の課題に対するフィードバックについて
■授業時　■仁大eラーニング　□メール　□その他
2）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
■授業時　■仁大eラーニング　□メール　□その他
3）小レポートに対するフィードバックについて
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
4）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
□定期試験時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
5）その他
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他

実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)

テ　キ　ス　ト、参　考　図　書

テキスト：春日晃章編集代表　松田繁樹・中野貴博編集 「保育内容　健康」 株式会社みらい　2015年
参考図書：幼稚園教育要領（平成29年３月告示 文部科学省）、幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年３月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省）適宜配布

その他(受講上の注意)

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

子どもと音楽表現 (Child and Music Expression)			担当教員	中野　研也
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−B−2104	1単位	1年前期	演習	選択

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　展開科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>　領域及び保育内容の指導法に関する科目

<科目に含めることが必要な事項>　領域に関する専門的事項・表現

求める学習成果(教育目標)

教育・保育の内容の理解及び指導方法

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識･技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成･社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
□自己理解･自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

幼稚園教諭一種免許状（必修）、保育士資格（必修）

授業の内容

音楽の3要素である「リズム」「旋律」「和声」を歌唱やキーボード演奏の実践を通して体感的に学習するとともに、記譜法等を含めた音楽の基礎的な知識を習得し活用する。

授業の到達目標

保育・教育における音楽活動の実践に必要な音楽理論の基礎的知識と楽譜を理解し活用する力を身に付ける。

アクティブ・ラーニング

■課題解決型学習（PBL）　■討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　□発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等）　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：リズムと拍子1　音の長さとリズムとの関係、拍子を感じる
　事前指導：「子どものための音楽表現技術」p.2～p.7を読み、質問項目をまとめておく。（2時間）
　事後指導：「子どものための音楽表現技術」p.9～p.10を実施する。（2時間）
第2回：五線と鍵盤
　事前指導：「子どものための音楽表現技術」p.11～p.12、p.14～p.15を読み、質問項目をまとめておく。（2時間）
　事後指導：「子どものための音楽表現技術」p.13、p.15、を実施する。（2時間）
第3回：音階と調①　わらべうたや民謡などの音階
　事前指導：「子どものための音楽表現技術」p.16～p.19を読み、質問項目をまとめておく。（2時間）
　事後指導：「子どものための音楽表現技術」p.26～p.27を実施する。（2時間）
第4回：音階と調②　長音階と短音階（ディスカッション）
　事前指導：「子どものための音楽表現技術」p.27～p.29を読み、質問項目をまとめておく。（2時間）
　事後指導：「子どものための音楽表現技術」p.32～p.33を実施する。（2時間）
第5回：音程1　音程の種類と名前
　事前指導：「子どものための音楽表現技術」p.33～p.35を読み、質問項目をまとめておく。（2時間）
　事後指導：「子どものための音楽表現技術」p.39～p.40を実施する。（2時間）
第6回：音程2　変化記号の付いた音程と、音程の転回
　事前指導：「子どものための音楽表現技術」p.41～p.44を読み、質問項目をまとめておく。（2時間）
　事後指導：「子どものための音楽表現技術」p.49を実施する。（2時間）
第7回：和音と伴奏1　主要三和音（グループワーク）
　事前指導：「子どものための音楽表現技術」p.53～p.57を読み、質問項目をまとめておく。（2時間）
　事後指導：「子どものための音楽表現技術」p.61、p.65を実施する。（2時間）

第８回：和音と伴奏②　コードネームと７の和音（グループワーク）
事前指導：「子どものための音楽表現技術」p.67～p.72を読み、質問項目をまとめておく。（２時間）
事後指導：「子どものための音楽表現技術」p.73～p.74、および授業で配布した試験対策問題を実施する。（２時間）

定期試験：定期試験期間に実施する
各回での理解が、それ以降の授業内容の理解に大きく影響します。そのため、第一に授業時間内での理解に努めてください。

授業実施方法（面接授業・遠隔授業）

原則として「面接授業」を行います。
ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。
遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成　績　評　価　方　法

音楽理論の基礎知識が身につき、教育・保育現場で使用される楽譜を理解できるようになったかどうかを評価基準とし、定期試験（70%）と平常点（30%）で評価する。

成　績　評　価　基　準

音楽理論の基礎知識が身につき、教育・保育現場で使用される楽譜を理解できるようになったか。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック

１）授業時の課題に対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
２）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
３）小レポートに対するフィードバックについて
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
４）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
□定期試験時　■仁大eラーニング　□メール　□その他
５）授業時間内に行う実技試験に対するフィードバックについて
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他

実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）

テ　キ　ス　ト　、　参　考　図　書

【テキスト】
「子どものための音楽表現技術」今泉明美（編集）,有村さやか（編集）,望月たけ美（著）　萌文書林

【参考図書】
幼稚園教育要領（平成29年３月告示　文部科学省）
保育所保育指針（平成29年３月告示　厚生労働省）
幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年３月告示　内閣府・文部科学省・厚生労働省）
その他、印刷資料を随時配布する。

その他（受講上の注意）

クラス全体の理解度によりシラバスの日程と実際の授業内容の日程とは、多少前後します。また、できる限り授業時間内での理解に努めてください。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

子どもと造形表現 (Child and Figurative Expression)			担当教員	伊東　知之
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−B−2153	1単位	1年後期	演習	選択

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　展開科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>　領域及び保育内容の指導法に関する科目

<科目に含めることが必要な事項>　領域に関する専門的事項・表現

求める学習成果(教育目標)

教育・保育の内容の理解及び指導方法

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識･技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成･社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解･自己管理能力　□諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

幼稚園教諭一種免許状（必修）、保育士資格（必修）

授業の内容

幼児教育・保育の基本を踏まえ、造形表現領域のねらい及び内容を理解する。幼児の造形活動における発達や過程を理解するとともに実際の制作活動や鑑賞能力について実践的活動を通して身に付ける。

授業の到達目標

幼児教育・保育において育てたい資質や能力を理解するとともに、領域「表現」の造形表現についてその内容とねらいをその背景となる専門領域と関連させて理解する。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　□グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　□発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等）　□実習、フィールドワーク　■実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：幼稚園教育要領、保育所保育指針、認定こども園教育・保育要領の特色とその背景
　事前指導：幼稚園教育要領、保育所保育指針、認定こども園教育・保育要領を読み、まとめておく。（2時間）
　事後指導：幼稚園教育要領、保育所保育指針、認定こども園教育・保育要領の領域（表現）部分をまとめる。（2時間）
第2回：子どもの遊びと造形表現活動
　事前指導：造形表現活動についてこれまで学んだことをまとめておく。（2時間）
　事後指導：子どもの造形表現活動について学んだことをまとめておく。（2時間）
第3回：子どもの造形活動における発達過程
　事前指導：子どもの造形活動における発達過程について調べ、まとめておく。（2時間）
　事後指導：造形活動における発達過程について学んだことをまとめておく。（2時間）
第4回：造形表現技術と技法
　事前指導：様々な造形表現技法について調べ、まとめておく。（2時間）
　事後指導：学んだ表現技法を用いた作品を完成させる。（2時間）
第5回：教材研究の意義と方法
　事前指導：教材研究の意義について考えをまとめておく。（2時間）
　事後指導：学んだ意義や方法を用いた作品を完成させる。（2時間）
第6回：教材研究平面造形
　事前指導：平面造形の作品や技法について調べ、まとめておく。（2時間）
　事後指導：学んだ平面造形の作品を完成させる。（2時間）
第7回：教材研究立体造形
　事前指導：立体造形の作品や技法について調べ、まとめておく。（2時間）
　事後指導：学んだ立体造形の作品を完成させる。（2時間）

第８回：造形表現の課題と展望
事前指導：造形表現の課題と展望について考えをまとめておく。（２時間）
事後指導：造形表現の課題と展望についてレポートにまとめる。（２時間）

定期試験は実施しない。

授業実施方法（面接授業・遠隔授業）

原則として「面接授業」を行います。
ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。
遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成　績　評　価　方　法

学期末レポート（50%）、課題（50%）

成　績　評　価　基　準

・幼児教育における造形表現のねらい及び内容を理解しているか。
・作品制作を通して、造形表現力や鑑賞能力が身についているか。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック

１）授業時の課題に対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
２）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
３）小レポートに対するフィードバックについて
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
４）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
□定期試験時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
５）その他（模擬授業、指導案に対するフィードバックについて）
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他

実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）

テ　キ　ス　ト　、　参　考　図　書

【テキスト】
造形表現・図画工作・美術（伊東知之著　福村出版　2023年）
教育実習（幼稚園）の手引き（伊東知之編著　2010年）

【参考図書】
幼稚園教育要領（平成29年３月告示　文部科学省）
保育所保育指針（平成29年３月告示　厚生労働省）
幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年３月告示　内閣府・文部科学省・厚生労働省）

その他（受講上の注意）

・毎回、図工セットを持参すること。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

基礎ピアノⅠ (Basic Piano Ⅰ)			担当教員	中野　研也、飯田　由美、太田　佳代、 野村加奈子、岡　　茜
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE-C-2107	1単位	1年前期	演習	選択

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　展開科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

教育・保育の実践に求められる表現技術

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識･技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成･社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
■自己理解･自己管理能力　□諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

保育士資格（選択）

授業の内容

教育・保育の現場で必要とされるピアノ演奏技術を身に付ける。
個人レッスンの形で行う。

授業の到達目標

ピアノ演奏技術を学び、2年次の弾き歌い科目「音楽表現　Ⅰ・Ⅱ」を履修するための基礎力を身に付けることができる。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　□グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等）　□実習、フィールドワーク　■実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

次の授業計画は、「グレード1」の教育内容についての進度目標である。「グレード2～5」に関しては、レッスンノートを参照のこと。

第1回：グレード判定テスト（実技、グループワーク）
　事前学習：第1回授業時にグレード判定に用いるため、任意の曲を練習しておくこと。（0.5時間）
　事後学習：バイエルピアノ教則本p.4～p.5を読み、音の高さと長さを覚えること。習熟度を次回の授業で評価する。（0.5時間）

第2回：譜表の読み方と鍵盤の位置の確認　（バイエルピアノ教則本 No.19～21）（実技、グループワーク）
　事前学習：バイエルピアノ教則本 No.19～21より、前回の授業で指定された曲を練習しておくこと。（0.5時間）
　事後学習：授業で学んだ曲を復習（練習）すること。習熟度を次回の授業で評価する。（0.5時間）

第3回：二度・三度の練習　（バイエルピアノ教則本 No.22～25）（実技、グループワーク）
　事前学習：バイエルピアノ教則本 No.22～25より前回の授業で指定された曲を練習しておくこと。（0.5時間）
　事後学習：授業で学んだ曲を復習（練習）すること。習熟度を次回の授業で評価する。（0.5時間）

第4回：スタッカートの練習　（バイエルピアノ教則本 26～31）（実技、グループワーク）
　事前学習：バイエルピアノ教則本 No.26～31より前回の授業で指定された曲を練習しておくこと。（0.5時間）
　事後学習：授業で学んだ曲を復習（練習）すること。習熟度を公開演奏で評価する。（0.5時間）

第5回：公開演奏（実技、発表）
　事前学習：公開演奏で演奏する曲を練習しておくこと。（0.5時間）
　事後学習：公開演奏における反省点を踏まえ、復習（練習）すること（0.5時間）

第6回：タイの練習　（バイエルピアノ教則本 No.32～37）（実技、グループワーク）
　事前学習：バイエルピアノ教則本 No.32～37より、第4回授業で指定された曲を練習しておくこと。（0.5時間）
　事後学習：授業で学んだ曲を復習（練習）すること。習熟度を次回の授業で評価する。（0.5時間）

第７回：右手加線の読み方　（バイエルピアノ教則本 No.38～43）（実技、グループワーク）
事前学習：バイエルピアノ教則本 No.38～43より前回の授業で指定された曲を練習しておくこと。（0.5時間）
事後学習：授業で学んだ曲を復習（練習）すること。習熟度を次回の授業で評価する。（0.5時間）
第８回：左手加線の読み方　（バイエルピアノ教則本 No.44～49）（実技、グループワーク）
事前学習：バイエルピアノ教則本 No.44～49より前回の授業で指定された曲を練習しておくこと。（0.5時間）
事後学習：授業で学んだ曲を復習（練習）すること。習熟度を次回の授業で評価する。（0.5時間）
第９回：八分音符の練習　（バイエルピアノ教則本 No.32～54）（実技、グループワーク）
事前学習：バイエルピアノ教則本 No.32～54より前回の授業で指定された曲を練習しておくこと。（0.5時間）
事後学習：授業で学んだ曲を復習（練習）すること。習熟度を公開演奏で評価する。（0.5時間）
第10回：公開演奏（実技、発表）
事前学習：公開演奏で演奏する曲を練習しておくこと。（0.5時間）
事後学習：公開演奏における反省点を踏まえ、復習（練習）すること（0.5時間）
第11回：低音部記号（ヘ音記号）の習得（バイエルピアノ教則本 No.55～57）（実技、グループワーク）
事前学習：バイエルピアノ教則本 No.55～57より第９回授業で指定された曲を練習しておくこと。（0.5時間）
事後学習：授業で学んだ曲を復習（練習）すること。習熟度を次回の授業で評価する。（0.5時間）
第12回：強弱記号の読み方　（バイエルピアノ教則本 No.58～60、および仁愛女子短期大学附属幼稚園実習曲）（実技、グループワーク）
事前学習：バイエルピアノ教則本 No.58～60より前回の授業で指定された曲と、仁愛女子短期大学附属幼稚園の実習で使用する曲を練習しておくこと。（0.5時間）
事後学習：授業で学んだ曲を復習（練習）すること。習熟度を次回の授業で評価する。（0.5時間）
第13回：八分の三拍子の練習　（バイエルピアノ教則本 No.61～62、および仁愛女子短期大学附属幼稚園実習曲）（実技、グループワーク）
事前学習：バイエルピアノ教則本 No.61～62より前回の授業で指定された曲と、仁愛女子短期大学附属幼稚園の実習で使用する曲を練習しておくこと。（0.5時間）
事後学習：授業で学んだ曲を復習（練習）すること。習熟度を次回の授業で評価する。（0.5時間）
第14回：連弾の練習　（バイエルピアノ教則本 No.63～64）（実技、グループワーク）
事前学習：バイエルピアノ教則本 No.63～64より前回の授業で指定された曲を練習しておくこと。（0.5時間）
事後学習：授業で学んだ曲を復習（練習）すること。習熟度を公開演奏で評価する。（0.5時間）
第15回：公開演奏（実技、発表）
事前学習：公開演奏で演奏する曲を練習しておくこと。（0.5時間）
事後学習：公開演奏における反省点を踏まえ、復習（練習）すること（0.5時間）

教育実習曲も習得する。
毎回の実技到達度テストの結果はその都度担当教員より伝達され、次回への指針とする。練習室や自宅等で、必ず練習（準備・復習）を行うこと。

授業実施方法（面接授業・遠隔授業）

原則として「面接授業」を行います。
ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。
遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成　績　評　価　方　法

公開演奏（実技試験）（70％）
※第５回、10回、15回目の授業で公開演奏（実技試験）を行い、これら３回分の点数を平均して評価する。
平常点（30％）
※平常点は、授業への参加状況と受講態度で判断する。

成　績　評　価　基　準

各グレードにおける課題曲を、正確かつ円滑に演奏することができるか。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック

１）授業時の課題に対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
２）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
３）小レポートに対するフィードバックについて
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
４）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
■定期試験時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
５）授業時間内に行う実技試験に対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他

実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）

テキスト、参考図書

（1）バイエルピアノ教則本　（2）ツェルニー100番練習曲　（3）ブルグミュラー25の練習曲
（4）ツェルニー30番練習曲　（5）ソナチネアルバムⅠ,Ⅱ　（6）ツェルニー40番練習曲等
（7）教育実習曲譜

※（1）～（6）については、出版社は特に指定しない

その他（受講上の注意）

通常の受講について：週に1度の個人レッスンの時間内だけで身につく内容ではないので、普段からの継続的な練習を必ず必要とする。また、レッスンで受講する曲目は、必ず予習（譜読みと練習）をしてから受講に臨むこと。
実技試験について：実技試験を兼ねた公開演奏を行う第5回、10回、15回目の授業を欠席した場合、その回の点数は0点として計算される。従って、試験にはくれぐれも体調等を整えて臨むこと。

オフィスアワー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

基礎ピアノⅡ （Basic PianoⅡ）			担当教員	中野　研也、飯田　由美、太田　佳代、 野村加奈子、岡　　茜
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−C−2157	1単位	1年後期	演習	選択

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　展開科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果（教育目標）

教育・保育の実践に求められる表現技術

身につけることを目指す社会的・職業的能力（汎用的能力）

■体系的な知識･技能　□論理的思考力と創造力　□人間関係形成･社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
□自己理解･自己管理能力　□諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

保育士資格（選択）

授業の内容

教育・保育の現場で必要とされるピアノ演奏技術を身に付ける。
個人レッスンの形で行う。

授業の到達目標

基礎ピアノⅠに続いてピアノ演奏技術を学び、2年次の弾き歌い科目「音楽表現　Ⅰ・Ⅱ」を履修するための基礎力を身に付けることができる。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　□グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等）　□実習、フィールドワーク　■実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

次の授業計画は、「グレード1」の教育内容についての進度目標である。「グレード2～5」に関しては、レッスンノートを参照のこと。

第1回：ハ長調　（バイエルピアノ教則本 No.65～67）（グループワーク）
　事前学習：バイエルピアノ教則本 No.65～67の全て、あるいは任意の曲を練習しておくこと。（0.5時間）
　事後学習：授業におけるアドバイスや指導をもとに、学んだ曲の復習（練習）をすること。（0.5時間）
第2回：ト長調　（バイエルピアノ教則本 No.68～73）（グループワーク）
　事前学習：バイエルピアノ教則本 No.68～73より指定された曲を練習しておくこと。（0.5時間）
　事後学習：授業におけるアドバイスや指導をもとに、学んだ曲の復習（練習）をすること。（0.5時間）
第3回：ニ長調　（バイエルピアノ教則本 No.74～76）（グループワーク）
　事前学習：バイエルピアノ教則本 No.74～76より指定された曲を練習しておくこと。（0.5時間）
　事後学習：授業におけるアドバイスや指導をもとに、学んだ曲の復習（練習）をすること。（0.5時間）
第4回：イ長調　（バイエルピアノ教則本 No.77～79）（グループワーク）
　事前学習：バイエルピアノ教則本 No.77～79より指定された曲を練習しておくこと。（0.5時間）
　事後学習：授業におけるアドバイスや指導をもとに、学んだ曲の復習（練習）をすること。（0.5時間）
第5回：公開演奏（実技、発表）
　事前学習：第4回授業で指定された曲を公開演奏に備えて練習しておくこと。（0.5時間）
　事後学習：公開演奏における反省点を踏まえ、復習（練習）すること（0.5時間）
第6回：和音の練習　（バイエルピアノ教則本 No.80～81）（グループワーク）
　事前学習：バイエルピアノ教則本 No.80～81より、第4回授業で指定された曲を練習しておくこと。（0.5時間）
　事後学習：授業におけるアドバイスや指導をもとに、学んだ曲の復習（練習）をすること。（0.5時間）
第7回：ホ長調　（バイエルピアノ教則本 No.82～84）（グループワーク）
　事前学習：バイエルピアノ教則本 No.82～84より指定された曲を練習しておくこと。（0.5時間）
　事後学習：授業におけるアドバイスや指導をもとに、学んだ曲の復習（練習）をすること。（0.5時間）

第８回：連弾の練習　（バイエルピアノ教則本 No.85～87）（グループワーク）
事前学習：バイエルピアノ教則本 No.85～87より指定された曲を練習しておくこと。（0.5時間）
事後学習：授業におけるアドバイスや指導をもとに、学んだ曲の復習（練習）をすること。（0.5時間）
第９回：付点八分音符の練習　（バイエルピアノ教則本 No.88～90）（グループワーク）
事前学習：バイエルピアノ教則本 No.88～90より指定された曲を練習しておくこと。（0.5時間）
事後学習：授業におけるアドバイスや指導をもとに、学んだ曲の復習（練習）をすること。（0.5時間）
第10回：公開演奏（実技、発表）
事前学習：第９回授業で指定された曲を公開演奏に備えて練習しておくこと。（0.5時間）
事後学習：公開演奏における反省点を踏まえ、復習（練習）すること（0.5時間）
第11回：イ短調・ヘ長調　（バイエルピアノ教則本 No.91～96、および仁愛女子短期大学附属幼稚園実習曲）（グループワーク）
事前学習：バイエルピアノ教則本 No.91～96より第９回授業で指定された指定された曲と、仁愛女子短期大学附属幼稚園の実習で使用する曲を練習しておくこと。（0.5時間）
事後学習：授業におけるアドバイスや指導をもとに、学んだ曲の復習（練習）をすること。（0.5時間）
第12回：装飾音符　（バイエルピアノ教則本 No.97～100、および仁愛女子短期大学附属幼稚園実習曲）（グループワーク）
事前学習：バイエルピアノ教則本 No.97～100より指定された曲と、仁愛女子短期大学附属幼稚園の実習で使用する曲を練習しておくこと。（0.5時間）
事後学習：授業におけるアドバイスや指導をもとに、学んだ曲の復習（練習）をすること。（0.5時間）
第13回：十六分音符　（バイエルピアノ教則本 No.101～103、および仁愛女子短期大学附属幼稚園実習曲）（グループワーク）
事前学習：バイエルピアノ教則本 No.101～103より指定された曲と、仁愛女子短期大学附属幼稚園の実習で使用する曲を練習しておくこと。（0.5時間）
事後学習：授業におけるアドバイスや指導をもとに、学んだ曲の復習（練習）をすること。（0.5時間）
第14回：半音階　（バイエルピアノ教則本 No.104～106、および仁愛女子短期大学附属幼稚園実習曲）（グループワーク）
事前学習：バイエルピアノ教則本 No.104～106より指定された曲と、仁愛女子短期大学附属幼稚園の実習で使用する曲を練習しておくこと。（0.5時間）
事後学習：授業におけるアドバイスや指導をもとに、学んだ曲の復習（練習）をすること。（0.5時間）
第15回：公開演奏（実技、発表）
事前学習：第14回授業で指定された曲を公開演奏に備えて練習しておくこと。（0.5時間）
事後学習：公開演奏における反省点を踏まえ、復習（練習）すること（0.5時間）

「教育実習Ⅰ」で使用する曲も併せて習得する。
毎回の実技到達度テストの結果はその都度担当教員より伝達され、次回への指針とする。練習室や自宅等で、必ず練習（準備・復習）を行うこと。

授業実施方法（面接授業・遠隔授業）

原則として「面接授業」を行います。
ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。
遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成　績　評　価　方　法

公開演奏（実技試験）（70％）
※第５回、10回、15回目の授業で公開演奏（実技試験）を行い、これら３回分の点数を平均して評価する。
平常点（30％）
※平常点は、授業への参加状況と受講態度で判断する。

成　績　評　価　基　準

各グレードにおける課題曲を、正確かつ円滑に演奏することができるか。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック

１）授業時の課題に対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
２）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
３）小レポートに対するフィードバックについて
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
４）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
■定期試験時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
５）授業時間内に行う実技試験に対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他

実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）
テキスト、参考図書
（1）バイエルピアノ教則本　（2）ツェルニー100番練習曲　（3）ブルグミュラー25の練習曲 （4）ツェルニー30番練習曲　（5）ソナチネアルバムⅠ,Ⅱ　（6）ツェルニー40番練習曲等 （7）教育実習曲譜 ※（1）～（6）については、出版社は特に指定しない。
その他（受講上の注意）
通常の受講について：週に1度の個人レッスンの時間内だけで身につく内容ではないので、普段からの継続的な練習を必ず必要とする。また、レッスンで受講する曲目は、必ず予習（譜読みと練習）をしてから受講に臨むこと。 実技試験について：実技試験を兼ねた公開演奏を行う第5回、10回、15回目の授業を欠席した場合、その回の点数は0点として計算される。従って、試験にはくれぐれも体調等を整えて臨むこと。
オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

保育内容指導法(健康) (Teaching method of Early ChildhoodCare and Education(Health))			担当教員	出村　友寛
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−B−2105	1単位	1年前期	演習	選択

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　展開科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>　領域及び保育内容の指導法に関する科目

<科目に含めることが必要な事項>　保育内容の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)

求める学習成果(教育目標)

教育・保育の内容の理解及び指導方法

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識･技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成･社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解･自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

幼稚園教諭一種免許状(必修)、保育士資格(必修)

授業の内容

乳幼児期における身体の発育・発達に関する基本的な情報および乳幼児のけがや疾病への対応策、安全を確保するために留意すべき保育環境のあり方や具体的な実践方法について学ぶ。

授業の到達目標

領域「健康」のねらいや内容について理解し、関連する専門領域とあわせ理解を深める。
乳幼児期の発育・発達、けがや疾病への対応策、安全を確保するために必要な保育環境に関する知識をもとにした具体的な保育指導法を身につける。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習(PBL)　□討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等)　■グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等)　□発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等)　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：領域「健康」とは
　事前学習：テキストの第1章を読み、質問項目をまとめておくこと。(2時間)
　事後学習：テキスト等の見直しや、関連項目を図書館等で調べること。(2時間)
第2回：乳幼児の発育・発達について
　事前学習：テキストの第2章を読み、質問項目をまとめておくこと。(2時間)
　事後学習：テキスト等の見直しや、関連項目を図書館等で調べること。(2時間)
第3回：基本的生活習慣の理解と形成(グループワーク)
　事前学習：テキストの第3章(p.52−65)を読み、質問項目をまとめておくこと。(2時間)
　事後学習：テキスト等の見直しや、関連項目を図書館等で調べること。(2時間)
第4回：乳幼児期に身につけたい基本的動作(情報機器の活用を含む)
　事前学習：テキストの第5章(p.89−102)を読み、質問項目をまとめておくこと。(2時間)
　事後学習：テキスト等の見直しや、関連項目を図書館等で調べること。(2時間)
第5回：運動遊びに関する指導案を作成する上での留意点
　事前学習：テキストの第5章(p.102−112)を読み、質問項目をまとめておくこと。(2時間)
　事後学習：テキスト等の見直しや、関連項目を図書館等で調べること。(2時間)
第6回：運動遊びの指導の実際
　事前学習：テキストの第5章(p.102−112)を読み、質問項目をまとめておくこと。(2時間)
　事後学習：テキスト等の見直しや、関連項目を図書館等で調べること。(2時間)
第7回：健全な発育・発達の測定とその評価
　事前学習：テキストの第6章(p.113−137)を読み、質問項目をまとめておくこと。(2時間)
　事後学習：テキスト等の見直しや、関連項目を図書館等で調べること。(2時間)

第８回：安全管理、安全教育と応急処置（確認試験）
事前学習：テキストの第７章（p.138－146）を読み、質問項目をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：テキスト等の見直しや、関連項目を図書館等で調べること。（２時間）

定期試験は実施しない

授業実施方法（面接授業・遠隔授業）

原則として「面接授業」を行います。
ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。
遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成　績　評　価　方　法

確認試験（60%）、レポート（40%）

成　績　評　価　基　準

領域「健康」のねらいや内容を理解できているか。幼児期における身体の発育・発達に関して理解できているか。
幼児のけがや疾病への対応策、安全を確保するために留意すべき保育環境のあり方について理解できているか。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック

１）授業時の課題に対するフィードバックについて
■授業時　■仁大eラーニング　□メール　□その他
２）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
■授業時　■仁大eラーニング　□メール　□その他
３）小レポートに対するフィードバックについて
■授業時　■仁大eラーニング　□メール　□その他
４）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
■定期試験時　■仁大eラーニング　□メール　□その他
５）その他
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他

実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）

テ　キ　ス　ト　、　参　考　図　書

【テキスト】
「保育内容 健康」春日晃章（編集）株式会社 みらい, 2018

【参考図書】
幼稚園教育要領（平成29年３月告示　文部科学省）
保育所保育指針（平成29年３月告示　厚生労働省）
幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年３月告示　内閣府・文部科学省・厚生労働省）

その他（受講上の注意）

遅刻、欠席、および早退は減点の対象とします。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

保育内容指導法(表現A) (Teaching method of Early ChildhoodCare and Education(Expression A))			担当教員	坂本　流美
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−B−2154	1単位	1年後期	演習	選択

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　展開科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>　領域及び保育内容の指導法に関する科目

<科目に含めることが必要な事項>　保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）

求める学習成果(教育目標)

教育・保育の内容の理解及び指導方法

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識･技能　■論理的思考力と創造力　■人間関係形成･社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解･自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

幼稚園教諭一種免許状（必修）、保育士資格（選択）

授業の内容

「表現」の領域における音楽的視点から、幼児教育者として様々な保育の在り方に資すための一手段として「わらべうたあそび」を数多く実践し、幼児の発達段階に応じながら自立性・自発性を育てる実践法を演習する。

授業の到達目標

幼児が自ずと持っている繊細で鋭敏な感受性に働きかけ、表現する意欲と豊かな創造力を引き出すための手法を知ることを目的とする。幼児期の発達段階を踏まえた様々な「わらべうたあそび」の基本的演習を通して、保育の現場で子ども達に感動体験の機会を多彩に展開できる技法を修得させる。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等）　□実習、フィールドワーク　■実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：8回の全体計画（情報機器及び教材の活用を含む）幼児期の音楽教育の役目・わらべうたあそびの大切さについて知る。通常のわらべうたあそび。親子あそび・集団あそびの実践（表現へのねらいを持って年齢別にあそびの工夫を考え理解する）
事前指導：授業前に知っているわらべうたは無いかを考える（2時間）
事後指導：授業の内容を復習し、わらべうたあそびを覚える。1人でも歌えるようにする（2時間）

第2回：季節のわらべうたあそび① 春・梅雨のうた中心の実践（表現へのねらいを持って年齢別にあそびの工夫を考え理解する）
事前指導：春・梅雨に関する自然のものを考える。習ったわらべうたの復習（2時間）
事後指導：授業の内容を復習し、わらべうたあそびを覚える。1人でも歌えるようにする（2時間）

第3回：季節のわらべうたあそび② 夏・秋のうた中心の実践（表現へのねらいを持って年齢別にあそびの工夫を考え理解する）
事前指導：夏・秋に関する自然のものを考える。習ったわらべうたの復習（2時間）
事後指導：授業の内容を復習し、わらべうたあそびを覚える。1人でも歌えるようにする（2時間）

第4回：季節のわらべうたあそび③ 冬のうた中心の実践（表現へのねらいを持って年齢別にあそびの工夫を考え理解する）季節のわらべうたあそびの創作（あそび方）
事前指導：冬に関する自然のものを考える。習ったわらべうたの復習（2時間）
事後指導：授業の内容を復習し、わらべうたあそびを覚える。1人でも歌えるようにする（2時間）

第5回：通常のわらべうたあそび。親子あそび・集団あそびの実践（表現へのねらいを持って年齢別にあそびの工夫を考え理解する）
事前指導：習ったわらべうたの復習（2時間）
事後指導：授業の内容を復習し、わらべうたあそびを覚える。1人でも歌えるようにする（2時間）

第6回：文学とわらべうた①（小道具作成～クレヨン・色鉛筆・はさみ・定規が必要）
事前指導：かえうたをする元のうたを1人で歌えるようにする。かえうたを事前に考える（2時間）
事後指導：小物を使っての表現を考える（2時間）

第７回：文学とわらべうた②（発表～保育の現場など指導者としての自信に繋げる）
　　事前指導：発表の流れを考え１人で歌えるようにする（２時間）
　　事後指導：指導案を考える（２時間）
第８回：幼児期でのわらべうたあそびを取り入れるねらいの理解と確認。（指導案作成・小レポート）
　　事前指導：授業で配布した資料を見直し歌ってくる（２時間）
　　事後指導：わらべうたあそびを覚えておく。１人でも歌えるようにする（２時間）

定期試験は実施しない

授業実施方法（面接授業・遠隔授業）

原則として「面接授業」を行います。
ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。
遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成　績　評　価　方　法

実技習熟学習が主体となるので、授業での積極性、貢献度を重視する。より多くわらべうたを覚え、わらべうたを１人で清潔（音程・リズム正しく）に歌える。
わらべうたあそびを保育にどのように取り入れるのか発表を通して総合して評価する。
平常点（20%）わらべうたの修得度（20%）小レポート（20%）・小道具作成と発表（40%）
平常点は、授業への参加状況、受講態度等を総合して判断する。

成　績　評　価　基　準

実技習熟学習が主体となるので、授業での積極性、貢献度を重視する。より多くわらべうたを覚え、わらべうたを１人で清潔（音程・リズム正しく）に歌える。わらべうたあそびを保育にどのように取り入れるのか設定保育を自分で作成し発表を通して総合して評価する。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック

１）授業時の課題に対するフィードバックについて
　■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
２）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
　■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
３）小レポートに対するフィードバックについて
　■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
４）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
　□定期試験時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
５）その他
　□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他

実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）

テ　キ　ス　ト　、　参　考　図　書

必要に応じてプリントを配布。
＜参考書・参考資料等＞
わらべうた・音楽の理論と実践 ── 就学前の音楽教育（フォライ・カタリン著・知念直美編・畑玲子訳 明治図書出版 平成３年）
幼稚園・保育園のわらべうた・あそび 春・夏（畑玲子、知念直美、大倉三代子著 明治図書出版 平成６年）
幼稚園・保育園のわらべうた・あそび 秋・冬（畑玲子、知念直美、大倉三代子著 明治図書出版 平成６年）
幼稚園教育要領（平成29 年３ 月告示 文部科学省）
幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29 年３ 月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省）

その他（受講上の注意）

実技習熟学習が主体となるので、授業での積極性、貢献度を重視する。
実践中心の為　動きやすい服装で受講する。ねらいを持って受講する。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

保育内容指導法(表現Ｂ) (Teaching method of Early ChildhoodCare and Education(Expression B))			担当教員	伊東　知之
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−B−2155	1単位	1年後期	演習	選択

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　展開科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>　領域及び保育内容の指導法に関する科目

<科目に含めることが必要な事項>　保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）

求める学習成果(教育目標)

教育・保育の内容の理解及び指導方法

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識･技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成･社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解･自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

幼稚園教諭一種免許状（必修）、保育士資格（選択）

授業の内容

幼児教育・保育の基本を踏まえ、造形表現領域のねらい及び内容を理解する。
乳幼児の造形活動における発達や過程を理解するとともに具体的な指導場面を想定して教育・保育計画を立てて実際に教育・保育を実践する方法を身に付ける。

授業の到達目標

幼児教育・保育の基本を踏まえ、領域「表現」の造形表現についてのねらいと内容を理解する。
また、乳幼児の発達や環境に即して、具体的な指導場面を想定して教育・保育計画を立てるとともに実際に教育・保育する方法を身に付ける。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　□発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等）　□実習、フィールドワーク　■実験、実技　■その他（模擬保育）

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：領域「表現」と造形表現
　事前指導：領域「表現」について調べ、まとめておく。（2時間）
　事後指導：学んだ造形表現についてまとめておく。（2時間）
第2回：教材研究の意義と方法及びICTの活用（情報機器の活用を含む）
　事前指導：教材研究の意義とICT活用について調べ、まとめておく。（2時間）
　事後指導：学んだ方法とICT活用についてまとめる。（2時間）
第3回：造形表現領域の指導案の書き方と作品評価
　事前指導：指導案の書き方について調べ、まとめておく。（2時間）
　事後指導：学んだ書き方に基づいて指導案を完成させる。（2時間）
第4回：模擬保育　平面造形と省察（低年齢児）
　事前指導：模擬保育の教材研究やリハーサル等の準備を行っておく。（2時間）
　事後指導：模擬保育の反省と高評をまとめ、指導案を修正する。（2時間）
第5回：模擬保育　平面造形と省察（高年齢児）
　事前指導：模擬保育の教材研究やリハーサル等の準備を行っておく。（2時間）
　事後指導：模擬保育の反省と高評をまとめ、指導案を修正する。（2時間）
第6回：模擬保育　立体造形と省察（低年齢児）
　事前指導：模擬保育の教材研究やリハーサル等の準備を行っておく。（2時間）
　事後指導：模擬保育の反省と高評をまとめ、指導案を修正する。（2時間）
第7回：模擬保育　立体造形と省察（高年齢児）
　事前指導：模擬保育の教材研究やリハーサル等の準備を行っておく。（2時間）
　事後指導：模擬保育の反省と高評をまとめ、指導案を修正する。（2時間）

第８回：造形表現の鑑賞と課題及び小学校図画工作とのつながり
事前指導：造形表現と小学校図画工作とのつながりについて考えをまとめておく。（２時間）
事後指導：造形表現の課題についてレポートにまとめる。（２時間）

定期試験は実施しない。

授業実施方法（面接授業・遠隔授業）

原則として「面接授業」を行います。
ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。
遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成　績　評　価　方　法

学期末レポート（50%）、課題（50%）

成　績　評　価　基　準

・学んだ造形技法について説明できる。
・学んだ造形技法の特質を活かした表現ができる。
・子どもと造形について発達過程を踏まえて説明できる。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック

１）授業時の課題に対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
２）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
３）小レポートに対するフィードバックについて
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
４）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
□定期試験時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
５）その他（模擬授業、指導案に対するフィードバックについて）
■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他

実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）

テ　キ　ス　ト、参　考　図　書

【テキスト】
造形表現・図画工作・美術（伊東知之著　福村出版　2023年）
教育実習（幼稚園）の手引き（伊東知之編著　2010年）
【参考図書】
幼稚園教育要領（平成29年３月告示　文部科学省）
保育所保育指針（平成29年３月告示　厚生労働省）
幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年３月告示　内閣府・文部科学省・厚生労働省）

その他（受講上の注意）

図工用具一式を毎時間持参すること。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

保育内容指導法(表現C) (Teaching method of Early ChildhoodCare and Education(Expression C))			担当教員	乾　典子
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−B−2156	2単位	1年後期	演習	選択

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　展開科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>　領域及び保育内容の指導法に関する科目

<科目に含めることが必要な事項>　保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）

求める学習成果(教育目標)

教育・保育の内容の理解及び指導方法

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識･技能　■論理的思考力と創造力　■人間関係形成･社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
■自己理解･自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

幼稚園教諭一種免許状（必修）　保育士資格（必修）

授業の内容

幼児の心身の発達過程において、保育者としての身体表現の気づき、「表現」としての発想と感性の理解とその動きの習得、身体表現遊びの方法の理解と創作の習得、他者との関わりや円滑なグループ活動を進める力などの重要性を理解する。

授業の到達目標

幼児の心身の発達過程において、豊かな感性と発想で感じたことや考えたことを身体で表現することにより、幼児の創造性が豊かになることの理解を深める。幼児の豊かな創造性を引き出すための保育者としての力を身に付けることができる。また乳児保育の３つの視点も捉えながら、自由な発想の大切さを理解し「表現」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を身に付けることができる。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習（PBL）　■討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等）　□実習、フィールドワーク　■実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第１回：身体表現についての理解・簡単な身体表現の体験・成績評価と学習の内容。
　事前学習：受講前にテキストに目を通しておくこと。（２時間）
　事後学習：体験した発想と動きを他者と照らし合わせ、現在の自分の「表現」を理解すること。（２時間）
第２回：こどもが好きな動きの体験と理解　フォークダンスの体験と習得。（実技）
　事前学習：フォークダンスについて調べておくこと。（２時間）
　事後学習：子供の好きな動きを調べて覚えておくこと。（２時間）
第３回：こどもが好きな動きの体験　プレイバルーンの動かし方と創作方法の理解（情報機器及び教材の活用含む）。（グループワーク）。
　事前学習：プレイバルーンについて調べてまとめておくこと。（２時間）
　事後学習：プレイバルーンの創作方法の理解と創作した内容を復習しておくこと。（２時間）
第４回：こどもが好きな動きの体験　プレイバルーンの創作と練習。（グループワーク）
　事前学習：他のバルーンの動かし方を考え、実践すること。（２時間）
　事後学習：グループで創作したバルーンの動きを復習しておく。（２時間）
題５回：こどもが好きな動きの体験　プレイバルーンの発表。（グループワーク・発表）　第７回：目の授業で使う造形物の制作。
　事前学習：前回の授業で創作したグループでの動きを復習しておく。（２時間）
　事後学習：発表動画を見て創作のグループ活動に参加できたか顧みること。活動の反省レポートをMoodle上の課題に提出する。（２時間）
第６回：童謡の歌詞を使って動きの創作とその発表（表現）発表に至る内容を記録。（発表）
　事前学習：どんな童謡があるか調べてまとめておくこと。（２時間）
　事後学習：発表に至る「表現」について、一般とクラス内の対応の違いなどを理解する。（２時間）

第７回：身体表現遊び（１）課題のダンスの体験 具体的な指導場面の構想。（実技）
事前学習：課題のダンスについて調べておくこと。ダンスで使う造形物を完成させる。（２時間）
事後学習：習ったダンスを復習しておくこと。（２時間）
第８回：身体表現遊び（２）課題のダンスの練習と指導・その発表。（グループワーク・実技）
事前学習：前回習ったダンスを練習しておくこと。（２時間）
事後学習：発表の作品の動画を見て、良かった点・悪かった点を理解しておくこと。（２時間）
第９回：身体表現遊び（３）課題のダンスをグループで構成する。（グループワーク・実技）
事前学習：構成について調べてまとめておくこと。（２時間）
事後学習：創作過程をまとめておくこと。（２時間）
第10回：身体表現遊び（４）課題のダンスをグループで練習・指導・その発表。（グループワーク・発表）
事前学習：グループで創作したダンスを復習しておくこと。（２時間）
事後学習：発表した作品の動画を視聴し、創作過程と発表についてのレポートをMoodle上に提出する。（２時間）
第11回：ダンス創作（１）課題曲から選曲し、創作についてのテーマと手法の理解。時間内に創作案を提出する。
事前学習：子供たちが好きな歌や踊りについて調べておくこと。（２時間）
事後学習：提出した自分の創作案を理解しておくこと。（２時間）
第12回：ダンス創作（２）グループでの創作内容を決める。（ディスカッション・グループワーク）
事前学習：前回個人で創作した案を理解しておくこと。（２時間）
事後学習：ディスカッションした創作過程をまとめておくこと。衣装や造形物の材料を購入し、次の授業に持参する。（２時間）
第13回：ダンス創作（３）グループでの踊りの創作。ダンスに使用する造形物の制作。（グループワーク・実技）
事前学習：前回グループで決めた創作案を理解しておくこと。造形物の購入品を準備する。（２時間）
事後学習：創作したダンスを復習しておくこと。衣装など制作する。（２時間）
第14回：ダンス創作（４）グループでの踊りの創作。ダンスに使用する造形物の制作。（グループワーク・実技）
事前学習：前回創作したダンスを復習しておくこと。（２時間）
事後学習：ダンス動画を見て発表できるように復習すること。発表用の衣装・造形物を完成しておくこと。最終課題のためにテキストを読み直す。（２時間）
第15回：ダンス創作活動の発表とまとめ。「表現」についてのレポートを提出。（発表）
事前学習：ダンスの発表に向けて練習すること。（２時間）
事後学習：最終課題として、テキストの内容と絡め表現についての理解のレポートをMoodle上に提出する。発表の内容と反省も含めること。（２時間）

授業実施方法（面接授業・遠隔授業）

原則として「面接授業」を行います。
ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。
遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成　績　評　価　方　法

実技演習発表（60%）　提出物・創作記録（40%）

成　績　評　価　基　準

幼児の心身の発達過程において、豊かな感性と発想で感じたことや考えたことを身体で表現することにより、幼児の創造性が豊かになることの理解を深めているか。
幼児の豊かな創造性を引き出すための保育者としての力を身に付けているか。
乳児保育の３つの視点も捉えながら、自由な発想の大切さを理解し「表現」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を身に付けているか。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック

１）授業時の課題に対するフィードバックについて
■授業時　■仁大eラーニング　□メール　□その他
２）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
■授業時　■仁大eラーニング　□メール　□その他
３）小レポートに対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
４）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
□定期試験時　□仁大eラーニング　■メール　□その他
５）その他
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他

実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）

テキスト、参考図書
テキスト 事例で学ぶ保育内容 領域 表現（無藤隆（監修）浜口順子（著者）萌文書林 平成29 年） 参考文献 幼稚園教育要領（平成29 年3 月告示 文部科学省） 保育所保育指針（平成29 年3 月告示 厚生労働省） 幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29 年3 月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省）
その他（受講上の注意）
必ず体操服で受講すること。シューズも準備すること。
オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

保育内容指導法(子どもの文化) (Teaching method of Early ChildhoodCare and Education(Culture of Children))			担当教員	髙原　佳江
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−B−2106	2単位	1年前期	演習	選択

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　展開科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>　領域及び保育内容の指導法に関する科目

<科目に含めることが必要な事項>　保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）

求める学習成果(教育目標)

教育・保育の実践に求められる表現技術

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識･技能　□論理的思考力と創造力　□人間関係形成･社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
□自己理解･自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　■キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

幼稚園教諭一種免許状（必修）

授業の内容

子どもの発達と児童文化財の役割や保育現場での活用を学ぶとともに、児童文化財をそれぞれが制作することを通して具体的な指導場面を想定して保育を構想する技術・方法を身に付ける。

授業の到達目標

当該科目では、領域「言葉」や「表現」の指導に関連する、幼児を取り巻く文化や、幼児と文化財との関りについての専門的事項における感性を養い、知識・技能を身に付ける。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等）　□実習、フィールドワーク　■実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：ガイダンス：子どもの文化を学ぶ意義
　事前学習：シラバス、教科書の目次を読んでおく（2時間）
　事後学習：教科書、配布資料をもとに復習する（2時間）
第2回：領域「言葉」と子どもの文化（グループワーク）
　事前学習：子どものころに好きだった遊びをまとめておく（2時間）
　事後学習：教科書、配布資料をもとに復習する（2時間）
第3回：言葉の発達と児童文化財
　事前学習：教科書の該当箇所を読み、要点をまとめておく（2時間）
　事後学習：教科書、配布資料をもとに復習する（2時間）
第4回：おはなし（グループワーク）
　事前学習：教科書の該当箇所を読み、要点をまとめておく（2時間）
　事後学習：教科書、配布資料をもとに復習する（2時間）
第5回：絵本
　事前学習：教科書の該当箇所を読み、要点をまとめておく（2時間）
　事後学習：教科書、配布資料をもとに復習する。絵本を1冊選ぶ（2時間）
第6回：絵本の読み聞かせの実践（グループワーク・発表）
　事前学習：絵本の読み聞かせを練習しておく（2時間）
　事後学習：絵本の読み聞かせについて振り返りを行い、自己課題を見つける（2時間）
第7回：紙芝居（グループワーク・発表）
　事前学習：教科書の該当箇所を読み、要点をまとめておく（2時間）
　事後学習：教科書、配布資料をもとに復習する（2時間）
第8回：シアタースタイルの児童文化財①人形劇・パネルシアター
　事前学習：教科書の該当箇所を読み、要点をまとめておく（2時間）
　事後学習：教科書、配布資料をもとに復習する（2時間）

第９回：シアタースタイルの児童文化財②ペープサート・エプロンシアター
　　事前学習：教科書の該当箇所を読み、要点をまとめておく（２時間）
　　事後学習：教科書、配布資料をもとに復習する（２時間）
第10回：児童文化財と情報機器の保育現場での活用
　　事前学習：配布資料を読み、要点をまとめておく（２時間）
　　事後学習：配布資料をもとに復習する（２時間）
第11回：子どもの文化財の制作①指導計画の立て方（グループワーク）
　　事前学習：教科書の該当箇所を読み、要点をまとめておく（２時間）
　　事後学習：教科書、配布資料をもとに復習する（２時間）
第12回：子どもの文化財の制作②具体的な制作の方法（グループワーク）
　　事前学習：教科書の該当箇所を読み、要点をまとめておく（２時間）
　　事後学習：教科書、配布資料をもとに復習する。文化財を完成させる（２時間）
第13回：自作の文化財による模擬保育①グループⅠ～Ⅲ（実技・発表）
　　事前学習：実技・発表の練習をしておく（２時間）
　　事後学習：文化財と模擬保育について振り返りを行い、自己課題を見つける（２時間）
第14回：自作の文化財による模擬保育②グループⅣ～（実技・発表）
　　事前学習：実技・発表の練習をしておく（２時間）
　　事後学習：文化財と模擬保育について振り返りを行い、自己課題を見つける（２時間）
第15回：文化財と模擬保育についての講評
　　事前学習：振り返りレポートについて考える（２時間）
　　事後学習：授業全体について振り返りを行い、自己課題を見つける（２時間）
定期試験は実施しない。

授業実施方法（面接授業・遠隔授業）

原則として「面接授業」を行います。
ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。
遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成　績　評　価　方　法

発表（20%）、制作・模擬保育（40%）、振り返りレポート（30%）、授業後のコメントシート（10%）

成　績　評　価　基　準

子どもを取り巻く文化に関心を持っているか。それぞれの文化財の役割を理解した上で主体的に制作や発表に取り組めているか。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック

１）授業時の課題に対するフィードバックについて
　■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
２）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
　■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
３）小レポートに対するフィードバックについて
　■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
４）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
　□定期試験時　■仁大eラーニング　□メール　□その他
５）その他
　□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他

実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）

テ　キ　ス　ト、参　考　図　書

教科書：保育者のための言語表現の技術：子どもとひらく児童文化財をもちいた保育実践　第２版（古橋和夫編著、萌文書林、2019年）
参考書：絵本から学ぶ子どもの文化（浅木尚美編著、同文書院、2015年）、幼稚園教育要領（平成29年３月告示　文部科学省）、幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年３月告示　内閣府・文部科学省・厚生労働省）

その他（受講上の注意）

第６回で絵本の読み聞かせをします。子どもと一緒に読みたい絵本を２冊持参してください。
また、第８回で人形作り、第９回でペープサート作り、第12回で子どもの文化財の制作をします。はさみ、のり、色鉛筆（もしくは水性ペン、クレヨン）を持参してください。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

事前・事後指導(幼稚園) (Guidance for Field Practice(Preschool))			担当教員	伊東　知之、中野　研也
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−E−2109	1単位	1年・3年	実習	選択

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　実践演習・総合演習・実習科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>　教育実践に関する科目

<科目に含めることが必要な事項>　教育実習

求める学習成果(教育目標)

教育・保育の実践的能力・総合的表現力と実践後の改善に向けた態度

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□体系的な知識･技能　□論理的思考力と創造力　■人間関係形成･社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
■自己理解･自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

幼稚園教諭一種免許状(必修)

授業の内容

この授業は「教育実習Ⅰ(幼稚園)」(1年次)及び「教育実習Ⅱ(幼稚園)」(3年次)の事前事後指導として実施されるものである。幼稚園教育実習の目的・内容・方法及び留意事項などを理解するとともに、実習日誌の記録や指導計画の作成をはじめとして、実践に必要な基礎的な技能・技法についても学習する。また、教育実習を評価・反省することを通して、実習後の学習課題を明確にしていくための場でもある。

授業の到達目標

・実習の目的や意義を理解する。
・実習に必要な知識や技能を修得する。
・実習に必要な態度や心構えを身につける。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習(PBL)　□討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等)　■グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等)　□発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等)　□実習、フィールドワーク　■実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

1年次
第1回：教育実習オリエンテーション・教育実習の意義と目的を理解する。(伊東、中野)
第2回：4段階実習(見学・観察実習、参加実習、部分実習、指導実習)の意義・役割とその方法について理解する。(伊東、中野)
第3回：実習ノート(日誌)等の記録の取り方、記入の仕方を学習する。(伊東、中野)
第4回：指導案(週案・日案・設定保育案)の作成法、模擬保育実践を仮定して、立案を試みる。(伊東、中野)
第5回：模擬保育①(伊東、中野)(グループワーク)
第6回：模擬保育②(伊東、中野)(グループワーク)
第7回：模擬保育③(伊東、中野)(グループワーク)
第8回：模擬保育④(伊東、中野)(グループワーク)
第9回：研究テーマ、実習心構えの作成及び実習に臨む際、子どもの健康面、安全面などへの配慮、留意すべき点の確認をする。(伊東、中野)
第10回：実習報告会(2年生の実習体験報告を聞き、疑問点等の質問をする)。(伊東、中野)
第11回：スキルアップ講座①(学外指導者による実習に対する講演)(伊東、中野)
第12回：スキルアップ講座②(学外指導者による実践的指導)(伊東、中野)

3年次
第1回：教育実習オリエンテーション・実習の目標、課題の持ち方、観察の仕方等の再学習をする(鈴木智子・中野研也)
第2回：実習ノート(日誌)、指導案について教育実習Ⅱの様式で再学習する(鈴木智子・中野研也)
第3回：実習園への事前訪問内容や心構えを確認する(鈴木智子・中野研也)
第4回：実習ノート(日誌)の書き方について教育実習Ⅱの様式で学習をする(鈴木智子・中野研也)

第５回：指導案の作成について教育実習Ⅱの様式で学習する（鈴木智子・中野研也）
第６回：模擬保育を想定して指導案を実際に作成する（鈴木智子・中野研也）
第７回：模擬保育①（鈴木智子・中野研也）
第８回：模擬保育②（鈴木智子・中野研也）
第９回：模擬保育③（鈴木智子・中野研也）
第10回：教育実習Ⅱオリエンテーションについて（鈴木智子・中野研也）
第11回：まとめ・お礼状の書き方について（鈴木智子・中野研也）
・模擬保育の指導案を作成し、実施に必要なものを準備する。
・模擬保育の練習を行う。
・実習の心構えや研究テーマを作成する。

授業実施方法（面接授業・遠隔授業）

原則として「面接授業」を行います。
ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。
遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成　績　評　価　方　法

課題提出物（40%）、模擬保育（40%）、平常点（20%）
（平常点は、授業への参加状況、受講態度、提出物の提出状況等を総合して判断します。）

成　績　評　価　基　準

・実習の意義や目的を理解している。
・指導案がしっかり作成されている。
・実習に必要な提出物が提出されている。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック

１）授業時の課題に対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
２）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　□メール　■その他（添削、コメントを書いて返却）
３）小レポートに対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
４）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
□定期試験時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
５）その他（実習に対するフィードバックについて）
■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他

実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）

テキスト、参考図書

林幸範、石橋裕子編　『最新　保育園幼稚園の実習　完全マニュアル』
文部科学省　『幼稚園教育要領』
仁愛大学実習指導委員会編　『教育実習（幼稚園）実習の手引き』

その他（受講上の注意）

１年次の本授業受講者は、３年次も受講すること。評価は３年次末ににあわせて行う。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

教育実習Ⅰ（幼稚園） （Teaching Practice Ⅰ（Preschool））			担当教員	伊東　知之、中野　研也
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−E−2109	2単位	1年通年	実習	選択

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　実践演習・総合演習・実習科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>　教育実践に関する科目

<科目に含めることが必要な事項>　教育実習

求める学習成果（教育目標）

教育・保育の実践的能力・総合的表現力と実践後の改善に向けた態度

身につけることを目指す社会的・職業的能力（汎用的能力）

□体系的な知識･技能　□論理的思考力と創造力　■人間関係形成･社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
■自己理解･自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

幼稚園教諭一種免許状（必修）

授業の内容

1年次2月に2グループに分かれて仁愛女子短期大学付属幼稚園で1週間（5日間）の教育実習を行う。
実習に向けての事前事後指導を行う。

授業の到達目標

・見学・観察実習中の態度・姿勢がよい。
・幼児と積極的に関わる。
・幼児の個性や発達の違いを理解する。
・実習記録のつけ方が適切である。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　□グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　□発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等）　■実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

教育実習は次に掲げる目的をもって「見学・観察」に即した実習を行う。
（1）幼稚園の1日の流れを知る。
（2）満3歳児から6歳児までの発達段階に対応した幼児の活動を見通す。
（3）部分実習（ex．絵本の読み聞かせ・手遊びなど）の体験を通して、指導実習にかかる幼児の観察・理解の一助とする。
（4）教諭の仕事や役割を理解する。・実習ノート（日誌）を毎日作成し、実習園に提出する。
・実習の心構えや研究テーマ等を実習開始までに作成する。
・指導案を作成し、指導者の助言を受けて修正をする。
・部分実習の準備を行う。

事前事後指導
第1回：教育実習オリエンテーション　教育実習の意義と目的を理解する。（中野、伊東）
第2回：4段階実習（見学・観察実習、参加実習、部分実習、指導実習）の意義と役割について理解する。（中野、伊東）
第3回：実習ノート（日誌）等の記録の取り方、記入の仕方を学習する。（中野、伊東）
第4回：指導案①（週案・日案・設定保育案）の作成法、模擬保育実践を仮定して、立案を試みる。（中野、伊東）
第5回：指導案②模擬保育を仮定して指導案を作成する。（中野、伊東）
第6回：模擬保育①グループワーク（中野、伊東）
第7回：模擬保育②グループワーク（中野、伊東）
第8回：模擬保育③グループワーク（中野、伊東）
第9回：模擬保育④グループワーク（中野、伊東）
第10回：研究テーマ、実習心構えの作成及び実習に臨む際、子どもの健康面、安全面などへの配慮、留意すべき点の確認をする。（中野、伊東）

第11回：実習報告会（２年生の実習体験報告を聞き、疑問点等の質問をする。（中野、伊東）
第12回：教育実習Ｉオリエンテーション（短大附属幼稚園でのオリエンテーション）（幼稚園園長、中野、伊東）
第13回：スキルアップ講座①（学外講師による実習に対する講演）（外部講師、中野、伊東）
第14回：スキルアップ講座②（学外講師による実習に対する実践的指導）学外講師、中野、伊東）
第15回：まとめ：教育実習Ｉに対するまとめと準備、実習ノート記入（中野、伊東）

授業実施方法（面接授業・遠隔授業）

原則として「面接授業」を行います。
ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。
遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成　績　評　価　方　法

実習園での評価（評価表）と大学の評価を総合して評価する。

成　績　評　価　基　準

・見学・観察実習中の態度・姿勢がよかったか。
・幼児と積極的に関われたか。
・幼児の個性や発達の違いを理解しようとしたか。
・実習記録のつけ方は適切だったか。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック

１）授業時の課題に対するフィードバックについて
　□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
２）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
　□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
３）小レポートに対するフィードバックについて
　□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他（添削、コメントを書いて返却）
４）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
　□定期試験時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
５）その他（実習に対するフィードバックについて）
　□授業時　□仁大eラーニング　□メール　■その他（実習における評価及び課題は「事前事後指導（幼稚園）」においてフィードバックする。）

実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）

テ　キ　ス　ト　、　参　考　図　書

（１）文部科学省　『幼稚園教育要領』 2017年
（２）子ども教育学科実習指導委員会編　『教育実習（幼稚園）の手引き』
（３）子ども教育学科実習指導委員会編　『教育実習Ｉ（幼稚園）実習ノート』
（４）林幸範、石橋裕子編著『保育園幼稚園の実習完全マニュアル』成美堂出版　2018年

その他（受講上の注意）

教育実習は、卒業後、教員として就職することを強く希望する学生のために、実習園の教育的配慮・好意によって受け入れていただくものである。また、「教育実習Ⅱ（幼稚園）」（３年次前期）の受講資格の要件に含まれる科目なので、幼稚園教諭を目指す学生は必ず受講すること。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

学校体験活動 (Experiential Learning at Schools)			担当教員	草桶　勇人、篭谷　隆弘
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−E−2110	1単位	1年通年	実習	選択

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　実践演習・総合演習・実習科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

教育・保育の実践的能力・総合的表現力と実践後の改善に向けた態度

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□体系的な知識･技能　□論理的思考力と創造力　■人間関係形成･社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
■自己理解･自己管理能力　□諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　■キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

授業の内容

近隣の協力校で教育活動や校務、クラブ活動や放課後活動等の支援や補助を行う体験型の授業である。教員に求められる資質・能力を理解し、教員としての自らの適格性を把握する機会とし、大学で学ぶ理論と小学校現場での実践や体験とに基づく省察を繰り返すことを通して、教員としての実践的指導力とは何かを考える機会とする。また、教育現場に触れ、子ども達や現場教員と関わる中で体験したことを通じて、教職への意欲を高めたり、自らの課題を発見したりする。

授業の到達目標

小学校での1日を通した学校生活や教育活動を経験し、教師目線で学ぶことを通して下記の内容について学び、自分自身の課題を明確にする。
①児童とはどのような存在であるか、どのように学習を進め、どのように心身の成長をしていくのか等、児童理解を深める。
②教師は教師間の協働性を発揮して児童を育てていることを理解する。
③教師の役割や学級事務の一部に触れ、教師という職業を教師の視点から理解する。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習（PBL）　■討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　□グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　□発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等）　■実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

[事前指導]
第1回：学校体験活動の意義・目的・内容、小学校における教育活動、学校のしくみ（草桶）
シラバスの読みと小学校学習指導要領の熟読（1時間）
第2回：児童理解と教師に求められる資質・能力、学校体験活動に向けての準備（草桶）
自己の活動計画の検討と協力校の特色の理解（1時間）

[活動参加]
第3回：主として、教員の職務、校務の理解
　　自己の活動態度等についての省察－職務・校務の理解－（1時間）
第4回：主として、個別指導の補助についての理解（1）
　　自己の活動態度等についての省察－個別指導のあり方－（1時間）
第5回：主として、個別指導の補助についての理解（2）
　　自己の活動態度等についての省察－個別指導のあり方－（1時間）
第6回：主として、集団の中での指導補助についての理解（1）
　　自己の活動態度等についての省察－TTの指導について－（1時間）
第7回：主として、集団の中での指導補助についての理解（2）
　　自己の活動態度等についての省察－TTの指導について－（1時間）

第８回：主として、授業の中での補助についての理解（１）
　　自己の活動態度等についての省察－学習支援－（１時間）
第９回：主として、授業の中での補助についての理解（２）
　　自己の活動態度等についての省察－学習支援－（１時間）
第10回：主として、中間教室・放課後支援での指導補助についての理解
　　自己の活動態度等についての省察－放課後学習支援－（１時間）
第11回：主として、学年・学校行事の指導補助についての理解
　　自己の活動態度等についての省察－学年・学校行事－（１時間）
第12回：主として、児童会活動の指導補助についての理解
　　自己の活動態度等についての省察－児童会活動－（１時間）
第13回：主として、クラブ活動の指導補助についての理解
　　自己の活動態度等についての省察－クラブ活動－（１時間）
第14回：主として、地域行事の指導補助について理解
　　自己の活動態度等についての省察－地域社会との連携、記録の整理、報告レポート作成（１時間）

[事後指導]
第15回：学校体験活動の振り返り（活動のまとめをする。各自が活動の成果・課題を明確にする。）（草桶）

授業実施方法（面接授業・遠隔授業）

原則として「面接授業」を行います。
ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。
遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成　績　評　価　方　法

レポート（60%）、各活動への取り組み状況（40%）で総合的に評価する。

成　績　評　価　基　準

・実施報告レポートをもとに、教育実習（小学校）に向けて教師としての多様な視点をもつことができたか、自らの課題を見つけることができたかを総合的に評価する。
・実習状況をもとに、主体的に行動することができたかを参加意欲・態度として評価する。
・報告会の準備と発表が十分にできていたかを評価する。
・本科目の目的をふまえ、実習の記録、報告書、報告会の参加状況を評価する。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック

１）授業時の課題に対するフィードバックについて
　■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
２）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
　■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
３）小レポートに対するフィードバックについて
　■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
４）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
　□定期試験時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
５）その他
　□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他

実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）

テ　キ　ス　ト、参　考　図　書

自作のワークシート

その他（受講上の注意）

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

仏教の思想 (Views of Buddhism)			担当教員	市野　智行
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HL−1210	2単位	2年前期	講義	選択

<科目区分>　人間生活学部学部共通科目　全学共通科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

豊かな人間性と倫理観を身につけ、幅広い視野から物事をとらえ、的確な判断を下すことができる力を養います。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□体系的な知識･技能　□論理的思考力と創造力　■人間関係形成･社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
■自己理解･自己管理能力　□諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

授業の内容

ブッダと親鸞の思想を学ぶことを通して、人間の課題を学び、自らの生き方を問い尋ねていく。ブッダと親鸞の生涯と教えについて基本的な知識を修得する。そのことを通して、「人間とは何か」「人として生きる（人生）とはどういうことか」を学び、自己理解と他者理解を深め、豊かな人間関係を築く上での人間力を養う。

授業の到達目標

ブッダと親鸞の生涯と思想について基本的な知識を修得し、説明することができる。
仏教思想における人間観を学び、「自分とは何か」を考察し、表現することができる。
仏教思想を通して、豊かな人間関係のあり方を学び、主体的に考える姿勢を身につける。

アクティブ・ラーニング

■課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　■グループワーク　□発表（プレゼンテーション）　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：ガイダンス　釈尊と親鸞の生涯を学ぶ意味を確かめる
　　事前学習：参考文献等を読んでおくこと。（8時間）
第2回：インドから現代を学ぶ
第3回：釈尊の生涯と教え①　誕生と修行・正覚
第4回：いのちをいただく
第5回：釈尊の生涯と教え②　初転法輪と入滅
　　事後学習：学んだ箇所を復習すること（7時間）
　　事前学習：配付資料に目を通しておくこと。（8時間）
第6回：いのちとつながり
第7回：釈尊の生涯から何を学ぶことができるのか（小テストを含む）
第8回：テスト返しと現代問題
第9回：親鸞の生涯と教え①　誕生から出家
第10回：親鸞の生涯と教え②　法然との出遇いと法難
　　事後学習：学んだ箇所を復習すること。（7時間）
　　事前学習：配付資料に目を通しておくこと。（7時間）
第11回：親鸞の生涯と教え③　関東教化
第12回：親鸞の生涯と教え④　入滅
第13回：親鸞の生涯から何を学ぶことができるのか（小テストを含む）
第14回：現代問題について
第15回：テスト返しと総括
　　事後学習：学んだ箇所を復習すること。（7時間）
　　事前学習：配付資料に目を通しておくこと。（8時間）
　　事後学習：授業全体を通して何を学んだか、小テストの結果や配布資料等を振り返り確認すること。（8時間）

授業実施方法(面接授業・遠隔授業)

原則として「面接授業」を行います。
ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。
遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成　績　評　価　方　法

授業内小レポート・感想文、小テスト(50%)　平常点(50%)
(平常点は、出席状況、受講態度等で総合的に判断します。)

成　績　評　価　基　準

講義の理解度と、理解した内容を自らの課題として考察・表現できているかどうかを基準にする。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

1)授業時の課題に対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
2)事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
3)小レポートに対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
4)定期試験(レポート試験を含む)に対するフィードバックについて
□定期試験時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
5)その他
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他

実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)

テ　キ　ス　ト　、　参　考　図　書

テキスト：授業内にて配布
参考資料：親鸞　生涯と教え(東本願寺)　ブッダと親鸞(東本願寺)

その他(受講上の注意)

私語、携帯電話等の使用は厳禁です。複数回注意を受けた場合は欠席扱いとします。
また遅刻や欠席をしないように。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

哲学の世界観 (Philosophical Thinking)			担当教員	橋本　武志
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HL−1220	2単位	2年前期	講義	選択

<科目区分>　人間生活学部学部共通科目　人間学関連科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

豊かな人間性と倫理観を身につけ、幅広い視野から物事をとらえ、的確な判断を下すことができる力を養います。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識･技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成･社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解･自己管理能力　□諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

資格・免許の要件については学生便覧参照のこと。

授業の内容

古代からの西洋の哲学・思想が生み出してきたさまざまなものの見方を紹介する。また、そうしたものの見方が現代に及ぼしている影響について講義する。

授業の到達目標

哲学独自の思考方法や批判的思考に慣れ親しむことを通じて、社会人なら知っておくべき程度の、哲学・倫理学の基本的な概念を理解し、その用語を習得する。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　□グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　□発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等）　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　■その他（ペアワーク）

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：オリエンテーションと「世界観」概念の説明
　事前学習：参考図書などをもとに「哲学」「世界観」について調べノートしておくこと（2時間）
　事後学習：講義の内容について、資料をもとに自分なりに纏めておくこと（2時間）
第2回：神話的世界観ではなぜ不十分なのか？（ペアワーク10分）
　事前学習：参考図書などをもとに日本や中国、ギリシャの「宇宙創成神話」について調べノートしておくこと（2時間）
　事後学習：講義の内容について、資料をもとに自分なりに纏めておくこと（2時間）
第3回：哲学的思考の発祥（プレソクラテス1）
　事前学習：参考文献などをもとに「ピタゴラス」について調べてノートしておくこと（2時間）
　事後学習：講義の内容について、資料をもとに自分なりに纏めておくこと（2時間）
第4回：哲学的思考の展開（プレソクラテス2）
　事前学習：参考文献などをもとに「ヘラクレイトス」「パルメニデス」について調べノートしておくこと（2時間）
　事後学習：講義の内容について、資料をもとに自分なりに纏めておくこと（2時間）
第5回：ソクラテス1
　事前学習：参考文献などをもとに「ソクラテスの生涯」について調べノートしておくこと（2時間）
　事後学習：資料をもとに自分なりに纏めておくこと（2時間）
第6回：ソクラテス2
　事前学習：参考文献などをもとに「無知の知」「魂の配慮」について調べノートしておくこと（2時間）
　事後学習：講義の内容について、資料をもとに自分なりに纏めておくこと（2時間）
第7回：プラトン1
　事前学習：参考文献などをもとに「プラトンの生涯」について調べノートしておくこと（2時間）
　事後学習：講義の内容について、資料をもとに自分なりに纏めておくこと（2時間）

第８回：プラトン２
　　事前学習：参考文献などをもとに「洞窟の比喩」について調べノートしておくこと（２時間）
　　事後学習：講義の内容について、資料をもとに自分なりに纏めておくこと（２時間）
第９回：アリストテレス１（可能態・現実態などの対概念）
　　事前学習：参考文献などを基に「可能態・現実態」の語義について調べ、ノートしておくこと（２時間）
　　事後学習：講義の内容について、資料をもとに自分なりに纏めておくこと（２時間）
第10回：アリストテレス２（目的論と実体概念）
　　事前学習：参考文献などをもとに「実体」について調べノートしておくこと（２時間）
　　事後学習：講義の内容について、資料をもとに自分なりに纏めておくこと（２時間）
第11回：映像によって古代の思想を知る
　　事前学習：エジプトのアレクサンドリアについて調べノートしておくこと（２時間）
　　事後学習：地動説の歴史について調べ、自分なりに纏めておくこと（２時間）
第12回：古代から中世の思想の流れ
　　事前学習：参考文献などをもとにパスカルの「人間は考える葦である」という言葉について調べ、ノートしておくこと（２時間）
　　事後学習：講義の内容について、資料をもとに自分なりに纏めておくこと（２時間）
第13回：デカルト１（デカルトの知識論）
　　事前学習：参考文献などをもとにデカルトの生涯について調べノートしておくこと（２時間）
　　事後学習：講義の内容について、資料をもとに自分なりに纏めておくこと（２時間）
第14回：デカルト２（デカルトの自我論・方法的懐疑）
　　事前学習：参考文献などをもとにデカルトの「我思う。ゆえに私はある」という言葉について調べノートしておくこと（２時間）
　　事後学習：講義の内容について、資料をもとに自分なりに纏めておくこと（２時間）
第15回：これまでのまとめ
　　事前学習：これまでの授業について質問を考えてくること（２時間）
　　事後学習：講義の内容について、資料をもとに自分なりに纏めておくこと（２時間）
第16回：定期試験

授業実施方法（面接授業・遠隔授業）

原則として「面接授業」を行います。ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成　績　評　価　方　法

定期試験（80%）、平常点（20%）
（平常点は、授業への参加状況、受講態度、毎回の授業内小レポートの提出状況を総合して判断する）

成　績　評　価　基　準

・哲学の基本的な用語や人名について、これを理解し、説明することができるか。
・授業で扱う西洋思想の流れを理解しているか。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック

１）授業時の課題に対するフィードバックについて
　■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
２）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
　■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
３）小レポートに対するフィードバックについて
　■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
４）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
　□定期試験時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
５）その他
　□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他

実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）

テ　キ　ス　ト、参　考　図　書

テキストはとくに使用しない。
参考図書については、安価かつ容易に入手できるものを以下に記載しておく。
・岩田靖夫『ヨーロッパ思想入門』（岩波ジュニア新書）　岩波書店　2003
・伊藤邦武『物語　哲学の歴史』（岩波新書）　岩波書店　2012
・熊野純彦『西洋哲学史　古代から中世へ』（岩波新書）　岩波書店　2006
・熊野純彦『西洋哲学史　近世から現代へ』（岩波新書）　岩波書店　2006

その他（受講上の注意）
・毎回の講義を受けた後でその部分の配布資料とノートを見直して復習をし、次の授業に臨んでください。また、第２回の授業で配布する参考文献一覧から該当書物を読むなどして、より理解を深めてください。 ・毎回授業内で小レポートを書いてもらいます。私語は他の受講者の迷惑となるので厳禁。私語の目立つ者はその場で注意するが、注意によっても改まらない場合当日欠席扱いとするので注意されたい。
オ フ ィ ス ア ワ ー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

文学の世界 (The World of Literature)			担当教員	平岡　正実
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HL−1221	2単位	2年後期	講義	選択

<科目区分>　人間生活学部学部共通科目　人間学関連科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

豊かな人間性と倫理観を身につけ、幅広い視野から物事をとらえ、的確な判断を下すことができる力を養います

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識･技能　□論理的思考力と創造力　□人間関係形成･社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解･自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

授業の内容

古今の郷土に関係する作家や文学作品、昔話おとぎ話等を取り上げ読解する。読むことで得た知識をもとに簡単な文学作品を創作する。

授業の到達目標

古今の郷土に関係のある文学作品や作家の生き方に触れることで、それぞれの時代にふるさとに生きた人々の思想や願いに思いをはせるとともに、創作活動に必要な文章構成や表現の工夫などの基礎的な知識を身につけることができる。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習（PBL）　■討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等）　■実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：授業概要の説明及び受講の心構え
　事前学習：今までの自分の読書生活を振り返り、この講義で学びたいことややってみたいことなどについて、簡単なスピーチができるようにしておくこと。（2時間）
　事後学習：「ビブリオバトル」のルールについて、図書やインターネットで等で調べておくこと。（2時間）
第2回：郷土（武生・今立）の文学概論　（発表・ディスカッション）
　事前学習：郷土に関連のある作家や文学作品の中で興味のあるものについて調べ、ノートにまとめておくこと（2時間）
　事後学習：越前市東部（味真野地区・今立地区）の文化遺産について調べ、ノートにまとめ第3回授業で提出すること（2時間）
第3回：郷土の文学①いわさきちひろと絵本　（発表・ディスカッション）
　事前学習：「いわさきちひろ」について、図書館やインターネットで調べ、代表的な作品を読んでおくこと。（2時間）
　事後学習：安曇野と東京のちひろ館やちひろの絵の技法について調べ、ノートにまとめ第4回授業で提出すること。（2時間）
第4回：郷土の文学②加古里子とかこさとし絵本館　（発表・ディスカッション）
　事前学習：「かこさとし」について図書館やインターネットで調べ、代表的な作品を読んでおくこと。（2時間）
　事後学習：かこさとし公園やかこさとしの絵の技法について調べ、ノートにまとめ第5回授業で提出すること。（2時間）
第5回：郷土の文学③橘曙覧と独楽吟　（発表・グループワーク）
　事前学習：「橘曙覧」について、図書館やインターネットで調べておくこと。（2時間）
　事後学習：「平成独楽吟集」を読み、曙覧の句と比べて社会的背景や先人の物の見方・感じ方について感想をノートにまとめ第6回授業で提出すること。（2時間）

第６回：郷土の文学④「山川登美子・水上勉・高見順」（発表・ディスカッション）
事前学習：「山川登美子・水上勉・高見順」のうち、興味のある文学者について調べ、ノートにまとめておくこと。（２時間）
事後学習：「山川登美子・水上勉・高見順」のうち、興味のある文学者の作品を読み、特徴や文学史上の位置づけについてノートにまとめ第７回授業で提出すること。（２時間）
第７回：郷土の文学のまとめ「郷土の文学新聞」制作
事前学習：郷土の文学者のうち、興味のある文学者について資料を集め、「郷土の文学新聞」のレイアウトを作成しておくこと。（２時間）
事後学習：「郷土の文学新聞」を完成させ第８回授業で提出すること。（２時間）
第８回：神話・昔話の世界①小学校の教科書教材　（発表・ディスカッション）
事前学習：日本の神話や昔話（古事記・宇治拾遺物語・御伽草子等）について調べ、ノートにまとめておくこと。（２時間）
事後学習：授業中に紹介された日本の説話集について、図書館で調べてまとめ第９回授業で提出すること。（２時間）
第９回：神話・昔話の世界②原典や絵本等を読む　（発表・ディスカッション）
事前学習：西洋の昔話（グリム・アンデルセン・ペロー等）について調べ、ノートにまとめておくこと。（２時間）
事後学習：授業中に紹介された西洋の昔話・おとぎ話について、図書館で調べてまとめ第10回授業で提出すること。（２時間）
第10回：韻文（詩・短歌・俳句）の世界　（発表・ディスカッション）
事前学習：俳句（文学史、季語）について調べ、ノートにまとめておくこと。（２時間）
事後学習：興味のある俳人、歌人、詩人の人物像や作品について調べ、ノートにまとめ第11回授業で提出すること。（２時間）
第11回：童話の創作法（発表・ディスカッション・グループワーク）
事前学習：芥川龍之介について調べ、ノートにまとめ第12回授業で提出すること。（２時間）
事後学習：芥川龍之介の作品（説話集）を一つ読み、400字程度にまとめて第12回授業で提出すること（２時間）
第12回：童話の創作①　（発表・ディスカッション）
事前学習：日本の昔ばなしや西洋のおとぎ話をテーマにした絵本・児童向け作品集を読み、あらすじと感想をノートにまとめておくこと。（２時間）
事後学習：幼児教育における昔話やおとぎ話の意義について、意見をノートにまとめ第13回授業で提出すること。（２時間）
第13回：童話の創作②　（発表・ディスカッション）
事前学習：童話コンクール入賞作品を分析し、魅力をまとめておくこと。（２時間）
事後指導：図書館やインターネット等で日本の代表的な説話集にどのようなものがあるか調べ、ノートにまとめ第14回授業で提出すること（２時間）
第14回：童話の創作③　（発表・ディスカッション）
事前学習：説話集をリストアップし、比較分析すること。（２時間）
事後学習：授業の課題（日本の説話集から作品を選び、現代の社会状況に合わせて書き直す）を完成させ第15回授業で提出すること。（２時間）
第15回：創作童話の合評会　（プレゼンテーション）
事前学習：自分が取り上げた作品について、ワークシートにまとめておくこと。（２時間）
事後学習：本授業を受講して印象に残ったことや更に調べてみたいことなどをノートにまとめ提出すること。（２時間）

授業実施方法（面接授業・遠隔授業）

原則として「面接授業」を行います。
ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。
遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成　績　評　価　方　法

学期末レポート（50％）、授業内の課題（30％）、平常点（20％）
（平常点は、授業への参加状況、受講態度等を総合して判断する）

成　績　評　価　基　準

講義で学修した作家や作品について理解を深めたか。作品創作に必要な手順や方法など基礎的な知識を理解して、文章構成や表現に留意した作品が書けたか。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

1）授業時の課題に対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
2）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
■授業時　■仁大eラーニング　□メール　□その他
3）小レポートに対するフィードバックについて
■授業時　■仁大eラーニング　□メール　□その他
4）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
□定期試験時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
5）その他
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他

実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)

経歴：（元小・中学校教諭）
実務経験と授業内容との関連性：（学校現場における教員経験を有する教員が、ふるさと教育の視点から福井県や越前市の文化や文学者について解説したり、青少年期における読書活動の意義・重要性について講義する。）

テキスト、参考図書

テキストは、使用しません。参考図書は、その都度指示します。

その他(受講上の注意)

毎回、テーマに関する本を１冊以上読んでおく

オフィスアワー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

美術の世界 (The World of Art)			担当教員	伊東　知之
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HL−1222	2単位	2年後期	講義	選択

<科目区分>　人間生活学部学部共通科目　人間学関連科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

豊かな人間性と倫理観を身につけ、幅広い視野から物事をとらえ、的確な判断を下すことができる力を養います

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識･技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成･社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解･自己管理能力　□諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

授業の内容

先史時代から現代までの美術の歴史を概観することによって美術史の特徴や普遍性について考察する。また、美術の中の絵画、彫刻、デザインといった各分野についてさらに詳しい具体的な内容を検証し、私たちの身の周りに存在する美術についても考察していく。そして、美術と人間の関わり、美術と社会との関わりを探究することによって美術の起源、存在理由等、美術の本質に迫りながら人間の営みとしての美術を総合的に見ていく。

授業の到達目標

・美術の歴史や分野について説明できる。
・ある程度、美術作品として自分なりに工夫して表現できる。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　□グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等）　■実習、フィールドワーク　■実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：美術の起源・なぜ人は絵を描くのか
　事前学習：美術の起源について調べてまとめておく。（2時間）
　事後学習：授業内容をまとめておく。（2時間）
第2回：美術の歴史①（古代）
　事前学習：古代美術について調べてまとめておく。（2時間）
　事後学習：授業内容をまとめておく。（2時間）
第3回：美術の歴史②（ルネッサンス）
　事前学習：ルネッサンスについて調べてまとめておく。（2時間）
　事後学習：授業内容についてまとめておく。（2時間）
第4回：美術の歴史③（ルネッサンス）
　事前学習：ルネッサンスについてさらに調べてまとめておく。（2時間）
　事後学習：授業内容をまとめておく。（2時間）
第5回：美術の分野①（絵画）
　事前学習：興味のある絵画について調べておく。（2時間）
　事後学習：授業内容をまとめておく。（2時間）
第6回：美術の分野②（彫刻）
　事前学習：興味のある彫刻について調べておく。（2時間）
　事後学習：授業内容をまとめておく。（2時間）
第7回：美術の分野③（工芸）
　事前学習：興味のある工芸について調べておく。（2時間）
　事後学習：授業内容をまとめておく。（2時間）

第８回：美術の分野④（デザイン）
事前学習：興味のあるデザインについて調べておく。（２時間）
事後学習：授業内容をまとめておく。（２時間）
第９回：美術展見学（フィールドワーク）
事前学習：見学する美術展について調べておく。（２時間）
事後学習：見学した内容をレポートにまとめる。（２時間）
第10回：美術作品について①
事前学習：興味のある美術作品について調べておく。（２時間）
事後学習：授業内容をまとめておく。（２時間）
第11回：美術作品について②
事前学習：さらに興味のある美術作品について調べておく。（２時間）
事後学習：授業内容をまとめておく。（２時間）
第12回：美術作品について③
事前学習：さらに興味のある美術作品について調べておく。（２時間）
事後学習：授業内容をまとめておく。（２時間）
第13回：作品発表（制作・発表・プレゼンテーション）
事前学習：作品発表できるように作品制作をする。（２時間）
事後学習：指摘があった箇所についてさらに制作する。（２時間）
第14回：美術の歴史④（近代、現代）
事前学習：美術の歴史の概要について調べておく。（２時間）
事後学習：授業内容をまとめておく。（２時間）
第15回：まとめ・美術について
事前学習：授業全体の内容をまとめておく。（２時間）
事後学習：美術についてのレポートを提出する。（２時間）

授業実施方法（面接授業・遠隔授業）

原則として「面接授業」を行います。
ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。
遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成　績　評　価　方　法

レポート（60%）、作品（20%）、平常点（20%）
（平常点は、授業への参加状況、受講態度、提出物の提出状況等を総合して判断する。）

成　績　評　価　基　準

・美術の歴史や意味について説明できるか。
・テーマに基づいて自分なりに工夫して作品ができたか。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック

１）授業時の課題に対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
２）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
３）小レポートに対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
４）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
□定期試験時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
５）その他（課題発表に対するフィードバックについて）
■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他

実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）

テキスト、参考図書

必要に応じて資料を配布する。

その他（受講上の注意）

美術展の見学を土曜日に行う。

オフィスアワー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

生活と環境B (Life Science and the Environment B)			担当教員	髙木　康之
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HL−2230	2単位	2年前期	講義	選択

<科目区分>　人間生活学部学部共通科目　環境・健康生活科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

大学生としての基礎的能力ならびに現代の人間生活の諸課題の解決や支援に当たりうる豊かな教養と確かな知識、技術を学びます

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識･技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成･社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解･自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

授業の内容

最近の高度な科学と技術の飛躍的発展により産業構造や家族形態に大きな変化をもたらされたことは、食生活の営みに大きく影響する。健康に食生活を営むための基礎的知識を理解し、食生活の現実とその深層を見極めるため食のもつ機能や各ライフステージにおける食の特徴と役割について学習する。

授業の到達目標

・食生活における食のもつ機能について説明できる。
・各ライフステージにおける食の特徴と役割について説明できる。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　□グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　□発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等）　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：健康な食生活
　事前学習：教科書（p.1－p.3）を読み、質問事項をまとめておくこと（2時間）
　事後学習：学習した内容を復習し、講義内容をノートにまとめておくこと（2時間）
第2回：食生活の変遷
　事前学習：教科書（p.4－p.10）を読み、質問事項をまとめておくこと（2時間）
　事後学習：学習した内容を復習し、講義内容をノートにまとめておくこと（2時間）
第3回：食生活の現状と課題
　事前学習：教科書（p.10－p.18）を読み、質問事項をまとめておくこと（2時間）
　事後学習：学習した内容を復習し、講義内容をノートにまとめておくこと（2時間）
第4回：食料・食材の安全性の現状と課題
　事前学習：教科書（p.18－p.26）を読み、質問事項をまとめておくこと（2時間）
　事後学習：学習した内容を復習し、講義内容をノートにまとめておくこと（2時間）
第5回：栄養素摂取状況と健康状態の変遷と課題／課題レポート①
　事前学習：教科書（p.27－p.33）を読み、質問事項をまとめておくこと（2時間）
　事後学習：学習した内容を復習し、講義内容をノートにまとめておくこと（2時間）
第6回：食品の生理的機能①（栄養的機能）
　事前学習：教科書（p.34－p.39）を読み、質問事項をまとめておくこと（2時間）
　事後学習：学習した内容を復習し、講義内容をノートにまとめておくこと（2時間）
第7回：食品の生理的機能②（感覚的機能）
　事前学習：教科書（p.40－p.48）を読み、質問事項をまとめておくこと（2時間）
　事後学習：学習した内容を復習し、講義内容をノートにまとめておくこと（2時間）
第8回：食品の生理的機能③（生体調節機能）
　事前学習：教科書（p.48－p.51）を読み、質問事項をまとめておくこと（2時間）
　事後学習：学習した内容を復習し、講義内容をノートにまとめておくこと（2時間）

第９回：食生活の精神的機能
　　事前学習：教科書（p.51－p.60）を読み、質問事項をまとめておくこと（２時間）
　　事後学習：学習した内容を復習し、講義内容をノートにまとめておくこと（２時間）
第10回：食生活の社会的機能①（分配行動、食事の種類、食が及ぼす心の病）／課題レポート②
　　事前学習：教科書（p.60－p.75）を読み、質問事項をまとめておくこと（２時間）
　　事後学習：学習した内容を復習し、講義内容をノートにまとめておくこと（２時間）
第11回：食生活の社会的機能②（社会教育の役割、食情報の役割）
　　事前学習：教科書（p.98－p.101、p.105－p.112）を読み、質問事項をまとめておくこと（２時間）
　　事後学習：学習した内容を復習し、講義内容をノートにまとめておくこと（２時間）
第12回：妊娠期の食生活
　　事前学習：教科書（p.113－p.114）を読み、質問事項をまとめておくこと（２時間）
　　事後学習：学習した内容を復習し、講義内容をノートにまとめておくこと（２時間）
第13回：授乳期の食生活
　　事前学習：教科書（p.115）を読み、質問事項をまとめておくこと（２時間）
　　事後学習：学習した内容を復習し、講義内容をノートにまとめておくこと（２時間）
第14回：乳児期の食生活
　　事前学習：教科書（p.115－p.120）を読み、質問事項をまとめておくこと（２時間）
　　事後学習：学習した内容を復習し、講義内容をノートにまとめておくこと（２時間）
第15回：壮・中年期、老年期の食生活
　　事前学習：教科書（p.129－p.138）を読み、質問事項をまとめておくこと（２時間）
　　事後学習：学習した内容を復習し、講義内容をノートにまとめておくこと（２時間）
第16回：定期試験

授業実施方法（面接授業・遠隔授業）

原則として「面接授業」を行います。
ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。
遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成　績　評　価　方　法

定期試験（70%）、課題レポート（20%）、平常点（10%）
（平常点は、授業への参加状況、受講態度を総合して判断する）

成　績　評　価　基　準

・食生活における食のもつ機能について説明できるか。
・各ライフステージにおける食の特徴と役割について説明できるか。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック

１）授業時の課題に対するフィードバックについて
　■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
２）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
　■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
３）小レポートに対するフィードバックについて
　■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
４）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
　□定期試験時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
５）その他
　□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他

実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）

テ　キ　ス　ト　、　参　考　図　書

福田靖子・小川宣子 編　『食生活論第３版』　朝倉書店　2015年
必要に応じて、講義用資料を出席者に配布する。

その他（受講上の注意）

・課題レポートは、提出期限を守ること。期限後の提出は減点の対象となる（提出期限後は受領しない場合がある）。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

生活と環境D (Life Science and the Environment D)			担当教員	藤原　英一
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HL−2231	2単位	2年後期	講義	選択

<科目区分>　人間生活学部学部共通科目　環境・健康生活科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

大学生としての基礎的能力ならびに現代の人間生活の諸課題の解決や支援に当たりうる豊かな教養と確かな知識、技術を学びます

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識･技能　■論理的思考力と創造力　■人間関係形成･社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解･自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

資格・免許の要件なし

授業の内容

これからの時代にふさわしい生活環境のあり方、人や環境にやさしい生活者、まちづくりの担い手となるための知識やノウハウを学ぶ。

授業の到達目標

持続可能な地域社会を実現するうえで必要となる人と自然にやさしい生活環境づくりに向けて、以下のとおり、我々が行動すべきこと、地域社会に働きかけるべきことを体得することを目標とする。
○人と環境にやさしいまちづくりに関する知識・考え方を体得する
○人と環境にやさしいライフスタイル・暮らし方に関する知識・考え方を体得する
○ワークショップ手法を通じて、他者との意見交換や共同による新たな創造に繋げる能力を高める

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等）　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

授業は講義形式を中心とし、節目節目において課題のプレゼンテーションを交える。
第1回：まちづくりとは
　事前学習：まちづくりに関する事前調査（2時間）
　事後学習：授業の復習（2時間）
第2回：景観と景観まちづくり～暮らしを豊かにする風景・景観～
　事前学習：前回授業で与えられたテーマに関する事前調査（2時間）
　事後学習：授業の復習（2時間）
第3回：デザイン～社会問題を解決するデザイン～
　事前学習：前回授業で与えられたテーマに関する事前調査（2時間）
　事後学習：授業の復習（2時間）
第4回：幸せな地域にあるもの①～社会の課題・地域の課題とその解決策～
　事前学習：前回授業で与えられたテーマに関する事前調査（2時間）
　事後学習：授業の復習（2時間）
第5回：幸せな地域にあるもの②【グループワーク】
　事前学習：前回授業で与えられたテーマに関する事前調査（2時間）
　事後学習：グループワークでの調査（2時間）
第6回：幸せな地域にあるもの③【グループワーク】
　事前学習：グループワークに関する事前調査（2時間）
　事後学習：グループワークの復習（2時間）

第７回：コンパクトシティ①～今後必要となるライフスタイル・暮らし方～
　　事前学習：前回授業で与えられたテーマに関する事前調査（２時間）
　　事後学習：授業の復習（２時間）
第８回：コンパクトシティ②
　　事前学習：前回授業で与えられたテーマに関する事前調査（２時間）
　　事後学習：授業の復習（２時間）
第９回：シビックプライド①～まちと自分の関係～
　　事前学習：前回授業で与えられたテーマに関する事前調査（２時間）
　　事後学習：授業の復習。（２時間）
第10回：シビックプライド②【グループワーク】
　　事前学習：前回授業で与えられたテーマに関する事前調査。（２時間）
　　事後学習：グループワークの復習（２時間）
第11回：リノベーションまちづくり～豊かな暮らし、自分がしたい暮らし方
　　事前学習：前回授業で与えられたテーマに関する事前調査（２時間）
　　事後学習：授業の復習（２時間）
第12回：公共空間の再構築①～これからの時代に必要な公共空間～
　　事前学習：前回授業で与えられたテーマに関する事前調査（２時間）
　　事後学習：授業の復習（２時間）
第13回：公共空間の再構築②
　　事前学習：前回授業で与えられたテーマに関する事前調査（２時間）
　　事後学習：授業の復習（２時間）
第14回：公共空間の最構築③＋ワークショップⅣ【グループワーク】
　　事前学習：前回授業で与えられたテーマに関する事前調査（２時間）
　　事後学習：グループワークでの調査（２時間）
第15回：私たちが考えるこれからのまちづくりの提案【発表（プレゼンテーション）】
　　事前学習：プレゼンテーションの作成（２時間）
　　事後学習：授業の復習（２時間）

授業実施方法（面接授業・遠隔授業）

原則として「面接授業」を行います。
ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。
遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成　績　評　価　方　法

出席状況・出欠アンケートの内容60％、ワークショップの内容20％、受講姿勢・意欲20％で評価を行うことを基本としつつ、受講姿勢・意欲等を踏まえて定期試験を実施する。

成　績　評　価　基　準

成績評価の基準は、授業の到達目標に対する学修成果の達成度を以下の基準に基づいて評価する。
○人と環境にやさしいまちづくり・ライフスタイルに関して必要となる視点やその理由に関する理解度
○ワークショップ手法の理解度、他者との意見交換や共同による新たな創造に繋げる技術等の体得状況
○自ら学びをデザインする意識・行動

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック

１）授業時の課題に対するフィードバックについて
　■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
２）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
　■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
３）小レポートに対するフィードバックについて
　■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
４）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
　□定期試験時　■仁大eラーニング　□メール　□その他
５）その他
　□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他

実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）

経歴：（総合建設コンサルタント（都市計画、建設、土地区画整理等）勤務）
実務経験と授業内容との関連性：（都市計画やまちづくりの専門家としての経験を有する教員が、まちづくり、景観、シビックプライド等の視点から、持続可能な地域社会を実現するうえで必要となる知識や考え方の体得、地域社会に対して主体的に行動する意識の醸成を目的として講義を行う。）

テキスト、参考図書

参考文献
『地域を変えるデザイン』 筧裕介著（英治出版）2011年
『都市から学んだ10のこと　まちづくりの若き仲間たちへ』 西村幸夫著（学芸出版社）2019年
『都市計画学：変化に対応するプランニング』 中島直人他著（学芸出版社）2018年
『まちづくりプロジェクトの教科書』 小地沢 将之（森北出版）2020年
『公民連携まちづくり事例＆解説 エリア再生のためのPPP』 日経アーキテクチュア（2022）
『みんなの都市　初心者のための都市計画マニュアル』 オサム・オカムラ／著（鹿島出版会）他

その他（受講上の注意）

授業の妨げとなる行為（私語、携帯、受講姿勢不良等）が著しい者には退席を命ずることがある。

オフィスアワー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

ふくい総合学 (General Studies of Fukui)			担当教員	杉島　一郎、禿　　寿、尼子　克己、 西出　和彦
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HL−2232	2単位	2年後期	講義	選択

<科目区分>　人間生活学部学部共通科目　環境・健康生活科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

大学生としての基礎的能力ならびに専門的・実際的な知識を習得し、探求的な意欲と協同的な態度を身につけます。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□体系的な知識･技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成･社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解･自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

資格・免許の要件については学生便覧参照のこと。

授業の内容

本授業は、様々な分野・専門領域における「ふくい」についての現況の課題や行政施策等の理解促進を目的とする。特に「ふくい」の中の「越前市」に焦点をあて、市職員を招聘し、学生へ市計画等の事業の現状、将来構想、施策の特徴を講義し、「市を取り巻く状況」に始まり、「戦略的取組」「行政課題」や「今後の展望」などを取り上げる。後半は、本学各学科各領域からの視点で越前市や地域との関連性について取り上げ、大学の立地自治体の特徴、文化の理解を深めてもらえるような内容となっている。

授業の到達目標

本学が立地する自治体である「越前市」の特徴や行政全般、さらには独自の文化等に対しての理解を深める。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　□グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　□発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等）　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：「ふくい総合学」趣旨説明＜総論＞越前市を取り巻く状況
　事前学習：授業前にシラバスを読み、質問項目をまとめておくこと。（2時間）
　事後学習：授業の内容を振り返り、e-learningを通じてリフレクションを実施すること。（2時間）
第2回：戦略的取り組み＜まちづくり編＞コウノトリと里山の人たちとの共生、かこさとしさんと読書のまち宣言
　事前学習：授業前に越前市に関する資料を読み、質問項目をまとめておくこと。（2時間）
　事後学習：e-learningを通じてリフレクションを実施すること。また授業内容を復習すること。（2時間）
第3回：戦略的取り組み＜福祉編＞検診を受けよう　新しい健康づくり、子どもの笑顔が輝く環境づくり
　事前学習：授業前に越前市に関する資料を読み、質問項目をまとめておくこと。（2時間）
　事後学習：e-learningを通じてリフレクションを実施すること。また授業内容を復習すること。（2時間）
第4回：戦略的取り組み＜文化編＞国府が置かれた歴史あるまちづくり、たけふ菊人形のあゆみ
　事前学習：授業前に越前市に関する資料を読み、質問項目をまとめておくこと。（2時間）
　事後学習：e-learningを通じてリフレクションを実施すること。また授業内容を復習すること。（2時間）
第5回：戦略的取り組み＜産業編＞越前市の産業活性化（産業活性化プラン・工芸の里構想）
　事前学習：授業前に越前市に関する資料を読み、質問項目をまとめておくこと。（2時間）
　事後学習：e-learningを通じてリフレクションを実施すること。また授業内容を復習すること。（2時間）
第6回：戦略的取り組み＜環境編＞下水道事業で人と環境のネットワークづくり、もったいない！捨てないで資源回収しよう
　事前学習：授業前に越前市に関する資料を読み、質問項目をまとめておくこと。（2時間）
　事後学習：e-learningを通じてリフレクションを実施すること。また授業内容を復習すること。（2時間）
第7回：行政課題（1）地域が支える災害に強いまちづくり、まちづくりと交通体系
　事前学習：授業前に越前市に関する資料を読み、質問項目をまとめておくこと。（2時間）
　事後学習：e-learningを通じてリフレクションを実施すること。また授業内容を復習すること。（2時間）

第８回：行政課題（２）越前市の財政、越前市で暮らそう！～新生活を始めるなら中心市街地がおすすめ～
事前学習：授業前に越前市に関する資料を読み、質問項目をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：e-learningを通じてリフレクションを実施すること。また授業内容を復習すること。（２時間）
第９回：行政課題（今後）オープンデータを利用したまち情報の発信、きくりんがちょっといいこと教えちゃうリン！～越前市の嬉しい情報をお届けします～
事前学習：授業前に越前市に関する資料を読み、質問項目をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：e-learningを通じてリフレクションを実施すること。また授業内容を復習すること。（２時間）
第10回：行政課題（展望）市民協働プロセスの確立、市民交流・ネットワークづくり
事前学習：授業前に越前市に関する資料を読み、質問項目をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：e-learningを通じてリフレクションを実施すること。また授業内容を復習すること。（２時間）
第11回：心理学の視点から（心理学科教員）
事前学習：授業前に資料を読み、質問項目をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：e-learningを通じてリフレクションを実施すること。また授業内容を復習すること。（２時間）
第12回：コミュニケーション学の視点から（コミュニケーション学科教員）
事前学習：授業前に資料を読み、質問項目をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：e-learningを通じてリフレクションを実施すること。また授業内容を復習すること。（２時間）
第13回：健康栄養学の視点から（健康栄養学科教員）
事前学習：授業前に資料を読み、質問項目をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：e-learningを通じてリフレクションを実施すること。また授業内容を復習すること。（２時間）
第14回：子ども教育学の視点から（子ども教育学科教員）
事前学習：授業前に資料を読み、質問項目をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：e-learningを通じてリフレクションを実施すること。また授業内容を復習すること。（２時間）
第15回：まとめ（とりまとめ教員）
事前学習：授業前に14回までを振り返り、質問項目をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：e-learningを通じて授業全体のリフレクションを実施すること。（２時間）

授業実施方法（面接授業・遠隔授業）

原則として「面接授業」を行います。
ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。
遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成　績　評　価　方　法

レポート（60%）　平常点（40%）
（平常点は、授業時のリアクションペーパー、受講態度等を総合して判断する。）

成　績　評　価　基　準

「越前市の人とまち、その文化」というテーマで、「越前市の取組み」についての現況の課題や今後の施策内容等を理解できたか。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック

１）授業時の課題に対するフィードバックについて
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
２）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
３）小レポートに対するフィードバックについて
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
４）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
□定期試験時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
５）その他
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他

実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）

テ　キ　ス　ト　、　参　考　図　書

毎回プリントを配布。

その他（受講上の注意）

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

英語Ⅱa (English Ⅱa)			担当教員	加藤　優子、Mクズィフ、野本　尚美
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HL−2240	1単位	2年前期	演習	選択

<科目区分>　人間生活学部学部共通科目　外国語科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

大学生としての基礎的能力ならびに現代の人間生活の諸課題の解決や支援に当たりうる豊かな教養と確かな知識、技術を学びます。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□体系的な知識･技能　□論理的思考力と創造力　■人間関係形成･社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
■自己理解･自己管理能力　□諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

資格・免許の要件については学生便覧参照のこと。

授業の内容

Following a warm-up activity to introduce the theme of the unit, students will be introduced to the relevant grammar and vocabulary through a series of listening and speaking exercises.
Reading and writing exercises will follow to reinforce their knowledge of the material.

授業の到達目標

Expanding upon the material covered in English I a and I b, further attention will be given to developing the four core skills of language proficiency.
Students will continue to develop the speaking skills necessary to express themselves in general areas of conversation, such as talking about their daily lives and exchanging personal information.
Listening practice will focus on listening for keywords and specific information.
Reading exercises will focus on the important skills of skimming for general understanding as well as scanning for specific information.
Writing activities will center on developing the student's ability to express his or her own thoughts and opinions in an easy-to-understand manner.

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習（PBL）　■討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等）　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：Class Introduction（ディスカッション）
　事前学習：事前にテキストを読み、質問項目をまとめておくこと（30分）
　事後学習：授業で課された課題を解き、分からないことについて調べること（30分）
第2回：Unit 1 - Hobbies ①（ディスカッション）
　事前学習：前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと（30分）
　事後学習：授業で課された課題を解き、分からないことについて調べること（30分）
第3回：Unit 1 - Hobbies ②（ディスカッション）
　事前学習：前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと（30分）
　事後学習：授業で課された課題を解き、分からないことについて調べること（30分）
第4回：Unit 2 - Cities ①（ディスカッション）
　事前学習：前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと（30分）
　事後学習：授業で課された課題を解き、分からないことについて調べること（30分）
第5回：Unit 2 - Cities ②（ディスカッション）
　事前学習：前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと（30分）
　事後学習：授業で課された課題を解き、分からないことについて調べること（30分）

第６回：Unit ３ - An Active Life ①（ディスカッション）
事前学習：前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと（30分）
事後学習：授業で課された課題を解き、分からないことについて調べること（30分）
第７回：Unit ３ - An Active Life ②（ディスカッション）
事前学習：前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと（30分）
事後学習：授業で課された課題を解き、分からないことについて調べること（30分）
第８回：Review（ディスカッション）
事前学習：前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと（30分）
事後学習：授業で課された課題を解き、分からないことについて調べること（30分）
第９回：Unit ４ - Technology ①（ディスカッション）
事前学習：前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと（30分）
事後学習：授業で課された課題を解き、分からないことについて調べること（30分）
第10回：Unit ４ - Technology ②（ディスカッション）
事前学習：前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと（30分）
事後学習：授業で課された課題を解き、分からないことについて調べること（30分）
第11回：Unit ５ - Personality ①（ディスカッション）
事前学習：前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと（30分）
事後学習：授業で課された課題を解き、分からないことについて調べること（30分）
第12回：Unit ５ - Personality ②（ディスカッション）
事前学習：前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと（30分）
事後学習：授業で課された課題を解き、分からないことについて調べること（30分）
第13回：Unit ６ - Cooking ①（ディスカッション）
事前学習：前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと（30分）
事後学習：授業で課された課題を解き、分からないことについて調べること（30分）
第14回：Unit ６ - Cooking ②（ディスカッション）
事前学習：前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと（30分）
事後学習：授業で課された課題を解き、分からないことについて調べること（30分）
第15回：Review（ディスカッション）
事前学習：前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと（30分）
事後学習：授業で課された課題を解き、分からないことについて調べること（30分）
第16回：Examination（インタビューテスト、スピーチ）
Before each unit, students are to familiarize themselves with the class material by reviewing the 'Grammar Reference' pages for each unit and completing the exercises on those pages. Students must also complete homework assignments as instructed by their teacher, such as the written assignments suggested in the textbook and other relevant assignments.

授業実施方法（面接授業・遠隔授業）

原則として「面接授業」を行います。
ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。
遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成　績　評　価　方　法

Outside-class Assignments - 20% *Talk to your instructor about what is required.
Proactive In-class Participation - 20%
Examinations - 60%

成　績　評　価　基　準

Students' abilities to participate in conversations and express opinions on a variety of subjects will be evaluated as well as their abilities to express opinions in written form and to comprehend reading passages.

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック

１）授業時の課題に対するフィードバックについて
■授業時　■仁大eラーニング　□メール　□その他
２）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
■授業時　■仁大eラーニング　□メール　□その他
３）小レポートに対するフィードバックについて
■授業時　■仁大eラーニング　□メール　□その他
４）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
□定期試験時　■仁大eラーニング　□メール　□その他
５）その他
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他

実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）
テキスト、参考図書
Stempleski, Susan. Stretch 2(Second Edition). 2024. Oxford University Press. ISBN 978-0-19-413640-2 TEXT加藤　『TOEIC L&R TEST 出る単特急 金のフレーズ』　朝日新聞出版　2017年
その他（受講上の注意）
Students are encouraged to take the TOEIC during their studies at the university. Also, at least one class will be held in the E-Lounge (E-301) or CALL (E-303) during the semester to familiarize the students with the latest available English self-study materials.
オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

英語Ⅱb (English Ⅱb)			担当教員	加藤　優子、Mクズィフ、野本　尚美
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HL−2241	1単位	2年後期	演習	選択

<科目区分>　人間生活学部学部共通科目　外国語科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

大学生としての基礎的能力ならびに現代の人間生活の諸課題の解決や支援に当たりうる豊かな教養と確かな知識、技術を学びます。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□体系的な知識･技能　□論理的思考力と創造力　■人間関係形成･社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
■自己理解･自己管理能力　□諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

資格・免許の要件については学生便覧参照のこと。

授業の内容

Following a warm-up activity to introduce the theme of the unit, students will be introduced to the relevant grammar and vocabulary through a series of listening and speaking exercises.
Reading and writing exercises will follow to reinforce their knowledge of the material.

授業の到達目標

Expanding upon the material covered in English I a and I b, further attention will be given to developing the four core skills of language proficiency.
Students will continue to develop the speaking skills necessary to express themselves in general areas of conversation, such as talking about their daily lives and exchanging personal information.
Listening practice will focus on listening for keywords and specific information.
Reading exercises will focus on the important skills of skimming for general understanding as well as scanning for specific information.
Writing activities will center on developing the student's ability to express his or her own thoughts and opinions in an easy-to-understand manner.

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習（PBL）　■討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　□グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　□発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等）　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：Class Introduction（ディスカッション）
　事前学習：事前にテキストを読み、質問項目をまとめておくこと（30分）
　事後学習：授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること（30分）
第2回：Unit 7 - Weather ①（ディスカッション）
　事前学習：前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと（30分）
　事後学習：授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること（30分）
第3回：Unit 7 - Weather ②（ディスカッション）
　事前学習：前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと（30分）
　事後学習：授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること（30分）
第4回：Unit 8 - Everyday Activities ①（ディスカッション）
　事前学習：前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと（30分）
　事後学習：授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること（30分）
第5回：Unit 8 - Everyday Activities ②（ディスカッション）
　事前学習：前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと（30分）
　事後学習：授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること（30分）

第６回：Unit 9 - Math, history, and art ①（ディスカッション）
事前学習：前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと（30分）
事後学習：授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること（30分）
第７回：Unit 9 - Math, history, and art ②（ディスカッション）
事前学習：前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと（30分）
事後学習：授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること（30分）
第８回：Review（ディスカッション）
事前学習：前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと（30分）
事後学習：授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること（30分）
第９回：Unit 10 - A busy semester ①（ディスカッション）
事前学習：前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと（30分）
事後学習：授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること（30分）
第10回：Unit 10 - A busy semester ②（ディスカッション）
事前学習：前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと（30分）
事後学習：授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること（30分）
第11回：Unit 11 - Favors and requests ①（ディスカッション）
事前学習：前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと（30分）
事後学習：授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること（30分）
第12回：Unit 11 - Favors and requests ②（ディスカッション）
事前学習：前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと（30分）
事後学習：授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること（30分）
第13回：Unit 12 - Before you travel ①（ディスカッション）
事前学習：前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと（30分）
事後学習：授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること（30分）
第14回：Unit 12 - Before you travel ②（ディスカッション）
事前学習：前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと（30分）
事後学習：授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること（30分）
第15回：Review（ディスカッション）
事前学習：前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと（30分）
事後学習：授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること（30分）
第16回：Examination
Before each unit, students are to familiarize themselves with the class material by reviewing the 'Grammar Reference' pages for each unit and completing the exercises on those pages. Students must also complete homework assignments as instructed by their teacher, such as the written assignments suggested in the textbook and other relevant assignments.

授業実施方法（面接授業・遠隔授業）

原則として「面接授業」を行います。
ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。
遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成　績　評　価　方　法

Outside-class Assignments - 20% *Talk to your instructor about what is required.
Proactive In-class Participation - 20%
Examinations - 60%

成　績　評　価　基　準

Students' abilities to participate in conversations and express opinions on a variety of subjects will be evaluated as well as their abilities to express opinions in written form and to comprehend reading passages.

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック

１）授業時の課題に対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
２）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
３）小レポートに対するフィードバックについて
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
４）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
□定期試験時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
５）その他
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他

実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）
テキスト、参考図書
Stempleski, Susan. Stretch 2 (Second Edition). 2024. Oxford University Press. ISBN 978-0-19-413640-2 TEXT加藤　『TOEIC L&R TEST 出る単特急 金のフレーズ』　朝日新聞出版　2017年
その他（受講上の注意）
Students are encouraged to take the TOEIC during their studies at the university.
オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

キャリア・デザインⅡ（Career DesignⅡ）			担当教員	升田　法継
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HL−2260	2単位	2年後期	講義	選択

<科目区分>　人間生活学部学部共通科目　修学基礎・キャリア形成科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果（教育目標）

大学生としての基礎的能力ならびに現代の人間生活の諸課題の解決や支援に当たりうる豊かな教養と確かな知識、技術を学びます。

身につけることを目指す社会的・職業的能力（汎用的能力）

□体系的な知識･技能　□論理的思考力と創造力　■人間関係形成･社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
■自己理解･自己管理能力　□諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学修経験　■キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

資格・免許の要件については学生便覧参照のこと

授業の内容

社会の中での役割を主体的に果たしながら、「自分らしい生き方」を実現するための力を育むことを目的とし、学生の自立および学生が自身の様々な可能性を発見・再確認できる機会の提供を通じて、今後の大学生活の目標を設定する。

授業の到達目標

・「はたらく」ことの意味・意義について、十分に考えることができる。
・「はたらく」ことと大学生活での「学び」を関連づけて考えることができる。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等）　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：キャリア・デザインとは
　事前学習：初回の授業ではキャリア・デザインの意味・意義について考えるため、自分なりの意見をまとめておくこと。（2時間）
　事後学習：授業で課されたライフストーリーについて、レポートにまとめておくこと。（2時間）
第2回：ライフストーリーⅠ
　事前学習：ゲストスピーカーのライフストーリーについて考えるため、自分なりに調べておくこと。（2時間）
　事後学習：わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（2時間）
第3回：ライフストーリーⅡ
　事前学習：ゲストスピーカーのライフストーリーについて考えるため、自分なりに調べておくこと。（2時間）
　事後学習：わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（2時間）
第4回：ライフストーリーⅢ
　事前学習：ゲストスピーカーのライフストーリーについて考えるため、自分なりに調べておくこと。（2時間）
　事後学習：わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（2時間）
第5回：ライフストーリーⅣ（グループワーク・発表）
　事前学習：各自調査したライフストーリーについて考えるため、自分なりの意見をまとめておくこと。（2時間）
　事後学習：わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（2時間）

第６回：「はたらく」とは
事前学習：「はたらく」ことの意味・意義について考えるため、自分なりの意見をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（２時間）
第７回：業界研究
事前学習：業界全体の概要について考えるため、自分なりに調べておくこと（２時間）
事後学習：わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（２時間）
第８回：職業理解Ⅰ
事前学習：金融業界について考えるため、自分なりに調べておくこと。（２時間）
事後学習：わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（２時間）
※金融業界は予定です（変更する場合があります）。
第９回：職業理解Ⅱ
事前学習：マスコミ業界について考えるため、自分なりに調べておくこと。（２時間）
事後学習：わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（２時間）
※マスコミ業界は予定です（変更する場合があります）。
第10回：職業理解Ⅲ
事前学習：流通・小売業界について考えるため、自分なりに調べておくこと。（２時間）
事後学習：わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（２時間）
※流通・小売業界は予定です（変更する場合があります）。
第11回：ライフ・デザイン
事前学習：ライフ・デザインについて考えるため、自分なりの意見をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（２時間）
第12回：インターンシップ
事前学習：インターンシップの心がまえについて考えるため、自分なりの意見をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（２時間）
第13回：就職活動
事前学習：就職活動の心がまえについて考えるため、自分なりの意見をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（２時間）
第14回：自己理解
事前学習：自己理解について考えるため、自分なりの意見をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（２時間）
第15回：まとめ
事前学習：「はたらく」ことと大学生活での「学び」について考えるため、自分なりの意見をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：わからないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（２時間）

授業実施方法（面接授業・遠隔授業）

原則として「面接授業」を行います。
ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。
遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成　績　評　価　方　法

課題に対する活動内容・提出物・レポート（70％）、平常点（30％）
※平常点：授業への参加状況・受講態度等を総合して判断するもの

成　績　評　価　基　準

・「はたらく」ことの意味・意義について、十分に考えることができるか。
・「はたらく」ことと大学生活での「学び」を関連づけて考えることができるか。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

1）授業時の課題に対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
2）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
3）小レポートに対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
4）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
□定期試験時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
5）その他（リアクションペーパーに対するフィードバックについて）
■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他

実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)

経歴：（元情報通信会社管理職（人事、社長・取締役秘書、マーケティング、新規ビジネス開発、システムコンサルタント等の業務を担当））
実務経験と授業内容との関連性：（企業（業種：情報通信、社員数：約26万人）の管理職（主な担当業務：人事、社長・取締役秘書、マーケティング、新規ビジネス開発、システム コンサルタント等）経験のある教員が、社会の中での役割を主体的に果たしながら「自分らしい生き方」を実現するための力を育むことを目的とし、学生の自立および学生が自身の様々な可能性を発見・再確認できるような機会を提供する。）

テキスト、参考図書

テキストは使用しません。参考図書は必要に応じて紹介します。

その他(受講上の注意)

民間企業を前提としたプログラム構成となっており、幅広い視野を養うことを狙いとしています。
なお、「授業の計画」は、進捗や学生の反応・理解度に応じて、変更する場合があります。

オフィスアワー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

有機化学 (Organic Chemistry)			担当教員	髙木　康之
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−D−2204	2単位	2年前期	講義	選択

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科専門科目　基礎分野

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

基礎研究および食品開発ができる能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識･技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成･社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解･自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

食品衛生管理者・食品衛生監視員任用資格（選択）

授業の内容

有機化合物の分類から構造と化学結合、命名法、官能基の種類と性質について基礎的な事項について学び、有機化合物を系統的に理解する。

授業の到達目標

・有機化合物の構造や官能基について理解し、説明することができる。
・有機化合物のIUPAC名から構造式を書くことができる。
・有機化合物の特徴について理解し、説明することができる。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　□グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　□発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等）　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：有機化合物の世界
　事前学習：教科書の「まえがき」を読む。高校時代に学習した化学もしくは理科を見直す（2時間）
　事後学習：学習した内容を復習し、講義内容をノートにまとめておくこと（2時間）
第2回：有機化合物の特徴
　事前学習：教科書（p.87－p.89）を読み、質問事項をまとめておくこと（2時間）
　事後学習：学習した内容を復習し、講義内容をノートにまとめておくこと（2時間）
第3回：炭化水素①（アルカン）
　事前学習：教科書（p.90－p.92）を読み、質問事項をまとめておくこと（2時間）
　事後学習：学習した内容を復習し、講義内容をノートにまとめておくこと（2時間）
第4回：炭化水素②（アルケン・アルキン）
　事前学習：教科書（p.92－p.95）を読み、質問事項をまとめておくこと（2時間）
　事後学習：学習した内容を復習し、講義内容をノートにまとめておくこと（2時間）
第5回：代表的な有機化合物とその性質、官能基に基づく分類①
　事前学習：教科書（p.107－p.113）を読み、質問事項をまとめておくこと（2時間）
　事後学習：学習した内容を復習し、講義内容をノートにまとめておくこと（2時間）
第6回：代表的な有機化合物とその性質、官能基に基づく分類②
　事前学習：教科書（p.114－p.120）を読み、質問事項をまとめておくこと（2時間）
　事後学習：学習した内容を復習し、講義内容をノートにまとめておくこと（2時間）
第7回：代表的な有機化合物とその性質、官能基に基づく分類③
　事前学習：教科書（p.121－p.124）を読み、質問事項をまとめておくこと（2時間）
　事後学習：学習した内容を復習し、講義内容をノートにまとめておくこと（2時間）
第8回：構造異性体
　事前学習：教科書（p.125－p.127）を読み、質問事項をまとめておくこと（2時間）
　事後学習：学習した内容を復習し、講義内容をノートにまとめておくこと（2時間）

第９回：立体異性体
事前学習：教科書（p.127－p.130）を読み、質問事項をまとめておくこと（２時間）
事後学習：学習した内容を復習し、講義内容をノートにまとめておくこと（２時間）
第10回：炭水化物①（構造と分類）／小テスト
事前学習：教科書（p.135－p.140）を読み、質問事項をまとめておくこと（２時間）
事後学習：学習した内容を復習し、講義内容をノートにまとめておくこと（２時間）
第11回：炭水化物②（化学的性質）
事前学習：教科書（p.135－p.141）を読み、質問事項をまとめておくこと（２時間）
事後学習：学習した内容を復習し、講義内容をノートにまとめておくこと（２時間）
第12回：アミノ酸とタンパク質①（α アミノ酸の種類、構造）
事前学習：教科書（p.148－p.152）を読み、質問事項をまとめておくこと（２時間）
事後学習：学習した内容を復習し、講義内容をノートにまとめておくこと（２時間）
第13回：アミノ酸とタンパク質②（化学的性質）
事前学習：教科書（p.153－p.158）を読み、質問事項をまとめておくこと（２時間）
事後学習：学習した内容を復習し、講義内容をノートにまとめておくこと（２時間）
第14回：脂質の種類と構造
事前学習：教科書（p.142－p.147）を読み、質問事項をまとめておくこと（２時間）
事後学習：学習した内容を復習し、講義内容をノートにまとめておくこと（２時間）
第15回：核酸、ビタミン
事前学習：教科書（p.159－p.165）を読み、質問事項をまとめておくこと（２時間）
事後学習：学習した内容を復習し、講義内容をノートにまとめておくこと（２時間）
第16回：定期試験

授業実施方法（面接授業・遠隔授業）

原則として「面接授業」を行います。ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成　績　評　価　方　法

定期試験（70%）、小テスト（20%）、平常点（10%）
（平常点は、授業への参加状況・受講態度等から総合的に判断する）

成　績　評　価　基　準

・有機化合物の構造や官能基について理解し、説明することができるか。
・有機化合物のIUPAC名から構造式を書くことができるか。
・有機化合物の特徴について理解し、説明することができるか。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック

１）授業時の課題に対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
２）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
３）小レポートに対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
４）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
□定期試験時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
５）その他
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他

実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）

テ　キ　ス　ト　、　参　考　図　書

北原重登、他・『食を中心とした化学 第５版』・東京教学社・2024年
必要に応じてプリントを配布する。

その他（受講上の注意）

・課題レポートは、提出期限を守ること。期限後の提出は減点の対象となる（提出期限後は受領しない場合がある）。
・理解度に応じて授業計画が変更されることがある。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

公衆衛生学 (Public Health)			担当教員	鳴瀬　　碧
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−B−2206	2単位	2年後期	講義	必修

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科専門科目　専門基礎分野

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

栄養状態を把握し、個別栄養評価プログラムを提案し、行動変容を支援できる能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識･技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成･社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
□自己理解･自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

管理栄養士国家試験受験資格（必修）、栄養士免許（必修）、食品衛生管理者・食品衛生監視員任用資格（選択）

授業の内容

集団的に人を捉えた予防医学が公衆衛生学であり、人々の健康状態の現状について学び、健康保持・増進を目的とした法律および施策について理解を深める。

授業の到達目標

・公衆衛生の概念とその重要性について理解し、説明することができる。
・人間を集団として捉え、人々の健康と環境および生活習慣との関わり、健康評価の方法等を理解し、説明することができる。
・集団としての健康の保持・増進に関する法律および施策について理解し、説明することができる。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　□グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　□発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等）　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：社会と健康（前編）
　事前学習：授業前にテキストの第1章p1～12を読み、質問項目をまとめておくこと（2時間）
　事後学習：授業で学習した内容を復習し、テキスト第1章末の練習問題をすること（2時間）
第2回：社会と健康（後編）
　事前学習：授業前にテキストの第1章p12～25を読み、質問項目をまとめておくこと（2時間）
　事後学習：授業で学習した内容を復習し、テキスト第1章末の練習問題をすること（2時間）
第3回：環境と健康①（生態系と人々の生活）
　事前学習：授業前にテキストの第2章p15～21、p31～33を読み、質問項目をまとめておくこと（2時間）
　事後学習：授業で学習した内容を復習すること（2時間）
第4回：環境と健康②（環境汚染と健康）
　事前学習：授業前にテキストの第2章p22～31、p33～37を読み、質問項目をまとめておくこと（2時間）
　事後学習：授業で学習した内容を復習すること（2時間）
第5回：環境と健康③（上水道と下水道）
　事前学習：授業前にテキストの第2章p37～40を読み、質問項目をまとめておくこと（2時間）
　事後学習：授業で学習した内容を復習すること（2時間）
第6回：環境と健康④（廃棄物処理、放射線、建築物衛生）
　事前学習：授業前にテキストの第2章p24、p40～42を読み、質問項目をまとめておくこと（2時間）
　事後学習：授業で学習した内容を復習すること（2時間）
第7回：保健・医療・福祉の制度①
　事前学習：授業前にテキストの第7章p183～194を読み、質問項目をまとめておくこと（2時間）
　事後学習：授業で学習した内容を復習すること（2時間）

第８回：保健・医療・福祉の制度②
　　事前学習：授業前にテキストの第７章p194～200を読み、質問項目をまとめておくこと（２時間）
　　事後学習：授業で学習した内容を復習すること（２時間）
第９回：地域保健
　　事前学習：授業前にテキストの第８章p201～209を読み、質問項目をまとめておくこと（２時間）
　　事後学習：授業で学習した内容を復習すること（２時間）
第10回：母子保健
　　事前学習：授業前にテキストの第９章p211～222を読み、質問項目をまとめておくこと（２時間）
　　事後学習：授業で学習した内容を復習すること（２時間）
第11回：成人保健
　　事前学習：授業前にテキストの第10章p223～ｐ235を読み、質問項目をまとめておくこと（２時間）
　　事後学習：授業で学習した内容を授業で学習した内容を復習すること（２時間）
第12回：高齢者保健・介護
　　事前学習：授業前にテキストの第11章p237～250を読み、質問項目をまとめておくこと（２時間）
　　事後学習：授業で学習した内容を復習すること（２時間）
第13回：産業保健
　　事前学習：授業前にテキストの第12章p251～264を読み、質問項目をまとめておくこと（２時間）
　　事後学習：授業で学習した内容を復習すること（２時間）
第14回：学校保健
　　事前学習：授業前にテキストの第13章p265～283を読み、質問項目をまとめておくこと（２時間）
　　事後学習：授業で学習した内容を復習すること（２時間）
第15回：国際保健
　　事前学習：授業前にテキストの第14章p285～292を読み、質問項目をまとめておくこと（２時間）
　　事後学習：授業で学習した内容を復習すること（２時間）
第16回：定期試験

新聞・ニュース等で報じられる健康の保持・増進に関する取組について日頃から興味を持つようにしてください。各回の講義内容についてよく復習し、疾病の予防や健康増進について公衆衛生学の重要性の理解に努めてください。

授業実施方法（面接授業・遠隔授業）

原則として「面接授業」を行います。
ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。
遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成　績　評　価　方　法

定期試験（80%）、平常点（20%）
（平常点は、授業への参加状況・授業態度等を総合して判断する）

成　績　評　価　基　準

・公衆衛生の概念について理解できているか。
・環境と健康について理解できているか。
・保健統計について理解できているか。
・健康増進のための取組みや疾病の予防対策について理解できているか。
・保険・医療・福祉の制度や取組みについて理解できているか。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック

１）授業時の課題に対するフィードバックについて
　□授業時　　□仁大eラーニング　　□メール　　□その他
２）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
　□授業時　　□仁大eラーニング　　□メール　　□その他
３）小レポートに対するフィードバックについて
　■授業時　　□仁大eラーニング　　□メール　　■その他（Teams）
４）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
　□定期試験時　　□仁大eラーニング　　□メール　　□その他
５）その他（小テストに対するフィードバックについて）
　■授業時　　□仁大eラーニング　　□メール　　■その他（Teams）

実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）
経歴：（薬剤師） 実務経験と授業内容との関連性：（薬剤師として医療提供施設での実務経験を活かし、国が展開する国民の健康づくりに関する施策、医療保険をはじめとする社会保障の仕組み、老人保健、母子保健、地域保健、産業保健、国際保健等、保健・医療・福祉の制度について解説する。）
テキスト、参考図書
鳴瀬 碧 編著　ステップアップ栄養・健康科学『社会・環境と健康』 化学同人　2024年
その他（受講上の注意）
・授業中の私語や携帯電話など、他の学習の妨げとなる場合には退室させるので留意すること。 ・疑問点や不明点があれば直ちに質問すること。
オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

健康管理概論 (Preventive Medicine and Health Promotion)			担当教員	鳴瀬　碧
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−B−2208	2単位	2年前期	講義	必修

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科専門科目　専門基礎分野

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

栄養状態を把握し、個別栄養評価プログラムを提案し、行動変容を支援できる能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識･技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成･社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
□自己理解･自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　■キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

管理栄養士国家試験受験資格（必修）、食品衛生管理者・食品衛生監視員任用資格（選択）

授業の内容

健康の概念とその歴史的概念を理解する。個人、集団（地域、学校、職場など）を対象として、健康の維持・増進、疾病の予防、回復を目的として行う健康管理について、健康の概念と歴史、疫学、世界、我が国の人口統計、国民の健康づくり、生活習慣病の現状と予防、地域保健、ライフステージ別の保健、健康管理、学校・職場での健康管理などについて教授する。

授業の到達目標

健康の概念とその歴史的概念および個人、集団（市町村、学校、職場など）の健康状態を把握するための健康指標、健康教育と健康管理など実践の技術、背景となる法律などについて説明できる。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習（PBL）　■討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　□発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等）　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：健康概念、公衆衛生とその歴史（グループワーク、ディスカッション）
　事前学習：授業前にテキストの第1章A.B.Dを読み「健康」の定義、例、質問事項をまとめておく事。（2時間）
　事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。（2時間）
第2回：疫学1（疫学の概念、疫学指標）
　事前学習：授業前にテキストの第4章A.B.C.Dを読み質問事項をまとめておく事。（2時間）
　事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。（2時間）
第3回：疫学2（疫学的研究法）
　事前学習：授業前にテキストの第4章A.B.C.Dを読み質問事項をまとめておく事。（2時間）
　事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。（2時間）
第4回：スクリーニング、EBM、疫学研究と倫理
　事前学習：授業前にテキストの第4章E.F.Hを読み質問事項をまとめておく事。（2時間）
　事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。（2時間）
第5回：保険統計1（人口統計、人口指標、人口特性）
　事前学習：授業前にテキストの第3章A.B.Cを読み質問事項をまとめておく事。（2時間）
　事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。（2時間）

第６回：保健統計２（生命表、平均寿命、健康寿命、疾病統計）
事前学習：授業前にテキストの第３章D.E.Fを読み質問事項をまとめておく事。（２時間）
事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。（２時間）
第７回：健康づくり（健康の生物社会心理学モデル、生活習慣病・NCDの概念、健康日本21　グループワーク）
事前学習：授業前にテキストの第５章Aを読み、それぞれについて説明できる様にまとめておく事。（２時間）
事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。（２時間）
第８回：生活習慣と健康１（身体活動・運動、喫煙）
事前学習：授業前にテキストの第５章C.D.を読み質問事項をまとめておく事。（２時間）
事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。（２時間）
第９回：生活習慣と健康２（飲酒、睡眠・休養・ストレス、歯科保健）
事前学習：授業前にテキストの第５章E.F.Gを読み質問事項をまとめておく事。（２時間）
事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、配布された問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。（２時間）
第10回：主要疾患の疫学と予防１（生活習慣病）
事前学習：授業前にテキストの第６章A.B.Cを読み質問事項をまとめておく事。（２時間）
事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。（２時間）
第11回：主要疾患の疫学と予防２（感染症、精神疾患、自殺、不慮の事故、虐待暴力）
事前学習：授業前にテキストの第６章E.F.G.Hを読み質問事項をまとめておく事。（２時間）
事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。（２時間）
第12回：社会保障（医療制度、福祉制度、地域の保健予防システム）
事前学習：授業前にテキストの第７章、第８章を読み質問事項をまとめておく事。（２時間）
事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。（２時間）
第13回：高齢者・成人の健康管理、母子の健康管理、産業保健
事前学習：授業前にテキストの第10章、第11章。第12章を読み質問事項をまとめておく事。（２時間）
事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。（２時間）
第14回：学校の健康管理、国際保健
事前学習：授業前にテキストの第13章、第14章を読み質問事項をまとめておく事。（２時間）
事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。（２時間）
第15回：まとめ
事前学習：授業前にこれまで学修した事を復習し、質問事項をまとめておく事。（２時間）
事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。（２時間）
第16回：定期試験

授業実施方法（面接授業・遠隔授業）

原則として「面接授業」を行います。
ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。
遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成　績　評　価　方　法

定期試験（80％）、平常点（20％）割合は授業形態、試験形態により変わる事があります。
（平常点は、授業への参加状況・受講態度・小試験の成績等を総合して判断します）

成　績　評　価　基　準

健康の概念とその歴史的概念および個人、集団（市町村、学校、職場など）の健康状態を把握するための健康指標、健康教育と健康管理など実践の技術、背景となる法律などについて説明できる。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

1）授業時の課題に対するフィードバックについて
□授業時　□■仁大eラーニング　□メール　□その他
2）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
3）小レポートに対するフィードバックについて
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
4）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
□定期試験時　■仁大eラーニング　□メール　□その他
5）その他
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他

実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)

経歴：（健康運動指導士）
実務経験と授業内容との関連性：（薬剤師として医療提供施設での実務経験と健康運動指導士としてのスポーツ・健康増進関連施設での実務経験を活かし、人体の構造と機能がどのように密接に関連しているのかを理解できるように教授する。また正常な個体として人体が行う食事、運動、休養などの基本的生活活動の機構、並びに環境変化に対する対応機構も実際の傷病者での回復経験等もふまえて解説する。）

テキスト、参考図書

健康・栄養科学シリーズ　社会・環境と健康　2024-25　南江堂
講義時にプリントを配布する。

その他(受講上の注意)

講義中の私語は厳重に禁止し、減点対象とする。疑問点や不明点があればすぐに質問すること。

オフィスアワー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

基礎生化学 (Fundamental Biochemistry)			担当教員	尼子　克己
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−A−2212	2単位	2年前期	講義	必修

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科専門科目　専門基礎分野

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

栄養管理を行い、チーム医療の一員として貢献できる能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識･技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成･社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解･自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

管理栄養士国家試験受験資格（必修）、栄養士免許（必修）、食品衛生管理者・食品衛生監視員任用資格（選択）

授業の内容

管理栄養士が行う栄養指導等の業務内容は、これまでに明らかにされてきた生体内分子反応、すなわち生化学的な人体の理解が前提となっている。そうした観点から、本講義では生体構成成分の構造と機能および生体物質の代謝・動態を中心にして、人体の構造と機能を体系的に理解する。先ず、細胞・細胞小器官の構造と機能、生体成分の構造と機能を学ぶ。次いで、エネルギー代謝、糖質代謝、脂質代謝、タンパク質・アミノ酸代謝、核酸の構造・機能と代謝についてその詳細を学ぶ。無機質代謝、ホルモンやビタミンの機能と作用メカニズム、血液、免疫のしくみについても学習する。

授業の到達目標

①生体構成の階層性、細胞・細胞小器官の構造と機能および各生体成分の構造と機能を説明することができる。
②エネルギー代謝の統合性を理解した上で、糖質代謝、糖尿病、脂質代謝、高脂血症と動脈硬化、メタボリックシンドロームおよびタンパク質・アミノ酸代謝について、相互の関連性を含めて説明することができる。
③核酸の構造・機能と代謝、無機質代謝、代謝へのホルモン機能と作用メカニズム、ビタミンの化学的性質と役割、血液、免疫のしくみなどについて、体系的に説明することができる。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習（PBL）　■討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　□グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　□発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等）　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：はじめに：学習目標の理解、人体の構成：細胞・細胞小器官・生体膜の構造と機能
　事前学習：指定したビデオ教材を事前に閲覧すること。テキスト第1章を読み、疑問点を整理しておくこと。（2時間）
　事後学習：テキストの章末問題、および講義時に配布する演習問題に取り組むこと。また、講義時に指摘した重要語句について、その意味と相互関係について確認すること。（2時間）
第2回：糖質の構造と機能
　事前学習：指定したビデオ教材を事前に閲覧すること。テキスト第2章を読み、疑問点を整理しておくこと。（2時間）
　事後学習：テキストの章末問題、および講義時に配布する演習問題に取り組むこと。また、講義時に指摘した重要語句について、その意味と相互関係について確認すること。（2時間）
第3回：脂質の構造と機能
　事前学習：指定したビデオ教材を事前に閲覧すること。テキスト第3章を読み、疑問点を整理しておくこと。（2時間）
　事後学習：テキストの章末問題、および講義時に配布する演習問題に取り組むこと。また、講義時に指摘した重要語句について、その意味と相互関係について確認すること。（2時間）

第４回：たんぱく質の構造と機能
事前学習：指定したビデオ教材を事前に閲覧すること。テキスト第４章を読み、疑問点を整理しておくこと。（２時間）
事後学習：テキストの章末問題、および講義時に配布する演習問題に取り組むこと。また、講義時に指摘した重要語句について、その意味と相互関係について確認すること。（２時間）
第５回：酵素の機能
事前学習：指定したビデオ教材を事前に閲覧すること。テキスト第５章を読み、疑問点を整理しておくこと。（２時間）
事後学習：テキストの章末問題、および講義時に配布する演習問題に取り組むこと。また、講義時に指摘した重要語句について、その意味と相互関係について確認すること。（２時間）
第６回：エネルギー代謝：ATPの役割、電子伝達系、リン酸化
事前学習：指定したビデオ教材を事前に閲覧すること。テキスト第６章２節および５節を読み、疑問点を整理しておくこと。（２時間）
事後学習：テキストの章末問題、および講義時に配布する演習問題に取り組むこと。また、講義時に指摘した重要語句について、その意味と相互関係について確認すること。（２時間）
第７回：糖質代謝：解糖系、クエン酸回路、ペントースリン酸回路
事前学習：指定したビデオ教材を事前に閲覧すること。テキスト第６章１，３，および４説を読み、疑問点を整理しておくこと。（２時間）
事後学習：テキストの章末問題、および講義時に配布する演習問題に取り組むこと。また、講義時に指摘した重要語句について、その意味と相互関係について確認すること。（２時間）
第８回：糖新生と糖質の合成
事前学習：指定したビデオ教材を事前に閲覧すること。テキスト第６章６節を読み、疑問点を整理しておくこと。（２時間）
事後学習：テキストの章末問題、および講義時に配布する演習問題に取り組むこと。また、講義時に指摘した重要語句について、その意味と相互関係について確認すること。（２時間）
第９回：脂質代謝：脂肪酸の生合成と分解
事前学習：指定したビデオ教材を事前に閲覧すること。テキスト第７章１～６節を読み、疑問点を整理しておくこと。（２時間）
事後学習：テキストの章末問題、および講義時に配布する演習問題に取り組むこと。また、講義時に指摘した重要語句について、その意味と相互関係について確認すること。（２時間）
第10回：脂質代謝：コレステロール代謝
事前学習：指定したビデオ教材を事前に閲覧すること。テキスト第７章７および８節を読み、疑問点を整理しておくこと。（２時間）
事後学習：テキストの章末問題、および講義時に配布する演習問題に取り組むこと。また、講義時に指摘した重要語句について、その意味と相互関係について確認すること。（２時間）
第11回：たんぱく質・アミノ酸代謝
事前学習：指定したビデオ教材を事前に閲覧すること。テキスト第８章を読み、疑問点を整理しておくこと。（２時間）
事後学習：テキストの章末問題、および講義時に配布する演習問題に取り組むこと。また、講義時に指摘した重要語句について、その意味と相互関係について確認すること。（２時間）
第12回：核酸とたんぱく質の合成
事前学習：指定したビデオ教材を事前に閲覧すること。テキスト第９章を読み、疑問点を整理しておくこと。（２時間）
事後学習：テキストの章末問題、および講義時に配布する演習問題に取り組むこと。また、講義時に指摘した重要語句について、その意味と相互関係について確認すること。（２時間）
第13回：免疫と生体防御
事前学習：指定したビデオ教材を事前に閲覧すること。テキスト第10章を読み、疑問点を整理しておくこと。（２時間）
事後学習：テキストの章末問題、および講義時に配布する演習問題に取り組むこと。また、講義時に指摘した重要語句について、その意味と相互関係について確認すること。（２時間）
第14回：ビタミンの栄養
事前学習：指定したビデオ教材を事前に閲覧すること。テキスト第11章を読み、疑問点を整理しておくこと。（２時間）
事後学習：テキストの章末問題、および講義時に配布する演習問題に取り組むこと。また、講義時に指摘した重要語句について、その意味と相互関係について確認すること。（２時間）
第15回：内分泌系
事前学習：指定したビデオ教材を事前に閲覧すること。テキスト第５章Ｂ節を読み、疑問点を整理しておくこと。（２時間）
事後学習：テキストの章末問題、および講義時に配布する演習問題に取り組むこと。また、講義時に指摘した重要語句について、その意味と相互関係について確認すること。（２時間）
第16回：定期試験

授業実施方法(面接授業・遠隔授業)

原則として「面接授業」を行います。
ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。
遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成績評価方法

定期試験50%、小テスト（5回程度実施する）50%を基準に総合的に評価する。

成績評価基準

①細胞・細胞小器官の構造と機能および各生体成分の構造と機能を説明することができるかどうか。
②エネルギー代謝の統合性を理解した上で、糖質代謝、糖尿病、脂質代謝、高脂血症と動脈硬化、メタボリックシンドロームおよびタンパク質・アミノ酸代謝について、相互の関連性を含めて説明することができるか。
③核酸の構造・機能と代謝、無機質代謝、代謝へのホルモン機能と作用メカニズム、ビタミンの化学的性質と役割、血液、免疫のしくみなどについて、体系的に説明することができるか。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

1）授業時の課題に対するフィードバックについて
■授業時　■仁大eラーニング　□メール　□その他（小テストの答案を採点し返却する）
2）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
□授業時　■仁大eラーニング　□メール　■その他（講義や補足事項を記録したビデオをOffice365内で閲覧可能とする。小テストの解答解説をe-ラーニングに掲示する）
3）小レポートに対するフィードバックについて
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
4）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
■定期試験時　□仁大eラーニング　□メール　■その他（解答例を配布し、質問および結果照会を受け付ける。）
5）その他
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他

実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)

テキスト、参考図書

テキスト：岡ら編・「Nブックス生化学の基礎」(建帛社・2020) および　講義用配布資料
授業で直接は取り扱わないが、薗田編・「栄養科学イラストレイテッド演習版 生化学ノート」(第3版・羊土社・2017) やこれに類似する書き込み式の生化学ノートは、基礎生化学およびその周辺で扱う用語を覚えるためのドリルとして活用できるので推奨する。
参考図書：
（1）山口編、成田著・「基礎からしっかり学ぶ生化学」・羊土社・2014年。管理栄養士課程用に編集されたものではないが、より論理的に理解したい学生に適した記述となっている。
（2）入村ら監訳・「ストライヤー生化学第7版」東京化学同人・2013年。体系的かつ詳細な内容。管理栄養士課程としての学修で通読は求めないが、リファレンス的用途に適する。

その他(受講上の注意)

①　1年次に履修した基礎化学、生物学、有機化学、基礎栄養学などの授業内容を、復習しておくこと。
②　遅刻、欠席、私語等は、授業の理解の妨げになるので、厳に慎むこと。

オフィスアワー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

栄養生化学 (Nutritional Biochemistry)			担当教員	池田　涼子
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−A−2213	2単位	2年後期	講義	必修

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科専門科目　専門基礎分野

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>　正常な人体の仕組みについて、細胞レベルから組織器官レベルまでの機能を理解する。

求める学習成果(教育目標)

栄養管理を行い、チーム医療の一員として貢献できる能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識･技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成･社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解･自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

管理栄養士国家試験受験資格（必修）
栄養士免許（必修）
食品衛生管理者・食品衛生監視員任用資格（選択）

授業の内容

生体を構成する物質や栄養素が生体内で受ける代謝と生理的意義について学ぶ。
微量栄養素間の生体内相互作用については特に重要視し、理解を深める。

授業の到達目標

・微量栄養素の消化・吸収過程および生体内での動態・代謝について理解する。
・エネルギー代謝の各ポイントに関与する微量栄養素について総合的に説明できる。
・骨代謝に関連する栄養素について十分に説明できる。
・造血作用に関連する栄養素について十分に説明できる。
・生体内抗酸化作用に関連する栄養素について十分に説明できる。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　□グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　□発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等）　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：エネルギー代謝　～エネルギーの変換と利用～
　事前学習：生体内のエネルギー物質について整理し、質問項目をまとめる。（2時間）
　事後学習：TCA回路と電子伝達系の共役について、学習内容を整理する。（2時間）
第2回：タンパク質の代謝　～糖原性アミノ酸とケト原性アミノ酸～
　事前学習：アミノ酸を糖原性とケト原性に分類し、質問項目をまとめる。（2時間）
　事後学習：アミノ酸由来の糖新生経路について、学習内容を整理する。（2時間）
第3回：糖質の代謝（1）～フルクトース代謝とグリセロール合成～
　事前学習：フルクトース,グリセロール,ジヒドロキシアセトンリン酸の構造式を調べ、ノートにまとめる。（2時間）
　事後学習：フルクトース代謝とグリセロール代謝の接点となる物質について、学習内容を整理する。（2時間）
第4回：糖質の代謝（2）～ガラクトース代謝、ペントースリン酸経路～
　事前学習：解糖系のマップをノートにまとめる。（2時間）
　事後学習：上記のマップにガラクトース代謝、ペントースリン酸系の合流を記入する。（2時間）
第5回：糖質の代謝（3）～糖新生経路～
　事前学習：解糖系の各段階を詳細に確認し、糖新生経路との相違点を整理する。（2時間）
　事後学習：解糖系と糖新生経路の相違点についてその意義を考察する。（2時間）
第6回：脂質の代謝 ～コレステロールの代謝と機能～
　事前学習：食品・生体に含まれるステロイド類について確認し、ノートにまとめる。（2時間）
　事後学習：コレステロールの合成経路について、学習内容を整理する。（2時間）

第７回：物質の輸送
　　事前学習：受動輸送、能動輸送について教科書の該当ページに目を通し内容を把握しておく。（２時間）
　　事後学習：物質の輸送系、能動輸送と受動輸送についてノートに整理する。表にするとよい。（２時間）
第８回：微量栄養素の吸収と体内動態
　　事前学習：微量栄養素を水溶性と脂溶性に分類し、ノートにまとめる。（２時間）
　　事後学習：各微量栄養素の輸送系、能動輸送と受動輸送についてノートにまとめる（２時間）
第９回：物質代謝を調節するもの① ～補因子としてのミネラル～
　　事前学習：酵素のはたらきと性質を確認し、質問項目をまとめる。（２時間）
　　事後学習：主要な酵素およびその補因子となるミネラルについて一覧表を作成する。（２時間）
第10回：物質代謝を調節するもの②～エネルギー代謝～
　　事前学習：ビタミンB群の生理作用を確認し、質問項目をまとめる。（２時間）
　　事後学習：補酵素と補欠分子族についてそれぞれの役割を総括する。（２時間）
第11回：核酸の代謝
　　事前学習：核酸の構造を確認し、質問項目をまとめる。（２時間）
　　事後学習：核酸の代謝経路について、学習内容を整理する。（２時間）
第12回：微量栄養素の生体内相互作用① ～ビタミンAとビタミンD～
　　事前学習：ビタミンAおよびDの生理作用について確認し、質問項目をまとめる。（２時間）
　　事後学習：「核内受容体」などタンパク質の合成に関わる因子ついて確認する。（２時間）
第13回：微量栄養素の生体内相互作用② ～骨代謝と微量栄養素～
　　事前学習：骨代謝に関連するホルモンの名称と作用を確認する。（２時間）
　　事後学習：骨代謝に関連する栄養素、ホルモンをノートに整理する。（２時間）
第14回：微量栄養素の生体内相互作用③ ～造血作用と微量栄養素～
　　事前学習：造血幹細胞から赤血球までに分化の過程をを確認する。（２時間）
　　事後学習：造血作用に関連する栄養素、ホルモンをノートに整理する。（２時間）
第15回：微量栄養素の生体内相互作用④ ～生体内脂質過酸化と微量栄養素～
　　事前学習：脂質過酸化について確認し、質問項目をまとめる。（２時間）
　　事後学習：生体内および食品における抗酸化作用の意義についてまとめる。（２時間）
第16回：定期試験

・レポート・課題などについては適宜授業内で支持する。
・学習する各単元ごとの重要なキーワードを各自でノートにファイルすることをすすめる。
・栄養・食品・からだに関する興味ある雑誌・単行本を読む習慣をつけると良い。

授業実施方法（面接授業・遠隔授業）

原則として「面接授業」を行います。
ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。
遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成　績　評　価　方　法

定期試験（70%）、レポート・課題など（20%）、平常点（10%）
平常点は、授業への参加状況、授業態度などを総合して判断する。

成　績　評　価　基　準

・食物成分の生体での異化作用、同化作用について説明できる。
・各栄養素の代謝について説明できる。
・エネルギーの変換と利用について説明できる。
・生命維持において物質代謝が恒常性のもとに滞りなく行われることを説明できる。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック

１）授業時の課題に対するフィードバックについて
　■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
２）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
　■授業時　■仁大eラーニング　□メール　□その他
３）小レポートに対するフィードバックについて
　■授業時　■仁大eラーニング　□メール　□その他
４）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
　■定期試験時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
５）その他
　□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他

実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）

テキスト、参考図書
教科書：池田涼子 共著 「基礎から学ぶ生化学」 南江堂 参考図書：西村直道 著 「いちばんやさしい代謝ドリル」 講談社 中屋豊・宮本賢一 編著 「エッセンシャル 基礎栄養学」 医歯薬出版 木村修一・古野純典 翻訳監修 「最新栄養学 ── 専門領域の最新情報 ──」 建帛社 ※その他必要に応じ適宜紹介する。
その他（受講上の注意）
不明な点や疑問があれば随時、Teams、moodle（e-ラーニング）を用いて質問にすること。
オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

基礎生化学実験 (Experiments in Biochemistry)			担当教員	尼子　克己
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−E−2214	1単位	2年後期	実験	必修

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科専門科目　専門基礎分野

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

コミュニケーション能力、論理的思考力、判断力ならびに表現力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識･技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成･社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解･自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

管理栄養士国家試験受験資格（必修）、栄養士免許（必修）、食品衛生管理者・食品衛生監視員任用資格（選択）

授業の内容

生化学の基本である生体成分の性質、酵素の特性ならびに遺伝子の性質を、それらに関する実験実技の閲覧と解説を通して理解する。更に提示した実験結果を基に実験報告書（レポート）を作成し提出する。授業内容・学生の理解度に応じて課題を与えることがある。生化学実験は、一般の科学実験と同様に実験を遂行するにあたり基礎的な知識が必要であるとともに、慎重かつ細やかな観察力が不可欠である。実験の再現性を高めるために必要な事項、ならびに実験結果から推察される事象を論理的に導くことに意識する。

授業の到達目標

正常な人体の仕組みについて、個体とその機能を構成する遺伝子レベル細胞レベルから組織・器官レベルまでの構造や機能を実験を通して理解する。実験の基礎的な手法を習得するとともに、生化学の教科書の記載に体験を伴った理解を加えることを到達目標とする。具体的には、①生化学実験の基礎的な手法、実験からレポート提出に至る一連の作業の記録・整理方法を習得する。②各種測定の原理を理解する。③酵素の基本的性質と栄養素・生体成分の性質と代謝について、教科書の記載と実験結果の関係を合理的に説明できる。④DNAの構造と性質、遺伝子検査技術の原理とそれに基づいた遺伝型判定について、正しい実験操作を理解し、原理に基づいて結果を正しく説明できる。ことが目標となる。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習（PBL）　■討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　□グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　□発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等）　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：ガイダンス、および測定の基本原理－1：ピペッター操作の説明、基本統計量の計算
第2回：測定の基本原理－2　分光光度計の原理・色と波長（実験）
第3回：測定の基本原理－3　緩衝液の調製とその役割（実験）
第3回：生体の成分の分析－1　糖類の定量（1）（実験）
第4回：生体の成分の分析－2　糖類の定量（2）（実験）
第5回：生体の成分の分析－3　ビタミンの定量（実験）
第6回：酵素の基本的性質－1　酵素活性の測定
第7回：酵素の基本的性質－2　最適pH（実験）
第8回：酵素の基本的性質－3　ミカエリス定数Kmと最大反応速度Vmax（実験）
第9回：酵素の基本的性質－4　最適温度、活性化エネルギーEa（実験）
第10回：酵素の基本的性質－5　データ分析（シミュレーション、非線形最小二乗法、対数変換）
第11回：遺伝子の解析－1　遺伝子検査（1）：ゲノムDNAの分離（実験）とPCR
第12回：遺伝子の解析－2　遺伝子検査（2）：アガロースゲル電気泳動と制限酵素処理（実験）
第13回：遺伝子の解析－3　遺伝子検査（3）：RFLPによるSNPs解析（実験）
第14回：たんぱく質の分離分析－1　カラムクロマトグラフィーとたんぱく質の定量（実験）
第15回：たんぱく質の分離分析－2　SDS-ポリアクリルアミドゲル電気泳動（実験）

第16回：定期試験
授業内で出題される課題について調べ、まとめる。実験レポートについては原理・考察を記述する際に必ず参考文献を引用し、出典を明記すること。各回のキーワードは生化学を修得するための基本となるため、よく理解するよう努めること。実験の原理や操作、考察課題に関する授業時間中の説明はビデオ撮影し、講義期間全体を通じてMicrosoft Streamにて閲覧可能とするので、そこで触れた内容についての疑問点はまずビデオを閲覧して、どこがどうわからないのか疑問点を整理した上で担当教員に尋ねること。

授業実施方法（面接授業・遠隔授業）

原則として「面接授業」を行います。
ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。
遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成　績　評　価　方　法

レポートの採点70%、定期試験20%および授業への取り組み姿勢10%を基準に総合的に評価する。

成　績　評　価　基　準

生化学実験の基礎的な手法、実験からレポート提出に至る一連の作業の記録・整理方法が習得できているか。各種測定の原理を理解しているか。酵素の基本的性質と栄養素・生体成分の性質と代謝について、教科書の記載と実験結果の関係を合理的に説明できるか。DNAの構造と性質、遺伝子検査技術の原理とそれに基づいた遺伝型判定について、正しく実験操作を行い、原理に基づいて結果を正しく説明できるか。を基準とする。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック

1）授業時の課題に対するフィードバックについて
□授業時　■仁大eラーニング　□メール　■その他（Teamsのチャット）
2）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
□授業時　■仁大eラーニング　□メール　■その他（Teamsのチャット）
3）小レポートに対するフィードバックについて
□授業時　■仁大eラーニング　□メール　□その他
4）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
□定期試験時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
5）その他
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他

実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）

テ キ ス ト 、 参 考 図 書

テキスト：独自に作成した実験書を分冊して配布する。授業内容に応じて適宜、参考図書の紹介、資料の配布をおこなう。
参考図書：はじめてみよう生化学実験　山本克博編　三共出版　2008年
生命科学のための化学実験　高橋知義他編　東京教学社　2007年
Nブックス実験シリーズ　生化学実験　後藤潔編　建帛社　2009年
栄養生化学実験　廣田才之編　共立出版　1997年
栄養科学イラストレイテッド　生化学実験　羊土社　2023年

その他（受講上の注意）

レポートは提出期限を厳守すること。期限外の提出は原則として認めない。また、期限内に提出された場合でも内容不十分な場合は再提出となることがある。また、盗用・剽窃に対しては厳格に対処する。

オ フ ィ ス ア ワ ー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

臨床医学概論 (Medical Science Compendium)			担当教員	齋藤　正一
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−A−2217	2単位	2年後期	講義	必修

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科専門科目　専門基礎分野

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

栄養管理を行い、チーム医療の一員として貢献できる能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識･技能　■論理的思考力と創造力　■人間関係形成･社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
□自己理解･自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

管理栄養士国家試験受験資格（必修）、栄養士免許（必修）

授業の内容

栄養アセスメント、栄養療法を適切に行うためには、患者の病態を正確に把握することが重要である。その前提として、各種疾患の病因、機序、症状、診断、食事療法も含めた治療、予防について講義する。

授業の到達目標

患者の病態を正確に把握し栄養指導、栄養療法を行ううえで必要な、各種疾患の病因、機序、症状、診断、食事療法も含めた治療、予防について説明できる。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習（PBL）　■討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　□発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等）　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：臨床医学における診療、代謝性疾患
　事前学習：授業前に基礎医学と臨床医学との相違、必要性、臨床医学における診療科と取り扱う疾患、代謝性疾患について、学習しまとめておく事。（2時間）
　事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。（2時間）
第2回：糖尿病（分類、診断、合併症、治療）
　事前学習：授業前にテキストの該当箇所を読み、さらにインスリンの作用、糖尿病の分類、診断基準、合併症、治療についてまとめておく事（2時間）
　事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。（2時間）
第3回：栄養障害
　事前学習：授業前にテキストの該当箇所を読み、糖尿病の合併症と治療、栄養障害について質問事項をまとめておく事（2時間）
　事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。（2時間）
第4回：肥満とメタボリックシンドローム、脂質異常症
　事前学習：授業前にテキストの該当箇所を読み、質問事項をまとめておく事（2時間）
　事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。（2時間）
第5回：ビタミン・微量元素欠乏症、過剰症（グループワーク、ディスカッション）
　事前学習：授業前にテキストの該当箇所にある表の疾患についてしらべておく事。（2時間）
　事後学習：授業で配布された資料、発表のまとめを再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。（2時間）

第６回：先天代謝異常
事前学習：授業前にテキストの該当箇所を読み、質問事項をまとめておく事。（２時間）
事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。（２時間）
第７回：呼吸器疾患
事前学習：授業前にテキスの該当箇所を読み、質問事項をまとめておく事。（２時間）
事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。（２時間）
第８回：運動器疾患
事前学習：授業前にテキストの該当箇所を読み、質問事項をまとめておく事。（２時間）
事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。（２時間）
第９回：妊娠合併症　血液疾患
事前学習：授業前にテキストの該当箇所を読み、質問事項をまとめておく事。（２時間）
事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。（２時間）
第10回：感染症
事前学習：授業前にテキストの該当箇所を読み、質問事項をまとめておく事。（２時間）
事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。（２時間）
第11回：動脈硬化症、高血圧、心疾患
事前学習：授業前にテキストの該当箇所を読み、質問事項をまとめておく事。（２時間）
事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。（２時間）
第12回：電解質異常、酸塩基平衡異常
事前学習：授業前にテキストの該当箇所を読み、電解質異常、酸塩基平衡異常をきたす機序および疾患についてしらべておく事。（２時間）
事後学習：授業で配布された資料、発表のまとめを再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。（２時間）
第13回：腎疾患
事前学習：授業前にテキストの該当箇所を読み、質問事項をまとめておく事。（２時間）
事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。（２時間）
第14回：消化管の疾患
事前学習：授業前にテキストの該当箇所を読み、質問事項をまとめておく事。（２時間）
事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。（２時間）
第15回：肝疾患、膵疾患
事前学習：授業前にテキストの該当箇所を読み、質問事項をまとめておく事。（２時間）
事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。（２時間）
第16回：定期試験

授業実施方法（面接授業・遠隔授業）

原則として「面接授業」を行います。
ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。
遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成　績　評　価　方　法

定期試験（80％）、平常点（20％）　割合は授業形態、試験形態により変わる事があります。
（平常点は、授業への参加状況・受講態度・小テストの成績等を総合して判断します）

成　績　評　価　基　準

患者の病態を正確に把握し栄養指導、栄養療法を行ううえで必要な、各種疾患の病因、機序、診断、症状、治療、予防について説明できる。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

1）授業時の課題に対するフィードバックについて
□授業時　■仁大eラーニング　□メール　□その他
2）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
3）小レポートに対するフィードバックについて
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
4）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
■定期試験時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
5）その他
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他

実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)

経歴：（医師）
実務経験と授業内容との関連性：（病院での実務経験を活かし、患者の病態を正確に把握し栄養指導、栄養療法を行ううえで必要な、各種疾患の病因、機序、症状、診断、食事療法も含めた治療、予防法などに関する講義を展開する。）

テキスト、参考図書

サクセス管理栄養士・栄養士養成講座 解剖生理学・病理学　第一出版（一年次、解剖生理学、病理学で使用したテキストを使用）

その他(受講上の注意)

講義中の私語は厳重に禁止し、減点対象とする。疑問点や不明点があればすぐに質問すること。

オフィスアワー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

運動生理学 (Exercise Physiology)			担当教員	鳴瀬　碧
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−B−2218	2単位	2年前期	講義	必修

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科専門科目　専門基礎分野

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

栄養状態を把握し、個別栄養評価プログラムを提案し、行動変容を支援できる能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識･技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成･社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解･自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

管理栄養士国家試験受験資格（必修）、栄養士免許（必修）

授業の内容

運動はスポーツ選手のみならず一般の人々の体力づくりや健康の維持・増進に欠くことができない。しかし、運動の効果は運動の種類、強度、時間、頻度などによって異なるため運動についての正しい知識が求められる。筋収縮の機序、運動時の代謝、生理機能の変化、健康増進のための運動、疾患の運動療法などについて学ぶ。

授業の到達目標

筋収縮の機序、運動時の代謝、生理機能の変化、健康増進のための運動、疾患の運動療法などについて説明できる。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　□グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　□発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等）　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：健康と運動
　事前学習：「健康の保持・増進」と運動の関係について、テキスト巻頭「はじめに」p.iii－iv、p.135－137、p.149－150を読み、また新聞・ニュース・書籍等で情報を収集するなどして、質問事項をまとめておくこと（2時間）
　事後学習：授業内容を復習し、:「健康の保持・増進」と運動の関係についてノートにまとめること（2時間）
第2回：安静時と運動時のエネルギー代謝
　事前学習：テキスト第1章を読み、質問事項をまとめておくこと（2時間）
　事後学習：授業内容を復習し、ノートにまとめておくこと（2時間）
第3回：運動と身体組成
　事前学習：テキスト第2章を読み、質問事項をまとめておくこと（2時間）
　事後学習：授業内容を復習し、ノートにまとめておくこと（2時間）
第4回：運動と呼吸・循環器系の機能①
　事前学習：テキスト第3章p.29－33、p.34－35を読み、質問事項をまとめておくこと（2時間）
　事後学習：授業内容を復習し、ノートにまとめておくこと（2時間）
第5回：運動と呼吸・循環器系の機能②
　事前学習：テキスト第3章p.33－34、p.35－37を読み、質問事項をまとめておくこと（2時間）
　事後学習：授業内容を復習し、ノートにまとめておくこと（2時間）
第6回：運動と骨格筋の機能
　事前学習：テキスト第4章を読み、質問事項をまとめておくこと（2時間）
　事後学習：授業内容を復習し、ノートにまとめておくこと（2時間）
第7回：運動と神経系の機能
　事前学習：テキスト第4章p.51－52を読み、質問事項をまとめておくこと（2時間）
　事後学習：授業内容を復習し、ノートにまとめておくこと（2時間）

第８回：運動と中間代謝・内分泌系の機能①
　　事前学習：テキスト第５章p.57－60を読み、質問事項をまとめておくこと（２時間）
　　事後学習：授業内容を復習し、ノートにまとめておくこと（２時間）
第９回：運動と中間代謝・内分泌系の機能②
　　事前学習：テキスト第５章p.60－63を読み、質問事項をまとめておくこと（２時間）
　　事後学習：授業内容を復習し、ノートにまとめておくこと（２時間）
第10回：運動と中間代謝・内分泌系の機能③
　　事前学習：テキスト第５章p.63－69を読み、質問事項をまとめておくこと（２時間）
　　事後学習：授業内容を復習し、ノートにまとめておくこと（２時間）
第11回：環境と運動・栄養①
　　事前学習：テキスト第６章p71－78を読み、質問事項をまとめておくこと（２時間）
　　事後学習：授業内容を復習し、ノートにまとめておくこと（２時間）
第12回：環境と運動・栄養②
　　事前学習：テキスト第６章p78－83を読み、質問事項をまとめておくこと（２時間）
　　事後学習：授業内容を復習し、ノートにまとめておくこと（２時間）
第13回：体力・運動能力に及ぼす栄養摂取の影響Ⅰ（糖質・たんぱく質・脂質）
　　事前学習：テキスト第７章を読み、質問事項をまとめておくこと（２時間）
　　事後学習：授業内容を復習し、ノートにまとめておくこと（２時間）
第14回：体力・運動能力に及ぼす栄養摂取の影響Ⅱ①（ビタミン・ミネラル・その他）
　　事前学習：テキスト第８章p.95－104読み、質問事項をまとめておくこと（２時間）
　　事後学習：授業内容を復習し、ノートにまとめておくこと（２時間）
第15回：体力・運動能力に及ぼす栄養摂取の影響Ⅱ②（運動時の食事内容と摂取のタイミング）
　　事前学習：テキスト第８章p.104－109読み、質問事項をまとめておくこと（２時間）
　　事後学習：授業内容を復習し、ノートにまとめておくこと（２時間）
第16回：定期試験

予習では、各回の講義の前にテキストを読んで概要を把握し、疑問点を整理しておく。講義を受けた後は、講義ノートや配布資料を見直して復習し、日常生活におけるスポーツや運動の効果について理解や関心を深める。

授業実施方法（面接授業・遠隔授業）

原則として「面接授業」を行います。ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成　績　評　価　方　法

定期試験（80％）、平常点（20％）。平常点は、授業への参加状況、受講態度等を総合して判断します。

成　績　評　価　基　準

筋収縮の機序、運動時の代謝、生理機能の変化、健康増進のための運動、疾患の運動療法などについて説明できている。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック

１）授業時の課題に対するフィードバックについて
　□授業時　□仁大eラーニング　□メール　■その他（Teams）
２）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
　■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
３）小レポートに対するフィードバックについて
　□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
４）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
　□定期試験時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
５）その他（質問に対するフィードバックについて）
　■授業時　■仁大eラーニング　■メール　■その他（Teams）

実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）

経歴：（健康運動指導士・ピラティストレーナー・薬剤師）
実務経験と授業内容との関連性：（スポーツ・健康増進関連施設での実務経験、健康運動指導士・ピラティストレーナー（個人事業主）としての実務経験を活かし、身体の構造と機能および運動時の生理機能の変化、健康増進のための運動、生活習慣病予防・改善のための運動と栄養、薬物療法中の運動のリスク等について解説する。また、スポーツと栄養についての講義では、スポーツファーマシストとして、アスリートのサポートを行ってきた経験も交えて授業を展開する。）

テキスト、参考図書
樋口満監修・湊久美子／寺田新編集、「－栄養・スポーツ系の－運動生理学」、南江堂
その他（受講上の注意）
講義で学んだ知識を日常の生活や身体運動に活用できるようにすること。
オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

食品加工学 (Food Processing)			担当教員	小林　恭一
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−D−2224	2単位	2年前期	講義	選択

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科専門科目　専門基礎分野

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

基礎研究および食品開発ができる能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識･技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成･社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解･自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

管理栄養士国家試験受験資格（必修）、栄養士免許（必修）、食品衛生管理者・食品衛生管理者任用資格（選択）

授業の内容

現代の食生活において、加工食品は欠かせないものとなっている。
食品加工の目的は、原料農林水産物の保存・品質保持、栄養性・嗜好性の向上、利便性・輸送性・経済性の向上などだが、これら食品加工の意義･目的に触れながら、食品保存及び食品加工の原理を解説する。
また、個々の加工食品ごとの加工操作の特徴･方法及び技術についても紹介し、さらに新しい食品加工技術、食品の規格や表示についても解説する。

授業の到達目標

食品加工の原理･方法･技術について理解することを目標とする。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習（PBL）　■討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　□グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　□発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等）　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：はじめに、食品加工の意義および目的
　　事後学習：食品加工の意義、目的についてノートにまとめること（2時間）
第2回：食品の加工時における変化
　　事前学習：配られたプリントの第2回分について事前に目を通し理解しておくこと（2時間）
　　事後学習：補足内容や疑問点は図書館などで調べ、講義内容をノートににまとめておくこと（2時間）
第3回：食品保存の原理（1）、食品の劣化要因（生物的要因、化学的要因、物理的要因）
　　事前学習：配られたプリントの第3回分について事前に目を通し理解しておくこと（2時間）
　　事後学習：補足内容や疑問点は図書館などで調べ、講義内容をノートににまとめておくこと（2時間）
第4回：食品保存の原理（2）、温度操作･水分制御･pHの調節による保存
　　事前学習：配られたプリントの第4回分について事前に目を通し理解しておくこと（2時間）
　　事後学習：補足内容や疑問点は図書館などで調べ、講義内容をノートににまとめておくこと（2時間）
第5回：食品の保存原理（3）、殺菌･食品添加物による保存（討議）
　　事前学習：配られたプリントの第5回分について事前に目を通し理解しておくこと（2時間）
　　事後学習：補足内容や疑問点は図書館などで調べ、講義内容をノートににまとめておくこと（2時間）
第6回：穀類の加工
　　事前学習：配られたプリントの第6回分について事前に目を通し理解しておくこと（2時間）
　　事後学習：補足内容や疑問点は図書館などで調べ、講義内容をノートににまとめておくこと（2時間）
第7回：豆類・いも類の加工
　　事前学習：配られたプリントの第7回分について事前に目を通し理解しておくこと（2時間）
　　事後学習：補足内容や疑問点は図書館などで調べ、講義内容をノートににまとめておくこと（2時間）
第8回：野菜類・果実類の加工
　　事前学習：配られたプリントの第8回分について事前に目を通し理解しておくこと（2時間）
　　事後学習：補足内容や疑問点は図書館などで調べ、講義内容をノートににまとめておくこと（2時間）

第９回：畜肉類･乳類・卵の加工
　　事前学習：配られたプリントの第９回分について事前に目を通し理解しておくこと（２時間）
　　事後学習：補足内容や疑問点は図書館などで調べ、講義内容をノートににまとめておくこと（２時間）
第10回：水産物の加工、魚介類の成分特性、魚介類の加工
　　事前学習：配られたプリントの第10回分について事前に目を通し理解しておくこと（２時間）
　　事後学習：補足内容や疑問点は図書館などで調べ、講義内容をノートににまとめておくこと（２時間）
第11回：発酵食品
　　事前学習：配られたプリントの第11回分について事前に目を通し理解しておくこと（２時間）
　　事後学習：補足内容や疑問点は図書館などで調べ、講義内容をノートににまとめておくこと（２時間）
第12回：食用油脂、調味料
　　事前学習：配られたプリントの第12回分について事前に目を通し理解しておくこと（２時間）
　　事後学習：１．補足内容や疑問点は図書館などで調べ、講義内容をノートににまとめておくこと（２時間）
　　２．授業で課されたテーマについて、レポートにまとめておくこと。（２時間）
第13回：香辛料･嗜好飲料類
　　事前学習：配られたプリントの第13回分について事前に目を通し理解しておくこと（２時間）
　　事後学習：補足内容や疑問点は図書館などで調べ、講義内容をノートににまとめておくこと（２時間）
第14回：食品包装（役割･材料･方法）、食品の表示
　　事前学習：配られたプリントの第14回分について事前に目を通し理解しておくこと（２時間）
　　事後学習：補足内容や疑問点は図書館などで調べ、講義内容をノートににまとめておくこと（２時間）
第15回：新しい食品加工技術（討議）
　　事前学習：配られたプリントの第15回分について事前に目を通し理解しておくこと（２時間）
　　事後学習：補足内容や疑問点は図書館などで調べ、講義内容をノートににまとめておくこと（２時間）
第16回：定期試験

授業実施方法（面接授業・遠隔授業）

原則として「面接授業」を行います。
ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。
遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成　績　評　価　方　法

定期試験（70%）　小レポート（20%）　平常点（10%）
（平常点は、授業への参加状況、受講態度等を総合して判断する）

成　績　評　価　基　準

食品加工の原理・方法・技術について理解できたかを判断の基準とします。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック

１）授業時の課題に対するフィードバックについて
　■授業時　□仁大eラーニング　■メール　□その他
２）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
　■授業時　■仁大eラーニング　□メール　□その他
３）小レポートに対するフィードバックについて
　■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
４）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
　■定期試験時　□仁大eラーニング　■メール　□その他
５）その他
　□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他

実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）

テ キ ス ト 、 参 考 図 書

テキストは使用しません。適時プリントを配布します。
参考図書
１）宮尾茂雄/北尾悟編　Nブックス　「四訂　食品加工学」　建帛社（2019）
２）吉田勉編著　「新食品加工学」　医師薬出版（1999）
３）西村公雄編　「食品加工学」　化学同人（2012）
４）小倉長雄ほか　「食品加工学」　建帛社（1998）

その他（受講上の注意）

オ フ ィ ス ア ワ ー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

食品衛生学 (Food Hygiene)			担当教員	野村　卓正
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−A−2226	2単位	2年前期	講義	必修

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科専門科目　専門基礎分野

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

栄養管理を行い、チーム医療の一員として貢献できる能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識･技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成･社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
□自己理解･自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

管理栄養士国家試験受験資格（必修）、栄養士免許（必修）、食品衛生監視員･食品衛生管理者（任用資格）（選択）

授業の内容

食品衛生の概念を理解し、食糧の生産・加工・流通・消費の過程に潜むリスク要因を把握すると同時に、リスクを排除し「食の安全」を担保するための法整備・行政施策・食品関連技術に関する知識を習得する。
── 食品衛生に関する法規・行政制度について理解し、食品が安全であるための原理・原則、食品の安全性の確保の方策などについて理解する ──

授業の到達目標

人の命と健康を守る栄養士/管理栄養士としての【職責】を自覚する。
管理栄養士養成課程において「食品衛生」について学ぶ【意義】を理解する。
過去の重大な食中毒事故事例について把握する。

食品衛生と関連法規について理解する。
食品の生産･流通体制について理解する。
食品の変質による安全性低下とその衛生管理法の原理について理解する。
食中毒の分類と発生状況について理解する。
食中毒の原因物質（微生物･天然自然毒･化学物質等）について理解する。
食品による感染症･寄生虫症について理解する。
食品中の汚染物質について理解する。
食品添加物の種類と管理制度について理解する。
食品衛生管理の制度や手段について理解する。

アクティブ・ラーニング

■課題解決型学習（PBL）　■討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等）　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：食品衛生の定義と目的
　事前学習：第1章（p1～p3）を読み、食品衛生を学ぶ目的を把握する。（1時間）
　事後学習：「食品が安全である」とはどういうことか考察し、食品衛生学を学ぶ目的と到達目標をノートにまとめる。（2時間）
　小テストおよび進捗管理表のオンライン提出の練習。（1時間）

第2回：日本における食品衛生上の課題／【小試験①】
　事前学習：第5章第1節（p33～p39）を読み、食中毒の発生状況の概要を把握する。（1時間）
　事後学習：【小試験①】の誤答問題についてノートを修正する。（1時間）
　「食中毒の分類と発生状況」についてノートにまとめる。（2時間）

第３回：食品衛生管理におけるリスク分析／【小試験②】
事前学習：第14章（p169－p174）を読み、リスク分析の概要を把握する。（１時間）
事後学習：【小試験②】の誤答問題についてノートを修正する。（１時間）
「リスク分析」についてノートにまとめる。（２時間）

第４回：食品中の有害汚染物質①（重金属･放射能･環境汚染物質等）／【小試験③】
事前学習：第８章第３～５節（p97～p103）を読み、食品汚染物質の概要を把握する。（１時間）
事後学習：【小試験③】の誤答問題についてノートを修正する。（１時間）
「食品を汚染する有害物質」についてノートにまとめる。（２時間）
第５回：食品中の有害汚染物質②（食品添加物および残留農薬等）／【小試験④】
事前学習：第８章第２節（p94～p107）／第９章（p106～118）を読み、食品汚染物質の概要を把握する。（１時間）
事後学習：【小試験④】の誤答問題についてノートを修正する。（１時間）
「食品添加物／残留農薬」についてノートにまとめる。（２時間）
第６回：食中毒①（自然毒性食中毒／カビ毒）／【小試験⑤】
事前学習：第８章第１節（p91～p94）／第５章第６節（p69～p76）を読み、自然毒／カビ毒の概要を把握する。（１時間）
事後学習：【小試験⑤】の誤答問題についてノートを修正する。（１時間）
「自然毒／カビ毒」についてノートにまとめる。（２時間）

第７回：食中毒②（毒素型細菌性食中毒）／【小試験⑥】
事前学習：第３章第３節（p52～p59）を読み、毒素型細菌性食中毒の概要を把握する。（１時間）
事後学習：【小試験⑥】の誤答問題についてノートを修正する。（１時間）
「毒素型細菌性食中毒」についてノートにまとめる。（２時間）
第８回：食中毒③（感染型細菌性食中毒）／【小試験⑦】
事前学習：第３章第３節（p40～p42／p48～p52）を読み、感染型細菌性食中毒の概要を把握する。（１時間）
事後学習：【小試験⑦】の誤答問題についてノートを修正する。（１時間）
「感染型細菌性食中毒」についてノートにまとめる。（２時間）
第９回：食中毒④（感染症型細菌性食中毒）／【小試験⑧】
事前学習：第３章第３節（p42～p47）／第７章（p86～p90）を読み、感染症型細菌性食中毒の概要を把握する。（１時間）
事後学習：【小試験⑧】の誤答問題についてノートを修正する。（１時間）
「感染症型細菌性食中毒」についてノートにまとめる。（２時間）
第10回：食中毒⑤（ウイルス性食中毒）／【小試験⑨】
事前学習：第３章第４節（p62～p67）を読み、感染症型細菌性食中毒の概要を把握する。（１時間）
事後学習：【小試験⑨】の誤答問題についてノートを修正する。（１時間）
「ウイルス性食中毒」についてノートにまとめる。（２時間）
第11回：食中毒⑥（寄生虫性食中毒）／【小試験⑩】
事前学習：第６章（p80～p85）を読み、寄生虫性食中毒の概要を把握する。（１時間）
事後学習：【小試験⑩】の誤答問題についてノートを修正する。（１時間）
「寄生虫性食中毒」についてノートにまとめる。（２時間）

第12回：食品の変質①（食品成分の化学変化）／【小試験⑪】
事前学習：第３章（16～p24）を読み、食品成分の化学変化の概要を把握する。（１時間）
事後学習：【小試験⑪】の誤答問題についてノートを修正する。（１時間）
「食品成分の化学変化」についてノートにまとめる。（２時間）
第13回：食品の変質②（食品の加工･保存･調理技術）／【小試験⑫】
事前学習：第４章（p25～p32）を読み、変質の防止の概要を把握する。（１時間）
事後学習：【小試験⑫】の誤答問題についてノートを修正する。（１時間）
「食品の加工･保存･調理技術」についてノートにまとめる。（２時間）

第14回：食品安全関連法規／【小試験⑬】
事前学習：第15章（p176～p181）を読み、食品安全関連法規の概要を把握する。（１時間）
事後学習：【小試験⑬】の誤答問題についてノートを修正する。（１時間）
「食品安全関連法規」についてノートにまとめる。（２時間）
第15回：グループ課題：成果物の相互評価　【発表】【討議】／【小試験⑭】
事前学習：食品衛生講習の「配布資料原稿」をグループで作成しアップロードする。（２時間）
事後学習：【小試験⑭】の誤答問題についてノートを修正する。（１時間）
相互評価で指摘された点を修正して、グループ課題【成果物】を完成させる。（１時間）

第16回：【定期試験】およびグループ課題【最終成果物】の提出

※授業計画は、進捗状況等により変更する可能性があります。
①小試験は、「教科書」おゆおび「自筆ノート」持込みを認めますので、毎週、授業の内容をまとめるよう努めてください。
②開講期間中に、関連書籍（専門書）を少なくとも１冊読み、内容をレポートにまとめてください。
③新聞･ニュース等で報じられる食品衛生に関する事件について日頃から関心を持ち、それらの事件がどのような原因で発生し、どのような脅威を公衆衛生に及ぼしたのか洞察し、再発防止の取組みの妥当性について評価するために必要な食品衛生学上の知識を修得できているか否か常に自己点検してください。

グループ課題は【課題解決型学習（PBL）】として、最終的にグループ単位で成果物を作成します。
課題：「過去の重大な食中毒事例分析」の作成
授業と並行して、主に授業外の自主学習として【グループワーク】形式で取り組んでください。

授業実施方法（面接授業・遠隔授業）

原則として「面接授業」を行います。
ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。
遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成　績　評　価　方　法

① 平常点　　：70%（【小試験】（各５%）×14回の合算で評価／自筆ノートのみ持込可）
② グループ課題：10%（【課題成果物】「ルーブリック評価表」による相互評価）
③ 定期試験　　：20%（【筆記試験】　自筆ノートのみ持込【可】）

成　績　評　価　基　準

人の命と健康を守る栄養士/管理栄養士としての【職責】を説明できるか。
管理栄養士養成課程において「食品衛生」について学ぶ【意義】を説明できるか。
過去の重大な食中毒事故の主要な事例について説明できるか。

食品衛生と関連法規について理解しているか。
食品の生産･流通体制について理解しているか。
食品の変質による安全性低下とその衛生管理法の原理について理解しているか。
食中毒の分類と発生状況について理解できているか。
食中毒の原因物質（微生物･天然自然毒･化学物質等）について理解できているか。
食品による感染症･寄生虫症について理解できているか。
食品中の汚染物質について理解できているか。
食品添加物の種類と管理制度について理解できているか。
食品衛生管理の制度や手段について理解できているか。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック

１）授業時の課題に対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　□メール　■その他（Teamsのチーム機能およびチャット機能で解答・解説を実施）
２）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　□メール　■その他（Teamsのチーム機能およびチャット機能で解答・解説を実施）
３）小レポートに対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　□メール　■その他（Teamsのチーム機能およびチャット機能で解答・解説を実施）
４）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
□定期試験時　□仁大eラーニング　□メール　■その他（Teamsのチーム機能およびチャット機能で解答・解説を実施）
５）その他
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他

実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）

テキスト、参考図書

□テキスト：
①『解いて学ぶ! 食品衛生・食品安全 テキスト&問題集（第２版）』 講談社　2018年　定価￥2,860-（税込）

□参考図書：
①『病気が見える⑥：免疫･膠原病･感染症』 メディックメディア社　2009年　定価￥3,150-（税込）
②『食の安全とリスクアセスメント』 中央法規　2004年
③『大量調理施設　衛生管理のポイント（７訂）』 中央法規　2021年　定価￥2,750-（税込）
④『食品微生物の基礎（第２版）』 講談社　2024年　定価￥3,080-（税込）
⑤『ゼロからわかる栄養系微生物学』 南江堂　2021年　定価￥3,080-（税込）
⑥『Visual 栄養学テキスト　食品衛生学』 中山書店　2019年　定価￥2,970-（税込）
⑦『栄養科学イラストレイテッド：食品衛生学』 羊土社　2017年　定価￥2,800-（税別）
⑧『基礎･応用･臨床　微生物学と実験』 光生館　2014年
⑨『サクセス管理栄養士養成講座シリーズ：食べ物と健康②　食品衛生学』 第一出版　2010年

その他（受講上の注意）

授業開始時に出欠状況を確認する。
遅刻は、授業の１/３（30分）以内に申し出れば認め、欠席１/３回としてカウントする。
それ以上の大幅な遅刻は欠席として扱う。

オフィスアワー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

食品衛生学実験 (Experiments in Food Hygiene)			担当教員	野村　卓正
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−E−2228	1単位	2年前期	実験	必修

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科専門科目　専門基礎分野

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

コミュニケーション能力、論理的思考力、判断力ならびに表現力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識･技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成･社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
□自己理解･自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

① 管理栄養士国家試験受験資格［必修］
② 食品衛生監視員（任用資格）/ 食品衛生管理者（任用資格）［選択］

授業の内容

食の安全確保の実現に必要な食品衛生検査の原理を理解し、理化学的および微生物学的食品検査技術を習得する。食品を介して人の健康を害する諸要因の特質･作用、危害の特質とその防止方法、食品をとりまく環境因子（水･光･温度等）と健康、環境因子の異常原因、予防、改善技術や方策などを理解する。

授業の到達目標

管理栄養士養成課程において「食品衛生」を学ぶ【意義】を理解する。

主な食物群について生産･流通･調理行程を把握し、各行程における微生物汚染のリスクを把握する。
主な食品群について主要な一次汚染微生物を列挙し、取扱い上留意すべき点を理解する。
食品･添加物に設定されている成分規格および製造･加工･保存基準等を把握する。
主な衛生指標微生物の公衆衛生上の意義とその検査法（公定法および迅速簡易法）を把握する。
微生物による汚染防止法の原理と効果を理解し、検体の無菌的操作法を修得する。
微生物を殺滅する各種の滅菌法および消毒法の原理と効果を理解する。
微生物の増殖を抑制する各種の保存法および加工･調理法の原理と効果を理解する。
食品の変質による品質および安全性の低下とその評価法の方法論を理解する。
食用油脂類の品質と安全性の指標とその検査法の原理を理解する。
食品の安全性を確保するための原理と方法論（加工･調理等）を理解する。
各種抗原（特定原材料等）を検出する免疫学的検査法の原理を理解する。

「食中毒予防の三原則」について、その【意義】と【効果】を説明できる。
「大量調理施設衛生管理マニュアル」の各重要管理事項を把握し、その【意義】と【効果】を理解する。
重要管理事項①の要点を把握し、その【意義】について理解する。
下処理工程における塩素消毒の条件を把握し、その【効果】を説明できる。
重要管理事項②の要点を把握し、その【意義】について理解する。
調理工程における加熱殺菌の条件を把握し、その【効果】を説明できる。
重要管理事項③の要点を把握し、その【意義】について理解する。
盛付工程における二次汚染防止の手法を把握し、その【効果】を説明できる。
重要管理事項④の要点を把握し、その【意義】について理解する。
保管／保存工程における品温管理条件を把握し、その【効果】を説明できる。
重要管理事項⑤の要点を把握し、その【意義】について理解する。
本邦における「飲用的の水」の法律上の定義と各検査項目の【意義】を理解する。

アクティブ・ラーニング

■課題解決型学習（PBL）　■討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等）　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第１回：オンライン型教材の説明
事前学習：履修登録する。（１時間）
事後学習：小テストおよび進捗管理表のオンライン提出の練習。（１時間）

第２回：理化学的検査③：実験５ａ：食品添加物の検査（発色剤の検出）
事前学習：教科書第９章（p106～p118）を読み、食品添加物の概要を把握する。（１時間）
事後学習：グループで実験レポートをまとめ、提出する。（１時間）
第３回：理化学的検査②：実験５ｂ：油脂の品質評価（酸価･過酸化物価･カルボニル価）
事前学習：教科書第３章（p20～p23）を読み、食品添加物の概要を把握する。（１時間）
事後学習：グループで実験レポートをまとめ、提出する。（１時間）

第４回：ＨＡＣＣＰと大量調理施設衛生管理マニュアル／【小試験⑤】
事前学習：「大量調理施設衛生管理マニュアル」を読み、概要を把握する。（１時間）
事後学習：【小試験⑤】の誤答問題についてまとめなおし、ノートを修正する。（１時間）

第５回：微生物学的検査①：実験１：生鮮野菜類の塩素消毒効果の確認①（検体処理･培養）
第６回：微生物学的検査②：実験１：生鮮野菜類の塩素消毒効果の確認②（結果判定）
事前学習：重要管理事項１について、概要を把握する。（１時間）
事後学習：グループで実験レポート①をまとめ、提出する。（１時間）

第７回：微生物学的検査②：実験２：畜肉類の加熱調理効果の確認①（検体処理･培養）
第８回：微生物学的検査②：実験２：畜肉類の加熱調理効果の確認②（結果判定）／【小試験①】
事前学習：重要管理事項２について、概要を把握する。（１時間）
事後学習：グループで実験レポート②をまとめ、提出する。（１時間）
【小試験①】の誤答問題についてまとめなおし、ノートを修正する。（１時間）

第９回：微生物学的検査③：実験３：手指・調理器具類の消毒効果の確認①（検体処理･培養）
第10回：微生物学的検査③：実験３：手指・調理器具類の消毒効果の確認②（結果判定）／【小試験②】
事前学習：重要管理事項２について、概要を把握する。（１時間）
事後学習：グループで実験レポート③をまとめ、提出する。（１時間）
【小試験②】の誤答問題についてまとめなおし、ノートを修正する。（１時間）

第11回：微生物学的検査④：実験４：鮮魚介類の冷凍･冷蔵効果の確認①（検体処理･培養）
第12回：微生物学的検査④：実験４：鮮魚介類の冷凍･冷蔵効果の確認②（結果判定）／【小試験③】
事前学習：重要管理事項４について、概要を把握する。（１時間）
事後学習：グループで実験レポート④をまとめ、提出する。（１時間）
【小試験③】の誤答問題についてまとめなおし、ノートを修正する。（１時間）

第13回：グループ課題レポートの作成①
第14回：グループ課題レポートの作成②／【小試験④】
事前学習：レポート作成のための資料を収集し、原稿案を作成する。（１時間）
事後学習：グループで課題レポートをまとめ、提出する。（１時間）
【小試験④】の誤答問題についてまとめなおし、ノートを修正する。（１時間）

第15回：グループ課題レポートの発表および相互評価
事前学習：各グループの課題発表を視聴しておく。（１時間）
事後学習：グループで課題レポートの相互評価を行い、提出する。（１時間）

実験１～５はすべて、グループで行います。
【実験レポート】は、事後学習として【グループワーク】形式でグループ毎に作成してください。

【グループ課題】は、【問題解決型授業】として取り組んでください。
グループ課題テーマ：「給食施設における衛生教育媒体（新人研修用）の作成」
新入調理員を対象とした30分程度の食品衛生教育を実施するためのスライド資料を
パワーポイントを用いて作成してください。

※授業計画は、気候や進捗状況等により変更する可能性があります。実験報告書（レポート）の作成にあたっては、第一に「精確な観察」、第二に「論理的な考察」に留意して記述してください。
① なぜそのような観察結果が得られたのか？
② 観察された事実･現象から何が示唆されるか？
③ どのような仮説を構築すれば、それらの観察結果を矛盾なく説明できるのか？
④ そして、どのような検証実験を行えば、その仮説の真偽を検証できるのか？
について固定観念を排してすなおに「考察」しながら「結論」を導いてください。
参考図書は、授業の際にも紹介します。

授業実施方法（面接授業・遠隔授業）

原則として「面接授業」を行います。ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成　績　評　価　方　法

①平常点　　：25%（【小試験】（各５%）× 5 回）
②実験レポート：50%（【レポート試験】（各10%）× 5 回）
③グループ課題：25%（【課題成果物】の教員評価15%／相互評価10%）
※受験・提出は授業への出席が前提

欠席回数が 5 回を上回った場合（ 6 回以上欠席）、単位認定の資格を失う。
欠席した場合、個別の【実験レポート】提出をもって補講とし、【小試験】の受験を認める。
【課題成果物】の評価には、「ルーブリック評価表」を用いる。

成　績　評　価　基　準

管理栄養士養成課程において「食品衛生」を学ぶ【意義】を説明できるか。

主な食物群について生産･流通･調理行程を把握し、各行程における微生物汚染のリスクを説明できるか。
主な食品群について主要な一次汚染微生物を列挙し、取扱い上留意すべき点を説明できるか。
食品･添加物に設定されている成分規格および製造･加工･保存基準等を説明できるか。
主な衛生指標微生物の公衆衛生上の意義とその検査法（公定法および迅速簡易法）を説明できるか。
微生物による汚染防止法の原理と効果を理解し、検体の無菌的操作法を修得できているか。
微生物を殺滅する各種の滅菌法および消毒法の原理と効果を説明できるか。
微生物の増殖を抑制する各種の保存法および加工･調理法の原理と効果を説明できるか。
食品の変質による品質および安全性の低下とその評価法の方法論を説明できるか。
食用油脂類の品質と安全性の指標とその検査法の原理を説明できるか。
食品の安全性を確保するための原理と方法論（加工･調理等）を説明できるか。
各種抗原（特定原材料等）を検出する免疫学的検査法の原理を説明できるか。

「食中毒予防の三原則」について、その【意義】と【効果】を説明できるか。
「大量調理施設衛生管理マニュアル」の各重要管理事項を把握し、その【意義】と【効果】を説明できるか。
重要管理事項①の要点を把握し、その【意義】について説明できるか。
下処理工程における塩素消毒の条件を把握し、その【効果】を説明できるか。
重要管理事項②の要点を把握し、その【意義】について説明できるか。
調理工程における加熱殺菌の条件を把握し、その【効果】を説明できるか。
重要管理事項③の要点を把握し、その【意義】について説明できるか。
盛付工程における二次汚染防止の手法を把握し、その【効果】を説明できるか。
重要管理事項④の要点を把握し、その【意義】について説明できるか。
保管／保存工程における品温管理条件を把握し、その【効果】を説明できるか。
重要管理事項⑤の要点を把握し、その【意義】について説明できるか。
本邦における「飲用的の水」の法律上の定義と各検査項目の【意義】を説明できるか。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

1）授業時の課題に対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　□メール　■その他（Teamsのチーム機能およびチャット機能で解答・解説を実施）
2）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　□メール　■その他（Teamsのチーム機能およびチャット機能で解答・解説を実施）
3）小レポートに対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　□メール　■その他（Teamsのチーム機能およびチャット機能で解答・解説を実施）
4）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
□定期試験時　□仁大eラーニング　□メール　■その他（Teamsのチーム機能およびチャット機能で解答・解説を実施）
5）その他
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他

実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)

テキスト、参考図書

□テキスト：
①『解いて学ぶ！食品衛生・食品安全 テキスト&問題集（第２版）』 講談社　2018年　定価￥2,860-（税込）
②配布資料（実験ノート形式）
□参考図書：
① 熊谷進・山本茂貴編『食の安全とリスクアセスメント』 中央法規　2004年
②『大量調理施設　衛生管理のポイント（７訂）』 中央法規　2021年　定価￥2,750-（税込）
③『食品微生物の基礎（第２版）』 講談社　2024年　定価￥3,080-（税込）
④『ゼロからわかる栄養系微生物学』 南江堂　2021年　定価￥3,080-（税込）

その他(受講上の注意)

毎回の実験への出席（実験作業への参加）を重視し、授業開始時に出欠状況を確認します。
遅刻は、授業の１/３（45分）以内に申し出れば認め、それ以上の大幅な遅刻は欠席として扱います。
実験用白衣および靴を持参しなかった場合、各１点減点します。
授業中の私語･携帯電話（スマートフォン）の使用等で説明を聞かず実験に失敗した場合、１点減点します。
実験終了後、火元点検に不備があれば、グループ全員から１点減点します。

安全を期するために白衣を着用し、正確な実験操作を妨げるおそれのある華美な服装は慎むこと。実験は、ガス･火･薬品を使用し危険が伴うため、安全確保の決まりごとをよく理解するよう努め、これを遵守してください。故意に安全衛生上の危険行為をとる者には、実験停止･室外退去の措置を取り、さらに単位を認定しないこともあります。

オフィスアワー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

基礎栄養学実験 (Experiments in Nutrition)			担当教員	池田　涼子
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−E−2234	1単位	2年前期	実験	必修

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科専門科目　専門分野

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

コミュニケーション能力、論理的思考力、判断力ならびに表現力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識･技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成･社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解･自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

管理栄養士国家試験受験資格（必修）、栄養士免許（必修）、食品衛生管理者・食品衛生監視員任用資格（選択）

授業の内容

食物を摂取することにより生体に必要な物質を取り入れ、生命維持や成長・発育、健康維持に利用する営みを「栄養」といい、栄養素を利用するためのしくみやそれぞれの栄養素のはたらきについて学ぶのが基礎栄養学である。
本科目では、基礎栄養学の講義で学習する知識をより深く、確かなものとするよう栄養生理学的な内容とも関連付けた実践的な授業を展開する。
授業では数人のグループに分かれて実験を行う。実験の目的・原理を把握し、実験器具の操作、実験方法を習得するとともに、グループワークや個人で作成・提出する実験報告書（レポート）や実験シート」を通して適正な考察を展開する能力を養う。
※実験シートは原則として個人レポートの締め切り前に学生が提出する。教員はなるべく速やかに実験データや考察内容などについてコメントして返却する。評価内容、修正点を確認し、個人レポートに反映させると良い。
その他、授業内容・学生の理解度に応じてその他の課題を与えることがある。
レポートは原理・考察を記述する際に必ず参考文献を引用し、出典を明記すること。各回のテーマとキーワードをよく理解するよう努めること。

授業の到達目標

栄養とは何か、その意義について主に栄養素の定性実験を通して理解する。また、各学生が栄養素の化学的な性質、生理学的な役割についての知識を養うとともに、科学的根拠に基づく栄養学を実践するための実験手法の基礎を習得することを到達目標とする。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習（PBL）　■討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　□発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等）　□実習、フィールドワーク　■実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：たんぱく質の変性、凝固（実験, グループワーク）
第2回：文献検索の方法・たんぱく質の高次構造と変性因子に関する考察（グループワーク、ディスカッション）
第3回：たんぱく質とは　電気泳動法（実験, グループワーク）
第4回：食品に含まれるたんぱく質の同定（グループワーク、ディスカッション）
第5回：たんぱく質アミノ酸の定性（1）基本構造による定性（実験, グループワーク）
第6回：アミノ酸とビウレット結合（グループワーク、ディスカッション）
第7回：たんぱく質アミノ酸の定性（2）側鎖による定性（実験, グループワーク）
第8回：アミノ酸の側鎖とその性質（グループワーク、ディスカッション）
第9回：糖質の定性（1）　糖・でんぷんの定性（実験, グループワーク）
第10回：糖の基本構造とは、文献検索　（グループワーク、ディスカッション）
第11回：糖質の定性（2）　還元糖の定性（実験, グループワーク）
第12回：アルドースと還元性　（グループワーク、ディスカッション）
第13回：食品中の天然色素の分離（実験, グループワーク）

第14回：クロマトグラフの原理と考察（ディスカッション）
第15回：物質の同定　（実技試験）
第16回：定期試験

授業実施方法（面接授業・遠隔授業）

原則として「面接授業」を行います。ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成　績　評　価　方　法

レポート20%、実技試験20%、定期試験50%、平常点10%とし、合計で評価する。
（平常点は、授業への参加状況・受講態度などを総合して判断する。）

成　績　評　価　基　準

定性試験の結果にもとづき、栄養素を分類・同定できるか。
実験原理を理解し、栄養素を正確に定量できるか。
定量方法や栄養素の物理的、化学的ならびに栄養学的性質について説明できるか。
以上を鑑み、総合点60点以上を合格として単位を認定する。
（詳細については履修規定第７条を参照すること）

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック

１）授業時の課題に対するフィードバックについて
　■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
２）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
　■授業時　■仁大eラーニング　□メール　□その他
３）小レポートに対するフィードバックについて
　■授業時　■仁大eラーニング　□メール　□その他
４）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
　■定期試験時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
５）その他
　□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他

実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）

テ　キ　ス　ト　、　参　考　図　書

Nブックス　実験シリーズ・基礎栄養学実験（木元幸一・鈴木和春　編著 / 建帛社）
その他、必要に応じて参考図書の紹介、プリントの配布をおこなう。

その他（受講上の注意）

・実験室に実験室に入室する際は必ず白衣・上履きを着用し、タオル・ハンカチを持参すること。
・本講義は性質上、ガスバーナーなどの火気や酸性試薬、塩基性試薬を扱う機会が多い。
事故防止の観点から、長い髪はまとめ、前髪や顔の横に垂れる頭髪はピンで留める。実験操作に支障をきたす化粧などはしない。
安全管理上、授業中の指示や実験室使用のルールについては必ず従うこと。
・指示に従わない者、危険な行為に及ぶ者については実験を中止し、退去を命じることがある。
・レポートは提出期限を厳守すること。期限外の提出は原則として認めない。
・欠席した場合は、必要に応じて補講を実施する。日程については担当教員に相談すること。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

応用栄養学Ⅱ（栄養・体力アセスメント） (Applied Nutrition Ⅱ (Nutrition andPhysical Activity Assessment))			担当教員	新井田　裕樹
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−B−2236	1単位	2年前期	講義	選択

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科専門科目　専門分野

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果（教育目標）

栄養状態を把握し、個別栄養評価プログラムを提案し、行動変容を支援できる能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力（汎用的能力）

■体系的な知識･技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成･社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
□自己理解･自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

管理栄養士国家試験受験資格（必修）

授業の内容

各ライフステージにおける身体機能、生理的特徴、代謝等を踏まえ、栄養アセスメント（栄養状態の評価と判定）や栄養評価に応じた栄養管理の基本的な考え方について学ぶ。

授業の到達目標

各ライフステージでの機能、生理、代謝等を理解した上で栄養アセスメントから栄養管理の計画、実施、評価にいたるプロセスを理解する。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習（PBL）　■討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　□グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　□発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等）　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：栄養ケア・マネジメントの定義
　事前学習：栄養ケア・マネジメントについてテキストを読み、質問項目をまとめておくこと（2時間）
　事後学習：講義中に出される課題への取り組み（2時間）
第2回：栄養スクリーニング・アセスメントの方法1（身体測定、食事調査）
　事前学習：栄養アセスメントについてテキストを読み、質問項目をまとめておくこと（2時間）
　事後学習：講義中に出される課題への取り組み（2時間）
第3回：栄養スクリーニング・アセスメントの方法2（臨床診査、臨床検査）
　事前学習：栄養アセスメントについてテキストを読み、質問項目をまとめておくこと（2時間）
　事後学習：講義中に出される課題への取り組み（2時間）
第4回：栄養ケア・栄養プログラム（計画、目標設定、実施）
　事前学習：栄養ケア・栄養プログラムについてテキストを読み、質問項目をまとめておくこと（2時間）
　事後学習：講義中に出される課題への取り組み（2時間）
第5回：栄養評価・判定→症例内容についてグループで検討しディスカッションを行う
　事前学習：栄養評価・判定についてテキストを読み、質問項目をまとめておくこと（2時間）
　事後学習：講義の内容をまとめること（2時間）
第6回：メタボリックシンドロームの栄養ケア・マネジメント
　事前学習：メタボリックシンドロームについてテキストを読み、質問項目をまとめておくこと（2時間）
　事後学習：講義中に出される課題への取り組み（2時間）
第7回：要支援・要介護者の栄養ケア・マネジメント
　事前学習：要支援・要介護者について調べ、質問項目をまとめておくこと（2時間）
　事後学習：講義中に出される課題への取り組み（2時間）
第8回：健康づくりのための身体活動基準2023、アクティブガイド
　事前学習：健康づくりのための身体活動基準2023、アクティブガイドを読み、質問項目をまとめておくこと（2時間）
　事後学習：配布資料を参考に講義の内容をまとめること（2時間）
第9回：定期試験

授業実施方法(面接授業・遠隔授業)

原則として「面接授業」を行います。
ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。
遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成　績　評　価　方　法

定期試験(80%)、平常点(20%)(平常点は授業への参加状況、課題提出状況等を総合的に判断する)

成　績　評　価　基　準

栄養アセスメント、栄養管理の計画、実施、評価の手法を適切に説明できるか。
アセスメント方法について意義を理解し、適切な方法を選択できるか。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

1)授業時の課題に対するフィードバックについて
■授業時　■仁大eラーニング　□メール　□その他
2)事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
■授業時　■仁大eラーニング　□メール　□その他
3)小レポートに対するフィードバックについて
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
4)定期試験(レポート試験を含む)に対するフィードバックについて
□定期試験時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
5)その他
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他

実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)

テ　キ　ス　ト　、　参　考　図　書

応用栄養学　第3版(栄養科学イラストレイテッド)(羊土社)
日本人の食事摂取基準2025年版(第一出版)
※必要に応じてプリントを配布

その他(受講上の注意)

授業計画は進捗状況により変更することがあります。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

応用栄養学Ⅲ(ライフステージ栄養学) (Applied Nutrition Ⅲ(Life Stage))			担当教員	新井田　裕樹
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−B−2237	2単位	2年前期	講義	必修

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科専門科目　専門分野

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

栄養状態を把握し、個別栄養評価プログラムを提案し、行動変容を支援できる能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識･技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成･社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
□自己理解･自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

管理栄養士国家試験受験資格（必修）

授業の内容

妊娠・授乳期から授乳期、幼児期、学童期、青年期、成人期を経て高齢期に至るプロセスにおいて各ステージの生理的特徴や栄養状態等の変化を理解し、それに基づいた基本的な栄養アセスメントのあり方を学ぶ。また、各ステージで留意すべき栄養関連の病態・疾患に関しても学修する。

授業の到達目標

各ライフステージの生理的特徴、栄養状態の特徴、栄養アセスメント、食事摂取基準、栄養関連疾患について理解し、栄養管理を行える能力を養う。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　□グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　□発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等）　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：妊娠期、胎児期、授乳期の特徴と栄養ケア・マネジメント
　事前学習：ホルモン分泌および機能について理解しておくこと（2時間）
　事後学習：講義中に出される課題に取り組む（2時間）
第2回：新生児期・乳児期の特徴1
　事前学習：新生児期・乳児期の特徴についてテキストを読み、質問項目をまとめておくこと（2時間）
　事後学習：講義中に出される課題に取り組む（2時間）
第3回：新生児期・乳児期の特徴2
　事前学習：「新生児期・乳児期の特徴1」の内容を理解し、テキストを読んでおくこと（2時間）
　事後学習：配布プリントを利用し、内容をまとめておくこと（2時間）
第4回：新生児期・乳児期の栄養・マネジメント
　事前学習：乳児期の特徴を理解し、乳児期の栄養についてテキストを読んでおくこと（2時間）
　事後学習：講義中に出される課題に取り組む（2時間）
第5回：幼児期の特徴1
　事前学習：幼児期の特徴についてテキストを読み、質問項目をまとめておくこと（2時間）
　事後学習：講義中に出される課題に取り組む（2時間）
第6回：幼児期の特徴2
　事前学習：「幼児期の特徴1」の内容を理解し、テキストを読んでおくこと（2時間）
　事後学習：講義の内容をまとめておくこと（2時間）
第7回：幼児期の栄養・マネジメント
　事前学習：幼児期の特徴について理解し、幼児期の栄養についてテキストを読んでおくこと（2時間）
　事後学習：講義の内容をまとめておくこと（2時間）
第8回：学童期の特徴と栄養・マネジメント
　事前学習：学童期についてテキストを読み、質問項目をまとめておくこと（2時間）
　事後学習：講義の内容をまとめておくこと（2時間）

第９回：小テスト、思春期の特徴と栄養・マネジメント
　　事前学習：性ホルモンの分泌と機能について理解しておくこと（２時間）
　　事後学習：講義中に出される課題に取り組む（２時間）
第10回：成人期の生理的特徴
　　事前学習：生活習慣病についてテキストを読み、質問項目をまとめておくこと（２時間）
　　事後学習：講義中に出される課題に取り組む（２時間）
第11回：成人期の栄養・マネジメント
　　事前学習：成人期の特徴についてテキストを読み、質問項目をまとめておくこと（２時間）
　　事後学習：講義中に出される課題に取り組む（２時間）
第12回：更年期の特徴
　　事前学習：思春期におけるホルモン分泌について理解しておくこと（２時間）
　　事後学習：講義中に出される課題に取り組む（２時間）
第13回：更年期の栄養・マネジメント
　　事前学習：更年期の特徴についてテキストを読み、質問項目をまとめておくこと（２時間）
　　事後学習：講義の内容をまとめておくこと（２時間）
第14回：高齢期の特徴
　　事前学習：高齢期の特徴についてテキストを読み、理解しておくこと（２時間）
　　事後学習：講義中に出される課題に取り組む（２時間）
第15回：高齢期の栄養・マネジメント
　　事前学習：高齢期の栄養についてテキストを読み、理解しておくこと（２時間）
　　事後学習：講義の内容をまとめておくこと（２時間）
第16回：定期試験

授業実施方法（面接授業・遠隔授業）

原則として「面接授業」を行います。
ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。
遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成　績　評　価　方　法

定期試験（80％）、平常点（20％）（平常点は授業への参加状況、課題提出状況等を総合的に判断する）

成　績　評　価　基　準

各ライフステージでの生理的特徴、栄養状態の特徴、栄養アセスメント、食事摂取基準、栄養関連疾患について理解しているか。さらに、栄養管理の進め方を適切に説明できるか。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック

１）授業時の課題に対するフィードバックについて
　■授業時　　■仁大eラーニング　　□メール　　□その他
２）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
　■授業時　　□仁大eラーニング　　□メール　　□その他
３）小レポートに対するフィードバックについて
　■授業時　　■仁大eラーニング　　□メール　　□その他
４）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
　□定期試験時　　□仁大eラーニング　　□メール　　□その他
５）その他
　□授業時　　□仁大eラーニング　　□メール　　□その他

実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）

経歴：（管理栄養士）
実務経験と授業内容との関連性：（管理栄養士として医療提供施設での実務経験を活かし、妊娠・授乳期から授乳期、幼児期、学童期、青年期、成人期を経て高齢期に至るプロセスにおいて各ステージの生理的特徴や栄養状態等の変化を理解し、それに基づいた基本的な栄養アセスメントのあり方を解説する。また、各ステージで留意すべき栄養関連の病態・疾患に関しても解説する。）

テ　キ　ス　ト　、　参　考　図　書

応用栄養学　第３版（栄養科学イラストレイテッド）（羊土社）
日本人の食事摂取基準2025年版（第一出版）
※必要に応じてプリントを配布

その他（受講上の注意）
授業計画は進捗状況により変更することがあります。 授業内容の理解促進のため、質問やディスカッション等を研究室にて受け付ける。授業の計画・内容や注意事項の詳細については、授業１回目に説明する。
オ フ ィ ス ア ワ ー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

応用栄養学実習 (Applied Nutrition Practicum)			担当教員	三浦　　努
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−E−2239	1単位	2年通年	実習	選択

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科専門科目　専門分野

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

コミュニケーション能力、論理的思考力、判断力ならびに表現力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識･技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成･社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解･自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

管理栄養士国家試験受験資格（必修）、栄養士免許（必修）

授業の内容

妊娠や発育、加齢などによる心身・栄養状態等の変化の特徴を捉え、現代社会の多様な食環境等を踏まえて、各時期の栄養量の基準に応じた食事計画とその実際にについて学ぶ。
また、特に幼児期、学童期における栄養管理ならびに高齢者の咀嚼や嚥下障害などの介護食への対応も実習する。

授業の到達目標

各ライフステージによる心身・栄養状態等の変化に対応した栄養状態の評価・判定（栄養アセスメント）や栄養管理、食事方針を学び、各時期に起きる栄養上の問題点への栄養管理の対応を修得する。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　□グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　□発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等）　■実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：ガイダンス　～授業計画の詳細と応用栄養学実習についての説明 、献立作成・献立計画について
第2回：妊娠期における栄養管理と食事方針
第3回：妊娠期・授乳期食の対応＜実習＞
第4回：乳児期における栄養管理と食事方針
第5回：乳児期・離乳期食の対応＜実習＞
第6回：幼児期における栄養管理と食事方針
第7回：幼児期食の対応＜実習＞
第8回：学童期における栄養管理と食事方針
第9回：食物アレルギーについて
第10回：アレルギー対応食＜実習＞
第11回：成人期の栄養管理と食事方針
第12回：高齢期における栄養管理
第13回：高齢期における食事方針
第14回：高齢期における食事の対応 ＜演習＞
第15回：嚥下調整食の対応 ＜実習＞
第16回：定期試験

応用栄養学実習に関連する科目（基礎栄養学、応用栄養学Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ）で学修したことを復習して理解を深めておくこと。また、予習としては、各回の関連するところを教科書等にて目を通しておき、疑問点などをまとめておこくと。復習は授業時に配布されたプリントや板書の内容を各自でまとめて、授業内容の理解を深めるとともに、レポート課題の取り組みでは、さらに深い知識の修得と応用力を養うようにすること。

授業実施方法(面接授業・遠隔授業)

原則として「面接授業」を行います。
ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。
遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成　績　評　価　方　法

レポート40%、定期試験40%、実習への取り組み態度等20%の総合評価（100%）

成　績　評　価　基　準

各ライフステージによる心身・栄養状態の評価・判定（栄養アセスメント）が的確にできること。
各ライフステージにおける栄養管理と食事方針が的確に立案でき対応できること。
各時期に起きる栄養上の問題点への栄養管理と食事方針が的確に立案でき対応できること。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

1）授業時の課題に対するフィードバックについて
■授業時　■仁大eラーニング　□メール　□その他
2）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
3）小レポートに対するフィードバックについて
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
4）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
■定期試験時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
5）その他
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他

実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)

テ　キ　ス　ト　、　参　考　図　書

「新編　応用栄養学実習書　第４版」 長浜幸子編　学建書院　2025年
「日本食品成分表2024　八訂」 医歯薬出版編　2024年

その他(受講上の注意)

栄養士免許資格、管理栄養士国家試験受験資格を修得するためには、この科目は必修になるので積極的に実習に臨むこと。実習に臨む態度として、安全と衛生を期するために白衣（調理用）、室内用靴、タオルを持参すること。また、料理の味や香りに影響を与えるので、実習時には化粧等はしないこと。実習は、刃物、ガス、火を使用するので危険が伴うため、決まりごとについては遵守してもらう。指示に従わない者、危険行為や態度をとる者に対しては、実習停止の措置をとり、さらには単位を認定しないこともある。なお実習には連続性があるため、欠席や遅刻をすると内容理解の進展に支障をきたすことがある。遅刻は、安全衛生管理上、実習に参加させないこともある。授業の計画については、変更されることもある。授業の計画、授業内容や注意事項の詳細については、授業１回目のガイダンスの際に説明する。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

栄養教育論Ⅰ（栄養教育論） （Nutrition Education Ⅰ）			担当教員	牧野　みゆき
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−B−2240	2単位	2年後期	講義	必修

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科専門科目　専門分野

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果（教育目標）

栄養状態を把握し、個別栄養評価プログラムを提案し、行動変容を支援できる能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力（汎用的能力）

■体系的な知識･技能　□論理的思考力と創造力　■人間関係形成･社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解･自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

管理栄養士国家試験受験資格（必修）、栄養士免許（必修）

授業の内容

栄養教育プログラムをマネジメントするために必要な事項、行動変容の支援に必要となる行動科学の理論、モデルについて学ぶ。理解を促すため練習問題を交えて講義を進める。

授業の到達目標

栄養教育プログラムを総合的にマネジメントするために必要となる、栄養状態、食行動、食環境等についてのアセスメント、栄養教育の実践、それらを評価する方法を理解している。
健康および生活の質（Quality of Life）の向上をめざした行動変容の支援に必要となる、行動科学の理論、モデルについても説明することができる。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　□グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　□発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等）　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：栄養教育の概念
　事前学習：授業前にテキストp3－16を読み、分からない単語があれば調べておくこと。（2時間）
　事後学習：確認問題の解説を視聴するとともに、テキスト・配布資料の見直しを行うこと。分からないことがあれば、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して教員に質問すること。（2時間）
第2回：生活習慣、食生活の変遷
　事前学習：これまで他の講義等で学習した日本人の生活習慣や食生活の特徴について復習しておくこと（2時間）
　事後学習：確認問題の解説を視聴するとともに、テキスト・配布資料の見直しを行うこと。分からないことがあれば、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して教員に質問すること。（2時間）
第3回：健康教育を基礎とする栄養教育、行動変容技法と概念
　事前学習：授業前に事前配布資料とテキストp17－34を読み、分からない単語があれば調べておくこと。（2時間）
　事後学習：確認問題の解説を視聴するとともに、テキスト・配布資料の見直しを行うこと。分からないことがあれば、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して教員に質問すること。（2時間）
第4回：行動科学の理論とモデル1　ヘルスビリーフモデル（健康信念モデル）
　事前学習：授業前にテキストp18－19を読み、分からない単語があれば調べておくこと。（2時間）
　事後学習：確認問題の解説を視聴するとともに、テキスト・配布資料の見直しを行うこと。分からないことがあれば、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して教員に質問すること。（2時間）
第5回：行動科学の理論とモデル2　合理的行動理論、計画的行動理論、社会的認知理論、
　事前学習：授業前にテキストp19－21を読み、分からない単語があれば調べておくこと。（2時間）
　事後学習：確認問題の解説を視聴するとともに、テキスト・配布資料の見直しを行うこと。分からないことがあれば、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して教員に質問すること。（2時間）

第６回：行動科学の理論とモデル３　トランスセオレティカルモデル（行動変容段階モデル）
事前学習：授業前にテキストp21－24を読み、分からない単語があれば調べておくこと。（２時間）
事後学習：確認問題の解説を視聴するとともに、テキスト・配布資料の見直しを行うこと。分からないことがあれば、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して教員に質問すること。（２時間）
第７回：栄養教育に関わる理論・モデル
事前学習：第６回までに紹介した理論・モデルについて思い出し、各モデルのキーワードを復習しておくこと。（２時間）
事後学習：確認問題の解説を視聴するとともに、テキスト・配布資料の見直しを行うこと。分からないことがあれば、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して教員に質問すること。（２時間）
第８回：栄養教育マネジメントで用いる理論やモデル 1 プリシード・プロシードモデル
事前学習：授業前にテキストp26－p27を読み、分からない単語があれば調べておくこと。（２時間）
事後学習：確認問題の解説を視聴するとともに、テキスト・配布資料の見直しを行うこと。分からないことがあれば、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して教員に質問すること。（２時間）
第９回：栄養教育マネジメントで用いる理論やモデル 2 ソーシャルマーケティング 他
事前学習：授業前にテキストp23－28を読み、分からない単語があれば調べておくこと。（２時間）
事後学習：確認問題の解説を視聴するとともに、テキスト・配布資料の見直しを行うこと。分からないことがあれば、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して教員に質問すること。（２時間）
第10回：栄養教育マネジメント１　アセスメント
事前学習：授業前にテキストp65－72を読み、分からない単語があれば調べておくこと。（２時間）
事後学習：確認問題の解説を視聴するとともに、テキスト・配布資料の見直しを行うこと。分からないことがあれば、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して教員に質問すること。（２時間）
第11回：栄養教育マネジメント２　目標設定
事前学習：授業前にテキストp73－77を読み、分からない単語があれば調べておくこと。（２時間）
事後学習：確認問題の解説を視聴するとともに、テキスト・配布資料の見直しを行うこと。分からないことがあれば、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して教員に質問すること。（２時間）
第12回：栄養教育マネジメント３　教材・学習形態の選択
事前学習：授業前にテキストp77－94を読み、分からない単語があれば調べておくこと。（２時間）
事後学習：確認問題の解説を視聴するとともに、テキスト・配布資料の見直しを行うこと。分からないことがあれば、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して教員に質問すること。（２時間）
第13回：栄養教育マネジメント４　評価
事前学習：授業前にテキストp95－104を読み、分からない単語があれば調べておくこと。（２時間）
事後学習：確認問題の解説を視聴するとともに、テキスト・配布資料の見直しを行うこと。分からないことがあれば、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して教員に質問すること。（２時間）
第14回：栄養教育マネジメント５　評価の詳細
事前学習：授業前にテキストp104－110を読み、分からない単語があれば調べておくこと。（２時間）
事後学習：確認問題の解説を視聴するとともに、テキスト・配布資料の見直しを行うこと。分からないことがあれば、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して教員に質問すること。（２時間）
第15回：食環境づくり
事前学習：授業前にテキストp53－64を読み、分からない単語があれば調べておくこと。（２時間）
事後学習：確認問題の解説を視聴するとともに、テキスト・配布資料の見直しを行うこと。分からないことがあれば、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して教員に質問すること。（２時間）

第16回：定期試験

授業実施方法（面接授業・遠隔授業）

原則として「面接授業」を行います。
ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。
遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成　績　評　価　方　法

定期試験（70％）、平常点（30％）
平常点は、授業への参加状況、受講態度、小テストの結果等から評価する。

成　績　評　価　基　準

栄養教育プログラムを総合的にマネジメントするために必要となる、栄養状態、食行動、食環境等についてのアセスメント、栄養教育の実践、それらを評価する方法を理解しているか。行動変容の支援に必要となる、行動科学の理論、モデルについても説明することができるか。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

1）授業時の課題に対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
2）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
3）小レポートに対するフィードバックについて
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
4）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
□定期試験時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
5）その他
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他

実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)

テキスト、参考図書

エッセンシャル栄養教育論　第5版、春木敏、長島万弓、坂本達昭　編、医歯薬出版、2024年

その他(受講上の注意)

授業計画は進捗状況により変更することがある。

オフィスアワー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

臨床栄養学Ⅰ(栄養療法) (Clinical Nutrition Ⅰ(Dietetic Therapy))			担当教員	佐藤　裕保
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−A−2246	2単位	2年後期	講義	必修

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科専門科目　専門分野

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

栄養管理を行い、チーム医療の一員として貢献できる能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識･技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成･社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
□自己理解･自己管理能力　□諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

管理栄養士国家試験受験資格(必修)、栄養士免許(必修)

授業の内容

消化器疾患、代謝疾患、循環器疾患、腎疾患、先天性代謝異常などを、各疾患別にその発症機序、臨床症状に応じて、疾患の改善に必要な条件を栄養学の面から明らかにし、栄養食事療法の意義や方法・効果について学習する。

授業の到達目標

疾病と栄養・食事療法の関連を理解する。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習(PBL)　□討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等)　□グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等)　□発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等)　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　■その他(学生は毎回100文字程度の質問もしくは感想を提出、教員は次回それに対してリアクションする)

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：ガイダンス、傷病者に対する栄養(その他)
　事前学習：配布プリントを熟読し、質問事項をまとめておくこと(2時間)
　事後学習：配布プリントを見直し、わからないところを調べたり質問する(2時間)
第2回：消化器疾患：逆流性食道炎・胃十二指腸潰瘍(その他)
　事前学習：配布プリントを熟読し、質問事項をまとめておくこと(2時間)
　事後学習：配布プリントを見直し、わからないところを調べたり質問する(2時間)
第3回：消化器疾患：クローン病・潰瘍性大腸炎(その他)
　事前学習：配布プリントを熟読し、質問事項をまとめておくこと(2時間)
　事後学習：配布プリントを見直し、わからないところを調べたり質問する(2時間)
第4回：消化器疾患：急性肝炎・慢性肝炎(その他)
　事前学習：配布プリントを熟読し、質問事項をまとめておくこと(2時間)
　事後学習：配布プリントを見直し、わからないところを調べたり質問する(2時間)
第5回：消化器疾患：肝硬変・膵炎(その他)
　事前学習：配布プリントを熟読し、質問事項をまとめておくこと(2時間)
　事後学習：配布プリントを見直し、わからないところを調べたり質問する(2時間)
第6回：代謝疾患：糖尿病(その他)
　事前学習：配布プリントを熟読し、質問事項をまとめておくこと(2時間)
　事後学習：配布プリントを見直し、わからないところを調べたり質問する(2時間)
第7回：代謝疾患：肥満・メタボリックシンドローム(その他)
　事前学習：配布プリントを熟読し、質問事項をまとめておくこと(2時間)
　事後学習：配布プリントを見直し、わからないところを調べたり質問する(2時間)
第8回：代謝疾患：脂質異常症(その他)
　事前学習：配布プリントを熟読し、質問事項をまとめておくこと(2時間)
　事後学習：配布プリントを見直し、わからないところを調べたり質問する(2時間)

第９回：代謝疾患：高尿酸血症（その他）
　　事前学習：配布プリントを熟読し、質問事項をまとめておくこと（２時間）
　　事後学習：配布プリントを見直し、わからないところを調べたり質問する（２時間）
第10回：循環器疾患：狭心症・心筋梗塞（その他）
　　事前学習：配布プリントを熟読し、質問事項をまとめておくこと（２時間）
　　事後学習：配布プリントを見直し、わからないところを調べたり質問する（２時間）
第11回：循環器疾患：高血圧（その他）
　　事前学習：配布プリントを熟読し、質問事項をまとめておくこと（２時間）
　　事後学習：配布プリントを見直し、わからないところを調べたり質問する（２時間）
第12回：腎疾患：慢性腎臓病（その他）
　　事前学習：配布プリントを熟読し、質問事項をまとめておくこと（２時間）
　　事後学習：配布プリントを見直し、わからないところを調べたり質問する（２時間）
第13回：腎疾患：透析（その他）
　　事前学習：配布プリントを熟読し、質問事項をまとめておくこと（２時間）
　　事後学習：配布プリントを見直し、わからないところを調べたり質問する（２時間）
第14回：先天性代謝異常：フェニルケトン尿症（その他）
　　事前学習：配布プリントを熟読し、質問事項をまとめておくこと（２時間）
　　事後学習：配布プリントを見直し、わからないところを調べたり質問する（２時間）
第15回：小児疾患：食物アレルギー・質疑応答（その他）
　　事前学習：配布プリントを熟読し、質問事項をまとめておくこと（２時間）
　　事後学習：配布プリントを見直し、わからないところを調べたり質問する（２時間）
第16回：定期試験
事前に資料を配布およびe-ラーニングにUPするので、事前学習に用いること。その際、基礎科目との知識の連携を心がけること。併せて、各疾病と関連する解剖生理学・生化学などの復習を含めること。
事後学習においては、関連する基礎科目の知識と統合できるように復習すること。

授業実施方法（面接授業・遠隔授業）

原則として「面接授業」を行います。
ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。
遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成　績　評　価　方　法

定期試験（80%）平常点（20%）
（平常点は、授業への参加状況・受講態度等を総合して判断します）

成　績　評　価　基　準

疾病と食事・栄養療法の関連を説明することができるか。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック

１）授業時の課題に対するフィードバックについて
　■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
２）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
　□授業時　□仁大eラーニング　■メール　□その他
３）小レポートに対するフィードバックについて
　□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
４）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
　■定期試験時　□仁大eラーニング　■メール　□その他
５）その他
　□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他

実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）

経歴：（管理栄養士）
実務経験と授業内容との関連性：（病院勤務経験を活かし、疾患別にその発症機序、臨床症状に応じて、疾患の改善に必要な条件を栄養学の面から明らかにし、栄養食事療法の意義や方法・効果について解説する。）

テ　キ　ス　ト　、　参　考　図　書

必要に応じて資料配布

その他（受講上の注意）

毎回、授業内容に対する質問もしくは感想の提出を求める。内容の軽薄なものは、出席と認めない。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

臨床栄養学実習Ⅰ(食事療法) (Clinical Nutrition Practicum Ⅰ(Dietetic Therapy))			担当教員	佐藤　裕保
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−E−2250	1単位	2年後期	実習	必修

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科専門科目　専門分野

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

コミュニケーション能力、論理的思考力、判断力ならびに表現力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識･技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成･社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
□自己理解･自己管理能力　□諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

管理栄養士国家試験受験資格(必修)、栄養士免許(必修)

授業の内容

消化器疾患、代謝疾患、循環器疾患、腎疾患、先天性代謝異常などを、各疾患別に疾病の改善や回復を、より適切に効果的に促進するための栄養食事療法を実習する。
対象者を的確に把握し、疾患の特徴と栄養食事療法の特徴を結び付けて考えることができるように、治療食作成の技術を学習する。

授業の到達目標

治療食作成を通して、栄養・食事療法を理解する。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習(PBL)　□討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等)　□グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等)　□発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等)　■実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：ガイダンス、治療食献立作成について
第2回：消化器疾患：易消化食(献立作成)(実習)
第3回：消化器疾患：易消化食(調理・試食)(実習)
第4回：消化器疾患：急性肝炎・肝硬変(献立作成)(実習)
第5回：消化器疾患：肝硬変非代償期(調理・試食)(実習)
第6回：代謝疾患：糖尿病(献立作成)(実習)
第7回：代謝疾患：糖尿病(調理・試食)(実習)
第8回：代謝疾患：高コレステロール血症・高トリグリセライド血症(献立作成)(実習)
第9回：代謝疾患：高コレステロール血症(調理・試食)(実習)
第10回：循環器疾患：高血圧症(献立作成)(実習)
第11回：循環器疾患：高血圧症(調理・試食)(実習)
第12回：腎疾患：慢性腎臓病(献立作成)(実習)
第13回：腎疾患：慢性腎臓病(調理・試食)(実習)
第14回：先天性代謝異常：フェニルケトン尿症(献立作成)(実習)
第15回：小児疾患：食物アレルギー(献立作成)(実習)
臨床栄養学Ⅰとの知識の連携を心がけること。

授業実施方法(面接授業・遠隔授業)

原則として「面接授業」を行います。
ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。
遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成　績　評　価　方　法

提出物（60%）平常点（40%）
（平常点は、授業への参加状況・受講態度等を総合して判断します）

成　績　評　価　基　準

各疾患において、適切な治療食を説明することができるか。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック

1）授業時の課題に対するフィードバックについて
■授業時　■仁大eラーニング　■メール　■その他（提出物返却時にコメント記載）
2）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
□授業時　□仁大eラーニング　■メール　□その他
3）小レポートに対するフィードバックについて
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
4）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
□定期試験時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
5）その他
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他

実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）

テ　キ　ス　ト、参　考　図　書

「臨床栄養学実習書」医歯薬出版
「糖尿病食事療法のための食品交換表」日本糖尿病協会
「腎臓病食品交換表」医歯薬出版

その他（受講上の注意）

毎回、提出物を求める。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

公衆栄養学Ⅰ(地域栄養活動) (Public Health Nutrition Ⅰ(Community Involvement))			担当教員	三浦　努
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−B−2253	2単位	2年後期	講義	必修

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科専門科目　専門分野

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

栄養状態を把握し、個別栄養評価プログラムを提案し、行動変容を支援できる能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識･技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成･社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解･自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

管理栄養士国家試験受験資格(必修)、栄養士免許(必修)

授業の内容

国や地域社会における疾病予防と健康・ＱＯＬの現状と変化を学び、健康の保持増進に必要な理論と方策及び疾病の発症と重症化予防のための食行動の変容を図る方法を学修し、新たな健康・栄養課題に対応する能力を身につける。

授業の到達目標

日頃から健康・栄養問題を的確に捉え、地域栄養活動に関する生活上に存在する課題を分析して把握することができること、関連する法規や計画と指針等の体系的な理解、対象者に適した栄養関連サービスとしての公衆栄養マネジメント・プログラムの作成・実施・評価の総合的なマネジメントの知識と技術を修得する。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習(PBL)　□討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等)　□グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等)　□発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等)　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：ガイダンス　−授業計画の詳細と公衆栄養学Ⅰ(地域栄養活動)について公衆栄養学の概念、日本の健康・栄養の現状
事前学習：授業前に日本における生活習慣における健康や栄養に関する問題点についてまとめておくこと。(3時間)
事後学習：授業で配布した資料の内容について、整理してまとめておくこと。(1時間)
第2回：公衆栄養学の歴史
事前学習：教科書の第1章の公衆栄養学の概念をまとめておくこと。(2時間)
事後学習：授業で配布した資料の内容について、整理してまとめておくこと。(2時間)
第3回：日本の健康・栄養の現状、食生活習慣上での主な問題点
(生活習慣病、疾病発症要因等)、公衆栄養のマネジメントサイクル
事前学習：教科書の第2章の健康・栄養問題の現状と課題の要点をまとめておくこと。(2時間)
事後学習：授業で配布した資料の内容について、整理してまとめておくこと。(2時間)
第4回：わが国の健康をめぐる現状(少子高齢化社会の現状と問題点)
事前学習：教科書の第2章の健康問題等の要点をまとめておくこと。(2時間)
事後学習：授業で配布した資料の内容について、整理してまとめておくこと。(2時間)
第5回：栄養関係法令と公衆栄養活動①(管理栄養士の役割、健康増進法など))
事前学習：教科書の第2章の公衆栄養活動の要点をまとめておくこと。(2時間)
事後学習：授業で配布した資料の内容について、整理してまとめておくこと。(2時間)
第6回：栄養関係法令と公衆栄養活動②(地域保健法、高齢者の医療の確保に関する法律など)
事前学習：教科書の3章のわが国の公衆栄養活動と関連法規の要点をまとめておくこと。(2時間)
事後学習：授業で配布した資料の内容について、整理してまとめておくこと。(2時間)

第７回：栄養関係法令と公衆栄養活動③（地域保健法、医療計画）
　　事前学習：教科書の第３章と巻末の栄養関連法規の要点をまとめておくこと。（２時間）
　　事後学習：授業で配布した資料の内容について、整理してまとめておくこと。（２時間）
第８回：わが国の健康・栄養政策①（国や地域における健康増進施策、国民健康・栄養調査）
　　事前学習：教科書の３章の栄養施策の要点をまとめておくこと。（２時間）
　　事後学習：授業で配布した資料の内容について、整理してまとめておくこと。（２時間）
第９回：わが国の健康・栄養政策②（国や地域における健康増進施策、特定健診・特定保健指導）
　　事前学習：教科書の３章の関連するところの要点をまとめておくこと。（２時間）
　　事後学習：授業で配布した資料の内容について、整理してまとめておくこと。（２時間）
第10回：わが国の健康・栄養政策③（国民健康・栄養調査（目的・概要・結果と食文化））
　　事前学習：教科書の国民健康・栄養調査について要点をまとめておくこと。（２時間）
　　事後学習：授業で配布した資料の内容について、整理してまとめておくこと。（２時間）
第11回：わが国の健康・栄養問題の現状と課題（食環境の変化、家計調査、食料需給表）
　　事前学習：教科書の２章の食環境の変化や消費者物価について要点をまとめておくこと。（２時間）
　　事後学習：授業で配布した資料の内容について、整理してまとめておくこと。（２時間）
第12回：わが国の健康・栄養政策④（国や地域における健康増進施策）　統計調査、食育基本法
　　事前学習：教科書の３章の特定健康診査・特定保健指導の要点をまとめておくこと。（２時間）
　　事後学習：授業で配布した資料の内容について、整理してまとめておくこと。（２時間）
第13回：わが国の健康・栄養政策⑤（国や地域における健康増進施策）　健康日本21
　　事前学習：教科書の３章の健康日本21の該当するところを調べまとめておくこと。（２時間）
　　事後学習：授業で配布した資料の内容について、整理してまとめておくこと。（２時間）
第14回：わが国の健康・栄養政策⑥（国や地域における健康増進施策）　健康日本21
　　事前学習：教科書の３章の健康日本21の該当するところを調べまとめておくこと。（１時間）
　　事後学習：授業で配布した資料の内容について、整理してまとめておくこと。（３時間）
第15回：わが国の健康・栄養政策⑦（（国や地域における健康増進施策実施に関する指針・ツール、ガイドライン等）
　　事前学習：教科書の３章の健康日本21の該当するところの要点をまとめておくこと。（１時間）
　　事後学習：授業で配布した資料の内容について、整理してまとめておくこと。（３時間）
第16回：定期試験

予習としては、各回の関連するところを教科書等にて目を通しておき、疑問点などをまとめておくこと。復習は授業時に配布された資料を各自でまとめて授業後の理解を深める。さらに深い知識の修得と応用力を養えられるよう、課題への取り組みを行うこと。

授業実施方法（面接授業・遠隔授業）

原則として「面接授業」を行います。
ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。
遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成　績　評　価　方　法

定期試験60%、課題・レポート20%、出席状況と授業への取り組みや授業態度等20%の総合評価（100%）

成　績　評　価　基　準

地域集団における食習慣や生活習慣に存在する課題を分析して捉えることができる。
健康の保持増進に必要な理論と法令の体系的な理解と、公衆栄養マネジメント及びプログラムの知識と技術で対応できる能力を修得できているか。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック

１）授業時の課題に対するフィードバックについて
　■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
２）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
　□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
３）小レポートに対するフィードバックについて
　□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
４）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
　■定期試験時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
５）その他
　□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他

実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）

テキスト、参考図書

テキスト：
健康・栄養科学シリーズ　公衆栄養学（改訂第９版）　南江堂　2025年
「日本人の食事摂取基準（2025年版）」 第一出版　2025年
参考図書：
カレント改定公衆栄養学第３版　建帛社2024年
管理栄養士養成のための栄養学教育モデル・コア・カリキュラム準拠題10巻　公衆栄養学2025年版　医歯薬出版　2025年
2025年版　栄養士・管理栄養士必携　第一出版　2025年

その他（受講上の注意）

管理栄養士国家試験受験資格を取得するためには、この科目は必修となるので講義中は集中して聴講すること。また、他の学生の聴講の妨げとなるので、私語はしないこと。課題は必ず提出すること。なお講義内容は連続性があり、欠席や遅刻をすると内容理解の進展に支障をきたすので、欠席・遅刻をしないように心がけること。また、授業の計画・内容や注意事項の詳細については、授業 １回目のガイダンスにて説明する。

オフィスアワー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

給食経営管理論Ⅱ（マネジメント） (Food Service Management Ⅱ (Management))			担当教員	長岡　純子、森　　恵見
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−A−2257	2単位	2年通年	演習	必修

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科専門科目　専門分野

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果（教育目標）

栄養管理を行い、チーム医療の一員として貢献できる能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力（汎用的能力）

■体系的な知識･技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成･社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
■自己理解･自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

管理栄養士国家試験受験資格（必修）

授業の内容

給食運営や食品流通の理解を基に、経営管理（組織・人事、会計・原価、情報処理、事故・災害時対策等）について関連の資源（食品の流通や食品開発の状況、給食に関わる組織やそれにかかる経費）との関係を総合的に述べ、栄養面、安全面に加え、経済面全般のマネジメントが行えるようにする。また、マーケティングの原理やその応用法、組織管理などマネジメントの基本的考え方や方法について述べる。また、さらに各種給食施設の特徴についても講義する。

授業の到達目標

・経営管理の意義と機能について説明出来る。
・給食とマーケティングについて説明出来る。
・給食の衛生管理について説明出来る。
・給食の人事管理について説明出来る。
・給食の原価構成について説明出来る。

アクティブ・ラーニング

■課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等）　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：給与栄養目標量の設定（PBL）（長岡・森）
　事前学習：授業前にテキスト（給食経営管理論実習ワークブック第3版）の計画（給与栄養目標量の設定）を読み、質問項目を整理しておくこと。（2時間）
　事後学習：授業で習った内容についてテキスト等を参考に纏めておくこと。（2時間）
第2回：食品構成表の作成（PBL）（長岡・森）
　事前学習：授業前にテキスト（給食経営管理論実習ワークブック第3版）の計画（食品構成表の作成）を読み、質問項目を整理しておくこと。（2時間）
　事後学習：授業で習った内容についてテキスト等を参考に纏めておくこと。（2時間）
第3回：献立計画の立案（PBL）（長岡・森）
　事前学習：授業前にテキスト（給食経営管理論実習ワークブック第3版）の計画（献立計画の立案）を読み、質問項目を整理しておくこと。（2時間）
　事後学習：授業で習った内容についてテキスト等を参考に纏めておくこと。（2時間）
第4回：試作及び生産計画（調理工程計画、作業工程計画）の立案（PBL）（長岡・森）
　事前学習：授業前にテキスト（給食経営管理論実習ワークブック第3版）の計画（試作及び生産計画（調理工程計画、作業工程計画）の立案）を読み、質問項目を整理しておくこと。（2時間）
　事後学習：授業で習った内容についてテキスト等を参考に纏めておくこと。（2時間）
第5回：発注計画・出庫計画の立案（PBL）（長岡・森）
　事前学習：授業前にテキスト（給食経営管理論実習ワークブック第3版）の計画（発注計画・出庫計画の立案）を読み、質問項目を整理しておくこと。（2時間）
　事後学習：授業で習った内容についてテキスト等を参考に纏めておくこと。（2時間）

第６回：栄養教育媒体の作成及び嗜好調査表・喫食調査表の設計（PBL）（長岡・森）
事前学習：授業前にテキスト（給食経営管理論実習ワークブック第３版）の計画（栄養教育媒体の作成及び嗜好調査表・喫食調査表の設計）を読み、質問項目を整理しておくこと。（２時間）
事後学習：授業で習った内容についてテキスト等を参考に纏めておくこと。（２時間）
第７回：生産（調理）前の準備、点検等及び検収と保管（PBL）（長岡・森）
事前学習：授業前にテキスト（給食経営管理論実習ワークブック第３版）の実施（生産（調理）前の準備、点検等及び検収と保管）を読み、質問項目を整理しておくこと。（２時間）
事後学習：授業で習った内容についてテキスト等を参考に纏めておくこと。（２時間）
第８回：生産管理（調理工程）及び提供管理（盛りつけ作業）（PBL）（長岡・森）
事前学習：授業前にテキスト（給食経営管理論実習ワークブック第３版）の実施（生産管理（調理工程）及び提供管理（盛りつけ作業））を読み、質問項目を整理しておくこと。（２時間）
事後学習：授業で習った内容についてテキスト等を参考に纏めておくこと。（２時間）
第９回：検食と保存食及び食堂の準備と提供管理（配膳作業）（PBL）（長岡・森）
事前学習：授業前にテキスト（給食経営管理論実習ワークブック第３版）の実施（検食と保存食及び食堂の準備と提供管理（配膳作業））を読み、質問項目を整理しておくこと。（２時間）
事後学習：授業で習った内容についてテキスト等を参考に纏めておくこと。（２時間）
第10回：下膳と食器洗浄及び清掃と点検（PBL）（長岡・森）
事前学習：授業前にテキスト（給食経営管理論実習ワークブック第３版）の実施（下膳と食器洗浄及び清掃と点検）を読み、質問項目を整理しておくこと。（２時間）
事後学習：授業で習った内容についてテキスト等を参考に纏めておくこと。（２時間）
第11回：実習の全体評価（PBL）（長岡・森）
事前学習：授業前にテキスト（給食経営管理論実習ワークブック第３版）の評価・改善（実習の全体評価）を読み、質問項目を整理しておくこと。（２時間）
事後学習：授業で習った内容についてテキスト等を参考に纏めておくこと。（２時間）
第12回：改善点の検討（PBL）（長岡・森）
事前学習：授業前にテキスト（給食経営管理論実習ワークブック第３版）の評価・改善（改善点の検討）を読み、質問項目を整理しておくこと。（２時間）
事後学習：授業で習った内容についてテキスト等を参考に纏めておくこと。（２時間）
第13回：評価・改善のための各種調査法（PBL）（長岡・森）
事前学習：授業前にテキスト（給食経営管理論実習ワークブック第３版）の評価・改善（評価・改善のための各種調査法）を読み、質問項目を整理しておくこと。（２時間）
事後学習：授業で習った内容についてテキスト等を参考に纏めておくこと。（２時間）
第14回：原価計算の演習及びABC分析の演習（PBL）（長岡・森）
事前学習：授業前にテキスト（給食経営管理論実習ワークブック第３版）の原価管理（原価計算の演習及びABC分析の演習）を読み、質問項目を整理しておくこと。（２時間）
事後学習：授業で習った内容についてテキスト等を参考に纏めておくこと。（２時間）
第15回：損益分岐点分析の演習（PBL）（長岡・森）
事前学習：授業前にテキスト（給食経営管理論実習ワークブック第３版）の原価管理（損益分岐点分析の演習）を読み、質問項目を整理しておくこと。（２時間）
事後学習：授業で習った内容についてテキスト等を参考に纏めておくこと。（２時間）
第16回：定期試験

授業実施方法（面接授業・遠隔授業）

原則として「面接授業」を行います。
ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。
遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成　績　評　価　方　法

定期試験（50%）、演習（30%）、授業への取り組み（20%）
授業への取り組みについては、授業への参加状況、受講態度、感想文の提出状況を総合的に判断する。

成　績　評　価　基　準

・経営管理の意義と機能について説明出来るか。
・給食とマーケティングについて理解しているか。
・給食の衛生管理について理解しているか。
・給食の人事管理について理解しているか。
・給食の原価構成について理解しているか。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

1）授業時の課題に対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
2）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
3）小レポートに対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
4）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
■定期試験時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
5）その他
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他

実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)

テキスト、参考図書

給食経営管理実習ワークブック　第4版　(株)みらい　2025年

その他(受講上の注意)

板書などが見えにくい場合は、必ず申し出ること。

オフィスアワー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

給食経営管理論実習 (Food Service Management Practicum)			担当教員	長岡　純子、森　　恵見
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−E−2259	1単位	2年通年	実習	必修

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科専門科目　専門分野

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

コミュニケーション能力、論理的思考力、判断力ならびに表現力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識･技能　■論理的思考力と創造力　■人間関係形成･社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
■自己理解･自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

管理栄養士国家試験受験資格（必修）、栄養士免許（必修）

授業の内容

給食経営管理論において習得した内容を基礎として、大量調理を始め、マネジメント能力が身につくよう課題ディスカッションなどにより体験的に学習する。

授業の到達目標

・栄養士係として業務全体のマネジメントが理解出来る。
・各種手順表（給食作業手順表、作業工程表等）及び栄養媒体等の資料が作成出来る。
・帳票類を適切に作成し整理できる。
・実施献立の評価を行い、改善点を検討して発表できる。
・大量調理施設衛生管理マニュアルに沿った衛生管理を理解し、実施できる。

アクティブ・ラーニング

■課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　■グループワーク　■発表（プレゼンテーション）　■実習、フィールドワーク　■実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：オリエンテーション（授業の進め方、グループ構成、献立の立て方、課題説明など）（グループワーク）（長岡・森）
第2回：実習計画①（試作計画、実習室及び機器類の説明など）（グループワーク及び実習、実技）（長岡・森）
第3回：実習計画②（試作、改善点の検討など）（グループワーク及び実習、実技）（長岡・森）
第4回：プレ大量調理（調理作業開始時の準備と点検、検収と保管、調理作業工程管理、配食管理、検食と保存食、食堂の準備と配膳管理、下膳と食器洗浄、清掃と点検など）（グループワーク及び実習、実技）（長岡・森）
第5回：実習準備①（生産計画の立案、発注計画・出庫計画の立案など）（グループワーク及び実習、実技）（長岡・森）
第6回：実習準備②（栄養教育媒体の作成、アンケートの作成など）（グループワーク）（長岡・森）
第7回：実習準備③（食数管理、発注など）（グループワーク及び実習、実技）（長岡・森）
第8回：衛生管理（グループワーク及び実習、実技）（長岡・森）
第9回：大量調理①（調理作業開始時の準備と点検、検収と保管、調理作業工程管理、配食管理、検食と保存食、食堂の準備と配膳管理、下膳と食器洗浄、清掃と点検など）（グループワーク及び実習、実技）（長岡・森）
第10回：大量調理②（調理作業開始時の準備と点検、検収と保管、調理作業工程管理、配食管理、検食と保存食、食堂の準備と配膳管理、下膳と食器洗浄、清掃と点検など）（グループワーク及び実習、実技）（長岡・森）
第11回：大量調理③（調理作業開始時の準備と点検、検収と保管、調理作業工程管理、配食管理、検食と保存食、食堂の準備と配膳管理、下膳と食器洗浄、清掃と点検など）（グループワーク及び実習、実技）（長岡・森）
第12回：大量調理④（調理作業開始時の準備と点検、検収と保管、調理作業工程管理、配食管理、検食と保存食、食堂の準備と配膳管理、下膳と食器洗浄、清掃と点検など）（グループワーク及び実習、実技）（長岡・森）
第13回：事務処理①（帳票類の整理など）（グループワーク）（長岡・森）
第14回：事務処理②（アンケートの集計、改善点の検討など）（グループワーク及び発表）（長岡・森）

第15回：実技試験、まとめ（グループワーク及び実習、実技）（長岡・森）
第16回：定期試験

授業実施方法（面接授業・遠隔授業）

原則として「面接授業」を行います。
ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。
遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成　績　評　価　方　法

実習記録ノート及び課題（40%）、実習への取り組み（30%）、定期試験（30%）
実習への取り組みについては、実習への参加状況、受講態度、発表内容、感想文の提出状況を総合的に判断する。

成　績　評　価　基　準

・栄養士係として業務全体をマネジメント出来るか。
・各種手順表（給食作業手順表、作業工程表等）及び栄養媒体等が作成出来るか。
・帳票類を適切に作成し整理できるか。
・実施献立の評価を行い、改善点を検討して発表できるか。
・大量調理施設衛生管理マニュアルに沿った衛生管理を理解し、実施できるか。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック

1）授業時の課題に対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
2）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
3）小レポートに対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
4）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
■定期試験時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
5）その他
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他

実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）

テ　キ　ス　ト　、　参　考　図　書

給食経営管理実習ワークブック　第4版　（株）みらい　2025年

その他（受講上の注意）

大量調理実習なので特に体調管理と衛生管理に気をつけること。
※下痢・発熱の有無や化膿創の有無及び身支度（毛髪、爪等）、手洗い等

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

栄養総合演習Ⅰ (Integrated Seminar Ⅰ)			担当教員	佐藤　裕保、山本　浩範、長岡　純子、 森　　恵見、三浦　　努
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−F−2259	2単位	2年後期・ 3年・4年	演習	選択

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科専門科目　専門分野

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

課題解決能力、社会に貢献する意欲と態度、職業倫理観

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□体系的な知識･技能　□論理的思考力と創造力　■人間関係形成･社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
□自己理解･自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　■キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

管理栄養士国家試験受験資格（必修）

授業の内容

専門分野を横断して、栄養評価や管理が行える総合的な能力を養う。
オムニバスにて臨地実習の事前事後指導を行う。
事前指導として、臨地実習の意義についての指導および、実習に際しての具体的準備を行う。
実習先施設の特徴の把握、実習テーマ設定等を実習グループにて行う。
事後指導として、実習の成果および実習テーマについてまとめ、プレゼンテーションを行う。

授業の到達目標

実習の成果および実習テーマについて確認し、栄養士・管理栄養士業務について理解する。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習（PBL）　■討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等）　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：（給食運営実習）：給食施設の特徴・給食の運営について（長岡・森）
　事前学習：給食施設について、関連する教科書を復習する（2時間）
　事後学習：給食施設について、ホームページ等を利用して、特徴を把握する（2時間）
第2回：（給食運営実習）：実習テーマ・実習ノートについて（長岡・森）
　事前学習：実習テーマについて、準備しておく（2時間）
　事後学習：実習ノートを熟読する（2時間）
第3回（給食運営実習）：実習報告（発表）（長岡・森）
　事前学習：発表媒体・原稿の準備（2時間）
　事後学習：他施設の発表についてまとめる（2時間）
＜公衆栄養臨地実習＞
第4回a：（公衆栄養臨地実習）：保健所・保健センターの特徴について（三浦）
　事前学習：保健所・保健センターについて、関連する教科書を復習する（2時間）
　事後学習：保健所・保健センターについて、ホームページ等を利用して、特徴を把握する（2時間）
第5回a：（公衆栄養臨地実習）：公衆栄養マネジメントについてⅠ（三浦）
　事前学習：公衆栄養マネジメントについて、関連する教科書を復習する（2時間）
　事後学習：配布プリントを見直し、わからないところを図書館で調べたり質問する（2時間）
第6回a：（公衆栄養臨地実習）：公衆栄養マネジメントについてⅡ（三浦）
　事前学習：公衆栄養マネジメントについて、関連する教科書を復習する（2時間）
　事後学習：配布プリントを見直し、わからないところを図書館で調べたり質問する（2時間）
第7回a：（公衆栄養臨地実習）：実習テーマ設定（グループワーク・ディスカッション）・実習ノートについて（三浦）
　事前学習：実習テーマについて、グループで議論できるように準備しておく（2時間）
　事後学習：実習ノートを熟読する（2時間）

第８回a：（公衆栄養臨地実習）：実習報告（発表）（三浦）
事前学習：発表媒体・原稿の準備（２時間）
事後学習：他施設の発表についてまとめる（２時間）
＜給食経営管理臨地実習＞
第４回b：（給食経営管理臨地実習）：給食施設の特徴について（長岡・森）
事前学習：給食施設について、関連する教科書を復習する（２時間）
事後学習：給食施設について、ホームページ等を利用して、特徴を把握する（２時間）
第５回b：（給食経営管理臨地実習）：給食経営管理についてⅠ（長岡・森）
事前学習：給食経営管理について、関連する教科書を復習する（２時間）
事後学習：配布プリントを見直し、わからないところを図書館で調べたり質問する（２時間）
第６回b：（給食経営管理臨地実習）：給食経営管理についてⅡ（長岡・森）
事前学習：給食経営管理について、関連する教科書を復習する（２時間）
事後学習：配布プリントを見直し、わからないところを図書館で調べたり質問する（２時間）
第７回b：（給食経営管理臨地実習）：実習テーマ設定（グループワーク・ディスカッション）・実習ノートについて（長岡・森）
事前学習：実習テーマについて、グループで議論できるように準備しておく（２時間）
事後学習：実習ノートを熟読する（２時間）
第８回b：（給食経営管理臨地実習）：実習報告（発表）（長岡・森）
事前学習：発表媒体・原稿の準備（２時間）
事後学習：他施設の発表についてまとめる（２時間）
第９回：（臨床栄養臨地実習）：病院・介護老人保健施設の特徴について（佐藤裕・山本）
事前学習：病院・介護老人保健施設について、関連する教科書を復習する（２時間）
事後学習：病院・介護老人保健施設について、ホームページ等を利用して、特徴を把握する（２時間）
第10回：（臨床栄養臨地実習）：栄養ケアマネジメントについてⅠ（佐藤裕・山本）
事前学習：栄養ケアマネジメントについて、関連する教科書を復習する（２時間）
事後学習：配布プリントを見直し、わからないところを図書館で調べたり質問する（２時間）
第11回：（臨床栄養臨地実習）：栄養ケアマネジメントについてⅡ（佐藤裕・山本）
事前学習：栄養ケアマネジメントについて、関連する教科書を復習する（２時間）
事後学習：配布プリントを見直し、わからないところを図書館で調べたり質問する（２時間）
第12回：（臨床栄養臨地実習）：実習テーマ設定（グループワーク・ディスカッション）・実習ノートについて（佐藤裕・山本）
事前学習：実習テーマについて、グループで議論できるように準備しておく（２時間）
事後学習：実習ノートを熟読する（２時間）
第13回：（臨床栄養臨地実習）：実習報告Ⅰ（発表）（佐藤裕・山本）
事前学習：発表媒体・原稿の準備（２時間）
事後学習：他施設の発表についてまとめる（２時間）
第14回：（臨床栄養臨地実習）：実習報告Ⅱ（発表）（佐藤裕・山本）
事前学習：発表媒体・原稿の準備（２時間）
事後学習：他施設の発表についてまとめる（２時間）
第15回：実習報告会：全体会（給食運営実習・公衆栄養臨地実習・給食経営管理臨地実習の聴講、臨床栄養臨地実習の発表）（発表）（佐藤裕・三浦・山本・長岡・森）
事前学習：発表媒体・原稿の準備（２時間）
事後学習：他施設の発表についてまとめる（２時間）
それぞれの臨地実習の関連科目の復習を充分にすること。

授業実施方法（面接授業・遠隔授業）

原則として「面接授業」を行います。
ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。
遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成　績　評　価　方　法

提出物（60%）平常点（40%）
（平常点は、授業への参加状況・受講態度等を総合して判断します）

成　績　評　価　基　準

実習の成果および実習テーマについて確認し、栄養士・管理栄養士業務について説明することができるか。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

1）授業時の課題に対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
2）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　■メール　□その他
3）小レポートに対するフィードバックについて
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
4）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
□定期試験時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
5）その他
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他

実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)

テキスト、参考図書

それぞれの臨地実習の関連科目にて使用した教科書および参考図書。
必要に応じてプリント配布。

その他(受講上の注意)

正当な理由なく事前指導を欠席した場合、臨地実習に出られない場合がある。
４－８回については、選択した臨地実習に出席する。

オフィスアワー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

栄養総合演習Ⅱ (Integrated Seminar Ⅱ)			担当教員	佐藤　裕保、山本　浩範、長岡　純子、 森　恵見、三浦　努
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−F−2260	2単位	2年後期･3年	演習	選択

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科専門科目　専門分野

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

課題解決能力、社会に貢献する意欲と態度、職業倫理観

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識･技能　□論理的思考力と創造力　■人間関係形成･社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
□自己理解･自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　■キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

資格・免許要件なし

授業の内容

専門的な分野で学んだ理論と方法論を総合的に応用し、今後の臨地実習で栄養評価や管理が行える能力を養う。
校外実習で経験した内容の理解を深める。
オムニバス方式にて行う。

授業の到達目標

校外実習で確認できた知識や技術の不足部分の気付きや問題点について再認識し、理解を深める。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習（PBL）　■討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等）　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：治療食献立作成に必要な知識「食品構成・荷重平均栄養成分値」(佐藤裕保)（グループワーク）
　事前学習：荷重平均栄養成分値について、関連する教科書を復習する（2時間）
　事後学習：配布プリントを見直し、わからないところを調べたり質問する（2時間）
第2回：治療食献立作成に必要な知識「コーディング・使用量・調味料」(佐藤裕保)（グループワーク）
　事前学習：献立集やネット検索により、食材料の常用量を把握しておく（2時間）
　事後学習：配布プリントを見直し、わからないところを調べたり質問する（2時間）
第3回：治療食献立作成に必要な食品学「食品選択について」(佐藤裕保)（グループワーク）
　事前学習：食品成分表に記載されている食品を把握しておく（2時間）
　事後学習：配布プリントを見直し、わからないところを調べたり質問する（2時間）
第4回：衛生管理について（長岡・森）
　事前学習：衛生管理について、関連する教科書を復習する（2時間）
　事後学習：配布プリントを見直し、わからないところを図書館で調べたり質問する（2時間）
第5回：実習テーマ設定（グループワーク・ディスカッション）（長岡・森）
　事前学習：実習テーマについて、グループで議論できるように準備しておく（2時間）
　事後学習：議論内容をまとめる（2時間）
第6回：社会人としてのマナー（佐藤・三浦・山本・長岡・森）
　事前学習：社会人としてのマナーについて、ネット検索などによりまとめる（2時間）
　事後学習：配布プリントを見直し、わからないところを図書館で調べたり質問する（2時間）
第7回：倫理・守秘義務について（長岡・森）
　事前学習：倫理・守秘義務について、関連する教科書を復習する（2時間）
　事後学習：配布プリントを見直し、わからないところを図書館で調べたり質問する（2時間）
第8回：実習振り返りⅠ（長岡・森）
　事前学習：実習内容についてまとめる（2時間）
　事後学習：振り返りをまとめる（2時間）

第９回：実習振り返り（グループディスカッション）Ⅰ（長岡・森）
　　事前学習：グループディスカッションの準備（２時間）
　　事後学習：グループディスカッションについてまとめる（２時間）
第10回：実習振り返りⅡ（課題抽出）（長岡・森）
　　事前学習：実習内容についてまとめる（２時間）
　　事後学習：課題についてまとめる（２時間）
第11回：実習振り返り（課題抽出）（グループディスカッション）Ⅱ（長岡・森）
　　事前学習：グループディスカッションの準備（２時間）
　　事後学習：グループディスカッションについてまとめる（２時間）
第12回：実習振り返りⅢ（課題解決）（長岡・森）
　　事前学習：実習内容についてまとめる（２時間）
　　事後学習：課題についてまとめる（２時間）
第13回：実習振り返り（課題解決）（グループディスカッション）Ⅲ（長岡・森）
　　事前学習：グループディスカッションの準備（２時間）
　　事後学習：グループディスカッションについてまとめる（２時間）
第14回：実習報告書作成（グループワーク）（長岡・森）
　　事前学習：実習内容についてまとめる（２時間）
　　事後学習：指示された報告書にまとめる（２時間）
第15回：実習報告会：全体会（給食運営実習・公衆栄養臨地実習・給食経営管理臨地実習・
臨床栄養臨地実習）（発表）（佐藤裕・三浦・山本・長岡・森）
　　事前学習：発表媒体・原稿の準備（２時間）
　　事後学習：他施設の発表についてまとめる（２時間）

授業実施方法（面接授業・遠隔授業）

原則として「面接授業」を行います。
ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。
遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成　績　評　価　方　法

提出物（60%）平常点（40%）
（平常点は、授業への参加状況・受講態度等を総合して判断します）

成　績　評　価　基　準

校外実習で確認できた知識や技術の不足部分の気付きや問題点について理解し、説明することができるか。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック

１）授業時の課題に対するフィードバックについて
　■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
２）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
　■授業時　□仁大eラーニング　■メール　□その他
３）小レポートに対するフィードバックについて
　□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
４）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
　□定期試験時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
５）その他
　□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他

実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）

テキスト、参考図書

必要に応じてプリント配布。
校外実習の関連科目にて使用した教科書および参考図書。

その他（受講上の注意）

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

給食運営実習 (Field Practice in Food Service)			担当教員	長岡　純子、森　　恵見
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−F−2265	1単位	2年後期	実習	選択

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科専門科目　専門分野

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

課題解決能力、社会に貢献する意欲と態度、職業倫理観

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識･技能　■論理的思考力と創造力　■人間関係形成･社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
■自己理解･自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　■キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

管理栄養士国家試験受験資格（必修）・栄養士免許（必修）

授業の内容

各種給食施設（学校給食・福祉施設給食・事業所給食等）での給食業務全般に必要な校外実習を行う。食事の計画や調理を含めた給食運営に関する技術を習得する。

授業の到達目標

・各種給食施設での栄養士の役割を理解出来る。
・各種給食施設での栄養士業務全般を理解出来ている。
・各種給食施設の喫食者の特徴を理解出来ている。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等）　■実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

2年次2～3月に1週間（45時間以上）の給食施設（学校・病院・福祉施設・事業所等）実習を行う。
①実習施設事前訪問・実習挨拶および指導者との打ち合わせ（実習）
②実習施設ごとの実習計画による実習（実習）
③実習施設についての理解（組織・運営）（実習）
④食材料管理の把握・考察（実習）
⑤作業管理・業務分担の把握・考察（実習）
⑥安全・衛生管理の把握・考察（実習）
⑦給食業務にかかる帳票類の内容及び管理について学ぶ　など・実習施設について事前に十分な下調べ（施設概要等）を行なうこと。（実習）
⑧実習成果に関する報告書及び発表（グループワーク及び発表）

授業実施方法(面接授業・遠隔授業)

原則として「面接授業」を行います。
ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。
遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成績評価方法

実習前の準備作業の取り組み状況（20%）、実習中の取り組み状況（20%）、実習ノート等の提出物の評価（20%）、実習施設の指導担当者による評価（40%）

成績評価基準

・各種給食施設での栄養士の役割を理解出来ているか。
・各種給食施設での栄養士業務全般を理解出来ているか。
・各種給食施設の喫食者の特徴を理解出来ているか。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

1）授業時の課題に対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
2）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
3）小レポートに対するフィードバックについて
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
4）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
□定期試験時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
5）その他
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他

実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)

テキスト、参考図書

給食経営管理論Ⅰ・Ⅱ・実習や、実習先の施設種別に関連する科目で使用した教科書等。
詳細については事前指導時に指示を行う。

その他(受講上の注意)

・実習施設について事前に十分な下調べ（施設概要等）を行なうこと。
・事前に出された課題は、必ず準備して実習に臨むこと。

オフィスアワー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

フィールドワーク演習 (Fieldwork)			担当教員	佐藤　裕保、池田　涼子、山本　浩範、 新井田裕樹
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−E−2166	2単位	1～3年	演習	選択

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科専門科目　特別演習・卒業研究

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

コミュニケーション能力、論理的思考力、判断力ならびに表現力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識･技能　■論理的思考力と創造力　■人間関係形成･社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
■自己理解･自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　■キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

授業の内容

本プログラムには、学内外でのボランティア活動体験、社会的イベント・コンペティションなどへの参画体験が含まれる。教室や研究室で学習や研究をするのではなく、実際に社会での直接的体験を通して、優れた社会人となるための自己認識、自己啓発の機会とすることを目的とする。

授業の到達目標

1・2・3年次を対象に自己の進路を見据えた体験学習を課題にして設ける。例えば、福祉施設、病院などでの奉仕活動、事業所などでのインターンシップ参加、施設・事業所見学などの事前、事後計画の企画運営発表などを実施したり、得られた成果について報告書を提出する。

アクティブ・ラーニング

■課題解決型学習（PBL）　■討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等）　■実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

1年次～3年次に活動の実施（30時間）事前学習（30時間）及び事後学習（30時間）を行う。
①受講希望者は、各フィールドワーク演習の企画教員から内容を確認したうえで実施する。
　参画する奉仕活動やインターンシップについて事前に十分な下調べ（概要等）を行なうこと。
②実際に体験したボランティア活動について報告書（内容・到達目標・経過時間・得られた成果）を作成すること。また作成した報告書は企画教員から押印後、フィールドワーク演習担当教員に提出し承認を得ること。承認後の報告書は各自で保管すること。
③各種ボランティア活動について（フィールドワーク）
　参加した全てのボランティア活動の詳細（参加時間数の合計等）についてまとめておくこと。
④3年次終了時に報告書一覧表（ボランティア活動毎報告書添付）を作成しフィールドワーク演習担当教員に提出すること。

授業実施方法(面接授業・遠隔授業)

原則として「面接授業」を行います。ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成績評価方法

プログラム取り組み（50%）、報告書またはプレゼンテーション（50%）

成績評価基準

参加した福祉施設、病院などでの奉仕活動で自身が得た成果について報告書を参考に評価する。事業所などでのインターンシップ参加、施設・事業所見学などの事前、事後計画の企画運営発表などを実施する。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

1）授業時の課題に対するフィードバックについて
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
2）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
3）小レポートに対するフィードバックについて
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
4）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
□定期試験時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
5）その他（活動遂行上の課題に対するフィードバックについて）
□授業時　□仁大eラーニング　■メール　■その他（活動中に直接指導）

実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)

テキスト、参考図書

使用しない。

その他(受講上の注意)

本科目の履修登録については、それぞれの担当教員がガイダンスを実施し、各プログラムの参加者をもって受講者とするため、通常の受講登録手続きを要しない。

オフィスアワー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

分子栄養学 (Molecular Nutrition)			担当教員	尼子　克己
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−D−2272	2単位	2年後期	講義	選択

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科専門科目　関連科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

基礎研究および食品開発ができる能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識･技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成･社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
□自己理解･自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

食品衛生管理者・食品衛生監視員任用資格（選択）

授業の内容

基礎生化学をはじめとする幾つかの科目において、生体内で起こる様々な現象が、酵素を触媒とする化学反応の組合せによって起こることを学んだ。本講義ではそれを踏まえ、変動する環境に対して生体がどのように情報を受け取り、対応して秩序を保っているか、およびその破綻がいかに疾病につながっていくかを、分子生物学の観点から説明する。生命活動の中心原理（セントラルドグマ）の基本的な仕組み、一般的な遺伝子発現、その他の制御機構について理解したあと、生体における糖・脂質・たんぱく質などの栄養素の代謝と調節および栄養素自身が代謝調節に重要な役割を担っていることを分子生物学的観点から理解できるようにする。また遺伝的背景のわずかな差異が、個人の体質に与える影響を、実際の事例を引きながら解説する。講義は基礎生化学で学んだ内容を振り返りつつ、臨床栄養学等以降の講義で取り扱われる種々の栄養マネジメントに対して、基礎医学的な観点から根拠を与えられるよう配慮して進める。

授業の到達目標

生体における糖・脂質・たんぱく質などの栄養素の代謝と調節および栄養素自身が代謝調節に重要な役割を担っていることを分子生物学的観点から理解できる。具体的には、
①遺伝子の構造・発現・調節機構ならびに遺伝子産物としてのたんぱく質の構造と機能を説明できる。
②糖質、脂質、たんぱく質、ビタミン、ミネラルの代謝と、これら栄養素自身が転写因子を介して、生体機能を制御していることを理解し、解説できる。
③生活習慣病：循環器系疾患、肥満、糖尿病、骨粗鬆症、がん、アレルギーなどの発症機構を、代謝と病態との関連において、分子生物学的視点から説明できる。
④ゲノム解読に伴って進化を遂げた分子生物学およびその周辺分野の技術革新を理解し、それらの栄養学や医療への応用を概説することができる。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　□グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　□発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等）　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：遺伝子の本体：セントラルドグマ、DNAの複製
事前学習：指定したビデオ教材を事前に閲覧し、疑問点を明らかにしておく。事前に配布する講義資料に示したキーワードリストの語句について、下調べをしておくこと。（2時間）
事後学習：キーワードリストの語句の相互関係を意識しながら、講義資料を読み直すこと。また講義中よくわからなかったところについては、後日配信する講義ビデオを見て確認し、必要であれば担当教員に質問すること。（2時間）
第2回：転写の仕組み
事前学習：指定したビデオ教材を事前に閲覧し、疑問点を明らかにしておく。事前に配布する講義資料に示したキーワードリストの語句について、下調べをしておくこと。（2時間）
事後学習：キーワードリストの語句の相互関係を意識しながら、講義資料を読み直すこと。また講義中よくわからなかったところについては、後日配信する講義ビデオを見て確認し、必要であれば担当教員に質問すること。（2時間）

第３回：翻訳の仕組み、タンパク質の運命
事前学習：指定したビデオ教材を事前に閲覧し、疑問点を明らかにしておく。事前に配布する講義資料に示したキーワードリストの語句について、下調べをしておくこと。（２時間）
事後学習：キーワードリストの語句の相互関係を意識しながら、講義資料を読み直すこと。また講義中よくわからなかったところについては、後日配信する講義ビデオを見て確認し、必要であれば担当教員に質問すること。（２時間）
第４回：ジェネティック、およびエピジェネティックな遺伝子発現制御の概要
事前学習：指定したビデオ教材を事前に閲覧し、疑問点を明らかにしておく。事前に配布する講義資料に示したキーワードリストの語句について、下調べをしておくこと。（２時間）
事後学習：キーワードリストの語句の相互関係を意識しながら、講義資料を読み直すこと。また講義中よくわからなかったところについては、後日配信する講義ビデオを見て確認し、必要であれば担当教員に質問すること。（２時間）
第５回：糖代謝と調節の分子機構
事前学習：事前に配布する講義資料に示したキーワードリストの語句について、下調べをしておくこと。（２時間）
事後学習：キーワードリストの語句の相互関係を意識しながら、講義資料を読み直すこと。また講義中よくわからなかったところについては、後日配信する講義ビデオを見て確認し、必要であれば担当教員に質問すること。（２時間）
第６回：脂質代謝調節の分子機構
事前学習：事前に配布する講義資料に示したキーワードリストの語句について、下調べをしておくこと。（２時間）
事後学習：キーワードリストの語句の相互関係を意識しながら、講義資料を読み直すこと。また講義中よくわからなかったところについては、後日配信する講義ビデオを見て確認し、必要であれば担当教員に質問すること。（２時間）
第７回：タンパク質代謝の分子機構
事前学習：事前に配布する講義資料に示したキーワードリストの語句について、下調べをしておくこと。（２時間）
事後学習：キーワードリストの語句の相互関係を意識しながら、講義資料を読み直すこと。また講義中よくわからなかったところについては、後日配信する講義ビデオを見て確認し、必要であれば担当教員に質問すること。（２時間）
第８回：ビタミン・ミネラル代謝の分子機構
事前学習：事前に配布する講義資料に示したキーワードリストの語句について、下調べをしておくこと。（２時間）
事後学習：キーワードリストの語句の相互関係を意識しながら、講義資料を読み直すこと。また講義中よくわからなかったところについては、後日配信する講義ビデオを見て確認し、必要であれば担当教員に質問すること。（２時間）
第９回：遺伝子解析の手法と原理、遺伝子操作技術とその問題
事前学習：事前に配布する講義資料に示したキーワードリストの語句について、下調べをしておくこと。（２時間）
事後学習：キーワードリストの語句の相互関係を意識しながら、講義資料を読み直すこと。また講義中よくわからなかったところについては、後日配信する講義ビデオを見て確認し、必要であれば担当教員に質問すること。（２時間）
第10回：ヒトゲノム、遺伝子多型と体質
事前学習：事前に配布する講義資料に示したキーワードリストの語句について、下調べをしておくこと。（２時間）
事後学習：キーワードリストの語句の相互関係を意識しながら、講義資料を読み直すこと。また講義中よくわからなかったところについては、後日配信する講義ビデオを見て確認し、必要であれば担当教員に質問すること。（２時間）
第11回：生活習慣病の分子栄養学①：基礎代謝にかかわる遺伝子多型
事前学習：事前に配布する講義資料に示したキーワードリストの語句について、下調べをしておくこと。（２時間）
事後学習：キーワードリストの語句の相互関係を意識しながら、講義資料を読み直すこと。また講義中よくわからなかったところについては、後日配信する講義ビデオを見て確認し、必要であれば担当教員に質問すること。（２時間）
第12回：生活習慣病の分子栄養学②：メタボリックシンドロームの発症機序
事前学習：事前に配布する講義資料に示したキーワードリストの語句について、下調べをしておくこと。（２時間）
事後学習：キーワードリストの語句の相互関係を意識しながら、講義資料を読み直すこと。また講義中よくわからなかったところについては、後日配信する講義ビデオを見て確認し、必要であれば担当教員に質問すること。（２時間）

第13回：がん、アレルギー、老化と分子栄養学
事前学習：事前に配布する講義資料に示したキーワードリストの語句について、下調べをしておくこと。（２時間）
事後学習：キーワードリストの語句の相互関係を意識しながら、講義資料を読み直すこと。また講義中よくわからなかったところについては、後日配信する講義ビデオを見て確認し、必要であれば担当教員に質問すること。（２時間）
第14回：ゲノムインプリンティング、時間栄養学
事前学習：事前に配布する講義資料に示したキーワードリストの語句について、下調べをしておくこと。（２時間）
事後学習：キーワードリストの語句の相互関係を意識しながら、講義資料を読み直すこと。また講義中よくわからなかったところについては、後日配信する講義ビデオを見て確認し、必要であれば担当教員に質問すること。（２時間）
第15回：遺伝子組換え作物・食品
事前学習：事前に配布する講義資料に示したキーワードリストの語句について、下調べをしておくこと。（２時間）
事後学習：キーワードリストの語句の相互関係を意識しながら、講義資料を読み直すこと。また講義中よくわからなかったところについては、後日配信する講義ビデオを見て確認し、必要であれば担当教員に質問すること。（２時間）
第16回：定期試験

授業実施方法（面接授業・遠隔授業）

原則として「面接授業」を行います。
ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。
遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成　績　評　価　方　法

定期試験50％、小テスト（５回程度実施する）50％を基準として、総合的に評価する。

成　績　評　価　基　準

①遺伝子の構造・発現・調節機構ならびに遺伝子産物としてのたんぱく質の構造と機能を説明できるか。
②糖質、脂質、たんぱく質、ビタミン、ミネラルの代謝と、これら栄養素自身が転写因子を介して、生体機能を制御していることを理解し、説明できるか。
③生活習慣病：循環器系疾患、肥満、糖尿病、骨粗鬆症、がん、アレルギーなどの発症機構を、代謝と病態との関連において分子生物学的に説明できるか。
④ゲノム解読に伴って進化を遂げた分子生物学およびその周辺分野の技術を理解し、それらの栄養学や医療などへの応用を概説することができるか。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック

１）授業時の課題に対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　□メール　■その他（小テストの答案を採点し返却する）
２）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
□授業時　■仁大eラーニング　□メール　■その他（講義や補足事項を記録したビデオをOffice365内で閲覧可能とする）
３）小レポートに対するフィードバックについて
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
４）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
■定期試験時　□仁大eラーニング　□メール　■その他（解答例を配布し、質問および結果照会を受け付ける。）
５）その他
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他

実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）

テキスト、参考図書

テキスト：講義用資料を配布する。
統一したテキストは指定しないが、体系的理解のためには関連する書籍を通読されることを推奨する。講義資料作成に際しては、以下の（1）～（3）を中心に準備するので、これらの何れかを手許に置かれることを勧める。
（1）佐久間著・『栄養と遺伝子のはなし　分子栄養学入門第3版』・技報堂出版・2014年
（2）加藤・藤原著・『栄養科学イラストレイテッド　分子栄養学』・羊土社・2014年
（3）宮本・井上・桑波田・金子編・『分子栄養学』・講談社栄養科学シリーズNEXT・2018年
また、リファレンス用途としては以下を勧める。
（4）アルバーツら著、中村・松原監訳・『細胞の分子生物学』第6版・（株）ニュートンプレス・2017年
（5）アルバーツら著、中村ら訳『Essential細胞生物学』（原著第5版）・南江堂・2021年

その他（受講上の注意）

・2年前期開講の「基礎生化学」、及び本科目と同時期に開講の「栄養生化学」は特に関連性が高いので、併せて十分に理解するよう心がけてください。
・遅刻、欠席、私語は自身だけでなく周囲の者の理解の妨げになるので厳に慎むこと。

オフィスアワー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

国際食糧・栄養情報論 (International Food Situation)			担当教員	三浦　努
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−C−2273	1単位	2年前期	講義	選択

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科専門科目　関連科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

学校および地域社会の健康づくりを担うことができる能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識･技能　□論理的思考力と創造力　□人間関係形成･社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解･自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

授業の内容

世界情勢は、かつてないほどのスピードで変化を遂げている。開発途上国では、食料不足による低栄養で生じる健康障害が問題となっていると思われがちである。しかし、栄養の二重苦という過剰栄養と低栄養が混在している状態が共存している国もある。国内外の社会・経済情勢、環境問題等を知り、現状の健康、食糧、栄養に関わる諸課題について学び、どのように対応し解決していくべきかを模索する。

授業の到達目標

国内外の食糧事情、社会・経済構造、健康や栄養状態に関わる現状と課題について理解する。
世界での日本の位置づけを考えながら複雑に絡み合う諸外国との食糧、経済、健康や栄養に関わる問題について理解する。栄養関連の情報についての取集の仕方や内容について的確に解釈できる。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　□グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　□発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等）　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　■その他（文献検索サイト等を活用した情報収集）

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：日本における健康問題、社会・経済構造について
　事前学習：日本における健康問題と人口問題について調べておく。（1時間）
　事後学習：授業で提示した資料の内容について、整理してまとめておくこと。（3時間）
第2回：日本の食生活習慣と栄養状態の変遷と現在の問題点
　事前学習：事前に配布された資料に目を通しておき、要点や疑問点をまとめておく。（2時間）
　事後学習：授業で提示した資料の内容について、整理してまとめておくこと。（2時間）
第3回：日本と諸外国の食糧流通と食糧事情と課題について（日本と諸外国との関わり）
　事前学習：事前に配布された資料に目を通しておき、要点や疑問点をまとめておく。（2時間）
　事後学習：授業で提示した資料の内容について、整理してまとめておくこと。（2時間）
第4回：食糧・栄養関連の情報収集の仕方と解釈について
　事前学習：事前に配布された資料に目を通しておき、要点や疑問点をまとめておく。（2時間）
　事後学習：授業で提示した資料の内容について、整理してまとめておくこと。（2時間）
第5回：食糧・栄養関連の情報収集と整理
　事前学習：健康や栄養に関する興味の事項について予め配付する教材を予習し、情報収集を可能な範囲で試みる。（1時間）
　事後学習：授業で収集した栄養関連情報についてを整理しておくこと。（3時間）
第6回：諸外国の健康状態、社会・経済構造の現状と課題について
　事前学習：事前に配布された資料に目を通しておき、要点や疑問点をまとめておく。（2時間）
　事後学習：授業で提示した資料の内容について、整理してまとめておくこと。（2時間）

第７回：諸外国の栄養状態の現状と課題について
　　事前学習：事前に配布された資料に目を通しておき、要点や疑問点をまとめておく。（２時間）
　　事後学習：授業で提示した資料の内容について、整理してまとめておくこと。（２時間）
第８回：諸外国の健康・栄養施策について
　　事前学習：事前に配布された資料に目を通しておき、要点や疑問点をまとめておく。（２時間）
　　事後学習：授業で提示した資料の内容について、整理してまとめておくこと。（２時間）

授業実施方法（面接授業・遠隔授業）

原則として「面接授業」を行います。ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成　績　評　価　方　法

レポート課題70%、授業への取り組み態度等30%の総合評価（100%）

成　績　評　価　基　準

国内外の食糧事情、社会・経済状況、健康や栄養状態に関わる現状について説明できる。
食糧・栄養関連の情報についての取集ができ、内容の解釈できる。
国内外の食糧事情、社会・経済状況、健康や栄養上の課題について説明できるとともに、問題解決のための考えを述べることができる。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック

１）授業時の課題に対するフィードバックについて
　■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
２）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
　■授業時　■仁大eラーニング　□メール　□その他
３）小レポートに対するフィードバックについて
　■授業時　■仁大eラーニング　□メール　□その他
４）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
　□定期試験時　■仁大eラーニング　□メール　□その他
５）その他
　□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他

実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）

テ　キ　ス　ト　、　参　考　図　書

必要に応じて資料を配布する。

その他（受講上の注意）

授業回は、全８回になるので３回以上の欠席で単位取得ができなくなる。
また出席数を満たしていても課題レポートが未提出であれば単位取得はできない。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

教職論 (Theory of Teacher Education)			担当教員	高野　秀晴
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−C−2281	2単位	2年前期	講義	選択

<科目区分>　人間生活学部特設科目　教職に関する専門科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>　教育の基礎的理解に関する科目

<科目に含めることが必要な事項>　教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）

求める学習成果（教育目標）

学校および地域社会の健康づくりを担うことができる能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力（汎用的能力）

■体系的な知識･技能　□論理的思考力と創造力　□人間関係形成･社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
■自己理解･自己管理能力　□諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　■キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

栄養教諭一種免許状（必修）

授業の内容

教員とは、どのような役割を期待され、どのような環境で、どのような仕事をしているのか。本授業は、これらの問いに対して主に法的、歴史的見地から考察する。また、事例研究を通して様々な教師像を検討することにより、受講生各自が適性を判断し、よりよい教職像を展望する機会としたい。

授業の到達目標

・現代の学校教育や教職の社会的意義を説明できる。
・今日の教員に求められる役割や資質能力について説明したうえで、自己の教職像を展望することができる。
・教員の職務内容の全体像や服務上・身分上の義務を説明できる。
・学校が内外の専門家等と連携・分担して対応する必要性について説明できる。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　□グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　□発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等）　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：オリエンテーション
　事前学習：シラバスをよく読み、学修計画を立てる。（2時間）
　事後学習：授業内容に関連する情報を検索し、学修計画をさらに固める。（2時間）
第2回：教師はどのような仕事をしているのか
　事前学習：授業内容に関連する情報を集めて整理する。（2時間）
　事後学習：授業内容をノートにまとめる。（2時間）
第3回：学校に関わる様々な職業について
　事前学習：授業内容に関連する情報を集めて整理する。（2時間）
　事後学習：授業内容をノートにまとめる。（2時間）
第4回：チームとしての学校
　事前学習：授業内容に関連する情報を集めて整理する。（2時間）
　事後学習：授業内容をノートにまとめる。（2時間）
第5回：よい教師とはどのような教師なのか（討議）
　事前学習：授業内容に関連する情報を集めて整理する。（2時間）
　事後学習：授業内容をノートにまとめる。（2時間）
第6回：教師像の諸相 ── 聖職者、労働者、専門家
　事前学習：授業内容に関連する情報を集めて整理する。（2時間）
　事後学習：授業内容をノートにまとめる。（2時間）
第7回：どうすればよい教師になれるのか（討議）
　事前学習：授業内容に関連する情報を集めて整理する。（2時間）
　事後学習：授業内容をノートにまとめる。（2時間）

第８回：教員養成制度について
　　事前学習：授業内容に関連する情報を集めて整理する。（２時間）
　　事後学習：授業内容をノートにまとめる。（２時間）
第９回：教員養成の歴史
　　事前学習：授業内容に関連する情報を集めて整理する。（２時間）
　　事後学習：授業内容をノートにまとめる。（２時間）
第10回：教員に求められる専門性とは何か
　　事前学習：授業内容に関連する情報を集めて整理する。（２時間）
　　事後学習：授業内容をノートにまとめる。（２時間）
第11回：教員の身分について
　　事前学習：授業内容に関連する情報を集めて整理する。（２時間）
　　事後学習：授業内容をノートにまとめる。（２時間）
第12回：教員の任用について
　　事前学習：授業内容に関連する情報を集めて整理する。（２時間）
　　事後学習：授業内容をノートにまとめる。（２時間）
第13回：教員の服務について
　　事前学習：授業内容に関連する情報を集めて整理する。（２時間）
　　事後学習：授業内容をノートにまとめる。（２時間）
第14回：教員にとって研修のもつ意味
　　事前学習：授業内容に関連する情報を集めて整理する。（２時間）
　　事後学習：授業内容をノートにまとめる。（２時間）
第15回：まとめ
　　事前学習：授業内容に関連する情報を集めて整理する。（２時間）
　　事後学習：授業内容をノートにまとめる。（２時間）
第16回：定期試験

授業実施方法（面接授業・遠隔授業）

原則として「面接授業」を行います。ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成　績　評　価　方　法

定期試験（70％）
平常点（30％）
（平常点は、授業への参加状況と、授業時の課題の内容をもとに評価する。）

成　績　評　価　基　準

・現代の学校教育や教職の社会的意義を説明できるか。
・今日の教員に求められる役割や資質能力について説明できるか。
・教員の職務内容の全体像や服務上・身分上の義務を説明できるか。
・学校が内外の専門家等と連携・分担して対応する必要性について説明できるか。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック

１）授業時の課題に対するフィードバックについて
　■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
２）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
　□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
３）小レポートに対するフィードバックについて
　□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
４）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
　□定期試験時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
５）その他
　□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他

実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）

経歴：（元中学校・義務教育学校教諭、高等学校講師）
実務経験と授業内容との関連性：（中学校・義務教育学校教諭、高等学校講師として、算数・数学を中心とする授業実践や特別活動等の実践を行ってきた経験を有する教員が、教職の意義や教員に求められる資質や能力について講義する。）

テキスト、参考図書

テキスト：授業時に適宜資料を配布する。
参考図書：磯田一雄編『日本の教育課題　9　教師と子どもとのかかわり』東京法令出版　1999年

その他（受講上の注意）
オ フ ィ ス ア ワ ー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

教育心理学 (Educational Psychology)			担当教員	乙部　貴幸
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−C−2283	2単位	2年後期	講義	選択

<科目区分>　人間生活学部特設科目　教職に関する専門科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>　教育の基礎的理解に関する科目

<科目に含めることが必要な事項>　幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程

求める学習成果(教育目標)

学校および地域社会の健康づくりを担うことができる能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識･技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成･社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解･自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプラニング能力

資格・免許の要件

栄養教諭一種免許状（必修）

授業の内容

幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程について、運動発達、言語発達、認知発達、社会性等の発達について各年齢段階の特徴を理解し、代表的な理論を学び、それらを踏まえた学習を支える具体的な指導に関する基礎的な考え方を理解する。

授業の到達目標

・幼児、児童及び生徒の心身の発達と学習の過程及び特徴を理解する
・幼児、児童及び生徒の学習に関する基礎的知識を身に付け、発達を踏まえた学習を支える指導について基礎的な考え方を理解する。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　□グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　□発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等）　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：教育心理学とは：教育心理学とはどのような学問なのかを近接領域も含めて理解することで、この科目を学ぶ意義を理解する。
　事後学習：授業内容のまとめ（4時間）
第2回：発達の量的・質的理解：発達における一般的原理、遺伝と環境の作用について理解する。
　事前学習：上記の該当箇所の予習と疑問点のリストアップ（3時間）
　事後学習：授業内容のまとめ（1時間）
第3回：新生児期・乳児期の発達新生児・乳幼児期の発達：発達の意味と、新生児期・乳児期の運動と認知の発達を理解する。
　事前学習：上記の該当箇所の予習と疑問点のリストアップ（3時間）
　事後学習：授業内容のまとめ（1時間）
第4回：幼児期の発達：幼児期の発達のうち、言葉の理解、自分と他者の理解、基本的生活習慣について理解する。
　事前学習：上記の該当箇所の予習と疑問点のリストアップ（3時間）
　事後学習：授業内容のまとめ（1時間）
第5回：児童期の発達：環境の変化と身体の発達、仲間関係の発達、論理的思考の発達について理解する。
　事前学習：上記の該当箇所の予習と疑問点のリストアップ（3時間）
　事後学習：授業内容のまとめ（1時間）
第6回：青年期以降の発達：思春期・青年期の発達的変化、青年期と発達課題を中心に理解する。
　事前学習：上記の該当箇所の予習と疑問点のリストアップ（3時間）
　事後学習：授業内容のまとめ（1時間）
第7回：発達の諸相・知能と創造性：知的障害、知能及び創造性の捉え方、知能テストの内容と種類を理解する。
　事前学習：上記の該当箇所の予習と疑問点のリストアップ（3時間）
　事後学習：授業内容のまとめ（1時間）

第８回：学習の機能と原理：基本的な学習理論と条件づけの原理を理解する。
事前学習：上記の該当箇所の予習と疑問点のリストアップ（３時間）
事後学習：授業内容のまとめ（１時間）
第９回：学習・記憶と学習方略：観察学習とモデリング、注意と記憶のメカニズムについて理解する。
事前学習：上記の該当箇所の予習と疑問点のリストアップ（３時間）
事後学習：授業内容のまとめ（１時間）
第10回：動機づけと原因帰属：内発的動機づけと外発的動機づけ、自己効力、原因帰属、動機づけの諸理論について理解する。
事前学習：上記の該当箇所の予習と疑問点のリストアップ（３時間）
事後学習：授業内容のまとめ（１時間）
第11回：授業の過程：一斉授業形式、発見学習、有意味受容学習、協働学習、個に応じた教育、諸メディアの教育利用について理解する。
事前学習：上記の該当箇所の予習と疑問点のリストアップ（１時間）
事後学習：課題（３時間）
第12回：学級集団：学級集団の機能、学級集団の査定、教師のリーダーシップ、教師の適性、教師/生徒関係、評価の歪みについて理解する。
事前学習：上記の該当箇所の予習と疑問点のリストアップ（３時間）
事後学習：授業内容のまとめ（１時間）
第13回：学習-教育評価：教育評価の機能と目的、学習指導要領における教育評価、教育評価の分類と技法について理解する。
事前学習：上記の該当箇所の予習と疑問点のリストアップ（１時間）
事後学習：課題（３時間）
第14回：教育統計①測定と記述統計：教育・保育における測定・方法、得られたデータの表現手法について理解する。
事前学習：上記の該当箇所の予習と疑問点のリストアップ（３時間）
事後学習：授業内容のまとめ（１時間）
第15回：教育統計②推測統計：基本的な統計的仮説検定について理解する。
事前学習：上記の該当箇所の予習と疑問点のリストアップ（３時間）
事後学習：授業内容のまとめ（１時間）
第16回：定期試験

授業実施方法（面接授業・遠隔授業）

原則として「面接授業」を行います。
ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。
遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成　績　評　価　方　法

課題レポート（20%×２回）
定期試験（60%）

成　績　評　価　基　準

・幼児、児童及び生徒の心身の発達と学習の過程及び特徴を理解しているか。
・幼児、児童及び生徒の学習に関する基礎的知識を身に付けているか。
・発達を踏まえた学習を支える指導について基礎的な考え方を理解しているか。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック

１）授業時の課題に対するフィードバックについて
■授業時　■仁大eラーニング　□メール　□その他
２）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
■授業時　■仁大eラーニング　□メール　□その他
３）小レポートに対するフィードバックについて
■授業時　■仁大eラーニング　□メール　□その他
４）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
□定期試験時　■仁大eラーニング　□メール　□その他
５）その他
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他

実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）

テキスト、参考図書
テキスト：ガイドライン学校教育心理学（大野木裕明ほか（編著），ナカニシヤ出版，2016年） 参考図書：中学校教育課程実践講座　総則 ── 平成29年改訂（天笠 茂（編著），ぎょうせい，2017） 教育心理学ハンドブック（日本教育心理学会編，有斐閣，2003年） 小学校学習指導要領解説（平成29年３月公示）　文部科学省 中学校学習指導要領解説（平成29年３月公示）　文部科学省
その他（受講上の注意）
この授業では授業資料の配布、課題の提出、試験などを全て仁大e-ラーニングで行います。質問・連絡は、授業の前後、メール/teams、またはオフィスアワーに研究室に来て下さい。
オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

教育課程論 (Theory of Education Curriculum)			担当教員	高野　秀晴
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−C−2286	2単位	2年後期	講義	選択

<科目区分>　人間生活学部特設科目　教職に関する専門科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>　教育の基礎的理解に関する科目

<科目に含めることが必要な事項>　教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）

求める学習成果（教育目標）

学校および地域社会の健康づくりを担うことができる能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力（汎用的能力）

■体系的な知識･技能　□論理的思考力と創造力　□人間関係形成･社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
□自己理解･自己管理能力　□諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

栄養教諭一種免許状（必修）

授業の内容

教育課程とは、学習指導要領によって示される基準にもとづいて、各学校が編成する教育計画のことである。本授業では、学習指導要領（特に「前文」と「第１章」）を精読することを通じて、下記の到達目標を達成できるよう努める。また、過去の学習指導要領についても理解を深め、教育課程編成とそのマネジメントの意義を、歴史的観点からも考察できる力量を培う。

授業の到達目標

・学習指導要領を基準として各学校において編成される教育課程について、その意義や編成の方法を説明できる。
・各学校の実情に合わせてカリキュラム・マネジメントを行うことの意義を説明できる。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　□グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　□発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等）　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第１回：オリエンテーション──教育課程とは何か
　事前学習：シラバスをよく読んで、学修計画を立てる。（２時間）
　事後学習：関連図書を検索したうえで、読書計画を立てる。（２時間）
第２回：学習指導要領とは何か
　事前学習：授業内容に関連する資料を集めて読む。（２時間）
　事後学習：ノートをまとめ直すとともに、関連図書を読み理解を深める。（２時間）
第３回：学習指導要領を読む（１）──「教育課程の役割」について
　事前学習：授業内容に関連する資料を集めて読む。（２時間）
　事後学習：ノートをまとめ直すとともに、関連図書を読み理解を深める。（２時間）
第４回：学習指導要領を読む（２）──「教科等横断的な視点」について
　事前学習：授業内容に関連する資料を集めて読む。（２時間）
　事後学習：ノートをまとめ直すとともに、関連図書を読み理解を深める。（２時間）
第５回：学習指導要領を読む（３）──「教育課程の編成」について
　事前学習：授業内容に関連する資料を集めて読む。（２時間）
　事後学習：ノートをまとめ直すとともに、関連図書を読み理解を深める。（２時間）
第６回：学習指導要領を読む（４）──「教育課程の実施と学習評価」について
　事前学習：授業内容に関連する資料を集めて読む。（２時間）
　事後学習：ノートをまとめ直すとともに、関連図書を読み理解を深める。（２時間）
第７回：学力とは何か
　事前学習：授業内容に関連する資料を集めて読む。（２時間）
　事後学習：ノートをまとめ直すとともに、関連図書を読み理解を深める。（２時間）

第８回：評価は何のために行なうのか
　　事前学習：授業内容に関連する資料を集めて読む。（２時間）
　　事後学習：ノートをまとめ直すとともに、関連図書を読み理解を深める。（２時間）
第９回：学習評価からカリキュラム・マネジメントへ
　　事前学習：授業内容に関連する資料を集めて読む。（２時間）
　　事後学習：ノートをまとめ直すとともに、関連図書を読み理解を深める。（２時間）
第10回：学習指導要領の歴史的変遷（１）――1940年代後半
　　事前学習：授業内容に関連する資料を集めて読む。（２時間）
　　事後学習：ノートをまとめ直すとともに、関連図書を読み理解を深める。（２時間）
第11回：学習指導要領の歴史的変遷（２）――1950～60年代
　　事前学習：授業内容に関連する資料を集めて読む。（２時間）
　　事後学習：ノートをまとめ直すとともに、関連図書を読み理解を深める。（２時間）
第12回：学習指導要領の歴史的変遷（３）――1970～80年代
　　事前学習：授業内容に関連する資料を集めて読む。（２時間）
　　事後学習：ノートをまとめ直すとともに、関連図書を読み理解を深める。（２時間）
第13回：学習指導要領の歴史的変遷（４）――1990年代以降
　　事前学習：授業内容に関連する資料を集めて読む。（２時間）
　　事後学習：ノートをまとめ直すとともに、関連図書を読み理解を深める。（２時間）
第14回：いわゆる「ゆとり教育」とは何だったのか
　　事前学習：授業内容に関連する資料を集めて読む。（２時間）
　　事後学習：ノートをまとめ直すとともに、関連図書を読み理解を深める。（２時間）
第15回：まとめ
　　事前学習：授業内容に関連する資料を集めて読む。（２時間）
　　事後学習：ノートをまとめ直すとともに、関連図書を読み理解を深める。（２時間）
第16回：定期試験

授業実施方法（面接授業・遠隔授業）

原則として「面接授業」を行います。
ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。
遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成績評価方法

定期試験（80％）
平常点（20％）
（平常点は、授業への参加状況と授業時の課題の提出状況により判断する）

成績評価基準

・学習指導要領を基準として各学校において編成される教育課程について、その意義や編成の方法を説明できるか。
・各学校の実情に合わせてカリキュラム・マネジメントを行うことの意義を説明できるか。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック

１）授業時の課題に対するフィードバックについて
　■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
２）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
　□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
３）小レポートに対するフィードバックについて
　□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
４）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
　□定期試験時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
５）その他
　□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他

実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）

テキスト、参考図書

・テキスト
小学校学習指導要領（平成29年３月公示　文部科学省）
中学校学習指導要領（平成29年３月公示　文部科学省）
高等学校学習指導要領（平成30年３月公示　文部科学省）
・参考図書
授業時に指示する。

その他（受講上の注意）
オ フ ィ ス ア ワ ー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

教育の方法と技術(ICT活用を含む) (Educational methods and techniques (including using ICT)			担当教員	篭谷　隆弘
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−C−2289	2単位	2年後期	講義	選択

<科目区分>　人間生活学部特設科目　教職に関する専門科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>　教育の基礎的理解に関する科目

<科目に含めることが必要な事項>　教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）

求める学習成果(教育目標)

学校および地域社会の健康づくりを担うことができる能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識･技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成･社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
□自己理解･自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

栄養教諭一種免許状（必修）

授業の内容

プリント資料やウェブ上の資料を参考に教育方法の理論について解説する。関連する事項について各自の考えをもとに、他の受講者と授業内やオンライン上での対話・議論を行う。オンラインフォーラムにおいては、授業テーマに関する自身の考えを述べながら、他者との議論を深める必要がある。また実際に情報機器を活用して教材を作成し、それが適切なものであるかを相互評価する。学習指導案を作成し、それにもとづく模擬授業を行った後、評価を行う。教材制作・模擬授業準備においては、市販のソフトウェア関連の書籍やウェブ上の資料を参考に、授業時間外にも作業を行う必要がある。

授業の到達目標

教育方法に関する基礎的な理論や授業を構成する要件（カリキュラム・児童・教員・教材等）を理解し、設計・実施・評価といった実践に向けての指導技術を身につける。
また、授業に際して情報機器をどのように活用すると効果的か、子どもの情報活用能力の育成にどのような教材を作成し活用すると良いかを考え、それらに関する基礎的な能力を身につける。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等）　□実習、フィールドワーク　■実験、実技　■その他（オンラインでのディスカッション・相互評価）

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：授業の目的・計画・評価方法の説明。学校・教育の現状と課題
　事後学習：学習管理システム（LMS）のフォーラム上に自身の意見を記述する。（2時間）
第2回：学習指導要領、指導計画、カリキュラム、指導法、主体的・対話的で深い学び
　事前学習：配布資料等の内容を確認する。（1時間）
　事後学習：LMSのフォーラムにて他者の意見を読み、コメントする。（オンラインディスカッション）
　　LMSのフォーラム上に自身のアイデアを記述する。（2時間）
第3回：授業を構成する要件（学級、児童及び生徒・教員、教材・教具・視聴覚メディア）
　事前学習：配布資料等の内容を確認する。（1時間）
　事後学習：動画教材を作成しLMSのワークショップに提出する。（5時間）
第4回：教育の情報化（情報教育、教科指導、校務）、情報モラル、教育情報セキュリティ
　事前学習：配布資料等の内容を確認する。（1時間）
　事後学習：LMSのワークショップに提出された動画教材を評価する。（オンラインでの相互評価）
　　LMSのフォーラム上に自身の意見を記述する。（3時間）
第5回：デジタル教科書・デジタル教材の活用、特別支援におけるICTの活用と留意
　事前学習：配布資料等の内容を確認する。（1時間）
　事後学習：LMSのフォーラム上に自身の意見を記述する。（3時間）

第６回：Web サービスを利用したアンケートや小テスト問題の作成と教育データの分析・評価
事前学習：配布資料等の内容を確認する。（１時間）
事後学習：Webアンケートを作成しLMSのフォーラムに投稿する。（３時間）
第７回：ストーリー型インタラクティブ教材の設計（テーマ設定、展開）
事前学習：配布資料等の内容を確認する。（１時間）
事後学習：Webアンケートを回答する。ストーリー型教材のテーマを決め素材データを準備する。（３時間）
第８回：ストーリー型インタラクティブ教材の制作（画像・写真・音・アニメーションの活用）（実技）
事前学習：配布資料等の内容を確認する。（１時間）
事後学習：Webアンケートを分析する。ストーリー型教材を完成させワークショップに提出する。（４時間）
第９回：社会的変化に対応する学びと資質・能力、プログラミング教育による論理的思考力の育成
事前学習：配布資料等の内容を確認する。（１時間）
事後学習：ストーリー型教材を評価する。ミニプログラムを作成する。（１時間）
第10回：プログラミングによる教材の設計と各教科等での活用
事前学習：配布資料等の内容を確認する。（１時間）
事後学習：教材プログラムを作成する。（３時間）
第11回：プログラミングによる教材の制作と相互評価（実技）
事前学習：配布資料等の内容を確認する。（１時間）
事後学習：教材プログラムを完成させる。（５時間）
第12回：教育メディア・ICTを活用した模擬授業の計画（グループワーク）
事前学習：配布資料等の内容を確認する。（１時間）
事後学習：グループで模擬授業の役割分担と指導案を決める。（１時間）
第13回：教育メディア・ICTを活用した模擬授業の実施（発表・グループワーク）
事前学習：模擬授業の準備を行なう。（２時間）
事後学習：模擬授業の評価を記録する。（２時間）
第14回：教育メディア・ICTを活用した模擬授業の評価と改善提案（発表・グループワーク）
事前学習：模擬授業の準備を行なう。（２時間）
事後学習：模擬授業の評価を記録する。（２時間）
第15回：模擬授業を踏まえた教育の方法と技術のまとめ、教育に関わるテクノロジーの展望・環境整備
事後学習：模擬授業の評価集計・分析を行なう。授業全体の振り返りを行いレポートとしてまとめる。（６時間）
定期試験は実施しない

授業実施方法（面接授業・遠隔授業）

原則として「面接授業」を行います。
ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。
遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成　績　評　価　方　法

課せられた課題・成果物を提出していることを重視して評価する。
受講態度（10%）、前半内容に関連する課題と制作物（30%）、後半内容に関する制作物（40%）、模擬授業内容と相互評価（20%）

成　績　評　価　基　準

授業の設計・実施・評価等に関する知識を修得しているか。
教材や教育メディアの選択・構成・活用等に関する力量が身についているか。
模擬授業について周到に準備を行い、的確に実施できているか。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック

１）授業時の課題に対するフィードバックについて
■授業時　■仁大eラーニング　□メール　□その他
２）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
■授業時　■仁大eラーニング　□メール　□その他
３）小レポートに対するフィードバックについて
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
４）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
□定期試験時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
５）その他
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他

実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）

テキスト、参考図書

テキスト
プリント資料および学習支援システムでのリソースにて提示する。
参考図書
参考図書：
（1）教育の方法・技術とＩＣＴ（やさしく学ぶ教職課程 シリーズ）（古賀毅・高橋優 編著　学文社 2022年）
（2）教育方法論【改訂版】（教職課程シリーズ）（谷田貝公昭・成田国英・林邦雄著、一藝社出版　2015年）
（3）教育の方法と技術-第3版（教育学のポイント・シリーズ）（単行本）（柴田義松・山崎準二著　学文社　2019年）
参考資料：
小学校学習指導要領（平成29年3月告示　文部科学省）
中学校学習指導要領（平成29年3月公示　文部科学省）
プリント資料および学習支援システムでのリソースを利用する。
オンラインフォーラムにおいて、授業テーマに関する自身の考えを述べ、他者との議論も深める必要がある。
教材制作・模擬授業準備においては、市販のソフトウェア関連の書籍やWWWの資料を参考に、授業時間外にも作業を行う必要がある。

その他（受講上の注意）

欠席した場合には、授業の進度を確認し次週に備えること。模擬授業に関連して準備・練習を十分行うこと。

オフィスアワー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

教育心理学 (Educational Psychology)			担当教員	乙部　貴幸
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−D−2260	2単位	2年後期	講義	必修

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　基幹科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>　教育の基礎的理解に関する科目

<科目に含めることが必要な事項>　幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程

求める学習成果(教育目標)

教育・保育の基礎理論の理解

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識･技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成･社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解･自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプラニング能力

資格・免許の要件

小学校教諭一種免許状（必修）、幼稚園教諭一種免許状（必修）、保育士資格（選択）

授業の内容

幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程について、運動発達、言語発達、認知発達、社会性等の発達について各年齢段階の特徴を理解し、代表的な理論を学び、それらを踏まえた学習を支える具体的な指導に関する基礎的な考え方を理解する。

授業の到達目標

・幼児、児童及び生徒の心身の発達と学習の過程及び特徴を理解する
・幼児、児童及び生徒の学習に関する基礎的知識を身に付け、発達を踏まえた学習を支える指導について基礎的な考え方を理解する。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　□グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　□発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等）　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：教育心理学とは：教育心理学とはどのような学問なのかを近接領域も含めて理解することで、この科目を学ぶ意義を理解する。
　事後学習：授業内容のまとめ（4時間）
第2回：発達の量的・質的理解：発達における一般的原理、遺伝と環境の作用について理解する。
　事前学習：上記の該当箇所の予習と疑問点のリストアップ（3時間）
　事後学習：授業内容のまとめ（1時間）
第3回：新生児期・乳児期の発達新生児・乳幼児期の発達：発達の意味と、新生児期・乳児期の運動と認知の発達を理解する。
　事前学習：上記の該当箇所の予習と疑問点のリストアップ（3時間）
　事後学習：授業内容のまとめ（1時間）
第4回：幼児期の発達：幼児期の発達のうち、言葉の理解、自分と他者の理解、基本的生活習慣について理解する。
　事前学習：上記の該当箇所の予習と疑問点のリストアップ（3時間）
　事後学習：授業内容のまとめ（1時間）
第5回：児童期の発達：環境の変化と身体の発達、仲間関係の発達、論理的思考の発達について理解する。
　事前学習：上記の該当箇所の予習と疑問点のリストアップ（3時間）
　事後学習：授業内容のまとめ（1時間）
第6回：青年期以降の発達：思春期・青年期の発達的変化、青年期と発達課題を中心に理解する。
　事前学習：上記の該当箇所の予習と疑問点のリストアップ（3時間）
　事後学習：授業内容のまとめ（1時間）
第7回：発達の諸相・知能と創造性：知的障害、知能及び創造性の捉え方、知能テストの内容と種類を理解する。
　事前学習：上記の該当箇所の予習と疑問点のリストアップ（3時間）
　事後学習：授業内容のまとめ（1時間）

第８回：学習の機能と原理：基本的な学習理論と条件づけの原理を理解する。
事前学習：上記の該当箇所の予習と疑問点のリストアップ（３時間）
事後学習：授業内容のまとめ（１時間）
第９回：学習・記憶と学習方略：観察学習とモデリング、注意と記憶のメカニズムについて理解する。
事前学習：上記の該当箇所の予習と疑問点のリストアップ（３時間）
事後学習：授業内容のまとめ（１時間）
第10回：動機づけと原因帰属：内発的動機づけと外発的動機づけ、自己効力、原因帰属、動機づけの諸理論について理解する。
事前学習：上記の該当箇所の予習と疑問点のリストアップ（３時間）
事後学習：授業内容のまとめ（１時間）
第11回：授業の過程：一斉授業形式、発見学習、有意味受容学習、協働学習、個に応じた教育、諸メディアの教育利用について理解する。
事前学習：上記の該当箇所の予習と疑問点のリストアップ（１時間）
事後学習：課題（３時間）
第12回：学級集団：学級集団の機能、学級集団の査定、教師のリーダーシップ、教師の適性、教師/生徒関係、評価の歪みについて理解する。
事前学習：上記の該当箇所の予習と疑問点のリストアップ（３時間）
事後学習：授業内容のまとめ（１時間）
第13回：学習-教育評価：教育評価の機能と目的、学習指導要領における教育評価、教育評価の分類と技法について理解する。
事前学習：上記の該当箇所の予習と疑問点のリストアップ（１時間）
事後学習：課題（３時間）
第14回：教育統計①測定と記述統計：教育・保育における測定・方法、得られたデータの表現手法について理解する。
事前学習：上記の該当箇所の予習と疑問点のリストアップ（３時間）
事後学習：授業内容のまとめ（１時間）
第15回：教育統計②推測統計：基本的な統計的仮説検定について理解する。
事前学習：上記の該当箇所の予習と疑問点のリストアップ（３時間）
事後学習：授業内容のまとめ（１時間）
第16回：定期試験

授業実施方法（面接授業・遠隔授業）

原則として「面接授業」を行います。
ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。
遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成　績　評　価　方　法

課題レポート（20% × 2回）
定期試験（60%）

成　績　評　価　基　準

・幼児、児童及び生徒の心身の発達と学習の過程及び特徴を理解しているか。
・幼児、児童及び生徒の学習に関する基礎的知識を身に付けているか。
・発達を踏まえた学習を支える指導について基礎的な考え方を理解しているか。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック

１）授業時の課題に対するフィードバックについて
■授業時　■仁大eラーニング　□メール　□その他
２）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
■授業時　■仁大eラーニング　□メール　□その他
３）小レポートに対するフィードバックについて
■授業時　■仁大eラーニング　□メール　□その他
４）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
□定期試験時　■仁大eラーニング　□メール　□その他
５）その他
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他

実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）

テキスト、参考図書
テキスト：ガイドライン学校教育心理学（大野木裕明ほか（編著），ナカニシヤ出版，2016年） 参考図書：中学校教育課程実践講座　総則 ── 平成29年改訂（天笠 茂（編著），ぎょうせい，2017） 教育心理学ハンドブック（日本教育心理学会編，有斐閣，2003年） 小学校学習指導要領解説（平成29年３月公示）　文部科学省 幼稚園教育要領解説（平成29年３月公示）　文部科学省
その他（受講上の注意）
この授業では授業資料の配布、課題の提出、試験などを全て仁大e-ラーニングで行います。質問・連絡は、授業の前後、メール/teams、またはオフィスアワーに研究室に来て下さい。
オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

教育の方法と技術(ICT活用を含む) (Educational methods and techniques (including using ICT))			担当教員	篭谷　隆弘
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−B−2250	2単位	2年後期	講義	選択

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　基幹科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>　教育の基礎的理解に関する科目

<科目に含めることが必要な事項>　教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）

求める学習成果(教育目標)

教育・保育の内容の理解及び指導方法

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識･技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成･社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
□自己理解･自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

小学校教諭一種免許状（必修）、幼稚園教諭一種免許状（必修）

授業の内容

プリント資料やWeb上の資料を参考に教育方法の理論について解説する。関連する事項について各自の考えをもとに、他の受講者と授業内やオンライン上での対話・議論を行う。また実際に情報機器を活用して教材を作成し、それが適切なものであるかを相互評価する。学習指導案を作成し、それにもとづく模擬授業を行った後、評価を行う。

授業の到達目標

教育方法に関する基礎的な理論や授業を構成する要件（カリキュラム・児童・教員・教材等）を理解し、設計・実施・評価といった実践に向けての指導技術を身につける。
また、授業に際して情報機器をどのように活用すると効果的か、子どもの情報活用能力の育成にどのような教材を作成し活用すると良いかを考え、それらに関する基礎的な能力を身につける。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等）　□実習、フィールドワーク　■実験、実技　■その他（オンラインでのディスカッション・相互評価）

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：授業の目的・計画・評価方法の説明。学校・教育の現状と課題
　事後学習：学習管理システム（LMS）のフォーラム上に自身の意見を記述する。（2時間）
第2回：学習指導要領、指導計画、カリキュラム、指導法、主体的・対話的で深い学び
　事前学習：配布資料等の内容を確認する。（1時間）
　事後学習：LMSのフォーラムにて他者の意見を読み、コメントする。（オンラインディスカッション）
　　LMSのフォーラム上に自身のアイデアを記述する。（2時間）
第3回：授業を構成する要件（学級、児童及び生徒・教員、教材・教具・視聴覚メディア）
　事前学習：配布資料等の内容を確認する。（1時間）
　事後学習：動画教材を作成しLMSのワークショップに提出する。（5時間）
第4回：教育の情報化（情報教育、教科指導、校務）、情報モラル、教育情報セキュリティ
　事前学習：配布資料等の内容を確認する。（1時間）
　事後学習：LMSのワークショップに提出された動画教材を評価する。（オンラインでの相互評価）
　　LMSのフォーラム上に自身の意見を記述する。（3時間）
第5回：デジタル教科書・デジタル教材の活用、特別支援におけるICTの活用と留意
　事前学習：配布資料等の内容を確認する。（1時間）
　事後学習：LMSのフォーラム上に自身の意見を記述する。（3時間）
第6回：Web サービスを利用したアンケートや小テスト問題の作成と教育データの分析・評価
　事前学習：配布資料等の内容を確認する。（1時間）
　事後学習：Webアンケートを作成しLMSのフォーラムに投稿する。（3時間）

第７回：ストーリー型インタラクティブ教材の設計（テーマ設定、展開）
　　事前学習：配布資料等の内容を確認する。（１時間）
　　事後学習：Webアンケートを回答する。ストーリー型教材のテーマを決め素材データを準備する。（３時間）
第８回：ストーリー型インタラクティブ教材の制作（画像・写真・音・アニメーションの活用）（実技）
　　事前学習：配布資料等の内容を確認する。（１時間）
　　事後学習：Webアンケートを分析する。ストーリー型教材を完成させワークショップに提出する。（４時間）
第９回：社会的変化に対応する学びと資質・能力、プログラミング教育による論理的思考力の育成
　　事前学習：配布資料等の内容を確認する。（１時間）
　　事後学習：ストーリー型教材を評価する。ミニプログラムを作成する。（１時間）
第10回：プログラミングによる教材の設計と各教科等での活用
　　事前学習：配布資料等の内容を確認する。（１時間）
　　事後学習：教材プログラムを作成する。（３時間）
第11回：プログラミングによる教材の制作と相互評価（実技）
　　事前学習：配布資料等の内容を確認する。（１時間）
　　事後学習：教材プログラムを完成させる。（５時間）
第12回：教育メディア・ICTを活用した模擬授業の計画（グループワーク）
　　事前学習：配布資料等の内容を確認する。（１時間）
　　事後学習：グループで模擬授業の役割分担と指導案を決める。（１時間）
第13回：教育メディア・ICTを活用した模擬授業の実施（発表・グループワーク）
　　事前学習：模擬授業の準備を行なう。（２時間）
　　事後学習：模擬授業の評価を記録する。（２時間）
第14回：教育メディア・ICTを活用した模擬授業の評価と改善提案（発表・グループワーク）
　　事前学習：模擬授業の準備を行なう。（２時間）
　　事後学習：模擬授業の評価を記録する。（２時間）
第15回：模擬授業を踏まえた教育の方法と技術のまとめ、教育に関わるテクノロジーの展望・環境整備
　　事後学習：模擬授業の評価集計・分析を行なう。授業全体の振り返りを行いレポートとしてまとめる。（６時間）
定期試験は実施しない

授業実施方法（面接授業・遠隔授業）

原則として「面接授業」を行います。
ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。
遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成　績　評　価　方　法

課せられた課題・成果物を提出していることを重視して評価する。
受講態度（10%）、前半内容に関連する課題と制作物（30%）、後半内容に関する制作物（40%）、模擬授業内容と相互評価（20%）

成　績　評　価　基　準

授業の設計・実施・評価等に関する知識を修得しているか。
教材や教育メディアの選択・構成・活用等に関する力量が身についているか。
模擬授業について周到に準備を行い、的確に実施できているか。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック

１）授業時の課題に対するフィードバックについて
　■授業時　■仁大eラーニング　□メール　□その他
２）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
　■授業時　■仁大eラーニング　□メール　□その他
３）小レポートに対するフィードバックについて
　□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
４）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
　□定期試験時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
５）その他
　□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他

実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）

テキスト、参考図書

テキスト：
プリント資料および学習支援システムでのリソースにて提示する。

参考図書：
（1）　教育の方法・技術とＩＣＴ（やさしく学ぶ教職課程 シリーズ）（古賀毅・高橋優 編著　学文社 2022年）
（2）　教育方法論【改訂版】（教職課程シリーズ）（谷田貝公昭・成田国英・林邦雄著、一藝社出版　2015年）
（3）　教育の方法と技術-第３版（教育学のポイント・シリーズ）（単行本）（柴田義松・山崎準二著　学文社　2019年）
参考資料：
小学校学習指導要領（平成29年３月告示　文部科学省）
幼稚園教育要領（平成29年３月告示　文部科学省）
幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年３月告示　内閣府・文部科学省・厚生労働省）

その他（受講上の注意）

オンラインフォーラムにおいて、授業テーマに関する自身の考えを述べ、他者との議論も深める必要がある。
教材制作・模擬授業準備においては、市販のソフトウェア関連の書籍やWWWの資料を参考に、授業時間外にも作業を行う必要がある。

欠席した場合には、授業の進度を確認し次週に備えること。

オフィスアワー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

教育課程論Ⅱ (Theory of Education CurriculumⅡ)			担当教員	草桶　勇人
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−B−2251	2単位	2年後期	講義	必修

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　基幹科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>　教育の基礎的理解に関する科目

<科目に含めることが必要な事項>　教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）

求める学習成果（教育目標）

教育・保育の内容の理解及び指導方法

身につけることを目指す社会的・職業的能力（汎用的能力）

■体系的な知識･技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成･社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
■自己理解･自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

小学校教諭一種免許状（必修）

授業の内容

学校教育において教育課程が有する役割・機能・意義を理解し、教育課程編成の基本原理及び学校の教育実践に即した教育課程編成の方法を理解する。また、教科・領域・学年をまたいでカリキュラムを把握し、学校教育課程全体をマネジメントすることの意義を理解する。

授業の到達目標

学習指導要領を基準として各学校において編成される教育課程について、その意義や編成の方法を理解するとともに、各学校の実情に合わせてカリキュラム・マネジメントを行うことに意義を理解する。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習（PBL）　■討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等）　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：教育課程（カリキュラム）とは何か
　事前学習：『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説　総則編』第1章を読み、要点をまとめておくこと。（2時間）
　事後学習：講義をもとに『総則編』第2章を読み教育課程の基準について、リフレクションシートにまとめる。（2時間）
第2回：教育課程の編成と学習指導要領
　事前学習：『解説　総則編』第3章第1節1・2を読み、要点をまとめておくこと。（2時間）
　事後学習：講義をもとに教育課程の編成について、リフレクションシートにまとめる。（2時間）
第3回：アクティブ・ラーニングと資質・能力－コンテンツからコンピテンシー・ベースのカリキュラムへ
　事前学習：『解説　総則編』第3章第1節3を読み、要点をまとめておくこと。（2時間）
　事後学習：講義をもとに育成を目指す資質・能力について、リフレクションシートにまとめる。（2時間）
第4回：主体的・対話的で深い学びと見方・考え方－事例を通して（1）（グループワークと討議）
　事前学習：『解説　総則編』第3章第3節1を読み、要点をまとめておくこと。（2時間）
　事後学習：事例をもとにしたグループワークと討議を通して考察した「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」について、リフレクションシートにまとめる。（2時間）
第5回：主体的・対話的で深い学びと見方・考え方－事例を通して（2）（グループワークと討議）
　事前学習：これまで自分が受けてきた授業で印象的であった内容をまとめておくこと。（2時間）
　事後学習：事例をもとにしたグループワークと討議を通して考察した「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」について、リフレクションシートにまとめる。（2時間）
第6回：社会に開かれた教育課程と学びの地図－カリキュラム・マネジメントの意義
　事前学習：『解説　総則編』第3章第1節4を読み、要点をまとめておくこと。（2時間）
　事後学習：講義をもとに社会に開かれた教育課程とカリキュラム・マネジメントについて、リフレクションシートにまとめる。（2時間）

第７回：教育課程の実施と学習評価及び学校間段階の接続について
事前学習：『解説　総則編』第３章第２節・第３節 ２を読み、要点をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：講義をもとに教育課程の実施と学習評価及び幼小接続について、リフレクションシートにまとめる。（２時間）第８回：特色ある学校の教育課程（１）――事例①（グループワークと討議）
事前学習：『解説　総則編』第３章第４節を読み、要点をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：連携協力校の事例等をもとにしたグループワークと討議から特色ある教育課程について、リフレクションシートにまとめる。（２時間）
第９回：特色ある学校の教育課程（２）――事例②（グループワークと討議）
事前学習：『解説　総則編』第３章第５節を読み、要点をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：連携協力校の事例等をもとにしたグループワークと討議から特色ある教育課程について、リフレクションシートにまとめる。（２時間）
第10回：総合的な学習の時間と教育課程
事前学習：『新しい時代の教育課程 第５版』第５章第４節を読み、要点をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：講義をもとに総合的な学習の時間と教育課程について、リフレクションシートにまとめる。（２時間）
第11回：総合的な学習の時間とその実際――事例（グループワークと発表）
事前学習：これまでに受けてきた総合的な学習の時間で印象的であった内容をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：事例を通したグループワークと発表をもとに総合的な学習の時間の目標と内容について、リフレクションシートにまとめる。（２時間）
第12回：教育課程と特別活動
事前学習：『解説　特別活動編』第１章を読み、要点をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：講義をもとに教育課程と特別活動について、リフレクションシートにまとめる。（２時間）
第13回：特別活動の内容とその実際――事例（グループワークと発表）
事前学習：『解説　特別活動編』第３章を読み、要点をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：事例を通したグループワークと発表をもとに特別活動の目標と内容について、リフレクションシートにまとめる。（２時間）
第14回：生徒指導と教育課程
事前学習：『生徒指導提要』第２章を読み、要点をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：講義をもとに生徒指導と教育課程について、リフレクションシートにまとめる。（２時間）
第15回：教育課程のまとめと今後の課題
事前学習：これまでの講義の概要を概観し、要点をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：教育課程について、この講義で学んだことについて、リフレクションシートにまとめる。（２時間）

授業実施方法（面接授業・遠隔授業）

原則として「面接授業」を行います。
ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。
遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成　績　評　価　方　法

毎回のＡ４裏表１枚のリフレクション・レポート（３％×10回）、ワークショップレポート（10％×５回）、講義内容に関連するレポート（10％×２回）で総合的に評価する。

成　績　評　価　基　準

教育課程の意義や編成と実施の仕方、評価と改善について理解できたか。
教育課程の基準としての学習指導要領について理解できたか。
学校の教育計画の全体構造について理解し、各学校の実情に合わせたカリキュラム・マネジメントの意義を理解できたか。
特別活動の目標とその内容を理解できたか。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック

１）授業時の課題に対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
２）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
３）小レポートに対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
４）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
□定期試験時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
５）その他
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他

実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）

経歴：（元中学校・義務教育学校教諭、高等学校講師）
実務経験と授業内容との関連性：（中学校・義務教育学校教諭、高等学校講師として、授業実践、生活指導実践を行ってきた経験と算数・数学のカリキュラム開発の経験を有する教員が、カリキュラム編成や学習指導要領の理解等、教育課程に関わり、教員が必要とする専門性・技能等について講義する。）

テキスト、参考図書

テキスト：文部科学省『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説　総則編』東洋館出版社、2018年
田中耕治 他『新しい時代の教育課程 第５版』有斐閣アルマ、2019年
参考書・参考資料等：文部科学省『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説　特別活動編』東洋館出版社、2018年
丹野清彦著『子どもの願い　いじめVS12の哲学』高文研、2018年
文部科学省『生徒指導提要』東洋館出版、2023年

その他（受講上の注意）

学習指導要領の改訂やその実施に関するニュース等に関心を持ち、国や福井県の動向を把握すること。

オフィスアワー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

社会福祉 (Social Welfare)			担当教員	青井　夕貴
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−A−2200	2単位	2年前期	講義	必修

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　基幹科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

教育・保育の基礎理論の理解

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識･技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成･社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
■自己理解･自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

保育士資格（必修）

授業の内容

保育士は、国家資格化や保育所保育指針の改定などを経て、子どもを取りまく社会、地域、家庭などを踏まえた子育てニーズを捉え、社会福祉の専門職として応えることが求められている。本授業では、保育士に必要な社会福祉の知識を習得し、保育実践を福祉的な視点で考える作業を重視する。

授業の到達目標

現代社会における社会福祉の意義と歴史的変遷及び社会福祉における子ども家庭支援の視点について理解する。
社会福祉の制度や実施体系等について理解する。
社会福祉における相談援助について理解する。
社会福祉における利用者の保護に関わる仕組みについて理解する。
社会福祉の動向と課題について理解する。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　□グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　□発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等）　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：オリエンテーション～社会福祉の構造と理念
　事前学習：テキストの第1章を読み、疑問点や自分の考えを整理しておく。（2時間）
　事後学習：授業中に抱いた疑問点について、関連する文献等を自ら調べ、さらに理解を深める。（2時間）
第2回：社会福祉と子ども家庭福祉
　事前学習：テキストの第15章を読み、疑問点や自分の考えを整理しておく。（2時間）
　事後学習：授業中に抱いた疑問点について、関連する文献等を自ら調べ、さらに理解を深める。（2時間）
第3回：社会福祉の歴史的変遷
　事前学習：テキストの第2章を読み、疑問点や自分の考えを整理しておく。（2時間）
　事後学習：授業中に抱いた疑問点について、関連する文献等を自ら調べ、さらに理解を深める。（2時間）
第4回：社会福祉の制度と法体系
　事前学習：テキストの第5章を読み、疑問点や自分の考えを整理しておく。（2時間）
　事後学習：授業中に抱いた疑問点について、関連する文献等を自ら調べ、さらに理解を深める。（2時間）
第5回：社会福祉行財政
　事前学習：テキストの第8章を読み、疑問点や自分の考えを整理しておく。（2時間）
　事後学習：授業中に抱いた疑問点について、関連する文献等を自ら調べ、さらに理解を深める。（2時間）
第6回：社会福祉の実施機関
　事前学習：テキストの第9章を読み、疑問点や自分の考えを整理しておく。（2時間）
　事後学習：授業中に抱いた疑問点について、関連する文献等を自ら調べ、さらに理解を深める。（2時間）
第7回：社会福祉施設
　事前学習：テキストの第10章を読み、疑問点や自分の考えを整理しておく。（2時間）
　事後学習：授業中に抱いた疑問点について、関連する文献等を自ら調べ、さらに理解を深める。（2時間）

第８回：社会福祉の専門職
　　事前学習：テキストの第11章を読み、疑問点や自分の考えを整理しておく。（２時間）
　　事後学習：授業中に抱いた疑問点について、関連する文献等を自ら調べ、さらに理解を深める。（２時間）
第９回：社会福祉における相談援助
　　事前学習：テキストの第12章を読み、疑問点や自分の考えを整理しておく。（２時間）
　　事後学習：授業中に抱いた疑問点について、関連する文献等を自ら調べ、さらに理解を深める。（２時間）
第10回：社会保障
　　事前学習：テキストの第８章を読み、疑問点や自分の考えを整理しておく。（２時間）
　　事後学習：授業中に抱いた疑問点について、関連する文献等を自ら調べ、さらに理解を深める。（２時間）
第11回：情報提供、第三者評価
　　事前学習：テキストの第13章を読み、疑問点や自分の考えを整理しておく。（２時間）
　　事後学習：授業中に抱いた疑問点について、関連する文献等を自ら調べ、さらに理解を深める。（２時間）
第12回：利用者の権利擁護と苦情解決
　　事前学習：テキストの第13章を読み、疑問点や自分の考えを整理しておく。（２時間）
　　事後学習：授業中に抱いた疑問点について、関連する文献等を自ら調べ、さらに理解を深める。（２時間）
第13回：社会福祉の現状と課題～貧困、差別、孤立
　　事前学習：テキストの第14章を読み、疑問点や自分の考えを整理しておく。（２時間）
　　事後学習：授業中に抱いた疑問点について、関連する文献等を自ら調べ、さらに理解を深める。（２時間）
第14回：社会福祉の現状と課題～地域共生社会、インクルーシブ社会
　　事前学習：テキストの第16・17章を読み、疑問点や自分の考えを整理しておく。（２時間）
　　事後学習：授業中に抱いた疑問点について、関連する文献等を自ら調べ、さらに理解を深める。（２時間）
第15回：まとめ～社会福祉の動向と展望
　　事前学習：テキストの第18・19章及びエピローグを読み、疑問点や自分の考えを整理しておく。（２時間）
　　事後学習：授業中に抱いた疑問点について、関連する文献等を自ら調べ、さらに理解を深める。（２時間）
第16回：定期試験

授業実施方法（面接授業・遠隔授業）

原則として「面接授業」を行います。ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成　績　評　価　方　法

定期試験（70%）、提出課題（30%）

成　績　評　価　基　準

現代社会における社会福祉の意義と歴史的変遷及び社会福祉における子ども家庭支援の視点について説明することができるか。
社会福祉の制度や実施体系等について説明することができるか。
社会福祉における相談援助について説明することができるか。
社会福祉における利用者の保護に関わる仕組みについて説明することができるか。
社会福祉の動向と課題について説明することができるか。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック

１）授業時の課題に対するフィードバックについて
　■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
２）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
　■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
３）小レポートに対するフィードバックについて
　■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
４）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
　□定期試験時　□仁大eラーニング　□メール　■その他（個別あるいはTeams）
５）その他
　□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他

実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）

テ　キ　ス　ト　、　参　考　図　書

立花直樹・波田埜英治・家高将明・中典子編「社会福祉　第２版」ミネルヴァ書房　2025

その他（受講上の注意）

オ フ ィ ス ア ワ ー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

社会的養護Ⅰ (Social Nursing Ⅰ)			担当教員	橋本　達昌
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−A−2201	2単位	2年前期	講義	選択

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　基幹科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

教育・保育の基礎理論の理解

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識･技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成･社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
■自己理解･自己管理能力　□諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　■キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

保育士資格（必修）

授業の内容

社会的養護に関する制度や仕組み、社会資源ごとの支援のあり方、ファミリーソーシャルワークの手法等を子どもの人権を擁護する観点から具体的かつ実践的に学ぶ。さらにはこれまでの歴史的変遷を踏まえつつ、今日、一層の変革が求められている児童虐待防止施策や子どもの貧困対策についても理解を深める。

授業の到達目標

・社会的養護領域における諸制度や社会資源について、その目的や機能を理解できる。
・子どもの人権擁護の視座から、社会的養護にかかわる専門職（支援者）の役割や責務を説明できる。
・すべての子どもを社会全体で育む児童福祉施策の大切さを自分の言葉で述べることができる。
・子どもの貧困問題を解消し児童虐待を防止するために、地域の社会資源を活用する力を養える。
・社会的養護システムの今日的課題を理解したうえで、近未来をも展望することができる。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　□グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　□発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等）　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：社会的養護とは何か　−オリエンテーションを含む−
　事前学習：テキスト「本書の使い方」と「イメージをつかむインプットノート」を読み、不明な点を調べておくこと（2時間）
　事後学習：本授業に関連する「学びを振り返るアウトプットノート」を読み、「トライしてみよう」の問題も解くこと（2時間）
第2回：基本理念や現状
　事前学習：本授業に関連するテキスト「イメージをつかむインプットノート」を読み、不明な点を調べておくこと（2時間）
　事後学習：本授業に関連する「学びを振り返るアウトプットノート」を読み、「トライしてみよう」の問題も解くこと（2時間）
第3回：社会的養護の歴史
　事前学習：本授業に関連するテキスト「イメージをつかむインプットノート」を読み、不明な点を調べておくこと（2時間）
　事後学習：本授業に関連する「学びを振り返るアウトプットノート」を読み、「トライしてみよう」の問題も解くこと。（2時間）
第4回：子どもの権利擁護　−小レポート①−
　事前学習：本授業に関連するテキスト「イメージをつかむインプットノート」を読み、不明な点を調べておくこと（2時間）
　事後学習：本授業に関連する「学びを振り返るアウトプットノート」を読み、「トライしてみよう」の問題も解くこと（2時間）

第５回：社会的養護の体系と実践
事前学習：本授業に関連するテキスト「イメージをつかむインプットノート」を読み、不明な点を調べておくこと（２時間）
事後学習：本授業に関連する「学びを振り返るアウトプットノート」を読み、「トライしてみよう」の問題も解くこと（２時間）
第６回：乳児院・母子生活支援施設
事前学習：本授業に関連するテキスト「イメージをつかむインプットノート」を読み、不明な点を調べておくこと（２時間）
事後学習：本授業に関連する「学びを振り返るアウトプットノート」を読み、「トライしてみよう」の問題も解くこと（２時間）
第７回：児童養護施設
事前学習：本授業に関連するテキスト「イメージをつかむインプットノート」を読み、不明な点を調べておくこと（２時間）
事後学習：本授業に関連する「学びを振り返るアウトプットノート」を読み、「トライしてみよう」の問題も解くこと（２時間）
第８回：児童心理治療施設・児童自立支援施設
事前学習：本授業に関連するテキスト「イメージをつかむインプットノート」を読み、不明な点を調べておくこと（２時間）
事後学習：本授業に関連する「学びを振り返るアウトプットノート」を読み、「トライしてみよう」の問題も解くこと（２時間）
第９回：自立援助ホーム・児童家庭支援センター
事前学習：本授業に関連するテキスト「イメージをつかむインプットノート」を読み、不明な点を調べておくこと（２時間）
事後学習：本授業に関連する「学びを振り返るアウトプットノート」を読み、「トライしてみよう」の問題も解くこと（２時間）
第10回：家庭養護 －小レポート②－
事前学習：本授業に関連するテキスト「イメージをつかむインプットノート」を読み、不明な点を調べておくこと（２時間）
事後学習：本授業に関連する「学びを振り返るアウトプットノート」を読み、「トライしてみよう」の問題も解くこと（２時間）
第11回：障害系施設
事前学習：本授業に関連するテキスト「イメージをつかむインプットノート」を読み、不明な点を調べておくこと（２時間）
事後学習：本授業に関連する「学びを振り返るアウトプットノート」を読み、「トライしてみよう」の問題も解くこと（２時間）
第12回：専門職・専門機関と倫理
事前学習：本授業に関連するテキスト「イメージをつかむインプットノート」を読み、不明な点を調べておくこと。（２時間）
事後学習：本授業に関連する「学びを振り返るアウトプットノート」を読み、「トライしてみよう」の問題も解くこと（２時間）
第13回：社会的養護とソーシャルワーク
事前学習：本授業に関連するテキスト「イメージをつかむインプットノート」を読み、不明な点を調べておくこと（２時間）
事後学習：本授業に関連する「学びを振り返るアウトプットノート」を読み、「トライしてみよう」の問題も解くこと（２時間）
第14回：施設の運営管理　－小レポート③－
事前学習：本授業に関連するテキスト「イメージをつかむインプットノート」を読み、不明な点を調べておくこと（２時間）
事後学習：本授業に関連する「学びを振り返るアウトプットノート」を読み、「トライしてみよう」の問題も解くこと（２時間）
第15回：社会的養護のおもいと人財
事前学習：本授業に関連するテキスト「イメージをつかむインプットノート」を読み、不明な点を調べておくこと（２時間）
事後学習：本授業に関連する「学びを振り返るアウトプットノート」を読み、「トライしてみよう」の問題も解くこと（２時間）

授業実施方法（面接授業・遠隔授業）

原則として「面接授業」を行います。
ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。
遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成　績　評　価　方　法

小レポート（60%）　平常点（40%）
平常点は、授業への参加状況、受講態度等を総合して判断します。

成　績　評　価　基　準

・社会的養護の歴史や諸制度、社会資源等について正確に理解できているか。
・子どもの権利擁護を意識しつつ、社会的養護にかかわる支援者の役割等を説明できるか。
・すべての子どもを社会全体で育むという社会的養護の基本理念を実体験や身近な例を用いつつ解説できるか。
・児童虐待や子どもの貧困問題等に対し、地域の社会資源を適切に活用する知識を備えているか。
・社会的養護の現状を踏まえ、地域子ども家庭支援の新たなかたちとしての社会的養育について論考できるか。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック

1）授業時の課題に対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
2）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
3）小レポートに対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
4）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
□定期試験時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
5）その他
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他

実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）

テ　キ　ス　ト、参　考　図　書

「みらい×子どもの福祉ブックス　社会的養護Ⅰ」（喜多一憲・監修　堀場純矢・編集）　みらい　2024年

その他（受講上の注意）

本講義によって、児童虐待問題や子どもの貧困問題への関心が喚起されることを期待する。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

社会 (Social Science)			担当教員	西村　美貴穂
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−B−2252	2単位	2年後期	講義	選択

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　展開科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>　教科及び教科の指導法に関する科目（教科に関する専門的事項）

<科目に含めることが必要な事項>　社会

求める学習成果（教育目標）

教育・保育の内容の理解及び指導方法

身につけることを目指す社会的・職業的能力（汎用的能力）

■体系的な知識･技能　■論理的思考力と創造力　■人間関係形成･社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
■自己理解･自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

小学校教諭一種免許状（必修）

授業の内容

平成29年に告示された新しい学習指導要領の趣旨を読み解きながら、目指す授業づくりについて理解を深める。また、社会科の授業で求められる「問題解決的な学習」や「主体的・対話的で深い学び」について、参加する学生自らが授業の中で体験しながら、社会科の授業づくりについて課題意識の深化を図る。

授業の到達目標

社会科の目標・内容を学年ごとに把握しながら、教材の開発、問題解決的な学習展開、問いの工夫など、社会科の授業づくりについての理解を深めることができる。また、他者とのコミュニケーションを活かして、学習指導案を作成したり、自分の学びを振り返ったりすることができる。

アクティブ・ラーニング

■課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　□発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等）　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：社会科の役割（グループワーク）
　事前学習：小学校で学んだ社会科の授業で特に印象に残っていることについてまとめる。（2時間）
　事後学習：社会科の特質・役割についてまとめる。（2時間）
第2回：社会科の目標（グループワーク）
　事前学習：小学校社会科で目指す目標とは何かについて、これまでの経験を振り返りながら、自分なりの考えをまとめる。（2時間）
　事後学習：学習した社会科の目標をもとに、これまでに自分が学んだ社会科授業を振り返って考えたことをまとめる。（2時間）
第3回：社会科の基礎・基本（課題解決型学習・グループワーク）
　事前学習：社会科で身に付けさせる基礎・基本について、自分の考えをまとめる。（2時間）
　事後学習：社会科の基礎・基本を身に付けさせるための方法について、具体的な授業場面を一つ例に挙げて自分の考えをまとめる。（2時間）
第4回：学習指導要領解説の活用（グループワーク）
　事前学習：『小学校学習指導要領解説社会編』P1～P30を熟読し、特に印象に残ったことや疑問点をまとめる。（2時間）
　事後学習：授業づくりの際に学習指導要領解説をどのように活用するかについてのポイントをまとめる。（2時間）
第5回：学習指導要領の内容把握と教材化の視点（グループワーク）
　事前学習：『小学校学習指導要領解説社会編』第3学年の内容（2）P37～P41と、小学校社会科教科書3年の同じ内容の箇所を関連付けながら熟読しておく。（2時間）
　事後学習：学習したことをもとに、第5学年の内容の教材化の視点についてワークシートにまとめる。（2時間）

第６回：資料づくりの方法（課題解決型学習・グループワーク）
事前学習：小学校社会科教科書４年の中から、自分が良い資料だと考えるものを一つ選び、授業での活用方法をまとめる。（２時間）
事後学習：身近にあるものや様子を撮影した写真を資料として使って、授業でどのように活用するかについてワークシートにまとめる。（２時間）
第７回：問題解決的な学習展開（グループワーク）
事前学習：『小学校学習指導要領解説社会編』P17～P28を熟読し、授業で問題解決的な学習展開を充実させる必要性についてまとめる。（２時間）
事後学習：問題解決的な学習展開を構想する上でのポイントと注意点についてまとめる。（２時間）
第８回：「問い」を工夫する（グループワーク）
事前学習：小学校社会科教科書５年上に記述されている「問い」（学習問題）を読み、いくつかの問いを自分なりの視点で分類してまとめる。（２時間）
事後学習：目的に応じた問いの工夫の仕方についてまとめる。（２時間）
第９回：目標に迫るための学習活動（グループワーク）
事前学習：子ども同士の対話的な活動をつくるために大切なことについて、自分の考えをまとめる。（２時間）
事後学習：「調べる」、「話し合う」、「まとめる」学習活動で、目標に迫るためのポイントについてまとめる。（２時間）
第10回：評価と授業改善（グループワーク）
事前学習：子どもの学習状況を評価する方法について、自分の考えをまとめる。（２時間）
事後学習：学習状況を評価する際のポイントについてまとめる。（２時間）
第11回：第３学年の内容と授業づくり（課題解決型学習・グループワーク）
事前学習：『小学校学習指導要領解説社会編』P31～P47、小学校社会科教科書３年を活用して、選んだ単元の導入部分の学習指導案（略案）を作成する。（２時間）
事後学習：選んだ単元の導入部分の学習指導案（略案）を作成する。（２時間）
第12回：第４学年の内容と授業づくり（課題解決型学習・グループワーク）
事前学習：『小学校学習指導要領解説社会編』P48～P69、小学校社会科教科書４年を活用して、選んだ単元の導入部分の学習指導案（略案）を作成する。（２時間）
事後学習：選んだ単元の導入部分の学習指導案（略案）を作成する。（２時間）
第13回：第５学年の内容と授業づくり（課題解決型学習・グループワーク）
事前学習：『小学校学習指導要領解説社会編』P70～P96、小学校社会科教科書５年を活用して、選んだ単元の導入部分の学習指導案（略案）を作成する。（２時間）
事後学習：選んだ単元の導入部分の学習指導案（略案）を作成する。（２時間）
第14回：第６学年の内容と授業づくり（課題解決型学習・グループワーク）
事前学習：『小学校学習指導要領解説社会編』P97～P134、小学校社会科教科書６年を活用して、選んだ単元の導入部分の学習指導案（略案）を作成する。（２時間）
事後学習：選んだ単元の導入部分の学習指導案（略案）を作成する。（２時間）
第15回：授業準備のマネジメント（グループワーク）
事前学習：授業でインターネットを活用させる時、見学を取り入れる時に、その準備において注意することについて自分の考えをまとめる。（２時間）
事後学習：授業の準備をする際の留意点についてまとめる。（２時間）

授業実施方法（面接授業・遠隔授業）

原則として「面接授業」を行います。
ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。
遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成　績　評　価　方　法

学期末レポート（50％）、平常点（50％）
（平常点は、授業への参加態度、提出物の内容等を総合して判断します。）

成　績　評　価　基　準

・社会科の授業づくりの上で必要な事柄をまとめることができるか。
・グループ協議に積極的に参加しているか。
・授業で学んだことや考えたことを、事後の振り返りにまとめることができるか。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

1）授業時の課題に対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他（ワークシートの学生の記入を事後まとめ、次回に配布し、共通理解に努める。）
2）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他（ワークシート等を集めて内容を把握し、コメントを記述する。）
3）小レポートに対するフィードバックについて
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
4）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
□定期試験時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
5）その他
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他

実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)

テキスト、参考図書

文部科学省『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説　社会編』日本文教出版　平成30年２月
令和６年度小学校社会科教科書（東京書籍）３年、４年、５年上・下、６年政治・国際編、歴史編

その他(受講上の注意)

受講者同士の積極的なコミュニケーションによって学びを深めていきましょう。

オフィスアワー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

算数 (Arithmetic)			担当教員	草桶　勇人
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−B−2202	2単位	2年前期	講義	選択

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　展開科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>　教科及び教科の指導法に関する科目（教科に関する専門的事項）
領域及び保育内容の指導法に関する科目（領域に関する専門的事項）

<科目に含めることが必要な事項>　算数

求める学習成果（教育目標）

教育・保育の内容の理解及び指導方法

身につけることを目指す社会的・職業的能力（汎用的能力）

■体系的な知識･技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成･社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
■自己理解･自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

小学校教諭一種免許状（必修）

授業の内容

小学校段階では、数学的活動を通して、知識及び技能として習得する具体的な内容は、日常生活に深く関わり、日常生活の場面を数理化して捉える内容が多い。そのため、算数・数学の学習過程のイメージを意識し、その問題解決の過程において、あらかじめ自己の考えをもって主体的に取り組めるようにし、よりよい解法に洗練させていくための意見の交流や議論など対話的な学びを適宜取り入れて、深い学びを実現する方向で講義を展開し、学生自身の数学的に考える資質・能力の育成と、数学的活動の楽しさを実感し、生涯にわたって学び続ける力の育成を目指す。

授業の到達目標

子どもたちの数学的に考える資質・能力を育むためには、教師自身が数学的に考える資質・能力を有している必要がある。そのため、初等数学を高い立場（背景となる学問領域）から見直し、小学校算数科の授業を行うために必要な知識や考え方を修得することを目的とする。

1．日常の事象を数理的に捉え、見通しをもち筋道を立てて考察し、数量や図形の性質などを見いだし、統合的・発展的に考察する力や数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表したり目的に応じて柔軟に表したりする力を養う。
2．数学的活動の楽しさや数学のよさに気付き、学習を振り返ってよりよく問題解決しようとする態度や講義で学んだことを生活や学習に活用しようとする態度を養う。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習（PBL）　■討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　□発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等）　□実習、フィールドワーク　■実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：ガイダンス　　算数・数学教育の目的　算数科の目標　算数科の領域
　事前学習：テキスト『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説　算数編』第2章第1節「算数科の目標」を読み、要点をまとめておくこと。（2時間）
　事後学習：講義をもとに算数科の3つの目標、数学的な見方・考え方、数学的活動について、レポートにまとめる。（2時間）
第2回：数とその表現
　事前学習：テキスト『解説　算数編』の整数の表し方に関する部分を読み、要点をまとめておくこと。（2時間）
　事後学習：講義をもとに子どもたちに数を指導するうえで重要なことについて、レポートにまとめる。（2時間）
第3回：整数の加法・減法
　事前学習：テキスト『入門算数学』の第2章第2・3節を読み、、要点をまとめておくこと。（2時間）
　事後学習：講義をもとに加法と減法のそれぞれの意味について、レポートにまとめる。（2時間）

第４回：整数の乗法・除法
事前学習：テキスト『入門算数学』の第２章第４・５節、要点をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：講義をもとに乗法と除法のそれぞれの意味について、レポートにまとめる。（２時間）
第５回：小数・分数の加法・減法
事前学習：テキスト『解説　算数編』の小数・分数の加法・減法に関する部分を読み、要点をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：講義をもとに小数・分数の加法・減法の計算の仕方について、レポートにまとめる。（２時間）
第６回：小数の乗法・除法
事前学習：テキスト『解説　算数編』の小数の乗法・除法に関する部分を読み、要点をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：講義をもとに小数の乗法・除法の計算の仕方について、レポートにまとめる。（２時間）
第７回：分数の乗法・除法
事前学習：テキスト『解説　算数編』の分数の乗法・除法に関する部分を読み、要点をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：講義をもとに分数の乗法・除法の計算の仕方について、レポートにまとめる。（２時間）
第８回：式の表現と読み、計算の活用、概数
事前学習：テキスト『解説　算数編』の概数と四捨五入、数量の関係を表す式、四則に関して成り立つ性質に関する部分を読み、要点をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：講義をもとに概数や四則計算について、レポートにまとめる。（２時間）
第９回：図形の計量
事前学習：テキスト『入門算数学』の第５章を読み、要点をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：講義をもとに円や多角形の面積の求め方について、レポートにまとめる。（２時間）
第10回：図形の概念と操作　図形の性質と数学的推論
事前学習：小学校で学習する基本図形の定義と性質についてまとめておくこと。（２時間）
事後学習：講義をもとに三角形の内角の和や多角形の外角の和について、レポートにまとめる。（２時間）
第11回：測定　変化と関係
事前学習：テキスト『解説　算数編』の第３学年C測定、第４学年C変化と関係を読み、要点をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：講義をもとに小中学校における関数の違いについて、レポートにまとめる。（２時間）
第12回：関数　比例　反比例
事前学習：テキスト『入門算数学』の第６章第３・４節を読み、要点をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：講義をもとに小中学校における比例と反比例のそれぞれの違いについて、レポートにまとめる。（２時間）
第13回：データの活用の基本
事前学習：テキスト『入門算数学』の第６章第６・７節を読み、要点をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：講義をもとに身近にあるデータの活用や分析について、レポートにまとめる。（２時間）
第14回：数学的な考え方　数学的リテラシー
事前学習：テキスト『入門算数学』の第７章第３・４節を読み、要点をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：講義をもとに数学的な考え方について、レポートにまとめる。（２時間）
第15回：授業づくりと評価　まとめ
事前学習：これまで授業を受けてきた算数・数学の授業の中で、印象に残っている内容とその理由をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：講義をもとに問題解決の過程と学習の評価について、レポートにまとめる。（２時間）
第16回：定期試験

授業実施方法（面接授業・遠隔授業）

原則として「面接授業」を行います。
ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。
遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成　績　評　価　方　法

毎回のレポート（２％×15回）、講義内容を活用した課題（10％×２回）、講義終了後の最終試験（50％）で総合的に評価する。

成　績　評　価　基　準

・日常の事象を数理的に捉え、見通しをもち筋道を立てて考察し、数量や図形の性質などを見いだし、統合的・発展的に考察することができたか。また、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表したり目的に応じて柔軟に表したりすることができたか。
・数学的活動の楽しさや数学のよさに気付き、学習を振り返ってよりよく問題解決しようとしたか。また、講義で学んだことを生活や学習に活用しようとしたか。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

1）授業時の課題に対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
2）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
3）小レポートに対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
4）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
□定期試験時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
5）その他
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他

実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)

経歴：（元中学校・義務教育学校教諭、高等学校講師）
実務経験と授業内容との関連性：（中学校・義務教育学校教諭、高等学校講師として、算数・数学を中心とする授業及び生活指導実践を行ってきた経験を有する教員が、学習指導要領に示されている教科「算数」の学習指導内容について講義する。）

テキスト、参考図書

テキスト：
（1）自作のワークシート
（2）文部科学省『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説　算数編』日本文教出版、2018年
（3）黒木哲徳『入門算数学〔第3版〕』日本評論社、2022年
参考書・参考資料等：
（1）青山庸『初任者のための算数の深読み　授業で確かな学力を培うために』東京書籍、2015年
（2）算数科授業研究の会『算数科教育の基礎・基本』明治図書、2023年

その他(受講上の注意)

ワークシートの保存用のファイルを準備すること。

オフィスアワー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

理科 (Science)			担当教員	西出　和彦
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−B−2253	2単位	2年後期	講義	選択

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　展開科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>　教科及び教科の指導法に関する科目（教科に関する専門的事項）

<科目に含めることが必要な事項>　理科

求める学習成果（教育目標）

教育・保育の内容の理解及び指導方法

身につけることを目指す社会的・職業的能力（汎用的能力）

■体系的な知識･技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成･社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解･自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

小学校教諭一種免許状（必修）

授業の内容

小学校理科で扱う内容を理解し、次の6項目の目標を達成するためにどのような授業を行ったら良いかを考える。①自然に親しむこと。②見通しをもって観察、実験などを行うこと。③問題解決の能力を育てること。④自然を愛する心情を育てること。⑤自然の事物・現象についての実感を伴った理解を図ること。⑥科学的な見方や考え方を養うこと。

授業の到達目標

小学校理科の目標，教育内容をよく理解し、授業の目的、目標に応じて、適切な授業を遂行するための基礎的な力を身に付ける。理科の観察実験に関する基礎的知識や技能を身に付ける.

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等）　□実習、フィールドワーク　■実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：学習指導要領の特色とその背景・子どもの学びの実体と理科を学ぶ力
　事前学習：学習指導要領を読む（2時間）。
　事後学習：学習指導要領について振り返り、具体的な学習内容と関連づける（2時間）。
第2回：理科の見方・考え方
　事前学習：理科の見方・考え方について調べてまとめる（2時間）。
　事後学習：理科の見方・考え方とは何かについてレポートをまとめる（2時間）。
第3回：理科の授業におけるICTの活用方法や各種教材教具の使い方
　事前学習：理科の授業に有効な方法を考える（2時間）。
　事後学習：どのような場面で、何を使用すれば、より効果的なのかを整理する（2時間）。
第4回：3年生理科のポイント（比較しながら調べる能力）・実験器具の取扱い（・グループワーク、・発表、・実験、実技）
　事前学習：3年生理科の学習内容を把握する（2時間）。
　事後学習：単元ごとのねらいと実験結果との関係を整理する（2時間）。
第5回：3年生理科（授業準備，後始末，振り返り，授業評価）を通して，「比較しながら調べる能力」の育成に関する基礎的理解を深める（・グループワーク、・発表、・実験、実技）
　事前学習：3年生理科の学習内容を把握する（2時間）。
　事後学習：単元ごとのねらいと実験結果との関係を整理する（2時間）。
第6回：4年生理科のポイント（働きや時間などと関係付けながらしらべる能力）・実験器具の取扱い（・グループワーク、・発表、・実験、実技）
　事前学習：4年生理科の学習内容を把握する（2時間）。
　事後学習：単元ごとのねらいと実験結果との関係を整理する（2時間）。

第７回：４年生理科①（授業準備，後始末，振り返り，授業評価）を通して，「働きや時間などと関係付けながらしらべる能力」の育成に関する基礎的理解を深める（・グループワーク、・発表、・実験、実技）
事前学習：４年生理科の学習内容を把握する（２時間）。
事後学習：単元ごとのねらいと実験結果との関係を整理する（２時間）。
第８回：４年生理科②（授業準備，後始末，振り返り，授業評価）を通して，「働きや時間などと関係付けながらしらべる能力」の育成に関する基礎的理解を深める（・グループワーク、・発表、・実験、実技）
事前学習：４年生理科の学習内容を把握する（２時間）。
事後学習：単元ごとのねらいと実験結果との関係を整理する（２時間）。
第９回：５年生理科のポイント（変化や働きをそれらにかかわる条件に目を向けながら調べる能力）・実験器具の取扱い（・グループワーク、・発表、・実験、実技）
事前学習：５年生理科の学習内容を把握する（２時間）。
事後学習：単元ごとのねらいと実験結果との関係を整理する（２時間）。
第10回：５年生理科①（授業準備，後始末，振り返り，授業評価）を通して，「変化や働きをそれらにかかわる条件に目を向けながら調べる能力」の育成に関する基礎的理解を深める（・グループワーク、・発表、・実験、実技）
事前学習：５年生理科の学習内容を把握する（２時間）。
事後学習：単元ごとのねらいと実験結果との関係を整理する（２時間）。
第11回：５年生理科②（授業準備，後始末，振り返り，授業評価）を通して，「変化や働きをそれらにかかわる条件に目を向けながら調べる能力」の育成に関する基礎的理解を深める（・グループワーク、・発表、・実験、実技）
事前学習：５年生理科の学習内容を把握する（２時間）。
事後学習：単元ごとのねらいと実験結果との関係を整理する（２時間）。
第12回：６年生理科のポイント（要因や規則性，関係を推論しながら調べる能力）・実験器具の取扱い（・グループワーク、・発表、・実験、実技）
事前学習：６年生理科の学習内容を把握する（２時間）。
事後学習：単元ごとのねらいと実験結果との関係を整理する（２時間）。
第13回：６年生理科①（授業準備，後始末，振り返り，授業評価）を通して，「要因や規則性，関係を推論しながら調べる能力」の育成に関する基礎的理解を深める（・グループワーク、・発表、・実験、実技）
事前学習：６年生理科の学習内容を把握する（２時間）。
事後学習：単元ごとのねらいと実験結果との関係を整理する（２時間）。
第14回：６年生理科②（授業準備，後始末，振り返り，授業評価）を通して，「要因や規則性，関係を推論しながら調べる能力」の育成に関する基礎的理解を深める（・グループワーク、・発表、・実験、実技）
事前学習：６年生理科の学習内容を把握する（２時間）。
事後学習：単元ごとのねらいと実験結果との関係を整理する（２時間）。
第15回：指導と評価の一体化：評価に基づいて指導に生かすための基礎的理解
事前学習：評価の観点と評価方法を確認する（２時間）。
事後学習：それぞれの評価が適正に行われるための指導方法について振り返る（２時間）。
定期試験は実施しない。
小学校理科の教科書、小学校理科学習指導要領をよく読み、理解する。

授業実施方法（面接授業・遠隔授業）

原則として「面接授業」を行います。
ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。
遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成　績　評　価　方　法

レポート（50%），提出物（40%），授業の取り組み（10%）

成　績　評　価　基　準

（１）小学校理科の授業内容を理解している。
（２）学習内容の目標に応じて、適切な指導方法を指摘することができる。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック

１）授業時の課題に対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
２）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
３）小レポートに対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
４）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
□定期試験時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
５）その他
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他

実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）
経歴：（元小学校講師、元中･高校教諭） 実務経験と授業内容との関連性：（小学校講師・中学校教諭・高等学校教諭として、授業実践、生徒指導実践を行ってきた経験を有する教員が、学習指導要領に示されている教科「理科」の学習指導内容について講義する。）
テキスト、参考図書
（1）小学校理科教科書 （2）文部科学省著「小学校学習指導要領解説　理科編」東洋館出版社　平成29年７月 （3）教師用指導書
その他（受講上の注意）
オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

生活 (Life Studies)			担当教員	小林　悦子
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−B−2256	2単位	2年後期	講義	選択

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　展開科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>　教科及び教科の指導法に関する科目（教科に関する専門的事項）
領域及び保育内容の指導法に関する科目（領域に関する専門的事項）

<科目に含めることが必要な事項>　生活

求める学習成果（教育目標）

教育・保育の内容の理解及び指導方法

身につけることを目指す社会的・職業的能力（汎用的能力）

■体系的な知識･技能　■論理的思考力と創造力　■人間関係形成･社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
■自己理解･自己管理能力　□諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

小学校教諭一種免許状（選択）

授業の内容

「小学校学習指導要領解説（生活編）」に基づき「生活科」の目標や内容、指導計画作成上の配慮事項について学ぶ。

授業の到達目標

生活科の教科目標・学年目標を説明できる。9つの内容が事例を挙げて説明できる。
学習指導要領の目標及び内容を踏まえて、指導計画を綿密に作成することの必要性が理解できる。

アクティブ・ラーニング

■課題解決型学習（PBL）　■討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等）　■実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：「生活科学習指導要領」の変遷と生活科の目標について
　事前学習：授業前にテキストに目を通し生活科の概要を把握しておくこと。（2時間）
　事後学習：生活科改訂の趣旨及び要点をレポートにまとめておくこと。（2時間）
第2回：生活科の教科目標、各学年の目標について
　事前学習：テキストの教科目標の構成と趣旨について項目を挙げてまとめておくこと。（2時間）
　事後学習：学年の目標と9つの内容とのつながりをまとめておくこと。（2時間）
第3回：生活科の内容（1）学校の施設の様子及び先生や安全を守っている人々（実習：学内探検）
　事前学習：生活科の内容（1）が生活科の教科書のどの単元に示されているかを確認しておくこと。（2時間）
　事後学習：生活科の内容（1）が目指していることを単元の活動例を挙げてレポートにまとめておくこと。（2時間）
第4回：生活科の内容（2）家庭生活を支えている家族のことや自分の役割（発表）
　事前学習：生活科の内容（2）が生活科の教科書のどの単元に示されているかを確認しておくこと。
　家庭生活の中での自分の役割をまとめておき、発表できるようにしておくこと。（2時間）
　事後学習：生活科の内容（2）が目指していることを単元の活動例を挙げてレポートにまとめておくこと。（2時間）
第5回：生活科の内容（3）地域で生活したり働いたりしている人々（グループワーク）
　事前学習：生活科の内容（3）が生活科の教科書のどの単元に示されているかを確認しておくこと。（2時間）
　事後学習：生活科の内容（3）が目指していることを単元の活動例を挙げてレポートにまとめておくこと。（2時間）
第6回：生活科の内容（4）公共物や公共施設を利用し、身の周りのみんなで使う物やそれを支えている人々
　事前学習：生活科の内容（4）が生活科の教科書のどの単元に示されているかを確認しておくこと。（2時間）
　事後学習：生活科の内容（4）が目指していることを単元の活動例を挙げてレポートにまとめておくこと。（2時間）

第７回：生活科の内容（５）身近な自然の観察や季節や地域の行事（フィールドワーク：自然観察）
事前学習：生活科の内容（５）が生活科の教科書のどの単元に示されているかを確認しておくこと。
身近な自然を観察カードに記録しておくこと。（２時間）
事後学習：生活科の内容（５）が目指していることを単元の活動例を挙げてレポートにまとめておくこと。
（２時間）
第８回：生活科の内容（６）身近な自然や物を利用し、遊びや遊びに使う物を工夫して制作（実習：課題解決型学習）
事前学習：生活科の内容（６）が生活科の教科書のどの単元に示されているかを確認しておくこと。
身近な自然や物を利用し、遊びや遊びに使う物を制作するための材料を集めておくこと。
（２時間）
事後学習：生活科の内容（６）が目指していることを単元の活動例を挙げてレポートにまとめておくこと。
（２時間）
第９回：生活科の内容（７）動植物を飼ったり育てたりし、生きものや命の大切さを実感（ディスカッション）
事前学習：生活科の内容（７）が生活科の教科書のどの単元に示されているかを確認しておくこと。
生きものや命の大切さについてディスカッションするための自分の意見をまとめておくこと。
（２時間）
事後学習：生活科の内容（７）が目指していることを単元の活動例を挙げてレポートにまとめておくこと。
（２時間）
第10回：生活科の内容（８）自分たちの生活や地域の出来事を身近な人々と伝え合う活動を通して交流（グループワーク）
事前学習：生活科の内容（８）が生活科の教科書のどの単元に示されているかを確認しておくこと。（２時間）
事後学習：生活科の内容（８）が目指していることを単元の活動例を挙げてレポートにまとめておくこと。
（２時間）
第11回：生活科の内容（９）自分自身の成長を振り返り多くの人々の支えに対する感謝の気持ち発表（プレゼンテーション）
事前学習：生活科の内容（９）が生活科の教科書のどの単元に示されているかを確認しておくこと。
自分自身の成長を振り返り、成長が実感できるものを準備し発表できるようにしておくこと。
（２時間）
事後学習：生活科の内容（９）が目指していることを単元の活動例を挙げてレポートにまとめておくこと。
（２時間）
第12回：生活科の指導計画作成上の配慮事項（１）（２）（３）
事前学習：テキストの生活科の指導計画作成上の配慮事項（１）（２）（３）を熟読し項目毎に要点をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：テキストの生活科の指導計画作成上の配慮事項（１）の具体例を挙げてレポートにまとめておくこと。（２時間）
第13回：生活科の指導計画作成上の配慮事項（４）（５）（６）
事前学習：テキストの生活科の指導計画作成上の配慮事項（４）（５）（６）を熟読し項目毎に要点をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：スタートカリキュラムとして、大単元「がっこうだいすき　いちねんせい」の指導計画を作成すること。（２時間）
第14回：生活科の内容取り扱いについての配慮事項
事前学習：テキストの生活科の内容取り扱いの配慮事項（１）～（６）を熟読し項目毎に要点をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：生活科における気付きの質を高める学習活動について具体例を挙げてレポートにまとめておくこと。（２時間）
第15回：生活科における指導計画と学習指導の基本的な考え方
事前学習：テキストの生活科における指導計画と学習指導の基本的な考え方を熟読し要点をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：生活科の学習指導の特質を４項目にまとめておくこと。（２時間）

授業実施方法（面接授業・遠隔授業）

原則として「面接授業」を行います。
ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。
遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成　績　評　価　方　法

毎回授業終了時の感想レポート（40％）平常点（30％）最終レポート（30％）
平常点は、授業への参加状況、受講態度等を総合して判断します。

成　績　評　価　基　準

生活科の教科目標・学年目標を説明できたか。
９つの内容が事例を挙げて説明できたか。
指導計画作成上の配慮事項等が理解できたか。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

1）授業時の課題に対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
2）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
3）小レポートに対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
4）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
□定期試験時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
5）その他
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他

実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)

テキスト、参考図書

テキスト：
（1）文部科学省 「小学校学習指導要領解説（生活編）」 東洋館出版社　平成30年２月
（2）中野真志・田中博之ほか 「わくわく　せいかつ上」 啓林館
（3）中野真志・田中博之ほか 「いきいき　せいかつ下」 啓林館

その他(受講上の注意)

オフィスアワー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

音楽Ⅰ (Music Ⅰ)			担当教員	中野　研也
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−C−2258	2単位	2年後期	演習	選択

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　展開科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>　教科及び教科の指導法に関する科目（教科に関する専門的事項）
領域及び保育内容の指導法に関する科目（領域に関する専門的事項）

<科目に含めることが必要な事項>　音楽

求める学習成果（教育目標）

教育・保育の実践に求められる表現技術

身につけることを目指す社会的・職業的能力（汎用的能力）

■体系的な知識･技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成･社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解･自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

小学校教諭一種免許状（選択）

授業の内容

音楽理論の基礎と、楽譜を理解する力を身に付ける。

授業の到達目標

音楽理論の基礎知識を身に付け、小学校で使用される音楽を理解できるようにする。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習（PBL）　■討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　□発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等）　□実習、フィールドワーク　■実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：リズムと拍子1　音の長さとリズムとの関係
事前学習：学習指導要領（平成29年告示）第6節「音楽」に目を通し、質問項目をまとめておく。（2時間）
事後学習：学習指導要領（平成29年告示）第6節「音楽」の、第1学年及び第2学年、第3学年及び第4学年、第5学年及び第6学年の、それぞれの違いを復習する。（2時間）
第2回：リズムと拍子2　言葉のもつリズム（ディスカッション）
事前学習：教員採用試験　学習指導要領「A表現」の「音楽づくり」、鑑賞教材に関する「内容の取り扱い」に目を通し、質問項目をまとめておく（第1回授業で資料を配付）。（2時間）
事後学習：小学生の音楽1よりp.24「『たん』と『たた』のちがいにきづいてリズムをうちましょう／ぶん ぶん ぶん」、小学生の音楽4よりp.24「くり返しや変化を使ってリズムアンサンブルをつくりましょう」を復習として実践する。（2時間）
第3回：リズムと拍子3　拍子を感じる（ディスカッション）
事前学習：教員採用試験「音楽記号・用語」に目を通し、質問項目をまとめておく（第2回授業で資料を配布）。（2時間）
事後学習：小学生の音楽2よりp.34「3びょうしをかんじながらリズムをうちましょう／いるかはざんぶらこ」、小学校の音楽4よりp.18「6拍子を感じながら歌いましょう／風のメロディー」を復習として実践する。（2時間）
第4回：五線と鍵盤
事前学習：教員採用試験　1，2学年の音楽に目を通し、質問項目をまとめておく（第3回授業で資料を配付）。（2時間）
事後学習：小学校の音楽3よりp.68「いろいろな楽器の音の重なりを楽しみながら合奏しましょう／エーデルワイス、小学校の音楽4よりp.50「ゆたかなひびきを味わいながらえんそうしましょう／茶色の小びん」の実践における留意点をまとめておく。（2時間）
第5回：音階と調1　わらべうたや民謡などの音階
事前学習：日本の伝統音楽について各自の方法で調べ、質問項目をまとめておく。（2時間）
事後学習：「日本の音楽で使われる音階」についてまとめるとともに、「越天楽今様」の歌唱または弾き歌いを復習する。（2時間）

第６回：音階と調２　長音階と変化記号（グループワーク、ディスカッション）
事前学習：小学校の音楽３よりp.68「いろいろな楽器の音の重なりを楽しみながら合奏しましょう／エーデルワイス、小学校の音楽４よりp.50「ゆたかなひびきを味わいながらえんそうしましょう／茶色の小びん」に目を通し、旋律をピアノ等で確かめておく（資料は第５回授業で配布）。（２時間）
事後学習：「エーデルワイス」および「茶色の小びん」の、ピアノ伴奏の譜読みを行う。（２時間）
第７回：音階と調３　長音階と短音階
事前学習：教員採用試験　第３，４学年の音楽に目を通し、質問項目をまとめておく。（２時間）
事後学習：長音階と短音階の違いを理論で説明できるよう、まとめておく。（２時間）
第８回：音程１　音程の種類と名前
事前学習：小学校の音楽よりp.8「心をつなぐ歌声／Believe」、p.34「和音の移り変わりを感じ取りながら演奏しましょう／静かにねむれ」に目を通し、ピアノ等で旋律を確かめておく。（２時間）
事後学習：「静かにねむれ」「キリマンジャロ」の実践における留意点をまとめておく。（２時間）
第９回：音程２　変化記号の付いた音程と、音程の転回
事前学習：教員採用試験　第５，６学年の音楽に目を通し、質問項目をまとめておく（資料は第８回授業で配布）。（２時間）
事後学習：「パフ」「ファランドール」の実践における留意点をまとめておく。（２時間）
第10回：和音と伴奏１　主要三和音（グループワーク）
事前学習：小学校の音楽３よりp.74「伴奏の変化を感じ取って／にじ」、小学校の音楽４よりp.26「ちいきにつたわる民謡をきいたり歌ったりしましょう／こきりこ」に目を通し、ピアノ等で旋律を確かめておく。（２時間）
事後学習：「にじ」「こきりこ」の歌唱または弾き歌いを復習する。（２時間）
第11回：調性、音程、和音についてのまとめ１
事前学習：教員採用試験　音楽の基礎（１）～（３）に目を通し、質問項目をまとめておく。（２時間）
事後学習：「赤いやねの家」の歌唱または弾き歌いを復習する。（２時間）
第12回：和音と伴奏②　コードネーム（ディスカッション）
事前学習：教員採用試験　音楽の基礎（４）～（６）に目を通し、質問項目をまとめておく。（２時間）
事後学習：主要三和音と属七の和音に役割について説明できるようまとめておく。（２時間）
第13回：和音と伴奏③　７の和音
事前学習：教員採用試験「音楽史」に目を通し、質問項目をまとめておく。（２時間）
事後学習：ロマン主義について説明できるようまとめておく。（２時間）
第14回：応用とまとめ①～拍子・調性・音程
事前学習：小学校の音楽６よりp.16「オーケストラのひびきを味わいながらききましょう／木星」に提示されたメロディーをピアノ等で確かめておく。（２時間）
事後学習：バロック、古典主義、ロマン主義、近現代の時代順と、各時代区分における代表的な作曲家を最低１名ずつ挙げられるよう、資料を見直して復習する。（２時間）
第15回：応用とまとめ②～和声、その他
事前学習：2025小学校前科らくらくマスター（音楽）に目を通し、質問項目をまとめておく。（２時間）
事後学習：模擬試験課題を復習し、試験対策を行っておく（２時間）
第16回：定期試験

授業実施方法（面接授業・遠隔授業）

原則として「面接授業」を行います。
ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。
遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成　績　評　価　方　法

定期試験（60％）
平常点（40％）※平常点には、受講態度と宿題の提出状況が含まれる。

成　績　評　価　基　準

音楽理論の基礎知識が身につき、教育・保育現場で使用される楽譜を理解できるようになったか。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック

１）授業時の課題に対するフィードバックについて
■授業時　■仁大eラーニング　□メール　■その他（Teams）
２）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
■授業時　■仁大eラーニング　□メール　□その他
３）小レポートに対するフィードバックについて
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
４）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
□定期試験時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
５）その他
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他

実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）
テキスト、参考図書
各回の授業で配布する。
その他（受講上の注意）
クラスの全体的な理解度に応じて、シラバスの日程と実際の授業内容の日程とは、多少前後します。 また、できる限り授業時間内での理解に努めること。
オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

図画工作Ⅰ (Arts and Crafts Ⅰ)			担当教員	伊東　知之
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−C−2210	2単位	2年前期	演習	選択

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　展開科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>　・教科及び教科の指導法に関する科目（教科に関する専門的事項）
・領域及び保育内容の指導法に関する科目（領域に関する専門的事項）

<科目に含めることが必要な事項>　図画工作

求める学習成果（教育目標）

教育・保育の実践に求められる表現技術

身につけることを目指す社会的・職業的能力（汎用的能力）

■体系的な知識･技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成･社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解･自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

小学校教諭一種免許状（選択）

授業の内容

図画工作、美術の基本的な知識や技術を身につけることを目的とし、実際の制作を通して様々な基本的な造形技法や道具の技術等を主に絵画的な制作から修得する。
また、幼児教育の造形に関わる知識や発達理論等についても学ぶ。

授業の到達目標

・学んだ造形技法について説明することができる。
・学んだ造形技法を用いて工夫して表現することができる。
・子どもの造形に関する発達について説明することができる。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　□発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等）　□実習、フィールドワーク　■実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：子どもと造形活動について
　事前学習：造形活動についてテキスト等を読んでまとめておく。（2時間）
　事後学習：授業内容をまとめておく。（2時間）
第2回：絵画演習（1）デッサン（素描）①　鉛筆を使って
　事前学習：テキストの内容をまとめておく。（2時間）
　事後学習：作品を完成させる。（2時間）
第3回：絵画演習（2）デッサン（素描）②　鉛筆を使って
　事前学習：テキストの内容をまとめておく。（2時間）
　事後活動：作品を完成させる。（2時間）
第4回：絵画演習（3）ブルーノ・ムナーリの造形遊び
　事前学習：テキストの内容をまとめておく。（2時間）
　事後学習：作品を完成させる。（2時間）
第5回：デザイン演習（1）構成①　鉛筆の単色
　事前学習：テキストの内容をまとめておく。（2時間）
　事後学習：作品を完成させる。（2時間）
第6回：デザイン演習（2）構成②　絵の具を使って
　事前学習：テキストの内容をまとめておく。（2時間）
　事後学習：作品を完成させる。（2時間）
第7回：版画演習（1）フロッタージュ
　事前学習：テキストの内容をまとめておく。（2時間）
　事後学習：作品を完成させる。（2時間）

第８回：版画演習（２）スチレン版画
　　事前学習：テキストの内容をまとめておく。（２時間）
　　事後学習：作品を完成させる。（２時間）
第９回：版画演習（３）スタンプで遊ぼう（グループワーク）
　　事前学習：テキストの内容をまとめておく。（２時間）
　　事後学習：作品を完成させる。（２時間）
第10回：工作演習（１）飛ばして遊ぼう①
　　事前学習：テキストの内容をまとめておく。（２時間）
　　事後学習：作品を完成させる。（２時間）
第11回：工作演習（２）飛ばして遊ぼう②
　　事前学習：テキストの内容をまとめておく。（２時間）
　　事後学習：作品を完成させる。（２時間）
第12回：工作演習（３）ポップアップカード（飛び出すカード）
　　事前学習：テキストの内容をまとめておく。（２時間）
　　事後学習：作品を完成させる。（２時間）
第13回：工作演習（４）走るおもちゃ
　　事前学習：テキストの内容をまとめておく。（２時間）
　　事後学習：作品を完成させる。（２時間）
第14回：工作演習（５）風車
　　事前学習：テキストの内容をまとめておく。（２時間）
　　事後学習：作品を完成させる。（２時間）
第15回：まとめ
　　事前学習：これまでの内容をまとめておくこと。（２時間）
　　事後学習：これまでの作品の質を高めて提出できるようにする。（２時間）

授業実施方法（面接授業・遠隔授業）

原則として「面接授業」を行います。ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成　績　評　価　方　法

課題作品（80%）、平常点（20%）
（平常点は、授業への参加状況、受講態度、提出物の提出状況等を総合して判断します。）

成　績　評　価　基　準

学んだ造形技法の特質を理解し、工夫して表現されているか。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック

１）授業時の課題に対するフィードバックについて
　■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
２）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
　■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
３）小レポートに対するフィードバックについて
　■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
４）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
　□定期試験時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
５）その他
　□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他

実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）

テ　キ　ス　ト　、　参　考　図　書

伊東知之著『造形表現・図画工作・美術』福村出版　2023年

その他（受講上の注意）

指定された図工用具一式を購入し、毎時間持参すること。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

体育Ⅰ (Physical Education Ⅰ)			担当教員	出村　友寛
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−C−2211	2単位	2年前期	演習	選択

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　展開科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>　教科及び教科の指導法に関する科目（教科に関する専門的事項）
領域及び保育内容の指導法に関する科目（領域に関する専門的事項）

<科目に含めることが必要な事項>　体育

求める学習成果（教育目標）

教育・保育の実践に求められる表現技術

身につけることを目指す社会的・職業的能力（汎用的能力）

■体系的な知識･技能　□論理的思考力と創造力　■人間関係形成･社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解･自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

小学校教諭一種免許状（選択）

授業の内容

実技指導を通して児童期の運動遊びの内容と指導方法を学習する。
児童の運動に関する理論的裏付けとなる専門的知識を学習する。

授業の到達目標

運動遊びを中心とした体育の基礎技能を習得する。
児童が興味を示し、自ら運動遊びに取り組めるような環境構成についての知識を習得する。
教材・教具についての理解を深め、その扱い方について習熟して児童の活動に即した援助力を習得する。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等）　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：児童の運動遊びの意義・分類
　事前学習：児童の運動遊びの意義や分類について調べておくこと。（2時間）
　事後学習：授業内容を整理し、関連項目を図書館等で調べること。（2時間）
第2回：児童の運動能力の発達
　事前学習：児童の運動能力の発達について調べておくこと。（2時間）
　事後学習：授業内容を整理し、関連項目を図書館等で調べること。（2時間）
第3回：集団遊び、鬼遊びの指導案作成（グループワーク）
　事前学習：集団遊び、鬼遊びの指導案作成の準備をしておくこと。（2時間）
　事後学習：発表に向け、指導案を作成する。（2時間）
第4回：ボール遊び（理論）
　事前学習：ボール遊びについて調べておくこと。（2時間）
　事後学習：授業内容を整理し、関連項目を図書館等で調べること。（2時間）
第5回：集団遊び、鬼遊び（実技）
　事前学習：集団遊び、鬼遊びについて調べておくこと。（2時間）
　事後学習：授業内容を整理し、関連項目を図書館等で調べること。（2時間）
第6回：マット遊び（実技）
　事前学習：マット遊び、鉄棒遊びについて調べておくこと。（2時間）
　事後学習：授業内容を整理し、関連項目を図書館等で調べること。（2時間）
第7回：跳び箱、平均台遊び（実技）
　事前学習：平均台、跳び箱遊びについて調べておくこと。（2時間）
　事後学習：授業内容を整理し、関連項目を図書館等で調べること。（2時間）

第８回：フープ遊び、縄遊び（実技）
　　事前学習：フープ遊び、縄遊びについて調べておくこと。（２時間）
　　事後学習：授業内容を整理し、関連項目を図書館等で調べること。（２時間）
第９回：運動能力の測定
　　事前学習：運動能力の測定について調べておくこと。（２時間）
　　事後学習：授業内容を整理し、関連項目を図書館等で調べること。（２時間）
第10回：鉄棒、短縄遊び（実技）
　　事前学習：発表に向けた準備をする。（２時間）
　　事後学習：授業内容を整理し、関連項目を図書館等で調べること。（２時間）
第11回：伝承遊び（お手玉）（実技）
　　事前学習：伝承遊びについて調べておくこと。（２時間）
　　事後学習：授業内容を整理し、関連項目を図書館等で調べること。（２時間）
第12回：指導案修正
　　事前学習：集団遊び、鬼遊びの指導案作成の準備をしておくこと。（２時間）
　　事後学習：発表に向け、以前作成した指導案を修正する。（２時間）
第13回：運動能力の評価
　　事前学習：運動能力の評価について調べておくこと。（２時間）
　　事後学習：授業内容を整理し、関連項目を図書館等で調べること。（２時間）
第14回：集団遊び、鬼遊び指導の実際：第１グループの発表（発表）
　　事前学習：発表に向けた準備をする。（２時間）
　　事後学習：授業内容を整理し、関連項目を図書館等で調べること。（２時間）
第15回：集団遊び、鬼遊び指導の実際：第２グループの発表（発表）
　　事前学習：発表に向けた準備をする。（２時間）
　　事後学習：授業内容を整理し、関連項目を図書館等で調べること。（２時間）

普段から遊びや運動について関心を持ち調べておく。
授業で実践した運動あそびや講義の内容について復習する。

授業実施方法（面接授業・遠隔授業）

原則として「面接授業」を行います。ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成　績　評　価　方　法

実技に関わるレポート（60％）、小レポート（40％）

成　績　評　価　基　準

運動遊びを中心とした体育の基礎技能を習得できているか。
児童が興味を示し、自ら運動遊びに取り組めるような環境構成について理解できているか。
教材・教具について理解を深め、その扱い方について習熟し児童の活動に即した援助力が習得できているか。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック

１）授業時の課題に対するフィードバックについて
　■授業時　■仁大eラーニング　□メール　□その他
２）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
　■授業時　■仁大eラーニング　□メール　□その他
３）小レポートに対するフィードバックについて
　□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
４）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
　□定期試験時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
５）その他
　□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他

実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）

テ　キ　ス　ト　、　参　考　図　書

参考図書：文部科学省「小学校学習指導要領 平成 29 年告示」

その他（受講上の注意）

体調を整え、運動に適した服装、靴で出席して下さい。遅刻、欠席、および早退は減点の対象とします。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

子どもと人間関係 (Child and Personal Relations)			担当教員	鈴木　智子
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−B−2203	1単位	2年前期	演習	選択

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　展開科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>　領域及び保育内容の指導法に関する科目

<科目に含めることが必要な事項>　領域に関する専門的事項

求める学習成果(教育目標)

教育・保育の内容の理解

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□体系的な知識･技能　■論理的思考力と創造力　■人間関係形成･社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
■自己理解･自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

幼稚園教諭一種免許状（必修）、保育士資格（必修）

授業の内容

「幼稚園教育要領」、「保育所保育指針」等を基に、「人間関係」を視点とした乳幼児期の発達の特徴、乳児保育の３つの視点、領域「人間関係」のねらい・内容について学ぶ。

授業の到達目標

・乳幼児期の「人とかかわる力」の発達について説明することができる。
・乳児保育の３つの視点、保育内容「人間関係」の領域のねらい・内容について理解する。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　□発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等）　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第１回：領域「人間関係」における現代的課題
　事前学習：これまでの子どもと関わる経験から人間関係に関する関わりについて学びたいことをまとめておく（２時間）
　事後学習：授業内容を踏まえて、幼稚園教育要領・保育所保育指針のねらい・内容の授業内容に該当する部分の要点をまとめておく（２時間）
第２回：乳児保育の３つの視点と領域「人間関係」の基本となる考え方
　事前学習：授業テーマと関連する教科書の該当部分を読み、質問項目をまとめておく（２時間）
　事後学習：授業内容を踏まえて、幼稚園教育要領・保育所保育指針のねらい・内容の授業内容に該当する部分の要点をまとめておく（２時間）
第３回：「人間関係」の視点から見た乳幼児期の発達と指導①愛着と信頼関係の形成
　事前学習：授業テーマと関連する教科書の該当部分を読み、質問項目をまとめておく（２時間）
　事後学習：授業を踏まえて、自己のこれまでの子どもとの関わりの反省点・改善点をまとめる（２時間）
第４回：「人間関係」の視点から見た乳幼児期の発達と指導②情緒の安定
　事前学習：授業テーマと関連する教科書の該当部分を読み、質問項目をまとめておく（２時間）
　事後学習：授業を踏まえて、自己のこれまでの子どもとの関わりの反省点・改善点をまとめる（２時間）
第５回：「人間関係」の視点から見た乳幼児期の発達と指導③自我の発達
　事前学習：授業テーマと関連する教科書の該当部分を読み、質問項目をまとめておく（２時間）
　事後学習：授業を踏まえて、自己のこれまでの子どもとの関わりの反省点・改善点をまとめる（２時間）
第６回：「人間関係」の視点から見た乳幼児期の発達と指導④仲間関係といざこざ
　事前学習：授業テーマと関連する教科書の該当部分を読み、質問項目をまとめておく（２時間）
　事後学習：授業を踏まえて、自己のこれまでの子どもとの関わりの反省点・改善点をまとめる（２時間）
第７回：「人間関係」の視点から見た乳幼児期の発達と指導⑤道徳性と規範意識の芽生え?
　事前学習：授業テーマと関連する教科書の該当部分を読み、質問項目をまとめておく（２時間）
　事後学習：授業を踏まえて、自己のこれまでの子どもとの関わりの反省点・改善点をまとめる（２時間）

第８回：「人間関係」の視点から見た乳幼児期の発達と指導⑥協同する経験
事前学習：授業テーマと関連する教科書の該当部分を読み、質問項目をまとめておく（２時間）
事後学習：授業を踏まえて、自己のこれまでの子どもとの関わりの反省点・改善点をまとめる（２時間）

授業実施方法（面接授業・遠隔授業）

原則として「面接授業」を行います。ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成　績　評　価　方　法

レポート（30%）、小テスト（50%）、授業への参加態度（20%）

成　績　評　価　基　準

・乳幼児期の「人とかかわる力」の発達について説明することができるか。
・保育内容「人間関係」の領域のねらい・内容について理解しているか。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック

１）授業時の課題に対するフィードバックについて
■授業時　■仁大eラーニング　□メール　□その他
２）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
３）小レポートに対するフィードバックについて
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
４）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
□定期試験時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
５）その他
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他

実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）

テ　キ　ス　ト、参　考　図　書

＜テキスト＞
岩立京子 編「事例で学ぶ保育内容　領域人間関係」 萌文書林　平成30年
「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」フレーベル館　平成30年
＜参考図書＞
「平成29年告示　幼稚園教育要領　保育所保育指針　幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜原本＞」チャイルド本社　平成29年
「保育所保育指針解説」フレーベル館　平成30年

その他（受講上の注意）

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

子どもと環境 (Child and Enviroment)			担当教員	西出　和彦
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−B−2204	1単位	2年前期	演習	選択

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　展開科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>　領域及び保育内容の指導法に関する科目

<科目に含めることが必要な事項>　保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）

求める学習成果（教育目標）

教育・保育の内容の理解及び指導方法

身につけることを目指す社会的・職業的能力（汎用的能力）

□体系的な知識･技能　□論理的思考力と創造力　□人間関係形成･社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解･自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■総合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

幼稚園教諭一種免許状（必修），保育士資格（必修）

授業の内容

子どもが周囲の様々な環境に好奇心や探究心を持ってかかわり，自分の生活に取り入れる力を養うために必要な知識の習得を目指す。その上で、自然環境を活かした保育の方法や，環境構成の考え方や実践方法について学ぶ。

授業の到達目標

領域「環境」のねらい及び内容を理解する。また，乳幼児の発達や学びの過程を理解し，具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　□グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等）　■実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：領域「環境」のねらい及び内容
　事前学習：領域「環境」のねらいを読んでおく（2時間）。
　事後学習：ねらいをレポートとしてまとめる（2時間）。
第2回：生きものとの関わりの中で好奇心を育てる活動
　事前学習：生きものとの関わりの中で好奇心を育てる実践事例ついて調べる（2時間）。
　事後学習：生きものとの関わりの中で好奇心を育てることの重要性についてレポートとしてまとめる（2時間）。
第3回：自然との関わり方や生命を尊重する態度
　事前学習：自然との関わり方や生命を尊重する態度に関する実践事例について調べる（2時間）。
　事後学習：実践事例に基づいて，自然との関わり方や生命を尊重する態度についてレポートとしてまとめる（2時間）。
第4回：自然体験Ⅰ（身の回りの環境に好奇心・探究心をもつとは？）
　事前学習：自然に親しみ、植物や生き物に触れる方法を調べる（2時間）。
　事後学習：自然に親しみ、植物や生き物に触れる方法についてレポートとしてまとめる（2時間）。
第5回：自然体験Ⅱ（乳幼児の考えに寄り添い，共感し，受け入れるとは？）
　事前学習：自然体験に関する実践事例を調べる（2時間）。
　事後学習：自分の体験や実践事例に基づいて，乳幼児の考えに寄り添い，共感し，受け入れることの重要性ついてレポートとしてまとめる（2時間）。
第6回：身近な素材を活用した遊びをテーマにした模擬保育
　事前学習：身近な素材を活用した遊びについて調べる（2時間）。
　事後学習：身近な素材を活用した遊びについてレポートとしてまとめる（2時間）。
第7回：身近な素材を取り入れた遊びから探究心を育てる活動
　事前学習：身近な素材を取り入れた遊びからどのように探究心を育てるかについて調べる（2時間）。
　事後学習：身近な素材を取り入れた遊びからどのように探究心を育てるかについてレポートとしてまとめる（2時間）。

第８回：ものの性質や仕組みに気づき仲間と共有する活動
　　事前学習：ものや道具に関わる遊びについて調べる（２時間）。
　　事後学習：ものや道具に関わって遊ぶことについてレポートとしてまとめる（２時間）。
書籍やインターネット等、様々な手段を用いて、授業に関する情報を積極的に収集した上で、授業に臨む。

授業実施方法（面接授業・遠隔授業）

原則として「面接授業」を行います。
ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。
遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成　績　評　価　方　法

レポート（50%），課題等の提出物（30%），授業の取り組み（20%）

成　績　評　価　基　準

（１）保育内容としての「環境」を理解し、そのねらいを達成することができる。
（２）様々な活動を通して、自然に親しみ、生き物と触れあうことができる。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック

１）授業時の課題に対するフィードバックについて
　■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
２）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
　■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
３）小レポートに対するフィードバックについて
　■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
４）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
　□定期試験時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
５）その他
　□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他

実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）

経歴：（元小学校講師、元中学校･高校教諭）
実務経験と授業内容との関連性：（小学校講師・中学校教諭・高等学校教諭として、授業実践、生徒指導実践を行ってきた経験を有する教員が、幼稚園教育要領・保育所保育指針・認定こども園教育・保育要領に示されている領域「環境」の内容について、保育者の援助方法、保育計画および実践、評価について実践的に講義する。）

テ　キ　ス　ト　、　参　考　図　書

テキスト
田尻 由美子・無藤 隆 編者「保育内容　子どもと環境　－基本と実践事例－　第三版」同文書院，2023年

参考図書
幼稚園教育要領（平成29年３月告示　文部科学省）
保育所保育指針（平成29年３月告示　厚生労働省）
幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年３月告示　内閣府・文部科学省・厚生労働省）

そ　の　他（受　講　上　の　注　意）

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

子どもと言葉 (Child and Language)			担当教員	平岡　正実
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−B−2205	1単位	2年前期	演習	選択

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　展開科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>　領域及び保育内容の指導法に関する科目

<科目に含めることが必要な事項>　保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）

求める学習成果（教育目標）

教育・保育の内容の理解及び指導方法

身につけることを目指す社会的・職業的能力（汎用的能力）

■体系的な知識･技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成･社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解･自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

幼稚園教諭一種免許状（必修）、保育士資格（必修）

授業の内容

幼稚園教育要領、保育所保育指針等に示された領域言葉、言葉の機能と発達過程の理解をふまえ、絵本、ペープサート、紙芝居などの児童文化財についての理解を深めるとともに、それらを保育で活用するための教材研究について理解する。言葉に関する保育から学童期への接続についても理解する。

授業の到達目標

言葉の機能と発達過程、領域言葉のねらいや内容について理解する。保育の現場で活用される絵本、ペープサート、紙芝居などの児童文化財と子どもの言葉の習得、児童文化財の効果的な活用方法について理解する。言葉における保幼小連携についても理解する。

アクティブ・ラーニング

■課題解決型学習（PBL）　■討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等）　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：新教育要領の特色とその背景 幼稚園教育要領・保育所保育指針における領域「言葉」
　事前学習：授業前にテキストの第1章を読み、質問項目をまとめておく。（2時間）
　事後学習：テキストの第2章4（言葉の獲得に関する領域「言葉」）についてまとめ第2回授業で提出すること。（2時間）
第2回：言葉の発達過程①0～2歳児（言葉の前のことば・乳幼児期の言葉）と保育者のかかわり　（討議）
　事前学習：テキスト第1章2（これからの0～2歳児の保育）を読み、質問事項をまとめておくこと。（2時間）
　事後学習：授業中のスライド資料を参考にして、乳幼児期の言葉の発達についてノートにまとめ第3回授業で提出すること。（2時間）
第3回：言葉の発達過程②3～5歳児（話し言葉・伝え合う喜び）と保育者のかかわり　（討議）
　事前学習：テキスト第5章（自分の考えや思いを伝えることば）と、保育所保育指針解説書の「おおむね4歳」の発達に関する箇所を読み、質問事項をまとめておくこと。（2時間）
　事後学習：授業中のスライドを参考にして、幼児期における身近な人との関わりを通しての言葉の発達をとらえ、保育者の援助についてノートにまとめ第4回授業で提出すること。（2時間）
第4回：児童文化財を活用した保育1（絵本、紙芝居）　（討議）
　事前学習：テキストを読み、自分なりの感想や質問をまとめておくこと。（2時間）
　事後学習：授業中のスライドを参考にして、幼児期における絵本、紙芝居を通しての言葉の発達を捉え、保育者の援助についてノートにまとめ第5回授業で提出すること。（2時間）
第5回：児童文化財を活用した保育2（ペープサート）（討議）
　事前学習：テキストを読み、自分なりの感想や質問事項をまとめておくこと。（2時間）
　事後学習：授業のスライド資料を参考にして、幼児期におけるペープサートを通しての言葉の発達を捉え、保育者の援助についてノートにまとめ第6回授業で提出すること。（2時間）

第６回：児童文化財を活用した保育３（言葉遊び、わらべ歌）（討議）
事前学習：テキストを読み、自分なりの感想や質問事項をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：授業のスライド資料を参考にして、幼児期における言葉遊び、わらべ歌を通しての言葉の発達を捉え、保育者の援助についてノートにまとめ第６回授業で提出すること。（２時間）
第７回：言葉を育む保育のための教材研究　（グループワーク）
事前学習：自分に課された児童文化財活用のテーマでの指導案や資料を作成・準備する。事前に配布された他グループの模擬保育指導案を分析・検討し、自分なりの意見をまとめておく。（２時間）
事後学習：自分に課された児童文化財活用のテーマでの指導案や教具を作成・準備する。他グループの模擬保育指導案を分析・検討し、自分なりの意見をまとめ第８回授業で提出すること。（２時間）
第８回：言葉における保育から学童期への接続（討議）
事前学習：テキスト第８章４（領域「言葉」における評価と小学校との連携）を読み、質問事項をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：小学校１年生の言葉、文字に関する資料を読んで、保幼小連携について自分なりの感想や意見をノートにまとめて提出すること。（２時間）

授業実施方法（面接授業・遠隔授業）

原則として「面接授業」を行います。ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成　績　評　価　方　法

学期末レポート（50%）　授業内の課題レポート・テスト（30%）　授業への取り組み（20%）

成　績　評　価　基　準

乳幼児期からの言葉の発達過程や保育者の援助（児童文化財の活用）について理解し、指導計画案を作成するなど教材研究をすることができるか。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック

１）授業時の課題に対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
２）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
３）小レポートに対するフィードバックについて
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
４）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
□定期試験時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
５）その他
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他

実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）

テ　キ　ス　ト、参　考　図　書

テキスト
文部科学省　『幼稚園教育要領解説』　フレーベル館　2018年
高濱裕子編著　『事例で学ぶ保育内容＜領域＞言葉』萌文書林　20018年
厚生労働省　『保育所保育指針』2017年
内閣府　『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』2017年
幼稚園教育要領（平成29年３月告示　文部科学省）

参考図書
コンパス　保育内容言葉（内藤知美・新井美保子編著　建帛社　平成29年）
保育内容領域言葉（秋田喜代美他編（株）みらい　平成22年）

その他（受講上の注意）

事例研究、指導案作成については、討議、グループワークで行います。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

算数科教育法 (Teaching Method s of Arithmetic)			担当教員	草桶　勇人
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−B−2254	2単位	2年後期	講義	選択

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　展開科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>　教科及び教科の指導法に関する科目（各教科の指導法）

<科目に含めることが必要な事項>　各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）

求める学習成果（教育目標）

教育・保育の内容の理解及び指導方法

身につけることを目指す社会的・職業的能力（汎用的能力）

■体系的な知識･技能　■論理的思考力と創造力　■人間関係形成･社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
■自己理解･自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

小学校教諭一種免許状（必修）

授業の内容

学習指導要領に示された算数科の目標や内容を理解する。また、基礎的な学習理論を理解し、具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。

授業の到達目標

算数科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された算数科の学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習（PBL）　■討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等）　□実習、フィールドワーク　■実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：算数・数学教育の現状と課題（討議）
　事前学習：テキスト『入門算数学』の第7章第1・3・4節を読み、要点をまとめておくこと。（2時間）
　事後学習：講義と討議を通して確認したわが国の算数・数学教育の現状と課題について、レポートにまとめる。（2時間）
第2回：算数科の目標について ── 資質・能力の育成と主体的・対話的で深い学び
　事前学習：テキスト『入門算数学』の第7章第2節を読み、要点をまとめておくこと。（2時間）
　事後学習：講義をもとに資質・能力とアクティブ・ラーニングについて、レポートにまとめる。（2時間）
第3回：入門期の算数と子供の認知発達（討議と実技）
　事前学習：テキスト『入門算数学』の第1章を読み、要点をまとめておくこと。（2時間）
　事後学習：討議と実技を通して確認した入門期の算数について、レポートにまとめる。（2時間）
第4回：子供たちのつまずき（1）（討議と実技）
　事前学習：テキスト『入門算数学』の第3章第1・2節及び第8節を読み、要点をまとめておくこと。（2時間）
　事後学習：討議と実技を通して確認した小数・分数の意味とつまずきについて、レポートにまとめる。（2時間）
第5回：子供たちのつまずき（2）（討議と実技）
　事前学習：テキスト『入門算数学』の第3章第8節を読み、要点をまとめておくこと。（2時間）
　事後学習：討議と実技を通して確認した小数・分数の意味とつまずきについて、レポートにまとめる。（2時間）
第6回：図形　ICTの利用と平面図形の性質（面積や角の大きさ含む）（実技）
　事前学習：デジタル教科書の活用実践事例を調べ、要点をまとめておくこと。（2時間）
　事後学習：デジタル教科書等の利用を通して考えたその利点と課題について、レポートにまとめる。（2時間）

第７回：変化と関係（１）速さなどの内包量と比例（実験）
事前学習：テキスト『入門算数学』の第６章第３節第４節を読み、要点をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：単位当たり量の実験を通して考えた内包量（混み具合等）について、レポートにまとめる。（２時間）
第８回：変化と関係（２）及びデータの活用　割合とデータの分類整理・棒グラフの活用（実技）
事前学習：テキスト『入門算数学』の第６章第５節第６節を読み、要点をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：グラフ作成等の実技をもとにデータの活用の意義等について、レポートにまとめる。（２時間）
第９回：模擬授業の実施（１）と学習評価（討議と実技）
事前学習：数と計算領域における指導案を各自で作成する。（２時間）
事後学習：模擬授業に関する留意点（学習評価を含む）を整理し、レポートにまとめる。（２時間）
第10回：模擬授業の実施（２）と学習指導の創意・工夫（板書やノート指導など）（実技と発表）
事前学習：数と計算領域における指導案を各自で作成する。（２時間）
事後学習：模擬授業に関してその創意・工夫を中心とした省察の発表を整理し、レポートにまとめる。（２時間）
第11回：模擬授業の実施（３）と学習評価（討議と実技）
事前学習：図形に関する指導案を各自で作成する。（２時間）
事後学習：模擬授業に関する留意点（学習評価を含む）を整理し、レポートにまとめる。（２時間）
第12回：模擬授業の実施（４）と学習指導の創意・工夫（板書やノート指導など）（実技と発表）
事前学習：図形に関する指導案を各自で作成する。（２時間）
事後学習：模擬授業に関してその創意・工夫を中心とした省察の発表を整理し、レポートにまとめる。（２時間）
第13回：模擬授業の実施（５）と学習指導の創意・工夫（板書やノート指導など）（実技と発表）
事前学習：変化と関係または割合等に関するオープンな課題を含んだ指導案を各自で作成する。（２時間）
事後学習：模擬授業に関する省察（主にオープンな課題）の発表を、レポートにまとめる。（２時間）
第14回：模擬授業の実施（６）とオープンな課題（実技）
事前学習：変化と関係または割合等に関するオープンな課題を含んだ指導案を各自で作成する。（２時間）
事後学習：模擬授業に関する省察（主にオープンな課題）の発表を、レポートにまとめる。（２時間）
第15回：模擬授業の実施（７）とオープンな課題（実技）
事前学習：データの活用等に関するオープンな課題を含んだ指導案を各自で作成する。（２時間）
事後学習：模擬授業に関する省察（主にオープンな課題）の発表を、レポートにまとめる。（２時間）

授業実施方法（面接授業・遠隔授業）

原則として「面接授業」を行います。
ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。
遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成　績　評　価　方　法

毎回のレポート（３％×15回）、模擬授業の指導案（15％）、模擬授業の実施状況（10％）、模擬授業のリフレクションレポート（15％）、講義終了後の最終レポート（15％）で総合的に評価する。

成　績　評　価　基　準

・算数科における教育目標、育成すべき資質・能力を理解できたか。
・学習指導要領に示された各領域の内容を背景となる学問領域と関連させて理解できたか。
・様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行うことができるか。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック

１）授業時の課題に対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
２）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
３）小レポートに対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
４）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
□定期試験時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
５）その他
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他

実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）

経歴：（元中学校・義務教育学校教諭、高等学校講師）
実務経験と授業内容との関連性：（中学校・義務教育学校教諭、高等学校講師として、算数・数学を中心とする授業実践と生活指導実践を行ってきた経験を有する教員が、学習指導要領に示されている教科「算数科」の学習指導内容およびその指導法について講義する。）

テキスト、参考図書

テキスト：
（1）黒木哲徳『入門算数学［第3版］』日本評論社、2022年
（2）文部科学省『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説　算数編』日本文教出版、2018年
参考書・参考資料等：
（1）小寺隆幸編著『主体的・対話的に深く学ぶ算数・数学教育　コンテンツとコンピテンシーを見すえて』ミネルヴァ書房、2018年

その他（受講上の注意）

小学校学習指導要領（平成29年3月）の総則と第2章第3節「算数」及び同解説の「算数」は、講義に関連する項目の事前・事後に必ず読むこと。

オフィスアワー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

理科教育法 (Teaching Method s of Science)			担当教員	西出　和彦
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−B−2255	2単位	2年後期	講義	選択

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　展開科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>　教科及び教科の指導法に関する科目（各教科の指導法）

<科目に含めることが必要な事項>　各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）

求める学習成果（教育目標）

教育・保育の内容の理解及び指導方法

身につけることを目指す社会的・職業的能力（汎用的能力）

■体系的な知識･技能　■論理的思考力と創造力　■人間関係形成･社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
■自己理解･自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

小学校教諭一種免許状（必修）

授業の内容

小学校理科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された理科の学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。

授業の到達目標

学習指導要領に示された小学校理科の目標や内容を理解する。また，基礎的な学習理論を理解し，具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等）　□実習、フィールドワーク　■実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：学習指導要領の特色とその背景・子どもの学びの実体と理科を学ぶ力
　事前学習：学習指導要領を読む（2時間）。
　事後学習：学習指導要領について振り返り、具体的な学習内容と関連づける（2時間）。
第2回：学習指導案の書き方、評価の方法（ルーブリックの作成）
　事前学習：学習指導案の書き方やルーブリックによる評価について予習する（2時間）。
　事後学習：学習指導案の書き方のポイントや評価規準、評価基準などについて整理する（2時間）。
第3回：指導技術：ICTの活用、板書の方法、各種教材教具の使い方
　事前学習：ICTの活用などの有効な指導について調べる（2時間）。
　事後学習：具体的な指導例を調べる（2時間）。
第4回：3年生理科のポイント（比較しながら調べる能力）・実験器具の取扱い（・グループワーク、・発表、・実験、実技）
　事前学習：3年生理科の概要を調べる（2時間）。
　事後学習：3年生理科で用いる実験器具について復習する（2時間）。
第5回：模擬授業3年生理科（授業準備、後始末、振り返り、授業評価）を通して、「比較しながら調べる能力」の育成に関する基礎的理解を深める（・グループワーク、・発表、・実験、実技）
　事前学習：模擬授業のための学習指導案を作成し、授業計画を立てる（2時間）。
　事後学習：模擬授業の反省を行い、課題を整理する（2時間）。
第6回：4年生理科のポイント（働きや時間などと関係付けながらしらべる能力）・実験器具の取扱い（・グループワーク、・発表、・実験、実技）
　事前学習：4年生理科の概要を調べる（2時間）。
　事後学習：4年生理科で用いる実験器具について復習する（2時間）。
第7回：模擬授業4年生理科①（授業準備、後始末、振り返り、授業評価）を通して、「働きや時間などと関係付けながらしらべる能力」の育成に関する基礎的理解を深める（・グループワーク、・発表、・実験、実技）
　事前学習：模擬授業のための学習指導案を作成し、授業計画を立てる（2時間）。
　事後学習：模擬授業の反省を行い、課題を整理する（2時間）。

第８回：模擬授業４年生理科②（授業準備、後始末、振り返り、授業評価）を通して、「働きや時間などと関係付けながらしらべる能力」の育成に関する基礎的理解を深める（・グループワーク、・発表、・実験、実技）
事前学習：模擬授業のための学習指導案を作成し、授業計画を立てる（２時間）。
事後学習：模擬授業の反省を行い、課題を整理する（２時間）。
第９回：５年生理科のポイント（変化や働きをそれらにかかわる条件に目を向けながら調べる能力）・実験器具の取扱い（・グループワーク、・発表、・実験、実技）
事前学習：５年生理科の概要を調べる（２時間）。
事後学習：５年生理科で用いる実験器具について復習する（２時間）。
第10回：模擬授業５年生理科①（授業準備、後始末、振り返り、授業評価）を通して、「変化や働きをそれらにかかわる条件に目を向けながら調べる能力」の育成に関する基礎的理解を深める（・グループワーク、・発表、・実験、実技）
事前学習：模擬授業のための学習指導案を作成し、授業計画を立てる（２時間）。
事後学習：模擬授業の反省を行い、課題を整理する（２時間）。
第11回：模擬授業５年生理科②（授業準備、後始末、振り返り、授業評価）を通して、「変化や働きをそれらにかかわる条件に目を向けながら調べる能力」の育成に関する基礎的理解を深める（・グループワーク、・発表、・実験、実技）
事前学習：模擬授業のための学習指導案を作成し、授業計画を立てる（２時間）。
事後学習：模擬授業の反省を行い、課題を整理する（２時間）。
第12回：６年生理科のポイント（要因や規則性、関係を推論しながら調べる能力）・実験器具の取扱い（・グループワーク、・発表、・実験、実技）
事前学習：６年生理科の概要を調べる（２時間）。
事後学習：６年生理科で用いる実験器具について復習する（２時間）。
第13回：模擬授業６年生理科①（授業準備、後始末、振り返り、授業評価）を通して、「要因や規則性、関係を推論しながら調べる能力」の育成に関する基礎的理解を深める（・グループワーク、・発表、・実験、実技）
事前学習：模擬授業のための学習指導案を作成し、授業計画を立てる（２時間）。
事後学習：模擬授業の反省を行い、課題を整理する（２時間）。
第14回：模擬授業６年生理科②（授業準備、後始末、振り返り、授業評価）を通して、「要因や規則性、関係を推論しながら調べる能力」の育成に関する基礎的理解を深める（・グループワーク、・発表、・実験、実技）
事前学習：模擬授業のための学習指導案を作成し、授業計画を立てる（２時間）。
事後学習：模擬授業の反省を行い、課題を整理する（２時間）。
第15回：指導と評価の一体化：評価に基づいて指導に生かすための基礎的理解
事前学習：評価の観点と評価方法を確認する（２時間）。
事後学習：それぞれの評価が適正に行われるための指導方法について振り返る（２時間）。
小学校理科の教科書、小学校理科学習指導要領をよく読み、理解する。

授業実施方法（面接授業・遠隔授業）

原則として「面接授業」を行います。
ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。
遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成　績　評　価　方　法

レポート（50%），　提出物（40%），　平常点（10%）

成　績　評　価　基　準

（１）小学校理科の授業内容を理解している。
（２）学習内容の目標に応じて、適切な学習指導ができる。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック

１）授業時の課題に対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
２）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
３）小レポートに対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
４）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
□定期試験時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
５）その他
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他

実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）
経歴：（元小学校講師、元中･高校教諭） 実務経験と授業内容との関連性：（小学校講師・中学校教諭・高等学校教諭として、授業実践、生徒指導実践を行ってきた経験を有する教員が、学習指導要領に示されている教科「理科」の学習指導内容およびその指導法について講義する。）
テキスト、参考図書
（1）小学校理科教科書 （2）文部科学省著「小学校学習指導要領解説　理科編」東洋館出版社　平成29年７月 （3）教師用指導書
その他（受講上の注意）
オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

音楽表現Ⅰ (Music Expression Ⅰ)			担当教員	飯田　由美、太田　佳代、福田安希子、野村加奈子
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE-C-2212	1単位	2年前期	演習	選択

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　展開科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

教育・保育の実践に求められる表現技術

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□体系的な知識･技能　□論理的思考力と創造力　□人間関係形成･社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解･自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

保育士資格（選択）

授業の内容

保育園・幼稚園・小学校の現場で用いられる歌唱教材を使って、「歌唱表現の在り方」と「ピアノ伴奏法」の両方を総合的に融合した弾き語りの演習を通して、音楽表現の研究を進める。

授業の到達目標

歌唱教材の中の言葉や歌の内容の適切な分析と把握をして表現することができる。また、ピアノ伴奏において効果的な音色と和声感を身に付けて表現することができる。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　□グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等）　□実習、フィールドワーク　■実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：保育園・幼稚園/生活・季節のうた（実技）
　事前学習：指定された歌の中から2～3曲を選択して、ピアノ伴奏の譜読みをし、弾けるようにしておくこと。（0.5時間）
　事後学習：ピアノ伴奏の音やリズムを正確なものにすること。（0.5時間）
第2回：保育園・幼稚園/生活・季節のうた（実技）
　事前学習：指定された歌の中から、更に数曲を選択して弾けるようにしておくこと。（0.5時間）
　事後学習：ピアノ伴奏の強弱等の曲想も考慮して弾けるようにすること。（0.5時間）
第3回：保育園・幼稚園/生活・季節のうた（実技）
　事前学習：第1回、第2回の授業で習得した曲に歌詞を付けて、ピアノ伴奏をしながら歌えるようにしておくこと。（0.5時間）
　事後学習：歌詞の意味を理解して、音程とリズムを正しくとり、歌えるようにすること。（0.5時間）
第4回：保育園・幼稚園/生活・季節のうた（実技）
　事前学習：歌唱とピアノ伴奏の曲想を考慮して練習しておくこと。（0.5時間）
　事後学習：次回授業時の発表演奏に向けて曲を仕上げること。（0.5時間）
第5回：公開演奏［第1回～第4回までの曲を対象とした“弾き語り”］（発表）
　事前学習：これまでの授業内容を復習して、豊かな歌唱表現・伴奏表現ができるようにしておくこと。（0.5時間）
　事後学習：公開発表時の歌唱・ピアノのミスを修正し、再確認すること。（0.5時間）
第6回：保育園・幼稚園/動物のうた（実技）
　事前学習：指定された歌の中から2～3曲を選択して、ピアノ伴奏の譜読みをし、弾けるようにしておくこと。（0.5時間）
　事後学習：ピアノ伴奏の音やリズムを正確なものにすること。（0.5時間）

第７回：保育園・幼稚園/動物のうた（実技）
事前学習：指定された歌の中から、更に数曲を選択して弾けるようにしておくこと。（0.5時間）
事後学習：ピアノ伴奏の強弱等の曲想も考慮して弾けるようにすること。（0.5時間）
第８回：保育園・幼稚園/動物のうた（実技）
事前学習：第６回、第７回の授業で習得した曲に歌詞を付けて、ピアノ伴奏をしながら歌えるようにしておくこと。（0.5時間）
事後学習：歌詞の意味を理解して、音程とリズムを正しくとり、歌えるようにすること。（0.5時間）
第９回：保育園・幼稚園/動物のうた（実技）
事前学習：歌唱とピアノ伴奏の曲想を考慮して練習しておくこと。（0.5時間）
事後学習：次回授業時の発表演奏に向けて曲を仕上げること。（0.5時間）
第10回：公開演奏［第６回～第９回までの曲を対象とした“弾き語り”］（発表）
事前学習：これまでの授業内容を復習して、豊かな歌唱表現・伴奏表現ができるようにしておくこと。（0.5時間）
事後学習：公開発表時の歌唱・ピアノのミスを修正し、再確認すること。（0.5時間）
第11回：小学校の歌（実技）
事前学習：指定された歌の中から２～３曲を選択して、ピアノ伴奏の譜読みをし、弾けるようにしておくこと。（0.5時間）
事後学習：ピアノ伴奏の音やリズムを正確なものにすること。（0.5時間）
第12回：小学校の歌（実技）
事前学習：指定された歌の中から、更に数曲を選択して弾けるようにしておくこと。（0.5時間）
事後学習：ピアノ伴奏の強弱等の曲想も考慮して弾けるようにすること。（0.5時間）
第13回：小学校の歌（実技）
事前学習：第11回、第12回の授業で習得した曲に歌詞を付けて、ピアノ伴奏をしながら歌えるようにしておくこと。（0.5時間）
事後学習：歌詞の意味を理解して、音程とリズムを正しくとり、歌えるようにすること。（0.5時間）
第14回：小学校の歌（実技）
事前学習：歌唱とピアノ伴奏の曲想を考慮して練習しておくこと。（0.5時間）
事後学習：次回授業時の発表演奏に向けて曲を仕上げること。（0.5時間）
第15回：公開演奏［第11回～第14回までの曲を対象とした“弾き語り”］（発表）
事前学習：これまでの授業内容を復習して、豊かな歌唱表現・伴奏表現ができるようにしておくこと。（0.5時間）
事後学習：公開発表時の歌唱・ピアノのミスを修正し、再確認すること。（0.5時間）

授業実施方法（面接授業・遠隔授業）

原則として「面接授業」を行います。
ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。
遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成　績　評　価　方　法

実技試験（80%）：３回行う公開演奏を試験とする。平常点（20%）平常点は、授業への参加状況、受講態度等を総合して判断します。

成　績　評　価　基　準

正しい音程とリズムに基づき、豊かな歌唱表現、伴奏表現ができるか。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック

１）授業時の課題に対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
２）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
３）小レポートに対するフィードバックについて
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
４）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
□定期試験時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
５）その他
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他

実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）

テキスト、参考図書
鈴木恵津子（著）「ポケットいっぱいのうた」実践子どものうた　簡単に弾ける144選（教育芸術社）　2011年 ※上記テキストは、一部の曲を除いて簡易伴奏譜なので、能力によっては、その都度、本格伴奏譜も使用する。
その他（受講上の注意）
テキスト等、譜面なしでは受講できない。音楽力は日々の修練の成果として身に付くことから、事前・事後学習の他に継続的な学習が望ましい。
オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

音楽表現Ⅱ （Music Expression Ⅱ）			担当教員	飯田　由美、太田　佳代、福田安希子、野村加奈子
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−C−2259	1単位	2年後期	演習	選択

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　展開科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果（教育目標）

教育・保育の実践に求められる表現技術

身につけることを目指す社会的・職業的能力（汎用的能力）

□体系的な知識･技能　□論理的思考力と創造力　□人間関係形成･社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解･自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

保育士資格（選択）

授業の内容

「音楽表現Ⅰ」に引き続き、題材としての楽曲を更に多彩に拡げ、より豊かな音楽表現を深める。

授業の到達目標

歌唱教材の中の言葉や歌の内容の適切な分析と把握をして表現することができる。
また、ピアノ伴奏において効果的な音色と和声感を身に付けて表現することができる。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　□グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等）　□実習、フィールドワーク　■実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：保育園・幼稚園/生活・季節のうた（実技）
　事前学習：指定された歌の中から2～3曲を選択して、ピアノ伴奏の譜読みをし、弾けるようにしておくこと。（0.5時間）
　事後学習：ピアノ伴奏の音やリズムを正確なものにすること。（0.5時間）
第2回：保育園・幼稚園/生活・季節のうた（実技）
　事前学習：指定された歌の中から、更に数曲を選択して弾けるようにしておくこと。（0.5時間）
　事後学習：ピアノ伴奏の強弱等の曲想も考慮して弾けるようにすること。（0.5時間）
第3回：保育園・幼稚園/生活・季節のうた（実技）
　事前学習：第1回、第2回の授業で習得した曲に歌詞を付けて、ピアノ伴奏をしながら歌えるようにしておくこと。（0.5時間）
　事後学習：歌詞の意味を理解して、音程とリズムを正しくとり、歌えるようにすること。（0.5時間）
第4回：保育園・幼稚園/生活・季節のうた（実技）
　事前学習：歌唱とピアノ伴奏の曲想を考慮して練習しておくこと。（0.5時間）
　事後学習：次回授業時の発表演奏に向けて曲を仕上げること。（0.5時間）
第5回：公開演奏［第1回～第4回までの曲を対象とした“弾き語り”］（発表）
　事前学習：これまでの授業内容を復習して、豊かな歌唱表現・伴奏表現ができるようにしておくこと。（0.5時間）
　事後学習：公開発表時の歌唱・ピアノのミスを修正し、再確認すること。（0.5時間）
第6回：保育園・幼稚園/楽しいうた（実技）
　事前学習：指定された歌の中から2～3曲を選択して、ピアノ伴奏の譜読みをし、弾けるようにしておくこと。（0.5時間）
　事後学習：ピアノ伴奏の音やリズムを正確なものにすること。（0.5時間）
第7回：保育園・幼稚園/楽しいうた（実技）
　事前学習：指定された歌の中から、更に数曲を選択して弾けるようにしておくこと。（0.5時間）
　事後学習：ピアノ伴奏の強弱等の曲想も考慮して弾けるようにすること。（0.5時間）

第８回：保育園・幼稚園/楽しいうた（実技）
事前学習：第６回、第７回の授業で習得した曲に歌詞を付けて、ピアノ伴奏をしながら歌えるようにしておくこと。（0.5時間）
事後学習：歌詞の意味を理解して、音程とリズムを正しくとり、歌えるようにすること。（0.5時間）
第９回：保育園・幼稚園/楽しいうた（実技）
事前学習：歌唱とピアノ伴奏の曲想を考慮して練習しておくこと。（0.5時間）
事後学習：次回授業時の発表演奏に向けて曲を仕上げること。（0.5時間）
第10回：公開演奏［第６回～第９回までの曲を対象とした“弾き語り”］（発表）
事前学習：これまでの授業内容を復習して、豊かな歌唱表現・伴奏表現ができるようにしておくこと。（0.5時間）
事後学習：公開発表時の歌唱・ピアノのミスを修正し、再確認すること。（0.5時間）
第11回：文科省唱歌（実技）
事前学習：指定された歌の中から２～３曲を選択して、ピアノ伴奏の譜読みをし、弾けるようにしておくこと。（0.5時間）
事後学習：ピアノ伴奏の音やリズムを正確なものにすること。（0.5時間）
第12回：文科省唱歌（実技）
事前学習：指定された歌の中から、更に数曲を選択して弾けるようにしておくこと。（0.5時間）
事後学習：ピアノ伴奏の強弱等の曲想も考慮して弾けるようにすること。（0.5時間）
第13回：文科省唱歌（実技）
事前学習：第11回、第12回の授業で習得した曲に歌詞を付けて、ピアノ伴奏をしながら歌えるようにしておくこと。（0.5時間）
事後学習：歌詞の意味を理解して、音程とリズムを正しくとり、歌えるようにすること。（0.5時間）
第14回：文科省唱歌（実技）
事前学習：歌唱とピアノ伴奏の曲想を考慮して練習しておくこと。（0.5時間）
事後学習：次回授業時の発表演奏に向けて曲を仕上げること。（0.5時間）
第15回：公開演奏［第11回～第14回までの曲を対象とした“弾き語り”］（発表）
事前学習：これまでの授業内容を復習して、豊かな歌唱表現・伴奏表現ができるようにしておくこと。（0.5時間）
事後学習：公開発表時の歌唱・ピアノのミスを修正し、再確認すること。（0.5時間）

授業実施方法（面接授業・遠隔授業）

原則として「面接授業」を行います。
ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。
遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成　績　評　価　方　法

実技試験（80%）：３回行う公開演奏を試験とする。
平常点（20%）平常点は、授業への参加状況、受講態度等を総合して判断します。

成　績　評　価　基　準

正しい音程とリズムに基づき、豊かな歌唱表現、伴奏表現ができるか。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック

１）授業時の課題に対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
２）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
３）小レポートに対するフィードバックについて
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
４）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
□定期試験時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
５）その他
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他

実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）

テ　キ　ス　ト　、　参　考　図　書

鈴木恵津子（著）「ポケットいっぱいのうた」実践子どものうた　簡単に弾ける144選（教育芸術社）2011年
※上記テキストは、一部の曲を除いて簡易伴奏譜なので、能力によっては、その都度、本格伴奏譜も使用する。

その他（受講上の注意）
テキスト等、譜面なしでは受講できない。 音楽力は日々の修練の成果として身に付くことから、事前・事後学習の他に継続的な学習が望ましい。
オ フ ィ ス ア ワ ー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

発達心理学Ⅱ (Developmental Psychology Ⅱ)			担当教員	乙部　貴幸
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−D−2213	2単位	2年前期	演習	選択

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　展開科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

教育・保育の対象の理解及び子どもの発達の理解

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識･技能　□論理的思考力と創造力　□人間関係形成･社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解･自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプラニング能力

資格・免許の要件

幼稚園教諭一種免許状（選択）、保育士資格（必修）

授業の内容

「発達心理学Ⅰ」の内容をベースに、子どもを理解するための理論・方法を学び、実際の援助につなげていくための考え方を身につける。「発達心理学Ⅰ」では、各機能ごと（発達の「縦糸」）に発達の道筋を辿ったが、この科目では乳幼児期の年齢段階ごと（発達の「横糸」）に、より詳細に発達を理解していく。

授業の到達目標

1．保育実践において、実態に応じた子ども一人一人の心身の発達や学びを把握することの意義について理解する。
2．子どもの体験や学びの過程において子どもを理解する上での基本的な考え方を理解する。
3．子どもを理解するための具体的な方法を理解する。
4．子どもの理解に基づく保育士の援助や態度の基本について理解する。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習（PBL）　■討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　□発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等）　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：子どもの実態に応じた発達や学びの把握と養護及び教育の一体的展開
　　事後学習：「発達心理学Ⅰ」の内容の復習（4時間）
第2回：子どもを理解する方法
　　事後学習：講義内容の復習と疑問点の整理、より深く学びたいことの情報収集。（4時間）
第3回：統計と検査
　　事後学習：講義内容の復習と疑問点の整理、より深く学びたいことの情報収集。（4時間）
第4回：横断的発達理解①：乳児の運動発達
　　事後学習：講義内容の復習と疑問点の整理、より深く学びたいことの情報収集。（4時間）
第5回：横断的発達理解②：乳児の認知発達
　　事後学習：講義内容の復習と疑問点の整理、より深く学びたいことの情報収集。（4時間）
第6回：横断的発達理解③：3歳未満児の運動発達
　　事後学習：講義内容の復習と疑問点の整理、より深く学びたいことの情報収集。（4時間）
第7回：横断的発達理解④：3歳未満児の認知発達
　　事後学習：講義内容の復習と疑問点の整理、より深く学びたいことの情報収集。（4時間）
第8回：横断的発達理解⑤：3歳以上児の運動発達
　　事後学習：講義内容の復習と疑問点の整理、より深く学びたいことの情報収集。（4時間）
第9回：横断的発達理解⑥：3歳以上児の認知（1）：数量概念
　　事後学習：ワークシートその1。（4時間）
第10回：横断的発達理解⑦：3歳以上児の認知（2）：「物語る」能力と読み書きの発達
　　事後学習：講義内容の復習と疑問点の整理、より深く学びたいことの情報収集。（4時間）
第11回：横断的発達理解⑧：3歳以上児の社会性（1）：遊びの発達と心の理論
　　事後学習：ワークシートその2。（4時間）

第12回：横断的発達理解⑨：３歳以上児の社会性（２）：自己制御と道徳性
　　事後学習：講義内容の復習と疑問点の整理、より深く学びたいことの情報収集。（４時間）
第13回：発達の課題に応じた援助と関わり（グループワーク・討議）
　　事後学習：グループワーク・討議のまとめ。（４時間）
第14回：特別な配慮を要する子どもとその保護者の理解と援助（グループワーク・討議）
　　事後学習：グループワーク・討議のまとめ。（４時間）
第15回：発達の連続性と就学への支援（グループワーク・討議）
　　事後学習：グループワーク・討議のまとめ。（４時間）
第16回：定期試験

授業実施方法（面接授業・遠隔授業）

原則として「面接授業」を行います。
ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。
遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成　績　評　価　方　法

ワークシート提出２回（20%× 2 = 40%）
グループワークの報告３回（５%× 3 = 15%）
期末試験（45%）

成　績　評　価　基　準

個人差などを含めたより詳細な子どもの発達について、具体的な様相とそれを理解するための方法について説明できる。
子どもの体験や学びの過程を子どもとその保護者の支援に活かすための基本的な考え方が身についている。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック

１）授業時の課題に対するフィードバックについて
　■授業時　■仁大eラーニング　■メール　□その他
２）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
　■授業時　■仁大eラーニング　■メール　□その他
３）小レポートに対するフィードバックについて
　■授業時　■仁大eラーニング　■メール　□その他
４）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
　□定期試験時　■仁大eラーニング　■メール　□その他
５）その他
　□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他

実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）

テ　キ　ス　ト　、　参　考　図　書

＜テキスト＞
杉村伸一郎・山名裕子（編）『保育の心理学』（中央法規、2019年）
＜参考＞
幼稚園教育要領（平成29年３月31日告示　文部科学省）
保育所保育指針（平成29年３月31日告示　厚生労働省）
幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年３月31日告示　内閣府・文部科学省・厚生労働省）

その他（受講上の注意）

課題提出、連絡、質問への回答など、様々なことについて仁大eラーニングを活用する。コース上の掲示板や課題提出場所などを確認する癖をつけて欲しい。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

子どもの保健 (Children's Health)			担当教員	齋藤　正一
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−D−2214	2単位	2年前期	講義	選択

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　展開科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

教育・保育の対象の理解及び子どもの発達の理解

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識･技能　□論理的思考力と創造力　□人間関係形成･社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解･自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　■キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

保育士資格(必修)

授業の内容

子どもの正常な心身の発育・発達、健康状態とその把握法、虐待を含めた現代社会における子どもの健康に関する現状と課題、子どもの疾病の特徴および予防に関する必要な知識と適切な対応方法について教授する。

授業の到達目標

子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義について説明できる。
子どもの身体的な発育・発達と保健について説明できる。
子どもの心身の健康状態とその把握の方法について説明できる。
子どもの疾病とその予防法及び他職種間の連携・協議の下での適切な対応について説明できる。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習(PBL)　■討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等)　□グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等)　□発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等)　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：生命の保持と情緒の安定にかかる保健活動の意義と目的
　事前学習：授業前にテキスト第1講を読み、質問事項をまとめておく事。(2時間)
　事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。(2時間)
第2回：健康の概念と健康指標
　事前学習：授業前にテキスト第2講を読み、質問事項をまとめておく事。(2時間)
　事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。(2時間)
第3回：現代社会における子どもの健康に関する現状と母子保健施策
　事前学習：授業前にテキスト3講を読み、質問事項をまとめておく事。(2時間)
　事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。(2時間)
第4回：地域における保健活動と子ども虐待防止
　事前学習：授業前にテキスト第4講を読み、質問事項をまとめておく事。(2時間)
　事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。(2時間)
第5回：身体発育および運動機能の発達と保健
　事前学習：授業前にテキスト第5講を読み、質問事項をまとめておく事。(2時間)
　事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。(2時間)

第６回：生理機能の発達と保健
事前学習：授業前にテキスト第６講を読み、質問事項をまとめておく事。（２時間）
事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。（２時間）
第７回：健康状態の観察および心身の不調等の早期発見
事前学習：授業前にテキスト第７講を読み、質問事項をまとめておく事。（２時間）
事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。（２時間）
第８回：発育・発達の把握と健康診断
事前学習：授業前にテキスト第８講を読み、質問事項をまとめておく事。（２時間）
事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。（２時間）
第９回：保護者との情報共有（保護者への情報の伝え方　グループワーク　ディスカッション）
事前学習：授業前にテキスト第９講を読み、保護者への情報の伝え方についてまとめておく事。（２時間）
事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。（２時間）
第10回：主な疾患の特徴①　（新生児、先天性の病気）
事前学習：授業前にテキスト第10講を読み、質問事項をまとめておく事。（２時間）
事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。（２時間）
第11回：主な疾患の特徴②　（循環器、呼吸器、血液、消化器の病気）
事前学習：授業前にテキスト第11講を読み、質問事項をまとめておく事。（２時間）
事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。（２時間）
第12回：主な疾患の特徴③　（アレルギー、免疫、腎、内分泌疾患）
事前学習：授業前にテキスト第12講を読み、質問事項をまとめておく事。（２時間）
事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。（２時間）
第13回：主な疾患の特徴④　（脳神経疾患、その他）
事前学習：授業前にテキスト第13講を読み、質問事項をまとめておく事。（２時間）
事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。（２時間）
第14回：主な疾患の特徴⑤　（感染症）
事前学習：授業前にテキスト第14講を読み、質問事項をまとめておく事。（２時間）
事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。（２時間）
第15回：子どもの疾病の予防と適切な対応
事前学習：授業前にテキスト第15講を読み、質問事項をまとめておく事。（２時間）
事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。（２時間）
第16回：定期試験

授業実施方法（面接授業・遠隔授業）

原則として「面接授業」を行います。
ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。
遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成　績　評　価　方　法

定期試験（80%）　平常点（20%）　割合は授業形態、試験形態により変わる事があります。
（平常点は、授業への参加状況・受講態度・小テストの成績等を総合して判断します）

成　績　評　価　基　準

子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義、子どもの身体的な発育・発達と保健、子どもの心身の健康状態とその把握の方法、子どもの疾病とその予防法及び適切な対応について説明できる。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

1）授業時の課題に対するフィードバックについて
■授業時　■仁大eラーニング　□メール　□その他
2）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
■授業時　■仁大eラーニング　□メール　□その他
3）小レポートに対するフィードバックについて
■授業時　■仁大eラーニング　□メール　□その他
4）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
■定期試験時　■仁大eラーニング　□メール　□その他
5）その他
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他

実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)

テキスト、参考図書

【テキスト】
公益財団法人児童育成協会　監修／松田博雄、金森三枝　編集　新・基本保育シリーズ 11　子どもの保健
中央法規出版　2019
厚生労働省　保育所保育指針解説　平成30年３月　フレーベル館

講義時にプリントを配布する。

その他(受講上の注意)

講義中の私語は厳重に禁止し、減点対象とする。疑問点や不明点があればすぐに質問すること。

オフィスアワー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

子どもの健康と安全 (Children's Health and safety)			担当教員	吉田　直子、山根　　恵
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−D−2262	2単位	2年後期	演習	選択

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　展開科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

教育・保育の対象の理解及び子どもの発達の理解

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識･技能　□論理的思考力と創造力　□人間関係形成･社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
■自己理解･自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　■キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

幼稚園教諭一種免許状（選択）、保育士資格（必修）

授業の内容

普段から保健的観点を踏まえた保育環境の整備や援助ができるように具体的な演習を行う。体調不良や感染症について理解を深め、個別的な対応を必要とする子どもや場面、集団にも対応できるようにする。保育における安全対策や事故を防止できるように健康教育の演習や保護者、自治体、その他関係機関との連携についても学習する。

授業の到達目標

保育の場において、子どもの健康と安全について関連するガイドラインを踏まえて理解し、個や集団に対して具体的な対応ができるようにする。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等）　□実習、フィールドワーク　■実験、実技　■その他（事例検討）

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：子どもの健康と保育の環境及び衛生管理　（発表）（吉田）
　事前学習：テキストの第1章①第2章①を熟読し、望ましい保育環境、衛生管理、援助についてノートにまとめる。（2時間）
　事後学習：授業やクラスメートの発表を聞いて学んだ内容をノートに補充する。（2時間）
第2回：子どもの健康と観察（グループワーク・実技）（吉田）
　事前学習：テキストの第1章②（p6～8）を熟読し、子どもの発育測定について理解を深めておく（2時間）
　事後学習：実技やグループワークを通して学んだ発育の評価のポイントをノートにまとめる。（2時間）
第3回：子どもの保健に関する個と集団の対応（グループワーク・実技）（吉田）
　事前学習：テキストの第1章②（p8～15）を熟読し子どもの健康の観察について理解を深めておく。（2時間）
　事後学習：子どもの健康を観察し不適切な養育の兆候が見られた場合の対応について、ノートにまとめる。（2時間）
第4回：事故防止と安全対策（グループワーク）（発表）（山根）
　事前学習：テキストの第2章（p28～33）を熟読し、子どもの事故の現状や特徴、対応、防止についてノートにまとめる。また、新聞等から子どもの事故についての資料を収集しておく。（2時間）
　事後学習：グループワークや発表を通して、事故防止と安全対策について学んだことをノートにまとめる。（2時間）
第5回：災害への備えと危機管理　（グループワーク）（吉田）
　事前学習：テキストの第2章③を熟読し災害への備えと危機管理について理解を深めておく。（2時間）
　事後学習：事例を用いてグループワークを行った学習内容をノートにまとめる。（2時間）

第６回：体調不良や障害が発生した時の適切な対応　（グループワーク）（山根）
事前学習：テキストの第３章（p50～59）を熟読し、平常時の子どもの健康状態とよくみられる子どもの症状についてまとめる。（２時間）
事後学習：グループワークを通して、体調不良時や症状がみられた時の対応について理解を深め、落ち着いて対応ができるように、ノートにまとめる。（２時間）
第７回：応急処置、救急処置及び救急蘇生法（実技）（山根）
事前学習：テキストの第３章（p60～72）を熟読し、救急処置および子どもの心肺蘇生法についてまとめる。また、小児・乳児の一次救命処置（BLS）ができるように要点を整理しシミュレーションをしておく。（２時間）
事後学習：テキストや授業で学んだ内容を整理して、緊急時の対応ができるように学習を深めておく。（２時間）
第８回：感染症の理解と集団発生時の予防と対応（吉田）
事前学習：テキストの第４章を熟読し子どもの感染症についてノートにまとめる。（２時間）
事後学習：感染症の種類、原因の分類等、ノートにまとめ理解を深める。（２時間）
第９回：保育における保健的対応の基本的な考え方について（吉田）
事前学習：テキストの第５章①を熟読し、保育における保健的対応について考えをまとめる。（２時間）
事後学習：授業の復習を行い保健的対応の重要性について理解すること。（２時間）
第10回：３歳未満児への対応（実技）（吉田）
事前学習：３歳未満児の健康、発育、発達を理解できるようにノートにまとめる。（２時間）
事後学習：３歳未満児の保健的対応について振り返り、補充する内容をノートに記載する。（２時間）
第11回：個別的な配慮を要する子どもへの対応（慢性疾患、アレルギー性疾患等）　（実技）（山根）
事前学習：個別的な対応を必要とする慢性疾患やアレルギーについて文献やガイドラインにそって、まとめる。（２時間）
事後学習：授業を通して深まった学習内容を事前学習に追加する。（２時間）
第12回：個別的な配慮を要する子どもへの対応（障がいのある子どもの基本的生活習慣獲得の援助）（山根）
事前学習：障がいの種類や障がいのある子どもの特徴についてまとめる。（２時間）
事後学習：授業を通して深まった学習内容を事前学習に追加する。（２時間）
第13回：保育における保健計画及び評価（グループワーク）（吉田）
事前学習：テキストの第６章①を熟読し、保育における保健計画について理解する。（２時間）
事後学習：授業を通して学んだことをノートにまとめる。（２時間）
第14回：子どもの健康増進と安全確保に必要な保健活動の工夫（グループワーク・発表）（吉田）
事前学習：子どもたちへの保健指導案を考える。（２時間）
事後学習：クラスメートの発表を聞いて学んだ内容をノートにまとめる。（２時間）
第15回：保健活動における職員間の連携・協働と関係機関との連携（吉田）
事前学習：テキストの第６章②を熟読し、保健活動における連携について理解を深める。（２時間）
事後学習：各機関についての特徴や役割についてまとめ、理解する。（２時間）
第16回：定期試験

授業実施方法（面接授業・遠隔授業）

原則として「面接授業」を行います。
ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。
遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成　績　評　価　方　法

定期試験（50%）、平常点（50%）
平常点は、授業への参加状況・受講態度、ノートの記載内容等を総合して判断します。

成　績　評　価　基　準

保育士として身につけておくべき社会的、職業的能力が習得できること。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック

１）授業時の課題に対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
２）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
３）小レポートに対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
４）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
□定期試験時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
５）その他
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他

実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）
テキスト、参考図書
テキスト：授業で現場で役に立つ！子どもの健康と安全　演習ノート　改訂第３版（小林　美由紀編著　診断と治療社）2024年 参考図書等：保育所における感染症対策ガイドライン（2018年改訂版　厚生労働省）、「教育・保育施設等における事故防止及び事故発生時の対応のためのガイドライン」（平成28年３月　内閣府・文部科学省・厚生労働省）
その他（受講上の注意）
事前・事後学習を必ず行うこと。専用のノートを用意し、まとめた内容について適宜、確認を行うので授業の際には必ず持参すること。
オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

保育内容指導法(人間関係) (Teaching method of Early ChildhoodCare and Education(Personal Relations))			担当教員	鈴木　智子
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−B−2206	1単位	2年前期	演習	選択

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　展開科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>　領域及び保育内容の指導法に関する科目

<科目に含めることが必要な事項>　保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）

求める学習成果(教育目標)

教育・保育の内容の理解及び指導方法

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□体系的な知識･技能　■論理的思考力と創造力　■人間関係形成･社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
■自己理解･自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

幼稚園教諭一種免許状（必修）、保育士資格（必修）

授業の内容

「幼稚園教育要領」、「保育所保育指針」等を基に、「人間関係」を視点とした乳幼児期の発達の特徴の理解をもとに、乳児保育の３つの視点、領域「人間関係」のねらい・内容について学ぶとともに、事例検討、指導案作成、模擬保育を通して、幼児理解や保育者としての関わり方など指導法について学びを深める。

授業の到達目標

・乳児保育の３つの視点、保育内容「人間関係」の領域のねらい・内容について理解する。
・乳幼児の「人とかかわる力」を育むための環境構成、教材や遊具等の活用と工夫、教育・保育の過程の実際について理解し、考察を深めることができる。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等）　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第１回：乳児保育の３つの視点と満１歳児から満３歳未満児のねらいと内容
　　事前学習：授業テーマと関連する幼稚園教育要領・保育所保育指針の該当部分を読み、質問項目をまとめておく（２時間）
　　事後学習：授業を踏まえて、自己のこれまでの子どもとの関わりの反省点・改善点をまとめる（２時間）
第２回：事例検討（１）グループワーク
　　事前学習：教科書の事例を読み、グループワークのテーマのどれに該当するかをまとめておく（２時間）
　　事後学習：グループワークで作成したレジュメを見直し、発表原稿を作成しておく（２時間）
第３回：事例検討（２）発表と討論①（満３歳以上児内容（１）～（４）について）
　　事前学習：発表で使用される事例を読んで理解し、質問項目をまとめておく（２時間）
　　事後学習：グループの発表を参考に事例の解釈をまとめておく（２時間）
第４回：事例検討（３）発表と討論②（満３歳以上児内容（５）～（８）について）
　　事前学習：発表で使用される事例を読んで理解し、質問項目をまとめておく（２時間）
　　事後学習：グループの発表を参考に事例の解釈をまとめておく（２時間）
第５回：事例検討（４）発表と討論③（満３歳以上児内容（９）～（11）について）
　　事前学習：発表で使用される事例を読んで理解し、質問項目をまとめておく（２時間）
　　事後学習：グループの発表を参考に事例の解釈をまとめておく（２時間）
第６回：「人間関係」の発達と指導（１）指導案の作成について（情報機器及び教材の活用含む）
　　事前学習：これまで作成した指導案を見直し、指導案作成の要点をまとめておく（２時間）
　　事後学習：作成した指導案を元にグループで役割分担や手順・準備物の確認をしておく（２時間）
第７回：「人間関係」の発達と指導（２）模擬保育①（計画・実践・記録を中心に）
　　事前学習：模擬保育の細案を作成し、準備物を用意する（２時間）
　　事後学習：模擬保育を参考に配布された指導案を修正する（２時間）

第８回：「人間関係」の発達と指導（３）模擬保育②（省察・評価・改善を中心に）
事前学習：模擬保育の細案を作成し、準備物を用意する（２時間）
事後学習：模擬保育を参考に配布された指導案を修正する（２時間）
第９回：定期試験

授業実施方法（面接授業・遠隔授業）

原則として「面接授業」を行います。ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成　績　評　価　方　法

定期試験（70%）　授業中の発表・討論の参加態度（30%）

成　績　評　価　基　準

・保育内容「人間関係」の領域のねらい・内容について理解しているか。
・乳幼児の「人とかかわる力」を育くむ保育者の援助・環境構成について考察することができるか。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック

１）授業時の課題に対するフィードバックについて
■授業時　■仁大eラーニング　□メール　□その他
２）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
３）小レポートに対するフィードバックについて
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
４）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
□定期試験時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
５）その他
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他

実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）

テ　キ　ス　ト、参　考　図　書

＜テキスト＞
岩立京子 編「事例で学ぶ保育内容　領域人間関係」 萌文書林　平成30年
「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」フレーベル館　平成30年
＜参考図書＞
「平成29年告示　幼稚園教育要領　保育所保育指針　幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜原本＞」チャイルド本社　平成29年
「保育所保育指針解説」フレーベル館　平成30年

その他（受講上の注意）

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

保育内容指導法(環境) (Teaching method of Early ChildhoodCare and Education(Enviroment))			担当教員	西出　和彦
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−B−2207	1単位	2年前期	演習	選択

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　展開科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>　領域及び保育内容の指導法に関する科目

<科目に含めることが必要な事項>　保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）

求める学習成果(教育目標)

教育・保育の内容の理解及び指導方法

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□体系的な知識･技能　□論理的思考力と創造力　□人間関係形成･社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解･自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■総合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

幼稚園教諭一種免許状（必修），保育士資格（必修）

授業の内容

領域「環境」の意義を捉えることと、その指導法の習得を目的とする。幼児の心身の成長に自然環境や社会環境、物的環境や人的環境が重要な役割を果たしていることを理解する。その上で、自然環境を活かした保育の方法や、環境構成の考え方や実践方法について学ぶ。

授業の到達目標

幼稚園教育の基本を踏まえ、領域「環境」のねらい及び内容を理解する。また，幼児の発達や学びの過程を理解し、具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　□グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等）　■実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：幼稚園教育要領・保育所保育指針等に示された領域「環境」のねらいと内容，指導案作成
　事前学習：幼稚園教育要領に示された領域「環境」のねらいを読んでおく（2時間）。
　事後学習：ねらいをレポートとしてまとめる（2時間）。
第2回：植物の栽培，観察を通して自然との関わり合い方を学ぶ活動（情報機器の活用）
　事前学習：植物の栽培，観察を通して自然との関わり合い方を学ぶ活動例を調べる（2時間）。
　事後学習：植物の栽培，観察を通して自然との関わり合い方を学ぶ活動例をレポートとしてまとめる（2時間）。
第3回：動物の飼育，観察を通して自然との関わり合い方を学ぶ活動（情報機器の活用）
　事前学習：動物の飼育，観察を通して自然との関わり合い方を学ぶ活動例を調べる（2時間）。
　事後学習：動物の飼育，観察を通して自然との関わり合い方を学ぶ活動例をレポートとしてまとめる（2時間）。
第4回：身近な素材を活用した遊びをテーマにした模擬保育，領域「環境」の評価の考え方（発表・プレゼンテーション）
　事前学習：身近な素材を取り入れた遊びからどのように探究心を育てるかについて調べる（2時間）。
　事後学習：身近な素材を取り入れた遊びからどのように探究心を育てるかについてレポートとしてまとめる（2時間）。
第5回：自然体験Ⅰ（身の回りの環境に好奇心・探究心をもって活動する）（フィールドワーク）
　事前学習：自然に親しみ、植物や生き物に触れる方法を調べる（2時間）。
　事後学習：自然に親しみ、植物や生き物に触れる方法についてレポートとしてまとめる（2時間）。
第6回：自然体験Ⅱ（乳幼児の考えに寄り添い，共感し，受け入れることの重要性）（フィールドワーク）
　事前学習：自然体験に関する実践事例を調べる（2時間）。
　事後学習：自分の体験や実践事例に基づいて，乳幼児の考えに寄り添い，共感し，受け入れることの重要性についてレポートとしてまとめる（2時間）。

第７回：身近な素材を取り入れた遊びから探究心を育てる活動（発表・プレゼンテーション）
　　事前学習：身近な素材を活用した遊びについて調べる（２時間）。
　　事後学習：身近な素材を活用した遊びについてレポートとしてまとめる（２時間）。
第８回：ものの性質や仕組みに気づき仲間と共有する活動を取り入れた模擬保育（発表・プレゼンテーション）
　　事前学習：ものや道具に関わる遊びについて調べる（２時間）。
　　事後学習：ものや道具に関わって遊ぶことについてレポートとしてまとめる（２時間）。
書籍やインターネット等、様々な手段を用いて、授業に関する情報を積極的に収集した上で、授業に臨む。

授業実施方法（面接授業・遠隔授業）

原則として「面接授業」を行います。
ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。
遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成　績　評　価　方　法

レポート（50%），課題等の提出物（30%），授業の取り組み（20%）

成　績　評　価　基　準

（１）保育内容としての「環境」を理解し、そのねらいを達成することができる。
（２）様々な活動を通して、自然に親しみ、生き物と触れあうことができる。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック

１）授業時の課題に対するフィードバックについて
　■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
２）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
　■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
３）小レポートに対するフィードバックについて
　■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
４）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
　□定期試験時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
５）その他
　□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他

実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）

経歴：（元小学校講師、元中学校･高校教諭）
実務経験と授業内容との関連性：（小学校講師・中学校教諭・高等学校教諭として、授業実践、生徒指導実践を行ってきた経験を有する教員が、幼稚園教育要領・保育所保育指針・認定こども園教育・保育要領に示されている領域「環境」の内容について、保育者の援助方法、保育計画および実践、評価について実践的に講義する。）

テ　キ　ス　ト　、　参　考　図　書

テキスト
田尻 由美子・無藤 隆 編者「保育内容　子どもと環境　－基本と実践事例ー　第三版」同文書院，2023年

参考図書
幼稚園教育要領（平成29年３月告示　文部科学省）
保育所保育指針（平成29年３月告示　厚生労働省）
幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年３月告示　内閣府・文部科学省・厚生労働省）

その他（受講上の注意）

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

保育内容指導法(言葉) (Teaching method of Early ChildhoodCare and Education(Language))			担当教員	平岡　正実
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−B−2208	1単位	2年前期	演習	選択

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　展開科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>　領域及び保育内容の指導法に関する科目

<科目に含めることが必要な事項>　保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）

求める学習成果(教育目標)

教育・保育の内容の理解及び指導方法

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識･技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成･社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解･自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

幼稚園教諭一種免許状（必修）、保育士資格（必修）

授業の内容

幼稚園教育要領や保育所保育指針等に示された幼児教育・保育の基本をふまえ、領域「言葉」のねらい及び内容を理解する。また、乳幼児の言葉の発達や音声言語から文字言語への遊びを通しての学びの過程を理解し、具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。

授業の到達目標

幼児教育、保育において育みたい「言葉」の資質・能力を理解し、幼稚園教育要領や保育所保育指針等に示された領域「言葉」のねらい及び内容について、背景となる専門領域と関連させて理解を深める。さらに、乳幼児の発達に即して主体的・対話的で深い学びが実現する過程をふまえて、指導案を作成したり模擬保育を体験したりすることを通して、具体的な指導場面を構想する方法を身に付ける。

アクティブ・ラーニング

■課題解決型学習（PBL）　■討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等）　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：幼稚園教育要領・保育所保育指針等の特色と改訂の背景、領域「言葉」
　事前学習：授業前にテキストの第1章を読み、質問項目をまとめておく。（2時間）
　事後学習：テキストの第2章4（言葉の獲得に関する領域「言葉」）についてまとめ第2回授業で提出すること。（2時間）
第2回：言葉の発達過程と保育者の援助（討議）
　事前学習：テキスト第1章、第5章、事例等を読み、質問事項をまとめておくこと。（2時間）
　事後学習：授業中のスライド資料を参考にして、乳幼児期の言葉の発達過程と保育者の援助についてノートにまとめ第3回授業で提出すること。（2時間）
第3回：児童文化財の意義と活用（情報機器の活用を含む）　（討議）
　事前学習：児童文化財の意義、特色について調べ、ノートにまとめておくこと。（2時間）
　事後学習：児童文化財の活用についてテキスト等をもとにまとめ第4回授業で提出すること。分からないところがあったら参考図書で調べたり担当教員に質問したりすること。（2時間）
第4回：言葉を育む遊びと環境0～3歳児（保育指導案作成）　（グループワーク）
　事前学習：自分に課された児童文化財、言葉遊びのテーマでの指導案や資料を作成・準備する。事前に配布された他グループの模擬保育指導案を分析・検討し、自分なりの意見をまとめておく。（2時間）
　事後学習：自分に課された児童文化財、言葉遊びのテーマでの指導案や教具を作成・準備する。他グループの模擬保育指導案を分析・検討し、自分なりの意見をまとめ第5回授業で提出すること。（2時間）

第５回：言葉を育む遊びと環境０～３歳児（模擬保育、省察）　（発表、討議）
事前学習：自分に課された児童文化財、言葉遊びのテーマでの模擬保育の準備する。事前に配布された他グループの模擬保育指導案を分析・検討し、自分なりの意見をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：自分に課された児童文化財、言葉遊びのテーマでの模擬保育について振り返り、改善策を考える。他グループの模擬保育指導案を分析・検討し、自分なりの意見をまとめ第６回授業で提出すること。（２時間）
第６回：言葉を育む遊びと環境４～５歳児（保育指導案作成）　（グループワーク）
事前学習：自分に課された児童文化財、言葉遊びのテーマでの指導案や資料を作成・準備する。事前に配布された他グループの模擬保育指導案を分析・検討し、自分なりの意見をまとめておく。（２時間）
事後学習：自分に課された児童文化財、言葉遊びのテーマでの指導案や教具を作成・準備する。他グループの模擬保育指導案を分析・検討し、自分なりの意見をまとめ第７回授業で提出すること。（２時間）
第７回：言葉を育む遊びと環境４～５歳児（模擬保育、省察）　（発表、討議）
事前学習：自分に課された児童文化財、言葉遊びのテーマでの模擬保育の準備する。事前に配布された他グループの模擬保育指導案を分析・検討し、自分なりの意見をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：自分に課された児童文化財、言葉遊びのテーマでの模擬保育について振り返り、改善策を考える。他グループの模擬保育指導案を分析・検討し、自分なりの意見をまとめ第８回授業で提出すること。（２時間）
第８回：言葉の発達に関わる諸問題への対応、保幼小の連携　（課題解決型学習）
事前学習：テキスト第８章を読み、質問事項をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：テキスト、模擬保育での反省等を参考にしながら、言葉の発達に関わる諸問題に適切に支援し、状況に応じた適切な表現を使えるような子どもを育てる保育者になるための努力事項をノートにまとめ提出すること。（２時間）

授業実施方法（面接授業・遠隔授業）

原則として「面接授業」を行います。ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成　績　評　価　方　法

学期末レポート（40%）　授業内の課題レポート・テスト（40%）　授業への取り組み（20%）

成　績　評　価　基　準

乳幼児期からの言葉の発達過程や保育者の援助について理解し、指導計画案を作成し実践することができるか。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック

１）授業時の課題に対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
２）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
３）小レポートに対するフィードバックについて
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
４）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
□定期試験時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
５）その他
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他

実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）

テ　キ　ス　ト、参　考　図　書

テキスト
文部科学省　『幼稚園教育要領解説』　フレーベル館　2018年
高濱裕子編著　『事例で学ぶ保育内容＜領域＞言葉』萌文書林　20018年
厚生労働省　『保育所保育指針』2017年
内閣府　『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』2017年
幼稚園教育要領（平成29年３月告示　文部科学省）
参考図書
コンパス　保育内容言葉（内藤知美・新井美保子編著　建帛社　平成29年）
保育内容領域言葉（秋田喜代美他編（株）みらい　平成22年）

その他（受講上の注意）
事例研究、指導案作成・模擬保育はグループでの活動が中心となります。
オ フ ィ ス ア ワ ー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

乳児保育Ⅰ (Infant Care and Education Ⅰ)			担当教員	森尾　恵里
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−B−2209	2単位	2年前期	講義	選択

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　展開科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

教育・保育の対象の理解及び子どもの発達の理解

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識･技能 □論理的思考力と創造力 □人間関係形成･社会形成能力 ■職業観と職業的倫理観 □自己理解･自己管理能力 ■諸課題の理解と課題対応能力 □統合的な学習経験 □キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

保育士資格(必修)

授業の内容

我が国における乳児保育の変遷をたどりながら、今日の保育所、乳児院等多様な保育の場における乳児保育や子育て支援事業などの現状と課題及び3歳未満児の発育・発達を踏まえた3歳未満児の保育内容と運営体制について理解する。さらに、乳児保育における職員間の連携・協働及び保護者や地域の関係機関との連携について学ぶ。

授業の到達目標

1．乳児保育の意義・目的と歴史的変遷及び役割等について理解する。
2．保育所・乳児院等多様な保育の場における乳児保育の現状と課題について理解する。
3．3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育の内容と運営体制について理解する。
4．乳児保育における職員間の連携・協働及び保護者や地域の関係機関との連携について理解する。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習(PBL)　□討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等)　□グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等)　□発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等)　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：乳児保育の意義・目的、歴史的変遷(授業概要の説明)
　事前学習：テキスト「第1講」を通して、乳児保育の定義やその意義、歴史的経緯について学習しておくこと。(2時間)
　事後学習：乳児保育の意義と目的を通して、歴史、政策について復習しておくこと。(2時間)
第2回：乳児保育の役割と機能
　事前学習：保育所保育指針第1章・第4章を読み子育て支援について学習しておくこと。(2時間)
　事後学習：乳児保育の役割と機能について、保育所保育指針第1章と照らし合わせて復習しておくこと。(2時間)
第3回：乳児保育における養護と教育
　事前学習：保育所保育指針「総則　養護に関する基本的事項」「第2章　保育の内容」を通して、養護と教育について学習しておくこと。(2時間)
　事後学習：養護と教育の意味と重要性について復習しておくこと。(2時間)
第4回：乳児保育及び子育て家庭に対する支援をめぐる社会状況と課題
　事前学習：テキスト「第2講」を通して、母子を保障する法律、子育て支援のあり方や課題について学習しておく。(2時間)
　事後学習：母子を保障する法律、家庭での生活や遊び、家庭との連携について復習しておくこと。(2時間)
第5回：保育所における乳児保育
　事前学習：テキスト「第3講」を通して、保育所の役割や位置づけ、乳児保育の現状について学習しておくこと。(2時間)
　事後学習：保育所の役割、保育所における乳児保育の現状と課題について学習しておくこと。(2時間)

第６回：保育所以外の児童福祉施設（乳児院等）における乳児保育
事前学習：テキスト「第４講」を通して、児童福祉施設等について学習しておくこと。（２時間）
事後学習：乳児院の役割と支援方法、現状と課題について復習しておくこと。（２時間）
第７回：家庭的保育等における乳児保育
事前学習：テキスト「第５講」を通して、地域型保育の概要と乳児保育の実際について学習しておくこと。（２時間）
事後学習：家庭的保育・小規模保育の歴史的経緯、保育の特徴、現状と課題について復習しておくこと。（２時間）
第８回：３歳未満児や家庭を取り巻く環境と子育て支援の場
事前学習：テキスト「第６講」を通して、子育て支援の目的や方法について学習しておくこと。（２時間）
事後学習：子育て支援の場、実践内容、求められる子育て支援について復習しておくこと。（２時間）
第９回：３歳未満児の心身諸機能の発達
事前学習：テキスト「第11講」を通して、特に発達に応じた安全・安心の保育について学習しておくこと。（２時間）
事後学習：心身諸機能の発達を通して３歳未満児の発達の特性と乳児保育の基本的な援助や関わりの考え方について復習しておくこと。（２時間）
第10回：３歳未満児の生活と環境
事前学習：テキスト「第７講」を通して、乳児保育における生活の場としての環境について学習しておくこと。（２時間）
事後学習：０，１，２歳児の育ちと環境を通した保育について復習しておくこと。（２時間）
第11回：３歳未満児の遊びと環境
事前学習：テキスト「第８講」を通して、０，１，２歳児の発達と環境構成の関連について学習しておくこと。（２時間）
事後学習：０，１，２歳児の遊びと遊びを充実させる環境構成について復習しておくこと。（２時間）
第12回：３歳児以上の保育に移行する時期の保育
事前学習：テキスト「第９講」を通して、子どもたちの発達の連続性について指針をふまえた移行について学習しておくこと。保育所保育指針の「ねらい」「内容」及び「内容の取り扱い」について熟読しておくこと。（２時間）
事後学習：２歳児の保育から３歳児以上の保育とのつながりについての重要ポイントを復習しておくこと。（２時間）
第13回：３歳未満児の発育・発達を踏まえた保育士等における援助の関わり
事前学習：テキスト「第10講」を通して、保育所保育指針の乳児保育に関する記載についても学習しておくこと。（２時間）
事後学習：３歳未満児の発達にあわせた援助と関わり方について復習しておくこと。（２時間）
第14回：乳児保育にける計画・記録・評価とその意義
事前学習：テキスト「第12講」を通して、保育計画の概要、指導計画から実践、記録、評価について学習しておくこと。（２時間）
事後学習：指導計画から実施、記録とのつながりや必要性について復習しておくこと。（２時間）
第15回：乳児保育における連携・協働
事前学習：テキスト「第13・14・15講」を通して、職員間、保護者、関係機関との連携の意義や実際について学習しておくこと。（２時間）
事後学習：求められる専門性、保護者との連携、地域関係機関との連携・協働の意義や実際について復習しておくこと。（２時間）
第16回：定期試験

授業実施方法（面接授業・遠隔授業）

原則として「面接授業」を行います。
ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。
遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成績評価方法

定期試験（60％）　復習レポート（30％）　平常点（10％）
・平常点は、授業への参加状況・受講態度等を総合して判断します。

成績評価基準

１．乳児保育の意義・目的と歴史的変遷及び役割等について理解することができるか。
２．保育所・乳児院等多様な保育の場における乳児保育の現状と課題について理解することができるか。
３．３歳未満児の発育・発達を踏まえた保育の内容と運営体制について理解することができるか。
４．乳児保育における職員間の連携・協働及び保護者や地域の関係機関との連携について理解することができるか。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

1）授業時の課題に対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
2）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
3）小レポートに対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
4）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
□定期試験時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
5）その他
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他

実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)

経歴：（元保育士）
実務経験と授業内容との関連性：（保育士として、保育実践を行ってきた経験を有する教員が、3歳未満児の保育内容と運営体制について、実践的に分析、考察、検討する。）

テキスト、参考図書

テキスト・・・寺田清美・大方美香・塩谷香編 「新基本保育シリーズ⑮ 乳児保育Ⅰ・Ⅱ」 中央法規出版 2019年
参考図書・・・厚生労働省編 「保育所保育指針解説 平成30年3月」 フレーベル館 2018年 内閣府編 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」

その他(受講上の注意)

・授業内容のスライドは、資料として配布する。各自ファイルに綴じて事後学習に活用すること。
・6回程度、授業の最後に振り返り復習レポートを提出する。提出された復習レポートから、重要ポイントや質問等に対して授業中または一人ひとりにコメントし、フィードバックする。
・参考図書「保育所保育指針解説」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」は各自準備すること。

オフィスアワー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

乳児保育Ⅱ (Infant Care and Education Ⅱ)			担当教員	森尾　恵里
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−B−2257	2単位	2年後期	演習	選択

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　展開科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

教育・保育の内容の理解及び指導方法

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識･技能　□論理的思考力と創造力　□人間関係形成･社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
□自己理解･自己管理能力　□諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　■キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

保育士資格(必修)

授業の内容

本授業では、3歳未満児の発育・発達の過程や特性及び養護と教育の一体性を踏まえた保育計画・保育内容・方法・環境構成・援助・観察・記録・評価について具体的に理解し、乳児保育に必要な専門的技術を身につけることを目的とする。そのために、発育・発達を捉えその時期にふさわしい豊かな体験、主体性を尊重する生活や遊びを支える環境の構成等について学習する。

授業の到達目標

1．3歳未満児の発育・発達の過程や特性を踏まえた援助や関わりの基本的な考え方について理解する。
2．養護及び教育の一体性を踏まえ、3歳未満児の子どもの生活や遊びと保育の方法及び環境について、具体的に理解する。
3．乳児保育における配慮の実際について具体的に理解する。
4．上記1～3を踏まえ、乳児保育における計画の作成について具体的に理解する。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習(PBL)　□討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等)　■グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等)　■発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等)　□実習、フィールドワーク　■実験、実技　■その他(手作りおもちゃ作製)

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：オリエンテーション(授業の概要説明)　子どもと保育士等との関係の重要性
　事前学習：3歳未満児に読み聞かせたい絵本を1冊選んで、選んだ理由をレポートにまとめ持参すること。(2時間)
　事後学習：子どもと保育者等との信頼関係について復習しておくこと。(2時間)
第2回：個々の子どもに応じた援助や受容的・応答的な関わり
　事前学習：テキストP203，304，305を読んで疑問点をレポートにまとめ持参すること。(2時間)
　事後学習：個別の支援方法や関わり方、0歳児の生活の流れ、乳児にふさわしい生活について復習しておくこと。(2時間)
第3回：子どもの主体性の尊重と自己の育ち
　事前学習：保育所保育指針「第2章乳児保育に関わるねらい及び内容」・テキスト「第2・3・4講」を通して、0歳児のデイリープログラム作成の仕方やポイントについて学習しておくこと。(2時間)
　事後学習：子どもの主体性や自己の育ちについて復習しておくこと。(2時間)
第4回：子どもの体験と学びの芽生え　実技　(調乳・おむつ交換等実技)
　事前学習：テキストP362～365を熟読し、体験学習に関することを学習しておくこと。(2時間)
　事後学習：子どもの学び、実技のそれぞれのポイントを見直し生活の援助について復習しておくこと。(2時間)

第５回：子どもの１日の生活の流れと保育の環境
事前学習：保育所保育指針「第２章　１歳以上３歳未満児に関わるねらい及び内容」・テキスト「第５．６．７講」を通して、１歳児のデイリープログラムの作成の仕方やポイントについて学習しておくこと。（２時間）
事後学習：１歳児の生活の流れと必要な環境について復習しておくこと。（２時間）
第６回：子どもの生活や遊びを支える環境の構成
事前学習：３歳未満児の遊びの特性を踏まえ、発達や興味に即した遊具を製作する為に、テキストP366～370を熟読・保育図書などから作るおもちゃを決め、必要な材料・用具を全て自分で用意して授業に臨むこと。
（例・小型玩具、手で持てる、一人で遊べる、繰り返し遊べる、安全性等を考慮する等）（２時間）
事後学習：授業時間内に仕上がらない場合は次週までに完成しプレゼンテーションに備えておくこと。（２時間）
第７回：３歳未満児の発育・発達を踏まえた生活と援助の実際　（手作りおもちゃプレゼンテーション）
事前学習：テキストP370を参考にし、レポートを作成しておくこと。（２時間）
事後学習：発達過程や季節に合わせて環境構成を変化させていく大切さについて復習しておくこと。（２時間）
第８回：３歳未満児の発育・発達を踏まえた遊びと援助の実際
事前学習：テキスト「第８・９・10講」を読み、２歳児の指導計画の作成の仕方ポイントについて学習しておくこと。（２時間）
事後学習：２歳児の生活の流れと必要な環境について復習しておくこと。（２時間）
第９回：子ども同士の関わりとその援助の実際　（わらべうた・手遊び）
事前学習：１歳～２歳児が夢中になれる遊びと保育の配慮と工夫について、学習しておくこと。（２時間）
事後学習：わらべうた・手遊び等、発達や発育を意識した様々なあそびについて復習しておくこと。（２時間）
第10回：子どもの心身の健康・安全と情緒の安定を図るための配慮
事前学習：テキスト「第11項」・保育所保育指針「第２章　保育の内容」を通して、健康や安全、情緒の安定について学習しておくこと。（２時間）
事後学習：乳幼児の健康状態や発育、衛生管理、安全管理について復習しておくこと。（２時間）
第11回：集団での生活における配慮　グループワーク・発表
事前学習：テキストP292,293,294,295を読んで、安全について学習しておくこと。（２時間）
事後学習：集団生活での具体的な配慮について復習しておくこと。（２時間）
第12回：環境の変化や移行に対する配慮
事前学習：テキスト「第13講」を読み、保護者との連携の重要性について学習しておくこと。（２時間）
事後学習：３歳以上児の保育のつながりについて復習しておくこと。（２時間）
第13回：長期的な指導計画と短期的な指導計画
事前学習：テキスト第14講のstep１を読んで疑問点をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：提示する動画で書いた記録の振り返りを書いて次週提出すること。（２時間）
第14回：個別的な指導計画と集団の指導計画
事前学習：３歳未満児保育の計画について学習しておくこと。（２時間
事後学習：個別計画、月案、週案について、復習しておくこと。（２時間）
第15回：保育実践グループワーク　（保育士等に求められる専門性）
事前学習：これまでの授業内容を復習し重要点、質問事項をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：保育者として求められる人間性や専門的知識・技術及び社会人としての心得等について復習しておくこと。（２時間）
第16回：定期試験

授業実施方法（面接授業・遠隔授業）

原則として「面接授業」を行います。
ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。
遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成　績　評　価　方　法

定期試験（40%）　課題（40%）　平常点（20%）
・課題は復習レポート、手作りおもちゃ製作等の全ての提出物を総合して判断します。
・平常点は授業への参加状況、受講態度、保育実践態度・グループワークの参加態度等を総合して判断します。

成　績　評　価　基　準

１．３歳未満児の発育・発達の過程や特性を踏まえた援助や関わりの基本的な考え方について理解することができるか。
２．養護及び教育の一体性を踏まえ、３歳未満児の子どもの生活や遊びと保育の方法及び環境について、具体的に理解することができるか。
３．乳児保育における配慮の実際について具体的に理解することができるか。
４．上記１～３を踏まえ、乳児保育における計画の作成について具体的に理解することができるか。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

1）授業時の課題に対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
2）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
3）小レポートに対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
4）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
□定期試験時　■仁大eラーニング　□メール　□その他
5）その他
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他

実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)

経歴：（元保育士）
実務経験と授業内容との関連性：（保育士として、保育実践を行ってきた経験を有する教員が、3歳未満児の保育内容と運営体制について、実践的に分析、考察、検討する。）

テキスト、参考図書

テキスト・・・寺田清美・大方美香・塩谷香編 「新基本保育シリーズ⑮ 乳児保育Ⅰ・Ⅱ」 中央法規出版 2019年
参考図書・・・厚生労働省編 「保育所保育指針解説 平成30年3月」 フレーベル館 2018年 内閣府編 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」

その他(受講上の注意)

・教科書以外の教材は、必要に応じてプリントを配布する。各自ファイルに綴じること。
・数回、授業を振り返り復習レポートを記載提出する。提出された復習レポートは、重要ポイントをはじめ一人ひとりの質問等に対してコメントし、フィードバックする。確認してファイルに綴じること。
・参考図書「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」は各自準備すること。
・手作りおもちゃは、事前に案や作り方を考え、必要な材料・ハサミ、のり、糸や針等の用具を全て自分で準備して授業に臨み題材によっては授業までに大まかな準備をして、授業時間内に仕上げること。
プレゼンテーションには、指定用紙に学籍番号・氏名・作品名・対象年月齢・ねらい・材料・工夫した点等をまとめて準備しておくこと。（授業後提出する）

オフィスアワー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

障がい児保育 (Child Care for Children withDisabilities)			担当教員	馬田　知武
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−D−2261	2単位	2年後期	演習	選択

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　展開科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

教育・保育の対象の理解及び子どもの発達の理解

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識･技能　□論理的思考力と創造力　■人間関係形成･社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
□自己理解･自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

保育士資格(必修)

授業の内容

障がい児保育の理念や障害のある子の発達特性を理解し、心身の発達状況に応じた援助や特別な配慮について理解を深める。また、保育園等における障がい児保育・家庭支援・関係機関と連携や協働の知識を深め、具体的技能を獲得するとともに実践能力を高める。

授業の到達目標

1)障がい児保育を支える理念や歴史的変遷について学び、障がい児及びその保育について理解する。
2)個々の特性や心身の発達に応じた援助や配慮について理解する。
3)障がい児その他の特別な配慮を要する子どもの保育における計画の作成や援助の具体的な方法について理解する。
4)障がい児その他の特別な配慮を要する子ども家庭への支援や関係機関との連携・協働について理解する。
5)障がい児その他の特別な配慮を要する子どもの保育に関する現状と課題について理解する。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習(PBL)　□討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等)　■グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等)　■発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等)　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　■その他(事例検討、体験学習)

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回:「障害」の概念と障がい児保育の歴史的変遷(発表)
　事前学習:テキストの第1～2講を読み、「障害」の概念と障がい児保育の歴史的変遷についてノートにまとめること。(2時間)
　事後学習:授業の内容をもとにノーマライゼーションやバリアフリー等の語句の理解を深め、それらをまとめノートに補充し整理すること。(2時間)
第2回:地域社会への参加・包容及び合理的配慮の理解
　事前学習:テキストの第2講を読み、障がいのある子どもの地域社会への参加・包容・及び合理的配慮等についてノートにまとめること。(2時間)
　事後学習:授業の内容をもとにインクルージョンやユニバーサルデザイン等の語句の理解を深め、それらの知見をノートに補充し整理すること。(2時間)
第3回:肢体不自由児の理解と援助(発表)
　事前学習:テキストの第3講を読み、肢体不自由児の特徴等をノートにまとめること。(2時間)
　事後学習:授業の内容をもとに肢体不自由児への理解を深め、知見をノートに補充し整理すること。(2時間)
第4回:知的障がい児の理解と援助(グループワーク・発表)
　事前学習:テキストの第4講を読み、知的障がい児の特徴についてノートにまとめること。(2時間)
　事後学習:授業の内容をもとに知的障害児の理解を深め、ノートに要旨を補充し整理すること。(2時間)

第５回：視覚・聴覚・言語障害児の理解と援助（体験学習・発表）
事前学習：テキスト第５講を読み、視覚障害・聴覚障害・言語障害児についてノートにまとめること。（２時間）
事後学習：授業の内容をもとに視覚障害・聴覚障害・言語障害児の理解を深め、ノートに要旨を補充すること。（２時間）
第６回：発達障害児の理解と援助（ＡＤＨＤ、ＬＤ、ＡＳＤ等）（グループワーク・発表）
事前学習：テキスト第６講を読み、ＡＤＨＤ（注意・欠如多動症）児やＬＤ（学習障害）児、ＡＳＤ（自閉スペクトラム症）児の特徴をノートにまとめること。（２時間）
事後学習：授業の内容をもとにＡＤＨＤ（注意・欠如多動症）児やＬＤ（学習障害）児、ＡＳＤ（自閉スペクトラム症）児の理解を深め、ノートに要旨を補充すること。（２時間）
第７回：重症心身障害児、医療的ケア児、その他の特別な配慮を必要とする子どもの理解と援助（発表）
事前学習：インターネットあるいは大学の図書室で重症心身障害児、医療的ケア児、その他特別な配慮を必要とする子どもについて調べ、その特徴をノートにまとめること。（２時間）
事後学習：授業の内容をもとに、重症心身障害児や医療的ケアが必要な児童の理解を深めるとともに、特別な配慮が必要な子へのアプローチ方法、援助方法等の知見をノートに補充すること。（２時間）
第８回：指導計画および個別の支援計画の作成（グループワーク・発表）
事前学習：テキスト第８講を読み、障がい児、その他特別な配慮を必要とする児童の指導計画及び個別の支援計画についてまとめること。（２時間）
事後学習：授業の内容をもとに、定型発達児および合理的配慮を必要とすると障がい児等が互いに成長できる計画（案）のあり方等をノートに整理すること。（２時間）
第９回：発達をうながす生活や遊びの環境と子ども同士のかかわり・育ち合い（事例検討）
事前学習：テキストの第９講を読み、基本的生活習慣を身につけることの大切さを理解するとともに、統合保育・分離保育・並行通園、交流保育等のメリット・デメリットについてノートにまとめること。（２時間）
事後学習：授業の内容をもとに、衣類の着脱動作などの子どもの日常生活に必要な重要動作のいくつかを５～６の行程に分解・整理しノートに補充しておくこと。また、子ども同士の関わりあいの中で生まれる育ちについての知見をノートに補充すること。（２時間）
第10回：障がい児保育における子どもの健康と安全（グループワーク）
事前学習：インターネットや大学の図書室にて、障害児の医療的ケア（呼吸・嚥下障害、胃食逆流症、吸引・経管栄養・導尿等、また、てんかん発作時の対応と緊急薬剤の使用等、また、アレルギー（食物、ぜんそく、アナフィラキシーショック等）についてノートにまとめること。（２時間）
事後学習：授業の内容をもとに、障害児保育における健康と安全について留意するべきことを確認し、それらをノートに補充し整理すること。（２時間）
第11回：職員間の連携・協働（発表）
事前学習：テキストの第９・11講を読むほか、インターネットにて、ノーマライゼーションの理念に基づいて、障がいのある子と他の子どもが相互のコミュニケーション能力を育み、子どもたちの成長・発達をねらう保育を行うための保育士の連携の大切さや、保育士と他の専門家が協働（コラボレーション）することで、統合保育・インクルージョン保育の質の向上につながる例などについて調べノートにまとめること。（２時間）
事後学習：授業の内容をもとに、保育士と他の専門家との協働（コラボレーション）等で成果を上げたものについて知り、ノートに補充すること。（２時間）
第12回：保護者に対する理解および保護者間の交流や支え合いの意義と支援（事例検討）
事前学習：教科書の第11・12講を読み、障害のある子どもの保護者や家庭支援の基本および保護者がどのような経過を辿って障害受容ができてくるかについてノートにまとめること。（２時間）
事後学習：授業の内容をもとに、障害のある子どもの保護者への支援の大切さを確認するとともに、当事者同士の交流・支え合い、きょうだいへの支援などについてまとめる。また、保護者支援のための「ピアサポート（ピアカウンセリング）」「自助グループ」「ペアレント・プログラム」などもノートに整理しておくこと。（２時間）
第13回：地域の専門機関との連携（グループワーク）
事前学習：第13講を読み、地域の専門機関との①連携がなぜ必要か　②どのような専門機関と連携するのか　③どのように連携していくと良いかについてノートにまとめること。（２時間）
事後学習：授業の内容をもとに、地域の専門機関と連携や協働するには保護者の同意が欠かせないことを確認するとともに、保育カウンセラー事業、児童発達支援センター等の保育所訪問支援などの利用についてノートに補充すること。（２時間）
第14回：小学校等との連携（グループワーク）
事前学習：テキストの第14講を読み、小学校との連携の中で重要な「移行支援」について、就学に関する基本的事柄、移行支援の実際と課題、新たな取り組み等に分類しノートにまとめること。（２時間）
事後学習：授業の内容をもとに、「移行支援」のための保育所・学校・市町教育委員会等の取り組みや役割について整理し、ノートに補充する。（２時間）

第15回：福祉・教育における現状と課題
事前学習：テキストの第15講を読み、障がい児支援の目標が地域で育ち・暮らすことにあることを学び、良質の保育を提供するための方法及び課題などをノートにまとめること。（2時間）
事後学習：授業の内容をもとに、保育士も障がい児に関する法制度や支援制度を学び、地域の専門家と連携・協働することが不可欠であることを確認する。また、放課後等デイサービス・障害児相談支援事業等についてまとめノートに補充しておく。（2時間）
第16回：定期試験

授業実施方法（面接授業・遠隔授業）

原則として「面接授業」を行います。
ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。
遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成　績　評　価　方　法

定期試験（50%）　平常点（50%）
（平常点は、授業の参加状況、受講態度、提出物等を総合して判断します。）

成　績　評　価　基　準

①ノーマライゼーションの理念が説明できるか
②統合保育について適切に説明できるか
③障害の種類（知的障害、自閉スペクトラム症、学習障害、注意欠如・多動症等）の特徴が理解できその支援方法を説明できるか
④障がい児とその家族に対する支援方法が理解できているか（連携・協働等）
⑤障がい児のアセスメント方法を説明できるか
⑥発達支援の方法でよく用いられているものを説明できるか
⑦発達に障害のある児童についての保育計画が立てられるか等

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック

1）授業時の課題に対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
2）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
3）小レポートに対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
4）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
□定期試験時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
5）その他
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他

実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）

テ　キ　ス　ト　、　参　考　図　書

テキスト；西村重稀、水田敏郎著『障害児保育』　中央法規　2019年
参考図書：尾崎康子、小林新、水内豊和、阿部美穂子編『よくわかる障害児保育［第2版］』ミネルヴァ書房　2018年
参考図書：前田泰弘著『実践に生かす障害児保育・特別支援教育［第2版］』萌文書林　2024年
参考図書：伊丹昌一著『インクルーシブ保育論［第2版］』ミネルヴァ書房　2022年

その他（受講上の注意）

特記すべき点はなし。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

保育実習指導Ⅰ (Guidance for Field Practice Ⅰ)			担当教員	青井　夕貴、渡辺　直人
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−E−2215	2単位	2年通年	演習	選択

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　実践演習・総合演習・実習科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

教育・保育の実践的能力・総合的表現力と実践後の改善に向けた態度

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識･技能　■論理的思考力と創造力　■人間関係形成･社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
■自己理解･自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　■キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

保育士資格(必修)

授業の内容

保育所での学外実習(以下、保育所実習)と保育所以外の児童福祉施設等での学外実習(以下、施設実習)を行うための事前及び事後の指導を行う。事前指導では、実習の意義と目的、実習の際の留意事項、記録の書き方などを理解する。事後指導では、個別指導、グループ討議、報告会等を通して、実習の成果と課題を共有するとともに、今後の目標を明らかにする。

授業の到達目標

事前指導
1．保育実習の意義・目的を理解する。
2．実習の内容を理解し、自らの実習の課題を明確にする。
3．実習施設における子どもや利用者等の人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解する。
4．実習の計画・実践・観察・記録・評価の方法や内容について具体的に理解する。

事後指導
5．自己評価と個別指導を通して、自己の長所と課題を整理する。
6．グループ討議や報告会等を通して、実習の総括を行い、今後の学習に向けた課題や目標を明確にする。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習(PBL)　■討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等)　■グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等)　■発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等)　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

【前期──事前指導】
第1回：実習の目的、概要説明(青井・渡辺)
　事前学習：教育実習Ⅰを振り返り、反省点や疑問点等をまとめる。(2時間)
　事後学習：出された課題や指定された図書等を通して授業内容をまとめる。(2時間)
第2回：保育所実習での心構え(渡辺)
　事前学習：不安や心配な点を整理し、実習前に心構えとして持つべき考え方や態度について自分なりにまとめる。(2時間)
　事後学習：授業を振り返り、学んだ心構えをどのように活かせられるかをまとめ、改善点を考える。(2時間))
第3回：施設実習での心構え(青井)
　事前学習：教科書の該当ページを読み、あらかじめ疑問点等をまとめる。(2時間)
　事後学習：出された課題や指定された図書等を通して授業内容をまとめる。(2時間)

第４回：保育所・認定こども園の理解（渡辺）
事前学習：保育・幼児教育に関する自身の経験を振り返り、印象深かった点や疑問点を整理する。（２時間）
事後学習：授業で学んだ内容をもとに、自分が勤務した場合の保育環境づくりについて具体的にまとめる。（２時間）
第５回：保育所実習における実習の内容と計画（渡辺）
事前学習：実習前に準備すべき内容をリスト化し、起こり得るアクシデント・イレギュラーを考えてくる。（２時間）
事後学習：授業で学んだポイントを基に、実習計画の改善案を具体的に記述し、実践に活かす方法を考える。（２時間）
第６回：保育所実習の目標・課題設定と観察・記録の内容と方法（渡辺）
事前学習：配布プリントを概観し、観察・記録に関して難儀だと感じる点や不明点を整理する。（２時間）
事後学習：授業で学んだ記録方法を活用して、記録表を作成し、自己評価する。（２時間）
第７回：保育所実習における指導案の書き方（渡辺）
事前学習：配布資料・指導案を見直し、改善が必要な箇所をリストアップする。（２時間）
事後学習：授業で得た知識を反映させ、指導案の改善例を作成し、自身の成長点を振り返る。（２時間）
第８回：各施設の理解（青井）
事前学習：児童福祉施設等について復習し、あらかじめ疑問点等をまとめる。（２時間）
事後学習：出された課題や指定された図書等を通して授業内容をまとめる。（２時間）
第９回：施設実習における実習の内容と計画（青井）
事前学習：教科書の該当ページを読み、あらかじめ疑問点等をまとめる。（２時間）
事後学習：出された課題や指定された図書等を通して授業内容をまとめる。（２時間）
第10回：施設実習の目標・課題設定（青井）
事前学習：これまでの学びを踏まえて、実習で達成したい目標を整理する。（２時間）
事後学習：討議した結果等を踏まえて、目標を見直し、整理する。（２時間）
第11回：施設実習における観察・記録の内容と方法（青井）
事前学習：教科書の該当ページを読み、あらかじめ疑問点等をまとめる。（２時間）
事後学習：出された課題や指定された図書等を通して授業内容をまとめる。（２時間）
第12回：事前指導まとめ～留意事項（人権擁護、守秘義務など）の確認（青井・渡辺）
事前学習：これまでの資料等を見直し、疑問点等をまとめる。（２時間）
事後学習：留意事項等を含めて、実習に必要な書類等を確認するとともに、実習に向けた課題を明確にする。（２時間）
【後期 ── 事後指導】
第13回：実習の振り返り～自己評価及びグループ討議（青井・渡辺）
事前学習：実習ノートを中心に実習で学んだこと等を振り返る。（２時間）
事後学習：振り返った内容を再度自分なりに整理し、理解を深める。（２時間）
第14回：個別指導を通した実習の成果、課題、今後の目標の共有（青井・渡辺）
事前学習：個人・グループでの振り返りを整理する。（２時間）
事後学習：実習での学びを総括し、次の実習への理解を深める。（２時間）
第15回：実習報告会を通した総括（青井・渡辺）
事前学習：担当になった実習の内容をまとめ、報告会の資料等を作成する。（２時間）
事後学習：自他の発表を通して感じたことなどをまとめる。（２時間）

授業実施方法（面接授業・遠隔授業）

原則として「面接授業」を行います。
ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。
遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成　績　評　価　方　法

課題・レポート（50％）　平常点（50％）
（平常点は、授業への参加状況、受講態度、提出物等を総合して判断します。）

成　績　評　価　基　準

事前指導
１．保育実習の意義・目的を説明することができるか。
２．実習の内容や自らの実習の課題を説明することができるか。
３．実習施設における子どもや利用者等の人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について説明することができるか。
４．実習の計画・実践・観察・記録・評価の方法や内容について説明することができるか。

事後指導
５．自己評価と個別指導を通して、自己の長所と課題を認識することができたか。
６．グループ討議や報告会を通して、実習の総括を行い、今後の学習に向けた課題や目標を説明することができるか。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

1）授業時の課題に対するフィードバックについて
■授業時　■仁大eラーニング　■メール　■その他（Teams）
2）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
■授業時　■仁大eラーニング　■メール　■その他（Teams）
3）小レポートに対するフィードバックについて
■授業時　■仁大eラーニング　■メール　■その他（Teams）
4）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
□定期試験時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
5）その他
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他

実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)

テキスト、参考図書

保育所保育指針（平成29年告示　厚生労働省）
幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年告示内閣府・文部科学省・厚生労働省）
保育所保育指針解説（平成30年３月　厚生労働省）
小櫃智子・守巧・佐藤恵・小山朝子『改訂版　幼稚園・保育所・認定こども園実習　パーフェクトガイド』わかば社、2023
小櫃智子・田中君枝・小山朝子・遠藤純子『改訂版　実習日誌・実習指導案パーフェクトガイド』わかば社、2023
守 巧・小櫃智子・二宮祐子・佐藤 恵『改訂版　施設実習パーフェクトガイド』わかば社、2023

その他(受講上の注意)

やむをえず欠席するときは、担当教員に連絡すること。
上記テキストと共に、実習要項を毎回持参すること。

オフィスアワー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

保育実習Ⅰa (Field Practice Ⅰa(Day Care Center))			担当教員	渡辺　直人
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−E−2216	2単位	2年前期	実習	選択

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　実践演習・総合演習・実習科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

教育・保育の実践的能力・総合的表現力と実践後の改善に向けた態度

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識･技能　■論理的思考力と創造力　■人間関係形成･社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
■自己理解･自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　■キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

保育士資格（必修）

授業の内容

2年次8月に80時間（およそ2週間）以上の保育所実習を行う。保育所における実習を通して、保育所の機能や保育士の役割・業務内容を理解するとともに、子どもと関わりながら子どもへの理解を深める。また、既習の教科目の内容を踏まえ、保護者への支援や、保育の計画・観察・記録及び自己評価等についても具体的に理解する。

授業の到達目標

1．保育所の役割や機能を具体的に理解する。
2．観察や子どもとの関わりを通して、子どもへの理解を深める。
3．既習の教科目の内容を踏まえ、子ども及び保護者への支援について総合的に理解する。
4．保育の計画・観察・記録及び自己評価等について具体的に理解する。
5．保育士の業務内容や職業倫理について具体的に理解する。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　□グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　□発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等）　■実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

1．保育所の役割と機能
　（1）保育所における子どもの生活と保育士の援助や関わり
　（2）保育所保育指針に基づく保育の展開
2．子どもの理解
　（1）子どもの観察とその記録による理解
　（2）子どもの発達過程の理解
　（3）子どもへの援助や関わり
3．保育内容・保育環境
　（1）保育の計画に基づく保育内容
　（2）子どもの発達過程に応じた保育内容
　（3）子どもの生活や遊びと保育環境
　（4）子どもの健康と安全
4．保育の計画・観察・記録
　（1）全体的な計画と指導計画及び評価の理解
　（2）記録に基づく省察・自己評価
5．専門職としての保育士の役割と職業倫理
　（1）保育士の業務内容
　（2）職員間の役割分担や連携・協働
　（3）保育士の役割と職業倫理

事前学習：事前指導や既習の教科の内容を振り返り、実習における課題を明確にする。（5時間）
事後学習：実習ノートをもとに実習全体を振り返り、学んだことを記録する。（5時間）

授業実施方法(面接授業・遠隔授業)

原則として「面接授業」を行います。
ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。
遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成　績　評　価　方　法

実習園からの評価、教員の巡回指導の記録、実習日誌、出勤状況などにもとづき、総合的に評価する。

成　績　評　価　基　準

実習評価表の項目（５項目及び総合評価）による。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

１）授業時の課題に対するフィードバックについて
　□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
２）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
　□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
３）小レポートに対するフィードバックについて
　□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
４）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
　□定期試験時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
５）その他（実習に対するフィードバックについて）
　□授業時　□仁大eラーニング　□メール　■その他（保育実習指導Ⅰの事前・事後指導時）

実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)

テ　キ　ス　ト　、　参　考　図　書

なし

その他(受講上の注意)

大学及び実習園から指示された留意事項を守り、誠実に実習を行うこと。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

保育実習Ｉｂ (Field Practice Ｉb(Childcare)			担当教員	青井　夕貴
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−E−2217	2単位	2年前期	実習	選択

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　実践演習・総合演習・実習科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

教育・保育の実践的能力・総合的表現力と実践後の改善に向けた態度

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識･技能　■論理的思考力と創造力　■人間関係形成･社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
■自己理解･自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　■キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

保育士資格（必修）

授業の内容

児童福祉施設等（保育所以外）において２年次９月に80時間（およそ10日間）以上の実習を行う。見学・観察及び参加実習を通して、児童福祉施設等（保育所以外）の機能等を理解するとともに、当該施設の子ども・利用者とその生活について理解を深める。また、児童福祉施設等（保育所以外）における保育士の職務と役割を理解し、職員間の連携・協働を把握するとともに、保育士に必要な技術・知識の水準を認識する。

授業の到達目標

１．保育所以外の児童福祉施設等の役割や機能を具体的に理解する。
２．観察や子ども・利用者との関わりを通して子ども・利用者への理解を深める。
３．既習の教科目の内容を踏まえ、子ども・利用者及び保護者への支援について総合的に理解する。
４．支援の計画・観察・記録及び自己評価等について具体的に理解する。
５．保育士の業務内容や職業倫理について具体的に理解する。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　□グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　□発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等）　■実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

既習の教科目の内容を踏まえ、実習先での観察や子ども・利用者との関わりを通して、以下の内容について理解、考察する。

１．施設の役割と機能
　（１）施設における子ども・利用者の生活（一日の流れ等）と保育士の援助や関わり
　（２）施設の役割と機能
２．子ども・利用者の理解
　（１）子ども・利用者の観察とその記録
　（２）個々の特性やニーズとそれに応じた援助や関わり
　（３）子どもの最善の利益、利用者の権利擁護についての配慮
３．施設における子ども・利用者の生活と環境
　（１）計画に基づく活動や援助
　（２）子ども・利用者の心身の状態に応じた生活と環境
　（３）子ども・利用者の活動と環境
　（４）健康管理、安全対策
４．計画と記録
　（１）支援計画の理解と活用
　（２）記録に基づく省察・自己評価

5．専門職としての保育士の役割と倫理
（1）保育士の業務内容
（2）職員間の役割分担や連携
（3）保育士の役割と職業倫理

事前学習：事前指導の振り返りを行い、実習先に関する資料等をまとめ、実習生としての心構えや課題を整理し、実習施設の理解を深める。（5時間）
事後学習：実習ノートをもとに実習全体を振り返り、学んだことを記録する。（5時間）

授業実施方法（面接授業・遠隔授業）

原則として「面接授業」を行います。ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成　績　評　価　方　法

実習施設からの評価、教員の巡回指導の記録、実習日誌、出勤状況などにもとづき、総合的に評価する。

成　績　評　価　基　準

実習評価表の項目（5項目及び総合評価）による。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック

1）授業時の課題に対するフィードバックについて
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
2）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
3）小レポートに対するフィードバックについて
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
4）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
□定期試験時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
5）その他（実習に対するフィードバックについて）
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　■その他（保育実習指導Ⅰの事前・事後指導時）

実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）

テ　キ　ス　ト、参　考　図　書

なし

その他（受講上の注意）

大学及び実習施設から指示された留意事項を守り、誠実に実習を行うこと。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

フィールドワーク演習 (Fieldwork)			担当教員	伊東　知之、中野　研也
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−E−2218	2単位	2年通年	演習	選択

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　実践演習・総合演習・実習科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

教育・保育の実践的能力・総合的表現力と実践後の改善に向けた態度

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識･技能　□論理的思考力と創造力　■人間関係形成･社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
■自己理解･自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　■キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

授業の内容

演習形態で子どもを対象にした発表や実践を伴うため、制作に費やす時間が別途企画されたり、時間外実践活動で学外(地域社会というフィールド)に出かけることもある。

授業の到達目標

学生が授業等で身に付けた理論や実践学習を学内外で子どもたちと共に具体的展開を試みる講座である。内容は音楽・身体・造形・児童文化などの表現活動を中心にした社会的活動実践を主軸に置く。フィールドは地域自治体からの要求に応じた場や自ら発表の場や対象を開拓して対応もする。長期・短期の活動時期を勘案して、学生自らが企画立案・運営し、対外交渉から実践、事後処理まで含めて主体的に活動していくことができるようにする。

アクティブ・ラーニング

■課題解決型学習(PBL)　□討議(ディスカッション、ディベート)　■グループワーク　■発表(プレゼンテーション)　■実習、フィールドワーク　■　実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：オリエンテーション。授業概要の説明、実践における計画書の作成(伊東, 中野)(PBL・グループワーク)
　事前学習：どのような内容にするか考えをまとめておく。(2時間)
　事後学習：さらに内容を深めて考えをまとめる。(2時間)
第2回：グループ編成と企画案作成(伊東、中野)(PBL・グループワーク)
　事前学習：グループ編成及び企画案を作成しておくこと。(2時間)
　事後学習：グループ編成の確認と企画案を具体的に考える。(2時間)
第3回：音楽・造形・子どもの文化の分野での班別制作実践1　(伊東、中野)(PBL・グループワーク・実技)
　事前学習：制作に必要な物をまとめ、準備する。(2時間)
　事後学習：さらに準備物をまとめ、調達する。(2時間)
第4回：音楽・造形・子どもの文化の分野での班別制作実践2　(伊東、中野)(PBL・グループワーク・実技)
　事前学習：制作に必要なものをまとめ、準備する。(2時間)
　事後学習：さらに準備物をまとめ、調達する。(2時間)
第5回：音楽・造形・子どもの文化の分野での班別制作実践3　(伊東、中野)(PBL・グループワーク・実技)
　事前学習：制作に必要なものをまとめ、準備する。(2時間)
　事後学習：さらに準備物をまとめ、調達する。(2時間)
第6回：企画内容を総合的に組み立てプログラム作成　(伊東、中野)(PBL・グループワーク)
　事前学習：各班の実践内容をまとめておく。(2時間)
　事後学習：プログラムを完成させる。(2時間)
第7回：総合的内容の実践発表参加者への案内　(伊東、中野)(PBL・グループワーク・実技)
　事前学習：案内チラシの原案を考え、ラフスケッチを行う。(2時間)
　事後学習：案内チラシ原画を完成させる。(2時間)

第８回：実践発表参加者への案内　（伊東、中野）（PBL・グループワーク・実技）
　　事前学習：配布先の一覧表を作成する。（２時間）
　　事後学習：配布先全てに配布する。（２時間）
第９回：実践発表の班別練習　（伊東、中野）（PBL・グループワーク・発表・実技）
　　事前学習：練習準備を行う。（２時間）
　　事後学習：さらに練習を行う。（２時間）
第10回：学外会場における実践発表準備　（伊東、中野）（PBL・グループワーク・発表・実技）
　　事前学習：発表準備を行う。（２時間）
　　事後学習：さらに制作、練習等準備を行う。（２時間）
第11･12回：学内会場における実践発表　（伊東、中野）（PBL・グループワーク・発表・フィールドワーク・実技）
　　事前学習：最終準備を行う。（４時間）
　　事後学習：不十分なところをまとめ、対応する。（４時間）
第13･14回：学外会場における実践発表　（伊東、中野）（PBL・グループワーク・発表・フィールドワーク・実技）
　　事前学習：さらに準備を行う。（４時間）
　　事後学習：最終準備を行う。（４時間）
第15回：発表会実践後始末　（伊東、中野）（PBL・グループワーク・実技）
　　事前学習：発表内容の反省点をまとめる。（２時間）
　　事後学習：会場の後始末、掃除を行う。（２時間）

授業実施方法（面接授業・遠隔授業）

原則として「面接授業」を行います。ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成　績　評　価　方　法

子ども対象の実践発表と学外実践への参加（50％）および実践結果の振り返りレポート（40％）、受講態度（10％）で総合的に評価する。

成　績　評　価　基　準

実践の企画・立案・展開方法・制作の吟味・発表ができるか。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック

１）授業時の課題に対するフィードバックについて
　■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
２）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
　■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
３）小レポートに対するフィードバックについて
　■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
４）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
　□定期試験時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
５）その他（　）
　□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他

実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）

テ　キ　ス　ト　、　参　考　図　書

その都度、各分野の授業時にプリントを配布したり、資料の紹介等を行う。ファイル作りをしていくこと。

その他（受講上の注意）

定外の時間帯に制作練習、実践発表等が組み込まれることがあるので、自主的に活動することを望む。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

音楽の世界 (The World of Music)			担当教員	中野　研也
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HL−1320	2単位	3年前期	講義	選択

<科目区分>　人間生活学部学部共通科目　人間学関連科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

豊かな人間性と倫理観を身につけ、幅広い視野から物事をとらえ、的確な判断を下すことができる力を養います

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識･技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成･社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解･自己管理能力　□諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

授業の内容

さまざまな音楽の魅力や特徴を探り、生み出された背景を知る。

授業の到達目標

音楽に関する通論的な知識と通史的な知識を身に付け、作品に対する自分の考えを持つことができる。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習（PBL）　■討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　□発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等）　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：音楽とは何か　～なぜ学校で音楽を学ぶのか
　事前学習：音楽とは何か、自分なりに調べて考えをまとめておくこと。（2時間）
　事後学習：授業で配布された資料を読み、音の性質についてまとめておくこと。（2時間）
第2回：音楽の誕生　～いつ・なぜ・どのようにして生まれたのか（ディスカッション）
　事前学習：音楽が①いつ、②なぜ、③どのようにして生まれたのか、①～③の項目を全て含んだ上で自分なりの考えをまとめておくこと。（2時間）
　事後学習：授業で配布された資料をもとに、音楽と人間との関係について自分の考えも交えてまとめておくこと。（2時間）
第3回：音楽の3要素── 1　～旋律を中心として
　事前学習：自身にとって旋律（メロディー）が印象的であった曲を複数書き出しておくこと（ジャンルは問わない）。（2時間）
　事後学習：授業で配布された資料をもとに、旋律とゲシュタルトの原理との関係についてまとめておくこと。（2時間）
第4回：音楽の3要素── 2　～拍子やリズムを中心として
　事前学習：自身にとってリズムや拍子が印象的であった曲を複数書き出しておくこと（ジャンルは問わない）。（2時間）
　事後学習：授業で話した内容と配布された資料をもとに、①リズムの形成についてまとめるとともに、②2拍子、3拍子、4拍子、6拍子で書かれた曲を少なくとも1曲ずつ挙げること。（2時間）
第5回：音楽の3要素── 3　～和声を中心として
　事前学習：和声とは何か、辞書やWeb等で調べ、書き出しておくこと。（2時間）
　事後学習：授業で話した内容と配布された資料をもとに、和声がもつ役割についてまとめておくこと。（2時間）
第6回：西洋の音楽史── 1　クラシック音楽の誕生と発展
　事前学習：西洋クラシック音楽で、知っている作曲家を複数名書き出しておくこと。（2時間）
　事後学習：授業で話した内容や視聴した音楽と配布された資料をもとに、①西洋音楽を発展させた要素、②それが果たした役割について、①と②の項目を共に含んだ上でまとめておくこと。（2時間）

第７回：西洋の音楽史── 2　クラシック音楽の落日とその後（ディスカッション）
事前学習：小学校、中学校、および高校の音楽の授業で聴いたことのある曲を書き出しておくこと。（２時間）
事後学習：授業で話した内容や視聴した音楽と配布された資料をもとに、西洋クラシック音楽が他の音楽に与えた影響あるいは役割についてまとめておくこと。（２時間）
第８回：音楽鑑賞・視聴　１ ～器楽作品（予定）　鑑賞レポート提出
事前学習：音楽鑑賞・視聴の題材として予告された作品について、Web等の情報を参考に下調べを行い、それがどのような作品であるのか簡単にまとめておくこと。（２時間）
事後学習：授業で鑑賞・視聴した作品のレポートを作成し、次回授業時に提出すること。（２時間）
第９回：世界の民族音楽
事前学習：民族音楽とは何か、Web等で調べておくこと。（２時間）
事後学習：授業で話した内容や視聴した音楽と配布された資料をもとに、①民族音楽とは何か、②民族音楽と西洋音楽との違いについて、それぞれまとめておくこと。（２時間）
第10回：音楽と美術── 1　～美術作品の見どころ
事前学習：音楽と美術との違いは何か、自分の考えを書き出しておくこと。（２時間）
事後学習：時代とともに変化する美的感覚は何に基づいているか、自分の考えをまとめておくこと。（２時間）
第11回：音楽と美術 ── 2 ～音楽と美術の関係
事前学習：音楽と美術との関係についてWeb等の情報を参考に下調べを行い、書き出しておくこと。（２時間）
事後学習：授業で話した内容や紹介した作品と配布された資料をもとに、①ロマン主義と印象派との違い、②ポスト印象派以降の20世紀美術について、それぞれ自分の考えをまとめておくこと。（２時間）
第12回：ジャズ── 1　～誕生の背景と音楽的特徴（グループワーク）
事前学習：ジャズとはどのような音楽であるか、Web等の情報を参考に下調べを行い、書き出しておくこと。（２時間）
事後学習：授業で話した内容と配布された資料をもとに、ジャズが生まれた背景と音楽的特徴についてまとめておくこと。（２時間）
第13回：ジャズ ── 2 ～モダン・ジャズの世界
事前学習：モダン・ジャズとは何か、Web等の情報を参考に下調べを行い、書き出しておくこと。（２時間）
事後学習：授業で話した内容や視聴した音楽と配布された資料をもとに、ジャズが他のジャンルの音楽に与えた影響についてまとめておくこと。（２時間）
第14回：音楽を記録するということ
事前学習：録音・再生を行う道具（機材）にはどのようなものがあるのか、Web等の情報を参考に下調べを行い、複数書き出しておくこと。（２時間）
事後学習：音楽を記録できるようになったことが音楽の世界にもたらした影響あるいは変化について、まとめておくこと。（２時間）
第15回：音楽鑑賞・視聴 2 ～ミュージカル作品（予定）　鑑賞レポート提出
事前学習：音楽鑑賞・視聴の題材として予告された作品について、Web等の情報を参考に下調べを行い、簡単にまとめておくこと。（２時間）
事後学習：授業で鑑賞・視聴した作品のレポートを作成し、指定の日時までに提出すること。（２時間）
第16回：定期試験

授業で配布された資料と宿題プリント、授業で話した内容のメモを見返して下さい。

授業実施方法（面接授業・遠隔授業）

原則として「面接授業」を行います。
ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。
遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成　績　評　価　方　法

２度のレポート（20％）、定期試験（50％）、授業への参加状況※（30％）で評価する。
※授業への参加状況は、出席だけでなくFormsによるコール＆レスポンスへの応答の有無を含みます。

成　績　評　価　基　準

音楽に関する通論および通史的な知識が身につき、音楽あるいは芸術に対する自分なりの考えを持つことができたか。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

1）授業時の課題に対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
2）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
3）小レポートに対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
4）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
□定期試験時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
5）その他
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他

実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)

テキスト、参考図書

特定のテキストは使用しない。授業ごとに資料（プリント）を配布する。

その他(受講上の注意)

試験問題は、配布資料（プリント）と授業で話した内容とを合わせて出題する。配布物と自分でメモをとったものは試験までは紛失しないように所持しておくこと。
下記の理由から、授業には必ずスマートフォンを持参してください。
・出欠は授業時間にe-ラーニング出欠調査のページで行う。
・授業中、Formsを使ったコール＆レスポンスを行う。フォームにはスクリーンに映し出すORコードからアクセスする。ここでの応答の有無は、成績に反映される。
質問は授業中も適宜受け付けるます。私語は厳禁です。

オフィスアワー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

生活と環境C (Life Science and the Environment C)			担当教員	尼子　克己
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HL−2330	2単位	3年前期	講義	選択

<科目区分>　人間生活学部学部共通科目　環境・健康生活科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

大学生としての基礎的能力ならびに現代の人間生活の諸課題の解決や支援に当たりうる豊かな教養と確かな知識、技術を学びます

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識･技能　■論理的思考力と創造力　■人間関係形成･社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解･自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

資格・免許の要件については学生便覧参照のこと。

授業の内容

有史以来の環境問題を、人間生活の豊かさ、疑似科学と科学の違いと関連させながら説明します。

授業の到達目標

有史以来、環境問題が如何に発生したか、人類はそれに如何に対処してきたかについて、その概要を説明できる。現代の環境問題が人口の増大と生活の豊かさとリンクし、その複雑さゆえ単純な解決法を持たないことを説明できる。環境問題に対峙し、自ら意思決定に関わる姿勢を身につける。具体的には、①環境に関わる語句を正しく説明できる　②「科学的に正しい」とはどういうことかを理解している　③正解がない問題に対して、論理的に自分の意見を述べる、または書くことができる　ことを目標とする。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　□グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　□発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等）　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：イントロダクション（講義全体の紹介）
　事前学習：事前配布した講義内容に関連する用語を列挙したもの、ごく基本的な科学的知識を問う問題に取り組み、知らない用語について下調べを行うこと。なお解答用紙は提出を求めるが、ここでの正答率の高低は成績に影響しない。（2時間）
　事後学習：課題提出に必要となる、Microsoft365等、学習に必要な動画受信、電子的な課題提出に必要な操作について、指定されたテスト用送受信を行い、トラブルが生じた場合は情報サポート室や担当教員に問い合わせ、解決する。（2時間）
第2回：地球の歴史と生物の進化（酸素、光と生物の関係を中心に）
　事前学習：事前配布した読み物を通読し、わからない語句について調べておくこと。（2時間）
　事後学習：講義内でわからなかった内容について、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（2時間）
第3回：オゾンホール（発明当時にはわからなかったこと）
　事前学習：事前配布した読み物を通読し、わからない語句について調べておくこと。（2時間）
　事後学習：講義内でわからなかった内容について、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（2時間）
第4回：大気汚染ガス（大気汚染問題の変遷）
　事前学習：事前配布した読み物を通読し、わからない語句について調べておくこと。（2時間）
　事後学習：講義内でわからなかった内容について、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（2時間）
第5回：疑似科学と科学リテラシー（この発明は革命的か？）
　事前学習：事前配布した、ある発明を報じたニュース動画および記事を閲覧し、その報道に対する感想・意見を用意しておく。（2時間）
　事後学習：講義内でわからなかった内容について、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（2時間）

第６回：BSEと食環境（「安全」と「安心」はどう違う？）
事前学習：事前配布した読み物を通読し、わからない語句について調べておくこと。（２時間）
事後学習：講義内でわからなかった内容について、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（２時間）
第７回：映画「キング・コーン」を題材に（あなたの体が"コーン"でできていたとしたら？）
事前学習：事前配布した読み物を通読し、わからない語句について調べておくこと。（２時間）
事後学習：講義内で閲覧した動画に対する感想、および現代の食生活に対する問題点を整理すること。（２時間）
第８回：有機野菜・遺伝子組換え作物（賛成・反対とそれぞれの「根拠」）
事前学習：事前配布した読み物を通読し、わからない語句について調べておくこと。（２時間）
事後学習：講義内でわからなかった内容について、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（２時間）
第９回：「科学的に正しい」とは何か、「わかりやすい」は絶対善か（科学哲学、「ゆるふわ」科学論の危うさ）
事前学習：事前配布した読み物を通読し、わからない語句について調べておくこと。（２時間）
事後学習：講義内でわからなかった内容について、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（２時間）
第10回：温室効果ガス（温室効果の原理、パリ協定等国際協調の論理）
事前学習：事前配布した読み物を通読し、わからない語句について調べておくこと。（２時間）
事後学習：講義内でわからなかった内容について、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（２時間）
第11回：持続可能な社会①（「成長の限界」と「マルサスの人口論」）
事前学習：事前配布した読み物を通読し、わからない語句について調べておくこと。（２時間）
事後学習：講義内でわからなかった内容について、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（２時間）
第12回：持続可能な社会②（「経済成長」と「人口の先」にあるもの）
事前学習：事前配布した読み物を通読し、わからない語句について調べておくこと。（２時間）
事後学習：講義内でわからなかった内容について、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（２時間）
第13回：情報化社会における「正しさ」（「ポスト真実」と「フィルターバブル」）
事前学習：事前配布した読み物を通読し、わからない語句について調べておくこと。（２時間）
事後学習：講義内でわからなかった内容について、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（２時間）
第14回：教育格差と自己責任論（分断について考える）
事前学習：事前配布した読み物を通読し、わからない語句について調べておくこと。（２時間）
事後学習：講義内でわからなかった内容について、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（２時間）
第15回：人類の未来を予測する（ユヴァル・ノア・ハラリ氏の著作を中心に）、まとめ
事前学習：事前配布した読み物を通読し、わからない語句について調べておくこと。（２時間）
事後学習：講義内でわからなかった内容について、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問すること。（２時間）

授業実施方法（面接授業・遠隔授業）

原則として「面接授業」を行います。
ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。
遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成　績　評　価　方　法

授業への取り組み40%、レポート60%で評価する。定期試験は実施しない。授業への取り組みは、所定書式で作成したノートテイクの内容を点数化する。レポートについては、レポートは講義数回分を踏まえた課題を３つ指定し、それぞれについてＡ４用紙１～２枚程度にまとめたものを点数化する。

成　績　評　価　基　準

①環境に関わる語句を正しく説明できるか。②「科学的に正しい」ことの意味を理解できているか。③正解がない問題に対して、論理的に自分の意見を述べる、または書くことができるか。以上３つの視点を評価する。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

1）授業時の課題に対するフィードバックについて
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
2）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
3）小レポートに対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他（レポート内容の傾向と評価のポイントについて概説する）
4）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
□定期試験時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
5）その他
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他

実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)

テキスト、参考図書

テキストは使用しない。使用したレジュメはe-ラーニングで公開する。参考図書：廣瀬千秋訳「改訂・実感する化学－地球感動編」(株) NTS・2015年、西岡秀三監修「地球温暖化」ニュートンプレス・2010年、石井彰著「エネルギー論争の盲点－天然ガスと分散化が日本を救う」ＮＨＫ出版新書・2011年、SYNODOS編「もうダマされないための『科学』講義」光文社新書・2011年、『成長の限界 ── ローマ・クラブ「人類の危機」レポート』、ダイヤモンド社・1972年、ユヴァル・ノア・ハラリ著・柴田裕之訳「21 Lessons　21世紀の人類のための21の思考」河出書房新社・2019年。その他省庁作成の各種白書を参考資料とする。

その他(受講上の注意)

受講上講義内容のノートをとる用紙を毎回配布・回収（電子的に取り込み、用紙はその場で返却）します。

オフィスアワー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

英語Ⅲa (English Ⅲa)			担当教員	M クズィフ
講義コード	単位	配当年次	開講形態	選択区分
HL−2340	1単位	3年前期	演習	選択

<科目区分> 人間生活学部学部共通科目 外国語科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

大学生としての基礎的能力ならびに専門的・実際的な知識を習得し、探求的な意欲と協同的な態度を身につけます。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□体系的な知識･技能 □論理的思考力と創造力 ■人間関係形成･社会形成能力 □職業観と職業的倫理観 ■自己理解･自己管理能力 □諸課題の理解と課題対応能力 □統合的な学習経験 □キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

授業の内容

A pre-reading warm-up activity will be held before reading the essay for each unit. Comprehension exercises, including pair-work, will follow the introduction of new vocabulary. After discussing the topic in groups, a short writing exercise will be given. Students will also be responsible for facilitating one lesson from the textbook and completing an original discussion assignment.

授業の到達目標

The goal of this course is to develop reading and discussion skills. Students will deepen their understanding of the world around them. Students will learn to engage in thoughtful and effective communication that is representative of an increasingly global world.

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習 (PBL) ■討議 (ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) □グループワーク (Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) □発表・プレゼンテーション (Teams、Zoom等) □実習、フィールドワーク □実験、実技 □その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：Introductions (ディスカッション)
事前学習：事前にテキストを読み、質問項目をまとめておくこと (30分)
事後学習：授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること (30分)
第2回：Who Is J.K. Rowling? ① (ディスカッション)
事前学習：事前にテキストを読み、質問項目をまとめておくこと (30分)
事後学習：授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること (30分)
第3回：Who Is J.K. Rowling? ② (ディスカッション)
事前学習：事前にテキストを読み、質問項目をまとめておくこと (30分)
事後学習：授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること (30分)
第4回：What Are Some New Year's Customs? ① (ディスカッション)
事前学習：事前にテキストを読み、質問項目をまとめておくこと (30分)
事後学習：授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること (30分)
第5回：What Are Some New Year's Customs? ② (ディスカッション)
事前学習：事前にテキストを読み、質問項目をまとめておくこと (30分)
事後学習：授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること (30分)
第6回：Where Is Buckingham Palace? ① (ディスカッション)
事前学習：事前にテキストを読み、質問項目をまとめておくこと (30分)
事後学習：授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること (30分)
第7回：Where Is Buckingham Palace? ② (ディスカッション)
事前学習：事前にテキストを読み、質問項目をまとめておくこと (30分)
事後学習：授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること (30分)

第 8 回：Why Are Cows Special In India? ①（ディスカッション）
事前学習：事前にテキストを読み、質問項目をまとめておくこと（30分）
事後学習：授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること（30分）
第 9 回：Why Are Cows Special In India? ②（ディスカッション）
事前学習：事前にテキストを読み、質問項目をまとめておくこと（30分）
事後学習：授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること（30分）
第10回：Why Do People Give Gifts For Weddings? ①（ディスカッション）
事前学習：事前にテキストを読み、質問項目をまとめておくこと（30分）
事後学習：授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること（30分）
第11回：Why Do People Give Gifts For Weddings? ②（ディスカッション）
事前学習：事前にテキストを読み、質問項目をまとめておくこと（30分）
事後学習：授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること（30分）
第12回：What's Special About The Blowfish? ①（ディスカッション）
事前学習：事前にテキストを読み、質問項目をまとめておくこと（30分）
事後学習：授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること（30分）
第13回：What's Special About The Blowfish? ②（ディスカッション）
事前学習：事前にテキストを読み、質問項目をまとめておくこと（30分）
事後学習：授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること（30分）
第14回：Who Are The Sami? ①（ディスカッション）
事前学習：事前にテキストを読み、質問項目をまとめておくこと（30分）
事後学習：授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること（30分）
第15回：Who Are The Sami? ②（ディスカッション）
事前学習：事前にテキストを読み、質問項目をまとめておくこと（30分）
事後学習：授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること（30分）

Students are encouraged to consult the Internet for information on topics introduced in the textbook.

授業実施方法（面接授業・遠隔授業）

原則として「面接授業」を行います。ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成　績　評　価　方　法

Proactive In-class Participation - 20%
Homework - 20%
Lesson Facilitation - 20%
Final Discussion - 40%

成　績　評　価　基　準

Students are expected to and will be evaluated on their role during in-class discussions and on assigned material as well as their performance on the lesson facilitation and discussion assignments.

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック

1）授業時の課題に対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
2）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
3）小レポートに対するフィードバックについて
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
4）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
□定期試験時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
5）その他
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他

実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）

テ　キ　ス　ト、参　考　図　書

Broukal, Milada. What A World Reading 1: Amazing Stories from Around the Globe. Pearson Longman. ISBN 978-0-13-247267-8

その他（受講上の注意）

Active participation in class is essential for success in this course. Communicating in English is essential.

オ フ ィ ス ア ワ ー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

英語Ⅲb (English Ⅲb)			担当教員	M クズィフ
講義コード	単 位	配当年次	開講形態	選択区分
HL−2341	1単位	3年後期	演習	選択

<科目区分> 人間生活学部学部共通科目 外国語科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

大学生としての基礎的能力ならびに専門的・実際的な知識を習得し、探求的な意欲と協同的な態度を身につけます。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□体系的な知識･技能 □論理的思考力と創造力 ■人間関係形成･社会形成能力 □職業観と職業的倫理観 ■自己理解･自己管理能力 □諸課題の理解と課題対応能力 □統合的な学習経験 □キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

授業の内容

A pre-reading warm-up activity will be held before reading the essay for each unit. Comprehension exercises, including pair-work, will follow the introduction of new vocabulary. After discussing the topic in groups, a short writing exercise will be given. Students will also be responsible for facilitating one lesson from the textbook and completing an original discussion assignment.

授業の到達目標

The goal of this course is to develop reading and discussion skills. Students will deepen their understanding of the world around them. Students will learn to engage in thoughtful and effective communication that is representative of an increasingly global world.

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習(PBL) ■討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) □グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等) □発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等) □実習、フィールドワーク □実験、実技 □その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：Introductions(ディスカッション)
事前学習：事前にテキストを読み、質問項目をまとめておくこと(30分)
事後学習：授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること(30分)
第2回：Why Are Rain Forests Important? ①(ディスカッション)
事前学習：前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと(30分)
事後学習：授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること(30分)
第3回：Why Are Rain Forests Important? ②(ディスカッション)
事前学習：前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと(30分)
事後学習：授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること(30分)
第4回：What Is Tornado Alley? ①(ディスカッション)
事前学習：前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと(30分)
事後学習：授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること(30分)
第5回：What Is Tornado Alley? ②(ディスカッション)
事前学習：前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと(30分)
事後学習：授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること(30分)
第6回：Who Was Andrew Carnegie? ①(ディスカッション)
事前学習：前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと(30分)
事後学習：授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること(30分)
第7回：Who Was Andrew Carnegie? ②(ディスカッション)
事前学習：前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと(30分)
事後学習：授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること(30分)

第８回：Why Do People Decorate Their Bodies? ①（ディスカッション）
事前学習：前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと（30分）
事後学習：授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること（30分）
第９回：Why Do People Decorate Their Bodies? ②（ディスカッション）
事前学習：前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと（30分）
事後学習：授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること（30分）
第10回：What Is Canada's Favorite Sport? ①（ディスカッション）
事前学習：前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと（30分）
事後学習：授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること（30分）
第11回：What Is Canada's Favorite Sport? ②（ディスカッション）
事前学習：前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと（30分）
事後学習：授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること（30分）
第12回：What's Special About New Zealand? ①（ディスカッション）
事前学習：前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと（30分）
事後学習：授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること（30分）
第13回：What's Special About New Zealand? ②（ディスカッション）
事前学習：前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと（30分）
事後学習：授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること（30分）
第14回：Who Were The Men Sailing Dragon Ships? ①（ディスカッション）
事前学習：前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと（30分）
事後学習：授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること（30分）
第15回：Who Were The Men Sailing Dragon Ships? ②（ディスカッション）
事前学習：前回の授業を振り返り、分からないことについて質問項目をまとめておくこと（30分）
事後学習：授業で課された課題を解き、分からないことについて図書館で調べること（30分）
Students are encouraged to consult the Internet for information on topics introduced in the textbook.

授業実施方法（面接授業・遠隔授業）

原則として「面接授業」を行います。
ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。
遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成　績　評　価　方　法

Proactive In-class Participation - 20%
Homework - 20%
Lesson Facilitation - 20%
Final Discussion - 40%

成　績　評　価　基　準

Students are expected to and will be evaluated on their role during in-class discussions and on assigned material as well as their performance on the lesson facilitation and discussion assignments.

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック

１）授業時の課題に対するフィードバックについて
■授業時　■仁大eラーニング　□メール　□その他
２）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
３）小レポートに対するフィードバックについて
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
４）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
□定期試験時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
５）その他
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他

実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）

テ　キ　ス　ト、参　考　図　書

Broukal, Milada. What A World Reading 1: Amazing Stories from Around the Globe. Pearson Longman. ISBN 978-0-13-247267-8

その他（受講上の注意）

Active participation in class is essential for success in this course. Communicating in English is essential.

オ フ ィ ス ア ワ ー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

公衆衛生学実習 (Public Health Practicum)			担当教員	鳴瀬　碧
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−E−2307	1単位	3年前期	実習	必修

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科専門科目　専門基礎分野

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

コミュニケーション能力、論理的思考力、判断力ならびに表現力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識･技能　■論理的思考力と創造力　■人間関係形成･社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
□自己理解･自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

管理栄養士国家試験受験資格（必修）、栄養士免許（必修）、食品衛生管理者・食品衛生監視員任用資格（選択）

授業の内容

公衆衛生管理に関する実験とグループ学習。
人々の健康を社会集団として捉え、その社会集団の健康の維持増進を目的として、環境因子（水，光，温度等）と健康、環境因子の異常原因、疾病の予防等について改善技術や方策などを理解する。

授業の到達目標

・公衆衛生学の講義で習得した基礎的知識を実習を通してより深く理解する。
・人々の健康問題に関心を持ち、問題を掘り起こし、健康の維持増進のための解決法の開発に貢献できる能力を習得する。
・チーム医療や保健衛生に関わる業務に必要な協調性とコミュニケーション能力を養成する。

アクティブ・ラーニング

■課題解決型学習（PBL）　■討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等）　■実習、フィールドワーク　■実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：ガイダンス
保健統計・疫学①（疫学の概念・疫学の指標）（実習、フィールドワーク）
グループ調査研究①（テーマ選定）（PBL、グループワーク）
第2回：保健統計・疫学②（疫学の方法，疫学の効果指標）（実習、フィールドワーク）
第3回：保健統計・疫学③（検査の指標とスクリーニング）（実習、フィールドワーク）
第4回：保健統計・疫学④（統計解析）（実習、フィールドワーク）
第5回：環境衛生測定①（室内・屋外環境測定①：気温，気湿，気流，照度，騒音等）（実験、実技、グループワーク）
第6回：環境衛生測定②（室内・屋外環境測定②：浮遊粉じん，一酸化炭素，二酸化炭素，ホルムアルデヒド等）（実験、実技、グループワーク）
第7回：環境衛生測定③（飲料水の水質検査①：硬度、残留塩素、細菌試験）（実験、実技）
第8回：環境衛生測定④（飲料水の水質検査②：第7回のつづき、まとめ）（実験、実技）
第9回：環境衛生測定⑤（公共用水の水質検査①：DO,BOD,COD等）（実験、実技）
第10回：環境衛生測定⑥（公共用水の水質検査②：第9回のつづき、まとめ）（実験、実技）
第11回：グループ調査研究②（調査手法の検討）（PBL、グループワーク）
第12回：グループ調査研究③（情報収集および分析①）（PBL、実習、フィールドワーク、グループワーク）
第13回：グループ調査研究④（情報収集および分析②）（PBL、実習、フィールドワーク、グループワーク）
第14回：グループ調査研究⑤（プレゼンテーション資料の作成）（PBL、討議、実習、フィールドワーク、グループワーク）
第15回：グループ調査研究⑥（調査研究成果のプレゼンテーション）（PBL、討議、グループワーク、発表）

第16回：定期試験

新聞・ニュース等で報じられる健康の保持・増進に関する取組について日頃から興味を持つようにしてください。各回の講義内容についてよく復習し、疾病の予防や健康増進について公衆衛生学の重要性の理解に努めてください。

授業実施方法（面接授業・遠隔授業）

原則として「面接授業」を行います。ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成　績　評　価　方　法

定期試験（20%）、レポート（30%）、調査研究発表および報告書（30%）、平常点（20%）
（平常点は、授業への参加状況・受講態度、課題への取組み方等を総合して判断する）

成　績　評　価　基　準

・環境衛生の分析方法および結果の評価方法を習得できているか。
・保健統計について理解できているか。
・疫学の概念、その方法および評価指標について理解できているか。
・グループで他者と強調して、調査テーマの選定、調査計画の立案、情報収集、情報の疫学的分析およびディスカッションを行い、得られた成果をまとめることができるか。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック

1）授業時の課題に対するフィードバックについて
■授業時　■仁大eラーニング　■メール　■その他（Teams）
2）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
■授業時　■仁大eラーニング　■メール　■その他（Teams）
3）小レポートに対するフィードバックについて
■授業時　■仁大eラーニング　■メール　■その他（Teams）
4）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
□定期試験時　■仁大eラーニング　■メール　■その他（Teams）
5）その他（質問に対するフィードバックについて）
■授業時　■仁大eラーニング　■メール　■その他（Teams）

実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）

経歴：（薬剤師・健康運動指導士）
実務経験と授業内容との関連性：（薬剤師として医療提供施設での実務経験とスポーツ・健康増進関連施設での実務経験、健康運動指導士としての実務経験を活かし、健康・疾病・行動に関わる統計資料の活用方法、健康状態・疾病の測定と評価等について実習を通して理解を深めていく。）

テ　キ　ス　ト　、　参　考　図　書

角野 猛 他 編著 『新版 公衆衛生学実験・実習』 建帛社　2022年
参考書：鳴瀬 碧 編著　ステップアップ栄養・健康科学『社会・環境と健康』 化学同人　2024年
その他、必要に応じて、資料（実験ノート）を配布する。

その他（受講上の注意）

・公衆衛生学の講義やテキスト、参考書により、あらかじめ自分達（5 ～7 名程度のグループ）がどのような研究をしたいか、どのような研究ができるかを考えておいて欲しい。
・授業中の携帯電話など、他の学習の妨げとなる場合には退室させるので留意すること。
・課題レポートなどは、提出期限を守ること。提出遅延は減点の対象となる。また、提出期限後は受領しない場合があるので注意すること。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

社会福祉論 (Social Welfare)			担当教員	坂口　昌宏
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−C−2309	2単位	3年後期	講義	選択

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科専門科目　専門基礎分野

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

学校および地域社会の健康づくりを担うことができる能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識･技能　□論理的思考力と創造力　■人間関係形成･社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
□自己理解･自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

管理栄養士国家試験受験資格(必修)、栄養士免許(必修)

授業の内容

「健康」と「幸せ」につながる社会福祉の理念や法制度について講義し、栄養士・管理栄養士に必要とされる社会福祉の基礎知識について解説する。

授業の到達目標

・わが国の社会保障のしくみと主な社会福祉制度を理解し、栄養士・管理栄養士の職務とのつながりを説明できる。
・栄養士・管理栄養士が保健医療福祉および教育分野で連携する社会福祉専門職の業務を理解する。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習(PBL)　□討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等)　□グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等)　□発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等)　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　■その他(事例検討)

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：オリエンテーション、栄養士が社会福祉を学ぶ意義と目的
　事前学習：「社会福祉」がキーワードとなる最近のニュースまたはトピックを調べておくこと。(2時間)
　事後学習：授業で解説したテキスト範囲と資料を見直すこと。(2時間)
第2回：日本の社会福祉の歴史
　事前学習：「社会福祉」がキーワードとなる最近のニュースまたはトピックを調べておくこと。(2時間)
　事後学習：授業で解説したテキスト範囲と資料を見直すこと。(2時間)
第3回：社会福祉を展開する組織と専門職
　事前学習：保健医療福祉専門職の業務について調べておくこと。(2時間)
　事後学習：授業で解説したテキスト範囲と資料を見直すこと。(2時間)
第4回：社会福祉施設の役割
　事前学習：「社会福祉」がキーワードとなる最近のニュースまたはトピックを調べておくこと。(2時間)
　事後学習：授業で解説したテキスト範囲と資料を見直すこと。(2時間)
第5回：社会保障制度の体系と社会保険①
　事前学習：「社会福祉」がキーワードとなる最近のニュースまたはトピックを調べておくこと。(2時間)
　事後学習：授業で解説したテキスト範囲と資料を見直すこと。(2時間)
第6回：社会保障制度の体系と社会保険②
　事前学習：「社会福祉」がキーワードとなる最近のニュースまたはトピックを調べておくこと。(2時間)
　事後学習：授業で解説したテキスト範囲と資料を見直すこと。(2時間)
第7回：社会保障制度の体系と社会保険③
　事前学習：「社会福祉」がキーワードとなる最近のニュースまたはトピックを調べておくこと。(2時間)
　事後学習：授業で解説したテキスト範囲と資料を見直すこと。(2時間)
第8回：高齢者福祉
　事前学習：「社会福祉」がキーワードとなる最近のニュースまたはトピックを調べておくこと。(2時間)
　事後学習：授業で解説したテキスト範囲と資料を見直すこと。(2時間)

第９回：介護保険制度と専門職の役割①
　　事前学習：「社会福祉」がキーワードとなる最近のニュースまたはトピックを調べておくこと。（２時間）
　　事後学習：授業で解説したテキスト範囲と資料を見直すこと。（２時間）
第10回：介護保険制度と専門職の役割②（事例検討）
　　事前学習：指定した事例を熟読し、それに関連することを調べておくこと。（２時間）
　　事後学習：授業で解説したテキスト範囲と資料を見直すこと。（２時間）
第11回：低所得者福祉
　　事前学習：指定した事例を熟読し、それに関連することを調べておくこと。（２時間）
　　事後学習：授業で解説したテキスト範囲と資料を見直すこと。（２時間）
第12回：子ども家庭福祉（事例検討）
　　事前学習：「社会福祉」がキーワードとなる最近のニュースまたはトピックを調べておくこと。（２時間）
　　事後学習：授業で解説したテキスト範囲と資料を見直すこと。（２時間）
第13回：障がい者福祉
　　事前学習：「社会福祉」がキーワードとなる最近のニュースまたはトピックを調べておくこと。（２時間）
　　事後学習：授業で解説したテキスト範囲と資料を見直すこと。（２時間）
第14回：医療福祉と精神保健福祉
　　事前学習：指定した事例を熟読し、それに関連することを調べておくこと。（２時間）
　　事後学習：授業で解説したテキスト範囲と資料を見直すこと。（２時間）
第15回：地域福祉（事例検討）
　　事前学習：「社会福祉」がキーワードとなる最近のニュースまたはトピックを調べておくこと。（２時間）
　　事後学習：授業で解説したテキスト範囲と資料を見直すこと。（２時間）
第16回：定期試験

授業実施方法（面接授業・遠隔授業）

原則として「面接授業」を行います。
ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。
遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成　績　評　価　方　法

定期試験（70％）　平常点（30％）
（平常点は、リアクションペーパー、レポートの提出状況等を総合して判断します。）

成　績　評　価　基　準

・わが国の社会保障のしくみと主な社会福祉制度を理解することができる。
・栄養士・管理栄養士が保健医療福祉および教育分野で連携する社会福祉専門職の業務を理解することができる。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック

１）授業時の課題に対するフィードバックについて
　■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
２）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
　■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
３）小レポートに対するフィードバックについて
　■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
４）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
　□定期試験時　□仁大eラーニング　■メール　□その他
５）その他
　□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他

実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）

テ　キ　ス　ト　、　参　考　図　書

岩松珠美・三谷嘉明編『栄養士・管理栄養士をめざす人の社会福祉』　みらい　2020年

その他（受講上の注意）

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

栄養生化学実験 (Experiments in Nutritional Biochemistry)			担当教員	池田　涼子
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−E−2315	1単位	3年後期	実験	選択

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科専門科目　専門基礎分野

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>　正常な人体の仕組みについて、細胞レベルから組織器官レベルまでの機能を理解する。

求める学習成果(教育目標)

コミュニケーション能力、論理的思考力、判断力ならびに表現力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識･技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成･社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解･自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

管理栄養士国家試験受験資格（必修）
食品衛生管理者・食品衛生監視員任用資格（選択）

授業の内容

栄養生化学とは、栄養素の代謝および関連する生体成分の特性を生化学的手法を用いて究明する学問分野である。本科目では、生体成分の分析、消化実験、栄養素の摂取と生体指標の関係性についての実験を通して、栄養素と生体生化学反応・生理機能との相互関連ひいては生化学と生理学、栄養学とをつなぐ総合的な知識の定着を図るよう授業を展開する。
授業内ではグループに分かれて実験をおこない、結果をもとに個人で実験シート、実験報告書（レポート）を作成し、提出する。
データ解析などのグループ作業やディスカッションへの参加も重要である。
※実験報告書（レポート）は原理・考察を記述する際に参考文献を引用し、出典を明記すること。
※実験シートは原則として、レポートの締め切り以前に提出を課す。毎回のキーワード・ポイントを理解したうえで取り組むことが重要である。
　教員は回収後、なるべく速やかに内容を確認し返却する。チェックの入った箇所は、レポートの作成の際に参考にするとよい。
※その他、授業内容・学生の理解度に応じてその他の課題を与えることがある。

授業の到達目標

栄養学の科学的根拠を得る上で生化学的な視点は不可欠であり、その手法は発達を続けている。
本講義は化学実験（定性・定量・機器分析）の内容を基本として、以下の項目を目的とする。
・栄養実験、生理・生化学実験の具体的な手技の習得
・実験の結果を正確にとらえ、考察を導き出す洞察力・思考力の醸成
・基礎的な研究結果を栄養学の実践に活用する為の総合的な理解力の向上

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習（PBL）　■討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等）　□実習、フィールドワーク　■実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：ガイダンス・でんぷんの消化（1）アミロースとアミロペクチン（実験）
　　2群間の有意差検定（ディスカッション, グループワーク）
　　※初回のみ1.5コマ、以降は毎回3コマ連続開講
第2回：でんぷんの消化（2）食品の種類と消化率（実験）
第3回：食品の種類と消化率に関する総合的な考察（ディスカッション, グループワーク）
第4回：たんぱく質の消化（実験）
第5回：電気泳動法の原理、総合的な考察（ディスカッション, グループワーク）
第6回：食事順と食後血糖値（実験）
第7回：3群以上の有意差検定・食事順と食後血糖値に関する考察（ディスカッション, グループワーク）

第８回：食事順と食後血糖値のまとめとグループ発表（ディスカッション, グループワーク）
第９回：定期試験

※1.5コマ １回＋３コマ×７回：全８回で開講予定

授業実施方法（面接授業・遠隔授業）

原則として「面接授業」を行います。
ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。
遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成　績　評　価　方　法

レポート20%、グループ発表25％、定期試験55%の合計に
授業態度・レポートの提出状況などを加味して総合的に評価する。

成　績　評　価　基　準

・授業で用いた実験法の原理を理解し、実際に行うことができる。
・実験結果をもとに、食品成分や物理的刺激が消化性に与える影響や食後血糖値に影響を与える因子について説明できる。
・結果の比較について、統計法の理論を理解し実際に行うことができる。
いずれにおいても科学的視点から適切に分析・考察できることがポイントである。
以上を鑑み、総合点60点以上を合格として単位を認定する。（詳細は履修規定第７条を確認すること）

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック

１）授業時の課題に対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　□メール　■その他（必要に応じて履修登録後に作成するTeamsでおこなう。）
２）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　□メール　■その他（必要に応じて履修登録後に作成するTeamsでおこなう。）
３）小レポートに対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他（必要に応じて履修登録後に作成するTeamsでおこなう。）
４）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
■定期試験時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
５）その他
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他

実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）

テ　キ　ス　ト　、　参　考　図　書

生理・生化学実験 第４版 地人書館
授業内容に応じて適宜、参考図書の紹介、資料の配布をおこなう。

その他（受講上の注意）

実験室に入室する際は必ず白衣・上履きを着用し、タオル・ハンカチを持参すること。
事故防止の為、長い髪はまとめ、前髪や顔の横に垂れる髪についてはピンで留める。実験操作に支障をきたす化粧などはしない。
安全管理上、授業中の指示や実験室使用のルールについては必ず従うこと。
指示に従わない者、危険な行為に及ぶ者については実験を中止し、退去を命じることがある。
レポートは提出期限を厳守すること。期限外の提出は原則として認めない。
欠席については、可能な限り補講として追実験を実施する。日程については担当教員に相談すること。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

食品機能学 (Functional Food Science)			担当教員	浦本　裕美
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−D−2322	2単位	3年後期	講義	選択

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科専門科目　専門基礎分野

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

基礎研究および食品開発ができる能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識･技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成･社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解･自己管理能力　□諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

食品衛生管理者・食品衛生監視員　任用資格（選択）

授業の内容

食品の一次機能（栄養）、二次機能（嗜好）、三次機能（生体調節）の内、二次機能と三次機能について解説する。
食品成分の生体調節機能については保健機能食品を中心に説明し、併せて保健機能食品、特別用途食品の法制上の位置づけと表示についても説明する。
本科目内容は、管理栄養士国家試験の「食べものと健康」領域の出題内容を含んでいる。

授業の到達目標

嗜好成分の種類と特徴および食品中機能成分の健康に与える影響、それらの疾病予防に対する役割等、生体調節機能について理解できる。
また、特定保健用食品などの「新しい食品」の法制上の位置づけおよびその表示を理解できる。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　□グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　□発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等）　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：食品成分の3 つの機能について、嗜好成分（1）　色素成分
　事前学習：テキストP115～122を読み、質問項目についてまとめておくこと。（2時間）
　事後学習：授業内容を見直しノートを整理する。わからないところは、調べたり、担当教員に質問すること。課題の解答を次回までにまとめておくこと。（2時間）
第2回：嗜好成分（2）　味成分
　事前学習：テキストP122～128を読み、質問項目についてまとめておくこと。（2時間）
　事後学習：授業内容を見直しノートを整理する。わからないところは、調べたり、担当教員に質問すること。課題の解答を次回までにまとめておくこと。（2時間）
第3回：嗜好成分（3）　香り成分
　事前学習：テキストP128～131を読み、質問項目についてまとめておくこと。（2時間）
　事後学習：授業内容を見直しノートを整理する。わからないところは、調べたり、担当教員に質問すること。課題の解答を次回までにまとめておくこと。（2時間）
第4回：嗜好成分（4）　アミノ・カルボニル反応と反応生成物質
　事前学習：テキストP163～167を読み、質問項目についてまとめておくこと。（2時間）
　事後学習：授業内容を見直しノートを整理する。わからないところは、調べたり、担当教員に質問すること。課題の解答を次回までにまとめておくこと。（2時間）
第5回：機能性食品とは、健康食品にかかわる制度
　事前学習：テキストP173～174を読み、質問項目についてまとめておくこと。（2時間）
　事後学習：授業内容を見直しノートを整理する。わからないところは、調べたり、担当教員に質問すること。課題の解答を次回までにまとめておくこと。（2時間）

第６回：特定保健用食品（１）　整腸
　　事前学習：テキストp181～182を読み、質問項目についてまとめておくこと。（２時間）
　　事後学習：授業内容を見直しノートを整理する。わからないところは、調べたり、担当教員に質問すること。課題の解答を次回までにまとめておくこと。（２時間）
第７回：特定保健用食品（２）　血圧調整
　　事前学習：テキストp182～183を読み、質問項目についてまとめておくこと。（２時間）
　　事後学習：授業内容を見直しノートを整理する。わからないところは、調べたり、担当教員に質問すること。課題の解答を次回までにまとめておくこと。（２時間）
第８回：特定保健用食品（３）　脂質の吸収・代謝の調整１
　　事前学習：テキストp182を読み、質問項目についてまとめておくこと。（２時間）
　　事後学習：授業内容を見直しノートを整理する。わからないところは、調べたり、担当教員に質問すること。課題の解答を次回までにまとめておくこと。（２時間）
第９回：特定保健用食品（４）　脂質の吸収・代謝の調整２
　　事前学習：テキストp185を読み、質問項目についてまとめておくこと。（２時間）
　　事後学習：授業内容を見直しノートを整理する。わからないところは、調べたり、担当教員に質問すること。課題の解答を次回までにまとめておくこと。（２時間）
第10回：特定保健用食品（５）骨・歯の健康維持調整（中間テストを含む）
　　事前学習：テキストp183を読み、質問項目についてまとめておくこと。（２時間）
　　事後学習：授業内容を見直しノートを整理する。わからないところは、調べたり、担当教員に質問すること。課題の解答を次回までにまとめておくこと。（２時間）
第11回：特定保健用食品（７）血糖値の調整
　　事前学習：テキストp184を読み、質問項目についてまとめておくこと。（２時間）
　　事後学習：授業内容を見直しノートを整理する。わからないところは、調べたり、担当教員に質問すること。課題の解答を次回までにまとめておくこと。（２時間）
第12回：特定保健用食品について
　　事前学習：テキストp184～185を読み、質問項目についてまとめておくこと。（２時間）
　　事後学習：授業内容を見直しノートを整理する。わからないところは、調べたり、担当教員に質問すること。課題の解答を次回までにまとめておくこと。（２時間）
第13回：機能性表示食品・栄養機能食品について
　　事前学習：テキストP174～176を読み、質問項目についてまとめておくこと。（２時間）
　　事後学習：授業内容を見直しノートを整理する。わからないところは、調べたり、担当教員に質問すること。課題の解答を次回までにまとめておくこと。（２時間）
第14回：特別用途食品について
　　事前学習：テキストP175～181を読み、質問項目についてまとめておくこと。（２時間）
　　事後学習：授業内容を見直しノートを整理する。わからないところは、調べたり、担当教員に質問すること。課題の解答を次回までにまとめておくこと。（２時間）
第15回：遺伝子組換え食品・ゲノム編集食品について
　　事前学習：第14回に配布したプリントを読み、質問項目についてまとめておくこと。（２時間）
　　事後学習：授業内容を見直しノートを整理する。わからないところは、調べたり、担当教員に質問すること。課題の解答を次回までにまとめておくこと。（２時間）
第16回：定期試験

授業実施方法（面接授業・遠隔授業）

原則として「面接授業」を行います。
ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。
遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成　績　評　価　方　法

定期試験45%、中間テスト45%、課題10%

成　績　評　価　基　準

・嗜好成分の種類と特徴および生体調節機能成分の機能について説明できる。
・特定保健用食品などの機能表示が可能な食品の法制上の位置づけと表示について説明できる。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

1）授業時の課題に対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
2）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　■その他（返却）
3）小レポートに対するフィードバックについて
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
4）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
□定期試験時　□仁大eラーニング　□メール　■その他（答案の返却）
5）その他
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他

実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)

テキスト、参考図書

「食品学総論」で使用するテキストと配布プリント

その他(受講上の注意)

課題は必ず提出すること。なお講義内容は連続性があるため、欠席や遅刻をすると内容理解の進展に支障をきたすので、欠席・遅刻をしないように心掛けること。
授業の計画の予定は、変更されることがある。
また、授業の計画・内容や注意事項の詳細については、授業１回目のガイダンスにて説明する。

オフィスアワー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

食品加工実習 (Food Science and Technology Practicum)			担当教員	浦本　裕美
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−E−2324	1単位	3年後期	実習	選択

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科専門科目　専門基礎分野

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

コミュニケーション能力、論理的思考力、判断力ならびに表現力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識･技能　■論理的思考力と創造力　■人間関係形成･社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解･自己管理能力　□諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

食品衛生管理者・食品衛生監視員　任用資格(選択)

授業の内容

食品加工学や食品学総論で学んだ知識をより深く総合的に理解するために、いろいろな加工食品を小規模に工夫して製造する。

授業の到達目標

食品成分の化学的特性を利用して、栄養面、安全面、嗜好面の各特性を高める食品加工の原理を理解するとともに、さまざまな食品を開発する能力を養成する。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習(PBL)　□討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等)　□グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等)　□発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等)　■実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：ガイダンス
第2回：アイスクリームの加工① アイスクリーム(実習)
第3回：アイスクリームの加工②　アイスミルク、ラクトアイス(実習)
第4回：ジャムの加工①　マーマレード(高メトキシペクチンジャム)、瓶詰、殺菌(実習)
第5回：ジャムの加工②　りんごジャム(低メトキシペクチンジャム)、評価(実習)
第6回：パンの加工①　混合・発酵(実習)
第7回：パンの加工②　成形・焼成、評価(実習)
第8回：こんにゃくの加工①　芋の処理・混合(膨潤)(実習)
第9回：こんにゃくの加工②　成形・加熱、評価(実習)
第10回：みその加工①　工場見学
第11回：みその加工②　みその加工(実習)
第12回：豆腐の加工①　豆乳の調製(実習)
第13回：豆腐の加工②　各種凝固剤を用いた木綿豆腐・絹ごし豆腐の加工、評価(実習)
第14回：みかんのシラップ漬け(缶詰)の加工①　じょうのう膜の除去、シロップの糖度と酸度の決定(実習)
第15回：みかんのシラップ漬け(缶詰)の加工②　シロップの調製、缶締、殺菌(実習)
食品加工についてのキーワードおよび加工理論をよく理解するように努める。

授業実施方法(面接授業・遠隔授業)

原則として「面接授業」を行います。
ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。
遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成績評価方法

レポート(90%)、平常点(10%)、平常点は授業への参加状況・受講態度等を総合して採点する。

成　績　評　価　基　準

・食品加工の原理を理解して製品を評価できる。
・加工原理と製造方法を関連付けて製品を上手くつくることができる。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

1）授業時の課題に対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
2）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
3）小レポートに対するフィードバックについて
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
4）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
□定期試験時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
5）その他（授業内容についての質問）
■授業時　□仁大eラーニング　■メール　■その他（直接研究室へ来たり、Teamsのチャットでも可）

実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)

テ　キ　ス　ト、参　考　図　書

谷口亜樹子編著　よくわかる食品加工学　～理論・実習・実験～　朝倉書店　2024、プリント配布

その他(受講上の注意)

・白衣、調理用帽子、タオルを持参すること。
・実習費は別途に集金する。詳細は、第１回目のガイダンスで説明する。
・授業の計画の予定は、変更されることがある。また、授業の計画・内容や注意事項の詳細については、授業第１回目のガイダンスにて説明する。
・10回、11回のみその加工は、県内食品加工会社での実習と見学を予定しており、みそ以外の加工食品に変更する場合もある。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

調理科学実験 (Experiments in Fundamental CookeryScience)			担当教員	佐藤　真実
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−E−2331	1単位	3年後期	実験	選択

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科専門科目　専門基礎分野

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

コミュニケーション能力、論理的思考力、判断力ならびに表現力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識･技能　■論理的思考力と創造力　■人間関係形成･社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
■自己理解･自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　■キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

管理栄養士国家試験受験資格（必修）　食品衛生管理者・食品衛生監視員任用資格（選択）

授業の内容

健康を維持・増進できる「おいしい食事」を作るための調理学の理論を実験を通して科学的に理解する。

授業の到達目標

調理操作によって起こる食品の化学的・物理的変化について、より高い技術の向上と応用、高度の研究手法を修得し、実験を通して理論を裏づけることができる。
化学的・物理的手法および官能評価法などを用いて食品のおいしさを評価することができる。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等）　□実習、フィールドワーク　■実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：実験の基礎（講義・実験）
第2回：味覚に関する実験（実験）
第3回：官能評価の手法例と統計解析（実験）
第4回：加熱操作に関する実験（実験）
第5回：非加熱操作に関する実験（実験）
第6回：調理による理化学的変化に視点をあてた実験①（米）（実験）
第7回：調理による理化学的変化に視点をあてた実験②（小麦）（実験）
第8回：調理による理化学的変化に視点をあてた実験③（いも、野菜、果物）（実験）
第9回：調理による理化学的変化に視点を当てた実験④（食肉）（実験）
第10回：調理による理化学的変化に視点をあてた実験⑤（魚介）（実験）
第11回：調理による理化学的変化に視点をあてた実験⑥（卵、乳製品）（実験）
第12回：調理による理化学的変化に視点をあてた実験⑦（寒天・カラギーナン・ゼラチン）（実験）
第13回：調理による理化学的変化に視点をあてた実験⑧（でんぷん他）（実験）
第14回：調理による理化学的変化に視点をあてた実験⑨（砂糖）（実験）
第15回：調理科学実験の結果発表（グループワーク）（発表）
第16回：定期試験

予習として、各回に関連する教科書、プリントの頁をよく読み、あらかじめ疑問点等を考えておくこと。
復習として、実験データ、資料などを見直して、詳細にレポートをまとめておくこと。

授業実施方法(面接授業・遠隔授業)

原則として「面接授業」を行います。
ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。
遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成　績　評　価　方　法

定期試験（60%）　平常点（10%）　実験レポート（30%）
（平常点は、授業への参加状況・受講態度、レポートの提出状況等を総合して判断します。）

成　績　評　価　基　準

化学的・物理的手法を用いて食品のおいしさ、調理操作における食品の変化や諸現象を化学的に説明できる。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック

1）授業時の課題に対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　■メール　□その他
2）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　■メール　□その他（レポートは採点し、返却します）
3）小レポートに対するフィードバックについて
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
4）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
□定期試験時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
5）その他
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他

実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）

テ　キ　ス　ト　、　参　考　図　書

テキスト：長尾慶子・香西みどり『調理科学実験』 建帛社
参考図書：西堀すき江ほか『マスター調理学』 建帛社

その他（受講上の注意）

衛生・安全に配慮すること。実験室では、必ず白衣を着用し、アクセサリーやマニキュアは厳禁とする。長い髪は束ねること。
授業への出席状況、実習態度、レポートの提出を重視する。欠席した場合は必ず補講を受講する。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

栄養教育論Ⅱ(子ども・高齢期栄養教育論) (Nutrition Education Ⅱ(Children andElderly))			担当教員	牧野　みゆき
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−B−2340	2単位	3年前期	演習	必修

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科専門科目　専門分野

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

栄養状態を把握し、個別栄養評価プログラムを提案し、行動変容を支援できる能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□体系的な知識･技能　□論理的思考力と創造力　■人間関係形成･社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解･自己管理能力■諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

管理栄養士国家試験受験資格(必修)、栄養士免許(必修)

授業の内容

栄養教育マネジメントで用いる行動科学の理論やモデルを踏まえ、ライフステージ(妊娠・授乳期、乳幼児期、学童期、思春期、成人期、高齢期)に応じた栄養教育のあり方を学修する。栄養教育プログラムを実践するために必要となる教材の選定や環境整備についても学修する。必要に応じて演習を交え授業を進める。

授業の到達目標

ライフステージ(妊娠・授乳期、乳幼児期、学童期、思春期、成人期、高齢期)に応じた栄養教育のあり方を修得する。また，栄養教育プログラムを実践するために必要となる，教材の選定や食環境の整備について説明することができる。

アクティブ・ラーニング

■課題解決型学習(PBL)　□討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等)　□グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等)　□発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等)　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：栄養カウンセリングの基本1
　事前学習：授業前にp35−42を読み、分からない単語があれば調べておくこと。(2時間)
　事後学習：確認問題の解説を視聴するとともに、テキスト・配布資料の見直しを行うこと。分からないことがあれば、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して教員に質問すること。(2時間)
第2回：栄養カウンセリングの基本2
　事前学習：授業前にテキストp42−54を読み、分からない単語があれば調べておくこと。(2時間)
　事後学習：確認問題の解説を視聴するとともに、テキスト・配布資料の見直しを行うこと。分からないことがあれば、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して教員に質問すること。(2時間)
第3回：動機づけ面接
　事前学習：授業前に配布する関連資料を読み、、分からない単語があれば調べておくこと。(2時間)
　事後学習：確認問題の解説を視聴するとともに、テキスト・配布資料の見直しを行うこと。分からないことがあれば、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して教員に質問すること。(2時間)
第4回：行動変容のための技法の活用、栄養教育への応用
　事前学習：2年生後期の授業で学習した内容について復習しておくこと。(2時間)
　事後学習：確認問題の解説を視聴するとともに、テキスト・配布資料の見直しを行うこと。分からないことがあれば、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して教員に質問すること。(2時間)
第5回：妊婦、授乳婦の特性【課題解決学習】
　事前学習：これまで他の講義等で学習した該当ライフステージの特性について復習しておくこと。(2時間)
　事後学習：テキスト・配布資料・授業内で取り組んだ課題の見直しを行い、分からないことがあれば、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して教員に質問すること。(2時間)
第6回：乳幼児期の特性【課題解決学習】
　事前学習：これまで他の講義等で学習した該当ライフステージの特性について復習しておくこと。(2時間)
　事後学習：テキスト・配布資料・授業内で取り組んだ課題の見直しを行い、分からないことがあれば、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して教員に質問すること。(2時間)

第７回：妊婦、授乳婦、乳幼児期における栄養教育
事前学習：授業前にテキストp120－137を読み、分からない単語があれば調べておくこと。（２時間）
事後学習：確認問題の解説を視聴するとともに、テキスト・配布資料の見直しを行うこと。分からないことがあれば、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して教員に質問すること。（２時間）
第８回：学童期の特性【課題解決学習】
事前学習：これまで他の講義等で学習した該当ライフステージの特性について復習しておくこと。（２時間）
事後学習：テキスト・配布資料・授業内で取り組んだ課題の見直しを行い、分からないことがあれば、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して教員に質問すること。（２時間）
第９回：思春期の特性【課題解決学習】
事前学習：これまで他の講義等で学習した該当ライフステージの特性について復習しておくこと。（２時間）
事後学習：テキスト・配布資料・授業内で取り組んだ課題の見直しを行い、分からないことがあれば、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して教員に質問すること。（２時間）
第10回：学童期、思春期における栄養教育
事前学習：授業前にテキストp137－158を読み、分からない単語があれば調べておくこと。（２時間）
事後学習：確認問題の解説を視聴するとともに、テキスト・配布資料の見直しを行うこと。分からないことがあれば、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して教員に質問すること。（２時間）
第11回：成人期の特性【課題解決学習】
事前学習：これまで他の講義等で学習した該当ライフステージの特性について復習しておくこと。（２時間）
事後学習：テキスト・配布資料・授業内で取り組んだ課題の見直しを行い、分からないことがあれば、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して教員に質問すること。（２時間）
第12回：成人期における栄養教育
事前学習：授業前にテキストp159－168を読み、分からない単語があれば調べておくこと。（２時間）
事後学習：確認問題の解説を視聴するとともに、テキスト・配布資料の見直しを行うこと。分からないことがあれば、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して教員に質問すること。（２時間）
第13回：高齢期の特性【課題解決学習】
事前学習：これまで他の講義等で学習した該当ライフステージの特性について復習しておくこと。（２時間）
事後学習：テキスト・配布資料・授業内で取り組んだ課題の見直しを行い、分からないことがあれば、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して教員に質問すること。（２時間）
第14回：高齢期における栄養教育
事前学習：授業前にテキストp169－180を読み、分からない単語があれば調べておくこと。（２時間）
事後学習：確認問題の解説を視聴するとともに、テキスト・配布資料の見直しを行うこと。分からないことがあれば、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して教員に質問すること。（２時間）
第15回：傷病者の栄養教育
事前学習：授業前にテキストp181－196を読み、分からない単語があれば調べておくこと。（２時間）
事後学習：確認問題の解説を視聴するとともに、テキスト・配布資料の見直しを行うこと。分からないことがあれば、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して教員に質問すること。（２時間）
第16回：定期試験

授業実施方法（面接授業・遠隔授業）

原則として「面接授業」を行います。
ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。
遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成績評価方法

定期試験（60％）、平常点（40％）
平常点は、授業課題への取り組み状況、受講状況等から評価する。

成績評価基準

ライフステージ（妊娠・授乳期、乳幼児期、学童期、思春期、成人期、高齢期）に応じた栄養教育の進め方について説明することができるか。栄養教育プログラムを実践するために必要となる教材の環境整備について説明することができるか。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック

１）授業時の課題に対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
２）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
３）小レポートに対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
４）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
□定期試験時　■仁大eラーニング　□メール　□その他
５）その他
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他

実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）
テキスト、参考図書
エッセンシャル栄養教育論　第５版、春木敏、長島万弓、坂本達昭　編、医歯薬出版、2024年
その他（受講上の注意）
授業計画は、進捗状況により変更することがある。
オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

栄養教育論Ⅳ（健康栄養情報処理演習） （Nutrition Education Ⅳ (StatisticalPractice in Health Nutrition)）			担当教員	牧野　みゆき
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−B−2342	1単位	3年後期	演習	選択

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科専門科目　専門分野

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果（教育目標）

栄養状態を把握し、個別栄養評価プログラムを提案し、行動変容を支援できる能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力（汎用的能力）

□体系的な知識･技能　□論理的思考力と創造力　■人間関係形成･社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解･自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

管理栄養士国家試験受験資格（必修）、食品衛生管理者・食品衛生監視員任用資格（選択）

授業の内容

健康栄養に関する情報の処理と活用について学修する。

授業の到達目標

栄養教育論におけるニーズアセスメントや評価に活用する健康栄養に関する情報をMicrosoft Excelを用いて処理し、実際に利用するための技術を修得する。

アクティブ・ラーニング

■課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　□発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等）　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：オリエンテーション、情報処理でわかること、文献検索の方法について
　事前学習：eラーニングに掲載している資料をもとに要点をまとめておくこと。（1時間）
　事後学習：講義で提示した文献検索の方法を用いて、興味ある内容の文献を調べ、内容を確認する。（3時間）
第2回：栄養情報におけるデータ解析1　基本統計量について（平均値・中央値など）
　事前学習：公衆栄養学等で学習した、統計に関する用語を思い出しておく。（1時間）
　事後学習：授業で課した演習課題を行い、eラーニングに提出すること。また、今回の課題で使用した機能について、自分なりの手順書を作成しておくこと。（3時間）
第3回：栄養情報におけるデータ解析2　量データの分析について（T検定など）
　事前学習：第1章に目を通し、基本統計量の出し方について復習しておく。（1時間）
　事後学習：授業で課した演習課題を行い、eラーニングに提出すること。また、今回の課題で使用した機能について、自分なりの手順書を作成しておくこと。（3時間）
第4回：栄養情報におけるデータ解析3　質データの分析について（クロス集計、χ 2検定など）
　事前学習：これまで他の授業で習得した、ピポットテーブルの作り方を思い出しておく。（1時間）
　事後学習：授業で課した演習課題を行い、eラーニングに提出すること。また、今回の課題で使用した機能について、自分なりの手順書を作成しておくこと。（3時間）
第5回：調査企画、質問調査項目、分析計画の作成【グループワーク】
　事前学習：グループで話し合い、調査テーマを決めて、関連する文献を調べておく。（3時間）
　事後学習：授業で課した演習課題を行い、eラーニングに提出すること。（1時間）
第6回：アンケートの作成と実施
　事前学習：他の授業で習得したフォームズの使い方と設定方法を思い出す。（1時間）
　事後学習：第5回で作成したデータを同じグループで共有し、不適切な回答がないかを確認する。（1時間）
第7回：アンケートデータの集計・分析（素集計、クロス集計等のおさらい）
　事前学習：調査の目的を踏まえて、第7回でどのような分析を行う必要があるかを考える。（1時間）
　事後学習：授業で課した演習課題を行い、eラーニングに提出すること。（4時間）

第８回：分析結果に基づく栄養教育の企画立案【問題解決型学習】
事前学習：他の授業で学習した、データからの課題抽出の方法や栄養教育の目標設定の方法を思い出す。（２時間）
事後学習：授業で課した演習課題を行い、eラーニングに提出すること。（３時間）

授業実施方法（面接授業・遠隔授業）

原則として「面接授業」を行います。
ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。
遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成　績　評　価　方　法

授業ごとの演習課題および期末課題80％、演習への取り組み態度等20%の総合評価（100%）

成　績　評　価　基　準

Microsoft Excelを活用して、健康栄養情報の処理や統計解析をすることができる。また、その結果のデータから適切な課題を抽出し、栄養教育計画の企画・立案に活用することができる。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック

１）授業時の課題に対するフィードバックについて
□授業時　■仁大eラーニング　□メール　□その他
２）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
３）小レポートに対するフィードバックについて
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
４）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
□定期試験時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
５）その他
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他

実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）

テ　キ　ス　ト、参　考　図　書

テキスト：
「管理栄養士・栄養士のための統計処理入門」　武藤志真子　建帛社（2017年）
参考図書：
「Excelで学ぶ統計解析入門2019」　石村貞夫・劉晨・石村友二郎　東京書籍（2019年）

その他（受講上の注意）

管理栄養士国家試験受験資格を取得するためには、この科目は必修となるので演習中は集中して聴講すること。また、他の学生の聴講の妨げとなるので、私語はしないこと。演習課題は必ず提出すること。なお演習内容は連続性があり、欠席や遅刻ををすると内容理解の進展に支障をきたすので、欠席・遅刻をしないように心がけること。また、授業の計画・内容や注意事項の詳細については、授業１回目のガイダンスにて説明する。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

栄養教育論実習 (Nutrition Education Practicum)			担当教員	牧野　みゆき
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−E−2343	1単位	3年前期	実習	必修

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科専門科目　専門分野

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

コミュニケーション能力、論理的思考力、判断力ならびに表現力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□体系的な知識･技能　□論理的思考力と創造力　■人間関係形成･社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解･自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

管理栄養士国家試験受験資格（必修）、栄養士免許（必修）

授業の内容

健康および生活の質（Quality of Life）の向上をめざした栄養教育プログラムの計画、実施、評価について一連のプロセスを学ぶ。集団栄養教育、個別栄養教育についてはグループワークにより学修する。

授業の到達目標

対象者のアセスメント、栄養教育プログラムの計画、実施、評価について一連のプロセスを学び、栄養教育の実践力を高め、栄養教育プログラムを総合的にマネジメントできる力を習得する。

アクティブ・ラーニング

■課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等）　■実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：ガイダンス、食生活・健康課題の把握
第2回：集団を対象にした栄養教育①　モデルケースからの課題抽出【グループワーク】
第3回：集団を対象にした栄養教育②　全体計画・カリキュラムの作成1【グループワーク】
第4回：集団を対象にした栄養教育③　全体計画・カリキュラムの作成2【グループワーク】
第5回：集団を対象にした栄養教育④　栄養教育実施に向けた準備1【グループワーク】
第6回：集団を対象にした栄養教育⑤　栄養教育実施に向けた準備2【グループワーク】
第7回：集団を対象にした栄養教育⑥　栄養教育実施に向けた準備3【グループワーク】
第8回：集団を対象にした栄養教育⑦　栄養教育の実演1【発表】
第9回：集団を対象にした栄養教育⑧　栄養教育の実演2【発表】
第10回：個人を対象にした栄養教育①　個人栄養教育の概要説明、問診表等の作成【課題解決型学習】
第11回：個人を対象にした栄養教育②　基礎データの作成、課題抽出1【課題解決型学習】
第12回：個人を対象にした栄養教育③　基礎データの作成、課題抽出2【課題解決型学習】
第13回：個人を対象にした栄養教育④　指導案・教材の作成1【課題解決型学習】
第14回：個人を対象にした栄養教育⑤　指導案・教材の作成2【課題解決型学習】
第15回：個人を対象にした栄養教育⑥　栄養教育の実演【実習】

授業実施方法(面接授業・遠隔授業)

原則として「面接授業」を行います。
ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。
遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成績評価方法

レポート（50%）、発表・実演等（30%）、平常点（20%）
平常点は，授業への参加状況，受講態度等から総合的に評価する。

成　績　評　価　基　準

対象者のアセスメント、栄養教育プログラムの計画、実施、評価についての一連のプロセスを理解しているか。
栄養教育プログラムを総合的にマネジメントすることができるか。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

1）授業時の課題に対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
2）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
3）小レポートに対するフィードバックについて
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
4）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
□定期試験時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
5）その他
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他

実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)

テ　キ　ス　ト、参　考　図　書

授業時に指示する。必要に応じてプリントを配布する。

その他(受講上の注意)

実習のため、欠席は講義科目よりも厳しく管理する。
また、レポート等は提出期限を超えると原則受け付けない。そのため、自分自身で締切やスケジュールを管理すること。

なお、「集団を対象にした栄養教育」は、グループ内でコミュニケーションを十分にとって取り組むこと。また、「個人を対象にした栄養教育」はクラス内でペアを作り、「集団を対象にした栄養教育」の流れをもとに、個人単位で実習課題に取り組むため、各自が各回の課題に主体性をもって取り組むこと。レポートは、実演やその準備をまとめる内容になるため、疑問点などは放置せずに積極的に質問をすること。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

臨床栄養学Ⅱ（栄養アセスメント） （Clinical Nutrition Ⅱ（Nutrition Assessment））			担当教員	山本　浩範
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−A−2346	2単位	3年前期	講義	必修

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科専門科目　専門分野

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果（教育目標）

栄養管理を行い、チーム医療の一員として貢献できる能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力（汎用的能力）

■体系的な知識･技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成･社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
□自己理解･自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

管理栄養士国家試験受験資格（必修）

授業の内容

傷病者の栄養状態あるいは疾病コントロール状況を評価・判定し、適切な栄養ケアプランを立案できる知識と技術を身につけることを目的とする。

授業の到達目標

各疾患における生理的特徴、栄養状態の特徴、身体・栄養状態の評価・判定法について説明できる

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　□グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　□発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等）　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：臨床栄養の概念（医療の現状と問題、管理栄養士の職務、医療における栄養管理の意義）
　事前学習：授業前にテキストの臨床栄養の概念に関する項を予習する。（2時間）
　事後学習：テキスト等の見直し、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用する。（2時間）
第2回：管理栄養士の役割、専門用語（クリニカルパス、バリアンスなど）
　事前学習：授業前にテキストおよび配布プリントの管理栄養士の役割について調べておくこと。（2時間）
　事後学習：テキスト等の見直し、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用する。（2時間）
第3回：栄養スクリーニングとアセスメントの意義と方法
　事前学習：授業前にテキストおよび配布プリントの栄養スクリーニングとアセスメントについて調べておくこと。（2時間）
　事後学習：テキスト等の見直し、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用する。（2時間）
第4回：臨床症候、臨床診査（バイタルサイン、脱水、貧血、浮腫、PEM）
　事前学習：授業前にテキストおよび配布プリントの身体計測と臨床症候について調べておくこと。（2時間）
　事後学習：テキスト等の見直し、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用する。（2時間）
第5回：臨床検査、食事摂取量調査、エネルギー必要量
　事前学習：授業前にテキストおよび配布プリントの臨床検査項目と食事調査方法について調べておくこと。（2時間）
　事後学習：テキスト等の見直し、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用する。（2時間）
第6回：栄養診断、エネルギー必要量の算出
　事前学習：授業前にテキストおよび配布プリントの栄養診断について調べておくこと。（2時間）
　事後学習：テキスト等の見直し、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用する。（2時間）
第7回：エネルギー、タンパク・脂質・炭水化物の必要量
　事前学習：授業前にテキストおよび配布プリントの栄養素の必要量の算出方法について調べておくこと。（2時間）
　事後学習：テキスト等の見直し、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用する。（2時間）

第８回：水分出納と水分必要量、小テスト
事前学習：授業前にテキストおよび配布プリントの水分出納と水分必要量の算出について調べておくこと。（２時間）
事後学習：テキスト等の見直し、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用する。（２時間）
第９回：ビタミン、ミネラルのアセスメントと必要量
事前学習：授業前にテキストおよび配布プリントのミネラルの役割と食事摂取基準について調べておくこと。（２時間）
事後学習：テキスト等の見直し、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用する。（２時間）
第10回：カルシウム代謝の調節・経腸・静脈栄養法
事前学習：授業前にテキストおよび配布プリントのビタミンの役割と食事摂取基準について調べておくこと。（２時間）
事後学習：テキスト等の見直し、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用する。（２時間）
第11回：食品と薬の相互作用
事前学習：授業前にテキストおよび配布プリントの栄養管理計画の作成について調べておくこと。（２時間）
事後学習：テキスト等の見直し、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用する。（２時間）
第12回：糖尿病の栄養管理
事前学習：授業前にテキストおよび配布プリントの栄養補給法の種類と適応について調べておくこと。（２時間）
事後学習：テキスト等の見直し、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用する。（２時間）
第13回：先天性代謝異常症の病態と栄養管理
事前学習：授業前にテキストおよび配布プリントの栄養教育、モニタリング、再評価について調べておくこと。（２時間）
事後学習：テキスト等の見直し、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用する。（２時間）
第14回：膵臓疾患の病態と栄養管理
事前学習：授業前にテキストおよび配布プリントの摂食嚥下評価方法について調べておくこと。（２時間）
事後学習：テキスト等の見直し、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用する。（２時間）
第15回：クリティカルケア、外傷、熱傷と栄養管理
事前学習：授業前にテキストおよび配布プリントの薬と栄養・食物の相互作用について調べておくこと。（２時間）
事後学習：テキスト等の見直し、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用する。（２時間）
第16回：定期試験

授業実施方法（面接授業・遠隔授業）

原則として「面接授業」を行います。ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成　績　評　価　方　法

定期試験50%（授業の理解度を評価する）、小テスト25%（第８回目に授業の理解度を評価する）　平常点25%（平常点は、遅刻の有無、出席状況、受講態度、リアクションペーパーの内容等を総合して判断する）

成　績　評　価　基　準

各疾患における生理的特徴、栄養状態の特徴、身体・栄養状態の評価・判定法、栄養計画について説明できるか

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック

１）授業時の課題に対するフィードバックについて
■授業時　■仁大eラーニング　□メール　□その他
２）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
■授業時　■仁大eラーニング　□メール　□その他
３）リアクションペーパーに対するフィードバックについて
□授業時　■仁大eラーニング　□メール　□その他
４）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
□定期試験時　□仁大eラーニング　□メール　■その他（試験後に答案用紙を返却し、解説または再確認テストを行う）
５）その他（小テストに対するフィードバックについて）
■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他

実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）

テキスト、参考図書
1）栄養科学シリーズ　新・臨床栄養学　　編者　竹谷豊ほか　講談社 2）その他、参考プリントを、授業の進捗過程で必要に応じて配布する。
その他（受講上の注意）
医学会の治療基準の改定等により、授業計画は変更されることがある。8回目前後に授業の理解度を確認・評価するために小テストを行う。 各回の講義を受けた後、講義内容のまとめ、感想、確認したい点や疑問点など記入したリアクションペーパーを提出する。配付プリント問題に取り組む。遅刻の有無、出席状況、受講態度、リアクションペーパーの内容等は、平常点として総合的に評価される。
オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

臨床栄養学Ⅲ(チーム医療) (Clinical Nutrition Ⅲ(Team Healthcare))			担当教員	佐藤　裕保
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−A−2347	2単位	3年前期	講義	選択

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科専門科目　専門分野

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

栄養管理を行い、チーム医療の一員として貢献できる能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識･技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成･社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
□自己理解･自己管理能力　□諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

管理栄養士国家試験受験資格(必修)

授業の内容

チーム医療における管理栄養士の役割、医療・介護保険における管理栄養士業務について学習する。
チーム医療の一員として活動するための知識を学習する。

授業の到達目標

チーム医療における管理栄養士の位置づけと役割について理解する。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習(PBL)　□討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等)　■グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等)　□発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等)　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　■その他(学生は毎回100文字程度の質問もしくは感想を提出、教員は次回それに対してリアクションする)

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：ガイダンス、チーム医療への参画がなぜ必要か(その他)
　　事前学習：チーム医療について、図書館・インターネットなどにて予習(2時間)
　　事後学習：配布プリントを見直し、わからないところを図書館で調べたり質問する(2時間)
第2回：NST・ターミナルケア(その他)
　　事前学習：配布プリントを熟読し、質問事項をまとめておくこと(2時間)
　　事後学習：配布プリントを見直し、わからないところを図書館で調べたり質問する(2時間)
第3回：管理栄養士としての倫理(その他)
　　事前学習：配布プリントを熟読し、質問事項をまとめておくこと(2時間)
　　事後学習：配布プリントを見直し、わからないところを図書館で調べたり質問する(2時間)
第4回：米国のRD(その他)
　　事前学習：配布プリントを熟読し、質問事項をまとめておくこと(2時間)
　　事後学習：配布プリントを見直し、わからないところを図書館で調べたり質問する(2時間)
第5回：リスクマネジメント・災害時対応(その他)
　　事前学習：配布プリントを熟読し、質問事項をまとめておくこと(2時間)
　　事後学習：配布プリントを見直し、わからないところを図書館で調べたり質問する(2時間)
第6回：クリティカルパス(その他)
　　事前学習：配布プリントを熟読し、質問事項をまとめておくこと(2時間)
　　事後学習：配布プリントを見直し、わからないところを図書館で調べたり質問する(2時間)
第7回：医薬品と食品の相互作用Ⅰ(医薬品とは)(その他)
　　事前学習：配布プリントを熟読し、質問事項をまとめておくこと(2時間)
　　事後学習：配布プリントを見直し、わからないところを図書館で調べたり質問する(2時間)
第8回：医薬品と食品の相互作用Ⅱ(実例)(その他)
　　事前学習：配布プリントを熟読し、質問事項をまとめておくこと(2時間)
　　事後学習：配布プリントを見直し、わからないところを図書館で調べたり質問する(2時間)

第９回：医療保険制度Ⅰ（制度概要・入院時食事療養）（その他）
事前学習：配布プリントを熟読し、質問事項をまとめておくこと（２時間）
事後学習：配布プリントを見直し、わからないところを図書館で調べたり質問する（２時間）
第10回：医療保険制度Ⅱ（特別食加算）（その他）
事前学習：配布プリントを熟読し、質問事項をまとめておくこと（２時間）
事後学習：配布プリントを見直し、わからないところを図書館で調べたり質問する（２時間）
第11回：医療保険制度Ⅲ（入院基本料・NST加算）（その他）
事前学習：配布プリントを熟読し、質問事項をまとめておくこと（２時間）
事後学習：配布プリントを見直し、わからないところを図書館で調べたり質問する（２時間）
第12回：医療保険制度Ⅳ（栄養食事指導料）（その他）
事前学習：配布プリントを熟読し、質問事項をまとめておくこと（２時間）
事後学習：配布プリントを見直し、わからないところを図書館で調べたり質問する（２時間）
第13回：介護保険制度（制度概要・療養食加算・居宅療養管理指導）（その他）
事前学習：配布プリントを熟読し、質問事項をまとめておくこと（２時間）
事後学習：配布プリントを見直し、わからないところを図書館で調べたり質問する（２時間）
第14回：医療・介護保険制度まとめ（グループワーク）（その他）
事前学習：配布プリントを熟読し、質問事項をまとめておくこと（２時間）
事後学習：配布プリントを見直し、わからないところを図書館で調べたり質問する（２時間）
第15回：チーム医療における管理栄養士・質疑応答（グループワーク）（その他）
事前学習：配布プリントを熟読し、質問事項をまとめておくこと（２時間）
事後学習：配布プリントを見直し、わからないところを図書館で調べたり質問する（２時間）
第16回：定期試験
事前に資料を配布およびe-ラーニングにUPするので、事前学習に用いること。
事後学習においては、他の臨床栄養学科目の知識と統合できるように復習すること。

授業実施方法（面接授業・遠隔授業）

原則として「面接授業」を行います。
ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。
遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成　績　評　価　方　法

定期試験（80%）平常点（20%）
（平常点は、授業への参加状況・受講態度等を総合して判断します）

成　績　評　価　基　準

チーム医療における管理栄養士の位置づけと役割について説明することができるか。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック

１）授業時の課題に対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
２）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
□授業時　□仁大eラーニング　■メール　□その他
３）小レポートに対するフィードバックについて
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
４）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
□定期試験時　□仁大eラーニング　■メール　□その他
５）その他
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他

実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）

経歴：（管理栄養士）
実務経験と授業内容との関連性：（病院勤務経験を活かし、管理栄養士に係る医療保険および介護保険の実際、医療施設および介護施設における、多職種連携の実際について解説する。）

テキスト、参考図書

必要に応じてプリント配布

その他（受講上の注意）

毎回、授業内容に対する質問もしくは感想の提出を求める。内容の軽薄なものは、出席と認めない。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

臨床栄養学Ⅳ(臨床栄養管理) (Clinical Nutrition Ⅳ(Nutritional Care Management))			担当教員	山本　浩範
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−A−2348	2単位	3年後期	講義	必修

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科専門科目　専門分野

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

栄養管理を行い、チーム医療の一員として貢献できる能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識･技能　□論理的思考力と創造力　□人間関係形成･社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
□自己理解･自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

管理栄養士国家試験受験資格（必修）、食品衛生管理者・食品衛生監視員任用資格（選択）

授業の内容

栄養ケア・マネジメントを実践する上で栄養状態の適格な判断・評価に必要な知識と技術を解説する。各種疾患別に身体状況（口腔状態を含む）や栄養状況に応じた具体的な栄養管理方法について解説する。各疾病の病態と適切な臨床栄養管理における注意点について解説する。

授業の到達目標

各種疾患別に栄養状態を適格に評価・判定でき、身体状況（口腔状態を含む）や栄養状況に応じた具体的な栄養管理方法と施行時の注意点について説明できる。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　□グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　□発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等）　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：臨床栄養管理学の意義、飢餓、たんぱく質、エネルギー栄養障害（PEM）
　事前学習：授業前にテキスト　栄養障害の項、予習する。（2時間）
　事後学習：テキスト等の見直し、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用する。（2時間）
第2回：経腸栄養法、静脈栄養法の合併症
　事前学習：授業前にテキストおよび経腸・静脈栄養法の合併症について調べておくこと。（2時間）
　事後学習：テキスト等の見直し、配布プリント問題、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用する。（2時間）
第3回：術前の栄養管理（予後栄養アセスメント、低栄養と術後合併症）
　事前学習：授業前にテキストおよび予後栄養アセスメンについて調べておくこと。（2時間）
　事後学習：テキスト等の見直し、配布プリント問題、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用する。（2時間）
第4回：術後の栄養管理（ダンピング症候群、ミネラル・ビタミン欠乏、短腸症候群）
　事前学習：授業前にテキストおよびダンピング症候群について調べておくこと。（2時間）
　事後学習：テキスト等の見直し、配布プリント問題、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用する。（2時間）
第5回：消化器疾患の栄養管理（胃食道逆流症、過敏性腸症候群）
　事前学習：授業前にテキストおよび胃食道逆流症について調べておくこと。（2時間）
　事後学習：テキスト等の見直し、配布プリント問題、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用する。（2時間）
第6回：消化器疾患の栄養管理（クローン病、潰瘍性大腸炎）
　事前学習：授業前にテキストおよび炎症性腸疾患について調べておくこと。（2時間）
　事後学習：テキスト等の見直し、配布プリント問題、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用する。（2時間）

第７回：がんの栄養管理（ガン悪液質、栄養代謝異常）
事前学習：授業前にテキストおよびガン悪液質について調べておくこと。（２時間）
事後学習：テキスト等の見直し、配布プリント問題、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用する。（２時間）
第８回：内分泌疾患とホルモンによる栄養代謝、小テスト
事前学習：授業前にテキストおよび内分泌疾患と栄養代謝について調べておくこと。（２時間）
事後学習：テキスト等の見直し、配布プリント問題、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用する。（２時間）
第９回：水・電解質の代謝異常症（内分泌疾患）
事前学習：授業前にテキストおよび慢性腎臓病の食事療法について調べておくこと。（２時間）
事後学習：テキスト等の見直し、配布プリント問題、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用する。（２時間）
第10回：免疫・アレルギー疾患の栄養管理
事前学習：授業前にテキストおよび免疫・アレルギー疾患について調べておくこと。（２時間）
事後学習：テキスト等の見直し、配布プリント問題、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用する。（２時間）
第11回：腎疾患の栄養管理（慢性腎臓病、透析療法）
事前学習：授業前にテキストおよび腎疾患の食事療法について調べておくこと。（２時間）
事後学習：テキスト等の見直し、配布プリント問題、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用する。（２時間）
第12回：糖尿病性腎症の栄養管理（糖尿病合併症予防）
事前学習：授業前にテキストおよび糖尿病合併症予防のための食事療法について調べておくこと。（２時間）
事後学習：テキスト等の見直し、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用する。（２時間）
第13回：インスリン抵抗性と糖尿病薬の種類と特徴
事前学習：授業前にテキストおよびインスリン抵抗性と糖尿病薬の種類と特徴について調べておくこと。（２時間）
事後学習：テキスト等の見直し、配布プリント問題、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用する。（２時間）
第14回：妊娠糖尿病と妊娠高血圧症候群の栄養管理
事前学習：授業前にテキストおよび妊娠糖尿病の診断基準と治療について調べておくこと。（２時間）
事後学習：テキスト等の見直し、配布プリント問題、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用する。（２時間）
第15回：特定健康診査（選定・階層化と支援プログラム）
事前学習：授業前にテキストおよび配布プリントの特定健康診査の項目と階層化について調べておくこと。（２時間）
事後学習：テキスト等の見直し、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用する。（２時間）
第16回：定期試験

授業実施方法（面接授業・遠隔授業）

原則として「面接授業」を行います。
ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。
遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成　績　評　価　方　法

定期試験50%（授業の理解度を評価する）、小テスト25%（第８回目に授業の理解度を評価する）　平常点25%（平常点は、遅刻の有無、出席状況、受講態度、リアクションペーパーの内容等を総合して判断する）

成　績　評　価　基　準

各種疾患別に栄養状態を適格に評価・判定でき、身体状況（口腔状態を含む）や栄養状況に応じた具体的な栄養管理方法と施行時の注意点について説明できるか。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック

１）授業時の課題に対するフィードバックについて
■授業時　■仁大eラーニング　□メール　□その他
２）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
■授業時　■仁大eラーニング　□メール　□その他
３）小レポートに対するフィードバックについて
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
４）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
□定期試験時　□仁大eラーニング　□メール　■その他（試験後に答案用紙を返却し、解説または再確認テストを行う）
５）その他（小テストに対するフィードバックについて）
■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他

実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）
テキスト、参考図書
1）新・臨床栄養学、竹谷豊ら　編　栄養科学シリーズNEXT、講談社サイエンティフィク 2）その他、参考プリントを、授業の進捗過程で必要に応じて配布する。
その他（受講上の注意）
授業内容の理解促進のための質問やディスカッション等を対面およびTeamsにて受け付ける。また、国内外の文献・資料なども紹介するので利用すること。授業の計画・内容や注意事項の詳細については、授業１回目に説明する。医学会の治療基準の改定等により、授業計画は変更されることがある。各回の講義を受けた後、講義内容のまとめ、感想、確認したい点や疑問点など記入したリアクションペーパーを提出する。配付プリント問題に取り組む。遅刻の有無、出席状況、受講態度、リアクションペーパーの内容等は、平常点として総合的に評価される。
オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

臨床栄養学実習Ⅱ(栄養アセスメント) (Clinical Nutrition Practicum Ⅱ(Nutrition Assessment))			担当教員	山本　浩範
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−E−2350	1単位	3年前期	実習	必修

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科専門科目　専門分野

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

コミュニケーション能力、論理的思考力、判断力ならびに表現力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識･技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成･社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
□自己理解･自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

管理栄養士国家試験受験資格(必修)、栄養士免許(必修)

授業の内容

栄養ケア・マネジメントを実践するための栄養状態を適格に判断・評価できる栄養スクリーニングと栄養アセスメントの知識と技術を解説し、個人個人の栄養問題を解決していける臨床栄養管理能力を修得させる。各種疾患別症例の検討による栄養状態の把握と具体的な栄養管理方法について解説する。

授業の到達目標

各疾患における生理的特徴、栄養状態の特徴、各種計測による身体・栄養状態の評価・判定、栄養管理法の進め方について理解を深める。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習(PBL)　■討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等)　□グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等)　□発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等)　■実習、フィールドワーク　■実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：オリエンテーション　臨床栄養学実習を学ぶにあたって(臨床栄養管理に必要な技能)
第2回：身体計測(身長、体重、腹囲、下腿周囲長、BMI、IBW、JARD2001)(実習、実技)
第3回：上腕周囲、皮下脂肪厚の計測、栄養スクリーニング(SGA, MNA)(実習、実技)
第4回：バイタルサイン(体温、脈拍、呼吸数)(実習、実技)
第5回：バイタルサイン(血圧測定)(実習、実技)
第6回：血液生化学検査、尿検査、症例検討(実習、実技)
第7回：消費エネルギー量、必要エネルギー量の算出(討議、実習、実技)
第8回：問診による臨床症状と栄養障害の評価、症例課題(討議、実習、実技)
第9回：栄養補給法の選択、適応と禁忌(討議、実習、実技)
第10回：経腸栄養法、成分栄養剤の適応と特徴(討議、実習、実技)
第11回：Na含有量、NCP/N比、病態別栄養剤の特徴と試飲、症例検討(討議、実習、実技)
第12回：嚥下障害、とろみ剤の検討、嚥下訓練(討議、実習、実技)
第13回：栄養診断(症例)、症例課題(討議、実習、実技)
第14回：糖尿病のアセスメント、75gブドウ糖負荷試験OGTT(討議、実習、実技)
第15回：腎臓病、肝臓病のアセスメントと栄養管理(討議)
第16回：定期試験

授業実施方法(面接授業・遠隔授業)

原則として「面接授業」を行います。ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成　績　評　価　方　法

定期試験（50%）、レポート（30%）、平常点（20%）（遅刻の有無、出席状況、受講態度、リアクションペーパーの評点は、平常点として総合的に評価する）

成　績　評　価　基　準

各疾患における生理的特徴、栄養状態の特徴、各種計測による身体・栄養状態の評価・判定、栄養管理法の進め方について説明できるか。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック

1）授業時の課題に対するフィードバックについて
■授業時　■仁大eラーニング　□メール　□その他
2）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
■授業時　■仁大eラーニング　□メール　□その他
3）レポートに対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
4）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
□定期試験時　□仁大eラーニング　□メール　■その他（試験後に答案用紙を返却し、解説または再確認テストを行う）
5）その他
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他

実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）

テ　キ　ス　ト　、　参　考　図　書

1）臨床栄養管理学実習、塚原丘美　編　栄養科学シリーズNEXT、講談社サイエンティフィク
2）栄養科学シリーズ　新・臨床栄養学　編者　竹谷豊ほか　講談社

その他（受講上の注意）

授業内容の理解促進のための質問やディスカッション等を対面およびTeamsにて受け付ける。また、国内外の文献・資料なども紹介するので利用すること。授業の計画・内容や注意事項の詳細については、授業1回目に説明する。医学会の治療基準の改定等により、授業計画は変更されることがある。各回の講義を受けた後、講義内容のまとめ、感想、確認したい点や疑問点など記入したリアクションペーパーを提出する。配付プリント問題に取り組む。遅刻の有無、出席状況、受講態度、リアクションペーパーの内容等は、平常点として総合的に評価される。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

臨床栄養学実習Ⅲ(臨床栄養管理) (Clinical Nutrition Practicum Ⅲ(Nutritional Care Management))			担当教員	山本　浩範、新井田　裕樹
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−E−2351	1単位	3年後期	実習	必修

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科専門科目　専門分野

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

コミュニケーション能力、論理的思考力、判断力ならびに表現力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識･技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成･社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
□自己理解･自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

管理栄養士国家試験受験資格（必修）

授業の内容

傷病者個々の病態や栄養状態に適合した栄養管理を行う能力を養うために、症例モデルを用いた栄養アセスメント・栄養管理計画・栄養量の設定・栄養教育計画など、栄養ケアプランの作成・実施・評価に関する総合的なマネジメントについて、グループディスカッションを通して臨床栄養管理を実習する。

授業の到達目標

各疾患における生理的特徴、栄養状態の特徴を理解し、栄養管理計画および栄養ケア計画を立てることができる。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習（PBL）　■討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　□グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等）　■実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：職業倫理と臨床栄養管理について（山本、新井田）
第2回：栄養管理手順、医療情報の収集について（実習、発表）（山本、新井田）
第3回：栄養ケア計画、栄養管理計画について（実習、発表）（山本、新井田）
第4回：栄養管理計画書の作成1、胃切除後患者（実習、発表）（山本、新井田）
第5回：栄養管理計画書の作成2、慢性腎不全）（実習、発表）（山本）
第6回：栄養管理計画（2型糖尿病）（実習、討議、発表）（山本）
第7回：栄養管理計画（狭心症、動脈硬化）（実習、討議、発表）（山本）
第8回：栄養管理計画（非代償性肝硬変）（実習、討議、発表）（山本）
第9回：症例検討（脳梗塞、嚥下障害）（討議、発表）（山本）
第10回：栄養指導、食に対する意欲がない方への対応、症例検討（討議、発表）（山本）
第11回：診療記録（SOAP　書き方）（討議、発表）（山本）
第12回：肺機能のアセスメント、COPDの栄養管理（討議、発表）（新井田）
第13回：特定保健指導（階層分けと積極的支援）（実習、討議、発表）（新井田）
第14回：特定保健指導（積極的支援プログラム）（実習、討議、発表）（新井田）
第15回：特定保健指導（積極的支援プログラムにおける個人面談）（実習、討議、発表）（新井田）
第16回：定期試験

授業実施方法(面接授業・遠隔授業)

原則として「面接授業」を行います。
ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。
遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成　績　評　価　方　法

定期試験（50%）、レポート（30%）、平常点（20%）（授業への参加状況・授業態度、質問用紙の提出状況を総合して判断します。）

成　績　評　価　基　準

各疾患における生理的特徴、栄養状態の特徴を理解し、栄養管理計画および栄養ケア計画を立てることができるか。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック

1）授業時の課題に対するフィードバックについて
■授業時　■仁大eラーニング　□メール　□その他
2）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
■授業時　■仁大eラーニング　□メール　□その他
3）レポートに対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
4）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
□定期試験時　□仁大eラーニング　□メール　■その他（試験後に答案用紙を返却し、解説または再確認テストを行う）
5）その他
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他

実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）

経歴：（管理栄養士）
実務経験と授業内容との関連性：（管理栄養士として医療提供施設での実務経験を活かし、傷病者個々の病態や栄養状態に適合した栄養管理を行う能力を養うための症例モデルを用いた栄養アセスメント・栄養管理計画・栄養量の設定・栄養教育計画など、栄養ケアプランの作成・実施・評価に関する総合的なマネジメントについて実習する。）

テ　キ　ス　ト、参　考　図　書

1）臨床栄養管理学実習、塚原丘美　編　栄養科学シリーズNEXT、講談社サイエンティフィク
2）栄養科学シリーズ　新・臨床栄養学　編者　竹谷豊ほか　講談社
3）日本糖尿病学会編　「糖尿病食事療法のための食品交換表」　文光堂
4）腎臓病食品交換表、黒川清　監修／中尾俊之　編集代表、医歯薬出版
5）必要に応じてプリント配布

その他（受講上の注意）

授業内容の理解促進のための質問やディスカッション等を対面およびTeamsにて受け付ける。また、国内外の文献・資料なども紹介するので利用すること。授業の計画・内容や注意事項の詳細については、授業１回目に説明する。医学会の治療基準の改定等により、授業計画は変更されることがある。各回の講義を受けた後、講義内容のまとめ、感想、確認したい点や疑問点など記入したリアクションペーパーを提出する。配付プリント問題に取り組む。遅刻の有無、出席状況、受講態度、リアクションペーパーの内容等は、平常点として総合的に評価される。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

公衆栄養学Ⅱ(栄養疫学) (Public Health Nutrition Ⅱ(Nutritional Epidemiology))			担当教員	三浦　努
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−B−2353	2単位	3年後期	講義	選択

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科専門科目　専門分野

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

社会環境、法令や制度、関連機関との役割や連携・栄養情報の管理について学修し、医療や健康・栄養疫学調査等の研究調査方法と理論、その結果評価の理解ができるようになること。また、現状の健康や栄養状態の把握と、集団や個別の栄養評価プログラムの計画立案と行動変容への支援及び予防学的アプローチの提案まで出来る能力となるように理解を深めること。

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識･技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成･社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解･自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

管理栄養士国家試験受験資格(必修)、食品衛生管理者・食品衛生監視員任用資格(選択)

授業の内容

日本における健康や栄養摂取状況の実態や国内外で行われている栄養疫学調査についての学術文献等での紹介、さらに食事と疾病発症との因果関係を科学的に証明するための調査手法の理論について学ぶ。

授業の到達目標

保健・医療・福祉・介護システムにおいて、地域住民の栄養摂取状況における疾病の発症のハイリスク集団の特定とともに集団または個々の対象者の健康・栄養状態を適切に把握し、対象者に見合った栄養関連サービスを提供するプログラムの作成・実施・評価の総合的なマネジメントができるようにするために必要な理論と手法を修得する。集団または個々の対象者の栄養摂取状況を把握するための食事調査法を学び、さらに食事と疾病発症との因果関係を科学的に証明するための調査手法を修得する。

アクティブ・ラーニング

□ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等)　□グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等)　□発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等)

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：ガイダンス　−授業計画の詳細と公衆栄養学Ⅱ(栄養疫学)の概要についての説明−
　　公衆栄養学Ⅰ及び公衆栄養学実習の振り返り
　　事前学習：授業前に2年生後期と前期で履修した公衆栄養学実習で学んだことを復習しておくこと。(2時間)
　　事後学習：授業で配布した資料の内容について、整理してまとめておくこと。(2時間)
第2回：わが国の健康をめぐる現状(健康や栄養状態と問題点、疾病推移、死因別死亡、生活習慣病、医療費等)
　　事前学習：授業前に2年生時の復習として資料や教科書第2章の要点をまとめておくこと。(2時間)
　　事後学習：授業で配布された資料の内容について、整理してまとめておくこと。(2時間)
第3回：諸外国における健康・栄養問題と政策、国際機関について
　　事前学習：教科書の第3章の関連するところを調べておくこと。(2時間)
　　事後学習：授業で配布された資料の内容について、整理してまとめておくこと。(2時間)
第4回：科学的根拠に基づく栄養学(1)　研究計画について
　　事前学習：授業前に教科書第4章の栄養疫学の概要ところをまとめておくこと。(2時間)
　　事後学習：授業で配布された資料の内容について、整理してまとめておくこと。(2時間)
第5回：科学的根拠に基づく栄養学(2)　　研究計画について
　　事前学習：授業前に教科書第4章の栄養疫学の指標のところをまとめておくこと。(2時間)
　　事後学習：授業で配布された資料の内容ついて、整理してまとめておくこと。(2時間)
第6回：研究結果の競合的解釈(1)　暴露情報としての食事摂取量(変動、誤差等)
　　事前学習：授業前に第3回と第4回の授業内容について復習しておくこと(2時間)
　　事後学習：授業で配布された資料の内容について、整理してまとめておくこと。(2時間)

第７回：研究結果の競合的解釈（２）　疫学研究の手法、研究デザイン
　　事前学習：授業前に教科書第４章の関連するところをまとめておくこと。（２時間）
　　事後学習：授業で配布された資料の内容について、整理してまとめておくこと。（２時間）
第８回：栄養疫学における研究デザイン（１）　疫学研究の計画と評価、指標、観察研究等
　　事前学習：授業前に教科書の第４章の関連するところを調べまとめておくこと。（２時間）
　　事後学習：授業で配布された資料の内容について、整理してまとめておくこと。（２時間）
第９回：暴露情報としての食事摂取量（食物摂取の変動要因）
　　事前学習：教科書の第４章の栄養疫学の指標で該当するところを調べまとめておくこと。（２時間）
　　事後学習：授業で配布されたプリントの内容について、整理してまとめておくこと。（２時間）
第10回：食事調査法の概要①（24時間思い出し法、秤量記録法＜秤量法と目安法＞）
　　事前学習：教科書の第４章の食事摂取量の測定方法の要点をまとめておくこと。（２時間）
　　事後学習：授業で配布された資料の内容について、整理してまとめておくこと。（２時間）
第11回：食事調査法の概要②（食物摂取頻度調査法）
　　事前学習：教科書の第４章の食事摂取量の測定方法と前回配布した資料で該当するところを調べまとめておくこと。（２時間）
　　事後学習：授業で配布された資料の内容について、整理してまとめておくこと。（２時間）
第12回：エネルギー調整栄養素摂取量について　残渣法、密度法
　　事前学習：前回配布した資料と教科書の第４章の栄養疫学の関連するところをまとめておくこと。（２時間）
　　事後学習：授業で配布された資料の内容について、整理してまとめておくこと。（２時間）
第13回：食事摂取量を反映する身体計測値・生化学的指標
　　事前学習：教科書の第４章の食事摂取量と評価方法の要点をまとめておくこと。（２時間）
　　事後学習：授業で配布されたプリントの内容について、整理してまとめておくこと。（２時間）
第14回：栄養疫学研究の文献紹介
　　事前学習：栄養関連について研究した文献を１つ検索して、その研究内容をまとめておくこと。（３時間）
　　事後学習：授業で行った内容について、整理してまとめておくこと。（１時間）
第15回：地域における公衆栄養マネジメント・プログラム
　　事前学習：教科書第５章公衆栄養アセスメントや計画・実施・評価のところおよび関連するところをまとめておくこと。（２時間）
　　事後学習：授業で行った内容について、整理してまとめておくこと。（２時間）

第16回：定期試験

公衆栄養学Ⅰの講義で学修したことを復習して理解を深めておくこと。また、予習としては、各回の関連するところを教科書等にて目を通しておき、疑問点などをまとめておこくと。復習は授業時に配布された資料を各自でまとめて授業後の理解を深める。課題の取り組みについては、さらに深い知識の修得と応用力を養うようにすること。

授業実施方法（面接授業・遠隔授業）

原則として「面接授業」を行います。
ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。
遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成　績　評　価　方　法

定期試験60%、課題・レポート20%、出席状況と授業への取り組みや授業態度等20%の総合評価（100%）

成　績　評　価　基　準

対象者の栄養摂取状況を把握するための食事調査法の理論を理解している。
食事と疾病発症との因果関係を科学的に証明するための調査手法を理解している。
対象者の健康・栄養状態を適切に把握し、疾病の発症のハイリスク集団の特定ができる。
対象者に見合った栄養関連サービスを提供するプログラムの作成・実施・評価の総合的なマネジメントができる。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック

１）授業時の課題に対するフィードバックについて
　■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
２）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
　□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
３）小レポートに対するフィードバックについて
　□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
４）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
　□定期試験時　□仁大eラーニング　■メール　□その他
５）その他
　□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他

実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）

テキスト、参考図書

テキスト
「健康・栄養科学シリーズ　公衆栄養学（改訂第８版）」 南江堂　2023年
「日本人の食事摂取基準（2025年版）」 第一出版　2025年
参考図書
「カレント改定公衆栄養学第３版」 建帛社2024年
「管理栄養士養成のための栄養学教育モデル・コア・カリキュラム準拠第10巻　公衆栄養学2025年版」 医歯薬出版2025年
「2025年版　栄養士・管理栄養士必携」 第一出版　2025年

その他（受講上の注意）

管理栄養士国家試験受験資格を取得するためには、この科目は必修となるので講義中は集中して聴講すること。また、他の学生の聴講の妨げとなるので、私語はしないこと。課題は必ず提出すること。なお講義内容は連続性があり、欠席や遅刻をすると内容理解の進展に支障をきたすので、欠席・遅刻をしないように心がけること。また、授業の計画・内容や注意事項の詳細については、授業１回目のガイダンスにて説明する。

オフィスアワー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

公衆栄養学実習 (Public Health Nutrition Practicum)			担当教員	三浦　努
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−E−2354	1単位	3年前期	実習	必修

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科専門科目　専門分野

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

コミュニケーション能力、論理的思考力、判断力ならびに表現力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識･技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成･社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解･自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

管理栄養士国家試験受験資格（必修）、栄養士免許（必修）

授業の内容

公衆栄養学の講義内容で学修した知識を基礎にして、地域における効果的な公衆栄養学活動が推進できるように学内で模擬的な実習を行う。

授業の到達目標

地域や職域等の集団における保健・医療・介護の実態把握や食生活状況や栄養摂取状況についての情報収集をどのように行うか、また得られた情報を実際にどのように処理し分析・解析していくかを修得する。さらに、実践で栄養摂取状況において疾病の発症のハイリスク集団に対しての適切な栄養関連サービスを行うプログラム作成・実施・評価することや総合的にマネジメントを行うことができるように手法を修得する。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　□グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　□発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等）　■実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：ガイダンス　～授業計画の詳細についての説明と公衆栄養学研究とは～ ＜講義・実習＞
第2回：公衆栄養学関連の文献検索法と資料検索 ＜実習＞
第3回：公衆栄養学における研究の情報処理　データ処理①（データの取り扱い方）＜実習＞
第4回：公衆栄養学における研究の情報処理　データ処理②（データ整理と集計の仕方）＜実習＞
第5回：公衆栄養学における研究の情報処理　データ処理③（作表、データ解析の仕方）＜実習＞
第6回：公衆栄養学における研究デザイン（観察研究と介入研究）＜実習＞
第7回：研究計画書作成、倫理審査、インフォームドコンセント ＜実習＞
第8回：質問票の作成法（テーマの設定、質問票の構成）＜実習＞
第8回：質問票から得られたデータの集計方法 ＜実習＞
第9回：生活活動時間調査によるエネルギー消費量測定 ＜実習＞
第10回：栄養摂取状況の実態把握　栄養調査法①　食品の目安量（ポーションサイズ）、摂取量の推定 ＜実習＞
第11回：栄養摂取状況の実態把握　栄養調査法②　24時間思い出し法 ＜実習＞
第12回：栄養摂取状況の実態把握　栄養調査法③　秤量記録法（実測値）＜実習＞
第13回：栄養摂取状況の実態把握　栄養調査法④　食物摂取頻度調査法 ＜実習＞
第14回：栄養摂取状況の実態把握　栄養調査法⑤　市販パソコンソフトによる調査（FFQ）＜実習＞
第15回：栄養摂取状況の評価　食事摂取基準（2025）の活用法 ＜実習＞

公衆栄養学Ⅰの講義で学修したことを復習して理解を深めておくこと。また、予習としては、各回の関連するところを教科書等にて目を通しておき、疑問点などをまとめておくこと。復習は授業時に配布された資料を各自でまとめて授業後の理解を深めるとともに、実習課題の取り組みにおいては、さらに深い知識の修得と応用力を養うようにすること。第15回目では、復習と振り返りを兼ねて、15回分の授業内容の確認作業を各自を行い提出とする。

授業実施方法(面接授業・遠隔授業)

原則として「面接授業」を行います。
ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。
遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成　績　評　価　方　法

課題レポート70%、実習への取り組み・出席状況・授業態度等30%の総合評価

成　績　評　価　基　準

地域や職域等の集団における保健・医療・介護の実態把握や食生活状況や栄養摂取状況についての情報収集ができ、さらに得られた情報を適切に処理し分析・解析できること。
栄養摂取状況の把握と評価が出来る能力、疾病の発症のリスクの対象者や集団を見出し適切な栄養関連サービスを行うプログラム作成・実施・評価などの総合的なマネジメントを考えることができること。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

1）授業時の課題に対するフィードバックについて
■授業時　■仁大eラーニング　□メール　□その他
2）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
3）小レポートに対するフィードバックについて
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
4）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
□定期試験時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
5）その他
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他

実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)

テ　キ　ス　ト、参　考　図　書

「栄養科学シリーズNEXT　公衆栄養学実習」 講談社サイエンティフィク　2011年
「健康・栄養科学シリーズ　公衆栄養学（改訂第８版）」 南江堂　2023年
「日本人の食事摂取基準（2025年版）」 第一出版　2025年
「日本人の食事摂取基準2025年版の実践・運用」第２版　第一出版　2025年

その他(受講上の注意)

栄養士免許資格、管理栄養士国家試験受験資格を修得するためには、この科目は必修になるので積極的に実習に臨むこと。私語など他人に迷惑をかける行為をする者、指示に従わない者に対しては、単位を認定しないこともある。なお実習内容は連続性があるため、欠席や遅刻をすると内容理解の進展に支障をきたすので、欠席・遅刻をしないように心がけること。授業の計画の予定は、変更されることもある。また、授業の計画・内容や注意事項の詳細については、授業１回目のガイダンスにて説明する。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

給食経営管理論Ⅱ(マネジメント) (Food Service Management Ⅱ(Management))			担当教員	長岡　純子
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−A−2256	2単位	3年前期	演習	必修

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科専門科目　専門分野

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

栄養管理を行い、チーム医療の一員として貢献できる能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識･技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成･社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
■自己理解･自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

管理栄養士国家試験受験資格(必修)

授業の内容

給食運営や食品流通の理解を基に、経営管理(組織・人事、会計・原価、情報処理、事故・災害時対策等)について関連の資源(食品の流通や食品開発の状況、給食に関わる組織やそれにかかる経費)との関係を総合的に述べ、栄養面、安全面に加え、経済面全般のマネジメントが行えるようにする。また、マーケティングの原理やその応用法、組織管理などマネジメントの基本的考え方や方法について述べる。また、さらに各種給食施設の特徴についても講義する。

授業の到達目標

・経営管理の意義と機能について説明出来る。
・給食とマーケティングについて説明出来る。
・給食の衛生管理について説明出来る。
・給食の人事管理について説明出来る。
・給食の原価構成について説明出来る。

アクティブ・ラーニング

■課題解決型学習(PBL)　□討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等)　□グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等)　■発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等)　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：給与栄養目標量の設定(PBL)
　事前学習：授業前にテキスト(給食経営管理論実習ワークブック第3版)の計画(給与栄養目標量の設定)を読み、質問項目を整理しておくこと。(2時間)
　事後学習：授業で習った内容についてテキスト等を参考に纏めておくこと。(2時間)
第2回：食品構成表の作成(PBL)
　事前学習：授業前にテキスト(給食経営管理論実習ワークブック第3版)の計画(食品構成表の作成)を読み、質問項目を整理しておくこと。(2時間)
　事後学習：授業で習った内容についてテキスト等を参考に纏めておくこと。(2時間)
第3回：献立計画の立案(PBL)
　事前学習：授業前にテキスト(給食経営管理論実習ワークブック第3版)の計画(献立計画の立案)を読み、質問項目を整理しておくこと。(2時間)
　事後学習：授業で習った内容についてテキスト等を参考に纏めておくこと。(2時間)
第4回：生産計画(調理工程計画、作業工程計画)の立案(PBL)
　事前学習：授業前にテキスト(給食経営管理論実習ワークブック第3版)の計画(生産計画(調理工程計画、作業工程計画)の立案)を読み、質問項目を整理しておくこと。(2時間)
　事後学習：授業で習った内容についてテキスト等を参考に纏めておくこと。(2時間)

第５回：発注計画・出庫計画の立案（PBL）
事前学習：授業前にテキスト（給食経営管理論実習ワークブック第３版）の計画（発注計画・出庫計画の立案）を読み、質問項目を整理しておくこと。（２時間）
事後学習：授業で習った内容についてテキスト等を参考に纏めておくこと。（２時間）
第６回：栄養教育媒体の作成及び嗜好調査表・喫食調査表の設計（PBL）
事前学習：授業前にテキスト（給食経営管理論実習ワークブック第３版）の計画（栄養教育媒体の作成及び嗜好調査表・喫食調査表の設計）を読み、質問項目を整理しておくこと。（２時間）
事後学習：授業で習った内容についてテキスト等を参考に纏めておくこと。（２時間）
第７回：生産（調理）前の準備、点検等（PBL）
事前学習：授業前にテキスト（給食経営管理論実習ワークブック第３版）の実施（生産（調理）前の準備、点検等）を読み、質問項目を整理しておくこと。（２時間）
事後学習：授業で習った内容についてテキスト等を参考に纏めておくこと。（２時間）
第８回：検収と保管（PBL）
事前学習：授業前にテキスト（給食経営管理論実習ワークブック第３版）の実施（検収と保管）を読み、質問項目を整理しておくこと。（２時間）
事後学習：授業で習った内容についてテキスト等を参考に纏めておくこと。（２時間）
第９回：生産管理（調理工程）（PBL）
事前学習：授業前にテキスト（給食経営管理論実習ワークブック第３版）の実施（生産管理（調理工程））を読み、質問項目を整理しておくこと。（２時間）
事後学習：授業で習った内容についてテキスト等を参考に纏めておくこと。（２時間）
第10回：提供管理（盛りつけ作業）（PBL）
事前学習：授業前にテキスト（給食経営管理論実習ワークブック第３版）の実施（提供管理（盛りつけ作業））を読み、質問項目を整理しておくこと。（２時間）
事後学習：授業で習った内容についてテキスト等を参考に纏めておくこと。（２時間）
第11回：検食と保存食及び食堂の準備と提供管理（配膳作業）（PBL）
事前学習：授業前にテキスト（給食経営管理論実習ワークブック第３版）の実施（検食と保存食及び食堂の準備と提供管理（配膳作業））を読み、質問項目を整理しておくこと。（２時間）
事後学習：授業で習った内容についてテキスト等を参考に纏めておくこと。（２時間）
第12回：下膳と食器洗浄及び清掃と点検（PBL）
事前学習：授業前にテキスト（給食経営管理論実習ワークブック第３版）の実施（下膳と食器洗浄及び清掃と点検）を読み、質問項目を整理しておくこと。（２時間）
事後学習：授業で習った内容についてテキスト等を参考に纏めておくこと。（２時間）
第13回：実習の全体評価及び改善点の検討、評価・改善のための各種調査法（PBL）
事前学習：授業前にテキスト（給食経営管理論実習ワークブック第３版）の評価・改善（実習の全体評価及び改善点の検討、評価・改善のための各種調査法）を読み、質問項目を整理しておくこと。（２時間）
事後学習：授業で習った内容についてテキスト等を参考に纏めておくこと。（２時間）
第14回：原価計算の演習及びABC分析の演習（PBL）
事前学習：授業前にテキスト（給食経営管理論実習ワークブック第３版）の原価管理（原価計算の演習及びABC分析の演習）を読み、質問項目を整理しておくこと。（２時間）
事後学習：授業で習った内容についてテキスト等を参考に纏めておくこと。（２時間）
第15回：損益分岐点分析の演習（PBL）
事前学習：授業前にテキスト（給食経営管理論実習ワークブック第３版）の原価管理（損益分岐点分析の演習）を読み、質問項目を整理しておくこと。（２時間）
事後学習：授業で習った内容についてテキスト等を参考に纏めておくこと。（２時間）
第16回：定期試験

授業実施方法（面接授業・遠隔授業）

原則として「面接授業」を行います。
ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。
遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成績評価方法

定期試験（50%）、演習（30%）、授業への取り組み（20%）
授業への取り組みについては、授業への参加状況、受講態度、感想文の提出状況を総合的に判断する。

成績評価基準

・経営管理の意義と機能について説明出来るか。
・給食とマーケティングについて理解しているか。
・給食の衛生管理について理解しているか。
・給食の人事管理について理解しているか。
・給食の原価構成について理解しているか。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

1）授業時の課題に対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
2）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
3）小レポートに対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
4）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
■定期試験時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
5）その他
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他

実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)

テキスト、参考図書

給食経営管理実習ワークブック　第4版（株）みらい　2025年

その他(受講上の注意)

板書などが見えにくい場合は、必ず申し出ること。

オフィスアワー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

給食経営管理論Ⅲ(食料商品学) (Food Service Management Ⅲ(Food Product Studies))			担当教員	長岡　純子
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−C−2357	2単位	3年前期	講義	選択

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科専門科目　専門分野

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

食品流通についての記述・説明・検証する能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識･技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成･社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解･自己管理力　■諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

授業の内容

食品産業の基礎知識、食料消費の課題、食品産業の特色、食品の安全性に関する事例について学ぶ。

授業の到達目標

・食品産業を取り巻く環境を理解出来ている。
・食品産業の特色について理解する。
・食品の安全性について理解する。
・食品産業で働くことについて理解する。

アクティブ・ラーニング

■課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等）　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：食市場の変化①
　事前学習：フードシステムについて調べ、質問項目を整理しておくこと。（2時間）
　事後学習：授業で実施した小テストの内容について資料等を参考に纏めておくこと。（2時間）
第2回：食市場の変化②
　事前学習：食品消費・食生活について調べ、質問項目を整理しておくこと。（2時間）
　事後学習：授業で実施した小テストの内容について資料等を参考に纏めておくこと。（2時間）
第3回：食品の流通①
　事前学習：食品流通について調べ、質問項目を整理しておくこと。（2時間）
　事後学習：授業で実施した小テストの内容について資料等を参考に纏めておくこと。（2時間）
第4回：食品の流通②
　事前学習：食品卸売市場・食品小売業について調べ、質問項目を整理しておくこと。（2時間）
　事後学習：授業で実施した小テストの内容について資料等を参考に纏めておくこと。（2時間）
第5回：外食・中食産業のマーチャンダイジング
　事前学習：外食産業・中食産業について調べ、質問項目を整理しておくこと。（2時間）
　事後学習：授業で実施した小テストの内容について資料等を参考に纏めておくこと。（2時間）
第6回：主要食品の流通①
　事前学習：生鮮食品の流通について調べ、質問項目を整理しておくこと。（2時間）
　事後学習：授業で実施した小テストの内容について資料等を参考に纏めておくこと。（2時間）
第7回：主要食品の流通②
　事前学習：加工食品の流通について調べ、質問項目を整理しておくこと。（2時間）
　事後学習：授業で実施した小テストの内容について資料等を参考に纏めておくこと。（2時間）
第8回：フードマーケティング
　事前学習：フードマーケティングについて調べ、質問項目を整理しておくこと。（2時間）
　事後学習：授業で実施した小テストの内容について資料等を参考に纏めておくこと。（2時間）

第９回：食料消費の課題①
　　事前学習：食料消費と環境問題について調べ、質問項目を整理しておくこと。（２時間）
　　事後学習：授業で実施した小テストの内容について資料等を参考に纏めておくこと。（２時間）
第10回：食料消費の課題②
　　事前学習：食品流通の安全確保について調べ、質問項目を整理しておくこと。（２時間）
　　事後学習：授業で実施した小テストの内容について資料等を参考に纏めておくこと。（２時間）
第11回：食料消費の課題③
　　事前学習：食料消費を取り巻く課題について調べ、質問項目を整理しておくこと。（２時間）
　　事後学習：授業で実施した小テストの内容について資料等を参考に纏めておくこと。（２時間）
第12回：グループワーク①課題設定
　　事前学習：食品の消費と流通に関する身近な課題について調べておくこと。（２時間）
　　事後学習：グループで話し合った内容を整理しておくこと。（２時間）
第13回：グループワーク②解決案検討
　　事前学習：身近な課題に対する取り組み案を検討しておくこと。（２時間）
　　事後学習：グループで話し合った内容を踏まえてプレゼンテーションの準備をしておくこと。（２時間）
第14回：グループワーク③発表
　　事前学習：発表準備・練習をしておくこと。（２時間）
　　事後学習：各グループの発表内容について資料等を参考に纏めておくこと。（２時間）
第15回：まとめ
　　事前学習：授業で取り扱った内容について、質問項目を整理しておくこと。（２時間）
　　事後学習：授業で実施した小テストの内容について資料等を参考に纏めておくこと。（２時間）
第16回：定期試験

授業実施方法（面接授業・遠隔授業）

原則として「面接授業」を行います。ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成　績　評　価　方　法

定期試験（40%）、小テスト（20%）、グループワーク（20%）、授業への取り組み（20%）
授業への取り組みについては、授業への参加状況、受講態度、感想文や課題の提出状況を総合的に判断する。

成　績　評　価　基　準

・食品の消費と流通の現状を理解しているか。
・学習内容から課題を設定し、解決案をまとめることができるか。
・他者と円滑なコミュニケーションを取り、グループで協働して分かりやすくプレゼンテーションできるか。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック

１）授業時の課題に対するフィードバックについて
　■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
２）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
　■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
３）小レポートに対するフィードバックについて
　■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
４）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
　■定期試験時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
５）その他
　□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他

実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）

テ　キ　ス　ト　、　参　考　図　書

四訂 食品の消費と流通、（社）フードスペシャリスト協会編、建帛社（2021年）

その他（受講上の注意）

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

栄養総合演習Ⅰ (Integrated Seminar Ⅰ)			担当教員	佐藤　裕保、山本　浩範、長岡　純子、 森　　恵見、三浦　　努
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−F−2259	2単位	2年後期・ 3年・4年	演習	選択

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科専門科目　専門分野

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

課題解決能力、社会に貢献する意欲と態度、職業倫理観

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□体系的な知識･技能　□論理的思考力と創造力　■人間関係形成･社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
□自己理解･自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　■キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

管理栄養士国家試験受験資格（必修）

授業の内容

専門分野を横断して、栄養評価や管理が行える総合的な能力を養う。
オムニバスにて臨地実習の事前事後指導を行う。
事前指導として、臨地実習の意義についての指導および、実習に際しての具体的準備を行う。
実習先施設の特徴の把握、実習テーマ設定等を実習グループにて行う。
事後指導として、実習の成果および実習テーマについてまとめ、プレゼンテーションを行う。

授業の到達目標

実習の成果および実習テーマについて確認し、栄養士・管理栄養士業務について理解する。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習（PBL）　■討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等）　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：（給食運営実習）：給食施設の特徴・給食の運営について（長岡・森）
　事前学習：給食施設について、関連する教科書を復習する（2時間）
　事後学習：給食施設について、ホームページ等を利用して、特徴を把握する（2時間）
第2回：（給食運営実習）：実習テーマ・実習ノートについて（長岡・森）
　事前学習：実習テーマについて、準備しておく（2時間）
　事後学習：実習ノートを熟読する（2時間）
第3回（給食運営実習）：実習報告（発表）（長岡・森）
　事前学習：発表媒体・原稿の準備（2時間）
　事後学習：他施設の発表についてまとめる（2時間）
＜公衆栄養臨地実習＞
第4回a：（公衆栄養臨地実習）：保健所・保健センターの特徴について（三浦）
　事前学習：保健所・保健センターについて、関連する教科書を復習する（2時間）
　事後学習：保健所・保健センターについて、ホームページ等を利用して、特徴を把握する（2時間）

第5回a：（公衆栄養臨地実習）：公衆栄養マネジメントについてⅠ（三浦）
　事前学習：公衆栄養マネジメントについて、関連する教科書を復習する（2時間）
　事後学習：配布プリントを見直し、わからないところを図書館で調べたり質問する（2時間）
第6回a：（公衆栄養臨地実習）：公衆栄養マネジメントについてⅡ（三浦）
　事前学習：公衆栄養マネジメントについて、関連する教科書を復習する（2時間）
　事後学習：配布プリントを見直し、わからないところを図書館で調べたり質問する（2時間）

第７回a：（公衆栄養臨地実習）：実習テーマ設定（グループワーク・ディスカッション）・実習ノートについて（三浦）
事前学習：実習テーマについて、グループで議論できるように準備しておく（２時間）
事後学習：実習ノートを熟読する（２時間）
第８回a：（公衆栄養臨地実習）：実習報告（発表）（三浦）
事前学習：発表媒体・原稿の準備（２時間）
事後学習：他施設の発表についてまとめる（２時間）
＜給食経営管理臨地実習＞
第４回b：（給食経営管理臨地実習）：給食施設の特徴について（長岡・森）
事前学習：給食施設について、関連する教科書を復習する（２時間）
事後学習：給食施設について、ホームページ等を利用して、特徴を把握する（２時間）
第５回b：（給食経営管理臨地実習）：給食経営管理についてⅠ（長岡・森）
事前学習：給食経営管理について、関連する教科書を復習する（２時間）
事後学習：配布プリントを見直し、わからないところを図書館で調べたり質問する（２時間）
第６回b：（給食経営管理臨地実習）：給食経営管理についてⅡ（長岡・森）
事前学習：給食経営管理について、関連する教科書を復習する（２時間）
事後学習：配布プリントを見直し、わからないところを図書館で調べたり質問する（２時間）
第７回b：（給食経営管理臨地実習）：実習テーマ設定（グループワーク・ディスカッション）・実習ノートについて（長岡・森）
事前学習：実習テーマについて、グループで議論できるように準備しておく（２時間）
事後学習：実習ノートを熟読する（２時間）
第８回b：（給食経営管理臨地実習）：実習報告（発表）（長岡・森）
事前学習：発表媒体・原稿の準備（２時間）
事後学習：他施設の発表についてまとめる（２時間）
第９回：（臨床栄養臨地実習）：病院・介護老人保健施設の特徴について（佐藤裕・山本）
事前学習：病院・介護老人保健施設について、関連する教科書を復習する（２時間）
事後学習：病院・介護老人保健施設について、ホームページ等を利用して、特徴を把握する（２時間）
第10回：（臨床栄養臨地実習）：栄養ケアマネジメントについてⅠ（佐藤裕・山本）
事前学習：栄養ケアマネジメントについて、関連する教科書を復習する（２時間）
事後学習：配布プリントを見直し、わからないところを図書館で調べたり質問する（２時間）
第11回：（臨床栄養臨地実習）：栄養ケアマネジメントについてⅡ（佐藤裕・山本）
事前学習：栄養ケアマネジメントについて、関連する教科書を復習する（２時間）
事後学習：配布プリントを見直し、わからないところを図書館で調べたり質問する（２時間）
第12回：（臨床栄養臨地実習）：実習テーマ設定（グループワーク・ディスカッション）・実習ノートについて（佐藤裕・山本）
事前学習：実習テーマについて、グループで議論できるように準備しておく（２時間）
事後学習：実習ノートを熟読する（２時間）
第13回：（臨床栄養臨地実習）：実習報告Ⅰ（発表）（佐藤裕・山本）
事前学習：発表媒体・原稿の準備（２時間）
事後学習：他施設の発表についてまとめる（２時間）
第14回：（臨床栄養臨地実習）：実習報告Ⅱ（発表）（佐藤裕・山本）
事前学習：発表媒体・原稿の準備（２時間）
事後学習：他施設の発表についてまとめる（２時間）
第15回：実習報告会：全体会（給食運営実習・公衆栄養臨地実習・給食経営管理臨地実習の聴講、臨床栄養臨地実習の発表）（発表）（佐藤裕・三浦・山本・長岡・森）
事前学習：発表媒体・原稿の準備（２時間）
事後学習：他施設の発表についてまとめる（２時間）
それぞれの臨地実習の関連科目の復習を充分にすること。

授業実施方法（面接授業・遠隔授業）

原則として「面接授業」を行います。
ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。
遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成　績　評　価　方　法

提出物（60%）平常点（40%）
（平常点は、授業への参加状況・受講態度等を総合して判断します）

成　績　評　価　基　準

実習の成果および実習テーマについて確認し、栄養士・管理栄養士業務について説明することができるか。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

1）授業時の課題に対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
2）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　■メール　□その他
3）小レポートに対するフィードバックについて
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
4）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
□定期試験時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
5）その他
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他

実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)

テキスト、参考図書

それぞれの臨地実習の関連科目にて使用した教科書および参考図書。
必要に応じてプリント配布。

その他(受講上の注意)

正当な理由なく事前指導を欠席した場合、臨地実習に出られない場合がある。
４－８回については、選択した臨地実習に出席する。

オフィスアワー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

栄養総合演習Ⅱ (Integrated Seminar Ⅱ)			担当教員	佐藤　裕保、山本　浩範、長岡　純子、 森　恵見、三浦　努
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−F−2260	2単位	2年後期･3年	演習	選択

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科専門科目　専門分野

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

課題解決能力、社会に貢献する意欲と態度、職業倫理観

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識･技能　□論理的思考力と創造力　■人間関係形成･社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
□自己理解･自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　■キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

資格・免許要件なし

授業の内容

専門的な分野で学んだ理論と方法論を総合的に応用し、今後の臨地実習で栄養評価や管理が行える能力を養う。
校外実習で経験した内容の理解を深める。
オムニバス方式にて行う。

授業の到達目標

校外実習で確認できた知識や技術の不足部分の気付きや問題点について再認識し、理解を深める。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習（PBL）　■討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等）　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：治療食献立作成に必要な知識「食品構成・荷重平均栄養成分値」(佐藤裕保)（グループワーク）
　事前学習：荷重平均栄養成分値について、関連する教科書を復習する（2時間）
　事後学習：配布プリントを見直し、わからないところを調べたり質問する（2時間）
第2回：治療食献立作成に必要な知識「コーディング・使用量・調味料」(佐藤裕保)（グループワーク）
　事前学習：献立集やネット検索により、食材料の常用量を把握しておく（2時間）
　事後学習：配布プリントを見直し、わからないところを調べたり質問する（2時間）
第3回：治療食献立作成に必要な食品学「食品選択について」(佐藤裕保)（グループワーク）
　事前学習：食品成分表に記載されている食品を把握しておく（2時間）
　事後学習：配布プリントを見直し、わからないところを調べたり質問する（2時間）
第4回：衛生管理について（長岡・森）
　事前学習：衛生管理について、関連する教科書を復習する（2時間）
　事後学習：配布プリントを見直し、わからないところを図書館で調べたり質問する（2時間）
第5回：実習テーマ設定（グループワーク・ディスカッション）（長岡・森）
　事前学習：実習テーマについて、グループで議論できるように準備しておく（2時間）
　事後学習：議論内容をまとめる（2時間）
第6回：社会人としてのマナー（佐藤・三浦・山本・長岡・森）
　事前学習：社会人としてのマナーについて、ネット検索などによりまとめる（2時間）
　事後学習：配布プリントを見直し、わからないところを図書館で調べたり質問する（2時間）
第7回：倫理・守秘義務について（長岡・森）
　事前学習：倫理・守秘義務について、関連する教科書を復習する（2時間）
　事後学習：配布プリントを見直し、わからないところを図書館で調べたり質問する（2時間）
第8回：実習振り返りⅠ（長岡・森）
　事前学習：実習内容についてまとめる（2時間）
　事後学習：振り返りをまとめる（2時間）

第９回：実習振り返り（グループディスカッション）Ⅰ（長岡・森）
　　事前学習：グループディスカッションの準備（２時間）
　　事後学習：グループディスカッションについてまとめる（２時間）
第10回：実習振り返りⅡ（課題抽出）（長岡・森）
　　事前学習：実習内容についてまとめる（２時間）
　　事後学習：課題についてまとめる（２時間）
第11回：実習振り返り（課題抽出）（グループディスカッション）Ⅱ（長岡・森）
　　事前学習：グループディスカッションの準備（２時間）
　　事後学習：グループディスカッションについてまとめる（２時間）
第12回：実習振り返りⅢ（課題解決）（長岡・森）
　　事前学習：実習内容についてまとめる（２時間）
　　事後学習：課題についてまとめる（２時間）
第13回：実習振り返り（課題解決）（グループディスカッション）Ⅲ（長岡・森）
　　事前学習：グループディスカッションの準備（２時間）
　　事後学習：グループディスカッションについてまとめる（２時間）
第14回：実習報告書作成（グループワーク）（長岡・森）
　　事前学習：実習内容についてまとめる（２時間）
　　事後学習：指示された報告書にまとめる（２時間）
第15回：実習報告会：全体会（給食運営実習・公衆栄養臨地実習・給食経営管理臨地実習・臨床栄養臨地実習）（発表）（佐藤裕・三浦・山本・長岡・森）
　　事前学習：発表媒体・原稿の準備（２時間）
　　事後学習：他施設の発表についてまとめる（２時間）

授業実施方法（面接授業・遠隔授業）

成　績　評　価　方　法

提出物（60%）平常点（40%）
（平常点は、授業への参加状況・受講態度等を総合して判断します）

成　績　評　価　基　準

校外実習で確認できた知識や技術の不足部分の気付きや問題点について理解し、説明することができるか。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック

１）授業時の課題に対するフィードバックについて
　■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
２）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
　■授業時　□仁大eラーニング　■メール　□その他
３）小レポートに対するフィードバックについて
　□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
４）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
　□定期試験時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
５）その他
　□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他

実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）

テキスト、参考図書

必要に応じてプリント配布。
校外実習の関連科目にて使用した教科書および参考図書。

その他（受講上の注意）

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

給食経営管理臨地実習 (Field Practice in Food ServiceManagement)			担当教員	長岡　純子
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−F−2361	1単位	3年前期	実習	選択

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科専門科目　専門分野

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

課題解決能力、社会に貢献する意欲と態度、職業倫理観

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識･技能　■論理的思考力と創造力　■人間関係形成･社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
■自己理解･自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　■キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

管理栄養士国家試験受験資格（選択）

授業の内容

給食運営や関連の資源を総合的に判断し、栄養面、安全面、経済面全般のマネジメントを行う能力を養うために、マーケティングの原理や応用について理解するとともに、組織管理などのマネジメントの基本的な考え方や方法を習得する。

授業の到達目標

・各種給食施設に応じた栄養面のマネジメントが出来る。
・各種給食施設に応じた衛生面及び安全面のマネジメントが出来る。
・各種給食施設に応じた経済面のマネジメントが出来る。

アクティブ・ラーニング

■課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等）　■実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

（学外実習）
3年次8～9月に1週間（45時間）の給食施設（学校・病院・福祉施設・事業所等）実習を行う。
①実習施設事前訪問・実習挨拶および指導者との打ち合わせ（実習）
②実習施設ごとの実習計画による実習（実習）
③実習施設についての理解（組織・運営）（実習）
④食材料管理の把握・考察（実習）
⑤作業管理・業務分担の把握・考察（実習）
⑥安全・衛生管理の把握・考察（実習）
⑦給食に関するマネージメント全般についての理解（実習）
⑧給食業務にかかる帳票類の内容及び管理について学ぶなど・実習施設について事前に十分な下調べ（施設概要等）を行なうこと。（実習）
⑨実習成果に関する報告書及び発表（グループワーク及び発表）

（学内代替実習）
①大量調理施設衛生管理マニュアルに基づく給食経営管理論実習室の点検（実習）
②栄養管理・栄養計算ソフトのレクチャー（実技）
③病院における給食経営管理とフードマネジメントについて（PBL）

授業実施方法(面接授業・遠隔授業)

原則として「面接授業」を行います。ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成　績　評　価　方　法

実習前の準備作業の取り組み状況（20%）、実習中の取り組み状況（20%）、実習ノート等の提出物の評価（20%）、実習施設の指導担当者による評価（40%）

成　績　評　価　基　準

・各種給食施設に応じた栄養面のマネジメントが出来るか。
・各種給食施設に応じた衛生面及び安全面のマネジメントが出来るか。
・各種給食施設に応じた経済面のマネジメントが出来るか。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック

1）授業時の課題に対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
2）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
3）小レポートに対するフィードバックについて
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
4）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
□定期試験時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
5）その他
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他

実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）

テ　キ　ス　ト　、　参　考　図　書

給食経営管理論Ⅰ・Ⅱ・実習や、実習先の施設種別に関連する科目で使用した教科書等。
詳細については事前指導時に指示を行う。

その他（受講上の注意）

・実習施設について事前に十分な下調べ（施設概要等）を行なうこと。
・事前に出された課題は、必ず準備して実習に臨むこと。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

臨床栄養臨地実習 (Field Practice in Clinical Nutrition)			担当教員	佐藤　裕保、山本　浩範
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−F−2362	2単位	3年後期・ 4年前期	実習	選択

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科専門科目　専門分野

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

課題解決能力、社会に貢献する意欲と態度、職業倫理観

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□体系的な知識･技能　□論理的思考力と創造力　■人間関係形成･社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
□自己理解･自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　■キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

管理栄養士国家試験受験資格（必修）

授業の内容

実践活動の場での課題発見、解決を通して、栄養評価・判定に基づく適切なマネジメントを行うために必要とされる専門的知識及び技術の統合を図る。
傷病者を対象とした臨床栄養管理について病院や老人保健施設において管理栄養士の業務を臨地で実習する。
外来・入院患者や入所者に対する栄養評価・判定、栄養食事指導、診療科やベッドサイド訪問、栄養ケアプランの作成などを実習し、NST（栄養サポートチーム）における管理栄養士の役割など、医師・看護師など医療専門職との連携の実際を学び、医療スタッフの一員として必要な技術・能力を修得する。

授業の到達目標

医療領域における管理栄養士業務の実際を理解する。

アクティブ・ラーニング

■課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等）　■実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

実習施設事前訪問・実習挨拶および指導者との打ち合わせ（実習）
実習施設ごとの実習計画による実習（実習）
実習施設についての理解（組織・運営）（実習）
医療施設・介護老人保健施設における管理栄養士業務の理解（実習）
栄養評価・判定（PBL・実習）
栄養食事指導（PBL・実習）
診療科やベッドサイド訪問により栄養アセスメント、栄養介入の実際を学ぶ（PBL・実習）
栄養管理計画（栄養ケアプラン）の作成（PBL・実習）
実習内容に沿ったプレゼンテーション（グループワーク・発表）
医療専門職との連携・共働の実際について学ぶ　などこれまでに学習した知識を総動員すること。
これまでに使用した教科書および参考図書を、最大限に活用すること。

授業実施方法(面接授業・遠隔授業)

原則として「面接授業」を行います。ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成績評価方法

準備状況（20%）実習状況（20%）実習ノート等の提出物（20%）実習施設指導担当者による評価（40%）

成　績　評　価　基　準

医療領域における管理栄養士業務の実際を説明することができるか。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

1）授業時の課題に対するフィードバックについて
□授業時　□仁大eラーニング　■メール　■その他（実習期間中の巡回指導において直接指導を行う）
2）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
3）小レポートに対するフィードバックについて
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
4）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
□定期試験時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
5）その他（実習に対するフィードバックについて）
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　■その他（実習における評価および課題は、「栄養総合演習Ⅰ」においてフィードバックする）

実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)

テ　キ　ス　ト、参　考　図　書

臨床栄養学および臨床栄養学実習にて使用した教科書および参考図書、配布プリント。

その他(受講上の注意)

社会の一員としての自覚を持ち、守秘義務、職業倫理の遵守に努めること。
事故発生時は、早急に実習施設および大学に連絡すること。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

公衆栄養臨地実習 (Field Practice in Public Health)			担当教員	三浦　　努
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−F−2363	1単位	3年前期	実習	選択

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科専門科目　専門分野

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

課題解決能力、社会に貢献する意欲と態度、職業倫理観

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識･技能　■論理的思考力と創造力　■人間関係形成･社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
■自己理解･自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　■キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

管理栄養士国家試験受験資格（選択）

授業の内容

都道府県の保健所および市町村の保健センターなどで保健・栄養行政における栄養マネジメントを体験し、公衆栄養マネジメント・公衆栄養プログラム等の実践能力を修得する。

授業の到達目標

都道府県の保健所や市町村の保健センターにおける保健・栄養行政の役割および現状や求められていることについて理解する。また、地域の食生活習慣や健康問題における問題点を解析して明らかにし、生活習慣や食行動の変容を図る知識と技術を修得する。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　□グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　□発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等）　■実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

栄養総合演習Ⅰの実習事前授業で実習の概要や内容について理解し、さらに、実習施設へ実習計画等の事前打ち合わせを行う。
臨地実習中では、各実習施設の実習計画にもとづいて実習を行う。実習項目として、下記に示す1）～7）までのいずれかの項目を実習で行う。
1）地域の生活環境の実態把握
2）地域における食生活習慣の問題点の分析
3）食生活の変容のための計画作成
4）地域において実施されている健康増進事業の参加
5）各段階での評価方法についてに学ぶ
6）各自でＰＤＣＡサイクルの模擬体験
7）各種専門職との連携・共働についてを実際に学ぶ。
実習中または実習後の栄養総合演習Ⅰの事後授業にて実習中に学んだことのまとめを行う。栄養総合演習Ⅰや臨地実習の時間内では、計画したテーマ、課題、与えられた成果物などを終えることは出来ないので、実習前、実習中および実習終了後などに、十分に時間を各自が確保して取り組むこと。また、実習施設毎の報告書の作成、3年生全体の発表会などでは、実習施設毎での発表を行う。

※実習中における所内学習時間とそれに関わる学習時間を含めて45時間を1単位とする。下記に45時間の目安となる内訳を示す。
・実習施設先との打ち合わせおよび事前準備（1.5時間）
・実習施設所内における実習（5日間・40時間）
・実習中における実習施設所外（自宅）での実習内容の記録とまとめ（2.5時間）
・実習報告書の作成（1時間）

授業実施方法(面接授業・遠隔授業)

原則として「面接授業」を行います。
ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。
遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成　績　評　価　方　法

実習事前授業での意欲や準備作業の取り組み状況（20%）、実習中の取り組み状況（20%）、課題等の提出物および成果物の評価（20%）、実習ノートおよび実習施設の指導担当者による評価（40%）

成　績　評　価　基　準

都道府県の保健所や市町村の保健センターが担う栄養行政の役割について理解したか。
地域における食生活上の問題点を明らかにし、生活習慣や食行動の変容を図る知識と技術を修得できたか。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

1）授業時の課題に対するフィードバックについて
■授業時　■仁大eラーニング　■メール　□その他
2）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
■授業時　■仁大eラーニング　■メール　□その他
3）小レポートに対するフィードバックについて
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
4）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
□定期試験時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
5）その他
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他

実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)

テ　キ　ス　ト　、　参　考　図　書

本学作成「公衆栄養学臨地実習ノート」を使用する。その他、関係教科の教科書、参考書

その他(受講上の注意)

実習への取り組む姿勢や態度の他、礼儀、身だしなみ、規律、衛生管理、体調管理など十分留意して臨地実習に取り組むこと。臨地実習開始1カ月以内になったら、実習準備等に支障をきたすので私事の用事を入れないこと。また、教員の指示に従わないものや規律を順守せず問題行動を起こす学生に対しては、実習に参加させることはできない。
臨時実習終了後の後期授業では、各実習施設毎の取りまとめを行い、報告書を作成することや3年生全体の報告発表会に向けたスライド作成などを行ない、学科の臨地実習報告会に向けた準備を行う。（臨地実習での成果物などについては、学校祭などでの展示やG館での掲示も行う。）臨地実習報告会終了後には、約7か月間の取り組みの振り返りや実習先の指導者からの所見を伝えるなどで、次の臨地実習への心構えや意欲を持てるように、個々の学生との面談を行う予定とする。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

フィールドワーク演習 (Fieldwork)			担当教員	佐藤　裕保、池田　涼子、山本　浩範、 新井田裕樹
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−E−2165	2単位	1～3年	演習	選択

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科専門科目　特別演習・卒業研究

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

コミュニケーション能力、論理的思考力、判断力ならびに表現力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識･技能　■論理的思考力と創造力　■人間関係形成･社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
■自己理解･自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　■キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

授業の内容

本プログラムには、学内外でのボランティア活動体験、社会的イベント・コンペティションなどへの参画体験が含まれる。教室や研究室で学習や研究をするのではなく、実際に社会での直接的体験を通して、優れた社会人となるための自己認識、自己啓発の機会とすることを目的とする。

授業の到達目標

1・2・3年次を対象に自己の進路を見据えた体験学習を課題にして設ける。例えば、福祉施設、病院などでの奉仕活動、事業所などでのインターンシップ参加、施設・事業所見学などの事前、事後計画の企画運営発表などを実施したり、得られた成果について報告書を提出する。

アクティブ・ラーニング

■課題解決型学習（PBL）　■討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等）　■実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

1年次～3年次に活動の実施（30時間）事前学習（30時間）及び事後学習（30時間）を行う。
①受講希望者は、各フィールドワーク演習の企画教員から内容を確認したうえで実施する。
　参画する奉仕活動やインターンシップについて事前に十分な下調べ（概要等）を行なうこと。
②実際に体験したボランティア活動について報告書（内容・到達目標・経過時間・得られた成果）を作成すること。また作成した報告書は企画教員から押印後、フィールドワーク演習担当教員に提出し承認を得ること。承認後の報告書は各自で保管すること。
③各種ボランティア活動について（フィールドワーク）
　参加した全てのボランティア活動の詳細（参加時間数の合計等）についてまとめておくこと。
④3年次終了時に報告書一覧表（ボランティア活動毎報告書添付）を作成しフィールドワーク演習担当教員に提出すること。

授業実施方法(面接授業・遠隔授業)

原則として「面接授業」を行います。ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成績評価方法

プログラム取り組み（50%）、報告書またはプレゼンテーション（50%）

成績評価基準

参加した福祉施設、病院などでの奉仕活動で自身が得た成果について報告書を参考に評価する。事業所などでのインターンシップ参加、施設・事業所見学などの事前、事後計画の企画運営発表などを実施する。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

1）授業時の課題に対するフィードバックについて
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
2）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
3）小レポートに対するフィードバックについて
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
4）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
□定期試験時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
5）その他（活動遂行上の課題に対するフィードバックについて）
□授業時　□仁大eラーニング　■メール　■その他（活動中に直接指導）

実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)

テキスト、参考図書

使用しない。

その他(受講上の注意)

本科目の履修登録については、それぞれの担当教員がガイダンスを実施し、各プログラムの参加者をもって受講者とするため、通常の受講登録手続きを要しない。

オフィスアワー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

健康・栄養特別演習Ⅰ (Seminar in Health and Nutrition Ⅰ)			担当教員	尼子　克己
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−F−2366	2単位	3年通年	演習	必修

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科専門科目　特別演習・卒業研究

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

課題解決能力、社会に貢献する意欲と態度、職業倫理観

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識･技能　■論理的思考力と創造力　■人間関係形成･社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
■自己理解･自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　■キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

授業の内容

専門分野に関するこれまでの学修を基礎に、先行研究・実践の事例を参考にしながら、専門的研究を進める際の課題の選び方、課題解決へのアプローチの仕方について学ぶ。この演習において文献等を講読し、討論することを通して、自らの研究テーマを設定する。

授業の到達目標

文献等の講読や討論を通じて、研究課題の対象と方法を学び、自らの研究テーマを設定する。

アクティブ・ラーニング

■課題解決型学習（PBL）　■討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等）　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：ガイダンス（ゼミ配属説明）
　事前学習：昨年度の「卒業論文要旨集」と各ゼミのゼミ要項を確認し準備する（2時間）
　事後学習：ゼミ要項に記載された方法に従って各教員への質問等を行った後、配属を希望するゼミの希望調査書を作成し、eラーニングシステム上に提出する。（2時間）
第2回：学習に活用するソフトウェア・アプリケーションの導入と設定
　事前学習：学習に役立つアプリケーションの情報を収集する（2時間）
　事後学習：アプリケーションの動作を確認し、基本的操作を習得する（2時間）
第3回：文献の探し方について
　事前学習：研究計画を作成する。（2時間）
　事後学習：研究テーマに沿った文献を検索する。（2時間）
第4回：文献講読（PBL、発表、討議）
　事前学習：取得した文献を精読し、疑問点などをまとめておく。（2時間）
　事後学習：当日の議論を踏まえて、講読した文献を読み直す。（2時間）
第5回：文献講読（PBL、発表、討議）
　事前学習：取得した文献を精読し、疑問点などをまとめておく。（2時間）
　事後学習：当日の議論を踏まえて、講読した文献を読み直す。（2時間）
第6回：文献講読（PBL、発表、討議）
　事前学習：取得した献を精読し、疑問点などをまとめておく。（2時間）
　事後学習：当日の議論を踏まえて、講読した文献を読み直す。（2時間）
第7回：文献講読（PBL、発表、討議）
　事前学習：取得した文献を精読し、疑問点などをまとめておく。（2時間）
　事後学習：当日の議論を踏まえて、講読した文献を読み直す。（2時間）
第8回：文献講読（PBL、発表、討議）
　事前学習：取得した文献を精読し、疑問点などをまとめておく。（2時間）
　事後学習：当日の議論を踏まえて、講読した文献を読み直す。（2時間）

第９回：文献講読（PBL、発表、討議）
　　事前学習：取得した文献を精読し、疑問点などをまとめておく。（２時間）
　　事後学習：当日の議論を踏まえて、講読した文献を読み直す。（２時間）
第10回：文献講読（PBL、発表、討議）
　　事前学習：取得した文献を精読し、疑問点などをまとめておく。（２時間）
　　事後学習：当日の議論を踏まえて、講読した文献を読み直す。（２時間）
第11回：文献講読（PBL、発表、討議）
　　事前学習：取得した文献を精読し、疑問点などをまとめておく。（２時間）
　　事後学習：当日の議論を踏まえて、講読した文献を読み直す。（２時間）
第12回：文献講読（PBL、発表、討議）
　　事前学習：取得した文献を精読し、疑問点などをまとめておく。（２時間）
　　事後学習：当日の議論を踏まえて、講読した文献を読み直す。（２時間）
第13回：卒業研究発表会聴講
　　事前学習：今年度の「卒業論文要旨集」を確認し準備する（２時間）
　　事後学習：卒業研究発表会の発表内容を参考に、自身の卒業研究テーマについて考える（２時間）
第14回：卒業研究へのアプローチ（PBL、ディスカッション・グループワーク）
　　事前学習：興味ある研究課題を列挙する（２時間）
　　事後学習：指導教員の助言に従い、研究によって明らかにすべき内容を具体化する（２時間）
第15回：卒業研究への構想とミーティング（PBL、ディスカッション・グループワーク）
　　事前学習：研究の実施方法について検討する（２時間）
　　事後学習：研究の実施計画を具体化する（２時間）
資料、文献検索などを通して管理栄養士履修科目に重要なキーワードなどに関するノート作りをすること。

授業実施方法（面接授業・遠隔授業）

原則として「面接授業」を行います。ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成　績　評　価　方　法

レポートや発表（50％）　平常点（50％）
（平常点は、授業への参加状況・受講態度などを総合して判断します。）

成　績　評　価　基　準

自らの研究課題を設定することができるか。研究課題に関連する文献などを適切に講読できるか。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック

１）授業時の課題に対するフィードバックについて
　■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
２）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
　■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
３）小レポートに対するフィードバックについて
　□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
４）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
　□定期試験時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
５）その他
　□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他

実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）

テ　キ　ス　ト　、　参　考　図　書

必要に応じて指示する。

その他（受講上の注意）

ゼミ決定については、別途ガイダンスを行う。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

健康・栄養特別演習Ⅰ (Seminar in Health and Nutrition Ⅰ)			担当教員	池田　涼子
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−F−2366	2単位	3年通年	演習	必修

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科専門科目　特別演習・卒業研究

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

課題解決能力、社会に貢献する意欲と態度、職業倫理観

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識･技能　■論理的思考力と創造力　■人間関係形成･社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
■自己理解･自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　■キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

授業の内容

【ゼミで扱う主なテーマ】
○微量栄養素の栄養状態が耐糖能に及ぼす影響
○福井県の食物アレルギーの現状と課題
○福井県における高齢者栄養の現状と課題

文献抄読を中心に、研究分野の基礎的な知識の集積・整理に重点を置くとともに、研究に用いる機器分析の基本的な原理と技術の習得をはかる。
また、各ゼミ生が興味を持ったテーマを一つ選び、これに沿った文献検索やディスカッ ション形式の勉強会を通して、専門分野に関するより高度な知識を集積、整理する。その他、共同研究などにより学外で活動することがある。

授業の到達目標

文献等の講読や討論を通じて、研究課題の対象と方法を学び、自らの研究テーマを設定する。

アクティブ・ラーニング

■課題解決型学習（PBL）　■討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　□発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等）　■実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

※具体的な研究テーマ・活動予定の詳細は、ガイダンスの際に提示する。
第1回：ガイダンス
　事前学習：指導教員の指示に従い準備する（2時間）
　事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（2時間）
第2回：研究テーマ・研究方法に関する説明
　事前学習：指導教員の指示に従い準備する（2時間）
　事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（2時間）
第3回：資料、文献検索の方法（文献検索ガイダンス）
　事前学習：指導教員の指示に従い準備する（2時間）
　事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（2時間）
第4回：ゼミテーマの選定と文献検索①
　事前学習：指導教員の指示に従い準備する（2時間）
　事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（2時間）
第5回：ゼミテーマの選定と文献検索②
　事前学習：指導教員の指示に従い準備する（2時間）
　事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（2時間）

第６回：ゼミテーマの選定と文献検索③
　　事前学習：指導教員の指示に従い準備する（２時間）
　　事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（２時間）
第７回：フィールドワーク準備①（身体計測の手法－CC, AS－）
　　事前学習：指導教員の指示に従い準備する（２時間）
　　事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（２時間）
第８回：フィールドワーク準備②（身体計測の手法－AC, TSF－）
　　事前学習：指導教員の指示に従い準備する（２時間）
　　事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（２時間）
第９回：フィールドワーク準備③（記述統計の基本）
　　事前学習：指導教員の指示に従い準備する（２時間）
　　事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（２時間）
第10回：フィールドワーク準備④（推測統計の基本）
　　事前学習：指導教員の指示に従い準備する（２時間）
　　事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（２時間）
第11回：卒業研究へのアプローチ（ディスカッション・グループワーク）
　　事前学習：指導教員の指示に従い準備する（２時間）
　　事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（２時間）
第12回：卒業研究への構想とミーティング①　－調査対象－
　　事前学習：指導教員の指示に従い準備する（２時間）
　　事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（２時間）
第13回：卒業研究への構想とミーティング ②　－調査内容－
　　事前学習：指導教員の指示に従い準備する（２時間）
　　事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（２時間）
第14回：卒業研究への構想とミーティング ③　－解析方法ー
　　事前学習：指導教員の指示に従い準備する（２時間）
　　事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（２時間）
第15回：卒業研究への構想とミーティング④　－研究ツールの探索ー
　　事前学習：指導教員の指示に従い準備する（２時間）
　　事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（２時間）
資料、文献検索などを通して専門分野に重要なキーワードなどに関するノート作りをすること。

授業実施方法（面接授業・遠隔授業）

原則として「面接授業」を行います。ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成　績　評　価　方　法

レポートや発表（50%）　平常点（50%）
（平常点は、授業への参加状況・受講態度などを総合して判断します。）

成　績　評　価　基　準

自らの研究課題を設定することができるか。
研究課題に関連する文献などを適切に講読、解説ができるか。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック

１）授業時の課題に対するフィードバックについて
　■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
２）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
　■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
３）小レポートに対するフィードバックについて
　□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
４）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
　□定期試験時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
５）その他
　□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他

実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）

テ　キ　ス　ト　、　参　考　図　書

必要に応じて指示する。

その他（受講上の注意）
ゼミ決定については、別途ガイダンスを行う。
オ フ ィ ス ア ワ ー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

健康・栄養特別演習Ⅰ (Seminar in Health and Nutrition Ⅰ)			担当教員	浦本　裕美
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−F−2366	2単位	3年通年	演習	必修

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科専門科目　特別演習・卒業研究

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

課題解決能力、社会に貢献する意欲と態度、職業倫理観

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識･技能　■論理的思考力と創造力　■人間関係形成･社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
■自己理解･自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　■キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

授業の内容

専門分野に関するこれまでの学修を基礎に、先行研究を参考にしながら、専門的研究を進める際の課題の選び方、課題解決へのアプローチの仕方について学ぶ。具体的には、研究論文の文献検索、文献紹介等を行う。また、食育活動等の実践体験を取り入れることがある。

授業の到達目標

食と健康に関わるテーマについて深く考えることができるようになる。研究論文の文献検索、文献紹介をとおして、研究を進める上で必要な基本的な能力を養成する。

アクティブ・ラーニング

■課題解決型学習（PBL）　■討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等）　■実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：ガイダンス（ゼミ配属説明）
　事前学習：昨年度の「卒業論文要旨集」と各ゼミのゼミ要項を確認し準備する（2時間）
　事後学習：ゼミ要項に記載された方法に従って各教員への質問等を行った後、配属を希望するゼミの希望調査書を作成し、eラーニングシステム上に提出する。（2時間）
第2回：ゼミ活動の説明
第3回：文献検索　方法を知る、検索に使用するキーワードの検討
　事後学習：いくつか決めたキーワードをもとに文献のPDFファイルを集める（3時間）
第4回：文献検索　文献紹介に使用する文献を決める
　事前学習：集めた文献内容を把握しておく（4時間）
　事後学習：必要に応じて更に文献検索を行いゼミで紹介する文献を決める（2時間）
第5回：文献紹介の準備
　事前学習：選んだ文献の熟読（5時間）
　事後学習：文献紹介に使う資料を完成させる（2時間）
第6回：文献紹介（PBL・ディスカッション・グループワーク・発表）
　事前学習：発表者（半分の学生）：発表準備（6時間）　※第6回と第7回で事前事後学習8時間
　事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（1時間）
第7回：文献紹介（PBL・ディスカッション・グループワーク・発表）
　事前学習：発表者（半分の学生）：発表準備（6時間）
　事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（1時間）
第8回：食と健康にかかわるテーマに関する調査（ディスカッション・グループワーク）
　事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（2時間）
第9回：テーマに基づく調査に取り組む①（ディスカッション・グループワーク・発表）
　事前学習：指導教員の指示に従い準備する（2時間）
　事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（4時間）

第10回：テーマに基づく調査に取り組む②（ディスカッション・グループワーク・発表）
事前学習：指導教員の指示に従い準備する（２時間）
事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（４時間）
第11回：テーマに基づく調査に取り組む③（ディスカッション・グループワーク・発表）
事前学習：指導教員の指示に従い準備する（２時間）
事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（３時間）
第12回：テーマに基づく調査に取り組む④・最終打合せ（ディスカッション・グループワーク・発表）
事前学習：指導教員の指示に従い準備する（２時間）
事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（３時間）
第13回：卒業研究発表会聴講
事前学習：今年度の「卒業論文要旨集」を確認し準備する（２時間）
事後学習：卒業研究発表会の発表内容を参考に、自身の卒業研究テーマについて考える（２時間）
第14回：地域活動の実施（グループワーク・発表）
事前学習：指導教員の指示に従い準備する（２時間）
第15回：調査した内容の報告会（ディスカッション・グループワーク・発表）
事前学習：指導教員の指示に従い準備する（１時間）
事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（１時間）

授業実施方法（面接授業・遠隔授業）

原則として「面接授業」を行います。ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成　績　評　価　方　法

課題（50%）・発表など平常点（50%）
（平常点は、授業への参加状況・受講態度・発表内容などを総合して判断します。）

成　績　評　価　基　準

課題に対して解決しようとする能動的な意識・態度をもち取り組み、全体を概観してチーム活動に貢献することができる。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック

１）授業時の課題に対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　■メール　□その他
２）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　■メール　□その他
３）小レポートに対するフィードバックについて
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
４）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
□定期試験時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
５）その他（授業内容についての質問等に対するフィードバックについて）
□授業時　□仁大eラーニング　■メール　■その他（Teamsチャット）

実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）

テ　キ　ス　ト　、　参　考　図　書

必要に応じて指示する。

その他（受講上の注意）

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

健康・栄養特別演習Ⅰ (Seminar in Health and Nutrition Ⅰ)			担当教員	佐藤　真実
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−F−2366	2単位	3年通年	演習	必修

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科専門科目　特別演習・卒業研究

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

課題解決能力、社会に貢献する意欲と態度、職業倫理観

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識･技能　■論理的思考力と創造力　■人間関係形成･社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
■自己理解･自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　■キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

授業の内容

専門分野に関するこれまでの学修を基礎に、先行研究・実践の事例を参考にしながら、専門的研究を進める際の課題の選び方、課題解決へのアプローチの仕方について学ぶ。この演習において文献等を講読し、討論することを通して、自らの研究テーマを設定する。

授業の到達目標

文献等の講読や討論を通じて、研究課題の対象と方法を学び、自らの研究テーマを設定する。

アクティブ・ラーニング

■課題解決型学習（PBL）　■討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等）　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：ガイダンス
　事前学習：指導教員の指示に従い準備する（2時間）
　事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（2時間）
第2回：研究の方法に関する説明
　事前学習：指導教員の指示に従い準備する（2時間）
　事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（2時間）
第3回：資料、文献検索の仕方、
　事前学習：指導教員の指示に従い準備する（2時間）
　事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（2時間）
第4回：資料・研究レポートとミーティング1（PBL・ディスカッション・グループワーク・発表）
　事前学習：指導教員の指示に従い準備する（2時間）
　事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（2時間）
第5回：資料・研究レポートとミーティング2（PBL・ディスカッション・グループワーク・発表）
　事前学習：指導教員の指示に従い準備する（2時間）
　事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（2時間）
第6回：資料・研究レポートとミーティング3（PBL・ディスカッション・グループワーク・発表）
　事前学習：指導教員の指示に従い準備する（2時間）
　事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（2時間）
第7回：資料・研究レポートとミーティング4（PBL・ディスカッション・グループワーク・発表）
　事前学習：指導教員の指示に従い準備する（2時間）
　事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（2時間）
第8回：資料・研究レポートとミーティング5（PBL・ディスカッション・グループワーク・発表）
　事前学習：指導教員の指示に従い準備する（2時間）
　事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（2時間）

第９回：資料・研究レポートとミーティング６（PBL・ディスカッション・グループワーク・発表）
　　事前学習：指導教員の指示に従い準備する（２時間）
　　事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（２時間）
第10回：資料・研究レポートとミーティング７（PBL・ディスカッション・グループワーク・発表）
　　事前学習：指導教員の指示に従い準備する（２時間）
　　事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（２時間）
第11回：資料・研究レポートとミーティング８（PBL・ディスカッション・グループワーク・発表）
　　事前学習：指導教員の指示に従い準備する（２時間）
　　事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（２時間）
第12回：資料・研究レポートとミーティング９（PBL・ディスカッション・グループワーク・発表）
　　事前学習：指導教員の指示に従い準備する（２時間）
　　事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（２時間）
第13回：資料・研究レポートとミーティング10（PBL・ディスカッション・グループワーク・発表）
　　事前学習：指導教員の指示に従い準備する（２時間）
　　事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（２時間）
第14回：卒業研究へのアプローチ（ディスカッション・グループワーク）
　　事前学習：指導教員の指示に従い準備する（２時間）
　　事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（２時間）
第15回：卒業研究への構想とミーティング（ディスカッション・グループワーク）
　　事前学習：指導教員の指示に従い準備する（２時間）
　　事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（２時間）
授業外の学習方法としては、資料や文献検索、地域貢献活動などを通して将来の進路等に関わる経験や知識などを豊かにする。ノートやメモの利活用をする。

授業実施方法（面接授業・遠隔授業）

原則として「面接授業」を行います。ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成　績　評　価　方　法

レポートや発表（50％）　平常点（50％）
平常点は、授業への参加状況・受講態度などを総合して判断します。

成　績　評　価　基　準

自らの研究課題を設定することができるか。研究課題に関連する文献などを適切に講読できるか。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック

１）授業時の課題に対するフィードバックについて
　■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
２）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
　■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
３）小レポートに対するフィードバックについて
　□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
４）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
　□定期試験時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
５）その他
　□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他

実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）

テ　キ　ス　ト　、　参　考　図　書

必要に応じて指示する。

その他（受講上の注意）

ゼミ決定については、別途ガイダンスを行う。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

健康・栄養特別演習Ⅰ (Seminar in Health and Nutrition Ⅰ)			担当教員	鳴瀬　碧
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−F−2366	2単位	3年通年	演習	必修

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科専門科目　特別演習・卒業研究

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

課題解決能力、社会に貢献する意欲と態度、職業倫理観

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識･技能　■論理的思考力と創造力　■人間関係形成･社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
■自己理解･自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　■キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

授業の内容

専門分野に関するこれまでの学修を基礎に、先行研究・実践の事例を参考にしながら、専門的研究を進める際の課題の選び方、課題解決へのアプローチの仕方について学ぶ。この演習において文献等を講読し、討論することを通して、自らの研究テーマを設定する。

授業の到達目標

文献等の講読や討論を通じて、研究課題の対象と方法を学び、自らの研究テーマを設定する。

アクティブ・ラーニング

■課題解決型学習（PBL）　■討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等）　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

ゼミごとに、進め方を決め授業ごとに授業計画に沿って取り組んでいく。
第1回：ガイダンス（ゼミ配属説明）
　事前学習：昨年度の「卒業論文要旨集」と各ゼミのゼミ要項を確認し準備する（2時間）
　事後学習：ゼミ要項に記載された方法に従って各教員への質問等を行った後、配属を希望するゼミの希望調査書を作成し、eラーニングシステム上に提出する。（2時間）
第2回：研究の方法に関する説明
　事前学習：指導教員の指示に従い準備する（2時間）
　事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（2時間）
第3回：資料、文献検索の仕方、
　事前学習：指導教員の指示に従い準備する（2時間）
　事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（2時間）
第4回：資料・研究レポートとミーティング1（PBL・ディスカッション・グループワーク・発表）
　事前学習：指導教員の指示に従い準備する（2時間）
　事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（2時間）
第5回：資料・研究レポートとミーティング2（PBL・ディスカッション・グループワーク・発表）
　事前学習：指導教員の指示に従い準備する（2時間）
　事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（2時間）
第6回：資料・研究レポートとミーティング3（PBL・ディスカッション・グループワーク・発表）
　事前学習：指導教員の指示に従い準備する（2時間）
　事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（2時間）
第7回：資料・研究レポートとミーティング4（PBL・ディスカッション・グループワーク・発表）
　事前学習：指導教員の指示に従い準備する（2時間）
　事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（2時間）

第８回：資料・研究レポートとミーティング５（PBL・ディスカッション・グループワーク・発表）
　　事前学習：指導教員の指示に従い準備する（２時間）
　　事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（２時間）
第９回：資料・研究レポートとミーティング６（PBL・ディスカッション・グループワーク・発表）
　　事前学習：指導教員の指示に従い準備する（２時間）
　　事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（２時間）
第10回：資料・研究レポートとミーティング７（PBL・ディスカッション・グループワーク・発表）
　　事前学習：指導教員の指示に従い準備する（２時間）
　　事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（２時間）
第11回：資料・研究レポートとミーティング８（PBL・ディスカッション・グループワーク・発表）
　　事前学習：指導教員の指示に従い準備する（２時間）
　　事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（２時間）
第12回：資料・研究レポートとミーティング９（PBL・ディスカッション・グループワーク・発表）
　　事前学習：指導教員の指示に従い準備する（２時間）
　　事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（２時間）
第13回：卒業研究発表会聴講
　　事前学習：今年度の「卒業論文要旨集」を確認し準備する（２時間）
　　事後学習：卒業研究発表会の発表内容を参考に、自身の卒業研究テーマについて考える（２時間）
第14回：卒業研究へのアプローチ（ディスカッション・グループワーク）
　　事前学習：指導教員の指示に従い準備する（２時間）
　　事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（２時間）
第15回：卒業研究への構想とミーティング（ディスカッション・グループワーク）
　　事前学習：指導教員の指示に従い準備する（２時間）
　　事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（２時間）
資料、文献検索などを通して管理栄養士履修科目に重要なキーワードなどに関するノート作りをすること。

授業実施方法（面接授業・遠隔授業）

原則として「面接授業」を行います。
ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。
遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成　績　評　価　方　法

レポートや発表（50%）　平常点（50%）
（レポートや発表の形式は担当教員により異なります。平常点は、授業への参加状況・受講態度などを総合して判断します。）

成　績　評　価　基　準

自らの研究課題を設定することができるか。研究課題に関連する文献などを適切に講読できるか。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック

１）授業時の課題に対するフィードバックについて
　■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
２）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
　■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
３）小レポートに対するフィードバックについて
　□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
４）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
　□定期試験時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
５）その他
　□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他

実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）

テキスト、参考図書

必要に応じて指示する。

その他（受講上の注意）

ゼミ決定については、別途ガイダンスを行う。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

健康・栄養特別演習Ⅰ (Seminar in Health and Nutrition Ⅰ)			担当教員	野村　卓正
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−F−2366	2単位	3年通年	演習	必修

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科専門科目　特別演習・卒業研究

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

課題解決能力、社会に貢献する意欲と態度、職業倫理観

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識･技能　■論理的思考力と創造力　■人間関係形成･社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
■自己理解･自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　■キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

授業の内容

専門分野に関するこれまでの学修を基礎に、先行研究・実践の事例を参考にしながら、専門的研究を進める際の課題の選び方、課題解決へのアプローチの仕方について学ぶ。この演習において文献等を講読し、討論することを通して、自らの研究テーマを設定する。

授業の到達目標

文献等の講読や討論を通じて、研究課題の対象と方法を学び、自らの研究テーマを設定する。

アクティブ・ラーニング

■課題解決型学習（PBL）　■討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等）　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

ゼミごとに、進め方を決め授業ごとに授業計画に沿って取り組んでいく。
第1回：ガイダンス
　事前学習：指導教員の指示に従い準備する（2時間）
　事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（2時間）
第2回：研究の方法に関する説明
　事前学習：指導教員の指示に従い準備する（2時間）
　事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（2時間）
第3回：資料、文献検索の仕方、
　事前学習：指導教員の指示に従い準備する（2時間）
　事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（2時間）
第4回：資料・研究レポートとミーティング1（PBL・ディスカッション・グループワーク・発表）
　事前学習：指導教員の指示に従い準備する（2時間）
　事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（2時間）
第5回：資料・研究レポートとミーティング2（PBL・ディスカッション・グループワーク・発表）
　事前学習：指導教員の指示に従い準備する（2時間）
　事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（2時間）
第6回：資料・研究レポートとミーティング3（PBL・ディスカッション・グループワーク・発表）
　事前学習：指導教員の指示に従い準備する（2時間）
　事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（2時間）
第7回：資料・研究レポートとミーティング4（PBL・ディスカッション・グループワーク・発表）
　事前学習：指導教員の指示に従い準備する（2時間）
　事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（2時間）
第8回：資料・研究レポートとミーティング5（PBL・ディスカッション・グループワーク・発表）
　事前学習：指導教員の指示に従い準備する（2時間）
　事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（2時間）

第９回：資料・研究レポートとミーティング６（PBL・ディスカッション・グループワーク・発表）
　　事前学習：指導教員の指示に従い準備する（２時間）
　　事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（２時間）
第10回：資料・研究レポートとミーティング７（PBL・ディスカッション・グループワーク・発表）
　　事前学習：指導教員の指示に従い準備する（２時間）
　　事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（２時間）
第11回：資料・研究レポートとミーティング８（PBL・ディスカッション・グループワーク・発表）
　　事前学習：指導教員の指示に従い準備する（２時間）
　　事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（２時間）
第12回：資料・研究レポートとミーティング９（PBL・ディスカッション・グループワーク・発表）
　　事前学習：指導教員の指示に従い準備する（２時間）
　　事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（２時間）
第13回：資料・研究レポートとミーティング10（PBL・ディスカッション・グループワーク・発表）
　　事前学習：指導教員の指示に従い準備する（２時間）
　　事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（２時間）
第14回：卒業研究へのアプローチ（ディスカッション・グループワーク）
　　事前学習：指導教員の指示に従い準備する（２時間）
　　事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（２時間）
第15回：卒業研究への構想とミーティング（ディスカッション・グループワーク）
　　事前学習：指導教員の指示に従い準備する（２時間）
　　事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（２時間）
資料、文献検索などを通して管理栄養士履修科目に重要なキーワードなどに関するノート作りをすること。

授業実施方法（面接授業・遠隔授業）

原則として「面接授業」を行います。ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成　績　評　価　方　法

①平常点：45％
②レポートや発表：55％

平常点は、授業への参加状況・受講態度などを総合して判断します。
レポートや発表の形式は担当教員により異なります。

成　績　評　価　基　準

自らの研究課題を設定することができるか。研究課題に関連する文献などを適切に講読できるか。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック

１）授業時の課題に対するフィードバックについて
　■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
２）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
　■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
３）小レポートに対するフィードバックについて
　□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
４）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
　□定期試験時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
５）その他
　□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他

実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）

テ　キ　ス　ト、参　考　図　書

必要に応じて指示する。

その他（受講上の注意）

ゼミ決定については、別途ガイダンスを行う。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

健康・栄養特別演習Ⅰ (Seminar in Health and Nutrition Ⅰ)			担当教員	三浦　努
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−F−2366	2単位	3年通年	演習	必修

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科専門科目　特別演習・卒業研究

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

課題解決能力、社会に貢献する意欲と態度、職業倫理観

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識･技能　■論理的思考力と創造力　■人間関係形成･社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
■自己理解･自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　■キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

授業の内容

専門分野に関するこれまでの学修を基礎に、先行研究・実践の事例を参考にしながら、専門的研究を進める際の課題の選び方、課題解決へのアプローチの仕方について学ぶ。この演習において文献等を講読し、討論することを通して、自らの研究テーマを設定する。

授業の到達目標

文献等の講読や討論を通じて、研究課題の対象と方法を学び、自らの研究テーマを設定する。

アクティブ・ラーニング

■課題解決型学習（PBL）　■討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等）　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

ゼミごとに、進め方を決め授業ごとに授業計画に沿って取り組んでいく。
第1回：ガイダンス
　事前学習：指導教員の指示に従い準備する（2時間）
　事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（2時間）
第2回：研究の方法に関する説明
　事前学習：指導教員の指示に従い準備する（2時間）
　事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（2時間）
第3回：資料、文献検索の仕方、
　事前学習：指導教員の指示に従い準備する（2時間）
　事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（2時間）
第4回：資料・研究レポートとミーティング1（PBL・ディスカッション・グループワーク・発表）
　事前学習：指導教員の指示に従い準備する（2時間）
　事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（2時間）
第5回：資料・研究レポートとミーティング2（PBL・ディスカッション・グループワーク・発表）
　事前学習：指導教員の指示に従い準備する（2時間）
　事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（2時間）
第6回：資料・研究レポートとミーティング3（PBL・ディスカッション・グループワーク・発表）
　事前学習：指導教員の指示に従い準備する（2時間）
　事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（2時間）
第7回：資料・研究レポートとミーティング4（PBL・ディスカッション・グループワーク・発表）
　事前学習：指導教員の指示に従い準備する（2時間）
　事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（2時間）

第８回：資料・研究レポートとミーティング５（PBL・ディスカッション・グループワーク・発表）
　　事前学習：指導教員の指示に従い準備する（２時間）
　　事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（２時間）
第９回：資料・研究レポートとミーティング６（PBL・ディスカッション・グループワーク・発表）
　　事前学習：指導教員の指示に従い準備する（２時間）
　　事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（２時間）
第10回：資料・研究レポートとミーティング７（PBL・ディスカッション・グループワーク・発表）
　　事前学習：指導教員の指示に従い準備する（２時間）
　　事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（２時間）
第11回：資料・研究レポートとミーティング８（PBL・ディスカッション・グループワーク・発表）
　　事前学習：指導教員の指示に従い準備する（２時間）
　　事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（２時間）
第12回：資料・研究レポートとミーティング９（PBL・ディスカッション・グループワーク・発表）
　　事前学習：指導教員の指示に従い準備する（２時間）
　　事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（２時間）
第13回：資料・研究レポートとミーティング10（PBL・ディスカッション・グループワーク・発表）
　　事前学習：指導教員の指示に従い準備する（２時間）
　　事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（２時間）
第14回：卒業研究へのアプローチ（ディスカッション・グループワーク）
　　事前学習：指導教員の指示に従い準備する（２時間）
　　事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（２時間）
第15回：卒業研究への構想とミーティング（ディスカッション・グループワーク）
　　事前学習：指導教員の指示に従い準備する（２時間）
　　事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（２時間）
資料、文献検索などを通して管理栄養士履修科目に重要なキーワードなどに関するノート作りをすること。

授業実施方法（面接授業・遠隔授業）

原則として「面接授業」を行います。
ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。
遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成　績　評　価　方　法

レポートや発表（50%）　平常点（50%）
（レポートや発表の形式は担当教員により異なります。平常点は、授業への参加状況・受講態度などを総合して判断します。）

成　績　評　価　基　準

自らの研究課題を設定することができるか。研究課題に関連する文献などを適切に講読できるか。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック

１）授業時の課題に対するフィードバックについて
　■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
２）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
　■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
３）小レポートに対するフィードバックについて
　□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
４）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
　□定期試験時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
５）その他
　□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他

実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）

テキスト、参考図書

必要に応じて指示する。

その他（受講上の注意）

ゼミ決定については、別途ガイダンスを行う。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

健康・栄養特別演習Ⅰ (Seminar in Health and Nutrition Ⅰ)			担当教員	山本　浩範
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−F−2366	2単位	3年通年	演習	必修

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科専門科目　特別演習・卒業研究

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

課題解決能力、社会に貢献する意欲と態度、職業倫理観

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識･技能　■論理的思考力と創造力　■人間関係形成･社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
■自己理解･自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　■キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

授業の内容

専門分野に関するこれまでの学修を基礎に、先行研究・実践の事例を参考にしながら、専門的研究を進める際の課題の選び方、課題解決へのアプローチの仕方について学ぶ。この演習において文献等を講読し、討論することを通して、自らの研究テーマを設定する。

授業の到達目標

文献等の講読や討論を通じて、研究課題の対象と方法を学び、自らの研究テーマを設定する。

アクティブ・ラーニング

■課題解決型学習（PBL）　■討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等）　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

ゼミごとに、進め方を決め授業ごとに授業計画に沿って取り組んでいく。
第1回：ガイダンス
　事前学習：指導教員の指示に従い準備する（2時間）
　事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（2時間）
第2回：研究の方法に関する説明
　事前学習：指導教員の指示に従い準備する（2時間）
　事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（2時間）
第3回：資料、文献検索の仕方、
　事前学習：指導教員の指示に従い準備する（2時間）
　事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（2時間）
第4回：資料・研究レポートとミーティング1（PBL・ディスカッション・グループワーク・発表）
　事前学習：指導教員の指示に従い準備する（2時間）
　事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（2時間）
第5回：資料・研究レポートとミーティング2（PBL・ディスカッション・グループワーク・発表）
　事前学習：指導教員の指示に従い準備する（2時間）
　事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（2時間）
第6回：資料・研究レポートとミーティング3（PBL・ディスカッション・グループワーク・発表）
　事前学習：指導教員の指示に従い準備する（2時間）
　事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（2時間）
第7回：資料・研究レポートとミーティング4（PBL・ディスカッション・グループワーク・発表）
　事前学習：指導教員の指示に従い準備する（2時間）
　事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（2時間）

第８回：資料・研究レポートとミーティング５（PBL・ディスカッション・グループワーク・発表）
　　事前学習：指導教員の指示に従い準備する（２時間）
　　事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（２時間）
第９回：資料・研究レポートとミーティング６（PBL・ディスカッション・グループワーク・発表）
　　事前学習：指導教員の指示に従い準備する（２時間）
　　事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（２時間）
第10回：資料・研究レポートとミーティング７（PBL・ディスカッション・グループワーク・発表）
　　事前学習：指導教員の指示に従い準備する（２時間）
　　事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（２時間）
第11回：資料・研究レポートとミーティング８（PBL・ディスカッション・グループワーク・発表）
　　事前学習：指導教員の指示に従い準備する（２時間）
　　事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（２時間）
第12回：資料・研究レポートとミーティング９（PBL・ディスカッション・グループワーク・発表）
　　事前学習：指導教員の指示に従い準備する（２時間）
　　事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（２時間）
第13回：資料・研究レポートとミーティング10（PBL・ディスカッション・グループワーク・発表）
　　事前学習：指導教員の指示に従い準備する（２時間）
　　事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（２時間）
第14回：卒業研究へのアプローチ（ディスカッション・グループワーク）
　　事前学習：指導教員の指示に従い準備する（２時間）
　　事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（２時間）
第15回：卒業研究への構想とミーティング（ディスカッション・グループワーク）
　　事前学習：指導教員の指示に従い準備する（２時間）
　　事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（２時間）
資料、文献検索などを通して管理栄養士履修科目に重要なキーワードなどに関するノート作りをすること。

授業実施方法（面接授業・遠隔授業）

原則として「面接授業」を行います。ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成　績　評　価　方　法

レポートや発表（50%）　平常点（50%）
（レポートや発表の形式は担当教員により異なります。平常点は、授業への参加状況・受講態度などを総合して判断します。）

成　績　評　価　基　準

自らの研究課題を設定することができるか。研究課題に関連する文献などを適切に講読できるか。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック

１）授業時の課題に対するフィードバックについて
　■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
２）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
　■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
３）小レポートに対するフィードバックについて
　□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
４）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
　□定期試験時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
５）その他
　□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他

実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）

テキスト、参考図書

必要に応じて指示する。

その他（受講上の注意）

ゼミ決定については、別途ガイダンスを行う。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

健康・栄養特別演習Ⅰ (Seminar in Health and Nutrition Ⅰ)			担当教員	髙木　康之
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−F−2366	2単位	3年通年	演習	必修

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科専門科目　特別演習・卒業研究

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

課題解決能力、社会に貢献する意欲と態度、職業倫理観

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識･技能　■論理的思考力と創造力　■人間関係形成･社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
■自己理解･自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　■キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

授業の内容

専門分野に関するこれまでの学修を基礎に、先行研究・実践の事例を参考にしながら、専門的研究を進める際の課題の選び方、課題解決へのアプローチの仕方について学ぶ。この演習において文献等を講読し、討論することを通して、自らの研究テーマを設定する。

授業の到達目標

文献等の講読や討論を通じて、研究課題の対象と方法を学び、自らの研究テーマを設定する。

アクティブ・ラーニング

■課題解決型学習（PBL）　■討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等）　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

ゼミごとに、進め方を決め授業ごとに授業計画に沿って取り組んでいく。
第1回：ガイダンス
　事前学習：指導教員の指示に従い準備する（2時間）
　事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（2時間）
第2回：研究の方法に関する説明
　事前学習：指導教員の指示に従い準備する（2時間）
　事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（2時間）
第3回：資料、文献の探し方について
　事前学習：指導教員の指示に従い準備する（2時間）
　事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（2時間）
第4回：資料・研究レポートとミーティング1（PBL・ディスカッション・グループ・発表）
　事前学習：指導教員の指示に従い準備する（2時間）
　事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（2時間）
第5回：資料・研究レポートとミーティング2（PBL・ディスカッション・グループ・発表）
　事前学習：指導教員の指示に従い準備する（2時間）
　事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（2時間）
第6回：資料・研究レポートとミーティング3（PBL・ディスカッション・グループ・発表）
　事前学習：指導教員の指示に従い準備する（2時間）
　事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（2時間）
第7回：資料・研究レポートとミーティング4（PBL・ディスカッション・グループ・発表）
　事前学習：指導教員の指示に従い準備する（2時間）
　事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（2時間）
第8回：資料・研究レポートとミーティング5（PBL・ディスカッション・グループ・発表）
　事前学習：指導教員の指示に従い準備する（2時間）
　事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（2時間）

第９回：資料・研究レポートとミーティング６（PBL・ディスカッション・グループ・発表）
　　事前学習：指導教員の指示に従い準備する（２時間）
　　事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（２時間）
第10回：資料・研究レポートとミーティング７（PBL・ディスカッション・グループ・発表）
　　事前学習：指導教員の指示に従い準備する（２時間）
　　事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（２時間）
第11回：資料・研究レポートとミーティング８（PBL・ディスカッション・グループ・発表）
　　事前学習：指導教員の指示に従い準備する（２時間）
　　事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（２時間）
第12回：資料・研究レポートとミーティング９（PBL・ディスカッション・グループ・発表）
　　事前学習：指導教員の指示に従い準備する（２時間）
　　事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（２時間）
第13回：資料・研究レポートとミーティング10（PBL・ディスカッション・グループ・発表）
　　事前学習：指導教員の指示に従い準備する（２時間）
　　事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（２時間）
第14回：卒業研究へのアプローチ（ディスカッション・グループワーク）
　　事前学習：指導教員の指示に従い準備する（２時間）
　　事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（２時間）
第15回：卒業研究への構想とミーティング（ディスカッション・グループワーク）
　　事前学習：指導教員の指示に従い準備する（２時間）
　　事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（２時間）
資料、文献検索などを通して管理栄養士履修科目に重要なキーワードなどに関するノート作りをすること。

授業実施方法（面接授業・遠隔授業）

原則として「面接授業」を行います。ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成　績　評　価　方　法

レポートや発表（50％）　平常点（50％）
（平常点は、授業への参加状況・受講態度などを総合して判断します。）

成　績　評　価　基　準

自らの研究課題を設定することができるか。研究課題に関連する文献などを適切に講読できるか。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック

１）授業時の課題に対するフィードバックについて
　■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
２）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
　■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
３）小レポートに対するフィードバックについて
　□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
４）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
　□定期試験時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
５）その他
　□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他

実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）

テキスト、参考図書

必要に応じて指示する。

その他（受講上の注意）

ゼミ決定については、別途ガイダンスを行う。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

健康・栄養特別演習Ⅰ (Seminar in Health and Nutrition Ⅰ)			担当教員	長岡　純子
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−F−2366	2単位	3年通年	演習	必修

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科専門科目　特別演習・卒業研究

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

課題解決能力、社会に貢献する意欲と態度、職業倫理観

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識･技能　■論理的思考力と創造力　■人間関係形成･社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
■自己理解･自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　■キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

授業の内容

専門分野に関するこれまでの学修を基礎に、先行研究・実践の事例を参考にしながら、専門的研究を進める際の課題の選び方、課題解決へのアプローチの仕方について学ぶ。この演習において文献等を講読し、討論することを通して、自らの研究テーマを設定する。

授業の到達目標

文献等の講読や討論を通じて、研究課題の対象と方法を学び、自らの研究テーマを設定する。

アクティブ・ラーニング

■課題解決型学習（PBL）　■討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等）　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：ガイダンス（ゼミ配属説明）
　事前学習：昨年度の「卒業論文要旨集」と各ゼミのゼミ要項を確認し準備する（2時間）
　事後学習：ゼミ要項に記載された方法に従って各教員への質問等を行った後、配属を希望するゼミの希望調査書を作成し、eラーニングシステム上に提出する（2時間）
第2回：研究の方法に関する説明
　事前学習：指示に従い準備する（2時間）
　事後学習：研究方法や研究活動に関連のある情報にアクセスし、理解を深める（2時間）
第3回：資料、文献検索の仕方、
　事前学習：指定した資料を準備して目を通す（2時間）
　事後学習：興味のある資料・文献を検索して熟読する（2時間）
第4回：資料・研究レポートとミーティング1（PBL・ディスカッション・グループワーク・発表）
　事前学習：指示に従い準備する（2時間）
　事後学習：指示に従い課題をまとめる（2時間）
第5回：資料・研究レポートとミーティング2（PBL・ディスカッション・グループワーク・発表）
　事前学習：指示に従い準備する（2時間）
　事後学習：指示に従い課題をまとめる（2時間）
第6回：資料・研究レポートとミーティング3（PBL・ディスカッション・グループワーク・発表）
　事前学習：指示に従い準備する（2時間）
　事後学習：指示に従い課題をまとめる（2時間）
第7回：資料・研究レポートとミーティング4（PBL・ディスカッション・グループワーク・発表）
　事前学習：指示に従い準備する（2時間）
　事後学習：指示に従い課題をまとめる（2時間）
第8回：資料・研究レポートとミーティング5（PBL・ディスカッション・グループワーク・発表）
　事前学習：指示に従い準備する（2時間）
　事後学習：指示に従い課題をまとめる（2時間）

第９回：研究方法の実践とミーティング１（PBL・ディスカッション・グループワーク・発表・実習・実技）
　　事前学習：指示に従い準備する（２時間）
　　事後学習：指示に従い課題をまとめる（２時間）
第10回：研究方法の実践とミーティング２（PBL・ディスカッション・グループワーク・発表・実習・実技）
　　事前学習：指示に従い準備する（２時間）
　　事後学習：指示に従い課題をまとめる（２時間）
第11回：研究方法の実践とミーティング３（PBL・ディスカッション・グループワーク・発表・実習・実技）
　　事前学習：指示に従い準備する（２時間）
　　事後学習：指示に従い課題をまとめる（２時間）
第12回：資料・研究レポートとミーティング４（PBL・ディスカッション・グループワーク・発表・実習・実技）
　　事前学習：指示に従い準備する（２時間）
　　事後学習：指示に従い課題をまとめる（２時間）
第13回：卒業研究発表会聴講
　　事前学習：今年度の「卒業論文要旨集」を確認し準備する（２時間）
　　事後学習：卒業研究発表会の発表内容を参考に、自身の卒業研究テーマについて考える（２時間）
第14回：卒業研究へのアプローチ（ディスカッション・グループワーク）
　　事前学習：指示に従い準備する（２時間）
　　事後学習：指示に従い課題をまとめる（２時間）
第15回：卒業研究への構想とミーティング（ディスカッション・グループワーク）
　　事前学習：指示に従い準備する（２時間）
　　事後学習：指示に従い課題をまとめる（２時間）
資料、文献検索などを通して管理栄養士履修科目に重要なキーワードなどに関するノート作りをすること。

授業実施方法（面接授業・遠隔授業）

原則として「面接授業」を行います。ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成　績　評　価　方　法

レポートや発表（50％）　平常点（50％）
（平常点は、授業への参加状況・受講態度などを総合して判断します。）

成　績　評　価　基　準

自らの研究課題を設定することができるか。研究課題に関連する文献などを適切に講読できるか。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック

１）授業時の課題に対するフィードバックについて
　■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
２）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
　■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
３）小レポートに対するフィードバックについて
　■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
４）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
　□定期試験時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
５）その他
　□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他

実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）

テキスト、参考図書

必要に応じて指示する。

その他（受講上の注意）

ゼミ決定については、別途ガイダンスを行う。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

健康・栄養特別演習Ⅰ (Seminar in Health and Nutrition Ⅰ)			担当教員	新井田　裕樹
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−F−2366	2単位	3年通年	演習	必修

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科専門科目　特別演習・卒業研究

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

課題解決能力、社会に貢献する意欲と態度、職業倫理観

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識･技能　■論理的思考力と創造力　■人間関係形成･社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
■自己理解･自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　■キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

授業の内容

専門分野に関するこれまでの学修を基礎に、先行研究・実践の事例を参考にしながら、専門的研究を進める際の課題の選び方、課題解決へのアプローチの仕方について学ぶ。この演習において文献等を講読し、討論することを通して、自らの研究テーマを設定する。

授業の到達目標

文献等の講読や討論を通じて、研究課題の対象と方法を学び、自らの研究テーマを設定する。

アクティブ・ラーニング

■課題解決型学習（PBL）　■討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等）　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：ガイダンス（ゼミ配属説明）
　事前学習：昨年度の「卒業論文要旨集」と各ゼミのゼミ要項を確認し準備する（2時間）
　事後学習：ゼミ要項に記載された方法に従って各教員への質問等を行った後、配属を希望するゼミの希望調査書を作成し、eラーニングシステム上に提出する（2時間）
第2回：研究の方法に関する説明
　事前学習：指導教員の指示に従い準備する（2時間）
　事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（2時間）
第3回：文献検索のための事前準備（検索テーマ決定）
　事前学習：指導教員の指示に従い準備する（2時間）
　事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（2時間）
第4回：資料、文献検索の仕方（図書館利用）
　事前学習：指導教員の指示に従い準備する（2時間）
　事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（2時間）
第5回：資料・研究レポートとミーティング2（PBL・ディスカッション・グループワーク・発表）
　事前学習：指導教員の指示に従い準備する（2時間）
　事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（2時間）
第6回：資料・研究レポートとミーティング3（PBL・ディスカッション・グループワーク・発表）
　事前学習：指導教員の指示に従い準備する（2時間）
　事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（2時間）
第7回：資料・研究レポートとミーティング4（PBL・ディスカッション・グループワーク・発表）
　事前学習：指導教員の指示に従い準備する（2時間）
　事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（2時間）

第８回：資料・研究レポートとミーティング５（PBL・ディスカッション・グループワーク・発表）
事前学習：指導教員の指示に従い準備する（２時間）
事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（２時間）
第９回：資料・研究レポートとミーティング６（PBL・ディスカッション・グループワーク・発表）
事前学習：指導教員の指示に従い準備する（２時間）
事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（２時間）
第10回：資料・研究レポートとミーティング７（PBL・ディスカッション・グループワーク・発表）
事前学習：指導教員の指示に従い準備する（２時間）
事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（２時間）
第11回：授乳期・離乳食について（PBL・ディスカッション・グループワーク・発表）
事前学習：指導教員の指示に従い準備する（２時間）
事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（２時間）
第12回：離乳食の実際（試作含む）
事前学習：指導教員の指示に従い準備する（２時間）
事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（２時間）
第13回：資料・卒業研究発表会聴講
事前学習：今年度の「卒業論文要旨集」を確認し準備する（２時間）
事後学習：卒業研究発表会の発表内容を参考に、自身の卒業研究テーマについて考える（２時間）
第14回：卒業研究へのアプローチ（ディスカッション・グループワーク）
事前学習：指導教員の指示に従い準備する（２時間）
事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（２時間）
第15回：卒業研究への構想とミーティング（ディスカッション・グループワーク）
事前学習：指導教員の指示に従い準備する（２時間）
事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（２時間）
資料、文献検索などを通して管理栄養士履修科目に重要なキーワードなどに関するノート作りをすること

授業実施方法（面接授業・遠隔授業）

原則として「面接授業」を行います。
ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。
遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成　績　評　価　方　法

レポートや発表（50%）　平常点（50%）
（レポートや発表の形式は担当教員により異なります。平常点は、授業への参加状況・受講態度などを総合して判断します。）

成　績　評　価　基　準

自らの研究課題を設定することができるか。研究課題に関連する文献などを適切に講読できるか。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック

１）授業時の課題に対するフィードバックについて
■授業時　■仁大eラーニング　■メール　□その他
２）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
■授業時　■仁大eラーニング　■メール　□その他
３）小レポートに対するフィードバックについて
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
４）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
□定期試験時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
５）その他
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他

実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）

テキスト、参考図書

必要に応じて指示する。

その他（受講上の注意）

ゼミ決定については、別途ガイダンスを行う。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

健康・栄養特別演習Ⅰ (Seminar in Health and Nutrition Ⅰ)			担当教員	森　恵見
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−F−2366	2単位	3年通年	演習	必修

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科専門科目　特別演習・卒業研究

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

課題解決能力、社会に貢献する意欲と態度、職業倫理観

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識･技能　■論理的思考力と創造力　■人間関係形成･社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
■自己理解･自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　■キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

授業の内容

専門分野に関するこれまでの学修を基礎に、先行研究・実践の事例を参考にしながら、専門的研究を進める際の課題の選び方、課題解決へのアプローチの仕方について学ぶ。この演習において文献等を講読し、討論することを通して、自らの研究テーマを設定する。

授業の到達目標

文献等の講読や討論を通じて、研究課題の対象と方法を学び、自らの研究テーマを設定する。

アクティブ・ラーニング

■課題解決型学習（PBL）　■討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等）　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：ガイダンス（ゼミ配属説明）
　事前学習：昨年度の「卒業論文要旨集」と各ゼミのゼミ要項を確認し準備する（2時間）
　事後学習：ゼミ要項に記載された方法に従って各教員への質問等を行った後、配属を希望するゼミの希望調査書を作成し、eラーニングシステム上に提出する（2時間）
第2回：研究の方法に関する説明
　事前学習：指示に従い準備する（2時間）
　事後学習：研究方法や研究活動に関連のある情報にアクセスし、理解を深める（2時間）
第3回：資料、文献検索の仕方、
　事前学習：指定した資料を準備して目を通す（2時間）
　事後学習：興味のある資料・文献を検索して熟読する（2時間）
第4回：資料・研究レポートとミーティング1（PBL・ディスカッション・グループワーク・発表）
　事前学習：指示に従い準備する（2時間）
　事後学習：指示に従い課題をまとめる（2時間）
第5回：資料・研究レポートとミーティング2（PBL・ディスカッション・グループワーク・発表）
　事前学習：指示に従い準備する（2時間）
　事後学習：指示に従い課題をまとめる（2時間）
第6回：資料・研究レポートとミーティング3（PBL・ディスカッション・グループワーク・発表）
　事前学習：指示に従い準備する（2時間）
　事後学習：指示に従い課題をまとめる（2時間）
第7回：資料・研究レポートとミーティング4（PBL・ディスカッション・グループワーク・発表）
　事前学習：指示に従い準備する（2時間）
　事後学習：指示に従い課題をまとめる（2時間）
第8回：資料・研究レポートとミーティング5（PBL・ディスカッション・グループワーク・発表）
　事前学習：指示に従い準備する（2時間）
　事後学習：指示に従い課題をまとめる（2時間）

第９回：研究方法の実践とミーティング１（PBL・ディスカッション・グループワーク・発表・実習・実技）
　　事前学習：指示に従い準備する（２時間）
　　事後学習：指示に従い課題をまとめる（２時間）
第10回：研究方法の実践とミーティング２（PBL・ディスカッション・グループワーク・発表・実習・実技）
　　事前学習：指示に従い準備する（２時間）
　　事後学習：指示に従い課題をまとめる（２時間）
第11回：研究方法の実践とミーティング３（PBL・ディスカッション・グループワーク・発表・実習・実技）
　　事前学習：指示に従い準備する（２時間）
　　事後学習：指示に従い課題をまとめる（２時間）
第12回：資料・研究レポートとミーティング４（PBL・ディスカッション・グループワーク・発表・実習・実技）
　　事前学習：指示に従い準備する（２時間）
　　事後学習：指示に従い課題をまとめる（２時間）
第13回：卒業研究発表会聴講
　　事前学習：今年度の「卒業論文要旨集」を確認し準備する（２時間）
　　事後学習：卒業研究発表会の発表内容を参考に、自身の卒業研究テーマについて考える（２時間）
第14回：卒業研究へのアプローチ（ディスカッション・グループワーク）
　　事前学習：指示に従い準備する（２時間）
　　事後学習：指示に従い課題をまとめる（２時間）
第15回：卒業研究への構想とミーティング（ディスカッション・グループワーク）
　　事前学習：指示に従い準備する（２時間）
　　事後学習：指示に従い課題をまとめる（２時間）
資料、文献検索などを通して管理栄養士履修科目に重要なキーワードなどに関するノート作りをすること。

授業実施方法（面接授業・遠隔授業）

原則として「面接授業」を行います。
ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。
遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成　績　評　価　方　法

レポートや発表（50%）　平常点（50%）
（レポートや発表の形式は担当教員により異なります。平常点は、授業への参加状況・受講態度などを総合して判断します。）

成　績　評　価　基　準

自らの研究課題を設定することができるか。研究課題に関連する文献などを適切に講読できるか。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック

１）授業時の課題に対するフィードバックについて
　■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
２）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
　■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
３）小レポートに対するフィードバックについて
　■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
４）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
　□定期試験時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
５）その他
　□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他

実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）

テキスト、参考図書

必要に応じて指示する。

その他（受講上の注意）

ゼミ決定については、別途ガイダンスを行う。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

生涯発達心理学 (Developmental Psychology)			担当教員	乙部　貴幸
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−C−2370	2単位	3年後期	講義	選択

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科専門科目　関連科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

学校および地域社会の健康づくりを担うことができる能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識･技能　■論理的思考力と創造力　■人間関係形成･社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
■自己理解･自己管理能力　□諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプラニング能力

資格・免許の要件

授業の内容

・人間の一生涯を発達心理学的観点から概説する。
・人間の機能発達を最近の発達心理学の諸理論と代表的な研究法から概観する。

授業の到達目標

・生涯発達の観点から人間のライフコースについて理解する。
・人間の心理発達を機能的観点から理解する。
・発達心理学における諸理論を実生活の経験に照らし合わせて用いることができる。
・明確な知見が得られていない発達上の問題に対して、既存の概念を用いて考察することができる。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　□グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　□発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等）　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：オリエンテーション、生涯発達心理学について
　　事後学習：初回課題（4時間）
第2回：感覚・知覚の仕組み
　　事後学習：授業内容の各自のまとめ（4時間）
第3回：学習・記憶の仕組み
　　事後学習：授業内容の各自のまとめ（4時間）
第4回：感情と社会性
　　事後学習：小レポート1（4時間）
第5回：脳の解剖学的特徴
　　事後学習：授業内容の各自のまとめ（4時間）
第6回：脳科学と子どもの発達
　　事後学習：授業内容の各自のまとめ（4時間）
第7回：遺伝と行動
　　事後学習：小レポート2（4時間）
第8回：胎児期・新生児期
　　事後学習：授業内容の各自のまとめ（4時間）
第9回：乳児期の運動と認知の発達
　　事後学習：授業内容の各自のまとめ（4時間）
第10回：幼児期前期の発達
　　事後学習：授業内容の各自のまとめ（4時間）
第11回：幼児期後期の発達
　　事後学習：小レポート2（4時間）

第12回：児童期の発達
　　事後学習：授業内容の各自のまとめ（４時間）
第13回：思春期と青年期
　　事後学習：授業内容の各自のまとめ（４時間）
第14回：成年期と老年期
　　事後学習：授業内容の各自のまとめ（４時間）
第15回：生涯発達とライフコース
　　事後学習：提出用の期末レポート作成（４時間）

授業実施方法（面接授業・遠隔授業）

原則として「面接授業」を行います。
ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。
遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成　績　評　価　方　法

・初回課題：５％
・小レポート（15％×３）
・期末レポート：50％
の合計により評価する。

成　績　評　価　基　準

・発達心理学における各概念を理解できているか。
・授業等で解説した代表的な発達心理学の理論を知っているかどうか。
・授業内容と自ら調べた知識を統合した上で、自分なりの意見・考えをレポートとしてまとめることができるかどうか。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック

１）授業時の課題に対するフィードバックについて
　■授業時　■仁大eラーニング　□メール　□その他
２）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
　■授業時　■仁大eラーニング　□メール　□その他
３）小レポートに対するフィードバックについて
　■授業時　■仁大eラーニング　□メール　□その他
４）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
　□定期試験時　■仁大eラーニング　□メール　□その他
５）その他（発表に対するフィードバックについて）
　■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他

実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）

テ　キ　ス　ト　、　参　考　図　書

テキストは指定しない。

＜参考図書＞
成田 朋子, 大野木 裕明, 小平 英志（編）（2018）「新・保育実践を支える保育の心理学Ⅰ」福村出版
泰羅 雅登, 中村 克樹（監訳）（2013）「カールソン神経科学テキスト 脳と行動 第４版」丸善出版

その他（受講上の注意）

このシラバスの内容は、受講者数が数人～十数人を想定している。受講者数がごく少数の場合は、授業の形態や進行を柔軟に変えていく。変更が大きい場合には、修正したシラバスを受講者全員に配布する。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

学校栄養教育の理論と方法 (School Health Education)			担当教員	牧野　みゆき、清川　ひろみ
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−C−2375	2単位	3年前期	講義	選択

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科専門科目　関連科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>　栄養に係る教育に関する科目

<科目に含めることが必要な事項>　栄養教諭の役割及び職務内容に関する事項
幼児、児童及び生徒の栄養に係る課題に関する事項
食生活に関する歴史的及び文化的事項

求める学習成果(教育目標)

学校および地域社会の健康づくりを担うことができる能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識･技能　□論理的思考力と創造力　□人間関係形成･社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
□自己理解･自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

栄養教諭一種免許状（必修）

授業の内容

栄養教諭の職務内容、学校給食の教育的な意義・給食管理の実際、児童生徒の食生活を取り巻く課題、食生活の機能、地域の食文化等、栄養教諭として必要な事項を演習を交えながら学修する。

授業の到達目標

栄養教諭の職務内容、学校給食の教育的な意義、児童生徒の食生活を取り巻く課題、食生活の機能や地域の食文化について説明することができる。

アクティブ・ラーニング

■課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　□グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等）　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：栄養教諭の役割と職務内容（牧野）
　事前学習：授業前にテキストp1－13、19－27を読み、分からない単語があれば調べておくこと。（2時間）
　事後学習：テキスト・配布資料の見直しを行い、分からないことがあれば、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して教員に質問すること。（2時間）
第2回：食生活の機能（牧野）
　事前学習：授業前に事前配布資料（第1回に配布予定）を読み、分からない単語があれば調べておくこと。（2時間）
　事後学習：テキスト・配布資料の見直しを行い、分からないことがあれば、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して教員に質問すること。（2時間）
第3回：児童および生徒の栄養に係る諸問題、健康なからだをつくる食事（牧野）
　事前学習：授業前にテキストp37－40を読み、分からない単語があれば調べておくこと。（2時間）
　事後学習：テキスト・配布資料の見直しを行い、分からないことがあれば、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して教員に質問すること。（2時間）
第4回：児童生徒の食生活の現状と問題点（牧野）
　事前学習：授業前に事前配布資料（第3回に配布予定）とテキストp40－46を読み、分からない単語があれば調べておくこと。（2時間）
　事後学習：テキスト・配布資料の見直しを行い、分からないことがあれば、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して教員に質問すること。（2時間）
第5回：日本の食文化と学校教育（牧野）
　事前学習：授業前に事前配布資料（第4回に配布予定）を読み、分からない単語があれば調べておくこと。（2時間）
　事後学習：テキスト・配布資料の見直しを行い、分からないことがあれば、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して教員に質問すること。（2時間）

第６回：学校給食の変遷と意義・目的・献立の充実（牧野）
事前学習：授業前にテキストp28－36を読み、分からない単語があれば調べておくこと。（２時間）
事後学習：テキスト・配布資料の見直しを行い、分からないことがあれば、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して教員に質問すること。（２時間）
第７回：学校給食の栄養・衛生・安全管理（清川）
事前学習：食品衛生学や給食経営管理論で学習した内容を復習しておくこと。（２時間）
事後学習：テキスト・配布資料の見直しを行い、分からないことがあれば、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して教員に質問すること。（２時間）
第８回：学校から家庭に対する食情報提供（１）「給食たより」の作成（清川）【課題解決型学習】
事前学習：自身の母校や出身自治体が出している「献立表」や「給食たより」を入手し、どのような内容が書かれているかを確認しておくこと。（２時間）
事後学習：テキスト・配布資料の見直しを行い、分からないことがあれば、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して教員に質問すること。（２時間）
第９回：学校から家庭に対する食情報提供（２）「給食たより」の発表（清川）【発表・プレゼンテーション】
事前学習：第９回では、各自作成の給食たよりの発表を行うので、事前に必要な資料をもとに給食たよりを作成しておくこと。（２時間）
事後学習：他の学生の作成した「たより」の良いとおもった部分を、取り入れる場合どのような改善ができるかを考え、自身の作成したたよりを見直しておくこと。（２時間）
第10回：食に関する啓発の推進（１）講話の演習 指導案作成（清川）【課題解決型学習】
事前学習：第10回の講義では、給食の時間に行う児童・生徒への指導を考えてもらうので、テキストや食に関する指導の手引きをもとに、これまでに学習した内容を整理しておくこと。（２時間）
事後学習：テキスト・配布資料の見直しを行い、分からないことがあれば、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して教員に質問すること。（２時間）
第11回：食に関する啓発の推進（２）教材作り（清川）
事前学習：第11回の講義では、給食時間の指導用教材の作成を行うので、事前に必要な資料を図書館などで調べたり、収集しておくこと。（２時間）
事後学習：テキスト・配布資料の見直しを行い、分からないことがあれば、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して教員に質問すること。（２時間）
第12回：学校給食における地場産物の活用方法（清川）
事前学習：これまでの学習した内容を振り返り、地場産物を学校給食や教育に活用する理由について自分の考えをまとめておくこと。（２時間）
事後学習：テキスト・配布資料の見直しを行い、分からないことがあれば、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して教員に質問すること。（２時間）
第13回：福井県の食育の先人、石塚左玄の訓えに学ぶ（清川）
事前学習：福井県内の児童生徒が活用している「食育チャレンジ」から石塚左玄について読み解き、左玄の訓えと段階をおった指導にふれておく。（２時間）
事後学習：テキスト・配布資料の見直しを行い、分からないことがあれば、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して教員に質問すること。（２時間）
第14回：食に関する啓発の推進（３）発表と評価①（清川・牧野）【発表・プレゼンテーション】
事前学習：第14、15回の講義では、給食の時間の指導の実演を行ってもらうので、一人５分程度で指導が行えるよう準備しておくこと。（２時間）
事後学習：他の学生の行った講話の良いとおもった部分を、取り入れる場合どのような改善ができるかを考え、発表内容を見直しておくこと。（２時間）
第15回：食に関する啓発の推進（３）発表と評価②（清川・牧野）【発表・プレゼンテーション】
事前学習：第14、15回の講義では、給食の時間の指導の実演を行ってもらうので、一人５分程度で指導が行えるよう準備しておくこと。（２時間）
事後学習：他の学生の行った講話の良いとおもった部分を、取り入れる場合どのような改善ができるかを考え、発表内容を見直しておくこと。（２時間）

授業実施方法（面接授業・遠隔授業）

原則として「面接授業」を行います。
ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。
遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成　績　評　価　方　法

レポート60％、平常点40％
平常点は、授業への参加状況、受講態度、模擬授業、提出物の内容等から総合的に評価する。

成　績　評　価　基　準

栄養教諭の職務内容、学校給食の教育的な意義、児童生徒の食生活を取り巻く課題、食生活の機能や地域の食文化について説明することができるか。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

1）授業時の課題に対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
2）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
3）小レポートに対するフィードバックについて
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
4）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
□定期試験時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
5）その他
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他

実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)

経歴：（元福井県栄養教諭）
実務経験と授業内容との関連性：（栄養教諭としての実務経験を活かし、栄養教諭の職務内容、学校給食の教育的な意義・給食管理の実際、児童生徒の食生活を取り巻く課題、食生活の機能、地域の食文化等、栄養教諭として必要な事項を演習を交えながら理解を深めていく。）

テキスト、参考図書

＜テキスト＞
四訂栄養教諭論 第２版－理論と実際－，金田雅代著，建帛社，2022年
食に関する指導の手引 第ニ次改訂版，文部科学省，健学社，2019年

＜参考図書＞
栄養教諭のための教職実践演習・栄養教育実習ノート: １年次から使えるポートフォリオ，芦川修貳 監修，学建書院，2021年

その他(受講上の注意)

オフィスアワー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

食育指導の理論と方法 (School Food and Nutritional Education)			担当教員	牧野　みゆき、清川　ひろみ
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−C−2376	2単位	3年後期	講義	選択

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科専門科目　関連科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>　栄養に係る教育に関する科目

<科目に含めることが必要な事項>　食に関する指導の方法に関する事項

求める学習成果(教育目標)

学校および地域社会の健康づくりを担うことができる能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識･技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成･社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
□自己理解･自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

栄養教諭一種免許状（必修）

授業の内容

栄養教諭として学校における食育をマネジメントするために必要となる、食に関する指導の全体計画作成、給食の時間や各教科等における食に関する指導の実践方法について演習を通して学修する。

授業の到達目標

学校における食に関する指導を推進するための全体計画作成の意義、各教科等と食に関する指導の関連性について理解する。また、食育実践演習を通して、児童生徒への食育指導の方法を修得し、食育指導をすることができる。

アクティブ・ラーニング

■課題解決型学習（PBL）　■討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等）　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：食に関する指導の意義 学校における食育の推進の必要性（牧野）【グループワーク】
　事前学習：授業前にテキストの関連部分を読み、分からない単語があれば調べておくこと。（2時間）
　事後学習：テキスト・配布資料の見直しを行い、分からないことがあれば、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して教員に質問すること。（2時間）
第2回：食に関する指導に係る計画の作成（1）　全体計画と年間指導計画の概要（牧野）【課題解決型学習】
　事前学習：授業前にテキストの関連部分を読み、分からない単語があれば調べておくこと。（2時間）
　事後学習：テキスト・配布資料の見直しを行い、分からないことがあれば、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して教員に質問すること。（2時間）
第3回：食に関する指導に係る計画の作成（2）　全体計画と年間指導計画をつなぐために（牧野）【課題解決型学習】
　事前学習：授業前にテキストの関連部分を読み、分からない単語があれば調べておくこと。（2時間）
　事後学習：テキスト・配布資料の見直しを行い、分からないことがあれば、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して教員に質問すること。（2時間）
第4回：各教科における食に関する指導（1）授業の計画、進め方について（牧野）
　事前学習：授業前にテキストの関連部分を読み、分からない単語があれば調べておくこと。（2時間）
　事後学習：テキスト・配布資料の見直しを行い、分からないことがあれば、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して教員に質問すること。（2時間）
第5回：各教科における食に関する指導（2）体育科保健領域（牧野）【グループワーク】
　事前学習：授業前にテキストの関連部分を読み、分からない単語があれば調べておくこと。（2時間）
　事後学習：テキスト・配布資料の見直しを行い、分からないことがあれば、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して教員に質問すること。（2時間）
第6回：各教科における食に関する指導（3）理科、家庭科（牧野）【グループワーク】
　事前学習：授業前にテキストの関連部分を読み、分からない単語があれば調べておくこと。（2時間）
　事後学習：テキスト・配布資料の見直しを行い、分からないことがあれば、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して教員に質問すること。（2時間）

第７回：各教科における食に関する指導（４）社会、総合的な学習の時間（牧野）　【グループワーク】
事前学習：授業前にテキストの関連部分を読み、分からない単語があれば調べておくこと。（２時間）
事後学習：テキスト・配布資料の見直しを行い、分からないことがあれば、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して教員に質問すること。（２時間）
第８回：個別的な相談指導の進め方（清川）
事前学習：授業前にテキストの関連部分を読み、分からない単語があれば調べておくこと。（２時間）
事後学習：テキスト・配布資料の見直しを行い、分からないことがあれば、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して教員に質問すること。（２時間）
第９回：学校給食を生きた教材として活用した食育の推進 楽しい食事の取り方（清川）
事前学習：授業前にテキストの関連部分を読み、分からない単語があれば調べておくこと。（２時間）
事後学習：テキスト・配布資料の見直しを行い、分からないことがあれば、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して教員に質問すること。（２時間）
第10回：学校給食を生きた教材として活用した食育の推進 食事のマナー、勤労と感謝（清川）　【グループワーク】
事前学習：授業前にテキストの関連部分を読み、分からない単語があれば調べておくこと。（２時間）
事後学習：テキスト・配布資料の見直しを行い、分からないことがあれば、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して教員に質問すること。（２時間）
第11回：４年生による教育実習の報告会（清川・牧野）
事前学習：前時までの授業内容をふりかえり、学校での栄養教諭の職務内容や役割を整理しておく。（２時間）
事後学習：４年生の発表から教育実習への思いなどをまとめる。（２時間）
第12回：学校給食を生きた教材として活用するための工夫、献立の充実（清川・牧野）　【発表、ディスカッション】
事前学習：授業前にテキストの関連部分を読み、分からない単語があれば調べておくこと。（２時間）
事後学習：テキスト・配布資料の見直しを行い、分からないことがあれば、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して教員に質問すること。（２時間）
第13回：食育実践演習（１）（清川・牧野）　【発表、ディスカッション】
事前学習：授業前にテキストの関連部分を読み、分からない単語があれば調べておくこと。（２時間）
事後学習：テキスト・配布資料の見直しを行い、分からないことがあれば、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して教員に質問すること。（２時間）
第14回：食育実践演習（２）（清川・牧野）　【発表、ディスカッション】
事前学習：授業前にテキストの関連部分を読み、分からない単語があれば調べておくこと。（２時間）
事後学習：テキスト・配布資料の見直しを行い、分からないことがあれば、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して教員に質問すること。（２時間）
第15回：食育指導の理論と方法 まとめ（清川・牧野）
事前学習：授業前にテキストの関連部分を読み、分からない単語があれば調べておくこと。（２時間）
事後学習：テキスト・配布資料の見直しを行い、分からないことがあれば、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して教員に質問すること。（２時間）

授業実施方法（面接授業・遠隔授業）

原則として「面接授業」を行います。
ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。
遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成　績　評　価　方　法

レポート60%，平常点40%
平常点は、授業への参加状況、受講態度、模擬授業、提出物の内容等から総合的に評価する

成　績　評　価　基　準

学校における食に関する指導を推進するための全体計画作成の意義、各教科等と食に関する指導の関連性について理解しているか。また、食育実践演習を通して、児童生徒への食育指導の方法を修得し、食育指導をすることができるか。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック

１）授業時の課題に対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
２）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
３）小レポートに対するフィードバックについて
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
４）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
□定期試験時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
５）その他
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他

実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）
テキスト、参考図書
四訂栄養教諭論 第２版－理論と実際－，金田雅代著，建帛社，2021年 食に関する指導の手引 第ニ次改訂版，文部科学省，健学社，2019年 栄養教諭のための教職実践演習・栄養教育実習ノート：１年次から使えるポートフォリオ，芦川修貳 監修，学建書院，2021年
その他（受講上の注意）
オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

教育経営論 (Educational Administration)			担当教員	小林　利幸
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−C−2383	2単位	3年前期	講義	選択

<科目区分>　人間生活学部特設科目　教職に関する専門科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>　教育の基礎的理解に関する科目

<科目に含めることが必要な事項>　教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）

求める学習成果（教育目標）

学校および地域社会の健康づくりを担うことができる能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力（汎用的能力）

■体系的な知識･技能　■論理的思考力と創造力　■人間関係形成･社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
■自己理解･自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

栄養教諭一種免許状（必修）

授業の内容

日本国憲法・教育法規・学習指導要領に示される教育経営の理念を理解する。教育・学校・児童生徒を巡る諸課題を教育経営の観点から理解を深め、学校と地域の連携の意義と取り組み及び学校安全について自らの切実な課題として主体的に理解できるように毎授業でグループ討議を実施する。

授業の到達目標

中学校・高等学校教育・食の教育や教育行政機関の目的とその実現について教育経営の観点から理解し、社会の状況の変化と学校教育へ影響・課題・教育施策の動向の基礎的知識を身につけ、学校と地域との連携と協働の仕方を理解し、学校管理下での事件・事故・食の安全・災害の実情を踏まえて学校安全の目的と取り組みを理解することが出来る。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等）　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：教育経営論の理念と学習計画について
　事前学習：教育経営論で身に付けたいことや考えたいことや教育に関する疑問点をノートにまとめてくること。（2時間）
　事後学習：現在の自分の教育観を見つめ、まとめ、疑問点などをまとめておくこと。（2時間）
第2回：我が国の幼・保教育及び小学校教育の変遷と課題について
　事前学習：学習指導要領解説総則編P146～P157で我が国の教育の変遷を整理しておくこと。（2時間）
　事後学習：教育とは何か、教育経営とは何か、教育の変遷を整理しておくこと。（2時間）
第3回：子どもの生活の変化と子どもの問題及び解決策について
　事前学習：子どもの問題で気になる問題とその理由及び解決策を考えてくること。（2時間）
　事後学習：考えた子どもの問題の解決策と今後の取り組み計画をまとめておくこと。（2時間）
第4回：我が国の教育課題と学習指導要領の改訂について
　事前学習：新聞で取り上げられている教育課題に対し、自分の考えや疑問をノートに書いてくること。（2時間）
　事後学習：教育課題を繰り返さずに解決するための施策を考え、共感的に共有し合うこと。（2時間）
第5回：世界の教育の実態と教育改革の現状について
　事前学習：世界各国の教育事情を集め、それぞれの課題と取り組みを紹介できるようにしてくること。（2時間）
　事後学習：特徴的な課題と対策をまとめ、今後の世界の教育の改革について考えを整理すること。（2時間）

第６回：学校経営の理念と学校組織の在り方について
事前学習：特徴的な学校経営を行う学校の実践を調べて情報交換が出来るようにしてくること。（２時間）
事後学習：大きな教育成果を挙げている学校の取り組みや先駆者の思想や実践をまとめておくこと。（２時間）
第７回：憲法・教育法規・関連法規と学校教育について
事前学習：日本国憲法・教育基本法・学校教育法を熟読してくること。（２時間）
事後学習：特に日本国憲法と教育基本法の精神をまとめ、整理しておくこと。（２時間）
第８回：教育行政の仕組みと課題について
事前学習：我が国の教育行政の仕組みと改善したい問題をまとめてくること。（２時間）
事後学習：教育行政と学校教育の課題と改善策をまとめておくこと。（２時間）
第９回：学校経営と学校評価の基礎理論について
事前学習：向上・改善のための実践と評価の大切さについて具体例を挙げて考えてくること。（２時間）
事後学習：学校評価の具体例を整理し、学校経営の充実・改善の取り組みを整理しておくこと。（２時間）
第10回：学級経営の仕組みと学級経営の課題について
事前学習：改善したい学級経営上の課題と解決策を考え、整理してくること。（２時間）
事後学習：様々な学級経営上の課題を整理し、対応改善策をまとめておくこと。（２時間）
第11回：教職員と学校外の関係機関との連携・協働について
事前学習：閉ざされた学校が開かれた学校へと移り変わった理由を考えてくること。（２時間）
事後学習：教職員の開かれた意識形成のためにどうしたらよいかについてまとめておくこと。（２時間）
第12回：学校と地域との連携・協働と教職員の使命について
事前学習：各地域の実践例に触れ、紹介できるようにしてくること。（２時間）
事後学習：主な実践を整理し、今後取り組んでいきたいプランをもてるようにすること。（２時間）
第13回：開かれた学校づくりの課題と解決について
事前学習：新聞記事で取り上げられる学校紹介記事を用意し、発表できるようにしてくること。（２時間）
事後学習：多様な取り組みを整理し、開かれた学校づくりの大切さに挑むことができるようにしておく。（２時間）
第14回：学校で起こる事件、事故、災害の実情と学校安全の具体策について
事前学習：具体事案をもとに未然防止策と事前指導の在り方を考えてくること。（２時間）
事後学習：家庭・地域ぐるみで子どもの安全を守る対策を整理しておくこと。（２時間）
第15回：学校、地域の安全管理と安全指導の徹底について
事前学習：居住地域の防災体制や学校の安全管理と指導の現状について考えてくること。（２時間）
事後学習：地域の安全・防災の充実のために積極的に行動できるようにすること。（２時間）

授業実施方法（面接授業・遠隔授業）

原則として「面接授業」を行います。ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成　績　評　価　方　法

学期末レポート40% 学習への意欲的な姿勢と小レポート40% グループ討議・発表20%

成　績　評　価　基　準

中学校・高等学校教育・食の教育や教育行政機関の目的とその実現について教育経営の観点から理解しているか。
社会の状況の変化と学校教育へ影響・課題・教育施策の動向の基礎的知識を身につけているか。
学校と地域との連携と協働の仕方を理解し、学校管理下での事件・事故・食の安全・災害の実情を踏まえて学校安全の目的と取り組みを理解しているか。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック

１）授業時の課題に対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他（ワークシートの学生の記入を事後まとめ、次回に配布し、共通理解に努める。）
２）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　■その他（ワークシートを集め、学生の記入事項や学習の様子を把握・記録し、学生の書いた意見にコメントを添える。）
３）小レポートに対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
４）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
□定期試験時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
５）その他
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他

実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）

テキスト、参考図書
＜テキスト＞ 小学校学習指導要領 小学校学習指導要領解説「総則編」(文部科学省 東洋館出版社 平成29 年) ＜参考図書＞ 教育小六法 (市川須美子・小野田正利・勝野正章・窪田眞二・中嶋哲彦・成嶋隆著 岳陽書房 平成28年) 中学校学習指導要領解説 外国語編 (平成29年 7 月 文部科学省) 高等学校学習指導要領解説 外国語編・英語編 (平成30年 3 月公示 文部科学省)
その他(受講上の注意)
私語・無気力厳禁。
オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

特別支援教育論 (Theory of Special Educational Needs)			担当教員	水田　敏郎
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−C−2384	2単位	3年前期	講義	選択

<科目区分>　人間生活学部特設科目　教職に関する専門科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>　教育の基礎的理解に関する科目

<科目に含めることが必要な事項>　特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解

求める学習成果(教育目標)

学校および地域社会の健康づくりを担うことができる能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識･技能　□論理的思考力と創造力　□人間関係形成･社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
□自己理解･自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

栄養教諭一種免許状（必修）

授業の内容

特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の障害の特性及び心身の発達を理解し、教育課程や支援の方法を学ぶ。

授業の到達目標

通常の学級にも在籍している発達障害や軽度知的障害をはじめとする様々な障害等により特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒が授業において学習活動に参加している実感・達成感をもちながら学び、生きる力を身に付けていくことができるよう、幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難を理解し、個別の教育的ニーズに対して、他の教員や関係機関と連携しながら組織的に対応していくために必要な知識や支援方法を理解する。

アクティブ・ラーニング

■課題解決型学習（PBL）　■討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　□グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　□発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等）　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：授業オリエンテーション（全15回の授業計画と全体概要。学習の仕方と成績評価）
　　障害の概念とその変遷
　　事後学習：資料のキーワード（空欄）の穴埋め。
　　＊：ICFの評価方法について調べる（4時間）
第2回：ICFによる事例の捉え方と障害者の処遇の歴史①
　　事前学習：ICFの活用事例について予習、前回の授業内容を復習・整理し質問項目をまとめる（2時間）
　　事後学習：資料のキーワード（空欄）の穴埋めと用語の意味調べ。障害者の処遇史中盤について調べる（2時間）
第3回：障害者の処遇の歴史②
　　事前学習：障害者の処遇史（中盤）について予習、前回の授業内容を復習・整理し質問項目をまとめる（2時間）
　　事後学習：資料のキーワード（空欄）の穴埋めと用語の意味調べ。障害者の処遇史（後半）について調べる（2時間）
第4回：障害者の処遇の歴史③
　　事前学習：障害者の処遇史（後半）について予習、前回の授業内容を復習・整理し質問項目をまとめる（2時間）
　　事後学習：資料のキーワード（空欄）の穴埋めと用語の意味調べ。障害者の支援の理念について調べる（2時間）
第5回：特別支援教育の現状①「障害者支援の理念」
　　事前学習：障害者支援の理念（後半）について予習、前回の授業内容を復習・整理し質問項目をまとめる（2時間）
　　事後学習：資料のキーワード（空欄）の穴埋めと用語の意味調べ。特別支援教育の法的枠組みについて調べる（2時間）

第６回：特別支援教育の現状②「特別支援教育の法的枠組み①」
事前学習：特別支援教育の法的枠組みについて予習、前回の授業内容を復習・整理し質問項目をまとめる（２時間）
事後学習：資料のキーワード（空欄）の穴埋めと用語の意味調べ。特別支援教育の法的枠組みについて調べる。（２時間）
第７回：特別支援教育の現状③「特別支援教育の法的枠組み②」（ディスカッション）
事前学習：特別支援教育の法的枠組みについて予習、前回の授業内容を復習・整理し質問項目をまとめる（２時間）
事後学習：資料のキーワード（空欄）の穴埋めと用語の意味調べ。特別支援教育の法的枠組みについて調べる（２時間）
第８回：特別支援教育の現状④「特別支援教育の法的枠組み③」
事前学習：特別支援教育の法的枠組みについて予習、前回の授業内容を復習・整理し質問項目をまとめる（２時間）
事後学習：資料のキーワード（空欄）の穴埋めと用語の意味調べ。特別支援教育の法的枠組みについて調べる（２時間）
第９回：特別支援教育の現状⑤「個別の教育支援計画・指導計画」
事前学習：個別の教育支援計画・指導計画について予習、前回の授業内容を復習・整理し質問項目をまとめる（２時間）
事後学習：資料のキーワード（空欄）の穴埋めと用語の意味調べ。視覚障害について調べる（２時間）
第10回：特別支援教育の対象①「視覚障害の理解と支援」
事前学習：視覚障害について予習、前回の授業内容を復習・整理し質問項目をまとめる（２時間）
事後学習：資料のキーワード（空欄）の穴埋めと用語の意味調べ。聴覚障害について調べる（２時間）
第11回：特別支援教育の対象②「聴覚障害の理解と支援」（ディスカッション）
事前学習：聴覚障害について予習、前回の授業内容を復習・整理し質問項目をまとめる（２時間）
事後学習：資料のキーワード（空欄）の穴埋めと用語の意味調べ。知的障害について調べる（２時間）
第12回：特別支援教育の対象③「知的障害の理解と支援」
事前学習：知的障害について予習、前回の授業内容を復習・整理し質問項目をまとめる（２時間）
事後学習：資料のキーワード（空欄）の穴埋めと用語の意味調べ。肢体不自由について調べる（２時間）
第13回：特別支援教育の対象④「肢体不自由の理解と支援」
事前学習：肢体不自由について予習、前回の授業内容を復習・整理し質問項目をまとめる（２時間）
事後学習：資料のキーワード（空欄）の穴埋めと用語の意味調べ。重複障害について調べる（２時間）
第14回：特別支援教育の対象⑤「重複障害の理解と支援」
事前学習：重複障害について予習、前回の授業内容を復習・整理し質問項目をまとめる（２時間）
事後学習：資料のキーワード（空欄）の穴埋めと用語の意味調べ。肢体不自由について調べる（２時間）
第15回：特別支援教育の対象⑥と支援体制の構築「病弱児の理解と支援、連携の必要性」
事前学習：病弱児について予習、前回の授業内容を復習・整理し質問項目をまとめる（２時間）
事後学習：資料のキーワード（空欄）の穴埋めと用語の意味調べ。
＊：特別支援教育を行う上で、教師や保育士に必要な資質は何か考えをまとめる（２時間）

上記のうち、＊は小レポート。
各回の講義を受講した後、当該部分の配布資料をよく読んで復習してください。また、予習にあたっても次の授業の内容部分をよく見て、疑問点などをもって授業に臨んでください。

授業実施方法（面接授業・遠隔授業）

原則として「面接授業」を行います。
ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。
遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成　績　評　価　方　法

①出席状況と②課題評価（全２回の予定）の２つで行います。
配分は以下の通りです。
①出席状況→40％（40点）、②課題評価→60％（60点＝30点×２回）

成　績　評　価　基　準

■通常の学級にも在籍している発達障害や軽度知的障害をはじめとする様々な障害について理解できたか。
■特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難を理解できたか。
■個別の教育的ニーズに対して、他の教員や関係機関と連携しながら組織的に対応していくために必要な知識や支援方法を理解できたか。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

1）授業時の課題に対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　■メール　□その他
2）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
3）小レポートに対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
4）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
□定期試験時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
5）その他
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他

実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)

テキスト、参考図書

参考図書：『知的障害の心理学 ── 発達支援からの理解』小池敏英・北島善夫著　北大路書房（2001）
『特別支援教育の基礎・基本 新訂版』独立行政法人 国立特別支援教育総合研究所著　ジアース教育新社出版（2015）
『キーワードブック特別支援教育』（玉村公二彦・清水貞夫・黒田学・向井啓二編、クリエイツかもがわ出版、平成27年）

プリントも授業中に配布

その他(受講上の注意)

障害に対する理解を得たり、疑問点を解決しようとするなど、目的意識をもって受講することを期待します。

オフィスアワー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

道徳教育の理論と方法 (Theory and Methods of Moral Education)			担当教員	高野　秀晴
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−C−2386	2単位	3年後期	講義	選択

<科目区分>　人間生活学部特設科目　教職に関する専門科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>　道徳、総合的な学習の時間等の内容及び生徒指導、教育相談等に関する科目

<科目に含めることが必要な事項>　道徳、総合的な学習の時間及び特別活動に関する内容

求める学習成果(教育目標)

学校および地域社会の健康づくりを担うことができる能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識･技能　□論理的思考力と創造力　□人間関係形成･社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
□自己理解･自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

栄養教諭一種免許状(必修)

授業の内容

学校で道徳教育をいかに行うかが大きな課題となっている。本授業では、この古くて新しい課題について理解を深めたうえで、学習指導要領に示される道徳教育の目標や内容について考察していく。これと並行して、グループごとに指導案を作成し、順次模擬授業を実施してもらう。これらの作業を通じて、道徳教育の指導法について検討していく。

授業の到達目標

・道徳の意義や原理等を踏まえ、学校における道徳教育の目標や内容を説明できる。
・道徳教育における指導計画の必要性を理解したうえで教材研究を行い、適切な指導法にもとづく授業計画を立てることができる。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習(PBL)　■討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等)　■グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等)　□発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等)　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　■その他(模擬授業)

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：オリエンテーション
　事前学習：シラバスをよく読み、学修計画を立てる。(2時間)
　事後学習：参考図書を検索し読書計画を立てるとともに、指導案の作成計画を立てる。(2時間)
第2回：道徳教育の難しさ(1)──道徳は知識なのか行為なのか
　事前学習：授業内容に関連する資料を集めて読むとともに、指導案の作成を進める。(2時間)
　事後学習：ノートをまとめ直すとともに、関連図書を読み理解を深める。(2時間)
第3回：道徳教育の難しさ(2)──宗教と道徳について
　事前学習：授業内容に関連する資料を集めて読むとともに、指導案の作成を進める。(2時間)
　事後学習：ノートをまとめ直すとともに、関連図書を読み理解を深める。(2時間)
第4回：道徳教育の難しさ(3)──評価のあり方について
　事前学習：授業内容に関連する資料を集めて読むとともに、指導案の作成を進める。(2時間)
　事後学習：ノートをまとめ直すとともに、関連図書を読み理解を深める。(2時間)
第5回：道徳性発達理論についての考察
　事前学習：授業内容に関連する資料を集めて読むとともに、指導案の作成を進める。(2時間)
　事後学習：ノートをまとめ直すとともに、関連図書を読み理解を深める。(2時間)
第6回：学習指導要領を読む──第1章「総則」、第3章「特別の教科　道徳」
　事前学習：授業内容に関連する資料を集めて読むとともに、指導案の作成を進める。(2時間)
　事後学習：ノートをまとめ直すとともに、関連図書を読み理解を深める。(2時間)
第7回：教材研究(1)──『心のノート』と『私たちの道徳』を中心に(グループワーク)
　事前学習：授業内容に関連する資料を集めて読むとともに、指導案の作成を進める。(2時間)
　事後学習：ノートをまとめ直すとともに、関連図書を読み理解を深める。(2時間)

第８回：教材研究（２）── 読み物教材の使い方（グループワーク）
　　事前学習：授業内容に関連する資料を集めて読むとともに、指導案の作成を進める。（２時間）
　　事後学習：ノートをまとめ直すとともに、関連図書を読み理解を深める。（２時間）
第９回：日本における道徳教育の歴史
　　事前学習：授業内容に関連する資料を集めて読むとともに、指導案の作成を進める。（２時間）
　　事後学習：ノートをまとめ直すとともに、関連図書を読み理解を深める。（２時間）
第10回：指導法の検討（１）── インカルケーション（模擬授業、討議）
　　事前学習：授業内容に関連する資料を集めて読むとともに、指導案を作成または修正する。（２時間）
　　事後学習：ノートをまとめ直すとともに、関連図書を読み理解を深める。（２時間）
第11回：指導法の検討（２）── ディベート（模擬授業、討議）
　　事前学習：授業内容に関連する資料を集めて読むとともに、指導案を作成または修正する。（２時間）
　　事後学習：ノートをまとめ直すとともに、関連図書を読み理解を深める。（２時間）
第12回：指導法の検討（３）── モラルジレンマ（模擬授業、討議）
　　事前学習：授業内容に関連する資料を集めて読むとともに、指導案を作成または修正する。（２時間）
　　事後学習：ノートをまとめ直すとともに、関連図書を読み理解を深める。（２時間）
第13回：指導法の検討（４）── ロールプレイ（模擬授業、討議）
　　事前学習：授業内容に関連する資料を集めて読むとともに、指導案を作成または修正する。（２時間）
　　事後学習：ノートをまとめ直すとともに、関連図書を読み理解を深める。（２時間）
第14回：指導法の検討（５）── 構成的グループエンカウンター（模擬授業、討議）
　　事前学習：授業内容に関連する資料を集めて読むとともに、指導案を作成または修正する。（２時間）
　　事後学習：ノートをまとめ直すとともに、関連図書を読み理解を深める。（２時間）
第15回：まとめ
　　事前学習：授業内容に関連する資料を集めて読むとともに、指導案を作成または修正する。（２時間）
　　事後学習：ノートをまとめ直すとともに、関連図書を読み理解を深める。（２時間）
第16回：定期試験

授業実施方法（面接授業・遠隔授業）

原則として「面接授業」を行います。
ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。
遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成　績　評　価　方　法

定期試験（50％）
指導案の内容（25％）
平常点（25％）
（平常点は、授業への参加状況、授業時の課題の内容、模擬授業に対する講評の内容をもとに評価する。）

成　績　評　価　基　準

・道徳の意義や原理等を踏まえ、学校における道徳教育の目標や内容を説明できるか。
・道徳教育における指導計画の必要性を理解したうえで教材研究を行い、適切な指導法にもとづく授業計画を立てることができるか。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック

１）授業時の課題に対するフィードバックについて
　■授業時　　■仁大eラーニング　　□メール　　□その他
２）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
　□授業時　　□仁大eラーニング　　□メール　　□その他
３）小レポートに対するフィードバックについて
　□授業時　　□仁大eラーニング　　□メール　　□その他
４）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
　□定期試験時　　□仁大eラーニング　　□メール　　□その他
５）その他
　□授業時　　□仁大eラーニング　　□メール　　□その他

実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）

テ　キ　ス　ト　、　参　考　図　書

テキスト：「小学校学習指導要領」（平成29年３月告示　文部科学省）、「中学校学習指導要領」（平成29年３月告示　文部科学省）
参考図書：授業時に指示する。

その他（受講上の注意）
オ フ ィ ス ア ワ ー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

特別支援教育論 (Theory of Special Educational Needs)			担当教員	水田　敏郎
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−D−2309	2単位	3年前期	講義	選択

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　関連科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>　教育の基礎的理解に関する科目

<科目に含めることが必要な事項>　特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解

求める学習成果(教育目標)

教育・保育の対象の理解及び子どもの発達の理解

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識･技能　□論理的思考力と創造力　□人間関係形成･社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
□自己理解･自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

幼稚園教諭一種免許状（必修）、小学校教諭一種免許状（必修）

授業の内容

特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の障害の特性及び心身の発達を理解し、教育課程や支援の方法を学ぶ。

授業の到達目標

通常の学級にも在籍している発達障害や軽度知的障害をはじめとする様々な障害等により特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒が授業において学習活動に参加している実感・達成感をもちながら学び、生きる力を身に付けていくことができるよう、幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難を理解し、個別の教育的ニーズに対して、他の教員や関係機関と連携しながら組織的に対応していくために必要な知識や支援方法を理解する。

アクティブ・ラーニング

■課題解決型学習（PBL）　■討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　□グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　□発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等）　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：授業オリエンテーション（全15回の授業計画と全体概要。学習の仕方と成績評価）
　　障害の概念とその変遷
　　事後学習：資料のキーワード（空欄）の穴埋め。
　　＊：ICFの評価方法について調べる（4時間）
第2回：ICFによる事例の捉え方と障害者の処遇の歴史①
　　事前学習：ICFの活用事例について予習、前回の授業内容を復習・整理し質問項目をまとめる（2時間）
　　事後学習：資料のキーワード（空欄）の穴埋めと用語の意味調べ。障害者の処遇史中盤について調べる（2時間）
第3回：障害者の処遇の歴史②
　　事前学習：障害者の処遇史（中盤）について予習、前回の授業内容を復習・整理し質問項目をまとめる（2時間）
　　事後学習：資料のキーワード（空欄）の穴埋めと用語の意味調べ。障害者の処遇史（後半）について調べる（2時間）
第4回：障害者の処遇の歴史③
　　事前学習：障害者の処遇史（後半）について予習、前回の授業内容を復習・整理し質問項目をまとめる（2時間）
　　事後学習：資料のキーワード（空欄）の穴埋めと用語の意味調べ。障害者の支援の理念について調べる（2時間）
第5回：特別支援教育の現状①「障害者支援の理念」
　　事前学習：障害者支援の理念（後半）について予習、前回の授業内容を復習・整理し質問項目をまとめる（2時間）
　　事後学習：資料のキーワード（空欄）の穴埋めと用語の意味調べ。特別支援教育の法的枠組みについて調べる（2時間）

第６回：特別支援教育の現状②「特別支援教育の法的枠組み①」
事前学習：特別支援教育の法的枠組みについて予習、前回の授業内容を復習・整理し質問項目をまとめる（２時間）
事後学習：資料のキーワード（空欄）の穴埋めと用語の意味調べ。特別支援教育の法的枠組みについて調べる。（２時間）
第７回：特別支援教育の現状③「特別支援教育の法的枠組み②」（ディスカッション）
事前学習：特別支援教育の法的枠組みについて予習、前回の授業内容を復習・整理し質問項目をまとめる（２時間）
事後学習：資料のキーワード（空欄）の穴埋めと用語の意味調べ。特別支援教育の法的枠組みについて調べる（２時間）
第８回：特別支援教育の現状④「特別支援教育の法的枠組み③」
事前学習：特別支援教育の法的枠組みについて予習、前回の授業内容を復習・整理し質問項目をまとめる（２時間）
事後学習：資料のキーワード（空欄）の穴埋めと用語の意味調べ。特別支援教育の法的枠組みについて調べる（２時間）
第９回：特別支援教育の現状⑤「個別の教育支援計画・指導計画」
事前学習：個別の教育支援計画・指導計画について予習、前回の授業内容を復習・整理し質問項目をまとめる（２時間）
事後学習：資料のキーワード（空欄）の穴埋めと用語の意味調べ。視覚障害について調べる（２時間）
第10回：特別支援教育の対象①「視覚障害の理解と支援」
事前学習：視覚障害について予習、前回の授業内容を復習・整理し質問項目をまとめる（２時間）
事後学習：資料のキーワード（空欄）の穴埋めと用語の意味調べ。聴覚障害について調べる（２時間）
第11回：特別支援教育の対象②「聴覚障害の理解と支援」（ディスカッション）
事前学習：聴覚障害について予習、前回の授業内容を復習・整理し質問項目をまとめる（２時間）
事後学習：資料のキーワード（空欄）の穴埋めと用語の意味調べ。知的障害について調べる（２時間）
第12回：特別支援教育の対象③「知的障害の理解と支援」
事前学習：知的障害について予習、前回の授業内容を復習・整理し質問項目をまとめる（２時間）
事後学習：資料のキーワード（空欄）の穴埋めと用語の意味調べ。肢体不自由について調べる（２時間）
第13回：特別支援教育の対象④「肢体不自由の理解と支援」
事前学習：肢体不自由について予習、前回の授業内容を復習・整理し質問項目をまとめる（２時間）
事後学習：資料のキーワード（空欄）の穴埋めと用語の意味調べ。重複障害について調べる（２時間）
第14回：特別支援教育の対象⑤「重複障害の理解と支援」
事前学習：重複障害について予習、前回の授業内容を復習・整理し質問項目をまとめる（２時間）
事後学習：資料のキーワード（空欄）の穴埋めと用語の意味調べ。肢体不自由について調べる（２時間）
第15回：特別支援教育の対象⑥と支援体制の構築「病弱児の理解と支援、連携の必要性」
事前学習：病弱児について予習、前回の授業内容を復習・整理し質問項目をまとめる（２時間）
事後学習：資料のキーワード（空欄）の穴埋めと用語の意味調べ。
＊：特別支援教育を行う上で、教師や保育士に必要な資質は何か考えをまとめる（２時間）

上記のうち、＊は小レポート。
各回の講義を受講した後、当該部分の配布資料をよく読んで復習してください。また、予習にあたっても次の授業の内容部分をよく見て、疑問点などをもって授業に臨んでください。

授業実施方法（面接授業・遠隔授業）

原則として「面接授業」を行います。
ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。
遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成　績　評　価　方　法

①出席状況と②課題評価（全２回の予定）の２つで行います。
配分は以下の通りです。
①出席状況→40％（40点）、②課題評価→60％（60点＝30点×２回）

成　績　評　価　基　準

■通常の学級にも在籍している発達障害や軽度知的障害をはじめとする様々な障害について理解できたか。
■特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難を理解できたか。
■個別の教育的ニーズに対して、他の教員や関係機関と連携しながら組織的に対応していくために必要な知識や支援方法を理解できたか。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

1）授業時の課題に対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　■メール　□その他
2）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
3）小レポートに対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
4）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
□定期試験時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
5）その他
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他

実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)

テキスト、参考図書

参考図書：『知的障害の心理学 ── 発達支援からの理解』小池敏英・北島善夫著　北大路書房（2001）
『特別支援教育の基礎・基本 新訂版』独立行政法人 国立特別支援教育総合研究所著　ジアース教育新社出版（2015）
『キーワードブック特別支援教育』（玉村公二彦・清水貞夫・黒田学・向井啓二編、クリエイツかもがわ出版、平成27年）

プリントも授業中に配布

その他(受講上の注意)

障害に対する理解を得たり、疑問点を解決しようとするなど、目的意識をもって受講することを期待します。

オフィスアワー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

教育経営論 (Educational Administration)			担当教員	小林　利幸
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−A−2300	2単位	3年前期	講義	選択

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　基幹科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>　教育の基礎的理解に関する科目

<科目に含めることが必要な事項>　教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）

求める学習成果（教育目標）

教育・保育の基礎理論の理解

身につけることを目指す社会的・職業的能力（汎用的能力）

■体系的な知識･技能　■論理的思考力と創造力　■人間関係形成･社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
■自己理解･自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

幼稚園教諭一種免許状（必修）、小学校教諭一種免許状（必修）

授業の内容

日本国憲法・教育法規・学習指導要領に示される教育経営の理念を理解する。教育・学校・子どもを巡る諸課題を教育経営の観点から理解を深め、学校と地域の連携の意義と取り組み及び学校安全について自分の切実な課題として理解できるように毎授業でグループ討議を実施する。

授業の到達目標

保育園・幼稚園・小学校教育や教育行政機関の目的とその実現について教育経営の観点から理解し、社会の状況の変化と学校教育への影響・課題・教育施策の動向の基礎的知識を身につけ、学校と地域との連携と協働の仕方を理解し、学校管理下での事件・事故・災害の実情を踏まえて学校安全の目的と取り組みを理解することが出来る。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等）　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：教育経営論の理念と学習計画について
　事前学習：教育経営論で身に付けたいことや考えたいことや教育に関する疑問点をノートにまとめてくること。（2時間）
　事後学習：現在の自分の教育観を見つめ、まとめ、疑問点などをまとめておくこと。（2時間）
第2回：我が国の幼・保教育及び小学校教育の変遷と課題について
　事前学習：学習指導要領解説総則編P146～P157で我が国の教育の変遷を整理しておくこと。（2時間）
　事後学習：教育とは何か、教育経営とは何か、教育の変遷を整理しておくこと。（2時間）
第3回：子どもの生活の変化と子どもの問題及び解決策について
　事前学習：子どもの問題で気になる問題とその理由及び解決策を考えてくること。（2時間）
　事後学習：考えた子どもの問題の解決策と今後の取り組み計画をまとめておくこと。（2時間）
第4回：我が国の教育課題と学習指導要領の改訂について
　事前学習：新聞で取り上げられている教育課題に対し、自分の考えや疑問をノートに書いてくること。（2時間）
　事後学習：教育課題を繰り返さずに解決するための施策を考え、共感的に共有し合うこと。（2時間）
第5回：世界の教育の実態と教育改革の現状について
　事前学習：世界各国の教育事情を集め、それぞれの課題と取り組みを紹介できるようにしてくること。（2時間）
　事後学習：特徴的な課題と対策をまとめ、今後の世界の教育の改革について考えを整理すること。（2時間）
第6回：学校経営の理念と学校組織の在り方について
　事前学習：特徴的な学校経営を行う学校の実践を調べて情報交換が出来るようにしてくること。（2時間）
　事後学習：大きな教育成果を挙げている学校の取り組みや先駆者の思想や実践をまとめておくこと。（2時間）

第７回：憲法・教育法規・関連法規と学校教育について
事前学習：日本国憲法・教育基本法・学校教育法を熟読してくること。（２時間）
事後学習：特に日本国憲法と教育基本法の精神をまとめ、整理しておくこと。（２時間）
第８回：教育行政の仕組みと課題について
事前学習：我が国の教育行政の仕組みと改善したい問題をまとめてくること。（２時間）
事後学習：教育行政と学校教育の課題と改善策をまとめておくこと。（２時間）
第９回：学校経営と学校評価の基礎理論について
事前学習：向上・改善のための実践と評価の大切さについて具体例を挙げて考えてくること。（２時間）
事後学習：学校評価の具体例を整理し、学校経営の充実・改善の取り組みを整理しておくこと。（２時間）
第10回：学級経営の仕組みと学級経営の課題について
事前学習：改善したい学級経営上の課題と解決策を考え、整理してくること。（２時間）
事後学習：様々な学級経営上の課題を整理し、対応改善策をまとめておくこと。（２時間）
第11回：教職員と学校外の関係機関との連携・協働について
事前学習：閉ざされた学校が開かれた学校へと移り変わった理由を考えてくること。（２時間）
事後学習：教職員の開かれた意識形成のためにどうしたらよいかについてまとめておくこと。（２時間）
第12回：学校と地域との連携・協働と教職員の使命について
事前学習：各地域の実践例に触れ、紹介できるようにしてくること。（２時間）
事後学習：主な実践を整理し、今後取り組んでいきたいプランをもてるようにすること。（２時間）
第13回：開かれた学校づくりの課題と解決について
事前学習：新聞記事で取り上げられる学校紹介記事を用意し、発表できるようにしてくること。（２時間）
事後学習：多様な取り組みを整理し、開かれた学校づくりの大切さに挑むことができるようにしておく。（２時間）
第14回：学校で起こる事件、事故、災害の実情と学校安全の具体策について
事前学習：具体事案をもとに未然防止策と事前指導の在り方を考えてくること。（２時間）
事後学習：家庭・地域ぐるみで子どもの安全を守る対策を整理しておくこと。（２時間）
第15回：学校、地域の安全管理と安全指導の徹底について
事前学習：居住地域の防災体制や学校の安全管理と指導の現状について考えてくること。（２時間）
事後学習：地域の安全・防災の充実のために積極的に行動できるようにすること。（２時間）

授業実施方法（面接授業・遠隔授業）

原則として「面接授業」を行います。ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成　績　評　価　方　法

学期末レポート40% 学習への意欲的な姿勢と小レポート40% グループ討議・発表20%

成　績　評　価　基　準

保育園・幼稚園・小学校教育や教育行政機関の目的とその実現について教育経営の観点から理解しているか。
社会の状況の変化と学校教育への影響・課題・教育施策の動向の基礎的知識を身につけ、学校と地域との連携と協働の仕方を理解しているか。
学校管理下での事件・事故・災害の実情を踏まえて学校安全の目的と取り組みを理解することができているか。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック

１）授業時の課題に対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他（ワークシートの学生の記入を事後まとめ、次回に配布し、共通理解に努める。）
２）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　■その他（ワークシートを集め、学生の記入事項や学習の様子を把握・記録し、学生の書いた意見に全てコメントを添える。）
３）小レポートに対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
４）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
□定期試験時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
５）その他
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他

実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）

テキスト、参考図書
＜テキスト＞ 小学校学習指導要領 小学校学習指導要領解説「総則編」(文部科学省 東洋館出版社 平成29 年) ＜参考図書＞ 教育小六法 (市川須美子・小野田正利・勝野正章・窪田眞二・中嶋哲彦・成嶋隆著 岳陽書房 平成28年) 保育所保育指針解説書 (厚生労働省 フレーベル館 平成20 年) 幼稚園教育指導要領 (文部科学省 フレーベル館 平成20 年)
その他(受講上の注意)
私語・無気力厳禁。
オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

道徳教育の理論と方法 (Theory and Methods of Moral Education)			担当教員	高野　秀晴
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−B−2306	2単位	3年後期	講義	選択

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　基幹科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>　道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目

<科目に含めることが必要な事項>　道徳の理論及び指導法

求める学習成果(教育目標)

教育・保育の内容の理解及び指導方法

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識･技能　□論理的思考力と創造力　□人間関係形成･社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
□自己理解･自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

小学校教諭一種免許状（必修）

授業の内容

学校で道徳教育をいかに行うかが大きな課題となっている。本授業では、この古くて新しい課題について理解を深めたうえで、学習指導要領に示される道徳教育の目標や内容について考察していく。これと並行して、グループごとに指導案を作成し、順次模擬授業を実施してもらう。これらの作業を通じて、道徳教育の指導法について検討していく。

授業の到達目標

・道徳の意義や原理等を踏まえ、学校における道徳教育の目標や内容を説明できる。
・道徳教育における指導計画の必要性を理解したうえで教材研究を行い、適切な指導法にもとづく授業計画を立てることができる。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習（PBL）　■討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　□グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　□発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等）　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　■その他（模擬授業）

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：オリエンテーション
　事前学習：シラバスをよく読み、学修計画を立てる。（2時間）
　事後学習：指導案の作成計画を立てる。（2時間）
第2回：道徳教育の難しさ（1）── 道徳は知識なのか行為なのか
　事前学習：授業内容に関連する情報を検索して集めるとともに、指導案の作成を進める。（2時間）
　事後学習：授業内容をノートにまとめる。（2時間）
第3回：道徳教育の難しさ（2）── 宗教と道徳について
　事前学習：授業内容に関連する情報を検索して集めるとともに、指導案の作成を進める。（2時間）
　事後学習：授業内容をノートにまとめる。（2時間）
第4回：道徳教育の難しさ（3）── 評価のあり方について
　事前学習：授業内容に関連する情報を検索して集めるとともに、指導案の作成を進める。（2時間）
　事後学習：授業内容をノートにまとめる。（2時間）
第5回：道徳性発達理論についての考察
　事前学習：授業内容に関連する情報を検索して集めるとともに、指導案の作成を進める。（2時間）
　事後学習：授業内容をノートにまとめる。（2時間）
第6回：学習指導要領を読む ── 第1章「総則」、第3章「特別の教科　道徳」
　事前学習：授業内容に関連する情報を検索して集めるとともに、指導案の作成を進める。（2時間）
　事後学習：授業内容をノートにまとめる。（2時間）
第7回：教材研究（1）──『心のノート』と『私たちの道徳』を中心に（グループワーク）
　事前学習：授業内容に関連する資情報を検索して集めるとともに、指導案の作成を進める。（2時間）
　事後学習：授業内容をノートにまとめる。（2時間）

第８回：教材研究（２）── 読み物教材の使い方（グループワーク）
　　事前学習：授業内容に関連する情報を検索して集めるとともに、指導案の作成を進める。（２時間）
　　事後学習：授業内容をノートにまとめる。（２時間）
第９回：日本における道徳教育の歴史
　　事前学習：授業内容に関連する情報を検索して集めるとともに、指導案の作成を進める。（２時間）
　　事後学習：授業内容をノートにまとめる。（２時間）
第10回：指導法の検討（１）── インカルケーション（模擬授業、討議）
　　事前学習：授業内容に関連する情報を検索して集めるとともに、指導案を作成または修正する。（２時間）
　　事後学習：授業内容をノートにまとめる。（２時間）
第11回：指導法の検討（２）── ディベート（模擬授業、討議）
　　事前学習：授業内容に関連する情報を検索して集めるとともに、指導案を作成または修正する。（２時間）
　　事後学習：授業内容をノートにまとめる。（２時間）
第12回：指導法の検討（３）── モラルジレンマ（模擬授業、討議）
　　事前学習：授業内容に関連する情報を検索して集めるとともに、指導案を作成または修正する。（２時間）
　　事後学習：ノートをまとめ直すとともに、関連図書を読み理解を深める。（２時間）
第13回：指導法の検討（４）── ロールプレイ（模擬授業、討議）
　　事後学習：授業内容をノートにまとめる。（２時間）
　　事後学習：授業内容をノートにまとめる。（２時間）
第14回：指導法の検討（５）── 構成的グループエンカウンター（模擬授業、討議）
　　事前学習：授業内容に関連する情報を検索して集めるとともに、指導案を作成または修正する。（２時間）
　　事後学習：授業内容をノートにまとめる。（２時間）
第15回：まとめ
　　事前学習：授業内容に関連する情報を検索して集めるとともに、指導案を作成または修正する。（２時間）
　　事後学習：授業内容をノートにまとめる。（２時間）
第16回：定期試験

授業実施方法（面接授業・遠隔授業）

原則として「面接授業」を行います。
ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。
遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成　績　評　価　方　法

定期試験（50％）
指導案の内容（25％）
平常点（25％）
（平常点は、授業への参加状況、授業時の課題の内容、模擬授業に対する講評の内容をもとに評価する。）

成　績　評　価　基　準

・道徳の意義や原理等を踏まえ、学校における道徳教育の目標や内容を説明できるか。
・道徳教育における指導計画の必要性を理解したうえで教材研究を行い、適切な指導法にもとづく授業計画を立てることができるか。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック

１）授業時の課題に対するフィードバックについて
　■授業時　　■仁大eラーニング　　□メール　　□その他
２）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
　□授業時　　□仁大eラーニング　　□メール　　□その他
３）小レポートに対するフィードバックについて
　□授業時　　□仁大eラーニング　　□メール　　□その他
４）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
　□定期試験時　　□仁大eラーニング　　□メール　　□その他
５）その他
　□授業時　　□仁大eラーニング　　□メール　　□その他

実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）

テ　キ　ス　ト　、　参　考　図　書

テキスト：「小学校学習指導要領」（平成29年３月告示　文部科学省）、「中学校学習指導要領」（平成29年３月告示　文部科学省）
参考図書：授業時に指示する。

その他（受講上の注意）
オ フ ィ ス ア ワ ー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

生徒・進路指導論 (Educational Guidance and Consultation)			担当教員	黒田　祐二
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−D−2310	2単位	3年前期	講義	選択

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　基幹科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>　道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目

<科目に含めることが必要な事項>　生徒指導の理論及び方法
進路指導及びキャリア教育の理論及び方法

求める学習成果(教育目標)

教育・保育の対象の理解及び子どもの発達の理解

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識･技能　□論理的思考力と創造力　□人間関係形成･社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
□自己理解･自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

小学校教諭一種免許状（必修）

授業の内容

授業計画の前半は生徒指導，後半は進路指導（キャリア教育）について講義する。どちらにおいても，まず概要と原理について講義し，次に全体指導や個別指導の具体的な進め方について講義するという順序で進める。全体指導や個別指導に関する授業では，グループ・ディスカッションや討論も取り入れる。

授業の到達目標

生徒指導及び進路指導（キャリア教育）の考え方や方法を学ぶことを通して，指導を効果的に進めていくために必要な知識，技能，素養を身につける。また，校内外の関係者と連携しながら学校全体で組織的に生徒・進路指導を進めていくことの意義や重要性を理解し，その具体的な方法について知識を身につける。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習（PBL）　■討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等）　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：生徒指導の概要 ── 教育課程における位置づけと生徒指導の意義，生徒指導が機能する場面や領域，生徒指導の体制とその運営，生徒指導に関わる主な法令
事前学習：テキスト等を参考にして生徒指導の定義や概要について予習しておくこと（2時間）
事後学習：テキスト及び授業の復習をしておくこと。不明点・疑問点を明確にし，あれば次回質問すること（2時間）

第2回：生徒指導の意義と原理1 ── 発達観と指導観
事前学習：テキスト等を参考にして発達観と指導観について予習しておくこと（2時間）
事後学習：テキスト及び授業の復習をしておくこと。不明点・疑問点を明確にし，あれば次回質問すること（2時間）

第3回：生徒指導の意義と原理2 ── 集団指導と個別指導の方法原理
事前学習：テキスト等を参考にして集団指導と個別指導について予習しておくこと（2時間）
事後学習：テキスト及び授業の復習をしておくこと。不明点・疑問点を明確にし，あれば次回質問すること（2時間）

第4回：児童生徒の理解と指導 ── 児童生徒の心理を踏まえた指導のあり方
事前学習：テキスト等を参考にして児童生徒の心理について予習しておくこと（2時間）
事後学習：テキスト及び授業の復習をしておくこと。不明点・疑問点を明確にし，あれば次回質問すること（2時間）

第5回：全体指導の進め方1 ── 自己肯定感や存在感を育てる生徒指導
事前学習：テキスト等を参考にして自己肯定感や存在感の育て方について予習しておくこと（2時間）
事後学習：テキスト及び授業の復習をしておくこと。不明点・疑問点を明確にし，あれば次回質問すること（2時間）

第６回：全体指導の進め方２ ── 自己指導能力を育てる生徒指導
事前学習：テキスト等を参考にして自己指導能力とその育て方について予習しておくこと（２時間）
事後学習：テキスト及び授業の復習をしておくこと。不明点・疑問点を明確にし，あれば次回質問すること（２時間）
第７回：個別指導の進め方１ ── いじめの理解と対応（ディスカッションを含む）
事前学習：テキスト等を参考にしていじめの理解と対応について予習しておくこと（２時間）
事後学習：テキスト及び授業の復習をしておくこと。不明点・疑問点を明確にし，あれば次回質問すること（２時間）
第８回：個別指導の進め方２ ── 非行の理解と対応（ディスカッションを含む）
事前学習：テキスト等を参考にして非行の理解と対応について予習しておくこと（２時間）
事後学習：テキスト及び授業の復習をしておくこと。不明点・疑問点を明確にし，あれば次回質問すること（２時間）
第９回：個別指導の進め方３ ── 不登校の理解と対応（ディスカッションを含む）
事前学習：テキスト等を参考にして不登校の理解と対応について予習しておくこと（２時間）
事後学習：テキスト及び授業の復習をしておくこと。不明点・疑問点を明確にし，あれば次回質問すること（２時間）
第10回：個別指導の進め方４ ── 今日的な問題行動と校内外の連携のあり方
事前学習：テキスト等を参考にして校内外の連携について予習しておくこと（２時間）
事後学習：テキスト及び授業の復習をしておくこと。不明点・疑問点を明確にし，あれば次回質問すること（２時間）
第11回：進路指導の概要 ── 教育課程における位置づけ，進路指導とキャリア教育の関係，キャリア形成に関する今日的な課題とキャリア教育の重要性
事前学習：テキスト等を参考にして進路指導の定義と概要を予習しておくこと（２時間）
事後学習：テキスト及び授業の復習をしておくこと。不明点・疑問点を明確にし，あれば次回質問すること（２時間）
第12回：全体指導の進め方１ ── ガイダンスとしての指導，発達段階毎の進路指導・キャリア教育のあり方と進め方
事前学習：テキスト等を参考にして発達段階毎のキャリア教育について予習しておくこと（２時間）
事後学習：テキスト及び授業の復習をしておくこと。不明点・疑問点を明確にし，あれば次回質問すること（２時間）
第13回：全体指導の進め方２ ── キャリア教育の視点を取り入れたカリキュラムの編成と実施，キャリア教育と教科・特別活動・総合的な学習の時間との関係
事前学習：テキスト等を参考にしてキャリア教育と他の教育活動との関係について予習しておくこと（２時間）
事後学習：テキスト及び授業の復習をしておくこと。不明点・疑問点を明確にし，あれば次回質問すること（２時間）
第14回：個別指導の進め方１ ── 自己理解・自己評価とキャリア形成の関係，ポートフォリオの作成と活用例
事前学習：テキスト等を参考にしてキャリア教育の進め方について予習しておくこと（２時間）
事後学習：テキスト及び授業の復習をしておくこと。不明点・疑問点を明確にし，あれば次回質問すること（２時間）
第15回：個別指導の進め方２ ── キャリア・カウンセリングの考え方と実践方法
事前学習：テキスト等を参考にしてキャリア・カウンセリングについて予習しておくこと（２時間）
事後学習：テキスト及び授業の復習をしておくこと。不明点・疑問点を明確にし，あれば次回質問すること（２時間）
第16回：定期試験

授業実施方法（面接授業・遠隔授業）

原則として「面接授業」を行います。
ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。
遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成　績　評　価　方　法

定期試験（80%）　小テスト（20%）

成　績　評　価　基　準

１．生徒・進路指導に関する基本的な知識と考え方を身につけたかどうか。
２．生徒・進路指導上の諸問題に実践的に対応するための視点やスキルを身につけたかどうか。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

1）授業時の課題に対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
2）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
3）小レポートに対するフィードバックについて
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
4）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
□定期試験時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
5）その他
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他

実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)

テキスト、参考図書

テキスト：黒田祐二・清水貴裕・永作稔（編集）『実践につながる生徒指導・キャリア教育』北樹出版（令和６年）
参考図書：文部科学省『生徒指導提要』(2022年改訂版) ※文部科学省のホームページからダウンロードできます。

その他(受講上の注意)

講義のみならずディスカッションも多く取り入れるため，これらに積極的に取り組めることが大切です。

オフィスアワー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

教育相談 (Educational Counseling)			担当教員	佐々木　雅代
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−D−2358	2単位	3年前期	講義	選択

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　基幹科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>　道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目

<科目に含めることが必要な事項>　教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法

求める学習成果（教育目標）

教育・保育の対象の理解及び子どもの発達の理解

身につけることを目指す社会的・職業的能力（汎用的能力）

■体系的な知識･技能　■論理的思考力と創造力　■人間関係形成･社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
■自己理解･自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　■キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

小学校教諭一種免許状（必修）、幼稚園教諭一種免許状（必修）

授業の内容

教育相談の意義と理論の理解が、実践技術を裏打ちするものとなるために、いじめ、不登校など各種架空事例を用いて、問題の所在や対応策の検討を行う。教育相談における様々な予防開発的支援技術の体験学習を行う。

授業の到達目標

学校における教育相談の意義と理論を理解する。幼児期・児童期・青年期の心理的特徴を理解し、子どもの不適応や行動の意味を見立てる方法を身につける。教育相談を進める際に必要な基礎的知識（カウンセリングに関する基礎的事項を含む）を理解する。教育相談の具体的な進め方やそのポイント、組織的な取り組みや連携の必要性を理解する。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習（PBL）　■討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等）　□実習、フィールドワーク　■実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：15回の全体計画と学習のポイント及び到達目標の説明。生徒指導と教育相談について。教育相談の視点から、園、学校という場、資源について知る。（ディスカッション）
事後学習：チーム学校に関し、指示した課題について、調べレポートにまとめておくこと。（3時間）
第2回：教育相談に生かす心理学的理解；教育相談とカウンセリング。見立て。事例で学ぶ、問題の背景、影響、資質のとらえ方。傾聴訓練を含むグループディスカッション。（ディスカッション）
事前学習：第1回に配布した資料を熟読しておくこと。（2時間）
事後学習：見立てについて、理解したことをレポートにまとめておくこと。（2時間）
第3回：教育相談に生かす心理学的理解；教育相談におけるアセスメントとは。教育相談技法について。傾聴訓練。予防開発的援助について。グループディスカッション。（グループワーク）
事前学習：第2回に配布した事例について、自分なりの介入プランを立てること。（2時間）
事後学習：介入プランの立て方について、ポイントをレポートにまとめておくこと。（2時間）
第4回：不登校、登園渋りについて。教育相談における対応。文科省の調査研究報告等にあたり、多角的視点によって理解の幅を広げる。（プレゼンテーション）
事前学習：文科省の調査研究報告等前回の授業で指示した資料を調べまとめ、レポートにすること。（3時間）
事後学習：学校現場でどのような対応が望ましいか、学んだことをまとめておくこと。（2時間）
第5回：子供の貧困について。架空事例に触れ、学校生活での問題の現れ方、介入に際して配慮すべきこと、活用できる社会資源。（ディスカッション）
事前学習：日本の実態と、どのような対策がなされているか調べレポ──トにまとめておくこと。（2時間）
事後学習：子どもの貧困について、保育、幼児教育、学校現場でどのような対応が可能か、学んだことをまとめておくこと。（2時間）

第６回：いじめ理解、いじめ対応の基礎知識。いじめ予防について。非行について教育相談の意味。被害者支援、加害者支援および保護者支援について理解する。（ディスカッション）
事前学習：いじめ防止対策推進法について調べ、レポートにまとめておくこと。（２時間）
事後学習：授業で検討したこと、学んだことについて、まとめておくこと。（２時間）
第７回：発達障害の学校での現れ方。発達障害の流動性。支援のための人格発達仮説を学ぶ。発達障害支援シートの活用を知る。保護者支援。外部機関との連携。（ディスカッション）
事前学習：発達支援シートについて調べて、ディスカッションの資料になるように、まとめておくこと。（２時間）
事後学習：二次障害の予防と対応、連携についてまとめておくこと。（２時間）
第８回：予防開発的アプローチとしてのSST の意味。SST の用い方。SST ワークの体験。（グループワーク）
事前学習：第７回に配布した資料を熟読し、チェックリストを完成しておくこと。（２時間）
事後学習：授業で、自分で作った宿題の回答を試みること。（２時間）
第９回：予防開発的アプローチとしてのアサーティブトレーニングの意味。自尊感情、対等性、誠実であること、教育相談における人権について理解を深める。自己理解、他者理解。（グループワーク）
事前学習：第８回に配布した資料を熟読し、質問をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：自分にとってのアサーティブネスについて検討し、レポートにすること。（２時間）
第10回：性の問題。性に関する教育相談。学齢期の性被害について、対応を学ぶ。
事前学習：学習指導要領における性に関する指導について、文科省のホームページから調べ、発達段階に沿った指導について確認しておく。（２時間）
事後学習：授業で扱った事例について、自分の考えをまとめる。（２時間）
第11回：子どもの自殺・虐待について現状を知る。SOSの出し方教育について学ぶ。
事前学習：SOSの出し方教育について調べてまとめておく。（２時間）
事後学習：授業で扱った事例について、自分の考えをまとめる。（２時間）
第12回：事件・事故・災害対応および心のケアについて。危機管理について。緊急事態における教育相談の役割。チームのあり方。
保護者支援。（ディスカッション）
事前学習：児童生徒を取り巻くリスクについて、想定し、対応策を考え、書き出しておくこと。（２時間）
事後学習：サイコロジカルファーストエイドにつて要点をまとめておくこと。（２時間）
第13回：学齢期の精神科疾患の基礎知識。子どもと共に学ぶストレスマネージメント、メンタルヘルス。専門機関の支援の受け方について学ぶ。（ディスカッション）
事前学習：第12回に示した資料を熟読しておくこと。（２時間）
事後学習：ストレスマネージメント、メンタルヘルスを学ぶ意義についてまとめる。（２時間）
第14回：教員のメンタルヘルス。ストレスマネージメントについて。体験学習。教育相談での活かし方。（グループワーク）
事前学習：第13回に指示した、リラクゼーションの技法についてあらかじめ調べておくこと。（２時間）
事後学習：自分自身のストレスマネージメントの意義について、レポートにまとめる。（２時間）
第15回：ふりかえり。今まで学んだことの振り返り。改めて事例をもとに、見立て、介入プランの試作。
事前学習：授業全体を振り返り、疑問や質問をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：参考図書について、指示した要点を確認しておくこと。（２時間）
第16回：定期試験

授業実施方法（面接授業・遠隔授業）

原則として「面接授業」を行います。ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成　績　評　価　方　法

小レポート（30%）　平常点（20%）　定期試験（50%）
（平常点は、授業への参加状況・受講態度、課題の提出状況等を総合して判断します。）

成　績　評　価　基　準

いじめ、不登校、発達障害について、基礎知識をもち、学校・保育現場のチームの一員としてカウンセリングマインドを生かした支援ができる。支援プランを立てることが出来る。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック

１）授業時の課題に対するフィードバックについて
■授業時　■仁大eラーニング　□メール　□その他
２）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
■授業時　■仁大eラーニング　□メール　□その他
３）小レポートに対するフィードバックについて
□授業時　■仁大eラーニング　□メール　□その他
４）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
□定期試験時　■仁大eラーニング　□メール　□その他
５）その他
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他

実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）

テキスト、参考図書

テキスト
森　慶輔・宮下敏恵　編著『教育相談テキストブック』金子書房

参考図書
西本絹子著　『教師のための教育相談』　萌文書林
文部科学省　『生徒指導提要』　2022年12月改訂版
河合隼雄著　『こころの子育て-誕生から思春期までの48章』　朝日新聞社

その他（受講上の注意）

その都度、資料を配布します。この教科用のファイル、ノートをご準備ください。
体験学習には積極的にご参加ください。

オフィスアワー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

家庭 (Domestic Science)			担当教員	横山　美弥子
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−B−2301	2単位	3年前期	演習	選択

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　展開科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>　教科及び教科の指導法に関する科目（教科に関する専門的事項）

<科目に含めることが必要な事項>　家庭

求める学習成果（教育目標）

教育内容の理解及び指導方法

身につけることを目指す社会的・職業的能力（汎用的能力）

■体系的な知識･技能 ■論理的思考力と創造力 □人間関係形成･社会形成能力 □職業観と職業的倫理観 □自己理解･自己管理能力 ■諸課題の理解と課題対応能力 □統合的な学習経験 □キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

小学校教諭一種免許状（選択）

授業の内容

家庭科について理論と実践を探究的に学び、科学的見地に基づいて生活における課題やその解決方法に取り組む。

授業の到達目標

家庭科の内容について理解を深めるとともに、必要な基礎的知識及び技能を習得し、授業づくりに生かすことができる。

アクティブ・ラーニング

■課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　□グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　□発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等）　■実習、フィールドワーク　■実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：ガイダンス　・食生活を考える
　事前学習：自分の食生活を振り返り、その課題について考える。現代における食生活の課題を調べておく。（2時間）
　事後学習：食生活の課題や変化、食事の意義をレポートにまとめる。（2時間）
第2回：食品の機能
　事前学習：身近な食材をひとつ選び、調理法や栄養価等について調べる。（2時間）
　事後学習：身近な食品の機能についての理解を深める。（2時間）
第3回：栄養素とその機能・各栄養素を多く含む食品（その1）
　事前学習：炭水化物、脂質、たんぱく質を多く含む食品を調べる。（2時間）
　事後学習：炭水化物、脂質、たんぱく質の機能と多く含む食品についてまとめる。（2時間）
第4回：栄養素とその機能・各栄養素を多く含む食品（その2）
　事前学習：ビタミン、ミネラルを多く含む食品を調べる。（2時間）
　事後学習：ビタミン、ミネラルの機能と多く含む食品についてまとめる。（2時間）
第5回：食品の衛生と安全　調理の基礎
　事前学習：調理の基礎（包丁・計量スプーンの使い方・野菜の切り方の基本）を確認する。（2時間）
　事後学習：食品の衛生と安全、調理の基礎について理解を深める。（2時間）
第6回：調理実習「米飯とみそ汁」
　事前学習：日本の主要農産物「米」と日本人が古くから親しんでいる食品「みそ」について調べる。（2時間）
　事後学習：米飯の調理の仕方、みそ汁の調理の仕方や材料の組み合わせについてまとめる。（2時間）
第7回：被服の役割と被服素材①
　事前学習：「人は何のために着るのだろうか」をテーマに事前レポートを作成する。（2時間）
　事後学習：社会生活を営む上での被服の役割を理解し、世界の衣文化について調べる。（2時間）
第8回：被服素材②と性能改善
　事前学習：毎日着用している被服の製作過程やその材料や素材について調べる。（2時間）
　事後学習：身の回りで使われている機能性素材の被服を調べ、レポートにまとめる。（2時間）

第９回：被服製作実習「小物製作」
事前学習：基本的な手縫い手法について調べておく。（２時間）
事後学習：作品を完成させる。（２時間）
第10回：被服の手入れと管理
事前学習：自分が着用した１日分の被服の組成表示、取り扱い表示を確認しまとめる。（２時間）
事後学習：被服の洗濯や保管方法の理解を深め、実践する。（２時間）
第11回：快適な住まい方　住まいから生活に触れる
事前学習：自分が生活する部屋の平面図を書いてみる。（２時間）
事後学習：生活の拠点となる住居の機能を理解し、世界の住文化について調べる。（２時間）
第12回：住空間の設計　理想の部屋づくりにチャレンジ
事前学習：色と色の関係（色相環）や色のイメージを調べてみる。（２時間）
事後学習：作品を完成させる。（２時間）
第13回：安全で健康な住生活の計画
事前学習：我が家の災害への備えを調べ課題はないか検討する。（２時間）
事後学習：住生活を快適に営むために防災や環境整備などを理解し、自らの住生活に生かす。（２時間）
第14回：これからの衣生活・食生活・住生活について～現状と課題～
事前学習：「食品ロス」について調べておく。（２時間）
事後学習：これからの衣生活・食生活・住生活について、調べてみたいテーマを考えレポートにまとめる。（２時間）
第15回：消費生活と環境　持続可能な社会の構築
事前学習：エシカル消費について調べておく。（２時間）
事後学習：「SDGs」について理解を深める。（２時間）

授業実施方法（面接授業・遠隔授業）

原則として「面接授業」を行います。
ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。
遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成　績　評　価　方　法

作品・レポート（50%）授業への取組（50%）
（授業への取組は、レポートの提出状況などを総合的に判断する。）

成　績　評　価　基　準

家庭科の内容について理解を深めることができたか。
生活全般について興味・関心をもち、課題解決に向けて実践的に学ぶことができたか。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック

１）授業時の課題に対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
２）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
３）小レポートに対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
４）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
□定期試験時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
５）その他
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他

実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）

テキスト、参考図書

（１）「小学校家庭科教科書 わたしたちの家庭科５・６」鳴海多恵子 他、開隆堂　令和６年２月
（２）「小学校学習指導要領解説（家庭編）」文部科学省、東洋館出版社、平成29年度７月
※（２）については、入手が困難な場合は、文部科学省のホームページよりデータを確認できるようにしておくこと

その他（受講上の注意）

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

英語 (English)			担当教員	紺渡　弘幸、加藤　優子、原口　　治
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−B−2302	2単位	3年前期	講義	選択

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　展開科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>　教科及び教科の指導法に関する科目（教科に関する専門的事項）

<科目に含めることが必要な事項>　外国語（英語）

求める学習成果（教育目標）

教育・保育の内容の理解及び指導方法

身につけることを目指す社会的・職業的能力（汎用的能力）

■体系的な知識･技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成･社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解･自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

小学校教諭一種免許状（必修）

授業の内容

小学校外国語活動・外国語科の目標を確認し、授業実践に必要な聞く力、話す力［やり取り・発表］、読む力、書く力を身につけるとともに英語に関する基本的な知識（音声、語彙、文構造、文法等）及び第二言語習得に関する基本的な知識を理解するとともに、児童文学（絵本、子ども向けの歌や詩等）や異文化理解に関する事柄について知る。

授業の到達目標

小学校における外国語活動・外国語科の授業実践に必要な実践的な英語運用力と英語に関する背景的な知識を身につける。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習（PBL）　■討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等）　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：オリエンテーション・小学校外国語活動・外国語科の役割と方向（紺渡）
　事前学習：事前にシラバスやテキストに目を通し、質問事項をまとめておく。（2時間）
　事後学習：授業で学習した内容を振り返り、リスニング力を高める方法を検討する。（2時間）
第2回：英語のスキル（リスニング・スピーキング［やり取り・発表］）（紺渡）
　事前学習：事前にテキストを読み、課題をしておく。（2時間）
　事後学習：授業で学習した内容を振り返り、リスニング力・スピーキング力を高める方法を検討する。（2時間）
第3回：英語のスキル（リーディング・ライティング）（紺渡）
　事前学習：事前にテキストを読み、課題をしておく。（2時間）
　事後学習：授業で学習した内容を振り返り、リーディング力・ライティング力を高める方法を検討する。（2時間）
第4回：技能統合的な活動（紺渡）
　事前学習：事前にテキストを読み、課題をしておく。（2時間）
　事後学習：授業で学習した内容を振り返り、効果的な技能統合的な活動の方法を検討する。（2時間）
第5回：コミュニケーション能力とその指導（紺渡）
　事前学習：事前にテキストを読み、課題をしておく。（2時間）
　事後学習：授業で学習した内容を振り返り、コミュニケーション能力を高める方法を検討する。（2時間）
第6回：英語に関する基本的な知識（音声）（紺渡）
　事前学習：事前にテキストを読み、課題をしておく。（2時間）
　事後学習：授業で学習した内容を振り返り、発音の練習をする。（2時間）
第7回：英語に関する基本的な知識（語彙）（紺渡）
　事前学習：事前にテキストを読み、課題をしておく。（2時間）
　事後学習：授業で学習した内容を振り返り、語彙についてさらに理解を深める。（2時間）

第８回：英語に関する基本的な知識（文法・文構造）（紺渡）
　　事前学習：授業で学習した内容を振り返り、文法・文構造について自主的に学習する。（２時間）
　　事後学習：授業で学習した内容を振り返り、文法・文構造についてさらに調べる。（２時間）
第９回：第二言語習得に関する基本的な知識（第二言語習得に関する重要な理論的知識）（紺渡）
　　事前学習：事前にテキストを読み、課題をしておく。（２時間）
　　事後学習：授業で学習した内容を振り返り、第二言語習得についてさらに調べる。（２時間）
第10回：児童文学（絵本）（原口）
　　事前学習：事前にテキストを読み、課題をしておく。（２時間）
　　事後学習：授業で学習した内容を振り返り、課題をする。（２時間）
第11回：児童文学（子ども向けの歌）（原口）
　　事前学習：事前にテキストを読み、課題をしておく。（２時間）
　　事後学習：授業で学習した内容を振り返り、課題をする。（２時間）
第12回：児童文学（子ども向けの詩）（原口）
　　事前学習：事前にテキストを読み、課題をしておく。（２時間）
　　事後学習：授業で学習した内容を振り返り、課題をする。（２時間）
第13回：異文化理解（子どもの言語習得に関わる多様な文化を理解する意義）（加藤）
　　事前学習：事前にテキストを読み、課題をしておく。（２時間）
　　事後学習：授業で学習した内容を振り返り、課題をする。（２時間）
第14回：異文化理解（異文化理解に関する基礎的な用語）（加藤）
　　事前学習：事前にテキストを読み、課題をしておく。（２時間）
　　事後学習：授業で学習した内容を振り返り、課題をする。（２時間）
第15回：異文化理解（日本における多文化共生の現状と課題）（加藤）
　　事前学習：事前にテキストを読み、課題をしておく。（２時間）
　　事後学習：授業で学習した内容を振り返り、課題をする。（２時間）
第16回：定期試験

授業実施方法（面接授業・遠隔授業）

原則として「面接授業」を行います。ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成　績　評　価　方　法

定期試験（50%）、課題（35%）、授業への取り組み（15%）

成　績　評　価　基　準

１．授業実践に必要な聞く力を身に付けている。
２．授業実践に必要な話す力［やり取り・発表］を身に付けている。
３．授業実践に必要な読む力を身に付けている。
４．授業実践に必要な書く力を身に付けている。
５．英語に関する基本的な事柄（音声、語彙、文構造、文法、正書法等）について理解している。
６．第二言語習得に関する基本的な事柄について理解している。
７．児童文学（絵本、子供向けの歌や詩等）について理解している。
８．異文化理解に関する事柄について理解している。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック

１）授業時の課題に対するフィードバックについて
　■授業時　　■仁大eラーニング　　□メール　　□その他
２）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
　■授業時　　■仁大eラーニング　　□メール　　□その他
３）小レポートに対するフィードバックについて
　■授業時　　■仁大eラーニング　　□メール　　□その他
４）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
　□定期試験時　　□仁大eラーニング　　□メール　　□その他
５）その他（模擬授業に対するフィードバックについて）
　□授業時　　□仁大eラーニング　　□メール　　□その他

実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）

テキスト、参考図書
テキスト 最新 小学校英語内容論入門（樋口忠彦監修、泉恵美子、加賀田哲也、衣笠知子編著 研究社 令和５年） 参考書・参考資料等 小学校学習指導要領（平成29年３月公示　文部科学省） やさしい異文化理解（加藤優子著　三恵社　令和３年）
その他（受講上の注意）
オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

国語科教育法 (Teaching Method s of Japanese Language)			担当教員	平岡　正実
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−B−2351	2単位	3年後期	講義	選択

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　展開科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>　教科及び教科の指導法に関する科目（各教科の指導法）

<科目に含めることが必要な事項>　各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）

求める学習成果（教育目標）

教育・保育の内容の理解及び指導方法

身につけることを目指す社会的・職業的能力（汎用的能力）

■体系的な知識･技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成･社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解･自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

小学校教諭一種免許状（必修）

授業の内容

学習指導要領に示された小学校国語科の目標や内容を理解する。また、基礎的な学習理論を理解し、具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身につける。

授業の到達目標

小学校国語科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された国語科の内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、様々な学習理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を身につける。

アクティブ・ラーニング

■課題解決型学習（PBL）　■討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等）　□実習、フィールドワーク　■実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：新学習指導要領における国語科の目標・内容・構造の特色とその背景
　事前学習：テキスト「小学校学習指導要領解説　国語編」の第1章を読み、質問事項をノートにまとめておくこと。（2時間）
　事後学習：「初等国語教育の基本的視点」について、テキスト「初等国語科教育」等を見直しノートにまとめ第2回授業で提出すること。また、分からないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問したりして解決しておくこと。（2時間）
第2回：発問　話し合い活動（課題解決型学習・発表）
　事前学習：よい発問とはどのような発問か、よい話し合い活動とはどのような話し合いかについて調べておくこと。（2時間）
　事後学習：図書館や書店、インターネット等で、国語教育に関してどのような書籍や雑誌があるかを探り、見つけた本の内容や読んでみたい本についてノートにまとめること。（2時間）
第3回：今日的課題「言葉による見方・考え方」、指導技術「ICTの活用」、板書の仕方（討議・実技）
　事前学習：テキストの第2章を読み、質問事項をノートにまとめておくこと。（2時間）
　事後学習：「メディアリテラシー・ICTの活用」について、テキスト等を見直しノートにまとめ第4回授業で提出すること。また、分からないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問したりして解決しておくこと。（2時間）
第4回：国語科学習指導案の書き方、評価の仕方（実技・グループワーク）
　事前学習：テキストの第4章（1・2）を読み、質問事項をノートにまとめておくこと（2時間）
　事後学習：「学習指導案が持つ意義と指導案作成の実際」について、テキスト等を見直しノートにまとめ第5回授業で提出すること。また、分からないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問したりして解決しておくこと。（2時間）

第５回：教材研究の方法と学習指導案作成①「読むこと」の教育（物語文教材）（グループワーク・発表）
事前学習：テキストの第３章第１節（２　思考力・判断力・表現力等）を読み、質問事項をノートにまとめておくこと。（２時間）
事後学習：「文学的文章を読むこと」の指導について、テキスト等を見直しノートにまとめ第６回授業で提出すること。また、分からないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問したりして解決しておくこと。（２時間）
第６回：教材研究の方法と学習指導案作成②「読むこと」の教育（説明文教材）（グループワーク・発表）
事前学習：テキストの第３章第２節（２　思考力・判断力・表現力等）を読み、質問事項をノートにまとめておくこと。（２時間）
事後学習：「説明的文章を読むこと」の指導について、テキスト等を見直しノートにまとめ第７回授業で提出すること。また、分からないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問したりして解決しておくこと。（２時間）
第７回：教材研究の方法と学習指導案作成③「書くこと（書写を含む）」の教育（グループワーク・発表）
事前学習：テキストの第３章第３節（２　思考力・判断力・表現力等）を読み、質問事項をノートにまとめておくこと。（２時間）
事後学習：「書くこと」の指導について、テキスト等を見直しノートにまとめ第８回授業で提出すること。また、分からないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問したりして解決しておくこと。（２時間）
第８回：教材研究の方法と学習指導案作成④「話すこと・聞くこと」の教育（グループワーク・発表）
事前学習：テキストの第４章（３）を読み、質問事項をノートにまとめておくこと。
「話すこと・聞くこと」の指導について、テキスト等を見直しノートにまとめておくこと。また、分からないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問したりして解決しておくこと。（２時間）
事後学習：「話すこと・聞くこと」の指導について、テキスト等を見直しノートにまとめ第９回授業で提出すること。また、分からないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問したりして解決しておくこと。（２時間）
第９回：教材研究の方法と学習指導案作成⑤「知識及び技能（言葉の特徴や使い方、情報の扱い方、我が国の言語文化）」の教育（グループワーク・発表）
事前学習：テキストの第３章第１・２・３節（１　知識及び技能）を読み、質問事項をノートにまとめておくこと。（２時間）
事後学習：「国語の特質に関する事項・伝統的な言語文化」の指導について、テキスト等を見直しノートにまとめ第10回授業で提出すること。また、分からないことがあったら、図書館で調べたり、オフィスアワーを利用して担当教員に質問したりして解決しておくこと。（２時間）
第10回：模擬授業と省察①「読むこと」の教育（物語教材）（実技・グループワーク・討議）
事前学習：オフィスアワー等の時間を利用して担当教員の指導を受けながら、自分に課された単元の指導案や教具を作成・準備する。事前に配布された他者の模擬授業指導案を分析・検討し、自分なりの意見をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：模擬授業について、授業でのグループ討議を参考にしながら自分なりの感想（良かった点・改善点）をまとめ第11回授業で提出すること。
自分が模擬授業を実施した場合は、指導案と授業について各グループの評価表を参考にして見直し、「協議から」と「感想」の２項目を付け加えて指導案を書き直すこと。（２時間）
第11回：模擬授業と省察②「読むこと」の教育（説明文教材）（実技・グループワーク・討議）
事前学習：オフィスアワー等の時間を利用して担当教員の指導を受けながら、自分に課された単元の指導案や教具を作成・準備すること。事前に配布された他者の模擬授業指導案を分析・検討し、自分なりの意見をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：模擬授業について、授業でのグループ討議を参考にしながら自分なりの感想（良かった点・改善点）をまとめ第12回授業で提出すること。（２時間）
第12回：模擬授業と省察③「書くこと（書写を含む）」の教育（実技・グループワーク・討議）
事前学習：オフィスアワー等の時間を利用して担当教員の指導を受けながら、自分に課された単元の指導案や教具を作成・準備すること。事前に配布された他者の模擬授業指導案を分析・検討し、自分なりの意見をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：模擬授業について、授業でのグループ討議を参考にしながら自分なりの感想（良かった点・改善点）をまとめ第13回授業で提出すること。（２時間）
第13回：模擬授業と省察④「話すこと・聞くこと」の教育（実技・グループワーク・討議）
事前学習：オフィスアワー等の時間を利用して担当教員の指導を受けながら、自分に課された単元の指導案や教具を作成・準備すること。事前に配布された他者の模擬授業指導案を分析・検討し、自分なりの意見をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：模擬授業について、授業でのグループ討議を参考にしながら自分なりの感想（良かった点・改善点）をまとめ第14回授業で提出すること。（２時間）

第14回：模擬授業と省察⑤「知識及び技能」の教育（実技・グループワーク・討議）
事前学習：オフィスアワー等の時間を利用して担当教員の指導を受けながら、自分に課された単元の指導案や教具を作成・準備すること。事前に配布された他者の模擬授業指導案を分析・検討し、自分なりの意見をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：模擬授業について、授業でのグループ討議を参考にしながら自分なりの評価（良かった点・改善点）をまとめ第15回授業で提出すること。（２時間）
第15回：指導と評価の一体化（評価を指導に生かすための具体的な手立てと工夫）（課題解決型学習・発表）
事前学習：「初等国語教育の課題と展望」についてテキスト「初等国語科教育」の第15章を参考にしながら、ノートにまとめること。（２時間）
事後学習：テキスト②の第15章や図書館で調べたことを参考にしながら、「①この講義を受講して、具体的に学んだこと②学び続ける国語教師になるための努力事項」についてノートにまとめ提出すること。（２時間）

授業実施方法（面接授業・遠隔授業）

原則として「面接授業」を行います。
ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。
遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成績評価方法

学期末レポート（50%）、授業内の課題レポート（30%）、 模擬授業の発表内容（20%）

成績評価基準

「学習指導要領」等の基本を踏まえながら、児童の国語の力の育成に資する国語科学習指導案を作成し、実践することができるか。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック

１）授業時の課題に対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
２）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
３）小レポートに対するフィードバックについて
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
４）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
□定期試験時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
５）その他
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他

実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）

経歴：（元小・中学校教諭）
実務経験と授業内容との関連性：（小学校教諭・中学校教諭として、授業実践、生徒指導実践を行ってきた経験を有する教員が、学習指導要領に示されている教科「国語」の学習指導内容およびその指導法について講義する。）

テキスト、参考図書

テキスト
１.『小学校学習指導要領（平成29年告示）』 文部科学省、東洋館出版社、平成29年３月
２.『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 国語編』 文部科学省、東洋館出版社、平成29年７月
３.『MINERVAはじめて学ぶ教科教育 １　初等国語科教育』 吉田　武男 監修、ミネルヴァ書房、平成30年３月
参考書・参考資料等
小学校国語科教育法（牛頭哲宏・森篤嗣著　ココ出版　平成24年）
小学校教育課程実践講座「国語」（樺山敏郎編　ぎょうせい　平成29年）
文学教材を深く読むための国語授業デザイン（三好修一郎編　明治図書　平成29年）

その他（受講上の注意）

準備物については、その都度指示します。
指導案作成と模擬授業は個人でします。

オフィスアワー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

社会科教育法 (Teaching Method s of Social Science)			担当教員	西村　美貴穂
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−B−2352	2単位	3年後期	講義	選択

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　展開科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>　教科及び教科の指導法に関する科目（各教科の指導法）

<科目に含めることが必要な事項>　各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）

求める学習成果（教育目標）

教育・保育の内容の理解及び指導方法

身につけることを目指す社会的・職業的能力（汎用的能力）

■体系的な知識･技能　■論理的思考力と創造力　■人間関係形成･社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
■自己理解･自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

小学校教諭一種免許状（必修）

授業の内容

学習指導要領に示された目標や内容を理解しながら、教科書分析、教材研究の方法、学習指導案の書き方、児童の実態を踏まえた授業の展開方法などについて実践的に学ぶ。また、模擬授業と授業後の検討を通して、授業の省察と改善の方法について理解を深める。

授業の到達目標

学習指導要領の目標や内容に対応した学習活動を想起し、教材研究を活かしながら学習指導案を作成することができる。また、他者とのコミュニケーションを活かして、学習指導案を作成したり、授業を省察したりすることができる。

アクティブ・ラーニング

■課題解決型学習（PBL）　■討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等）　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：社会科のカリキュラム・マネジメント（グループワーク）
　事前学習：『小学校学習指導要領解説社会編』P1～P16を参考に、カリキュラム・マネジメントとは、例えばどんなことをすることかについて自分の考えをまとめる。（2時間）
　事後学習：社会科の授業づくりに必要なカリキュラム・マネジメントについてまとめる。（2時間）
第2回：単元の教材研究と指導計画（グループワーク）
　事前学習：一つの単元の指導計画を立てる際に、どんなことを行う必要があるかについて考えたことをまとめる。（2時間）
　事後学習：単元の指導計画を立てる際の留意点をまとめる。（2時間）
第3回：学習指導案の作成方法（グループワーク）
　事前学習：学習指導案の具体例を読み、各項目がどのようなねらいで書かれているのかについてまとめる。（2時間）
　事後学習：ワークシートで簡単な学習指導案を作成する。（2時間）
第4回：本時の教材研究と指導過程（グループワーク）
　事前学習：学習指導案の具体例を読み、本時の学習過程はどんなねらいで書かれているかについてまとめる。（2時間）
　事後学習：意見交換したことをもとにワークシートを仕上げる。（2時間）
第5回：指導方法の工夫（1）（板書、機器や資料の活用）（グループワーク）
　事前学習：学習指導上、効果的な板書とはどのようなものかについて自分の考えをまとめる。（2時間）
　事後学習：第7回から作成する学習指導案の単元をどこにするかについて、教科書をもとに検討する。（2時間）
第6回：指導方法の工夫（2）（対話的な活動）（グループワーク）
　事前学習：対話的な活動を行うための手立てについて自分の考えをまとめる。（2時間）
　事後学習：対話的な活動を行う上での留意点についてまとめる。（2時間）

第７回：指導案作成と模擬授業に向けて（１）（課題解決型学習・グループワーク）
事前学習：グループで決めた指導案を作成する単元について、該当箇所の学習指導要領と教科書を熟読し、ワークシートに単元の指導計画を書く。（２時間）
事後学習：グループ協議をもとに、必要なことを修正しながら単元の指導計画をワークシートに書く。（２時間）
第８回：指導案作成と模擬授業に向けて（２）（課題解決型学習・グループワーク）
事前学習：ワークシートに本時の学習過程を書く。（２時間）
事後学習：グループ協議をもとに、必要なことを修正しながら本時の学習過程をワークシートに書く。（２時間）
第９回：指導案作成と模擬授業に向けて（３）（課題解決型学習・グループワーク）
事前学習：本時の学習過程の導入部分について、発問や指示などを含めた細案をワークシートに書く。（２時間）
事後学習：必要なことを修正して提出する指導案を書くとともに、授業の準備をする。（２時間）
第10回：Ａ、Ｂ班による模擬授業と検討（課題解決型学習・発表・討議）
事前学習：Ａ、Ｂ班の指導案を読みコメントを記入する。Ａ、Ｂ班は模擬授業の準備をする。（２時間）
事後学習：今日の授業をもとに省察したことを記述する。（２時間）
第11回：Ｃ、Ｄ班による模擬授業と検討（課題解決型学習・発表・討議）
事前学習：Ｃ、Ｄ班の指導案を読みコメントを記入する。Ｃ、Ｄ班は模擬授業の準備をする。（２時間）
事後学習：今日の授業をもとに省察したことを記述する。（２時間）
第12回：Ｅ、Ｆ班による模擬授業と検討（課題解決型学習・発表・討議）
事前学習：Ｅ、Ｆ班の指導案を読みコメントを記入する。Ｅ、Ｆ班は模擬授業の準備をする。（２時間）
事後学習：今日の授業をもとに省察したことを記述する。（２時間）
第13回：Ｇ、Ｈ班による模擬授業と検討（課題解決型学習・発表・討議）
事前学習：Ｇ、Ｈ班の指導案を読みコメントを記入する。Ｇ、Ｈ班は模擬授業の準備をする。（２時間）
事後学習：今日の授業をもとに省察したことを記述する。（２時間）
第14回：Ｉ、Ｊ班による模擬授業と検討（課題解決型学習・発表・討議）
事前学習：Ｉ、Ｊ班の指導案を読みコメントを記入する。Ｉ、Ｊ班は模擬授業の準備をする。（２時間）
事後学習：今日の授業をもとに省察したことを記述する。（２時間）
第15回：授業の省察（グループワーク）
事前学習：模擬授業全体を通して省察したことを記述する。（２時間）
事後学習：社会科教育の授業に参加して考えたことをまとめる。（２時間）

授業実施方法（面接授業・遠隔授業）

原則として「面接授業」を行います。
ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。
遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成　績　評　価　方　法

学期末レポート（50％）、平常点（50％）
（平常点は、授業への参加態度、提出物の内容等を総合して判断します。）

成　績　評　価　基　準

・教材研究を活かし、創意工夫しながら学習指導案を作成することができるか。
・グループ協議や模擬授業の検討に積極的に参加しているか。
・授業で学んだことや考えたことを、事後の振り返りにまとめることができるか。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック

１）授業時の課題に対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他（ワークシートの学生の記入を事後まとめ、次回に配布し、共通理解に努める。）
２）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他（ワークシート等を集めて内容を把握し、コメントを記述する。）
３）小レポートに対するフィードバックについて
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
４）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
□定期試験時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
５）その他
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他

実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）

テキスト、参考図書
文部科学省『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説　社会編』日本文教出版　平成30年２月 令和６年度小学校社会科教科書（東京書籍）３年、４年、５年上・下、６年政治・国際編、歴史編
その他（受講上の注意）
受講者同士の積極的なコミュニケーションによって学びを深めていきましょう。
オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

生活科教育法 (Teaching Method s of Life Studies)			担当教員	小林　悦子
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−B−2353	2単位	3年後期	講義	選択

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　展開科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>　教科及び教科の指導法に関する科目

<科目に含めることが必要な事項>　各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）

求める学習成果（教育目標）

教育・保育の内容の理解及び指導方法

身につけることを目指す社会的・職業的能力（汎用的能力）

■体系的な知識･技能　■論理的思考力と創造力　■人間関係形成･社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
■自己理解･自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

小学校教諭一種免許状（必修）

授業の内容

学習指導要領に示された小学校生活科の目標や内容を理解する。また、基礎的な学習理論を理解し、具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。

授業の到達目標

小学校生活科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された生活科の学習内容について背景となる学習領域と関連させて理解を深めるとともに、様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付けることができる。

アクティブ・ラーニング

■課題解決型学習（PBL）　■討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等）　■実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：講義～①生活科の目標及び内容の理解　②模擬授業計画（グループワーク）
事前学習：「指導要領解説」第2章生活科の目標、第3章生活科の内容を通読し概要をつかんでおくこと。生活科教科書（上）（下）全体に目を通し単元と主な学習内容を理解しておくこと。（2時間）
事後学習：生活科の目標及び内容（1）～（9）のポイントをまとめること。模擬授業で割り当てられた大単元について内容を理解しておく。（2時間）
第2回：講義～①指導計画の作成と内容の取扱い　②模擬授業計画（グループワーク）
事前学習：「指導要領解説」第4章指導計画の作成と内容の取扱いを熟読し要点をまとめておくこと。（2時間）
事後学習：指導計画の作成と内容の取扱いのポイントをまとめておくこと。（2時間）
第3回：演示授業～『がっこうだいすき　いちねんせい』（実習）　講義～学習指導案の書き方（情報通信技術の活用を含む）スタートカリキュラム、交流する場の工夫、振り返りカードの活用、適切な発問、板書の仕方等
事前学習：生活科教科書（上）『がっこうだいすき　いちねんせい』を読み内容をつかんでおくこと。（2時間）
事後学習：学習指導案の書き方について模擬授業の単元と照らし合わせてポイントをまとめておくこと。（2時間）
第4回：講義～①指導計画の作成と学習指導　②年間指導計画作成（実習）
事前学習：「指導要領解説」第5章指導計画の作成と学習指導を熟読し要点をまとめておくこと。（2時間）
事後学習：指導計画の作成と学習指導のポイントをまとめておくこと。（2時間）
第5回：模擬授業①～内容（1）（学校と生活）授業実践と授業評価　発表（プレゼンテーション）
事前学習：「学校と生活」の授業について教材研究をしておくこと。（2時間）
事後学習：模擬授業を振り返り学んだことをまとめておくこと。（2時間）
第6回：模擬授業②～内容（2）（家庭と生活）授業実践と授業評価　発表（プレゼンテーション）
事前学習：「家庭と生活」の授業について教材研究をしておくこと。（2時間）
事後学習：模擬授業を振り返り学んだことをまとめておくこと。（2時間）

第７回：模擬授業③～内容（３）（地域と生活）授業実践と授業評価　発表（プレゼンテーション）
事前学習：「地域と生活」の授業について教材研究をしておくこと（２時間）
事後学習：模擬授業を振り返り学んだことをまとめておくこと。（２時間）
第８回：模擬授業④～内容（４）（公共物や公共施設の利用）授業実践と授業評価　発表（プレゼンテーション）
事前学習：「公共物や公共施設の利用」の授業について教材研究をしておくこと。（２時間）
事後学習：模擬授業を振り返り学んだことをまとめておくこと。（２時間）
第９回：模擬授業⑤～内容（５）（季節の変化と生活）授業実践と授業評価　発表（プレゼンテーション）
事前学習：「季節の変化と生活」の授業について教材研究をしておくこと。（２時間）
事後学習：模擬授業を振り返り学んだことをまとめておくこと。（２時間）
第10回：模擬授業⑥～内容（６）（自然や物を使った遊び～１年生～）授業実践と授業評価　発表（プレゼンテーション）
事前学習：「自然や物を使った遊び～１年生～」の授業について教材研究をしておくこと。（２時間）
事後学習：模擬授業を振り返り学んだことをまとめておくこと。（２時間）
第11回：模擬授業⑦～内容（６）（自然や物を使った遊び～２年生～）授業実践と授業評価　発表（プレゼンテーション）
事前学習：「自然や物を使った遊び～２年生～」の授業について教材研究をしておくこと。（２時間）
事後学習：模擬授業を振り返り学んだことをまとめておくこと。（２時間）
第12回：模擬授業⑧～内容（７）（動植物の飼育・栽培）授業実践と授業評価　発表（プレゼンテーション）
事前学習：「季節の変化と生活」の授業について教材研究をしておくこと。（２時間）
事後学習：模擬授業を振り返り学んだことをまとめておくこと。（２時間）
第13回：模擬授業⑨～内容（８）（生活や出来事の交流）授業実践と授業評価　発表（プレゼンテーション）
事前学習：「動植物の飼育・栽培」の授業について教材研究をしておくこと。（２時間）
事後学習：模擬授業を振り返り学んだことをまとめておくこと。（２時間）
第14回：模擬授業⑩～内容（９）（自分の成長）授業実践と授業評価　発表（プレゼンテーション）
事前学習：「生活や出来事の交流」の授業について教材研究をしておくこと。（２時間）
事後学習：模擬授業を振り返り学んだことをまとめておくこと。（２時間）
第15回：講義～模擬授業及び講義から学んだことについて（ディスカッション）
事前学習：最終レポートを作成し模擬授業及び講義から学んだことについてまとめておくこと。（２時間）
事後学習：討議を振り返り学んだことをまとめておくこと。（２時間）

授業実施方法（面接授業・遠隔授業）

原則として「面接授業」を行います。
ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。
遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成　績　評　価　方　法

毎回授業終了時の感想レポート（20%）、生活科学習指導案作成（20%）、模擬授業の取り組み（30%）
最終レポート（30%）

成　績　評　価　基　準

生活科学習指導案を作成できたか。単元計画の作成と学習指導の進め方を理解し、模擬授業に生かすことができたか。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック

１）授業時の課題に対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
２）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
３）小レポートに対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
４）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
□定期試験時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
５）その他
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他

実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）

テ　キ　ス　ト、参　考　図　書

テキスト：
（１）文部科学省　「小学校学習指導要領解説（生活編）」　東洋館出版社 平成30年２月
（２）中野真志・田中博之ほか　「わくわく　せいかつ上」　啓林館
（３）中野真志・田中博之ほか　「いきいき　せいかつ下」　啓林館

その他（受講上の注意）
オ フ ィ ス ア ワ ー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

音楽科教育法 (Teaching Method s of Music)			担当教員	佐々木　啓子
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−B−2303	2単位	3年前期	講義	選択

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　展開科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>　教科及び教科の指導法に関する科目

<科目に含めることが必要な事項>　各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）

求める学習成果（教育目標）

教育・保育の内容の理解及び指導方法

身につけることを目指す社会的・職業的能力（汎用的能力）

■体系的な知識･技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成･社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
□自己理解･自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

小学校教諭一種免許状（必修）

授　業　の　内　容

学習指導要領に示された小学校音楽科の目標や内容を理解し、音楽理論の基礎知識を修得する。また、学習指導理論を理解し、具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。さらに、音楽活動における歌う喜びや表現する喜びを感受し、指導法の改善に繋げる。

授業の到達目標

小学校学習指導要領に示された「音楽科の目標」について理解し、音楽科目標達成のための具体的な学習指導内容「表現と鑑賞」活動について理解を深めることができる。
学習指導計画並びに学習指導案の作成について研究し、授業展開の実際を互いの模擬授業を通して学び合い、実践的な能力を養う。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習（PBL）　■討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　□グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　□発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等）　□実習、フィールドワーク　■実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：音楽科教育法（全般）と今後の授業計画について。表現活動（発声法）　小学校学習指導要領総説、楽典
事後学習：授業で学んだ発声法についてふり返り、各自練習すること。音楽理論基礎事項の確認（2時間）
第2回：小学校学習指導要領「音楽科の目標及び内容」について。表現活動（発声法・歌唱・4拍子の指揮法）の実践（実技）
事前学習：授業前に学習指導要領（音楽科）に目を通し、概略を知ったり質問事項をまとめておくこと。（2時間）
事後学習：授業で学んだ小学校学習指導要領（音楽科）について復習する。
学んだ指揮法をふり返り、各自練習すること。（2時間）
第3回：小学校学習指導要領「第1学年及び第2学年の目標と内容」について
低学年（1，2年）の歌唱教材指導のポイントと実際。表現活動（歌唱）・2拍子・3拍子の指揮法の実践（実技）
事前学習：授業前に学習指導要領（音楽科）に目を通し、概略を理解し質問事項をまとめておくこと。（2時間）
事後学習：授業で扱った低学年の歌唱教材の指導の実践例をふり返り、低学年の教科書から歌唱指導教材を取り出し、ねらいと授業の大まかな計画を立てる。2拍子・3拍子の復習（2時間）
第4回：低学年の器楽指導のポイントと実際。簡易楽器の奏法と実践（実技）・表現活動（歌唱）
事前学習：授業前に教科書に目を通し、小学校で扱う簡易楽器の種類を調べておくこと。（2時間）
事後学習：授業で扱った簡易楽器の奏法をふり返り、正しい奏法を身に付けること。（2時間）

第５回：小学校学習指導要領「第３学年及び第４学年の目標と内容」について
中学年（３，４年）の歌唱教材指導のポイントと実際。表現活動（歌唱）
事前学習：授業前に学習指導要領（音楽科）に目を通し、概略を理解し質問事項をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：授業で扱った中学年の歌唱教材の指導の実践例をふり返り、中学年の教科書から歌唱指導教材を取り出し、ねらいと授業の大まかな計画を立てること。（２時間）
第６回：音楽づくり指導のポイントと実践。リコーダー指導のポイントと実際（奏法と音色・響き合い）（実技）
事前学習：授業前に教科書に目を通し、「音楽づくり」とはどのような活動なのかを調べておくこと。またリコーダーの奏法について調べ、練習すること。（２時間）
事後学習：授業で扱った音楽づくりの指導の実践例及びリコーダー指導のポイントをふり返る。またリコーダーの美しい音色や響きが出せるように練習すること。（３時間）
第７回：小学校学習指導要領「第５学年及び第６学年の目標と内容」について
高学年（５，６年）の歌唱教材指導のポイントと実践　和楽器指導のポイントと実践
事前学習：授業前に学習指導要領（音楽科）に目を通し、概略を理解し質問事項をまとめておくこと。（１時間）
事後学習：授業で扱った高学年の歌唱教材の指導の実践例をふり返り、高学年の教科書から歌唱指導教材を取り出し、ねらいと授業の大まかな計画を立てること。（２時間）
第８回：リコーダー二重奏発表会（全員）　音楽科学習指導案（模擬授業）の書き方について
事前学習：二人組で美しい響きが出せるように二人で練習しておくこと（４時間）
事後学習：実際の発表について振り返りを行う　指導案の書き方を復習する。（３時間）
第９回：鑑賞指導のポイントと実際（１～６年の鑑賞教材より）模擬授業の進め方、相互評価の仕方について（実技）
事前学習：授業まえに各学年の鑑賞教材を調べておくこと（２時間）
事後学習：鑑賞指導の実践例を振り返る。模擬授業の進め方のプリントを基にふり返り、シュミレーションしながらポイントをつかむこと。（３時間）
第10回：模擬授業①（１年教材から）模擬授業のふり返りと授業評価。音楽と身体表現、１・２年における情報機器の使い方について（ディスカッション）
事前学習：模擬授業の指導案を立て模擬授業の準備をすること。（５時間）
事後学習：模擬授業のふり返りで討議されたことやアドバイスをまとめること。（２時間）
第11回：模擬授業②（２年教材から）模擬授業のふり返りとリズム指導について
事前学習：２年の教科書に目を通す。（１時間）
事後学習：模擬授業のふり返りで討議されたことやアドバイスをまとめること。（２時間）
第12回：模擬授業③（３年教材から）模擬模擬のふり返りと授業評価。
事前学習：３年の教科書に目を通す。（１時間）
事後学習：実践例でのアドバイスをまとめること。（２時間）
第13回：模擬授業④（４年教材から）模擬授業のふり返りと授業評価。
事前学習：４年の教科書に目を通す。（１時間）
事後学習：実践例でのアドバイスをまとめること。（２時間）
第14回：模擬授業⑤（５年教材から）模擬授業のふり返りと授業評価。
５・６ 学年における情報機器の使い方について（ディスカッション）
事前学習：５年の教科書に目を通す。（１時間）
事後学習：模擬授業のふり返りで討議されたことやアドバイスをまとめること。（２時間）
第15回：模擬授業⑥（６年教材から）模擬授業のふり返りと授業評価。日本の音楽の指導と実際について（ディスカッション）
事前学習：６年の教科書に目を通す。（１時間）
事後学習：模擬授業のふり返りで討議されたことやアドバイス等をまとめること。（２時間）
第16回：定期試験

授業実施方法（面接授業・遠隔授業）

原則として「面接授業」を行います。
ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。
遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成　績　評　価　方　法

定期試験（50%）　平常点（30%）　音楽的表現・鑑賞能力（20%）
（平常点は、授業への参加状況、模擬授業、受講態度等を総合して判断します。）

成　績　評　価　基　準

音楽教育の目標を理解したうえで、指導計画を作成し、授業の進め方や指導法を体得しているか。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

1）授業時の課題に対するフィードバックについて
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　■その他（毎回振り返りのレポートを提出）
2）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　■その他（授業後実習したことをフィードバックする）
3）小レポートに対するフィードバックについて
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
4）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
□定期試験時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
5）その他（模擬授業に対するフィードバックについて）
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　■その他（模擬授業における評価は、授業後、相互評価や自己評価によりフィードバックする）

実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)

テキスト、参考図書

小学生の音楽１～６（教育芸術社）
小学校学習指導要領解説音楽編（教育芸術社）
福井県小学生の歌集「歌はともだち」（福井県小学校教育研究会音楽研究部会）

その他(受講上の注意)

学習指導要領について理解を深め、表現活動や模擬授業に真剣に取り組み、学び合う意識を高く持ち、指導法の幅を広げてほしい。

オフィスアワー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

図画工作科教育法 (Teaching Method s of Arts and Crafts)			担当教員	伊東　知之
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−B−2304	2単位	3年前期	講義	選択

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　展開科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>　教科及び教科の指導法に関する科目（各教科の指導法）

<科目に含めることが必要な事項>　各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）

求める学習成果（教育目標）

教育・保育の内容の理解及び指導方法

身につけることを目指す社会的・職業的能力（汎用的能力）

■体系的な知識･技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成･社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解･自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

小学校教諭一種免許状（必修）

授業の内容

学習指導要領に示された小学校図画工作科の目標や内容を理解する。また、基礎的な学習理論を理解し、具体的な授業を想定して授業計画を立てるとともに授業を行う方法を身に付ける。

授業の到達目標

小学校図画工作科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された図画工作科の学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深める。また、様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業を想定して授業計画を立てるとともに、授業を行う方法を身に付ける。
・指導案の意味や作成方法を説明できる。
・指導案を作成し、実践することができる。
・教材研究の意味を理解し、教材研究をすることができる。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　□発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等）　□実習、フィールドワーク　■実験、実技　■その他（模擬授業）

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：教育における図画工作科の特殊性と学力の構造
　事前学習：学習指導要領図画工作編解説を読み、まとめておくこと。（2時間）
　事後学習：授業内容をまとめておくこと。（2時間）
第2回：新学習指導要領における図画工作科の目標・内容の特色とその背景
　事前学習：学習指導要領図画工作編解説表現、鑑賞についてまとめておくこと。（2時間）
　事後学習：授業内容をまとめておくこと。（2時間）
第3回：指導技術「ＩＣＴの活用」、板書の仕方、授業の展開方法
　事前学習：ＩＣＴ活用、授業展開についてまとめておくこと。（2時間）
　事後学習：授業内容をまとめておくこと。（2時間）
第4回：図画工作科学習指導案の書き方、評価の仕方
　事前学習：指導案題材を複数考えてまとめておくこと。（2時間）
　事後学習：模擬授業を行う指導案題材を決め、授業展開をまとめておくこと。（2時間）
第5回：教材研究の方法と学習指導案作成
　事前学習：指導案下書きを作成しておくこと。（2時間）
　事後学習：指導案を清書し、提出できるようにしておくこと。（2時間）
第6回：模擬授業1･2年生平面表現と省察（実技・グループワーク）
　事前学習：模擬授業の教材研究とリハーサルを行っておくこと。（2時間）
　事後学習：模擬授業の反省と高評をまとめ、指導案を修正しておくこと。（2時間）
第7回：模擬授業１・２年生立体表現と省察（実技・グループワーク）
　事前学習：模擬授業の教材研究とリハーサルを行っておくこと。（2時間）
　事後学習：模擬授業の反省と高評をまとめ、指導案を修正しておくこと。（2時間）

第８回：模擬授業１・２年生鑑賞と省察（実技・グループワーク）
　　事前学習：模擬授業の教材研究とリハーサルを行っておくこと。（２時間）
　　事後学習：模擬授業の反省と高評をまとめ、指導案を修正しておくこと。（２時間）
第９回：模擬授業３・４年生平面表現と省察（実技・グループワーク）
　　事前学習：模擬授業の教材研究とリハーサルを行っておくこと。（２時間）
　　事後学習：模擬授業の反省と高評をまとめ、指導案を修正しておくこと。（２時間）
第10回：模擬授業３・４年生立体表現と省察（実技・グループワーク）
　　事前学習：模擬授業の教材研究とリハーサルを行っておくこと。（２時間）
　　事後学習：模擬授業の反省と高評をまとめ、指導案を修正しておくこと。（２時間）
第11回：模擬授業３・４年生鑑賞と省察（実技・グループワーク）
　　事前学習：模擬授業の教材研究とリハーサルを行っておくこと。（２時間）
　　事後学習：模擬授業の反省と高評をまとめ、指導案を修正しておくこと。（２時間）
第12回：模擬授業５・６年生平面表現と省察（実技・グループワーク）
　　事前学習：模擬授業の教材研究とリハーサルを行っておくこと。（２時間）
　　事後学習：模擬授業の反省と高評をまとめ、指導案を修正しておくこと。（２時間）
第13回：模擬授業５・６年生立体表現と省察（実技・グループワーク）
　　事前学習：模擬授業の教材研究とリハーサルを行っておくこと。（２時間）
　　事後学習：模擬授業の反省と高評をまとめ、指導案を修正しておくこと。（２時間）
第14回：模擬授業５・６年生鑑賞と省察（実技・グループワーク）
　　事前学習：模擬授業の教材研究とリハーサルを行っておくこと。（２時間）
　　事後学習：模擬授業の反省と高評をまとめ、指導案を修正しておくこと。（２時間）
第15回：指導と評価の一体化、評価に基づいて指導に活かすための基礎的理解
　　事前学習：作品評価、図画工作科教育についてまとめておくこと。（２時間）
　　事後学習：図画工作科教育に関するレポートを作成して提出する。（２時間）
・指導案を作成し、作品例をいくつか制作する
・課題となるレポートを作成する
・定期試験は実施しない

授業実施方法（面接授業・遠隔授業）

原則として「面接授業」を行います。
ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。
遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成　績　評　価　方　法

学期末レポート（40％）、模擬授業（40％）、模擬授業の取組（20％）

成　績　評　価　基　準

・緻密な指導案を作成できるか。
・指導案に基づいて模擬授業を行えるか。
・作品例を制作しながら教材研究を行えるか。
・工夫した作品を制作できるか。
・課題に即したレポートを作成できるか。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック

１）授業時の課題に対するフィードバックについて
　■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
２）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
　■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
３）小レポートに対するフィードバックについて
　■授業時　□仁大eラーニング　□メール　■その他（添削、コメントを書いて返却）
４）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
　□定期試験時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
５）その他（模擬授業、指導案に対するフィードバックについて）
　■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他

実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）

テキスト、参考図書
文部科学省　『小学校学習指導要領解説（図画工作編）』2018年 教科書　『図画工作１年生上・下、２年生上・下、３年生上・下、４年生上・下、５年生上・下、６年生上・下』日本文教出版　2024年 伊東知之著　『造形表現・図画工作・美術』福村出版　2023年 仁愛大学子ども教育学科　『小学校教育実習の手引き』
その他（受講上の注意）
図工用具一式を毎時間持参すること。
オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

家庭科教育法 (Teaching Method s of Domestic Science)			担当教員	横山　美弥子
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−B−2354	2単位	3年後期	講義	選択

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　展開科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>　教科及び教科の指導法に関する科目（各教科の指導法）

<科目に含めることが必要な事項>　各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）

求める学習成果（教育目標）

教育・保育の内容の理解及び指導方法

身につけることを目指す社会的・職業的能力（汎用的能力）

■体系的な知識･技能 ■論理的思考力と創造力 □人間関係形成･社会形成能力 □職業観と職業的倫理観 □自己理解･自己管理能力 ■諸課題の理解と課題対応能力 ■統合的な学習経験 □キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

小学校教諭一種免許状（必修）

授業の内容

衣食住など生活の営みを総合的にとらえ、実践的・体験的な活動や問題解決的な学びを通して、目標や学習内容の理解を深めるとともに、授業づくりの方法を身に付ける。また持続可能な社会と生活との関わりを理解する。

授業の到達目標

現代における家庭科の意義や教科の特性を理解し、指導に必要な知識・技能を習得して授業づくりや学習活動を支える基礎を身に付ける。

アクティブ・ラーニング

■課題解決型学習（PBL）　■討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　□グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　□発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等）　■実習、フィールドワーク　■実験、実技　■その他（模擬授業）

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：学習指導要領に示された家庭科教育の目標と学習内容の理解
　事前学習：学習指導要領を読み、目標や内容を理解しておく。（2時間）
　事後学習：学習指導要領解説からキーワードをチュックする。（2時間）
第2回：家庭科における「生活の営みに係る見方・考え方」と指導計画の作成
　事前学習：家庭科の題材構成について調べる（2時間）
　事後学習：指導計画を考える（2時間）
第3回：主体的・対話的で深い学びの実現と学習評価の進め方
　事前学習：「各教科における評価の基本構造」について調べておく。（2時間）
　事後学習：家庭科の特性と学習評価のポイントを整理する。（2時間）
第4回：A「家族・家庭生活」の内容と授業づくり
　事前学習：A「家族・家庭生活」の内容を確認する。（2時間）
　事後学習：授業内容を実践し、成果と課題を把握しておく。（2時間）
第5回：B「衣食住の生活」の内容と授業づくり その①
　事前学習：B「衣食住の生活」の内容を確認する。（2時間）
　事後学習：授業内容を実践し、成果と課題を把握しておく。（2時間）
第6回：B「衣食住の生活」の内容と授業づくり その②　調理計画と献立作りを中心に
　事前学習：B「衣食住の生活」の内容を確認する。（2時間）
　事後学習：授業内容を実践し、成果と課題を把握しておく。（2時間）
第7回：C「消費生活・環境」の内容と授業づくり
　事前学習：C「消費生活・環境」の内容を確認する。（2時間）
　事後学習：授業内容を実践し、成果と課題を把握しておく。（2時間）
第8回：日本の伝統的な生活文化の継承と授業づくり
　事前学習：日本の生活文化について調べておく（2時間）
　事後学習：生活文化に気付く、知るをテーマにした授業づくりにチャレンジする。（2時間）

第９回：授業づくり 指導案を組み立ててみよう①　題材の目標と題材観　指導計画
　　事前学習：学習指導要領と教科書の内容と照らし合わせておく。（２時間）
　　事後学習：授業案を検討し練り上げておく。（２時間）
第10回：授業づくり 指導案を組み立ててみよう②　略案の完成とICTや教材・教具の活用
　　事前学習：ＩＣＴを活用した効果的な授業について調べ考察する（２時間）
　　事後学習：指導案（略案）を完成させる。（２時間）
第11回：模擬授業 ①　グループでの検討と準備
　　事前学習：作成した指導案についてプレゼンテーションができるようまとめておく（２時間）
　　事後学習：模擬授業の準備を進める（２時間）
第12回：模擬授業 ②A「家族・家庭生活」の授業：グループでの振り返り 全体での振り返り評価項目の工夫
　　事前学習：教科書の指導内容（A家族・家庭生活）を理解しておく。（２時間）
　　事後学習：授業の振り返りをまとめておく。（２時間）
第13回：模擬授業 ③B「衣食住の生活」の授業：グループでの振り返り 全体での振り返りICTの活用
　　事前学習：教科書の指導内容（B衣食住の生活）を理解しておく。（２時間）
　　事後学習：授業の振り返りをまとめておく。（２時間）
第14回：模擬授業 ④C「消費生活・環境」の授業：グループでの振り返り 全体での振り返り教材・教具の活用
　　事前学習：教科書の指導内容（C「消費生活・環境」）を理解しておく。（２時間）
　　事後学習：授業の振り返りをまとめておく。（２時間）
第15回：模擬授業 ⑤B「衣食住の生活」の授業・まとめ
　　事前学習：学習環境の整備（実習室）についてまとめる。（２時間）
　　事後学習：授業づくりと学習展開についてのレポート作成。（２時間）

授業実施方法（面接授業・遠隔授業）

原則として「面接授業」を行います。
ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。
遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成　績　評　価　方　法

小レポート・作品（60%）、授業中の取組（40%）
（授業中の取組は、授業への参加状況、受講態度等を総合して判断します。）

成　績　評　価　基　準

小学校家庭科における教育目標や育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された学習内容を踏まえた授業づくりや学習活動を支える基礎を身に付けることができたか。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック

１）授業時の課題に対するフィードバックについて
　■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
２）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
　■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
３）小レポートに対するフィードバックについて
　■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
４）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
　□定期試験時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
５）その他
　□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他

実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）

テ キ ス ト 、 参 考 図 書

テキスト
小学校学習指導要領解説 家庭編（文部科学省　東洋館出版社　平成29年７月）　※入手が困難な場合は文部科学省ホームページよりデータを確認できるようにしておくこと
わたしたちの家庭科 ５・６（鳴海多恵子 他　開隆堂　令和６年２月）

参考書・参考資料等
小学校家庭科資質・能力を育む学習指導と評価の工夫（筒井恭子編著 東洋館出版社 令和２年）
早わかり＆実践　新学習指導要領解説小学校家庭（編著　長澤由喜子　他　開隆堂 平成29年）

その他（受講上の注意）

オ フ ィ ス ア ワ ー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

体育科教育法 (Teaching Method s of Physical Education)			担当教員	近藤　雄一郎
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−B−2305	2単位	3年前期	講義	選択

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　展開科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>　教科及び教科の指導法に関する科目（各教科の指導法）

<科目に含めることが必要な事項>　各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）

求める学習成果（教育目標）

教育・保育の内容の理解及び指導方法

身につけることを目指す社会的・職業的能力（汎用的能力）

■体系的な知識･技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成･社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
□自己理解･自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

小学校教諭一種免許状（必修）

授業の内容

小学校体育科の教育目標、領域、教科内容を理解する。
また具体的な授業場面を想定した子どものつまずき、教材づくり、評価、教授スキル、安全管理等に関する基礎的な学習指導理論を理解する。

授業の到達目標

小学校体育科における教育目標、教科内容について、背景となる発育発達論や運動学、運動生理学などの学問領域と関連づけた理解を深める。また様々な学習指導理論を踏まえ、具体的な授業設計を行うための原則を理解する。
詳細は以下の通り。
1．体育科の目標、領域、教科内容について説明することができる。
2．学習のつまずきの原因の追究方法とその解決方法及び教材づくりに関する手続きがわかる。
3．授業の組織化、評価、教授スキル、指導言、安全管理の原則がわかるとともに、学習指導案を作成することができる。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習（PBL）　■討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等）　■実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他（模擬授業）

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：オリエンテーション、学習指導要領（体育）概説
　事前学習：授業前に配付された資料を読み、質問に対する調査を行い回答しておくこと（2時間）。
　事後学習：授業で呈示された課題について、レポートを作成しておくこと（2時間）。
第2回：小学校学習指導要領における体育科の目標と領域
　事前学習：授業前に配付された資料を読み、質問に対する調査を行い回答しておくこと（2時間）。
　事後学習：授業で呈示された課題について、レポートを作成しておくこと（2時間）。
第3回：教科内容－学習者のつまずき－教材づくりの関係
　事前学習：授業前に配付された資料を読み、質問に対する調査を行い回答しておくこと（2時間）。
　事後学習：授業で呈示された課題について、レポートを作成しておくこと（2時間）
第4回：体育授業の目指すもの（教科としての体育）
　事前学習：授業前に配付された資料を読み、質問に対する調査を行い回答しておくこと（2時間）。
　事後学習：授業で呈示された課題について、レポートを作成しておくこと（2時間）
第5回：みんなが「できる」体育の授業
　事前学習：授業前に配付された資料を読み、質問に対する調査を行い回答しておくこと（2時間）。
　事後学習：授業で呈示された課題について、レポートを作成しておくこと（2時間）
第6回：体育の授業づくり1（運動領域の構成と年間計画）
　事前学習：授業前に配付された資料を読み、質問に対する調査を行い回答しておくこと（2時間）。
　事後学習：授業で呈示された課題について、レポートを作成しておくこと（2時間）

第７回：体育の授業づくり２（単元展開と学習形態）
　　事前学習：授業前に配付された資料を読み、質問に対する調査を行い回答しておくこと（２時間）。
　　事後学習：授業で呈示された課題について、レポートを作成しておくこと（２時間）
第８回：体育の授業づくり３（教師によるフィードバック）
　　事前学習：授業前に配付された資料を読み、質問に対する調査を行い回答しておくこと（２時間）。
　　事後学習：授業で呈示された課題について、レポートを作成しておくこと（２時間）
第９回：体育の授業づくり４（学習評価）
　　事前学習：授業前に配付された資料を読み、質問に対する調査を行い回答しておくこと（２時間）。
　　事後学習：授業で呈示された課題について、レポートを作成しておくこと（２時間）
第10回：よい体育授業１（運動有能感）
　　事前学習：授業前に配付された資料を読み、質問に対する調査を行い回答しておくこと（２時間）。
　　事後学習：授業で呈示された課題について、レポートを作成しておくこと（２時間）
第11回：よい体育授業２（基礎的条件と内容的条件）
　　事前学習：授業前に配付された資料を読み、質問に対する調査を行い回答しておくこと（２時間）。
　　事後学習：授業で呈示された課題について、レポートを作成しておくこと（２時間）
第12回：教育内容研究と教材研究
　　事前学習：授業前に配付された資料を読み、質問に対する調査を行い回答しておくこと（２時間）。
　　事後学習：授業で呈示された課題について、レポートを作成しておくこと（２時間）
第13回：指導計画の作成
　　事前学習：授業前に配付された資料を読み、質問に対する調査を行い回答しておくこと（２時間）。
　　事後学習：授業で呈示された課題について、レポートを作成しておくこと（２時間）
第14回：ドラマとしての体育授業
　　事前学習：授業前に配付された資料を読み、質問に対する調査を行い回答しておくこと（２時間）。
　　事後学習：授業で呈示された課題について、レポートを作成しておくこと（２時間）。
第15回：体育授業におけるICTの活用
　　事前学習：授業前に配付された資料を読み、質問に対する調査を行い回答しておくこと（２時間）。
　　事後学習：授業で呈示された課題について、レポートを作成しておくこと（２時間）
第16回：定期試験

授業実施方法（面接授業・遠隔授業）

原則として「面接授業」を行います。ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成　績　評　価　方　法

定期試験（70%）　小レポート（30%）

成　績　評　価　基　準

体育（保健）授業の組織化のための原則と手続きに関する知識を踏まえて、学習指導案を作成することができる。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック

１）授業時の課題に対するフィードバックについて
　■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
２）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
　■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
３）小レポートに対するフィードバックについて
　■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
４）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
　□定期試験時　□仁大eラーニング　□メール　■その他（定期試験時以外に個別に対応）
５）その他（学習指導案に対するフィードバックについて）
　■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他

実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）

テキスト、参考図書

小学校学習指導要領解説体育編（平成29年７月文部科学省）及び授業者作成の配付資料

その他（受講上の注意）

欠席すると授業内容の文脈の理解が困難となることやグループワークに支障をきたすため、全授業の出席を心がけること。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

英語科教育法 (English Language Teaching Methodology)			担当教員	紺渡　弘幸
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−B−2355	2単位	3年後期	講義	選択

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　展開科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>　教科及び教科の指導法に関する科目（各教科の指導法）

<科目に含めることが必要な事項>　各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）

求める学習成果（教育目標）

教育・保育の内容の理解及び指導方法

身につけることを目指す社会的・職業的能力（汎用的能力）

■体系的な知識･技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成･社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解･自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

小学校教諭一種免許状（必修）

授業の内容

小学校における外国語活動・外国語（英語）の指導に必要な基本的な事項（学習指導要領、主教材、小・中・高等学校の連携、多様な指導環境、児童期の第二言語習得の特徴に）について理解する。また、基本的指導技術や学習到達目標に基づく指導計画、授業設計についての知識を身につけ、学習指導案を作成して模擬授業を行い、授業実践に係る力を養う。

授業の到達目標

小学校における外国語活動・外国語の学習・指導・評価に関する基本的な知識・指導技術を習得することをめざし、子どもの第二言語習得の特徴について理解し、実践に必要な基本的な指導技術及び実際の授業づくりに必要な知識・技術を身に付ける。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習（PBL）　■討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　□発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等）　□実習、フィールドワーク　■実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：オリエンテーション・小学校の外国語活動及び外国語科のねらい
　事前指導：事前にシラバスやテキストに目を通し、質問事項をまとめておく。（2時間）
　事後指導：授業で学習した内容を振り返り、小学校英語についてさらに理解を深める。（2時間）
第2回：学習指導要領、小・中・高等学校の連携、関連分野からみる外国語教育の意義
　事前指導：事前にテキストを読み、レポーティング資料を作成する。（2時間）
　事後指導：授業で学習した内容を振り返り、小学校英語についてさらに理解を深める。（2時間）
第3回：指導者の役割、教材の理解
　事前指導：事前にテキストを読み、レポーティング資料を作成する。（2時間）
　事後指導：授業で学習した内容を振り返り、指導者の役割、教材についてさらに理解を深める。（2時間）
第4回：指導目標・計画、言語材料と4技能の指導
　事前指導：事前にテキストを読み、レポーティング資料を作成する。（2時間）
　事後指導：授業で学習した内容を振り返り、指導目標・計画、言語材料と4技能の指導について理解を深める。（2時間）
第5回：教材研究
　事前指導：事前にテキストを読み、レポーティング資料を作成する。（2時間）
　事後指導：授業で学習した内容を振り返り、教材研究ついてさらに理解を深める。（2時間）
第6回：指導方法と指導技術、教材・教具の活用
　事前指導：事前にテキストを読み、レポーティング資料を作成する。（2時間）
　事後指導：授業で学習した内容を振り返り、指導方法と指導技術、教材・教具の活用について理解を深める。（2時間）

第７回：学習指導案、評価
事前指導：事前にテキストを読み、レポーティング資料を作成する。（２時間）
事後指導：授業で学習した内容を振り返り、学習指導案の作成、評価の方法について理解を深める。（２時間）
第８回：授業準備、実施、振り返り
事前指導：事前にテキストを読み、レポーティング資料を作成する。（２時間）
事後指導：授業で学習した内容を振り返り、授業準備から振り返りまで理解する。（２時間）
第９回：授業の組み立て（３）言語活動の工夫
事前指導：事前にテキストを読み、レポーティング資料を作成する。（２時間）
事後指導：授業で学習した内容を振り返り、言語活動の具体例を考える。（２時間）
第10回：模擬授業（１）ウオームアップ
事前指導：学習指導案・教材を作成し、模擬授業の準備をする。（２時間）
事後学習：授業におけるウオームアップのしかたを復習する。（２時間）
第11回：模擬授業（２）導入
事前指導：学習指導案・教材を作成し、模擬授業の準備をする。（２時間）
事後学習：授業における導入のしかたを復習する。（２時間）
第12回：模擬授業（３）Small Talk
事前指導：学習指導案・教材を作成し、模擬授業の準備をする。（２時間）
事後学習：授業におけるSmallのしかたを復習する。（２時間）
第13回：模擬授業（４）言語活動
事前指導：学習指導案・教材を作成し、模擬授業の準備をする。（２時間）
事後学習：授業における言語活動のしかたを復習する。（２時間）
第14回：模擬授業（５）まとめとふりかえり
事前指導：学習指導案・教材を作成し、模擬授業の準備をする。（２時間）
事後学習：授業におけるまとめとふりかえりのしかたを復習する。（２時間）
第15回：ティーム・ティーチング、ICTの活用、評価
事前指導：学習指導案・教材を作成し、模擬授業の準備をする。（２時間）
事後学習：授業におけるティーム・ティーチング、ICTの活用、評価のしかたを復習する。（２時間）
第16回：定期試験

授業実施方法（面接授業・遠隔授業）

原則として「面接授業」を行います。
ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。
遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成　績　評　価　方　法

定期試験（50%）、課題・小テスト・模擬授業（35%）、授業への取り組み（15%）

成　績　評　価　基　準

1．小学校外国語教育の変遷、小学校の外国語活動や外国語科、中・高等学校の外国語科の目標、内容について理解している。
2．主教材の趣旨、構成、特徴について理解している。
3．小・中・高等学校の連携と小学校の役割について理解している。
4．様々な指導環境に柔軟に対応するため、児童や学校の多様性への対応について、基礎的な事柄を理解している。
5．言語使用を通して言語を習得することを理解し、指導に生かすことができる。
6．音声によるインプットの内容の類推から理解へと進むプロセスを経ることを理解し、指導に生かすことができる。
7．児童の発達段階を踏まえた音声によるインプットの在り方を理解し、指導に生かすことができる。
8．コミュニケーションの目的や場面、状況に応じて意味のあるやり取りを行う重要性を理解し、指導に生かすことができる。
9．受信から発信、音声から文字へと進むプロセスを理解し、指導に生かすことができる。
10. 国語教育との連携等による言葉の面白さや豊かさへの気づきについて理解し、指導に生かすことができる。
11. 児童の発話につながるよう、効果的に英語で語りかけることができる。
12. 児童の英語での発話を引き出し、児童とのやり取りを進めることができる。
13. 文字言語との出合わせ方、読む活動・書く活動への導き方について理解し、指導に生かすことができる。
14. 題材の選定、教材研究の仕方について理解し、適切に題材選定・教材研究ができる。
15. 学習到達目標に基づいた指導計画（年間指導計画、単元計画、学習指導案、短時間学習等の授業時間の設定を含めたカリキュラム・マネジメント等）について理解し、学習指導案を立案することができる。
16. ALT等とのティーム・ティーチングによる指導の在り方について理解している。
17. ICT等の効果的な活用の仕方について理解し、指導に生かすことができる。
18. 学習状況の評価（パフォーマンス評価や学習到達目標の活用を含む）について理解している。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

1）授業時の課題に対するフィードバックについて
■授業時　■仁大eラーニング　□メール　□その他
2）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
■授業時　■仁大eラーニング　□メール　□その他
3）小レポートに対するフィードバックについて
■授業時　■仁大eラーニング　□メール　□その他
4）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
□定期試験時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
5）その他（模擬授業に対するフィードバックについて）
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他

実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)

テキスト、参考図書

テキスト
最新小学校英語教育法入門（樋口忠彦監修、加賀田哲也、泉恵美子、衣笠知子編著　研究社出版、令和５年

参考書・参考資料等
小学校学習指導要領（平成29年３月公示　文部科学省）
中学校学習指導要領（平成29年３月公示　文部科学省）
小学校外国語活動・外国語研修ガイドブック
（文部科学省　http://www.mext.go.jp/a_menu/kokusai/gaikokugo/1387503.htm）

その他(受講上の注意)

オフィスアワー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

子ども家庭支援の心理学 (Psychology of Children andFamily Support)			担当教員	青井　夕貴、乙部　貴幸
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−F−2314	2単位	3年前期	講義	選択

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　展開科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

子育て支援の理解と支援方法

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識･技能　□論理的思考力と創造力　□人間関係形成･社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解･自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

保育士資格(必修)

授業の内容

子どもの発達に大きな影響を与える環境のひとつが家庭である。その家庭の機能やあり方が多様化している現状を踏まえ、本授業では、子どもや家庭に関する心理学的な知見を学び、子どもとその家庭を包括的に捉える視点の習得を目指す。

授業の到達目標

1．生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し、初期経験の重要性、各時期の移行、発達課題等について理解する。
2．家族・家庭の意義や機能を理解するとともに、親子関係や家族関係等について発達的に理解し、子どもとその家庭を包括的に捉える視点を習得する。
3．子育て家庭をめぐる現代の社会状況と課題を理解する。
4．子どもの精神保健とその課題について理解する。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習(PBL)　□討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等)　■グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等)　□発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等)　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：オリエンテーション、家族・家庭の意義と機能(青井)
　事前学習：家族・家庭の機能に関連する事項を調べ、疑問点や自分の考えを整理しておく。(2時間)
　事後学習：配布資料や説明の内容を見直し、実習等を通した自らの経験にあてはめながら、理解を深める。(2時間)
第2回：子育てを取り巻く社会的状況(青井)
　事前学習：子育てを取り巻く社会的状況に関連する事項を調べ、疑問点や自分の考えを整理しておく。(2時間)
　事後学習：配布資料や説明の内容を見直し、実習等を通した自らの経験にあてはめながら、理解を深める。(2時間)
第3回：ライフコースと仕事・子育て(青井)
　事前学習：ライフコースに関連する事項を調べ、疑問点や自分の考えを整理しておく。(2時間)
　事後学習：配布資料や説明の内容を見直し、実習等を通した自らの経験にあてはめながら、理解を深める。(2時間)
第4回：子どもの生活・生活環境とその影響(青井)
　事前学習：子どもの生活・生活環境に関連する事項を調べ、疑問点や自分の考えを整理しておく。(2時間)
　事後学習：配布資料や説明の内容を見直し、実習等を通した自らの経験にあてはめながら、理解を深める。(2時間)

第５回：乳幼児期と学童期前期の発達に関する心理学的な見方、初期経験の重要性（乙部）
事前学習：乳幼児期と学童期前期の発達に関連する事項を調べ、疑問点や自分の考えを整理しておく。（２時間）
事後学習：配布資料や説明の内容を見直し、実習等を通した自らの経験にあてはめながら、理解を深める。（２時間）
第６回：学童期後期から青年期の発達に関する心理学的な見方、発達課題（乙部）
事前学習：学童期後期から青年期の発達に関連する事項を調べ、疑問点や自分の考えを整理しておく。（２時間）
事後学習：配布資料や説明の内容を見直し、実習等を通した自らの経験にあてはめながら、理解を深める。（２時間）
第７回：成人期・老年期の発達に関する心理学的な見方、職業選択と結婚（乙部）
事前学習：成人期・老年期の発達に関連する事項を調べ、疑問点や自分の考えを整理しておく。（２時間）
事後学習：配布資料や説明の内容を見直し、実習等を通した自らの経験にあてはめながら、理解を深める。（２時間）
第８回：生涯発達としてみた子ども家庭支援（乙部）
事前学習：生涯発達に関連する事項を調べ、疑問点や自分の考えを整理しておく。（２時間）
事後学習：配布資料や説明の内容を見直し、実習等を通した自らの経験にあてはめながら、理解を深める。（２時間）
第９回：保育対象としての家族・家庭に関する集団力学的な理解（乙部）
事前学習：集団力学的な理解に関連する事項を調べ、疑問点や自分の考えを整理しておく。（２時間）
事後学習：配布資料や説明の内容を見直し、実習等を通した自らの経験にあてはめながら、理解を深める。（２時間）
第10回：親子関係及び家族関係の発達（乙部）
事前学習：親子関係及び家族関係に関連する事項を調べ、疑問点や自分の考えを整理しておく。（２時間）
事後学習：配布資料や説明の内容を見直し、実習等を通した自らの経験にあてはめながら、理解を深める。（２時間）
第11回：祖父母-親子-孫の三世代関係の発達的理解（乙部）
事前学習：祖父母-親子-孫の三世代関係に関連する事項を調べ、疑問点や自分の考えを整理しておく。（２時間）
事後学習：配布資料や説明の内容を見直し、実習等を通した自らの経験にあてはめながら、理解を深める。（２時間）
第12回：子どもの心の健康に関わる問題（乙部）
事前学習：子どもの心の健康に関連する事項を調べ、疑問点や自分の考えを整理しておく。（２時間）
事後学習：配布資料や説明の内容を見直し、実習等を通した自らの経験にあてはめながら、理解を深める。（２時間）
第13回：子育ての経験と親としての育ち（青井）
事前学習：親育ちに関連する事項を調べ、疑問点や自分の考えを整理しておく。（２時間）
事後学習：配布資料や説明の内容を見直し、実習等を通した自らの経験にあてはめながら、理解を深める。（２時間）
第14回：多様な家庭・特別な配慮を要する家庭とその理解（青井）
事前学習：特別な配慮を要する家庭に関連する事項を調べ、疑問点や自分の考えを整理しておく。（２時間）
事後学習：配布資料や説明の内容を見直し、実習等を通した自らの経験にあてはめながら、理解を深める。（２時間）
第15回：まとめ-子どもとその家庭を包括的に捉える意義（青井）
事前学習：これまでの授業を振り返り、疑問点や自分の考えを整理しておく。（２時間）
事後学習：配布資料や説明の内容を見直し、実習等を通した自らの経験にあてはめながら、理解を深める。（２時間）

授業実施方法（面接授業・遠隔授業）

原則として「面接授業」を行います。
ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。
遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成　績　評　価　方　法

毎回の課題75%、レポート25%

成　績　評　価　基　準

１．生涯発達に関する心理学の基礎的な知識、初期経験の重要性、各時期の移行、発達課題等について説明できるか。
２．家族・家庭の意義や機能、親子関係や家族関係等の発達的理解、子どもとその家庭を包括的に捉える視点を説明できるか。
３．子育て家庭をめぐる現代の社会状況と課題を説明できるか。
４．子どもの精神保健とその課題について説明できるか。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

1）授業時の課題に対するフィードバックについて
■授業時　■仁大eラーニング　□メール　□その他
2）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
■授業時　■仁大eラーニング　□メール　□その他
3）小レポートに対するフィードバックについて
■授業時　■仁大eラーニング　□メール　□その他
4）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
□定期試験時　■仁大eラーニング　□メール　□その他
5）その他
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他

実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)

テキスト、参考図書

適宜資料を配布する。

その他(受講上の注意)

オフィスアワー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

子どもの食と栄養 (Nutrition for Children)			担当教員	阿部　喜代子
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−D−2359	2単位	3年後期	演習	選択

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　展開科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

教育・保育の対象の理解及び子どもの発達の理解

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識･技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成･社会形成能力　□職業観と職業的倫理観　□自己理解･自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

幼稚園教諭一種免許状（選択）、保育士資格（必修）

授業の内容

幼児期・学童期の子どもの指導者として、食の領域での職務を十分に果たすために必要な知識・技能（小児の発育・発達、小児の栄養特性、小児の食生活の問題点、栄養と疾病、生活習慣と食習慣、小児への栄養教育の必要性と方法、人間形成と食習慣など）について解説し、指導者としての資質を培うための授業を行う。

授業の到達目標

栄養の基礎知識を理解し、子どもの成長・発育を支援する栄養と食の知識と技能、問題解決能力を修得する。

アクティブ・ラーニング

■課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　□発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等）　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：オリエンテーション、子どもの環境、食生活の現状と課題
　事前学習：1章について予習すること。（約2時間）
　事後学習：授業、プリントを参考にノートにまとめること。（約2時間）
第2回：栄養の基礎知識1
　事前学習：2章1節について予習すること。（約2時間）
　事後学習：授業、プリントを参考にノートにまとめること。（約2時間）
第3回：栄養の基礎知識2
　事前学習：2章2節について予習すること。（約2時間）
　事後学習：授業、プリントを参考にノートにまとめること。（約2時間）
第4回：栄養の基礎知識3
　事前学習：2章3,4節について予習すること。（約2時間）
　事後学習：授業、プリントを参考にノートにまとめること。（約2時間）
第5回：小児の成長と発達
　事前学習：3章1節について予習すること。（約2時間）
　事後学習：授業、プリントを参考にノートにまとめること。（約2時間）
第6回：妊娠・授乳期の栄養
　事前学習：3章2節について予習すること。（約2時間）
　事後学習：授業、プリントを参考にノートにまとめること。（約2時間）
第7回：乳児期乳汁栄養、乳児期離乳栄養
　事前学習：3章3,4節について予習すること。（約2時間）
　事後学習：授業、プリントを参考にノートにまとめること。（約2時間）
第8回：幼児期の食生活
　事前学習：3章5節について予習すること。（約2時間）
　事後学習：授業、プリントを参考にノートにまとめること。（約2時間）

第９回：学童期の食生活
　　事前学習：３章６節について予習すること。（約２時間）
　　事後学習：授業、プリントを参考にノートにまとめること。（約２時間）
第10回：生涯発達と食生活
　　事前学習：３章７節について予習すること。（約２時間）
　　事後学習：授業、プリントを参考にまとめること。（約２時間）
第11回：食育１　グループワーク
　　事前学習：４章１・２・３節について予習すること。（約２時間）
　　事後学習：授業、プリントを参考にノートにまとめること。（約２時間）
第12回：食育２
　　事前学習：５章１・２・３節について予習すること。（約２時間）
　　事後学習：授業、プリントを参考にノートにまとめること。（約２時間）
第13回：食育３　課題解決型学習
　　事前学習：６章１・２節について予習すること。（約２時間）
　　事後学習：授業、プリントを参考にノートにまとめること。（約２時間）
第14回：食育４
　　事前学習：７章２節について予習すること。（約２時間）
　　事後学習：授業、プリントを参考にノートにまとめること。（約２時間）
第15回：食育５
　　事前学習：７章３節と別途配布する資料について予習すること。（約２時間）
　　事後学習：授業、プリントを参考にノートにまとめること。（約２時間）
第16回：定期試験

授業実施方法（面接授業・遠隔授業）

原則として「面接授業」を行います。
ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。
遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成　績　評　価　方　法

定期試験70%（授業の理解度を評価する）、平常点30％（平常点は、遅刻の有無、出席状況、受講態度、リアクションペーパーの内容等を総合して判断する）

成　績　評　価　基　準

栄養の基礎知識は理解できたか。子どもの成長･発育を支援する栄養管理の知識と技術を修得できたか。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック

１）授業時の課題に対するフィードバックについて
　■授業時　■仁大eラーニング　□メール　□その他（）
２）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
　■授業時　■仁大eラーニング　□メール　□その他
３）小レポートに対するフィードバックについて
　■授業時　■仁大eラーニング　□メール　□その他
４）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
　□定期試験時　■仁大eラーニング　■メール　□その他
５）その他
　□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他

実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）

テ キ ス ト 、 参 考 図 書

今津屋 直子・久藤 麻子 編 「新・子どもの食と栄養」第２版　教育情報出版　2025

その他（受講上の注意）

授業計画は進捗状況により変更することがある。

オ フ ィ ス ア ワ ー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

精神保健 (Mental Health)			担当教員	臼田　成之、小野　　悟
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−D−2311	2単位	3年前期	講義	選択

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目 展開科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

教育・保育の対象の理解及び子どもの発達の理解

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識･技能 □論理的思考力と創造力 ■人間関係形成･社会形成能力 □職業観と職業的倫理観
■自己理解･自己管理能力 □諸課題の理解と課題対応能力 □統合的な学習経験 □キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

保育士資格(選択)

授業の内容

人間のライフサイクルにおけるこころの問題及び発達課題について学ぶ。

授業の到達目標

・精神保健の概念と現代の精神保健課題について説明できる。
・ライフサイクルの各段階における危機と課題について説明できる。
・こころの健康を保持・増進させる方法について理解し、実践できる。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習(PBL)　■討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等)　■グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等)　■発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等)　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：精神保健に関する基本的理解(臼田)
　事前学習：教科書第1章について事前学習し、まとめておくこと。(2時間)
　事後学習：授業で配布した資料の内容について、整理してまとめておくこと。(2時間)
第2回：精神障害者に対する処遇の歴史及び関係法規(臼田)
　事前学習：精神障害者に対する処遇の歴史及び関係法規(教科書第9章)について事前学習し、整理してまとめておくこと。(2時間)
　事後学習：授業で配布した資料の内容について、整理してまとめておくこと。(2時間)
第3回：現代の精神保健分野の動向と基本的考え方(臼田)
　事前学習：教科書第2章について事前学習し、まとめておくこと。(2時間)
　事後学習：授業で配布した資料の内容について、整理してまとめておくこと。(2時間)
第4回：こころの機能と発達(臼田)
　事前学習：こころの機能と発達について事前学習し、まとめておくこと。(2時間)
　事後学習：授業で配布した資料の内容について、整理してまとめておくこと。(2時間)
第5回：対人援助職としてのストレスマネジメント(小野)
　事前学習：ストレス、ストレス反応について事前学習し、まとめておくこと。(2時間)
　事後学習：レポートによる復習課題を課す。(2時間)
第6回：【演習】ストレスマネジメント(小野)
　事前学習：対人援助職に求められるストレスマネジメントについて事前学習し、まとめておくこと。(2時間)
　事後学習：レポートによる復習課題を課す。(2時間)
第7回：乳幼児期における精神保健(臼田)
　事前学習：乳幼児期における精神保健について事前学習し、まとめておくこと。(2時間)
　事後学習：授業で配布した資料の内容について、整理してまとめておくこと。(2時間)

第８回：学童期における精神保健（臼田）
　　事前学習：学童期における精神保健について事前学習し、まとめておくこと。（２時間）
　　事後学習：授業で配布した資料の内容について、整理してまとめておくこと。（２時間）
第９回：思春期・青年期における精神保健（臼田）
　　事前学習：思春期・青年期における精神保健について事前学習し、まとめておくこと。（２時間）
　　事後学習：授業で配布した資料の内容について、整理してまとめておくこと。（２時間）
第10回：成人期・老年期における精神保健（臼田）
　　事前学習：成人期・老年期における精神保健について事前学習し、まとめておくこと。（２時間）
　　事後学習：授業で配布した資料の内容について、整理してまとめておくこと。（２時間）
第11回：保育所・学校現場における精神保健（臼田）
　　事前学習：教科書第４章および保育所における精神保健について事前学習し、まとめておくこと。（２時間）
　　事後学習：授業で配布した資料の内容について、整理してまとめておくこと。（２時間）
第12回：職場における精神保健（臼田）
　　事前学習：教科書第５章について事前学習し、まとめておくこと。（２時間）
　　事後学習：授業で配布した資料の内容について、整理してまとめておくこと。（２時間）
第13回：対人援助職としてのメンタルヘルス（小野）
　　事前学習：社会変化とメンタルヘルスについて事前学習し、まとめておくこと。（２時間）
　　事後学習：レポートによる復習課題を課す。（２時間）
第14回：【演習】認知行動療法（小野）
　　事前学習：認知行動療法について事前学習を進め、まとめておくこと。（２時間）
　　事後学習：レポートによる復習課題を課す。（２時間）
第15回：精神保健に関する発生予防と対策（臼田）
　　事前学習：①教科書第７章について事前学習し、まとめておくこと。②自分自身が精神疾患を未然に防ぐために日頃からできることを考えてまとめておくこと。（２時間）
　　事後学習：授業で配布した資料の内容について、整理してまとめておくこと。（２時間）
第16回：定期試験

授業実施方法（面接授業・遠隔授業）

原則として「面接授業」を行います。
ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。
遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成績評価方法

定期試験（60%）　レポート（20%）　平常点（20%）
平常点は授業への参加状況ならびに受講態度等を総合的に判断する。

成績評価基準

精神保健に関して論理的に説明でき、教育・保育に活用可能なように工夫できる。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック

１）授業時の課題に対するフィードバックについて
　■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
２）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
　■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
３）小レポートに対するフィードバックについて
　■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
４）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
　■定期試験時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
５）その他
　■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他

実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）

テキスト、参考図書

一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟（編集）：最新 精神保健福祉士養成講座 第２巻　現代の精神保健の課題と支援　中央法規（2021年）

その他（受講上の注意）

・授業に関する質問は、原則、授業時間の前後に受け付けます。
・授業の出席は、授業終了後に提出してもらうリアクションペーパーでとります。必ず提出してください。
・遅刻・早退、授業中の私語や携帯電話などの授業とは無関係な行為は慎んでください。

オ フ ィ ス ア ワ ー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

保育内容総論 (General Early Childhood Care andEducation)			担当教員	渡辺　直人
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−B−2356	2単位	3年後期	演習	選択

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　展開科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>　領域及び保育内容の指導法に関する科目

<科目に含めることが必要な事項>　保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）

求める学習成果（教育目標）

教育・保育の内容の理解及び指導方法

身につけることを目指す社会的・職業的能力（汎用的能力）

■体系的な知識･技能　■論理的思考力と創造力　■人間関係形成･社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
□自己理解･自己管理能力　□諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　■キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

幼稚園教諭一種免許状（必修）、保育士資格（必修）

授業の内容

「幼稚園教育要領」、「保育所保育指針」、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」を通して、わが国の幼稚園等における現代の保育観と保育の内容（5領域）及び指導法を理解する。また、幼稚園等の教育課程・全体的な計画の試案作成をグループワークで取り組み、模擬保育を行うことを通して、保育内容のあり方及び保育者としての関わり方について考える。

授業の到達目標

幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領にもとづいたわが国の保育観と保育の内容（5領域）及び指導法について、基本的な知識を身につけ、保育の内容を立案する際の基礎となる考え方を理解する。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習（PBL）　■討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等）　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：授業のオリエンテーション（保育内容総論の概要と学修のポイント）
　事前学習：これまでの授業や実習を振り返り、保育内容とは何かについてまとめておく。（2時間）
　事後学習：資料を読み、教育保育施設の役割を復習する。（2時間）
第2回：保育の全体構造とは何か（保育所保育指針の基本を理解する）
　事前学習：保育所保育指針をざっと読み、「保育の目標」について調べる。（2時間）
　事後学習：授業で学んだ「全体構造」と「目標」を整理し、まとめる。（2時間）
第3回：子ども理解1（子どもの発達と保育内容の基本的な考え方）（討議）
　事前学習：発達段階ごとの特徴について整理し、実習での経験を振り返る。（2時間）
　事後学習：子どもの発達と保育内容の関連を具体例と共に復習する。（2時間）
第4回：子ども理解2（社会の変化と保育の歩み）（討議）
　事前学習：戦後から現代までの保育内容の変化を概観する。（2時間）
　事後学習：歴史的背景を踏まえた現在の保育内容を整理し、自分の意見をまとめる。（2時間）
第5回：子ども理解3（臨床的子ども理解）（討議）
　事前学習：事例検討における自身の観点をまとめてくる。（2時間）
　事後学習：主体性を育む保育の工夫について授業ノートを活用して再考する。（2時間）
第6回：子どもの生活と保育1（養護と教育の一体的な展開）（グループワーク）
　事前学習：養護と教育の違いや共通点について考える。（2時間）
　事後学習：授業で取り上げた事例を基に、具体的な保育場面を想定して記録する。（2時間）
第7回：子どもの生活と保育2（環境を通して行う保育）（グループワーク）
　事前学習：保育所での環境設定について調査し、自分の考えをまとめる。（2時間）
　事後学習：学んだ理論を基に、理想的な保育環境の具体例を考案する。（2時間）

第８回：子どもの生活と保育３（生活と遊びによる総合的な保育）（グループワーク）
事前学習：子どもの生活リズムと遊びについて基本的な知識を復習する。（２時間）
事後学習：授業で取り上げた遊びの具体例を、実践に活かせるよう整理する。（２時間）
第９回：子どもの遊びと保育１（遊びの実態）（討議）
事前学習：幼稚園教育要領および保育所保育指針における「遊び」の記述を調べ、要点をまとめる。（２時間）
事後学習：授業で学んだ遊びの実態に関する事例を基に、保育現場で遊びを促進する方法を考える。（２時間）
第10回：子どもの遊びと保育２（保育内容５領域との関連）（討議）
事前学習：保育内容５領域の概要を再確認し、それぞれの領域が遊びとどのように関係しているかを考える。（２時間）
事後学習：授業で学んだ内容を基に、５領域を意識した保育の遊び計画案をまとめる。（２時間）
第11回：保育の課題と工夫（家庭や地域、小学校との連携、長時間保育の課題）
事前学習：現代の保育が求められる背景について調査する。（２時間）
事後学習：授業内容を基に、課題解決の具体例を整理する。（２時間）
第12回：保育の多様性（特別な配慮を要する子どもの保育、多文化共生の保育）
事前学習：保育における支援と配慮の方法を考えて来る。（２時間）
事後学習：授業で学んだ支援の考え方を自分なりに整理する。（２時間）
第13回：保育計画と実践のつなげ方（計画の立て方から実践まで）（発表・プレゼンテーション）
事前学習：保育計画書の例を調べ、特徴を整理する。（２時間）
事後学習：自分で簡単な保育計画案を作成する。（２時間）
第14回：記録・省察・評価・改善の重要性（保育を振り返り次につなげる）（発表・プレゼンテーション）
事前学習：記録の具体例を調べ、その目的について考える。（２時間）
事後学習：自分の経験を基に、記録・省察・評価・改善を再構成する。（２時間）
第15回：まとめと振り返り（学びを次に活かすために）
事前学習：これまでの授業で得た学びを振り返り、質問をまとめておく。（２時間）
事後学習：授業全体を振り返り、今後の学びの計画を立てる。（２時間）
第16回：定期試験

授業実施方法（面接授業・遠隔授業）

原則として「面接授業」を行います。
ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。
遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成　績　評　価　方　法

定期試験（50％）　課題レポート（20％）　グループワークの取り組みと発表（30％）

成　績　評　価　基　準

幼稚園教育要領と保育所保育指針におけるわが国の保育観及び保育の内容と指導法について説明することができるか。
グループワーク（全体的な計画の編成または模擬保育など）に協働して取り組み、グループの考えを明確に表現し発表することができるか。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック

１）授業時の課題に対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
２）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
３）小レポートに対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
４）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
□定期試験時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
５）その他
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他

実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）

テ　キ　ス　ト　、　参　考　図　書

参考図書
幼稚園教育要領（平成29年３月31日告示　文部科学省）
保育所保育指針（平成29年３月31日告示　厚生労働省）
幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年３月31日告示　内閣府・文部科学省・厚生労働省）

その他（受講上の注意）
1.2年次に他の授業で使った幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領を参考書として引き続き使います。
オ フ ィ ス ア ワ ー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

社会的養護Ⅱ (Social Nursing Ⅱ)			担当教員	竹澤　賢樹
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−D−2312	2単位	3年前期	演習	選択

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　展開科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

教育・保育の対象の理解及び子どもの発達の理解

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□体系的な知識･技能　■論理的思考力と創造力　■人間関係形成･社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
■自己理解･自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

保育士資格(必修)

授業の内容

本科目では、社会的養護を必要としているこども達とのかかわり方を中心に、地域や関係機関との連携の意義と方法について解説する。また、こどもの最善の利益を基盤とした社会的養護にかかわる相談援助技術、個別支援計画の作成について解説する。

授業の到達目標

何らかの事情で家族と離れて生活をせざるを得ないこどもたちの心身の成長・発達を保障し、更に自立に向けて支援するための知識と技術を習得する。
個別支援計画の作成方法と個別支援計画に基づく、チームケアのあり方を習得する。

アクティブ・ラーニング

■課題解決型学習(PBL)　■討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等)　■グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等)　■発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等)　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：社会的養護を必要とするこどもとは(グループワーク)
　事前学習：こども家庭庁のHPなどを利用し、社会的養護の基本理念と社会的養護を必要とするこども達は、どのような環境で生活をしていたのかをまとめておく。(2時間)
　事後学習：社会的養護の原理として掲げられている6つをまとめ、レポートを提出する。(2時間)
第2回：社会的養護の歴史的変遷(グループワーク)
　事前学習：児童福祉法誕生から1994年「こどもの権利条約」に批准し今日に至るまでの歴史を調べ、質問をまとめておく。(2時間)
　事後学習：2022(令和4年)「児童福祉法等の一部を改正する法律」のなかの社会的養護自立支援拠点事業に関してまとめ、レポートを提出する。(2時間)
第3回：社会的養護を必要とするこどもの権利擁護(グループワーク)
　事前学習：「こどもの権利条約」の前文と第3条・第12条・第19条・第20条・第26条を熟読すること。(2時間)
　事後学習：児童福祉施設のこどもの権利養護の実践と課題をまとめ、レポートを提出する。(2時間)
第4回：乳児院におけるこどもの養育(グループワーク)
　事前学習：全国乳児福祉協議会のHP等から乳児院のあゆみ・乳児院を利用する理由、また入所しているこどもたちの人数を調べておく。(2時間)
　事後学習：乳児院における養育のあり方と今後の課題をまとめ、レポートを提出する。(2時間)
第5回：児童養護施設におけるこどもの養育(家庭的養育)(グループワーク)
　事前学習：全国児童養護施設協議会HPやこども家庭庁のHPから児童養護施設を利用する理由と児童養護施設ではどのようにこどもを養育しているのかをまとめておく。(2時間)
　事後学習：児童養護施設での養育がどのように変化しているのか、また今後の課題をまとめ、レポートを提出する。(2時間)

第６回：被虐待児へのかかわり方（討議）
事前学習：こども家庭庁HP「児童虐待防止対策」から児童虐待の定義をまとめておく。さらにこども家庭庁HPから令和４年度児童相談所における児童虐待相談対応件数から４種類の虐待の数の移り変わりをまとめておく。（２時間）
事後学習：被虐待児が受ける影響と支援方法についてまとめ、レポートを提出する。（２時間）
第７回：被虐待児への関わり方（施設の環境整備）（PBL、グループワーク）
事前学習：被虐待児の抱える問題を調べ、その背景要因についてまとめておく。（２時間）
事後学習：被虐待児との関わりとして大切なことを施設の環境整備の観点からまとめ、レポートを提出する。（２時間）
第８回：社会的養護家庭再構築のアプローチ（児童虐待防止の家庭支援）（グループワーク）
事前学習：要保護児童対策地域協議会について質問できるようにしておく。（２時間）
事後学習：児童虐待防止に関する家庭支援の現状と課題をまとめレポートを提出する。（２時間）
第９回：自立支援計画表アセスメントおよび作成（グループワーク）
事前学習：児童養護施設における自立支援計画とはなにかまとめておく。（２時間）
事後学習：提示する事例に伴い自立支援計画を作成し提出する。（２時間）
第10回：こども最善の利益のための自立支援（リービングケア・アフターケア）（PBL、討議）
事前学習：家庭的養護と家庭養護の違いと自立支援のためにどのようなケアをしているのかまとめておく。（２時間）
事後学習：授業の内容から児童養護施設等の施設養育と里親養育においてアフターケアに関することをまとめアフターケアの計画表を作成する。（２時間）
第11回：パーマンシーの保障と課題（グループワーク）
事前学習：厚生労働省平成29年８月に出された「新しい社会的養育ビジョン」の概要についてまとめておく。（２時間）
事後学習：授業よりフォスタリング機関およびパーマネンシー保障としての特別養子縁組の推進についてまとめ、レポートを提出する。（２時間）
第12回：社会的養護の家庭支援に対する相談援助技術（PBL、グループワーク）
事前学習：第11回までの授業を復習し、社会的養護における家庭支援について、何が必要なのかを自分なりに考えまとめておく。（２時間）
事後学習：社会的養護における家庭支援のあり方をまとめ、レポートを提出する。（２時間）
第13回：こどもの権利擁護ノート作成（発表・プレゼンテーション）
事前学習：児童福祉施設等の権利ノートの内容を調べ発表できるようにしておく。（２時間）
事後学習：こどもの権利条約・授業で扱ったこどもの権利をまとめ「権利ノート」を作成する。（２時間）
第14回：施設の運営と管理（グループワーク）
事前学習：こども家庭福祉サービスの利用方式である措置制度・利用契約制度・選択利用制度についてそれぞれまとめておく。（２時間）
事後学習：授業の内容から児童養護施設の人材育成についてまとめレポートを提出する。（２時間）
第15回：保育者としての倫理と資質、専門技術と相談援助（グループワーク）
事前学習：児童養護施設運営指針および保育士の倫理綱領を熟読し、支援者の倫理の重要性をまとめる。（２時間）
事後学習：社会的養護における倫理の重要性と専門性を高める意義をまとめ、レポートを提出する。（２時間）

授業実施方法（面接授業・遠隔授業）

原則として「面接授業」を行います。
ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。
遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成　績　評　価　方　法

レポート（50％）　平常点（50％）
（平常点は、授業への参加状況、受講態度など総合的に判断します。）

成　績　評　価　基　準

家庭的養護を必要とするこどもの気持ちを受け止めているかどうか。
こどもの権利擁護という視点をもち、自立支援を考えられているかどうか。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

1）授業時の課題に対するフィードバックについて
■授業時　■仁大eラーニング　□メール　□その他
2）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
■授業時　■仁大eラーニング　□メール　□その他
3）小レポートに対するフィードバックについて
■授業時　■仁大eラーニング　□メール　□その他
4）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
□定期試験時　■仁大eラーニング　□メール　□その他
5）その他
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他

実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)

テキスト、参考図書

必要に応じて、資料を配付する。

その他(受講上の注意)

・特別な配慮が必要な学生は、申し出てください。
・その他、疑問な点がある学生は、質問をしてください。

オフィスアワー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

子育て支援 (Child Care Support)			担当教員	青井　夕貴
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−F−2366	2単位	3年後期	演習	選択

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　展開科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

子育て支援の理解と支援方法

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識･技能　□論理的思考力と創造力　■人間関係形成･社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
■自己理解･自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

幼稚園教諭一種免許状（選択）、保育士資格（必修）

授業の内容

現在の保育士には、子どもの最善の利益を考慮した上で、子育て家庭に対して多面的な理解を示しながら根拠に基づいた支援を展開することが必要とされている。本授業では、保育士が行う子育て支援に必要な知識や技術を実践的に学ぶ。

授業の到達目標

1．保育士の行う保育の専門性を背景とした保護者に対する相談、助言、情報提供、行動見本の提示等の支援（保育相談支援）について、その特性と展開を具体的に理解する。
2．保育士の行う子育て支援について、様々な場や対象に即した支援の内容と方法及び技術を、実践事例等を通して具体的に理解する。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習（PBL）　■討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等）　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：子どもの保育とともに行う保護者の支援
　事前学習：テキストの第1講を読み、疑問点や自分の考えを整理しておく。（2時間）
　事後学習：テキストや配付資料、説明の内容を見直し、実習等を通した自らの経験にあてはめながら、理解を深める。（2時間）
第2回：日常的・継続的な関わりを通じた保護者との相互理解と信頼関係の形成（グループワーク）
　事前学習：テキストの第2講を読み、疑問点や自分の考えを整理しておく。（2時間）
　事後学習：テキストや配付資料、説明の内容を見直し、実習等を通した自らの経験にあてはめながら、理解を深める。（2時間）
第3回：保護者や家庭の抱える支援のニーズへの気づきと多面的な理解（討議・発表）
　事前学習：テキストの第3講を読み、疑問点や自分の考えを整理しておく。（2時間）
　事後学習：テキストや配付資料、説明の内容を見直し、実習等を通した自らの経験にあてはめながら、理解を深める。（2時間）
第4回：子ども及び保護者の状況・状態の把握（討議・発表）
　事前学習：テキストの第4講を読み、疑問点や自分の考えを整理しておく。（2時間）
　事後学習：テキストや配付資料、説明の内容を見直し、実習等を通した自らの経験にあてはめながら、理解を深める。（2時間）
第5回：支援の計画と環境の構成（討議・発表）
　事前学習：テキストの第5講を読み、疑問点や自分の考えを整理しておく。（2時間）
　事後学習：テキストや配付資料、説明の内容を見直し、実習等を通した自らの経験にあてはめながら、理解を深める。（2時間）

第６回：支援の実践・記録・評価・カンファレンス（討議・発表）
事前学習：テキストの第６講を読み、疑問点や自分の考えを整理しておく。（２時間）
事後学習：テキストや配付資料、説明の内容を見直し、実習等を通した自らの経験にあてはめながら、理解を深める。（２時間）
第７回：職員間の連携・協働（討議・発表）
事前学習：テキストの第７講を読み、疑問点や自分の考えを整理しておく。（２時間）
事後学習：テキストや配付資料、説明の内容を見直し、実習等を通した自らの経験にあてはめながら、理解を深める。（２時間）
第８回：社会資源の活用と自治体・関係機関や専門職との連携・協働（討議・発表）
事前学習：テキストの第８講を読み、疑問点や自分の考えを整理しておく。（２時間）
事後学習：テキストや配付資料、説明の内容を見直し、実習等を通した自らの経験にあてはめながら、理解を深める。（２時間）
第９回：保育所等における支援（グループワーク）
事前学習：テキストの第９講を読み、疑問点や自分の考えを整理しておく。（２時間）
事後学習：テキストや配付資料、説明の内容を見直し、実習等を通した自らの経験にあてはめながら、理解を深める。（２時間）
第10回：地域の子育て家庭に対する支援、多様な他者と関わる機会や場の提供（討議・発表）
事前学習：テキストの第10講を読み、疑問点や自分の考えを整理しておく。（２時間）
事後学習：テキストや配付資料、説明の内容を見直し、実習等を通した自らの経験にあてはめながら、理解を深める。（２時間）
第11回：障害のある子ども及びその家庭に対する支援（討議・発表）
事前学習：テキストの第11講を読み、疑問点や自分の考えを整理しておく。（２時間）
事後学習：テキストや配付資料、説明の内容を見直し、実習等を通した自らの経験にあてはめながら、理解を深める。（２時間）
第12回：特別な配慮を要する子ども及びその家庭に対する支援（討議・発表）
事前学習：テキストの第12講を読み、疑問点や自分の考えを整理しておく。（２時間）
事後学習：テキストや配付資料、説明の内容を見直し、実習等を通した自らの経験にあてはめながら、理解を深める。（２時間）
第13回：子ども虐待の予防と対応（討議・発表）
事前学習：テキストの第13講を読み、疑問点や自分の考えを整理しておく。（２時間）
事後学習：テキストや配付資料、説明の内容を見直し、実習等を通した自らの経験にあてはめながら、理解を深める。（２時間）
第14回：要保護児童等の家庭に対する支援（討議・発表）
事前学習：テキストの第14講を読み、疑問点や自分の考えを整理しておく。（２時間）
事後学習：テキストや配付資料、説明の内容を見直し、実習等を通した自らの経験にあてはめながら、理解を深める。（２時間）
第15回：多様な支援ニーズを抱える子育て家庭の理解（討議・発表）
事前学習：テキストの第15講を読み、疑問点や自分の考えを整理しておく。（２時間）
事後学習：テキストや配付資料、説明の内容を見直し、実習等を通した自らの経験にあてはめながら、理解を深める。（２時間）

授業実施方法（面接授業・遠隔授業）

原則として「面接授業」を行います。
ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。
遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成　績　評　価　方　法

毎回の提出課題（80％）、小レポート（20％）

成　績　評　価　基　準

１．保育士の行う保育の専門性を背景とした保護者に対する相談、助言、情報提供、行動見本の提示等の支援（保育相談支援）について、その特性と展開を具体的に説明できるか。
２．保育士の行う子育て支援について、様々な場や対象に即した支援の内容と方法及び技術を具体的に説明できるか。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

1）授業時の課題に対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
2）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
3）小レポートに対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
4）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
□定期試験時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
5）その他
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他

実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)

テキスト、参考図書

西村重稀・青井夕貴編「新基本保育シリーズ19子育て支援」中央法規2019

その他(受講上の注意)

オフィスアワー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

保育実践演習 (Seminar on Practice in Early ChildhoodCare and Education)			担当教員	鈴木　智子、渡辺　直人
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−G−2367	2単位	3年後期	演習	選択

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　実践演習・総合演習・実習科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

探究的・協働的な態度で課題解決に取り組む意欲並びに能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□体系的な知識･技能　□論理的思考力と創造力　■人間関係形成･社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
□自己理解･自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　■キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

保育士資格（必修）

授業の内容

保育に関するこれまでの学びをグループワークで振り返り、習得した専門的知識及び技術、幅広く深い教養及び総合的な判断力、専門職としての倫理観等を整理し、発表・討論する。また保育に関する現代的課題から関心のあるテーマを設定し、グループワーク・プレゼンテーションを通して、保育のあり方を分析・検討し、考察し、各学生の課題、今後に向けて取り組むべきことを明確化する。

授業の到達目標

・これまでの保育に関する学びを振り返り、保育士として必要な専門的知識及び技術、幅広く深い教養及び総合的な判断力、専門職としての倫理観等が習得、形成されたことを確認する。
・保育に関する現代的課題について、関心のあるテーマを設定し、保育士として乳幼児をどのように理解し、また保育を進めていくべきかについて分析・検討し、考察する力を習得する。
・保育の実践における自己の課題を明確化し、必要となる基礎的な資質・能力を定着させる。

アクティブ・ラーニング

■課題解決型学習（PBL）　■討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等）　■実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：オリエンテーション、3歳未満児の理解と記録について（講義、グループワーク）（渡辺）
　事前学習：保育所保育指針「第2章保育の内容」の「1歳以上3歳未満児の保育」までを読んでおく。（2時間）
　事後学習：保育所保育指針「第1章3保育の計画及び評価」を読み、記録や評価についてまとめる。（2時間）
第2回：DVD視聴と保育記録の作成（グループワーク）（渡辺）
　事前学習：記録の書き方について実習ノートなどをもとに振り返り、質問事項をまとめておく。（2時間）
　事後学習：記録を整理して、グループワークで共有できるようにしておく。（2時間）
第3回：保育士の役割と職務内容についての理解と討論（講義、グループディスカッション、ケーススタディ）（渡辺）
　事前学習：保育所保育指針「第2章 保育の内容」の「3歳以上児の保育」を読んでおく。（2時間）
　事後学習：ディスカッションの内容を整理し、自分の考えを文章にまとめる。（2時間）
第4回：社会性と対人関係能力の重要性（講義、グループワーク、ケーススタディ）（渡辺）
　事前学習：保育実習記録から、対人関係に関する自身の課題をピックアップし、整理する。（2時間）
　事後学習：授業の振り返りを行い、自身の対人関係能力に関する具体的な改善点を考究する。（2時間）
第5回：子どもや家庭、職員間の連携と協働（講義、ケーススタディ）（渡辺）
　事前学習：保育所保育指針「第3章 子どもや家庭への支援」を読む。（2時間）
　事後学習：授業で取り上げたケースをもとに、自分が保育士としてどう行動するかまとめる。（2時間）
第6回：保育や子育て家庭に対する支援の展開（講義、ケーススタディ）（渡辺）
　事前学習：保育所保育指針「第4章 保育の提供に関する配慮事項」を読む。（2時間）
　事後学習：ケーススタディを振り返り、保護者支援のポイントを整理する。（2時間）

第７回：これまでの学びの振り返りと総合討論（グループディスカッション、発表）（渡辺）
事前学習：これまでの授業内容や自らの学びを整理し、発表資料を作成する。（２時間）
事後学習：ディスカッションを通じて得た気づきや課題を整理し、次のステップに向けた目標を立てる。（２時間）
第８回：各自の学びを振り返り、保育の現代的課題について考える（保育内容、倫理観、社会性、保護者支援と連携、職員間・他機関との連携など）（鈴木）
事前学習：授業前にこれまでの学修を振り返り、保育実践に関する自分の課題をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：授業で示された保育に関する現代的課題について、図書館やインターネットを利用して調べた内容をレポートにまとめておく。（２時間）
第９回：グループ討論（テーマ設定）（PBL、グループワーク）（鈴木）
事前学習：保育所保育指針解説第１章総則を読み、保育所保育の基本原則、幼児教育を行う施設として共有すべき事項についてまとめておく。（２時間）
事後学習：グループで役割分担を行い、テーマに沿って必要な事項を調べてまとめておく。（２時間）
第10回：グループ討論（発表内容のまとめ）（PBL、グループワーク）（鈴木）
事前学習：グループで役割分担を行い、テーマに沿って必要な事項を調べてまとめておく。（２時間）
事後学習：発表内容のまとめを振り返り、発表の練習をしておく。（２時間）
第11回：グループによる発表・全体的討論（PBL、ディスカッション、発表）（鈴木）
事前学習：予定されている発表のテーマについて調べ、質問項目をまとめておく。（２時間）
事後学習：他のグループにおける討論を振り返り、関連するテーマについて図書館やインターネットを利用して調べた内容をまとめておく。（２時間）
第12回：グループによる発表・全体的討論（PBL、ディスカッション、発表）（鈴木）
事前学習：予定されている発表のテーマについて調べ、質問項目をまとめておく。（２時間）
事後学習：他のグループにおける討論を振り返り、関連するテーマについて図書館やインターネットを利用して調べた内容をまとめておく。（２時間）
第13回：グループによる発表・全体的討論（PBL、ディスカッション、発表）（鈴木）
事前学習：予定されている発表のテーマについて調べ、質問項目をまとめておく。（２時間）
事後学習：他のグループにおける討論を振り返り、関連するテーマについて図書館やインターネットを利用して調べた内容をまとめておく。（２時間）
第14回：発表・全体的討論を踏まえた発表内容の再検討（グループワーク）（鈴木）
事前学習：全体的討論を踏まえて、自身のグループ発表の修正箇所を各自でまとめておく。（２時間）
事後学習：発表内容の修正を踏まえて、どこが不十分で、どのように修正したのかについての要点をまとめておく。（２時間）
第15回：保育に関する知識・技術・能力等に対する今後の課題の明確化（鈴木）
事前学習：各グループの発表を踏まえて、保育における現代的課題に対する質問項目をまとめておく。（２時間）
事後学習：授業内容を踏まえて、保育の現代的課題に対応するために必要な資質・能力についてレポートにまとめておく。（２時間）

授業実施方法（面接授業・遠隔授業）

原則として「面接授業」を行います。
ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。
遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成　績　評　価　方　法

平常点（20%）、グループ発表・討議（40%）、レポート（40%）

成　績　評　価　基　準

保育に関する諸課題の中からテーマを取り上げ、そのテーマについて、グループワークで分析、考察を行い、発表することができたか。
グループワークで協働して取り組み、各自が役割上の責務を果たすことができたか。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック

１）授業時の課題に対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
２）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
３）小レポートに対するフィードバックについて
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
４）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
□定期試験時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
５）その他
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他

実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）
テキスト、参考図書
必要に応じてプリントを配布する。
その他（受講上の注意）
担当者２人が分担し、計15回の授業を行う。欠席が全15回の３分の１を超えると失格となる。
オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

保育実習指導Ⅱ (Guidance for Field Practice Ⅱ)			担当教員	出村　友寛
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE-E-2362	1単位	3年後期・ 4年前期	演習	選択

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　実践演習・総合演習・実習科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

教育・保育の実践的能力・総合的表現力と実践後の改善に向けた態度

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□体系的な知識･技能　□論理的思考力と創造力　□人間関係形成･社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
■自己理解･自己管理能力　□諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　■キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

保育士資格(選択)

授業の内容

保育所の学外実習を行うための事前及び事後の指導を行う。事前指導では、保育実習の意義と目的、実習の際の留意事項、実習日誌・日案の書き方を理解する。実習終了後は、グループ討議及び個別指導を行い、実習を振り返りながらさらに研鑽すべき課題を明らかにする。

授業の到達目標

事前指導では、保育実習の意義と目的を説明することができる。
実習日誌及び指導計画の書き方、エピソード記録の書き方の基本を身につける。
事後指導では、振り返りシートを通じて自己の長所と課題を理解し、さらに研鑽すべき課題を明らかにする。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習(PBL)　■討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等)　■グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等)　■発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等)　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：保育所実習オリエンテーション①(実習の意義、目的の理解)
　事前学習：2年生の「保育実習Ⅰa」を振り返り、2回目の実習の目標をまとめておく。(1時間)
　事後学習：授業の内容及び保育所保育指針をもとに実習の目標の充実を図る。(1時間)
第2回：保育所実習オリエンテーション②(実習の内容の理解―グループワーク)
　事前学習：配属クラスの年齢を想定して、実習の内容(段階)についてまとめておく。(2時間)
　事後学習：グループワークで議論したことをもとに実習の内容をまとめる。(2時間)
第3回：保育所実習オリエンテーション③(演習課題の討議―グループワーク)
　事前学習：次回の授業で演習課題を討議するため、自分なりの意見をまとめておく。(2時間)
　事後学習：グループワークで議論したことをもとに課題をまとめ直す。(2時間)
第4回：保育所実習オリエンテーション④(実習の留意事項)
　事前学習：実習における心構や留意事項をまとめておく。(2時間)
　事後学習：授業の内容をふまえ指導計画の作成を行う。(2時間)
第5回：保育所実習オリエンテーション⑤(エピソード記述)
　事前学習：配布資料を読み、エピソード記述について質問項目をまとめておく。(2時間)
　事後学習：資料を読み直し、わからないことは図書館で調べたり担当教員に質問する。(2時間)
第6回：保育所実習の事後指導①(個別振り返りシート)
　事前学習：実習を終えて、実習ノートをもとに自らの評価を行っておく。(2時間)
　事後学習：個別振り返りシートを作成する。(2時間)
第7回：保育所実習の事後指導②(グループレポート集の作成))
　事前学習：グループメンバーと協働してレポート集を作成作業を進める。(2時間)
　事後学習：グループレポート集の完成に向けて作業を進める。(2時間)

第８回：保育所実習の事後指導③（実習のまとめ）
事前学習：発表の準備を行う。（２時間）
事後学習：実習を振り返り、これからの学修の課題を明らかにする。（２時間）

授業実施方法（面接授業・遠隔授業）

原則として「面接授業」を行います。
ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。
遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成　績　評　価　方　法

課題レポート（50%）　平常点（50%）
（平常点は、授業への参加状況、受講態度、提出物等を総合して判断します。）

成　績　評　価　基　準

事前指導では、保育実習の意義と目的を説明することができるか。
実習日誌、指導計画、エピソード記録の書き方の基本を身につけられたか。
事後指導では、振り返りシートを通して自己の長所と課題を認識し、さらに研鑽すべき課題を明らかにすることができたか。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック

１）授業時の課題に対するフィードバックについて
■授業時　■仁大eラーニング　□メール　□その他
２）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
■授業時　■仁大eラーニング　□メール　□その他
３）小レポートに対するフィードバックについて
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
４）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
□定期試験時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
５）その他
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他

実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）

テ　キ　ス　ト　、　参　考　図　書

授業において紹介する

その他（受講上の注意）

この科目は、「保育実習Ⅱ」と組み合わせて履修すること。
やむをえず欠席するときは、大学に連絡すること。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

保育実習Ⅱ (Field PracticeⅡ(Day Care Center))			担当教員	出村　友寛
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−E−2364	2単位	3年後期	実習	選択

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　実践演習・総合演習・実習科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

教育・保育の実践的能力・総合的表現力と実践後の改善に向けた態度

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□体系的な知識･技能　□論理的思考力と創造力　□人間関係形成･社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
■自己理解･自己管理能力　□諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　■キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

保育士資格(選択)

授業の内容

3年次2～3月に2週間の保育所実習を行う。

授業の到達目標

この実習科目は、保育士資格取得のための選択必修科目としての保育所実習であり、「保育実習Ⅰa」を経て、さらに発展的に課題の解決に取り組む実習科目である。「保育実習Ⅰa」の経験を踏まえ、乳幼児に対する理解、保育士の職務に対する理解をよりいっそう深めることが目標である。2週間の期間で、「見学・観察」、「参加」、「部分」、「指導」の各段階の実習を行うが、特に「部分」、「指導」の各段階を多く取り入れ、より実践的な能力を身に付ける。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習(PBL)　□討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等)　□グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等)　□発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等)　■実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

保育所の生活に参加し、乳幼児への理解を深めるとともに、保育所の機能とそこでの保育士の職務について学ぶため、次の内容を経験し、学習する。

1．保育全般に参加し、保育技術を習得する。
2．子どもの個人差について理解し、対応方法を習得する。特に発達の遅れや生活環境にともなう子どものニーズを理解し、その対応方法を学ぶ。
3．指導計画を立案し、実際に実践する。
4．記録にもとづいて振り返りを行い、自己の学習課題を明らかにする。
5．子どもの家族とのコミュニケーションの方法を具体的に習得する。
6．地域社会に対する理解を深め、連携の方法について具体的に学ぶ。
7．子どもの最善の利益への配慮を学ぶ。
8．保育士としての職業倫理を理解する。
9．保育所の保育士に求められる資質・能力・技術に照らし合わせて、自己の課題を明確化する。実習ノートを記載しながら振り返りを行う。

事前学習：部分実習等の指導計画を立案し、実習に向けた準備を行うこと。(5時間)
事後学習：実習ノートを記載し、振り返りを行うこと。(5時間)

授業実施方法(面接授業・遠隔授業)

原則として「面接授業」を行います。
ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。
遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成　績　評　価　方　法

実習園からの評価、教員の巡回指導の記録、実習日誌、出勤状況などにもとづき、総合的に評価する。

成　績　評　価　基　準

実習評価表の項目（５項目及び総合評価）による。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

1）授業時の課題に対するフィードバックについて
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
2）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
3）小レポートに対するフィードバックについて
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
4）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
□定期試験時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
5）その他（実習に対するフィードバックについて）
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　■その他（実習における評価および課題は、「保育実習指導Ⅱ」においてフィードバックする）

実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)

テ　キ　ス　ト、参　考　図　書

なし

その他(受講上の注意)

大学及び実習保育所から指示された留意事項を守り、誠実に実習を行うこと。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

保育実習指導Ⅲ (Guidance for Field Practice(Childcare Institution))			担当教員	乙部　貴幸
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−E−2363	1単位	3年後期・4年前期	演習	選択

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　実践演習・総合演習・実習科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

教育・保育の実践的能力・総合的表現力と実践後の改善に向けた態度

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□体系的な知識･技能　□論理的思考力と創造力　□人間関係形成･社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
■自己理解･自己管理能力　□諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　■キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

保育士資格（選択）、児童厚生一級指導員（必修）

授業の内容

保育所以外の児童福祉施設等（児童館を含む）の学外実習を行うための事前及び事後の指導を行う。事前指導では、保育実習の意義と目的、実習の際の留意事項、実習日誌・日案の書き方を理解する。実習終了後は、グループ討議及び個別指導を行い、実習を振り返りながらさらに研鑽すべき課題を明らかにする。

授業の到達目標

事前指導では、保育実習の意義と目的を説明することができる。
実習日誌及び指導計画の書き方、エピソード記録の書き方の基本を身につける。
事後指導では、振り返りシートを通じて自己の長所と課題を理解し、さらに研鑽すべき課題を明らかにする。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等）　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：施設実習オリエンテーション①（児童館を含む施設実習の意義、目的の理解）
　事前学習：2年生の「保育実習Ⅰb」を振り返り、2回目の実習の目標をまとめておく。（2時間）
　事後学習：授業の内容をもとに実習先の種別ごとに、その役割についてまとめる。（2時間）
第2回：施設実習オリエンテーション②（児童館の役割について）
　事前学習：次回の授業で児童館を取り上げるので、児童館の役割についてまとめておく。（1時間）
　事後学習：授業の内容をもとに児童館における実習の内容（段階）をまとめる。（2時間）
第3回：施設実習オリエンテーション③（DVD児童館の役割―グループワーク）
　事前学習：次回の授業で児童館を取り上げるので、児童厚生員の職務内容についてまとめておく。（1時間）
　事後学習：グループワークでの議論をもとに実習の目標をまとめ直す。（2時間）
第4回：施設実習オリエンテーション④（実習の内容、実習ノート）
　事前学習：実習における部分実習の指導案を作成する。（2時間）
　事後学習：実習ノートの書き方を復習する。（2時間）
第5回：施設実習オリエンテーション⑤（施設実習の留意事項―ゲストスピーカー）
　事前学習：次回の授業で現職の職員の講義を聴くので、質問項目をまとめておく。（2時間）
　事後学習：講義をふまえて、小レポートを作成する。（2時間）
第6回：施設実習の事後指導①（個別振り返りシート）
　事前学習：実習を終えて、実習ノートをもとに自らの評価を行っておく。（2時間）
　事後学習：個別振り返りシートを作成する。（2時間）
第7回：施設実習の事後指導②（グループレポート集の作成）
　事前学習：グループメンバーと協働してレポート集を作成作業を進める。（2時間）
　事後学習：グループレポート集の完成に向けて作業を進める。（2時間）

第８回：施設実習の事後指導③（実習のまとめ）
事前学習：発表の準備を行う。（２時間）
事後学習：実習を振り返り、これからの学修の課題を明らかにする。（２時間）

授業実施方法（面接授業・遠隔授業）

原則として「面接授業」を行います。
ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。
遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成　績　評　価　方　法

課題レポート（50%）　平常点（50%）
（平常点は、授業への参加状況、受講態度、提出物等を総合して判断します。）

成　績　評　価　基　準

事前指導では、施設実習の意義と目的を説明することができるか。
実習日誌、指導計画の書き方の基本を身につけられたか。
事後指導では、振り返りシートを通して自己の長所と課題を認識し、さらに研鑽すべき課題を明らかにすることができたか。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック

１）授業時の課題に対するフィードバックについて
■授業時　■仁大eラーニング　□メール　□その他
２）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
■授業時　■仁大eラーニング　□メール　□その他
３）小レポートに対するフィードバックについて
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
４）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
□定期試験時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
５）その他
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他

実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）

テ　キ　ス　ト　、　参　考　図　書

授業において紹介する

その他（受講上の注意）

この科目は、「保育実習Ⅲ」と組み合わせて履修すること。
やむをえず欠席するときは、大学に連絡すること。
事後指導は４年次の前期時間割の中で実施する。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

保育実習Ⅲ (Field Practice Ⅲ (Childcare Institution))			担当教員	乙部　貴幸
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−E−2365	2単位	3年後期	実習	選択

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　実践演習・総合演習・実習科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

教育・保育の実践的能力・総合的表現力と実践後の改善に向けた態度

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□体系的な知識･技能　□論理的思考力と創造力　□人間関係形成･社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
■自己理解･自己管理能力　□諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　■キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

保育士資格（選択）、児童厚生一級指導員（必修）

授業の内容

3年次2～3月に10日間の施設実習（または児童館における実習）を行う。

授業の到達目標

この実習科目は、保育士資格取得のための選択必修科目としての施設実習であり、「保育実習Ⅰb」を経て、さらに発展的に課題の解決に取り組む実習科目である。特に、ケースに応じた個別的な関わりを通して児童の理解を深め、保育士及び他職員との協力関係による児童への援助的な働きかけを実践的に理解する。また、実習施設の中に、社会福祉関係諸法令の規定に基づいて設置されている施設も含め、幅広い観点からケアの実践的能力を身に付ける。
なお、児童厚生員資格の取得を希望する人は、児童館において実習を行い、児童館の役割や児童厚生員の職務内容を理解する。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　□グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　□発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等）　■実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

保育所以外の児童福祉施設または児童館において、子どもへの理解を深めるとともに、施設の機能とそこでの保育士、児童厚生員の職務について学ぶため、次の内容を経験し、学習する。
1．養護全般に参加し、養護技術を習得する。
2．子どもの個人差について理解し、対応方法を習得する。特に発達の遅れや生活環境にともなう子どものニーズを理解し、その対応方法を学ぶ。
3．援助計画を立案し、実際に実践する。
4．記録にもとづいて振り返りを行い、自己の学習課題を明らかにする。
5．子どもの家族とのコミュニケーションの方法を具体的に習得する。
6．地域社会に対する理解を深め、連携の方法について具体的に学ぶ。
7．子どもの最善の利益を具体化する方法について学ぶ。
8．保育士、児童厚生員としての倫理を具体的に学ぶ。
9．児童福祉施設等の保育士、児童厚生員に求められる資質・能力・技術に照らし合わせて、自己の課題を明確化する。実習ノートを記載しながら振り返りを行う。
事前学習：部分実習等の指導計画を立案し、実習に向けた準備を行うこと。（5時間）
事後学習：実習ノートを記載し、振り返りを行うこと。（5時間）

授業実施方法(面接授業・遠隔授業)

原則として「面接授業」を行います。
ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。
遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成　績　評　価　方　法

実習施設からの評価、教員の巡回指導の記録、実習日誌、出勤状況などにもとづき、総合的に評価する。

成　績　評　価　基　準

実習評価表の項目（５項目及び総合評価）による。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

1）授業時の課題に対するフィードバックについて
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
2）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
3）小レポートに対するフィードバックについて
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
4）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
□定期試験時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
5）その他（実習に対するフィードバックについて）
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　■その他（実習における評価および課題は、「保育実習指導Ⅲ」においてフィードバックする）

実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)

テ　キ　ス　ト、参　考　図　書

なし

その他(受講上の注意)

大学及び実習施設から指示された留意事項を守り、誠実に実習を行うこと。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

事前・事後指導(幼稚園) (Guidance for Field Practice(Preschool))			担当教員	鈴木　智子、中野　研也
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−E−2109	1単位	1年･3年	実習	選択

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　実践演習・総合演習・実習科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>　教育実践に関する科目

<科目に含めることが必要な事項>　教育実習

求める学習成果(教育目標)

教育・保育の実践的能力・総合的表現力と実践後の改善に向けた態度

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□体系的な知識･技能　□論理的思考力と創造力　■人間関係形成･社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
■自己理解･自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

幼稚園教諭一種免許状(必修)

授業の内容

この授業は「教育実習Ⅰ(幼稚園)」(1年次)及び「教育実習Ⅱ(幼稚園)」(3年次)の事前事後指導として実施されるものである。幼稚園実習の目的・内容・方法及び留意事項などを理解するとともに、実習日誌の記録や指導計画の作成をはじめとして、実践に必要な基礎的な技能・技法についても学習する。また、教育実習を評価・反省することを通して、実習後の学習課題を明確にしていくための場でもある。

授業の到達目標

・実習の目的や意義を理解する。
・実習に必要な知識や技能を修得する。
・実習に必要な態度や心構えを身につける。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習(PBL)　□討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等)　■グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等)　■発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等)　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

1年次
第1回：教育実習オリエンテーション・教育実習の意義と目的を理解する。(伊東、中野)
第2回：4段階実習(見学・観察実習、参加実習、部分実習、指導実習)の意義・役割とその方法について理解する。(伊東、中野)
第3回：実習ノート(日誌)等の記録の取り方、記入の仕方を学習する。(伊東、中野)
第4回：指導案(週案・日案・設定保育案)の作成法、模擬保育実践を仮定して、立案を試みる。(伊東、中野)
第5回：模擬保育①(伊東、中野)(グループワーク)
第6回：模擬保育②(伊東、中野)(グループワーク)
第7回：模擬保育③(伊東、中野)(グループワーク)
第8回：模擬保育④(伊東、中野)(グループワーク)
第9回：研究テーマ、実習心構えの作成及び実習に臨む際、子どもの健康面、安全面などへの配慮、留意すべき点の確認をする。(伊東、中野)
第10回：実習報告会(2年生の実習体験報告を聞き、疑問点等の質問をする)。(伊東、中野)
第11回：スキルアップ講座①(学外指導者による実習に対する講演)(伊東、中野)
第12回：スキルアップ講座②(学外指導者による実践的指導)(伊東、中野)

3年次
第1回：教育実習オリエンテーション・実習の目標、課題の持ち方、観察の仕方等の再学習をする(鈴木智子・中野研也)
第2回：実習ノート(日誌)、指導案について教育実習Ⅱの様式で再学習する(鈴木智子・中野研也)
第3回：実習園への事前訪問内容や心構えを確認する(鈴木智子・中野研也)

第４回：実習ノート（日誌）の書き方について教育実習Ⅱの様式で学習をする（鈴木智子・中野研也）
第５回：指導案の作成について教育実習Ⅱの様式で学習する（鈴木智子・中野研也）
第６回：模擬保育を想定して指導案を実際に作成する（鈴木智子・中野研也）
第７回：模擬保育①（鈴木智子・中野研也）
第８回：模擬保育②（鈴木智子・中野研也）
第９回：模擬保育③（鈴木智子・中野研也）
第10回：教育実習Ⅱオリエンテーションについて（鈴木智子・中野研也）
第11回：まとめ・お礼状の書き方について（鈴木智子・中野研也）
・模擬保育の指導案を作成し、実施に必要なものを準備する。
・模擬保育の練習を行う。
・実習の心構えや研究テーマを作成する。

授業実施方法（面接授業・遠隔授業）

原則として「面接授業」を行います。
ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。
遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成　績　評　価　方　法

課題提出物（40%）、模擬保育（40%）、平常点（20%）
（平常点は、授業への参加状況、受講態度、提出物の提出状況等を総合して判断します。）

成　績　評　価　基　準

・実習の意義や目的を理解している。
・指導案がしっかり作成されている。
・実習に必要な提出物が提出されている。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック

１）授業時の課題に対するフィードバックについて
■授業時　■仁大eラーニング　□メール　□その他
２）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
３）小レポートに対するフィードバックについて
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
４）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
□定期試験時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
５）その他
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他

実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）

テ　キ　ス　ト　、　参　考　図　書

林幸範、石橋裕子編　『最新　保育園幼稚園の実習　完全マニュアル』成美堂出版　2018年
＜参考図書＞
・文部科学省　『幼稚園教育要領』　2017年
・仁愛大学実習指導委員会編　『教育実習（幼稚園）実習の手引き』

その他（受講上の注意）

１年次の受講者は、３年次も受講すること。評価は３年次末にあわせて行う。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

教育実習Ⅱ（幼稚園） （Teaching PracticeⅡ（Preschool））			担当教員	鈴木　智子、中野　研也
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−E−2313	3単位	3年前期	実習	選択

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　実践演習・総合演習・実習科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>　教育実践に関する科目

<科目に含めることが必要な事項>　教育実習

求める学習成果（教育目標）

教育・保育の実践的能力・総合的表現力と実践後の改善に向けた態度

身につけることを目指す社会的・職業的能力（汎用的能力）

■体系的な知識･技能　□論理的思考力と創造力　■人間関係形成･社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
■自己理解･自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　■キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

幼稚園教諭一種免許状（必修）

授業の内容

3年次9月に公私立幼稚園等において、13日間（単位取得必要日数10日間）の教育実習を行う。

授業の到達目標

・幼児の心身の発達、興味や関心、生活や遊び、特性を理解する。
・幼児と適切に関わることができる。
・保育の方法と技術を修得する。
・保育に取り組む姿勢を修得する。
・積極的で適切な実習中の態度を身につける。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　□グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　□発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等）　■実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

教育実習は次に掲げる目的をもって幼稚園教諭として必要な資質・能力・技術を身につけ、教職課程を学ぶ学生の問題意識の構築や専門的学習の必要性を知る機会とする（鈴木智子・中野研也）。
（1）実習先の運営機構、教育方針、指導計画、事務分掌、教育環境等を理解する。
（2）グループ別、個人別等の形態により、観察、参加、指導、研究授業、教材及び指導法の研究、指導案の作成等の方法を通じて、学級経営の在り方を理解する。
（3）園の行事・運営にかかる実践活動への参加をする。
（4）保護者、地域社会と幼稚園の連携、相互理解等における教師の関わり方などを観察、把握する。・実習ノート（日誌）を毎日記録し、実習園に提出する。
・指導案を作成し、指導者の助言により修正を繰り返す。
・部分実習等の責任実習の準備を行う。
・ピアノ課題曲の練習を行う。

授業実施方法（面接授業・遠隔授業）

原則として「面接授業」を行います。ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成績評価方法

実習園の評価（評価表）と大学の評価を総合して評価する。

成 績 評 価 基 準

・幼児の心身の発達、興味や関心、生活や遊び、特性を理解できたか。
・幼児と適切に関わることができたか。
・保育の方法と技術を修得できたか。
・保育に取り組む姿勢がよかったか。
・実習中の態度がよかったか。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

1）授業時の課題に対するフィードバックについて
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
2）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
3）小レポートに対するフィードバックについて
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他（添削、コメントを書いて返却）
4）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
□定期試験時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
5）その他（実習に対するフィードバックについて）
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　■その他（実習における評価及び課題は「事前事後指導（幼稚園）」においてフィードバックする。）

実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)

テ キ ス ト 、 参 考 図 書

文部科学省　『幼稚園教育要領』
子ども教育学科実習指導委員会編　『教育実習（幼稚園）実習の手引き』
子ども教育学科実習指導委員会編　『教育実習Ⅱ（幼稚園）実習ノート』

その他(受講上の注意)

教育実習は、卒業後、教員として就職することを強く希望する学生のために、実習園の教育的配慮・好意によって受け入れていただくものである。
受講要件として、履修の前年度までに「教育実習Ⅰ（幼稚園）」を修得済みであること。また、その他の受講要件として、学生便覧、実習要項に記載されている科目の履修が必要である。

オ フ ィ ス ア ワ ー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

事前・事後指導(小学校) (Guidance for Field Practice(Elementary))			担当教員	草桶　勇人、平岡　正実
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−E−2361	1単位	3年後期･4年	実習	選択

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　実践演習・総合演習・実習科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>　教育実践に関する科目

<科目に含めることが必要な事項>　教育実習

求める学習成果(教育目標)

教育・保育の実践的能力・総合的表現力と実践後の改善に向けた態度

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□体系的な知識･技能　□論理的思考力と創造力　■人間関係形成･社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
■自己理解･自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　■キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

小学校教諭一種免許状（必修）

授業の内容

事前指導として、教育実習の意義についての指導及び実地実習に際しての具体的指導を大学及び実習校で行う。また、教育実践場面に関わる学習として、学校参観・授業参観を行う。事後指導として、授業を中心とした教育実習の成果・課題を踏まえ、教職に必要な事項について実践的な指導を行う。

授業の到達目標

・事前学習を通して教育実習の意義を理解し、実地実習に際しての予備的な学習を行う。学校参観・授業参観を通して、学校教育について理解を深め、実践的知識を身に付ける。
・事後指導を通して各自の実習の成果・課題を確認し、それを踏まえ教職についての理解を深める。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習（PBL）　■討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等）　■実習、フィールドワーク　■実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

[事前指導]
第1回：小学校教育実習の意義、目的、内容（草桶・平岡）
第2回：教育実習の準備と心得（草桶・平岡）
第3回：授業参観の目的とその観点（討議）（草桶・平岡）
第4回：協力校における授業参観（フィールドワーク）（草桶・平岡）
第5回：協力校における授業参観（フィールドワーク）（草桶・平岡）
第6回：授業参観しての意見交換（グループワーク、討議）（草桶・平岡）
第7回：協力校における授業参観（フィールドワーク）（草桶・平岡）
第8回：教材研究と学習指導案の作成方法（一般）（草桶・平岡）
第9回：教材研究と学習指導案の作成方法（算数）（草桶・平岡）
第10回：模擬授業（実技、討議）（草桶・平岡）
第11回：特別講義「教育実習の心得」(小学校教諭を招いての特別講義)（草桶・平岡）
第12回：ICTを活用した模擬授業（グループワーク、実習、実技）（草桶・平岡）
第13回：実習日記の記入方法及び教育実習の具体的留意点（草桶・平岡）
第14回：教育実習直前指導（草桶・平岡）

[事後指導]
第15回：教育実習の振り返り①（実習ノートのまとめをする。各自が実習の成果、課題を明確にする。（草桶・平岡）
第16回：教育実習の振り返り②（実習ノートのまとめをする。各自が実習の成果、課題を明確にする。（草桶・平岡）
第17回：教育実習反省会①（課題別反省会を実施する。（グループワーク、討議）（草桶・平岡）
第18回：教育実習反省会②（課題別反省会を実施する。（グループワーク、討議）（草桶・平岡）

第19回：教育実習反省会③（課題別反省会を実施する。（グループワーク、討議）（草桶・平岡）
第20回：教育実習報告書作成①（各自の実習の成果、課題を教育実習報告書にまとめる。（グループワーク、討議）（草桶・平岡）第21回：教育実習報告書作成②（各自の実習の成果、課題を教育実習報告書にまとめる。（グループワーク、討議）（草桶・平岡）
第22回：教育実習の総括①（全体反省会、評価表をもとに全般的講評、報告書を発表・討議し、卒業までの課題を明確にする。（グループワーク、討議）（草桶・平岡）
第23回：教育実習の総括②（全体反省会、評価表をもとに全般的講評、報告書を発表・討議し、卒業までの課題を明確にする。（草桶・平岡）

授業実施方法（面接授業・遠隔授業）

原則として「面接授業」を行います。
ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。
遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成　績　評　価　方　法

レポート（60%）、各活動への取り組み状況（40%）で総合的に評価する。

成　績　評　価　基　準

・事前指導で教育実習の意義を理解し、実践的知識を習得できているか。
・事後指導で教育実習の成果や課題を踏まえ、教職についての理解が深まったか。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック

1）授業時の課題に対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
2）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
3）小レポートに対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
4）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
□定期試験時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
5）その他
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他

実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）

テ　キ　ス　ト　、　参　考　図　書

小学校教育実習の手引き
小学校教科書（国語，社会，算数，理科）

その他（受講上の注意）

教育実習校は、実習生が実習に必要な学習内容を十分に習得し、教育について深く理解していることを前提として迎えてくれる。そして、実習生には教職に就きたいという強い意志を持って臨むことが求められる。
教育実習に全力で臨むためにも、事前指導で十分準備を、事後指導で実習の省察をすることが重要である。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

子ども教育特別演習Ⅰ (Seminar Ⅰ)			担当教員	伊東　知之
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE-G-2315	2単位	3年通年	演習	必修

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　特別演習・卒業研究

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

探究的・協働的な態度で課題解決に取り組む意欲並びに能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□体系的な知識･技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成･社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
■自己理解･自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

授業の内容

造形・美術養育等の分野で自分自身がどのようなことに興味や関心があるのかを考え、各自が卒業研究に向けて研究を深めていく内容、テーマを探っていく。併せてこれまでの卒業研究を参考にしながらテーマや自分にあった研究の方法についても考えていく。

授業の到達目標

・自分の興味や関心のある内容を説明できる。
・研究の方法について説明できる。
・研究の計画を立てることができる。

アクティブ・ラーニング

■課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　□グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等）　□実習、フィールドワーク　■実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：オリエンテーション
　事前学習：自分の興味のあるテーマについて考えをまとめておく。（2時間）
　事後学習：研究テーマについて概要をまとめる。（2時間）
第2回：美術・造形について（PBL、実技）
　事前学習：美術について疑問点をまとめておく。（2時間）
　事後学習：授業の内容についてまとめておく。（2時間）
第3回：美術・造形教育について（PBL、実技）
　事前学習：美術・造形教育についての疑問点をまとめておく。（2時間）
　事後学習：授業の内容をまとめておく。（2時間）
第4回：作品、作家研究①（PBL、実技）
　事前学習：自分の興味のある作家、作品をまとめておく。（2時間）
　事後学習：授業内容をまとめておく。（2時間）
第5回：作品、作家研究②（PBL、実技）
　事前学習：自分の興味のある作家、作品について調べておく。（2時間）
　事後学習：授業内容をまとめておく。（2時間）
第6回：作品、作家研究③（PBL、実技）
　事前学習：自分の興味のある作家、作品について深く調べる。（2時間）
　事後学習：授業の内容をまとめておく。（2時間）
第7回：作品、作家研究④（PBL、実技）
　事前学習：調べたことを発表できるようにまとめておく。（2時間）
　事後学習：質問があった項目について調べておく。（2時間）

第８回：作品、作家研究⑤（PBL、実技）
事前学習：発表用の資料を作成する。（２時間）
事後学習：質問項目につて調べ、まとめておく。（２時間）
第９回：文献研究①（PBL、実技）
事前学習：自分のテーマに合う文献、資料をまとめておく。（２時間）
事後学習：授業内容をまとめておく。（２時間）
第10回：文献研究②（PBL、実技）
事前学習：テーマに合う文献、資料を調べるておく。（２時間）
事後学習：授業の内容をまとめておく。（２時間）
第11回：文献研究③（PBL、実技）
事前学習：自分のテーマに合う文献、資料を調べて発表できるようにしておく。（２時間）
事後学習：質問項目についてまとめておく。（２時間）
第12回：文献研究④（PBL、実技）
事前学習：自分のテーマについて文献、資料を調べて発表用の資料を作成する。（２時間）
事後学習：質問のあった項目について調べておく。（２時間）
第13回：文献研究⑤（PBL、実技）＜br＞事前学習：発表用の資料を作成する。
事後学習：質問項目について調べておく。（２時間）
第14回：研究発表（発表）
事前学習：これまで調べたことをまとめておく。（２時間）
事後学習：発表用の資料を作成する。（２時間）
第15回：研究発表（発表）
事前学習：発表用の資料を作成する。（２時間）
事後学習：質問等を調べ、資料に追加しておく。（２時間）

授業実施方法（面接授業・遠隔授業）

原則として「面接授業」を行います。
ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。
遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成　績　評　価　方　法

発表内容（80%）、平常点（20%）
（平常点は、授業への参加状況、受講態度、提出物の提出状況等を総合して判断します。）

成　績　評　価　基　準

・研究内容について説明できるか。
・今後の計画を説明できる。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック

１）授業時の課題に対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
２）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
３）小レポートに対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
４）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
□定期試験時　□仁大eラーニング　□メール　■その他（添削、コメントを書いて返却）
５）その他
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他

実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）

テキスト、参考図書

必要に応じて指示する。

その他（受講上の注意）

「子どもと造形」「保育内容研究（表現Ｂ）」「図画工作Ｉ」「美術の世界」の単位を取得しており、「図画工作科教育法」を履修していることが望ましい。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

子ども教育特別演習Ⅰ (Seminar Ⅰ)			担当教員	鈴木　智子
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE-G-2315	2単位	3年通年	演習	必修

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　特別演習・卒業研究

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

探究的・協働的な態度で課題解決に取り組む意欲並びに能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識･技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成･社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解･自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

授業の内容

専門分野に関するこれまでの学修を基礎に、先行研究・実践の事例も参考にしながら、専門的研究を進める際の課題の選び方、課題解決へのアプローチの仕方について学ぶ。この演習を通して、各自がより深く研究しようとするテーマを見つける。
幼児教育や保育の現場における諸問題や子どもの発達と援助について興味・関心を掘り起こし、問題意識を育む。そして、深く多面的な理解を育むために資料や情報を収集しつつ、問題解決についての考えを展開し構築していく。専門分野における理解を深めるとともに、少人数、双方向型の教育によって発表や集団討議を繰り返すことで、問題意識と関連させた内省が生まれる。それを契機として、幼児教育者を志す自身の在り方や生き方についても問いかけができるように切磋琢磨する。

授業の到達目標

幼児教育・保育にかかわる諸問題について理解を深める。
多様な研究方法について理解を深める。
一つのテーマに基づいて問題意識を持ち、討論する力を養う。
卒業研究につながる各自の研究テーマを明確化する。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習（PBL）　■討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　□グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等）　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：オリエンテーション
　事前学習：これまでの学習を振り返り、探求したい自己のテーマを決めてくる（2時間）
　事後学習：授業内容を踏まえて、探求したい自己のテーマに関連する書籍等を読む（2時間）
第2回：文献検索、先行研究の読み方
　事前学習：探求したいテーマに関するキーワードを用意する（2時間）
　事後学習：授業内容を踏まえて、テーマに関連する文献を検索し、講読する文献を用意する（2時間）
第3回：文献講読 1
　事前学習：テーマに関する文献のレジュメを作成する（2時間）
　事後学習：授業内容を踏まえて、自身のレジュメを修正する（2時間）
第4回：文献講読 2
　事前学習：テーマに関する文献のレジュメを作成する（2時間）
　事後学習：授業内容を踏まえて、自身のレジュメを修正する（2時間）
第5回：文献講読 3
　事前学習：テーマに関する文献のレジュメを作成する（2時間）
　事後学習：授業内容を踏まえて、自身のレジュメを修正する（2時間）

第６回：文献講読 4
　　事前学習：テーマに関する文献のレジュメを作成する（２時間）
　　事後学習：授業内容を踏まえて、自身のレジュメを修正する（２時間）
第７回：文献講読 5
　　事前学習：テーマに関する文献のレジュメを作成する（２時間）
　　事後学習：授業内容を踏まえて、自身のレジュメを修正する（２時間）
第８回：文献講読 6
　　事前学習：テーマに関する文献のレジュメを作成する（２時間）
　　事後学習：授業内容を踏まえて、自身のレジュメを修正する（２時間）
第９回：中間のまとめ
　　事前学習：これまでの授業内容を振り返り、テーマに関して得られた知識をまとめておく（２時間）
　　事後学習：授業内容を踏まえて、問題意識を明確にする（２時間）
第10回：研究発表と討論 1
　　事前学習：テーマに関する先行研究をまとめてレジュメを作成する（２時間）
　　事後学習：授業での討論を踏まえて、レジュメを見直し、先行研究のまとめを作成する（２時間）
第11回：研究発表と討論 2
　　事前学習：テーマに関する先行研究をまとめてレジュメを作成する（２時間）
　　事後学習：授業での討論を踏まえて、レジュメを見直し、先行研究のまとめを作成する（２時間）
第12回：研究発表と討論 3
　　事前学習：テーマに関する先行研究をまとめてレジュメを作成する（２時間）
　　事後学習：授業での討論を踏まえて、レジュメを見直し、先行研究のまとめを作成する（２時間）
第13回：研究発表と討論 4
　　事前学習：テーマに関する先行研究をまとめてレジュメを作成する（２時間）
　　事後学習：授業での討論を踏まえて、レジュメを見直し、先行研究のまとめを作成する（２時間）
第14回：研究発表と討論 5
　　事前学習：テーマに関する先行研究をまとめてレジュメを作成する（２時間）
　　事後学習：授業での討論を踏まえて、レジュメを見直し、先行研究のまとめを作成する（２時間）
第15回：まとめ
　　事前学習：これまでの授業内容を振り返り、テーマに関して得られた知識をまとめておく（２時間）
　　事後学習：授業内容を踏まえて、問題意識を明確にする（２時間）

授業実施方法（面接授業・遠隔授業）

原則として「面接授業」を行います。
ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。
遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成　績　評　価　方　法

発表内容（50%）、討論への参加態度（30%）、平常点（20%）
（平常点は、授業への参加状況、受講態度等を総合して判断する）

成　績　評　価　基　準

幼児教育にかかわる諸問題について理解を深めることができているか。
多様な研究方法について理解を深めることができているか。
一つのテーマに基づいて問題意識を持ち、討論する力を養うことができているか。
卒業研究につながる各自の研究テーマを明確化できているか。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック

１）授業時の課題に対するフィードバックについて
　■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
２）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
　■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
３）小レポートに対するフィードバックについて
　□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
４）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
　□定期試験時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
５）その他
　□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他

実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）

テキスト、参考図書
テキストは用いない。受講生のテーマに応じて、適宜参考図書を紹介する。
その他（受講上の注意）
オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

子ども教育特別演習Ⅰ (Seminar Ⅰ)			担当教員	高野　秀晴
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE-G-2315	2単位	3年通年	演習	必修

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　特別演習・卒業研究

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

探究的・協働的な態度で課題解決に取り組む意欲並びに能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□体系的な知識･技能　■論理的思考力と創造力　■人間関係形成･社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
■自己理解･自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

授業の内容

専門分野に関するこれまでの学修を基礎に、先行研究・実践の事例も参考にしながら、専門的研究を進める際の課題の選び方、課題解決へのアプローチの仕方について学ぶ。この演習を通して、各自がより深く研究しようとするテーマを見つける。
本演習では、とりわけ文献学的な手法を用いて課題にアプローチしていく。文献の蒐集、読解、さらなる蒐集を行うことにより、文献を批判的に読む技術を身につける。また、文献にもとづいた討論の仕方についても考える機会としたい。

授業の到達目標

相手の意見を聞いたうえで、自らの意見を論理的に述べることができる。
自らが興味のあることを研究課題としてまとめることができる。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習（PBL）　■討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　□グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等）　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：オリエンテーション
　事前学習：研究テーマを模索したうえで、関連文献を調べておく。（2時間）
　事後学習：研究テーマを練り上げ、関連文献を絞り込む。（2時間）
第2回：文献の探し方について
　事前学習：研究計画を作成する。（2時間）
　事後学習：研究テーマに沿った文献を検索する。（2時間）
第3回：文献講読（発表、討議）
　事前学習：講読文献を精読し、疑問点などをまとめておく。（2時間）
　事後学習：当日の議論を踏まえて、講読した文献を読み直す。（2時間）
第4回：文献講読（発表、討議）
　事前学習：講読文献を精読し、疑問点などをまとめておく。（2時間）
　事後学習：当日の議論を踏まえて、講読した文献を読み直す。（2時間）
第5回：文献講読（発表、討議）
　事前学習：講読文献を精読し、疑問点などをまとめておく。（2時間）
　事後学習：当日の議論を踏まえて、講読した文献を読み直す。（2時間）
第6回：文献講読（発表、討議）
　事前学習：講読文献を精読し、疑問点などをまとめておく。（2時間）
　事後学習：当日の議論を踏まえて、講読した文献を読み直す。（2時間）
第7回：文献講読（発表、討議）
　事前学習：講読文献を精読し、疑問点などをまとめておく。（2時間）
　事後学習：当日の議論を踏まえて、講読した文献を読み直す。（2時間）

第８回：文献講読（発表、討議）
　　事前学習：講読文献を精読し、疑問点などをまとめておく。（２時間）
　　事後学習：当日の議論を踏まえて、講読した文献を読み直す。（２時間）
第９回：文献講読（発表、討議）
　　事前学習：講読文献を精読し、疑問点などをまとめておく。（２時間）
　　事後学習：当日の議論を踏まえて、講読した文献を読み直す。（２時間）
第10回：文献講読（発表、討議）
　　事前学習：講読文献を精読し、疑問点などをまとめておく。（２時間）
　　事後学習：当日の議論を踏まえて、講読した文献を読み直す。（２時間）
第11回：文献講読（発表、討議）
　　事前学習：講読文献を精読し、疑問点などをまとめておく。（２時間）
　　事後学習：当日の議論を踏まえて、講読した文献を読み直す。（２時間）
第12回：文献講読（発表、討議）
　　事前学習：講読文献を精読し、疑問点などをまとめておく。（２時間）
　　事後学習：当日の議論を踏まえて、講読した文献を読み直す。（２時間）
第13回：文献講読（発表、討議）
　　事前学習：講読文献を精読し、疑問点などをまとめておく。（２時間）
　　事後学習：当日の議論を踏まえて、講読した文献を読み直す。（２時間）
第14回：文献講読（発表、討議）
　　事前学習：講読文献を精読し、疑問点などをまとめておく。（２時間）
　　事後学習：当日の議論を踏まえて、講読した文献を読み直す。（２時間）
第15回：文献講読（発表、討議）
　　事前学習：講読文献を精読し、疑問点などをまとめておく。（２時間）
　　事後学習：当日の議論を踏まえて、講読した文献を読み直す。（２時間）

授業実施方法（面接授業・遠隔授業）

原則として「面接授業」を行います。
ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。
遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成　績　評　価　方　法

討論への参加状況（50%）
発表内容（50%）

成　績　評　価　基　準

相手の意見を聞いたうえで、自らの意見を論理的に述べることができるか。
自らが興味のあることを研究課題としてまとめることができるか。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック

１）授業時の課題に対するフィードバックについて
　□授業時　　□仁大eラーニング　　□メール　　□その他
２）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
　■授業時　　□仁大eラーニング　　□メール　　□その他
３）小レポートに対するフィードバックについて
　□授業時　　□仁大eラーニング　　□メール　　□その他
４）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
　□定期試験時　　□仁大eラーニング　　□メール　　□その他
５）その他
　□授業時　　□仁大eラーニング　　□メール　　□その他

実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）

テ　キ　ス　ト　、　参　考　図　書

相談して決める。

その他（受講上の注意）

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

子ども教育特別演習Ⅰ (Seminar Ⅰ)			担当教員	中野　研也
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE-G-2315	2単位	3年通年	演習	必修

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　特別演習・卒業研究

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

探究的・協働的な態度で課題解決に取り組む意欲並びに能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識･技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成･社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解･自己管理能力　□諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

授業の内容

音楽または音楽に関連することについて、各自が興味を持つ対象を研究・発表し、少人数での討論を行う。

授業の到達目標

1．音楽に関する知識と理解を深める。
2．音楽を通して豊かな教養を身に付け、教育・保育に活かす。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習（PBL）　■討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等）　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：オリエンテーション。各自の関心と研究テーマについて選定の視点と今後の要望について述べる。（ディスカッション）
　事前学習：オリエンテーションへ向けて、自分がゼミで行いたい研究テーマについて書き出しておくこと。（2時間）
　事後学習：第1回授業時に仮決定したテーマについて、省察を行うこと。（2時間）
第2回：それぞれのテーマについての文献及び関連情報を収集する。
　事前学習：仮決定した研究テーマについて、資料・文献等の出版状況を調べておくこと。（2時間）
　事後学習：資料・文献の収集状況により、研究テーマを決定する。（2時間）
第3回：それぞれのテーマについての文献及び関連情報を通読する。
　事前学習：決定した研究テーマについて、資料・文献を読んでおくこと。（2時間）
　事後学習：教員の指導内容を踏まえ、レポートにまとめる。（2時間）
第4回：それぞれのテーマについての発表をする。（発表）
　事前学習：発表のための資料などの準備をしておくこと。（2時間）
　事後学習：それぞれの発表について、自分の感じたことを書き出す。（2時間）
第5回：それぞれのテーマについての発表と討議をする。（グループワーク、ディスカッション）
　事前学習：それぞれのテーマについて討議をするための、自分の考えをまとめておくこと。（2時間）
　事後学習：討議で出された意見や指摘をもとに、反省点を書き出す。（2時間）
第6回：ここまでに研究したテーマについて、必要であれば見直しを行う
　事前学習：研究テーマについて、再検討が必要かどうか自分の考えを書き出しておくこと。（2時間）
　事後学習：研究テーマに関連する文献・資料の選択を行う。（2時間）
第7回：それぞれのテーマについて実践している現場の観察 1
　事前学習：観察を行う現場について、事前に調べておくこと。（2時間）
　事後学習：観察結果をもとに、レポートを作成する。（2時間）

第８回：それぞれのテーマについて実践している現場の観察 2
事前学習：１回目の観察結果をもとに、２回目に観察を行う現場を決定しておくこと。（２時間）
事後学習：観察結果をもとに、レポートを作成する。（２時間）
第９回：現場の観察についての発表と討議 1（グループワーク、ディスカッション）
事前学習：１回目の観察結果をもとに、２回目に観察を行う現場を決定しておくこと。（２時間）
事後学習：観察結果をもとに、レポートを作成する。（２時間）
第10回：現場の観察についての発表と討議 2（グループワーク、ディスカッション）
事前学習：発表のための資料などの準備をしておくこと。（２時間）
事後学習：それぞれの発表について、自分の感じたことを書き出す。（２時間）
第11回：ここまでに研究したテーマについて、必要であれば見直しを行う
事前学習：研究テーマについて、再検討が必要かどうか自分の考えを書き出しておくこと。（２時間）
事後学習：研究テーマに関連する文献・資料の選択を行う。（２時間）
第12回：それぞれのテーマについての研究発表と意見交換 1（グループワーク、ディスカッション）
事前学習：発表のための資料などの準備をしておくとともに、それぞれのテーマについて討議をするための、自分の考えをまとめておくこと。（２時間）
事後学習：討議で出された意見や指摘をもとに、反省点を書き出す。（２時間）
第13回：それぞれのテーマについての研究発表と意見交換 2（グループワーク、ディスカッション）
事前学習：発表のための資料などの準備をしておくとともに、それぞれのテーマについて討議をするための、自分の考えをまとめておくこと。（２時間）
事後学習：討議で出された意見や指摘をもとに、反省点を書き出す。（２時間）
第14回：それぞれのテーマについての研究発表と意見交換 3（グループワーク、ディスカッション）
事前学習：発表のための資料などの準備をしておくとともに、それぞれのテーマについて討議をするための、自分の考えをまとめておくこと。（２時間）
事後学習：討議で出された意見や指摘をもとに、反省点を書き出す。（２時間）
第15回：次年度への展望のまとめ文献等の情報収集に努め、要点をまとめておくこと。
事前学習：研究テーマに関連する文献・資料の選択を再度行う。（２時間）
事後学習：次年度への展望について、レポートを作成する。（２時間）

授業実施方法（面接授業・遠隔授業）

原則として「面接授業」を行います。
ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。
遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成　績　評　価　方　法

授業に対する姿勢（50%）、およびレポートなどの提出物（50%）を総合して評価する。

成　績　評　価　基　準

音楽および音楽関連についての知識が深まったか。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック

１）授業時の課題に対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　□メール　■その他（Teams）
２）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　□メール　■その他（Teams）
３）小レポートに対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　□メール　■その他（Teams）
４）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
□定期試験時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
５）その他
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他

実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）

テ　キ　ス　ト　、　参　考　図　書

ゼミ生個々の主体的な研究に負うため、共通のテキストは用いない。

その他（受講上の注意）

毎回のゼミで提出あるいは作成したレポート等は、卒業論文執筆のための大切な資料となります。レポートの作成にあたっては、常に最終目的を意識してください。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

子ども教育特別演習Ⅰ (Seminar Ⅰ)			担当教員	青井　夕貴
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE-G-2315	2単位	3年通年	演習	必修

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　特別演習・卒業研究

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

探究的・協働的な態度で課題解決に取り組む意欲並びに能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識･技能　■論理的思考力と創造力　■人間関係形成･社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
■自己理解･自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　■キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

授業の内容

専門分野に関するこれまでの学修を基礎に、先行研究・実践の事例も参考にしながら、専門的研究を進める際の課題の選び方、課題解決へのアプローチの仕方について学ぶ。この演習における文献購読、発表、議論を通して、各自がより深く研究しようとするテーマを見つける。

授業の到達目標

自らの関心や問題意識を明確化し、他者へ論理的に伝えることができる。
他者の関心や問題意識にも関心をもち、議論することができる。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習（PBL）　■討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　□グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等）　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：オリエンテーション
　事前学習：シラバスとゼミ要項を熟読して、疑問点等を整理する。（2時間）
　事後学習：配付された資料等を整理し、理解を深める。（2時間）
第2回：文献の探し方、読み方、まとめ方
　事前学習：文献の探し方等に関する文献を読み、疑問点等を整理する。（2時間）
　事後学習：配付された資料等を整理し、理解を深める。（2時間）
第3回：担当者による発表と討議①
　事前学習：自分が関心をもつテーマに関する文献等を探し、まとめる。自分の考えや疑問点などを整理し、発表の準備をする。（2時間）
　事後学習：自他の発表と議論で学んだことを整理し、理解を深める。（2時間）
第4回：担当者による発表と討議②
　事前学習：自分が関心をもつテーマに関する文献等を探し、まとめる。自分の考えや疑問点などを整理し、発表の準備をする。（2時間）
　事後学習：自他の発表と議論で学んだことを整理し、理解を深める。（2時間）
第5回：担当者による発表と討議③
　事前学習：自分が関心をもつテーマに関する文献等を探し、まとめる。自分の考えや疑問点などを整理し、発表の準備をする。（2時間）
　事後学習：自他の発表と議論で学んだことを整理し、理解を深める。（2時間）
第6回：担当者による発表と討議④
　事前学習：自分が関心をもつテーマに関する文献等を探し、まとめる。自分の考えや疑問点などを整理し、発表の準備をする。（2時間）
　事後学習：自他の発表と議論で学んだことを整理し、理解を深める。（2時間）

第７回：担当者による発表と討議⑤
事前学習：自分が関心をもつテーマに関する文献等を探し、まとめる。自分の考えや疑問点などを整理し、発表の準備をする。（２時間）
事後学習：自他の発表と議論で学んだことを整理し、理解を深める。（２時間）
第８回：中間まとめ～研究テーマの方向性の共有
事前学習：これまでの議論等を振り返り、自分の考えや疑問点などを整理する。（２時間）
事後学習：自他の発表と議論で学んだことを整理し、理解を深める。（２時間）
第９回：先行研究と研究計画に関する発表と討議①
事前学習：自分のテーマに関する先行研究をまとめ、自分の考えや疑問点などを整理し、発表の準備をする。（２時間）
事後学習：自他の発表と議論で学んだことを整理し、研究計画を再考する。（２時間）
第10回：先行研究と研究計画に関する発表と討議②
事前学習：自分のテーマに関する先行研究をまとめ、自分の考えや疑問点などを整理し、発表の準備をする。（２時間）
事後学習：自他の発表と議論で学んだことを整理し、研究計画を再考する。（２時間）
第11回：先行研究と研究計画に関する発表と討議③
事前学習：自分のテーマに関する先行研究をまとめ、自分の考えや疑問点などを整理し、発表の準備をする。（２時間）
事後学習：自他の発表と議論で学んだことを整理し、研究計画を再考する。（２時間）
第12回：先行研究と研究計画に関する発表と討議④
事前学習：自分のテーマに関する先行研究をまとめ、自分の考えや疑問点などを整理し、発表の準備をする。（２時間）
事後学習：自他の発表と議論で学んだことを整理し、研究計画を再考する。（２時間）
第13回：先行研究と研究計画に関する発表と討議⑤
事前学習：自分のテーマに関する先行研究をまとめ、自分の考えや疑問点などを整理し、発表の準備をする。（２時間）
事後学習：自他の発表と議論で学んだことを整理し、研究計画を再考する。（２時間）
第14回：研究計画書の作成と発表①
事前学習：これまでの議論を踏まえ、研究計画書を作成する。（２時間）
事後学習：自他の発表と議論で学んだことを整理し、研究計画書を修正する。（２時間）
第15回：研究計画書の作成と発表②
事前学習：これまでの議論を踏まえ、研究計画書を作成する。（２時間）
事後学習：自他の発表と議論で学んだことを整理し、研究計画書を修正する。（２時間）

授業実施方法（面接授業・遠隔授業）

原則として「面接授業」を行います。
ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。
遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成　績　評　価　方　法

発表内容（50%）、議論への参加状況（50%）

成　績　評　価　基　準

自らの関心や問題意識を明確化し、他者へ論理的に伝えることができるか。
他者の関心や問題意識にも関心をもち、議論することができるか。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック

１）授業時の課題に対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
２）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
３）小レポートに対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
４）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
□定期試験時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
５）その他
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他

実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）

テキスト、参考図書
テキストは使用しない。参考図書は、テーマに合わせて適宜紹介する。
その他（受講上の注意）
オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

子ども教育特別演習Ⅰ (Seminar Ⅰ)			担当教員	乙部　貴幸
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE-G-2315	2単位	3年通年	演習	必修

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　特別演習・卒業研究

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

探究的・協働的な態度で課題解決に取り組む意欲並びに能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識･技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成･社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解･自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプラニング能力

資格・免許の要件

授業の内容

各自、学術論文を読み、内容を他者に理解できるように発表する。また、当事者インタビューなどを通じて、卒業論文のテーマを具体化させていく。最終的に、卒業論文のタイトル、目的、方法を学年最後までに策定することを目標とする。

授業の到達目標

・学術論文の基本的な読み方とともに、検索、入手方法についても身につける。
・学術論文の内容を他者に理解できるように簡単に要約する。
・インタビューを通じて、「問い方」について深く考えられるようになる。
・卒業論文のテーマ・内容を納得がいく形で策定する。

アクティブ・ラーニング

■課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等）　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：論文を読むにあたっての基本的知識、文献の検索・入手方法の解説（グループワーク）
　事後学習：教員が各自の興味の沿って用意した課題文献を読み、内容をスライド数枚に要約する。（4時間）
第2回：課題文献の発表と質疑（グループワーク）
　事後学習：各自が検索して入手した文献を1つ読み、内容をスライド数枚に要約する。（4時間）
第3回：自分で入手した文献の発表と質疑（グループワーク）
　事後学習：発表した文献と関連の深い他の文献を2～3入手し、それを合わせてレビューするスライドを作成する。（4時間）
第4回：レビュー発表と質疑（グループワーク）
　事後学習：今回まで選んできた文献とは全く異なる、かつ自分が興味を持てる検索ワードで入手した文献をスライド数枚に要約する。（4時間）
第5回：別分野文献の発表と質疑（グループワーク）
　事後学習：自分が担当する統計的仮説検定の手法について解説するスライドを作成する（4時間）
第6回：検定法の発表と質疑（グループワーク）
　事後学習：卒業研究で研究したい分野について改めて調べて、どのようなことをしたいか展望をまとめる。（4時間）
第7回：卒業論文の研究テーマについての展望の発表と議論（グループワーク）
　事後学習：議論を踏まえて展望を見直す。（4時間）
第8回：卒業研究の対象・方法についての議論（グループワーク、PBL）
　事後学習：研究対象にインタビューする際の質問を考える（2時間）
第9回：インタビュー質問の発表と議論（グループワーク、PBL）
　事後学習：議論を踏まえて質問を改善し、リスト化する。（4時間）

第10回：改善した質問の発表と意見交換（グループワーク、PBL）
　　事後学習：意見交換の振り返りとインタビューシートの作成。（４時間）
第11回：インタビュー対象・方法の確認（グループワーク、PBL）
　　事後学習：インタビューの実施（４時間）
第12回：インタビュー結果の発表と意見交換１（グループワーク、PBL）
　　事前学習：発表準備（３時間）
　　事後学習：発表・意見交換の振り返り（１時間）
第13回：インタビュー結果の発表と意見交換２（グループワーク、PBL）
　　事前学習：発表準備（３時間）
　　事後学習：意見交換の振り返り（１時間）
第14回：卒業研究の目的・方法・分析についての説明と議論（グループワーク）
　　事後学習：卒業研究のタイトル・目的・方法についてスライド数枚にまとめる。（４時間）
第15回：卒業研究の概要の発表と議論（グループワーク）
　　事前学習：発表と議論の振り返り（４時間）

授業実施方法（面接授業・遠隔授業）

原則として「面接授業」を行います。
ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。
遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成　績　評　価　方　法

発表内容と議論への参加：100％

成　績　評　価　基　準

授業の到達目標に記載した行動目標を達成しているかどうかを総合的に評価する。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック

１）授業時の課題に対するフィードバックについて
　■授業時　■仁大eラーニング　■メール　■その他
２）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
　■授業時　■仁大eラーニング　■メール　■その他
３）小レポートに対するフィードバックについて
　■授業時　■仁大eラーニング　■メール　■その他
４）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
　□定期試験時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
５）その他（毎回レポートに対するフィードバックについて）
　■授業時　■大eラーニング　■メール　■その他

実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）

テ　キ　ス　ト　、　参　考　図　書

授業担当者が準備した資料または受講生自身が準備した資料。

その他（受講上の注意）

途中、休み期間による中断がありますが、継続性を大切にしてください。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

子ども教育特別演習Ⅰ (Seminar Ⅰ)			担当教員	草桶　勇人
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE-G-2315	2単位	3年通年	演習	必修

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　特別演習・卒業研究

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

探究的・協働的な態度で課題解決に取り組む意欲並びに能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識･技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成･社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
□自己理解･自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

授業の内容

算数・数学教育に関するこれまでの学修を基礎に、国際調査（TIMMS・PISA）や国内調査（全国学力・学習状況調査等）の公表された結果から算数・数学教育の現状と課題を把握する。実際の授業を、数学的活動（数学的問題解決の過程／数学化サイクル）の視点から考察し、自己の興味関心のある課題を発見し、研究テーマを明確化していく。先行研究や先行実践を手がかりに、自己の研究テーマへのアプローチの方法について考える。

授業の到達目標

専門分野に関するこれまでの学修を基礎に、国内外の諸調査から算数・数学教育の現状と課題を把握し、学習指導要領の改定の経緯や算数科改定の趣旨及び算数科の目標等を理解する。先行研究・実践の事例分析を通して、数学的問題解決のプロセスにおける教師の指導言の役割などを理解する。研究を進める際の課題の選び方、課題解決へのアプローチの仕方について理解する。この演習を通して、各自がより深く研究しようとするテーマを見つける契機とする。

1．算数・数学教育の現状と課題を理解している。
2．学習指導要領の算数科改訂の趣旨及び要点や算数科の目標を理解し、各領域の内容の概観ができる。また、数学的活動の意義を理解している。
3．算数科学習における「数学的な見方・考え方」と授業における指導言との関わりを理解している。
4．先行研究や先行実践を、自己の研究テーマとの関わりで読みとることができる。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習（PBL）　■討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　□グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等）　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：オリエンテーション（発表、討議）
　事前学習：算数・数学教育の被教育体験から課題だと考えられることについて、要点をまとめておくこと。（2時間）
　事後学習：算数・数学教育の課題の発表、討議から気づいたことを、リフレクションシートにまとめる。（2時間）
第2回：TIMSSにみる我が国の算数・数学教育の現状（発表、討議）
　事前学習：文科省のHPや報告書等からTIMSSの結果の概要の要点をまとめておくこと。（2時間）
　事後学習：発表、討議をもとにわが国の算数・数学教育の現状等について整理し、リフレクションシートにまとめる。（2時間）
第3回：PISAにみる我が国の算数・数学教育の課題（主に活用力を中心に）（発表、討議）
　事前学習：文科省のHPや報告書等からPISAの結果の概要の要点をまとめておくこと。（2時間）
　事後学習：発表、討議をもとにわが国の数学教育の課題（活用力）等について整理し、リフレクションシートにまとめる。（2時間）

第４回：全国学力・学習状況調査にみる算数科の現状と課題（発表、討議）
事前学習：文科省のHPや報告書等から全国学力・学習状況調査の結果の概要の要点をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：発表、討議をもとにわが国の算数教育の具体的な課題等について整理し、リフレクションシートにまとめる。（２時間）
第５回：国際調査（TIMSS・PISA）や国内調査（全国学力・学習状況調査）の重点課題（単位あたり量や割合、表現力等）（発表、討議）
事前学習：諸調査から明らかにされた具体的課題から一つ選択し、その単元を調べ、要点をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：調べた課題の発表、討議から、その課題解決の方策を自分なりに考察し、リフレクションシートにまとめる。（２時間）
第６回：新学習指導要要領の改定の経緯及び基本方針、算数科改定の趣旨及び要点（討議）
事前学習：『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説　算数編』第１章を読み、要点をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：討議をもとに算数科改定の背景等について整理し、リフレクションシートにまとめる。（２時間）
第７回：新学習指導要要領における算数科の目標（討議）
事前学習：『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説　算数編』第２章を読み、要点をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：討議をもとに資質・能力に基づいた算数教育の目標を整理し、リフレクションシートにまとめる。（２時間）
第８回：新学習指導要要領における算数科の内容と数学的活動（討議）
事前学習：『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説　算数編』第３章を読み、要点をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：討議をもとに数学的活動の意義等について整理し、リフレクションシートにまとめる。（２時間）
第９回：授業における教師の指導言の分析
事前学習：授業における教師の指導言について自分なりにいくつかに類型化し、要点をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：講義をもとに数学的問題解決過程における発問について整理し、リフレクションシートにまとめる。（２時間）
第10回：算数科の学習における「数学的な見方・考え方」（主に発問との関わり）
事前学習：『解説　算数編』等から「数学的な見方・考え方」について調べ、要点をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：講義をもとに数学的な見方・考え方と発問との係わりについて、リフレクションシートにまとめる。（２時間）
第11回：先行研究・実践の事例分析①（課題の発見）（発表、討議）
事前学習：自分の興味のある単元等の先行研究や実践を調べ、要点をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：調べた先行研究・実践の発表、討議をもとに課題を見つけ、リフレクションシートにまとめる。（２時間）
第12回：先行研究・実践の事例分析②（課題の明確化）（発表、討議）
事前学習：前時のリフレクションシートにまとめた課題に関する研究・実践を精査し、要点をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：さらなる調べた先行研究・実践の発表、討議をもとに課題を明確化し、リフレクションシートにまとめる。（２時間）
第13回：先行研究・実践の事例分析③（課題へのアプローチの方法－認知的側面）（発表、討議）
事前学習：自分の課題とする単元の認知的成果が得られた先行研究や実践を調べ、要点をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：調べた先行研究・実践の発表、討議をもとに認知的課題解決の方策について、リフレクションシートにまとめる。（２時間）
第14回：先行研究・実践の事例分析④（課題へのアプローチの方法－情意的側面）（発表、討議）
事前学習：自分の課題とする単元の情意的成果が得られた先行研究や実践を調べ、要点をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：調べた先行研究・実践の発表、討議をもとに情意的課題解決の方策について、リフレクションシートにまとめる。（２時間）
第15回：研究計画を立てる。（発表、討議）
事前学習：これまでの学修をもとに自分の研究課題を設定しその設定理由の要点をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：研究課題の発表、討議をもとに更に細部まで検討した研究課題を作成する。（２時間）

授業実施方法（面接授業・遠隔授業）

原則として「面接授業」を行います。
ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。
遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成　績　評　価　方　法

参考書や調査課題等の要約レポート（40%）、事例分析レポート（40%）、討論の様子等（20%）で総合的に評価する。

成　績　評　価　基　準

・算数・数学教育の現状と課題を把握できたか。
・算数科改訂の趣旨等を理解し、算数教育の目標や数学的活動の意義が理解できたか。
・「数学的な見方・考え方」と関連させて授業における教師の指導言の機能や役割を理解できたか。
・先行研究・実践の分析を通して、興味関心をもって研究しようとするテーマを見つけることができたか。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック

1）授業時の課題に対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
2）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
3）小レポートに対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
4）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
□定期試験時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
5）その他
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他

実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）

テ　キ　ス　ト　、　参　考　図　書

参考書・参考資料等：
小寺隆幸編著『主体的・対話的に深く学ぶ算数・数学教育　コンテンツとコンピテンシーを見すえて』ミネルヴァ書房、2018年
藤村宣之『数学的・科学的リテラシーの心理学-子どもの学力はどう高まるか-』有斐閣、2012年
文部科学省『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説　算数編』東洋館出版、2018
算数科授業研究の会『算数科教育の基礎・基本』明治図書、2023年
溝口達也編著『新しい算数教育の理論と実践』ミネルヴァ書房、2021年
など

その他（受講上の注意）

基本的に要約レポートをもとにディスカッションをしながら演習を進めるので、積極的な態度で授業に臨むこと。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

子ども教育特別演習Ⅰ (Seminar Ⅰ)			担当教員	出村　友寛
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE-G-2315	2単位	3年通年	演習	必修

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　特別演習・卒業研究

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

探究的・協働的な態度で課題解決に取り組む意欲並びに能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識･技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成･社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解･自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

授業の内容

研究を実施する際の課題設定、課題解決のための計画立案、実施、データの処理、および論文の作成方法について学習する。

授業の到達目標

研究の実施に必要な基本的な知識（課題設定、研究計画の立案・実施、研究結果の整理・分析、研究論文の作成）を習得する。

アクティブ・ラーニング

■課題解決型学習（PBL）　■討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　□グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等）　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：ガイダンス、研究について
　事前学習：関心のある事柄について、論文、著書などから情報を収集しておく。（2時間）
　事後学習：見つかった課題について、論文、著書などで確認しておく。（2時間）
第2回：研究課題の設定について（文献検索の方法）（PBL、ディスカッション、発表）
　事前学習：関心のある事柄について、論文、著書などから情報を収集しておく。（2時間）
　事後学習：見つかった課題について、論文、著書などで確認しておく。（2時間）
第3回：発表資料の作成方法（PBL、ディスカッション、発表）
　事前学習：関心のある事柄について、論文、著書などから情報を収集しておく。（2時間）
　事後学習：見つかった課題について、論文、著書などで確認しておく。（2時間）
第4回：発表、質疑応答①（PBL、ディスカッション、発表）
　事前学習：関心のある事柄について、論文、著書などから情報を収集しておく。（2時間）
　事後学習：見つかった課題について、論文、著書などで確認しておく。（2時間）
第5回：発表、質疑応答②（PBL、ディスカッション、発表）
　事前学習：関心のある事柄について、論文、著書などから情報を収集しておく。（2時間）
　事後学習：見つかった課題について、論文、著書などで確認しておく。（2時間）
第6回：発表、質疑応答③（PBL、ディスカッション、発表）
　事前学習：関心のある事柄について、論文、著書などから情報を収集しておく。（2時間）
　事後学習：見つかった課題について、論文、著書などで確認しておく。（2時間）
第7回：発表、質疑応答④（PBL、ディスカッション、発表）
　事前学習：関心のある事柄について、論文、著書などから情報を収集しておく。（2時間）
　事後学習：見つかった課題について、論文、著書などで確認しておく。（2時間）
第8回：中間まとめ（PBL、ディスカッション、発表）
　事前学習：関心のある事柄について、論文、著書などから情報を収集しておく。（2時間）
　事後学習：見つかった課題について、論文、著書などで確認しておく。（2時間）

第９回：発表、質疑応答⑤（PBL、ディスカッション、発表）
　　事前学習：関心のある事柄について、論文、著書などから情報を収集しておく。（２時間）
　　事後学習：見つかった課題について、論文、著書などで確認しておく。（２時間）
第10回：発表、質疑応答⑥（PBL、ディスカッション、発表）
　　事前学習：関心のある事柄について、論文、著書などから情報を収集しておく。（２時間）
　　事後学習：見つかった課題について、論文、著書などで確認しておく。（２時間）
第11回：発表、質疑応答⑦（PBL、ディスカッション、発表）
　　事前学習：関心のある事柄について、論文、著書などから情報を収集しておく。（２時間）
　　事後学習：見つかった課題について、論文、著書などで確認しておく。（２時間）
第12回：発表、質疑応答⑧（PBL、ディスカッション、発表）
　　事前学習：関心のある事柄について、論文、著書などから情報を収集しておく。（２時間）
　　事後学習：見つかった課題について、論文、著書などで確認しておく。（２時間）
第13回：研究課題の設定①（PBL、ディスカッション、発表）
　　事前学習：関心のある事柄について、論文、著書などから情報を収集しておく。（２時間）
　　事後学習：見つかった課題について、論文、著書などで確認しておく。（２時間）
第14回：研究課題の設定②（PBL、ディスカッション、発表）
　　事前学習：関心のある事柄について、論文、著書などから情報を収集しておく。（２時間）
　　事後学習：見つかった課題について、論文、著書などで確認しておく。（２時間）
第15回：まとめ（PBL、ディスカッション、発表）
　　事前学習：関心のある事柄について、論文、著書などから情報を収集しておく。（２時間）
　　事後学習：見つかった課題について、論文、著書などで確認しておく。（２時間）

授業実施方法（面接授業・遠隔授業）

原則として「面接授業」を行います。
ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。
遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成　績　評　価　方　法

発表内容（50%）、レポート（50%）

成　績　評　価　基　準

研究の実施に必要な基本的な知識（課題設定、研究計画の立案・実施、研究結果の整理・分析、研究論文の作成）を理解できているか。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック

１）授業時の課題に対するフィードバックについて
　■授業時　■仁大eラーニング　□メール　□その他
２）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
　■授業時　■仁大eラーニング　□メール　□その他
３）小レポートに対するフィードバックについて
　□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
４）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
　□定期試験時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
５）その他
　□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他

実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）

テキスト、参考図書

必要に応じて資料を配布、紹介する。

その他（受講上の注意）

遅刻、欠席、および早退の際は連絡ください。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

子ども教育特別演習Ⅰ (Seminar Ⅰ)			担当教員	渡辺　直人
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE-G-2315	2単位	3年通年	演習	必修

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　特別演習・卒業研究

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

探究的・協働的な態度で課題解決に取り組む意欲並びに能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□体系的な知識･技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成･社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
■自己理解･自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　■キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

授業の内容

専門分野に関するこれまでの学修を基礎に、先行研究・実践の事例を参考にしながら、専門的研究を進める際の課題の選び方、課題解決へのアプローチの仕方について学ぶ。この演習において文献等を講読し、討論することを通して、自らの研究テーマを設定する。ゼミとして、地域課題の解決に向けた活動を行なうとともに、必要に応じて、保育関連のフォーラムや研修会に参加して、専門的な知識を習得する。

授業の到達目標

文献等の講読や討論を通じて、研究課題の対象と方法を学び、自らの研究テーマを設定する。

アクティブ・ラーニング

■課題解決型学習（PBL）　■討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　□グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等）　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：オリエンテーション（ゼミの概要や方針について説明、CiNiiの活用方法について）
　事前学習：これまでの大学での学びの成果と課題をまとめておく（2時間）
　事後学習：文献検索の手法を用いて、複数の文献をピックアップする。（2時間）
第2回：文献講読
　事前学習：「保育の現場・職業の魅力向上に関する報告書を」を読む。（2時間）
　事後学習：第1回課題レポートの作成。（2時間）
第3回：自主課題の発表（1）レポートの書き方（討議）
　事前学習：自分の選んだ文献・論文等について内容報告のためのレジメを作成する。（2時間）
　事後学習：第2回課題レポートの作成。（2時間）
第4回：自主課題の発表（2）レポートの書き方（討議）
　事前学習：自分の選んだ文献・論文等について内容報告のためのレジメを作成する。（2時間）
　事後学習：第3回課題レポートの作成。（2時間）
第5回：自主課題の発表（3）（発表・プレゼンテーション）
　事前学習：自分の選んだ文献・論文等について内容報告のためのレジメを作成する。（2時間）
　事後学習：第3回課題レポートの作成。（2時間）
第6回：自主課題の発表（4）（発表・プレゼンテーション）
　事前学習：自分の選んだ文献・論文等について内容報告のためのレジメを作成する。（2時間）
　事後学習：第3回課題レポートの作成。（2時間）
第7回：図書館において文献検索指導
　事前学習：あらかじめCiNiiで文献検索を試してみる。（2時間）
　事後学習：講習をもとに文献検索をしてみる。（2時間）
第8回：課題論文（2篇）のレポート作成（課題解決型学習）
　事前学習：課題論文を読んでレポートにまとめる。（2時間）
　事後学習：第4回課題レポートの作成。（2時間）

第９回：課題論文レポートの講評（課題解決型学習）
　　事前学習：自分のレポートの発表を準備する。（２時間）
　　事後学習：討議をもとに自分の考えをまとめる。（２時間）
第10回：自主課題の発表（５）（発表・プレゼンテーション）
　　事前学習：自分の選んだ文献・論文等について内容報告のためのレジメを作成する。（２時間）
　　事後学習：第７回課題レポートの作成。（２時間）
第11回：自主課題の発表（６）（発表・プレゼンテーション）
　　事前学習：自分の選んだ文献・論文等について内容報告のためのレジメを作成する。（２時間）
　　事後学習：第８回課題レポートの作成。（２時間）
第12回：研究の方法（１）（討議）
　　事前学習：あらかじめ提示された文献・雑誌を読み、質問事項をまとめておく。（２時間）
　　事後学習：第９回課題レポートの作成。（２時間）
第13回：研究の方法（２）（討議）
　　事前学習：あらかじめ提示された文献・雑誌を読み、質問事項をまとめておく。（２時間）
　　事後学習：第10回課題レポートの作成。（２時間）
第14回：研究のデザイン発表（PBL、ディスカッション、グループワーク、発表）
　　事前学習：４年生に予定している研究（内容・方法）について報告するためのレジメを作成する。（２時間）
　　事後学習：授業や討議をもとに自分の研究計画をまとめ直す。（２時間）
第15回：研究のデザイン発表（PBL、ディスカッション、グループワーク、発表）
　　事前学習：４年生に予定している研究（内容・方法）について報告するためのレジメを作成する。（２時間）
　　事後学習：授業や討議をもとに自分の研究計画をまとめ直す。（２時間）

授業実施方法（面接授業・遠隔授業）

原則として「面接授業」を行います。
ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。
遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成　績　評　価　方　法

課題レポート（60％）　平常点（40％）
（平常点は、授業への参加状況、受講態度を総合して判断します。）

成　績　評　価　基　準

講読した文献等の内容をレポート形式でまとめ、発表することができるか。
自分の研究テーマに係る対象と方法について、デザイン発表することができるか。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック

１）授業時の課題に対するフィードバックについて
　■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
２）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
　□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
３）小レポートに対するフィードバックについて
　□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
４）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
　□定期試験時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
５）その他
　□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他

実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）

テ　キ　ス　ト　、　参　考　図　書

講読する文献、論文は適宜紹介する。

その他（受講上の注意）

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

子どもの発達臨床 (Clinical Development of Children)			担当教員	水田　敏郎
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−D−2360	2単位	3年後期	演習	選択

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　関連科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>　道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目

<科目に含めることが必要な事項>　幼児理解の理論及び方法

求める学習成果(教育目標)

教育・保育の対象の理解及び子どもの発達の理解

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識･技能　□論理的思考力と創造力　□人間関係形成･社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
□自己理解･自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

幼稚園教諭一種免許状（必修）

授業の内容

幼児理解についての知識や考え方、基礎的態度を身につけるために、発達の各段階における心身の特徴を理解する。さらに、幼児理解の方法を身につけるために観察と記録の意義や目的、目的に応じた観察法等の基礎的な事柄を理解し、幼児のつまずきを周りの幼児との関係やその他の背景から理解する。

授業の到達目標

幼稚園における幼児の生活や遊びの実態に即して、幼児の発達や学び及びその過程で生じるつまずき、その要因を把握するための原理や対応の方法を考えることができる。

アクティブ・ラーニング

■課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　□発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等）　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：（全15回の授業計画と全体概要。学習の仕方と成績評価）
　　発達の理解
　　・幼児理解の意義。発達の原理、段階と課題
　　事後学習：幼児理解や発達の原理、段階や課題についてこれまで学んだ講義やプリントから復習（4時間）
第2回：身体の運動発達
　　・身体、運動の発達と基本的生活習慣の形成
　　事前学習：身体、運動の発達についてこれまで学んだ講義やプリントから復習（2時間）
　　事後学習：基本的生活習慣の定着に関してプリントの熟読と質問項目をまとめる（2時間）
第3回：知的発達
　　・知覚、言語、思考の発達
　　事前学習：知覚、言語、思考の発達についてこれまで学んだ講義やプリントから復習（2時間）
　　事後学習：知覚、言語、思考の発達に関してプリントの熟読と質問項目をまとめる（2時間）
第4回：情緒と社会性の発達
　　・情緒の分化と防衛機制。愛着と自我、人格の形成
　　事前学習：情緒と社会性の発達についてこれまで学んだ講義やプリントから復習（2時間）
　　事後学習：情緒と社会性の発達に関してプリントの熟読と質問項目をまとめる（2時間）
第5回：幼児の発達障害①
　　・幼稚園教育と家庭教育。性格形成と育児不安。事例研究
　　事前学習：育児不安に関する事例を文献などで探し熟読（2時間）
　　事後学習：育児不安に関する事例のプリントを熟読し、質問項目をまとめる（2時間）
第6回：幼児の発達障害②（PBL、グループワーク）
　　・知的障害、自閉スペクトラム症。事例研究
　　事前学習：育知的障害、自閉スペクトラム症に関する事例を文献などで探しレジュメ作成（2時間）
　　事後学習：育知的障害、自閉スペクトラム症に関する事例のプリントを熟読し、質問項目をまとめる（2時間）

第７回：幼児の発達障害③（PBL、グループワーク）
・注意欠陥/多動性障害、学習障害、愛着障害。事例研究
事前学習：注意欠陥/多動性障害、学習障害、愛着障害に関する事例を文献などで探しレジュメ作成（２時間）
事後学習：注意欠陥/多動性障害、学習障害、愛着障害に関する事例のプリントを熟読し、質問項目をまとめる（２時間）
第８回：幼児理解の方法①
・観察法、実験法と質問紙法
事前学習：観察法、実験法と質問紙法がもちいられている文献を探し熟読（２時間）
事後学習：観察法、実験法と質問紙法に関するプリントを熟読し、質問項目をまとめる（２時間）
第９回：幼児理解の方法②
・知能検査、発達検査と性格検査
事前学習：知能検査、発達検査と性格検査がもちいられている文献などを探し熟読（２時間）
事後学習：知能検査、発達検査と性格検査に関するプリントを熟読し、質問項目をまとめる（２時間）
第10回：幼児理解の方法③（PBL、グループワーク）
・観察や諸検査の知見に関する事例研究
事前学習：観察・検査からの障害・つまづきの見立てに関して書かれた文献などを探しレジュメ作成（４時間）
第11回：小（中）学生の発達心理
・身体運動発達と知的、心理・社会的発達
事前学習：小（中）学生の発達障害事例が記されている文献などを探しレジュメ作成（３時間）
事後学習：小（中）学生の発達障害事例が記されている文献を熟読する（１時間）
第12回：小（中）学生の臨床上の問題①
・児童虐待の問題。非行の問題。事例研究
事前学習：小（中）学生の児童虐待、非行の事例支援が記されている文献などを探しレジュメ作成（３時間）
事後学習：小（中）学生の児童虐待、非行の事例支援が記されている文献を熟読（１時間）
第13回：小（中）学生の臨床上の問題②
・いじめと不登校の問題。事例研究
事前学習：小（中）学生のいじめ・不登校の事例支援が記されている文献などを探しレジュメ作成（３時間）
事後学習：小（中）学生のいじめ・不登校の事例支援が記されている文献を熟読（１時間）
第14回：精神障害と神経症
・境界例。統合失調症と躁鬱病。事例研究
事前学習：境界例、統合失調症と躁鬱病が記されている文献などを探しレジュメ作成（３時間）
事後学習：境界例、統合失調症と躁鬱病が記されている文献を熟読（１時間）
第15回：心理療法
・カウンセリング、遊戯療法、箱庭療法、行動療法。
事前学習：カウンセリング、遊戯療法、箱庭療法、行動療法が記されている文献などを探しレジュメ作成（３時間）
事後学習：カウンセリング、遊戯療法、箱庭療法、行動療法が記されている文献を熟読（１時間）
第16回：定期試験
各回の講義を受講した後、当該部分の配布資料をよく読んで復習してください。また、予習にあたっても次の授業の内容部分をよく見て、疑問点などをもって授業に臨んでください。

授業実施方法（面接授業・遠隔授業）

原則として「面接授業」を行います。
ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。
遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成　績　評　価　方　法

定期試験（50％）、事例研究に関する小レポート（30％）、授業中の積極的発表（20％）

成　績　評　価　基　準

幼稚園における幼児の生活や遊びの実態に即して、幼児の発達や学び及びその過程で生じるつまずき、その要因を把握するための原理や対応の方法を考えることができるか。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

1）授業時の課題に対するフィードバックについて
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
2）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
3）小レポートに対するフィードバックについて
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
4）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
□定期試験時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
5）その他
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他

実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)

テキスト、参考図書

テキストは使用しない。授業中にプリントを配布する。
参考図書
子どもの理解と発達臨床（山口勝己著、北大路書房出版、平成19年）

その他(受講上の注意)

発達障害に対する理解と支援に関して、各回でグループごとにレジュメ発表。
発表班はローテーションします。

オフィスアワー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

子どもと英語教育 (Child and English Education)			担当教員	野本　尚美
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−B−2357	2単位	3年後期	演習	選択

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　関連科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>　大学が独自に設定する科目

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

教育・保育の内容の理解及び指導方法

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識･技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成･社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解･自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

幼稚園教諭一種免許状（選択）

授業の内容

第二言語習得理論、基礎英語（含英文法）、クラスマネジメントを踏まえて、オーラルスキル、発音の基礎と指導法、教育課程や指導計画、教材研究と教材作成、ティーチャートーク、授業実演など理論と実践面から子ども英語指導のあり方を研究する。

授業の到達目標

「子ども達に楽しく英語を学ばせるにはどうすればよいか」をテーマとして、主に「子ども英語の基礎力」、「子ども英語指導法」、「指導計画の立て方」などについて学ぶ。様々な英語指導法を理解した上で、授業実践を体験し、子ども英語教育者として指導ができるようになることを目指す。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習（PBL）　■討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等）　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：子ども英語教育の目標（1）英語授業に必要な知識・理解（ディスカッション）
　事前学習：授業前にテキストを読み、質問項目をまとめておくこと。（2時間）
　事後学習：授業で課されたことについて、レポートにまとめておくこと。（2時間）
第2回：子ども英語教育の目標（2）英語授業に必要な知識・理解（ディスカッション）
　事前学習：授業前にテキストを読み、自身が簡単な英語でのやりとりができるようにしておくこと。（2時間）
　事後学習：授業で課されたことについて、レポートにまとめておくこと。（2時間）
第3回：子ども英語教育の理論（1）第二言語習得に関する知識と英語授業実践への応用①（ディスカッション）
　事前学習：授業前にテキストを読み、第二言語習得論が示唆することを理解しておくこと。（2時間）
　事後学習：授業で学んだことについて、レポートにまとめておくこと。（2時間）
第4回：子ども英語教育の理論（2）第二言語習得に関する知識と英語授業実践への応用②（ディスカッション）
　事前学習：授業前にテキストを読み、第二言語習得論がどのように役に立つかを理解しておくこと。（2時間）
　事後学習：授業で学んだことについて、レポートにまとめておくこと。（2時間）
第5回：子ども英語教育の理論（3）外国語授業実践と授業づくり（グループワーク）
　事前学習：授業前にテキストを読み、質問項目をまとめておくこと。（2時間）
　事後学習：授業で学んだことについて、レポートにまとめておくこと。（2時間）
第6回：子ども英語教育の理論（4）学習指導案と単元指導計画（グループワーク）
　事前学習：授業前にテキストを読み、質問項目をまとめておくこと。（2時間）
　事後学習：授業で学んだことについて、レポートにまとめておくこと。（2時間）
第7回：子ども英語教育の理論（5）評価について（グループワーク）
　事前学習：授業前にテキストを読み、評価についてまとめておくこと。（2時間）
　事後学習：授業で学んだことについて、レポートにまとめておくこと。（2時間）

第８回：子ども英語教育の指導法（１）クラスルームイングリッシュ（グループワーク）
事前学習：授業前にテキストを読み、研究開発校での成功例についてまとめておくこと。（２時間）
事後学習：授業で学んだことについて、レポートにまとめておくこと。（２時間）
第９回：子ども英語教育の指導法（２）英語コミュニケーション能力（グループワーク）
事前学習：授業前にテキストを読み、コミュニケーションについてまとめておくこと。（２時間）
事後学習：授業で学んだことについて、レポートにまとめておくこと。（２時間）
第10回：子ども英語教育の指導法（３）英語音声のしくみ（グループワーク）
事前学習：授業前にテキストを読み、音声指導がどうあるべきかについて企画をしておくこと。（２時間）
事後学習：授業で学んだことについて、レポートにまとめておくこと。（２時間）
第11回：子ども英語教育の指導法（４）英語の文法（グループワーク）
事前学習：授業前にテキストを読み、指導がどうあるべきかについて指導実演準備をしておくこと。（２時間）
事後学習：授業で学んだことについて、レポートにまとめておくこと。（２時間）
第12回：子ども英語教育の指導法（５）英語の歴史、英語文学、児童文学。（ディスカッション）
事前学習：授業前にテキストを読み、指導がどうあるべきかについて指導実演準備をしておくこと。（２時間）
事後学習：授業で学んだことについて、レポートにまとめておくこと。（２時間）
第13回：子ども英語教育のための教材作成と指導実践（１）クラスマネジメント（課題解決型学習）
事前学習：授業前に指導案を作り、実際の指導を行ってみる。（２時間）
事後学習：授業で学んだことについて、レポートにまとめておくこと。（２時間）
第14回：子ども英語教育のための教材作成と指導実践（２）自立した学習者（課題解決型学習）
事前学習：授業前に指導案を作り、実際の指導を行ってみる。（２時間）
事後学習：授業で学んだことについて、レポートにまとめておくこと。（２時間）
第15回：子ども英語教育のまとめ（プレゼンテーション）
事前学習：授業前に指導案を確認し、実際の指導を他学生を児童に見立てて行ってみる。（２時間）
事後学習：授業で学んだ振り返り、反省などについて、レポートにまとめて提出する。（２時間）
第16回：定期試験

授業実施方法（面接授業・遠隔授業）

原則として「面接授業」を行います。
ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。
遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成績評価方法

定期試験（50%）、プレゼンテーション（25%）、平常点（25%）で総合的に評価する。
（平常点は、授業への参加状況・受講態度、レポートなどの提出状況）

成績評価基準

子ども英語の特徴を理解したうえで、教材を作成しその指導ができるか。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック

１）授業時の課題に対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
２）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
３）小レポートに対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
４）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
■定期試験時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
５）その他（Q&Aに対するフィードバックについて）
□授業時　□仁大eラーニング　■メール　□その他

実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）

テキスト、参考図書

テキスト
村野井仁『小学校英語教育の基礎知識』（大修館書店、2018年）

その他（受講上の注意）

プレゼンテーションではパソコン（主にパワーポイント）を用いるので、使用法について習熟しておくこと。

オ フ ィ ス ア ワ ー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

絵本・児童文学論 (Theory of Picture Books andJuvenile Literature)			担当教員	生駒　幸子
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−C−2308	2単位	3年後期	講義	選択

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　関連科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>　大学が独自に設定する科目

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

教育・保育の実践に求められる表現技術

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識･技能　□論理的思考力と創造力　□人間関係形成･社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解･自己管理能力　□諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

小学校教諭一種免許状（選択）、幼稚園教諭一種免許状（選択）、保育士資格（選択）

授業の内容

国内外の著名な絵本・児童文学作品を読みなおすことを通じて、それらの児童文化財の特質と歴史を学ぶ。絵本の読み聞かせ、ストーリーテリングの方法についても理解を深める。

授業の到達目標

①絵本・児童文学の特質を理解したうえで、作品における物語の鑑賞や解釈をすることができる。
②日本における絵本・児童文学の歴史、子ども観の変遷を理解している。
③絵本の読み聞かせ、ストーリーテリングの実践を通して、基礎的な技術を身につけている。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習（PBL）　■討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等）　□実習、フィールドワーク　■実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：オリエンテーション（授業の進め方、受講ルールについて）
　事前学習：これまで実習などで読んだ絵本をリストにする（2時間）
　事後学習：自分が好きな絵本をリストにし、その理由について考える（2時間）
第2回：絵本とはなにか①　絵本における絵と言葉
　事前学習：自分のお気に入りの絵本をみつけておく（2時間）
　事後学習：自分の好きな絵本について、絵と言葉をじっくり鑑賞し考察する（2時間）
第3回：絵本とはなにか②　絵本の定義、絵本の種類
　事前学習：絵本の定義、絵本の種類について資料を読んでおく（2時間）
　事後学習：子どものころに読んでもらった絵本について思い出をまとめる（2時間）
第4回：絵本とはなにか③　絵本の読み聞かせの教育的意義
　事前学習：子どもにとっての読み聞かせの意味について考えをまとめる（2時間）
　事後学習：「絵本でビブリオバトル」紹介したい絵本を決めておく（2時間）
第5回：「絵本でビブリオバトル」①（発表・討議）
　事前学習：発表の準備をしておく（2時間）
　事後学習：紹介された絵本を読み、感想をまとめておく（2時間）
第6回：「絵本でビブリオバトル」②（発表・討議）
　事前学習：発表の準備をしておく（2時間）
　事後学習：紹介された絵本を読み、感想をまとめておく（2時間）
第7回：日本における子どもの本の歴史①　近代児童文学の夜明け
　事前学習：児童文学の歴史について概観しておく（2時間）
　事後学習：授業で学んだ子どもの本の歴史（該当箇所）の作品を読む（2時間）
第8回：日本における子どもの本の歴史②　芸術的児童文学の開花
　事前学習：児童文学の歴史について概観しておく（2時間）
　事後学習：授業で学んだ子どもの本の歴史（該当箇所）の作品を読む（2時間）

第９回：日本における子どもの本の歴史③　戦争下、戦後の児童文学
　　事前学習：児童文学の歴史について概観しておく（２時間）
　　事後学習：授業で学んだ子どもの本の歴史（該当箇所）の作品を読む（２時間）
第10回：児童文学のアダプテーション①　昔話の絵本
　　事前学習：昔話の絵本を探しておく（２時間）
　　事後学習：昔話の絵本を数種類を調べて、比較してみる（２時間）
第11回：児童文学のアダプテーション②　アニメーション
　　事前学習：アニメーション化された児童文学作品を探しておく（２時間）
　　事後学習：アニメーション化された作品の原典を読んでみる（２時間）
第12回：児童文学のアダプテーション③絵本・児童文学のキャラクター
　　事前学習：絵本・児童文学のキャラクターを見つけておく（２時間）
　　事後学習：キャラクター化が絵本・児童文学作品とどう関連するかを考える（２時間）
第13回：お話を語る①　お話とはなにか、お話を選ぶ・覚える・語る方法
　　事前学習：お話についての資料を読んでおく（２時間）
　　事後学習：お話を語る練習、発表準備をする（２時間）
第14回：お話を語る②（実践・発表）
　　事前学習：お話を語る練習、発表準備をする（２時間）
　　事後学習：仲間の感想をふまえ、実践で学んだことをまとめる（２時間）
第15回：お話を語る③（実践・発表）、学習のまとめ
　　事前学習：お話を語る練習、発表準備をする（２時間）
　　事後学習：授業全体をふりかえり、学んだことをまとめる（２時間）
定期試験は実施しない

授業実施方法（面接授業・遠隔授業）

原則として「面接授業」を行います。
ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。
遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成　績　評　価　方　法

リフレクションシート30％、授業への積極的参加態度（グループワーク含む）等30％、レポート（課題等）40％を総合的に評価します。

成　績　評　価　基　準

①絵本・児童文学の特質を理解したうえで、作品における物語の鑑賞や解釈を自分なりにできているか。
②日本における絵本・児童文学の歴史、子ども観の変遷を理解しているか。
③絵本の読み聞かせ、おはなしの実践をふまえ、自らの課題（改善点）を見出せているか。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック

１）授業時の課題に対するフィードバックについて
　■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
２）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
　■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
３）小レポートに対するフィードバックについて
　■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
４）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
　□定期試験時　■仁大eラーニング　□メール　□その他
５）その他
　□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他

実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）

テ　キ　ス　ト　、　参　考　図　書

川勝泰介・浅岡靖央・生駒幸子編著『ことばと表現力を育む　児童文化』（萌文書林）2018年

その他（受講上の注意）

講義形式、グループワーク（研究・発表）形式で授業を展開します。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

児童館論 (Theory of Children's Halls)			担当教員	中村　かおり
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−A−2350	2単位	3年後期	講義	選択

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　特設科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

子どもの健全育成の理念に関する基礎理論の理解

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識･技能　□論理的思考力と創造力　■人間関係形成･社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解･自己管理能力　□諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

児童厚生一級指導員（必修）

授業の内容

児童館・放課後児童クラブの目的・役割についての講義を中心とし、地域における子どもの健全育成、子育て支援、地域福祉活動等の機能と児童厚生員・放課後児童支援員の役割についての理解を深めます。また児童館ガイドラインや放課後児童クラブ運営指針を踏まえ、児童館実習に参考となるような実践例も学び考察します。

授業の到達目標

児童館・放課後児童クラブの機能と役割について、地域児童の今日的福祉課題とあわせて説明できる。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等）　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：オリエンテーション～健全育成とはなにか～
　事前学習：前期「児童館活動内容ａ」の講義内容を振り返り、理解を深めておくこと。（2時間）
　事後学習：子どもにとっての健全育成の意義について、授業内容と配布資料等を基にまとめておくこと。（2時間）
第2回：子どもの遊びと健全育成
　事前学習：テキスト「健全育成論」の関連項目第2章第1節に目を通し確認しておくこと。（2時間）
　事後学習：子どもの遊びと児童健全育成の意義について授業内容と配布資料等を基にまとめておくこと。（2時間）
第3回：現代社会と子ども①～子どもの抱える諸問題～
　事前学習：テキスト「健全育成論」の関連項目第1章に目を通し確認しておくこと。（2時間）
　事後学習：現代社会の中で子ども自身が抱える課題について授業内容と配布資料等を基にまとめておくこと。（2時間）
第4回：現代社会と子ども②～家庭・地域の抱える諸問題～
　事前学習：テキスト「健全育成論」の関連項目第1章に目を通し確認しておくこと。（2時間）
　事後学習：現代社会の中で家庭や地域が抱える課題について授業内容と配布資料等を基にまとめておくこと。（2時間）
第5回：児童館・放課後児童クラブの概要と特性（グループワーク･発表）
　事前学習：テキスト「児童館論」の関連項目第1章4～6に目を通し確認しておくこと。（2時間）
　事後学習：児童館･放課後児童クラブの概要と特性について授業内容と配布資料等を基にまとめておくこと。（2時間）
第6回：児童館・放課後児童クラブの変遷～児童福祉の歴史と動向～
　事前学習：テキスト「児童館論」の関連項目第1章1～3に目を通し確認しておくこと。（2時間）
　事後学習：児童館･放課後児童クラブの歴史的変遷について授業内容と配布資料等を基にまとめておくこと。（2時間）

第７回：児童館ガイドラインの内容と児童館に求められる機能①（グループワーク・発表）
事前学習：テキスト「児童館論」の関連項目第１章３と第２章に目を通し確認しておくこと。（２時間）
事後学習：児童館ガイドラインの内容について授業内容と配布資料等を基にまとめておくこと。（２時間）
第８回：児童館ガイドラインの内容と児童館に求められる機能②（グループワーク・発表）
事前学習：テキスト「児童館論」の関連項目第１章３と第２章に目を通し確認しておくこと。（２時間）
事後学習：児童館ガイドラインの内容について授業内容と配布資料等を基にまとめておくこと。（２時間）
第９回：放課後児童クラブの機能と役割～放課後児童クラブ運営指針と支援員～
事前学習：テキスト「児童館論」の関連項目第２章３に目を通し確認しておくこと。（２時間）
事後学習：放課後児童健全育成事業（放課後児童クラブ）について授業内容と配布資料等を基にまとめておくこと。（２時間）
第10回：児童館・放課後児童クラブにおける援助技術
事前学習：テキスト「健全育成論」「児童館論」の関連項目に目を通し確認しておくこと。（２時間）
事後学習：児童館等における援助技術の実際について授業内容と配布資料等を基にまとめておくこと。（２時間）
第11回：児童館･放課後児童クラブにおける子どもの安全・危機管理
事前学習：テキスト「児童館論」の関連項目に目を通し確認しておくこと。（２時間）
事後学習：児童への安全指導と施設の安全管理について授業内容と配布資料等を基にまとめておくこと。（２時間）
第12回：児童館･放課後児童クラブの活動の実際①～子育ち･子育て支援～
事前学習：テキスト「健全育成論」「児童館論」の関連項目に目を通し確認しておくこと。（２時間）
事後学習：児童館等における子育て支援のありかたについて授業内容と配布資料等を基にまとめておくこと。（２時間）
第13回：児童館･放課後児童クラブの活動の実際②～地域福祉活動～
事前学習：テキスト「健全育成論」「児童館論」の関連項目に目を通し確認しておくこと。（２時間）
事後学習：児童館等における地域連携のあり方について授業内容と配布資料等を基にまとめておくこと。（２時間）
第14回：児童厚生員･放課後児童支援員に求められる役割とは～法令遵守と職場倫理～
事前学習：テキスト「児童館論」の関連項目第３章３に目を通し確認しておくこと。（２時間）
事後学習：児童厚生員等が持つべき倫理について授業内容と配布資料等を基にまとめておくこと。（２時間）
第15回：まとめ～児童館･放課後児童クラブの展望と課題～
事前学習：テキストと授業内容全体の配布資料に目を通し確認しておくこと。（２時間）
事後学習：授業全体の振り返り。（２時間）

授業実施方法（面接授業・遠隔授業）

原則として「面接授業」を行います。
ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。
遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成　績　評　価　方　法

まとめレポート40%、課題レポート（授業中の課題含む）30%、平常点30%
（平常点は、授業への参加状況・受講態度、提出物の提出状況等を総合して判断します。）
出席を重視し、欠席・遅刻・早退は減点します。

成　績　評　価　基　準

児童館の機能と社会的意義について理解し、文章または口頭にて簡潔に説明できる。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック

１）授業時の課題に対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
２）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
３）小レポートに対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
４）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
□定期試験時　□仁大eラーニング　■メール　□その他
５）その他
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他

実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）

テキスト、参考図書
一般財団法人児童健全育成推進財団・『児童館論 － 児童館・放課後児童クラブテキストシリーズ（2）【改訂版】』・2023年
その他（受講上の注意）
・テキストの関連部分や配布資料を読み込んで授業に臨んでください。 ・配布されたレジュメや資料については時系列で丁寧にまとめておくこと。 ・授業の中の用語等に不明なものがあれば次回の授業までに調べるか、質問事項として付記すること。
オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

児童館活動内容 a (Activities of Children's Halls a)			担当教員	三浦　啓子
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−B−2307	2 単位	3 年前期	講義	選択

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　特設科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

教育・保育の内容の理解及び指導方法

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識･技術　□論理的思考力と創造力　■人間関係形成･社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解･自己管理能力　□諸課題の理解と課題対応能力　□総合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

児童厚生一級指導員（必修）

授業の内容

児童館・放課後児童クラブにおける日々の活動の流れ、年間を通じた活動の流れ、行事の企画立案
小学生の仲間づくり、居場所づくり、子育て支援活動、ボランティアの育成・支援等、児童館・放課後児童クラブの基本的活動の実施方法

授業の到達目標

児童ソーシャルワークをベースとした、児童館・放課後児童クラブの日々の活動の流れとともに、行事の企画や、利用者への対応、地域とのかかわり等について学び、児童館・放課後児童クラブの業務の実際を把握する

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習（PBL）　■討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　□グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等）　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第 1 回：児童館・放課後児童クラブの概要について
　事前学習：テキスト第 1 章を読み、児童館・放課後児童クラブの概要について質問事項をまとめておくこと（2 時間）
　事後学習：テキスト、配布資料を基に、児童館・放課後児童クラブの概要や役割についてまとめておく（2 時間）
第 2 回：児童館・放課後児童クラブの 1 日（週、年）の流れと活動のねらい（討議、ディスカッション）
　事前学習：テキスト第 2 章を基に児童館・放課後児童クラブの流れと役割についてまとめておくこと（2 時間）
　事後学習：テキスト、配布資料の見直しや、わからないことがあれば担当教員に質問する（2 時間）
第 3 回：児童館・放課後児童クラブにおける遊びの環境構成（ディスカッション）
　事前学習：児童館・放課後児童クラブの機能、役割について理解を深め、安全に楽しく活動を行う為の環境についてまとめておくこと（2 時間）
　事後学習：環境構成による遊びの育成、安定した日常生活の支援についてまとめておく（2 時間）
第 4 回：遊びを通じた支援の実際（プログラム作り、具体的展開、支援法）
　事前学習：テキスト第 2 章を基に、子どもの遊びにおける関わり方についてまとめておくこと（2 時間）
　事後学習：児童館・放課後児童クラブの活動における遊びを通じた支援についてまとめ、わからないことがあれば担当教員に質問する（2 時間）
第 5 回：遊びを通じた児童の健全育成
　事前学習：テキスト第 1 章、2 章を基に、健全育成に関連する内容を自分なりにまとめておくこと（2 時間）
　事後学習：テキスト、配布資料を基に、健全育成の実際についてまとめ、わからないことは、担当教員に質問する（2 時間）

第６回：児童館・放課後児童クラブにおけるグループワーク（討議、ディスカッション）
事前学習：テキストや配布資料をふりかえり、児童館・放課後児童クラブにおけるグループワークの関わりについてまとめておくこと（２時間）
事後学習：児童館活動、放課後児童クラブにおけるグループワークの意義についてまとめておく（２時間）
第７回：児童館・放課後児童クラブにおけるケースワーク
事前学習：テキスト等の見直しやわからないところがあったら調べ、子どもが抱える福祉的課題について自分なりにまとめておくこと（２時間）
事後学習：児童館・放課後児童クラブにおいてケースワークを行う意義についてまとめ、わからないところがあったら担当教員に質問する（２時間）
第８回：小学生の仲間づくり・居場所づくり（討議、ディスカッション）
事前学習：小学生の仲間づくり・居場所づくりの意義についてディスカッションをするため自分なりの意見をまとめておくこと（２時間）
事後学習：小学生の仲間づくり・居場所づくりにおける、関わり、支援についてまとめておく（２時間）
第９回：子育て支援活動（討議、ディスカッションと発表）
事前学習：子育て支援についてディスカッションをするため、児童館・放課後児童クラブにおける状況を調べまとめておくこと（２時間）
事後学習：児童館・放課後児童クラブにおける子育て支援活動を行う意義についてまとめておく（２時間）
第10回：ボランティアの育成・支援（ディスカッション）
事前学習：テキスト第２章の７を基に、ボランティアの育成について自分なりにまとめておくこと（２時間）
事後学習：ボランティアの育成・支援における意義についてまとめわからないことがあれば担当教員に聞く（２時間）
第11回：児童館・放課後児童クラブにおける生活・学習支援（ディスカッションと発表）
事前学習：テキストのふりかえりや配布資料を読み、児童館・放課後児童クラブにおける生活・学習支援について自分なりの意見をまとめておくこと（２時間）
事後学習：安定した生活・学習支援における具体的なアプローチについてまとめる（２時間）
第12回：保護者・学校・地域との連携（討議、グループワーク）
事前学習：児童館・放課後児童クラブの特性についてふりかえり、保護者・学校・地域との連携において重要な要素をまとめておくこと（２時間）
事後学習：保護者・学校・地域との連携において具体的な連携についてまとめておく（２時間）
第13回：子どもたちのニーズに基づいた行事やイベントの企画立案（演習）①
事前学習：社会状況の把握や必要とされる支援を考慮して子どものニーズについてまとめておくこと（２時間）
事後学習：社会状況の把握や必要な支援、子どものニーズに応じた行事やイベントの企画立案についてまとめておく（２時間）
第14回：子どもたちのニーズに基づいた行事やイベントの企画立案（演習）②
事前学習：社会状況の把握や必要とされる支援、子どものニーズについてまとめておくこと（２時間）
事後学習：社会状況の把握や必要な支援、子どものニーズに応じた行事やイベントの企画立案についてまとめておく（２時間）
第15回：企画発表会、講評
事前学習：児童館・放課後児童クラブの活動や流れを理解し、行事やイベント企画の立案ができているか自分なりの意見をまとめておくこと（２時間）
事後学習：企画発表、講評を基に、児童館・放課後児童クラブにおける実践おいて可能かなど必要な支援や課題についてまとめる（２時間）

授業実施方法（面接授業・遠隔授業）

原則として「面接授業」を行います。
ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。
遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成　績　評　価　方　法

平常点（受講態度および取組姿勢　60%）、レポート（授業中の課題含む　40%）により総合的に評価します。出席を重視し、欠席・遅刻・早退は減点します。

成　績　評　価　基　準

児童ソーシャルワークをベースとした、児童館・放課後児童クラブの日々の流れと年間を通じた活動の流れを理解して文章で説明できているか、課題において自分の見解をまとめて述べられているか、現場における実践可能なプログラムの企画立案ができているか

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

1）授業時の課題に対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　□メール　■その他（授業で使用していた掲示板本文を利用）
2）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
3）小レポートに対するフィードバックについて
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
4）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
□定期試験時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
5）その他
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他

実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)

テキスト、参考図書

『児童館論』一般財団法人児童健全育成推進財団

その他(受講上の注意)

特になし。

オフィスアワー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

応用栄養学Ⅳ(ライフスタイル・スポーツ栄養学)(Applied Nutrition Ⅳ(Lifestyle andSports))			担当教員	鳴瀬　　碧、新井田　裕樹
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−B−2437	2単位	4年前期	講義	必修

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科専門科目　専門分野

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

栄養状態を把握し、個別栄養評価プログラムを提案し、行動変容を支援できる能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識･技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成･社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解･自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

管理栄養士国家試験受験資格（必修）

授業の内容

スポーツ実施者の健康・体力、競技力の向上を支援するための栄養管理、異常環境、ストレス下での健康を維持増進するための栄養管理の方法を学習する。

授業の到達目標

スポーツ実施者および異常環境、ストレス下の栄養生理を理解し、栄養管理を行うための知識を身に付ける

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　□グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　□発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等）　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：運動と健康づくりのための身体活動基準（鳴瀬　碧）
　事前学習：運動と健康づくりのための身体活動基準についてテキストを読み、質問項目をまとめておくこと（2時間）
　事後学習：講義の内容をまとめておくこと（2時間）
第2回：運動とトレーニングにおけるエネルギー代謝、エネルギー消費量の評価（鳴瀬　碧）
　事前学習：運動とトレーニングにおけるエネルギー代謝、エネルギー消費量の評価についてテキストを読み、質問項目をまとめておくこと（2時間）
　事後学習：講義の内容をまとめておくこと（2時間）
第3回：スポーツ選手の身体組成、トレーニング後・試合後のリカバリー、試合前の食事（鳴瀬　碧）
　事前学習：スポーツ選手の身体組成、トレーニング後・試合後のリカバリー、試合前の食事についてテキストを読み、質問項目をまとめておくこと（2時間）
　事後学習：講義の内容をまとめておくこと（2時間）
第4回：スポーツ選手のたんぱく質摂取・骨の健康と栄養摂取（鳴瀬　碧）
　事前学習：スポーツ選手のたんぱく質摂取・骨の健康と栄養摂取についてテキストを読み、質問項目をまとめておくこと（2時間）
　事後学習：講義の内容をまとめておくこと（2時間）
第5回：スポーツ選手の貧血、ビタミン・抗酸化物質と運動、水分補給（鳴瀬　碧）
　事前学習：スポーツ選手の貧血、ビタミン・抗酸化物質と運動、水分補給についてテキストを読み、質問項目をまとめておくこと（2時間）
　事後学習：講義の内容をまとめておくこと（2時間）
第6回：スポーツ選手のウエイトコントロール、サプリメント（鳴瀬　碧）
　事前学習：スポーツ選手のウエイトコントロール、サプリメントについてテキストを読み、質問項目をまとめておくこと（2時間）
　事後学習：講義の内容をまとめておくこと（2時間）

第７回：スポーツ選手の栄養教育・食事管理、質疑応答（鳴瀬　碧）
　　事前学習：スポーツ選手の栄養教育・食事管理についてテキストを読み、質問項目をまとめておくこと（２時間）
　　事後学習：講義の内容をまとめておくこと（２時間）
第８回：環境と栄養の概要（新井田裕樹）
　　事前学習：環境と栄養についてテキストを読み、質問項目をまとめておくこと（２時間）
　　事後学習：講義の内容をまとめておくこと（２時間）
第９回：生体リズムと栄養（新井田裕樹）
　　事前学習：生体の恒常性についてテキストを読み、質問項目をまとめておくこと（２時間）
　　事後学習：講義の内容をまとめておくこと（２時間）
第10回：ストレス時の代謝（新井田裕樹）
　　事前学習：ストレス時のホルモン分泌と機能についてテキストを読み、質問項目をまとめておくこと（２時間）
　　事後学習：講義の内容をまとめておくこと（２時間）
第11回：ストレス時の栄養（新井田裕樹）
　　事前学習：糖質、たんぱく質、脂質代謝について理解しておくこと（２時間）
　　事後学習：講義の内容をまとめておくこと（２時間）
第12回：高温・低温環境と栄養（新井田裕樹）
　　事前学習：高温・低温環境と栄養についてテキストを読み、質問項目をまとめておくこと（２時間）
　　事後学習：講義の内容をまとめておくこと（２時間）
第13回：高圧・低圧環境と栄養（新井田裕樹）
　　事前学習：高圧・低圧と栄養についてテキストを読み、質問項目をまとめておくこと（２時間）
　　事後学習：講義の内容をまとめておくこと（２時間）
第14回：無重力状態の栄養（新井田裕樹）
　　事前学習：無重力状態の栄養についてテキストを読み、質問項目をまとめておくこと（２時間）
　　事後学習：講義の内容をまとめておくこと（２時間）
第15回：災害時の栄養（新井田裕樹）
　　事前学習：テキストを読み、質問項目をまとめておくこと（２時間）
　　事後学習：配布プリントを利用し、内容をまとめておくこと（２時間）
第16回：定期試験

授業実施方法（面接授業・遠隔授業）

原則として「面接授業」を行います。
ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。
遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成　績　評　価　方　法

定期試験（80％）平常点（20％）（平常点は授業の取組み態度等を総合的に評価する）

成　績　評　価　基　準

スポーツ実施者および異常環境、ストレス下の栄養生理について理解できたか。またこれらの環境における栄養管理の手法について説明できるか。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック

１）授業時の課題に対するフィードバックについて
　■授業時　　□仁大eラーニング　　□メール　　□その他
２）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
　■授業時　　■仁大eラーニング　　□メール　　□その他
３）小レポートに対するフィードバックについて
　□授業時　　□仁大eラーニング　　□メール　　□その他
４）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
　□定期試験時　　□仁大eラーニング　　□メール　　□その他
５）その他
　□授業時　　□仁大eラーニング　　□メール　　□その他

実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）

テ　キ　ス　ト　、　参　考　図　書

・栄養科学イラストレイテッド　応用栄養学　第３版　栢下　淳、上西一弘／編　羊土社　2025年
・スポーツ栄養学 ―― 理論と実践 ――　田口素子編　市村出版　2022年

その他（受講上の注意）
授業計画は進捗状況により変更することがあります。
オ フ ィ ス ア ワ ー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

栄養教育論Ⅲ(行動療法・カウンセリング) (Nutrition Education Ⅲ(Behavior Theoryand Counseling))			担当教員	森　俊之
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−B−2441	1単位	4年前期	演習	選択

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科専門科目　専門分野

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

栄養状態を把握し、個別栄養評価プログラムを提案し、行動変容を支援できる能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識･技能　□論理的思考力と創造力　■人間関係形成･社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
■自己理解･自己管理能力　□諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

管理栄養士国家試験受験資格（必修）

授業の内容

行動変容を促す基礎理論として、行動療法やカウンセリング理論の基本について学ぶとともに、具体的な栄養教育場面での実践方法について考える。

授業の到達目標

・行動療法・カウンセリング理論など行動変容に関する理論の基礎について理解する。
・栄養教育の場面で、どのような関わり方をしたらいいか考える。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　□グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　□発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等）　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：ガイダンス（栄養教育において人間を理解する意義）
　事後学習：Eラーニングコース内で指示した課題に取り組むこと（2時間）
第2回：行動変容の基礎理論①（精神分析）
　事後学習：Eラーニングコース内で指示した課題に取り組むとともに、復習テストを繰り返し解いてみること（4時間）
第3回：行動変容の基礎理論②（行動療法）
　事後学習：Eラーニングコース内で指示した課題に取り組むとともに、復習テストを繰り返し解いてみること（4時間）
第4回：行動療法の法則と技法
　事後学習：Eラーニングコース内で指示した課題に取り組むとともに、復習テストを繰り返し解いてみること（4時間）
第5回：行動変容の基礎理論③（来談者中心療法）
　事後学習：Eラーニングコース内で指示した課題に取り組むとともに、復習テストを繰り返し解いてみること（4時間）
第6回：カウンセリングの基礎技術
　事後学習：Eラーニングコース内で指示した課題に取り組むとともに、復習テストを繰り返し解いてみること（4時間）
第7回：その他の心理学理論①
　事後学習：Eラーニングコース内で指示した課題に取り組むとともに、復習テストを繰り返し解いてみること（4時間）
第8回：その他の心理学理論②
　事後学習：Eラーニングコース内で指示した課題に取り組むとともに、復習テストを繰り返し解いてみること（4時間）
第9回：定期試験

質問等がある場合は、Eラーニングコース上の質問掲示板または電子メールを利用して積極的に質問すること。

授業実施方法(面接授業・遠隔授業)

原則として「面接授業」を行います。
ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。
遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成　績　評　価　方　法

学期末に実施する筆記試験(80%)と授業中に指示する課題・授業時の態度等(20%)をもとに評価する。

成　績　評　価　基　準

・行動療法・カウンセリング理論など行動変容に関する理論の基礎について説明できるか。
・栄養教育の場面で、どのような関わり方をしたらいいか考えることができ、模擬的に実践できるか。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

1)授業時の課題に対するフィードバックについて
□授業時　■仁大eラーニング　□メール　□その他
2)事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
□授業時　■仁大eラーニング　□メール　□その他
3)小レポートに対するフィードバックについて
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
4)定期試験(レポート試験を含む)に対するフィードバックについて
□定期試験時　■仁大eラーニング　□メール　□その他
5)その他
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他

実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)

テ　キ　ス　ト　、　参　考　図　書

テキストは特に指定しない。必要に応じて資料を配付するとともに、参考図書を紹介する。

その他(受講上の注意)

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

臨床栄養病理学 (Clinical Dietetic Pathology)			担当教員	齋藤　正一
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−A−2444	1単位	4年後期	講義	選択

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科専門科目　専門分野

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

栄養管理を行い、チーム医療の一員として貢献できる能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的知識･技能　■理論的思考力と創造力　■人間関係形成･社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
□自己理解･自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　■キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

食品衛生管理者・食品衛生監視員任用資格（選択）

授業の内容

臨床現場での栄養治療は、病態をよく理解して、食事や種々栄養剤に含まれる栄養素がどのように作用するかを正しく把握しながら実施していく必要がある。各種疾患の病態を十分理解したうえで、根拠に基づいた食事療法および栄養療法について教授する。

授業の到達目標

各疾患の病態を正確に把握した上で、その食事療法および栄養療法について説明できる。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習（PBL）　■討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　□グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　□発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等）　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：臨床栄養病理学概説、生活習慣病概説（グループワーク、ディスカッション）
　事前学習：授業前に生活習慣病とはなにか、どんな疾患があり、その発症機序、症候、診断、合併症、予防、治療について、学習しまとめておく事。（2時間）
　事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。（2時間）
第2回：糖尿病　基礎
　事前学習：授業前にテキストの該当箇所を読み、質問事項をまとめておく事。（2時間）
　事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。（2時間）
第3回：糖尿病　分類と診断　合併症
　事前学習：授業前にテキスト（人体の構造と機能及び疾病の成り立ち10を読み、質問事項をまとめておく事。（2時間）
　事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。（2時間）
第4回：糖尿病　治療（栄養療法を含む）
　事前学習：授業前にテキストの該当箇所を読み、質問事項をまとめておく事。（2時間）
　事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。（2時間）
第5回：内分泌疾患　生理学
　事前学習：授業前にテキストの該当箇所を読み、質問事項をまとめておく事。（2時間）
　事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。（2時間）

第６回：内分泌疾患　病態と治療
　　事前学習：授業前にテキストの該当箇所を読み、質問事項をまとめておく事。（２時間）
　　事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。（２時間）
第７回：栄養障害（グループワーク、ディスカッション）
　　事前学習：授業前にテキストの該当箇所を読み、栄養障害についてまとめておく事。（２時間）
　　事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。（２時間）
第８回：脂質異常症
　　事前学習：授業前にテキストの該当箇所を読み、質問事項をまとめておく事。（２時間）
　　事後学習：授業で配布された資料を再度確認し、問題を解くとともに、わからない事があれば、図書館で調べたり、担当教員に質問する事。（２時間）
第９回：定期試験

授業実施方法（面接授業・遠隔授業）

原則として「面接授業」を行います。
ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。
遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成　績　評　価　方　法

定期試験（60%）、平常点（40%）
（平常点は、授業への参加状況・受講態度・小試験の成績等を総合して判断します）

成　績　評　価　基　準

各種疾患の病態を正確に把握した上で、その食事療法および栄養療法について説明できる。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック

１）授業時の課題に対するフィードバックについて
　□授業時　　■仁大eラーニング　　□メール　　□その他
２）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
　□授業時　　□仁大eラーニング　　□メール　　□その他
３）小レポートに対するフィードバックについて
　□授業時　　□仁大eラーニング　　□メール　　□その他
４）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
　■定期試験時　　□仁大eラーニング　　□メール　　□その他
５）その他
　□授業時　　□仁大eラーニング　　□メール　　□その他

実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）

テ　キ　ス　ト、参　考　図　書

サクセス管理栄養士・栄養士養成講座 解剖生理学・病理学　第一出版（１年次と同じテキストを使用）

その他（受講上の注意）

管理栄養士国家試験受験予定の学生は受講を強く推奨する。講義中の私語は厳重に禁止し、減点対象とする。疑問点や不明点があればすぐに質問すること。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

栄養総合演習Ⅰ (Integrated Seminar Ⅰ)			担当教員	佐藤　裕保、山本　浩範、長岡　純子、 森　　恵見、三浦　　努
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−F−2259	2単位	2年後期・ 3年・4年	演習	選択

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科専門科目　専門分野

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

課題解決能力、社会に貢献する意欲と態度、職業倫理観

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□体系的な知識･技能　□論理的思考力と創造力　■人間関係形成･社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
□自己理解･自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　■キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

管理栄養士国家試験受験資格（必修）

授業の内容

専門分野を横断して、栄養評価や管理が行える総合的な能力を養う。
オムニバスにて臨地実習の事前事後指導を行う。
事前指導として、臨地実習の意義についての指導および、実習に際しての具体的準備を行う。
実習先施設の特徴の把握、実習テーマ設定等を実習グループにて行う。
事後指導として、実習の成果および実習テーマについてまとめ、プレゼンテーションを行う。

授業の到達目標

実習の成果および実習テーマについて確認し、栄養士・管理栄養士業務について理解する。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習（PBL）　■討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等）　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：（給食運営実習）：給食施設の特徴・給食の運営について（長岡・森）
　事前学習：給食施設について、関連する教科書を復習する（2時間）
　事後学習：給食施設について、ホームページ等を利用して、特徴を把握する（2時間）
第2回：（給食運営実習）：実習テーマ・実習ノートについて（長岡・森）
　事前学習：実習テーマについて、準備しておく（2時間）
　事後学習：実習ノートを熟読する（2時間）
第3回：（給食運営実習）：実習報告（発表）（長岡・森）
　事前学習：発表媒体・原稿の準備（2時間）
　事後学習：他施設の発表についてまとめる（2時間）
＜公衆栄養臨地実習＞
第4回a：（公衆栄養臨地実習）：保健所・保健センターの特徴について（三浦）
　事前学習：保健所・保健センターについて、関連する教科書を復習する（2時間）
　事後学習：保健所・保健センターについて、ホームページ等を利用して、特徴を把握する（2時間）
第5回a：（公衆栄養臨地実習）：公衆栄養マネジメントについてⅠ（三浦）
　事前学習：公衆栄養マネジメントについて、関連する教科書を復習する（2時間）
　事後学習：配布プリントを見直し、わからないところを図書館で調べたり質問する（2時間）
第6回a：（公衆栄養臨地実習）：公衆栄養マネジメントについてⅡ（三浦）
　事前学習：公衆栄養マネジメントについて、関連する教科書を復習する（2時間）
　事後学習：配布プリントを見直し、わからないところを図書館で調べたり質問する（2時間）
第7回a：（公衆栄養臨地実習）：実習テーマ設定（グループワーク・ディスカッション）・実習ノートについて（三浦）
　事前学習：実習テーマについて、グループで議論できるように準備しておく（2時間）
　事後学習：実習ノートを熟読する（2時間）

第８回a：（公衆栄養臨地実習）：実習報告（発表）（三浦）
事前学習：発表媒体・原稿の準備（２時間）
事後学習：他施設の発表についてまとめる（２時間）
＜給食経営管理臨地実習＞
第４回b：（給食経営管理臨地実習）：給食施設の特徴について（長岡・森）
事前学習：給食施設について、関連する教科書を復習する（２時間）
事後学習：給食施設について、ホームページ等を利用して、特徴を把握する（２時間）
第５回b：（給食経営管理臨地実習）：給食経営管理についてⅠ（長岡・森）
事前学習：給食経営管理について、関連する教科書を復習する（２時間）
事後学習：配布プリントを見直し、わからないところを図書館で調べたり質問する（２時間）
第６回b：（給食経営管理臨地実習）：給食経営管理についてⅡ（長岡・森）
事前学習：給食経営管理について、関連する教科書を復習する（２時間）
事後学習：配布プリントを見直し、わからないところを図書館で調べたり質問する（２時間）
第７回b：（給食経営管理臨地実習）：実習テーマ設定（グループワーク・ディスカッション）・実習ノートについて（長岡・森）
事前学習：実習テーマについて、グループで議論できるように準備しておく（２時間）
事後学習：実習ノートを熟読する（２時間）
第８回b：（給食経営管理臨地実習）：実習報告（発表）（長岡・森）
事前学習：発表媒体・原稿の準備（２時間）
事後学習：他施設の発表についてまとめる（２時間）
第９回：（臨床栄養臨地実習）：病院・介護老人保健施設の特徴について（佐藤裕・山本）
事前学習：病院・介護老人保健施設について、関連する教科書を復習する（２時間）
事後学習：病院・介護老人保健施設について、ホームページ等を利用して、特徴を把握する（２時間）
第10回：（臨床栄養臨地実習）：栄養ケアマネジメントについてⅠ（佐藤裕・山本）
事前学習：栄養ケアマネジメントについて、関連する教科書を復習する（２時間）
事後学習：配布プリントを見直し、わからないところを図書館で調べたり質問する（２時間）
第11回：（臨床栄養臨地実習）：栄養ケアマネジメントについてⅡ（佐藤裕・山本）
事前学習：栄養ケアマネジメントについて、関連する教科書を復習する（２時間）
事後学習：配布プリントを見直し、わからないところを図書館で調べたり質問する（２時間）
第12回：（臨床栄養臨地実習）：実習テーマ設定（グループワーク・ディスカッション）・実習ノートについて（佐藤裕・山本）
事前学習：実習テーマについて、グループで議論できるように準備しておく（２時間）
事後学習：実習ノートを熟読する（２時間）
第13回：（臨床栄養臨地実習）：実習報告Ⅰ（発表）（佐藤裕・山本）
事前学習：発表媒体・原稿の準備（２時間）
事後学習：他施設の発表についてまとめる（２時間）
第14回：（臨床栄養臨地実習）：実習報告Ⅱ（発表）（佐藤裕・山本）
事前学習：発表媒体・原稿の準備（２時間）
事後学習：他施設の発表についてまとめる（２時間）
第15回：実習報告会：全体会（給食運営実習・公衆栄養臨地実習・給食経営管理臨地実習の聴講、臨床栄養臨地実習の発表）（発表）（佐藤裕・三浦・山本・長岡・森）
事前学習：発表媒体・原稿の準備（２時間）
事後学習：他施設の発表についてまとめる（２時間）
それぞれの臨地実習の関連科目の復習を充分にすること。

授業実施方法（面接授業・遠隔授業）

原則として「面接授業」を行います。
ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。
遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成　績　評　価　方　法

提出物（60%）平常点（40%）
（平常点は、授業への参加状況・受講態度等を総合して判断します）

成　績　評　価　基　準

実習の成果および実習テーマについて確認し、栄養士・管理栄養士業務について説明することができるか。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

1）授業時の課題に対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
2）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　■メール　□その他
3）小レポートに対するフィードバックについて
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
4）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
□定期試験時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
5）その他
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他

実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)

テキスト、参考図書

それぞれの臨地実習の関連科目にて使用した教科書および参考図書。
必要に応じてプリント配布。

その他(受講上の注意)

正当な理由なく事前指導を欠席した場合、臨地実習に出られない場合がある。
４－８回については、選択した臨地実習に出席する。

オフィスアワー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

臨床栄養臨地実習 (Field Practice in Clinical Nutrition)			担当教員	佐藤　裕保、山本　浩範
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−F−2362	2単位	3年後期・ 4年前期	実習	選択

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科専門科目　専門分野

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

課題解決能力、社会に貢献する意欲と態度、職業倫理観

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□体系的な知識･技能　□論理的思考力と創造力　■人間関係形成･社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
□自己理解･自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　■キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

管理栄養士国家試験受験資格（必修）

授業の内容

実践活動の場での課題発見、解決を通して、栄養評価・判定に基づく適切なマネジメントを行うために必要とされる専門的知識及び技術の統合を図る。
傷病者を対象とした臨床栄養管理について病院や老人保健施設において管理栄養士の業務を臨地で実習する。
外来・入院患者や入所者に対する栄養評価・判定、栄養食事指導、診療科やベッドサイド訪問、栄養ケアプランの作成などを実習し、NST（栄養サポートチーム）における管理栄養士の役割など、医師・看護師など医療専門職との連携の実際を学び、医療スタッフの一員として必要な技術・能力を修得する。

授業の到達目標

医療領域における管理栄養士業務の実際を理解する。

アクティブ・ラーニング

■課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等）　■実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

実習施設事前訪問・実習挨拶および指導者との打ち合わせ（実習）
実習施設ごとの実習計画による実習（実習）
実習施設についての理解（組織・運営）（実習）
医療施設・介護老人保健施設における管理栄養士業務の理解（実習）
栄養評価・判定（PBL・実習）
栄養食事指導（PBL・実習）
診療科やベッドサイド訪問により栄養アセスメント、栄養介入の実際を学ぶ（PBL・実習）
栄養管理計画（栄養ケアプラン）の作成（PBL・実習）
実習内容に沿ったプレゼンテーション（グループワーク・発表）
医療専門職との連携・共働の実際について学ぶ　などこれまでに学習した知識を総動員すること。
これまでに使用した教科書および参考図書を、最大限に活用すること。

授業実施方法(面接授業・遠隔授業)

原則として「面接授業」を行います。
ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。
遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成績評価方法

準備状況（20%）実習状況（20%）実習ノート等の提出物（20%）実習施設指導担当者による評価（40%）

成　績　評　価　基　準

医療領域における管理栄養士業務の実際を説明することができるか。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

1）授業時の課題に対するフィードバックについて
□授業時　□仁大eラーニング　■メール　■その他（実習期間中の巡回指導において直接指導を行う）
2）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
3）小レポートに対するフィードバックについて
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
4）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
□定期試験時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
5）その他（実習に対するフィードバックについて）
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　■その他（実習における評価および課題は、「栄養総合演習Ⅰ」においてフィードバックする）

実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)

テ　キ　ス　ト、参　考　図　書

臨床栄養学および臨床栄養学実習にて使用した教科書および参考図書、配布プリント。

その他(受講上の注意)

社会の一員としての自覚を持ち、守秘義務、職業倫理の遵守に努めること。
事故発生時は、早急に実習施設および大学に連絡すること。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

健康・栄養特別演習Ⅱ (Seminar in Health and Nutrition Ⅱ)			担当教員	尼子　克己
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−F−2467	2単位	4年前期	演習	必修

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科専門科目　特別演習・卒業研究

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

課題解決能力、社会に貢献する意欲と態度、職業倫理観

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識･技能　■論理的思考力と創造力　■人間関係形成･社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
■自己理解･自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　■キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

授業の内容

自分の研究テーマを設定し、各自研究計画を立て、これに基づいて研究を進め、成果をまとめてレポートを作成する。研究成果を発表し、お互いに批評・検討し合うとともに今後の課題等を明確にする。

授業の到達目標

自分の研究テーマを設定し、具体的な対象と方法を定める。研究デザインや途中経過を発表し、お互いに批評・検討し合うとともに今後の課題等も明確にする。

アクティブ・ラーニング

■課題解決型学習（PBL）　■討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等）　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：ガイダンス、課題の確認（PBL、ディスカッション、実験）
　事前学習：興味を持つ分野で設定されうる研究課題を列挙する（2時間）。
　事後学習：授業時に選択した研究課題について先行研究を整理する（2時間）。
第2回：文献講読（PBL、発表、討議）
　事前学習：取得した文献を精読し、疑問点などをまとめておく。（2時間）
　事後学習：当日の議論を踏まえて、講読した文献を読み直す。（2時間）
第3回：研究活動の進捗状況報告と今後の課題整理①（PBL、ディスカッション、実験）
　事前学習：実験または調査結果を整理し、報告用のレジュメを作成する（2時間）。
　事後学習：当日の議論を踏まえて、次の研究活動の準備を行う（2時間）。
第4回：文献講読（PBL、発表、討議）
　事前学習：取得した文献を精読し、疑問点などをまとめておく。（2時間）
　事後学習：当日の議論を踏まえて、講読した文献を読み直す。（2時間）
第5回：研究活動の進捗状況報告と今後の課題整理①（PBL、ディスカッション、実験）
　事前学習：実験または調査結果を整理し、報告用のレジュメを作成する（2時間）。
　事後学習：当日の議論を踏まえて、次の研究活動の準備を行う（2時間）。
第6回：文献講読（PBL、発表、討議）
　事前学習：取得した文献を精読し、疑問点などをまとめておく。（2時間）
　事後学習：当日の議論を踏まえて、講読した文献を読み直す。（2時間）
第7回：研究活動の進捗状況報告と今後の課題整理①（PBL、ディスカッション、実験）
　事前学習：実験または調査結果を整理し、報告用のレジュメを作成する（2時間）。
　事後学習：当日の議論を踏まえて、次の研究活動の準備を行う（2時間）。
第8回：文献講読（PBL、発表、討議）
　事前学習：取得した文献を精読し、疑問点などをまとめておく。（2時間）
　事後学習：当日の議論を踏まえて、講読した文献を読み直す。（2時間）

第９回：研究活動の進捗状況報告と今後の課題整理①（PBL、ディスカッション、実験）
　　事前学習：実験または調査結果を整理し、報告用のレジュメを作成する（２時間）。
　　事後学習：当日の議論を踏まえて、次の研究活動の準備を行う（２時間）。
第10回：文献講読（PBL、発表、討議）
　　事前学習：取得した文献を精読し、疑問点などをまとめておく。（２時間）
　　事後学習：当日の議論を踏まえて、講読した文献を読み直す。（２時間）
第11回：研究活動の進捗状況報告と今後の課題整理①（PBL、ディスカッション、実験）
　　事前学習：実験または調査結果を整理し、報告用のレジュメを作成する（２時間）。
　　事後学習：当日の議論を踏まえて、次の研究活動の準備を行う（２時間）。
第12回：文献講読（PBL、発表、討議）
　　事前学習：取得した文献を精読し、疑問点などをまとめておく。（２時間）
　　事後学習：当日の議論を踏まえて、講読した文献を読み直す。（２時間）
第13回：研究活動の進捗状況報告と今後の課題整理①（PBL、ディスカッション、実験）
　　事前学習：実験または調査結果を整理し、報告用のレジュメを作成する（２時間）。
　　事後学習：当日の議論を踏まえて、次の研究活動の準備を行う（２時間）。
第14回：文献講読（PBL、発表、討議）
　　事前学習：取得した文献を精読し、疑問点などをまとめておく。（２時間）
　　事後学習：当日の議論を踏まえて、講読した文献を読み直す。（２時間）
第15回：研究活動の進捗状況報告と今後の課題整理①（PBL、ディスカッション、実験）
　　事前学習：履修期間全体の結果をまとめ、報告用のレジュメを作成する（２時間）。
　　事後学習：当日の議論を踏まえて、まとめを修正する（２時間）。
課題及び自主的な学習の取り組みなどを参考文献、学会誌などから見つけること。

授業実施方法（面接授業・遠隔授業）

原則として「面接授業」を行います。ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成　績　評　価　方　法

レポートや発表（50％）　平常点（50％）
（平常点は、授業への参加状況・受講態度などを総合して判断します。）

成　績　評　価　基　準

講読した文献等の内容をレポート形式でまとめ、発表することができるか。
オリジナルの研究報告に対して、クリティカルシンキングを実行できるか。
調査や論理に基づき、問題解決の方法を具体化できるか。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック

１）授業時の課題に対するフィードバックについて
　■授業時　□仁大eラーニング　□メール　■その他（Teamsのチャット）
２）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
　■授業時　□仁大eラーニング　□メール　■その他（Teamsのチャット）
３）小レポートに対するフィードバックについて
　□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
４）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
　□定期試験時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
５）その他
　□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他

実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）

テ　キ　ス　ト　、　参　考　図　書

必要に応じて指示する。

その他（受講上の注意）

ゼミ初回に、ガイダンスを行う。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

健康・栄養特別演習Ⅱ (Seminar in Health and Nutrition Ⅱ)			担当教員	池田　涼子
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−F−2467	2単位	4年前期	演習	必修

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科専門科目　特別演習・卒業研究

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

課題解決能力、社会に貢献する意欲と態度、職業倫理観

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識･技能　■論理的思考力と創造力　■人間関係形成･社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
■自己理解･自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　■キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

授業の内容

専門分野に関してこれまで集積した知見・技術を基礎に、先行研究・実践の事例を参考にしながら、自らの研究テーマを設定し、専門的研究を進める。
共同研究などにより学外で活動することがある。

授業の到達目標

・専門性と新規性を備えた独自の研究テーマを設定できる。
・適切な研究デザインを組み立てられる。
・研究テーマの背景となる知見を十分に収集・分析できる。

アクティブ・ラーニング

■課題解決型学習（PBL）　■討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等）　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

年度当初に指導教員と協議の上、具体的な計画を週回（授業）ごとにたてる。
第1回：ガイダンス　（ゼミの過去の研究テーマの確認）
　　事前学習：指導教員の指示に従い準備する（2時間）
　　事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（2時間）
第2回：資料検索　（調査方法・内容の検討）
　　事前学習：指導教員の指示に従い準備する（2時間）
　　事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（2時間）
第3回：研究方法に関する説明　（グループ編成、研究テーマの決定）
　　事前学習：指導教員の指示に従い準備する（2時間）
　　事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（2時間）
第4回：研究概要　（グループワーク、ディスカッション）
　　事前学習：指導教員の指示に従い準備する（2時間）
　　事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（2時間）
第5回：フィールド調査①
　　事前学習：指導教員の指示に従い準備する（2時間）
　　事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（2時間）
第6回：フィールド調査②
　　事前学習：指導教員の指示に従い準備する（2時間）
　　事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（2時間）
第7回：データ解析①
　　事前学習：指導教員の指示に従い準備する（2時間）
　　事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（2時間）

第８回：サンプル分析①
　　事前学習：指導教員の指示に従い準備する（２時間）
　　事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（２時間）
第９回：サンプル分析②
　　事前学習：指導教員の指示に従い準備する（２時間）
　　事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（２時間）
第10回：データ解析②
　　事前学習：指導教員の指示に従い準備する（２時間）
　　事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（２時間）
第11回：研究発表と討議①　（PBL・グループワーク）
　　事前学習：指導教員の指示に従い準備する（２時間）
　　事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（２時間）
第12回：研究発表と討議②　（PBL・グループワーク・）
　　事前学習：指導教員の指示に従い準備する（２時間）
　　事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（２時間）
第13回：研究発表と討議③　（PBL・グループワーク）
　　事前学習：指導教員の指示に従い準備する（２時間）
　　事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（２時間）
第14回：研究発表と討議④（ディスカッション）
　　事前学習：指導教員の指示に従い準備する（２時間）
　　事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（２時間）
第15回：研究発表と討議⑤（発表）
　　事前学習：指導教員の指示に従い準備する（２時間）
　　事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（２時間）
課題及び自主的な学習の取り組みなどについて参考文献、学会誌などからヒントを見つけること。

授業実施方法（面接授業・遠隔授業）

原則として「面接授業」を行います。ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成　績　評　価　方　法

レポート（40%）　発表（30%）　平常点（30%）
※平常点は、授業への参加状況・受講態度などから総合的に判断する

成　績　評　価　基　準

講読した文献等の内容をレポート形式でまとめ、発表することができるか。
自分の研究テーマに係る対象と方法を具体的に定め、実施に向けた準備態勢に入ることができるか。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック

１）授業時の課題に対するフィードバックについて
　■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
２）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
　■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
３）小レポートに対するフィードバックについて
　□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
４）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
　□定期試験時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
５）その他
　□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他（

実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）

テ　キ　ス　ト、参　考　図　書

必要に応じて指示する。

その他（受講上の注意）

ゼミ初回に、ガイダンスを行う。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

健康・栄養特別演習Ⅱ (Seminar in Health and Nutrition Ⅱ)			担当教員	浦本　裕美
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−F−2467	2単位	4年前期	演習	必修

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科専門科目　特別演習・卒業研究

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

課題解決能力、社会に貢献する意欲と態度、職業倫理観

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識･技能　■論理的思考力と創造力　■人間関係形成･社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
■自己理解･自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　■キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

授業の内容

専門分野に関するこれまでの学修を基礎に、先行研究を参考にしながら、専門的研究を進める際の課題の選び方、課題解決へのアプローチの仕方について学ぶ。
研究テーマをグループで設定し、研究計画を立て、これに基づいて研究を進める。研究途中、研究の進め方やデータ集計方法等について、随時必要に応じて見直し、目標を達成するために必要なアイデアの提案ができるように心掛け研究に取り組む。

授業の到達目標

・決まった答えがまだない「テーマの問い」に対する「未知の解」を求めて、解決方法を探りつつ研究を展開し推し進めることができる。
・課題に対して解決しようとする能動的な意識・態度をもち取り組み、全体を概観してチーム活動に貢献することができる。

アクティブ・ラーニング

■課題解決型学習（PBL）　■討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等）　□実習、フィールドワーク　■実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：卒業研究の内容・方法等についての説明と検討
　事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（2時間）
第2回：研究テーマ（仮）を決定し、テーマに基づく文献検索を実施
　事前学習：指導教員の指示に従い準備する（1時間）
　事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（5時間）
第3回：文献紹介（PBL・ディスカッション・グループワーク・発表）
　事前学習：発表者（半分の学生）：発表準備（6時間）※第3回と第4回で事前事後学習8時間
　事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（1時間）
第4回：文献紹介（PBL・ディスカッション・グループワーク・発表）
　事前学習：発表者（半分の学生）：発表準備（6時間）※第3回と第4回で事前事後学習8時間
　事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（1時間）
第5回：研究計画の検討（PBL・ディスカッション・グループワーク・発表）
　事前学習：第3回、第4回の文献紹介の内容等を考慮し、研究の方法について考えをまとめる（3時間）
　事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（1時間）
第6回：研究計画の決定（PBL・ディスカッション・グループワーク・発表）
　事前学習：指導教員の指示に従い準備する（2時間）
　事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（2時間）
第7回：研究計画に基づく準備（PBL・ディスカッション・グループワーク）
　事前学習：指導教員の指示に従い準備する（2時間）
　事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（2時間）

第８回：研究計画に基づく準備（PBL・ディスカッション・グループワーク）
　　事前学習：指導教員の指示に従い準備する（２時間）
　　事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（２時間）
第９回：研究遂行（PBL・ディスカッション・グループワーク）
　　事前学習：指導教員の指示に従い準備する（２時間）
　　事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（２時間）
第10回：研究遂行（PBL・ディスカッション・グループワーク）
　　事前学習：指導教員の指示に従い準備する（２時間）
　　事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（２時間）
第11回：研究遂行・見直しの必要の有無の検討（PBL・ディスカッション・グループワーク）
　　事前学習：指導教員の指示に従い準備する（２時間）
　　事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（２時間）
第12回：研究遂行（PBL・ディスカッション・グループワーク）
　　事前学習：指導教員の指示に従い準備する（２時間）
　　事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（２時間）
第13回：研究遂行（PBL・ディスカッション・グループワーク）
　　事前学習：指導教員の指示に従い準備する（２時間）
　　事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（２時間）
第14回：研究遂行（PBL・ディスカッション・グループワーク）
　　事前学習：指導教員の指示に従い準備する（２時間）
　　事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（２時間）
第15回：研究遂行・データの集計と解析について検討（PBL・ディスカッション・グループワーク）
　　事前学習：指導教員の指示に従い準備する（２時間）
　　事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（２時間）
課題及び自主的な学習の取り組みなどを参考文献、学会誌などから見つけること。

授業実施方法（面接授業・遠隔授業）

原則として「面接授業」を行います。ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成　績　評　価　方　法

課題（30%）　平常点（70%）
（平常点は、授業への参加状況・受講態度などを総合して判断します。）

成　績　評　価　基　準

・文献紹介の内容（テーマを理解し文献を選択しているか。文献内容の解釈度やアプローチの仕方等について。）
・研究計画作成、および研究実践において貢献できているか。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック

１）授業時の課題に対するフィードバックについて
　■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
２）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
　■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
３）小レポートに対するフィードバックについて
　□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
４）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
　□定期試験時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
５）その他
　□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他

実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）

テキスト、参考図書

必要に応じて指示する。

その他（受講上の注意）

ゼミ初回に説明。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

健康・栄養特別演習Ⅱ (Seminar in Health and Nutrition Ⅱ)			担当教員	佐藤　真実
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−F−2467	2単位	4年前期	演習	必修

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科専門科目　特別演習・卒業研究

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

課題解決能力、社会に貢献する意欲と態度、職業倫理観

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識･技能　■論理的思考力と創造力　■人間関係形成･社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
■自己理解･自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　■キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

授業の内容

自分の研究テーマを設定し、各自研究計画を立て、これに基づいて研究を進め、成果をまとめてレポートを作成する。研究成果を発表し、お互いに批評・検討し合うとともに今後の課題等を明確にする。

授業の到達目標

自分の研究テーマを設定し、具体的な対象と方法を定める。研究デザインや途中経過を発表し、お互いに批評・検討し合うとともに今後の課題等も明確にする。

アクティブ・ラーニング

■課題解決型学習（PBL）　■討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等）　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

年度当初に指導教員と協議の上、具体的な計画を週回（授業）ごとにたてる。
第1回：ガイダンス
　事前学習：指導教員の指示に従い準備する（2時間）
　事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（2時間）
第2回：研究方法に関する説明
　事前学習：指導教員の指示に従い準備する（2時間）
　事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（2時間）
第3回：文献検索の仕方、論文の読み方
　事前学習：指導教員の指示に従い準備する（2時間）
　事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（2時間）
第4回：研究発表と討議1（PBL・ディスカッション・グループワーク・発表）
　事前学習：指導教員の指示に従い準備する（2時間）
　事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（2時間）
第5回：研究発表と討議2（PBL・ディスカッション・グループワーク・発表）
　事前学習：指導教員の指示に従い準備する（2時間）
　事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（2時間）
第6回：研究発表と討議3（PBL・ディスカッション・グループワーク・発表）
　事前学習：指導教員の指示に従い準備する（2時間）
　事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（2時間）
第7回：研究発表と討議4（PBL・ディスカッション・グループワーク・発表）
　事前学習：指導教員の指示に従い準備する（2時間）
　事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（2時間）
第8回：研究発表と討議5（PBL・ディスカッション・グループワーク・発表）
　事前学習：指導教員の指示に従い準備する（2時間）
　事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（2時間）

第９回：研究発表と討議６（PBL・ディスカッション・グループワーク・発表）
　　事前学習：指導教員の指示に従い準備する（２時間）
　　事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（２時間）
第10回：研究発表と討議７（PBL・ディスカッション・グループワーク・発表）
　　事前学習：指導教員の指示に従い準備する（２時間）
　　事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（２時間）
第11回：研究発表と討議８（PBL・ディスカッション・グループワーク・発表）
　　事前学習：指導教員の指示に従い準備する（２時間）
　　事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（２時間）
第12回：研究発表と討議９（PBL・ディスカッション・グループワーク・発表）
　　事前学習：指導教員の指示に従い準備する（２時間）
　　事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（２時間）
第13回：研究発表と討議10（PBL・ディスカッション・グループワーク・発表）
　　事前学習：指導教員の指示に従い準備する（２時間）
　　事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（２時間）
第14回：研究発表と討議11（PBL・ディスカッション・グループワーク・発表）
　　事前学習：指導教員の指示に従い準備する（２時間）
　　事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（２時間）
第15回：まとめ
　　事前学習：指導教員の指示に従い準備する（２時間）
　　事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（２時間）
課題及び自主的な学習の取り組みなどを参考文献、学会誌などから見つけること。

授業実施方法（面接授業・遠隔授業）

原則として「面接授業」を行います。ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成　績　評　価　方　法

レポートや発表（50％）　平常点（50％）
（平常点は、授業への参加状況・受講態度などを総合して判断します。）

成　績　評　価　基　準

講読した文献等の内容をレポート形式でまとめ、発表することができるか。
自分の研究テーマに係る対象と方法を具体的に定め、実施に向けた準備態勢に入ることができるか。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック

１）授業時の課題に対するフィードバックについて
　■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
２）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
　■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
３）小レポートに対するフィードバックについて
　□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
４）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
　□定期試験時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
５）その他
　□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他

実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）

テ　キ　ス　ト　、　参　考　図　書

必要に応じて指示する。

その他（受講上の注意）

ゼミ初回に、ガイダンスを行う。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

健康・栄養特別演習Ⅱ (Seminar in Health and Nutrition Ⅱ)			担当教員	鳴瀬　碧
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−F−2467	2単位	4年前期	演習	必修

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科専門科目　特別演習・卒業研究

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

課題解決能力、社会に貢献する意欲と態度、職業倫理観

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識･技能　■論理的思考力と創造力　■人間関係形成･社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
■自己理解･自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　■キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

授業の内容

自分の研究テーマを設定し、各自研究計画を立て、これに基づいて研究を進め、成果をまとめてレポートを作成する。研究成果を発表し、お互いに批評・検討し合うとともに今後の課題等を明確にする。

授業の到達目標

自分の研究テーマを設定し、具体的な対象と方法を定める。研究デザインや途中経過を発表し、お互いに批評・検討し合うとともに今後の課題等も明確にする。

アクティブ・ラーニング

■課題解決型学習（PBL）　■討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等）　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

年度当初に指導教員と協議の上、具体的な計画を週回（授業）ごとにたてる。
第1回：ガイダンス
　事前学習：指導教員の指示に従い準備する（2時間）
　事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（2時間）
第2回：研究方法に関する説明
　事前学習：指導教員の指示に従い準備する（2時間）
　事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（2時間）
第3回：文献検索の仕方、論文の読み方
　事前学習：指導教員の指示に従い準備する（2時間）
　事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（2時間）
第4回：研究発表と討議1（PBL・ディスカッション・グループワーク・発表）
　事前学習：指導教員の指示に従い準備する（2時間）
　事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（2時間）
第5回：研究発表と討議2（PBL・ディスカッション・グループワーク・発表）
　事前学習：指導教員の指示に従い準備する（2時間）
　事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（2時間）
第6回：研究発表と討議3（PBL・ディスカッション・グループワーク・発表）
　事前学習：指導教員の指示に従い準備する（2時間）
　事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（2時間）
第7回：研究発表と討議4（PBL・ディスカッション・グループワーク・発表）
　事前学習：指導教員の指示に従い準備する（2時間）
　事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（2時間）
第8回：研究発表と討議5（PBL・ディスカッション・グループワーク・発表）
　事前学習：指導教員の指示に従い準備する（2時間）
　事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（2時間）

第９回：研究発表と討議６（PBL・ディスカッション・グループワーク・発表）
　　事前学習：指導教員の指示に従い準備する（２時間）
　　事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（２時間）
第10回：研究発表と討議７（PBL・ディスカッション・グループワーク・発表）
　　事前学習：指導教員の指示に従い準備する（２時間）
　　事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（２時間）
第11回：研究発表と討議８（PBL・ディスカッション・グループワーク・発表）
　　事前学習：指導教員の指示に従い準備する（２時間）
　　事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（２時間）
第12回：研究発表と討議９（PBL・ディスカッション・グループワーク・発表）
　　事前学習：指導教員の指示に従い準備する（２時間）
　　事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（２時間）
第13回：研究発表と討議10（PBL・ディスカッション・グループワーク・発表）
　　事前学習：指導教員の指示に従い準備する（２時間）
　　事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（２時間）
第14回：研究発表と討議11（PBL・ディスカッション・グループワーク・発表）
　　事前学習：指導教員の指示に従い準備する（２時間）
　　事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（２時間）
第15回まとめ
　　事前学習：指導教員の指示に従い準備する（２時間）
　　事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（２時間）
課題及び自主的な学習の取り組みなどを参考文献、学会誌などから見つけること。

授業実施方法（面接授業・遠隔授業）

原則として「面接授業」を行います。ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成　績　評　価　方　法

レポートや発表（50％）　平常点（50％）
（レポートや発表の形式は担当教員により異なります。平常点は、授業への参加状況・受講態度などを総合して判断します。）

成　績　評　価　基　準

講読した文献等の内容をレポート形式でまとめ、発表することができるか。
自分の研究テーマに係る対象と方法を具体的に定め、実施に向けた準備態勢に入ることができるか。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック

１）授業時の課題に対するフィードバックについて
　■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
２）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
　■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
３）小レポートに対するフィードバックについて
　□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
４）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
　□定期試験時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
５）その他
　□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他

実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）

テ　キ　ス　ト　、　参　考　図　書

必要に応じて指示する。

その他（受講上の注意）

ゼミ初回に、ガイダンスを行う。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

健康・栄養特別演習Ⅱ (Seminar in Health and Nutrition Ⅱ)			担当教員	野村　卓正
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−F−2467	2単位	4年前期	演習	必修

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科専門科目　特別演習・卒業研究

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

課題解決能力、社会に貢献する意欲と態度、職業倫理観

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識･技能　■論理的思考力と創造力　■人間関係形成･社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
■自己理解･自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　■キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

授業の内容

自分の研究テーマを設定し、各自研究計画を立て、これに基づいて研究を進め、成果をまとめてレポートを作成する。研究成果を発表し、お互いに批評・検討し合うとともに今後の課題等を明確にする。

授業の到達目標

自分の研究テーマを設定し、具体的な対象と方法を定める。研究デザインや途中経過を発表し、お互いに批評・検討し合うとともに今後の課題等も明確にする。

アクティブ・ラーニング

■課題解決型学習（PBL）　■討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等）　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

年度当初に指導教員と協議の上、具体的な計画を週回（授業）ごとにたてる。
第1回：ガイダンス
　事前学習：指導教員の指示に従い準備する（2時間）
　事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（2時間）
第2回：研究方法に関する説明
　事前学習：指導教員の指示に従い準備する（2時間）
　事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（2時間）
第3回：文献検索の仕方、論文の読み方
　事前学習：指導教員の指示に従い準備する（2時間）
　事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（2時間）
第4回：研究発表と討議1（PBL・ディスカッション・グループワーク・発表）
　事前学習：指導教員の指示に従い準備する（2時間）
　事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（2時間）
第5回：研究発表と討議2（PBL・ディスカッション・グループワーク・発表）
　事前学習：指導教員の指示に従い準備する（2時間）
　事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（2時間）
第6回：研究発表と討議3（PBL・ディスカッション・グループワーク・発表）
　事前学習：指導教員の指示に従い準備する（2時間）
　事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（2時間）
第7回：研究発表と討議4（PBL・ディスカッション・グループワーク・発表）
　事前学習：指導教員の指示に従い準備する（2時間）
　事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（2時間）
第8回：研究発表と討議5（PBL・ディスカッション・グループワーク・発表）
　事前学習：指導教員の指示に従い準備する（2時間）
　事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（2時間）

第９回：研究発表と討議６（PBL・ディスカッション・グループワーク・発表）
　　事前学習：指導教員の指示に従い準備する（２時間）
　　事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（２時間）
第10回：研究発表と討議７（PBL・ディスカッション・グループワーク・発表）
　　事前学習：指導教員の指示に従い準備する（２時間）
　　事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（２時間）
第11回：研究発表と討議８（PBL・ディスカッション・グループワーク・発表）
　　事前学習：指導教員の指示に従い準備する（２時間）
　　事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（２時間）
第12回：研究発表と討議９（PBL・ディスカッション・グループワーク・発表）
　　事前学習：指導教員の指示に従い準備する（２時間）
　　事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（２時間）
第13回：研究発表と討議10（PBL・ディスカッション・グループワーク・発表）
　　事前学習：指導教員の指示に従い準備する（２時間）
　　事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（２時間）
第14回：研究発表と討議11（PBL・ディスカッション・グループワーク・発表）
　　事前学習：指導教員の指示に従い準備する（２時間）
　　事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（２時間）
第15回まとめ
　　事前学習：指導教員の指示に従い準備する（２時間）
　　事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（２時間）
課題及び自主的な学習の取り組みなどを参考文献、学会誌などから見つけること。

授業実施方法（面接授業・遠隔授業）

原則として「面接授業」を行います。ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成　績　評　価　方　法

①平常点：60％
②レポートや発表：40％

平常点は、授業への参加状況・受講態度などを総合して判断します。
レポートや発表の形式は担当教員により異なります。

成　績　評　価　基　準

講読した文献等の内容をレポート形式でまとめ、発表することができるか。
自分の研究テーマに係る対象と方法を具体的に定め、実施に向けた準備態勢に入ることができるか。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック

１）授業時の課題に対するフィードバックについて
　■授業時　□仁大eラーニング　□メール　■その他（Teamsのチーム機能およびチャット機能で解答・解説を実施）
２）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
　■授業時　□仁大eラーニング　□メール　■その他（Teamsのチーム機能およびチャット機能で解答・解説を実施）
３）小レポートに対するフィードバックについて
　□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他（Teamsのチーム機能およびチャット機能で解答・解説を実施）
４）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
　□定期試験時　□仁大eラーニング　□メール　□その他（Teamsのチーム機能およびチャット機能で解答・解説を実施）
５）その他
　□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他

実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）

テ　キ　ス　ト　、　参　考　図　書

必要に応じて指示する。

その他（受講上の注意）

ゼミ初回に、ガイダンスを行う。

オ フ ィ ス ア ワ ー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

健康・栄養特別演習Ⅱ (Seminar in Health and Nutrition Ⅱ)			担当教員	山本　浩範
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−F−2467	2単位	4年前期	演習	必修

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科専門科目　特別演習・卒業研究

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

課題解決能力、社会に貢献する意欲と態度、職業倫理観

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識･技能　■論理的思考力と創造力　■人間関係形成･社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
■自己理解･自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　■キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

授業の内容

自分の研究テーマを設定し、各自研究計画を立て、これに基づいて研究を進め、成果をまとめてレポートを作成する。研究成果を発表し、お互いに批評・検討し合うとともに今後の課題等を明確にする。

授業の到達目標

自分の研究テーマを設定し、具体的な対象と方法を定める。研究デザインや途中経過を発表し、お互いに批評・検討し合うとともに今後の課題等も明確にする。

アクティブ・ラーニング

■課題解決型学習（PBL）　■討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等）　□実習、フィールドワーク　■実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

年度当初に指導教員と協議の上、具体的な計画を週回（授業）ごとにたてる。
第1回：ガイダンス
　事前学習：指導教員の指示に従い準備する（2時間）
　事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（2時間）
第2回：研究方法に関する説明
　事前学習：指導教員の指示に従い準備する（2時間）
　事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（2時間）
第3回：文献検索の仕方、論文の読み方、研究実践のための準備
　事前学習：指導教員の指示に従い準備する（2時間）
　事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（2時間）
第4回：研究実践と討議1（実験、PBL・ディスカッション・グループワーク・発表）
　事前学習：指導教員の指示に従い準備する（2時間）
　事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（2時間）
第5回：研究実践と討議2（PBL・ディスカッション・グループワーク・発表）
　事前学習：指導教員の指示に従い準備する（2時間）
　事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（2時間）
第6回：研究実践と討議3（実験、PBL・ディスカッション・グループワーク・発表）
　事前学習：指導教員の指示に従い準備する（2時間）
　事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（2時間）
第7回：研究実践と討議4（実験、PBL・ディスカッション・グループワーク・発表）
　事前学習：指導教員の指示に従い準備する（2時間）
　事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（2時間）
第8回：研究実践と討議5（実験、PBL・ディスカッション・グループワーク・発表）
　事前学習：指導教員の指示に従い準備する（2時間）
　事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（2時間）

第９回：研究実践と討議６（実験、PBL・ディスカッション・グループワーク・発表）
　　事前学習：指導教員の指示に従い準備する（２時間）
　　事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（２時間）
第10回：研究実践と討議７（実験、PBL・ディスカッション・グループワーク・発表）
　　事前学習：指導教員の指示に従い準備する（２時間）
　　事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（２時間）
第11回：研究発表と討議８（PBL・ディスカッション・グループワーク・発表）
　　事前学習：指導教員の指示に従い準備する（２時間）
　　事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（２時間）
第12回：研究発表と討議９（PBL・ディスカッション・グループワーク・発表）
　　事前学習：指導教員の指示に従い準備する（２時間）
　　事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（２時間）
第13回：研究発表と討議10（実験、PBL・ディスカッション・グループワーク・発表）
　　事前学習：指導教員の指示に従い準備する（２時間）
　　事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（２時間）
第14回：研究発表と討議11（PBL・ディスカッション・グループワーク・発表）
　　事前学習：指導教員の指示に従い準備する（２時間）
　　事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（２時間）
第15回まとめ
　　事前学習：指導教員の指示に従い準備する（２時間）
　　事後学習：指導教員の指示に従い課題をまとめる（２時間）
課題及び自主的な学習の取り組みなどを参考文献、学会誌などから見つけること。

授業実施方法（面接授業・遠隔授業）

原則として「面接授業」を行います。ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成　績　評　価　方　法

レポートや発表（50％）　平常点（50％）
（レポートや発表の形式は担当教員により異なります。平常点は、授業への参加状況・受講態度などを総合して判断します。）

成　績　評　価　基　準

講読した文献等の内容をレポート形式でまとめ、発表することができるか。
自分の研究テーマに係る対象と方法を具体的に定め、実施に向けた準備態勢に入ることができるか。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック

１）授業時の課題に対するフィードバックについて
　■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
２）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
　■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
３）小レポートに対するフィードバックについて
　□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
４）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
　□定期試験時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
５）その他
　□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他

実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）

テ　キ　ス　ト　、　参　考　図　書

必要に応じて指示する。

その他（受講上の注意）

ゼミ初回に、ガイダンスを行う。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

健康・栄養特別演習Ⅱ (Seminar in Health and Nutrition Ⅱ)			担当教員	長岡　純子
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−F−2467	2単位	4年前期	演習	必修

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科専門科目　特別演習・卒業研究

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

課題解決能力、社会に貢献する意欲と態度、職業倫理観

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識･技能　■論理的思考力と創造力　■人間関係形成･社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
■自己理解･自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　■キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

授業の内容

自分の研究テーマを設定し、各自研究計画を立て、これに基づいて研究を進め、成果をまとめてレポートを作成する。研究成果を発表し、お互いに批評・検討し合うとともに今後の課題等を明確にする。

授業の到達目標

自分の研究テーマを設定し、具体的な対象と方法を定める。研究デザインや途中経過を発表し、お互いに批評・検討し合うとともに今後の課題等も明確にする。

アクティブ・ラーニング

■課題解決型学習（PBL）　■討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等）　□実習、フィールドワーク　■実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

年度当初に指導教員と協議の上、具体的な計画を週回（授業）ごとにたてる。
第1回：ガイダンス
　事前学習：指示に従い準備する（2時間）
　事後学習：指示に従い課題をまとめる（2時間）
第2回：研究方法に関する説明
　事前学習：指示に従い準備する（2時間）
　事後学習：指示に従い課題をまとめる（2時間）
第3回：文献検索の仕方、論文の読み方
　事前学習：指示に従い準備する（2時間）
　事後学習：指示に従い課題をまとめる（2時間）
第4回：研究遂行と発表および討議1（PBL・ディスカッション・グループワーク・発表・実験・実技）
　事前学習：指示に従い準備する（2時間）
　事後学習：指示に従い課題をまとめる（2時間）
第5回：研究遂行と発表および討議2（PBL・ディスカッション・グループワーク・発表・実験・実技）
　事前学習：指示に従い準備する（2時間）
　事後学習：指示に従い課題をまとめる（2時間）
第6回：研究遂行と発表および討議3（PBL・ディスカッション・グループワーク・発表・実験・実技）
　事前学習：指示に従い準備する（2時間）
　事後学習：指示に従い課題をまとめる（2時間）
第7回：研究遂行と発表および討議4（PBL・ディスカッション・グループワーク・発表・実験・実技）
　事前学習：指示に従い準備する（2時間）
　事後学習：指示に従い課題をまとめる（2時間）

第８回：研究遂行と発表および討議５（PBL・ディスカッション・グループワーク・発表・実験・実技）
　　事前学習：指示に従い準備する（２時間）
　　事後学習：指示に従い課題をまとめる（２時間）
第９回：研究遂行と発表および討議６（PBL・ディスカッション・グループワーク・発表・実験・実技）
　　事前学習：指示に従い準備する（２時間）
　　事後学習：指示に従い課題をまとめる（２時間）
第10回：研究遂行と発表および討議７（PBL・ディスカッション・グループワーク・発表・実験・実技）
　　事前学習：指示に従い準備する（２時間）
　　事後学習：指示に従い課題をまとめる（２時間）
第11回：研究遂行と発表および討議８（PBL・ディスカッション・グループワーク・発表・実験・実技）
　　事前学習：指示に従い準備する（２時間）
　　事後学習：指示に従い課題をまとめる（２時間）
第12回：研究遂行と発表および討議９（PBL・ディスカッション・グループワーク・発表・実験・実技）
　　事前学習：指示に従い準備する（２時間）
　　事後学習：指示に従い課題をまとめる（２時間）
第13回：研究遂行と発表および討議10（PBL・ディスカッション・グループワーク・発表・実験・実技）
　　事前学習：指示に従い準備する（２時間）
　　事後学習：指示に従い課題をまとめる（２時間）
第14回：研究遂行と発表および討議11（PBL・ディスカッション・グループワーク・発表・実験・実技）
　　事前学習：指示に従い準備する（２時間）
　　事後学習：指示に従い課題をまとめる（２時間）
第15回：まとめ
　　事前学習：指示に従い準備する（２時間）
　　事後学習：指示に従い課題をまとめる（２時間）
課題及び自主的な学習の取り組みなどを参考文献、学会誌などから見つけること。

授業実施方法（面接授業・遠隔授業）

原則として「面接授業」を行います。ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成　績　評　価　方　法

レポートや発表（50％）　平常点（50％）
（レポートや発表の形式は担当教員により異なります。平常点は、授業への参加状況・受講態度などを総合して判断します。）

成　績　評　価　基　準

講読した文献等の内容をレポート形式でまとめ、発表することができるか。
自分の研究テーマに係る対象と方法を具体的に定め、実施に向けた準備態勢に入ることができるか。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック

１）授業時の課題に対するフィードバックについて
　■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
２）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
　■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
３）小レポートに対するフィードバックについて
　□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
４）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
　□定期試験時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
５）その他
　□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他

実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）

テ　キ　ス　ト　、　参　考　図　書

必要に応じて指示する。

その他（受講上の注意）

ゼミ初回に、ガイダンスを行う。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

健康・栄養特別演習Ⅲ (Seminar in Health and Nutrition Ⅲ)	担当教員	佐藤　真実、野村　卓正、佐藤　裕保、 鳴瀬　　碧、池田　涼子、浦本　裕美、 山本　浩範、長岡　純子、尼子　克己、 森　　恵見、三浦　　努、髙木　康之、 牧野みゆき、新井田裕樹

講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−D−2468	2単位	4年	演習	選択

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科専門科目　特別演習・卒業研究

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

管理栄養士としての知識・技能の取得と基礎研究および食品開発などができる能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識･技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成･社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解･自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

授業の内容

各科目の総復習をする。
オムニバス形式で行い、理解不十分な点について補完する。

授業の到達目標

管理栄養士に必要な、基本的知識を確認する。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　□グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　□発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等）　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：公衆衛生学（鳴瀬みどり）
　事前学習：担当教員指定の教材（テキスト・配布資料・参考書）等を読み、当該科目の復習をして授業に臨むこと。質問事項をまとめておくこと（2時間）
　事後学習：授業内容を復習し、ノートにまとめておくこと（2時間）
第2回：病理学・解剖生理学（高木康之）
　事前学習：担当教員指定の教材（テキスト・配布資料・参考書）等を読み、当該科目の復習をして授業に臨むこと。質問事項をまとめておくこと（2時間）
　事後学習：授業内容を復習し、ノートにまとめておくこと（2時間）
第3回：食品学（浦本裕美）
　事前学習：担当教員指定の教材（テキスト・配布資料・参考書）等を読み、当該科目の復習をして授業に臨むこと。質問事項をまとめておくこと（2時間）
　事後学習：授業内容を復習し、ノートにまとめておくこと（2時間）
第4回：基礎栄養学（池田涼子）
　事前学習：担当教員指定の教材（テキスト・配布資料・参考書）等を読み、当該科目の復習をして授業に臨むこと。質問事項をまとめておくこと（2時間）
　事後学習：授業内容を復習し、ノートにまとめておくこと（2時間）
第5回：栄養の実践に関する最新のトピックス（森恵見）
　事前学習：担当教員指定の教材（テキスト・配布資料・参考書）等を読み、当該科目の復習をして授業に臨むこと。質問事項をまとめておくこと（2時間）
　事後学習：授業内容を復習し、ノートにまとめておくこと（2時間）

第６回：応用栄養学（新井田裕樹）
事前学習：担当教員指定の教材（テキスト・配布資料・参考書）等を読み、当該科目の復習をして授業に臨むこと。質問事項をまとめておくこと（２時間）
事後学習：授業内容を復習し、ノートにまとめておくこと（２時間）
第７回：調理学（佐藤真実）
事前学習：事前学習：担当教員指定の教材（テキスト・配布資料・参考書）等を読み、当該科目の復習をして授業に臨むこと。質問事項をまとめておくこと（２時間）
事後学習：授業内容を復習し、ノートにまとめておくこと（２時間）
第８回：臨床栄養学ー栄養アセスメントー（山本浩範）
事前学習：担当教員指定の教材（テキスト・配布資料・参考書）等を読み、当該科目の復習をして授業に臨むこと。質問事項をまとめておくこと（２時間）
事後学習：授業内容を復習し、ートにまとめておくこと（２時間）
第９回：食品衛生学・微生物学（野村卓正）
事前学習：担当教員指定の教材（テキスト・配布資料・参考書）等を読み、当該科目の復習をして授業に臨むこと。質問事項をまとめておくこと（２時間）
事後学習：授業内容を復習し、ノートにまとめておくこと（２時間）
第10回：生化学（尼子克己）
事前学習：担当教員指定の教材（テキスト・配布資料・参考書）等を読み、当該科目の復習をして授業に臨むこと。質問事項をまとめておくこと（２時間）
事後学習：授業内容を復習し、ノートにまとめておくこと（２時間）
第11回：管理栄養士の心得（三浦努）
事前学習：担当教員指定の教材（テキスト・配布資料・参考書）等を読み、当該科目の復習をして授業に臨むこと。質問事項をまとめておくこと（２時間）
事後学習：授業内容を復習し、ノートにまとめておくこと（２時間）
第12回：公衆栄養学（三浦努）
事前学習：担当教員指定の教材（テキスト・配布資料・参考書）等を読み、当該科目の復習をして授業に臨むこと。質問事項をまとめておくこと（２時間）
事後学習：授業内容を復習し、ノートにまとめておくこと（２時間）
第13回：臨床栄養学ー栄養療法ー（佐藤裕保）
事前学習：担当教員から配布された資料を読み、質問事項をまとめておくこと（２時間）
事後学習：授業内容に関する課題について、授業中に配布された指定の書式を完成し提出すること（２時間）
第14回：栄養教育論（牧野みゆき）
事前学習：担当教員から配布された資料を読み、質問事項をまとめておくこと（２時間）
事後学習：授業内容に関する課題について、授業中に配布された指定の書式を完成し提出すること（２時間）
第15回：給食経営管理論（長岡純子）
事前学習：担当教員指定の教材（テキスト・配布資料・参考書）等を読み、当該科目の復習をして授業に臨むこと。質問事項をまとめておくこと（２時間）
事後学習：授業内容を復習し、ノートにまとめておくこと（２時間）

授業実施方法（面接授業・遠隔授業）

原則として「面接授業」を行います。
ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。
遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成　績　評　価　方　法

提出物（60%）平常点（40%）
（平常点は、授業への参加状況・受講態度等を総合して判断します）

成　績　評　価　基　準

管理栄養士に必要な、基本的知識を確認できたか。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

1）授業時の課題に対するフィードバックについて
■授業時　■仁大eラーニング　■メール　□その他
2）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
■授業時　■仁大eラーニング　■メール　□その他
3）小レポートに対するフィードバックについて
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
4）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
□定期試験時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
5）その他
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他

実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)

テキスト、参考図書

当該科目で使用した教科書および、参考図書。
必要に応じてプリント配布。

その他(受講上の注意)

オフィスアワー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

卒業研究 (Graduation Research)			担当教員	尼子　克己
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−F−2469	4単位	4年	演習	必修

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科専門科目　特別演習・卒業研究

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

課題解決能力、社会に貢献する意欲と態度、職業倫理観

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識･技能　■論理的思考力と創造力　■人間関係形成･社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
■自己理解･自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　■キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

授業の内容

基本的な授業の内容は以下のとおりである。
・栄養にかかわる生命科学・情報科学上の新規な課題を設定する。
・具体的な研究計画の立案、研究遂行に必要な諸条件を整備する。
・研究遂行に必要な知識と技能を習得する。
・実験あるいは調査により、課題に対する新たな知見を提示する。

授業の到達目標

医学・栄養学・食品学に関する知識・技能を基礎にして、栄養管理に関する専門的な最新知見を収集・分析する。それを更に発展させるために実験的及び疫学的な研究を行ない、得られた成果を論文としてまとめる。

アクティブ・ラーニング

■課題解決型学習（PBL）　■討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等）　■実習、フィールドワーク　■実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

・年度当初に指導教員と協議の上、具体的な研究計画を立てる（PBL・討議・グループワーク）
・栄養学に関わる研究テーマの明確化（課題解決型学習・討議・グループワーク）
・具体的な研究計画の立案、研究遂行に必要な諸条件の整備（PBL・討議・グループワーク）
・研究遂行に必要な知識と技能の教授
・実験的または疫学的研究の遂行による論文の完成（フィールドワーク・実験）
計画に沿って、随時進捗状況を報告し、指導を受けること。
4月下旬：卒業研究題目提出
11月下旬：卒業研究要旨提出
12月中旬：卒業研究発表会（発表）
12月下旬：卒業論文提出

授業実施方法(面接授業・遠隔授業)

原則として「面接授業」を行います。ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成績評価方法

①卒業研究要旨の提出
②口頭発表を行う（口頭試問を兼ねる）
③卒業研究成果物（論文）の提出
を単位認定の基本要件とする。
そのうえで、研究活動への参加状況、課題および自主的学習への取り組みなどを総合して評価する。

成　績　評　価　基　準
研究テーマを踏まえ、的確な内容の要旨をまとめることができたか。 わかりやすく発表し、適切な受け答えができたか。 質の高い研究成果物を提出できたか。 積極的な、研究活動への参加、課題および自主的学習への取り組みなどができたか。
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1）授業時の課題に対するフィードバックについて ■授業時　□仁大eラーニング　■メール　□その他 2）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ■授業時　□仁大eラーニング　■メール　□その他 3）小レポートに対するフィードバックについて □授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他 4）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて □定期試験時　□仁大eラーニング　□メール　□その他 5）その他 □授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
テ　キ　ス　ト　、　参　考　図　書
参考書・研究文献など必要に応じて指示する。
その他(受講上の注意)
実験・実習に関しては、特に時間割外に実験・実習室および機器備品を使用することとなることから、厳重に実験・実習室利用マニュアルに従うこと。
オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

卒業研究 (Graduation Research)			担当教員	池田　涼子
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−F−2469	4単位	4年	演習	必修

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科専門科目　特別演習・卒業研究

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

課題解決能力、社会に貢献する意欲と態度、職業倫理観

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識･技能　■論理的思考力と創造力　■人間関係形成･社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
■自己理解･自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　■キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

授業の内容

【主な研究テーマ】
○微量栄養素の栄養状態が耐糖能に及ぼす影響
○福井県の食物アレルギーの現状と課題
○福井県における高齢者栄養の現状と課題

基礎研究で培った知識や技術を「栄養学の実践」に活かすことをテーマとした諸活動を展開する。

授業の到達目標

栄養学、健康科学等に関する知識・技能を基礎として、高度な栄養管理の実践に関する専門的な最新知見を収集・分析する。
また、これを更に発展させるために基礎研究もしくは調査研究を実施し、得られた成果を卒業論文としてまとめる。

アクティブ・ラーニング

■課題解決型学習（PBL）　■討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等）　■実習、フィールドワーク　■実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

各担当者の基本的な授業計画は以下のとおりである。
・年度当初に指導教員と協議の上、具体的な研究計画を立てる（PBL・討議・グループワーク）
・栄養管理に関わる研究テーマの明確化（課題解決型学習・討議・グループワーク）
・具体的な研究計画の立案、研究遂行に必要な諸条件の整備（PBL・討議・グループワーク）
・実験的または疫学的研究の遂行による論文の完成（フィールドワーク・実験）
計画に沿って、随時進捗状況を報告し、指導を受けること。
5月下旬：卒業研究題目提出
11月中旬：卒業研究要旨提出
12月初旬：卒業研究発表会（発表）
12月中旬：卒業論文提出

授業実施方法(面接授業・遠隔授業)

原則として「面接授業」を行います。ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成　績　評　価　方　法

①卒業研究要旨の提出
②口頭発表の実施（口頭試問を兼ねる）
③卒業研究成果物（論文）の提出
以上を単位認定の基本要件とする。
そのうえで、研究活動への参加状況、課題および自主的学習への取り組みなどを総合して評価する。

成　績　評　価　基　準

・研究テーマを踏まえ、的確な内容の要旨をまとめることができたか。
・研究成果について明確かつ詳細な発表を行い、質疑応答において適切な受け答えができたか。
・質の高い研究成果物（卒業論文）を提出できたか。
・積極的な研究活動への参加、課題および自主的学習への取り組みなどができたか。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック

1）授業時の課題に対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　■メール　□その他
2）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　■メール　□その他
3）小レポートに対するフィードバックについて
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
4）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
□定期試験時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
5）その他
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他

実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）

テ　キ　ス　ト　、　参　考　図　書

参考書・研究文献など必要に応じて指示する。

その他（受講上の注意）

実験・実習に関しては、特に時間割外に実験・実習室および機器備品を使用することとなる。
厳重に実験・実習室利用マニュアルに従うこと。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

卒業研究 (Graduation Research)			担当教員	浦本　裕美
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−F−2469	4単位	4年	演習	必修

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科専門科目　特別演習・卒業研究

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

課題解決能力、社会に貢献する意欲と態度、職業倫理観

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識･技能　■論理的思考力と創造力　■人間関係形成･社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
■自己理解･自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　■キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

授業の内容

基本的な授業の内容は以下のとおりである。
・研究テーマを深める
・具体的な研究計画の立案、研究遂行に必要な諸条件を整備する
・研究の遂行により論文にまとめる

※　本科目は、健康・栄養特別演習と連続する内容となっている。

授業の到達目標

・課題に対して解決しようとする能動的な意識・態度をもち取り組み、全体を概観してチーム活動に貢献することができる。
・得られた結果を文献等の様々な情報をもとに客観的に論理的に考察し、成果を論文としてまとめることができる。

アクティブ・ラーニング

■課題解決型学習（PBL）　■討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等）　■実習、フィールドワーク　■実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

本科目は、4年前期開講の「健康・栄養特別演習Ⅱ」と連結し、連続的に進めていく。
4月下旬：卒業研究題目提出
11月下旬：卒業研究要旨提出
12月中旬：卒業研究発表会（発表）
12月下旬：卒業論文提出

授業実施方法(面接授業・遠隔授業)

原則として「面接授業」を行います。ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成績評価方法

①卒業研究要旨の提出
②口頭発表を行う（口頭試問を兼ねる）
③卒業研究成果物（論文）の提出
を単位認定の基本要件とする。
そのうえで、研究活動への参加状況、課題および自主的学習への取り組みなどを総合して評価する。

成　績　評　価　基　準

・研究計画作成、および研究実践において貢献できたか。
・研究テーマを踏まえ、的確な内容の要旨をまとめることができたか。
・わかりやすく発表し、適切な受け答えができたか。
・研究成果物を提出できたか。
・積極的に研究活動に取り組むことができたか。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

1）授業時の課題に対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
2）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
3）小レポートに対するフィードバックについて
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
4）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
□定期試験時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
5）その他
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他

実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)

テ　キ　ス　ト、参　考　図　書

参考書・研究文献など必要に応じて指示する。

その他(受講上の注意)

必要に応じて随時説明する。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

卒業研究 (Graduation Research)			担当教員	佐藤　真実
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−F−2469	4単位	4年	演習	必修

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科専門科目　特別演習・卒業研究

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

課題解決能力、社会に貢献する意欲と態度、職業倫理観

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識･技能　■論理的思考力と創造力　■人間関係形成･社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
■自己理解･自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　■キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

授業の内容

・食品の調理特性、調理品の新規開発、介護食、地域の食文化などの「食べる」に関わる調理科学分野での研究テーマを深める
・具体的な研究計画の立案、研究遂行に必要な諸条件を整備する
・実験的または疫学的研究の遂行により論文にまとめる

授業の到達目標

医学・栄養学・食品学に関する知識・技能を基礎にして、「食べる」という調理科学に関する専門的な最新知見を収集・分析する。問題提起、検索、討論、発表などに加え、実験や実習を通して研究を行い、得られた成果を論文としてまとめる。

アクティブ・ラーニング

■課題解決型学習（PBL）　■討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等）　■実習、フィールドワーク　■実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

基本的な授業計画は以下のとおりである。
・年度当初に指導教員と協議の上、具体的な研究計画を立てる（PBL・討議・グループワーク）
・調理科学に関わる研究テーマの明確化（課題解決型学習・討議・グループワーク）
・具体的な研究計画の立案、研究遂行に必要な諸条件の整備（PBL・討議・グループワーク）
・実験的または疫学的研究の遂行による論文の完成（フィールドワーク・実験）
計画に沿って、随時進捗状況を報告し、指導を受けること。
4月下旬：卒業研究題目提出
11月下旬：卒業研究要旨提出
12月中旬：卒業研究発表会（発表）
12月下旬：卒業論文提出

授業実施方法(面接授業・遠隔授業)

原則として「面接授業」を行います。ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成績評価方法

①卒業研究要旨の提出
②口頭発表を行う（口頭試問を兼ねる）
③卒業研究成果物（論文）の提出
を単位認定の基本要件とする。
そのうえで、研究活動への参加状況、課題および自主的学習への取り組みなどを総合して評価する。

成　績　評　価　基　準

研究テーマを踏まえ、的確な内容の要旨をまとめることができたか。
わかりやすく発表し、適切な受け答えができたか。
質の高い研究成果物を提出できたか。
積極的な、研究活動への参加、課題および自主的学習への取り組みなどができたか。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

1）授業時の課題に対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　■メール　□その他
2）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　■メール　□その他
3）小レポートに対するフィードバックについて
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
4）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
□定期試験時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
5）その他
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他

実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)

テ　キ　ス　ト　、　参　考　図　書

参考書・研究文献など必要に応じて指示する。

その他(受講上の注意)

実験・実習に関しては、特に時間割外に実験・実習室および機器備品を使用することとなることから、厳重に実験・実習室利用マニュアルに従うこと。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

卒業研究 (Graduation Research)			担当教員	鳴瀬　碧
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−F−2469	4単位	4年	演習	必修

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科専門科目　特別演習・卒業研究

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

課題解決能力、社会に貢献する意欲と態度、職業倫理観

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識･技能　■論理的思考力と創造力　■人間関係形成･社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
■自己理解･自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　■キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

授業の内容

基本的な授業の内容は以下のとおりである。
・栄養管理に関わる研究テーマを深める
・具体的な研究計画の立案、研究遂行に必要な諸条件を整備する
・実験的または疫学的研究の遂行により論文にまとめる

授業の到達目標

医学・栄養学・食品学に関する知識・技能を基礎にして、栄養管理に関する専門的な最新知見を収集・分析する。それを更に発展させるために実験的及び疫学的な研究を行ない、得られた成果を論文としてまとめる。

アクティブ・ラーニング

■課題解決型学習（PBL）　■討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等）　■実習、フィールドワーク　■実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

各担当者の基本的な授業計画は以下のとおりである。
・年度当初に指導教員と協議の上、具体的な研究計画を立てる（PBL・討議・グループワーク）
・栄養管理に関わる研究テーマの明確化（課題解決型学習・討議・グループワーク）
・具体的な研究計画の立案、研究遂行に必要な諸条件の整備（PBL・討議・グループワーク）
・実験的または疫学的研究の遂行による論文の完成（フィールドワーク・実験）
計画に沿って、随時進捗状況を報告し、指導を受けること。
4月下旬：卒業研究題目提出
11月下旬：卒業研究要旨提出
12月中旬：卒業研究発表会（発表）
12月下旬：卒業論文提出

授業実施方法(面接授業・遠隔授業)

原則として「面接授業」を行います。ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成績評価方法

①卒業研究要旨の提出
②口頭発表を行う（口頭試問を兼ねる）
③卒業研究成果物（論文）の提出
を単位認定の基本要件とする。
そのうえで、研究活動への参加状況、課題および自主的学習への取り組みなどを総合して評価する。

成　績　評　価　基　準

研究テーマを踏まえ、的確な内容の要旨をまとめることができたか。
わかりやすく発表し、適切な受け答えができたか。
質の高い研究成果物を提出できたか。
積極的な、研究活動への参加、課題および自主的学習への取り組みなどができたか。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

1）授業時の課題に対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　■メール　□その他
2）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　■メール　□その他
3）小レポートに対するフィードバックについて
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
4）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
□定期試験時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
5）その他
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他

実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)

テ　キ　ス　ト　、　参　考　図　書

参考書・研究文献など必要に応じて指示する。

その他(受講上の注意)

実験・実習に関しては、特に時間割外に実験・実習室および機器備品を使用することとなることから、厳重に実験・実習室利用マニュアルに従うこと。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

卒業研究 (Graduation Research)			担当教員	野村　卓正
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−F−2469	4単位	4年	演習	必修

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科専門科目　特別演習・卒業研究

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

課題解決能力、社会に貢献する意欲と態度、職業倫理観

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識･技能　■論理的思考力と創造力　■人間関係形成･社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
■自己理解･自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　■キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

授業の内容

基本的な授業の内容は以下のとおりである。
・栄養管理に関わる研究テーマを深める
・具体的な研究計画の立案、研究遂行に必要な諸条件を整備する
・実験的または疫学的研究の遂行により論文にまとめる

授業の到達目標

医学・栄養学・食品学に関する知識・技能を基礎にして、栄養管理に関する専門的な最新知見を収集・分析する。それを更に発展させるために実験的及び疫学的な研究を行ない、得られた成果を論文としてまとめる。

アクティブ・ラーニング

■課題解決型学習（PBL）　■討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等）　■実習、フィールドワーク　■実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

各担当者の基本的な授業計画は以下のとおりである。
・年度当初に指導教員と協議の上、具体的な研究計画を立てる（PBL・討議・グループワーク）
・栄養管理に関わる研究テーマの明確化（課題解決型学習・討議・グループワーク）
・具体的な研究計画の立案、研究遂行に必要な諸条件の整備（PBL・討議・グループワーク）
・実験的または疫学的研究の遂行による論文の完成（フィールドワーク・実験）
計画に沿って、随時進捗状況を報告し、指導を受けること。
4月下旬：卒業研究題目提出
11月下旬：卒業研究要旨提出
12月中旬：卒業研究発表会（発表）
12月下旬：卒業論文提出

授業実施方法(面接授業・遠隔授業)

原則として「面接授業」を行います。ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成績評価方法

①卒業研究要旨の提出
②口頭発表を行う（口頭試問を兼ねる）
③卒業研究成果物（論文）の提出
を単位認定の基本要件とする。
そのうえで、研究活動への参加状況、課題および自主的学習への取り組みなどを総合して評価する。

成　績　評　価　基　準

研究テーマを踏まえ、的確な内容の要旨をまとめることができたか。
わかりやすく発表し、適切な受け答えができたか。
質の高い研究成果物を提出できたか。
積極的な、研究活動への参加、課題および自主的学習への取り組みなどができたか。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

1）授業時の課題に対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　■メール　□その他
2）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　■メール　□その他
3）小レポートに対するフィードバックについて
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
4）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
□定期試験時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
5）その他
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他

実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)

テ　キ　ス　ト　、　参　考　図　書

参考書・研究文献など必要に応じて指示する。

その他(受講上の注意)

実験・実習に関しては、特に時間割外に実験・実習室および機器備品を使用することとなることから、厳重に実験・実習室利用マニュアルに従うこと。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

卒業研究 (Graduation Research)			担当教員	山本　浩範
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−F−2469	4単位	4年	演習	必修

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科専門科目　特別演習・卒業研究

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

課題解決能力、社会に貢献する意欲と態度、職業倫理観

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識･技能　■論理的思考力と創造力　■人間関係形成･社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
■自己理解･自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　■キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

授業の内容

基本的な授業の内容は以下のとおりである。
・栄養管理に関わる研究テーマを深める
・具体的な研究計画の立案、研究遂行に必要な諸条件を整備する
・実験的または疫学的研究の遂行により論文にまとめる

授業の到達目標

医学・栄養学・食品学に関する知識・技能を基礎にして、栄養管理に関する専門的な最新知見を収集・分析する。それを更に発展させるために実験的及び疫学的な研究を行ない、得られた成果を論文としてまとめる。

アクティブ・ラーニング

■課題解決型学習（PBL）　■討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等）　■実習、フィールドワーク　■実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

各担当者の基本的な授業計画は以下のとおりである。
・年度当初に指導教員と協議の上、具体的な研究計画を立てる（PBL・討議・グループワーク）
・栄養管理に関わる研究テーマの明確化（課題解決型学習・討議・グループワーク）
・具体的な研究計画の立案、研究遂行に必要な諸条件の整備（PBL・討議・グループワーク）
・実験的または疫学的研究の遂行による論文の完成（フィールドワーク・実験）
計画に沿って、随時進捗状況を報告し、指導を受けること。
4月下旬：卒業研究題目提出
11月下旬：卒業研究要旨提出
12月中旬：卒業研究発表会（発表）
12月下旬：卒業論文提出

授業実施方法(面接授業・遠隔授業)

原則として「面接授業」を行います。ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成績評価方法

①卒業研究要旨の提出
②口頭発表を行う（口頭試問を兼ねる）
③卒業研究成果物（論文）の提出
を単位認定の基本要件とする。
そのうえで、研究活動への参加状況、課題および自主的学習への取り組みなどを総合して評価する。

成　績　評　価　基　準

研究テーマを踏まえ、的確な内容の要旨をまとめることができたか。
わかりやすく発表し、適切な受け答えができたか。
質の高い研究成果物を提出できたか。
積極的な、研究活動への参加、課題および自主的学習への取り組みなどができたか。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

1）授業時の課題に対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　■メール　□その他
2）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　■メール　□その他
3）小レポートに対するフィードバックについて
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
4）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
□定期試験時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
5）その他
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他

実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)

テ　キ　ス　ト　、　参　考　図　書

参考書・研究文献など必要に応じて指示する。

その他(受講上の注意)

実験・実習に関しては、特に時間割外に実験・実習室および機器備品を使用することから、実験・実習室の利用マニュアルに従うこと。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

卒業研究 (Graduation Research)			担当教員	長岡　純子
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−F−2469	4単位	4年	演習	必修

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科専門科目　特別演習・卒業研究

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

課題解決能力、社会に貢献する意欲と態度、職業倫理観

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識･技能　■論理的思考力と創造力　■人間関係形成･社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
■自己理解･自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　■キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

授業の内容

基本的な授業の内容は以下のとおりである。
・栄養管理に関わる研究テーマを深める
・具体的な研究計画の立案、研究遂行に必要な諸条件を整備する
・実験的または疫学的研究の遂行により論文にまとめる

授業の到達目標

医学・栄養学・食品学に関する知識・技能を基礎にして、栄養管理に関する専門的な最新知見を収集・分析する。それを更に発展させるために実験的及び疫学的な研究を行ない、得られた成果を論文としてまとめる。

アクティブ・ラーニング

■課題解決型学習（PBL）　■討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等）　■実習、フィールドワーク　■実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

基本的な授業計画は以下のとおりである。
・年度当初に指導教員と協議の上、具体的な研究計画を立てる（PBL・討議・グループワーク）
・栄養管理に関わる研究テーマの明確化（課題解決型学習・討議・グループワーク）
・具体的な研究計画の立案、研究遂行に必要な諸条件の整備（PBL・討議・グループワーク）
・実験的または疫学的研究の遂行による論文の完成（フィールドワーク・実験）
計画に沿って、随時進捗状況を報告し、指導を受けること。
4月下旬：卒業研究題目提出
11月下旬：卒業研究要旨提出
12月中旬：卒業研究発表会（発表）
12月下旬：卒業論文提出

授業実施方法(面接授業・遠隔授業)

原則として「面接授業」を行います。ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成績評価方法

①卒業研究要旨の提出
②口頭発表を行う（口頭試問を兼ねる）
③卒業研究成果物（論文）の提出
を単位認定の基本要件とする。
そのうえで、研究活動への参加状況、課題および自主的学習への取り組みなどを総合して評価する。

成　績　評　価　基　準

研究テーマを踏まえ、的確な内容の要旨をまとめることができたか。
わかりやすく発表し、適切な受け答えができたか。
質の高い研究成果物を提出できたか。
積極的な、研究活動への参加、課題および自主的学習への取り組みなどができたか。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

1）授業時の課題に対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　■メール　■その他（Teams）
2）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　■メール　■その他（Teams）
3）小レポートに対するフィードバックについて
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
4）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
□定期試験時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
5）その他
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他

実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)

テ　キ　ス　ト　、　参　考　図　書

参考書・研究文献など必要に応じて指示する。

その他(受講上の注意)

実験・実習に関しては、特に時間割外に実験・実習室および機器備品を使用することとなることから、厳重に実験・実習室利用マニュアルに従うこと。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

食品品質評価演習 (Practice in Estimating Food Quality)			担当教員	浦本　裕美、佐藤　真実
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−D−2473	2単位	4年前期	演習	選択

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科専門科目　関連科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

基礎研究および食品開発ができる能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識･技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成･社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解･自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　■キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

食品衛生管理者・食品衛生監視員　任用資格（選択）

授業の内容

食品を選ぶという行為は、多くの背景と動機が存在しており、管理栄養士には食品についての深い知識と品質を見抜く能力が必要となる。
そこで、その能力を養う目的で、食品の生産・流通・消費についての知識、食品鑑別法、食品品質評価法（化学的評価法、物理的評価法など）を演習で学ぶ。

授業の到達目標

目の前にある食品だけでなく、その食品が消費者に届くまで、すなわち、「生産・流通」にも着目した総合判断力をもって食品の品質を見抜く力と選択能力を養う。また、食品の品質評価法を理解する。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　□グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　□発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等）　■実習、フィールドワーク　■実験、実技　■その他（食品流通施設の見学、農作物の収穫体験）

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：（浦本・佐藤）ガイダンス、第3 ～5回の見学について説明
　事前学習：シラバスに目を通し授業内容について確認したいこと等をまとめておくこと。（2時間）
　事後学習：日本における食品の流通システムについて調べノートにまとめておくこと。（2時間）
第2回：（浦本）個別食品の鑑別（1）食品の流通と保存
　事前学習：テキストp122～124を読み、質問項目をノートにまとめておくこと。（2時間）
　事後学習：食品の保存時に気を付けなければならないことをノートにまとめておくこと。（2時間）
第3回：（浦本）個別食品の鑑別（2）中央卸売市場の見学　魚市場（その他）
　事前学習：中央卸売市場魚市場の役割について調べ質問項目をノートにまとめておくこと。（2時間）
　事後学習：見学先での説明等を整理してレポートにまとめておくこと。（2時間）
第4回：（浦本）個別食品の鑑別（3）中央卸売市場の見学　青果市場（その他）
　事前学習：中央卸売市場青果市場の役割について調べ、質問項目をノートにまとめておくこと。（2時間）
　事後学習：見学先での説明等を整理してレポートにまとめておくこと。（2時間）
第5回：（浦本）個別食品の鑑別（4）地元農家の見学・その他
　事前学習：地産地消について考え、質問項目をノートにまとめておくこと。（2時間）
　事後学習：見学先での説明・体験を整理してレポートにまとめておくこと。（2時間）
第6回：（浦本）化学的評価法（米の品質検査）（1）（実験）
　事前学習：配布プリントを一読し質問項目をまとめておくこと（2時間）
　事後学習：実験結果と考察、及び米の保存方法についてまとめレポートにまとめること。（2時間）
第7回：（浦本）化学的評価法（果物の品質；酵素的褐変）（2）（実験）
　事前学習：配布プリントを一読し質問項目をまとめておくこと。（2時間）
　事後学習：実験当日に配布したプリントに実験結果・考察を記入しておくこと。（2時間）

第８回：（浦本）化学的評価法（果物の品質；糖度・酸度）（３）（実験）
事前学習：テキストp50～53を読み質問項目をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：実験当日に配布したプリントに実験結果・考察を記入しておくこと。（２時間）
第９回：（佐藤）官能検査の基本と実施法
事前学習：テキストp 3 ～30を読み、質問項目をノートにまとめておくこと。（２時間）
事後学習：官能評価の概要についてノートにまとめておくこと。（２時間）
第10回：（佐藤）食品の官能検査演習（統計処理を含む）（１）（実習）
事前学習：評点法で使用したい試料について、調べておくこと。（２時間）
事後学習：評点法で使用する試料について、調べておくこと。（２時間）
第11回：（佐藤）食品の官能検査演習（統計処理を含む）（２）（実習）
事前学習：テキストp22～29を読み、質問項目をノートにまとめておくこと。（２時間）
事後学習：実験結果と考察、試料の特徴などについてまとめレポートにまとめること。（２時間）
第12回：（佐藤）物理的評価法の目的と意義
事前学習：テキストp59～63を読み、質問項目をノートにまとめておくこと。（２時間）
事後学習：食品の状態についてノートにまとめておくこと。（２時間）
第13回：（佐藤）物理的評価法の手法について
事前学習：テキストp64～78を読み、質問項目をノートにまとめておくこと。（２時間）
事後学習：レオロジーとテクスチャーについてノートにまとめておくこと。（２時間）
第14回：（佐藤）物理的評価演習（１）（実験）
事前学習：介護食や離乳食について調べ、ノートにまとめておくこと。（２時間）
事後学習：実験当日に配布したプリントに実験結果・考察を記入しておくこと。（２時間）
第15回：（佐藤）物理的評価演習（２）（実験）
事前学習：テキストp64～78を読み、測定方法について理解し、質問項目をノートにまとめておくこと。（２時間）
事後学習：実験の結果や考察より、介護食や離乳食の物性についてレポートにまとめること。（２時間）

授業実施方法（面接授業・遠隔授業）

原則として「面接授業」を行います。
ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。
遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成　績　評　価　方　法

レポート（90%）、平常点（10%）
（平常点は授業への参加状況・受講態度等を総合して採点する。）

成　績　評　価　基　準

食品自体の品質を評価できるだけでなく、生産・流通も考慮した広い視野を兼ね備えた品質評価および食品選択ができるか。
食品品質評価法が理解できているか。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック

１）授業時の課題に対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　■メール　□その他
２）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　■メール　□その他
３）小レポートに対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　■メール　□その他
４）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
□定期試験時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
５）その他
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他（

実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）

テ　キ　ス　ト、参　考　図　書

（社）日本フードスペシャリスト協会編/新版　食品の官能評価・鑑別演習（五訂版）/建帛社

その他（受講上の注意）
・個別食品の鑑別では福井県中央卸売市場などへの見学も予定しており、その際は、土曜日に実施する可能性がある。 ・使用教室は、演習内容によって変更し、第１回目のガイダンスで連絡する予定である。 ・テキストは、ガイダンスを聞いた上で履修することを決定してから購入するのが望ましい。 ・授業内容は連続性があるため、欠席や遅刻をすると内容理解の進展に支障をきたすので、欠席・遅刻をしないように心掛けること。授業の計画予定や内容は、変更されることがある。また、授業の計画・内容や注意事項の詳細については、第１回目のガイダンスで連絡する予定である。
オ フ ィ ス ア ワ ー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

心と健康 (Health and Mind)			担当教員	山本　雅代
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−C−2477	2単位	4年前期	講義	選択

<科目区分>　人間生活学部健康栄養学科専門科目　関連科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

（1）集団から影響を受ける個人の行動を理解する
（2）ストレスとは何かについて理解する
（3）現実社会でおこる心の葛藤やストレスを理解し、対処方法を知る

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識･技能　□論理的思考力と創造力　□人間関係形成･社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
■自己理解･自己管理能力　□諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

授業の内容

人間は常に集団の中で生活している。その中で人間として生きる様々な技術を学習し発達していく。しかし、その人間関係からネガティブな影響を受けることもある。現代社会においては多くの人々が他者又は社会からのストレスを感じ健康を崩すことが多くなっている。授業では、そのような人間の心の発達の過程、他者の存在が心に与える影響について解説するとともに、様々な社会システムの中で生み出されるストレスと健康について考察していく。実社会で起こっている現象をとりあげ社会心理的視点から理解していくことをめざす。

授業の到達目標

（1）集団から影響を受ける個人の行動を理解する
（2）ストレスとは何かについて理解する
（3）現実社会でおこる心の葛藤やストレスを理解し、対処方法を知る

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　□グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　□発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等）　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　■その他（ICT（Googleフォームを使用し、課題を呈示、インタラクティブに意見を収集）

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：心と健康について（ICT）
　事前学習：授業前に「心が健康に影響する」状況について考察する（2時間）
　事後学習：授業で課された課題についてまとめる、ノートを作成する（2時間）
第2回：人間の行動の始まり（ICT）
　事前学習：授業前に「生得的行動と学習」の違いについて考えてみる（2時間）
　事後学習：授業で課された課題についてまとめる、ノートを作成する（2時間）
第3回：社会的動物としての人間について（ICT）
　事前学習：授業前に「我々は社会から何を学ぶか」について考えてみる（2時間）
　事後学習：授業で課された課題についてまとめる、ノートを作成する（2時間）
第4回：心の発達について（ICT）
　事前学習：授業前に「人の発達」についての関連書籍を読んでおくこと（2時間）
　事後学習：授業で課された課題についてまとめる、ノートを作成する（2時間）
第5回：心の発達にかかせない他者（ICT）
　事前学習：授業前に「人の発達」についての関連書籍を読んでおくこと（2時間）
　事後学習：授業で課された課題についてまとめる、ノートを作成する（2時間）
第6回：集団と個人（ICT）
　事前学習：授業前に「集団」について関連書籍を読んでおくこと（2時間）
　事後学習：授業で課された課題についてまとめる、ノートを作成する（2時間）

第７回：集団から影響を受ける（ICT）
　　事前学習：授業前に「我々は集団からどのような影響を受けるのか」について考察しておく（２時間）
　　事後学習：授業で課された課題についてまとめる、ノートを作成する（２時間）
第８回：同調と服従（１）（ICT）
　　事前学習：授業前に「同調」についての本を読んでおくこと（２時間）
　　事後学習：授業で分からなかったポイントについてまとめておくこと（２時間）
第９回：同調と服従（２）（ICT）
　　事前学習：授業前に「服従」についての本を読んでおくこと（２時間）
　　事後学習：授業で分からなかったポイントについてまとめておくこと（２時間）
第10回：ストレスについて（ICT）
　　事前学習：授業前に「ストレス」について考察しておく（２時間）
　　事後学習：授業で課された課題についてまとめる、ノートを作成する（２時間）
第11回：人間関係とストレス（ICT）
　　事前学習：授業前に「組織の中のストレス」について関連書籍を読んでおくこと（２時間）
　　事後学習：授業で課された課題についてまとめる、ノートを作成する（２時間）
第12回：コーピングについて（ICT）
　　事前学習：授業前に「コーピング」について関連書籍を読んでおくこと（２時間）
　　事後学習：授業で課された課題についてまとめる、ノートを作成する（２時間）
第13回：パーソナリティと健康（ICT）
　　事前学習：授業前に「タイプA行動」について調べてみる（２時間）
　　事後学習：授業で課された課題についてまとめる、ノートを作成する（２時間）
第14回：問題解決と認知（ICT）
　　事前学習：授業前に「認知とは何か」関連書籍を読んでおくこと（２時間）
　　事後学習：授業で課された課題についてまとめる、ノートを作成する（２時間）
第15回：まとめと小テスト（ICT）
　　事前学習：各講義におけるノートをまとめる（２時間）
　　事後学習：分からなかったポイントについてまとめる（２時間）

授業実施方法（面接授業・遠隔授業）

原則として「面接授業」を行います。
ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。
遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成　績　評　価　方　法

授業中に実施する課題・小テスト、課題レポートを総合的に判断し評価する。
【小テスト50%　　課題・レポート50%】

成　績　評　価　基　準

○集団の中の個人の行動を理解できているか
○ストレスとは何かについて説明することができるか
○現実社会におけるストレスや葛藤を理解し、対処方法について説明することができるか

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック

１）授業時の課題に対するフィードバックについて
　■授業時　　□仁大eラーニング　　□メール　　□その他
２）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
　□授業時　　□仁大eラーニング　　□メール　　□その他
３）小レポートに対するフィードバックについて
　□授業時　　□仁大eラーニング　　□メール　　□その他
４）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
　□定期試験時　　□仁大eラーニング　　□メール　　□その他
５）その他
　□授業時　　□仁大eラーニング　　□メール　　□その他

実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）

テ　キ　ス　ト　、　参　考　図　書

適宜掲示・配布する。また、参考文献、関連文献を講義内で紹介する。

その他（受講上の注意）
最初にTeamsに登録すること。 基本的に講義形式で行う。より理解を深めるために必要に応じてVTR視聴、自己分析、を実施する。 授業内において課題の提出を求めることがある。提出には、eラーニングシステム・googleフォーム等を利用し、受講者の考え方や他者との行動の差異について共有すること、講義内容と実際の社会的問題を関連づけて考えること、を試みる。
オ フ ィ ス ア ワ ー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

特別活動及び総合的な学習の時間の指導法 (Teaching method of an extraordinaryand overall learning time)			担当教員	山﨑　智幸
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−C−2487	2単位	4年前期	講義	選択

<科目区分>　人間生活学部特設科目　教職に関する専門科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>　道徳、総合的な学習の時間等の内容及び生徒指導、教育相談等に関する科目

<科目に含めることが必要な事項>　学校および地域社会の健康づくりを担うことができる能力

求める学習成果(教育目標)

学校および地域社会の健康づくりを担うことができる能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□体系的な知識･技能　□論理的思考力と創造力　□人間関係形成･社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解･自己管理能力　□諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

栄養教諭一種免許状（必修）

授業の内容

学習指導要領における特別活動の目標、基本的な性格と教育活動全体における意義、各活動・学校行事の目標及び内容、指導計画の作成と内容の取扱いを理解し、実施上の課題と配慮事項等を考える。また、総合的な学習の時間の目標及び内容、特質に応じた学習の在り方、指導計画の作成と内容の取扱い、指導計画及び単元計画の基本的な考えを理解し、探究的な学習の指導のポイントを探る。

授業の到達目標

特別活動は、学校における様々な構成の集団での活動を通して、課題の発見や解決を行い、よりよい集団や学校生活を目指して様々に行われる活動の総体であり、学校教育全体における特別活動の意義を理解し、「人間関係形成」･「社会参画」･「自己実現」の三つの視点や「チームとしての学校」の視点を持つとともに、学年の違いによる活動の変化、各教科等との往還的な関連、地域住民や他校の教職員と連携した組織的な対応等の特別活動の特質を踏まえた指導に必要な知識や素養を身に付ける。
総合的な学習の時間は、探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力の育成を目指す。また、各教科等で育まれる見方・考え方を総合的に活用して、広範な事象を多様な角度から俯瞰して捉え、実社会・実生活の課題を探究する学びを実現するために、指導計画の作成および具体的な指導の仕方、並びに学習活動の評価に関する知識・技能を身に付ける。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■発表・プレゼンテーション

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：学習指導要領における特別活動と総合的な学習の時間の改訂の趣旨及び要点
　事前学習：学習指導要領における特別活動と総合的な学習の時間の改訂の趣旨及び要点を読んで，要点をおさえる。（2時間）
　事後学習：講義とテキストの関連項目をもとに特別活動と総合的な学習の時間の位置づけについて，リフレクションシートにまとめる。（2時間）
第2回：特別活動の目標及び内容，指導のあり方（ワークショップ）
　事前学習：小学校学習指導要領解説『特別活動編』の特別活動の目標と各活動等の目標との関連する部分を読み，要点をおさえる。（2時間）
　事後学習：講義とテキストの関連項目をもとに，特別活動の目標と各活動等の目標との関連についてリフレクションシートにまとめる。（2時間）
第3回：学級活動の目標及び内容，指導計画，内容の取扱い　グループワークによる人間関係づくり（グループワークと発表）
　事前学習：小学校学習指導要領解説『特別活動編』の学級活動の部分を読み，要点をおさえる。（2時間）
　事後学習：事例を通したグループワークと発表をもとに学級活動の目標や内容等について，リフレクションシートにまとめる。（2時間）

第４回：児童会活動，クラブ活動の目標及び内容，指導計画，内容の取扱い ── 実践事例を通して考える（ワークショップとグループワーク，発表）
事前学習：小学校学習指導要領解説『特別活動編』の児童会活動，クラブ活動の部分を読み，要点をおさえる。（２時間）
事後学習：事例を通したグループワークと発表をもとに児童会活動・クラブ活動の目標と内容等について，リフレクションシートにまとめる。（２時間）
第５回：学校行事の目標及び内容，指導計画，内容の取扱い　教育課程全体を考えた学校行事のあり方について考える（ワークショップとグループワーク，発表）
事前学習：小学校学習指導要領解説『特別活動編』の学校行事の部分を読み，要点をおさえる。また，各自の学校行事に関する体験を簡単に書いて準備する。（２時間）
事後学習：事例を通したグループワークと発表をもとに学校行事の目標と内容等について，リフレクションシートにまとめる。（２時間）
第６回：特別活動の指導計画の作成と内容の取り扱い
事前学習：小学校学習指導要領解説『特別活動編』の指導計画の作成と内容の取扱いの部分を読み，要点をおさえる。（２時間）
事後学習：講義とテキストの関連項目をもとに，特別活動の全体計画と各活動・学校行事の年間指導計画と内容の取り扱いについてリフレクションシートにまとめる。（２時間）
第７回：学びを豊かにする特別活動の充実に向けて（グループワークと発表）
事前学習：小学校学習指導要領解説『特別活動編』の学校行事の部分を読み，要点をおさえる。また，各自の学校行事に関する体験を簡単に書いて準備する。（２時間）
事後学習：事例を通したグループワークと発表をもとに学校行事の目標と内容等について，リフレクションシートにまとめる。（２時間）
第８回：特別活動で育む力　（資質・能力の３つの視点）と指導方法（発表）
事前学習：小学校学習指導要領解説『特別活動編』の全体を読み，特別活動で育む力について所見を考えておく。（２時間）
事後学習：特別活動で育む力　（資質・能力の３つの視点）を意識した指導のあり方について，自分なりの考えをリフレクションシートにまとめ，発表する。（２時間）
第９回：総合的な学習の時間の目標と学習の在り方
事前学習：小学校学習指導要領解説「総合的な学習の時間編」の目標の部分を読み、要点をおさえておくこと。（２時間）
事後学習：講義とテキストの関連項目をもとに、総合的な学習の時間の目標と在り方、資質・能力についてリフレクションシートにまとめる。（２時間）
第10回：各学校において定める目標及び内容、指導計画の作成と内容の取扱い
事前学習：小学校学習指導要領解説「総合的な学習の時間編」の目標及び内容、指導計画、内容の取扱いの部分を読み、要点をおさえておくこと。（２時間）
事後学習：講義とテキストの関連項目をもとに、目標、内容、指導計画、内容の取扱いについてリフレクションシートにまとめる。（２時間）
第11回：総合的な学習の時間の指導計画の作成、考えるための技法の活用（グループワークと発表）
事前学習：小学校学習指導要領解説「総合的な学習の時間編」の指導計画、考えるための技法の部分を読み、要点をおさえておくこと。（２時間）
事後学習：講義とテキストの関連項目をもとに、探求課題を通して育成を目指す具体的な資質・能力についてリフレクションシートにまとめる。（２時間）
第12回：総合的な学習の時間の年間指導計画及び単元計画の作成、学習指導、評価（グループワークと発表）
事前学習：小学校学習指導要領解説「総合的な学習の時間編」の年間指導計画及び単元計画の作成、学習指導、評価の部分を読み、要点をおさえておくこと。（２時間）
事後学習：講義とテキストの関連項目をもとに、探求的な学習の指導のポイントについてリフレクションシートにまとめる。（２時間）
第13回：現代的な諸課題に対応する横断的・総合的な課題（ワークショップとグループワーク、発表）
事前学習：小学校学習指導要領解説「総合的な学習の時間編」の各学校が定める内容の当該部分を読み、要点をおさえておくこと。また、各自の当該テーマに関する課題を簡単に書いて準備すること。（２時間）
事後学習：事例を通したグループワークと発表をもとに、当該テーマについて考えたことをリフレクションシートにまとめる。（２時間）
第14回：地域や学校の特色に応じた課題（ワークショップとグループワーク、発表）
事前学習：小学校学習指導要領解説「総合的な学習の時間編」の各学校が定める内容の当該部分を読み、要点をおさえておくこと。また、各自の当該テーマに関する体験を簡単に書いて準備すること。（２時間）
事後学習：事例を通したグループワークと発表をもとに、当該テーマについて考えたことをリフレクションシートにまとめる。（２時間）

第15回：児童・生徒の興味・関心に基づく課題（ワークショップとグループワーク、発表）
事前学習：小学校学習指導要領解説「総合的な学習の時間編」の各学校が定める内容の当該部分を読み、要点をおさえておくこと。また、各自の当該テーマに関する体験を簡単に書いて準備すること。（２時間）
事後学習：事例を通したグループワークと発表をもとに、当該テーマについて考えたことをリフレクションシートにまとめる。（２時間）

定期試験は実施しない。

授業実施方法（面接授業・遠隔授業）

原則として「面接授業」を行います。ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成　績　評　価　方　法

毎回のリフレクション・レポート（30%）、特別活動及び総合的な学習の時間に関する発表（15%×２回）、講義終了後の最終レポート（40%）で総合的に評価する。

成　績　評　価　基　準

特別活動の意義や目標及び内容を理解しているか。
特別活動の指導の在り方を理解しているか。
総合的な学習の時間の意義や各学校において目標及び内容を定める際の考え方を理解しているか。
総合的な学習の時間の指導計画作成の考え方を理解し、その実現のために必要な基礎的な能力を身に付けているか。
総合的な学習の時間の指導と評価の考え方及び実践上の留意点を理解しているか。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック

１）授業時の課題に対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
２）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
３）小レポートに対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
４）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
□定期試験時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
５）その他
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他

実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）

テ　キ　ス　ト、参　考　図　書

テキスト
小学校学習指導要領解説　総合的な学習の時間編（平成29年６月　文部科学省）
小学校学習指導要領解説　特別活動編（平成29年６月　文部科学省）

その他（受講上の注意）

特別活動は各学校の教育課程に応じた特色が多く見られるため、自分の母校の特別活動を思い起こしておくとよい。
総合的な学習の時間は、幅広い探究課題を扱うため、現代的な課題や身近な地域の特色などの情報に積極的に関心を持っておくとよい。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

教育相談 (Educational Counseling)			担当教員	佐々木　雅代
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−C−2490	2単位	4年前期	講義	選択

<科目区分>　人間生活学部特設科目　教職に関する専門科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>　道徳、総合的な学習の時間等の内容及び生徒指導、教育相談等に関する科目

<科目に含めることが必要な事項>　教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法

求める学習成果(教育目標)

学校および地域社会の健康づくりを担うことができる能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識･技能　■論理的思考力と創造力　■人間関係形成･社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
■自己理解･自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　■キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

栄養教諭一種免許状（必修）

授業の内容

教育相談の意義と理論の理解が、実践技術を裏打ちするものとなるために、いじめ、不登校など各種架空事例を用いて、問題の所在や対応策の検討を行う。教育相談における様々な予防開発的支援技術の体験学習を行う。

授業の到達目標

学校における教育相談の意義と理論を理解する。幼児期・児童期・青年期の心理的特徴を理解し、子どもの不適応や行動の意味を見立てる方法を身につける。教育相談を進める際に必要な基礎的知識（カウンセリングに関する基礎的事項を含む）を理解する。教育相談の具体的な進め方やそのポイント、組織的な取り組みや連携の必要性を理解する。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習（PBL）　■討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等）　□実習、フィールドワーク　■実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：15回の全体計画と学習のポイント及び到達目標の説明。生徒指導と教育相談について。教育相談の視点から、園、学校という場、資源について知る。（ディスカッション）
事後学習：チーム学校に関し、指示した課題について、調べレポートにまとめておくこと。（3時間）

第2回：教育相談に生かす心理学的理解；教育相談とカウンセリング。見立て。事例で学ぶ、問題の背景、影響、資質のとらえ方。傾聴訓練を含むグループディスカッション。（ディスカッション）
事前学習：第1回に配布した資料を熟読しておくこと。（2時間）
事後学習：見立てについて、理解したことをレポートにまとめておくこと。（2時間）

第3回：教育相談に生かす心理学的理解；教育相談におけるアセスメントとは。教育相談技法について。傾聴訓練。予防開発的援助について。グループディスカッション。（グループワーク）
事前学習：第2回に配布した事例について、自分なりの介入プランを立てること。（2時間）
事後学習：介入プランの立て方について、ポイントをレポートにまとめておくこと。（2時間）

第4回：不登校、登園渋りについて。教育相談における対応。文科省の調査研究報告等にあたり、多角的視点によって理解の幅を広げる。（プレゼンテーション）
事前学習：文科省の調査研究報告等前回の授業で指示した資料を調べまとめ、レポートにすること。（3時間）
事後学習：学校現場でどのような対応が望ましいか、学んだことをまとめておくこと。（2時間）

第5回：子供の貧困について。架空事例に触れ、学校生活での問題の現れ方、介入に際して配慮すべきこと、活用できる社会資源。（ディスカッション）
事前学習：日本の実態と、どのような対策がなされているか調べレポ──トにまとめておくこと。（2時間）
事後学習：子どもの貧困について、保育、幼児教育、学校現場でどのような対応が可能か、学んだことをまとめておくこと。（2時間）

第６回：いじめ理解、いじめ対応の基礎知識。いじめ予防について。非行について教育相談の意味。被害者支援、加害者支援および保護者支援について理解する。（ディスカッション）
事前学習：いじめ防止対策推進法について調べ、レポートにまとめておくこと。（２時間）
事後学習：授業で検討したこと、学んだことについて、まとめておくこと。（２時間）
第７回：発達障害の学校での現れ方。発達障害の流動性。支援のための人格発達仮説を学ぶ。発達障害支援シートの活用を知る。保護者支援。外部機関との連携。（ディスカッション）
事前学習：発達支援シートについて調べて、ディスカッションの資料になるように、まとめておくこと。（２時間）
事後学習：二次障害の予防と対応、連携についてまとめておくこと。（２時間）
第８回：予防開発的アプローチとしてのSST の意味。SST の用い方。SST ワークの体験。（グループワーク）
事前学習：第７回に配布した資料を熟読し、チェックリストを完成しておくこと。（２時間）
事後学習：授業で、自分で作った宿題の回答を試みること。（２時間）
第９回：予防開発的アプローチとしてのアサーティブトレーニングの意味。自尊感情、対等性、誠実であること、教育相談における人権について理解を深める。自己理解、他者理解。（グループワーク）
事前学習：第８回に配布した資料を熟読し、質問をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：自分にとってのアサーティブネスについて検討し、レポートにすること。（２時間）
第10回：性の問題。性に関する教育相談。学齢期の性被害について、対応を学ぶ。
事前学習：学習指導要領における性に関する指導について、文科省のホームページから調べ、発達段階に沿った指導について確認しておく。（２時間）
事後学習：授業で扱った事例について、自分の考えをまとめる。（２時間）
第11回：子どもの自殺・虐待について現状を知る。SOSの出し方教育について学ぶ。
事前学習：SOSの出し方教育について調べてまとめておく。（２時間）
事後学習：授業で扱った事例について、自分の考えをまとめる。（２時間）
第12回：事件・事故・災害対応および心のケアについて。危機管理について。緊急事態における教育相談の役割。チームのあり方。
保護者支援。（ディスカッション）
事前学習：児童生徒を取り巻くリスクについて、想定し、対応策を考え、書き出しておくこと。（２時間）
事後学習：サイコロジカルファーストエイドにつて要点をまとめておくこと。（２時間）
第13回：学齢期の精神科疾患の基礎知識。子どもと共に学ぶストレスマネージメント、メンタルヘルス。専門機関の支援の受け方について学ぶ。（ディスカッション）
事前学習：第12回に示した資料を熟読しておくこと。（２時間）
事後学習：ストレスマネージメント、メンタルヘルスを学ぶ意義についてまとめる。（２時間）
第14回：教員のメンタルヘルス。ストレスマネージメントについて。体験学習。教育相談での活かし方。（グループワーク）
事前学習：第13回に指示した、リラクゼーションの技法についてあらかじめ調べておくこと。（２時間）
事後学習：自分自身のストレスマネージメントの意義について、レポートにまとめる。（２時間）
第15回：ふりかえり。今まで学んだことの振り返り。改めて事例をもとに、見立て、介入プランの試作。
事前学習：授業全体を振り返り、疑問や質問をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：参考図書について、指示した要点を確認しておくこと。（２時間）
第16回：定期試験

授業実施方法（面接授業・遠隔授業）

原則として「面接授業」を行います。ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成　績　評　価　方　法

小レポート（30%）　平常点（20%）　定期試験（50%）
（平常点は、授業への参加状況・受講態度、課題の提出状況等を総合して判断します。）

成　績　評　価　基　準

いじめ、不登校、発達障害について、基礎知識をもち、学校・保育現場のチームの一員としてカウンセリングマインドを生かした支援ができる。支援プランを立てることが出来る。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック

１）授業時の課題に対するフィードバックについて
■授業時　■仁大eラーニング　□メール　□その他
２）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
■授業時　■仁大eラーニング　□メール　□その他
３）小レポートに対するフィードバックについて
□授業時　■仁大eラーニング　□メール　□その他
４）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
□定期試験時　■仁大eラーニング　□メール　□その他
５）その他
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他

実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）
テキスト、参考図書
テキスト 森　慶輔・宮下敏恵　編著『教育相談テキストブック』金子書房 参考図書 西本絹子著『教師のための教育相談』萌文書林 文部科学省　『生徒指導提要』2022年12月改訂版 河合隼雄著『こころの子育て-誕生から思春期までの48 章』朝日新聞社
その他（受講上の注意）
その都度、資料を配布します。この教科用のファイル、ノートをご準備ください。 体験学習には積極的にご参加ください。
オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

事前・事後指導(栄養教諭) (Directed Teaching Practicum(Nutrition Teachers))			担当教員	清川　ひろみ、牧野　みゆき
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−C−2491	1単位	4年通年	実習	選択

<科目区分>　人間生活学部特設科目　教職に関する専門科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>　教育実践に関する科目

<科目に含めることが必要な事項>　栄養教育実習

求める学習成果(教育目標)

学校および地域社会の健康づくりを担うことができる能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識･技能　■論理的思考力と創造力　■人間関係形成･社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
□自己理解･自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

栄養教諭一種免許状（必修）

授　業　の　内　容

栄養教育実習に臨むにあたって必要な心構え、実践的な教職能力の基礎を学修する。
第１～15回は前期、第16～23回は後期に行う。

授業の到達目標

「事前指導」では栄養教育実習の意義や目的を理解し、実習生としての態度や心構えを身につける。栄養教育実習に向け、課題意識をもって積極的に取り組むことができ、模擬授業をすることができる。
「事後指導」は実習について報告し、実習での体験とその反省をもとに栄養教諭に求められる資質・能力を高める。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習（PBL）　■討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　□グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等）　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

【前期】
第１回：オリエンテーション、栄養教育実習の意義・目的（牧野）
第２回：授業の進め方についての基礎（牧野）
第３回：学習指導案の作成 演習（清川）
第４回：課題研究 1（清川）
第５回：課題研究 2（清川）
第６回：課題研究 3（清川）
第７回：栄養教諭による食育授業の実践例 1（清川）
第８回：課題研究 4（清川）【ディスカッション】
第９回：課題研究 5（清川）【ディスカッション】
第10回：実習校における課題研究 1（清川・牧野）【発表、ディスカッション】
第11回：栄養教諭による食育授業の実践例 2（清川・牧野）
第12回：実習校における課題研究 2（清川・牧野）【発表、ディスカッション】
第13回：実習校における課題研究 3（清川・牧野）【発表、ディスカッション】
第14回：実習校における課題研究 4（清川・牧野）【発表、ディスカッション】
第15回：実習校における課題研究 5（清川・牧野）【発表、ディスカッション】

【後期】
第16回：学習体験発表・意見交換・評価１（清川・牧野）【発表、ディスカッション】
第17回：学習体験発表・意見交換・評価２（清川・牧野）【発表、ディスカッション】
第18回：学習体験発表・意見交換・評価３（清川・牧野）【発表、ディスカッション】
第19回：学習体験発表・意見交換・評価４（清川・牧野）【発表、ディスカッション】
第20回：学習体験発表・意見交換・評価５（清川・牧野）【発表、ディスカッション】

第21回：学習体験発表・意見交換・評価６（清川・牧野）【発表、ディスカッション】
第22回：学習体験発表・意見交換・評価７（清川・牧野）【発表、ディスカッション】
第23回：３年生への教育実習の報告会（牧野）

授業実施方法（面接授業・遠隔授業）

原則として「面接授業」を行います。
ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。
遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成　績　評　価　方　法

模擬授業および発表等（60%）、レポート等の提出物（20%）、平常点（20%）
平常点は、授業への参加状況、受講態度等から総合的に評価する。

成　績　評　価　基　準

栄養教育実習の意義や目的を理解し、実習生としての態度や心構えを身につけ、栄養教育実習に向けて課題意識をもって積極的に取り組むことができ、模擬授業をすることができるか。実習の体験とその反省をもとに栄養教諭に求められる資質・能力を身につけているか。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック

１）授業時の課題に対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
２）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
３）小レポートに対するフィードバックについて
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
４）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
□定期試験時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
５）その他
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他

実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）

テ　キ　ス　ト　、　参　考　図　書

栄養教諭のための教職実践演習・栄養教育実習ノート：１年次から使えるポートフォリオ，芦川修貳 監修，学建書院，2021年

その他（受講上の注意）

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

教育実習(栄養教諭) (Teaching Practicum(Nutrition Teachers))			担当教員	清川　ひろみ、牧野　みゆき
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−C−2492	1単位	4年前期	実習	選択

<科目区分>　人間生活学部特設科目　教職に関する専門科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>　教育実践に関する科目

<科目に含めることが必要な事項>　栄養教育実習

求める学習成果(教育目標)

学校および地域社会の健康づくりを担うことができる能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識･技能　■論理的思考力と創造力　■人間関係形成･社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
□自己理解･自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

栄養教諭一種免許状（必修）

授業の内容

小学校または中学校において1週間の教育実習を行う。

授業の到達目標

教育現場において栄養教諭の職務を経験し、授業方法、指導案作成能力、児童生徒への声掛け、接し方など栄養教諭として身につけるべき基本的能力を習得する。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　□グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　□発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等）　■実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

（1）実習校でのオリエンテーション
　実習校の運営機構、教育方針、指導計画、事務分掌、教育環境等の理解
（2）授業参観
　授業参観を通して、児童及び生徒個々の心身及び知的発達状況の段階、学級機能の特性を観察し、個人指導及び集団指導の実態についての把握
（3）授業実習
　食に関する指導にかかわる授業計画・指導案の作成、指導にかかわる知識・技術・資料の準備及び事前研究。授業実習の実施状況の検討・評価。
（4）学校経営への参加実習（参観，補助）
　給食放送指導、配膳指導、後片付け指導への参加。配属学級の授業、放課後の研究指導、クラブ活動への参加、学校行事への参加等実習校から与えられた課題に真摯に取組むこと。

授業実施方法(面接授業・遠隔授業)

原則として「面接授業」を行います。
ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。
遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成績評価方法

実習校からの評価（80%）、教員の巡回指導の記録・実習ノートの内容等（20%）

成績評価基準

授業方法、指導案作成能力、児童生徒への声掛け、接し方など栄養教諭として身につけるべき基本的能力を習得できているか。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

1）授業時の課題に対するフィードバックについて
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
2）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
3）小レポートに対するフィードバックについて
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
4）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
□定期試験時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
5）その他（実習に対するフィードバックについて）
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　■その他（実習における評価および課題は、「事前・事後指導（栄養教諭）」においてフィードバックする）

実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)

テキスト、参考図書

必要に応じて、教材・資料等を紹介する。

その他(受講上の注意)

教育実習には、将来、教職に就きたいという強い意志を持ち、事前準備を計画的に行い、体調を整えて臨むこと。

オフィスアワー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

教職実践演習(栄養教諭) (Applied Systems in School Education(Nutrition Teachers))			担当教員	牧野みゆき、小林　利幸、清川ひろみ
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
HN−C−2493	2単位	4年後期	演習	選択

<科目区分>　人間生活学部特設科目　教職に関する専門科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>　教育実践に関する科目

<科目に含めることが必要な事項>　教職実践演習

求める学習成果(教育目標)

学校および地域社会の健康づくりを担うことができる能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□体系的な知識･技能　□論理的思考力と創造力　■人間関係形成･社会形成能力　■職業観と職業的倫理観　■自己理解･自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

栄養教諭一種免許状（必修）

授業の内容

これまで学修した教職課程科目や教職に関する経験を振り返るとともに、ロールプレイ、事例研究、グループ討議等により、栄養教諭として必要な能力の向上をはかる。

授業の到達目標

教職課程におけるこれまでの学習成果を振返り、栄養教諭に必要な知識や資質を確認し、栄養教諭としての総合的な資質能力（ICT活用指導力を含む）を高める。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習（PBL）　■討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　□発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等）　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

＜小林 利幸 担当分（5回）　牧野 みゆき 担当分（5回）　清川 ひろみ 担当分（5回）＞

第1回：教職課程（栄養教諭）の振り返りおよびグループ討論（牧野）【ディスカッション】
　事前学習：第1回の授業では教育実習全体を通した振り返りを行ったあとで教職カルテを記入し、それをもとにしたディスカッションを行うため、教育実習ノートを中心に実習内容をまとめておくこと（2時間）
　事後学習：これまでの教職カルテの記録をもとに、より深めたい内容を整理しておくこと（2時間）
第2回：教職の意義、教職員の職務と役割、児童・生徒に対する使命と責任の重さについて事例研究・ロールプレーイング・グループ討論（小林）【ディスカッション】
　事前学習：第2回の授業では、標記テーマについてディスカッションを行うので、教育実習中の関連する場面を思い出し、自分なりの意見をまとめておくこと（2時間）
　事後学習：授業の内容と、これまでの教職科目の学習内容を振り返り、自分の考えを整理しておくこと（2時間）
第3回：食に関する全体指導計画に関する演習（1）（牧野）【ディスカッション】
　事前学習：第3回の授業では、標記テーマについてディスカッションを行うので、教育実習中の関連する場面を思い出し、自分なりの意見をまとめておくこと（2時間）
　事後学習：授業の内容と、これまでの教職科目の学習内容を振り返り、自分の考えを整理しておくこと（2時間）
第4回：児童・生徒理解と学級経営について事例研究・グループ討論（小林）【ディスカッション】
　事前学習：第4回の授業では、標記テーマについてディスカッションを行うので、教育実習中の関連する場面を思い出し、自分なりの意見をまとめておくこと（2時間）
　事後学習：授業の内容と、これまでの教職科目の学習内容を振り返り、自分の考えを整理しておくこと（2時間）

第５回：食に関する全体指導計画に関する演習（２）（牧野）【ディスカッション】
事前学習：第５回の授業では、標記テーマについてディスカッションを行うので、教育実習中の関連する場面を思い出し、自分なりの意見をまとめておくこと（２時間）
事後学習：授業の内容と、これまでの教職科目の学習内容を振り返り、自分の考えを整理しておくこと（２時間）
第６回：教科等や生徒指導の方法についての事例研究・グループ討論（小林）【ディスカッション】
事前学習：第６回の授業では、標記テーマについてディスカッションを行うので、教育実習中の関連する場面を思い出し、自分なりの意見をまとめておくこと（２時間）
事後学習：授業の内容と、これまでの教職科目の学習内容を振り返り、自分の考えを整理しておくこと（２時間）
第７回：学校現場の調査研究とグループ討論（小林）
事前学習：第７回の授業では、全体計画をテーマにワークを行うので、３年次に学習した内容をの復習しておくとともに、実習校の全体計画について確認しておく（２時間）
事後学習：資料等の見直しを行うとともに、ワークを進めるなかで理解が不十分と感じた部分があれば、担当教員に質問すること（２時間）
第８回：社会性や対人関係能力についての確認（小林）
事前学習：第８回の授業では、年間指導計画をテーマにワークを行うので、３年次に学習した内容を復習しておくとともに、実習校の年間指導計画について確認しておく（２時間）
事後学習：資料等の見直しを行うとともに、ワークを進めるなかで理解が不十分と感じた部分があれば、担当教員に質問すること（２時間）
第９回：栄養教諭としての学修理解についての自己評価及びグループ討論（清川）【ディスカッション、グループワーク】
事前学習：第９回の授業では、知識を引き出す指導方法（アクティブラーニングなど）についてディスカッションを行うので、教育実習で自身が行った指導の工夫点をまとめておくこと（２時間）
事後学習：授業の内容と、これまでの教職科目の学習内容を振り返り、新たな指導方法を取り入れた場合の指導構想をまとめる（２時間）
第10回：栄養教諭としての使命と役割についての講義及びグループ討論（清川）【ディスカッション、グループワーク】
事前学習：４年次前期から紹介してきた、今年に入って出た答申や資料等について見直し、分からない単語等があれば調べておくこと（２時間）
事後学習：資料等の見直しを行い、そのなかで分からない部分が出てきた場合には、担当教員に質問すること（２時間）
第11回：事例を踏まえた実践的指導力を培うためのとグループ討論 １（清川）【ディスカッション、グループワーク】
事前学習：第11回の授業では、学校給食や食文化についてディスカッションを行うので、３年次からこれまでの学習内容を思い出し、復習をしておくこと（２時間）
事後学習：授業の内容と、これまでの教職科目の学習内容を振り返り、自分の考えを整理しておくこと（２時間）
第12回：事例を踏まえた実践的指導力を培うためのとグループ討論 ２（清川）【ディスカッション、グループワーク】
事前学習：第12回の授業では、各自、行事食を取り入れた学校給食献立とそれを活用した食育指導について発表し、ディスカッションを行うので、発表資料を作成し、準備しておくこと（２時間）
事後学習：授業の内容と、これまでの教職科目の学習内容を振り返り、自分の考えを整理しておくこと（２時間）
第13回：事例を踏まえた実践的指導力を培うためのとグループ討論 ３（清川）【ディスカッション、グループワーク】
事前学習：第13回の授業では、実践事例をもとにディスカッションを行うので、教育実習中の関連する場面を思い出したり、これまでの学習内容を思い出し、自分なりの意見をまとめておくこと（２時間）
事後学習：授業の内容と、これまでの教職科目の学習内容を振り返り、自分の考えを整理しておくこと（２時間）
第14回：食を通じて知識を引き出す指導方法についての講義および討論（牧野）【ディスカッション】
事前学習：第14回の授業では、実践事例をもとにディスカッションを行うので、教育実習中の関連する場面を思い出したり、これまでの学習内容を思い出し、自分なりの意見をまとめておくこと（２時間）
事後学習：授業の内容と、これまでの教職科目の学習内容を振り返り、自分の考えを整理しておくこと（２時間）
第15回：児童生徒の食生活改善についての事例研究・グループ討論（牧野）【ディスカッション、グループワーク】
事前学習：第15回の授業では、実践事例をもとにディスカッションを行うので、教育実習中の関連する場面を思い出したり、これまでの学習内容を思い出し、自分なりの意見をまとめておくこと（２時間）
事後学習：授業の内容と、これまでの教職科目の学習内容を振り返り、自分の考えを整理しておくこと（２時間）

授業実施方法(面接授業・遠隔授業)

原則として「面接授業」を行います。
ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。
遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成　績　評　価　方　法

グループ討論の様子や事例研究（50%）、レポートまたは授業における作成物（30%）、平常点（20%）
平常点は、授業への参加状況、受講態度等から総合的に評価する。

成　績　評　価　基　準

栄養教諭として働くうえで必要となる知識や技能、資質等が身についているか。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

1）授業時の課題に対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
2）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
3）小レポートに対するフィードバックについて
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
4）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
□定期試験時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
5）その他
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他

実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)

テ　キ　ス　ト　、　参　考　図　書

参考図書は適宜指示する。

その他(受講上の注意)

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

特別活動及び総合的な学習の時間の指導法 (Teaching method of an extraordinaryand overall learning time)			担当教員	山﨑　智幸
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−B−2402	2単位	4年前期	講義	選択

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　展開科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>　道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目

<科目に含めることが必要な事項>　総合的な学習の時間の指導法
特別活動の指導法

求める学習成果(教育目標)

教育・保育の内容の理解及び指導方法

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□体系的な知識･技能　□論理的思考力と創造力　□人間関係形成･社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解･自己管理能力　□諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

小学校教諭一種免許状（必修）

授業の内容

学習指導要領における特別活動の目標、基本的な性格と教育活動全体における意義、各活動・学校行事の目標及び内容、指導計画の作成と内容の取扱いを理解し、実施上の課題と配慮事項等を考える。また、総合的な学習の時間の目標及び内容、特質に応じた学習の在り方、指導計画の作成と内容の取扱い、指導計画及び単元計画の基本的な考えを理解し、探究的な学習の指導のポイントを探る。

授業の到達目標

特別活動は、学校における様々な構成の集団での活動を通して、課題の発見や解決を行い、よりよい集団や学校生活を目指して様々に行われる活動の総体であり、学校教育全体における特別活動の意義を理解し、「人間関係形成」･「社会参画」･「自己実現」の三つの視点や「チームとしての学校」の視点を持つとともに、学年の違いによる活動の変化、各教科等との往還的な関連、地域住民や他校の教職員と連携した組織的な対応等の特別活動の特質を踏まえた指導に必要な知識や素養を身に付ける。
総合的な学習の時間は、探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力の育成を目指す。また、各教科等で育まれる見方・考え方を総合的に活用して、広範な事象を多様な角度から俯瞰して捉え、実社会・実生活の課題を探究する学びを実現するために、指導計画の作成および具体的な指導の仕方、並びに学習活動の評価に関する知識・技能を身に付ける。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■発表・プレゼンテーション

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：学習指導要領における特別活動と総合的な学習の時間の改訂の趣旨及び要点
　事前学習：学習指導要領における特別活動と総合的な学習の時間の改訂の趣旨及び要点を読んで，要点をおさえる。（2時間）
　事後学習：講義とテキストの関連項目をもとに特別活動と総合的な学習の時間の位置づけについて，リフレクションシートにまとめる。（2時間）
第2回：特別活動の目標及び内容，指導のあり方（ワークショップ）
　事前学習：小学校学習指導要領解説『特別活動編』の特別活動の目標と各活動等の目標との関連する部分を読み，要点をおさえる。（2時間）
　事後学習：講義とテキストの関連項目をもとに，特別活動の目標と各活動等の目標との関連についてリフレクションシートにまとめる。（2時間）
第3回：学級活動の目標及び内容，指導計画，内容の取扱い　グループワークによる人間関係づくり（グループワークと発表）
　事前学習：小学校学習指導要領解説『特別活動編』の学級活動の部分を読み，要点をおさえる。（2時間）
　事後学習：事例を通したグループワークと発表をもとに学級活動の目標や内容等について，リフレクションシートにまとめる。（2時間）

第４回：児童会活動，クラブ活動の目標及び内容，指導計画，内容の取扱い ── 実践事例を通して考える（ワークショップとグループワーク，発表）
事前学習：小学校学習指導要領解説『特別活動編』の児童会活動，クラブ活動の部分を読み，要点をおさえる。（２時間）
事後学習：事例を通したグループワークと発表をもとに児童会活動・クラブ活動の目標と内容等について，リフレクションシートにまとめる。（２時間）
第５回：学校行事の目標及び内容，指導計画，内容の取扱い　教育課程全体を考えた学校行事のあり方について考える（ワークショップとグループワーク，発表）
事前学習：小学校学習指導要領解説『特別活動編』の学校行事の部分を読み，要点をおさえる。また，各自の学校行事に関する体験を簡単に書いて準備する。（２時間）
事後学習：事例を通したグループワークと発表をもとに学校行事の目標と内容等について，リフレクションシートにまとめる。（２時間）
第６回：特別活動の指導計画の作成と内容の取り扱い
事前学習：小学校学習指導要領解説『特別活動編』の指導計画の作成と内容の取扱いの部分を読み，要点をおさえる。（２時間）
事後学習：講義とテキストの関連項目をもとに，特別活動の全体計画と各活動・学校行事の年間指導計画と内容の取り扱いについてリフレクションシートにまとめる。（２時間）
第７回：学びを豊かにする特別活動の充実に向けて（グループワークと発表）
事前学習：小学校学習指導要領解説『特別活動編』の学校行事の部分を読み，要点をおさえる。また，各自の学校行事に関する体験を簡単に書いて準備する。（２時間）
事後学習：事例を通したグループワークと発表をもとに学校行事の目標と内容等について，リフレクションシートにまとめる。（２時間）
第８回：特別活動で育む力　（資質・能力の３つの視点）と指導方法（発表）
事前学習：小学校学習指導要領解説『特別活動編』の全体を読み，特別活動で育む力について所見を考えておく。（２時間）
事後学習：特別活動で育む力　（資質・能力の３つの視点）を意識した指導のあり方について，自分なりの考えをリフレクションシートにまとめ，発表する。（２時間）
第９回：総合的な学習の時間の目標と学習の在り方
事前学習：小学校学習指導要領解説「総合的な学習の時間編」の目標の部分を読み、要点をおさえておくこと。（２時間）
事後学習：講義とテキストの関連項目をもとに、総合的な学習の時間の目標と在り方、資質・能力についてリフレクションシートにまとめる。（２時間）
第10回：各学校において定める目標及び内容、指導計画の作成と内容の取扱い
事前学習：小学校学習指導要領解説「総合的な学習の時間編」の目標及び内容、指導計画、内容の取扱いの部分を読み、要点をおさえておくこと。（２時間）
事後学習：講義とテキストの関連項目をもとに、目標、内容、指導計画、内容の取扱いについてリフレクションシートにまとめる。（２時間）
第11回：総合的な学習の時間の指導計画の作成、考えるための技法の活用（グループワークと発表）
事前学習：小学校学習指導要領解説「総合的な学習の時間編」の指導計画、考えるための技法の部分を読み、要点をおさえておくこと。（２時間）
事後学習：講義とテキストの関連項目をもとに、探求課題を通して育成を目指す具体的な資質・能力についてリフレクションシートにまとめる。（２時間）
第12回：総合的な学習の時間の年間指導計画及び単元計画の作成、学習指導、評価（グループワークと発表）
事前学習：小学校学習指導要領解説「総合的な学習の時間編」の年間指導計画及び単元計画の作成、学習指導、評価の部分を読み、要点をおさえておくこと。（２時間）
事後学習：講義とテキストの関連項目をもとに、探求的な学習の指導のポイントについてリフレクションシートにまとめる。（２時間）
第13回：現代的な諸課題に対応する横断的・総合的な課題（ワークショップとグループワーク、発表）
事前学習：小学校学習指導要領解説「総合的な学習の時間編」の各学校が定める内容の当該部分を読み、要点をおさえておくこと。また、各自の当該テーマに関する課題を簡単に書いて準備すること。（２時間）
事後学習：事例を通したグループワークと発表をもとに、当該テーマについて考えたことをリフレクションシートにまとめる。（２時間）
第14回：地域や学校の特色に応じた課題（ワークショップとグループワーク、発表）
事前学習：小学校学習指導要領解説「総合的な学習の時間編」の各学校が定める内容の当該部分を読み、要点をおさえておくこと。また、各自の当該テーマに関する体験を簡単に書いて準備すること。（２時間）
事後学習：事例を通したグループワークと発表をもとに、当該テーマについて考えたことをリフレクションシートにまとめる。（２時間）

第15回：児童・生徒の興味・関心に基づく課題（ワークショップとグループワーク、発表）
事前学習：小学校学習指導要領解説「総合的な学習の時間編」の各学校が定める内容の当該部分を読み、要点をおさえておくこと。また、各自の当該テーマに関する体験を簡単に書いて準備すること。（２時間）
事後学習：事例を通したグループワークと発表をもとに、当該テーマについて考えたことをリフレクションシートにまとめる。（２時間）

定期試験は実施しない。

授業実施方法（面接授業・遠隔授業）

原則として「面接授業」を行います。ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成　績　評　価　方　法

毎回のリフレクション・レポート（30%）、特別活動及び総合的な学習の時間に関する発表（15%×２回）、講義終了後の最終レポート（40%）で総合的に評価する。

成　績　評　価　基　準

特別活動の意義や目標及び内容を理解しているか。
特別活動の指導の在り方を理解しているか。
総合的な学習の時間の意義や各学校において目標及び内容を定める際の考え方を理解しているか。
総合的な学習の時間の指導計画作成の考え方を理解し、その実現のために必要な基礎的な能力を身に付けているか。
総合的な学習の時間の指導と評価の考え方及び実践上の留意点を理解しているか。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック

１）授業時の課題に対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
２）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
３）小レポートに対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
４）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
□定期試験時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
５）その他
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他

実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）

テ　キ　ス　ト、参　考　図　書

テキスト
小学校学習指導要領解説　総合的な学習の時間編（平成29年６月　文部科学省）
小学校学習指導要領解説　特別活動編（平成29年６月　文部科学省）

その他（受講上の注意）

特別活動は各学校の教育課程に応じた特色が多く見られるため、自分の母校の特別活動を思い起こしておくとよい。
総合的な学習の時間は、幅広い探究課題を扱うため、現代的な課題や身近な地域の特色などの情報に積極的に関心を持っておくとよい。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

理科総合 (Integrated science)			担当教員	西出　和彦
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−B−2450	2単位	4年後期	講義	選択

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　展開科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>　教科及び教科の指導法に関する科目（教科に関する専門的事項）

<科目に含めることが必要な事項>　理科

求める学習成果（教育目標）

理科教育の内容の理解及び指導方法

身につけることを目指す社会的・職業的能力（汎用的能力）

■体系的な知識･技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成･社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解･自己管理能力　□諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

小学校教諭一種免許状（選択）

授業の内容

理科の実験等を通して，「科学的なものの見方や考え方」について考える。実験内容は，主に生物学の領域を対象としており，実験器具の取り扱い方から遺伝子組換えや自然観察に至るまで多岐にわたるまで，易しく解説する。

授業の到達目標

小学校における理科の授業を担当することを想定して，『観察実験の結果を根拠として「問いに答える」こと』を理解し，授業を展開できる基礎を身に付けることを到達目標とする。

アクティブ・ラーニング

■課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　□グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等）　■実習、フィールドワーク　■実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：理科の授業を担当するに当たり，科学的なものの見方や考え方とは何か，について考える。
　事前学習：小学校学習指導要領（平成29年告示）解説理科編（pp1−26）を読んでおく（2時間）。
　事後学習：問題解決型の授業が重視される理由をレポートとしてまとめる（2時間）。
第2回：観察実験における基本的な技術（その1）ガラス器具等の扱い方，洗い方，管理の仕方など。
　事前学習：小学校の理科の教科書に掲載されている実験器具の扱い方を復習する（2時間）。
　事後学習：実験器具等の使い方をまとめる（2時間）。
第3回：観察実験における基本的な技術（その2）顕微鏡の使い方，その他の実験機器の使い方。
　事前学習：顕微鏡の使い方，スケッチの仕方等の復習をする（2時間）。
　事後学習：自分スケッチと目標とすべきスケッチとを比較して，自分のスケッチを修正する（2時間）。
第4回：身近な物（野菜など）を使った観察実験。
　事前学習：小学生を対象とした観察実験において留意点を整理してまとめる（2時間）。
　事後学習：「見る」ことと「観る」ことの違いを意識してスケッチを行う（2時間）。
第5回：大腸菌を用いた形質転換実験（その1）実験材料として大腸菌を扱うための基本操作
　事前学習：実験のテキストを読み，実験の概要を理解する（2時間）。
　事後学習：実験操作を振り返り，予想される結果を整理する（2時間）。
第6回：大腸菌を用いた形質転換実験（その2）実験材料として大腸菌を扱うための基本操作
　事前学習：実験のテキストを読み，実験の概要を理解する（2時間）。
　事後学習：実験操作を振り返り，予想される結果を整理する（2時間）。
第7回：大腸菌を用いた形質転換実験（その3）実験材料として大腸菌を扱うための基本操作
　事前学習：実験のテキストを読み，実験の概要を理解する（2時間）。
　事後学習：実験操作を振り返り，予想される結果を整理する（2時間）。
第8回：大腸菌を用いた形質転換実験（その4）GFPが発現した大腸菌では何が起こったと考えられるか？
　事前学習：予想される結果をレポートにまとめる（2時間）。
　事後学習：実験レポートをまとめる（2時間）。

第９回：カキの心拍数の調節に関する実験
事前学習：カキについての資料を収集し，どのような生きものなのかを調べておく（２時間）。
事後学習：カキの心拍数調節の仕組みから何が分かったかを整理する。実験が上手くいかなかった場合は，その原因を考察する（２時間）。
第10回：星座散歩
事前学習：星座早見の使い方を確認し，代表的な星座について探し方を調べる（２時間）。
事後学習：四季の代表的な星座について整理しまとめる（２時間）。
第11回：星座に関する教材づくり
事前学習：星座に関する資料を事前に収集する（２時間）。
事後学習：星座に関する教材を仕上げる（２時間）。
第12回：ホヤを用いた観察実験（その１）ホヤといういきものはどのような生き物か？
事前学習：実験のテキストを読み，実験の概要を理解する（２時間）。
事後学習：ホヤとはどういう生き物なのかを調べ，特徴をまとめる（２時間）。
第13回：ホヤを用いた観察実験（その２）ホヤの筋肉はいつ，どの細胞で分化するのか？
事前学習：予想される結果をまとめる（２時間）。
事後学習：ホヤの筋肉はいつ，どの細胞で分化すると言えるのか，いつ分化すると言えるのかを考える（２時間）。
第14回：ホヤを用いた観察実験（その３）ホヤの筋肉はいつ，どの細胞で分化するのか？
事前学習：実験結果を整理する（２時間）。
事後学習：実験結果は何を示しているのかを考察する（２時間）。
第15回：ホヤを用いた観察実験（その４）ホヤの筋肉はいつ，どの細胞で分化するのか？
事前学習：今回の実験の目的を整理する（２時間）。
事後学習：実験結果から何が言えるか，明確に言えることと，言えないことを整理して考察する（２時間）。

授業実施方法（面接授業・遠隔授業）

原則として「面接授業」を行います。
ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。
遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成　績　評　価　方　法

レポート（50%），提出物（30%），授業の取り組み（20%）

成　績　評　価　基　準

観察実験の結果に基づいて「問い」に答えるという考え方が身に付いているか。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック

１）授業時の課題に対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
２）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
３）小レポートに対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
４）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
□定期試験時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
５）その他
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他

実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）

テキスト、参考図書

必要に応じて提示する。

その他（受講上の注意）

オフィスアワー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

音楽Ⅱ (Music Ⅱ)			担当教員	坂本　流美
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−C−2451	2単位	4年後期	演習	選択

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　展開科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>　教科及び教科の指導法に関する科目（教科に関する専門的事項）

<科目に含めることが必要な事項>　音楽

求める学習成果（教育目標）

教育・保育の実践に求められる表現技術

身につけることを目指す社会的・職業的能力（汎用的能力）

■体系的な知識･技能　■論理的思考力と創造力　■人間関係形成･社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
■自己理解･自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

小学校教諭一種免許状（選択）

授業の内容

音楽を通して豊かな心・感性・表現力を養いながら子ども達の「生きる力」を育む為の一手段として「歌唱」を数多く実践し、歌う喜びや音楽する意義を習得し、歌唱指導の実践法を演習する。

授業の到達目標

幼児教育や小学校の音楽教育において「歌唱」を通して子ども達の感受性に働きかけ、歌うことの喜びを引き出すための技法を学び、数多くの歌を知る事を目的とする。
・正しい発声法を知ることができる。
・拍子・リズム・音符を理解し、楽譜を読むことができる。
・コーラスを通してハーモニー感を養成する。
・歌詞を解釈し、思いと身体の動きで表現しながら音楽を楽しむ手段を知ることができる。
・幼児期や小学校での沢山の歌を知ることができる（改訂ポケットいっぱいのうたより）

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　□グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等）　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：15回の全体計画。発声法の実践（身体の使い方）。子どもの発声について。（グループワーク）
　幼児期の歌①わらべうた・生活のうた中心の曲（拍感・リズム・音符を遊びながら理解する）
　事前学習：「改訂ポケットいっぱいのうた」4 ・ 6 ・24の歌の練習。（2時間）
　事後学習：授業の内容を復習し、習った歌の拍・リズムを叩けるようにし音程正しく歌えるようにすること。（2時間）
第2回：幼児期の歌②生活のうた中心の曲（拍感・リズム・音符の理解と表現法）（グループワーク）
　事前学習：「改訂ポケットいっぱいのうた」27・33・113・23・72の歌の練習。（2時間）
　事後学習：授業の内容を復習し、習った歌の拍・リズムを叩けるようにし音程正しく歌えるようにすること。（2時間）
第3回：幼児期の歌③季節のうた中心の曲「春・梅雨・夏」（拍感・リズム・音符の理解と表現法）（グループワーク）
　事前学習：「改訂ポケットいっぱいのうた」111・16・48・37・38・82・98の歌の練習。（2時間）
　事後学習：授業の内容を復習し、習った歌の拍・リズムを叩けるようにし音程正しく歌えるようにすること。（2時間）
第4回：幼児期の歌④季節のうた中心の曲「秋」（拍感・リズム・音符の理解と表現法）（グループワーク）
　事前学習：「改訂ポケットいっぱいのうた」72・81・84・94・101・128の歌の練習。（2時間）
　事後学習：授業の内容を復習し、習った歌の拍・リズムを叩けるようにし音程正しく歌えるようにすること。（2時間）

第５回：幼児期の歌⑤季節のうた中心の曲「冬」(拍感・リズム・音符の理解と表現法)（グループワーク）
事前学習：「改訂ポケットいっぱいのうた」3 ・10・26・126・142の歌の練習。（２時間）
事後学習：授業の内容を復習し、習った歌の拍・リズムを叩けるようにし音程正しく歌えるようにすること。（２時間）
第６回：幼児期の歌⑥動物のうた中心の曲（拍感・リズム・音符の理解と表現法）（グループワーク）
事前学習：「改訂ポケットいっぱいのうた」1 ・ 8 ・ 9 ・12・25の歌の練習。（２時間）
事後学習：授業の内容を復習し、習った歌の拍・リズムを叩けるようにし音程正しく歌えるようにすること。（２時間）
第７回：幼児期の歌⑦動物のうた中心の曲（拍感・リズム・音符の理解と表現法）（グループワーク）
事前学習：「改訂ポケットいっぱいのうた」78・104・123・133・136の歌の練習。（２時間）
事後学習：授業の内容を復習し、習った歌の拍・リズムを叩けるようにし音程正しく歌えるようにすること。（２時間）
第８回：幼児期の歌⑧動物のうた中心の曲（拍感・リズム・音符の理解と表現法）（グループワーク）
事前学習：「改訂ポケットいっぱいのうた」137・138・おすもうくまちゃん・かわいいかくれんぼの歌の練習。（２時間）
事後学習：授業の内容を復習し、習った歌の拍・リズムを叩けるようにし音程正しく歌えるようにすること。（２時間）
第９回：幼児期の歌⑨楽しいうた中心の曲（拍感・リズム・音符の理解と表現法）（グループワーク）
事前学習：「改訂ポケットいっぱいのうた」22・28・30・36・64の歌の練習。（２時間）
事後学習：授業の内容を復習し、習った歌の拍・リズムを叩けるようにし音程正しく歌えるようにすること。（２時間）
第10回：幼児期の歌⑩楽しいうた中心の曲（拍感・リズム・音符の理解と表現法）（グループワーク）
事前学習：「改訂ポケットいっぱいのうた」74・77・79・83・89・90の歌の練習。（２時間）
事後学習：授業の内容を復習し、習った歌の拍・リズムを叩けるようにし音程正しく歌えるようにすること。（２時間）
第11回：幼児期の歌⑪楽しいうた中心の曲（拍感・リズム・音符の理解と表現法）（グループワーク）
事前学習：「改訂ポケットいっぱいのうた」91・108・119・125・132の歌の練習。（２時間）
事後学習：授業の内容を復習し、習った歌の拍・リズムを叩けるようにし音程正しく歌えるようにすること。（２時間）
第12回：小学校のうた・文科省唱歌①「春・夏」(拍感・リズム・音符の理解と表現法)（グループワーク）
事前学習：「改訂ポケットいっぱいのうた」117・112・57・34・49・86・144の歌の練習。（２時間）
事後学習：授業の内容を復習し、習った歌の拍・リズムを叩けるようにし音程正しく歌えるようにすること。（２時間）
第13回：小学校のうた・文科省唱歌②「秋・冬」(拍感・リズム・音符の理解と表現法)（グループワーク）
事前学習：「改訂ポケットいっぱいのうた」131・100・135・71・121の歌の練習。（２時間）
事後学習：授業の内容を復習し、習った歌の拍・リズムを叩けるようにし音程正しく歌えるようにすること。（２時間）
第14回：小学校のうた・文科省唱歌③（拍感・リズム・音符の理解と表現法）（グループワーク）
事前学習：「改訂ポケットいっぱいのうた」51・88・120・122・118・105の歌の練習。（２時間）
事後学習：授業の内容を復習する。幼児期や小学校での音楽「歌唱」から何が育まれるか（小レポート作成）。（２時間）
第15回：まとめ・確認　授業で習った歌のグループ発表（リズム・表現創作と共に）
事前学習：授業で習った歌の復習。（２時間）
事後学習：授業の内容を復習し、習った歌の拍・リズムを叩けるようにし音程正しく歌えるようにすること。（２時間）
※事前学習の「改訂ポケットいっぱいのうた」の数字は、曲名に付いている番号です。

授業実施方法（面接授業・遠隔授業）

成　績　評　価　方　法

授業中の積極的態度（30%）楽譜の理解度（20%）歌唱力・表現（40%）小レポート（10%）

成　績　評　価　基　準

・より多くの歌を正しい音程・リズムで楽しく歌唱できるか。
・旋律や歌詞から想像し表現することを積極的に取り組み考えることができるか。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

1）授業時の課題に対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
2）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
3）小レポートに対するフィードバックについて
■授業時　■仁大eラーニング　□メール　□その他
4）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
□定期試験時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
5）その他
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他

実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)

テキスト、参考図書

鈴木恵津子（著)「改訂　ポケットいっぱいのうた」 実践　こどものうた　簡単に弾ける144選　教育芸術社 2011年

その他(受講上の注意)

テキストは毎回必ず持参して受講する。動きやすい服装で受講する。ねらいを持って受講する。

オフィスアワー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

図画工作Ⅱ (Arts and Crafts Ⅱ)			担当教員	伊東　知之
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE-C-2452	2単位	4年後期	演習	選択

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　展開科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>　教科及び教科の指導法に関する科目（教科に関する専門的事項）
領域及び保育内容の指導法に関する科目（領域に関する専門的事項）

<科目に含めることが必要な事項>　図画工作

求める学習成果（教育目標）

教育・保育の実践に求められる表現技術

身につけることを目指す社会的・職業的能力（汎用的能力）

■体系的な知識･技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成･社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
■自己理解･自己管理能力　□諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

小学校教諭一種免許状（選択）、幼稚園教諭一種免許状（選択）、保育士資格（選択）

授業の内容

「図画工作Ⅰ」で学んだ内容をさらに深めた様々な造形の表現方法や技法について学び、自らの造形力、表現力を養うことによって、実際の現場でも役に立つような教材開発や造形指導ができるような応用力を身につけることがねらいである。
そのために紙、木材、粘土等幅の広い様々な素材を使った造形について主に工作的な制作を通して実際に学び、素材と技術、感性との関わりを探究していく。

授業の到達目標

・学んだ造形技法について説明することができる。
・学んだ造形技法の特質を活かした表現ができる。
・子どもと造形の関わりについて説明できる。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　□グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　□発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等）　□実習、フィールドワーク　■実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：人間と造形活動について
　事前指導：図画工作Ⅰの課題を見返し、まとめる。（2時間）
　事後指導：授業内容の人間と造形活動についてまとめる。（2時間）
第2回：絵画演習（1）デッサン（素描）鉛筆を使って
　事前指導：様々なモチーフについて特徴をまとめる。（2時間）
　事後指導：課題についてさらに深く制作を行い、作品を完成させる。（2時間）
第3回：絵画演習（2）クレヨンを使って
　事前指導：課題に関係するテキストを読み、内容をまとめる。（2時間）
　事後指導：課題についてさらに深く制作を行い、作品を完成させる。（2時間）
第4回：工作演習　木材を使ったパ制作制作①アイデアスケッチ
　事前指導：課題に関係するテキストを読み、内容をまとめる。（2時間）
　事後指導：アイデアスケッチをまとめる。（2時間）
第5回：工作演習　木材を使ったパズル制作②下描き
　事前指導：まとめたアイデアスケッチを完成させる。（2時間）
　事後指導：木版にアイデアスケッチを下描きする。（2時間）
第6回：工作演習　木材を使ったパズル制作③切り出し
　事前指導：木版の下描きを完成させる。（2時間）
　事後指導：ピースを完成させる。（2時間）

第７回：工作演習　木材を使ったパズル制作④着色
　　事前指導：紙ヤスリでピースのバリを削っておく。（２時間）
　　事後指導：着色を完成させる。（２時間）
第８回：工作演習　木材を使ってパズル制作⑤完成
　　事前指導：作品が完成するように制作を進めておく。（２時間）
　　事後指導：制作を進め、作品を完成させる。（２時間）
第９回：工作演習　絵本①アイデアスケッチ
　　事前指導：参考になる絵本を読み、内容をまとめる。（２時間）
　　事後指導：アイデアスケッチを完成させる。（２時間）
第10回：工作演習　絵本②絵本の製本
　　事前指導：絵本のストーリー展開を考えてまとめておく。（２時間）
　　事後指導：絵本の製本を完成させる。（２時間）
第11回：工作演習　絵本③下描き
　　事前指導：製本した絵本に下描きをしておく。（２時間）
　　事後指導：下描きを完成する。（２時間）
第12回：工作演習 絵本④着色
　　事前指導：下描きをもとに色彩を考えてまとめておく。（２時間）
　　事後指導：下描きに着色を進める。（２時間）
第13回：工作演習 絵本⑤完成
　　事前指導：絵本の文章を考え、まとめておく。（２時間）
　　事後指導：絵本に文章を記載して完成させる。（２時間）
第14回：工作演習　ペーパーウエイト制作
　　事前指導：金属を使ったペーパウエイトアイデアスケッチ。（２時間）
　　事後指導：鋳型をつくり鋳造する。（２時間）
第15回：まとめ
　　事前指導：これまで制作した作品を振り返り、技法や知識についてまとめる。（２時間）
　　事後指導：これまでの作品を全て完成して提出する。（２時間）

授業実施方法（面接授業・遠隔授業）

原則として「面接授業」を行います。
ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。
遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成　績　評　価　方　法

課題作品（80％）、平常点（20％）
（平常点は、授業への参加状況、受講態度、提出物の提出状況等を総合して判断します。）

成　績　評　価　基　準

・学んだ造形技法の特質を説明することができる。
・学んだ造形技法の特質を活かした表現ができる。
・子どもと造形の関わりについて説明できる。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック

１）授業時の課題に対するフィードバックについて
　■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
２）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
　■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
３）小レポートに対するフィードバックについて
　□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
４）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
　□定期試験時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
５）その他（実習に対するフィードバックについて）
　□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他

実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）

テ　キ　ス　ト　、　参　考　図　書

『造形表現・図画工作・美術』伊東知之著　福村出版　2023年

その他（受講上の注意）

図工用具を毎時間持参すること。

オ フ ィ ス ア ワ ー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

体育Ⅱ (Physical EducationⅡ)			担当教員	出村　友寛、乾　　典子
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−C−2404	2単位	4年前期	演習	選択

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　展開科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>　教科及び教科の指導法に関する科目（教科に関する専門的事項）
領域及び保育内容の指導法に関する科目（領域に関する専門的事項）

<科目に含めることが必要な事項>　体育

求める学習成果（教育目標）

教育・保育の実践に求められる表現技術

身につけることを目指す社会的・職業的能力（汎用的能力）

■体系的な知識･技能　□論理的思考力と創造力　■人間関係形成･社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解･自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

小学校教諭一種免許状（選択）

授業の内容

幼児および児童の豊かな人間性を育むためには、心身の発育発達段階に即した適切な運動の経験と健康・安全についての理解が必要である。
「器械運動」や「表現運動」の運動課題をとおしてその特性に応じた知識および技能を身につける。

授業の到達目標

「器械運動」や「表現運動」の運動課題の特性を理解し、実践できる。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　□発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等）　□実習、フィールドワーク　■実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：固定施設を使っての運動遊びの紹介（グループワーク）出村
　事前学習：固定施設を使った運動遊びの事例について調べておくこと。（2時間）
　事後学習：授業で紹介された運動遊びについてレポートにまとめておくこと。（2時間）
第2回：器械・器具を使っての運動遊びの紹介（グループワーク）出村
　事前学習：器械・器具を使った運動遊びの事例について調べておくこと。（2時間）
　事後学習：授業で紹介された運動遊びについてレポートにまとめておくこと。（2時間）
第3回：器械運動（1）マット運動①（実技）出村
　事前学習：マット運動の事例について調べておくこと。（2時間）
　事後学習：実技で行なった内容を整理してレポートにまとめておくこと。（2時間）
第4回：器械運動（2）マット運動②（実技）出村
　事前学習：マット運動の事例について調べておくこと。（2時間）
　事後学習：実技で行なった内容を整理してレポートにまとめておくこと。（2時間）
第5回：器械運動（3）跳び箱運動①　（実技）出村
　事前学習：跳び箱運動の事例について調べておくこと。（2時間）
　事後学習：実技で行なった内容を整理してレポートにまとめておくこと。（2時間）
第6回：器械運動（4）跳び箱運動②（実技）出村
　事前学習：跳び箱運動の事例について調べておくこと。（2時間）
　事後学習：実技で行なった内容を整理してレポートにまとめておくこと。（2時間）
第7回：器械運動（5）鉄棒運動①（実技）出村
　事前学習：鉄棒運動の事例について調べておくこと。（2時間）
　事後学習：実技で行なった内容を整理してレポートにまとめておくこと。（2時間）

第８回：器械運動（６）鉄棒運動②（実技）出村
　　事前学習：鉄棒運動の事例について調べておくこと。（２時間）
　　事後学習：実技で行なった内容を整理してレポートにまとめておくこと。（２時間）
第９回：表現運動（１）リズム体験（実技）乾
　　事前学習：授業前日に柔軟体操などをして体を動かしておく（２時間）
　　事後学習：動かした体のクールダウンのため、習った柔軟体操をしておく（２時間）
第10回：表現運動（２）リズムダンス（実技）乾
　　事前学習：授業前日に柔軟体操などをして体を動かしておく（２時間）
　　事後学習：学習したリズムダンスを復習しておく（２時間）
第11回：表現運動（３）リズムダンスの指導法と創作方法（実技）乾
　　事前学習：学習したリズムダンスを実施しておく（２時間）
　　事後学習：習ったリズムダンスを復習しておく（２時間）
第12回：表現運動（４）ヒップホップダンスの体験（実技）乾
　　事前学習：授業前日に柔軟体操などをして体を動かしておく（２時間）
　　事後学習：ストレッチを実施し、習ったヒップホップダンスを復習しておく（２時間）
第13回：表現運動（５）ヒップホップダンスの体験（実技）乾
　　事前学習：習ったダンスを復習しておく（２時間）
　　事後学習：ストレッチを実施し、習ったヒップホップダンスを復習しておく（２時間）
第14回：表現運動（６）ヒップホップダンスのグループ活動（実技）乾
　　事前学習：ダンスの動画を見て、フォーメーションの例題を探る（２時間）
　　事後学習：グループワークでの内容を確認する（２時間）
第15回：表現運動（７）ヒップホップダンスの発表（実技）乾
　　事前学習：グループにてヒップホップダンスの復習をしておく（２時間）
　　事後学習：ダンスのグループ発表動画を見て自己評価する（２時間）

授業実施方法（面接授業・遠隔授業）

原則として「面接授業」を行います。
ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。
遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成　績　評　価　方　法

レポート（40%）、実技試験（40%）、平常点（20%）。
平常点は、授業への参加状況、受講態度等を総合して判断します。

成　績　評　価　基　準

「器械運動」や「表現運動」の運動課題の特性を理解し、実践できている。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック

１）授業時の課題に対するフィードバックについて
　■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
２）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
　□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
３）小レポートに対するフィードバックについて
　■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
４）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
　□定期試験時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
５）その他
　□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他

実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）

テキスト、参考図書

文部科学省「小学校学習指導要領解説（体育編）」 東洋館出版社　平成29年７月

その他（受講上の注意）

演習形式の授業であるので積極的に参加し、主体性をもって積極的に参加すること。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

音楽演習 (Music Practice)			担当教員	辻　由記子
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−C−2405	1単位	4年前期	演習	選択

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　展開科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

教育・保育の実践に求められる表現技術

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識･技能　□論理的思考力と創造力　□人間関係形成･社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解･自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

保育士資格（選択）

授業の内容

器楽演奏に必要と思われる演奏法、リズム表現等を重視した器楽アンサンブルの知識、技術の向上をねらう。

授業の到達目標

幼児が個々に感じた歌やリズムを音楽的にとらえ、楽器を用いたアンサンブルの楽しさを理解させる。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　□発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等）　□実習、フィールドワーク　■実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：手拍子等によるリズム表現 1 、及び打楽器を用いての演奏表現（実技）
　事前学習：簡単なリズムを自分なりの手拍子を実践すること。（0.5時間）
　事後学習：授業内で出たリズムやメロディを楽器を使って演奏すること。（0.5時間）
第2回：手拍子等によるリズム表現 2 、及び打楽器を用いての演奏表現や譜面の読み方（実技）
　事前学習：前回のリズムやメロディを声に出して歌うこと。（0.5時間）
　事後学習：授業内で出たリズムやメロディを楽器を使って演奏すること。（0.5時間）
第3回：手拍子や打楽器を用いたリズム表現、及びリズムアンサンブル 1（グループワーク）
　事前学習：簡単なリズムを両手で手拍子にして実践すること。（0.5時間）
　事後学習：身近な楽器を用いてリズムやメロディを演奏すること。（0.5時間）
第4回：手拍子や打楽器を用いたリズム表現、及びリズムアンサンブル 2（グループワーク）
　事前学習：いろんな調の音階を確認し、練習すること。（0.5時間）
　事後学習：簡単なリズムやメロディを鍵盤ハーモニカを用いて練習すること。（0.5時間）
第5回：鍵盤ハーモニカや木琴、鉄琴等を用いた、簡単な楽曲演奏表現（実技）
　事前学習：鍵盤ハーモニカの呼吸奏法を書籍等を用いて、調べておくこと。（0.5時間）
　事後学習：木琴、鉄琴の奏法を実践し、復習すること。（0.5時間）
第6回：鍵盤ハーモニカや木琴、鉄琴等を用いた、簡単な楽曲演奏、及び二重奏の表現（グループワーク）
　事前学習：鉄琴、木琴を用いて様々な調の音階を練習すること。（0.5時間）
　事後学習：二重奏楽曲の演奏上注意点を確認し、理解すること。（0.5時間）
第7回：鍵盤ハーモニカや木琴、鉄琴等を用いた、楽曲演奏、及びアンサンブル表現1（グループワーク）
　事前学習：木琴、鉄琴の奏法に伴うマレットの移動法について調べておくこと。（0.5時間）
　事後学習：鍵盤ハーモニカと木琴、鉄琴とのアンサンブルへの楽曲演奏の内容を確認し、理解すること。（0.5時間）
第8回：鍵盤ハーモニカや木琴、鉄琴等を用いた、楽曲演奏、及びアンサンブル表現 2（グループワーク）
　事前学習：木琴、鉄琴の奏法に伴うマレットの移動法について調べておくこと。（0.5時間）
　事後学習：木琴、鉄琴等を用いた楽曲と打楽器との調整内容を確認し、理解すること。（0.5時間）

第９回：音律のない打楽器による、リズム表現、及びアンサンブル表現１（実技）
事前学習：ドラムセットの体験や、スネアドラムのスティックパフォーマンスに関して調べておくこと。（0.5時間）
事後学習：楽曲に会わせたリズム打ちを実践的に練習すること。（0.5時間）
第10回：音律のない打楽器による、リズム表現、及びアンサンブル表現 2（実技）
事前学習：音色を重視出来るよう演奏方法を確認し、練習すること。（0.5時間）
事後学習：楽曲に合わせたドラムセットとの重奏を認識し、理解すること。（0.5時間）
第11回：木琴、鉄琴による、リズム表現、及びメロディ・アンサンブル表現 1（グループワーク）
事前学習：木琴、鉄琴の演奏技術と奏法について書籍等を用いて、調べておくこと。（0.5時間）
事後学習：簡単なメロディのアンサンブルパターンを確認し、練習すること。（0.5時間）
第12回：木琴、鉄琴による、リズム表現、及びメロディ・アンサンブル表現 2（グループワーク）
事前学習：前回のアンサンブル曲の奏法、技術を確認し、練習すること。（0.5時間）
事後学習：２～７パートに分けられた際のアンサンブル注意点を確認し、練習すること。（0.5時間）
第13回：木琴、鉄琴による、リズム表現、及びメロディ・アンサンブル表現 3（グループワーク）
事前学習：前回のアンサンブル曲の奏法、技術を確認し、練習すること。（0.5時間）
事後学習：ドラムセットを加えた音量に留意しバランスの確認をすること。（0.5時間）
第14回：いろんな楽器の導入によるアンサンブル表現や総譜の読み方（グループワーク）
事前学習：バスドラム、カスタネット、トライアングルの奏法を書籍等を用いて、調べておくこと。（0.5時間）
事後学習：各自が様々な楽器を演奏できるよう楽譜を十分に確認し、理解すること。（0.5時間）
第15回：楽曲のアンサンブル表現、及び簡単な総譜読み方及び作成（グループワーク）（実技）
事前学習：総譜（スコア）を見て、各自の演奏ラインを確認し、練習すること。（0.5時間）
事後学習：演奏曲のどの部分に重要性が有るかを探り、アンサンブルの協調性を重視する姿勢を十分に理解すること。（0.5時間）
第16回：定期試験

授業実施方法（面接授業・遠隔授業）

成　績　評　価　方　法

定期試験（50%）演奏表現（40%）平常点（10%）
平常点は、授業への参加状況、受講態度等を総合して判断します。

成　績　評　価　基　準

演奏技術、譜読能力に重視し、演奏表現を評価する。また、アンサンブルでの協調性等も重視する。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック

１）授業時の課題に対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
２）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
３）小レポートに対するフィードバックについて
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
４）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
■定期試験時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
５）その他
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他

実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）

テ　キ　ス　ト　、　参　考　図　書

前半は、自作の楽譜等で実施し、後半は市販のアンサンブル楽曲（ミュージック・エイト社等）を用いる。

その他（受講上の注意）

楽器等の搬入・搬出時に伴う楽器の損傷、学生たちの怪我に十分注意を払う。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

児童福祉援助技術 (Social Work for Child Welfare)			担当教員	天谷　泰公
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−F−2410	2単位	4年前期	演習	選択

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　展開科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

子育て支援の理解と支援方法

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識･技能　□論理的思考力と創造力　□人間関係形成･社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
□自己理解･自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　■キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

保育士資格（選択）

授業の内容

少子高齢化、核家族化等の進行により、家庭や地域の子育て機能も低下し、それらを背景に児童虐待や不登校等の児童福祉問題が増加していることを理解する。
また、児童福祉の専門相談機関である児童相談所等の業務内容を通して児童福祉問題を理解するとともに、障がい児に係る様々なサービス等、児童の福祉問題について議論をする。

授業の到達目標

児童と家庭の現状、児童問題等を理解させ、児童やその家族に対する福祉的なかかわりや援助方法等について理解する。
また、福井県内の児童相談所等の相談機関についても理解する。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習（PBL）　■討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等）　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：オリエンテーション（図書学習・レポート）
　事前学習：授業時に使用する児童福祉援助技術に関する参考図書を読んでまとめる。（2時間）
　事後学習：課題について配布資料・参考図書をもとにレポートにまとめる。（1時間）
第2回：児童福祉（社会福祉）援助技術（図書学習・レポート）
　事前学習：参考図書・第2 講「日常的・継続的なかかわりを通じた保護者との相互理解と信頼関係の形成」を読んでバイステックの7 原則について理解する。（1時間）
　事後学習：講義内容をもとに「バイステックの7 原則」についてレポートにまとめる。（1時間）
第3回：児童虐待と児童相談①（資料・図書学習・レポート）
　事前学習：参考図書の第13講を読んで児童虐待と児童相談所について理解する。（1時間）
　事後学習：児童虐待の種類や件数等についてレポートにまとめる。（1時間）
第4回：児童虐待と児童相談②（資料・図書学習・レポート）
　事前学習：参考図書の第13講を読んで児童相談所の機能と職員について理解する。（1時間）
　事後学習：児童相談所の基本機能と専門職員の配置状況についてレポートにまとめる。（1時間）
第5回：個別援助技術（図書学習・レポート）
　事前学習：参考図書の第2．3．8 講等を読んで個別援助技術について理解する。（1時間）
　事後学習：子育て支援のプロセスについてレポートにまとめる。（1時間）
第6回：集団援助技術（図書学習・レポート）
　事前学習：参考図書の第2．3．8 講等を読んで集団援助技術について理解する。（1時間）
　事後学習：地域における子育て支援計画についてレポートにまとめる。（1時間）
第7回：電話・ＳＮＳを利用した相談（資料学習・レポート）
　事前学習：電話・ＳＮＳ相談について厚生労働省作成の資料「虐待対応の手引き」等を読みその具体的内容を理解する。（1時間）
　事後学習：電話相談・SNS相談のメリットデメリットについてレポートにまとめる。（1時間）

第８回：地域子育て支援拠点事業（資料・図書学習・レポート）
事前学習：参考図書の第10講と厚生労働省作成の資料等で「地域子育て支援拠点事業」について理解する。（１時間）
事後学習：「地域子育て支援拠点事業」の目的と事業類型等についてレポートにまとめる。（１時間）
第９回：要保護児童対策地域協議会（資料・図書学習・レポート）
事前学習：参考図書・第13講と厚生労働省資料により「要保護児童対策地域協議会」について理解する。（１時間）
事後学習：「要保護児童対策協議会」の設置目的・構成メンバー等についてレポートにまとめる。（１時間）
第10回：不登校・ひきこもりの理解と支援（資料学習・レポート）
事前学習：文部科学省と厚生労働省の資料により「不登校・ひきこもり」について理解する。（１時間）
事後学習：「不登校・ひきこもり」の定義等についてレポートにまとめる。（１時間）
第11回：発達障害児の支援（資料学習・レポート）
事前学習：厚生労働省作成の資料等で「発達障害」の支援等について理解する。（１時間）
事後学習：発達障害の定義・理解についてレポートにまとめる。（１時間）
第12回：グループ討議　知的障害児の支援について（グループワーク・討議）
事前学習：参考図書の第11講やＳＮＳ等で「知的障害」、特に「定義」を中心に支援についてもまとめておくこと。（１時間）
事後学習：発表・講義内容についてレポートにまとめておくこと。（１時間）
第13回：グループ討議　身体障害児の支援について（グループワーク・討議）
事前学習：参考図書の第11講やＳＮＳ等で「身体障害」を調べた範囲でまとめておくこと。（１時間）
事後学習：発表・講義内容についてレポートにまとめておくこと。（１時間）
第14回：グループ討議　児童福祉援助事業に必要な関係機関と社会資源について（グループワーク・討議）
事前学習：参考図書の第８．10．11講等で調べた範囲でまとめておくこと。（１時間）
事後学習：発表内容についてレポートにまとめておくこと。（１時間）
第15回：グループ討議　まとめ（講義・発表）
事前学習：前回までの講義内容で疑問点や質問項目等をまとめておくこと。（１時間）
事後学習：発表内容についてレポートにまとめておくこと。（１時間）

授業実施方法（面接授業・遠隔授業）

原則として「面接授業」を行います。
ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。
遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成　績　評　価　方　法

課題レポート（90%）平常点（10%）
（平常点は、授業への参加状況、受講態度、提出物の提出状況等を総合して判断します。）

成　績　評　価　基　準

・児童福祉援助技術について説明することができるか。
・児童や家庭の問題について理解するとともに支援方法について説明できるか。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック

１）授業時の課題に対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
２）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
３）小レポートに対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
４）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
□定期試験時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
５）その他
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他

実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）

テ　キ　ス　ト　、　参　考　図　書

参考図書：公益財団法人児童育成協会（監修），西村 重稀（編集），青井 夕貴（編集）　新・保育シリーズ　第19巻「子育て支援」2019年

その他（受講上の注意）

参考図書と配布するプリント等により授業を進めるので、事前に参考図書を読んでおくこと。

オ フ ィ ス ア ワ ー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

保育原理Ⅱ (Principles of Early Childhood Ⅱ)			担当教員	渡辺　直人
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−A−2400	2単位	4年前期	講義	選択

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　展開科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

教育・保育の基礎理論の理解

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識･技能　□論理的思考力と創造力　□人間関係形成･社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
□自己理解･自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　■キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

保育士資格(選択)

授業の内容

平成29年改定の保育所保育指針を読み、旧指針との違いを把握しながら保育のあり方及び保育者のあり方について学ぶ。また、子ども・子育て支援新制度をはじめ、こども基本法の施行、こども大綱の決定など、近年の保育施策についてその概要を理解するとともに、それらの諸課題を探究する。また、必要に応じて、保育現場の視察を行う。

授業の到達目標

保育所保育指針の内容を理解し、その概要を説明することができる。
子ども・子育て支援新制度を含む近年の保育施策について理解する。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習(PBL)　□討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等)　□グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等)　■発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等)　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：オリエンテーション(授業の概要、保育の理念と概念)
　事前学習：1年次の「保育原理Ⅰ」の内容を振り返り、また保育所保育指針をもとに質問事項をまとめておく。(2時間)
　事後学習：わからないところについて図書館で調べたり、担当教員に質問する。(2時間)
第2回：「保育」と「教育」(1)意義と目的
　事前学習：保育の理念や概念について関連書籍や資料を調べ、ノートにまとめておく。(2時間)
　事後学習：授業内容をもとに、保育の意義に関する自分の考えを整理し記述する。(2時間)
第3回：「保育」と「教育」(2)教育制度成立の背景と目的
　事前学習：現行の制度について調査し、木になったポイントをまとめておく。(2時間)
　事後学習：授業で扱った事例をもとに、教育制度の課題を考える。(2時間)
第4回：「保育」と「教育」(3)子ども家庭福祉及び子どもの最善の利益
　事前学習：日本の子ども家庭福祉に関する制度や施策について調べる。(2時間)
　事後学習：授業で学んだ内容をまとめ、子どもの最善の利益と福祉の関連性を整理する。(2時間)
第5回：「保育」と「教育」(4)保育の社会的役割と責任(発表・プレゼンテーション)
　事前学習：保育が持つ社会的意義に関する資料を読み、自分の考えをまとめておく。(2時間)
　事後学習：社会の中で保育が果たす責任について、事例をもとに整理する。(2時間)
第6回：保育に関する法令及び制度(1)法体系における保育の位置付け
　事前学習：子ども家庭福祉に関する主要な法令(児童福祉法など)について調べる。(2時間)
　事後学習：学んだ法令の内容をまとめ、保育との関連性を整理する。(2時間)
第7回：保育に関する法令及び制度(2)子ども・子育て支援新制度
　事前学習：子ども・子育て支援新制度に関する資料を読み、自分の考えをまとめておく。(2時間)
　事後学習：制度の意義や課題について、授業内容をもとに整理する。(2時間)

第８回：保育に関する法令及び制度（３）保育の実施体系（発表・プレゼンテーション）
　　事前学習：保育の実施施設の種類と役割について調べる。（２時間）
　　事後学習：授業で取り上げた施設の役割や課題をノートにまとめる。（２時間）
第９回：保育所保育指針（１）保育所保育指針の概要
　　事前学習：保育所保育指針の全文を読み、重要箇所をノートにまとめる。（２時間）
　　事後学習：保育所保育指針の基本理念について、自分の理解を整理する。（２時間）
第10回：保育所保育指針（２）保育の基本原則と養護
　　事前学習：保育における基本原則や養護に関する資料を調べ、まとめる。（２時間）
　　事後学習：授業内容をもとに、養護の具体例を考察し記述する。（２時間）
第11回：保育所保育指針（３）保育の目標と内容
　　事前学習：保育内容に関連する実例を調べ、ノートに記す。（２時間）
　　事後学習：授業で学んだ内容を整理し、保育の目標設定について考える。（２時間）
第12回：保育所保育指針（４）保育の環境・方法と子どもの理解（発表・プレゼンテーション）
　　事前学習：保育環境の整備や保育方法に関する事例を調べる。（２時間）
　　事後学習：学んだ内容をもとに、自分なりの保育環境を考える。（２時間）
第13回：保育の思想と歴史的変遷（１）諸外国の保育の歴史
　　事前学習：各国の保育に関する資料を調べ、ノートにまとめる。（２時間）
　　事後学習：日本の保育思想と比較し、諸外国の保育の特徴を整理する。（２時間）
第14回：保育の思想と歴史的変遷（２）日本の保育思想と歴史
　　事前学習：日本の保育思想の歴史に関する資料を読み、まとめる。（２時間）
　　事後学習：諸外国との違いを考察し、日本の保育思想の特徴を整理する。（２時間）
第15回：保育の現状と課題（日本と諸外国の比較）
　　事前学習：諸外国と日本の保育制度や現状について調べ、ノートにまとめる。（２時間）
　　事後学習：授業内容をもとに、日本の保育の課題解決策を考える。（２時間）
第16回：定期試験

授業実施方法（面接授業・遠隔授業）

原則として「面接授業」を行います。
ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。
遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成　績　評　価　方　法

平常点（20%）課題レポート（40%）試験レポート（40%）
（平常点は、授業への参加状況、課題レポートの提出状況、学生発表内容を総合して判断します。）

成　績　評　価　基　準

読み資料の内容を的確に把握して発表を行っているか。
現代社会における保育の意義について、調べたことをもとに自分の見解を組み立てて論述できているか。
＜レポートの評価の観点＞
①ページ設定、枚数、テーマが指示に合っている
②論述の構成がよく、内容がわかりやすい
③自分の見解や主張が表明されている
④著書からの引用や具体例、または授業内容からの学修が論述に効果的に生かされている

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック

１）授業時の課題に対するフィードバックについて
　■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
２）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
　□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
３）小レポートに対するフィードバックについて
　■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
４）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
　□定期試験時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
５）その他
　□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他

実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）

テキスト、参考図書
【テキスト】 厚生労働省編『保育所保育指針解説』（フレーベル館、2018年） 【参考図書】 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』（フレーベル館、2018年）
その他（受講上の注意）
オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

子ども家庭支援論 (Family Support)			担当教員	青井　夕貴
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−F−2409	2単位	4年前期	講義	選択

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　展開科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

子育て支援の理解と支援方法

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識･技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成･社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
■自己理解･自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

保育士資格(必修)

授業の内容

子どもの発達にとって基礎的な環境(集団)のひとつが家庭である。その家庭の機能やあり方は、核家族化や少子高齢化などのような社会のさまざまな影響を受け、大きく変化している。同時に、地域や家庭での子育てを支援する形態も多様に展開されている。本授業では、子育て家庭に対する支援の重要性とそのあり方について考察してほしい。

授業の到達目標

子育て家庭やそれを構成する家族のもつ機能や役割について説明することができる。
子育て家庭のニーズに応じた支援の展開や体制について説明することができる。
子育て家庭を支える関係機関とその連携について説明することができる。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習(PBL)　□討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等)　■グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等)　■発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等)　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：オリエンテーション、家庭生活を取り巻く社会的状況
　事前学習：テキスト第6章を読み、自分の考えを整理しておく。(2時間)
　事後学習：授業中に抱いた疑問点について、関連する文献を自ら調べ、さらに理解を深める。(2時間)
第2回：家庭支援の必要性
　事前学習：テキスト第1・2章を読み、自分の考えを整理しておく。(2時間)
　事後学習：授業中に抱いた疑問点について、関連する文献を自ら調べ、さらに理解を深める。(2時間)
第3回：保育施設・保育者による家庭支援
　事前学習：テキスト第3・5章を読み、自分の考えを整理しておく。(2時間)
　事後学習：授業中に抱いた疑問点について、関連する文献を自ら調べ、さらに理解を深める。(2時間)
第4回：子育て家庭の福祉を図るための法体系と社会資源
　事前学習：テキスト第7・8章を読み、自分の考えを整理しておく。(2時間)
　事後学習：授業中に抱いた疑問点について、関連する文献を自ら調べ、さらに理解を深める。(2時間)
第5回：保育施設が実践する家庭支援の展開(クラスだよりの作成)
　事前学習：テキスト第9章を読み、自分の考えを整理しておく。(2時間)
　事後学習：授業中に抱いた疑問点について、関連する文献を自ら調べ、さらに理解を深める。(2時間)
第6回：保育施設が実践する家庭支援の展開(クラスだよりの発表)
　事前学習：クラスだよりの意義や課題について、自分の考えを整理しておく。(2時間)
　事後学習：授業中に抱いた疑問点について、関連する文献を自ら調べ、さらに理解を深める。(2時間)
第7回：地域の子育て家庭への支援の展開
　事前学習：テキスト第4章を読み、自分の考えを整理しておく。(2時間)
　事後学習：授業中に抱いた疑問点について、関連する文献を自ら調べ、さらに理解を深める。(2時間)

第８回：児童福祉施設等が実践する家庭支援の展開
事前学習：テキスト第10章を読み、自分の考えを整理しておく。（２時間）
事後学習：授業中に抱いた疑問点について、関連する文献を自ら調べ、さらに理解を深める。（２時間）
第９回：子育て家庭の多様なニーズに応じた支援～児童虐待や非行
事前学習：テキスト第11章を読み、自分の考えを整理しておく。（２時間）
事後学習：授業中に抱いた疑問点について、関連する文献を自ら調べ、さらに理解を深める。（２時間）
第10回：子育て家庭の多様なニーズに応じた支援～ひとり親家庭や低所得世帯
事前学習：テキスト第12章を読み、自分の考えを整理しておく。（２時間）
事後学習：授業中に抱いた疑問点について、関連する文献を自ら調べ、さらに理解を深める。（２時間）
第11回：子育て家庭の多様なニーズに応じた支援～子どもや保護者に障害がある場合
事前学習：テキスト第13章を読み、自分の考えを整理しておく。（２時間）
事後学習：授業中に抱いた疑問点について、関連する文献を自ら調べ、さらに理解を深める。（２時間）
第12回：子育て家庭の多様なニーズに応じた支援～子どもに医療的ケアやアレルギーへの配慮が必要な場合
事前学習：テキスト第13・14章を読み、自分の考えを整理しておく。（２時間）
事後学習：授業中に抱いた疑問点について、関連する文献を自ら調べ、さらに理解を深める。（２時間）
第13回：子育て家庭の多様なニーズに応じた支援～子どもや保護者が外国にルーツのある場合
事前学習：テキスト第14章を読み、自分の考えを整理しておく。（２時間）
事後学習：授業中に抱いた疑問点について、関連する文献を自ら調べ、さらに理解を深める。（２時間）
第14回：子育て家庭の多様なニーズに応じた支援～いじめや不登校
事前学習：テキスト第15章を読み、自分の考えを整理しておく。（２時間）
事後学習：授業中に抱いた疑問点について、関連する文献を自ら調べ、さらに理解を深める。（２時間）
第15回：まとめ、家庭支援の意義とは
事前学習：これまでの学びを踏まえ、家庭支援の意義について、自分の考えを整理しておく。（２時間）
事後学習：授業中に抱いた疑問点について、関連する文献を自ら調べ、さらに理解を深める。（２時間）

授業実施方法（面接授業・遠隔授業）

原則として「面接授業」を行います。
ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。
遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成　績　評　価　方　法

レポート（50%）、毎回の提出課題（30%）、発表の内容（20%）

成　績　評　価　基　準

子育て家庭やそれを構成する家族のもつ機能や役割について説明することができるか。
子育て家庭のニーズに応じた支援の展開や体制について説明することができるか。
子育て家庭を支える関係機関とその連携について説明することができるか。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック

１）授業時の課題に対するフィードバックについて
■授業時　■仁大eラーニング　□メール　□その他
２）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
■授業時　■仁大eラーニング　□メール　□その他
３）小レポートに対するフィードバックについて
■授業時　■仁大eラーニング　□メール　□その他
４）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
□定期試験時　■仁大eラーニング　□メール　□その他
５）その他
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他

実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）

テ　キ　ス　ト　、　参　考　図　書

安田誠人・立花直樹　監修『こどもまんなか社会に活かす「子ども家庭支援論」』晃洋書房　2025

その他（受講上の注意）

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

教職実践演習(幼・小) (Seminar on the Teaching Profession(Preschool & Elementary))			担当教員	高野　秀晴、草桶　勇人、鈴木　智子
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE-G-2455	2単位	4年後期	演習	選択

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　実践演習・総合演習・実習科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>　教育実践に関する科目

<科目に含めることが必要な事項>　教職実践演習

求める学習成果(教育目標)

探究的・協働的な態度で課題解決に取り組む意欲並びに能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□体系的な知識･技能　□論理的思考力と創造力　■人間関係形成･社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
■自己理解･自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　■キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

小学校教諭一種免許状（必修）、幼稚園教諭一種免許状（必修）

授業の内容

本授業は、教員になるうえで自己にとって何が課題であるかを自覚し、不足している知識や技能などを補い、その定着と実践的指導力の育成を図ることにより、教職生活を円滑にスタートできることを目的とする。授業方法としては、ロールプレーイングやグループ討論、事例研究、模擬授業などを取り入れ、学びの集大成とする。
なお、本授業は、教科に関する科目及び教職に関する科目担当者3人がオムニバス形式で行うこととし、教師の意義と使命・幼稚園教諭・小学校教諭の各視点から、自己にとっての課題を考えさせ、その課題解決を通して、実践的指導力（ICT活用指導力を含む）を育てることを目指す。
また、必要に応じ個別に補完的な指導を行うこととするが、この場合、補完する領域・内容等によっては、授業担当者以外の教科に関する科目の科目担当教員又は教職に関する科目の科目担当教員の参画を得て指導を行う。

授業の到達目標

教職の意義や使命、役割について説明することができる。
教員に求められる資質能力について説明することができる。
教員になるうえで自己にとって何が課題であるのかを明確化することができる。
幼稚園教諭としての実践的指導力を培うための方策を見通すことができる。
小学校教諭としての実践的指導力を培うための方策を見通すことができる。

アクティブ・ラーニング

■課題解決型学習（PBL）　■討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　□発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等）　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　■その他（模擬授業）

授業の計画及び授業外の学習方法

高野秀晴担当分（5回）
第1回：教員の意義と使命、役割について（事例研究）
　事前学習：実習時の記録を読み直し、検討を要するエピソードをピックアップする。（2時間）
　事後学習：授業時に検討した事例をもとに、教員の意義と使命、役割についてレポートにまとめる。（2時間）
第2回：地域・家庭と連携するための方策を考える（グループ討論）
　事前学習：実習時の記録を読み直し、実習時に地域・家庭とどのような関わりがあったかを整理する。（2時間）
　事後学習：地域・家庭との連携・協働を深めるにはどうすればよいかについてレポートにまとめる。（2時間）
第3回：教員に求められる資質能力を明確化する（グループ討論）
　事前学習：履修カルテを読み、これまでに身に付けられた資質能力を自分なりにカテゴライズする。（2時間）
　事後学習：これまでに身に付けた資質能力を教職に活かすための方途をレポートにまとめる。（2時間）

第４回：教員に求められる社会性や対人関係能力を培うにはどうすればよいか（ロールプレーイング）
事前学習：社会性や対人関係能力に関する図書を調べる。（２時間）
事後学習：社会性や対人関係能力を培うにはどうすればよいかについてレポートにまとめる。（２時間）
第５回：今後の課題を明確化する（グループ討論とレポート）
事前学習：履修カルテを読み、今後身に付けるべき資質能力をピックアップする。（２時間）
事後学習：履修カルテ、および、これまでにまとめたレポートを基にして、自身の今後の課題についてレポートにまとめる。（２時間）

鈴木智子担当分（５回）
第６回：幼児教育者に求められる資質能力を明確化する（グループ討論）
事前学習：これまでの学修や実習体験を振り返り、幼稚園教諭に求められる資質能力について、自分の意見をまとめておく。（２時間）
事後学習：履修カルテを読み、授業時のグループ討論も踏まえて、幼稚園教諭としての自分の課題をレポートにまとめる。（２時間）
第７回：実習体験を客観化し、実践的指導力を培う方策を考える（ロールプレーイングとグループ討論）
事前学習：これまでの実習体験における「気になる子」への関わりを振り返り、自分の関わりのねらいや反省点についてまとめておく。（２時間）
事後学習：「気になる子」への指導を通して、幼児理解、クラス運営のあり方について自分の考えをレポートにまとめる。（２時間）
第８回：自らの課題を洗い出し、幼児理解を深める方策を考える（事例研究とグループ討論）
事前学習：ドキュメンテーション、ポートフォリオなどの保育記録の方法について、事前に調べ、質問項目をまとめておく。（２時間）
事後学習：授業内での事例の記録を通して、幼児の様子を考察する方法を利用して、実習記録を読み直し、自身の幼児理解を再度考察する。（２時間）
第９回：自らの課題を洗い出し、実践的指導力（ICT活用指導力を含む）を培う方策を考える（模擬授業とグループ討論）
事前学習：実習体験を踏まえて、自分が課題とするテーマの遊びを調べて、模擬授業として発表できる準備をしておく。（２時間）
事後学習：授業での他の学生の模擬授業を踏まえて、多様な遊びを調べ、そのねらいについて、レポートにまとめる。（２時間）
第10回：これまでの学びを振り返り、今後の課題を明確化する（グループ討論とレポート）
事前学習：幼稚園教育要領を読み、求められる幼児教育について考え、質問項目をまとめる。（２時間）
事後学習：これまでの授業内容を振り返り、幼稚園教育要領が求める幼児教育を踏まえた上で、自身の課題をレポートにまとめる。（２時間）

草桶勇人担当分（５回）
第11回：教育者（主に小学校）に求められる資質・能力を明確化する（グループ討論）
事前学習：これまでの学修や実習体験を振り返り、小学校教諭に求められる資質・能力について、自分の意見をまとめておく。（２時間）
事後学習：履修カルテを読み、授業時のグループ討論も踏まえて、小学校教諭としての自分の課題をリフレクションレポートにまとめる。（２時間）
第12回：実習体験を客観化し、実践的指導力を培う方策を考える（ロールプレーイングとグループ討論）（１）
事前学習：これまでの実習体験における「気になる児童」への関わりを振り返り、自分の関わりのねらいや反省点についてまとめておく。（２時間）
事後学習：「気になる児童」への指導を通して、子ども理解、学級経営のあり方について自分の考えをレポートにまとめる。（２時間）
第13回：実習体験を客観化し、実践的指導力を培う方策を考える（ロールプレーイングとグループ討論）（２）
事前学習：これまでの実習体験における授業実践や授業観察を振り返り、自身の教育実践についての課題についてまとめておく。（２時間）
事後学習：授業実践とその省察を通して、よりよい授業のあり方について自分の考えをレポートにまとめる。（２時間）
第14回：自らの課題を洗い出し、課題解決のための実践的指導力（ICT活用指導力を含む）の習得にあたる。
事前学習：各グループの課題について、自分なりの解決案について考えをまとめておく。（２時間）
事後学習：新しいグループごとの話し合いと協働作業を踏まえ、課題解決を振り返り、リフレクションレポートにまとめる。（２時間）
第15回：これまでの学びを振り返り、今後の課題を明確化する（グループ討論とレポート）
事前学習：小学校学習指導要領を読み、今後求められる教育について考え、質問項目をまとめる。（２時間）
事後学習：これまでの授業内容を振り返り、小学校学習指導要領が求める教育を踏まえた上で、自身の課題をレポートにまとめる。（２時間）

本授業は、これまでの学びの集大成であるため、これまでの学習内容を振り返り、整理する作業が必要となる。また、この作業を通じて見出された今後の課題に応じて、各自に補完的な学習が求められる。

授業実施方法(面接授業・遠隔授業)

原則として「面接授業」を行います。
ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。
遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成　績　評　価　方　法

レポート（25%）
事例研究の内容（25%）
グループ討論やロールプレーイングの参加状況（25%）
模擬授業の内容（25%）

成　績　評　価　基　準

教職の意義や使命、役割について説明することができるか。
教員に求められる資質能力について説明することができるか。
教員になるうえで自己にとって何が課題であるのかを明確化できているか。
幼稚園教諭としての実践的指導力を培うための方策を見通すことができているか。
小学校教諭としての実践的指導力を培うための方策を見通すことができているか。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

1）授業時の課題に対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
2）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
3）小レポートに対するフィードバックについて
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
4）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
□定期試験時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
5）その他
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他

実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)

経歴：（元中学校・義務教育学校教諭、高等学校講師）
実務経験と授業内容との関連性：（中学校・義務教育学校教諭、高等学校講師として、算数・数学を中心とする授業実践や特別活動等の実践を行ってきた経験を有する教員が、教職の意義や教員に求められる資質や能力について実践的な活動を通して講義する。）

テ　キ　ス　ト　、　参　考　図　書

参考図書は授業時に紹介する。

その他(受講上の注意)

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

保育実習指導Ⅱ (Guidance for Field Practice Ⅱ)			担当教員	出村　友寛
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−E−2362	1単位	3年後期・ 4年前期	演習	選択

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　実践演習・総合演習・実習科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

教育・保育の実践的能力・総合的表現力と実践後の改善に向けた態度

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□体系的な知識･技能　□論理的思考力と創造力　□人間関係形成･社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
■自己理解･自己管理能力　□諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　■キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

保育士資格（選択）

授業の内容

保育所の学外実習を行うための事前及び事後の指導を行う。事前指導では、保育実習の意義と目的、実習の際の留意事項、実習日誌・日案の書き方を理解する。実習終了後は、グループ討議及び個別指導を行い、実習を振り返りながらさらに研鑽すべき課題を明らかにする。

授業の到達目標

事前指導では、保育実習の意義と目的を説明することができる。
実習日誌及び指導計画の書き方、エピソード記録の書き方の基本を身につける。
事後指導では、振り返りシートを通じて自己の長所と課題を理解し、さらに研鑽すべき課題を明らかにする。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習（PBL）　■討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等）　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：保育所実習オリエンテーション①（実習の意義、目的の理解）
　事前学習：2年生の「保育実習Ⅰa」を振り返り、2回目の実習の目標をまとめておく。（1時間）
　事後学習：授業の内容及び保育所保育指針をもとに実習の目標の充実を図る。（1時間）
第2回：保育所実習オリエンテーション②（実習の内容の理解 ── グループワーク）
　事前学習：配属クラスの年齢を想定して、実習の内容（段階）についてまとめておく。（2時間）
　事後学習：グループワークで議論したことをもとに実習の内容をまとめる。（2時間）
第3回：保育所実習オリエンテーション③（演習課題の討議 ── グループワーク）
　事前学習：次回の授業で演習課題を討議するため、自分なりの意見をまとめておく。（2時間）
　事後学習：グループワークで議論したことをもとに課題をまとめ直す。（2時間）
第4回：保育所実習オリエンテーション④（実習の留意事項）
　事前学習：実習における心構や留意事項をまとめておく。（2時間）
　事後学習：授業の内容をふまえ指導計画の作成を行う。（2時間）
第5回：保育所実習オリエンテーション⑤（エピソード記述）
　事前学習：配布資料を読み、エピソード記述について質問項目をまとめておく。（2時間）
　事後学習：資料を読み直し、わからないことは図書館で調べたり担当教員に質問する。（2時間）
第6回：保育所実習の事後指導①（個別振り返りシート）
　事前学習：実習を終えて、実習ノートをもとに自らの評価を行っておく。（2時間）
　事後学習：個別振り返りシートを作成する。（2時間）
第7回：保育所実習の事後指導②（グループレポート集の作成））
　事前学習：グループメンバーと協働してレポート集を作成作業を進める。（2時間）
　事後学習：グループレポート集の完成に向けて作業を進める。（2時間）

第８回：保育所実習の事後指導③（実習のまとめ）
事前学習：発表の準備を行う。（２時間）
事後学習：実習を振り返り、これからの学修の課題を明らかにする。（２時間）

授業実施方法（面接授業・遠隔授業）

原則として「面接授業」を行います。
ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。
遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成　績　評　価　方　法

課題レポート（50%）　平常点（50%）
（平常点は、授業への参加状況、受講態度、提出物等を総合して判断します。）

成　績　評　価　基　準

事前指導では、保育実習の意義と目的を説明することができるか。
実習日誌、指導計画、エピソード記録の書き方の基本を身につけられたか。
事後指導では、振り返りシートを通して自己の長所と課題を認識し、さらに研鑽すべき課題を明らかにすることができたか。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック

１）授業時の課題に対するフィードバックについて
■授業時　■仁大eラーニング　□メール　□その他
２）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
■授業時　■仁大eラーニング　□メール　□その他
３）小レポートに対するフィードバックについて
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
４）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
□定期試験時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
５）その他
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他

実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）

テ　キ　ス　ト　、　参　考　図　書

授業において紹介する

その他（受講上の注意）

この科目は、「保育実習Ⅱ」と組み合わせて履修すること。
やむをえず欠席するときは、大学に連絡すること。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

保育実習指導Ⅲ (Guidance for Field Practice(Childcare Institution))			担当教員	乙部　貴幸
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−E−2363	1単位	3年後期・4年前期	演習	選択

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　実践演習・総合演習・実習科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

教育・保育の実践的能力・総合的表現力と実践後の改善に向けた態度

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□体系的な知識･技能　□論理的思考力と創造力　□人間関係形成･社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
■自己理解･自己管理能力　□諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　■キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

保育士資格（選択）、児童厚生一級指導員（必修）

授業の内容

保育所以外の児童福祉施設等（児童館を含む）の学外実習を行うための事前及び事後の指導を行う。事前指導では、保育実習の意義と目的、実習の際の留意事項、実習日誌・日案の書き方を理解する。実習終了後は、グループ討議及び個別指導を行い、実習を振り返りながらさらに研鑽すべき課題を明らかにする。

授業の到達目標

事前指導では、保育実習の意義と目的を説明することができる。
実習日誌及び指導計画の書き方、エピソード記録の書き方の基本を身につける。
事後指導では、振り返りシートを通じて自己の長所と課題を理解し、さらに研鑽すべき課題を明らかにする。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等）　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：施設実習オリエンテーション①（児童館を含む施設実習の意義、目的の理解）
　事前学習：2年生の「保育実習Ⅰb」を振り返り、2回目の実習の目標をまとめておく。（2時間）
　事後学習：授業の内容をもとに実習先の種別ごとに、その役割についてまとめる。（2時間）
第2回：施設実習オリエンテーション②（児童館の役割について）
　事前学習：次回の授業で児童館を取り上げるので、児童館の役割についてまとめておく。（1時間）
　事後学習：授業の内容をもとに児童館における実習の内容（段階）をまとめる。（2時間）
第3回：施設実習オリエンテーション③（DVD児童館の役割―グループワーク）
　事前学習：次回の授業で児童館を取り上げるので、児童厚生員の職務内容についてまとめておく。（1時間）
　事後学習：グループワークでの議論をもとに実習の目標をまとめ直す。（2時間）
第4回：施設実習オリエンテーション④（実習の内容、実習ノート）
　事前学習：実習における部分実習の指導案を作成する。（2時間）
　事後学習：実習ノートの書き方を復習する。（2時間）
第5回：施設実習オリエンテーション⑤（施設実習の留意事項―ゲストスピーカー）
　事前学習：次回の授業で現職の職員の講義を聴くので、質問項目をまとめておく。（2時間）
　事後学習：講義をふまえて、小レポートを作成する。（2時間）
第6回：施設実習の事後指導①（個別振り返りシート）
　事前学習：実習を終えて、実習ノートをもとに自らの評価を行っておく。（2時間）
　事後学習：個別振り返りシートを作成する。（2時間）
第7回：施設実習の事後指導②（グループレポート集の作成）
　事前学習：グループメンバーと協働してレポート集を作成作業を進める。（2時間）
　事後学習：グループレポート集の完成に向けて作業を進める。（2時間）

第８回：施設実習の事後指導③（実習のまとめ）
事前学習：発表の準備を行う。（２時間）
事後学習：実習を振り返り、これからの学修の課題を明らかにする。（２時間）

授業実施方法（面接授業・遠隔授業）

原則として「面接授業」を行います。
ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。
遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成　績　評　価　方　法

課題レポート（50%）　平常点（50%）
（平常点は、授業への参加状況、受講態度、提出物等を総合して判断します。）

成　績　評　価　基　準

事前指導では、施設実習の意義と目的を説明することができるか。
実習日誌、指導計画の書き方の基本を身につけられたか。
事後指導では、振り返りシートを通して自己の長所と課題を認識し、さらに研鑽すべき課題を明らかにすることができたか。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック

１）授業時の課題に対するフィードバックについて
■授業時　■仁大eラーニング　□メール　□その他
２）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
■授業時　■仁大eラーニング　□メール　□その他
３）小レポートに対するフィードバックについて
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
４）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
□定期試験時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
５）その他
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他

実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）

テ　キ　ス　ト　、　参　考　図　書

授業において紹介する

その他（受講上の注意）

この科目は「保育実習Ⅲ」と組み合わせて履修すること。やむをえず欠席するときは、Teamsにて教員に連絡すること。事後指導は４年次の前期時間割の中で実施する。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

事前・事後指導(小学校) (Guidance for Field Practice(Elementary))			担当教員	草桶　勇人、平岡　正実
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−E−2361	1単位	3年後期･4年	実習	選択

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　実践演習・総合演習・実習科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>　教育実践に関する科目

<科目に含めることが必要な事項>　教育実習

求める学習成果(教育目標)

教育・保育の実践的能力・総合的表現力と実践後の改善に向けた態度

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□体系的な知識･技能　□論理的思考力と創造力　■人間関係形成･社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
■自己理解･自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　■キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

小学校教諭一種免許状（必修）

授業の内容

事前指導として、教育実習の意義についての指導及び実地実習に際しての具体的指導を大学及び実習校で行う。また、教育実践場面に関わる学習として、学校参観・授業参観を行う。事後指導として、授業を中心とした教育実習の成果・課題を踏まえ、教職に必要な事項について実践的な指導を行う。

授業の到達目標

・事前学習を通して教育実習の意義を理解し、実地実習に際しての予備的な学習を行う。学校参観・授業参観を通して、学校教育について理解を深め、実践的知識を身に付ける。
・事後指導を通して各自の実習の成果・課題を確認し、それを踏まえ教職についての理解を深める。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習（PBL）　■討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等）　■実習、フィールドワーク　■実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

[事前指導]
第1回：小学校教育実習の意義、目的、内容（草桶・平岡）
第2回：教育実習の準備と心得（草桶・平岡）
第3回：授業参観の目的とその観点（討議）（草桶・平岡）
第4回：協力校における授業参観（フィールドワーク）（草桶・平岡）
第5回：協力校における授業参観（フィールドワーク）（草桶・平岡）
第6回：授業参観しての意見交換（グループワーク、討議）（草桶・平岡）
第7回：協力校における授業参観（フィールドワーク）（草桶・平岡）
第8回：教材研究と学習指導案の作成方法（一般）（草桶・平岡）
第9回：教材研究と学習指導案の作成方法（算数）（草桶・平岡）
第10回：模擬授業（実技、討議）（草桶・平岡）
第11回：特別講義「教育実習の心得」(小学校教諭を招いての特別講義)（草桶・平岡）
第12回：ICTを活用した模擬授業（グループワーク、実習、実技）（草桶・平岡）
第13回：実習日記の記入方法及び教育実習の具体的留意点（草桶・平岡）
第14回：教育実習直前指導（草桶・平岡）

[事後指導]
第15回：教育実習の振り返り①（実習ノートのまとめをする。各自が実習の成果、課題を明確にする。（草桶・平岡）
第16回：教育実習の振り返り②（実習ノートのまとめをする。各自が実習の成果、課題を明確にする。（草桶・平岡）
第17回：教育実習反省会①（課題別反省会を実施する。（グループワーク、討議）（草桶・平岡）

第18回：教育実習反省会②（課題別反省会を実施する。（グループワーク、討議）（草桶・平岡）
第19回：教育実習反省会③（課題別反省会を実施する。（グループワーク、討議）（草桶・平岡）
第20回：教育実習報告書作成①（各自の実習の成果、課題を教育実習報告書にまとめる。（グループワーク、討議）（草桶・平岡）
第21回：教育実習報告書作成②（各自の実習の成果、課題を教育実習報告書にまとめる。（グループワーク、討議）（草桶・平岡）
第22回：教育実習の総括①（全体反省会、評価表をもとに全般的講評、報告書を発表・討議し、卒業までの課題を明確にする。（グループワーク、討議）（草桶・平岡）
第23回：教育実習の総括②（全体反省会、評価表をもとに全般的講評、報告書を発表・討議し、卒業までの課題を明確にする。（草桶・平岡）

授業実施方法（面接授業・遠隔授業）

原則として「面接授業」を行います。
ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。
遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成　績　評　価　方　法

レポート（60%）、各活動への取り組み状況（40%）で総合的に評価する。

成　績　評　価　基　準

・事前指導で教育実習の意義を理解し、実践的知識を習得できているか。
・事後指導で教育実習の成果や課題を踏まえ、教職についての理解が深まったか。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック

1）授業時の課題に対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
2）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
3）小レポートに対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
4）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
□定期試験時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
5）その他
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他

実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）

テ　キ　ス　ト、参　考　図　書

小学校教育実習の手引き
小学校教科書（国語，社会，算数，理科）

その他（受講上の注意）

教育実習校は、実習生が実習に必要な学習内容を十分に習得し、教育について深く理解していることを前提として迎えてくれる。そして、実習生には教職に就きたいという強い意志を持って臨むことが求められる。
教育実習に全力で臨むためにも、事前指導で十分準備を、事後指導で実習の省察をすることが重要である。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

教育実習(小学校) (Teaching Practice(Elementary))			担当教員	草桶　勇人、平岡　正実
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−E−2407	4単位	4年前期	実習	選択

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　実践演習・総合演習・実習科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>　教育実践に関する科目

<科目に含めることが必要な事項>　教育実習

求める学習成果(教育目標)

教育・保育の実践的能力・総合的表現力と実践後の改善に向けた態度

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□体系的な知識･技能　□論理的思考力と創造力　■人間関係形成･社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
■自己理解･自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　■キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

小学校教諭一種免許状（必修）

授業の内容

1．観察実習
学校教育の全体、特に学習指導実践の具体的あり方を観察し、教育実践者としての力量を形成していくための準備をする。
2．参加実習
観察実習を、さらに実践に近づけたものである。指導教員が行う学習指導等に、できるだけ参画し、実践力の育成を目指す。
3．実習（特に、授業実習）
学習指導、生徒指導等、学校教育の全領域にわたって、指導教員の指導・助言を受けながら、現職教員を手本に実践を試みる。

授業の到達目標

実習校における各学級及び各学年の教育活動の観察・参加・指導実習を通し、小学校教育全般（授業・生徒指導・学級経営に関わる教育実務等）の基礎的な内容について実践的な理解を深め、教育者としての適性について振り返る。
1．児童理解の知識・技能に基づき、子どもに対応できる。
2．教員のための基礎実践能力を習得する。
3．学校における教育活動全般について理解する。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　□グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　□発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等）　□実習、フィールドワーク　■実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

4年次5～6月に小学校において、4週間の教育実習を行う。
各小学校教育実習校の実習計画により実施する。各小学校教育実践の実習計画に沿って、指導教員の指導・助言を受けながら、余裕をもって諸準備に取り掛かっておくこと。また、実習後の反省や指導教員のアドバイス等をその都度まとめ、次回に生かすこと。

授業実施方法(面接授業・遠隔授業)

原則として「面接授業」を行います。
ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。
遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成績評価方法

教育実習ノートの実践内容（60%）実習態度（40%）　で総合評価する。

成　績　評　価　基　準

・児童理解の知識・技能に基づき、子供に適切に対応できたか。
・教員のための基礎実践能力を習得できたか。
・学校教育全般について理解できたか。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

1）授業時の課題に対するフィードバックについて
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　■その他（実習ノートへのコメント）
2）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
3）小レポートに対するフィードバックについて
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
4）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
□定期試験時　□仁大eラーニング　□メール　■その他（事後指導において行う。）
5）その他（教育実習に対するフィードバックについて）
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　■その他（巡回指導時に行う。）

実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)

テ　キ　ス　ト　、　参　考　図　書

授業実習のため、主要教科（国・社・算・理）の教科書は、各自準備すること。

その他(受講上の注意)

各小学校教育実習校の指示に従うこと。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

子ども教育特別演習Ⅱ (Seminar Ⅱ)			担当教員	伊東　知之
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE-G-2412	2単位	4年前期	演習	必修

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　特別演習・卒業研究

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

探究的・協働的な態度で課題解決に取り組む意欲並びに能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□体系的な知識･技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成･社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
■自己理解･自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

授業の内容

「子ども教育特別演習Ⅰ」で研究したことを基に造形、美術教育分野で自分が研究していく研究課題、テーマを設定し、そのテーマにそって各自が研究を深めていく。そしてその研究経過を定期的に報告しながら、問題点、改善方法等を検討するとともに、お互いに意見を出し合い、よりよいレポートになるようにさらに研究を深めていく。

授業の到達目標

・自分の研究課題について説明ができる。
・研究方法や計画について説明ができる。

アクティブ・ラーニング

■課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　□グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等）　□実習、フィールドワーク　■実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：オリエンテーション
　事前学習：自分の興味のあるテーマについて資料を作成する。（2時間）
　事後学習：さらに自分のテーマについて深める。（2時間）
第2回：これまでの研究発表（発表）
　事前学習：発表資料を作成する。（2時間）
　事後学習：質問、課題項目を調べる。（2時間）
第3回：課題研究①（PBL、実技）
　事前学習：テーマの課題をまとめておく。（2時間）
　事後学習：質問、課題項目を調べる。（2時間）
第4回：課題研究②（PBL、実技）
　事前学習：さらにテーマの課題をまとめておく。（2時間）
　事後学習：質問、課題項目を調べる。（2時間）
第5回：課題研究③（PBL、実技）
　事前学習：さらにテーマの課題をまとめておく。（2時間）
　事後学習：質問、課題項目を調べる。（2時間）
第6回：課題研究④（PBL、実技）
　事前学習：さらのテーマの課題をまとめておく。（2時間）
　事後学習：質問、課題項目を調べる。（2時間）
第7回：各自研究、制作①（PBL、実技）
　事前学習：研究・制作に必要なものを準備しておく。（2時間）
　事後学習：研究・制作に必要なことを調べる。（2時間）

第８回：各自研究、制作②（PBL、実技）
　　事前学習：研究・制作に必要なものを準備しておく。（２時間）
　　事後学習：研究・制作に必要なことを調べる。（２時間）
第９回：各自研究、制作③（PBL、実技）
　　事前学習：研究・制作に必要なものを準備しておく。（２時間）
　　事後学習：研究・制作に必要なことを調べる。（２時間）
第10回：各自研究、制作④（PBL、実技）
　　事前学習：研究・制作に必要なものを準備しておく。（２時間）
　　事後学習：研究・制作に必要なことを調べる。（２時間）
第11回：各自研究、制作⑤（PBL、実技）
　　事前学習：研究・制作に必要なものを準備する。（２時間）
　　事後学習：研究・制作に必要なことを調べる。（２時間）
第12回：研究発表①
　　事前学習：研究内容の途中発表資料を作成する。（２時間）
　　事後学習：質問、課題について調べる。（２時間）
第13回：研究発表②
　　事前学習：研究内容の途中発表資料を作成する。（２時間）
　　事後学習：質問、課題について調べる。（２時間）
第14回：研究発表③
　　事前学習：研究内容の途中発表資料を作成する。（２時間）
　　事後学習：質問、課題について調べる。（２時間）
第15回：まとめと課題（PBL、実技）
　　事前学習：出された課題を次回の報告までに研究してくる。（２時間）
　　事後学習：研究経過についてレジュメにまとめてくる。（２時間）

授業実施方法（面接授業・遠隔授業）

原則として「面接授業」を行います。
ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。
遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成　績　評　価　方　法

研究報告（80%）、平常点（20%）
（平常点は、授業への参加状況、受講態度、提出物の提出状況を総合して判断します。）

成　績　評　価　基　準

・研究内容について説明することができる。
・研究方法や研究計画について説明することができる。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック

１）授業時の課題に対するフィードバックについて
　■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
２）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
　■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
３）小レポートに対するフィードバックについて
　■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
４）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
　□定期試験時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
５）その他
　□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他

実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）

テ　キ　ス　ト、参　考　図　書

必要に応じて指示する。

その他（受講上の注意）

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

子ども教育特別演習Ⅱ (Seminar Ⅱ)			担当教員	篭谷　隆弘
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE-G-2412	2単位	4年前期	演習	必修

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　特別演習・卒業研究

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

探究的・協働的な態度で課題解決に取り組む意欲並びに能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□体系的な知識･技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成･社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解･自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

授業の内容

卒業研究テーマについての報告と議論

授業の到達目標

設定したテーマについて研究したことを中心に、その報告と議論を行うことで、自身および他者の研究内容について理解を深め評価を行えるようになる。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　□グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等）　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：卒業研究テーマの確認
　事前学習：卒業研究テーマについて検討する（3時間）
　事後学習：指摘された内容に基づきどのように研究を進めるか検討する。（1時間）
第2回：進捗報告①
　事前学習：進めた研究に関して進捗報告の準備を行う。（3時間）
　事後学習：指摘された内容に基づきどのように研究を進めるか検討する。（1時間）
第3回：進捗報告②
　事前学習：進めた研究に関して進捗報告の準備を行う。（3時間）
　事後学習：指摘された内容に基づきどのように研究を進めるか検討する。（1時間）
第4回：進捗報告③
　事前学習：進めた研究に関して進捗報告の準備を行う。（3時間）
　事後学習：指摘された内容に基づきどのように研究を進めるか検討する。（1時間）
第5回：進捗報告④
　事前学習：進めた研究に関して進捗報告の準備を行う。（3時間）
　事後学習：指摘された内容に基づきどのように研究を進めるか検討する。（1時間）
第6回：進捗報告⑤
　事前学習：進めた研究に関して進捗報告の準備を行う。（3時間）
　事後学習：指摘された内容に基づきどのように研究を進めるか検討する。（1時間）
第7回：進捗報告⑥
　事前学習：進めた研究に関して進捗報告の準備を行う。（3時間）
　事後学習：指摘された内容に基づきどのように研究を進めるか検討する。（1時間）
第8回：進捗報告⑦
　事前学習：進めた研究に関して進捗報告の準備を行う。（3時間）
　事後学習：指摘された内容に基づきどのように研究を進めるか検討する。（1時間）

第９回：進捗報告⑧
　　事前学習：進めた研究に関して進捗報告の準備を行う。（３時間）
　　事後学習：指摘された内容に基づきどのように研究を進めるか検討する。（１時間）
第10回：進捗報告⑨
　　事前学習：進めた研究に関して進捗報告の準備を行う。（３時間）
　　事後学習：指摘された内容に基づきどのように研究を進めるか検討する。（１時間）
第11回：進捗報告⑩
　　事前学習：進めた研究に関して進捗報告の準備を行う。（３時間）
　　事後学習：指摘された内容に基づきどのように研究を進めるか検討する。（１時間）
第12回：進捗報告⑪
　　事前学習：進めた研究に関して進捗報告の準備を行う。（３時間）
　　事後学習：指摘された内容に基づきどのように研究を進めるか検討する。（１時間）
第13回：進捗報告⑫
　　事前学習：進めた研究に関して進捗報告の準備を行う。（３時間）
　　事後学習：指摘された内容に基づきどのように研究を進めるか検討する。（１時間）
第14回：進捗報告⑬
　　事前学習：進めた研究に関して進捗報告の準備を行う。（３時間）
　　事後学習：指摘された内容に基づきどのように研究を進めるか検討する。（１時間）
第15回：後期に向けての計画設定
　　事前学習：進めた研究に関して進捗報告の準備を行う。（３時間）
　　事後学習：指摘された内容に基づきどのように研究を進めるか検討する。（１時間）

授業実施方法（面接授業・遠隔授業）

原則として「面接授業」を行います。
ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。
遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成　績　評　価　方　法

平常点100%（受講態度、研究計画に対する達成状況により総合的に判断する。）

成　績　評　価　基　準

設定したテーマについて研究したことを中心に定期的に報告が行えたか。自身および他者の研究内容について理解を深め評価を行えるようになったか。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック

１）授業時の課題に対するフィードバックについて
　■授業時　■仁大eラーニング　□メール　■その他（Teams）
２）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
　■授業時　■仁大eラーニング　■メール　■その他（ファイル共有システム）
３）小レポートに対するフィードバックについて
　□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
４）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
　□定期試験時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
５）その他
　□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他

実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）

テ キ ス ト 、 参 考 図 書

特に指定しないが、選定した研究テーマに関する書籍を多く読むこと。

その他（受講上の注意）

授業の大半は、担当教員と相談の上各自が設定する計画に基づき、授業時間外に自主的に進めてきたことの報告と、それに対する助言や議論・次の計画の時間に充てる。
従って、授業時間外も意欲をもち積極的に研究に取り組む必要がある。

オ フ ィ ス ア ワ ー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

子ども教育特別演習Ⅱ (Seminar Ⅱ)			担当教員	鈴木　智子
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE-G-2412	2単位	4年前期	演習	必修

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　特別演習・卒業研究

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

探究的・協働的な態度で課題解決に取り組む意欲並びに能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識･技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成･社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解･自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

授業の内容

自分が関心を持つテーマについて課題研究を設定する。研究課題は保育・教育、子どもの発達や援助についての実証的研究又は開発的研究に関するものとする。各自研究計画をたて、これに基づいて研究を進め、成果をまとめてレポートを作成する。研究成果を受講者に報告し、お互いに批判・検討し合うとともに今後の課題等も明確にする。
「子ども教育特別演習Ⅰ」での学習成果を踏まえて、自主的研究のための課題をそれぞれが設定し、研究計画をたてる。その計画に沿ってそれぞれが研究成果を発表するとともに、相互理解・相互批判を繰り返しつつ研究を深めていく。

授業の到達目標

研究計画を立てて、研究を進めることができる。
他者の研究について批判的検討ができる。
論文の書き方を修得する。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習（PBL）　■討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　□グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等）　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：オリエンテーション
　事前学習：これまでの学習を振り返り、探求したい自己のテーマを決めてくる（2時間）
　事後学習：授業内容を踏まえて、探求したい自己のテーマを精査する（2時間）
第2回：研究発表と討論1
　事前学習：テーマに関する先行研究をまとめてレジュメを作成する（2時間）
　事後学習：授業での討論を踏まえて、レジュメを見直し、先行研究のまとめを作成する（2時間）
第3回：研究発表と討論2
　事前学習：テーマに関する先行研究をまとめてレジュメを作成する（2時間）
　事後学習：授業での討論を踏まえて、レジュメを見直し、先行研究のまとめを作成する（2時間）
第4回：研究発表と討論3
　事前学習：テーマに関する先行研究をまとめてレジュメを作成する（2時間）
　事後学習：授業での討論を踏まえて、レジュメを見直し、先行研究のまとめを作成する（2時間）
第5回：研究発表と討論4
　事前学習：テーマに関する先行研究をまとめてレジュメを作成する（2時間）
　事後学習：授業での討論を踏まえて、レジュメを見直し、先行研究のまとめを作成する（2時間）
第6回：研究発表と討論5
　事前学習：テーマに関する先行研究をまとめてレジュメを作成する（2時間）
　事後学習：授業での討論を踏まえて、レジュメを見直し、先行研究のまとめを作成する（2時間）

第７回：研究発表と討論６
　　事前学習：テーマに関する先行研究をまとめてレジュメを作成する（２時間）
　　事後学習：授業での討論を踏まえて、レジュメを見直し、先行研究のまとめを作成する（２時間）
第８回：研究発表と討論７
　　事前学習：テーマに関する先行研究をまとめてレジュメを作成する（２時間）
　　事後学習：授業での討論を踏まえて、レジュメを見直し、先行研究のまとめを作成する（２時間）
第９回：中間のまとめ
　　事前学習：これまでの授業内容を振り返り、テーマに関して得られた知識をまとめておく（２時間）
　　事後学習：授業内容を踏まえて、保育・教育に対する問題意識を明確にする（２時間）
第10回：研究発表と討論１
　　事前学習：テーマに関する先行研究をまとめてレジュメを作成する（２時間）
　　事後学習：授業での討論を踏まえて、レジュメを見直し、先行研究のまとめを作成する（２時間）
第11回：研究発表と討論２
　　事前学習：テーマに関する先行研究をまとめてレジュメを作成する（２時間）
　　事後学習：授業での討論を踏まえて、レジュメを見直し、先行研究のまとめを作成する（２時間）
第12回：研究発表と討論３
　　事前学習：テーマに関する先行研究をまとめてレジュメを作成する（２時間）
　　事後学習：授業での討論を踏まえて、レジュメを見直し、先行研究のまとめを作成する（２時間）
第13回：研究発表と討論４
　　事前学習：テーマに関する先行研究をまとめてレジュメを作成する（２時間）
　　事後学習：授業での討論を踏まえて、レジュメを見直し、先行研究のまとめを作成する（２時間）
第14回：研究発表と討論５
　　事前学習：テーマに関する先行研究をまとめてレジュメを作成する（２時間）
　　事後学習：授業での討論を踏まえて、レジュメを見直し、先行研究のまとめを作成する（２時間）
第15回：まとめ
　　事前学習：これまでの授業内容を振り返り、テーマに関して得られた知識をまとめておく（２時間）
　　事後学習：授業内容を踏まえて、保育・教育に対する問題意識を明確にする（２時間）

授業実施方法（面接授業・遠隔授業）

原則として「面接授業」を行います。
ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。
遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成　績　評　価　方　法

発表内容（50%）、討論への参加態度（30%）、平常点（20%）
（平常点は、授業への参加状況、受講態度等を総合して判断する）

成　績　評　価　基　準

研究計画を立てて、研究を進めることができるか。
他者の研究について批判的検討ができるか。
論文の書き方を修得できているか。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック

１）授業時の課題に対するフィードバックについて
　■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
２）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
　■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
３）小レポートに対するフィードバックについて
　□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
４）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
　□定期試験時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
５）その他
　□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他

実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）

テ キ ス ト 、 参 考 図 書

テキストは用いない。受講生のテーマに応じて、適宜参考図書を紹介する。

その他（受講上の注意）

オ フ ィ ス ア ワ ー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

子ども教育特別演習Ⅱ (Seminar Ⅱ)			担当教員	高野　秀晴
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE-G-2412	2単位	4年前期	演習	必修

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　特別演習・卒業研究

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

探求的・協働的な態度で課題解決に取り組む意欲並びに能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識･技能　■論理的思考力と創造力　■人間関係形成･社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
■自己理解･自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

授業の内容

「子ども教育特別演習Ⅰ」における学修を基礎に、各自が研究課題を明確化していくことを目指す。そのためには、自身の関心を先行研究との関連のもとに位置付けていく作業が不可欠となる。したがって、授業の内容は、各自が蒐集した文献の講読と討論が中心となる。

授業の到達目標

相手の意見を聞いたうえで、自らの意見を論理的に述べることができる。
自らの関心と照らし合わせ、研究課題を明確化することができる。
研究課題について体系的に調べることができる。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習（PBL）　■討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　□グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等）　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：オリエンテーション
　事前学習：講読文献を検索しておく。（2時間）
　事後学習：研究計画を作成する。（2時間）
第2回：担当者による発表と討議
　事前学習：講読文献を精読し、疑問点などをまとめておく。（2時間）
　事後学習：当日の議論を踏まえて、講読した文献を読み直す。（2時間）
第3回：担当者による発表と討議
　事前学習：講読文献を精読し、疑問点などをまとめておく。（2時間）
　事後学習：当日の議論を踏まえて、講読した文献を読み直す。（2時間）
第4回：担当者による発表と討議
　事前学習：講読文献を精読し、疑問点などをまとめておく。（2時間）
　事後学習：当日の議論を踏まえて、講読した文献を読み直す。（2時間）
第5回：担当者による発表と討議
　事前学習：講読文献を精読し、疑問点などをまとめておく。（2時間）
　事後学習：当日の議論を踏まえて、講読した文献を読み直す。（2時間）
第6回：担当者による発表と討議
　事前学習：講読文献を精読し、疑問点などをまとめておく。（2時間）
　事後学習：当日の議論を踏まえて、講読した文献を読み直す。（2時間）
第7回：担当者による発表と討議
　事前学習：講読文献を精読し、疑問点などをまとめておく。（2時間）
　事後学習：当日の議論を踏まえて、講読した文献を読み直す。（2時間）

第８回：担当者による発表と討議
　　事前学習：講読文献を精読し、疑問点などをまとめておく。（２時間）
　　事後学習：当日の議論を踏まえて、講読した文献を読み直す。（２時間）
第９回：担当者による発表と討議
　　事前学習：講読文献を精読し、疑問点などをまとめておく。（２時間）
　　事後学習：当日の議論を踏まえて、講読した文献を読み直す。（２時間）
第10回：担当者による発表と討議
　　事前学習：講読文献を精読し、疑問点などをまとめておく。（２時間）
　　事後学習：当日の議論を踏まえて、講読した文献を読み直す。（２時間）
第11回：担当者による発表と討議
　　事前学習：講読文献を精読し、疑問点などをまとめておく。（２時間）
　　事後学習：当日の議論を踏まえて、講読した文献を読み直す。（２時間）
第12回：担当者による発表と討議
　　事前学習：講読文献を精読し、疑問点などをまとめておく。（２時間）
　　事後学習：当日の議論を踏まえて、講読した文献を読み直す。（２時間）
第13回：担当者による発表と討議
　　事前学習：講読文献を精読し、疑問点などをまとめておく。（２時間）
　　事後学習：当日の議論を踏まえて、講読した文献を読み直す。（２時間）
第14回：担当者による発表と討議
　　事前学習：講読文献を精読し、疑問点などをまとめておく。（２時間）
　　事後学習：当日の議論を踏まえて、講読した文献を読み直す。（２時間）
第15回：担当者による発表と討論
　　事前学習：講読文献を精読し、疑問点などをまとめておく。（２時間）
　　事後学習：当日の議論を踏まえて、講読した文献を読み直す。（２時間）

授業実施方法（面接授業・遠隔授業）

原則として「面接授業」を行います。
ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。
遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成　績　評　価　方　法

討論への参加状況（50%）
発表内容（50%）

成　績　評　価　基　準

相手の意見を聞いたうえで、自らの意見を論理的に述べることができるか。
自らの関心と照らし合わせ、研究課題を明確化することができているか。
研究課題について体系的に調べることができているか。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック

１）授業時の課題に対するフィードバックについて
　□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
２）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
　■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
３）小レポートに対するフィードバックについて
　□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
４）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
　□定期試験時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
５）その他
　□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他

実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）

テ　キ　ス　ト　、　参　考　図　書

必要に応じて配布する。

その他（受講上の注意）

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

子ども教育特別演習Ⅱ (Seminar Ⅱ)			担当教員	中野　研也
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−G−2412	2単位	4年前期	演習	必修

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　特別演習・卒業研究

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

探求的・協働的な態度で課題解決に取り組む意欲並びに能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□体系的な知識･技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成･社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解･自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

授業の内容

音楽または音楽に関連することについて、各自が興味を持つ対象を研究・発表し、少人数での討論を行う。

授業の到達目標

1．音楽に関する知識と理解を深める。
2．音楽を通して豊かな教養を身に付け、教育・保育に活かす。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習（PBL）　■討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等）　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：学期の研究計画（実践先・内容・回数）発表（発表）
　事前学習：1 年間の展望をまとめておくこと。（2時間）
　事後学習：担当教員の指導をふまえ、研究方法の検討を行う。（2時間）
第2回：実践と報告 1（グループワーク、ディスカッション）
　事前学習：報告のための資料を準備しておくこと。（2時間）
　事後学習：担当教員の指導をふまえ、資料等の検索を行う。（2時間）
第3回：実践と報告 2（グループワーク、ディスカッション）
　事前学習：報告のための資料を準備しておくこと。（2時間）
　事後学習：担当教員の指導をふまえ、資料等の検索およびレポート作成を行う。（2時間）
第4回：実践と報告 3（グループワーク、ディスカッション）
　事前学習：報告のための資料を準備しておくこと。（2時間）
　事後学習：担当教員の指導をふまえ、資料等の検索およびレポート作成を行う。（2時間）
第5回：実践と報告 4（グループワーク、ディスカッション）
　事前学習：報告のための資料を準備しておくこと。（2時間）
　事後学習：担当教員の指導をふまえ、資料等の検索およびレポート作成を行う。（2時間）
第6回：実践と報告、討議 1（ディスカッション）
　事前学習：報告のための資料を準備しておくこと。（2時間）
　事後学習：担当教員の指導と討議の結果をふまえ、資料等の検索およびレポート作成を行う。（2時間）
第7回：実践と報告、討議 2（ディスカッション）
　事前学習：報告のための資料を準備しておくこと。（2時間）
　事後学習：担当教員の指導と討議の結果をふまえ、資料等の検索およびレポート作成を行う。（2時間）
第8回：実践と報告、討議 3（ディスカッション）
　事前学習：報告のための資料を準備しておくこと。（2時間）
　事後学習：担当教員の指導と討議の結果をふまえ、資料等の検索およびレポート作成を行う。（2時間）

第９回：実践と報告、討議 4（ディスカッション）
事前学習：報告のための資料を準備しておくこと。（２時間）
事後学習：担当教員の指導と討議の結果をふまえ、資料等の検索およびレポート作成を行う。（２時間）
第10回：実践と報告、討議 5（ディスカッション）
事前学習：報告のための資料を準備しておくこと。（２時間）
事後学習：担当教員の指導と討議の結果をふまえ、資料等の検索およびレポート作成を行う。（２時間）
第11回：実践と報告、討議 6（ディスカッション）
事前学習：報告のための資料を準備しておくこと。（２時間）
事後学習：担当教員の指導と討議の結果をふまえ、資料等の検索およびレポート作成を行う。（２時間）
第12回：実践と報告、討議 7（ディスカッション）
事前学習：報告のための資料を準備しておくこと。（２時間）
事後学習：担当教員の指導と討議の結果をふまえ、資料等の検索およびレポート作成を行う。（２時間）
第13回：実践と報告、討議 8（ディスカッション）
事前学習：報告のための資料を準備しておくこと。（２時間）
事後学習：担当教員の指導と討議の結果をふまえ、資料等の検索およびレポート作成を行う。（２時間）
第14回：まとめと卒業研究論文作成計画への展望 1（発表）
事前学習：ここまでの研究成果を簡潔にまとめておくこと。（２時間）
事後学習：担当教員の指導と討議の結果をふまえ、研究方法の修正を行う。（２時間）
第15回：まとめと卒業研究論文作成計画への展望 2 文献などの情報収集には普段から心掛けておく。
実技の学生は、製作や練習に励む。（発表）
事前学習：卒業研究論文の大枠をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：卒業研究論文の執筆を開始する。（２時間）

授業実施方法（面接授業・遠隔授業）

原則として「面接授業」を行います。
ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。
遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成　績　評　価　方　法

授業に対する姿勢（50%）、およびレポートなどの提出物（50%）を総合して評価する。

成　績　評　価　基　準

音楽および音楽関連についての知識が深まったか。
実技の場合、必要な技術が身についてきているか。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック

１）授業時の課題に対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　□メール　■その他（Teams）
２）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　□メール　■その他（Teams）
３）小レポートに対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　□メール　■その他（Teams）
４）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
□定期試験時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
５）その他
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他

実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）

テ　キ　ス　ト　、　参　考　図　書

ゼミ生の主体的な研究テーマを出発点とするため、共通のテキストは用いない。

その他（受講上の注意）

毎回のゼミで提出あるいは作成したレポート等は、卒業論文執筆のための大切な資料となります。レポートの作成にあたっては、常に最終目的を意識してください。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

子ども教育特別演習Ⅱ (SeminarⅡ)			担当教員	西出　和彦
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE-G-2412	2単位	4年前期	演習	必修

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　特別演習・卒業研究

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

探究的・協働的な態度で課題解決に取り組む意欲並びに能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識･技能　■論理的思考力と創造力　■人間関係形成･社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
■自己理解･自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

授業の内容

卒業研究に取り組む。課題設定、仮説設定、観察実験の方法、結果、考察についてまとめ、科学の方法を身につける。また、結果を発表し、ディスカッションする。

授業の到達目標

科学教育に関する課題を設定し、問題解決を図り、ディスカッションができる。

アクティブ・ラーニング

■課題解決型学習（PBL）　■討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　□グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等）　□実習、フィールドワーク　■実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：課題の確認（PBL、ディスカッション、実験）
　事前学習：これまでの活動から課題の確認を行い、探究活動全体の見通しを確認する（2時間）。
　事後学習：これまでに調べた先行研究を研究を整理し、課題設定との整合性を確認する（2時間）。
第2回：探究活動の進捗状況報告と今後の課題①（PBL、ディスカッション、実験）
　事前学習：観察・実験・調査結果を整理する（2時間）。
　事後学習：ディスカッション結果に基づき、次の計画実行の準備を行う（2時間）。
第3回：探究活動の進捗状況報告と今後の課題②（PBL、ディスカッション、実験）
　事前学習：観察・実験・調査結果を整理する（2時間）。
　事後学習：ディスカッション結果に基づき、次の計画実行の準備を行う（2時間）。
第4回：探究活動の進捗状況報告と今後の課題③（PBL、ディスカッション、実験）
　事前学習：観察・実験・調査結果を整理する（2時間）。
　事後学習：ディスカッション結果に基づき、次の計画実行の準備を行う（2時間）。
第5回：探究活動の進捗状況報告と今後の課題④（PBL、ディスカッション、実験）
　事前学習：観察・実験・調査結果を整理する（2時間）。
　事後学習：ディスカッション結果に基づき、次の計画実行の準備を行う（2時間）。
第6回：探究活動の進捗状況報告と今後の課題⑤（PBL、ディスカッション、実験）
　事前学習：観察・実験・調査結果を整理する（2時間）。
　事後学習：ディスカッション結果に基づき、次の計画実行の準備を行う（2時間）。
第7回：探究活動の進捗状況報告と今後の課題⑥（PBL、ディスカッション、実験）
　事前学習：観察・実験・調査結果を整理する（2時間）。
　事後学習：ディスカッション結果に基づき、次の計画実行の準備を行う（2時間）。
第8回：探究活動の進捗状況報告と今後の課題⑦（PBL、ディスカッション、実験）
　事前学習：観察・実験・調査結果を整理する（2時間）。
　事後学習：ディスカッション結果に基づき、次の計画実行の準備を行う（2時間）。
第9回：中間発表（発表）

第10回：探究活動の進捗状況報告と今後の課題⑧（PBL、ディスカッション、実験）
事前学習：観察・実験・調査結果を整理する（２時間）。
事後学習：ディスカッション結果に基づき、次の計画実行の準備を行う（２時間）。
第11回：探究活動の進捗状況報告と今後の課題⑨（PBL、ディスカッション、実験）
事前学習：観察・実験・調査結果を整理する（２時間）。
事後学習：ディスカッション結果に基づき、次の計画実行の準備を行う（２時間）。
第12回：探究活動の進捗状況報告と今後の課題⑩（PBL、ディスカッション、実験）
事前学習：観察・実験・調査結果を整理する（２時間）。
事後学習：ディスカッション結果に基づき、次の計画実行の準備を行う（２時間）。
第13回：探究活動の進捗状況報告と今後の課題⑪（PBL、ディスカッション、実験）
事前学習：観察・実験・調査結果を整理する（２時間）。
事後学習：ディスカッション結果に基づき、次の計画実行の準備を行う（２時間）。
第14回：探究活動のまとめ①（発表）
事前学習：これまでの結果を整理し、論文としてまとめるための準備を行う（２時間）。
事後学習：ディスカッション結果に基づき、論文としての骨格を考える（２時間）。
第15回：探究活動のまとめ②（発表）
事前学習：前回のディスカッションに基づき、探究活動の不十分な点を整理する（２時間）。
事後学習：修正点に関する実行計画を立てる（２時間）。

授業実施方法（面接授業・遠隔授業）

原則として「面接授業」を行います。
ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。
遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成　績　評　価　方　法

平常点（50%）提出物（50%）
※平常点は授業への参加状況、受講態度等を総合して判断します。

成　績　評　価　基　準

（１）科学教育に関する課題を見出すことができる。
（２）課題を適切に処理し、考察し、結論を導くことができる。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック

１）授業時の課題に対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　■メール　□その他
２）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　■メール　□その他
３）小レポートに対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　■メール　□その他
４）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
□定期試験時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
５）その他
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他

実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）

テ　キ　ス　ト　、　参　考　図　書

必要に応じて提示する。

その他（受講上の注意）

学内外での活動（自然観察，セミナー，学会等への参加）も含まれる。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

子ども教育特別演習Ⅱ (Seminar Ⅱ)			担当教員	青井　夕貴
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE-G-2412	2単位	4年前期	演習	必修

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　特別演習・卒業研究

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

探究的・協働的な態度で課題解決に取り組む意欲並びに能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識･技能　■論理的思考力と創造力　■人間関係形成･社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
■自己理解･自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　■キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

授業の内容

「子ども教育特別演習Ⅰ」で学んだことを基に、各自の研究目的を明確化し、研究計画を立て、これに沿って研究を進めていく。途中経過を他の受講者に報告し、互いに批評、検討し合うことで、研究の質を高めていく。

授業の到達目標

研究目的を明確化し、研究計画に沿って、研究を進めることができる。
自他の研究について、批判的・論理的思考をもって検討することができる。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習（PBL）　■討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　□グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等）　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：今後の計画の確認①
　事前学習：子ども教育特別演習Ⅰを踏まえ、課題等を整理する。（2時間）
　事後学習：自他の発表と議論で学んだことを踏まえて自分の研究を進めていく。（2時間）
第2回：今後の計画の確認②
　事前学習：子ども教育特別演習Ⅰを踏まえ、課題等を整理する。（2時間）
　事後学習：自他の発表と議論で学んだことを踏まえて自分の研究を進めていく。（2時間）
第3回：研究経過報告（先行研究、目的）と議論①
　事前学習：自分の研究に関する資料作成や調査等に取り組み、発表の準備をする。（2時間）
　事後学習：自他の発表と議論で学んだことを踏まえて自分の研究を進めていく。（2時間）
第4回：研究経過報告（先行研究、目的）と議論②
　事前学習：自分の研究に関する資料作成や調査等に取り組み、発表の準備をする。（2時間）
　事後学習：自他の発表と議論で学んだことを踏まえて自分の研究を進めていく。（2時間）
第5回：研究経過報告（先行研究、目的）と議論③
　事前学習：自分の研究に関する資料作成や調査等に取り組み、発表の準備をする。（2時間）
　事後学習：自他の発表と議論で学んだことを踏まえて自分の研究を進めていく。（2時間）
第6回：研究経過報告（先行研究、目的）と議論④
　事前学習：自分の研究に関する資料作成や調査等に取り組み、発表の準備をする。（2時間）
　事後学習：自他の発表と議論で学んだことを踏まえて自分の研究を進めていく。（2時間）
第7回：研究経過報告（先行研究、目的）と議論⑤
　事前学習：自分の研究に関する資料作成や調査等に取り組み、発表の準備をする。（2時間）
　事後学習：自他の発表と議論で学んだことを踏まえて自分の研究を進めていく。（2時間）
第8回：中間まとめ
　事前学習：これまでの議論等を踏まえ、先行研究及び目的を整理する。（2時間）
　事後学習：自他の発表と議論を踏まえ、方法につなげる。（2時間）

第９回：研究経過報告（方法）と議論①
　　事前学習：自分の研究に関する資料作成や調査等に取り組み、発表の準備をする。（２時間）
　　事後学習：自他の発表と議論で学んだことを踏まえて自分の研究を進めていく。（２時間）
第10回：研究経過報告（方法）と議論②
　　事前学習：自分の研究に関する資料作成や調査等に取り組み、発表の準備をする。（２時間）
　　事後学習：自他の発表と議論で学んだことを踏まえて自分の研究を進めていく。（２時間）
第11回：研究経過報告（方法）と議論③
　　事前学習：自分の研究に関する資料作成や調査等に取り組み、発表の準備をする。（２時間）
　　事後学習：自他の発表と議論で学んだことを踏まえて自分の研究を進めていく。（２時間）
第12回：研究経過報告（方法）と議論④
　　事前学習：自分の研究に関する資料作成や調査等に取り組み、発表の準備をする。（２時間）
　　事後学習：自他の発表と議論で学んだことを踏まえて自分の研究を進めていく。（２時間）
第13回：研究経過報告（方法）と議論⑤
　　事前学習：自分の研究に関する資料作成や調査等に取り組み、発表の準備をする。（２時間）
　　事後学習：自他の発表と議論で学んだことを踏まえて自分の研究を進めていく。（２時間）
第14回：総括①
　　事前学習：これまでの議論等を踏まえ、進捗状況と課題を整理する。（２時間）
　　事後学習：自他の発表と議論を踏まえ、結果と考察につなげる。（２時間）
第15回：総括②
　　事前学習：これまでの議論等を踏まえ、進捗状況と課題を整理する。（２時間）
　　事後学習：自他の発表と議論を踏まえ、結果と考察につなげる。（２時間）

授業実施方法（面接授業・遠隔授業）

原則として「面接授業」を行います。
ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。
遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成　績　評　価　方　法

発表内容（50%）、議論への参加状況（50%）

成　績　評　価　基　準

研究目的を明確化し、研究計画に沿って、研究を進めることができるか。
自他の研究について、批判的・論理的思考をもって検討することができるか。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック

１）授業時の課題に対するフィードバックについて
　■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
２）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
　■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
３）小レポートに対するフィードバックについて
　■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
４）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
　□定期試験時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
５）その他
　□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他

実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）

テキスト、参考図書

テキストは使用しない。参考図書は、必要に応じて適宜紹介する。

その他（受講上の注意）

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

子ども教育特別演習Ⅱ (Seminar Ⅱ)			担当教員	乙部　貴幸
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE-G-2412	2単位	4年前期	演習	必修

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　特別演習・卒業研究

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

探究的・協働的な態度で課題解決に取り組む意欲並びに能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識･技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成･社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解･自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプラニング能力

資格・免許の要件

授業の内容

子ども教育特別演習Ⅰで身につけた内容と策定した研究テーマを元に、研究に取り組む。
進捗を報告しながら互いに議論して研究を深める。

授業の到達目標

・前回から進めた箇所について報告し、またそのための資料を作成する習慣を身につける。
・研究したい目的を達成するための方法についてあらゆる可能性を探し現実的に絞り込む力を身につける。

アクティブ・ラーニング

■課題解決型学習（PBL）　■討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　□グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等）　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：研究課題に関連する諸研究と関連理論の学習と評価①。
　　事前学習：発表前の準備（2時間）
　　事後学習：発表後のまとめと発展学習（2時間）
以降、受講生の数に応じて輪番とするが、毎回全員が短い経過報告を行う。発表者は随時、PBL、討議、発表を行い、事前に他の受講生に資料を配付して各自で検討して授業に臨む。
第2回：研究課題に関連する諸研究と関連理論の学習と評価②。
　　事前学習：発表前の準備（2時間）
　　事後学習：発表後のまとめと発展学習（2時間）
第3回：研究課題に関連する諸研究と関連理論の学習と評価③。
　　事前学習：発表前の準備（2時間）
　　事後学習：発表後のまとめと発展学習（2時間）
第4回：研究課題に関連する諸研究と関連理論の学習と評価④。
　　事前学習：発表前の準備（2時間）
　　事後学習：発表後のまとめと発展学習（2時間）
第5回：研究課題に関連する諸研究と関連理論の学習と評価⑤。
　　事前学習：発表前の準備（2時間）
　　事後学習：発表後のまとめと発展学習（2時間）
第6回：研究課題に関連する諸研究と関連理論の学習と評価⑥。
　　事前学習：発表前の準備（2時間）
　　事後学習：発表後のまとめと発展学習（2時間）
第7回：研究課題に関連する諸研究と関連理論の学習と評価⑦。
　　事前学習：発表前の準備（2時間）
　　事後学習：発表後のまとめと発展学習（2時間）

第８回：研究課題に関連する諸研究と関連理論の学習と評価⑧。
　　事前学習：発表前の準備（２時間）
　　事後学習：発表後のまとめと発展学習（２時間）
第９回：これまでの各自の進捗状況の総括。（全員が発表、討議）。
　　事前学習：発表前の準備（２時間）
　　事後学習：発表後のまとめと発展学習（２時間）
第10回：研究課題に関連する諸研究と関連理論の学習と評価⑨。
　　事前学習：発表前の準備（２時間）
　　事後学習：発表後のまとめと発展学習（２時間）
第11回：研究課題に関連する諸研究と関連理論の学習と評価⑩。
　　事前学習：発表前の準備（２時間）
　　事後学習：発表後のまとめと発展学習（２時間）
第12回：研究課題に関連する諸研究と関連理論の学習と評価⑪。
　　事前学習：発表前の準備（２時間）
　　事後学習：発表後のまとめと発展学習（２時間）
第13回：研究課題に関連する諸研究と関連理論の学習と評価⑫。
　　事前学習：発表前の準備（２時間）
　　事後学習：発表後のまとめと発展学習（２時間）
第14回：これまでのまとめ～その １ ～。
　　事前学習：質問、相談のリストアップ（２時間）
　　事後学習：授業後の各自の発展学習（２時間）
第15回：これまでのまとめ～その ２ ～。
　　事前学習：質問、相談のリストアップ（２時間）
　　事後学習：授業後の各自の発展学習と特別演習 ３ の準備（２時間）

授業実施方法（面接授業・遠隔授業）

原則として「面接授業」を行います。
ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。
遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成　績　評　価　方　法

・発表のための資料作成と関連資料の収集準備の程度で100パーセント

成　績　評　価　基　準

授業の到達目標に記載した行動目標を達成しているかどうかによる。分割によるポイント制とせず、総合的に評価する。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック

１）授業時の課題に対するフィードバックについて
　■授業時　　■仁大eラーニング　　■メール　　■その他
２）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
　■授業時　　■仁大eラーニング　　■メール　　■その他
３）小レポートに対するフィードバックについて
　■授業時　　■仁大eラーニング　　■メール　　■その他
４）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
　□定期試験時　　□仁大eラーニング　　□メール　　□その他
５）その他（毎回レポートに対するフィードバックについて）
　■授業時　　■仁大eラーニング　　■メール　　■その他

実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）

テ　キ　ス　ト　、　参　考　図　書

テキストは用いない。参考図書や関連文献はその都度の紹介。

その他（受講上の注意）

ゼミなので欠席しないこと。やむを得ず欠席するときは事前連絡し、代わりの日を決める手順をとること。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

子ども教育特別演習Ⅱ (Seminar Ⅱ)			担当教員	草桶　勇人
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE-G-2412	2単位	4年前期	演習	必修

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　特別演習・卒業研究

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

探究的・協働的な態度で課題解決に取り組む意欲並びに能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□体系的な知識･技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成･社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
■自己理解･自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

授業の内容

自分が関心を持つテーマについて研究課題を設定する。研究課題は小学校の算数教育についての実践的研究又は開発的研究に関するものとする。各自研究計画をたて、これに基づいて研究を進める。研究を推進する際、算数教育の現状を踏まえ「算数でどんな力をつけたいのか」、「授業の何を問い直したいのか」等の問題意識を明確にしながら、実践的研究又は開発研究をしていくように指導する。研究成果については、レポートにまとめさせる。研究過程で研究協議の場を適宜設け、研究をさらに深めていくための新たな課題につなげていけるように指導する。

授業の到達目標

・自分が関心を持つテーマについて研究課題が設定できる。
・研究課題の問題意識を明確にすることができる。(どんな力をつけたいのか。授業の何を問い直したいのか。)
・実践的研究または開発研究するための研究計画を立てることができる。
・研究成果をレポートにまとめることができる。
・レポートの報告を基に、研究協議を行うことができる。
・関心を持つテーマについて、さらに深めていくための新たな課題につなげることができる。

アクティブ・ラーニング

■課題解決型学習(PBL)　■討議(ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等)　□グループワーク(Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等)　■発表・プレゼンテーション(Teams、Zoom等)　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：オリエンテーション(課題解決型学習、討議)
　事前学習：各自、3年次で設定した研究課題についてさらに検討して、要点をまとめておくこと。(2時間)
　事後学習：研究課題の討議から事実を抽出し問題を見いだしたことを、リフレクションシートにまとめる。(2時間)
第2回：研究課題の設定・参考資料の収集と整理①(課題解決型学習、討議)
　事前学習：見出した問題に関する先行研究や先行実践論文の資料を収集し、要点をまとめておくこと。(2時間)
　事後学習：調べた問題に対する討議から解決策(仮説)を立ててみて、リフレクションシートにまとめる。(2時間)
第3回：研究課題の設定・参考資料の収集と整理②(課題解決型学習、討議)
　事前学習：見出した問題に関する先行研究や先行実践論文の資料を収集し、要点をまとめておくこと。(2時間)
　事後学習：調べた課題に対する討議から解決策(仮説)を焦点化し、リフレクションシートにまとめる。(2時間)
第4回：研究課題の研究計画再検討①(課題解決型学習、個別学習)
　事前学習：解決策をもとに学習課題を設定し、追加情報を集め、その要点をまとめておくこと。(2時間)
　事後学習：追加情報に関する討議から仮説を検討し、リフレクションシートにまとめる。(2時間)

第５回：研究課題の研究計画再検討②
事前学習：解決策をもとに学習課題を設定し、追加情報を集め、その要点をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：追加情報に関する討議からさらに仮説を検討し、リフレクションシートにまとめる。（２時間）
第６回：研究構想の中間まとめ（課題解決学習、討議）
事前学習：これまでの討論から新しく得た知識と既有知識を統合し、要点をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：研究課題と見いだした問題の解決策（仮説）の討議からさらに検討し、リフレクションシートにまとめる。（２時間）
第７回：中間まとめと検討会（課題解決学習、発表）
事前学習：検討会に向けた中間まとめを作成しておくこと。（２時間）
事後学習：検討会を通して焦点化された研究課題とその解決策について整理し、リフレクションシートにまとめる。（２時間）
第８回：研究課題・研究計画の検討（課題解決学習、討議）
事前学習：研究課題と抽出された問題その仮説を検証するための研究計画を策定し、要点をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：研究計画の討議から明らかになったことや課題等について、リフレクションシートにまとめる。（２時間）
第９回：研究資料・参考資料の収集と整理①（課題解決学習、個別学習）
事前学習：仮説を検証するための研究資料や参考資料の収集について計画を立てて、要点をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：収集した研究資料等を整理し、その構造化を図り、要点をリフレクションシートにまとめる。（２時間）
第10回：研究資料・参考資料の収集と整理②（（課題解決学習、個別学習）
事前学習：仮説を検証するための研究資料や参考資料の収集について計画を立てて、要点をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：収集した研究資料等を整理し、その構造化を図り、要点をリフレクションシートにまとめる。（２時間）
第11回：研究資料等の考察・検討①（課題解決学習、討議）
事前学習：各自が整理した研究資料等の要点を前もって読み合うこと。（２時間）
事後学習：研究資料等の考察や検討討議から、研究計画への位置づけを検討し、リフレクションシートにまとめる。（２時間）
第12回：研究資料等の考察・検討②（課題解決学習、討議）
事前学習：各自が整理した研究資料等の要点を前もって読み合うこと。（２時間）
事後学習：研究資料等の考察や検討討議から、研究計画への位置づけを検討し、リフレクションシートにまとめる。（２時間）
第13回：研究資料等の考察・検討③（課題解決学習、討議）
事前学習：各自が整理した研究資料等の要点を前もって読み合うこと。（２時間）
事後学習：研究資料等の考察や検討討議から、研究計画への位置づけを検討し、リフレクションシートにまとめる。（２時間）
第14回：研究構想レポートのまとめ・討議（課題解決学習、発表、討議）
事前学習：これまでの討議を踏まえて研究課題と見出した問題、その解決のための計画に関するレポート第１ 稿を作成しておくこと。（２時間）
事後学習：レポート第１ 項の発表・討議から、細部を検討し、リフレクションシートにまとめる。（２時間）
第15回：研究構想発表会（課題解決学習、発表、討議）
事前学習：これまでの討議を踏まえた研究構想についてプレゼンテーション資料を作成しておくこと。（２時間）
事後学習：研究構想発表とその討議を通して明らかになったことや課題を整理し、リフレクションシートにまとめる。（２時間）

授業実施方法（面接授業・遠隔授業）

原則として「面接授業」を行います。
ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。
遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成　績　評　価　方　法

リフレクション・レポート（20%）、中間及びまとめの研究レポート（30%×２）、研究協議等授業への参加状況（20%）等を総合して判断する。

成　績　評　価　基　準

・関心を持つ研究テーマを設定できたか。
・研究課題に対する問題意識を明確に表現できたか。
・研究計画を立てて、研究成果をレポートにまとめることができたか。
・積極的な研究協議ができたか。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

1）授業時の課題に対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
2）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
3）小レポートに対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
4）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
□定期試験時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
5）その他
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他

実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)

テキスト、参考図書

特になし

その他(受講上の注意)

何回かのレポートの報告会を節目に研究を推進する。

オフィスアワー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

子ども教育特別演習Ⅱ (SeminarⅡ)			担当教員	出村　友寛
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE-G-2412	2単位	4年前期	演習	必修

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　特別演習・卒業研究

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

探究的・協働的な態度で課題解決に取り組む意欲並びに能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□体系的な知識･技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成･社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
■自己理解･自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　■キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

授業の内容

研究を実施する際の課題設定、課題解決のための計画立案、実施、データの処理、および論文の作成方法について学習する。

授業の到達目標

研究の実施に必要な基本的な知識（課題設定、研究計画の立案・実施、研究結果の整理・分析、研究論文の作成）を習得する。

アクティブ・ラーニング

■課題解決型学習（PBL）　■討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　□グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等）　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：オリエンテーション（ゼミの概要や方針について説明）
　事前学習：関心のある事柄について、論文、著書などから情報を収集しておく。（2時間）
　事後学習：見つかった課題について、論文、著書などで確認しておく。（2時間）
第2回：発表、質疑応答①（PBL、ディスカッション、発表）
　事前学習：関心のある事柄について、論文、著書などから情報を収集しておく。（2時間）
　事後学習：見つかった課題について、論文、著書などで確認しておく。（2時間）
第3回：発表、質疑応答②（PBL、ディスカッション、発表）
　事前学習：関心のある事柄について、論文、著書などから情報を収集しておく。（2時間）
　事後学習：見つかった課題について、論文、著書などで確認しておく。（2時間）
第4回：発表、質疑応答③（PBL、ディスカッション、発表）
　事前学習：関心のある事柄について、論文、著書などから情報を収集しておく。（2時間）
　事後学習：見つかった課題について、論文、著書などで確認しておく。（2時間）
第5回：発表、質疑応答④（PBL、ディスカッション、発表）
　事前学習：関心のある事柄について、論文、著書などから情報を収集しておく。（2時間）
　事後学習：見つかった課題について、論文、著書などで確認しておく。（2時間）
第6回：発表、質疑応答⑤（PBL、ディスカッション、発表）
　事前学習：関心のある事柄について、論文、著書などから情報を収集しておく。（2時間）
　事後学習：見つかった課題について、論文、著書などで確認しておく。（2時間）
第7回：発表、質疑応答⑥（PBL、ディスカッション、発表）
　事前学習：関心のある事柄について、論文、著書などから情報を収集しておく。（2時間）
　事後学習：見つかった課題について、論文、著書などで確認しておく。（2時間）
第8回：発表、質疑応答⑦（PBL、ディスカッション、発表）
　事前学習：関心のある事柄について、論文、著書などから情報を収集しておく。（2時間）
　事後学習：見つかった課題について、論文、著書などで確認しておく。（2時間）

第９回：発表、質疑応答⑧（PBL、ディスカッション、発表）
　　事前学習：関心のある事柄について、論文、著書などから情報を収集しておく。（２時間）
　　事後学習：見つかった課題について、論文、著書などで確認しておく。（２時間）
第10回：中間まとめ（PBL、ディスカッション、発表）
　　事前学習：関心のある事柄について、論文、著書などから情報を収集しておく。（２時間）
　　事後学習：見つかった課題について、論文、著書などで確認しておく。（２時間）
第11回：研究の中間発表（PBL、ディスカッション、発表）
　　事前学習：関心のある事柄について、論文、著書などから情報を収集しておく。（２時間）
　　事後学習：見つかった課題について、論文、著書などで確認しておく。（２時間）
第12回：研究の中間発表（PBL、ディスカッション、発表）
　　事前学習：関心のある事柄について、論文、著書などから情報を収集しておく。（２時間）
　　事後学習：見つかった課題について、論文、著書などで確認しておく。（２時間）
第13回：研究の中間発表（PBL、ディスカッション、発表）
　　事前学習：関心のある事柄について、論文、著書などから情報を収集しておく。（２時間）
　　事後学習：見つかった課題について、論文、著書などで確認しておく。（２時間）
第14回：研究の中間発表（PBL、ディスカッション、発表）
　　事前学習：関心のある事柄について、論文、著書などから情報を収集しておく。（２時間）
　　事後学習：見つかった課題について、論文、著書などで確認しておく。（２時間）
第15回：まとめ（PBL、ディスカッション、発表）
　　事前学習：関心のある事柄について、論文、著書などから情報を収集しておく。（２時間）
　　事後学習：見つかった課題について、論文、著書などで確認しておく。（２時間）

授業実施方法（面接授業・遠隔授業）

原則として「面接授業」を行います。
ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。
遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成　績　評　価　方　法

発表内容（50%）、レポート（50%）

成　績　評　価　基　準

研究の実施に必要な基本的な知識（課題設定、研究計画の立案・実施、研究結果の整理・分析、研究論文の作成）を理解できているか。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック

１）授業時の課題に対するフィードバックについて
　■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
２）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
　■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
３）小レポートに対するフィードバックについて
　□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
４）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
　□定期試験時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
５）その他
　□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他

実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）

テキスト、参考図書

必要に応じて資料を配布、紹介する。

その他（受講上の注意）

遅刻、欠席、および早退の際は連絡ください。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

子ども教育特別演習Ⅲ （SeminarⅢ）			担当教員	伊東　知之
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−G−2454	2単位	4年後期	演習	必修

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　特別演習・卒業研究

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果（教育目標）

探究的・協働的な態度で課題解決に取り組む意欲並びに能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力（汎用的能力）

□体系的な知識･技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成･社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
■自己理解･自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

授業の内容

「子ども教育特別演習Ⅰ・Ⅱ」を踏まえ、自身が設定した造形、美術教育等の研究課題をさらに深め、完成度の高い卒業研究となるように定期的な報告、検討を重ねながら進めていく。制作を伴うものについては、制作技術について学ぶとともに制作過程や制作方法等についてもレポートとしてまとめ、作品とともに総合的な研究としていく。

授業の到達目標

・研究内容について説明することができる。
・研究方法や研究計画について説明することができる。

アクティブ・ラーニング

■課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　□グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等）　□実習、フィールドワーク　■実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：これまでの経過確認と今後の計画について
　事前学習：最終テーマと計画表を作成してくる。（2時間）
　事後学習：最終テーマと計画表の詳細を作成する。（2時間）
第2回：各自の研究、制作（PBL、実技）
　事前学習：テーマの課題と内容をまとめておく。（2時間）
　事後学習：テーマの課題について調べる。（2時間）
第3回：各自の研究、制作（PBL、実技）
　事前学習：テーマの課題と内容をまとめておく。（2時間）
　事後学習：テーマの課題について調べる。（2時間）
第4回：各自の研究、制作（PBL、実技）
　事前学習：テーマの課題と内容をまとめておく。（2時間）
　事後学習：テーマの課題について調べる。（2時間）
第5回：各自の研究、制作（PBL、実技）
　事前学習：テーマの課題と内容をまとめておく。（2時間）
　事後学習：テーマの課題について調べる。（2時間）
第6回：中間発表（発表）
　事前学習：発表用資料を作成する。（2時間）
　事後学習：質問、課題項目をまとめて、調べる。（2時間）
第7回：各自の研究、制作（PBL、実技）
　事前学習：テーマの内容と課題をまとめておく。（2時間）
　事後学習：テーマの課題について調べる。（2時間）

第８回：各自の研究、制作（PBL、実技）
　　事前学習：テーマの内容、課題をまとめておく。（２時間）
　　事後学習：テーマの課題について調べる。（２時間）
第９回：各自の研究、制作（PBL、実技）
　　事前学習：テーマの内容、課題をまとめておく。（２時間）
　　事後学習：テーマの課題について調べる。（２時間）
第10回：各自の研究、制作（PBL、実技）
　　事前学習：テーマの内容、課題をまとめておく。（２時間）
　　事後学習：テーマの課題について調べる。（２時間）
第11回：研究のまとめ（PBL、実技）
　　事前学習：報告書・論文の構成をまとめる。（２時間）
　　事後学習：質問、課題を調べて、まとめる。（２時間）
第12回：研究のまとめ（PBL、実技）
　　事前学習：テーマの課題をまとめておく。（２時間）
　　事後学習：テーマの内容を報告書・論文としてまとめる。（２時間）
第13回：研究のまとめ（PBL、実技）
　　事前学習：報告書・論文作成についての課題をまとめる。（２時間）
　　事後学習：課題を調査し、報告書・論文としてまとめる。（２時間）
第14回：研究のまとめ（PBL、実技）
　　事前学習：報告書・論文作成についての課題をまとめる。（２時間）
　　事後学習：課題を調査し、報告書・論文としてまとめる。（２時間）
第15回：まとめ・報告書・論文の提出。（発表）
　　事前学習：研究課題について報告書・論文にまとめ、要旨、発表用スライドを作成する。（２時間）
　　事後学習：報告書・作品・論文、要旨を提出し、発表のリハーサルを行う。（２時間）

授業実施方法（面接授業・遠隔授業）

原則として「面接授業」を行います。
ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。
遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成　績　評　価　方　法

報告内容（80%）、平常点（20%）
（平常点は、授業への参加状況、受講態度、提出物の提出状況等を総合して判断します。）

成　績　評　価　基　準

・研究内容について説明することができる。
・研究課題や研究計画について説明することができる。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック

１）授業時の課題に対するフィードバックについて
　■授業時　□仁大eラーニング　□メール　■その他（添削、コメントを書いて返却）
２）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
　■授業時　□仁大eラーニング　□メール　■その他（添削、コメントを書いて返却）
３）小レポートに対するフィードバックについて
　■授業時　□仁大eラーニング　□メール　■その他（添削、コメントを書いて返却）
４）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
　□定期試験時　□仁大eラーニング　□メール　■その他（添削、コメントを書いて返却）
５）その他
　□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他

実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）

テ　キ　ス　ト、参　考　図　書

必要に応じて指示する。

その他（受講上の注意）

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

子ども教育特別演習Ⅲ (SeminarⅢ)			担当教員	篭谷　隆弘
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE-G-2454	2単位	4年後期	演習	必修

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　特別演習・卒業研究

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

探究的・協働的な態度で課題解決に取り組む意欲並びに能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□体系的な知識･技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成･社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解･自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

授業の内容

卒業研究テーマについての報告と議論

授業の到達目標

設定したテーマについて研究したことを中心に、その報告と議論を行うことで、自身および他者の研究内容について理解を深め評価を行えるようになる。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　□グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等）　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：進捗報告①
　事前学習：進めた研究に関して進捗報告の準備を行う。（3時間）
　事後学習：指摘された内容に基づきどのように研究を進めるか検討する。（1時間）
第2回：進捗報告②
　事前学習：進めた研究に関して進捗報告の準備を行う。（3時間）
　事後学習：指摘された内容に基づきどのように研究を進めるか検討する。（1時間）
第3回：進捗報告③
　事前学習：進めた研究に関して進捗報告の準備を行う。（3時間）
　事後学習：指摘された内容に基づきどのように研究を進めるか検討する。（1時間）
第4回：進捗報告④
　事前学習：進めた研究に関して進捗報告の準備を行う。（3時間）
　事後学習：指摘された内容に基づきどのように研究を進めるか検討する。（1時間）
第5回：進捗報告⑤
　事前学習：進めた研究に関して進捗報告の準備を行う。（3時間）
　事後学習：指摘された内容に基づきどのように研究を進めるか検討する。（1時間）
第6回：進捗報告⑥
　事前学習：進めた研究に関して進捗報告の準備を行う。（3時間）
　事後学習：指摘された内容に基づきどのように研究を進めるか検討する。（1時間）
第7回：進捗報告⑦
　事前学習：進めた研究に関して進捗報告の準備を行う。（3時間）
　事後学習：指摘された内容に基づきどのように研究を進めるか検討する。（1時間）
第8回：進捗報告⑧
　事前学習：進めた研究に関して進捗報告の準備を行う。（3時間）
　事後学習：指摘された内容に基づきどのように研究を進めるか検討する。（1時間）

第９回：進捗報告⑨
　　事前学習：進めた研究に関して進捗報告の準備を行う。（３時間）
　　事後学習：指摘された内容に基づきどのように研究を進めるか検討する。（１時間）
第10回：進捗報告⑩
　　事前学習：進めた研究に関して進捗報告の準備を行う。（３時間）
　　事後学習：指摘された内容に基づきどのように研究を進めるか検討する。（１時間）
第11回：論文内容の確認①
　　事前学習：論文内容について検討する。（３時間）
　　事後学習：指摘された内容に基づきどのように校正するか検討する。（１時間）
第12回：論文内容の確認②
　　事前学習：論文内容について検討する。（３時間）
　　事後学習：指摘された内容に基づきどのように校正するか検討する。（１時間）
第13回：論文内容の確認③
　　事前学習：論文内容について検討する。（３時間）
　　事後学習：指摘された内容に基づきどのように校正するか検討する。（１時間）
第14回：成果発表（発表）
　　事前学習：発表資料を作成しておく（３時間）
　　事後学習：指摘された内容に基づきどのように校正するか検討する。（１時間）
第15回：成果発表（発表）
　　事前学習：発表資料を作成しておく（４時間）

授業実施方法（面接授業・遠隔授業）

原則として「面接授業」を行います。
ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。
遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成　績　評　価　方　法

平常点100%（受講態度、研究計画に対する達成状況により総合的に判断する。）

成　績　評　価　基　準

設定したテーマについて研究したことを中心に定期的に報告が行えたか。自身および他者の研究内容について理解を深め評価を行えるようになったか。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック

１）授業時の課題に対するフィードバックについて
　■授業時　■仁大eラーニング　□メール　□その他
２）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
　■授業時　■仁大eラーニング　■メール　■その他（ファイル共有システム）
３）小レポートに対するフィードバックについて
　□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
４）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
　□定期試験時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
５）その他
　□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他

実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）

テ　キ　ス　ト　、　参　考　図　書

特に指定しないが、選定した研究テーマに関する書籍を多く読むこと。

その他（受講上の注意）

授業の大半は、担当教員と相談の上各自が設定する計画に基づき、授業時間外に自主的に進めてきたことの報告と、それに対する助言や議論・次の計画の時間に充てる。
従って、授業時間外も意欲をもち積極的に研究に取り組む必要がある。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

子ども教育特別演習Ⅲ （SeminarⅢ）			担当教員	鈴木　智子
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−G−2454	2単位	4年後期	演習	必修

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　特別演習・卒業研究

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果（教育目標）

探究的・協働的な態度で課題解決に取り組む意欲並びに能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力（汎用的能力）

■体系的な知識･技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成･社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解･自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

授業の内容

「子ども教育特別演習Ⅱ」での研究成果を踏まえて、自主的研究のための課題をそれぞれが設定し、研究計画をたてる。その計画に沿ってそれぞれが研究成果を発表するとともに、相互理解・相互批判を繰り返しつつ研究を深めていく。まとめた研究を他者にわかりやすいものにするため、プレゼンテーションや質疑応答の準備を行う。

授業の到達目標

研究計画を立てて、研究を進めることができる。
他者の研究について批判的検討ができる。
論文の書き方を修得する。
研究成果のプレゼンテーション能力を養う。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習（PBL）　■討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　□グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等）　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：オリエンテーション
　事前学習：これまでの学習を振り返り、探求したい自己のテーマを決めてくる（2時間）
　事後学習：授業内容を踏まえて、探求したい自己のテーマを精査する（2時間）
第2回：研究発表と討論1
　事前学習：テーマに関する先行研究をまとめてレジュメを作成する（2時間）
　事後学習：授業での討論を踏まえて、レジュメを見直し、研究のまとめを作成する（2時間）
第3回：研究発表と討論2
　事前学習：テーマに関する先行研究をまとめてレジュメを作成する（2時間）
　事後学習：授業での討論を踏まえて、レジュメを見直し、研究のまとめを作成する（2時間）
第4回：研究発表と討論3
　事前学習：テーマに関する先行研究をまとめてレジュメを作成する（2時間）
　事後学習：授業での討論を踏まえて、レジュメを見直し、研究のまとめを作成する（2時間）
第5回：研究発表と討論4
　事前学習：テーマに関する先行研究をまとめてレジュメを作成する（2時間）
　事後学習：授業での討論を踏まえて、レジュメを見直し、研究のまとめを作成する（2時間）
第6回：研究発表と討論5
　事前学習：テーマに関する先行研究をまとめてレジュメを作成する（2時間）
　事後学習：授業での討論を踏まえて、レジュメを見直し、研究のまとめを作成する（2時間）
第7回：研究発表と討論6
　事前学習：テーマに関する先行研究をまとめてレジュメを作成する（2時間）
　事後学習：授業での討論を踏まえて、レジュメを見直し、研究のまとめを作成する（2時間）

第８回：研究発表と討論７
　　事前学習：テーマに関する先行研究をまとめてレジュメを作成する（２時間）
　　事後学習：授業での討論を踏まえて、レジュメを見直し、研究のまとめを作成する（２時間）
第９回：中間のまとめ
　　事前学習：これまでの授業内容を振り返り、テーマに関して得られた知識をまとめておく（２時間）
　　事後学習：授業内容を踏まえて、保育・教育に対する問題意識を明確にする（２時間）
第10回：研究のまとめと口頭発表の準備
　　事前学習：研究をまとめ、他者にわかりやすく説明するため、PPTの作成を行う（２時間）
　　事後学習：授業内の討論を振り返り、自分の発表内容を修正する（２時間）
第11回：研究のまとめと口頭発表の準備
　　事前学習：研究をまとめ、他者にわかりやすく説明するため、PPTの作成を行う（２時間）
　　事後学習：授業内の討論を振り返り、自分の発表内容を修正する（２時間）
第12回：研究のまとめと口頭発表の準備
　　事前学習：研究をまとめ、他者にわかりやすく説明するため、PPTの作成を行う（２時間）
　　事後学習：授業内の討論を振り返り、自分の発表内容を修正する（２時間）
第13回：研究のまとめと口頭発表の準備
　　事前学習：研究をまとめ、他者にわかりやすく説明するため、PPTの作成を行う（２時間）
　　事後学習：授業内の討論を振り返り、自分の発表内容を修正する（２時間）
第14回：研究のまとめと口頭発表の準備
　　事前学習：研究をまとめ、他者にわかりやすく説明するため、PPTの作成を行う（２時間）
　　事後学習：授業内の討論を振り返り、自分の発表内容を修正する（２時間）
第15回：まとめ
　　事前学習：研究発表のための質疑応答の準備をしておく（２時間）
　　事後学習：研究を振り返り、反省点や改善点をまとめる（２時間）

授業実施方法（面接授業・遠隔授業）

原則として「面接授業」を行います。
ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。
遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成　績　評　価　方　法

発表内容（50%）、討論への参加態度（30%）、平常点（20%）
（平常点は、授業への参加状況、受講態度等を総合して判断する）

成　績　評　価　基　準

研究計画を立てて、研究を進めることができるか。
他者の研究について批判的検討ができるか。
論文の書き方を修得できているか。
研究成果のプレゼンテーション能力を養うことができているか。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック

１）授業時の課題に対するフィードバックについて
　■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
２）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
　□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
３）小レポートに対するフィードバックについて
　□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
４）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
　□定期試験時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
５）その他
　□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他

実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）

テキスト、参考図書

テキストは用いない。受講生のテーマに応じて、適宜参考図書を紹介する。

その他（受講上の注意）

オフィスアワー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

子ども教育特別演習Ⅲ （SeminarⅢ）			担当教員	高野　秀晴
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−G−2454	2単位	4年後期	演習	必修

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　特別演習・卒業研究

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果（教育目標）

探究的・協働的な態度で課題解決に取り組む意欲並びに能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力（汎用的能力）

■体系的な知識･技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成･社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
■自己理解･自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

授業の内容

「子ども教育特別演習Ⅱ」に引き続き、研究を進めていく。これらの演習を通して専門分野に関する研究方法を習得すると同時に、卒業研究へとつなげていく。

授業の到達目標

各自の研究課題を先行研究との関連のもとに、明確に記述することができる。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習（PBL）　■討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　□グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等）　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：研究経過報告1（発表、討議）
　事前学習：事前に配布された参考文献を精読し、疑問点などをまとめておく。（2時間）
　事後学習：当日の議論を踏まえて、参考文献を読み直す。（2時間）
第2回：研究経過報告2（発表、討議）
　事前学習：事前に配布された参考文献を精読し、疑問点などをまとめておく。（2時間）
　事後学習：当日の議論を踏まえて、参考文献を読み直す。（2時間）
第3回：研究経過報告3（発表、討議）
　事前学習：事前に配布された参考文献を精読し、疑問点などをまとめておく。（2時間）
　事後学習：当日の議論を踏まえて、参考文献を読み直す。（2時間）
第4回：研究経過報告4（発表、討議）
　事前学習：事前に配布された参考文献を精読し、疑問点などをまとめておく。（2時間）
　事後学習：当日の議論を踏まえて、参考文献を読み直す。（2時間）
第5回：研究経過報告5（発表、討議）
　事前学習：事前に配布された参考文献を精読し、疑問点などをまとめておく。（2時間）
　事後学習：当日の議論を踏まえて、参考文献を読み直す。（2時間）
第6回：研究経過報告6（発表、討議）
　事前学習：事前に配布された参考文献を精読し、疑問点などをまとめておく。（2時間）
　事後学習：当日の議論を踏まえて、参考文献を読み直す。（2時間）
第7回：研究経過報告7（発表、討議）
　事前学習：事前に配布された参考文献を精読し、疑問点などをまとめておく。（2時間）
　事後学習：当日の議論を踏まえて、参考文献を読み直す。（2時間）
第8回：研究経過報告8（発表、討議）
　事前学習：事前に配布された参考文献を精読し、疑問点などをまとめておく。（2時間）
　事後学習：当日の議論を踏まえて、参考文献を読み直す。（2時間）

第９回：研究経過報告９（発表、討議）
　　事前学習：事前に配布された参考文献を精読し、疑問点などをまとめておく。（２時間）
　　事後学習：当日の議論を踏まえて、参考文献を読み直す。（２時間）
第10回：研究経過報告10（発表、討議）
　　事前学習：事前に配布された参考文献を精読し、疑問点などをまとめておく。（２時間）
　　事後学習：当日の議論を踏まえて、参考文献を読み直す。（２時間）
第11回：研究経過報告11（発表、討議）
　　事前学習：事前に配布された参考文献を精読し、疑問点などをまとめておく。（２時間）
　　事後学習：当日の議論を踏まえて、参考文献を読み直す。（２時間）
第12回：研究経過報告12（発表、討議）
　　事前学習：事前に配布された参考文献を精読し、疑問点などをまとめておく。（２時間）
　　事後学習：当日の議論を踏まえて、参考文献を読み直す。（２時間）
第13回：研究経過報告13（発表、討議）
　　事前学習：事前に配布された参考文献を精読し、疑問点などをまとめておく。（２時間）
　　事後学習：当日の議論を踏まえて、参考文献を読み直す。（２時間）
第14回：研究経過報告14（発表、討議）
　　事前学習：事前に配布された参考文献を精読し、疑問点などをまとめておく。（２時間）
　　事後学習：当日の議論を踏まえて、参考文献を読み直す。（２時間）
第15回：研究経過報告15（発表、討議）
　　事前学習：事前に配布された参考文献を精読し、疑問点などをまとめておく。（２時間）
　　事後学習：当日の議論を踏まえて、参考文献を読み直す。（２時間）

授業実施方法（面接授業・遠隔授業）

原則として「面接授業」を行います。
ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。
遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成　績　評　価　方　法

発表内容（100％）

成　績　評　価　基　準

各自の研究課題を先行研究との関連のもとに、論理的に記述することができるか。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック

１）授業時の課題に対するフィードバックについて
　□授業時　　□仁大eラーニング　　□メール　　□その他
２）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
　■授業時　　□仁大eラーニング　　□メール　　□その他
３）小レポートに対するフィードバックについて
　□授業時　　□仁大eラーニング　　□メール　　□その他
４）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
　□定期試験時　　□仁大eラーニング　　□メール　　□その他
５）その他
　□授業時　　□仁大eラーニング　　□メール　　□その他

実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）

テキスト、参考図書

必要に応じて資料を配布する。

その他（受講上の注意）

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

子ども教育特別演習Ⅲ (SeminarⅢ)			担当教員	中野　研也
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE-G-2454	2単位	4年後期	演習	必修

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　特別演習・卒業研究

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

探究的・協働的な態度で課題解決に取り組む意欲並びに能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識･技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成･社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解･自己管理能力　□諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

授業の内容

子ども教育特別演習IIで研究した音楽または音楽関連についてさらに深く検証し、卒業研究へと繋げる。

授業の到達目標

1．音楽に関する知識と理解を深める。
2．音楽を通して豊かな教養を身に付け、教育・保育に活かす。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習（PBL）　■討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等）　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：実践の検証と発表、討議 1（ディスカッション）
　事前学習：発表のための資料を準備しておくこと。（2時間）
　事後学習：討議で出された意見や指摘を研究内容に反映させる。（2時間）
第2回：実践の検証と発表、討議 2（ディスカッション）
　事前学習：発表のための資料を準備しておくこと。（2時間）
　事後学習：討議で出された意見や指摘を研究内容に反映させる。（2時間）
第3回：実践の検証と発表、討議 3（ディスカッション）
　事前学習：発表のための資料を準備しておくこと。（2時間）
　事後学習：討議で出された意見や指摘を研究内容に反映させる。（2時間）
第4回：実践の検証と発表、討議 4（ディスカッション）
　事前学習：発表のための資料を準備しておくこと。（2時間）
　事後学習：討議で出された意見や指摘を研究内容に反映させる。（2時間）
第5回：実践の検証と発表、討議 5（ディスカッション）
　事前学習：発表のための資料を準備しておくこと。（2時間）
　事後学習：討議で出された意見や指摘を研究内容に反映させる。（2時間）
第6回：実践の検証と発表、討議 6（ディスカッション）
　事前学習：発表のための資料を準備しておくこと。（2時間）
　事後学習：討議で出された意見や指摘を研究内容に反映させる。（2時間）
第7回：実践の検証と発表、討議 7（ディスカッション）
　事前学習：発表のための資料を準備しておくこと。（2時間）
　事後学習：討議で出された意見や指摘を研究内容に反映させる。（2時間）
第8回：実践の検証と発表、討議 8（ディスカッション）
　事前学習：発表のための資料を準備しておくこと。（2時間）
　事後学習：討議で出された意見や指摘を研究内容に反映させる。（2時間）

第９回：実践の検証と発表、討議 9（ディスカッション）
　　事前学習：発表のための資料を準備しておくこと。（２時間）
　　事後学習：討議で出された意見や指摘を研究内容に反映させる。（２時間）
第10回：実践の検証と発表、討議10（ディスカッション）
　　事前学習：発表のための資料を準備しておくこと。（２時間）
　　事後学習：討議で出された意見や指摘を研究内容に反映させる。（２時間）
第11回：卒業研究論文（実践報告書）作成 1（ディスカッション、グループワーク）
　　事前学習：卒業研究論文を整えておくこと。（２時間）
　　事後学習：担当教員の意見や指摘を執筆内容に反映させる。（２時間）
第12回：卒業研究論文（実践報告書）作成 2（ディスカッション、グループワーク）
　　事前学習：前回出された意見や指摘をもとに、卒業研究論文を整えておくこと。（２時間）
　　事後学習：卒業研究論文の執筆内容を確認の後、提出する。（２時間）
第13回：「卒業研究要旨集」レジュメ作成、口頭発表準備 1（ディスカッション、グループワーク）
　　事前学習：口頭発表のためのスライド作成を開始しておくこと。（２時間）
　　事後学習：スライドの修正。（２時間）
第14回：「卒業研究要旨集」レジュメ作成、口頭発表準備 2（発表、ディスカッション）
　　事前学習：口頭発表のためのスライドを完成させておくこと。（２時間）
　　事後学習：発表のための練習を行う。（２時間）
第15回：「卒業研究要旨集」レジュメ作成、口頭発表準備 3（発表、ディスカッション）
　　事前学習：配付資料の準備をしておくこと。（２時間）
　　事後学習：配付資料の印刷と、発表のための練習を行う。（２時間）

１．文献等の情報収集に努め、要点をまとめておくこと。
２．実技や作品発表の場合は、練習や製作に励むこと。

授業実施方法（面接授業・遠隔授業）

原則として「面接授業」を行います。
ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。
遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成　績　評　価　方　法

授業に対する姿勢（50%）、およびレポートなどの提出物（50%）を総合して評価する。

成　績　評　価　基　準

音楽および音楽関連についての知識が深まったか。
実技もしくは作品発表のために必要な技術が身についたか。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック

１）授業時の課題に対するフィードバックについて
　■授業時　□仁大eラーニング　□メール　■その他（Teams）
２）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
　■授業時　□仁大eラーニング　□メール　■その他（Teams）
３）小レポートに対するフィードバックについて
　■授業時　□仁大eラーニング　□メール　■その他（Teams）
４）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
　□定期試験時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
５）その他
　□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他

実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）

テキスト、参考図書

ゼミ生の主体的な研究テーマを出発点とするため、共通のテキストは用いない。

その他（受講上の注意）

毎回のゼミで提出あるいは作成したレポート等は、卒業論文執筆のための大切な資料となります。レポートの作成にあたっては、常に最終目的を意識してください。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

子ども教育特別演習Ⅲ (SeminarⅢ)			担当教員	西出　和彦
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−G−2454	2単位	4年後期	演習	必修

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　特別演習・卒業研究

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

探究的・協働的な態度で課題解決に取り組む意欲並びに能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識･技能　■論理的思考力と創造力　■人間関係形成･社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
■自己理解･自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

授業の内容

卒業研究のまとめ方、発表の仕方、ディスカッションの仕方等を学び、各自の研究内容をより深化させる。さらに、他人の研究に対しても、適切なコメントを述べることができるように心がける。

授業の到達目標

各自の研究テーマについて適切に考察し、分かりやすく発表し、活発にディスカッションすることができる。他人の研究に対しても適切なコメントを述べることができる。

アクティブ・ラーニング

■課題解決型学習（PBL）　■討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　□グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等）　□実習、フィールドワーク　■実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：卒論執筆の概要（PBL、ディスカッション）
　事前学習：論文執筆のための見通しをもつ（2時間）。
　事後学習：材料と方法の確認を行う（2時間）。
第2回：卒業論文の「材料・方法」の完成（PBL、ディスカッション）
　事前学習：材料と方法についてまとめる（2時間）。
　事後学習：添削に従い、修正する（2時間）。
第3回：卒業論文の「結果」の骨格（PBL、ディスカッション）
　事前学習：結果の図やグラフを作成する（2時間）。
　事後学習：添削に従い、修正する（2時間）。
第4回：卒業論文の「結果」の完成（PBL、ディスカッション）
　事前学習：結果の図やグラフを作成する（2時間）。
　事後学習：添削に従い、修正する（2時間）。
第5回：卒業論文の「考察」の骨格（PBL、ディスカッション）
　事前学習：結果から分かることを整理する（2時間）。
　事後学習：添削に従い、修正する（2時間）。
第6回：卒業論文の「考察」の完成（PBL、ディスカッション）
　事前学習：課題設定における問題提起と結果との整合性を確認する（2時間）。
　事後学習：添削に従い、修正する（2時間）。
第7回：卒業論文の「はじめに」の骨格（PBL、ディスカッション）
　事前学習：先行研究を整理し、課題の背景と問題提起を整理する（2時間）。
　事後学習：添削に従い、修正する（2時間）。
第8回：卒業論文の「はじめに」の完成（PBL、ディスカッション）
　事前学習：問題提起と考察との整合性を確認する（2時間）。
　事後学習：添削に従い、修正する（2時間）。

第９回：卒業論文の引用文献、目次等の完成（PBL、ディスカッション）
事前学習：引用文献、参考文献の記載を確認し、最後に目次を完成させる（２時間）。
事後学習：卒業論文の最終チェックの準備を行う（２時間）。
第10回：卒業論文の最終チェック（PBL、ディスカッション）
事前学習：卒綾論文の誤字、脱字など最終チェックを行う（２時間）。
事後学習：修正点の確認を行う（２時間）。
第11回：卒業論文の完成（PBL、ディスカッション）
事前学習：卒業論文を完成させる（２時間）。
事後学習：卒業論文に沿って、要旨の作成に入る（２時間）。
第12回：卒業研究要旨の作成（PBL、ディスカッション）
事前学習：要旨を完成させる（２時間）。
事後学習：要旨に基づいて、発表スライドを作成する（２時間）。
第13回：卒業研究発表練習①（発表）
事前学習：発表のための準備を行う（２時間）。
事後学習：発表練習を振り返り、発表の修正を行う（２時間）。
第14回：卒業研究発表練習②（発表）
事前学習：１回目の発表練習の結果をもとに準備を行う（２時間）。
事後学習：発表練習の結果に基づき発表の修正を行うとともに､予想される質問について考察する（２時間）。
第15回：卒業研究発表練習③（発表）
事前学習：発表のための準備を行う（２時間）。
事後学習：発表会を振り返り、今後の課題を整理する（２時間）。

授業実施方法（面接授業・遠隔授業）

原則として「面接授業」を行います。
ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。
遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成　績　評　価　方　法

平常点（100％）
※平常点は普段の研究に対する取り組みを総合的に判断します。

成　績　評　価　基　準

（１）設定した課題に対して明快に答えているか。
（２）仮説を適切に検証しているか。
（３）結果を適切に考察しているか。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック

１）授業時の課題に対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　■メール　□その他
２）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　■メール　□その他
３）小レポートに対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　■メール　□その他
４）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
□定期試験時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
５）その他
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他

実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）

テ　キ　ス　ト　、　参　考　図　書

必要に応じて提示する。

その他（受講上の注意）

学外での授業研究会や学会等への参加、支援活動等も含まれる。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

子ども教育特別演習Ⅲ (SeminarⅢ)			担当教員	青井　夕貴
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE-G-2454	2単位	4年後期	演習	必修

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　特別演習・卒業研究

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

探求的・協働的な態度で課題解決に取り組む意欲並びに能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識･技能　■論理的思考力と創造力　■人間関係形成･社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
■自己理解･自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　■キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

授業の内容

「子ども教育特別演習Ⅱ」に引き続き授業を進めていく。これらの演習を通して、専門分野に関する研究方法を理解するとともに、卒業研究へとつなげていく。

授業の到達目標

研究計画に沿って、研究を進めることができる。
自他の研究について、批判的・論理的思考をもって検討することができる。
自分の研究結果や考察をまとめることができる。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習（PBL）　■討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　□グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等）　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：研究経過報告（結果）と議論①
　事前学習：自分の研究に関する資料作成や調査等に取り組み、まとめる。（2時間）
　事後学習：自他の発表と議論で学んだことを踏まえて、自分の研究を進めていく。（2時間）
第2回：研究経過報告（結果）と議論②
　事前学習：自分の研究に関する資料作成や調査等に取り組み、まとめる。（2時間）
　事後学習：自他の発表と議論で学んだことを踏まえて、自分の研究を進めていく。（2時間）
第3回：研究経過報告（結果）と議論③
　事前学習：自分の研究に関する資料作成や調査等に取り組み、まとめる。（2時間）
　事後学習：自他の発表と議論で学んだことを踏まえて、自分の研究を進めていく。（2時間）
第4回：研究経過報告（結果）と議論④
　事前学習：自分の研究に関する資料作成や調査等に取り組み、まとめる。（2時間）
　事後学習：自他の発表と議論で学んだことを踏まえて、自分の研究を進めていく。（2時間）
第5回：研究経過報告（結果）と議論⑤
　事前学習：自分の研究に関する資料作成や調査等に取り組み、まとめる。（2時間）
　事後学習：自他の発表と議論で学んだことを踏まえて、自分の研究を進めていく。（2時間）
第6回：研究経過報告（考察）と議論①
　事前学習：自分の研究に関する資料作成や調査等に取り組み、まとめる。（2時間）
　事後学習：自他の発表と議論で学んだことを踏まえて、自分の研究を進めていく。（2時間）
第7回：研究経過報告（考察）と議論②
　事前学習：自分の研究に関する資料作成や調査等に取り組み、まとめる。（2時間）
　事後学習：自他の発表と議論で学んだことを踏まえて、自分の研究を進めていく。（2時間）
第8回：研究経過報告（考察）と議論③
　事前学習：自分の研究に関する資料作成や調査等に取り組み、まとめる。（2時間）
　事後学習：自他の発表と議論で学んだことを踏まえて、自分の研究を進めていく。（2時間）

第９回：研究経過報告（考察）と議論④
　　事前学習：自分の研究に関する資料作成や調査等に取り組み、まとめる。（２時間）
　　事後学習：自他の発表と議論で学んだことを踏まえて、自分の研究を進めていく。（２時間）
第10回：研究経過報告（考察）と議論⑤
　　事前学習：自分の研究に関する資料作成や調査等に取り組み、まとめる。（２時間）
　　事後学習：自他の発表と議論で学んだことを踏まえて、自分の研究を進めていく。（２時間）
第11回：卒業研究発表の準備①
　　事前学習：自分の研究に関する資料作成や調査等をまとめ、発表の準備をする。（２時間）
　　事後学習：自他の発表と議論で学んだことを踏まえて、修正する。（２時間）
第12回：卒業研究発表の準備②
　　事前学習：自分の研究に関する資料作成や調査等をまとめ、発表の準備をする。（２時間）
　　事後学習：自他の発表と議論で学んだことを踏まえて、修正する。（２時間）
第13回：卒業研究発表の準備③
　　事前学習：自分の研究に関する資料作成や調査等をまとめ、発表の準備をする。（２時間）
　　事後学習：自他の発表と議論で学んだことを踏まえて、修正する。（２時間）
第14回：卒業研究発表の準備④
　　事前学習：自分の研究に関する資料作成や調査等をまとめ、発表の準備をする。（２時間）
　　事後学習：自他の発表と議論で学んだことを踏まえて、修正する。（２時間）
第15回：卒業研究発表の準備⑤
　　事前学習：自分の研究に関する資料作成や調査等をまとめ、発表の準備をする。（２時間）
　　事後学習：自他の発表と議論で学んだことを踏まえて、修正する。（２時間）

授業実施方法（面接授業・遠隔授業）

原則として「面接授業」を行います。
ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。
遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成　績　評　価　方　法

発表内容（50%）、議論への参加状況（50%）

成　績　評　価　基　準

研究計画に沿って、研究を進めることができたか。
自他の研究について、批判的・論理的思考をもって検討することができたか。
自分の研究結果や考察をまとめることができたか。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック

１）授業時の課題に対するフィードバックについて
　■授業時　　□仁大eラーニング　　□メール　　□その他
２）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
　■授業時　　□仁大eラーニング　　□メール　　□その他
３）小レポートに対するフィードバックについて
　■授業時　　□仁大eラーニング　　□メール　　□その他
４）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
　□定期試験時　　□仁大eラーニング　　□メール　　□その他
５）その他
　□授業時　　□仁大eラーニング　　□メール　　□その他

実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）

テ　キ　ス　ト　、　参　考　図　書

テキストは使用しない。参考図書は、必要に応じて適宜紹介する。

その他（受講上の注意）

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

子ども教育特別演習Ⅲ (SeminarⅢ)			担当教員	乙部　貴幸
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE-G-2454	2単位	4年後期	演習	必修

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　特別演習・卒業研究

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

探究的・協働的な態度で課題解決に取り組む意欲並びに能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□体系的な知識･技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成･社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解･自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプラニング能力

資格・免許の要件

授業の内容

各自の卒業論文のテーマに深く関連すると思われる研究資料について意見交換や情報収集と評価を行う。
・研究論文や図書の中から深く関わる資料を選択し、それらの内容を正しく理解した上で自分なりに評価する。
・実験・調査を行う場合には、得られたデータを正しく解析・解釈する。

授業の到達目標

・先行研究、自らが行う研究それぞれの「意義」を自分なりに考え、説明できる。
・先行研究の成果と意義を理解し自分なりに評価することができるようにする。
・実験・調査を行う際には、正当な手続きによってデータを収集し、それらを適切に解析・解釈できる。

アクティブ・ラーニング

■課題解決型学習（PBL）　■討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　□グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等）　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

同時進行の各自の卒業論文の作成に深くあるいは周辺的に関連すると思われる各種の図書や研究論文を収集し、読み、自分の構想の中に位置づけていく。
第1回：関連資料の発表と評価①（PBL、討議、発表）
　　事前学習：発表準備（2時間）
　　事後学習：授業後のまとめ（2時間）
第2回：関連資料の発表と評価②（PBL、討議、発表）
　　事前学習：発表準備（2時間）
　　事後学習：授業後のまとめ（2時間）
第3回：関連資料の発表と評価③（PBL、討議、発表）
　　事前学習：発表準備（2時間）
　　事後学習：授業後のまとめ（2時間）
第4回：関連資料の発表と評価④（PBL、討議、発表）
　　事前学習：発表準備（2時間）
　　事後学習：授業後のまとめ（2時間）
第5回：関連資料の発表と評価⑤（討議、発表）
　　事前学習：発表準備（2時間）
　　事後学習：授業後のまとめ（2時間）
第6回：関連資料の発表と評価⑥（討議、発表）
　　事前学習：発表準備（2時間）
　　事後学習：授業後のまとめ（2時間）
第7回：関連資料または構想発表と評価①（討議、発表）
　　事前学習：発表準備（2時間）
　　事後学習：授業後のまとめ（2時間）

第８回：関連資料または構想発表と評価②（討議、発表）
　　事前学習：発表準備（２時間）
　　事後学習：授業後のまとめ（２時間）
第９回：関連資料または構想発表と評価③（討議、発表）
　　事前学習：発表準備（２時間）
　　事後学習：授業後のまとめ（２時間）
第10回：関連資料または構想発表と評価④（討議、発表）
　　事前学習：発表準備（２時間）
　　事後学習：授業後のまとめ（２時間）
第11回：関連資料または構想発表と評価⑤（討議、発表）
　　事前学習：発表準備（２時間）
　　事後学習：授業後のまとめ（２時間）
第12回：卒業論文のアドバイスおよび意見交換①（討議、発表）
　　事前学習：発表準備（２時間）
　　事後学習：授業後のまとめ（２時間）
第13回：卒業論文のアドバイスおよび意見交換②（討議、発表）
　　事前学習：発表準備（２時間）
　　事後学習：授業後のまとめ（２時間）
第14回：子ども教育との関連性の確認①（PBL、討議、発表）
　　事前学習：発表準備（２時間）
　　事後学習：授業後のまとめ（２時間）
第15回：子ども教育との関連性の確認②（PBL、討議、発表）
　　事前学習：発表準備（２時間）
　　事後学習：授業後のまとめ（２時間）

あらゆる機会を見つけて卒業論文に関連する資料を収集・検討する努力を惜しまないこと。

授業実施方法（面接授業・遠隔授業）

原則として「面接授業」を行います。
ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。
遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成　績　評　価　方　法

発表および意見交換の活動に関して100パーセント。

成　績　評　価　基　準

・専門的な知識の習得
・最近の動向について自分なりの理解と見識を持つことができていること。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック

１）授業時の課題に対するフィードバックについて
　■授業時　　■仁大eラーニング　　■メール　　■その他
２）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
　■授業時　　■仁大eラーニング　　■メール　　■その他
３）小レポートに対するフィードバックについて
　■授業時　　■仁大eラーニング　　■メール　　■その他
４）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
　□定期試験時　　□仁大eラーニング　　□メール　　□その他
５）その他（毎回レポートに対するフィードバックについて）
　■授業時　　■仁大eラーニング■メール　　■その他

実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）

テ　キ　ス　ト　、　参　考　図　書

用いない。参考資料は、ゼミ発表の内容を受けて、授業中に、個別にその都度指示する。

その他（受講上の注意）

授業時間にとどまらず、オフィスアワー等を利用して広く関連する資料の収集に努めること。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

子ども教育特別演習Ⅲ (SeminarⅢ)			担当教員	草桶　勇人
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE-G-2454	2単位	4年後期	演習	必修

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　特別演習・卒業研究

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

探究的・協働的な態度で課題解決に取り組む意欲並びに能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□体系的な知識･技能　■論理的思考力と創造力　■人間関係形成･社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
■自己理解･自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　■キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

授業の内容

各自の研究計画に沿って進めるが、以下に実践研究を想定した授業計画を例として記載する。なお、研究推進上、授業等の実践が必要な場合は、本学との連携協力校等で実施できるような体制を整え、授業後の検討会では、できるだけ現場教師の講評がもらえるよう配慮する。

授業の到達目標

1.「子ども教育特別演習Ⅱ」に引き続き、研究を進めていく。これらの演習を通して専門分野に関する研究方法を習得すると同時に、卒業研究へとつなげていくことができる。
2.「子ども教育特別演習Ⅰ・Ⅱ」を踏まえ、自身が設定した研究テーマをさらに深め、完成度の高い研究になるように定期的な報告を重ねながら研究を進め、その総括として研究成果をまとめてレポートを作成することができる。

アクティブ・ラーニング

■課題解決型学習（PBL）　■討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　□グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等）　■実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：オリエンテーション（課題解決型学習、討議）
　事前学習：各自、前期で策定した研究構想についてさらに検討して、要点をまとめておくこと。（2時間）
　事後学習：研究構想の討議から具体的な取り組み内容とその計画を策定し、リフレクションシートにまとめる。（2時間）
第2回：単元の教材研究（課題解決型学習、討議）
　事前学習：研究課題の仮説に関わる単元について教科書の比較等の教材研究を行い、要点をまとめておくこと。（2時間）
　事後学習：教材研究に関する検討と討議から単元構想を策定し、リフレクションシートにまとめる。（2時間）
第3回：指導案等の作成（課題解決型学習、討議）
　事前学習：単元構想に基づいて仮説を検証する授業時間を確定し、その指導案等を作成しておくこと。（2時間）
　事後学習：仮説検証のための指導案に対する検討討議をもとに再度見直し、リフレクションシートにまとめる。（2時間）
第4回：協力校との打ち合わせ及び授業観察（課題解決型学習、フィールドワーク）
　事前学習：検討討議に基づいて学習指導案を確定しておくこと。（2時間）
　事後学習：協力校の担当教員との打ち合わせ及び当該学級の授業観察から、留意点をまとめ、リフレクションシートにまとめる。（2時間）
第5回：事前アンケート等の検討（課題解決学習、討議）
　事前学習：レディネステストを含む事前・事後アンケートの案を作成しておくこと。（2時間）
　事後学習：事前・事後アンケート等に関する検討討議からその内容を見直し、リフレクションシートにまとめる。（2時間）

第６回：授業及び授業研究会の実施（課題解決学習、実習、討議）
事前学習：授業の準備及び協力校当該学級で事前アンケートの趣旨説明を行い、アンケートを実施しておくこと。（２時間）
事後学習：研究授業の実施と実施後の研究会で出された成果と課題を整理し、リフレクションシートにまとめる。（２時間）
第７回：事後アンケートの実施と事前アンケート等の整理（課題解決学習、個別学習）
事前学習：授業後のアンケート等を当該学級の担任と再度検討し、実施してもらっておくこと。（２時間）
事後学習：事前に実施したアンケート等の整理を行い、リフレクションシートにまとめる。（２時間）
第８回：事後アンケート等の整理（課題解決学習、個別学習）
事前学習：事後アンケート等の結果の整理を行い、要点をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：事後アンケート等の結果の分析方法等について検討したことについて、リフレクションシートにまとめる。（２時間）
第９回：アンケート結果の分析・検討（課題解決学習、討議）
事前学習：事前事後のアンケート等の比較のための資料の作成を行い、要点をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：アンケート結果等の分析結果の妥当性等の検討討議を整理し、要点をリフレクションシートにまとめる。（２時間）
第10回：研究レポートの執筆①（課題解決学習、個別学習）
事前学習：研究レポートの章立て等の構成を検討し、要点をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：研究レポートの構成等の検討討議から章立てを確定し、要点をリフレクションシートにまとめる。（２時間）
第11回：研究レポートの執筆②（課題解決学習、討議）
事前学習：研究レポートの執筆を開始し、本論に相当する授業研究以降の部分の執筆を終えておくこと。（２時間）
事後学習：研究レポートの検討討議から、その課題を整理し、リフレクションシートにまとめる。（２時間）
第12回：研究レポートの執筆③（課題解決学習、討議）
事前学習：研究レポートの検討討議を受け、書き直しておくこと。（２時間）
事後学習：書き直した研究レポートをもとにした検討討議からさらに課題を整理し、リフレクションシートにまとめる。（２時間）
第13回：研究発表会用のプレゼンテーション資料の作成（課題解決学習、討議）
事前学習：研究レポートの最終稿を完成させ、発表会用のプレゼンテーション資料の要点をまとめておくこと。（２時間）
事後学習：発表会用のプレゼンテーション資料の検討討議から、その構成を見直し、リフレクションシートにまとめる。（２時間）
第14回：研究発表会のリハーサル（課題解決学習、発表、討議）
事前学習：検討後の発表会用プレゼンテーション資料を作成しておくこと。（２時間）
事後学習：研究発表リハーサルの検討討議から再度資料を見直して、リフレクションシートにまとめる。（２時間）
第15回：研究発表会（課題解決学習、発表、討議）
事前学習：これまでの討議を踏まえたプレゼンテーション資料を作成しておくこと。（２時間）
事後学習：研究発表とその討議を通して明らかになったことや課題を整理し、研究レポートにまとめ完成させる。（２時間）
各自の研究計画に沿って進める。必要に応じて研究についてのアドバイスを求めること。また、適宜参考資料を紹介するので、熟読し参考とすること。

授業実施方法（面接授業・遠隔授業）

原則として「面接授業」を行います。
ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。
遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成　績　評　価　方　法

リフレクション・レポート（20%）、研究レポート（80%）で総合的に評価する。

成　績　評　価　基　準

・自らが設定した研究テーマを深め、研究成果をレポートにまとめることができたか。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
1）授業時の課題に対するフィードバックについて ■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他 2）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて ■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他 3）小レポートに対するフィードバックについて ■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他 4）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて □定期試験時　□仁大eラーニング　□メール　□その他 5）その他 □授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
テキスト、参考図書
必要に応じて参考書を紹介する。
その他(受講上の注意)
レポートの報告会を節目にして、研究を推進する。
オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

子ども教育特別演習Ⅲ (SeminarⅢ)			担当教員	出村　友寛
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE-G-2454	2単位	4年後期	演習	必修

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　特別演習・卒業研究

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

探究的・協働的な態度で課題解決に取り組む意欲並びに能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□体系的な知識･技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成･社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
■自己理解･自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　■キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

授業の内容

「子ども教育特別演習Ⅱ」に引き続き、研究を進め、卒業研究へとつなげる。
これらの演習を通して、専門分野に関する研究方法を修得する。

授業の到達目標

自分の研究計画にしたがって研究を進め、自らの課題について自分なりの考察と解決方法をまとめることができる。

アクティブ・ラーニング

■課題解決型学習（PBL）　■討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　□グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等）　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：オリエンテーション（ゼミの概要や方針について説明）
　事前学習：関心のある事柄について、論文、著書などから情報を収集しておく。（2時間）
　事後学習：見つかった課題について、論文、著書などで確認しておく。（2時間）
第2回：文献講読①（PBL、ディスカッション、発表）
　事前学習：関心のある事柄について、論文、著書などから情報を収集しておく。（2時間）
　事後学習：見つかった課題について、論文、著書などで確認しておく。（2時間）
第3回：文献講読②（PBL、ディスカッション、発表）
　事前学習：関心のある事柄について、論文、著書などから情報を収集しておく。（2時間）
　事後学習：見つかった課題について、論文、著書などで確認しておく。（2時間）
第4回：文献講読③（PBL、ディスカッション、発表）
　事前学習：関心のある事柄について、論文、著書などから情報を収集しておく。（2時間）
　事後学習：見つかった課題について、論文、著書などで確認しておく。（2時間）
第5回：文献講読④（PBL、ディスカッション、発表）
　事前学習：関心のある事柄について、論文、著書などから情報を収集しておく。（2時間）
　事後学習：見つかった課題について、論文、著書などで確認しておく。（2時間）
第6回：卒業研究指導①（PBL、ディスカッション、発表）
　事前学習：関心のある事柄について、論文、著書などから情報を収集しておく。（2時間）
　事後学習：見つかった課題について、論文、著書などで確認しておく。（2時間）
第7回：卒業研究指導②（PBL、ディスカッション、発表）
　事前学習：関心のある事柄について、論文、著書などから情報を収集しておく。（2時間）
　事後学習：見つかった課題について、論文、著書などで確認しておく。（2時間）
第8回：卒業研究指導③（PBL、ディスカッション、発表）
　事前学習：関心のある事柄について、論文、著書などから情報を収集しておく。（2時間）
　事後学習：見つかった課題について、論文、著書などで確認しておく。（2時間）

第９回：卒業研究指導④（PBL、ディスカッション、発表）
　　事前学習：関心のある事柄について、論文、著書などから情報を収集しておく。（２時間）
　　事後学習：見つかった課題について、論文、著書などで確認しておく。（２時間）
第10回：卒業研究指導⑤（PBL、ディスカッション、発表）
　　事前学習：関心のある事柄について、論文、著書などから情報を収集しておく。（２時間）
　　事後学習：見つかった課題について、論文、著書などで確認しておく。（２時間）
第11回：研究成果の発表①（PBL、ディスカッション、発表）
　　事前学習：関心のある事柄について、論文、著書などから情報を収集しておく。（２時間）
　　事後学習：見つかった課題について、論文、著書などで確認しておく。（２時間）
第12回：研究成果の発表②（PBL、ディスカッション、発表）
　　事前学習：関心のある事柄について、論文、著書などから情報を収集しておく。（２時間）
　　事後学習：見つかった課題について、論文、著書などで確認しておく。（２時間）
第13回：卒業研究発表に向けた準備①（PBL、ディスカッション、発表）
　　事前学習：関心のある事柄について、論文、著書などから情報を収集しておく。（２時間）
　　事後学習：見つかった課題について、論文、著書などで確認しておく。（２時間）
第14回：卒業研究発表に向けた準備②（PBL、ディスカッション、発表）
　　事前学習：関心のある事柄について、論文、著書などから情報を収集しておく。（２時間）
　　事後学習：見つかった課題について、論文、著書などで確認しておく。（２時間）
第15回：卒業研究発表に向けた準備③（PBL、ディスカッション、発表）
　　事前学習：関心のある事柄について、論文、著書などから情報を収集しておく。（２時間）
　　事後学習：見つかった課題について、論文、著書などで確認しておく。（２時間）

自分の研究テーマに関連する文献、論文等を読んでレポートにまとめる。

授業実施方法（面接授業・遠隔授業）

原則として「面接授業」を行います。
ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。
遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成　績　評　価　方　法

発表内容（50%）、レポート（50%）

成　績　評　価　基　準

講読した文献等の内容をレポート形式でまとめ、発表することができるか。
自分の研究について、進捗状況を適宜報告するとともに、意欲的に進めることができるか。
研究の成果について、考察を加え、自分なりの課題解決方法を説明できるか。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック

１）授業時の課題に対するフィードバックについて
　■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
２）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
　■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
３）小レポートに対するフィードバックについて
　□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
４）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
　□定期試験時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
５）その他
　□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他

実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）

テキスト、参考図書

必要に応じて資料を配布、紹介する。

その他（受講上の注意）

遅刻、欠席、および早退の際は連絡ください。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

卒業研究 (Graduation Research)			担当教員	伊東　知之
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE-G-2413	4単位	4年	演習	必修

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　特別演習・卒業研究

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

探究的・協働的な態度で課題解決に取り組む意欲並びに能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□体系的な知識･技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成･社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
■自己理解･自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

授業の内容

各自の研究テーマに沿った研究、制作を行い、原則として定期的な授業は行わない。
これまで学んできたことの集大成として卒業研究を仕上げる。具体的には「子ども教育特別演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」の授業の中で行われてきたものを自分のテーマに即してレポートとして完成させて提出する。造形、美術教育等に関する内容のものであることから、場合によっては作品が伴うこともあり、その場合は作品とレポートの両方を提出することとなる。大学4年間の総まとめとなるものであるから質、量ともに相応のものとしたい。

授業の到達目標

・研究課題を論文または報告書としてまとめることができる。
・作品がある場合には作品として質の高いものを制作することができる。

アクティブ・ラーニング

■課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　□グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等）　■実習、フィールドワーク　■実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

・年度当初に具体的な研究計画をたて、それに基づいて各自が研究を進めていく。
・研究内容を論文または、作品と報告書にまとめ、提出する。
・定期的な授業は行わない。
・研究課題について定期的に報告できるようにレジュメにまとめる。
・作品がある場合には、作品の質を高めるように制作を進める。

授業実施方法(面接授業・遠隔授業)

原則として「面接授業」を行います。
ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。
遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成績評価方法

①研究成果物を提出する、②研究要旨を提出する、③口頭発表を行う（口頭試問を兼ねる）の3項目を単位認定の基本要件とする。そのうえで、副査の意見を参考としながら主査が最終の評価を判定する。

成績評価基準

・卒業研究として質の高い研究成果（論文、報告書、作品）が提出できる。
・卒業研究を踏まえて、的確な内容の要旨をまとめることができる。
・卒業研究発表会でわかりやすく発表することができる。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

1）授業時の課題に対するフィードバックについて
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
2）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
3）小レポートに対するフィードバックについて
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
4）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
□定期試験時　□仁大eラーニング　□メール　■その他（添削、コメントを書いて返却）
5）その他
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他

実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)

テキスト、参考図書

適宜、指示する。

その他(受講上の注意)

オフィスアワー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

卒業研究 (Graduation Research)			担当教員	篭谷　隆弘
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE-G-2413	4単位	4年	演習	必修

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　特別演習・卒業研究

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

探究的・協働的な態度で課題解決に取り組む意欲並びに能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□体系的な知識･技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成･社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
■自己理解･自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

授業の内容

卒業論文の執筆

授業の到達目標

研究内容に関する卒業論文を執筆できる。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　□グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等）　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

各自でテーマに従って、制作・実践活動を進める。
各自で進めた研究内容については、子ども教育特別演習Ⅱ・Ⅲで進捗報告を行い、助言を受け、次の計画を行うこと。

授業実施方法(面接授業・遠隔授業)

原則として「面接授業」を行います。
ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。
遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成績評価方法

①研究成果物を提出する、②研究要旨を提出する、③口頭発表を行う（口頭試問を兼ねる）の3項目を単位認定の基本要件とする。そのうえで、副査の意見を参考としながら主査が最終の評価を判定する。

成績評価基準

研究成果物を提出したか。研究要旨を提出したか。口頭発表を行ったか。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

1）授業時の課題に対するフィードバックについて
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
2）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
3）小レポートに対するフィードバックについて
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
4）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
□定期試験時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
5）その他（論文執筆に対するフィードバックについて）
□授業時　■仁大eラーニング　□メール　■その他（ファイル共有システム）

実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）
テキスト、参考図書
特に指定しない。
その他（受講上の注意）
オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

卒業研究 (Graduation Research)			担当教員	鈴木　智子
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE-G-2413	4単位	4年	演習	必修

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　特別演習・卒業研究

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

探究的・協働的な態度で課題解決に取り組む意欲並びに能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識･技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成･社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解･自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

授業の内容

学生各自の1年～3年次までにおける学修・研究の成果を踏まえて、4年次当初に各自が研究課題を選び、指導教員に自己の研究概要を述べ、「子ども教育特別演習Ⅱ・Ⅲ」などをとおして、指導を受けながら卒業研究を進める。
具体的には「子ども教育特別演習Ⅱ・Ⅲ」などによって深めた自身の専門的な問題意識に即してテーマを決定し、研究計画を立て、調査・事例研究・文献研究などの手法の導入によって研究の成果をまとめる。専門領域における知識を深めるとともに、計画立案、問題解決能力、論理的思考力、表現力、プレゼンテーション能力などの総合的な人間力を培うこともあわせて目指す。

授業の到達目標

研究計画を立てて、研究を進めることができる。
問題解決能力、論理的思考力を養う。
表現力、プレゼンテーション能力を養う。

アクティブ・ラーニング

■課題解決型学習（PBL）　■討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　□グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等）　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

年度当初に受講生と協議する。受講生は具体的な研究計画をたてる。随時進捗状況を報告し、指導を受ける。
研究計画に沿って、自主的に研究を進めていくことを予習、復習に含める。

授業実施方法(面接授業・遠隔授業)

原則として「面接授業」を行います。
ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。
遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成績評価方法

①研究成果物を提出する、②研究要旨を提出する、③口頭発表を行う（口頭試問を兼ねる）の3項目を単位認定の基本要件とする。そのうえで、副査の意見を参考としながら主査が最終の評価を判定する。

成績評価基準

研究計画を立てて、研究を進めることができるか。
問題解決能力、論理的思考力を養うことができているか。
表現力、プレゼンテーション能力を養うことができているか。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

1）授業時の課題に対するフィードバックについて
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
2）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
3）小レポートに対するフィードバックについて
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
4）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
□定期試験時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
5）その他（卒業研究論文に対するフィードバックについて）
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　■その他（卒業研究発表会）

実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)

テキスト、参考図書

テキストは用いない。受講生のテーマに応じて、適宜参考図書を紹介する。

その他(受講上の注意)

オフィスアワー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

卒業研究 (Graduation Research)			担当教員	高野　秀晴
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−G−2413	4単位	4年	演習	必修

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　特別演習・卒業研究

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

探究的・協働的な態度で課題解決に取り組む意欲並びに能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識･技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成･社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
■自己理解･自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

授業の内容

学生各自の1年～3年次までにおける学修・研究の成果を踏まえて、4年次当初に各自が研究課題を選び、指導教員に自己の研究概要を述べ、「子ども教育特別演習Ⅱ・Ⅲ」などをとおして、指導を受けながら卒業研究を進める。

授業の到達目標

自らの関心、興味を研究課題へと昇華したうえで、課題に応じた論述を論理的にまとめることができる。

アクティブ・ラーニング

■課題解決型学習（PBL）　■討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　□グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等）　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

各学生ごとに計画を立てる。
①資料に向き合う
②書き進める
③書き直す
特に指示されなくても、以上の作業を日頃より行うことが肝要となる。
また、行き詰ったときは、こまめに教員に相談することが必要である。

授業実施方法(面接授業・遠隔授業)

原則として「面接授業」を行います。
ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。
遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成績評価方法

①研究成果物を提出する、②研究要旨を提出する、③口頭発表を行う（口頭試問を兼ねる）の3項目を単位認定の基本要件とする。そのうえで、副査の意見を参考としながら主査が最終の評価を判定する。

成績評価基準

自らの関心、興味を研究課題へと昇華したうえで、課題に応じた論述を論理的にまとめることができるか。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

1）授業時の課題に対するフィードバックについて
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
2）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
3）小レポートに対するフィードバックについて
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
4）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
□定期試験時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
5）その他（卒業研究に対するフィードバックについて）
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　■その他（卒業研究発表会にてフィードバックを行う）

実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)

テキスト、参考図書

なし

その他(受講上の注意)

オフィスアワー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

卒業研究 (Graduation Research)			担当教員	中野　研也
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−G−2413	4単位	4年	演習	必修

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　特別演習・卒業研究

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

探究的・協働的な態度で課題解決に取り組む意欲並びに能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□体系的な知識･技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成･社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
■自己理解･自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　■キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

授業の内容

「子ども教育特別演習Ⅱ・Ⅲ」などを通して、指導を受けながら卒業研究を進める。

授業の到達目標

学生各自の1年～3年次までにおける学修・研究の成果を踏まえて、4年次当初に各自が研究課題を選び、指導教員に自己の研究概要を述べ、「子ども教育特別演習Ⅱ・Ⅲ」などをとおして、指導を受けながら卒業研究を進める。
これまで学んできたことの集大成として卒業研究に仕上げる。具体的には「子ども教育特別演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」で学んできたことを自分のテーマに即して卒業論文にまとめる。論文作成の過程において、残された課題を明確にしながら研究のポイントを示し、それに沿って卒業研究を進めるように指導する。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　□グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等）　■実習、フィールドワーク　■実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

各自の研究計画に沿って進める。必要に応じて研究にアドバイス、参考書等を紹介、卒業研究を深めまとめる。

授業実施方法(面接授業・遠隔授業)

原則として「面接授業」を行います。
ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。
遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成績評価方法

①研究成果物を提出する
②研究要旨を提出する。
③口頭発表を行うまたは口頭試問を受けるの 3 項目を単位認定の基本要件としたうえで、主査と副査による合議により評価を判定する。

成績評価基準

研究成果物、研究要旨、口頭発表等の内容が、研究テーマに即して論理的に考察展開され適切であるか

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

1）授業時の課題に対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
2）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
3）小レポートに対するフィードバックについて
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
4）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
□定期試験時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
5）その他（卒業研究に対するフィードバックについて）
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他（卒業研究発表会の時に行う。）

実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)

テキスト、参考図書

特になし

その他(受講上の注意)

研究についての指導や卒業論文の添削は随時（オンライン含む）受け付けますので、早めの論文執筆を心がけ、余裕を持って提出できるようにしてください。

オフィスアワー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

卒業研究 (Graduation Research)			担当教員	西出　和彦
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−G−2413	4単位	4年	演習	必修

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　特別演習・卒業研究

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

探究的・協働的な態度で課題解決に取り組む意欲並びに能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識･技能　■論理的思考力と創造力　■人間関係形成･社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
■自己理解･自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

授業の内容

設定した課題について、観察実験の結果に基づいたり、調査結果に基づいたりし、根拠を示した上で結論を導く。その過程で科学の方法を身につけ、問題解決能力の向上を図る。

授業の到達目標

各自の研究テーマについて適切に考察し、分かりやすく発表し、活発にディスカッションすることができる。他人の研究に対しても適切なコメントを述べることができ、新たな課題を見出すことができる。

アクティブ・ラーニング

■課題解決型学習（PBL）　■討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　□グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等）　□実習、フィールドワーク　■実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

定期的にミーティングを実施し、研究の進捗状況や懸案事項の確認を行い、対応策を考える。先行研究をしっかり調査し，その上で自分の課題を明確にする。また，「それってどういうこと？」という問いを用い、探究心の涵養に努める。

授業実施方法(面接授業・遠隔授業)

原則として「面接授業」を行います。
ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。
遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成績評価方法

①研究成果物を提出する、②研究要旨を提出する、③口頭発表を行う（口頭試問を兼ねる）の 3 項目を単位認定の基本要件とする。そのうえで、副査の意見を参考としながら主査が最終の評価を判定する。

成績評価基準

（1）設定した課題に対して明快に答えているか。
（2）仮説を適切に検証しているか。
（3）結果を適切に考察しているか。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

1）授業時の課題に対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　■メール　□その他
2）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　■メール　□その他
3）小レポートに対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　■メール　□その他
4）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
□定期試験時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
5）その他（卒業研究に対するフィードバックについて）
■授業時　□仁大eラーニング　■メール　■その他（卒業研究発表会）

実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)

テキスト、参考図書

必要に応じて提示する。

その他(受講上の注意)

学内外での活動（自然観察，セミナー，学会等への参加）も含まれる。

オフィスアワー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

卒業研究 (Graduation Research)			担当教員	青井　夕貴
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE-G-2413	4単位	4年	演習	必修

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　特別演習・卒業研究

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

探究的・協働的な態度で課題解決に取り組む意欲並びに能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識･技能　■論理的思考力と創造力　■人間関係形成･社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
■自己理解･自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

授業の内容

学生各自の１～３年次までにおける学修・研究の成果を踏まえて、４年次当初に各自が研究課題を選び、指導教員に自己の研究概要を述べ、「子ども教育特別演習Ⅱ・Ⅲ」などを通して、指導を受けながら卒業研究を進める。

授業の到達目標

目的に沿って、計画的に研究を進めることができる。
自分の研究について、批判的・論理的思考をもって検討、考察することができる。
自分の研究結果や考察を、他者にわかりやすく文章にまとめ、説明することができる。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習（PBL）　■討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　□グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等）　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

個別に話し合い、各自の計画を立てる。定期的に進捗状況を報告し、助言を受ける。自主的に研究を進めていく。
計画以外でも、必要な場合は、積極的に助言を求める。

授業実施方法(面接授業・遠隔授業)

原則として「面接授業」を行います。
ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。
遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成績評価方法

①研究成果物を提出する、②研究要旨を提出する、③口頭発表を行う（口頭試問を兼ねる）の 3 項目を単位認定の基本要件とする。そのうえで、副査の意見を参考としながら主査が最終の評価を判定する。

成績評価基準

目的に沿って、計画的に研究を進めることができたか。
自分の研究について、批判的・論理的思考をもって検討、考察することができたか。
自分の研究結果や考察を、他者にわかりやすく文章にまとめ、説明することができたか。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

1）授業時の課題に対するフィードバックについて
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
2）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
3）小レポートに対するフィードバックについて
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
4）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
□定期試験時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
5）その他（卒業研究に対するフィードバックについて）
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　■その他（卒業研究発表会時）

実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)

テキスト、参考図書

テキストは使用しない。参考図書は、必要に応じて適宜紹介する。

その他(受講上の注意)

オフィスアワー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

卒業研究 (Graduation Research)			担当教員	乙部　貴幸
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE-G-2413	4単位	4年	演習	必修

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　特別演習・卒業研究

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

探究的・協働的な態度で課題解決に取り組む意欲並びに能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□体系的な知識･技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成･社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解･自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプラニング能力

資格・免許の要件

授業の内容

各自の卒業論文のテーマに沿って構想から取りまとめまでを進めていく。
卒業論文の内容については、「ただ興味があるから」ではなく「それを知ることで世の中に対してどのように貢献できるか（意義）」という視点も持つこと。
また、自分のテーマに取り組むだけでなく、同じゼミの仲間の内容についても理解し、積極的に意見を交換することを要求する。

授業の到達目標

・提出の〆切までに卒業論文を作成することができる。
・自分が行う研究の「意義」を説明できる。
・適切な日本語でわかりやすく書くことができる。
・論理的に構成することができる。
・図表を用いて誤解のないような実証的な書き方ができる。

アクティブ・ラーニング

■課題解決型学習（PBL）　■討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　□グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等）　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

他の卒業論文ゼミ生と同様に、合意したスケージュールに沿って、定期的に積極的に論文指導の時間に参加すること。また、そのために、充分な準備を怠ることのないように取り組むこと。
卒業論文の指導教員の論文指導や具体的なコメントに留まらず、自ら進んで探究するための時間を確保し論文に反映させること。

授業実施方法(面接授業・遠隔授業)

原則として「面接授業」を行います。
ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。
遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成績評価方法

①研究成果物を提出する、②研究要旨を提出する、③口頭発表を行う（口頭試問を兼ねる）の 3 項目を単位認定の基本要件とする。そのうえで、副査の意見を参考としながら主査が最終の評価を判定する。

成績評価基準

子ども教育学科の教育目標に沿った卒業論文であること。適切な方法により、丁寧に論考し論理的に書かれていること。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

1）授業時の課題に対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　■メール　□その他
2）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　■メール　□その他
3）小レポートに対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　■メール　□その他
4）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
■定期試験時　□仁大eラーニング　■メール　□その他
5）その他
■授業時　□仁大eラーニング　■メール　■その他（卒業研究発表会）

実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)

テキスト、参考図書

一人ひとりの卒業論文テーマに関連する文献や図書など。随時、紹介し、解説を加える。

その他(受講上の注意)

継続的な学習・探究的態度が重要であるから中断しないこと。

オフィスアワー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

卒業研究 (Graduation Research)			担当教員	草桶　勇人
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE-G-2413	4単位	4年	演習	必修

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　特別演習・卒業研究

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

探究的・協働的な態度で課題解決に取り組む意欲並びに能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□体系的な知識･技能　■論理的思考力と創造力　□人間関係形成･社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
■自己理解･自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　■キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

授業の内容

「子ども教育特別演習Ⅱ・Ⅲ」などを通して、指導を受けながら卒業研究を進める。

授業の到達目標

学生各自の1年～3年次までにおける学修・研究の成果を踏まえて、4年次当初に各自が研究課題を設定し、自己の研究計画を述べることができる。また、「子ども教育特別演習Ⅱ・Ⅲ」などと並行して卒業研究を進め、これまで学んできたことの集大成として卒業論文に仕上げることができる。さらに、卒業研究の概要をまとめ、研究のポイントや残された課題を明確にしながら、他者にわかりやすく発表することができる。

アクティブ・ラーニング

■課題解決型学習（PBL）　■討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　□グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等）　■実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

各自の研究計画に沿って進める。積極的に研究へのアドバイスを求めたり、関連する資料や文献、参考図書等を調べ、卒業研究を深めること。

授業実施方法(面接授業・遠隔授業)

原則として「面接授業」を行います。
ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。
遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成績評価方法

① 研究成果物を提出する。
② 研究要旨を提出する。
③ 口頭発表を行うまたは口頭試問を受ける。
以上の 3 項目を単位認定の基本要件としたうえで、協議の上主査が評価を判定する。

成績評価基準

研究成果物、研究要旨、口頭発表等の内容が、研究テーマに即して論理的に考察、展開され適切であるか。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

1）授業時の課題に対するフィードバックについて
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
2）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
3）小レポートに対するフィードバックについて
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
4）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
□定期試験時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
5）その他（卒業研究に対するフィードバックについて）
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　■その他（卒業研究発表会においてコメントする）

実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)

テキスト、参考図書

必要に応じて卒業研究に必要な資料・文献を適宜紹介する。

その他(受講上の注意)

卒業年次は、さまざまな取り組みが並行して行われるので、計画的に卒業研究を進めること。

オフィスアワー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

卒業研究 (Graduation Research)			担当教員	出村　友寛
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE-G-2413	4単位	4年	演習	必修

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　特別演習・卒業研究

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

探究的・協働的な態度で課題解決に取り組む意欲並びに能力

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□体系的な知識･技能　□論理的思考力と創造力　□人間関係形成･社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解･自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　■キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

授業の内容

個別に論文指導を行う

授業の到達目標

学生各自の1年～3年次までにおける学修・研究の成果を踏まえて、4年次当初に各自が研究課題を選び、指導教員に自己の研究概要を述べ、「子ども教育特別演習Ⅱ・Ⅲ」などをとおして、指導を受けながら卒業研究を作成することができる。

アクティブ・ラーニング

■課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　□グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等）　□実習、フィールドワーク　■実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

論文指導を行う。デザイン発表、中間発表、下書き提出等適宜指示する。自主的に研究を進める。

授業実施方法(面接授業・遠隔授業)

原則として「面接授業」を行います。
ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。
遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成績評価方法

①研究成果物を提出する、②研究要旨を提出する、③口頭発表を行う（口頭試問を兼ねる）の3項目を単位認定の基本要件とする。そのうえで、副査の意見を参考としながら主査が最終の評価を判定する。

成績評価基準

研究の目的が明確か。研究の方法が妥当か。研究結果に対する考察が十分に行われて結論が導かれているか。論文（文章）の展開に一貫性があるか。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

1）授業時の課題に対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
2）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
3）小レポートに対するフィードバックについて
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
4）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
□定期試験時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
5）その他（卒業研究に対するフィードバックについて）
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　■その他（卒業研究発表会でのコメント）

実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)

テキスト、参考図書

なし

その他(受講上の注意)

オフィスアワー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

保育とソーシャルワーク (Child care and social work)			担当教員	青井　夕貴
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−F−2453	2単位	4年後期	演習	選択

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　関連科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

子育て支援の理解と支援方法

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識･技能　□論理的思考力と創造力　■人間関係形成･社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
■自己理解･自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

保育士資格（選択）

授業の内容

子育て支援等の必要性が高まる中、保育者にとってソーシャルワークの知識や技術が役立つといえる。本授業では、保育とソーシャルワークが関連する支援の実際を学び、保育者が行うソーシャルワークの意義と限界について考察する。

授業の到達目標

保育とソーシャルワークの関連とあり方について説明することができる。
保育者に必要なソーシャルワークの知識・技術について説明することができる。
保育とソーシャルワークの活用の実際について説明することができる。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習（PBL）　■討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　□グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等）　■実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：オリエンテーション
　事前学習：「子育て支援論」を基に地域子育て支援センターについて復習する。（2時間）
　事後学習：配付資料、説明の内容を見直し、自らの経験にあてはめながら、理解を深める。（2時間）
第2回：地域子育て支援センターでの実習計画書の作成
　事前学習：実習で学びたいことについて、自分の考えをまとめる。（2時間）
　事後学習：「実習計画書」を完成させ、実習先の活動等について情報収集をする。（2時間）
第3回：地域子育て支援センターでの実習①
　事前学習：実習における心構えや達成したい課題を整理する。（2時間）
　事後学習：感じたこと、学んだことなどを記録にまとめ、中間発表につなげる。（2時間）
第4回：地域子育て支援センターでの実習②
　事前学習：実習における心構えや達成したい課題を整理する。（2時間）
　事後学習：感じたこと、学んだことなどを記録にまとめ、中間発表につなげる。（2時間）
第5回：地域子育て支援センターでの実習③
　事前学習：実習における心構えや達成したい課題を整理する。（2時間）
　事後学習：感じたこと、学んだことなどを記録にまとめ、中間発表につなげる。（2時間）
第6回：地域子育て支援センターでの実習④
　事前学習：実習における心構えや達成したい課題を整理する。（2時間）
　事後学習：感じたこと、学んだことなどを記録にまとめ、中間発表につなげる。（2時間）
第7回：地域子育て支援センターでの実習⑤
　事前学習：実習における心構えや達成したい課題を整理する。（2時間）
　事後学習：感じたこと、学んだことなどを記録にまとめ、中間発表につなげる。（2時間）

第８回：中間まとめ・発表・質疑応答・討議
　　事前学習：実習で学んだことを整理し、発表の準備をする。（２時間）
　　事後学習：討議等で得た学びを整理し、次の実習の課題をまとめる。（２時間）
第９回：地域子育て支援センターでの実習⑥
　　事前学習：実習における心構えや達成したい課題を整理する。（２時間）
　　事後学習：感じたこと、学んだことなどを記録にまとめ、まとめの発表につなげる。（２時間）
第10回：地域子育て支援センターでの実習⑦
　　事前学習：実習における心構えや達成したい課題を整理する。（２時間）
　　事後学習：感じたこと、学んだことなどを記録にまとめ、まとめの発表につなげる。（２時間）
第11回：地域子育て支援センターでの実習⑧
　　事前学習：実習における心構えや達成したい課題を整理する。（２時間）
　　事後学習：感じたこと、学んだことなどを記録にまとめ、まとめの発表につなげる。（２時間）
第12回：地域子育て支援センターでの実習⑨
　　事前学習：実習における心構えや達成したい課題を整理する。（２時間）
　　事後学習：感じたこと、学んだことなどを記録にまとめ、まとめの発表につなげる。（２時間）
第13回：地域子育て支援センターでの実習⑩
　　事前学習：実習における心構えや達成したい課題を整理する。（２時間）
　　事後学習：感じたこと、学んだことなどを記録にまとめ、まとめの発表につなげる。（２時間）
第14回：実習のまとめ・発表・質疑応答・討議
　　事前学習：実習で学んだことを整理し、発表の準備をする。（２時間）
　　事後学習：配付資料、討議の内容を見直し、実習等を通した自らの経験にあてはめながら、理解を深める。（２時間）
第15回：子育て支援の意義と限界
　　事前学習：子育て支援の意義と限界について、実習経験をもとに自分の考えを整理する。（２時間）
　　事後学習：配付資料、説明の内容を見直し、実習等を通した自らの経験にあてはめながら、理解を深める。（２時間）

授業実施方法（面接授業・遠隔授業）

原則として「面接授業」を行います。
ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。
遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成　績　評　価　方　法

発表（50%）、平常点（30%）、レポート（20%）
（平常点は、授業への参加状況・受講態度、実習日誌の提出状況等を総合して判断する。）

成　績　評　価　基　準

保育とソーシャルワークの関連とあり方について説明することができるか。
保育者に必要なソーシャルワークの知識・技術について説明することができるか。
保育とソーシャルワークの活用の実際について説明することができるか。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック

１）授業時の課題に対するフィードバックについて
　■授業時　□仁大eラーニング　■メール　□その他
２）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
　■授業時　□仁大eラーニング　■メール　□その他
３）小レポートに対するフィードバックについて
　■授業時　□仁大eラーニング　■メール　□その他
４）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
　□定期試験時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
５）その他
　□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他

実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）

テ　キ　ス　ト、参　考　図　書

テキストは使用しない。適宜、資料を配布する。

その他（受講上の注意）

状況によっては、地域子育て支援センターでの実習ができない場合もある。

オ フ ィ ス ア ワ ー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

地域福祉学演習 (Exercise of Community Welfare)			担当教員	杉本　吉弘
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−F−2411	2単位	4年前期	演習	選択

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　関連科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

子育て支援の理解と支援方法

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識･技能　■論理的思考力と創造力　■人間関係形成･社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
■自己理解･自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

保育士資格（選択）

授業の内容

いまの社会では、誰もが「生きづらさ」を抱える当事者になり得てしまうほど、暮らしに関わる問題が多様で複雑化しています。
地域に暮らす一人ひとりがこうした問題を「自分事」として捉え、関心をもち、つながり合いながら問題の解決にともに取組んでいく地域づくりが重要です。
一人ひとりの仕合せをお互いの仕合せとして「共に育んでいく地域づくり」、その仕合せを阻む事がらを「協働で解決していく場や過程づくり」を基盤になる「地域福祉」の実践について、その意義や展開過程を理解し、地域福祉の推進を担う主体の一人として意識醸成を図っていきます。

授業の到達目標

1．今日の社会情勢や福祉の動向のなかでの「地域福祉」の意義と実践の枠組みを理解する。
2．ワークショップやフィールドワーク等を通じて、地域福祉実践のポイントを理解する。
3．地域福祉（実践）をすすめる主体としての意識醸成を図る。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習（PBL）　■討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　□発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等）　■実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：「福祉（ふくし）」の概念（グループワーク）
　事前学習：社会福祉制度の法律や制度を自分なりに情報収集し、整理する（4時間）
　事後学習：自分にとっての「ふくし」を考え、整理する。（4時間）
第2回：地域福祉の概念① ～福祉コミュニティの意義（グループワーク）
　事前学習：身近にあるさまざまなコミュニティについて調べ、整理する。（5時間）
第3回：地域福祉の概念② ～地域福祉の推進に必要な援助技術（グループワーク）
　事前学習：自身のボランティア活動体験を整理する。（4時間）
　事後学習：学習で触れた援助技術の特性や手法を体系的に整理する。（4時間）
第4回：地域福祉の概念③ ～防災・減災を通じた地域の基盤づくり（グループワーク）
　事前学習：近年の日本の自然災害の概要について調べ、整理する（4時間）
　事後学習：自らが取組むべき防災・減災対策を整理する。（4時間）
第5～8回：地域福祉実践の展開 ～コミュニティワークとコミュニティソーシャルワーク（グループワーク）
　事後学習：自身が暮らす地域の福祉課題と解決に関わる地域資源を整理する（4時間）
第9～12回：地域でのフィールドワーク（グループワーク）
　現地踏査 ～地域に出向き、活動体験等を通じて地域福祉の概念と実践を紐づける
　事前学習：フィールドワークのテーマに関連する地域の実践について情報を収集し、整理する（5時間）
　事後学習：フィールドワークでの学びや気づきを実生活にどう活かすかを整理する。（4時間）

第13回：地域福祉の主体形成① ～実態的な地域の理解（グループワーク）
事前学習：「地域」を感じる場所や場面を各自で調べ、整理する。（6時間）
事後学習：他の学生の発表を踏まえ、捉え方や視点との共通点や違いを整理する。（4時間）
第14回：地域福祉の主体形成② ～地域づくりにおける多面性の理解（グループワーク）
事後学習：地域づくりに必要な視点を整理する（4時間）
第15回：地域福祉の主体形成③ ～地域共生の意義（グループワーク）
事後学習：地域づくりにおける自身の主体的な関わり方を整理する。（4時間）

授業実施方法（面接授業・遠隔授業）

原則として「面接授業」を行います。
ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。
遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成　績　評　価　方　法

・期末レポート試験（70%）：指定されたテーマに対するレポートの内容について評価します。
・平常点（30%）：授業の出席状況、各講義の振返りシートの提出、授業態度により評価します。

成　績　評　価　基　準

・授業中の討議テーマや演習課題などに主体的に取組めたか。
・地域福祉の理論と実践方法の学びを踏まえ、自分ごととして関わっていく地域福祉の全体像をイメージできているか。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック

1）授業時の課題に対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
2）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
3）小レポートに対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
4）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
□定期試験時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
5）その他
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他

実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）

テ　キ　ス　ト　、　参　考　図　書

・各講義の度にレジュメ資料等を配布します。

その他（受講上の注意）

・集中講義形式（1日あたり3～4コマ程度）の授業になりますが、できるだけ対話や意見のすり合わせなどを行って、お互いの気づきや学びを高めていけるような構成で授業を設定していきます。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

子どもと食育 (Children and Nutritional Education)			担当教員	阿部　喜代子
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−B−2403	2単位	4年前期	講義	選択

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　関連科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>　大学が独自に設定する科目

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

教育・保育の内容の理解及び指導方法

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識･技能　■論理的思考力と創造力　■人間関係形成･社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
□自己理解･自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

幼稚園教諭一種免許状（選択）、小学校教諭一種免許状（選択）、保育士資格（選択）

授業の内容

子どもの食生活の現状を知り、今、何が子どもの食育に必要なのかを理解する。また、食育の実践をとおして学修する。さらに福井の食文化と食育についても学ぶ。

授業の到達目標

子どもの食生活の現状を理解し、食育の必要性を知る。また、演習をとおして自分自身の正しい味覚や地場産物の利用、食事のとり方や食事のマナーを体験し、子どもの食育を実践できる能力を身につける。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習（PBL）　■討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　□グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等）　□実習、フィールドワーク　■実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：はじめに 今、なぜ、食育か？【ディスカッション】
　事前学習：授業前にテキストp2 −21を読み、分からない単語があれば調べておくこと。（2時間）
　事後学習：テキスト・配布資料の見直しを行い、分からないことがあれば、図書館で調べたり、教員に質問すること。（2時間）
第2回：食育の現状と課題【ディスカッション】
　事前学習：第2回ではどんな食育が行われているかを話し合うので、第1回で扱った食生活の課題から興味のあるものを取り上げ、それに対してどのような食育が行われているかを調べ、まとめていく。（2時間）
　事後学習：テキスト・配布資料の見直しを行い、分からないことがあれば、図書館で調べたり、教員に質問すること。（2時間）
第3回：子どもの栄養と食生活（1）　食生活の機能と生活習慣
　事前学習：授業前にテキストp42−45を読み、分からない単語があれば調べておくこと。（2時間）
　事後学習：テキスト・配布資料の見直しを行い、分からないことがあれば、図書館で調べたり、教員に質問すること。（2時間）
第4回：子どもの栄養と食生活（2）　栄養素と代謝
　事前学習：授業前にテキストp26−41を読み、分からない単語があれば調べておくこと。（2時間）
　事後学習：テキスト・配布資料の見直しを行い、分からないことがあれば、図書館で調べたり、教員に質問すること（2時間）
第5回：子どもの発育段階と栄養・食生活（1）　乳児期①　授乳期・離乳期の栄養
　事前学習：授業前にテキストp 50−51, 54−57, 62−68を読み、分からない単語があれば調べておくこと。（2時間）
　事後学習：テキスト・配布資料の見直しを行い、分からないことがあれば、図書館で調べたり、教員に質問すること。（2時間）

第６回：子どもの発育段階と栄養・食生活（１）　乳児期②　授乳期・離乳期の食事　＜講義と演習＞
事前学習：授業前にテキストp 52－53, 58－61, 69－73を読み、分からない単語があれば調べておくこと。（２時間）
事後学習：テキスト・配布資料の見直しを行い、分からないことがあれば、図書館で調べたり、教員に質問すること。（２時間）
第７回：日本・福井の食文化と食育
事前学習：幼稚園・学校に実習に出た時のことを思い出し、食育の題材として取り上げられていた行事等を整理しておく。（２時間）
事後学習：テキスト・配布資料の見直しを行い、分からないことがあれば、図書館で調べたり、教員に質問すること。（２時間）
第８回：食の安全について　（食中毒予防、アレルギー対策を中心に）
事前学習：授業前にテキストp118－133, 136－138を読み、分からない単語があれば調べておくこと。（２時間）
事後学習：テキスト・配布資料の見直しを行い、分からないことがあれば、図書館で調べたり、教員に質問すること。（２時間）
第９回：子どもの発育段階と栄養・食生活（２）　幼児期　幼児期の食事と食育
事前学習：授業前にテキストp74－79を読み、分からない単語があれば調べておくこと。（２時間）
事後学習：テキスト・配布資料の見直しを行い、分からないことがあれば、図書館で調べたり、教員に質問すること。（２時間）
第10回：子どもの発育段階と栄養・食生活（３）　学童期　学童期の栄養と食育
事前学習：授業前にテキストp80－85, 104－107を読み、分からない単語があれば調べておくこと。（２時間）
事後学習：テキスト・配布資料の見直しを行い、分からないことがあれば、図書館で調べたり、教員に質問すること（２時間）
第11回：子どもの食育の実践（１）　幼児期　　実際に食育をやってみよう！　＜講義と演習＞
事前学習：幼児への食育体験活動を想定し、食育を各自が発表する。そのために事前に調べたりして準備しておくこと。（２時間）
事後学習：テキスト・配布資料の見直しを行い、分からないことがあれば、図書館で調べたり、教員に質問すること。（２時間）
第12回：子どもの食育の実践（２）　幼児期　　実際に食育をやってみよう！　＜演習＞
事前学習：幼児への食育体験活動を想定し、各自が考えた食育内容を発表する。そのために事前に調べたりして準備しておくこと。（２時間）
事後学習：テキスト・配布資料の見直しを行い、分からないことがあれば、図書館で調べたり、教員に質問すること。（２時間）
第13回：子どもの発育段階と栄養・食生活（４）　思春期　思春期の栄養、子どもの食育の実践（２）　自身の食生活の振り返り　＜講義と演習＞
事前学習：授業前に配布資料とテキストを読み、分からない単語があれば調べておくこと。（２時間）
また、自身の１日分の食事内容を記録しておくこと。実際に演習に取り組みます。
事後学習：テキスト・配布資料の見直しを行い、分からないことがあれば、図書館で調べたり、教員に質問すること。（２時間）
第14回：子どもの貧困と食支援
事前学習：第13回は、子どもに対する食支援に関して学習するので、フードドライブや子ども食堂等のキーワードの意味と、福井県内の取組の状況を調べておくこと。（２時間）
事後学習：テキスト・配布資料の見直しを行い、分からないことがあれば、図書館で調べたり、教員に質問すること（２時間）
第15回：配慮が必要な子の偏食、学校・幼稚園・保育所（園）における食育の在り方
事前学習：これまでの講義で学習した内容を思い出し、乳幼児期と児童期・思春期でどのような食育を行うとよいか説明できるようにしておくこと。（２時間）
事後学習：これまでの授業内容をもとに、「自分が就職したあとに食育をするために、今後深める必要があること」等について、レポートにまとめる。（２時間）

授業実施方法（面接授業・遠隔授業）

原則として「面接授業」を行います。
ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。
遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成　績　評　価　方　法

課題提出物（80点）と授業の取り組み態度（20点）で評価する。

成　績　評　価　基　準

食生活の現状を理解し、食育の必要性を知ることができたか。また、食育を実践できる能力が身についたかを課題提出物、授業中の態度などで評価する。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

1）授業時の課題に対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
2）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
3）小レポートに対するフィードバックについて
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
4）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
□定期試験時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
5）その他
□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他

実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)

テキスト、参考図書

「子どもの食と栄養　改訂第３版」児玉浩子編　中山書店　2021
その他必要に応じて資料を配付する。

その他(受講上の注意)

オフィスアワー

UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

児童館活動内容b (Activities of Children's Halls b)			担当教員	高阪　麻子、村田　弘孝
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−B−2401	2単位	4年前期	講義	選択

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　特設科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

教育・保育の内容の理解及び指導方法

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

■体系的な知識･技能　□論理的思考力と創造力　■人間関係形成･社会形成能力　□職業観と職業的倫理観
□自己理解･自己管理能力　■諸課題の理解と課題対応能力　□統合的な学習経験　□キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

児童厚生一級指導員（必修）

授業の内容

児童ソーシャルワークの展開方法。
中高生の居場所づくり、児童の参画、地域のネットワークづくり等、児童館・放課後児童クラブの発展的活動の実施方法。
児童館・放課後児童クラブ活動の記録方法。

授業の到達目標

児童ソーシャルワークをベースとした、児童館・放課後児童クラブの日々の活動の流れとともに、行事の企画や、利用者への対応、地域とのかかわり等について学び、児童館・放課後児童クラブの業務の実際を把握する。

アクティブ・ラーニング

■課題解決型学習（PBL）　■討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　■発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等）　□実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

第1回：児童厚生員・放課後児童支援員の役割（阪）
　事前学習：授業前にテキストの関連項目第3章に目を通し確認しておくこと。（2時間）
　事後学習：児童厚生員・放課後児童支援員の役割について授業と配布資料等を基にまとめておくこと。（2時間）
第2回：児童館・放課後児童クラブの活動の実際（阪）
　事前学習：授業前にテキストの関連項目に目を通し確認しておくこと。（2時間）
　事後学習：児童館・児童クラブの活動の実際について授業と配布資料等を基にまとめておくこと。（2時間）
第3回：中高生の居場所づくり（阪）
　事前学習：授業前にテキストの関連項目第2章の4に目を通し確認しておくこと。（2時間）
　事後学習：中高生の居場所づくりについて授業と配布資料等を基にまとめておくこと。（2時間）
第4回：児童館・放課後児童クラブにおける相談対応（子ども、保護者）（阪）
　事前学習：授業前にテキストの関連項目第2章の3に目を通し確認しておくこと。（2時間）
　事後学習：児童館・放課後児童クラブにおける相談対応について授業と配布資料等を基にまとめておくこと。（2時間）
第5回：子どもの社会参画（阪）
　事前学習：授業前にテキストの関連項目第2章の8に目を通し確認しておくこと。（2時間）
　事後学習：子どもの社会参画について授業と配布資料等を基にまとめておくこと。（2時間）
第6回：児童ソーシャルワークの展開（阪）
　事前学習：授業前にテキストの児童館関係法令に目を通し確認しておくこと。（2時間）
　事後学習：児童館におけるソーシャルワークについて、テキストの第3章2を読み込んでおくこと。（2時間）

第７回：地域のネットワークづくり①地域資源の発掘・育成（村田）
　　事前学習：授業前にテキストの関連項目第２章に目を通し確認しておくこと。（２時間）
　　事後学習：地域ネットワークづくりについて授業と配布資料等を基にまとめておくこと。（２時間）
第８回：地域のネットワークづくり②地域の関係機関との連携・協働（村田）
　　事前学習：授業前にテキストの関連項目第３章に目を通し確認しておくこと。（２時間）
　　事後学習：地域ネットワークづくりについて授業と配布資料等を基にまとめておくこと。（２時間）
第９回：児童館・放課後児童クラブにおけるコミュニティーワーク（村田）
　　事前学習：授業前にテキストの関連項目第２章・３章等に目を通し確認しておくこと。（２時間）
　　事後学習：コミュニティワークについて授業と配布資料等を基にまとめておくこと。（２時間）
第10回：配慮を要する児童へのかかわり①（村田）
　　事前学習：授業前にテキストの関連項目第２章の５に目を通し確認しておくこと。（２時間）
　　事後学習：参考事例の実践記録を参考に自己の実践記録の検証を行うこと。（２時間）
第11回：配慮を要する児童へのかかわり②（村田）
　　事前学習：授業前にテキストの関連項目第２章の５に目を通し確認しておくこと。（２時間）
　　事後学習：参考事例の実践記録を参考に自己の実践記録の検証を行うこと。（２時間）
第12回：実践記録・実践レポートの書き方（村田）
　　事前学習：授業前にテキストの関連項目に目を通し確認しておくこと。（２時間）
　　事後学習：参考事例の実践記録を参考に自己の実践記録の検証を行うこと。（２時間）
第13回：地域のニーズを踏まえた行事やイベント等の企画立案（村田）
　　事前学習：課題を理解した上で自分なりの企画立案の提案ができるよう準備する。（２時間）
　　事後学習：グループ内での役割に基づいて発表資料を作成すること。（２時間）
第14回：企画発表会、講評（村田）
　　事前学習：作成した企画立案についてグループでの役割に基づいて発表ができるよう準備する。（２時間）
　　事後学習：グループごとの発表について振り返り、まとめておくこと。（２時間）
第15回：まとめ（村田）
　　事前学習：授業前にテキストと授業内容全体の配布資料に目を通し確認しておくこと。（２時間）
　　事後学習：授業全体の振り返り。（２時間）

授業実施方法（面接授業・遠隔授業）

原則として「面接授業」を行います。
ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。
遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成　績　評　価　方　法

平常点（受講態度および取組姿勢）30％、演習レポート（授業中の課題含む）70％により総合的に評価します。
出席を重視し、欠席・遅刻・早退は減点します。

成　績　評　価　基　準

児童ソーシャルワークを基本に、児童館・放課後児童クラブの日々の活動、地域とのネットワーク形成について理解し、文章にて簡潔に説明できる。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック

１）授業時の課題に対するフィードバックについて
　■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
２）事前・事後学習の課題に対するフィードバックについて
　■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
３）小レポートに対するフィードバックについて
　■授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
４）定期試験（レポート試験を含む）に対するフィードバックについて
　□定期試験時　□仁大eラーニング　□メール　□その他
５）その他
　□授業時　□仁大eラーニング　□メール　□その他

実務経験のある教員（経歴及び実務経験と授業内容との関連性）

テ　キ　ス　ト、参　考　図　書

一般財団法人児童健全育成推進財団・「児童館・放課後児童クラブテキストシリーズ２ 改訂版 児童館論」・一般財団法人児童健全育成推進財団・2023

その他（受講上の注意）
テキストの関連部分や配布資料を読み込んで授業に臨むこと。また授業時の参考資料を独自のノートにまとめること。授業の中の用語等に不明なものがあれば次回の授業までに調べるか、質問事項として付記すること。
オ フ ィ ス ア ワ ー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。

児童館実習 (Practice in Children's Halls)			担当教員	乙部　貴幸
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CE−E−2408	2単位	4年前期	実習	選択

<科目区分>　人間生活学部子ども教育学科専門科目　特設科目

<教員免許法施行規則上の科目区分>

<科目に含めることが必要な事項>

求める学習成果(教育目標)

教育・保育の実践的能力・総合的表現力と実践後の改善に向けた態度

身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)

□体系的な知識･技能　□論理的思考力と創造力　■人間関係形成･社会形成能力　■職業観と職業的倫理観
■自己理解･自己管理能力　□諸課題の理解と課題対応能力　■統合的な学習経験　■キャリアプランニング能力

資格・免許の要件

児童厚生一級指導員（必修）

授業の内容

年次の8月・9月に10日間、児童館･児童センターにおいて実習を行い、地域における子どもの健全育成と子育て支援に必要な児童館の役割及びその活動内容を理解する。

授業の到達目標

児童館･児童センターで実習を行い、児童館等の機能や運営について学ぶことを目的とする。地域福祉的視点をもって児童館の運営を考えることが大切であり、実際に子どもと関わることによって、子どもの理解を深めるとともに遊びの指導や生活指導についても学ぶ。

アクティブ・ラーニング

□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート、Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　□グループワーク（Moodleでのチャット・フォーラム、Teams、Zoom等）　□発表・プレゼンテーション（Teams、Zoom等）　■実習、フィールドワーク　□実験、実技　□その他

授業の計画及び授業外の学習方法

実地体験を通して、児童館の役割や児童クラブの機能、運営について理解することを目的としている。
そのため、児童館・児童センターの生活等に参加し、子どもへの理解を深めるとともに、そこで働いている児童厚生員の職務について学ぶため、以下の内容を経験し、学習する。

1　児童館活動に参加し、活動についての知識、技術を学ぶ。
2　子どもの発育・発達について理解し、対応方法等を修得する。
3　児童厚生員としての倫理を学ぶ。
4　子どもの保護者等の子育て支援について学ぶ。
5　児童館を取り巻く地域社会との連携について学ぶ。
6　児童館等における児童厚生員に求められる資質・能力・技術等についての自己の課題を明確化する。実習ノートを記載しながら振り返りを行う。

実習児童館の指示にしたがい、翌日以降の実習の準備を行う。
児童･保護者との対応において疑問に思うことをまとめる。

授業実施方法(面接授業・遠隔授業)

原則として「面接授業」を行います。
ただし、災害等により面接授業が困難な場合は、急遽、遠隔授業になることがあります。
遠隔授業に変更になった場合は、担当教員より指示があります。

成績評価方法

実習児童館からの評価、巡回指導の記録、実習日誌、出勤状況、学内の事前事後指導に基づき総合的に評価する。

成績評価基準

児童館実習評価表の項目（10項目と総合評価）による。いずれの項目も、「特に優れている」「優れている」「普通」「努力が必要である」「特におとる」の5段階で評価される。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック
実務経験のある教員(経歴及び実務経験と授業内容との関連性)
テキスト、参考図書
なし
その他(受講上の注意)
実習前に事前指導を行う。実習の１か月前を目途に実習する児童館に事前訪問を行い、オリエンテーションを受けること。実習後は、事後指導として個人レポート集を作成する。
オフィスアワー
UNIPAのトップページ【インフォメーション】欄にて確認できます。